岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 71

本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査 Ⅱ

1988・12

岡山県教育委員会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 71

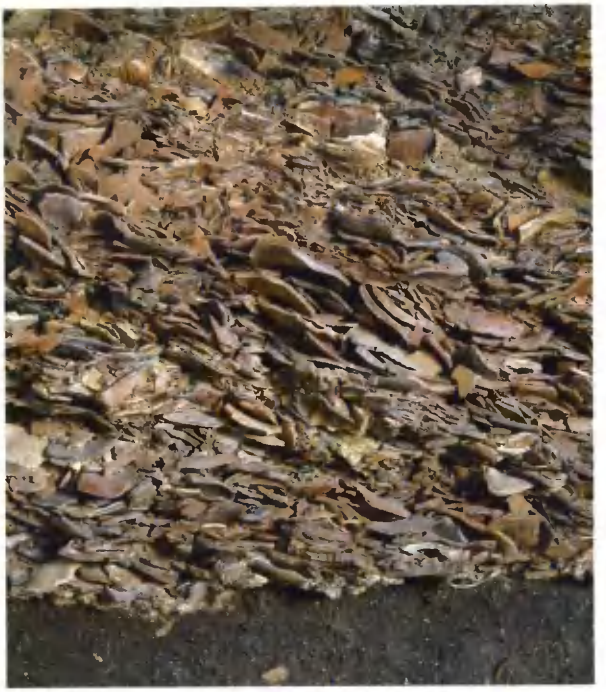
本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査 Ⅱ

1988・12

岡山県教育委員会

１．阿津走出遺跡縄文時代後期Ⅰ類の土器

２．阿津走出遺跡人骨出土状態



1．阿津走出遺跡土器層

2．阿津走出遺跡製塩土器

序

瀬戸内海でへだてられていた本州と四国は，昭和63年４月，道路ならびに鉄道の併用橋である瀬戸大橋により結ばれました。このことは，二十世紀末の中・四国地方における真の交通革命であり，文化的・経済的効果に大きな期待が寄せられています。

岡山県教育委員会は，本州四国連絡橋陸上ルート建設に先立ち高速自動車道と鉄道用地内に所在する22か所の遺跡地について，昭和53年４月から61年12月にかけて発掘調査を実施いたしました。そのうち，倉敷市曽原地内の遺跡と同琴海１号墳の２遺跡については，すでに第１分冊として報告書を刊行しています。

本報告書に収録いたしました遺跡は，それ以降に調査を実施したものであります。これらの遺跡には，縄文時代早期の遺物が出土した菰池遺跡から江戸時代に池田藩が幕府の命によって黒船の来襲にそなえて築いた御台場（砲台場）跡まで含まれています。

また，備讃瀬戸の地域は，土器製塩の発祥の地といわれておりますが，倉敷市阿津走出遺跡は古墳時代から奈良時代にかけての大規模な土器製塩遺跡であることが確認されました。しかし，その遺存状態は極めて良く，本州四国連絡橋ルートでは唯一保存された遺跡であります。

このように今回の調査は，かつて独立した島であった「児島」では初めての大規模な発掘調査として数々の考古学的新知見を得ることができました。

本報告書がこれら地域の調査研究の資料として，また，文化財保護の一助として活用されれば幸甚に存じます。

最後になりましたが発掘調査にあたっては，文化庁をはじめ本州四国連絡橋公団第二建設局ならびに埋蔵文化財保護対策委員会の諸氏から多大のご指導ご助言を賜りました。ここに，関係各位のご厚意に対し厚くお礼申し上げます。

昭和63年12月20日

岡山県教育委員会

教育長　竹　内　康　夫

例　　言

1．本調査報告書は，岡山県教育委員会が本州四国連絡橋公団の委託を受けて実施した，本州四国連絡橋陸上ルート建設用地にかかる埋蔵文化財の発掘調査概要である。

2．発掘調査は，昭和59年10月31日まで岡山県教育委員会文化課が実施し，昭和59年11月１日から岡山県古代吉備文化財センターの設置に伴い当センターにおいて行うこととなった。

3．発掘調査期間は，昭和55年４月から昭和61年12月までである。

4．発掘調査ならびに報告書の作成にあたっては，下記の方々に「本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会」の委員を委嘱した。対策委員各位からは終始有益なご指導とご助言をいただいた。記して深く感謝の意を表す次第である。

阿知神社宮司　　小野　一臣　　岡山大学教授　近藤　義郎
県立矢掛高校教諭　中田　啓司　　自　営　業　　西岡憲一郎
倉敷考古館館長　　間壁　忠彦　　（以上，あいうえお順）

5．発掘調査の担当は以下の通りである。

昭和55年度　下澤公明・福田正継
昭和56年度　下澤公明
昭和57年度～昭和61年度　下澤公明・内藤善史

6．各専門分野における鑑定，分析等については下記の方々及び機関から寄稿及び教示を得た。

人骨の鑑定―岡山理科大学教授　池田次郎・同教授　川中健二
動物骨・魚骨の鑑定―早稲田大学考古学研究室　金子浩昌
石材の肉眼同定―岡山理科大学教授　三宅　寛
胎土・花粉・珪藻の分析，種子・材の同定―パリノ・サーヴェイ株式会社

また，縄文土器については，岡山県立博物館の高橋護氏から教示を得た。記して謝意を表す。

7．報告書の作成は，昭和61年12月～昭和62年３月まで下澤・内藤，昭和62年４月～昭和63年３月まで下澤が担当した。文責は，文末に記した。

8．遺物の整理，実測，遺構浄写，実測図浄写，拓本は，主に下澤・内藤が行った。

9．報告書で用いる高度値は，海抜高であり，方位は第２章１～６図を除き磁北である。

10．報告書に掲載の縮尺率は，それぞれに示した。図版についても，それぞれに示した。

11．報告書で用いる時代区分は，一般的な政治的区分に準拠し，それを補うため文化史区分と世紀を併用した。

12．報告書に掲載した第１章第１図は，建設省国土地理院発行のものを使用した。また，第２章１～６図は，倉敷市発行のものをトレースして使用した。

13．報告書に関係する遺物，写真，実測図原図，マイクロフィルム等は，岡山県古代吉備文化財センターに保管している。

本 文 目 次

序
例　　言
第１章　序　　説……1
　第１節　昭和55年度以降の調査概要……1
　第２節　阿津走出遺跡の保存協議に至る経緯……4
　第３節　調査の組織……10
　第４節　埋蔵文化財保護対策委員会の記録……13
第２章　地理的・歴史的環境……15
　第１節　地理的環境……15
　第２節　歴史的環境……16
第３章　田之浦御台場跡の調査……27
　第１節　遺跡の位置……27
　第２節　調査に至る経緯……27
　第３節　一次調査の結果……29
　第４節　調査の概要……29
　第５節　小　　結……47
第４章　山際紫山遺跡の調査……51
　第１節　遺跡の位置……51
　第２節　調査に至る経緯……51
　第３節　一次調査の結果……52
　第４節　調査の概要……53
　第５節　小　　結……69
第５章　舟津原遺跡の調査……71
　第１節　遺跡の位置……72
　第２節　調査に至る経緯……72
　第３節　一次調査の結果……74
　第４節　調査の概要……75
　第５節　遺構に伴わない遺物……90
　第６節　小　　結……203

第６章　児島インターチェンジ散布地の調査…… 215
第１節　遺跡の位置…… 215
第２節　調査に至る経緯…… 215
第３節　一次調査の結果…… 216
第７章　阿津走出南丘陵散布地の調査…… 217
第１節　遺跡の位置…… 217
第２節　調査に至る経緯…… 217
第３節　一次調査の結果…… 217
第８章　高辻散布地の調査…… 219
第１節　遺跡の位置…… 219
第２節　調査に至る経緯…… 219
第３節　一次調査の結果…… 219
第９章　阿津走出遺跡の調査…… 221
第１節　遺跡の位置…… 221
第２節　調査に至る経緯…… 221
第３節　一次調査の結果…… 222
第４節　調査の概要…… 229
第５節　小　　結…… 369
第10章　阿津丘陵散布地の調査…… 377
第１節　遺跡の位置…… 377
第２節　調査に至る経緯…… 377
第３節　一次調査の結果…… 377
第11章　石ノ塔伏台場跡の調査…… 379
第１節　遺跡の位置…… 379
第２節　調査に至る経緯…… 379
第３節　一次調査の結果…… 379
第12章　菰池遺跡の調査…… 381
第１節　遺跡の位置…… 381
第２節　調査に至る経緯…… 381
第３節　一次調査の結果…… 382
第４節　調査の概要…… 384
第５節　小　　結…… 473

第13章　木見大賀遺跡の調査…… 479
第１節　遺跡の位置…… 479
第２節　調査に至る経緯…… 479
第３節　一次調査の結果…… 481
第４節　調査の概要…… 485
第５節　小　　結…… 525
第14章　てんぐ山散布地の調査…… 529
第１節　遺跡の位置…… 529
第２節　調査に至る経緯…… 529
第３節　一次調査の結果…… 529
第15章　天王遺跡の調査…… 531
第１節　遺跡の位置…… 531
第２節　調査に至る経緯…… 531
第３節　調査の概要…… 531
第４節　小　　結…… 539
第16章　菰池オレントウ遺跡の調査…… 541
第１節　遺跡の位置…… 541
第２節　調査に至る経緯…… 541
第３節　調査の概要…… 542
第４節　小　　結…… 546
第17章　城山散布地の調査…… 547
第１節　遺跡の位置…… 547
第２節　調査に至る経緯…… 547
第３節　一次調査の結果…… 547
第18章　柳田散布地の調査…… 549
第１節　遺跡の位置…… 549
第２節　調査に至る経緯…… 549
第３節　一次調査の結果…… 549
第19章　稗田散布地の調査…… 551
第１節　遺跡の位置…… 551
第２節　調査に至る経緯…… 551
第３節　一次調査の結果…… 551

第20章　稗田佐古遺跡の調査…… 553
第１節　遺跡の位置…… 553
第２節　調査に至る経緯…… 553
第３節　一次調査の結果…… 553
第４節　調査の概要…… 553
第21章　小川散布地の調査…… 557
第１節　遺跡の位置…… 557
第２節　調査に至る経緯…… 557
第３節　一次調査の結果…… 557
第22章　結　　語…… 559
第１節　縄文土器について…… 559
第２節　石器について…… 570
第３節　製塩土器について…… 571
附　　編
1　舟津原遺跡出土の人骨について　岡山理科大学教授　池田　次郎
2　舟津原遺跡包含層出土の脊椎動物遺存体　早稲田大学考古学研究室　金子　浩昌
3　舟津原遺跡土壙－１出土魚骨について　早稲田大学考古学研究室　金子　浩昌
4　舟津原遺跡出土木片の樹種同定報告　パリノ・サーヴェイ株式会社
5　舟津原遺跡出土花粉・珪藻分析及び種子同定報告　パリノ・サーヴェイ株式会社
6　舟津原遺跡出土種子鑑定報告　パリノ・サーヴェイ株式会社
7　阿津走出遺跡出土の縄文時代人骨　岡山理科大学教授　池田　次郎
岡山理科大学教授　川中　健二
8　阿津走出遺跡胎土分析及び材同定報告　パリノ・サーヴェイ株式会社
9　菰池遺跡出土の焼骨について　岡山理科大学教授　川中　健二

挿　図　目　次

序　　説

第 1 図　本州四国連絡橋陸上ルート内遺跡調査(昭和55年度以降)位置図(1/75,000)… 2
第 2 図　当初計画橋脚位置図(1/3,000)　9
第 3 図　保存計画橋脚位置図(1/3,000)　9

地理的・歴史的環境

第 1 図　遺跡分布図(1)(1/20,000)……17
第 2 図　遺跡分布図(2)(1/20,000)……18
第 3 図　遺跡分布図(3)(1/20,000)……19
第 4 図　遺跡分布図(4)(1/20,000)……21
第 5 図　遺跡分布図(5)(1/20,000)……23

第 6 図　遺跡分布図(6)(1/20,000)……24

田之浦御台場跡

第 1 図　一次調査トレンチ位置図
(1/1,500)…28
第 2 図　下津井周辺御台場位置図
(1/50,000)…29
第 3 図　岡山大学蔵〝池田家文庫〟から…30
第 4 図　田之浦御台場略図
(岡山大学蔵〝池田家文庫〟)……31
第 5 図　田之浦御台場跡遺構配置図
(1/1,000)…31
第 6 図　田之浦御台場跡遺構配置図
(1/600)…32
第 7 図　胸墻(1/150) ……33
第 8 図　弾薬庫(1/80)……35
第 9 図　火薬庫(1/80)……37
第 10 図　火除土囲(1/80)……38
第 11 図　兵士居所(1/100) ……39
第 12 図　胸墻土層断面図(1/40)……41
第 13 図　胸墻土層断面図(1/60)……42
第 14 図　南水道(1/80)
第 15 図　北水道(1/80)
第 16 図　北水道蓋石断面図・蓋石下底石
平面図(1/80)…43
第 17 図　北水道側面図(1/80)
第 18 図　北水道断面図(1/60)……45
第 19 図　井戸－1(1/60) ……46
第 20 図　井戸－2(1/30)・出土遺物(1/8) 47
第 21 図　A－B土層断面図(1/120) ……48
第 22 図　絵図－1
第 23 図　絵図－2

山際紫山遺跡

第 1 図　一次調査位置図・遺構配置図
(1/2,000)…52
第 2 図　遺構配置図(1/300) ……53
第 3 図　竪穴住居址－1(1/80) ……54
第 4 図　竪穴住居址－1出土遺物(1)(1/4)55
第 5 図　竪穴住居址－1出土遺物(2)(1/2)56
第 6 図　竪穴住居址－2(1/80) ……58
第 7 図　竪穴住居址－2出土遺物(1/4)…59
第 8 図　竪穴住居址－3(1/80)・
出土遺物(1/4)…60
第 9 図　竪穴住居址－4(1/80) ……61
第 10 図　竪穴住居址－4出土遺物(1/4)…62
第 11 図　竪穴住居址－5(1/80) ……63
第 12 図　竪穴住居址－5出土遺物
(1/2・1/4)…64
第 13 図　竪穴住居址－5遺物分布図
(1/80)…65
第 14 図　竪穴住居址－6(1/80) ……66
第 15 図　竪穴住居址－6出土遺物(1/4)…67
第 16 図　竪穴住居址－7(1/60)・
出土遺物(1/4)…68
第 17 図　土壙－1(1/60) ……68

舟津原遺跡

第 1 図　一次調査トレンチ位置図
(1/4,000)…71
第 2 図　T－3・1・11・13・土層断面図
(1/100)…72
第 3 図　調査区位置図(1/4,000) ……73
第 4 図　T－16土層断面図(1/200) ……74
第 5 図　土層断面1－2(1/150) ……75
第 6 図　上層遺構検出状態(1/300) ……76

第 7 図　基盤層面遺構検出状態(1/300) 77
第 8 図　土壙分布図(1/150) ……78
第 9 図　土壙－1(1/20) ……79
第 10 図　土壙－1出土編物(1/4)……80
第 11 図　土壙－1出土遺物(1/3)……81
第 12 図　土壙－2(1/20) ……82
第 13 図　土壙－3(1/20) ……83
第 14 図　土壙－3出土編物模式図 ……83
第 15 図　土壙群掘り下げ前(1/200) ……84
第 16 図　土壙群掘り上げ後(1/200) ……84
第 17 図　土壙群土層断面図(1/60)……85
第 18 図　土壙群断面図(1/60・1/80) ……86
第 19 図　B調査区(1/400)・T－2・6土層
断面図(1/150)…87
第 20 図　C調査区(1/200) ……88
第 21 図　D調査区(1/300) ……89
第 22 図　E調査区(1/200) ……89
第 23 図　包含層出土遺物(1)(1/3) ……91
第 24 図　包含層出土遺物(2)(1/3) ……92
第 25 図　包含層出土遺物(3)(1/3) ……93
第 26 図　包含層出土遺物(4)(1/3) ……94
第 27 図　包含層出土遺物(5)(1/3) ……95
第 28 図　包含層出土遺物(6)(1/3) ……96
第 29 図　包含層出土遺物(7)(1/3) ……97
第 30 図　包含層出土遺物(8)(1/3) ……98
第 31 図　包含層出土遺物(9)(1/3) ……99
第 32 図　包含層出土遺物(10)(1/3) …… 100
第 33 図　包含層出土遺物(11)(1/3) …… 101
第 34 図　包含層出土遺物(12)(1/3) …… 102
第 35 図　包含層出土遺物(13)(1/3) …… 103
第 36 図　包含層出土遺物(14)(1/3) …… 104
第 37 図　包含層出土遺物(15)(1/3) …… 105
第 38 図　包含層出土遺物(16)(1/3) …… 106
第 39 図　包含層出土遺物(17)(1/3) …… 107
第 40 図　包含層出土遺物(18)(1/3) …… 108
第 41 図　包含層出土遺物(19)(1/3) …… 109
第 42 図　包含層出土遺物(20)(1/3) …… 110
第 43 図　包含層出土遺物(21)(1/3) …… 111
第 44 図　包含層出土遺物(22)(1/3) …… 112
第 45 図　包含層出土遺物(23)(1/3) …… 113
第 46 図　包含層出土遺物(24)(1/3) …… 114
第 47 図　包含層出土遺物(25)(1/3) …… 115
第 48 図　包含層出土遺物(26)(1/3) …… 116
第 49 図　包含層出土遺物(27)(1/3) …… 117
第 50 図　包含層出土遺物(28)(1/3) …… 118
第 51 図　包含層出土遺物(29)(1/3) …… 119
第 52 図　包含層出土遺物(30)(1/3) …… 120
第 53 図　包含層出土遺物(31)(1/3) …… 121
第 54 図　包含層出土遺物(32)(1/3) …… 122
第 55 図　包含層出土遺物(33)(1/3) …… 123
第 56 図　包含層出土遺物(34)(1/3) …… 124
第 57 図　包含層出土遺物(35)(1/3) …… 125
第 58 図　包含層出土遺物(36)(1/3) …… 126
第 59 図　包含層出土遺物(37)(1/3) …… 127
第 60 図　包含層出土遺物(38)(1/3) …… 128
第 61 図　包含層出土遺物(39)(1/3) …… 129
第 62 図　包含層出土遺物(40)(1/3) …… 130
第 63 図　包含層出土遺物(41)(1/3) …… 131
第 64 図　包含層出土遺物(42)(1/3) …… 132
第 65 図　包含層出土遺物(43)(1/3) …… 133
第 66 図　包含層出土遺物(44)(1/3) …… 134
第 67 図　包含層出土遺物(45)(1/3) …… 135
第 68 図　包含層出土遺物(46)(1/3) …… 136
第 69 図　包含層出土遺物(47)(1/3) …… 137

第 70 図　包含層出土遺物(48)(1/3) …… 138
第 71 図　包含層出土遺物(49)(1/3) …… 139
第 72 図　包含層出土遺物(50)(1/3) …… 140
第 73 図　包含層出土遺物(51)(1/3) …… 141
第 74 図　包含層出土遺物(52)(1/3) …… 142
第 75 図　包含層出土遺物(53)(1/3) …… 143
第 76 図　包含層出土遺物(54)(1/3) …… 144
第 77 図　包含層出土遺物(55)(1/3) …… 145
第 78 図　包含層出土遺物(56)(1/3) …… 146
第 79 図　包含層出土遺物(57)(1/3) …… 147
第 80 図　包含層出土遺物(58)(1/3) …… 148
第 81 図　包含層出土遺物(59)(1/3) …… 149
第 82 図　包含層出土遺物(60)(1/3) …… 150
第 83 図　包含層出土遺物(61)(1/3) …… 151
第 84 図　包含層出土遺物(62)(1/3) …… 152
第 85 図　包含層出土遺物(63)(1/3) …… 153
第 86 図　包含層出土遺物(64)(1/3) …… 154
第 87 図　包含層出土遺物(65)(1/3) …… 155
第 88 図　包含層出土遺物(66)(1/3) …… 156
第 89 図　包含層出土遺物(67)(1/3) …… 157
第 90 図　包含層出土遺物(68)(1/3) …… 158
第 91 図　包含層出土遺物(69)(1/3) …… 159
第 92 図　包含層出土遺物(70)(1/3) …… 160
第 93 図　包含層出土遺物(71)(1/3) …… 161
第 94 図　包含層出土遺物(72)(1/3) …… 162
第 95 図　包含層出土遺物(73)(1/3) …… 163
第 96 図　包含層出土遺物(74)(1/3) …… 164
第 97 図　包含層出土遺物(75)(1/3) …… 165
第 98 図　包含層出土遺物(76)(1/3) …… 166
第 99 図　包含層出土遺物(77)(1/3) …… 167
第 100 図　包含層出土遺物(78)(1/3) …… 168
第 101 図　包含層出土遺物(79)(1/3) …… 169
第 102 図　包含層出土遺物(80)(1/3) …… 170
第 103 図　包含層出土遺物(81)(1/3) …… 171
第 104 図　包含層出土遺物(82)(1/3) …… 172
第 105 図　包含層出土遺物(83)(1/3) …… 173
第 106 図　包含層出土遺物(84)(1/3) …… 174
第 107 図　包含層出土遺物(85)(1/3) …… 175
第 108 図　包含層出土遺物(86)(1/3) …… 176
第 109 図　包含層出土遺物(87)(1/3) …… 177
第 110 図　包含層出土遺物(88)(1/3) …… 178
第 111 図　包含層出土遺物(89)(1/3) …… 179
第 112 図　包含層出土遺物(90)(1/3) …… 180
第 113 図　包含層出土遺物(91)(1/2) …… 181
第 114 図　包含層出土遺物(92)(1/2) …… 182
第 115 図　包含層出土遺物(93)(1/2) …… 183
第 116 図　包含層出土遺物(94)(1/2) …… 184
第 117 図　包含層出土遺物(95)(1/2) …… 185
第 118 図　包含層出土遺物(96)(1/2) …… 186
第 119 図　包含層出土遺物(97)(1/2) …… 187
第 120 図　包含層出土遺物(98)(1/2) …… 188
第 121 図　包含層出土遺物(99)(1/2) …… 189
第 122 図　包含層出土遺物(100)(1/2) …… 190
第 123 図　包含層出土遺物(101)(1/2) …… 191
第 124 図　包含層出土遺物(102)(1/2) …… 192
第 125 図　包含層出土遺物(103)(1/2) …… 193
第 126 図　包含層出土遺物(104)(1/2) …… 194
第 127 図　包含層出土遺物(105)(1/2) …… 195
第 128 図　包含層出土遺物(106)(1/2) …… 196
第 129 図　包含層出土遺物(107)(1/2) …… 197
第 130 図　土器層出土遺物(1)(1/4) …… 198
第 131 図　土器層出土遺物(2)(1/4) …… 199
第 132 図　土器層出土遺物(3)(1/4) …… 200
第 133 図　土器層出土遺物(4)(1/4) …… 201

第134図　包含層出土遺物(四)(1/3・1/2)　202
第135図　編年図(1)(1/6) …… 208
第136図　編年図(2)(1/6) …… 209
第137図　編年図(3)(1/6) …… 210
第138図　編年図(4)(1/6) …… 211
第139図　編年図(5)(1/6) …… 212
第140図　編年図(6)(1/6) …… 213
第141図　編年図(7)(1/6) …… 214

児島インターチェンジ散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/8,000)215

阿津走出南丘陵散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/3,000)217

高辻散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/4,000)219

阿津走出遺跡

第 1 図　調査位置図(1/2,000) …… 223
第 2 図　A区調査位置図(1/400) …… 224
第 3 図　A区C6南壁土層断面図(1/60)225
第 4 図　A区C5南壁土層断面図(1/60)225
第 5 図　A区T－1北壁土層断面図(1/60)
・出土遺物(1/4)…225
第 6 図　A区D6北壁土層断面図(1/80)226
第 7 図　A区D4e～f土層断面図
(1/80)…226
第 8 図　A区C6土層断面図(1/200)…. 227
第 9 図　B区グリット位置図(1/3,000)228
第 10 図　B区T－1～3遺構位置図(1/300)
・T－1南壁土層断面図(1/80) 229
第 11 図　B区東側道(1/300)・東側東壁土層
断面図(1/200)・西側西壁土層断面
図(1/100)…230
第 12 図　B区遺構配置図(1/250) …… 231
第 13 図　B区グリット南－北東壁土層
断面図(1/160)…232
第 14 図　B区グリット東－西北壁土層
断面図(1/200)…233
第 15 図　B区グリット遺物分布図(1/80) 234
第 16 図　土壙－1(1/30)・出土遺物(1/3)235
第 17 図　土壙－2(1/30)・出土遺物(1)(1/2)
……236
第 18 図　土壙－2出土遺物(2)(1/3)…… 237
第 19 図　土壙－2出土遺物(3)(1/3)…… 238
第 20 図　土壙－3(1/30) …… 238
第 21 図　土壙－3出土遺物(1/3)…… 239
第 22 図　土壙－4(1/30) …… 240
第 23 図　土壙－4出土遺物(1)(1/3)…… 241
第 24 図　土壙－4出土遺物(2)(1/3・1/2) 242
第 25 図　土壙－5(1/30) …… 243
第 26 図　土壙－5出土遺物(1)(1/3)…… 244
第 27 図　土壙－5出土遺物(2)(1/3)…… 245
第 28 図　土壙－5出土遺物(3)(1/3・1/2) 246
第 29 図　土壙－6(1/30)・出土遺物(1/3)247
第 30 図　土壙－7(1/30)・出土遺物(1/3)248
第 31 図　土壙－8(1/30)・出土遺物(1/3)248
第 32 図　土壙－9・10(1/40)…… 249
第 33 図　土壙－9出土遺物(1)(1/3)…… 250
第 34 図　土壙－9出土遺物(2)(1/3)…… 251
第 35 図　土壙－9出土遺物(3)(1/3)…… 252
第 36 図　土壙－9出土遺物(4)(1/3)…… 253
第 37 図　土壙－10出土遺物(1)(1/3) … 254
第 38 図　土壙－10出土遺物(2)(1/3) … 255
第 39 図　土壙－10出土遺物(3)(1/3・1/4)256
第 40 図　土壙－10出土遺物(4)(1/2) … 257
第 41 図　土壙－11(1/30)・出土遺物(1/3) 258

第 42 図　土壙－12(1/20)・出土遺物(1/3)　259
第 43 図　土壙－13(1/30)・出土遺物
(1/3・1/2)…260
第 44 図　土壙－14(1/30)・出土遺物(1/3)　261
第 45 図　土壙－15(1/30)・出土遺物
(1/3・1/2)…262
第 46 図　土壙－16(1/30)・出土遺物(1/3)　263
第 47 図　土壙－17(1/30)…… 264
第 48 図　土壙－17出土遺物(1)(1/3) … 265
第 49 図　土壙－17出土遺物(2)(1/3) … 266
第 50 図　土壙－18(1/30)…… 267
第 51 図　土壙－19(1/30)…… 267
第 52 図　土壙－20(1/30)…… 267
第 53 図　土壙－21(1/30)…… 267
第 54 図　土壙－22(1/30)…… 268
第 55 図　土壙－23(1/30)…… 268
第 56 図　土壙－24(1/30)…… 268
第 57 図　Ａ区Ｐ－6埋葬人骨
(1/160・1/15)…269
第 58 図　包含層出土遺物(1)(1/3) …… 271
第 59 図　包含層出土遺物(2)(1/3) …… 272
第 60 図　包含層出土遺物(3)(1/3) …… 273
第 61 図　包含層出土遺物(4)(1/3) …… 274
第 62 図　包含層出土遺物(5)(1/3) …… 275
第 63 図　包含層出土遺物(6)(1/3・1/6) ‥276
第 64 図　包含層出土遺物(7)(1/3) …… 277
第 65 図　包含層出土遺物(8)(1/3) …… 278
第 66 図　包含層出土遺物(9)(1/3) …… 279
第 67 図　包含層出土遺物⑽(1/3) …… 280
第 68 図　包含層出土遺物⑾(1/3) …… 281
第 69 図　包含層出土遺物⑿(1/3) …… 282
第 70 図　包含層出土遺物⒀(1/3) …… 283
第 71 図　包含層出土遺物⒁(1/3) …… 284
第 72 図　包含層出土遺物⒂(1/3) …… 285
第 73 図　包含層出土遺物⒃(1/3) …… 286
第 74 図　包含層出土遺物⒄(1/3) …… 287
第 75 図　包含層出土遺物⒅(1/3) …… 288
第 76 図　包含層出土遺物⒆(1/3) …… 289
第 77 図　包含層出土遺物⒇(1/3) …… 290
第 78 図　包含層出土遺物(21)(1/3) …… 291
第 79 図　包含層出土遺物(22)(1/3) …… 292
第 80 図　包含層出土遺物(23)(1/3) …… 293
第 81 図　包含層出土遺物(24)(1/3) …… 294
第 82 図　包含層出土遺物(25)(1/3) …… 295
第 83 図　包含層出土遺物(26)(1/3) …… 296
第 84 図　包含層出土遺物(27)(1/3) …… 297
第 85 図　包含層出土遺物(28)(1/3) …… 298
第 86 図　包含層出土遺物(29)(1/3) …… 299
第 87 図　包含層出土遺物(30)(1/3) …… 304
第 88 図　包含層出土遺物(31)(1/3) …… 305
第 89 図　包含層出土遺物(32)(1/3) …… 306
第 90 図　包含層出土遺物(33)(1/3) …… 307
第 91 図　包含層出土遺物(34)(1/3) …… 309
第 92 図　包含層出土遺物(35)(1/3) …… 310
第 93 図　包含層出土遺物(36)(1/3) …… 311
第 94 図　包含層出土遺物(37)(1/3) …… 312
第 95 図　包含層出土遺物(38)(1/3) …… 313
第 96 図　包含層出土遺物(39)(1/3) …… 314
第 97 図　包含層出土遺物(40)(1/3) …… 315
第 98 図　包含層出土遺物(41)(1/3) …… 316
第 99 図　包含層出土遺物(42)(1/3) …… 317
第 100 図　包含層出土遺物(43)(1/3) …… 318
第 101 図　包含層出土遺物(44)(1/3) …… 319
第 102 図　包含層出土遺物(45)(1/3) …… 320

第 103 図　包含層出土遺物(46)(1/3) …… 321
第 104 図　包含層出土遺物(47)(1/3) …… 322
第 105 図　包含層出土遺物(48)(1/3) …… 323
第 106 図　包含層出土遺物(49)(1/3) …… 324
第 107 図　包含層出土遺物(50)(1/3) …… 325
第 108 図　包含層出土遺物(51)(1/3) …… 326
第 109 図　包含層出土遺物(52)(1/3) …… 327
第 110 図　包含層出土遺物(53)(1/3) …… 328
第 111 図　包含層出土遺物(54)(1/3) …… 329
第 112 図　包含層出土遺物(55)(1/3) …… 330
第 113 図　包含層出土遺物(56)(1/3) …… 331
第 114 図　包含層出土遺物(57)(1/3) …… 332
第 115 図　包含層出土遺物(58)(1/3) …… 333
第 116 図　包含層出土遺物(59)(1/3) …… 334
第 117 図　包含層出土遺物(60)(1/3) …… 335
第 118 図　包含層出土遺物(61)(1/3) …… 336
第 119 図　包含層出土遺物(62)(1/3) …… 337
第 120 図　包含層出土遺物(63)(1/3) …… 338
第 121 図　包含層出土遺物(64)(1/3) …… 339
第 122 図　包含層出土遺物(65)(1/3) …… 340
第 123 図　包含層出土遺物(66)(1/2) …… 341
第 124 図　包含層出土遺物(67)(1/2) …… 342
第 125 図　包含層出土遺物(68)(1/6) …… 343
第 126 図　包含層出土遺物(69)(1/2) …… 345
第 127 図　甕棺出土状態(1/20)・出土遺物(1/3)…346
第 128 図　A区 a － b 土層断面図(1/100) 347
第 129 図　竪穴住居址－1(1/60) …… 348
第 130 図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(1)(1/4)…349
第 131 図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(2)(1/4)…350
第 132 図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(3)(1/4)…351
第 133 図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(4)(1/4)…352
第 134 図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(5)(1/4)…353
第 135 図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(6)(1/4)…354
第 136 図　土壙－25(1/20)・出土遺物(1/4・1/3)…355
第 137 図　土壙－26(1/20)…… 356
第 138 図　AR－2土器層位置図(1/200)・東壁土層断面図(1/120)…356
第 139 図　AR－2土器層出土遺物(1/4)…357
第 140 図　AR－2土器層上層の遺物(1/4) 358
第 141 図　P－6古墳時代遺構配置図(1/80)…359
第 142 図　作業面変遷図(1/80)…… 359
第 143 図　P－6出土遺物位置図(1/80)・出土遺物(1)(1/4)…360
第 144 図　P－6出土遺物(2)(1/4)…… 361
第 145 図　P－6包含層出土遺物(1)(1/4) 362
第 146 図　P－6包含層出土遺物(2)(1/3) 362
第 147 図　P－6包含層出土遺物(3)(1/4) 363
第 148 図　P－6包含層出土遺物(4)(1/4) 364
第 149 図　土壙－27(1/20)・出土遺物(1/6) 365
第 150 図　土壙－28(1/20)・出土遺物(1/4) 366
第 151 図　土壙－29(1/40)・出土遺物(1/4) 367
第 152 図　柱穴列(1/30)…… 368
第 153 図　編年図(1)(1/6) …… 372
第 154 図　編年図(2)(1/6) …… 373

第155図　編年図(3)(1/6) …… 374
第156図　編年図(4)(1/6) …… 375
第157図　編年図(5)(1/6) …… 376

阿津丘陵散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/6,000)377

石ノ塔伏台場跡

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/2,000)379
第 2 図　T－3 土層断面図(1/100) … 380
第 3 図　T－4 土層断面図(1/100) … 380
第 4 図　T－1 土層断面図(1/200) … 380

菰池遺跡

第 1 図　一次調査トレンチ位置図
(1/4,000)…382
第 2 図　調査区設定図(1/3,000) …… 383
第 3 図　A区土層断面図(1/80)…… 383
第 4 図　A区遺構配置図(1/500) …… 384
第 5 図　竪穴住居址－1(1/80) …… 385
第 6 図　竪穴住居址－1焼骨(1/15) … 386
第 7 図　竪穴住居址－1土壙－1(1/30) 386
第 8 図　竪穴住居址－1出土遺物(1)(1/4) 387
第 9 図　竪穴住居址－1出土遺物(2)(1/4) 388
第 10 図　竪穴住居址－1出土遺物(3)(1/2) 389
第 11 図　竪穴住居址－1出土遺物(4)
(1/2･1/3･1/4)…390
第 12 図　竪穴住居址－1出土遺物(5)(1/3) 391
第 13 図　竪穴住居址－2(1/60) …… 392
第 14 図　竪穴住居址－2出土遺物(1)(1/4) 393
第 15 図　竪穴住居址－2出土遺物(2)(1/2) 394
第 16 図　竪穴住居址－3(1/60) …… 395
第 17 図　竪穴住居址－3出土遺物(1/2) 396
第 18 図　竪穴住居址－4(1/60)
･出土遺物(1/3)…397
第 19 図　竪穴住居址－5(1/60)
･出土遺物(1/4･1/2)…398
第 20 図　土壙－1(1/30) …… 399
第 21 図　土壙－1出土遺物(1/4･1/2)… 400
第 22 図　土壙－2(1/40) …… 401
第 23 図　土壙－2出土遺物(1)(1/4)…… 402
第 24 図　土壙－2出土遺物(2)(1/4)…… 403
第 25 図　土壙－2出土遺物(3)(1/4)…… 404
第 26 図　土壙－3(1/30)
･出土遺物(1)(1/2･1/3)…405
第 27 図　土壙－3出土遺物(2)(1/4)…… 406
第 28 図　土壙－3出土遺物(3)(1/4)…… 407
第 29 図　土壙－4(1/30)･出土遺物(1/2)408
第 30 図　土壙－5(1/30)･出土遺物(1/4)408
第 31 図　土壙－6(1/30)･出土遺物(1/4)409
第 32 図　土壙－7(1/30) …… 409
第 33 図　土壙－8(1/30)
･出土遺物(1/4･1/2)…410
第 34 図　土壙－9(1/30) …… 411
第 35 図　土壙－10(1/30)…… 411
第 36 図　土壙－11(1/60)…… 412
第 37 図　土壙－12(1/30)
･出土遺物(1/4)…412
第 38 図　土壙－13(1/30)
･出土遺物(1/4)…413
第 39 図　土壙－14(1/30)
･出土遺物(1/4)…413
第 40 図　土壙－15出土遺物(1/4) …… 414
第 41 図　A区北壁土層断面図(1/80)… 414
第 42 図　土壙－16･17出土遺物(1/4)… 415
第 43 図　柱穴－1(1/30)･出土遺物(1/4)415
第 44 図　柱穴－2(1/30)･出土遺物(1/4)416

第 45 図　柱穴－3(1/30)・出土遺物(1/4)
・柱穴－4出土遺物(1/2)…416
第 46 図　柱穴－5(1/30)・出土遺物(1/4)417
第 47 図　柱穴－6(1/30)・出土遺物(1/3)417
第 48 図　柱穴－7(1/30)
・出土遺物(1/4・1/2)…418
第 49 図　柱穴－8・9(1/30)・柱穴－8出土
遺物(1/4)…418
第 50 図　柱穴－10(1/30)・出土遺物(1/2)　419
第 51 図　柱穴－11出土遺物(1/4) …… 419
第 52 図　柱穴列－1(1/30) …… 419
第 53 図　土器溜り－1土層断面図(1/60)
・出土遺物(1)(1/4)…420
第 54 図　土器溜り－1出土遺物(2)(1/2) 421
第 55 図　包含層の出土遺物(1)(1/4) … 422
第 56 図　包含層の出土遺物(2)(1/4) … 423
第 57 図　包含層の出土遺物(3)(1/4) … 424
第 58 図　包含層の出土遺物(4)(1/2) … 425
第 59 図　包含層の出土遺物(5)(1/2) … 426
第 60 図　包含層の出土遺物(6)(1/3) … 427
第 61 図　包含層の出土遺物(7)(1/3) … 428
第 62 図　土壙－18(1/60)・出土遺物(1/4)
……428
第 63 図　土壙－19(1/30)・出土遺物(1/6)
……429
第 64 図　土壙－20(1/30)・出土遺物(1/6)
……430
第 65 図　土壙－21(1/30)・出土遺物(1/4)
……431
第 66 図　包含層の出土遺物(1/4・1/3)　432
第 67 図　B区遺構配置図(1/300) …… 433
第 68 図　B区北壁土層断面図(1/80)… 434
第 69 図　集石遺構(1/30)…… 435
第 70 図　縄文早期土器分布図(1/200)　436
第 71 図　縄文早期土器水平・垂直分布図
(水平1/150・垂直1/60)…437
第 72 図　包含層の出土遺物(1)(1/3) … 438
第 73 図　包含層の出土遺物(2)(1/3) … 439
第 74 図　包含層の出土遺物(3)(1/3) … 440
第 75 図　包含層の出土遺物(4)(1/3) … 441
第 76 図　包含層の出土遺物(5)(1/3) … 442
第 77 図　包含層の出土遺物(6)(1/3) … 443
第 78 図　包含層の出土遺物(7)(1/3) … 444
第 79 図　包含層の出土遺物(8)(1/3) … 445
第 80 図　包含層の出土遺物(9)(1/3) … 446
第 81 図　包含層の出土遺物⑽(1/3) … 447
第 82 図　包含層の出土遺物⑾(1/3) … 448
第 83 図　包含層の出土遺物⑿(1/3) … 449
第 84 図　包含層の出土遺物⒀(1/3) … 450
第 85 図　包含層の出土遺物⒁(1/3) … 451
第 86 図　包含層の出土遺物⒂(1/3) … 452
第 87 図　包含層の出土遺物⒃(1/2) … 453
第 88 図　竪穴住居址－6(1/60) …… 453
第 89 図　竪穴住居址－6出土遺物(1/4) 454
第 90 図　土壙－22(1/30)
・出土遺物(1)(1/2)…455
第 91 図　土壙－22出土遺物(2)(1/4) … 456
第 92 図　土壙－23(1/30)
・出土遺物(1/4)…457
第 93 図　土壙－24(1/30)
・出土遺物(1/3・1/2)…457
第 94 図　土壙－25(1/30)
・出土遺物(1/4)…458

第 95 図　土壙－26・27(1/30)
・出土遺物(1/4)…459
第 96 図　土壙－28(1/30)
・出土遺物(1/3)…459
第 97 図　土壙－29・30・31・32(1/30) … 460
第 98 図　土壙－33出土遺物
(1/2・1/3・1/4)…462
第 99 図　土器溜り－2(1/30)
・出土遺物(1/4)…463
第 100 図　包含層の出土遺物(1)(1/4) … 464
第 101 図　包含層の出土遺物(2)(1/2) … 465
第 102 図　包含層の出土遺物(3)(1/2) … 466
第 103 図　包含層の出土遺物(4)(1/3) … 467
第 104 図　建物－1(1/80)・出土遺物(1/4)
……468
第 105 図　土壙－34(1/30)…… 468
第 106 図　土壙－35出土遺物(1/4) …… 469
第 107 図　包含層の出土遺物(1)(1/2) … 469
第 108 図　包含層の出土遺物(2)(1/4) … 470
第 109 図　C区(1/200)・北壁土層断面図
(1/80)…471
第 110 図　包含層の出土遺物(1/3・1/2・1/4)
……472

木見大賀遺跡

第 1 図　一次調査位置図(1/3,000)
第 2 図　調査区位置図(1/3,000) …… 481
第 3 図　Ⅰ区遺構配置図(1/200・1/80) 482
第 4 図　Ⅰ区包含層出土遺物(1/4) … 483
第 5 図　Ⅱ区遺構配置図(1/300) …… 484
第 6 図　Ⅱ区東壁土層断面図(1/120) 485
第 7 図　Ⅱ区西壁土層断面図(1/160) 486
第 8 図　Ⅱ区下り土層断面図(1/60)… 487
第 9 図　溝－1出土遺物(1/4)…… 487
第 10 図　土壙－1(1/30)
・出土遺物(1/4)…488
第 11 図　井戸－1(1/60) …… 489
第 12 図　井戸－1出土遺物(1/4)…… 490
第 13 図　土壙－2(1/40) …… 490
第 14 図　土壙－2出土遺物(1/4)…… 491
第 15 図　土壙－3(1/20)
・出土遺物(1/4)…491
第 16 図　土壙－4(1/30)
・出土遺物(1/4)…492
第 17 図　土壙－5(1/30) …… 492
第 18 図　土壙－6(1/30) …… 493
第 19 図　土壙－7(1/30)
・出土遺物(1/4)…493
第 20 図　土壙－8(1/40)
・出土遺物(1/4)…493
第 21 図　溝－2(1/40) …… 493
第 22 図　鍛冶炉(1/40)…… 494
第 23 図　柱穴－1～3出土遺物(1/4) … 494
第 24 図　Ⅲ区遺構配置図(1/200) …… 494
第 25 図　土壙－9(1/30)
・出土遺物(1/4)…495
第 26 図　溝－3・4(1/40) …… 496
第 27 図　溝－3・4出土遺物(1)(1/4)…… 497
第 28 図　溝－3・4出土遺物(2)(1/4)…… 499
第 29 図　溝－5・6(1/40) …… 500
第 30 図　溝－5出土遺物(1/4)…… 501
第 31 図　溝－5・6出土遺物(1/4)…… 502
第 32 図　柱穴－4出土遺物(1/4)…… 503
第 33 図　井戸－2出土遺物(1/4)…… 504

第 34 図　土壙－10(1/60)
・出土遺物(1/4)…505
第 35 図　溝－7(1/80) …… 506
第 36 図　溝－7出土遺物(1)(1/4)…… 507
第 37 図　溝－7出土遺物(2)(1/4)…… 508
第 38 図　溝－7出土遺物(3)(1/4)…… 509
第 39 図　Ⅳ区－1遺構配置図
(1/100・1/150)…510
第 40 図　Ⅳ区－1出土遺物(1/4)…… 511
第 41 図　Ⅳ区－2遺構配置図(1/150)… 512
第 42 図　Ⅳ区－2南東壁土層断面図
(1/120)…513
第 43 図　Ⅳ区－2暗茶褐色土上層
・暗茶灰色土出土遺物(1/4)… 514
第 44 図　Ⅳ区－2暗茶褐色土
・黒褐色土出土遺物(1/4)…… 515
第 45 図　土壙－11(1/30)
・出土遺物(1/4)…516
第 46 図　土壙－12出土遺物(1/4) …… 516
第 47 図　溝－8(1/40)・遺物出土状態
(1/30)…517
第 48 図　溝－8出土遺物(1)(1/4)…… 518
第 49 図　溝－8出土遺物(2)(1/4)…… 519
第 50 図　溝－8出土遺物(3)(1/4)…… 520
第 51 図　土器溜り－1出土遺物(1/4)… 521
第 52 図　土器溜り－2出土遺物(1/4)… 522
第 53 図　土器溜り－3出土遺物(1/4)… 522
第 54 図　井戸－3(1/60)
・出土遺物(1/4)…523
第 55 図　溝－9出土遺物(1/4)…… 524
第 56 図　溝－9・10(1/30)…… 524
第 57 図　溝－9・10土層断面図(1/60)… 524
第 58 図　溝－10出土遺物(1/4) …… 525

てんぐ山散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図
(1/4,000)…529

天王遺跡

第 1 図　調査位置図(1/1,600) …… 531
第 2 図　遺構配置図(1/300) …… 532
第 3 図　A－B・C－D土層断面図
(1/80)…533
第 4 図　柱穴－1(1/30)・出土遺物(1/4)
……534
第 5 図　包含層の出土遺物(1/2・1/4)　534
第 6 図　建物－1・柱穴列－1(1/80)
・建物－1出土遺物(1/4)…535
第 7 図　包含層の出土遺物(1/4) …… 536
第 8 図　包含層の出土遺物(1)(1/4) … 536
第 9 図　包含層の出土遺物(2)(1/4) … 537
第 10 図　中世墓(1/30)
・出土遺物(1/4・1/3)…538
第 11 図　包含層の出土遺物(1/4) …… 539

菰池オレントウ遺跡

第 1 図　遺跡位置図(1/4,000) …… 541
第 2 図　土器溜り遺物出土状況(1/30)　542
第 3 図　土器溜り出土遺物(1)(1/4) … 543
第 4 図　土器溜り出土遺物(2)(1/4) … 544
第 5 図　土器溜り出土遺物(3)(1/4) … 545

城山散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図
(1/3,000)…547

柳田散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/5,000)549

稗田散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/5,000)551

稗田佐古遺跡

第 1 図　調査区位置図(1/4,000) …… 553
第 2 図　遺構配置図(1/400) …… 554
第 3 図　遺構実測図(1/40)…… 555

小川散布地

第 1 図　トレンチ調査位置図(1/3,000)557

結　　語

第 1 図　後期Ⅰ類器種分類図(1)…… 562
第 2 図　後期Ⅰ類器種分類図(2)…… 563
第 3 図　製塩土器編年図(1)(1/8) …… 572
第 4 図　製塩土器編年図(2)(1/8) …… 573

巻頭図版目次

巻頭図版 1 － 1　阿津走出遺跡縄文時代後期Ⅰ類の土器
2　阿津走出遺跡人骨出土状態

巻頭図版 2 － 1　阿津走出遺跡土器層
2　阿津走出遺跡製塩土器

図版目次

図版 1 － 1　田之浦御台場跡調査前(北から)
2　田之浦御台場跡調査前(北から)
図版 2 － 1　田之浦御台場跡立木伐採後(南東から)
2　田之浦御台場跡一次調査(北東から)
図版 3 － 1　田之浦御台場跡一次調査(東から)
2　田之浦御台場跡胸墻(南東から)
図版 4 － 1　田之浦御台場跡塁台(北東から)
2　田之浦御台場跡塁台側石(北から)
図版 5 － 1　田之浦御台場跡塁台(北から)
2　田之浦御台場跡塁台側石(北から)
図版 6 － 1　田之浦御台場跡背障(北西から)
2　田之浦御台場跡弾薬庫(西から)
図版 7 － 1　田之浦御台場跡火薬庫(北東から)
2　田之浦御台場跡火薬庫漆喰壁遺存状態(北西から)
図版 8 － 1　田之浦御台場跡火薬庫漆喰壁遺存状態(南西から)
2　田之浦御台場跡火除土囲(南から)
図版 9 － 1　田之浦御台場跡兵士居所(西から)
2　田之浦御台場跡兵士居所便所(西から)
図版10－ 1　田之浦御台場跡南側全景(東から)
2　田之浦御台場跡南側全景(北から)
図版11－ 1　田之浦御台場跡北水道調査前(東から)
2　田之浦御台場跡北水道検出状態(東から)

図版12－1　田之浦御台場跡北水道(東から)
2　田之浦御台場跡北水道(東から)
図版13－1　田之浦御台場跡北水道胸壁下(北東から)
2　田之浦御台場跡北水道胸壁下蓋石除去後(北東から)
図版14－1　田之浦御台場跡北水道出口(南西から)
2　田之浦御台場跡胸壁土層断面(東から)
図版15－1　田之浦御台場跡胸壁土層断面(東から)
2　田之浦御台場跡胸壁土層断面(南から)
図版16－1　田之浦御台場跡北水道(東から)
2　田之浦御台場跡南水道側石(北から)
図版17－1　田之浦御台場跡土層断面A－B(東から)
2　田之浦御台場跡排水溝(南から)
図版18－1　田之浦御台場跡井戸－1(東から)
2　田之浦御台場跡井戸－1(西から)
図版19－1　田之浦御台場跡全景(北から)
2　田之浦御台場跡全景(東から)
図版20－1　池田家文庫(1)
2　池田家文庫(2)
図版21－1　池田家文庫(3)
2　池田家文庫(4)
図版22－1　池田家文庫(5)
2　池田家文庫(6)
図版23－1　池田家文庫(7)
2　池田家文庫(8)
図版24－1　池田家文庫(9)
2　池田家文庫(10)
図版25－1　池田家文庫(11)
2　池田家文庫(12)
図版26－1　池田家文庫(13)
2　池田家文庫(14)
図版27－1　池田家文庫(15)
2　池田家文庫(16)
図版28－1　山際紫山遺跡遠景(南西から)
2　山際紫山遺跡(南から)
図版29－1　山際紫山遺跡竪穴住居址－1(北から)
2　山際紫山遺跡竪穴住居址－2(南から)
図版30－1　山際紫山遺跡竪穴住居址－3(北西から)
2　山際紫山遺跡竪穴住居址－3(北西から)
図版31－1　山際紫山遺跡竪穴住居址－4(南から)
2　山際紫山遺跡竪穴住居址－5(北から)
図版32－1　山際紫山遺跡竪穴住居址－6(南から)
2　山際紫山遺跡竪穴住居址－6製塩土器出土状態
図版33－1　山際紫山遺跡竪穴住居址－7遺物出土状態
2　山際紫山遺跡竪穴住居址－7
図版34－1　舟津原遺跡T－1～3設定前

(南西から)
2 舟津原遺跡T－9(北西から)
図版35－1 舟津原遺跡T－13(西から)
2 舟津原遺跡A区調査前(南から)
図版36－1 舟津原遺跡A区旧河道(南から)
2 舟津原遺跡A区土器層
(北西から)
図版37－1 舟津原遺跡A区上層土壙検出状態(南から)
2 舟津原遺跡旧河道(北から)
図版38－1 舟津原遺跡A区土層断面1－2
(北西から)
2 舟津原遺跡A区T－1土層断面
(南東から)
図版39－1 舟津原遺跡A区砂礫層掘り上げ
(北から)
2 舟津原遺跡A区土壙群最終検出面(南西から)
図版40－1 舟津原遺跡A区土壙群全景
(南から)
2 舟津原遺跡A区土壙群掘り上げ
(北東から)
図版41－1 舟津原遺跡A区土壙－1土層断面(北西から)
2 舟津原遺跡A区土壙－1
(南東から)
図版42－1 舟津原遺跡A区土壙－2
(南から)
2 舟津原遺跡A区土壙－3土層断面(北西から)
図版43－1 舟津原遺跡A区土壙－3
(北西から)
2 舟津原遺跡A区土壙－3
(北西から)
図版44－1 舟津原遺跡A区土壙－3(俯瞰)
2 舟津原遺跡A区土壙－3(俯瞰)
図版45－1 舟津原遺跡B区T－2
(南西から)
2 舟津原遺跡B区T－6
(北西から)
図版46－1 舟津原遺跡C区(西から)
2 舟津原遺跡E区(南から)
図版47－1 児島インターチェンジ散布地
(南東から)
2 児島インターチェンジ散布地
(北東から)
図版48－1 児島インターチェンジ散布地
T－15(南東から)
2 児島インターチェンジ散布地
T－13(北東から)
3 児島インターチェンジ散布地
T－16(北東から)
図版49－1 阿津南丘陵散布地(南から)
2 阿津南丘陵散布地(北から)
図版50－1 高辻散布地(西から)
2 高辻散布地(東から)
図版51－1 阿津走出遺跡遠景(南から)
2 阿津走出遺跡遠景(西から)
図版52－1 阿津走出遺跡A区T－1
(南から)
2 阿津走出遺跡A区A－7
(南から)
図版53－1 阿津走出遺跡A区C－7土層断面(北東から)

2　阿津走出遺跡Ａ区Ｃ－５土層断面(北から)
図版54－１　阿津走出遺跡Ｂ区グリット設定区全景(東から)
2　阿津走出遺跡Ｂ区東側道土層断面(北西から)
図版55－１　阿津走出遺跡Ｂ区東－西土層断面(北東から)
2　阿津走出遺跡Ｂ区遺物出土状態(北から)
図版56－１　阿津走出遺跡土壙－１土層断面(南から)
2　阿津走出遺跡土壙－１(東から)
図版57－１　阿津走出遺跡土壙－３(南から)
2　阿津走出遺跡土壙－５(南から)
図版58－１　阿津走出遺跡土壙－９・10(東から)
2　阿津走出遺跡土壙－11(南から)
図版59－１　阿津走出遺跡土壙－15(西から)
2　阿津走出遺跡土壙－17(東から)
図版60－１　阿津走出遺跡Ｐ－６埋葬人骨(西から)
2　阿津走出遺跡Ｐ－６埋葬人骨(北から)
図版61－１　阿津走出遺跡甕棺(西から)
2　阿津走出遺跡土壙－26(東から)
図版62－１　阿津走出遺跡Ｂ区竪穴住居址－１遺物出土状態(東から)
2　阿津走出遺跡Ｂ区竪穴住居址－１(南西から)
図版63－１　阿津走出遺跡Ｐ－６調査前(北東から)
2　阿津走出遺跡Ｐ－６表土下(南から)
図版64－１　阿津走出遺跡Ｐ－６土器層(南から)
2　阿津走出遺跡Ｐ－６土器層(北から)
図版65－１　阿津走出遺跡Ｐ－６土器層断面(東から)
2　阿津走出遺跡炉壁片出土状態(南から)
図版66－１　阿津走出遺跡Ｐ－６炉壁片(南西から)
2　阿津走出遺跡Ｐ－６炉壁片断面(北西から)
図版67－１　阿津走出遺跡Ｐ－６南壁土層断面(北から)
2　阿津走出遺跡Ｐ－６北壁土層断面(南から)
図版68－１　阿津走出遺跡Ｐ－６作業面(南から)
2　阿津走出遺跡Ｐ－６作業面(南から)
図版69－１　阿津走出遺跡Ａ区Ａ－８焼土面(西から)
2　阿津走出遺跡Ａ区Ａ－３Ｂグリット(東から)
図版70－１　阿津走出遺跡Ａ区Ｂ－６(南から)
2　阿津走出遺跡Ａ区Ｂ－５(北東から)
図版71－１　阿津走出遺跡Ａ区Ｂ－５(北東から)

2　阿津走出遺跡A区A－6・B－6(西から)
図版72－1　阿津走出遺跡AR－2(南西から)
2　阿津走出遺跡AR－2土器層(北西から)
図版73－1　阿津走出遺跡B区土壙－27・28(東から)
2　阿津走出遺跡B区柱穴列(東から)
図版74－1　阿津丘陵散布地T－2(北東から)
2　阿津丘陵散布地T－5(東から)
図版75－1　石ノ塔伏台場跡遠景(西から)
2　石ノ塔伏台場跡近景(北から)
図版76－1　石ノ塔伏台場跡調査前(南から)
2　石ノ塔伏台場跡トレンチ(南東から)
図版77－1　石ノ塔伏台場跡T－8(東から)
2　石ノ塔伏台場跡T－1(東から)
図版78－1　菰池遺跡遠景(北から)
2　菰池遺跡C区(西から)
図版79－1　菰池遺跡A区遺構検出状況(東から)
2　菰池遺跡A区遺構検出状況(西から)
図版80－1　菰池遺跡A区竪穴住居址－1・2(西から)
2　菰池遺跡A区竪穴住居址－1(南から)
図版81－1　菰池遺跡A区竪穴住居址－3(南から)
2　菰池遺跡A区竪穴住居址－4(西から)
図版82－1　菰池遺跡A区土壙－2(南から)
2　菰池遺跡A区土壙－2遺物出土状況(西から)
図版83－1　菰池遺跡A区土壙－3(北から)
2　菰池遺跡A区柱穴－6(西から)
図版84－1　菰池遺跡A区土壙－19(西から)
2　菰池遺跡A区土壙－20(北から)
図版85－1　菰池遺跡B区遺構検出状況(東から)
2　菰池遺跡B区遺構検出状況(北から)
図版86－1　菰池遺跡B区縄文時代遺構検出状況(西から)
2　菰池遺跡B区竪穴住居址－6(南から)
図版87－1　菰池遺跡B区土壙－22(東から)
2　菰池遺跡B区土壙－22遺物出土状況(南から)
図版88－1　木見大賀遺跡Ⅰ区全景(南西から)
2　木見大賀遺跡Ⅰ区土層断面(南西から)
図版89－1　木見大賀遺跡Ⅱ区全景(北から)
2　木見大賀遺跡Ⅱ区下がり(北西から)
図版90－1　木見大賀遺跡Ⅱ区(北西から)
2　木見大賀遺跡Ⅱ区(北西から)
図版91－1　木見大賀遺跡Ⅱ区溝－1土層断面(北東から)
2　木見大賀遺跡Ⅱ区溝－1

(北東から)
図版92－1　木見大賀遺跡Ⅱ区土壙－1
(北西から)
2　木見大賀遺跡Ⅱ区鍛冶炉
(北東から)
図版93－1　木見大賀遺跡Ⅱ区井戸－1
(西から)
2　木見大賀遺跡Ⅱ区土壙－3
(北から)
図版94－1　木見大賀遺跡Ⅲ区全景(東から)
2　木見大賀遺跡Ⅲ区土壙－9
(西から)
図版95－1　木見大賀遺跡Ⅲ区溝－3・4
(北東から)
2　木見大賀遺跡Ⅲ区溝－3土層断面(北東から)
図版96－1　木見大賀遺跡Ⅲ区溝－5・6
(北東から)
2　木見大賀遺跡Ⅲ区土壙－10
(北西から)
図版97－1　木見大賀遺跡Ⅲ区溝－7(南西から)
2　木見大賀遺跡Ⅲ区溝－7(南西から)
図版98－1　木見大賀遺跡Ⅲ区溝－7(南西から)
2　木見大賀遺跡Ⅳ区土壙－12
(東から)
図版99－1　木見大賀遺跡Ⅳ区－1(北から)
2　木見大賀遺跡Ⅳ区－2全景
(東から)
図版100－1　木見大賀遺跡Ⅳ区－2溝－8土層断面(西から)
2　木見大賀遺跡Ⅳ区－2溝－8遺物出土状態(南東から)
図版101－1　木見大賀遺跡Ⅳ区－2土器溜り－1(北東から)
2　木見大賀遺跡Ⅳ区－2井戸－3
(東から)
図版102－1　木見大賀遺跡Ⅳ区－2溝－17・18(南東から)
2　木見大賀遺跡Ⅳ区－2溝－7・8土層断面(北西から)
図版103－1　てんぐ山散布地(北から)
2　てんぐ山散布地T－2
(南西から)
図版104－1　天王遺跡全景(南から)
2　天王遺跡建物(南西から)
図版105－1　天王遺跡中世墓(南から)
2　天王遺跡中世墓遺物出土状態
(俯瞰)
図版106－1　菰池オレントウ遺跡(南西から)
2　菰池オレントウ遺跡(北西から)
図版107－1　城山散布地T－1(南東から)
2　城山散布地T－2(北東から)
図版108－1　柳田散布地(南西から)
2　柳田散布地T－1(北東から)
図版109－1　稗田散布地(南から)
2　稗田散布地トレンチ(北東から)
図版110－1　稗田佐古遺跡遠景(南から)
2　稗田佐古遺跡調査区全景
(北西から)
図版111－1　稗田佐古遺跡1検出状態
(南東から)
2　稗田佐古遺跡4掘り上げ
(南から)
図版112－1　稗田佐古遺跡6検出状態

(南から)
2 稗田佐古遺跡6掘り上げ(西から)
図版113－1 小川散布地遠景(西から)
2 小川散布地Ｔ－1(西から)
図版114 山際紫山遺跡出土遺物
図版115－1 舟津原遺跡Ａ区土壙－1出土遺物(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(1)(1/3)
図版116－1 舟津原遺跡出土遺物(2)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(3)(1/3)
図版117－1 舟津原遺跡出土遺物(4)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(5)(1/3)
図版118－1 舟津原遺跡出土遺物(6)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(7)(1/3)
図版119－1 舟津原遺跡出土遺物(8)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(9)(1/3)
図版120－1 舟津原遺跡出土遺物(10)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(11)(1/3)
図版121－1 舟津原遺跡出土遺物(12)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(13)(1/3)
図版122－1 舟津原遺跡出土遺物表面(14)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物裏面(15)(1/3)
図版123－1 舟津原遺跡出土遺物(16)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(17)(1/3)
図版124－1 舟津原遺跡出土遺物(18)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(19)(1/3)
図版125－1 舟津原遺跡出土遺物(20)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(21)(1/3)
図版126－1 舟津原遺跡出土遺物(22)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(23)(1/3)
図版127－1 舟津原遺跡出土遺物(24)(1/3)
2 舟津原遺跡出土遺物(25)(1/3)
図版128－1 阿津走出遺跡出土遺物(1)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(2)(1/3)
図版129－1 阿津走出遺跡出土遺物(3)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(4)(1/3)
図版130－1 阿津走出遺跡出土遺物(5)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(6)(1/3)
図版131－1 阿津走出遺跡出土遺物(7)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(8)(1/3)
図版132－1 阿津走出遺跡出土遺物(9)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(10)(1/3)
図版133－1 阿津走出遺跡出土遺物(11)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(12)(1/3)
図版134－1 阿津走出遺跡出土遺物(13)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(14)(1/3)
図版135－1 阿津走出遺跡出土遺物(15)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(16)(1/3)
図版136－1 阿津走出遺跡出土遺物(17)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(18)(1/3)
図版137－1 阿津走出遺跡出土遺物(19)(1/3)
2 阿津走出遺跡出土遺物(20)(1/3)
図版138 阿津走出遺跡出土遺物(21)
図版139 阿津走出遺跡出土遺物(22)(1/2)
図版140 阿津走出遺跡出土遺物(23)(1/2)
図版141 阿津走出遺跡出土遺物(24)(1/2)
図版142 阿津走出遺跡出土遺物(25)(1/2)
図版143 阿津走出遺跡出土遺物(26)(1/2)
図版144 阿津走出遺跡出土遺物(27)(1/2)
図版145 阿津走出遺跡出土遺物(28)(1/2)
図版146 阿津走出遺跡出土遺物(29)(1/2)
図版147 阿津走出遺跡出土遺物(30)(1/2)
図版148 阿津走出遺跡出土遺物(31)(1/2)

図版149　阿津走出遺跡出土遺物(32)(1/2)
図版150　阿津走出遺跡出土遺物(33)(1/2)
図版151　阿津走出遺跡出土遺物(34)(1/2)
図版152－1　阿津走出遺跡出土遺物(35)
2　阿津走出遺跡出土遺物(36)
図版153－1　阿津走出遺跡出土遺物(37)
2　阿津走出遺跡出土遺物(38)
図版154－1　阿津走出遺跡出土遺物(39)
2　阿津走出遺跡出土遺物(40)
図版155－1　阿津走出遺跡出土遺物(41)
2　阿津走出遺跡出土遺物(42)
図版156　菰池遺跡出土遺物(1)
図版157　菰池遺跡出土遺物(2)
図版158－1　菰池遺跡出土遺物(3)
2　菰池遺跡出土遺物(4)
図版159－1　菰池遺跡出土遺物(5)（表面）
2　菰池遺跡出土遺物(5)（裏面）
図版160　菰池遺跡出土遺物(6)
図版161　木見大賀遺跡出土遺物
図版162－1　天王遺跡中世墓出土遺物
2　天王遺跡包含層出土遺物

表　目　次

序　説

表－1　調査年度・面積一覧表……1
表－2　調査工程表……3
表－3　本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会議事録……13

舟津原遺跡

表－1　縄文土器観察表……629
表－2　石器・石製品一覧表……680

阿津走出遺跡

表－1　縄文土器観察表……683
表－2　石鏃一覧表……711
表－3　石器・石製品一覧表……723

菰池遺跡

表－1　金属製品一覧表……474
表－2　土製品一覧表……474
表－3　石器・石製品一覧表……474

結　語

表－1　舟津原遺跡・阿津走出遺跡出土土器類別対照表……559
表－2　舟津原遺跡・阿津走出遺跡出土土器型式一覧表……568

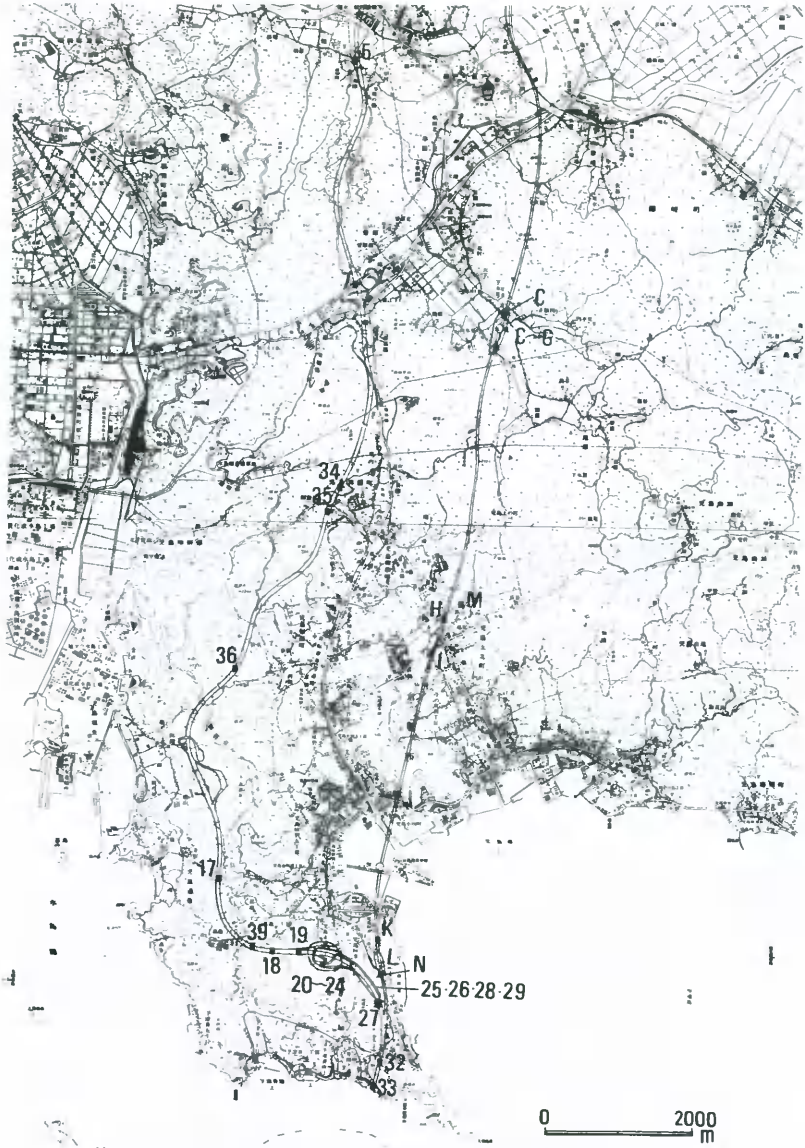
本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査Ⅱ

第１章　序　　説

第１節　昭和55年度以降の調査概要

表－１　調査年度・面積一覧表

年　度	遺　跡　名	遺跡番号	面　積
昭和53年度	曽原遺跡		850㎡
昭和54年度	曽原遺跡		700㎡
	琴海１号墳	27	350㎡
	田之浦御台場跡（一次調査）	33	200㎡
昭和55年度	山際紫山遺跡（一次調査）	Ⅰ	350㎡
	舟津原遺跡（一次調査）	5	240㎡
	田之浦御台場跡		2,800㎡
	舟津原遺跡		1,600㎡
昭和56年度	舟津原遺跡		
	児島インターチェンジ散布地（一次調査）	20～24	900㎡
	高辻散布地（一次調査）	M	100㎡
	阿津走出遺跡（一次調査）	L	750㎡
	阿津走出遺跡（一次調査）		900㎡
	山際紫山遺跡		2,500㎡
昭和57年度	阿津丘陵散布地（一次調査）	25～29	360㎡
	阿津南丘陵散布地（一次調査）	N	70㎡
	石ノ塔伏台場跡（一次調査）	32	210㎡
	孤池遺跡（一次調査）	18	120㎡
	通生散布地（一次調査）	17	40㎡
	舟津原遺跡		500㎡
	阿津走出遺跡		850㎡
昭和58年度	木見散布地（一次調査）	C～G	370㎡
	阿津走出遺跡（一次調査）		300㎡
	阿津走出遺跡		200㎡
	田之浦御台場跡		200㎡
昭和59年度	木見散布地（一次調査）		130㎡
	てんぐ山散布地（一次調査）		230㎡
	田之浦御台場跡		900㎡
	阿津走出遺跡		350㎡
	天王遺跡	H	400㎡
	孤池遺跡		200㎡
昭和60年度	稗田佐古遺跡（一次調査）	34	170㎡
	稗田散布地（一次調査）	35	20㎡
	柳田散布地（一次調査）	36	130㎡
	城山散布地（一次調査）	K	360㎡
	孤池遺跡		3,000㎡
	孤池オレントウ遺跡	39	80㎡
昭和61年度	小川散布地（一次調査）	J	30㎡
	稗田佐古遺跡		550㎡
	木見大賀遺跡（一次調査）		80㎡
	木見大賀遺跡		2,240㎡

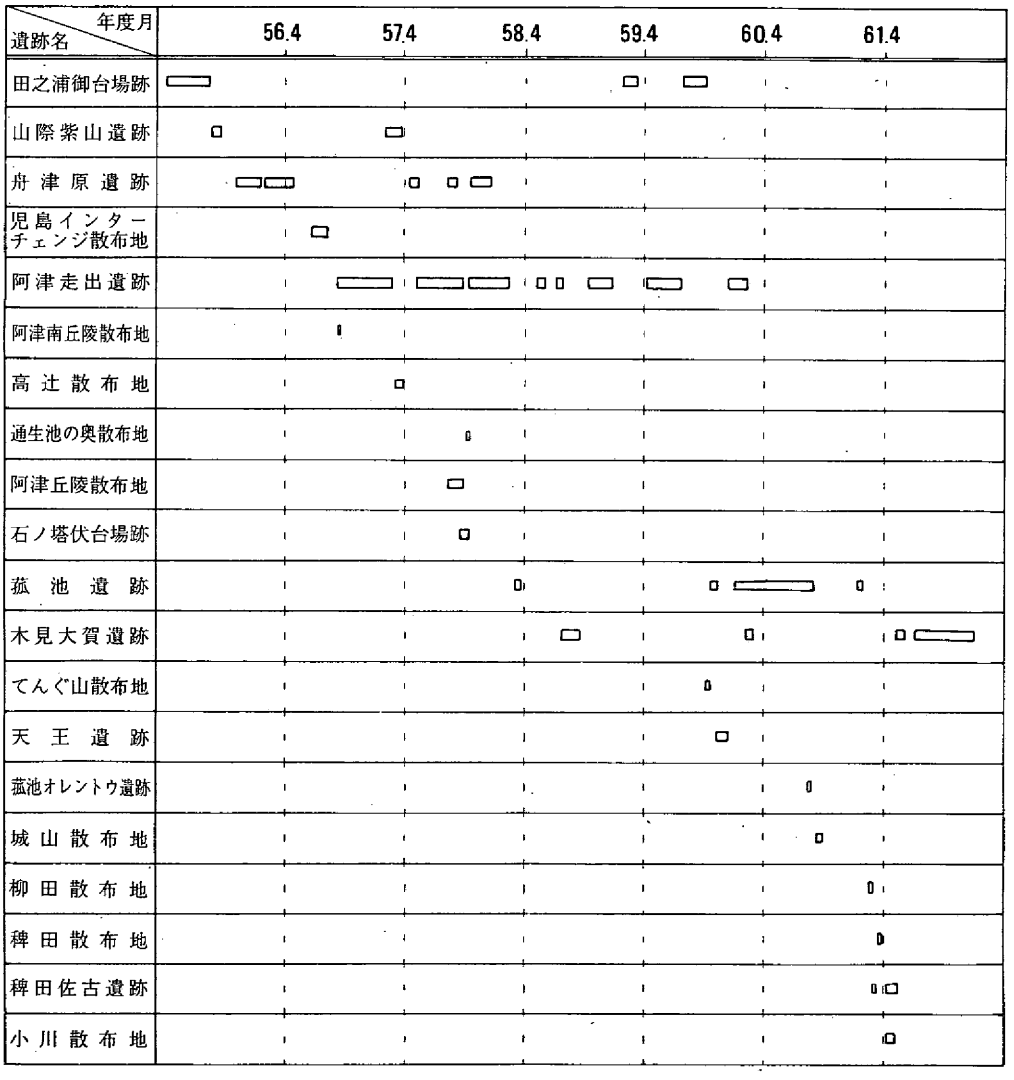


第1図　本州四国連絡橋陸上ルート内遺跡調査(昭和55年度以降)位置図　(1/75,000)

本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は，昭和53年４月倉敷市曽原地区の調査から開始された。この年度と次の54年度までの２か年の調査結果については，「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告36，本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査Ⅰ」として，昭和55年３月に報告書が刊行されている。したがって，今回の報告は昭和55年４月（田之浦御台場跡の一次調査は，昭和54年度中に実施）から昭和61年度の７か年（表－１）にわたる調査の結果である。

調査は，昭和52年２月から３月にわたって事前に実施された分布調査でルート上に遺跡が予

表－２　調査工程表



想されるものについて，一次調査を実施した。この一次調査は，遺跡地の規模や内容について把握する目的であるが，全面調査を実施するか，また一次調査で終了するのかについての判断も同時におこなった。このルートの分布調査は，先の報告書において詳細に記されているが，第１図は今回新たに作成しなおしたものである。図中のアルファベットは鉄道部で，数字は道路部および併用部についての遺跡地である。

昭和52年度の分布調査以外においては，種松山トンネルに伴う高辻散布地，工事中発見の菰池オレントウ遺跡，稗田地区の道路ルート変更に伴う分布調査による稗田佐古遺跡，稗田散布地，柳田散布地が認められた。発掘調査工程は，表－２に示した。

第２節　阿津走出遺跡の保存協議に至る経緯

阿津走出遺跡は昭和51年の分布調査では，遺跡の北端に所在していた狭い畑地に古墳時代の製塩土器が散布していたこと，そして，東側は遺跡地を境として一段低い地形を呈していることから，この付近が旧海岸線にあたることがおおよそ推定され，本州四国連絡橋陸上部部分では唯一の製塩遺跡としてとりあげられていた。しかし，遺跡地の大部分は県道，工場跡や民家などの建築や造成のため，その遺存状態は当初からあまり期待されていなかった。

昭和56年９月に至り，一部未買収用地を残しながらも工事が急がれるため，県道に隣接する北側の工場跡地に初めて調査に入った。つまり，後に橋脚部の調査対象地となったＰ－６を中心とした地域である。調査に入ってまもなく，工場造成盛土を排土し，旧耕作土を取り除くと灰色粘土ブロックからなる炉跡，膨大な量を推定させる製塩土器の土器捨て場，あるいは海水の濃度を高める施設と推定される鹹水溜めなどを想定させる遺構，また小規模ではあるが，須恵器を伴う貝塚など，古墳時代から奈良時代にわたる遺構群が調査区全域にわたって検出された。しかも遺跡は岡山県内ではあまり例のない砂洲上に立地していることも判明した。こうして，調査後まもなく当該遺跡は古墳時代から奈良時代に至る製塩工程と生活の場が一連のものとして把握できる数少ない遺跡であり，その上，当初の予想に反してその遺存状況も極めてよい遺跡であることが判明した。このため昭和56年10月30日開催の「本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会」（以下対策委員会と略記する）において遺跡の保存要望が提案された。つづいて，昭和56年12月４日付けで「岡山県遺跡保護調査団」からも保存が要請された。（資料－１）

資料－１

走出遺跡の保存要望書

倉敷市児島走出遺跡は古墳時代土器製塩遺跡として稀にみる良好な保存状態にあります。表土層を

除去した状態の観察だけによりましても，そこには製塩炉址，作業面及び製塩土器廃棄場がみとめられ，土器製塩研究上極めて学問的価値の高い遺跡であります。

製塩産業はかつて瀬戸内沿岸地域において，もっとも重要な産業のひとつとして古代以来発達し，今日の内海地域の生産・生活の基礎を築いてまいったものであります。したがって，その遺跡の保存は学術的価値とともに祖先の偉業を偲ぶものとして内海沿岸住民の心の糧となるものであります。

加えて岡山県は，西日本における土器製塩の発生の地であるにもかかわらず，海辺の埋立・波浪による浸蝕などにより，今日この種遺跡の完存例は皆無に近い状態にあります。本走出遺跡はその中にあって，先に国指定史跡となった香川県直島町喜兵衛島遺跡に比べて内容と完存状況において遜色がありません。もし，これを破壊するようなことがあれば，悔いを千載に残すことになること必定であります。

以上の理由により，本州四国架橋工事にあたり本走出遺跡の保存を要請します。

1982年12月４日

岡山市三野３丁目３－55

岡山県遺跡保護調査団

委員長　水内昌康

副委員長　鎌木義昌

副委員長　近藤義郎

岡山県教育委員会　教育長　殿

こうした県内研究者の保存要請を受けて，岡山県教育委員会は文化庁とも協議を進め昭和57年２月19日付けで教育長名をもって本四公団第二建設局長宛に初めて公式に保存を要請した。（資料－２）

資料－２

教文埋第5432号

昭和57年２月19日

本州四国連絡橋公団第二建設局

局長　吉田　巌　殿

岡山県教育委員会教育長

佐藤章一

走出遺跡の保存方について（要望）

文化財の保護・保存につきましては，常々ご高配を賜り感謝いたしております。

さて，標記のことにつき，種々協議を重ねてまいりましたが，第１次確認調査の結果により，遺跡の広がり密度など遺跡の性格を知る資料が別添のとおり確認されました。

この調査結果によりますと，当該遺跡は文化財保護上きわめて重要な遺構が包蔵されていると考えられます。

つきましては，この重要遺跡地区においては径間を広げ，橋脚の数を少なくする措置などのご配慮を賜り，文化財の保護・保存にご理解とご協力をお願いしたいと存じますので，よろしくお取り計らい下さい。

昭和57年11月１日付本四公団第二建設局局長名により保存に対して最初の回答があった。（資料－３）

資料－３

二 計 第 152 号

昭和57年11月１日

岡山県教育委員会

教育長　佐　藤　章　一　殿

本州四国連絡橋公団・第二建設局

局　長　　吉　　田　　巌

走出遺跡の保存方について（回答）

本州四国連絡橋の事業につきましては，平素より特段の御配慮を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて，標記につきましては教文埋第5432号（昭和57年２月19日付け）で御要望があり，その後相方種々協議を重ねておりますが，当地区の環境の特性及び文化財の重要性，構造物の経済性等を考慮いたしまして，別添図面のように従来のラーメン高架橋型式（別添－１）をピア高架橋型式（別添－２）に変更することによって，径間を広げ橋脚の数を少なくして埋蔵文化財に与える影響を最小にすることによって対応したいと計画しておりますので，よろしくお願いいたします。

その要旨は当初のラーメン高架橋型式の工法をピア高架橋型式に変更するというものである。しかし，この設計変更によっても遺跡地の内もっともよく遺構が残っている県道の北側の地区にピアが二本建てられることとなり，それに伴うピア部分の部分的な調査ではかえって遺跡を破壊する上，遺構のつながりも不明確にしてしまう確率が高くなるということで再度保存を要請することとなった。（資料－４）

資料－４

教文埋第4253号

昭和57年11月26日

本州四国連絡橋公団・第二建設局

局　長　　吉　田　　巌　殿

岡山県教育委員会教育長

佐　藤　章　一

走出遺跡の保存方について

文化財の保護・保存につきましては，常々ご高配を賜り感謝いたします。

さて，二計第152号をもって回答のありました，高架橋型式について，検討を行いましたが，当該遺跡の文化財保護上の重要性に加え本県教育長が委嘱している「本四連絡橋陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員」からも，走出遺跡は備讃瀬戸地域においては他に比類ないものとしてその重要性を評価され，先般の現地での委員会においては，遺跡の完全保存を強く要請されているところであります。

つきましては，当該遺跡保存について，文化財保護法第４条第１項及び第２項の主旨を尊重され，さらに径間を広げる工法について，格段のご配慮を賜りたくお願いいたします。

つまり，対策委員側から要請されている保存は当初から遺跡の完全保存である。その為には径間を最低100ｍ以上の間隔をとらねばならないということになる。

対策委員会の会議でしばしば出された話は，世紀の大橋としてアピールされている瀬戸大橋を建設できる土木技術をもっている本四公団で遺跡を保存する100ｍ程度の橋梁がなぜ出来ないのかという冗談とも本音ともつかない期待がよせられた。

しかし，一方本四公団としても長大径間で遺跡を跨ぐ場合，工法上の検討を加えるにあたっては，まず第１に瀬戸大橋の供用開始と工事期間との調整がとれるかどうかがまず問われる。さらに加えるに，工事費用の問題と騒音に対する環境保全を保持することも重要な課題である。また，遺跡の重要の度合についても将来国指定の遺跡となりうるものかどうかも問われる。

こうした課題を一つ一つに検討を加え，最終的に問題となったのが遺跡地を完全にクリアーして，100ｍ径間を跨ぐ工法をとれば，セメント橋であれば，工事の基礎部分だけでなく径間部についても裾の長いセメントをはらなくてはならない。また，100ｍ径間の鉄橋とすれば，工事はともかく開通時に低周波空気振動，いわゆる低周波騒音公害がおこるおそれも考えられる。

しかも，この問題は最近になって提起された公害問題なので，調査例も少なく，現段階では予測手段は確立されていないとのことである。

その上，最大の課題として，困難さを伴うものに地域住民との間で合意に達しているアセスをやり直すことが必要となる。

こうして最終的に合意に達したのがいわば100ｍ径間の折衷案とも呼ぶべき工事で，遺跡地の中心部に基礎橋脚を１か所設置して50ｍ径間で跨ぐ工法となったのである。（資料－５）

資料－5

二 計 第 24 号
昭和59年 2 月28日

岡山県教育委員会
教育長　宮　地　暢　夫　殿

本州四国連絡橋公団第二建設局
局　長　　大　　橋　　昭　　光

阿津走出遺跡の保存方について（回答）

本州四国連絡橋の事業につきましては，平素より特段の御配慮を賜わり厚く御礼申し上げます。

昭和59年 2 月 1 日付教文埋第5221号で高架橋の構造の再検討の要望のありましたことにつきましては，遺跡への影響を極力少なくするよう検討した結果下記のとおりにしたいのでよろしくお願いいたします。

記

別添図面のとおり径間約50ｍで遺跡地内にかかる橋脚は 1 基とし，橋桁の施工にあたっては遺跡への影響を極力少なくするよう配慮する。

さらに，鉄道工事と関連する側道の敷設工事及び将来予測される遺跡の整備にあたって，遺跡の現状保存の配慮を依頼し，阿津走出遺跡の保存は 2 年間にわたる協議の結果，その結論をみたのである。（資料－6）　　（河本）

資料－6

教文埋第6223号
昭和59年 3 月27日

本州四国連絡橋公団第二建設局
局　長　　大　　橋　　昭　　光　殿

岡山県教育委員会教育長
宮　　地　　暢　　夫

阿津走出遺跡の保存方について

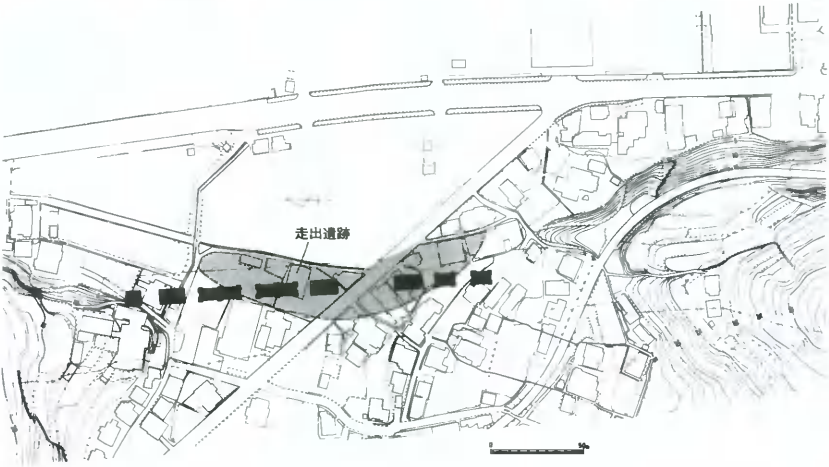
本州四国連絡橋建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査ならびに保護・保存につきましては，平素より格別のご理解とご配慮を賜り，厚く御礼申し上げます。

さて，昭和59年 2 月28日付二計第24号で阿津走出遺跡の保存のために，高架橋の構造等の設計変更によって遺跡への影響を最少限にとどめる基本設計の回答をいただき有難く御礼申し上げます。

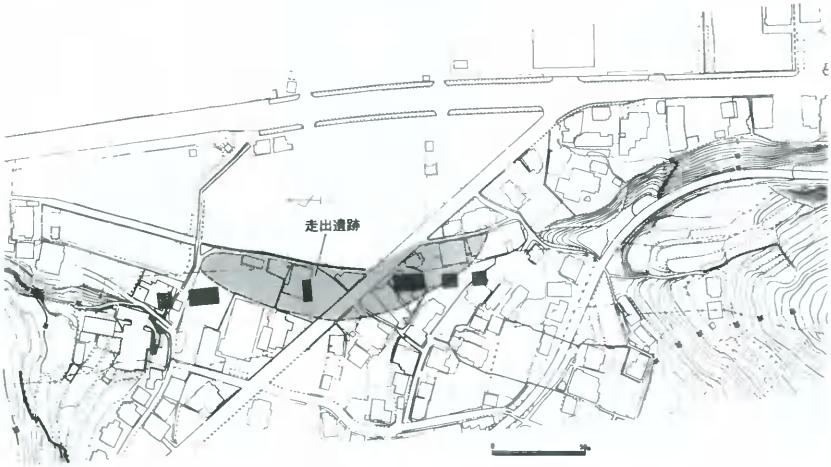
つきましては，将来倉敷市に移管されることが予定されている側道敷部分につきましても，これが本遺跡の主要部分を貫通する計画となっており，今後この遺跡の保存・整備を進めていく上で極めて

重大な影響を及ぼすことになりますので，当該側道部分の現状保存方について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

１．添付資料　側道計画図



第２図　当初計画橋脚位置図　(1/3,000)



第３図　保存計画橋脚位置図　(1/3,000)

第3節　調査の組織

発掘調査は，岡山県教育委員会（岡山県古代吉備文化財センター）が本州四国連絡橋公団より委託を受け，昭和55年度－61年度の7か年間に行った本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴うものである。

岡山県教育委員会の構成は，以下の通りである。なお，昭和59年11月1日から岡山県古代吉備文化財センターの設置に伴い，発掘調査は当センターで実施することとなった。

昭和55年度

文化課長	近藤　信司	主　任	田中　建治
課長補佐	吉光　一修	文化財保護主査	下澤　公明（調査担当）
文化財主幹	難波　進	文化財保護主事	福田　正継（〃）
文化財二係長	河本　清		

昭和56年度

文化課長	早田　憲治	主　任	田中　建治
課長代理	吉光　一修	主　事	金尾　一志
文化財主幹	高原　健郎	文化財保護主査	下澤　公明（調査担当）
埋蔵文化財係長	河本　清		

昭和57年度

文化課長	早田　憲治	主　任	遠藤　勇次
課長代理	橋本　泰夫	主　事	石井　茂
文化財主幹	高原　健郎	文化財保護主査	下澤　公明（調査担当）
埋蔵文化財係長	河本　清	文化財保護主事	内藤　善史（〃）
主　任	田中　建治		

昭和58年度

文化課長	早田　憲治	文化財保護主査	下澤　公明（調査担当）
課長代理	橋本　泰夫	文化財保護主事	内藤　善史（〃）
同	吉本　唯弘		
課長補佐兼埋蔵文化財係長	河本　清		
主　任	遠藤　勇次		

昭和59年度

文化課長	松元　昭憲	主　任	遠藤　勇次

課長代理	逸見　英邦	主　事	楢原　充二	
同	吉本　唯弘	文化財保護主査	下澤　公明	（調査担当）
課長補佐兼埋蔵文化財係長	河本　清	文化財保護主事	内藤　善史	（　〃　）

昭和59年11月1日　岡山県古代吉備文化財センター

所　長	松元　昭憲	主　事	楢原　充二	
次　長	橋本　泰夫	調査課長	河本　清	
総務課長	佐々木　清	文化財保護主査	下澤　公明	（調査担当）
主　任	遠藤　勇次	文化財保護主事	内藤　善史	（　〃　）
主　任	古瀬　宏			

昭和60年度

所　長	松元　昭憲	主　事	楢原　充二	
次　長	橋本　泰夫	調査課長	河本　清	
総務課長	佐々木　清	文化財保護主査	下澤　公明	（調査担当）
主　査	遠藤　勇次	文化財保護主事	内藤　善史	（　〃　）
主　任	花本　静夫			

昭和61年度

所　長	橋本　泰夫	主　事	片山　淳司	
総務課長	佐々木　清	調査課長	河本　清	
主　査	遠藤　勇次	文化財保護主査	下澤　公明	（調査担当）
主　任	花本　静夫	文化財保護主事	内藤　善史	（　〃　）

昭和62年度

所　長	橋本　泰夫	主　事	片山　淳司	
総務課長	佐々木　清	調査一課長	河本　清	
総務主幹	藤本　信康	文化財保護主査　兼調査第一課第一係長	井上　弘	
主　任	花本　静夫	文化財保護主査	下澤　公明	（報告書担当）
主　任	岡田　祥司			

発掘調査を行うにあたり，本州四国連絡橋公団第二建設局，同倉敷工事事務所，同児島工事事務所から種々のご援助をいただき，厚く御礼申し上げます。

さらに発掘調査の作業には，下記の方々の参加をいただき御礼の意を表します。

田辺澄夫，高木浅五郎，角南一雄，川田市太郎，恵美和三郎，竹本彦八，岩崎多雄，川脇　進，花井時男，三浦広吉，江波万亀夫，小橋盛忠，早水菊一，三宅政夫，西村明正，福本阪美，佐藤忠雄，岡本佐一，武田　始，池下義一，田名後未光，石橋九一男，小寺喜多夫，岩崎年夫，

依田秋夫，尾崎金重，三沢忠久，三沢一太，三沢一郎，山田節夫，白神有為，石川勝七，小橋鹿夫，白神　毅，宮武正行，大森　巌，尼崎長太郎，藤田研一，小川太刀男，吉田一忠，小原寅吉，丸岡茲次，松広利明，岩津春吉，藤堂　一，橋本雅史，渡辺昭治，家倉峰義，関善二郎，宮本義男，倉藤裕之，岡　洋二，槍　秋義，石井洋行，窪津二良，中西悦雄，虫明三郎，山田登士，三沢守雄，木村　一，山田　堅，原田貫治，山田隆太郎，木村　覚，木村鎭夫，木村増三，木村仲夫，木村智一，木村敏夫，木村国治，花岡太郎，中村正夫，曽根茂夫，阿部武雄，西中充太，吉田正男，松下茂夫，小仙秋男，阿部秀雄，松浦早一，佐藤勝一，仁科己木雄，大源成敏，大源敏一，奥田恒男，山本絹子，藤原波子，小川　鶴，天野喜久子，尼崎美智子，荻野富美子，荻野陽子，北沢多美子，串田利子，小畠金子，多田陽子，中田節子，那須恵美子，浜田満代，吉川トシコ，富野淑子，宮本ミサコ，佐々木富美子，藤原節子，岩崎敏子，中山隆子，清原途季子，松本　易，山下計子，小川政枝，小川槌子，小川俊子，小川千代子，古屋野たかえ，永山千津子，山本安野，小川サカエ，窪津美代子，小川喜乃，三宅正江，小川艶子，藤原敏子，三沢久子，尾崎信江，小橋節子，川上喜美子，太野喜美子，太野喜子，野淵房子，財前純子，長田芳子，内田加世，大西藤子，大森富子，山下厚子，伊達久美子，荻野美佐子，石川政子，谷口由喜子，都築志真，木村文子，山田八重子，原恵義子，西村昭子，大源喜美子，中本静枝，中浜俊子

第４節　埋蔵文化財保護対策委員会の記録

表－３　本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会議事録

年　月　日	場　　所	審　議　事　項
55. 5. 8	倉敷市田之浦御台場跡	発掘調査方法について検討。 昭和55年度発掘計画。
55. 7. 18	倉敷市田之浦御台場跡	発掘調査の現地指導。
55. 9. 12	倉敷市山際紫山遺跡	第一次調査結果報告。 今後の調査計画について。
55. 12. 4	倉敷市舟津原遺跡	第一次調査結果報告。 今後の調査計画について。
56. 5. 1	倉敷市舟津原遺跡	発掘調査の現地指導。
56. 8. 4	倉敷市児島インターチェンジ散布地	第一次調査結果報告。 今後の調査計画について。
56. 10. 30	倉敷市阿津走出遺跡	調査計画と調査方法について検討。
56. 1. 29	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。
57. 3. 23	倉敷市山際紫山遺跡	調査方法について現地指導。 今後の調査計画について検討。
57. 5. 8	西古松文化課分室	阿津走出遺跡の設計変更について。
57. 7. 6	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。 今後の調査方法について検討。
57. 10. 7	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。
57. 12. 21	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。
57. 3. 10	倉敷市菰池遺跡	第一次調査結果報告。 今後の調査計画について。
58. 5. 10	西古松文化課分室	阿津走出遺跡の保存問題。 今年度調査計画の報告。
58. 11. 10	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。 保存について。
58. 1. 23	西古松文化課分室	阿津走出遺跡の保存問題。
59. 6. 1	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。
59. 7. 17	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。
59. 9. 18	倉敷市田之浦御台場跡	調査方法について現地指導。
59. 12. 25	倉敷市阿津走出遺跡	調査方法について現地指導。
59. 3. 14	倉敷市菰池遺跡	調査方法について現地指導。
60. 5. 28	倉敷市菰池遺跡	調査方法について現地指導。 今年度の調査計画について。
60. 7. 25	倉敷市菰池遺跡	調査方法について現地指導。
61. 5. 6	倉敷市稗田佐古遺跡	今年度の調査計画について。 調査方法について現地指導。
61. 7. 19	倉敷市木見大賀遺跡	調査方法について現地指導。
61. 10. 20	倉敷市木見大賀遺跡	調査方法について現地指導。
63. 3. 25	岡山県古代吉備文化財センター	報告書作成の指導。

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

児島は，岡山県最南端の児島半島全域である。現在児島半島には，岡山市，玉野市，倉敷市，児島郡灘崎町がある。児島郡は，灘崎町を除いてすべて先の三市に編入されている。

現在は，周辺が陸化されその面影が薄れてきているが，その名の示す通り瀬戸内海における島であった。本土と児島の間の海は，高梁川，旭川，吉井川などの堆積作用と，16世紀後半からはじまった干拓などにより現在の景観を示すようになるのである。その中でも現在連島の西を流れる高梁川の影響が大きかったようである。今日の流路をとるようになったのは，明治40年に開始され大正14年に完成した改修工事のためである。この改修がおこなわれる以前は，清音村古地を分流点として東に大きく蛇行して南流する東川と，分流点からそのまま南流する西川の２本の流れがあった。この２本の流路は先の改修により，西川は古地の南岸で締切り現在の柳井原貯水池となるのである。また東川は，酒津から西原へ向けて新河道が開削されたのである。これに伴い高梁川は，西の単流となり，東川は廃川地となったのである。この高梁川も16世紀以前は，一定化した流路を取らず，かなり流れを東よりにとった時期があることが想定される。

1184年に源平両軍が，倉敷市有城の高坪山あたりから粒江種松山東北麓にかけての藤戸海峡をはさんで行った藤戸合戦は，当時の海水面の様子を知る手がかりをあたえてくれる。この合戦で源氏は海を渡って対岸へ行き，平氏を屋島へ敗走させたのである。この源氏の渡海は，舟を用いず，浅瀬を渡って達することができたことが記されている。先のことから，この当時すでに一部において海の陸化が進んでいたことがうかがわれるのである。

高梁川，旭川，吉井川は，岡山の三大河川であり，歴史的にも大きな影響をあたえて流れてきているのである。この三本の河口に弓状に構えて位置するのが児島である。このことが，諸河川により形成された微高地を外海からの直接的影響から守ることができたのであろう。さらに対外的にも，岡山の中心部へ達するには，西端の連島と玉島乙島か，東端の米崎と切石鼻の狭い湾口を通らなければならないのである。

島の中央部は，丘陵性の山地となり，良好な低地を形成していない。また，瀬戸内海に面する南岸部は，大きく抱え込むように湾入し，波静かな入江をいくつも認めることができる。し

かし，これらの入江も埋め立て等によりその姿を急速に消しつつある。

第２節　歴史的環境

ここでは，主に発掘調査された遺跡周辺の歴史的環境について述べてゆきたい。

道路ルートで児島に入り，はじめて遺跡と接するのは舟津原遺跡（第１図１）である。舟津原遺跡の東に接するように舟津原貝塚（第１図２）があり，これと同様に西には磯ノ森貝塚（第１図４）が認められる。舟津原貝塚は，昭和18年に山内清男氏と鎌木義昌氏によって調査されている。貝塚は，種松山に向かって南上部にあたる貝塚と，それより50ｍ北方の下部にある貝塚を総称している。貝塚からは，縄文時代後期から晩期，そして古墳時代後期の製塩土器が出土している。特にこの貝塚の主体となる土器は晩期の段階で，特徴的な精製土器と粗製土器が出土している。精製土器は，口唇部に削り出した段状沈線を用いた黒色の浅鉢形土器である。粗製土器は，器面にアルカ属の条痕を顕著に認めるもので，口頸部には半截竹管様の施文具により押し引き状の連続刺突文を施している。このような特徴を有する土器を〝一形式を設定する可能性の強いものと考えている〟と鎌木義昌氏は報告している。磯ノ森貝塚は，大正９年に島田貞彦氏，また昭和24年には池田次郎氏，鎌木義昌氏により発掘調査が行われている。ここから出土する土器は，連続爪形文と羽状縄文を特徴的に施文するものである。また，この土器の出土する下層から出る条痕文土器によって，さらに古い段階までさかのぼるようである。そして前者の特徴的な土器については，前期に位置付けられる磯ノ森式と呼ばれている。中期の代表的な貝塚では，この磯ノ森貝塚から北西方向に約1.5kmのところに船元貝塚（第１図５）がある。貝塚は大正９年に清野謙次氏が発掘を行い，その後島田貞彦氏，三森定男氏によって調査がなされた。この貝塚から出土する土器に施文される縄文が，特徴的な内容を示しているのである。このことから中期前半期を代表するものとして，船元式が設定されている。このように舟津原遺跡の周辺には，縄文時代の著名な遺跡が存在している。

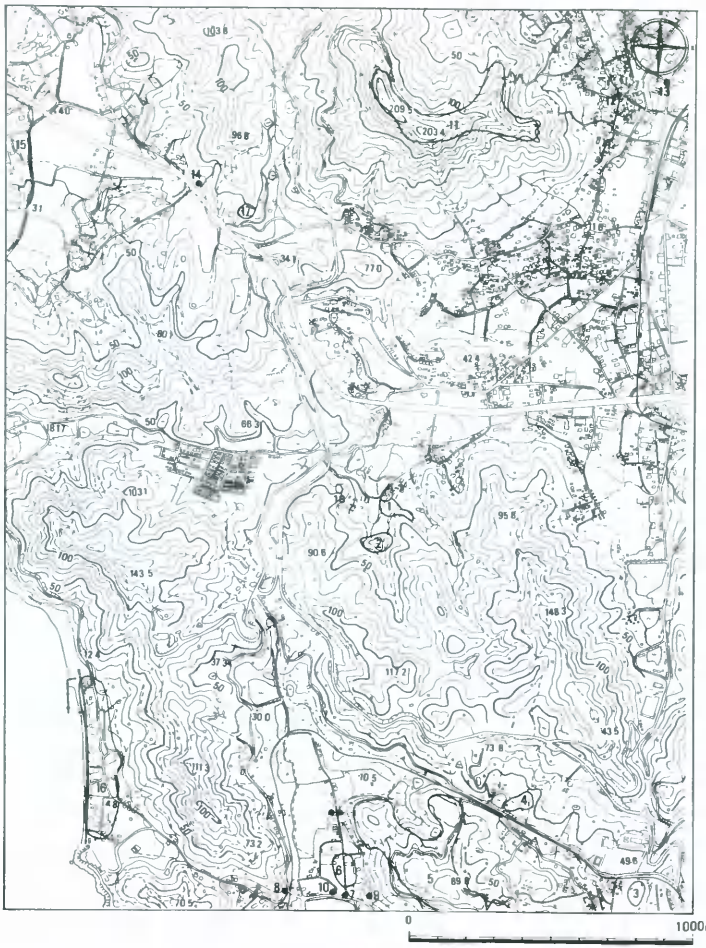
弥生時代に入ると，周辺には顕著な遺跡を見い出せない。しかし，今回報告する舟津原遺跡の旧河道から，この期の遺物が出土している。このことから小規模の遺跡が営まれていたことが知られるが，その内容は前段階とは比較にならない。

古墳時代になると，遺跡の数はふえる傾向を示している。その内容は集落址ではなく，製塩土器を出土する遺跡および横穴式石室が認められることである。製塩遺跡は，船元貝塚の西側に位置する船元貝塚西方遺跡（第１図６）が認められ，今回報告する舟津原遺跡，また舟津原貝塚（第１図２）においても認められている。また舟津原遺跡の北東側の水田地帯の中に小高い丘となっているのは，かって島嶼部を形成した所である。この地においても，山の花遺跡

0　1000 m

1　舟津原遺跡
2　舟津原貝塚
3　舟津原西方貝塚
4　磯ノ森貝塚
5　船元貝塚
6　船元貝塚西方遺跡
7　へんろ道
8　殿山貝塚
9　中村貝塚
10　長谷貝塚
11　山の花遺跡
12　桜山古墳
13　藤戸寺五重塔婆
14　経ケ島
15　浮州岩
16　浮洲岩江行道
17　右由加神社金刀比羅道
18　右おか山吉備津
19　道路元標
20　右ゆか金びら道
21　広田山古墳
22　摩利支天古墳
23　有城貝塚
24　右きびつおかやま道
25　新御堂遺跡
26　笹無山
27　天城提跡
28　岡山元標七里
29　鼻高山城址

第１図　遺跡分布図(1)　1/20,000



1 菰池遺跡
2 菰池越遺跡
3 吹上トンコ山遺跡
4 吹上山田遺跡
5 下津井城址
6 古下津井遺跡
7 道路元標
8 木里社
9 池田河内守供養塔
10 魚供養塔
11 竜王山遺跡
12 右観世音仏道
13 へんろ道
14 大池成就記念碑
15 通生遺跡
16 大室遺跡
17 通生池の奥遺跡
18 菰池オレントウ遺跡

第2図　遺跡分布図(2)　(1/20,000)

0　1000m

1	阿津走出遺跡	10	琴海古墳群１号				
2	竜王山遺跡	11	〃　２号				
3	野崎君墓碣銘	12	田の浦延命地蔵				
4	右観世音仏道	13	吹上トンコ山遺跡				
5	旧野崎浜灯明台	14	吹上山田遺跡	19	城山散布地	24	児島インターチェンジ散布地
6	へんろ道	15	下津井城址	20	阿津丘陵散布地	25	〃
7	赤崎新庄八幡宮遺跡	16	へんろ道	21	〃	26	〃
8	蔵池遺跡	17	〃	22	〃	27	〃
9	蔵池越遺跡	18	池田河内守供養之塔	23	〃	28	てんぐ山散布地

第３図　遺跡分布図(3) (1/20,000)

（第１図11）のように製塩土器を出土し，横穴式石室はいずれも前述した島嶼部に認められる。

奈良から平安にいたる遺物を出す遺跡も，ほとんど見ることができない。しかし，船元貝塚西方遺跡から須恵器の出土が知られることから，この段階にまで下がっていく時期の製塩，あるいは集落の存在が予想される。

古代から中世にかけてのこの地帯は，源平両軍が戦った古戦場として有名である。児島が本土と離れていたころには，海峡のもっとも狭い地点であった。この合戦の内容から，この時期に一部ではあるが渡海することが可能な状態であったことがうかがえる。そしてそれに関係した所の名も多く残されている。

中世の貝塚も多く認められ，殿山貝塚，中村貝塚，長谷貝塚（第１図８～10）のように，丘陵や谷を隔てて営まれ，島嶼部にも点在していたことが知られる。

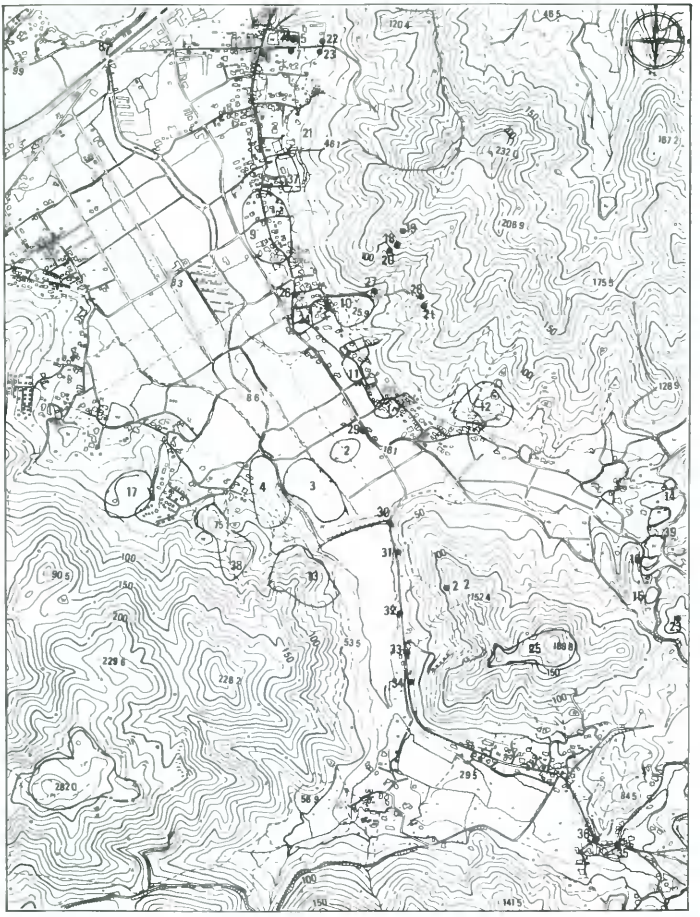
このように舟津原遺跡の周辺地域は，前面に広がる海水面に大きく影響されていたことが知られる。縄文期における顕著な貝塚を形成，また弥生期における遺跡の希薄さは沖積地の未発達などいずれも自然条件に大きく左右された地ということができる。

菰池遺跡（第２図１）は，1954年に鎌木義昌氏により中期中葉を代表する土器として発表された土器を出土した遺跡である。この時に発表された遺物が出土した地点は，市道の脇の地点の一角である。菰池オレントウ遺跡（第２図18）は，この地点より西へ約150ｍほどいった丘陵上にあり，レベルも30ｍほど高い所に検出された。また今回調査された菰池遺跡の地点は，その部分よりも南へ下がった地区に相当する。菰池遺跡のある地点は，深い谷が入り込んでおり，過去には下津井まで抜けていたという話である。この谷の西側の中程に菰池越遺跡（第２図２）がある。この遺跡は，山の斜面を開墾中に発見されたもので，弥生土器が多く出土したということである。弥生時代よりさかのぼる遺跡は，北正面に標高209.5ｍを測る竜王山に所在する竜王山遺跡（第２図11）がある。山頂から中腹にかけて石器や石片散布がみられ，その内容から先土器期に属するものである。この他に，吹上トンコ山遺跡（第２図３）も知られている。

縄文時代の遺跡は，今回菰池遺跡で明らかとなった早期の時期以外には周辺では検出されていない。

古墳時代の遺跡についても，海岸部に製塩関係を認めるが，横穴式石室などは確認することができない。このように菰池遺跡を中心としてみていくと，海岸部に比して遺跡の数が希薄な様子を示している。

道路ルートは，菰池遺跡附近から大きく曲がり東へ向き，児島インターチェンジで南へ下がってゆく。この児島インターチェンジ附近から鉄道ルートの併用部までの間には，てんぐ山散布地（第３図28），児島インターチェンジ散布地（第３図24～27），阿津丘陵散布地（第３図



1　木見大賀遺跡
2　木見散布地
3　〃
4　〃
5　行者池灯籠
6　従是ゆが山五十四丁
7　遍路道標
8　右一等寺道
9　北村大下遺跡
10　下木見遺跡
11　寺内遺跡
12　正無田遺跡
13　森池遺跡
14　内木見上遺跡
15　前谷池奥遺跡
16　〃　遺跡
17　桧谷窯址
18　木見古墳群１号
19　〃　２号
20　〃　３号
21　〃　４号
22　森池東上古墳
23　秋葉神社古墳
24　諸興寺址
25　戸山城址
26　左毘沙門
27　右びしゃもん
28　五十二番札所道
29　三十八丁嶮伽山
30　従是ゆが三十六丁
31　三十五丁
32　三十三丁
33　三十二丁
34　三十一丁
35　右田之口由加旧道
36　尾原公民館五輪塔群
37　竹田貝塚
38　向木見遺跡
39　内木見遺跡

第４図　遺跡分布図(4)　(1/20,000)

20～23）が調査されている。

鉄道ルートは，ＪＲ彦崎駅手前１kmほどで南下する。児島に入ってすぐに標高232.2mの蟻蜂山トンネルを抜けて木見に入る。この出口から標高228.5mの種松山トンネルの間が木見散布地（第４図２～４）である。

木見大賀遺跡周辺は，弥生時代からの遺跡が認められている。竹田貝塚（第４図37）は，現在の郷内小学校の敷地内に所在し，また木見大賀遺跡から東へ300mほどいった所に正無田遺跡（第４図12）がある。一方西側の福南山側には集落址以外に，埋葬関係の遺跡が認められる。1960年に高橋護氏により報告された向木見遺跡（第４図38）である。報文中ではこの埋葬関係以外に中期終末期の遺物の散布地，また貝塚も認められていることから，この期の集落も存在していたと考えている。さらにこの地点から一段下がった所には，1979年に県道白尾・藤戸線建設に伴い調査された森荒手遺跡においては，後期後半の住居址を検出している。

古墳時代に入ると，横穴式石室をもつ木見古墳群（第４図18～21）の４基が認められている。戸山城址（第４図25）の北西の山裾に森池東上古墳（第４図22），そしてこの城址東側に秋葉神社古墳（第４図23）があり，いずれも横穴式石室をもつものである。須恵器の窯は，木見大賀遺跡から南西へ約900mほどの，南山の裾に認められる桧谷窯（第４図17）である。1954年に若干の遺物が報告されており，時期的には７世紀中ごろのものが図示されている。

古代から中世にかけての遺跡は，諸興寺址（第４図24）が確認されている。この寺院址は，県通史において〝平安時代古瓦破片出土〟と記されており，今回の調査でも平安期に入ると考えられる軒瓦が出土したことからも確認されたのである。

鎌倉から室町時代にかけては，紀伊熊野神社から勧請された熊野神社が現在でも新熊野として現存している。そして熊野神社にみられる旧道沿いの水田より１段高くなっている所に，北村大下遺跡（第４図９），下木見遺跡（第４図10），寺内遺跡（第４図11）などが点々と所在している。

福南山トンネルを抜けると，天王遺跡（第５図２）と，北西から南東へ細長い谷をはさんで山際紫山遺跡（第５図１）がある。縄文時代にさかのぼる遺跡は，琴浦堀江遺跡（第５図25），葛谷遺跡（第５図24），琴浦向山遺跡西地点（第５図23）などが分布している。

弥生時代には，鴻八幡宮西遺跡（第５図27），小川木野山神社遺跡（第５図36），中山野球場北遺跡（第５図37），また先の琴浦向山遺跡西地点，葛谷遺跡も弥生が認められている。海岸沿いに分布する遺跡の内容に比較して，弥生の遺跡の存在が多く認められる傾向を示している。

古墳時代になると，鴻八幡宮馬場遺跡（第５図28）が認められるが，海岸部に近い所に立地しており，その縁辺のものと一体として把握されるべきものである。山際紫山遺跡や天王遺跡の分布する谷の奥については，この種の製塩遺跡は認められない。

1　山際紫山遺跡
2　天王遺跡
3　大池北遺跡
4　大池南遺跡
5　積泉池遺跡
6　池尻遺跡
7　児島上之町内田東遺跡
8　〃　内田西遺跡
9　三十二丁
10　三十一丁
11　三十丁
12　右ゆか道
13　三丁
14　左あきおか山札場
15　池尻石仏
16　清遺跡
17　稗田八幡宮遺跡
18　大師道
19　右下津井湊
20　磐長古墳
21　高山遺跡
22　高辻遺跡
23　琴浦向山遺跡西地点
24　葛谷遺跡
25　琴浦堀江遺跡
26　鴻八幡宮東遺跡
27　〃　西遺跡
28　〃　馬場遺跡
29　総願寺跡宝塔
30　本社より三十六丁
31　下むらゆが道
32　へんろ道
33　十五丁
34　五丁
35　六丁
36　小川木野山神社遺跡
37　中山野球場北遺跡

0　1000m

第５図　遺跡分布図(5)　1/20,000

1 田之浦御台場跡
2 石ノ塔伏台場跡
（大畠越台場跡）
3 鷲羽山東麓古墳群
4 〃 古墳群1号
5 〃 〃 2号
6 〃 〃 3号
7 〃 〃 4号
8 大浜遺跡
9 へんろ道
10 下津井城址
11 吹上山田遺跡
12 吹上トンコ山遺跡
13 田之浦延命地蔵
14 琴浦古墳群2号
15 〃 1号
16 へんろ道
17 〃
18 〃
19 稲荷社常夜灯
20 従是瑜伽山江九拾町
21 右ゆが道
22 道路元標
23 西之井石仏
24 波切地蔵
25 五輪塔・宝篋印塔群
26 杓井戸五輪塔群

第6図 遺跡分布図(6) (1/20,000)

天王遺跡で認められた奈良期の総柱建物に類するような遺構で，この時期の遺物を出土する遺跡もほとんど明らかでないのが現状である。

鉄道ルートは，天王遺跡の丘陵を切り開いたあと，第一下村トンネルと第二下村トンネルを抜けると東に通称琴海湾を望みながら南下する。塩田を埋め立てて造成したＪＲ児島駅を通り，城山散布地（第３図19）の独立丘陵を切り開き阿津走出遺跡（第３図１）に入る。この阿津走出遺跡の北西側に標高59ｍほどの丘陵部に座す赤崎新庄八幡宮があり，そこから大正７年に弥生時代中期の壺および須恵器が出土している。この時に出土した弥生時代の壺形土器は，1956年に出石収氏により報告されているが，これ以外に顕著なものは認められていない。これは，阿津走出遺跡から南の海岸線がなだらかな線を描かずに，直接海に達することから良好な入江などが形成されていなかったことから理解されるのである。また丘陵部分も，神道山から尾根が高くかつあまり平坦部を形成しないことなどが影響していると考えられる。この海岸線の丘陵上には，1979年に調査された琴海１号墳（第３図10）があり，さらにその南に２号墳（第３図11）が存在している。

鉄道ルートは，下津井電鉄の琴海駅の附近で道路ルートと重なり，併用部として鷲羽山トンネルを通り，下津井瀬戸大橋へと続くのである。鷲羽山トンネルの入口部には，石ノ塔伏台場跡（第６図２）があり，その出口部には田之浦御台場跡が位置する。この周辺の丘陵部は，先土器の著名な遺跡が認められている。1954年12月に鎌木義昌氏によって発掘された鷲羽山遺跡である。この遺跡は，山頂から東南の稜線に沿って点々と石器の散布が認められている。そして，鷲羽山の先端の久須見鼻附近が調査されたのである。この他に，下津井中学校の南には吹上トンコ山遺跡（第６図12）が認められ，石片の散布がみられる。

縄文時代から弥生時代にかけては，顕著な遺物を見い出していない。下津井中学校北西側の吹上山田遺跡（第６図11）で，弥生時代の土器片が散布している。

古墳時代にはいると，鷲羽山の稜線上に横穴式石室をもつ古墳群（第６図４～７）が形成される。また，現在下電ホテルの前面の浜は，大浜遺跡（第６図８）として製塩土器の散布がみられる。この周辺の海岸線は切り立っており，良好な入江を形成していない。しかし，少ない入江部分は下津井港や田之浦港というようにすでに港に伴う町が形成されていることから，その下に埋もれている可能性も充分考えられるのである。　（下澤）

第3章　田之浦御台場跡の調査

第1節　遺跡の位置

主要地方道玉野・玉島線が東に折れて，阿津走出遺跡を通り，海岸沿いに鷲羽山の先端にゆくのとは異なり，直進して谷を登っていくのである。道は主要地方道から分かれ，まっすぐ下津井電鉄の踏切りを越え，そこから登り坂となり谷の東裾を通る。道の東には丘陵部が迫り，西側には広い谷が広がる。谷は比較的広い面を形成しており，水田や畑が点在する。道がさらに中ほどまで進むと宮池と新池，また名もない小さな池が造られ，さらに谷が狭くなり丘陵が迫る。この谷部は現在では児島インターチェンジとして，瀬戸中央自動車道から乗り降りする車などが，この道路の上を通っている。そして，幾本もの脚が谷を埋めている。この丘陵の高さは標高100ｍほどあり，傾斜もきつくなっているのである。この最も狭った谷部に掘られたのが扇ノ峪隧道である。この隧道を抜けると今までのほの暗い緑から紺碧の海と明るく輝く空間に吸いこまれるように出ていくのである。この海へ向かってきつい坂を曲りくねりながら下り，下津井電鉄の鷲羽山駅のふもとから東へ下がる。そして石ノ塔伏台場を通り，通称琴海湾へ抜ける。しかし御台場への道はここより海を南から西にみながら細い道を下り，式内社の田之浦神社に出る。この神社の先の丘陵斜面が平坦となり，松が生い茂る所が御台場である。今では，別荘と民家が1軒残されているほかは，よく手入れのゆきとどいた庭木が生い茂っている。ここから南には櫃石島が，西に向けては水島を望むことができる。

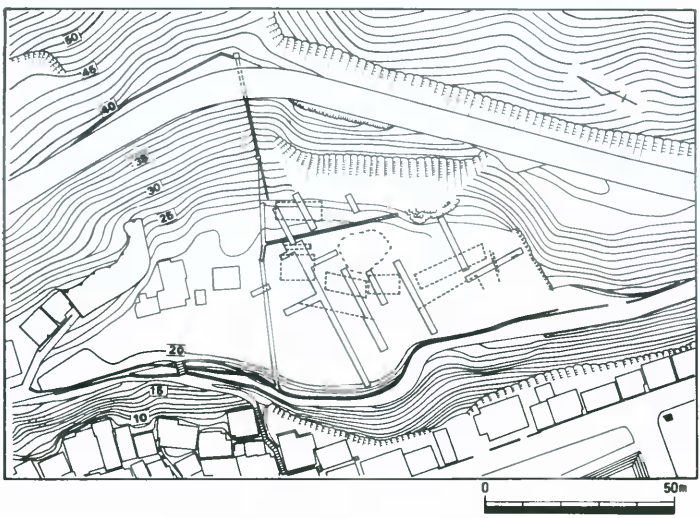
第2節　調査に至る経緯

田之浦御台場跡（以後御台場とする）の発掘調査は，昭和54年12月から翌55年1月にかけて一次調査を実施した。この調査の前後に加原耕作氏より，御台場についての絵図が〝池田家文庫〟の中に存在していることを知らされたのである。この絵図を参考にしながら調査は開始された。その結果，絵図に見られる土塁状遺構の上半部は大幅に削平され，すでに大半が消失した場所も認められた。しかし，低位に設けられた弾薬庫・砲具庫・火薬庫・兵士居所等の建物基礎部分の遺存状態は極めて良好であり，先の絵図に示されたのと同様の配置状況を示していた。この絵図と一次調査の結果を踏えて，御台場に伴う遺構の広がりがほぼ丘陵斜面の平坦部

全域と予想されたのである。

調査は昭和55年４月から実施することとした。しかしながら御台場には民家があり，その移転の交渉が進んでいないため，入口にあたる北側部分の調査は現状では不可能であった。さらに調査可能な南側についても，調査において発生する土砂を搬出する道がないため，その処理を御台場内で考えなければならなくなった。御台場全体が調査可能な状況まで実施を延すことも協議されたが，工事工程の関係で困難であった。したがって民家については移転まで待つこととし，排土については北側は半分づつに分けて調査することによりその処理を調査区内で解決ということで了解したのである。

水道より南については昭和55年８月で終了したが，水道から北については59年度まで待たなければならなかった。59年１月に阿津走出遺跡の調査のあと，水道部分を対象として実施した。しかし，この調査時点で民家の移転ができていなかったため，胸壁から塁台にかけて工事用の大型トラックが頻繁に通り，思うような調査ができなかった。このことから民家移転を含め，調査に支障のない状況になってあらためて再開することとし，調査を中止したのである。阿津走出遺跡の調査中に，民家の移転ができ支障となるものがなくなったという連絡が入り，昭和59年７月から10月にかけて，御台場の残された北側部分について調査が実施されたのである。



第１図　一次調査トレンチ位置図 (1/1,500)

第３節　一次調査の結果

調査は，民家がある北側部分を除く南側において12本のトレンチを設定（第１図）し，遺構の検出をおこなった。当初においては，別荘の造成により遺構の残りは良くないと推測されたが，厚い堆積層の下から建物の堅牢な基礎を検出することができた。

トレンチ調査において，南側に火薬庫，水道が，この水道から北に背障が確認された。中央附近では砲具庫とその北側に背障が認められた。北側においては，弾薬庫とその東側に接して火除土囲が検出され，火除土囲の南東寄りに兵士居所が認められた。また北側の水道が弾薬庫の北側にほぼ南北方向にあることがわかった。

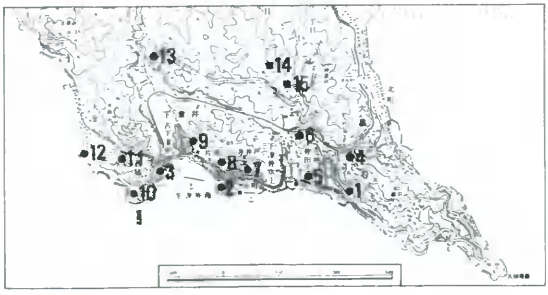
トレンチによって〝池田家文庫〟にある田之浦御台場略図（第４図）とほとんど変わらない状態で，建物などが確認されたのである。この結果を踏え，田之浦御台場の発掘調査を実施したのである。（図版２－２，３－１）

第４節　調査の概要

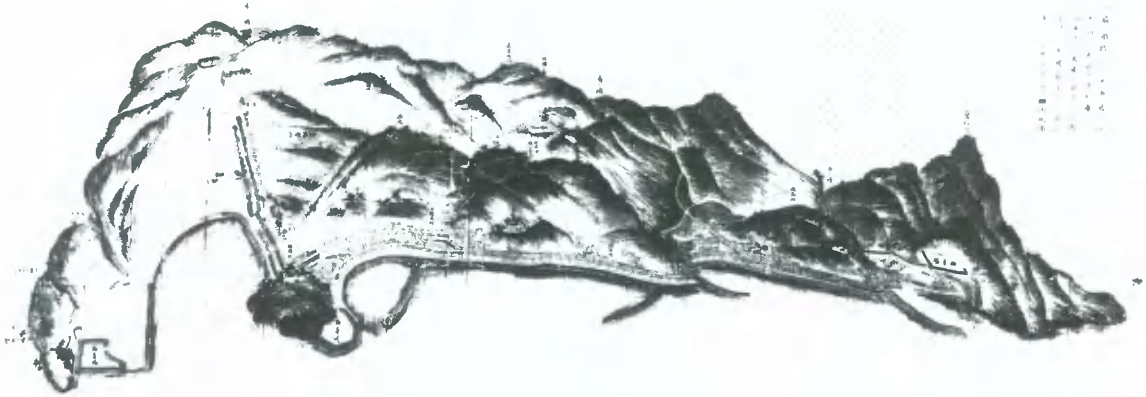
発掘調査にあたっては，先に記したように全面的な調査ができず，かつ前後する場合が多く，御台場としての一体的な把握ができなかった。以下については〝池田家文庫〟の田之浦御台場略図にしたがい，遺構ごとに述べてゆく。

１　**胸墻**（第７図，図版３－２）

塁台の前面で，海に面した施設である。北水道から南による塁台よりも20cmほど高くなって

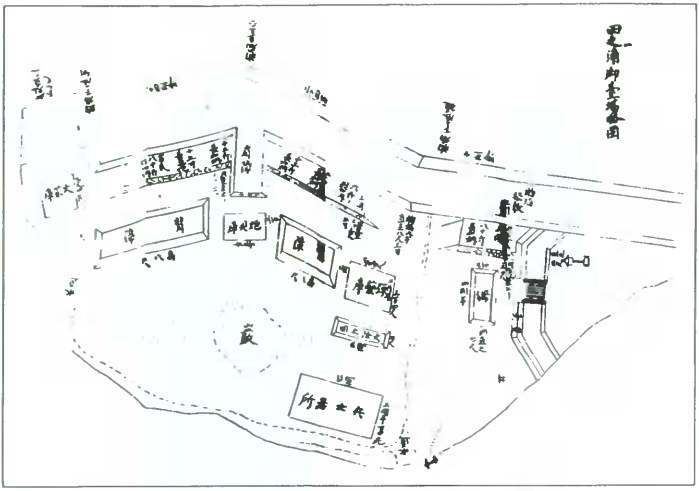


第２図　下津井周辺御台場位置図　(1/50,000)

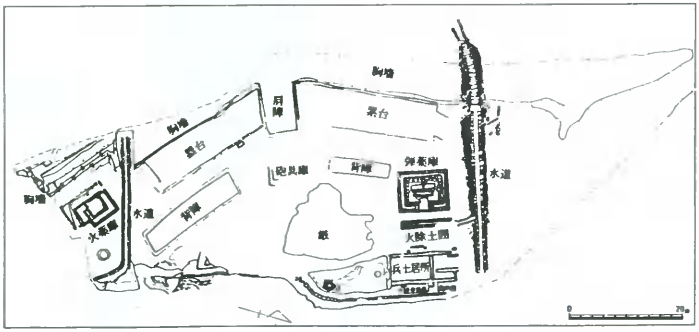


第３図　岡山大学蔵〝池田家文庫〟から

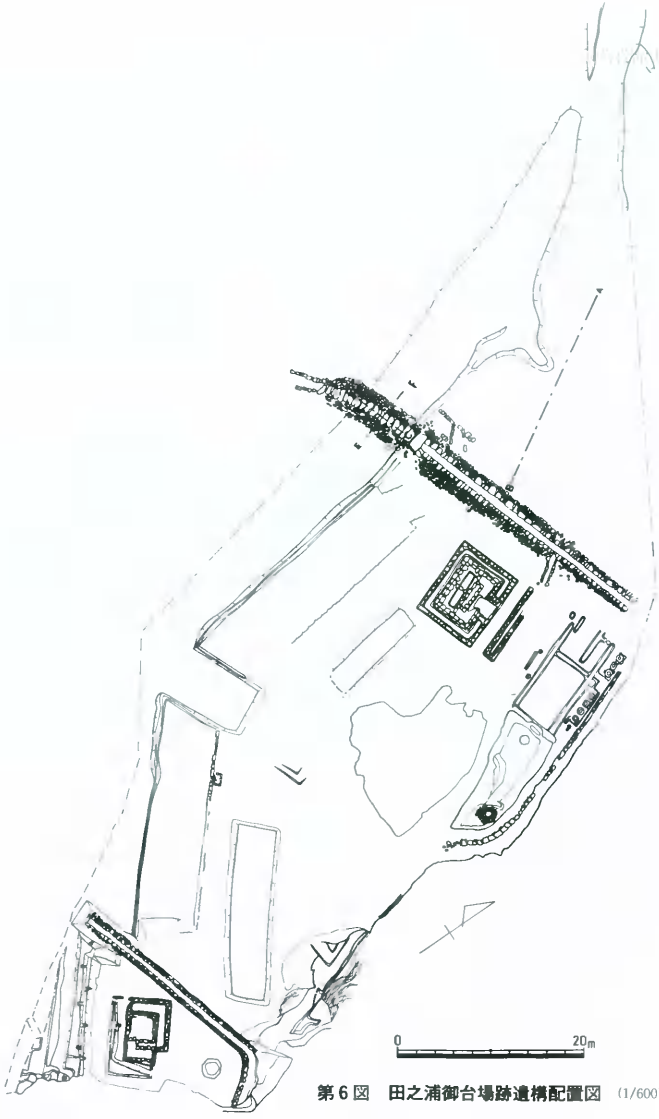
おり，溝により画されている。現状における胸壁の高さは別荘の建設による削平を受けており，築造時の高さではない。南水道から南については花崗岩の岩盤を削出し，これより北については版築により造られている。特に岩盤を掘削して造られている南水道から南については，築造時の姿を止めていることが想定された。この部分は火薬庫の西側前面に当り，火薬庫の存在する面と胸壁の最上面との比高差は160cmほどである。この北東側，具体的には火薬庫寄りの縁



第４図　田之浦御台場略図（岡山大学蔵「池田家文庫」）



第５図　田之浦御台場跡遺構配置図（1/1,000）

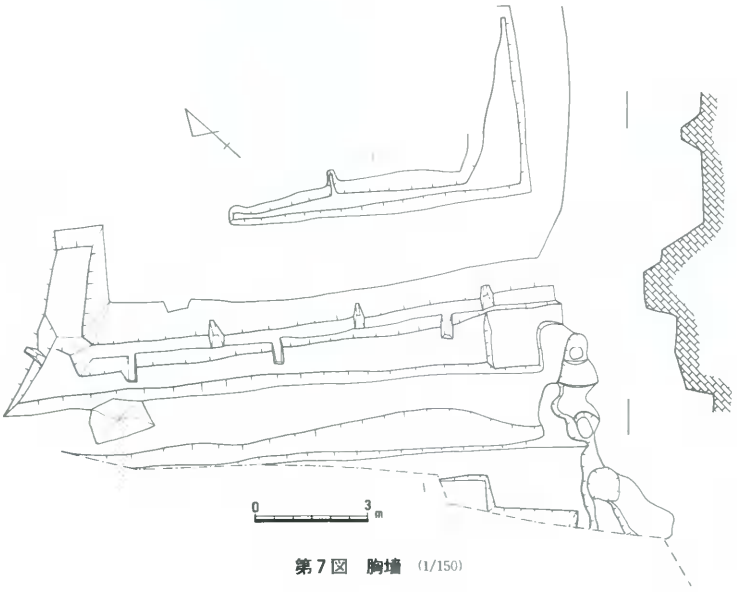


第６図　田之浦御台場跡遺構配置図　(1/600)

辺には，最上面より50㎝ほど下がって幅30㎝の棚状の平坦部が造られている。胸壁最上面の平坦部の幅は50～115㎝を測り，また海側の縁辺にも80㎝ほど下がって幅88～142㎝ほどの平坦部が造られている。南水道と接する位置に，肩障と同様な形状で東方向へ傾斜する造り出しが認められた。また南端においては，不整円形の窪み状のものが階段状に認められた。

なお，胸壁最上面から棚状部分において450㎝，390㎝の間隔で３か所，棚状部分から下端の中ほどにかけて340㎝，390㎝の間隔で幅86㎝深さ30～79㎝を測る切り込みが設けられている。この切り込みは上と下で交互に配されており，深さは下のものが深くえぐられている。そして，これと同様の切り込みが，南水道側に面した北区にも１か所認められる。

北水道から北側については，版築で造られ北水道部分は暗渠となっている。幅はほぼ同じであるが，先端に行くにしたがい細くなる。田之浦御台場略図においては，南側と同様に塁台が接して造られているが，この部分においてそれに伴う石垣の一部が認められたのみである。また，この部分の胸壁の中ほどに門となる塁台が描かれているが，現状ではその一部が認められたにすぎない。このことから，北水道から北についての遺構の遺存は，南に比較して良好とは



第７図　胸壁　(1/150)

いえない状況であった。

2　塁台（第6図，図版4～5）

塁台は大砲が据えられていた場所であるが，御台場の入口の門の両脇の施設にもこの名が記されている。調査で確認できたのは，肩障を挟む両側の部分であり，北水道の北側については検出されなかった。

肩障より北側の塁台は長さ240cmであり，東の縁には石垣が積まれている。石垣の遺存状態は極めて悪く，3段に積み上げている箇所が確認されたものの，根石がわずかに存在している部分や，根石さえ検出できない部分が多い。特に肩障に近接した部分は，石が全て除かれている。遺存状態が最も良好な部分の石垣の高さは約50cmである。

塁台の上面幅は約650cmで，ほぼ一定の幅を保っており，肩障や胸墻との境には5～30cm幅の排水溝と推定される浅い溝が存在する。弾薬庫の西方向に面する塁台北端には，塁台に通じるスロープが造られている。このスロープは長さ約260cm，幅約340cmである。塁台と接するスロープ東縁部分の石垣は，石材を2段に積み上げている。スロープ東側の貼り石は4枚，西側の貼り石も4枚で，傾斜に沿わせている。

肩障より南の塁台東縁にも，石垣が約21m40cmの長さに構築されている。石垣の遺存状態は北側のそれと同様に極めて悪く，2段に積み上げている箇所が確認されたものの，根石も検出できなかった部分も多い。遺存状態が良好な石垣の高さは約65cmである。肩障との接点から約550cm南によった位置には，石垣に接して人頭大の角礫7個を配した方形の遺構が存在する。塁台の石垣に平行する部分は約130cm，石垣と直交する部分は約100cm，高さ約30cmを測る。塁台の幅は650～700cmを測り，火薬庫に面した部分がわずかに広くなっている。肩障や胸墻の境界には，北側と同様に浅い溝が存在する。火薬庫に面した塁台南端にも約170cmの塁台へ通じるスロープがあるが，石垣は認められなかった。

北水道から北の塁台については，先に記したように，塁台へ上がるスロープの一部が認められたにすぎない。スロープ西側の貼り石は4枚認められ，低い部分で13cm，高い部分で55cmを測る。東は貼り石の遺存が悪く，2枚認められたにすぎない。

塁台の南端は，スロープ西側が長さ220cm，高さ65cmを測る2段積みの貼り石が認められる。東側にも長さ235cm，高さ24cmの1段のみの貼り石が検出された。

3　肩障（第6図）

肩障は砲具庫に面して東へ張り出した遺構である。上面が胸墻と同じ高さまで削平されているため，遺存する高さは約100cmである。幅は砲具庫に面した先端部で約550cm，塁台との接続部で約600cmを測る。長さ約950cmを測る塁台との接続部分には，両側とも幅が5～30cmの浅い溝が存在する。

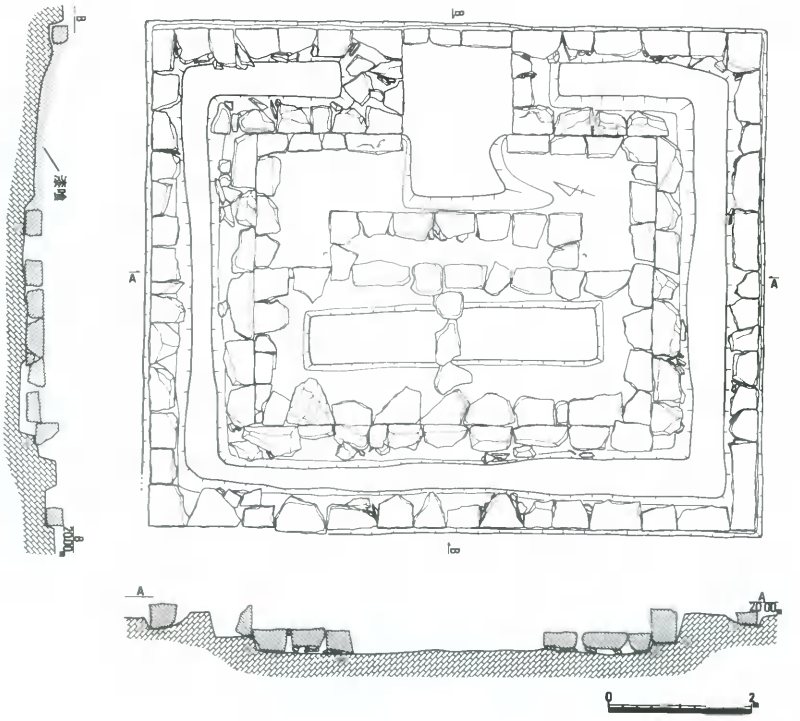
４　背障（第６図，図版６－１）

背障は弾薬庫と砲具庫の間，砲具庫と南水道との間の２か所に存在する。どちらも胸墻や塁台の方向と平行に築かれている。上面が削平されていると想定されるが，遺構の高さは約40㎝を測る。

弾薬庫と砲具庫の間の背障は幅320㎝～360㎝，長さ約11ｍ20㎝，砲具庫と南水道の間のものは幅470㎝～530㎝，長さ約18ｍ90㎝を測る。

５　弾薬庫（第８図，図版６－２）

塁台へのスロープ部分と火除土囲の間に位置し，その遺存状態は極めて良好な内容を示していた。弾薬庫は基盤層である花崗岩を凹形の堤状（以後凹形と呼ぶ）に周囲を掘り残し，その



第８図　弾薬庫 (1/80)

外側を溝状とし，さらに内側には段がつき，その中は方形の土間になっている。この土間には，基盤層を長方形に掘り残したものと，角礫による長方形の囲いが存在する。

凹形の外側に存在する溝各辺の長さは，北辺720cm，東辺776cm，南辺721cm，西辺868cmを測る。溝の最大幅は北辺上端62cm，東辺上端54cm，南辺上端63cm，西辺上端68cmである。この溝中には，面取りした面を外に向けて角礫が並べられている。この角礫列の各辺の長さは，北辺705cm，東辺858cm，南辺718cm，西辺856cmである。角礫の上面には多少の凹凸がみられるが，ほぼ高さをそろえている。凹形の最大幅は，北辺46cm，南辺50cm，東辺55cm，西辺46cmである。東辺の中央部は，241cmにわたって途切れており，この部分が入口に相当する。凹形の内壁に沿って25～43cmほど下がったところに幅31～67cmの棚上の平坦面を造り出し，この棚の部分に面取りした面を内側に向けた角礫が据えられていた。この角礫列の長さは，北辺413cm，東辺北側271cm，東辺南側219cm，南辺427cm，西辺526cmである。

土間は，この棚状の平坦面からさらに12～20cm掘り下げて造られている。土間の各辺の長さは，北辺428cm，東辺北側208cm，東辺南側209cm，南側426cm，西側555cmを測る。この周囲には，面取りした面を外側に向けて角礫が据えられている。土間の中央には，面取りした部分を外に向けて北辺84cm，東辺352cm，南辺118cm，西辺151cmを測る石囲いが造られている。この石囲いの中は，155×36cm，深さ26cmの空間となる。また，北辺と南辺および西辺から石囲いに向かって角礫が並べられ，この石囲いの西側に平行して450×74cm，高さ3～8cmほどの基盤層を残した台状部がある。

入口は前述したように，東辺中央部に設けられ，なだらかな傾斜をもって土間へ続く。この部分は基盤層を傾斜をつけて造られ，この傾斜部分に14～18cmの厚さで漆喰が認められる。この漆喰は，土間の角礫上面にも用いられている。しかし，土間中央部に設けられている石囲いの空間部分には充塡されていなかった。

6　砲具庫（第6図）

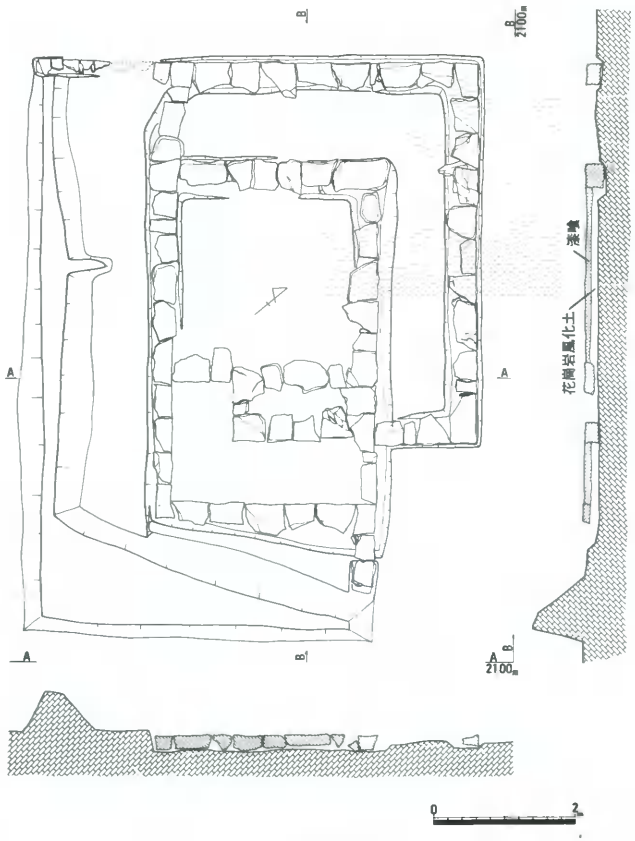
肩障の東正面に位置している。他の遺構の遺存状態が極めて良かったのに対し，その1部を把握できたにすぎなかった。確認されたのは，東辺から南辺にかけてのコーナー部分である。花崗岩の基盤層を2～12cmほど下げ，幅70～106cmほどの溝状として検出された。

7　火薬庫（第9図，図版7－1）

御台場の南端に位置し，弾薬庫と同様に基礎部分の遺存状況は極めて良好であった。南西辺と南東辺は，整形の際基盤層である花崗岩をL形（以後この部分をL形と呼ぶ）に削り残している。このL形の下場の規模は，南東辺の長さ476cm，最小幅50cm，最大幅131cm，南西辺の長さ798cm，最小幅50cm，最大幅110cmを測る。高さは75cmで，上面での幅は西端20cm，南端114cm，東端は12cmである。また西端から260cmほど南東へもどったL形の内側に幅30cm程度の

造り出しを設けている。南西側のＬ形の下場から104～76㎝の間は平坦とし，そこから14㎝下げて平坦部を造っている。

Ｌ形の西端から南東辺の１部にかけて，幅55㎝，深さ８㎝ほどの溝が造られている。この溝中に面取りした部分を外に向けた角礫が据えられている。この角礫列の長さは，北西辺626㎝，北東辺533㎝，南東辺144㎝である。この外側の角礫列に対し，Ｌ形を北東寄りへ250㎝ほど平行移動した角礫列があり，各辺の長さは南西辺566㎝，南東辺243㎝である。この２つの角礫列



第９図　火薬庫 (1/80)

の北西辺から北東にかけての間は，幅76～90cm，高さ６cmほどのＬ字状の土堤状となっている。また，コーナーより北へ行き西折する角礫があり，先の角礫の並びと相対する形で据えられている。この角礫列の各辺の長さは，北西辺288cm，北東辺554cmを測る。この向い合う角礫列の間が土間となり，規模は北東辺349cm，南東辺560cm，南西辺334cm，北西辺513cmを測る。土間は全面を12cmほど掘り下げて造られているが，北および東コーナーは溝状となる。さらに角礫の面取りした部分については，北西辺と北東辺が外に，南東辺と南西辺は内に向けて据えられている。

土間中央やや南東寄りには，土間の角礫を一部利用して石の囲いが造られている。規模は，北東辺103cm，南東辺160cm，南西辺104cm，北西辺182cmを測る。石囲いの中は，134×43cm，高さ80cmほどの空間となっている。

用いられている角礫は，多少の凹凸があるものの高さは揃えられている。角礫で囲まれている部分は，花崗岩の風化土を10cmほどの厚さに敷いたあと，厚さ８cmほどの漆喰によって床面としている。石囲い部については充填していない。

なお，西コーナー部分とＬ形の外面に壁土の付着（図版７－２，８－１）が認められた。

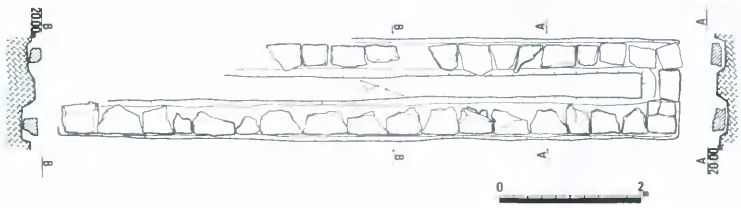
８　火除土囲（第10図，図版８－２）

弾薬庫と兵士居所の間で，弾薬庫よりに位置する。長さ819cm，幅140～143cm，深さ15cmほどの溝が長方形に囲む。また内側は28～35cmの幅で掘り残されている。溝の中には面取りをした角礫を外側に向けて据えている。

北辺から東辺にかけては，別荘の排水路により消失している。

９　兵士居所（第11図，図版９）

弾薬庫の東側の丘陵裾近くに位置する。遺構の遺存状態は極めて悪く，検出された遺構は整地面を掘り窪めた溝と便所だけである。溝は角礫を据えるように掘られたらしいが，北コーナー部分に１個遺存していたにすぎない。



第10図　火除土囲　1/80

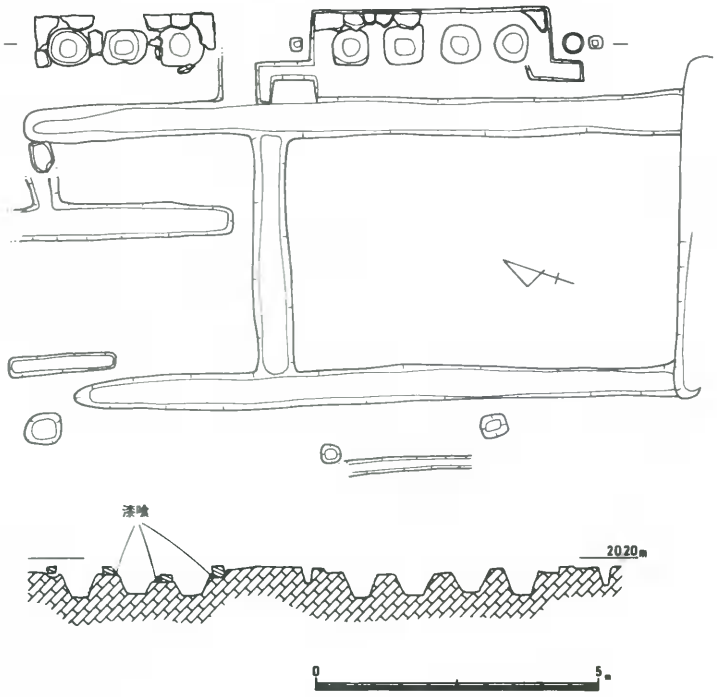
便所は東側に認められ，一部基礎の石が原位置で検出されている。北側に３個，南側に４個の穴を掘っているが，深さは50～70㎝で円形あるいは隅丸方形を示す。この穴の内面には薄く漆喰がぬられ，北側部分の角礫の間にも漆喰が認められる。

10　水道（第14～18図，図版10～14－１・16）

水道は御台場の南端と北端の２か所に設けられている。北側のものを北水道とし，南側のものを南水道とする。なお北水道の10ｍ附近の南側面に石積みの水路がみられるが，これは別荘の排水路で後から付設されたものである。さらに本来存在しなかった胸壁から東側の蓋石は，暗渠として利用するためにあらたに蓋をし，別荘を造成した。

(1)　南水道（第14図）

火薬庫の北側に設けられ，胸壁部分は暗渠となる。花崗岩の基盤層を幅143～163㎝の溝状に，40～60㎝ほど掘り込み，その両側に角礫を入れて幅43㎝の溝としている。溝は丘陵裾から胸壁



第11図　兵士居所（1/100）

にかけてゆるやかに下がっており，溝中の角礫も丘陵裾部寄りは１段積み，そして下がるにしたがい２段積みとなっている。丘陵裾近くの北側の溝は浅くなり，角礫も据えられていない。南側については，丘陵裾に沿うように南西へ屈曲して角礫を据えている。北側の角礫が据えられていない所から南側の丘陵裾は，御台場の築造時には平面に造成されておらず，岩盤を段々にカットした状態で残されていた。この部分を境として，南へ流れる雨水などを受けるために角礫を据えなかったのであろう。

水道の掘り方が確認された下場から丘陵裾へかけて長さ710cmにわたって蓋石が存在した。蓋石は14枚確認されたが，これより丘陵裾寄りには認められなかった。

(2) **北水道**（第15～18図）

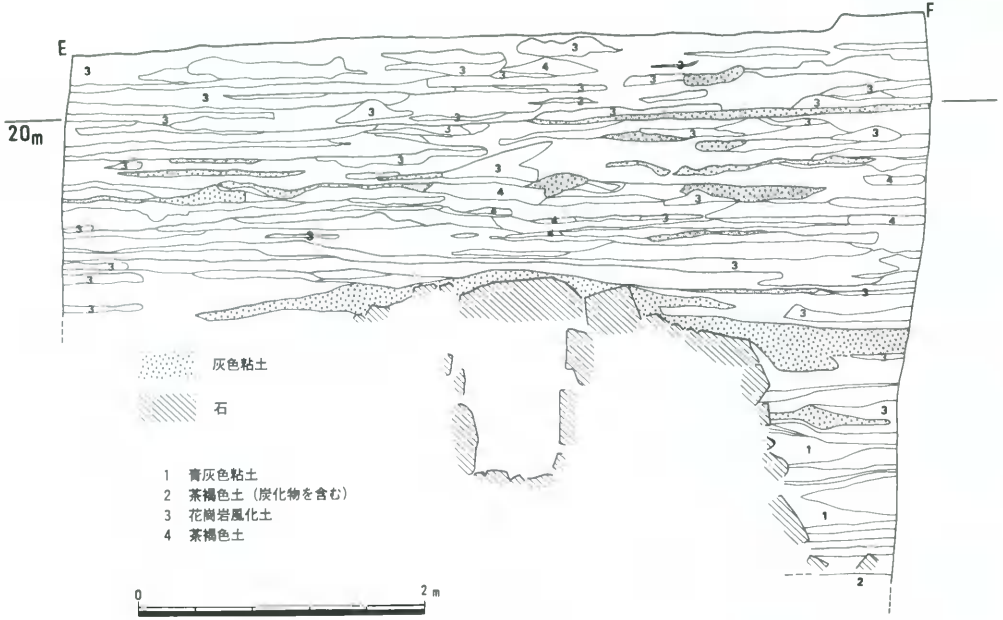
弾薬庫の北側を丘陵裾から胸墻へ抜けるものであり，その全容を把握することができた。

丘陵裾の確認された所から７ｍほどの所までは，花崗岩の岩盤層を幅80cm，深さ28cmの溝を掘る。これより10ｍ地点までは底が基盤層と認められるが掘り方は埋土となり，これより先は埋土中に掘られ，１ｍほどで下がっていく。この溝中の両側面は２段から４段の石を積んでいる。後込めの礫は，岩盤部分には多く用いてないが，埋土の部分になると多く，特に胸墻下においては大きな礫をまじえて多量に使用している。底は10ｍ附近までは岩盤をそのまま用い，25ｍ附近までは丁寧ではないが礫を敷いている。さらにこの附近から先は非常に丁寧に石を組み合わせ，28ｍ附近からは蓋石を用いその上に胸墻がくる。蓋石は21枚認められ，東端の蓋石は長さ２ｍ60cm，幅75cm，厚さ40cmを測る平らに整えられたものであり，他の蓋石が丁寧に整えられていないことからも注意をひくのである。蓋石を乗せるためこの部分の両側面の石積みは１段低くなっている。

水道は暗渠となっている31ｍ附近から南へゆるやかに曲がり，出口は両側面と床石がなくなるだけで，特別の施設は認められない。

胸墻については先にその内容を述べたが，あらためて北水道との関係に触れておく。第12図は胸墻を平行にして掘り下げた時の土層断面図である。現在認められる胸墻の面から水道の蓋石面までの深さは169cmでこの間の層序は，灰色粘土，花崗岩風化土，茶褐色土を入れて版築状に固めている。水道蓋石部分には特に丁寧に灰色粘土を用いて，全体を被覆している。土層断面のポイントＦ寄りを胸墻面より395cm下げて２層の茶褐色土に達し，この層上面には炭化物が含まれており，旧地表と推定される。この旧地表から積み上げられている礫の面には粘土は用いられていない。

次に，水道と平行する位置の土層断面（第13図）がＣ－Ｄである。水道がポイントＤにいくにしたがい下がるため，ポイントＣ附近では水道蓋石まで145cmほどであったのが，ポイントＤ附近ではその厚さが240cmにもなる。土層内容は第12図と同じであるが，蓋石上の灰色粘土



第12図　胸壇土層断面図　(1/40)

が厚い部分で30cmもあり，胸壁下の蓋石はこれによって被覆されていたことがあらためて確認された。

水道の具体的構築内容は明らかではないが，第12・13図からわかることは，土砂を積み上げてからあらためて掘り下げるのではなく，下から順次積み上げていったということである。

11　厳（第6図）

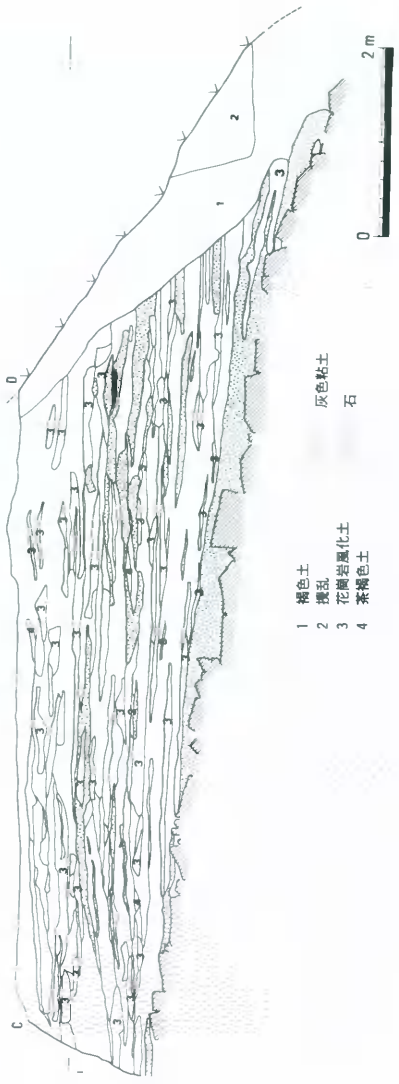
御台場の中央やや丘陵寄りに位置し，規模は140×165cmほどの花崗岩の岩である。造成面からの高さは約250cmを測る。岩全面にノミのあとがあることから，この部分だけは途中で残されたものと推定する。

12　井戸（第19・20図，図版18）

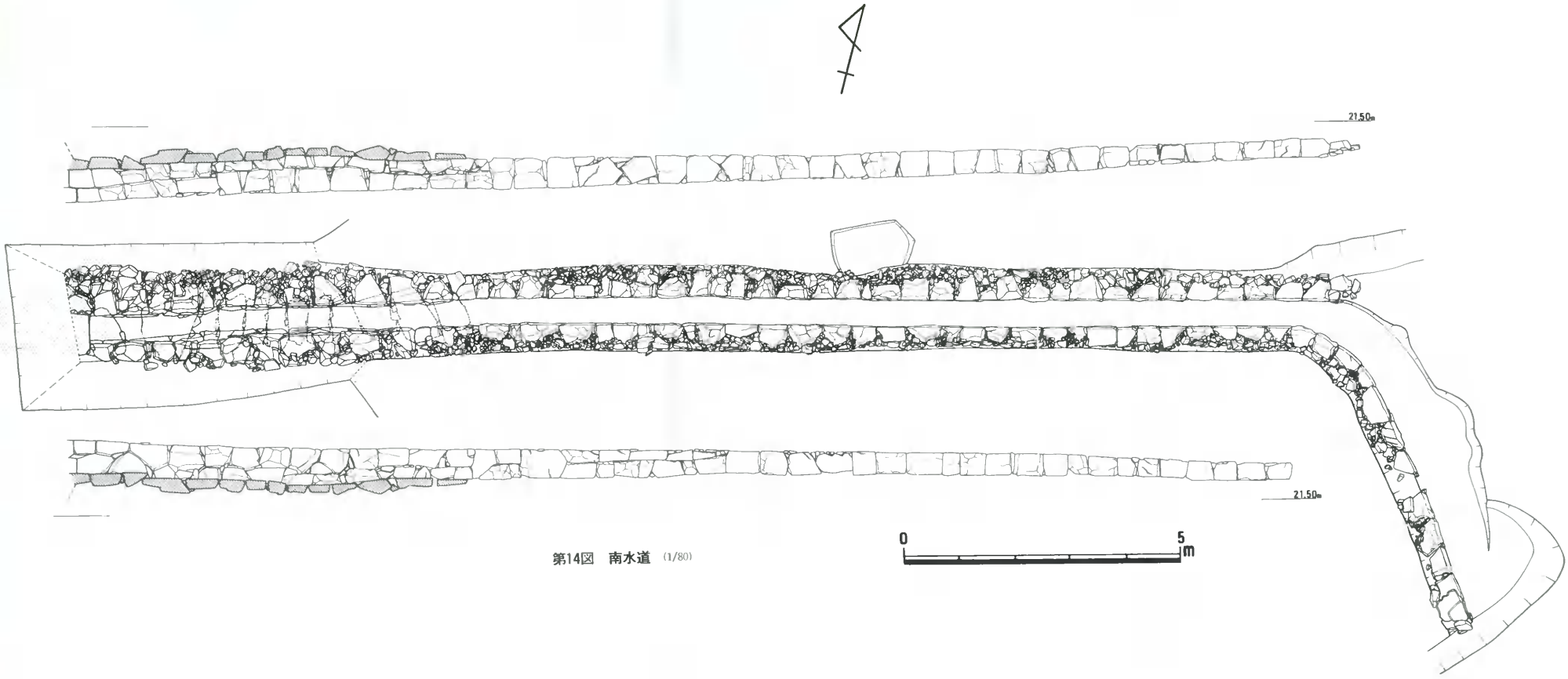
この井戸と考えられるものは，長さ140cm，幅55cmで幅は南にいくにしたがいしぼんでいく形を示している。深さは約65～127cmで，底は平坦となる。この掘り込みの中に石組みと備前焼を入れたものの2か所検出され，前者を井戸－1，後者を井戸－2とする。

(1)　井戸－1（第19図）

掘り方の南端に検出された石組みのものである。花崗岩の岩



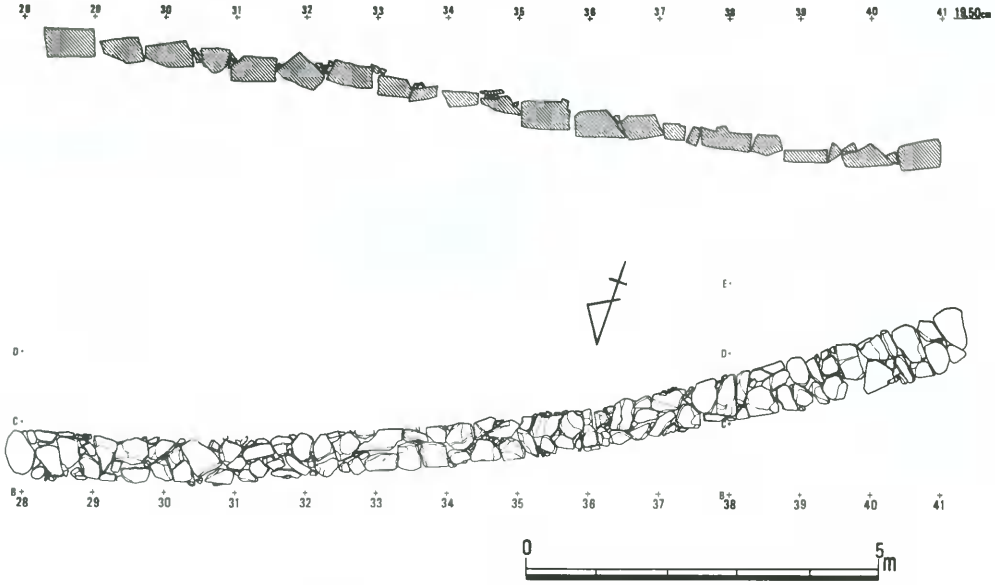
第13図　胸壁土層断面図（1/60）



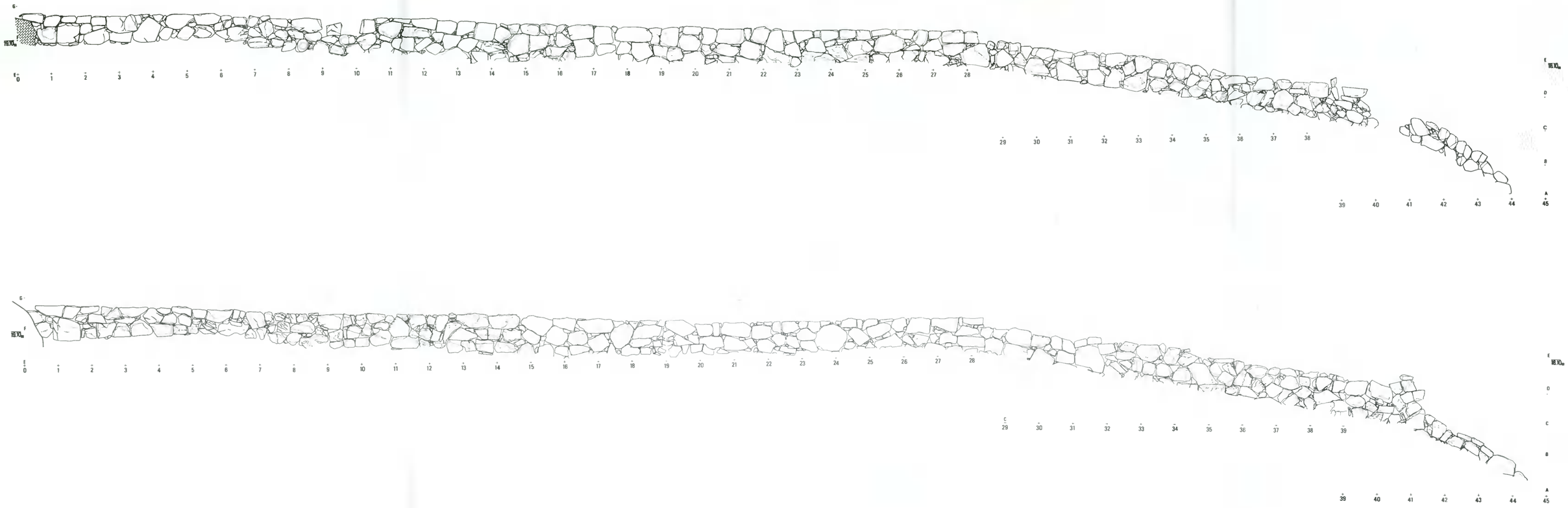
第14図　南水道 (1/80)

F
E
D
C
A
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44
19.10m
14.10m
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45
0
5m

第15図　北水道 (1/80)



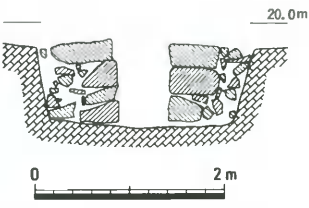
第16図　北水道蓋石断面図･蓋石下底石平面図 (1/80)



第17図　北水道側面図 (1/80)

0　5m

盤を深さ184㎝，径165㎝に掘り下げ，その中に深さ310㎝，径60㎝の石を組んでいる。井戸は岩盤を抜いているため，本来的にはその役目を果たしえない内容である。また検出された状態が，井戸の上半分が露出状態であったため，掘り方の前後関係は確認できなかった。しかしその検出状況から思考すれば，井戸の石組みの最上面から掘られたとするのが妥当である。



第18図　北水道断面図（1/60）

(2)　井戸－２（第20図）

掘り方の南端に井戸筒として，備前焼を入れたものである。方形の掘り方の底から深さ76㎝，径94㎝ほど岩盤層を掘り下げ，備前焼の鉢を口縁を下にして井戸筒として用いた。この井戸も岩盤を底としているため，本来の井戸の役目は果たしておらず，専ら天水によったと考えられる。

出土遺物（第20図）は，口径102.4㎝を測るもので，口径から70㎝ほどの胴部途中で欠いている。外面はナデ，内面は一部にハケが認められ，さらにナデ上げがみられる。胎土は２～３㎜の砂粒を含み，色調は淡橙灰色，焼成は良好である。

この方形の掘り込みは略図には記されていないもので，御台場の施設として置かれていたかどうか明らかでない。井戸－１は先に記したように，方形の掘り方が埋まってから設けられたと考えるのが妥当であろう。一方，井戸－２は方形の掘り方に伴うと考えられ，天水を方形の掘り方の内に集め，さらにその水を井戸－２は集水させたものと推定される。しかし略図にないことや，北端で兵士居所と接しているが，その関係を明らかにできなかったことも考慮されなければならないであろう。

13　排水溝（第６図，図版17－２）

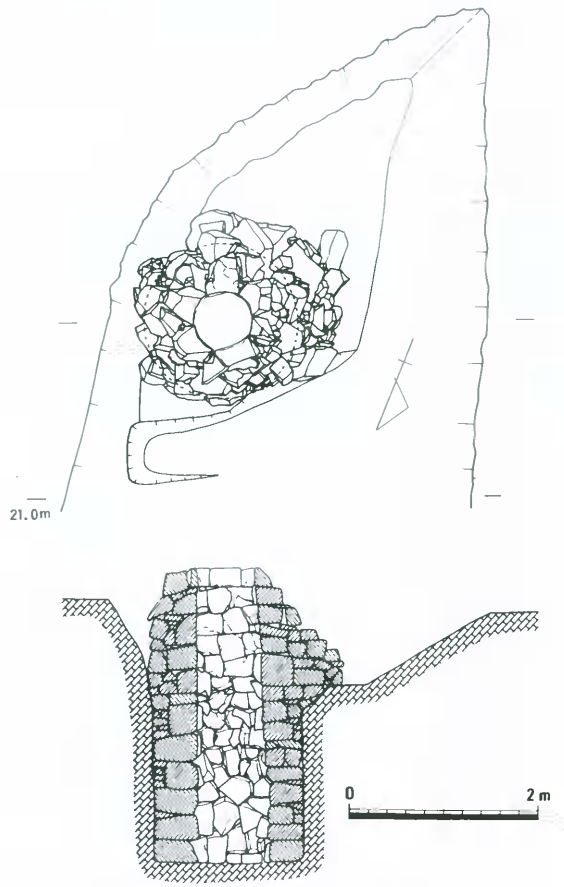
兵士居所と井戸のある方形の掘り込みの山裾寄りに設けられている。略図には具体的名称は付されておらず，破線でその位置を示している。

排水溝は兵士居所の部分では幅約35㎝，深さ約８㎝の溝を掘り，面取りした角礫を据えている。この溝は兵士居所の南寄りで消え段のみとなるが，角礫は同じように据えられている。この角礫から山裾端までに幅90～150㎝，深さ８～23㎝を測る平坦部をつくる。南端はほとんど段をつくらず，石を置くだけという状況である。この南端と北端とのレベル差が11㎝あり，北水道との接点が調査できなかったため具体的に示されないが，この排水溝は主に山裾部の天水を受けて，北水道へ流したと考えられる。

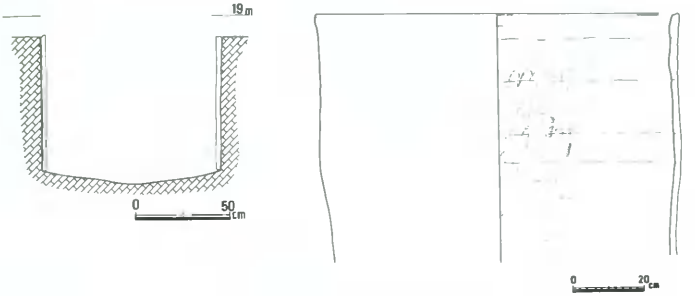
以上が今回発掘調査において明らかになった遺構である。しかし一部には略図に描かれてな

い遺構，また確認できなかったものも認められた．前者については記述したが，後者については具体的に述べていないので補足する意味で説明を加えておきたい．

確認できなかった施設というよりは，北水道寄り北側の胸壁を除いての地区において，後世の手が多く加えられていたため追求することができなかったのである．胸壁の項で説明したように，御台場入口の施設に伴うであろう塁台の一部とみられる続きが認められたが，遺存状態



第19図　井戸－1　1/60



第20図　井戸－2 (1/30)・**出土遺物** (1/8)

が極めて悪く推定するだけであった。

平面的に何も認められなかったため，この部分に長さ22mほどのトレンチを設け，その下部について検討することにした。第21図の層序は，掘り下げ面から100～140cm下で，10層の青灰色粘土の水平堆積層を認める。図北寄りの部分で認められる基盤層である花崗岩の岩盤の下がりの上層に，1層として堆積する褐色土中より江戸期の陶磁器の小片が検出された。このことなどから4層が当時の地表面と考えられる。この層より上に灰色粘土，花崗岩風化土，茶褐色土を用いて版築状に整地面を造っている。このような層序は，ポイントA寄りに円礫が山状に集積する所まで認められた。この部分から北については，明確な造成面は認められないが，淡灰褐色土が水平堆積していることなどから若干の手を加えられていたと考えられる。この下に基盤を掘り込んだ溝が認められたが，比較的古い時期と思われる。

第5節　小　結

田之浦御台場跡の発掘調査中において，山本慶一氏より岡山大学蔵の池田家文庫また西尾家文書さらには下津井存番であった名倉家関係の文書中に御台場関係のものがあることについて御教示を得た。特に，名倉家のものについては，現在所在不明でありその史料を見るとができない。しかしながら，山本慶一氏がその一部と昭和20年代に氏が直接写された絵図などを保管されていた。このような史料を踏まえて若干のまとめとしておきたい。[1]

田之浦御台場は，当初から第4図に示されたようなものではなく〝田之浦御台場縄張置砲略図〟によれば兵士居所の場所に〝工作倉〟と〝火薬倉〟の名があり，兵士居所は巌より東側に[2]

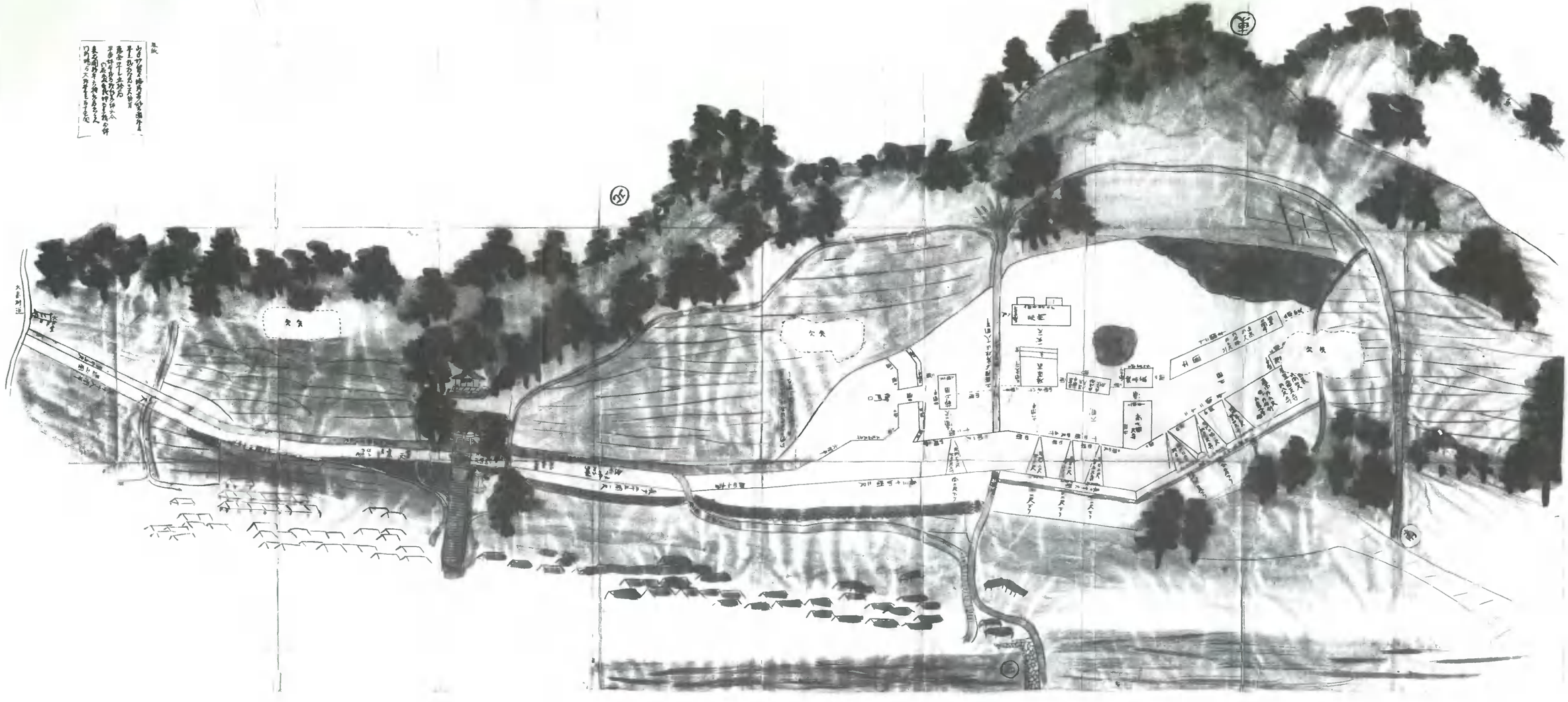
〝守兵休息所〟として示されている。また，これらの名が示されているのは，略図に直に名が記されているのではなく付箋のようにしてあり，自由に位置を変えることが可能なようにしている。このようなことは砲具庫においても同じような用いかたをしている。このような絵図は，児島郡小串村城山（現岡山市小串）に築かれた御台場のそれについても見ることができるのである。

発掘調査中においては，第４図をよりどころとしていたが，調査終了後に得た史料の中に調査対象外にも関連する施設が存在していることが明らかとなったのである。第22図は，中央に田之浦神社が描かれているが現在認められる拝殿下の道が描かれていないのである。しかし，第23図においては，この道が描かれているのである。さらに，先に述べた第３図中においても道が描かれているのである。このことは，御台場を造成するに当りこの道を付設したものと考えられる。これは，〝田之浦村御台場見取図〟（図版20－１）において〝此処迄凡四丁田畑ノ処切開キ道新築〟また〝田之浦御台場見取絵図〟においても〝御台場ヨリ所迄凡四丁田畑ノ所切開キ新築致以道〟とあることからやはり御台場築造により設けられたものであることが理解されるのである。この道は，田之浦神社までは公団の用地であったが前述したように具体的な調査を加えることができなかった。絵図によれば，山寄りに幅５尺の道があり道に接して海岸側に〝土囲〟が設けられており道自体も防禦施設としていたと解されるのである。この道は，現在下津井電鉄の鷲羽山駅のある切り通しの道に続いていることが示されている。

このように田之浦御台場は，かなり大規模な造成をおこなっていたことが絵図からでも再認識されたのである。なお，図版20－２は，下津井海岸における御台場の位置を略示したものと考えられるが，その中で田之浦のところに〝東畑〟という名が認められる。この東畑は，図版21－２

第21図　Ａ－Ｂ土層断面図　(1/120)

第22図　絵図－1



第23図　絵図－2

で示したように〝鷲羽山東畑御台場〟である。先の位置図からすれば明らかに田之浦御台場と同じ場所になってしまうのである。しかし，図版21－1の絵図においては，田之浦の町並から北へ離れた位置に示されている。この御台場の内容からすれば，田之浦御台場のそれと大きく異なっており同一のものとしがたいのである。このようになれば，田之浦御台場より東寄りに存在していたことも考えられるのである。しかし，この地域について分布調査をしたが，その地形的なものは認めることはできなかったのである。この絵図の両端に描かれた谷川が田之浦御台場の南と北の水道と仮定したとするならば，当初の計画案的な図ではなかったとも理解されるのである。

次に，下津井周辺に設けられたその他の御台場について触れてみたい。第3図は，池田藩によって設けられた御台場とその関係すると考えられる施設の位置である。また，第2図はこれをもととした御台場3か所と伏台場10か所の位置図である。[註6]

これによると

1－田之浦御台場　　2－祇園下御台場
3－古下津井御台場　　4－石ノ塔伏台場
5－天王山伏台場　　6－扇ノ嶋伏台場
7－松庵伏台場　　8－堀切伏台場
9－円福寺山伏台場　　10－燈篭端伏台場
11－燈篭端西手南伏台場　12－燈篭端西手北伏台場
13－犀ノ嶋伏台場

が認められる。この他に，14－遠見所と15－合図小屋が示されている。〝池田家文庫〟においては，海岸部に面した本格的構造で施設の整ったものを〝御台場〟とし，小規模で海岸よりやや離れて街道筋の要衝の地に築いたものを伏台場としていたようである。この両者を絵図によって比較すると3か所の御台場には，弾薬庫・兵士居所・番所・砲具庫・火薬庫など具体的な施設の内容が明示されているのに対し伏台場とされるものは，そのような施設は全く示されていないのである（図版23～27)。このことから，前者が海に対するものであり，後者はその御台場が防げなかった場合に対して街道筋で防ぐ役目を担っていたものと想定されるのである。

築造時期については，当時吹上村庄屋であった西尾家に残された文書[註7]中に御台場関係の史料が認められた。これによると文久3年6月から12月にかけて御台場関係の文書が集中していることからも，この年に造成がおこなわれたことが窺われるのである。

以上のように，田之浦御台場の築造についてはかなり大規模な造成をおこなっていたことが明らかとなり，さらに他の御台場と有機的関係をもって計画的に設けられたことが理解されるのである。このことから，幕末ににおける政治的変動にともなう下津井周辺の軍事的防禦の体

制がかなり整備されていたことが解されるのである。 (下澤)

註

註1　下澤公明・福田正継『池田砦の砲台跡』月刊文化財　1981年5月にその一部を報告している。

註2　池田家文書より

註3　山本慶一氏が昭和20年代に名倉家文書中から直接写されたものである。

註4　註3に同じ

註5　註2に同じ

註6　山本慶一氏の御教示により現地踏査をしたものである。

註7　旧児島郡吹上村（倉敷市下津井吹上）の西尾家の古文書であり，現在岡山大学附属図書館所蔵となっている。

第4章　山際紫山（やまぎわこんやま）遺跡の調査

第1節　遺跡の位置

県道岡山・児島線を南に下り，稗田十字路を南東に向かって県道宇野津・下之町線に入る。この道の東側は丘陵縁辺に沿い，西側は一段低く水田になっている。水田西側は丘陵となり，その間は谷地形を呈する。谷は南に行くにしたがって広さをまし，通称琴海湾に達する。上之町の十字路で北東に曲ると県道塩生・玉野線となり，瑜加山に行くことができる。遺跡はこの交差点を約200m南西へ行った丘陵上に位置する。この交差点を中心として，前述した狭く細長い谷部の外観から南側は比較的広くなり，面として認められるほどである。この広い部分の西側に，丘陵が舌状に北東へ突き出た観を呈し，丘陵上からは琴海湾を間近に望むことができる。

当時の自然環境からすれば，この狭い谷部は海が入っていたと考えられ，海辺近くの丘陵上に生活が営まれていたものと考えられる。

第2節　調査に至る経緯

田之浦御台場跡の発掘調査中に，山際紫山遺跡の調査の見通しについて協議をおこなった。

調査を実施している御台場については，当初予定地区において7月末で終了の見込みであることを伝えた。山際紫山遺跡の現状は，作物と排土の関係から全面的な調査は困難であるが，作物に影響を与えないような一次調査は可能であった。このことから一応昭和55年8月から同年9月にかけて一次調査を実施した。

全面調査は昭和57年の後半になって開始した。調査開始については，56年度予算の関係で年度中に終了してほしいということなので，調査中の阿津走出遺跡と併行して行った。阿津走出遺跡については2月末で終了したが，3月初旬から福南山トンネルの工事用道路についての一次調査が入った。したがって，2つの遺跡を併行して調査することになったのである。

第３節　一次調査の結果

昭和55年８月25日から９月19日にわたって一次調査を実施した。遺跡の現状は，丘陵中央から北側と南側に５ｍほどの段差をもって，平坦部を形成している。北側平坦部は，北寄りが低くなり，先端寄りの北部分がやや高くなっている。これは畑地の開墾により人為的に形成された平坦部であると考えられる。南部については畑地で，小屋の基礎部分が残されており，北部と同様に人為的に削平を受けたことが明らかとなった。また，小屋を建てた時に附近から土器の出土があったことを地主が話されていた。確認トレンチの第１図は，耕作等の障害になる部

第１図　一次調査位置図・遺構配置図　(1/2 000)

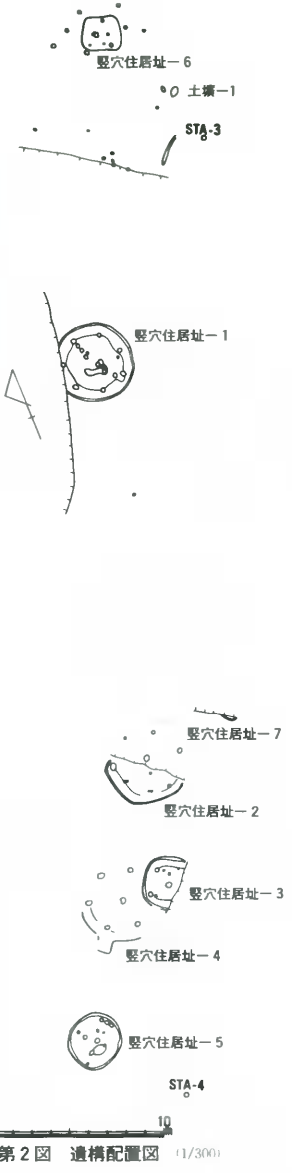
分をさけて実施した。トレンチの数は総数12本を設定したが，Ｔ－５・９において住居址と考えられる落ち込みを確認した。この２か所については，一部掘り下げて床面を確認し，竪穴住居址であることを再確認した。このトレンチにおいては，若干の柱穴状のものを認めたが，Ｔ－７・８においては認められなかった。なお，調査時においては，これら平坦部には耕作物の作付けはなされていなかった。また前述した小屋も事前に撤去されていた。

東斜面については，南寄りに段々に整形して畑地となっていた。西斜面については，北側の一段下がった部分に，斜面に沿うように段々に整形して花木類を植えていた。またこの南側には，前者と同様段々に整形した後に家など建てられ，一部花木が植えられていた。このようなことから，かなり人為的な手が加えられていた。以上の経過から，ほぼこの丘陵平坦部全面にわたって弥生時代後期の集落が存在することが確実となり，全面調査が必要となったのである。

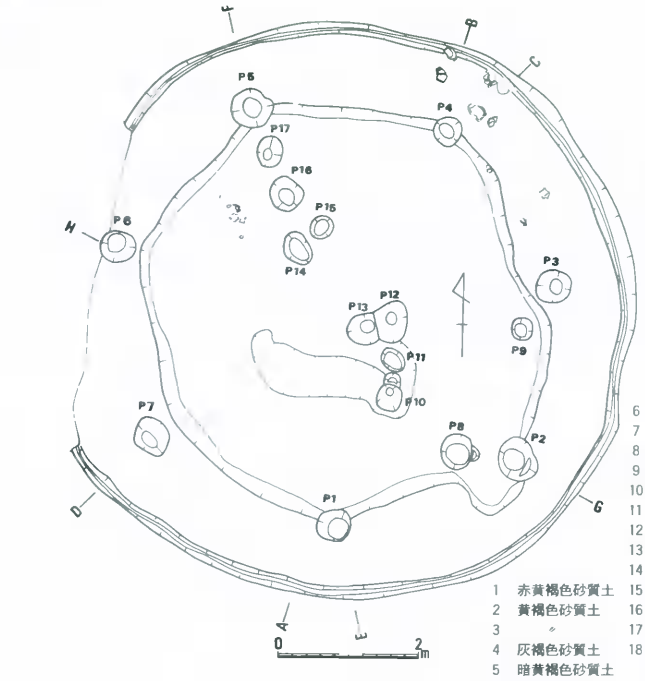
第４節　調査の概要

発掘調査は，昭和57年２月10日から同３月27日にわたって実施された。一次調査の結果をふまえ，丘陵平坦部全面に遺構の広がりを想定した。機械により表土を約30cm排土した。

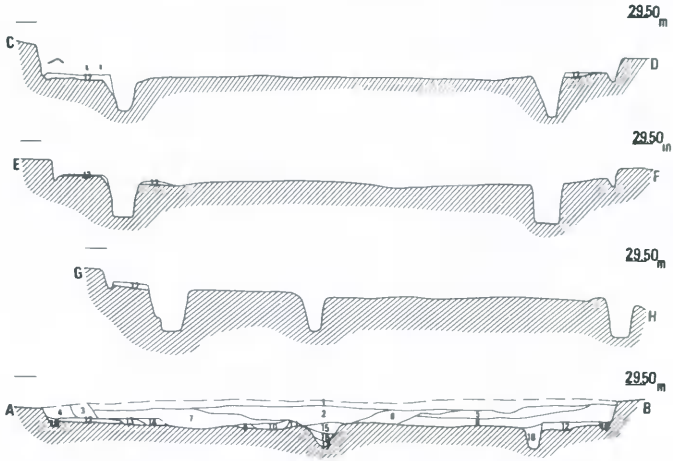
STA－３附近の一段低くなっている部分において，弥生時代後期の円形の竪穴住居址－１と，古墳時代前期の方形の竪穴住居址－６が検出された。この他に柱穴，土壙なども確認された。竪穴住居址－６の周辺には多くの柱穴が確認されたが，竪



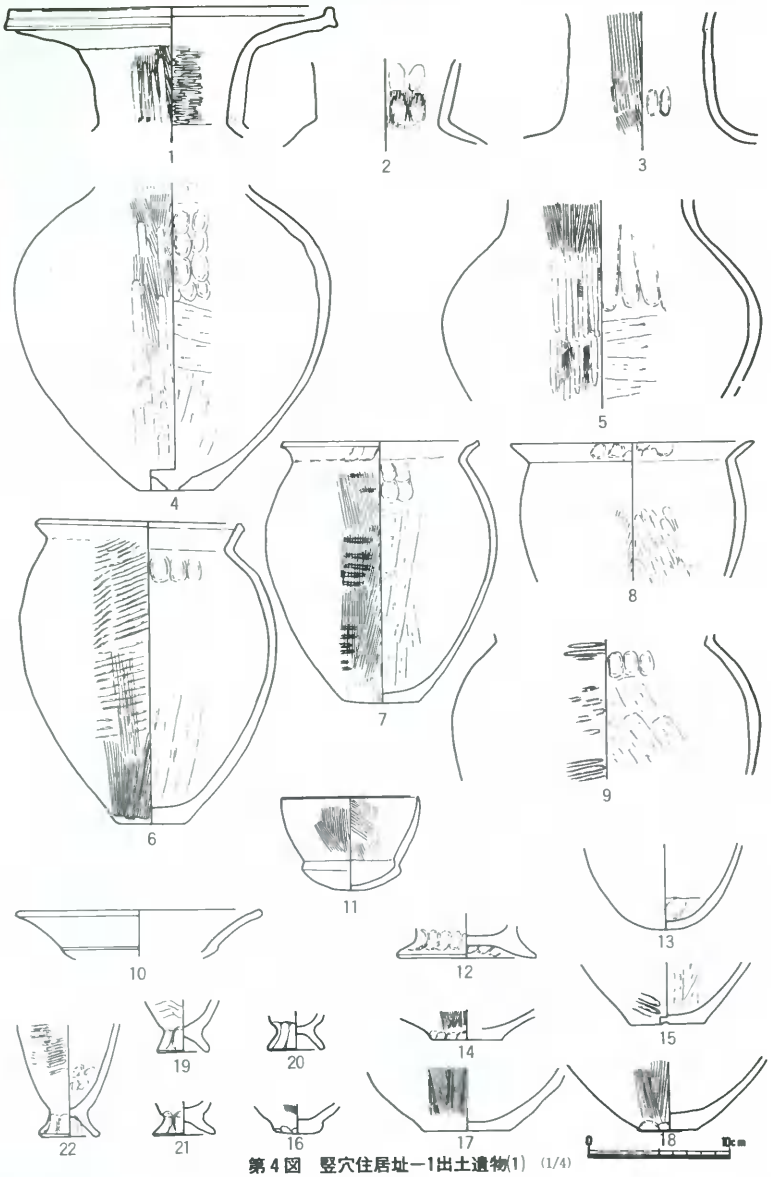
第２図　遺構配置図　(1/300)



1 赤黄褐色砂質土
2 黄褐色砂質土
3 〃
4 灰褐色砂質土
5 暗黄褐色砂質土
6 灰黄褐色砂質土
7 6層と同じ
8 淡黄褐色砂質土
9 黒灰色砂質土
10 暗黄褐色砂質土
11 9層と同じ
12 5層と同じ
13 灰黄褐色砂質土
14 10層と同じ
15 暗灰黄色砂質土
16 淡黒灰色砂質土
17 淡黒灰色砂
18 灰褐色砂質土



第3図　竪穴住居址－1　1/80



第4図　竪穴住居址－1出土遺物(1) (1/4)

穴住居址－１の周辺ではその他の遺構は検出されなかった。このことから，後者の部分で，ある程度の削平があったことが推測される。

STA－4 周辺において，５軒の住居址が確認された。竪穴住居址－５が最もよく遺存し，他は床面近くあるいはそれ以下まで削平を受けており，状態はよくない。この北東端で検出された竪穴住居址－７は，壁の残りはよいが，丘陵のカットにより一部しか遺存していない。竪穴住居址－７の時期は，古墳時代前期で，他は弥生時代後期のものである。

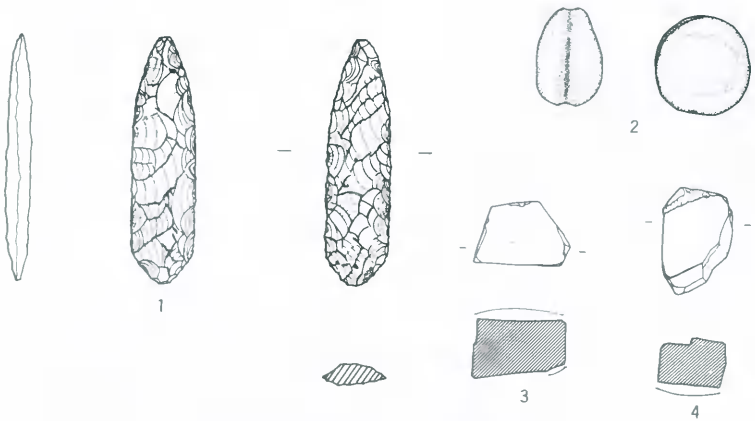
1　弥生時代の遺構・遺物

住　居　址

竪穴住居址－１（第３図）

丘陵中央近くに位置するもので，一次調査のＴ－９において確認されていたものである。西側については攪乱を受けているが，他については残りのよい住居址である。規模は径822㎝の円形のプランをもつもので，壁高は18㎝を測る。主柱穴と考えられるものは７本で構成されている。Ｐ－２が他の主柱穴に比して壁寄りにあり，Ｐ－８と９に伴う住居址の出入口に関するものとみられる。貼り床は，主柱穴を結ぶように幅１ｍほどに存在している。中央穴は特定できないが，Ｐ－10～13のいずれかがそれにあたると考えられる。またこの部分は細長く凹み状となっている。

出土遺物（第４・５図）は，壺形土器，高杯形土器，製塩土器などである。１は，口径



第５図　竪穴住居址－1出土遺物(2)（1/2）

22.1cmを測るもので，頸部を外方に立ち上がらせ，さらに外方へ屈曲する。口縁端部は，短く立ち上がる。頸部外面は粗いハケのあとタテのヘラ調整がみられ，内面は，横のヘラミガキをおこなう。色調は淡赤褐色，胎土は細かい石粒を含み，焼成は良好である。**2**と**3**は頸部破片である。**4**は，底部径5cmを測るもので，頸部から上を欠失している。胴部外面は，粗いハケのあとヘラ調整をおこない，内面は，肩部から胴上半にかけて指頭圧痕がみられ，胴下半はヘラ削りをおこなう。色調は赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**5**は胴部破片である。外面は，タテ方向の粗いハケ調整ののち胴部中位から下方に向かってタテのヘラミガキがみられる。内面は，上方には押圧痕がみられ，以下はヨコのヘラ削りをおこなう。色調は赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**6**は，口径14.1cm，器高21.1cm，底部径18cmを測る甕形土器である。頸部はくの字状に外方へ屈曲し，端面は面取りをおこなう。胴部外面は，ハケ調整ののち左下がりのタタキを胴部下半までおこなう。内面は，肩部に押圧をおこない，上半から中ごろにかけてナデがみられ，以下はタテのヘラ削りをおこなう。色調は黄赤色，胎土は粗砂を含み，焼成は良好である。**7**は，口径13.7cm，器高18.3cm，底部径5.1cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端部は面取りをする。口縁外面に押圧痕を残している。胴部外面は，ヨコのタタキののちタテ方向の細いハケ調整をおこなう。肩部内面は押圧痕がみられ，以下はタテのヘラ削りをおこなう。色調は暗赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**8**は，口径16.6cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端面の面取りはしない。口縁の内外面に顕著な押圧痕を残す。胴部外面上半はナデ，以下はハケ調整をおこなう。色調は赤褐色，胎土は粗砂を含み，焼成は良好である。**9**は，甕形土器の破片である。外面はタタキのあとナデをおこない，肩部内面は押圧痕がみられ，以下はヘラ削りをおこなう。色調は暗赤灰色，胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。**10**は，口縁16.7cmを測る高杯形土器で，内外面ともミガキがみられる。色調は淡黄赤色，胎土は石粒を含み，焼成は良好である。**11**は，口径9.4cm，器高6.6cmを測る坩形土器である。丸底で浅い杯部から内傾気味に大きな口縁部をもち，端面は丸くおさめる。口縁内外面ともハケ目の調整がみられる。**12**は，台径9.3cmを測る台部の破片で，内外面とも押圧痕がみられる。色調は暗赤灰色，胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。**14～18**は底部破片で，タタキがみられるもの，押圧痕がみられるものなどである。**19～22**は，製塩土器の胴下半から脚部の破片である。胴部外面はいずれもタタキをおこない，脚部は押圧痕がみられる。

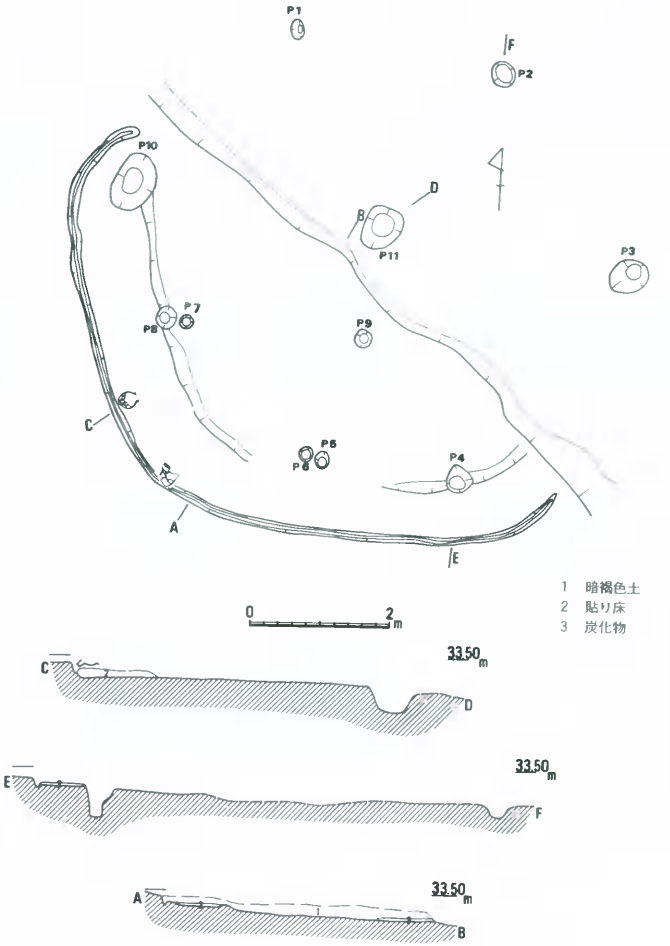
以上の土器は，1の覆土出土を除いてすべて住居址床面及びベッド状遺構の直上から出土したものである。

この他に4点の石器が出土している。**1**は，住居址の壁帯溝から出土したものである。長さ8.7cm，幅2.2cm，厚さ0.7cmを測るサヌカイト製のポイントである。出土状態から推測すると，

二次利用と考えられる。**2**は，7×6.7㎝の砂岩製の有溝石錘であり，重さは294ｇを計る。**3**と**4**は，凝灰岩製の砥石である。

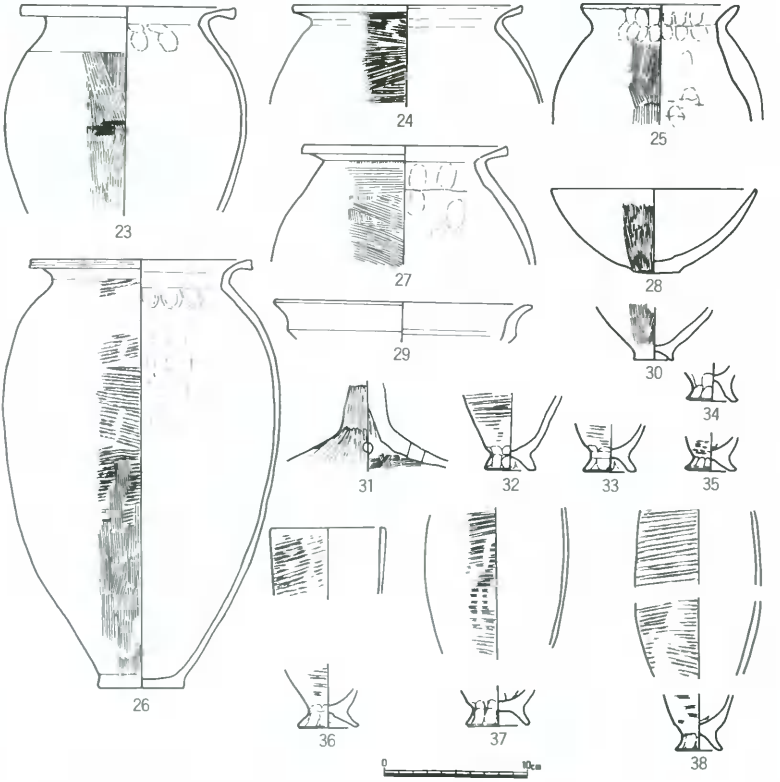
竪穴住居址－2（第6図）

南から西にかけて壁が残されているが，他については削平により消失している。したがって



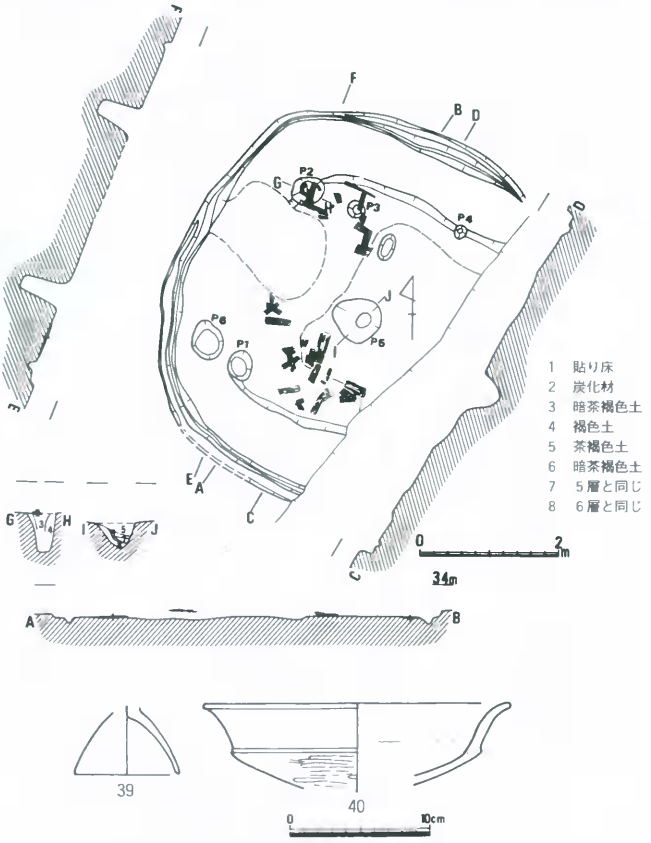
第6図　竪穴住居址－2 (1/80)

その規模は不明であり，プランについてはその残存から胴張隅丸方形を示すと考えられる。住居をめぐるように幅80cmほどの貼り床が存在する。ピットは11か所認められるが，主柱穴とされるのはＰ－１～４である。そしてＰ－5～8についても住居面の主柱穴の中に含まれると考えられる。しかしＰ－１については位置的に問題が残る。Ｐ－11は，中央穴と考えられるものである。出土遺物（第７図）は，甕形土器，高杯形土器，鉢形土器，製塩土器である。**23**は，口径14.7cmの甕形土器で，頸部からほぼ水平方向に屈曲させ，端部は肥厚気味にする。肩部外面はナデにより稜をつくり，以下はタタキののち丁寧な細いハケ調整をおこなう。肩部内面は指頭圧痕がみられ，以下についてはヘラ削りはみられない。色調は灰赤黄色，胎土は細砂を含み，



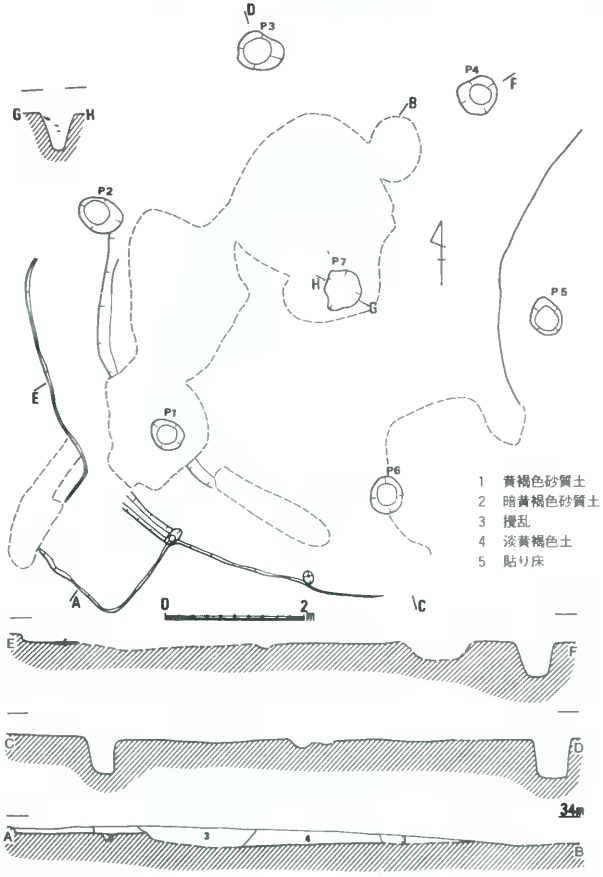
第７図　竪穴住居址－2出土遺物 (1/4)

焼成は良好である。**24**は，口径15.9cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端部はやや立ち上がり気味に面取りをする。胴部外面はタタキをおこない，内面にはヘラ削りはみられない。色調は灰赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**25**は，口径10.7cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反する口縁部をつくり，端部は丸くする。口縁と肩部の内外面に押圧痕を残す。胴部外面はタテのハケ調整を，内面は胴部中位から上半にかけてナデ，以下はヨコのヘラ削りをおこなう。色調は暗赤黄色，胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。**26**は，口径15.3cm，器高30cm，底部径5.8cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端



第8図　竪穴住居址ー3 (1/80)・出土遺物 (1/4)

部は肥厚気味になり，端面はくぼみ状となる。胴部外面はタタキ，下半から底部にかけてタテのハケ調整をおこなう。肩部外面には押圧痕がみられ，以下はタテのヘラ削りをおこなう。色調は赤黄色，胎土は微砂を含み，焼成は良好である。**27**は，口径13.9cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，口縁端部を肥厚気味にする。胴部外面はハケ調整，内面は押圧痕のちナデをおこなう。色調は淡赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**28**と**30**は鉢である。**28**は，口径14.1cm，器高5.9cm，底部径3cmを測り，内外面ともヘラミガキをする。色



第9図　竪穴住居址－4 (1/80)

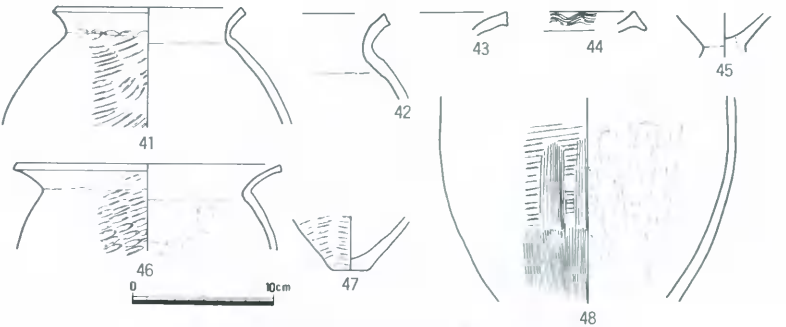
調は赤黄色，胎土は微砂を含み，焼成は良好である。**30**は上げ底となり，外面にハケ調整をおこなう。色調は暗赤黄色，胎土は微砂を含み，焼成は良好である。**29**と**31**は高杯形土器の杯部と脚部の破片である。**32**～**38**は製塩土器である。いずれも胴部外面にタタキをもち，胴部内外面に指頭圧痕を残し，内面にはナデをおこなう。**36**と**37**は接合できないが同一個体のものである。胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。

竪穴住居址－3（第8図）

竪穴住居址－2の南側3mほどの所に位置し，南東部分が畑の段によりカットされている。残存部分での規模は，563×383cm，プランは胴張隅丸方形を示す。P－1と2が主柱穴となり，P－6は竪穴住居址－4のものである。貼り床は幅70cmほど認められ，壁帯溝は壁際より離れて付されている。床面上に炭化木が多く存在していたことから，火災にあったと考えられる。P－2からは，立った状態で木炭が検出された。出土遺物（第8図）は，鉢形土器の脚部と高杯形土器である。**39**は脚部の破片で，脚径7.2cmを測り，内外面ともナデをおこなう。色調は灰赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**40**は，口径21.2cmを測る高杯形土器で，内外面ともヘラミガキをおこなう。色調は赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**39**は床面直上で，**40**は覆土中からの出土である。

竪穴住居址－4（第9図）

竪穴住居址－3と西側で重複し，遺存状態は極めて悪く，南西辺の壁がわずかに残されているだけである。壁帯溝は一部認められるが，全周しないようである。プランは主柱穴が6本あり，残された壁から推定して円形を呈するものと考えられる。出土遺物（第10図）は甕形土器などである。**41**は，口径12.9cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端部は面取りをする。頸部外面に押圧痕を残し，胴部にはタタキをおこなう。胴部内面にはナデをおこなう。

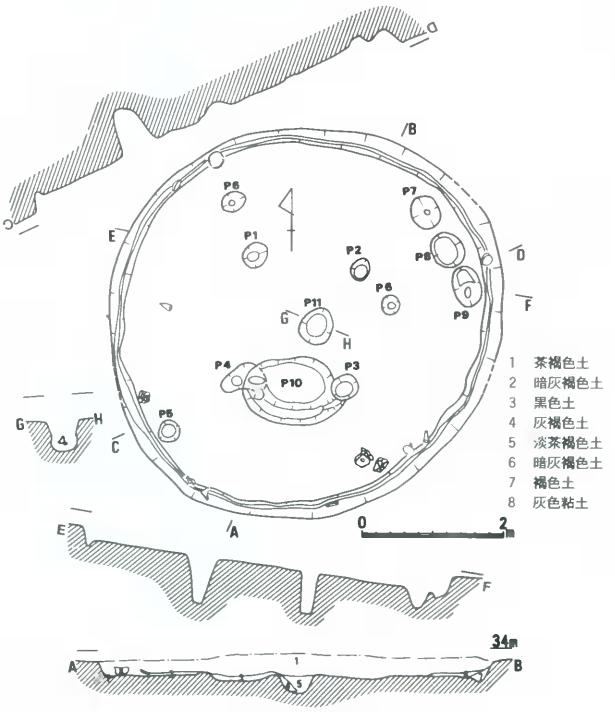


第10図　竪穴住居址－4出土遺物　1/4

色調は淡赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**46**は，**48**と同一個体となる甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端部は面取りをする。胴部外面はタタキをおこない，胴下半にタテのハケ調整をおこなう。肩部内面には押圧痕がみられ，それ以下はタテのヘラ削りをする。**47**は，底部までタタキをおこなう。**44**は，口縁端面に波状文を描いている。出土位置は，**41**がＰ－７の中央穴内，**46**と**48**が覆土，他は床面直上からである。

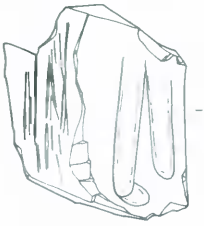
竪穴住居址－５（第11図）

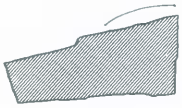
竪穴住居址－４から５ｍほど南西に位置し，遺存状態はよい。570×560㎝のほぼ円形のプランを示す。主柱穴は，Ｐ－１～４と考えられる。中央穴はＰ－11であるが，Ｐ－10の南側が土堤状に一部高くなり，内側は浅い窪み状になる。出土遺物（第12図）は，鉢形土器，高杯形土器，長頸壺形土器，製塩土器などである。**50**は，口径23.2㎝を測る高杯形土器で，口縁は外反



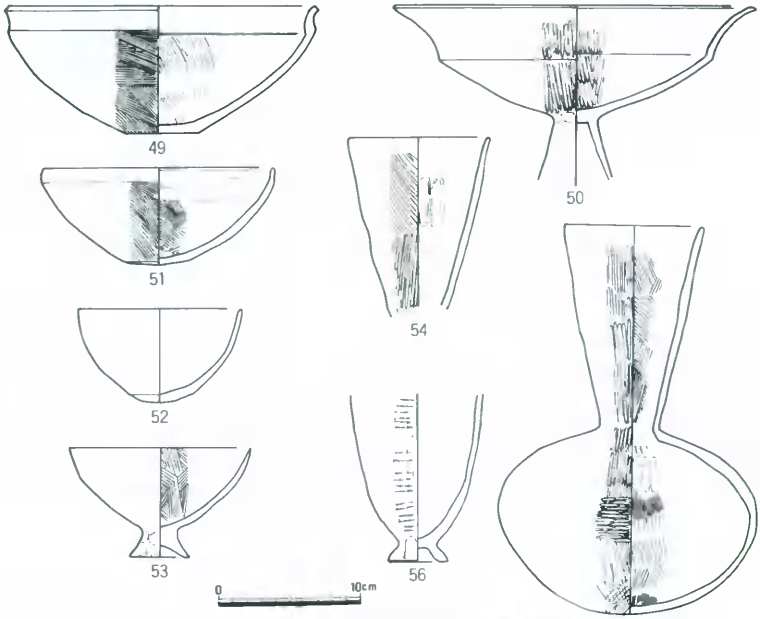
第11図　竪穴住居址－５（1/80）

して外方へ立ち上がり，端面は丸く仕上げる。内外面ともヘラミガキをし，脚部外面にもヘラミガキをおこなう。色調は赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**49**は，口径21.1cm，器高9.1cm，底部径5cmを測る鉢形土器で，胴部からゆるやかに外反し，端面は面取りをする。内外面とも粗いハケ調整をおこない，内面にはさらにナデをしている。色調は淡赤黒色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**51**は，口径15.8cm，器高6.8cmを測り，底部は不安定な丸底気味となる。口縁端部は内傾気味になり，端面は丸くする。内外面とも粗いハケ調整をおこなう。色調は赤褐色，胎土は粗砂を含み，焼成は良好である。**52**は，口径11.1cm，器高6.5cmを測り，底部は丸底気味となる。口縁端部は丸く終らせ，底部にヘラ削りがみられる。色調は黄赤色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**53**は，口径12.3cm，器高7.7cm，脚径4cmを測る台付鉢形土器である。内





5 (1/2)



第12図　竪穴住居址ー5出土遺物　1/2・1/4

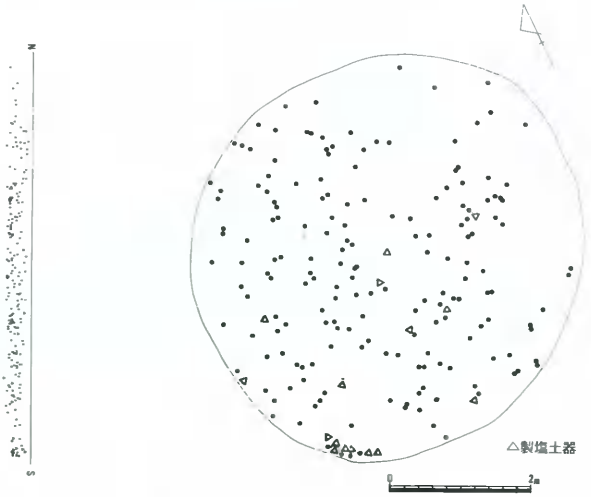
傾気味の杯部で，端部は次第に細くなり丸く終らせる。杯部外面はナデ，内面は粗いハケ調整をおこない，脚部外面には押圧痕がみられる。**54**は，口径9.5cmを測る長頸壺形土器の頸部破片である。外面上半に粗いハケ，中ほどはヘラミガキをし，接合近くには粗いハケがみられる。内面には指頭圧痕がみられる。**55**は，口径9.6cm，器高27.1cmを測り，底部は丸底を示す長頸壺形土器である。頸部は外方に開いて直口し，端部は丸く，タマネギ状の胴部を形成する。外面はハケ調整のあとヘラミガキをし，内面は胴部肩の押圧以外はハケ調整をおこなう。色調は茶褐色，胎土は微砂を含み，焼成は良好である。**56**は，脚径4.1cmを測る製塩土器である。杯部外面は，ヨコのタタキをしたあとタテのヘラ削りをしているため，タタキメはあまり目立たない。内面はナデをおこない，脚部は押圧痕を残す。第13図は，出土遺物の平面と垂直分布図を示したものである。三角形の印は製塩土器で，黒丸印は他の土器片である。南西壁寄りに集中的に製塩土器が出土する以外，ほぼ均一的に覆土中に土器の散布がみられる。

2　古墳時代の遺構・遺物

住　居　址

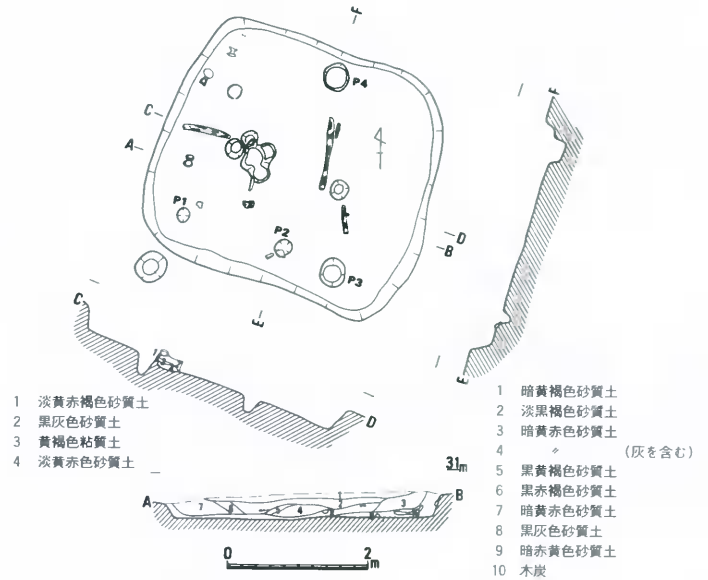
竪穴住居址－6（第14図）

竪穴住居址－1より16mほど北へ行った丘陵先端近くに位置する。規模は，400×344cmを測



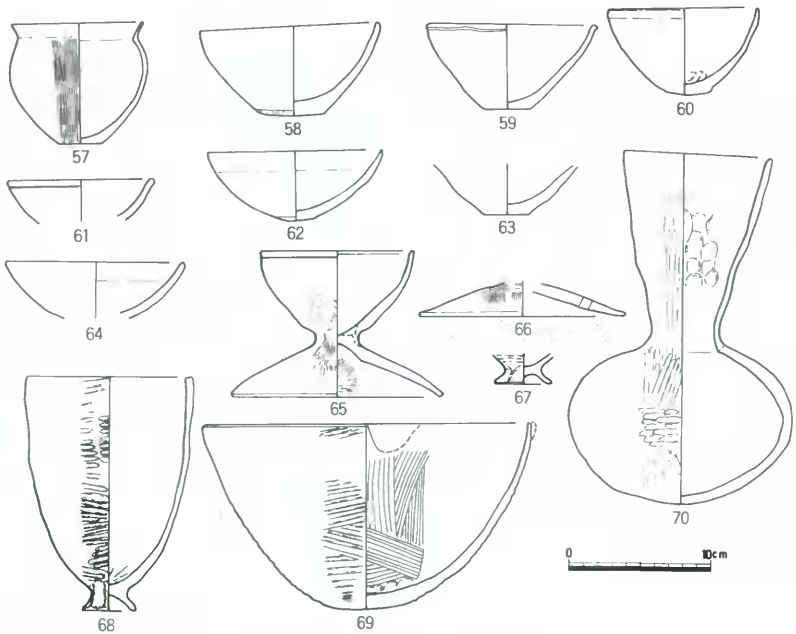
第13図　竪穴住居址－5遺物分布図（1/80）

る隅丸方形のプランを呈する。壁帯溝は認められず，柱穴も主柱穴となるものはなく，住居址の周囲にも認められなかった。床面上に炭化木が認められたので火災を受けたものと考えられる。住居址中央に少し焼けた部分があるが，炉とするには判断しかねる状態であった。さらにこの部分から西壁寄りに，製塩土器が倒れた状態で出土した。この土層については図示しているが，明確な焼土や灰は認められなかった。出土遺物（第15図）は，甕形土器，鉢形土器，高杯形土器，長頸壺形土器，製塩土器で，いずれも床面直上で出土している。**57**は，口径8.9cm，器高8.5cm，底部径2.8cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に外反し，端部は丸くする。胴部内外面は細いハケ，内面はヘラミガキがみられる。色調は赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**58**は，口径11.9cm，器高6.4cmを測り，底部は不安定となる鉢形土器である。外面はナデ，内面はハケ調整がみられる。色調は赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**59**は，口径11.2cm，器高６cm，底部径３cmを測る鉢形土器で，口縁端部は下に張り出している。内外面ともナデをおこなう。色調は暗赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**60**は，口径10.2cm，器高6.1cmを測り，不安定な底となる鉢形土器である。内外面ともナデ調整をおこない，底部内面に押圧が認められる。色調は黄赤色，胎土は細砂を含み，焼成は良好



第14図　竪穴住居址－6 (1/80)

である。**61**は，口径10㎝を測る鉢形土器の破片である。口縁下外面に沈線を施す。内外面ともナデをおこなう。色調は赤褐色，胎土は微砂を含み，焼成は良好である。**62**は，口径12㎝，器高10㎝を測る鉢形土器で，器形は口縁部がやや内傾気味となり，口縁端部は丸くする。外面はナデ，内面はヘラミガキをおこなう。色調は赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**65**は，口径10.4㎝，器高10.3㎝，脚部径14.5㎝を測る高杯形土器である。杯部は内傾気味となり，口縁端部は丸くする。杯部外面は細いハケ調整，内面はヘラミガキをする。脚部はややふくらみ気味となり，内外面とも細いハケ調整をおこなう。色調は赤褐色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**70**は，口径10.3㎝，器高24.4㎝を測る長頸壺形土器である。外面は，頸部から胴部中位にかけてヘラミガキをおこない，丸底の底部から胴部中位近くまでヘラ削りをする。頸部内面は押圧痕がみられる。色調は赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。**68**は，口径10.4㎝，器高16.6㎝，脚部径3.6㎝を測る製塩土器で，口縁はやや内傾気味となり，端部は厚くなり面取りをしている。胴部外面はヨコのタタキをしたあとナデをおこない，内面はナデをおこなう。脚部には押圧痕がみられる。色調は灰赤色，胎土は微砂を含み，焼成は良



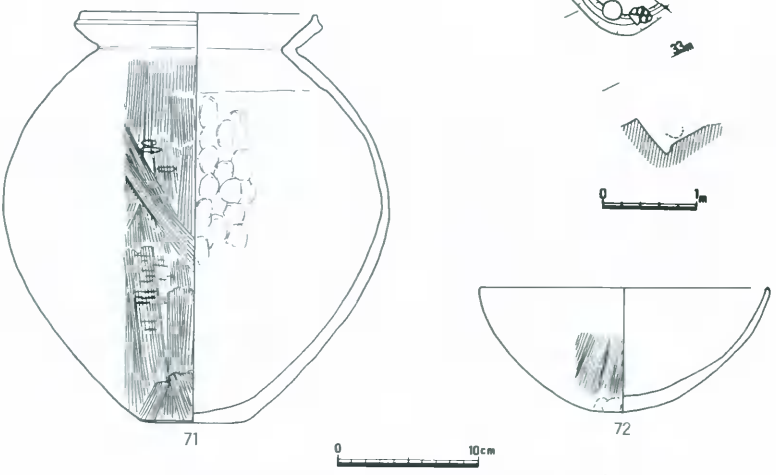
第15図　竪穴住居址－6出土遺物　(1/4)

69は，口径22.3cm，器高13.2cmを測る鉢形土器である。口縁の一部に押圧によりふくらんだ所があり，片口となる可能性もある。外面はタタキをおこない，口縁近くではその上からナデをしている。内面は粗いハケ調整がみられ，底部においては押圧痕を残す。

竪穴住居址－7（第16図）

竪穴住居址－2から2mほど東へ行った丘陵端に位置するが，丘陵の端であるため南コーナー部分しか遺存していない。プランはその遺存状態から隅丸方形を示すものと考えられる。

出土遺物（第16図）は，コーナー壁に接して甕形土器と鉢形土器が検出された。71は，口径16.1cm，器高28.9cm，底部径7.4cmを測る甕形土器で，頸部からくの字状に屈曲し，口縁端は立ち上がり気味となる。胴部外



第16図　竪穴住居址－7（1/60）・**出土遺物**（1/4）

面はタタキのあとハケ調整をおこない，内面は押圧痕がみられる。色調は淡赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。72は，口径19.5cm，器高8.9cmを測る丸底の鉢形土器である。外面にはハケ調整がみられる。色調は灰赤黄色，胎土は細砂を含み，焼成は良好である。

第17図　土壙－1（1/4）

3　その他の遺構・遺物

土　　壙

土壙－1（第17図）

竪穴住居址－6の南より4mほどのところに位置する。規模は63×96cmの不整楕円状を示し，深さ18cmを測る。土壙内には人骨が3片遺存していた。他に伴出の遺物がないため，時期は不明である。

第5節　小　結

ここでは，各住居址出土遺物からそれぞれの時期について触れてゆきたい。先に述べたように，7軒のうち弥生時代に属するものが竪穴住居址－1～5の5軒であり，他の2軒は古墳時代に入るものである。前者は，後期の中葉段階とされるものであり，後者は古墳時代初めの段階を考えている。

弥生時代で古くなるものは，竪穴住居址－2である。甕形土器の**23・26**は，外反した口縁端部を肥厚気味にするような古い様相を示しているが，**25**は，口縁端部を面取りをしない新しいものも存在している。高杯形土器も脚部が短くなり裾部で屈曲をもつなど中葉段階でも若干新しい段階に相当するものと考えるのが妥当であろう。竪穴住居址－5出土の**50**の高杯形土器は，杯部から大きく外反するもので，後期前半から見られた外面あるいは内面にみられた屈曲を留めていないのである。また，製塩土器についても胴下半部から脚にかけてやや丸味をもつ傾向を示すなど竪穴住居址－2よりやや新しい様相がみられるのである。竪穴住居址－4は，**42**あるいは**43**の甕形土器にみられる口唇部の凹線の存在また**46**の口唇部の面取りの内容からも竪穴住居址－5と相前後することが考えられるのである。竪穴住居址－3は，竪穴住居址－4と重複しているが，調査時における土層断面などにおいては前後関係を把握することができなかったのである。出土遺物によってその判断をしなければならないが，その数が少なく充分な検討ができないが，時期的にやや下がるものと考えるのである。

このように出土遺物は，後期中葉段階に相当するものであり竪穴住居址－4と竪穴住居址－5の2軒が時期的に相前後することが考慮されるが，他については時間的な流れとして把握することができるのである。この一群に続くものが竪穴住居址－1である。壺形土器などに古い様相を留めているが，甕形土器・高杯形土器・坩形土器などにおいて新しい内容を示しているのである。**6**および**7**の甕形土器は，岡山県南部の沖積地出土の口縁部が立ち上がり端面に沈線などを施文する甕形土器の器形に大へん近い様相を示しているのである。**10**の高杯形土器は，

杯部が浅くなるものである。11の坩形土器もこの段階ではあまり出土例が多くないものである。上房郡北房町桃山遺跡[註1]から同様のものが出土している。このようなことから，前述した4軒のものと若干の時間をおいて営まれたと考えられるのである。

次に，竪穴住居址－6・7は，古墳時代初めとされるものである。竪穴住居址－6は，甕形土器，高杯形土器，片口の鉢形土器の他に，玉野市沖須賀遺跡[註2]出土の古墳時代前期とされる製塩土器と同様のものが出土しているのである。そして，竪穴住居址－7についても甕形土器と鉢形土器から竪穴住居址－6と相前後する時期を考えられるのである。

また，土器の形態において特徴的なものが認められる。竪穴住居址－2出土の26の甕形土器は，非常に長い胴部をもつものである。他の甕形土器に比較してその長さが際立っている。外面には，横位のタタキを施している。この形態をもつものは，竪穴住居址－4出土のものにもみられている。しかしこの長胴も，竪穴住居址－1の6あるいは7のように南部沖積地の遺跡から出土するものと変らなくなっているのである。このことは，後期中葉段階における長胴の甕形土器の存在，製塩土器における他地域に先がけてのタタキの採用など南部沖積地とは趣を異にする社会が形成されていたことが推測されるのである。そして，後期末になって南部沖積地とは変らない土器の内容を示すが，木見大賀遺跡[註3]や玉野市深山遺跡[註4]においては，古墳時代になってもそれらとは様相の異なる土器を特徴的に見い出せるのである。

最後に住居址の形態について述べておきたい。竪穴住居址－1・4・5は，円形の平面形態を呈し，竪穴住居址－2はやや不整形の胴張りである。竪穴住居址－3は，胴張隅丸方形を呈する。竪穴住居址－5を除いてベッド状遺構が付設されている。竪穴住居址－6は，隅丸方形をとるものであり，竪穴住居址－7についてもコーナー部分のみ検出されたがその内容から隅丸方形と考えられるのである。主柱穴は，竪穴住居址－1～5は平面形態によって柱の数が設けられているが，竪穴住居址－6においては主柱穴に相当するものは検出されなかったのである。このことは，上屋構造においても主柱穴が明確なものと自から異なったものであったと考えるのが妥当であろう。

以上のように，山際紫山遺跡においては竪穴住居址－1～5の時期と竪穴住居址－6・7の時期において述べてきたような具体的変化を認めることができたのである。　　（下澤）

註

註1　岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告11』　1976年

註2　福田正継『沖須賀遺跡』玉野市教育委員会1981年

註3　本書の第13章において報告している。

註4　間壁忠彦「玉野市田井深山遺跡」『倉敷考古館研究集報第6号』1969年

第５章　舟津原（ふなつばら）遺跡の調査

第１図　一次調査トレンチ位置図　(1/4,000)

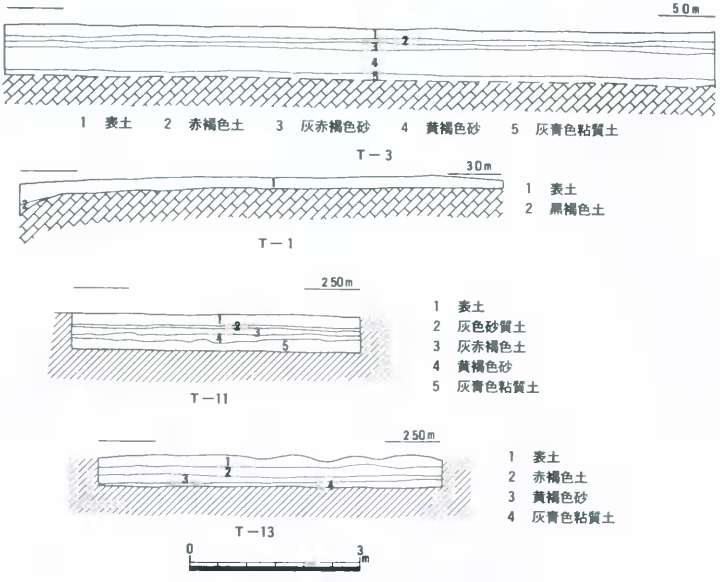
第1節　遺跡の位置

主要地方道倉敷・玉野線を倉敷川に沿いながら南東に下がり，川を左に渡り倉敷市営粒江住宅をぬける。道は種松山から派生するいくつもの支丘のうちの丘陵性の段丘を発達させている舟津へ向う。丘陵裾沿いに走る市道と交差して，道はこの段丘のほぼ中央に形成された谷に入るのである。

この道の西側には縄文時代前期の磯ノ森貝塚が，また東側には舟津原貝塚が所在する所にあたる。調査の対象となったのは，この両貝塚にはさまれた地区である。

第2節　調査に至る経緯

この地区については，西日本で著名な前期の貝塚である磯ノ森貝塚と晩期の舟津原貝塚が所



第2図　T－3·1·11·13土層断面図　1/100

在し，さらに1183年の源氏と平氏による藤戸合戦に伴う古跡が遺されている。このようなことから路線について協議を重ねた結果，前述した両貝塚の所在する間の谷部を橋脚で通すこととなった。

用地買収の問題から当初調査ができたのは，第１図で示したトレンチの地区であった。その他の第３図に示したＢ～Ｅは，条件整備が整ってから順次調査を実施した。Ｂ区は舟津原遺跡

第３図　調査区位置図　(1/4,000)

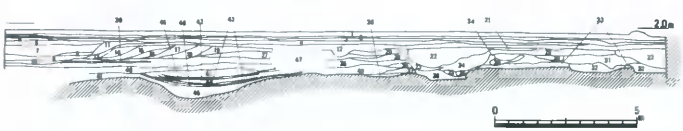
の前端部にあたり，A区の調査結果から包含層の存在が予想された。C区は養魚場の移転後に調査に入ったもので，磯ノ森貝塚に近いことから流入遺物の存在が予想された。D区は橋脚位置にあたるが，道路の十字路になるため付け換え道路ができてから調査に入った。この地区はA区の関係で包含層の続きが予想された。E区は磯ノ森貝塚に最も近い地区であり，貝塚からの遺物の流れが想定された所であり，お好み焼屋が移転したあと調査に入った。

これらの地区は，用地買収や付け換え道路の関係から，継続して調査することができなかった。また調査においても，工事工程の関係から他の遺跡の調査をしながら実施しなければならない状況に常に立たされたのである。そして最終的には，昭和57年11月のD区の調査において完了したのである。

第3節　一次調査の結果

舟津原遺跡は西側に貝塚が形成されているため，この谷部について遺跡の有無が全く知られておらず，分布調査時にも遺物の散布は認められなかった。このことから，トレンチを設定できうる地区については極力多くを設けたのである。

T－1・2は，谷部でこの部分だけが一次調査予定地内における台地部にあたる。現状は住宅地となっていた所で，それに伴う削平が予想された。T－1（第2図）は表土下20㎝で基盤層に達し，その間は表土であり，東端に黒褐色土を認める。T－2もこれと同層を示す。T－



1　表土
2　灰赤褐色土
3　赤褐色土
4　赤黄褐色土
5　暗赤褐色土
6　赤茶褐色土
7　灰黄褐色砂
8　灰色粘質土
9　淡青灰色粘質土
10　灰色砂
11　茶褐色土
12　灰黒褐色土
13　灰茶褐色粘質土
14　灰色褐色土
15　黒褐色土
16　褐色土
17　灰黒褐色土
18　灰褐色土
19　灰黒褐色土
20　赤褐色粗砂
21　茶褐色土
22　灰色粘土・ピートブロック・黒色粘土ブロックを含む
炭化物製塩土器片を含む
23　茶灰色細砂
24　茶灰色土
25　黒色粘土
26　茶灰色粗砂
27　淡灰色粗砂
28　茶褐色土
29　茶褐色細砂
30　淡暗茶灰色
31　茶灰色土（ピート含む）
32　淡茶灰色土（粗砂、ピート黒色粘土ブロック含む）
33　黒色粘土
34　黒色粘土ブロック・ピートブロック
35　茶灰色粘質粗砂
36　暗茶褐色粘質土
37　暗茶灰色粘土
38　黒灰色粘土
39　灰色粗砂
40　砂礫
41　ピート
42　淡黒茶色粘土
43　黒茶色粘土
44　暗茶色粘土
45　褐色粘土
46　褐色微砂
47　崩壊

第4図　T－16土層断面図　1/200

３はＴ－１・２の地点から約170cm下がった水田である。表土下90cmほどで基盤層に達し，その間の堆積は砂を主体とするものである。Ｔ－４～11は，市道の西側に設定されたものである。Ｔ－11は，表土下から70cmほどで灰青色粘質土に達する。これら上の堆積土は，Ｔ－13で認められた砂を主体としたものである。Ｔ－12～14は，市道から東側の水田に設定した。Ｔ－13（第２図）は，表土下50cmで灰青色粘質土に達し，この間の堆積土も他のトレンチと同様な内容を示す。Ｔ－15～18は，谷が最も広くなる地点にあたり，現状では水田となっている。Ｔ－16（第４図）は，表土下50cmほどで灰色粘土，ピートブロック，黒色粘土ブロックを含む土層が認められ，この層の西寄りに製塩土器が若干含まれる。さらに80cmほどの間層をもって砂礫層に達する。この砂礫層中から，縄文時代後期～晩期の土器が多量に出土した。そして砂礫層は，トレンチ全面にわたって認められたのである。

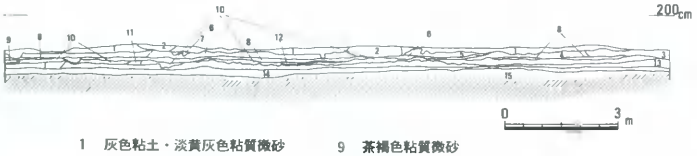
以上の結果をふまえて，Ｔ－15～18の地区について発掘調査を実施したのである。

第４節　調査の概要

経緯において述べたごとく，条件整備が整えられ発掘調査が可能になった地区から，順次着手していった。このようなことから，Ａ～Ｅ（第３図）の各区の区ごとにその概要について述べていく。

１．Ａ区の調査

Ａ調査区（第７図）は，谷がもっとも広がっている部分にあたり，磯ノ森貝塚の台地寄りに位置する。この地区の土層堆積状態は，第４図に示している。ここでは，これと伴にＡ区の全



1　灰色粘土・淡黄灰色粘質微砂
2　茶褐色粘質微砂
3　淡灰色粗砂
4　暗茶灰色粘質土
5　淡赤灰色砂質土
6　赤灰色砂質土
7　灰色粘土
8　灰色砂
9　茶褐色粘質微砂
10　黒灰色砂質土（カキを含む）
11　淡黒灰色砂質土
12　茶褐色砂質土
13　淡暗茶灰色砂質土
14　暗茶灰色砂質土
15　砂礫

第５図　土層断面1－2（1/150）

体的な概要について述べておくことにする。

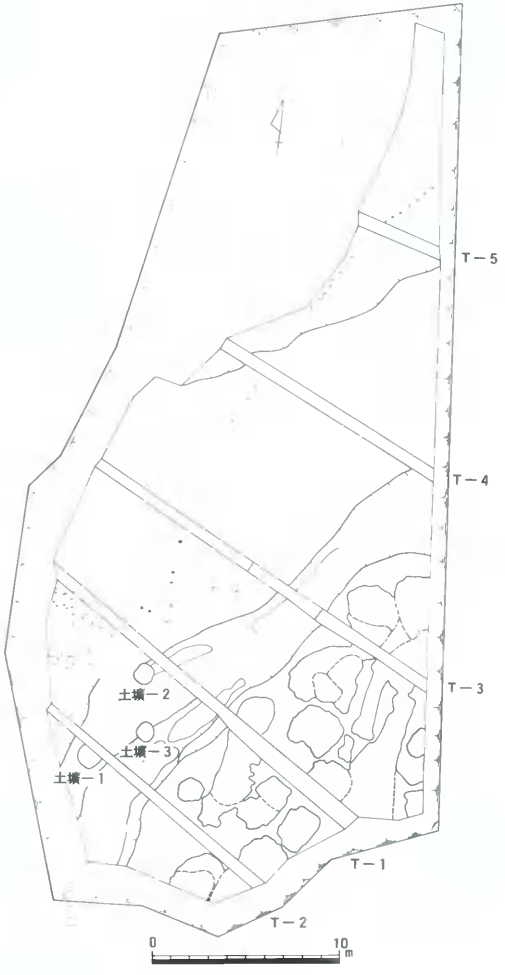
第4図の土層断面によると，表土下50～60cmで灰色粘土，ビートブロック，黒色粘土ブロックを含む土壙状のものが，中央から東寄りに重複して認められた。この土壙状のものと同じ土層をもつものが，西端にかけて存在し，この部分は土壙状にならず斜面堆積という状況で，幾層にもわたって認められた。この土を含む平面プランは，第6図の上層遺構検出状態で示したようになる。これによると，この土壙状のものは南から南東にかけてかたまって存在しており，この段階での遺構の掘り下

1　現代溝
2　淡黄褐色粘土・黒色粘土ブロック
3　茶褐色土（ビートブロックと灰白色粘土ブロックが混る）
4　3層よりもビートブロックの混入が多い
5　淡黄褐色微砂
6　淡黄褐色粗砂
7　淡灰色粘質粗砂
8　茶褐色粗砂
9　暗黒灰色土
10　茶褐色土
11　3層より両ブロックの混入が多い
12　灰色粘土
13　ビートブロック
14　淡茶褐色土
15　暗茶褐色土
16　褐色粘質土
17　10層に粗砂と黒色ブロックを含む
18　淡褐色粗砂

第6図　上層遺構検出状態　1/300

げについては，番号で示した土層のどの層を掘ることが可能なのか全く判断できなかったのである。さらに調査区の西端に旧河道が存在することが明らかとなり，この旧河道の肩口にこの土壙と同じ埋土をもつ土が存在していることが明らかとなった。この旧河道の肩口に大量の製塩土器（第130～133図）が検出された。この土器層（第6図）（図版36－2）は，第6図で示した土層番号2・3・4などの混入する旧河道の斜面堆積と同一層中において認められ，遺物検出中においてもこれらの土が含まれていた。また土壙状の底から製塩土器の細片が出土したことから，これらの土を含むものは土器層が形成されたのと相前後して掘られたものと考えるのが妥当であろう。

旧河道は西側に検出されたもので，調査区西端には市道と用水が存在しているため，西端は明らかでない。旧河道部分は細砂が堆積し，用水からの漏水が激しいため掘削は機械によりおこなった。調査区において東端が確認され，



第7図　基盤層面遺構検出状態（1/300）

南西から北東にかけてのび，この肩口の一部は土層断面で示したように埋められ狭っている。表土下120cmほどの所で35層の茶灰色粘質粗砂が土層断面の中央から東寄りに長く認められる。この層は西に向かってやや下がってゆく傾向を示すが，前述した土器層に伴う下がりとは合わない。この層が下層に存在する砂礫層の広がりとほぼ一致することから，旧河道の流域がさらに広がっていたものと推測される。

調査区北東寄りで貝塚を検出した。第5図の土層断面に示したように，淡暗茶灰色砂質土上に認められ，主にカキを主体とするものである。この層からは早島式土器の細片が出土している。

調査の最下層に堆積するのは砂礫層であり，南寄りに存在し，その中には縄文時代前期～晩期の土器と石器が多量に含まれていた。この砂礫層はB～Dの各調査区にも存在している。

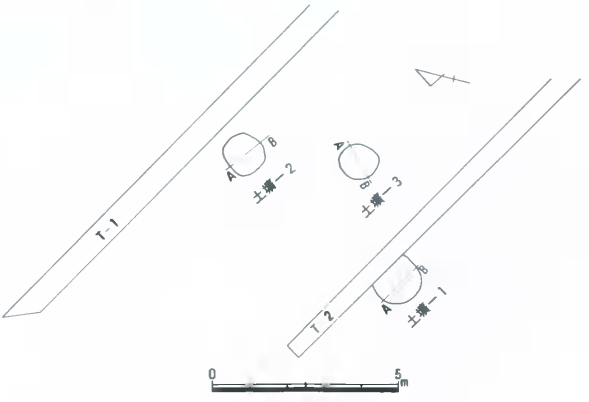
縄文時代の遺構・遺物

(1) 土　　壙

調査区の南西端寄りに検出されたもので，基盤層の直上に堆積する砂礫層を除去して確認された。第8図で示したように半円形に3個の土壙が認められ，これ以外については検出されなかった。

土壙－1（第9図，図版41）

調査区内において砂礫層の堆積状況を見るために設定したトレンチのうちのT－2の西端寄

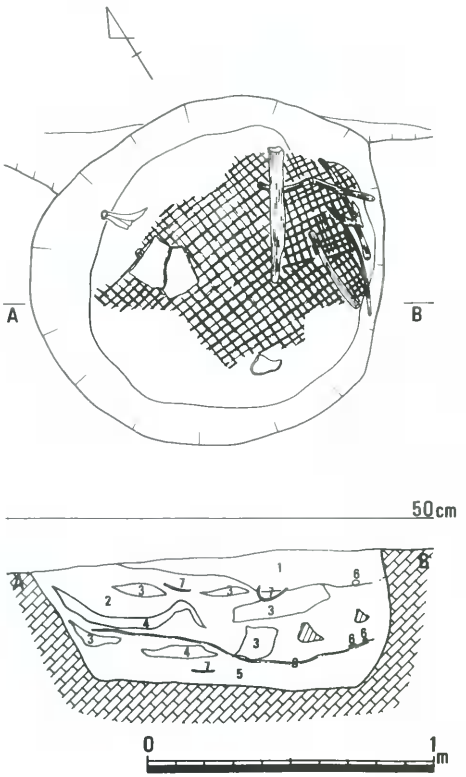


第8図　土壙分布図　1/150

りにかかって検出されたものである。これによって，他の2個についても確認することができたのである。

規模は124×123cm，深さ50cmを測る円形のプランを呈する。東壁が掘り方より抉って掘られており，一部袋状を呈し，底は平坦となっている。底から10～13cm浮いた状態で編物がほぼ土壙を被うように認められた。ここから上層中の淡灰色粘質細砂中には堅果類がブロック状に認められた。この他にも植物遺体が多く認められ，編物の下からも同様の状況で検出されている。

出土遺物（第11図）は縄文時代晩期の土器が土壙内より検出されている。1は口径34.6cmを測る深鉢形土器で，外側にゆるやかに屈曲する口縁部をつくる。口唇部は連続した押圧痕がみられる。調整は肩部下半から口縁部にかけて横方向のアルカ属の条痕，胴部下半にかけてやや右下がりのサッ痕がみられる。内面調整は細い横方向の条痕がみられ，さらにその上から磨いているが内面の輪積み痕は消えていない。2は唯一完形に近い遺物である。小形の鉢形土器で，最大径12.3cm，高さ7.5cmを測り，口縁は楕円形を呈する。外面調整は平滑にしているが，輪積み痕を残し，底部は押圧



1　暗茶褐色粘土
2　淡灰色粘質細砂
3　茶褐色粘土
　（堅果類を多く含む）
4　灰色粗砂
5　淡茶灰色粘土
6　木
7　土器
8　編物

第9図　土壙－1 (1/20)

痕がみられる。内面調整は底部に押圧痕が，胴部は横方向の細い条痕がみられる。**3** は口径16.4cmを測る口縁部の破片である。外面調整は横方向のアルカ属の条痕をおこない，頸部は平滑にしている。内面調整は横のアルカ属の条痕がみられる。**4** は上げ底の底部破片で，内外面ともミガかれている。**5** は波状を呈する口縁部破片である。内外面ともミガかれている。**6** は口縁部が外反気味の鉢形土器の破片である。外面調整はサッ痕をおこない，内面調整は口縁部に横の条痕が，胴部においてはサッ痕がおこなわれている。

編物（第10図）は，網代編みと考えられる。この網代編みの素材については，発掘調査終了後の保存状態が悪かったため分析することができなかった。

堅果類については，種子の鑑定をパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した結果を別稿で報告している。

土壙－2（第12図，図版42－1）

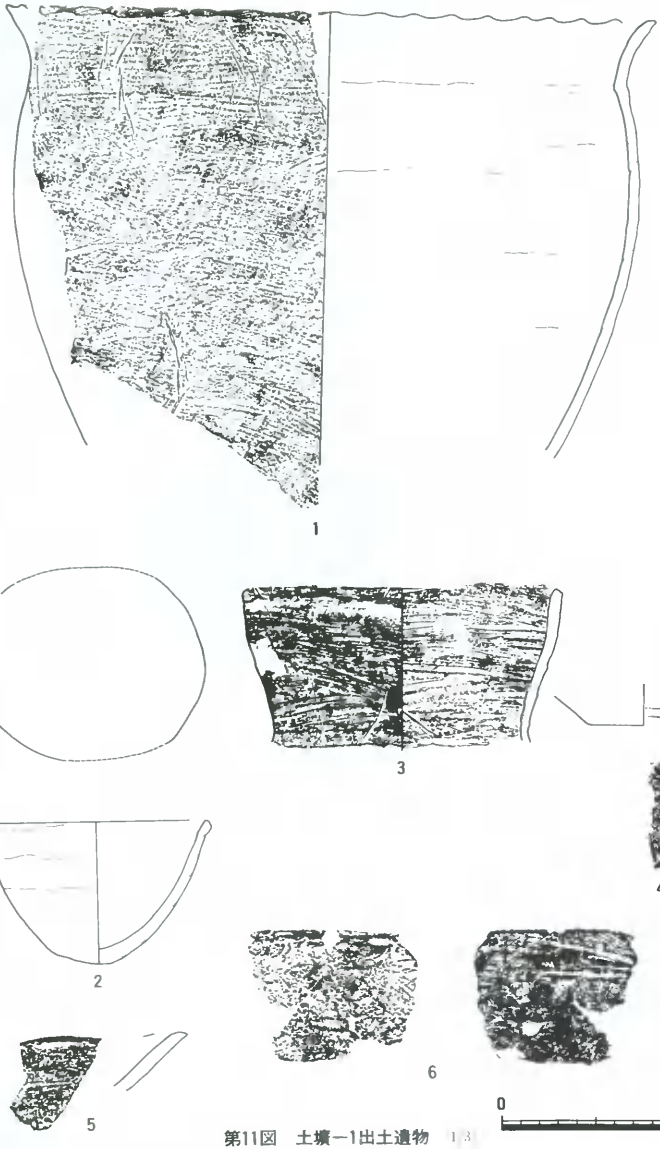
土壙－3の北側に検出されたもので，規模は98×87cm，深さ24cmを測る円形のプランを呈する。断面形態は一部袋状を示し，底は平坦となる。堅果類は土壙－1にみられたように固まってはおらず，暗茶褐色土中に木の葉と伴に含まれる状態であった。編物も断片的に認められたにすぎない。

土壙－3（第13図，図版42－2）

土壙－1と2の間に検出されたもので，規模は112×107cm，深さ46cmを測る円形のプランを有する。土壙壁面は掘り方よりも外側に抉られているため，袋状の形態を示している。底は平坦となっている。

この土壙も土壙－1と異なり堅果類が固まりとして認められず，底に接して多くの堅果類を検出した。埋土は木片や木の葉を多く含む淡茶褐色粘質土が認められ，その下に灰色粗砂が堆

第10図　土壙－1出土編物（1/4）



第11図　土壙ー1出土遺物　1/3

積している。この灰色粗砂中に編物などが存在している。編物は3層にわたって認められ，その最上層部分の上には半截した木が置かれているのが認められた。堅果類は底面と三枚目の編物との間に最も多く認められ，二枚目と三枚目との間には全く認められなかった。

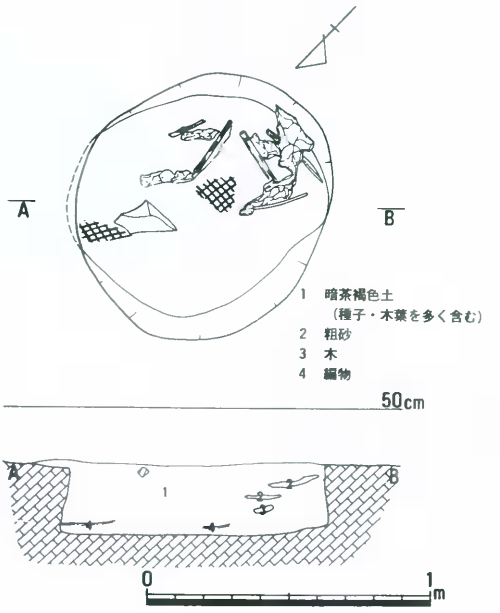
出土遺物は堅果類と編物そして木である。堅果類は出土状態においてつぶれており，鑑定に耐えうるものはなかった。

編物は網代編みと考えられる。この網代編の編物は，数枚重なっている状態で取り上げ，断面において確認されている。第14図1～3はこれらの模式図である。素材については土壙－1と同条件にあったため分析することはできなかった。

古墳時代の遺構・遺物

(1) 土　壙　群

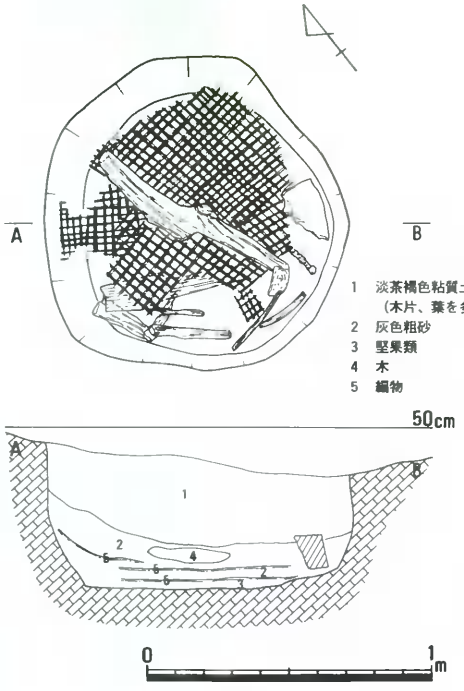
調査区の南から南東にかけてまとまって検出されたものである。表土下60cmで灰色粘土，ピートブロック，黒色粘土ブロックを含む面が認められた。この土の分布は第6図に示したように，淡黄褐色粘土，黒色粘土ブロック，茶褐色土，淡黄褐色粗砂，灰色粘土，ピートブロックなどがみられ，これらの土層の切り合い関係が明確でなく，全体的な広がりをもつことなどから，この時点で土色ごとに掘り下げる判断をするのを躊躇したのである。このことから，基盤層である緑灰色粗砂層まで掘り下げてプランの明確化をはかったのである。この結果，第15図に示したように，上層で検出したよりその内容が明確化された。しかしこの面においても，個々の土壙での重



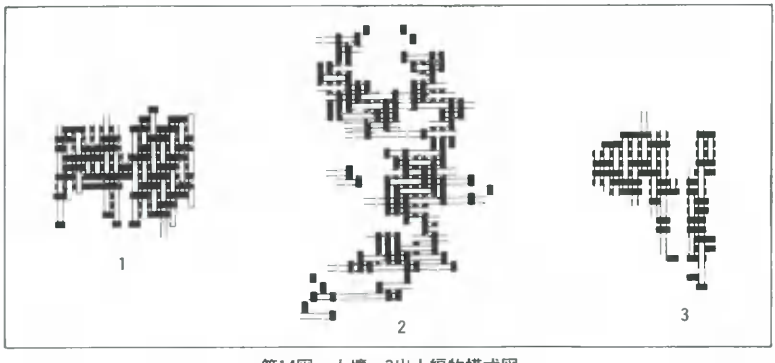
第12図　土壙－2　1/20

複の有無について明らかにできる土の状態ではなかった。そして，最終的に掘り上げた状態で第16図に示したごとく，重複していることが認められた。このことは，土層断面（第17図）においても判断されたのである。各土壙の底は平坦とならず，第18図の断面図では分りづらいが非常に凹凸の激しい状態を示している。

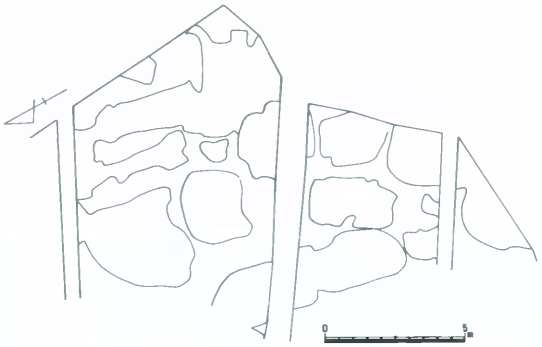
このようなことから，この土壙群



第13図　土壙－3 (1/20)



第14図　土壙－3出土編物模式図



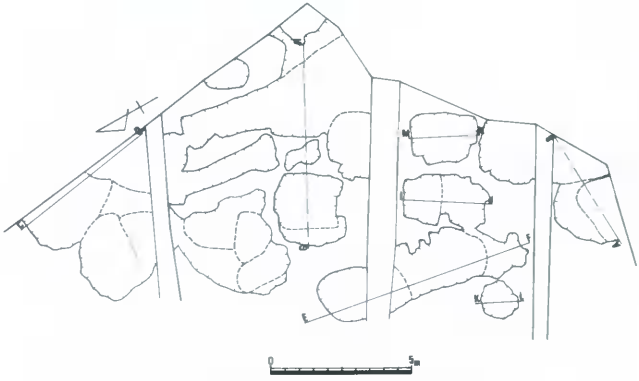
第15図　土壙群掘り下げ前　(1/200)

については個々の計測及び内容は述べられない。土層断面図から判断すれば，深さ110cm前後を測ることが知られる。そしてかなり密に重複して掘削されていることが認められる。

時期については，土壙群の底から旧河道の肩口の土器層と同じ製塩土器の細片が出土していることから，6世紀代のものと考えるのが妥当であろう。(図版40)

(2) 土　器　層

旧河道肩部（第6図）に検出されたもので，製塩土器以外のものは全く含まれていなかった。**1833**は，胴部最大径からゆるやかに内傾する口縁をつくるもの，**1855**は，強く張った胴部から



第16図　土壙群掘り上げ後　(1/200)

上方に口縁をつくるもの，1867は，胴部に屈曲をもたないものなどが認められる。文様は，口縁部に横，方形などのタタキをもつものの他に，無文のものも認められる。（第130～133図）

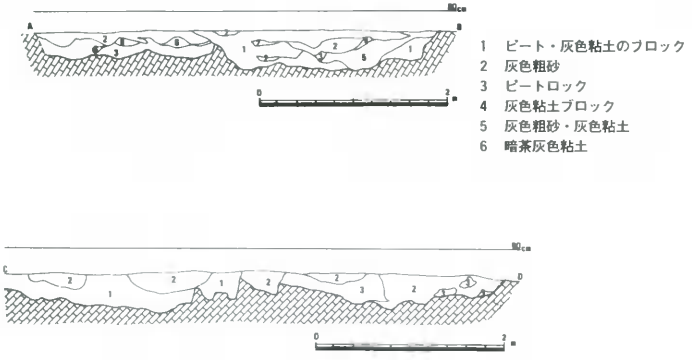
２．Ｂ区の調査

Ｂ調査区は，Ｃ調査区の北側の水田に設けたものである。調査対象外であったが，磯ノ森貝塚から流出した遺物の包含層が予想され，また谷の前端部の状況の把握のために設定した。表土直下で砂層となり，湧水が激しく人力による掘削は困難であった。このことから遺物が包含されている砂礫層上層に堆積する暗茶灰色粗砂の途中までの約90㎝の間を機械により排土した。この排土中には，中世の遺物が多く含まれていた。

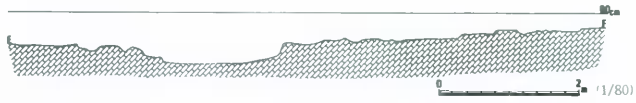
機械により暗茶灰色粗砂中まで掘り下げたが，周辺からの湧水が激しく平面の調査は困難であった。そのため，調査区内にトレンチを設け，水位を下げて土層の観察をした。Ｔ－２（第19図）は，調査区中央やや北寄りで東西方向に設定したものである。これによると，暗茶灰色粗砂の下は砂礫層となり，縄文時代前期～晩期の遺物を含む。この層の下が基盤層の花崗岩となり，凹凸の激しい状況を呈している。Ｔ－６（第19図）は，調査区北端に南北方向に設定したものである。茶灰色粗砂の下は礫層となり，砂の混りがなくなる。基盤層もやはりＴ－２で認められたと同じような状況を示していた。なお，遺構は認められなかった。

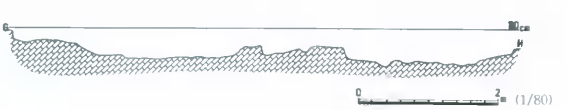
３．Ｃ区の調査

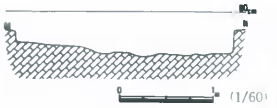
Ｃ調査区（第20図）はＢ調査区の南隣に位置し，これまで養魚場として使用されていたとこ

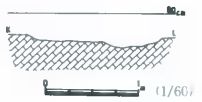


第17図　土壙群土層断面図（1/60）



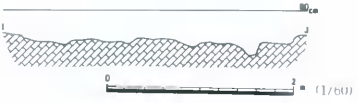






ろである。

当調査区では，グライ化した花崗岩風化土の地山面が撓み状の凹凸を呈しており，舟津原貝塚と磯ノ森貝塚の２つの貝塚が存在する台地の間を北流してきた旧河道が海岸線に至り，地山を削りながら土砂を堆積していった様相を呈している。堆積している埋土は，いずれも砂層を中心とした土層で，第５層の灰茶色細砂層から下は礫を含んだ層が堆積している。第８層の灰色礫混り粗砂層，第９層の青灰色粗砂層には土器等の遺物と共に植物遺体が含まれている。当調査区では，これらの埋積土や地山面を切り込んでいるような遺構は全く検出されていない。



第18図　土壙群断面図　(1/60・1/80)

遺物は，海抜０～20cmの第８層を中心に礫の中に混入して出土している。土器は，縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，早島式土器，土鍋，備前焼等の破片がかなり大量に出土しているが，細片が多く器面・断面の磨耗しているものが多い。縄文土器は前・中・後・晩期とほぼおおよその時代のものが見られる。弥生土器は中期・後期のものが出土しているが，量は少ない。古墳時代の土器では，土師器，須恵器，製塩土器が出土している。製塩土器は厚手の大型のもので，口縁外面に平行タタキの調整を施したものが大半である。奈良時代から中世にかけては，須恵器の高台付の杯身，早島式土器の皿，椀，土鍋，備前焼の擂鉢，甕等がある。土器の他に

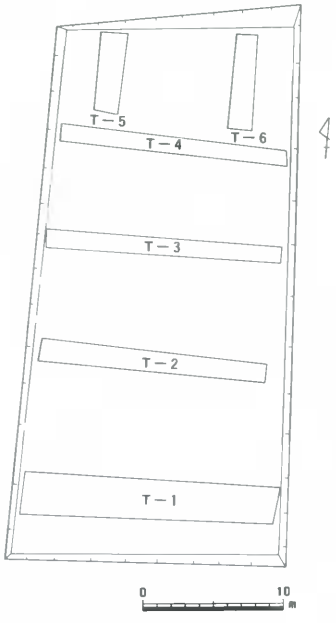
は，サヌカイト製の石匙，石鏃等多量の石器が出土している。とりわけ，当調査区では，様々な形態の石匙が非常に高い割合いで出土している。

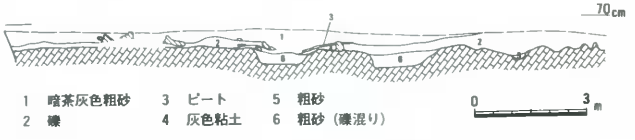
当調査区では，前期から晩期に至る縄文土器を始め，鎌倉時代から室町時代に至る備前焼の甕や擂鉢など多時期にわたるものが混在している。このことは，ここに流れ込んでいる旧河道が，両岸の台地上に広がる遺跡から土砂と共に多くの遺物を運び込み，次第に埋積していったことを窺わせる。

４．Ｄ区の調査

Ｄ調査区（第21図）はＡ調査区の北隣に位置し，粒江団地から種松山へ抜ける十字路の東南部に位置している。当調査区の中央から西部，中央東部の一部には，現在の河道があり，大半は攪乱を受けている。また，工法上の関係から，杭を打ち込んだ後にしか調査に入ることが出来なかった為，部分的な発掘調査に終わった。

当調査区では，西南端部において旧河道が，東南端と北端のやや西寄りおよび，旧河道の肩部に礫層が検出されたものの，全体的にはＣ調査区同様，台地の間を北流して来た旧河道により運ばれた土砂が堆積していった様相を呈している。埋土は海抜０～20cmのグライ化した花崗岩風化土の地山面の上に灰黄色の砂層が数層30





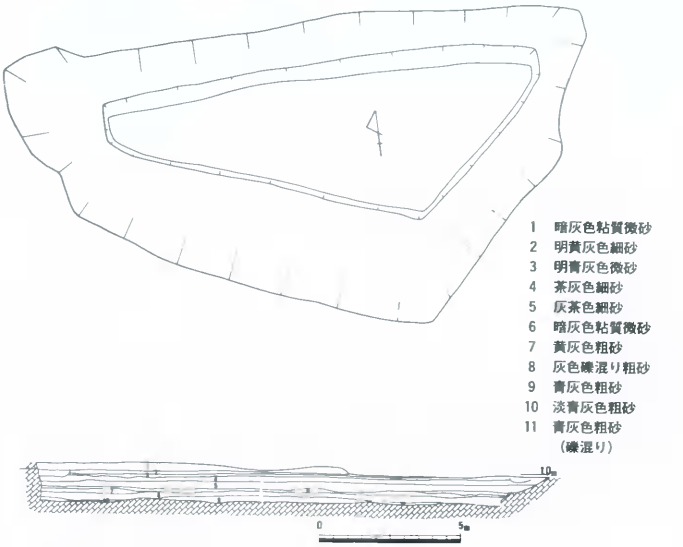
第19図　Ｂ調査区 (1/400)・**Ｔ－2・6土層断面図** (1/150)

～50cmにわたって堆積している。礫層はいずれも地山面直上に数cmの厚さに堆積しているもので，縄文土器，製塩土器，早島式土器等の土器片や石器，貝等縄文時代から中世にかけての遺物が混在している。調査区西端の中央から南で，約８ｍにわたって南北方向に流走する河道の東の肩部が検出された。埋土は下層に灰色粗砂層，上層に茶灰色粘質土層が堆積している。河道の規模等は，西側の肩部等が検出できなかった為不明である。また，時期についても遺物等が少なく不明である。

５．Ｅ区の調査

Ｅ調査区（第22図）は磯ノ森貝塚の存在する台地の北東端に位置している。ここでは，隣接している磯ノ森貝塚の貝層等は検出されなかったが，調査区中央をほぼ南北方向に帯状の貝層が検出された。また，調査区の東端部では，南北に流走する河道の西側の肩部が検出された。

貝層は自然堆積層である暗灰色ピート層（第14層）の直上の海抜90～100cm程のところで検出された。貝層の幅は北端で130cmと最も広く，次第に細くなり南端では約50cmを測る。貝層の厚さは，最も厚いところで約10cmである。貝層の時期は遺物等から中世頃と考えられる。

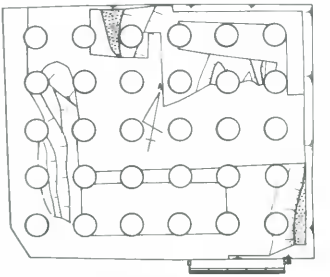


第20図　Ｃ調査区（1/200）

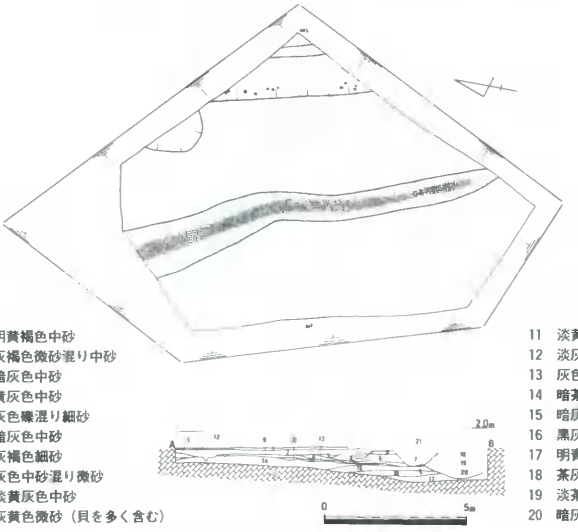
河道は調査区の東端部で，東に下がる肩部が検出された。肩部には約５ｍにわたって護岸の為と思われる杭列が検出されたが，当調査区内においては河道のごく一部が検出されたのみで，東側の肩部は検出することができなかった為，河道の幅，深さ等規模については判然としない。

埋土は上層が茶灰色細砂（第18・19層），下層が暗灰色粘質微砂（第20層）で下層には多くの貝を含んでいる。時期についても遺物等が少なく不明であるが，Ｄ調査区において東側の肩部が検出された河道と同一の河道と考えられる。

当調査区の旧地形は，台地側の西から東に向って緩やかに下がり，第14層から下は植物遺体を含む粘質土（ピート層）か，ほぼ水平に堆積している無遺物の自然堆積層である。これより上の層は，いずれも砂層を中心とした堆積層で、第５層，第９層には礫を含んでいる。



第21図　Ｄ調査区　(1/300)



1　明黄褐色中砂
2　灰褐色微砂混り中砂
3　暗灰色中砂
4　黄灰色中砂
5　灰色礫混り細砂
6　暗灰色中砂
7　灰褐色細砂
8　灰色中砂混り微砂
9　淡黄灰色中砂
10　灰黄色微砂（貝を多く含む）
11　淡黄灰色粗砂
12　淡灰色中砂
13　灰色微砂
14　暗茶灰ピート
15　暗灰褐色土
16　黒灰色粘質土
17　明青灰色粘質微砂
18　茶灰色細砂
19　淡茶灰色細砂
20　暗灰色粘質微砂

第22図　Ｅ調査区　1/200

礫と共に石器・サヌカイト片・須恵器・土師器・製塩土器・魚骨・獣骨等，縄文時代から中世にかけての遺物が混在して出土している。

1（第134図）は土製の土錘，**118**（第134図）は石製の紡錘車である。

第5節　遺構に伴わない遺物

遺物は縄文時代前期から中世にいたるまで認められた。遺物の出土状態は，各調査区に認められた砂礫層中に多く包含されていた。また，A区の西端に認められた旧河道から，中世の遺物を多く出土している。この旧河道の下に堆積する砂礫層は，A区の上層断面で示したようにその影響を受けていることがわかるのである。このことはB・C・D・Eの各調査区においてその影響はさらに大きかったことが，砂を主体とする堆積層によっても明らかである。

ここにおいては，これから出土している遺物について若干の説明を加えておきたい。

縄文時代前期の土器（第23・24図　図版115－2・116－1）

A・B・Cの各調査区から出土しており，絶対量は少ないが，B区から比較的多く出土している。**7**から**47**までがこれに相当する。**7**は，波状口縁で，端部にキザミを有するものである。口縁部外面を肥厚させ，外面LRの縄文を施文する。肥厚部下端は連続押圧痕がみられ，調整は外面口縁下と内面に横のアルカ属の条痕がみられる。アルカ属の条痕がみられる土器はこれだけである。また量的には，爪形文を有するもの**10**・**11**内外面に押圧痕を残し外面に棒状の工具による押し引き文を有する薄手のタイプの土器が少ない。

器面の突帯上に押し引き文を有するもの**20**・**23**～**26**口縁端を内側に折り返し，その部分に縄文帯をつくるもの**21**・**23**など一群のものが量的に増えてくる。さらに内面に縄文の施文帯を肥厚気味につくる**37**・**38**小さい爪形をもつもの**36**突帯上に押し引き文がないもの**43**などが比較的多く出土している。

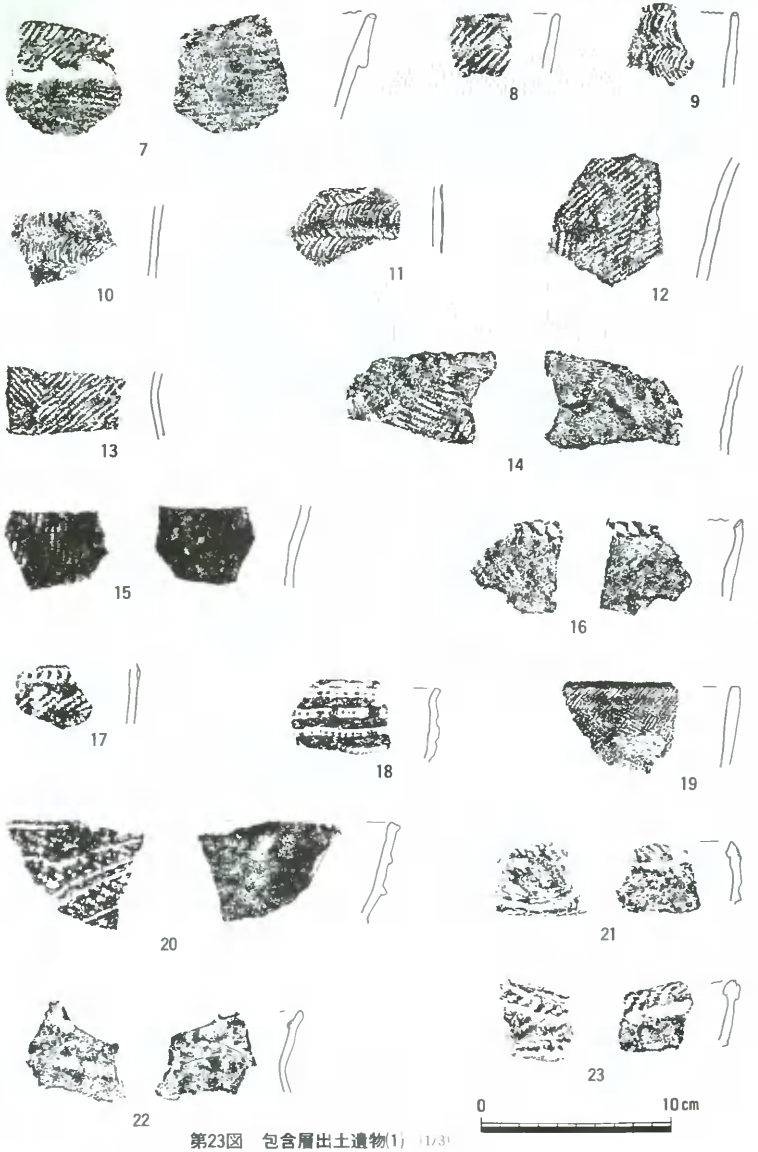
しかし，後期から晩期にかけての出土量に比して，少量というべきであろう。

縄文時代中期の土器（第25・26・27図　図版116－1・2）

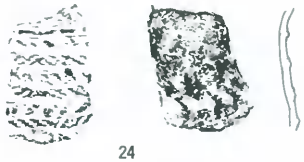
A・B・Cの各調査区からの出土がみられるが，B区からの出土が少なく，また全体の出土量からすれば前期のものと同様に絶対量は少ない。

突帯を有するもの**48**アルカ属の押圧痕を付すもの**49**～**51**爪形文を有するもの**53**・**57**などの一群がみられる。また，縄文地文に半截竹管による沈線文を多用する一群がみられる。これらの土器群の縄文は，極めて硬い原体によって施文される特徴を有している。

72・**75**は，縄文が深く浅く交互に施文される特徴的な一群である。**74**・**76**は，撚糸文を施文とするものである。**77**は，撚糸文の地文のない沈線文による土器である。



第23図　包含層出土遺物(1)　(1/3)


24

25

26

27

28

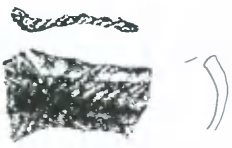
29

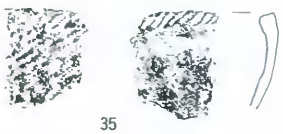
30

31

32

33


34

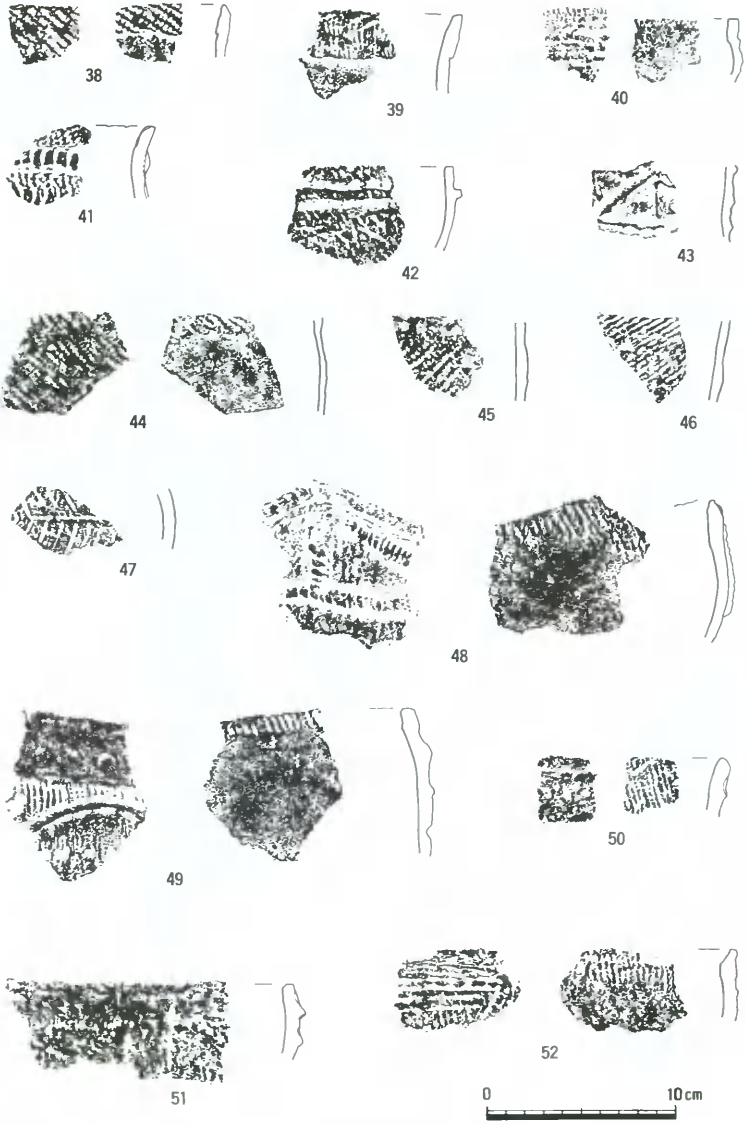

35

36

37

0 10cm

第24図　包含層出土遺物(2) (1/3)



第25図　包含層出土遺物(3)　(1/3)

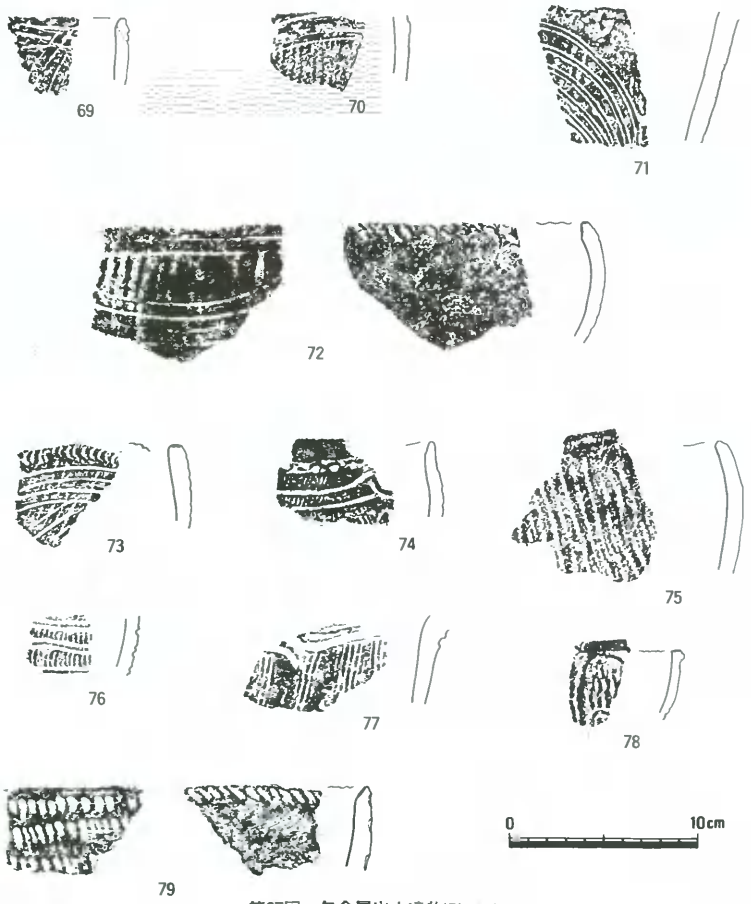
第26図　包含層出土遺物(4)　1/3

以上が縄文時代中期の土器であるが，前半期のものが多く，後半期になるにつれて絶対量は少なくなるようである。

縄文時代後期の土器（第28～71図　図版116－２～123－１）

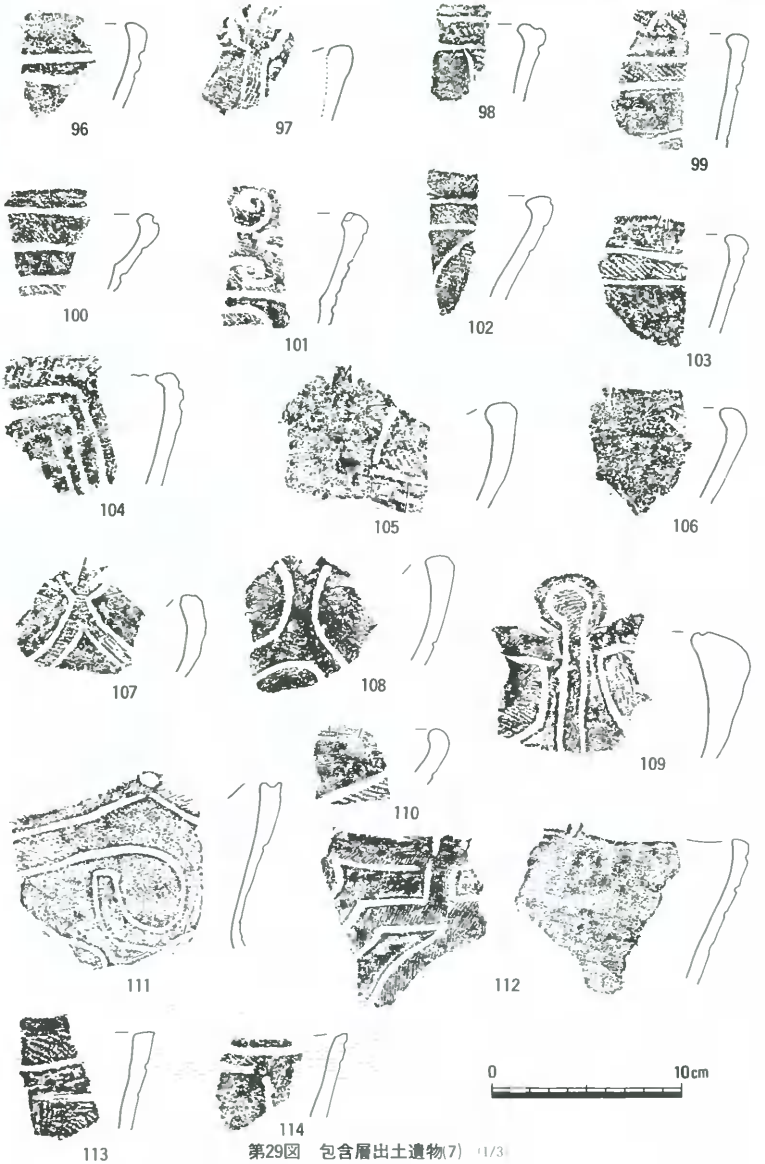
舟津原遺跡において，晩期の次に多くの出土量があるのがこの時期で，**80～907**までがこれに相当する。

80～86は，太い沈線を用いアルカ属の条痕，円形の囲いの中に刺突文を施文する一群である。



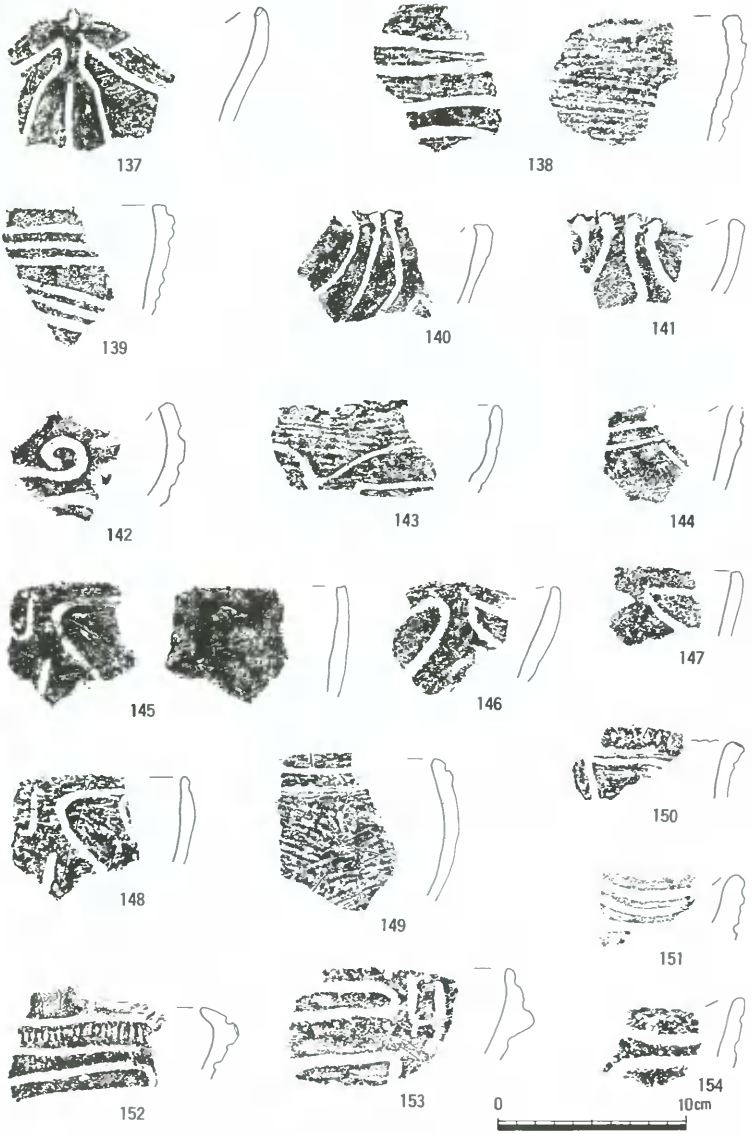
第27図　包含層出土遺物(5) (1/3)

第28図　包含層出土遺物(6)　(1/3)



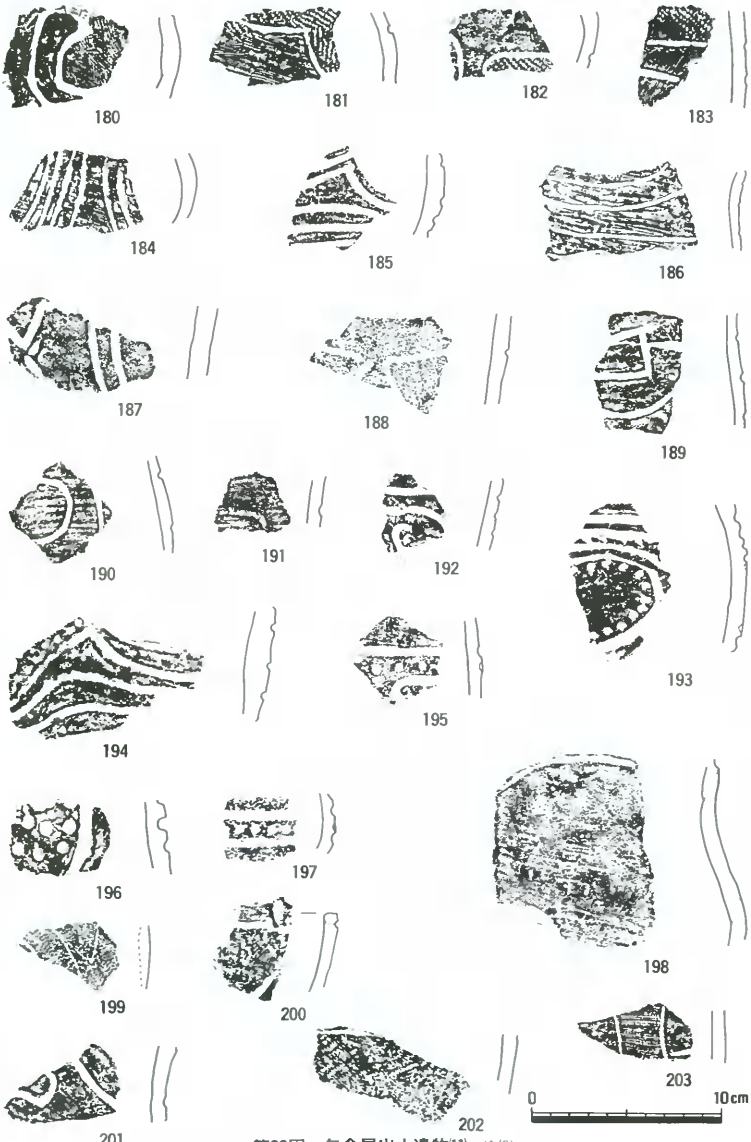
第29図　包含層出土遺物(7)　(1/3)

第30図　包含層出土遺物(8)　(1/3)

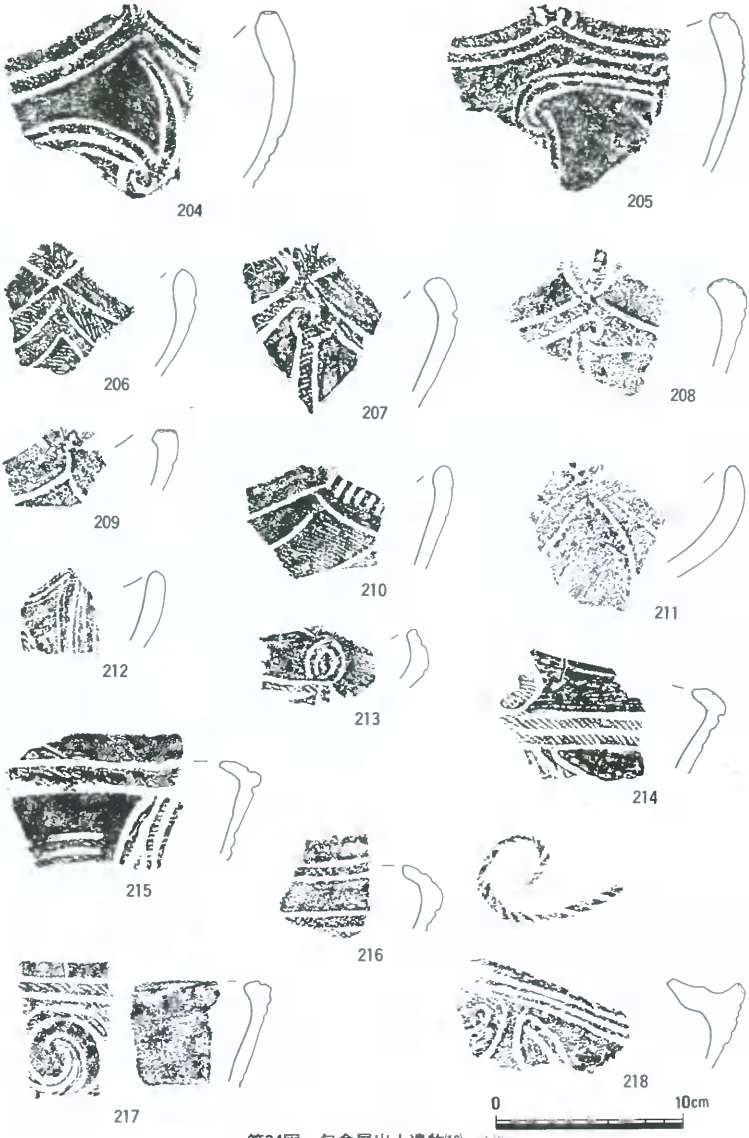


第31図　包含層出土遺物(9)　(1/3)

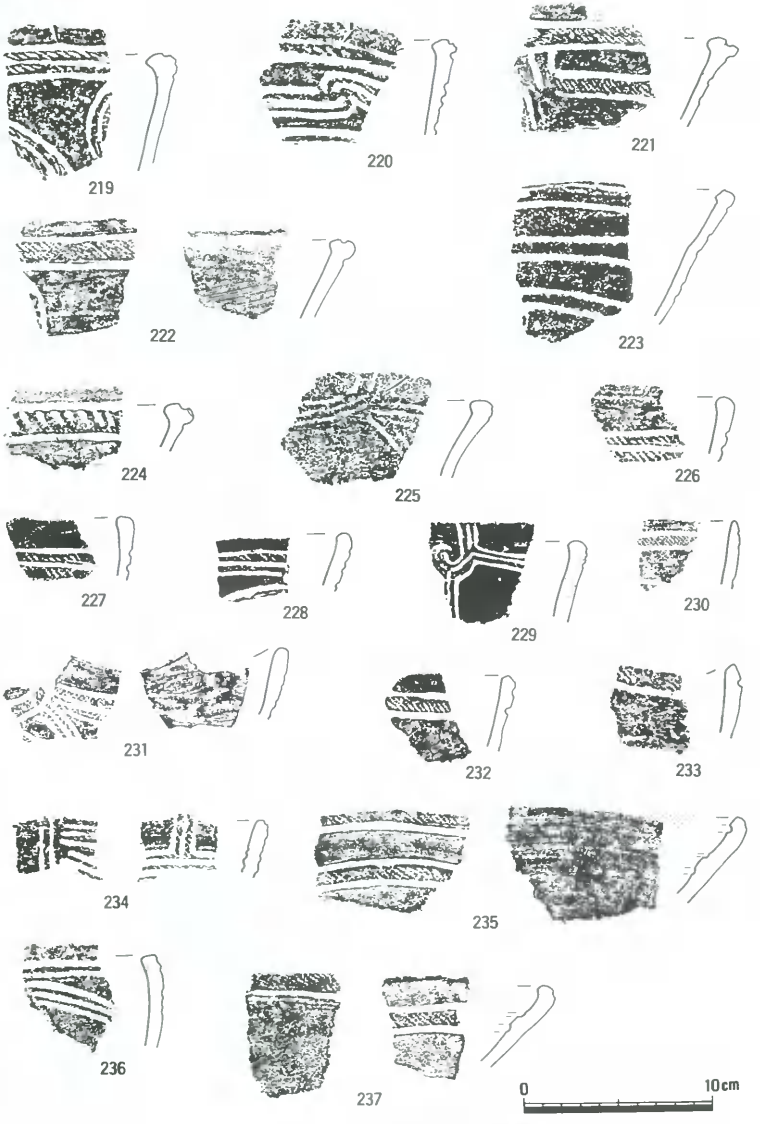
第32図　包含層出土遺物(10)　(1/3)



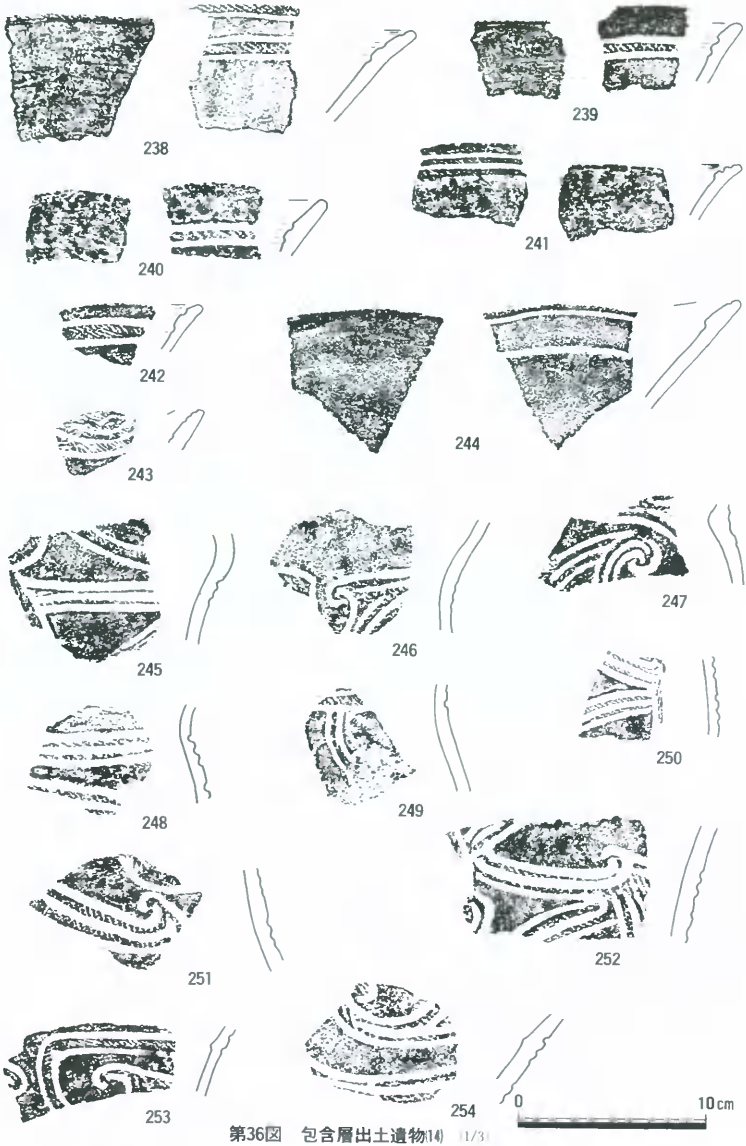
第33図　包含層出土遺物(1)　(1/3)



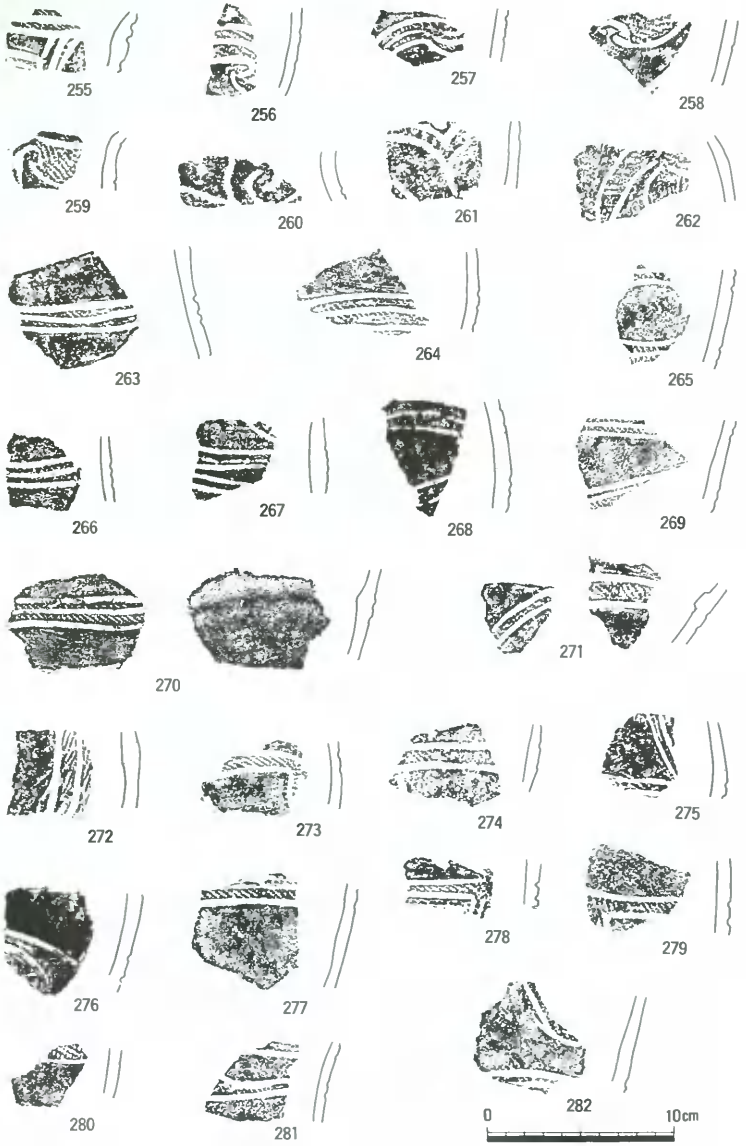
第34図　包含層出土遺物(12)　(1/3)



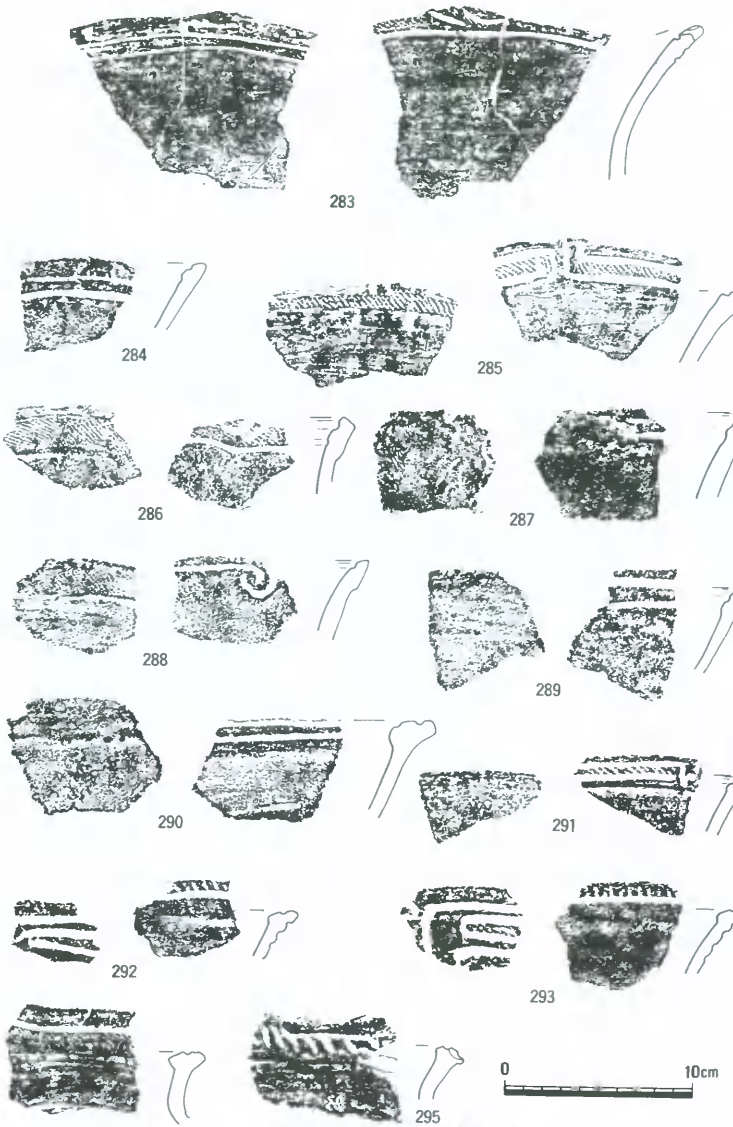
第35図　包含層出土遺物(13)　1/3



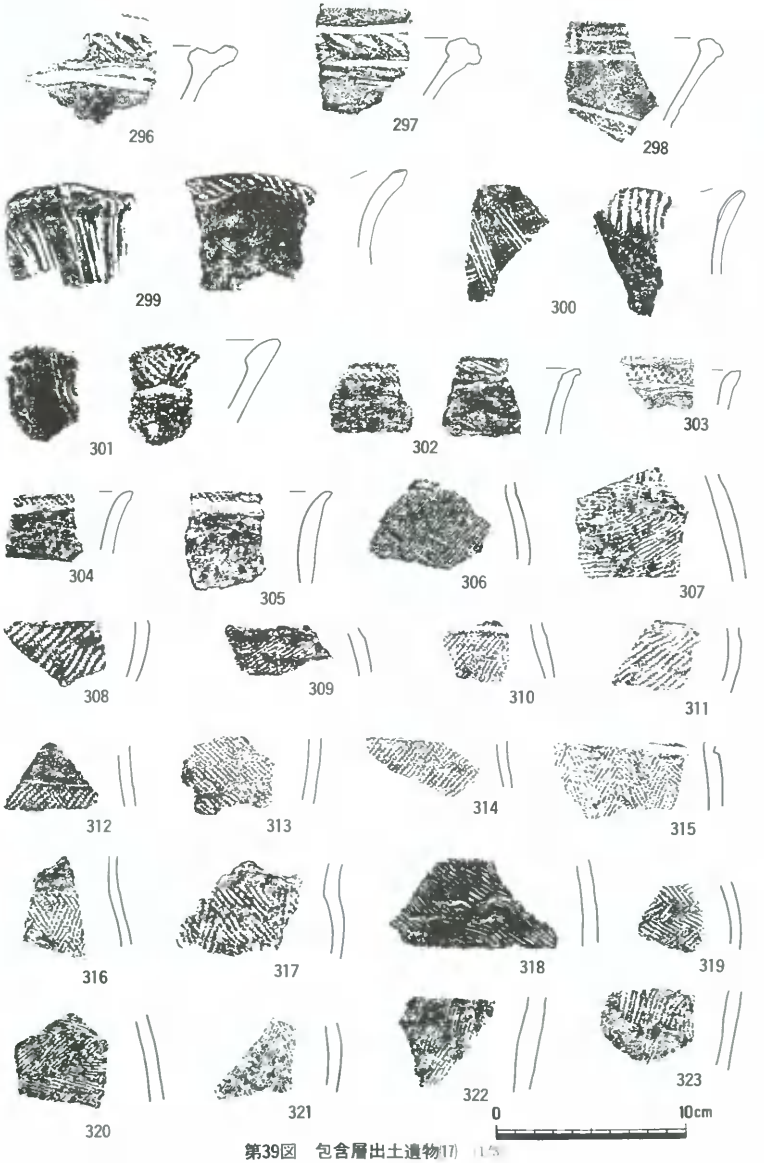
第36図　包含層出土遺物(1/4)　(1/3)



第37図　包含層出土遺物(5)　(1/3)



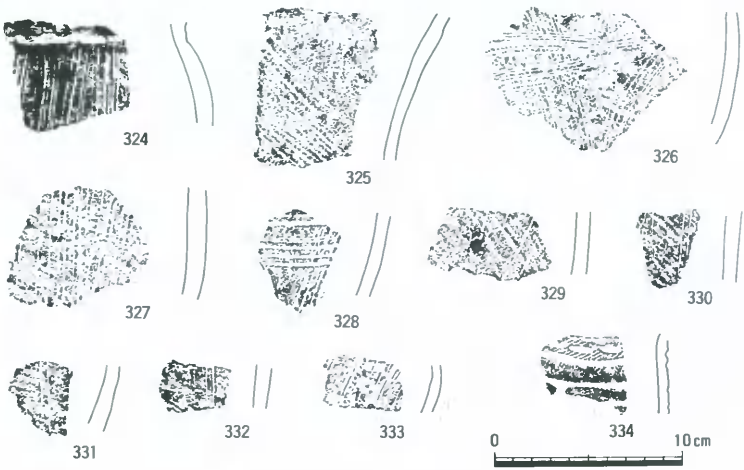
第38図　包含層出土遺物16)



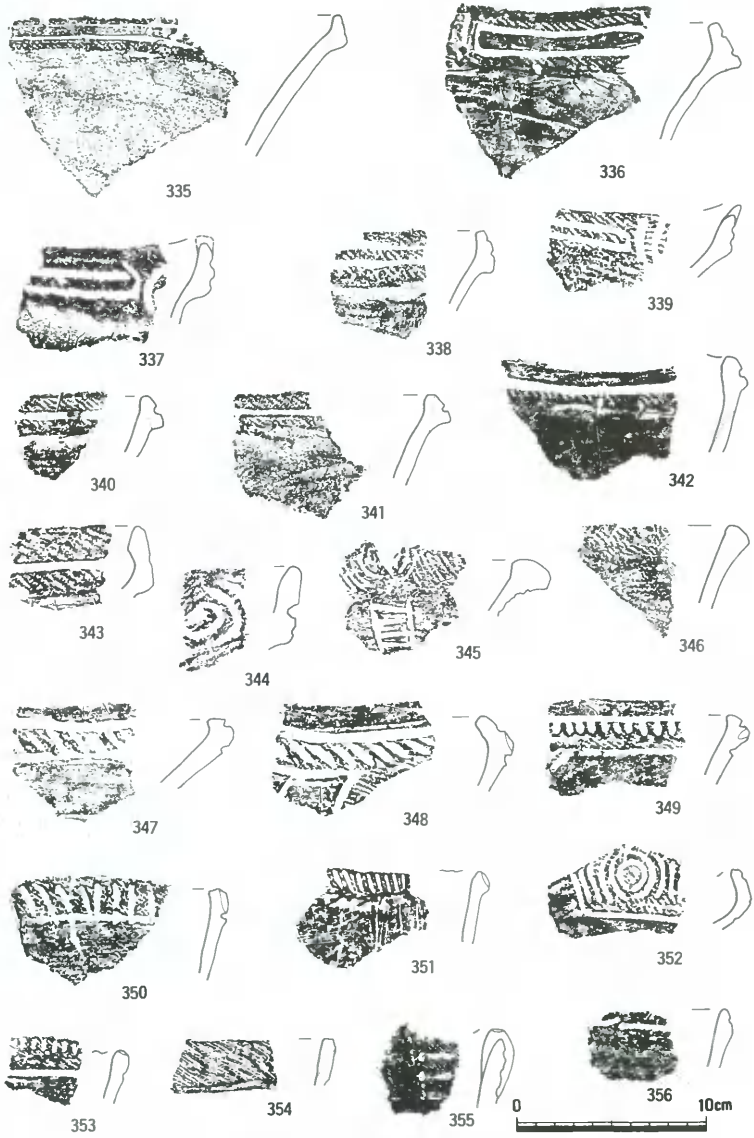
第39図　包含層出土遺物(7)　(1/3)

82は，縄文地文に沈線を施文するが，磨消縄文とはならない。86もこれと同様である。80は，アルカ属の地文に横の太い波状沈線を３本施文している。81は，内傾する口縁部に円形の開いをして内に円形の刺突文を充填する。87～203は，太い沈線を用い，曲線を多用し，文様は磨消縄文あるいは沈線文だけの土器である。口縁部は，波状をとらないものがみられる。115のように山形状の波状文もみられる。文様は，87・111にみられるように曲線を用いた鉤状文を構成するものが多く認められる。また，112・123・135のように沈線のコーナーが直角となるような文様を構成するものも存在している。138・143は，巻貝条痕地文に沈線文を施文するものである。193は，胴部の破片であるが，沈線文のもので中央の円形状の囲内に円形の刺突文を沿わせている。197は，沈線の間に施文している。200は，巻貝の擬縄文による磨り消しをおこなうものである。199は，沈線が極めて細いものである。また，180・201にみられるように，沈線区画外に縄文を施文し，区画内を無文としているものもみられる。204～282は，３本あるいは２本の沈線の先端が巻き込み，向い合う沈線は連続しないという特徴的な土器群である。またこの土器群は，口縁内面を肥厚させて縄文帯となる浅鉢形土器が多く認められる。283～334は，口縁部内面を肥厚する土器群である。肥厚部には，縄文に沈線を施文している。頸部は，基本的に無文帯とし胴部は縄文あるいは垂下条線を施文している。頸部と胴部の境は，削り出しによって段状になる例が比較的多く認められる。

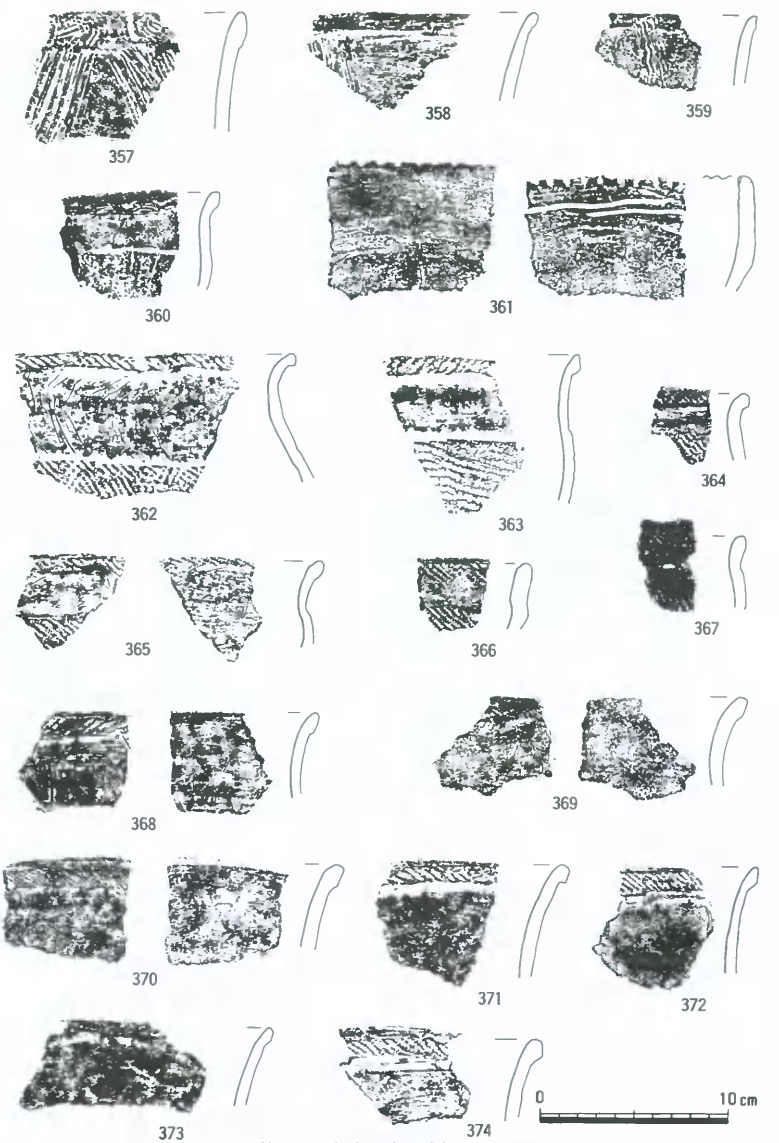
335～412は，口縁外面を肥厚させる土器群である。336は，口縁端部を上方に拡張し，端面



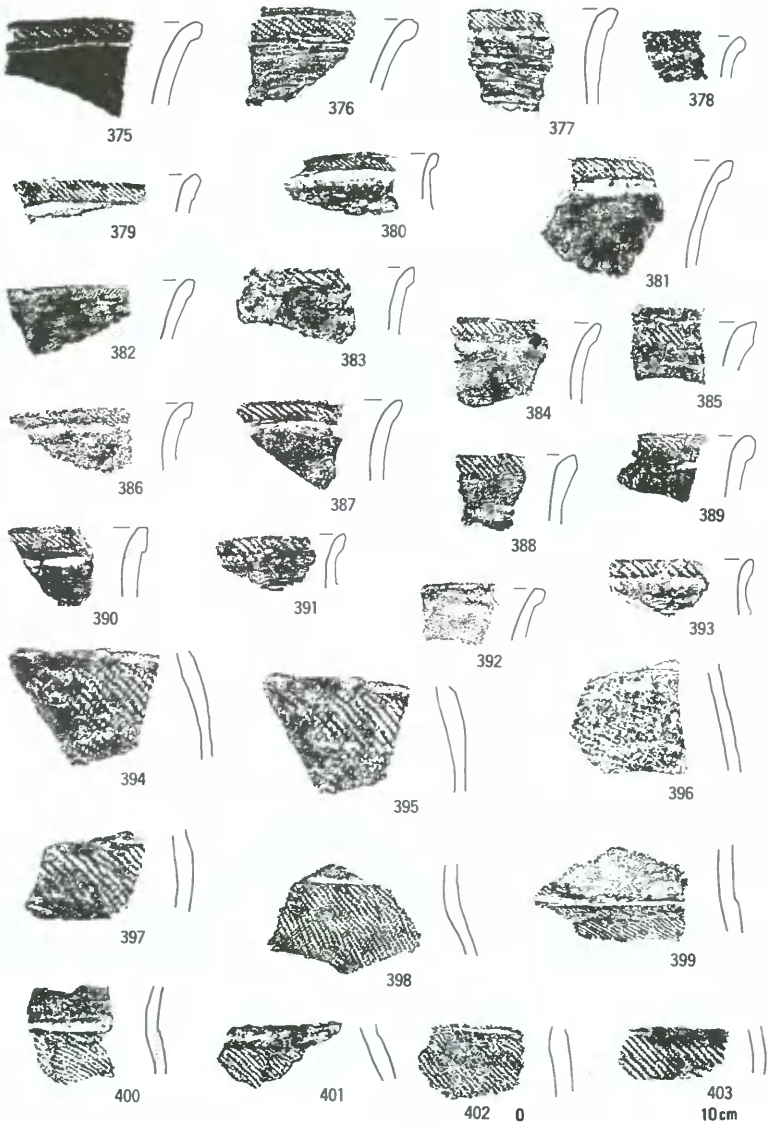
第40図　包含層出土遺物(18)　1/3



第41図　包含層出土遺物(19)　(1/3)



第42図　包含層出土遺物(2/3)

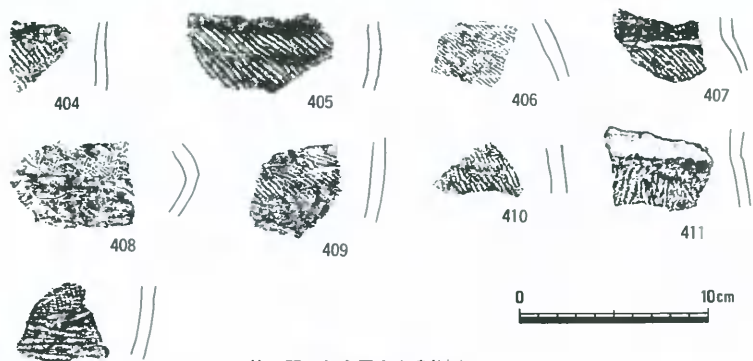


第43図　包含層出土遺物(21)　(1/3)

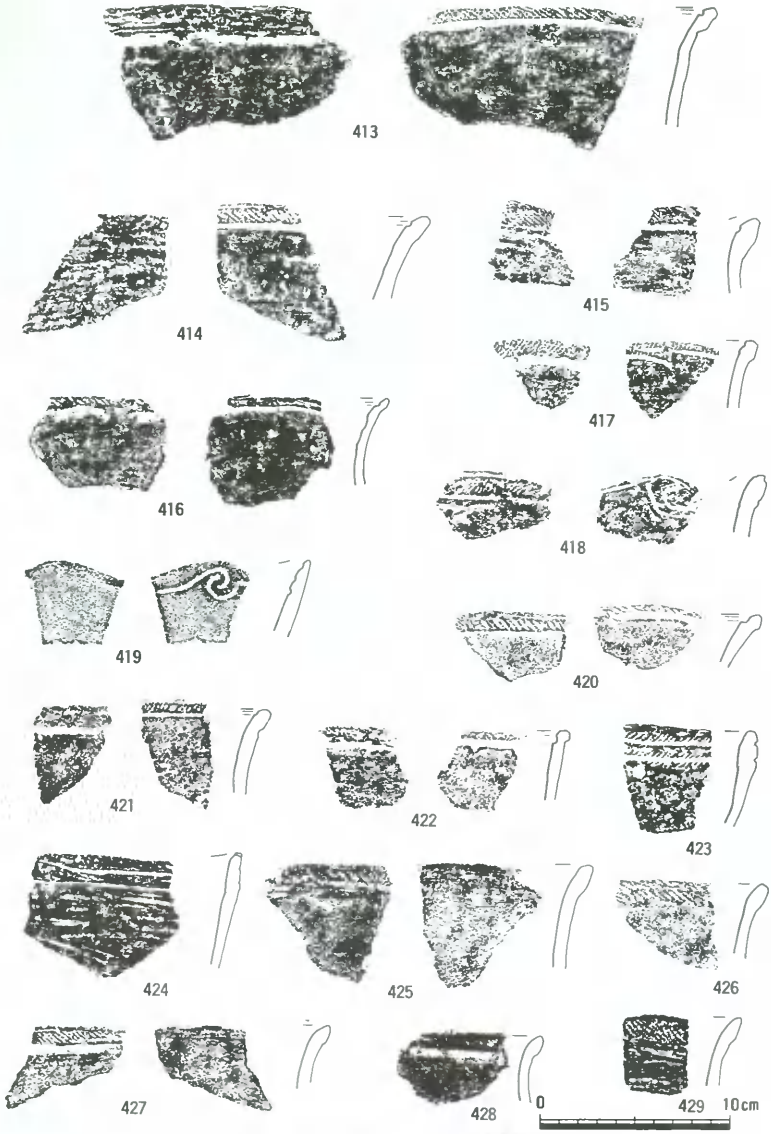
に磨消縄文帯を設けている。345は，口縁端部を丸く肥厚させ，端面に弧文を重ねている。357は，口縁端部を外側に肥厚させ端面に細い沈線による弧文を重ねる。頸部には，同一の施文具により垂下条線を施文している。359は，頸部の垂下条線が，小さい波状を呈している。360は，口縁端面に縄文帯ではなく，波状の沈線を施文している。362は，口縁端部を肥厚させて縄文帯とし，頸部はヘラミガキにより無文帯とする。胴部は，羽状縄文を施文している。399は，胴部破片であるが，胴部文様帯との境は削り出しによっている。

413～446は，口縁内面に沈線と縄文を施文，また口縁部を肥厚気味にして文様帯を形成する土器群である。413は，口縁外面を肥厚させるもので，その外面は無文帯とするが，内面の口縁端部に縄文と沈線を施文する。415は，口縁外面の肥厚部にも縄文を施文するものである。419は，波状口縁を呈するもので，波頂部内面に対向する沈線を巻き込み文様にしている。423は，口縁外面に縄文を施文したあと，２本の沈線を施文している。430は，口縁端部をほとんど肥厚させないもので，口縁端部を平坦にしている。438は，小さい鉤状文を施している。442は，文様帯の下端に結節文を施文するもので，口縁端面は面取りされている。444は，口縁部がキャリパー形になると考えられるものである。446は，沈線の屈曲が強いものである。

447～509は，口縁部の肥厚をほとんどしないもので，口縁内面に沈線と縄文を施文する土器群である。447は，口縁端部を小さく外反気味にし，その内外面に縄文を施文する。また内面には，沈線を施している。452は，波状口縁になるもので，波頂部にキザミを付している。456は，内面に文様帯をもつもので，口縁端部に面取りをおこなっている。463は，口縁内面に結節文を施している。465は，口縁部の内外面に縄文を施文するが，沈線は見られない。486は，Ｌの１段の縄文を施文する。474は，波状口縁で，波頂部に円形の刺突文を施し，そこから沈



第44図　包含層出土遺物(22)　(1/3)

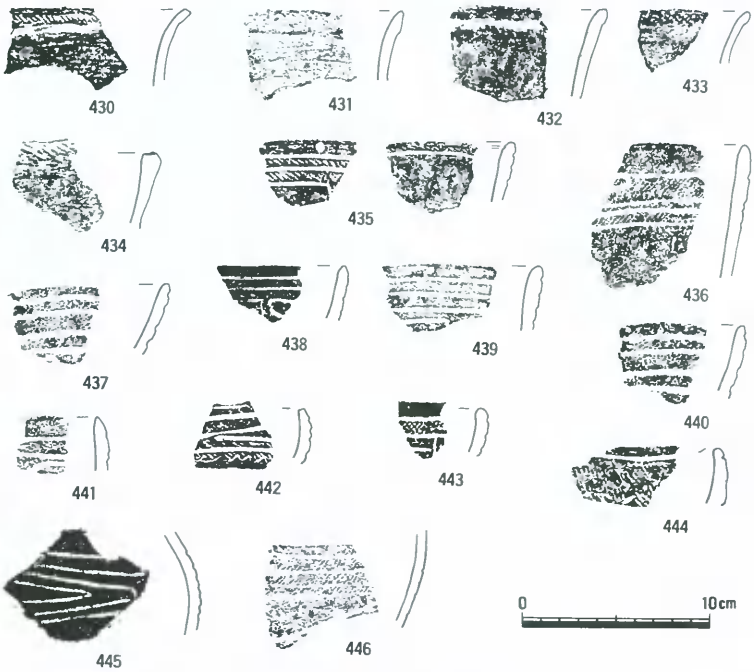


第45図　包含層出土遺物(23)　(1/3)

線を口縁に沿うように施している。496は，胴部破片であり，頸部は無文帯で胴部にはＲＬの縄文を施している。この頸部と胴部の文様帯の境は，沈線によってなされている。498は，頸部と胴部の文様の境は，ヘラの削りだけによってなされている。507は，結節文を施している。

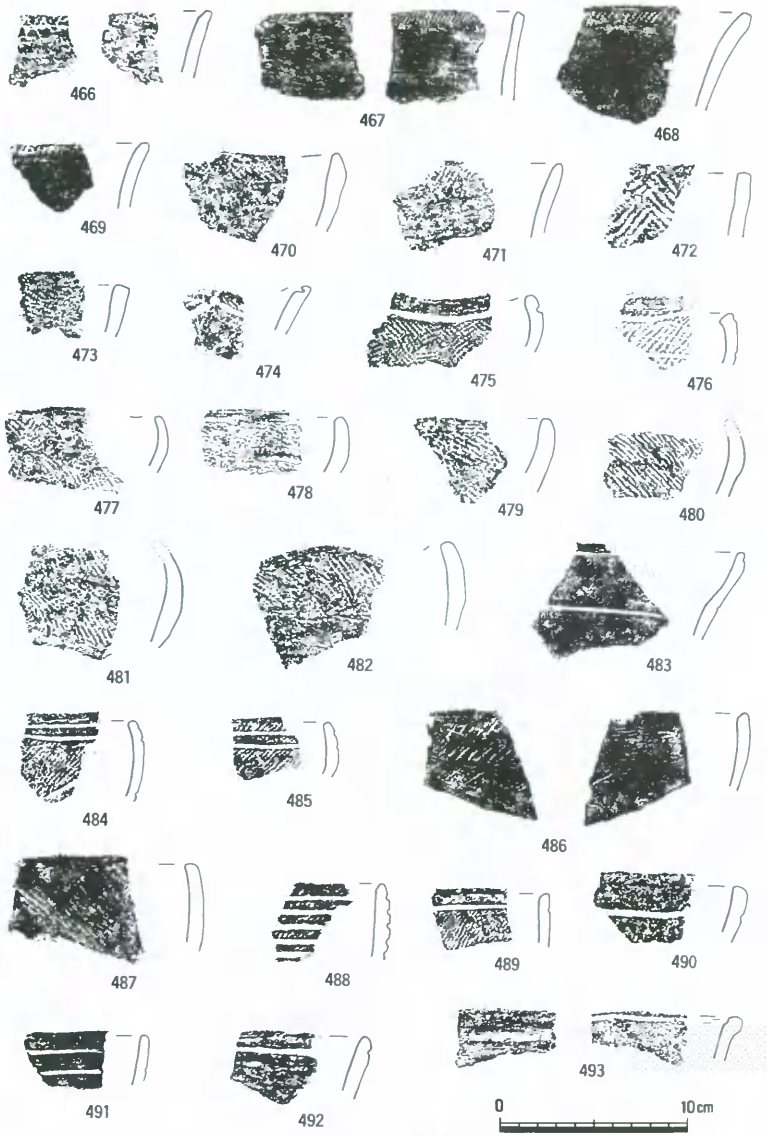
510～530は，外来系の土器と考えられる一群である。510は，短く屈曲する頸部をもち，口縁から胴部にかけて沈線による文様を構成する。513は，頸部屈曲部に文様帯をもつもので，対向する沈線を巻き込む文様を上下に描いている。517は，沈線とキザミを用い，その間に下へ開く連弧文を施文している。524は，ＬＲの地文に平行沈線文を施し，その間に上開きと下開きの連弧文を対向させている。さらに平行沈線文の下には楕円の刺突文を施文している。528は，胴部の平行沈線間にキザミを施すものと，間をおいて下に擬縄文の磨消縄文を施している。529は，口頸部が大きく外反する屈曲部の破片である。屈曲部から上に二段の円形刺突文を施している。

531～566は，口縁部の内外面に沈線を加え，その間に連続したキザミを施文するものである。



第46図　包含層出土遺物(2)　(1/3)

第47図　包含層出土遺物(25)　(1/3)



第48図　包含層出土遺物(26)　(1/3)

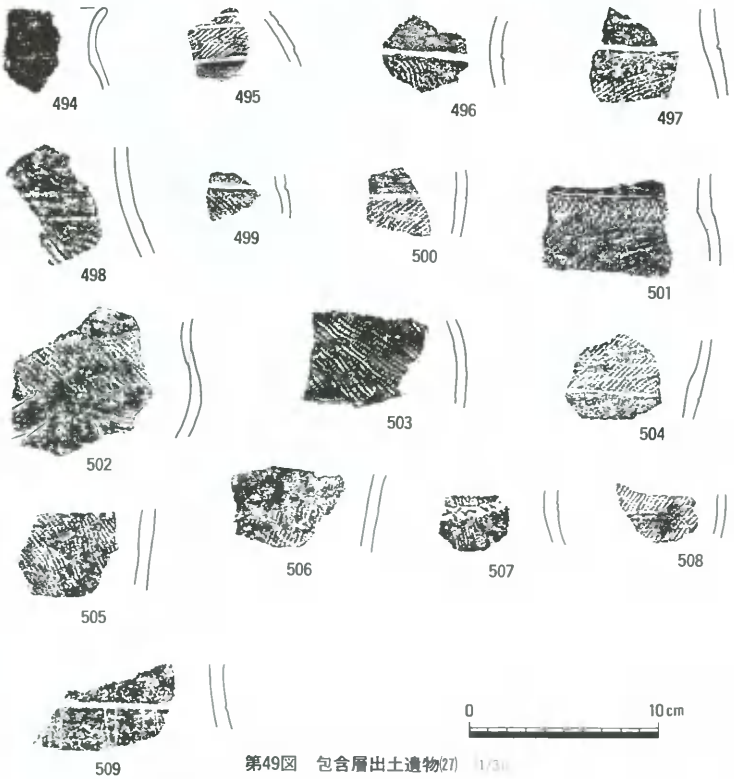
これらは**531**のように胴部屈曲部外面にも認められる。このような土器は，文様の主な構成要素である沈線が，ヘラによって施文されるものである。

567～758は，沈線文，連続キザミメ文，巻貝押圧痕を用いたものである。これらの土器は，文様の主な構成要素である沈線が先に述べたものと異なり，巻貝によって施文されるものである。

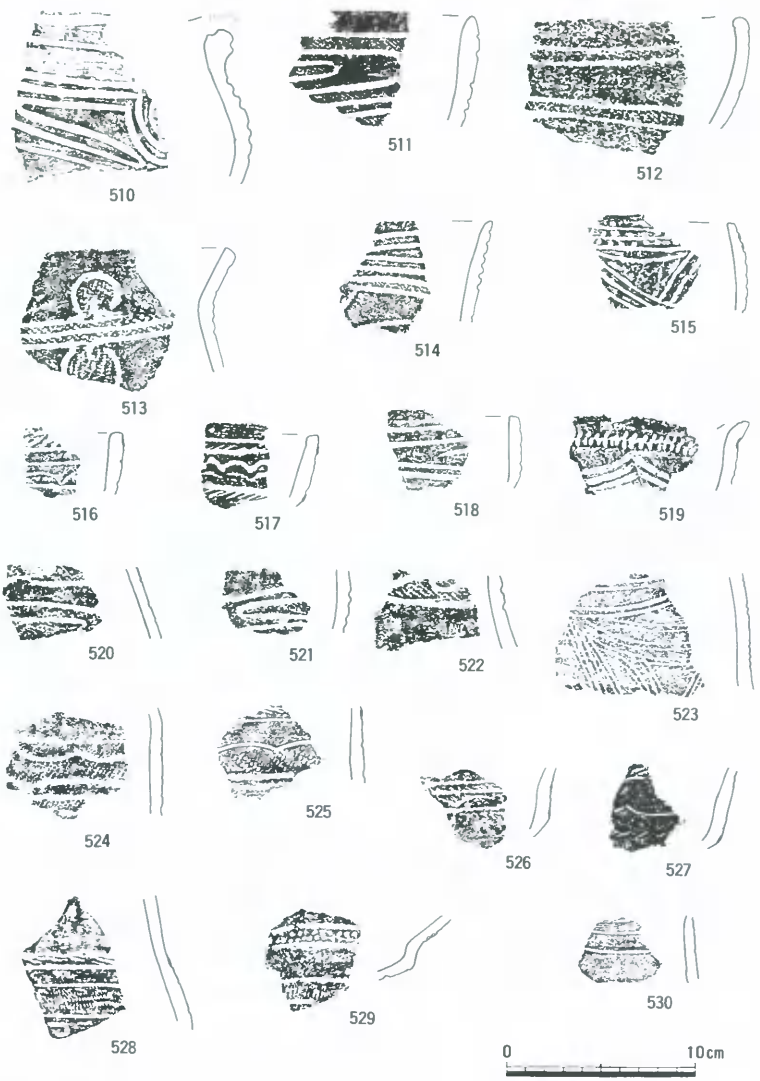
759～907は，無文土器の一群であり，先に述べた後期全体に通じたものに，ほぼ対応するものである。

縄文時代晩期の土器（第72～105図　図版123－２～126－１）

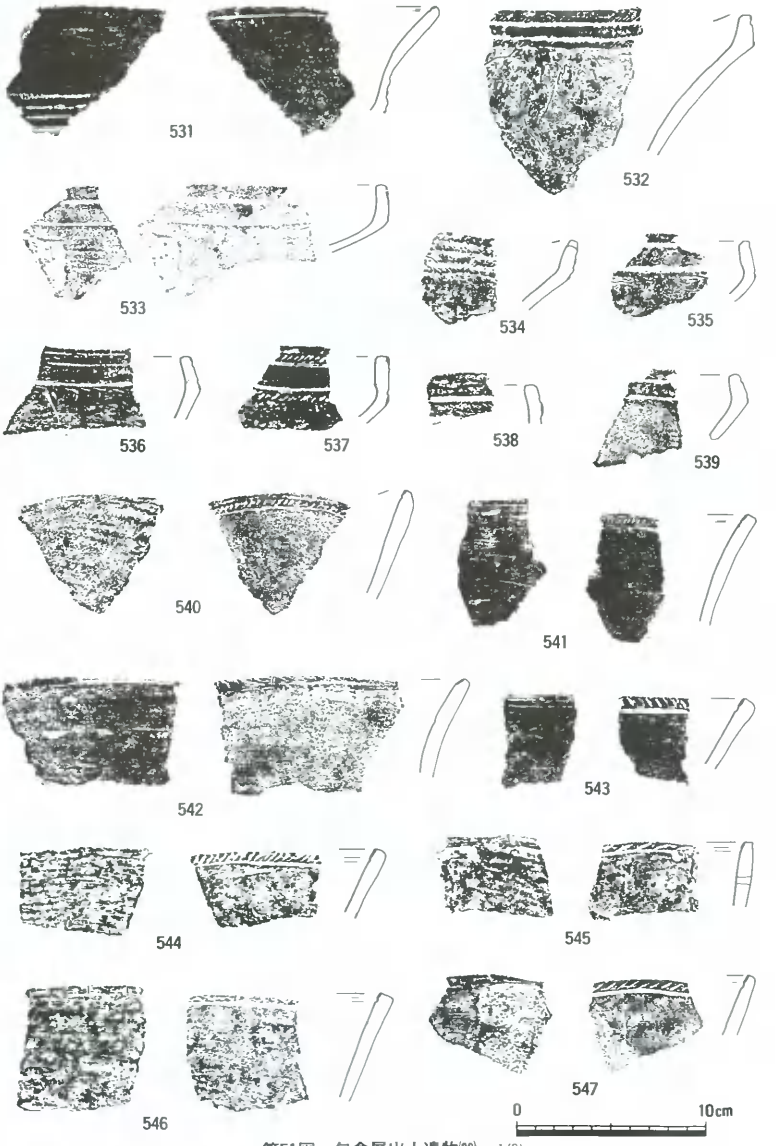
908から**954**は，口縁あるいは胴部に突帯文を有するものである。口縁に突帯を有するものは，その部分にキザミを施文するものとしないものとがみられる。口唇部のキザミもあるものとないものの両者が認められる。また内面の口縁下に段状の沈線を施文するものも存在している。



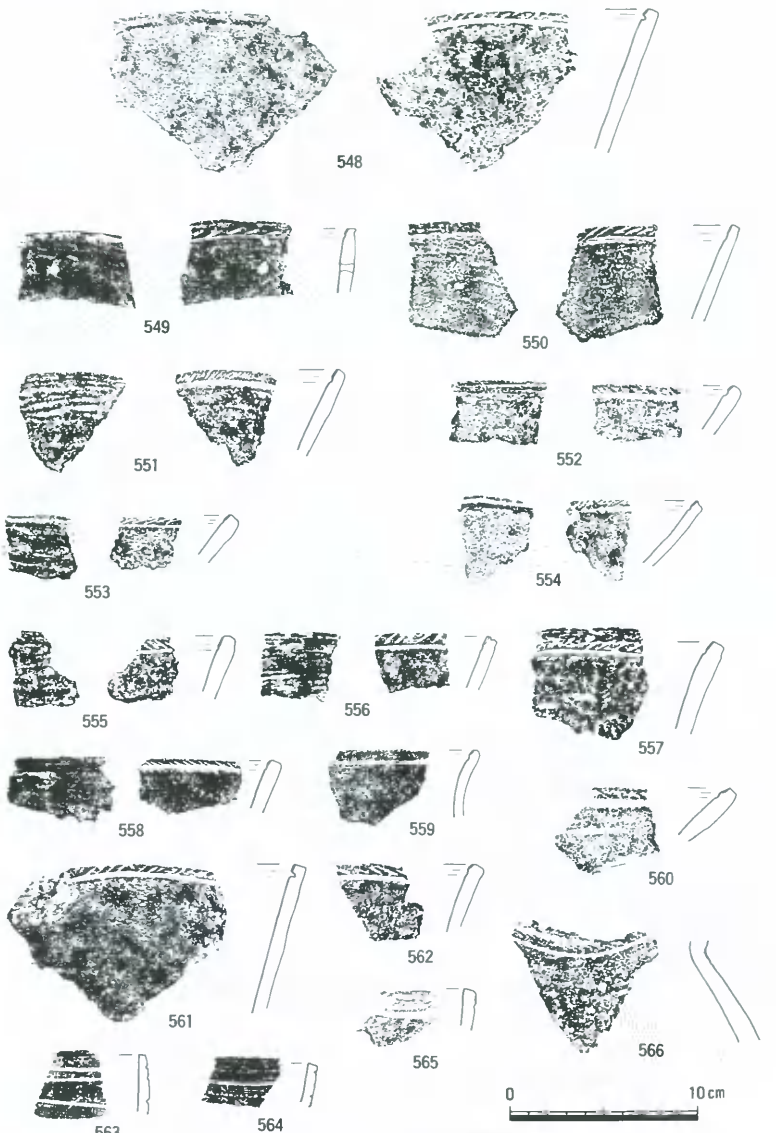
第49図　包含層出土遺物(27)　1/3



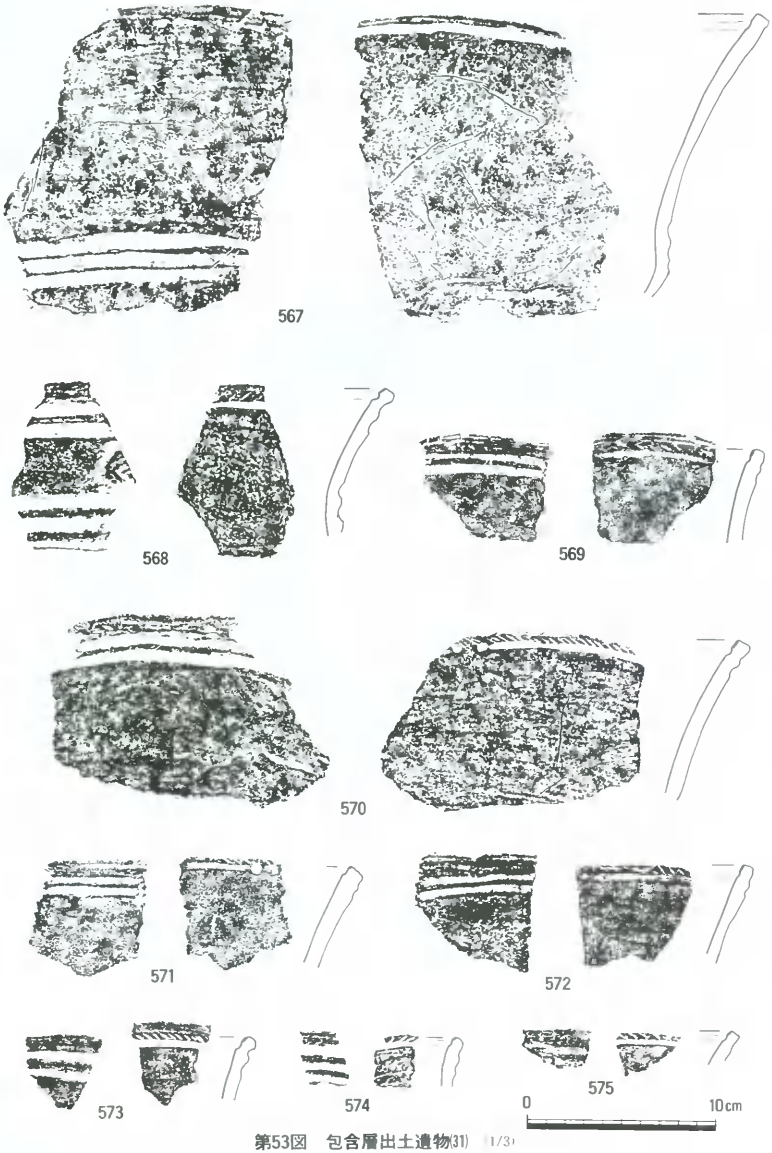
第50図　包含層出土遺物(28)　(1/3)



第51図　包含層出土遺物(29)　1/3



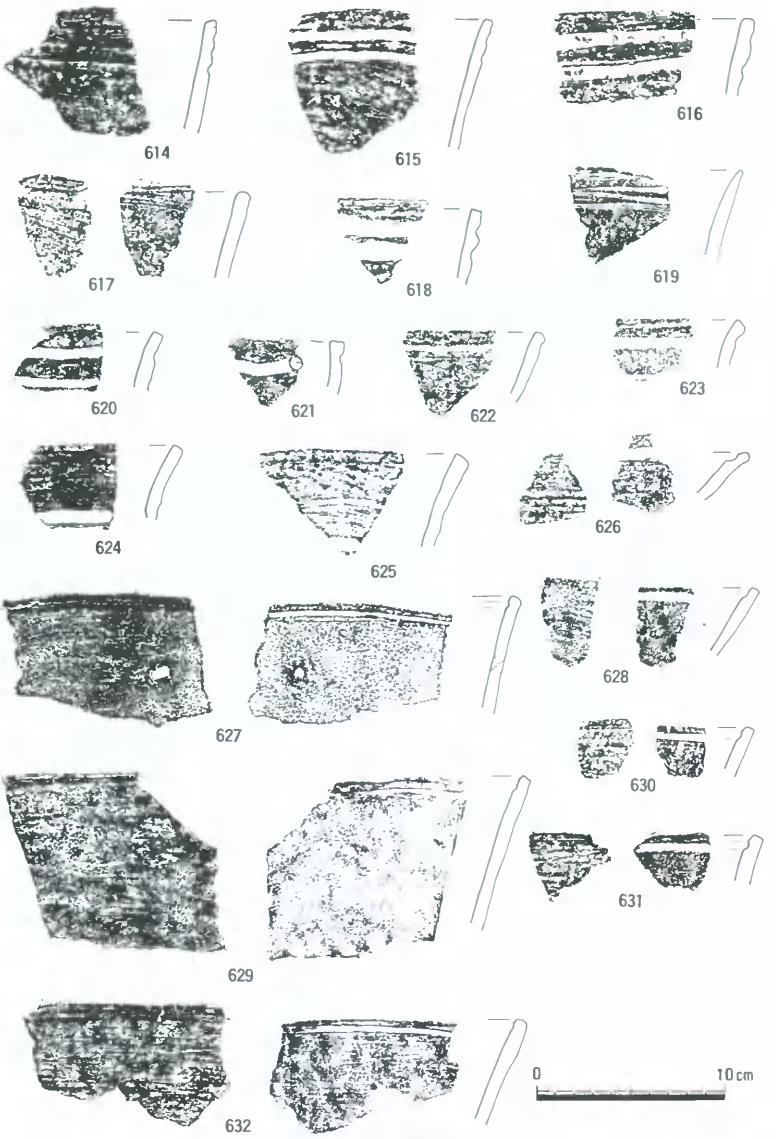
第52図　包含層出土遺物(30)　(1/3)



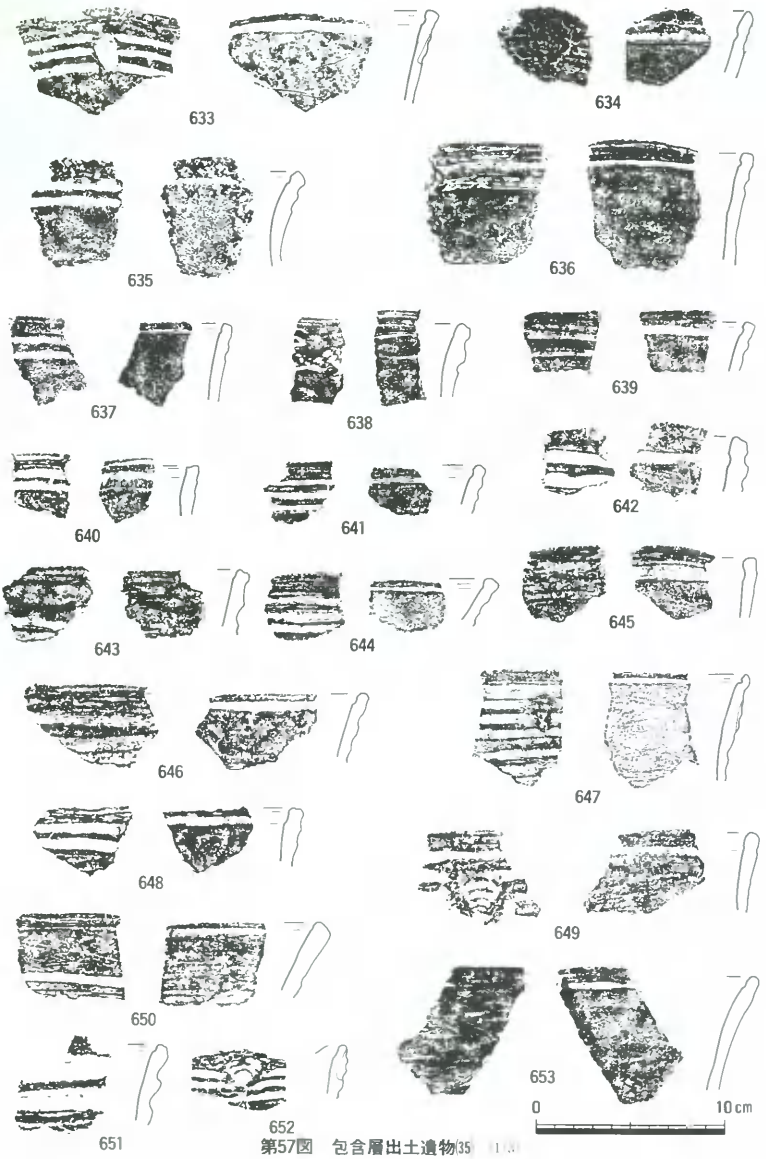
第53図　包含層出土遺物(31)　(1/3)

第54図　包含層出土遺物(32)　1/3

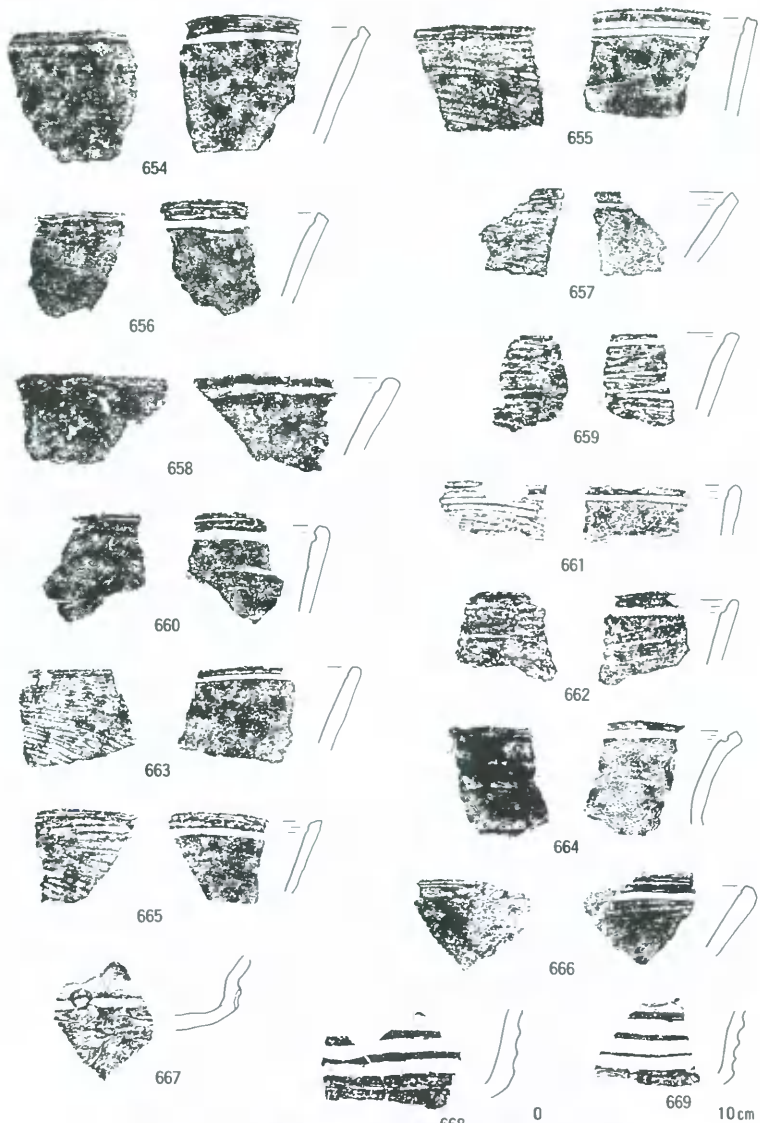
第55図　包含層出土遺物(33)　(1/3)



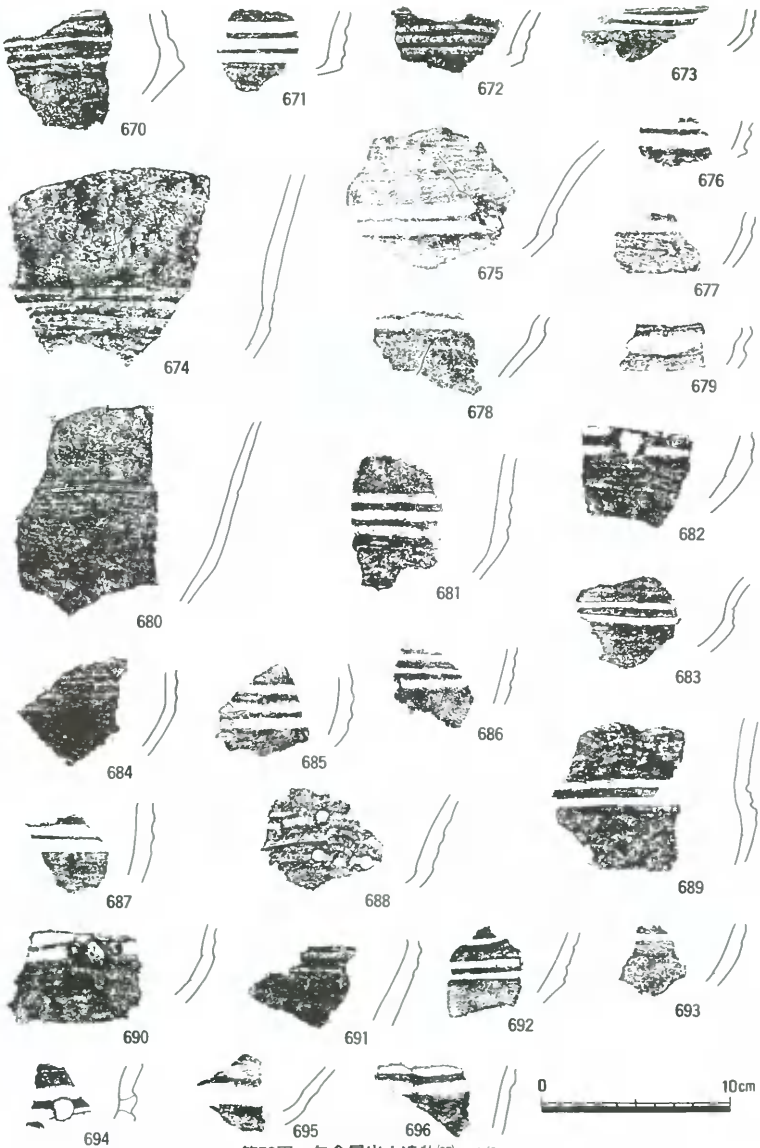
第56図　包含層出土遺物(3・4)　(1/3)



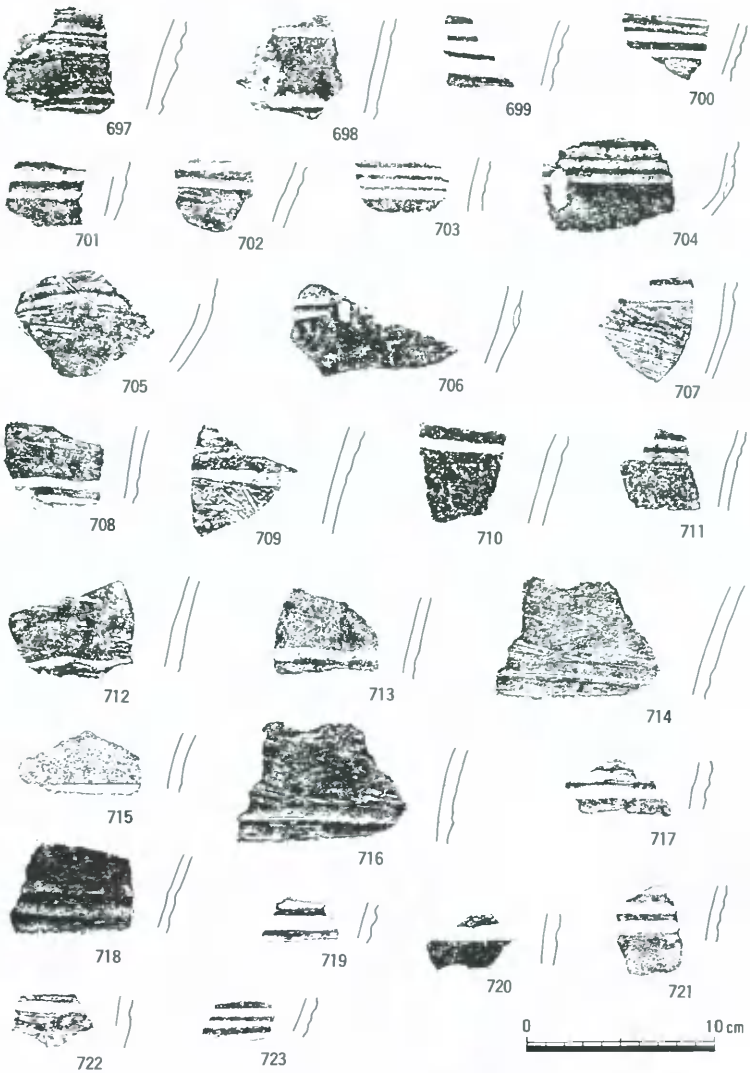
第57図　包含層出土遺物(3/5　1/4)



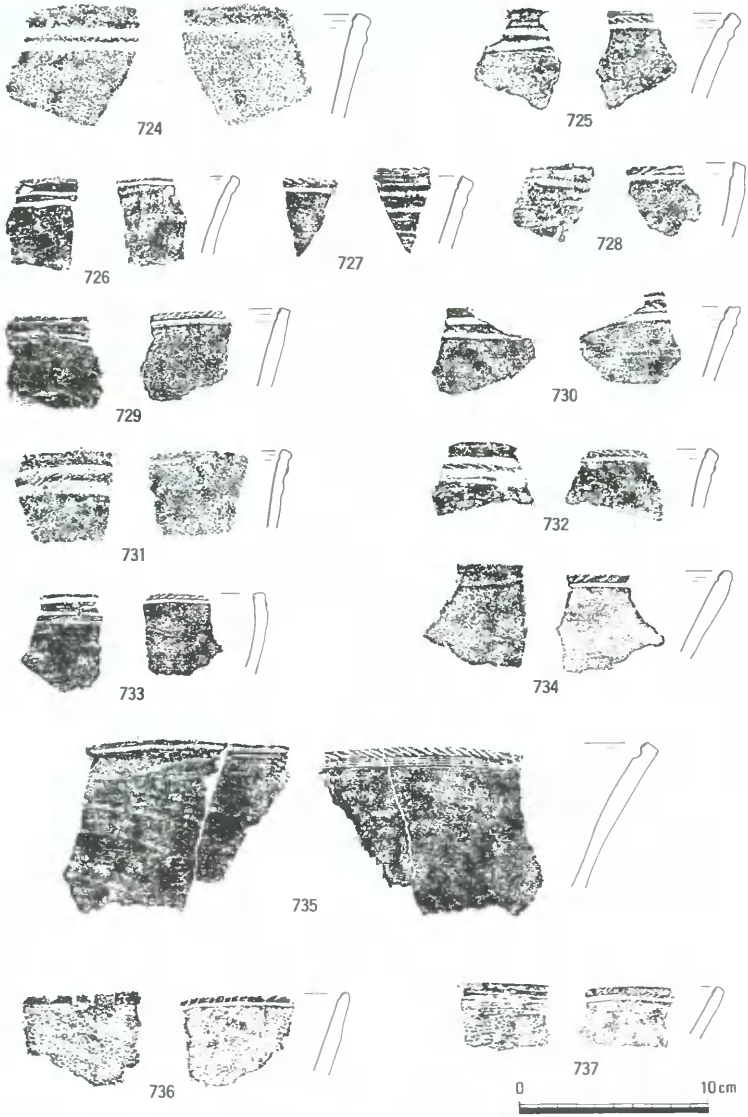
第58図　包含層出土遺物(36)　1/3



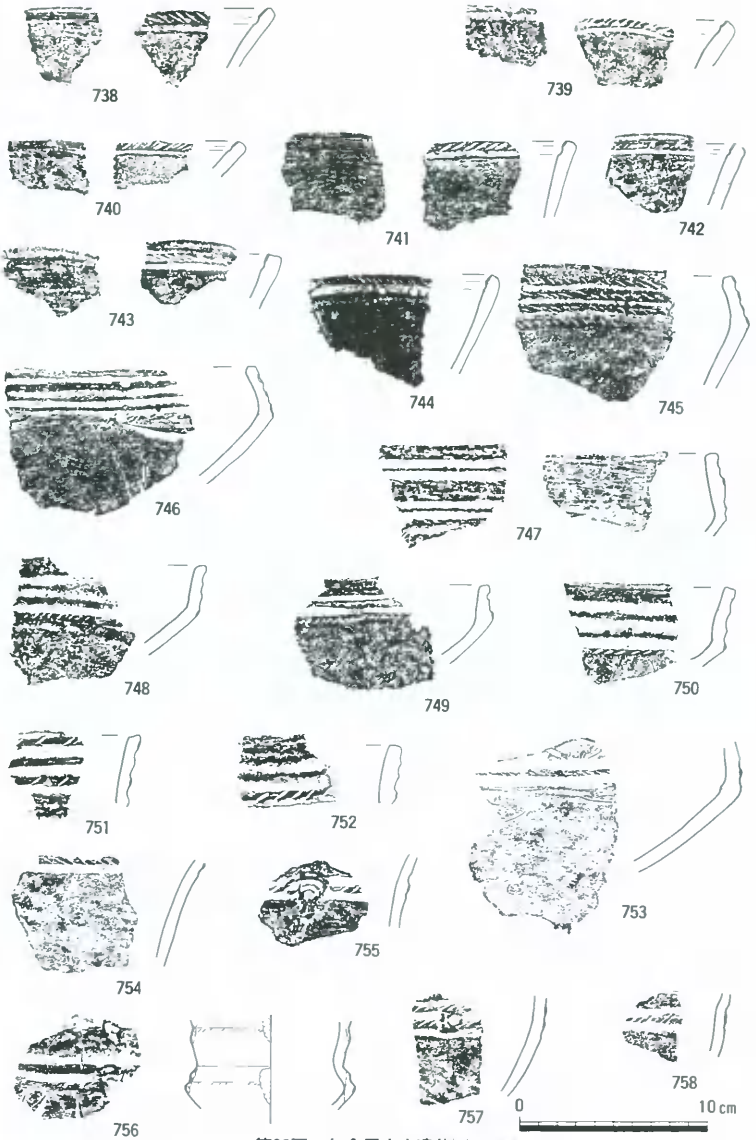
第59図　包含層出土遺物(37)　(1/3)



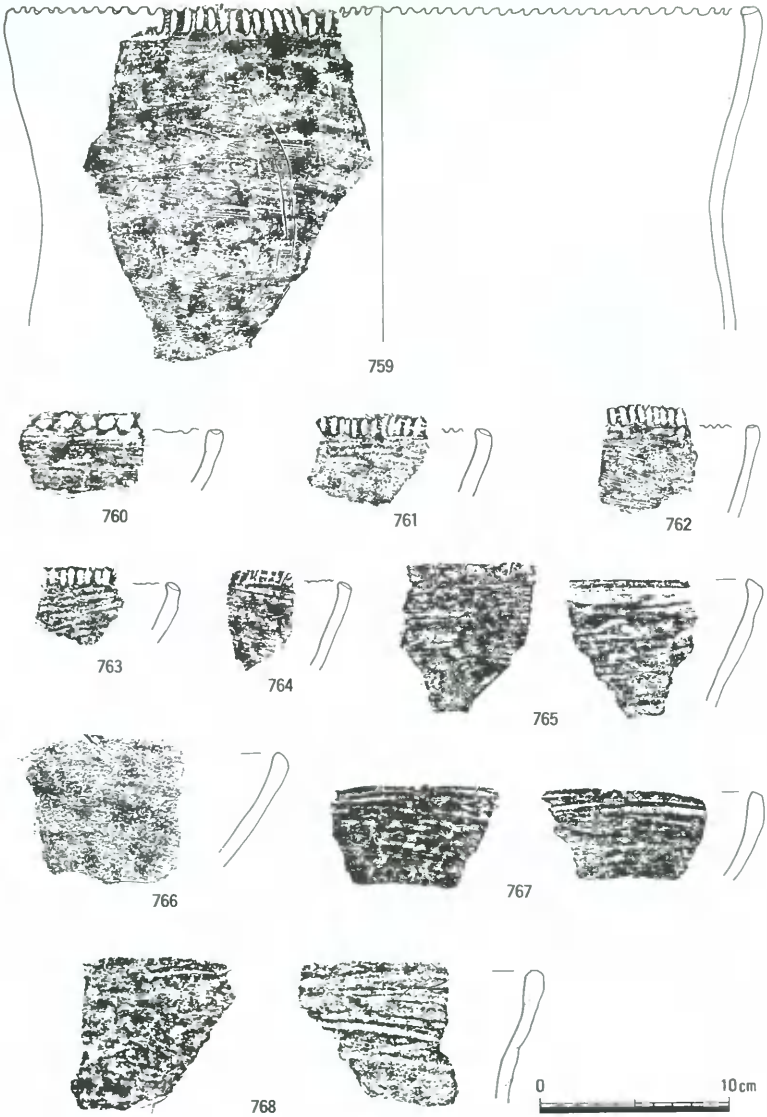
第60図　包含層出土遺物(3B)　1/3



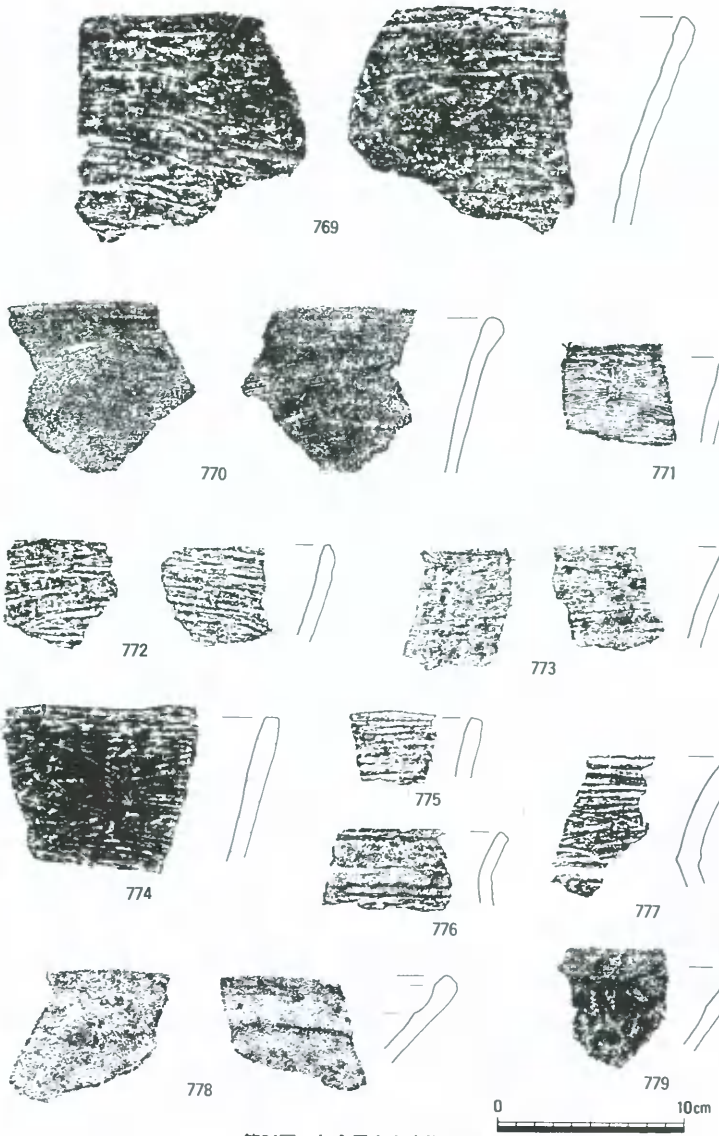
第61図　包含層出土遺物(39)　1/3



第62図　包含層出土遺物(40)　1/3

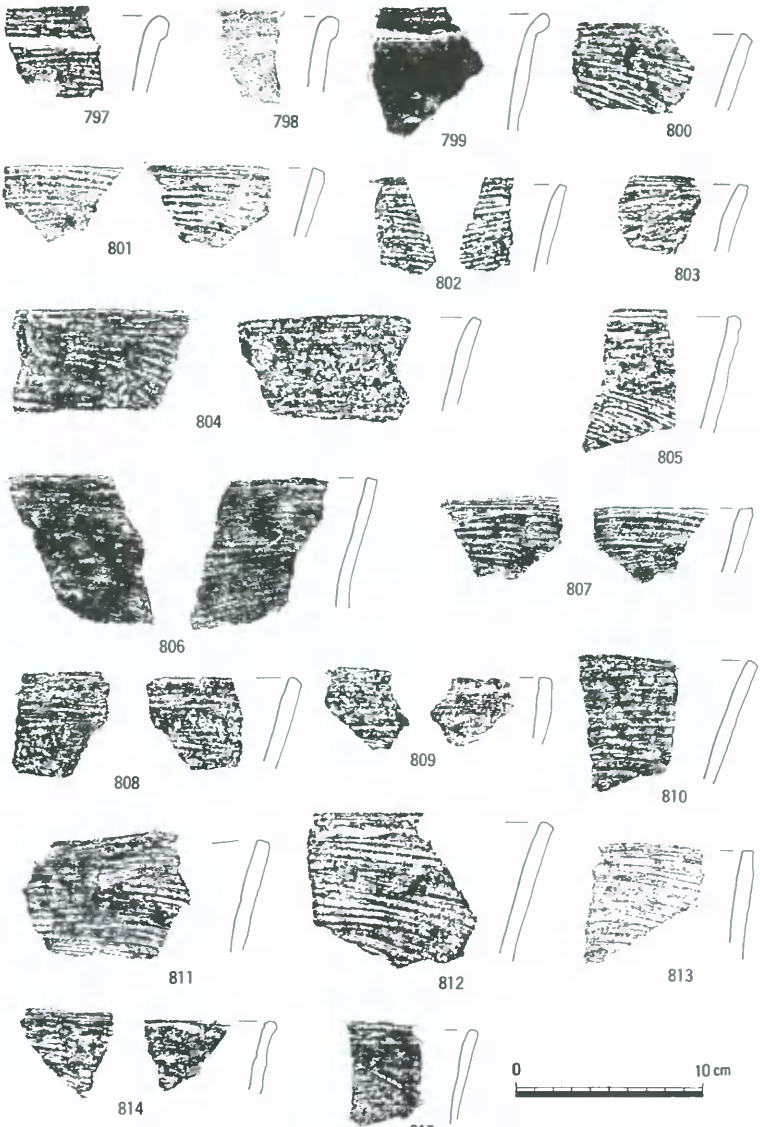


第63図　包含層出土遺物(41)　(1/3)



第64図　包含層出土遺物(2)　(1/3)

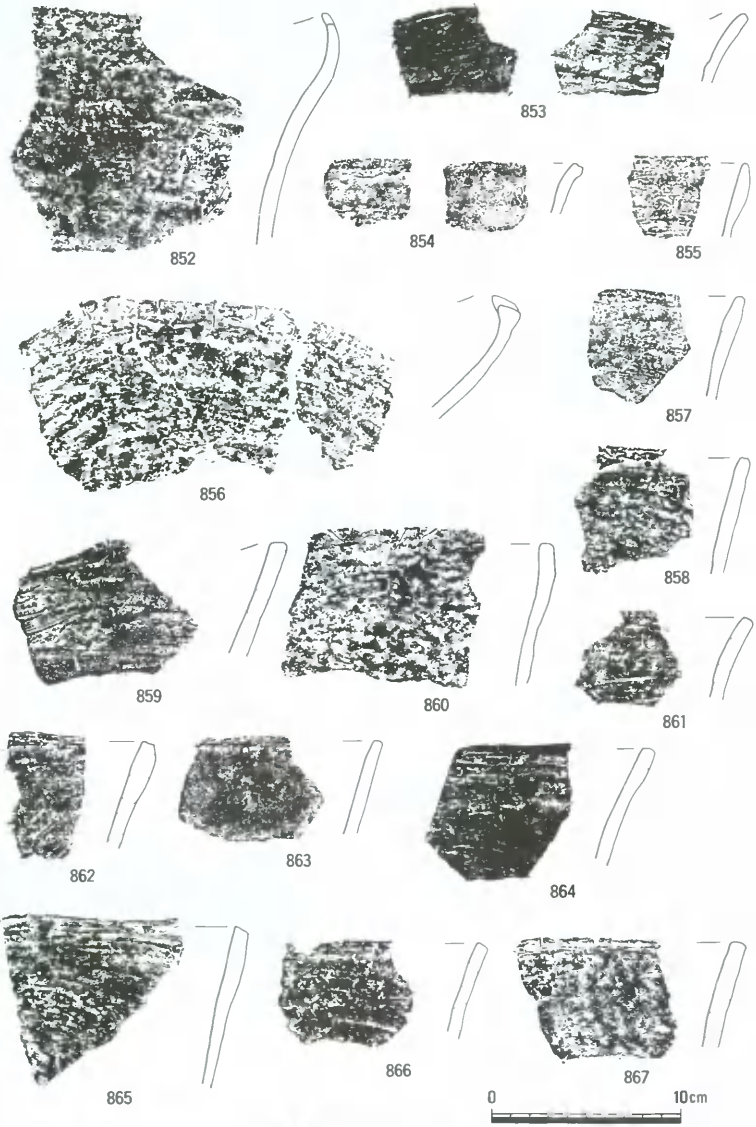
第65図　包含層出土遺物(3)　1/3



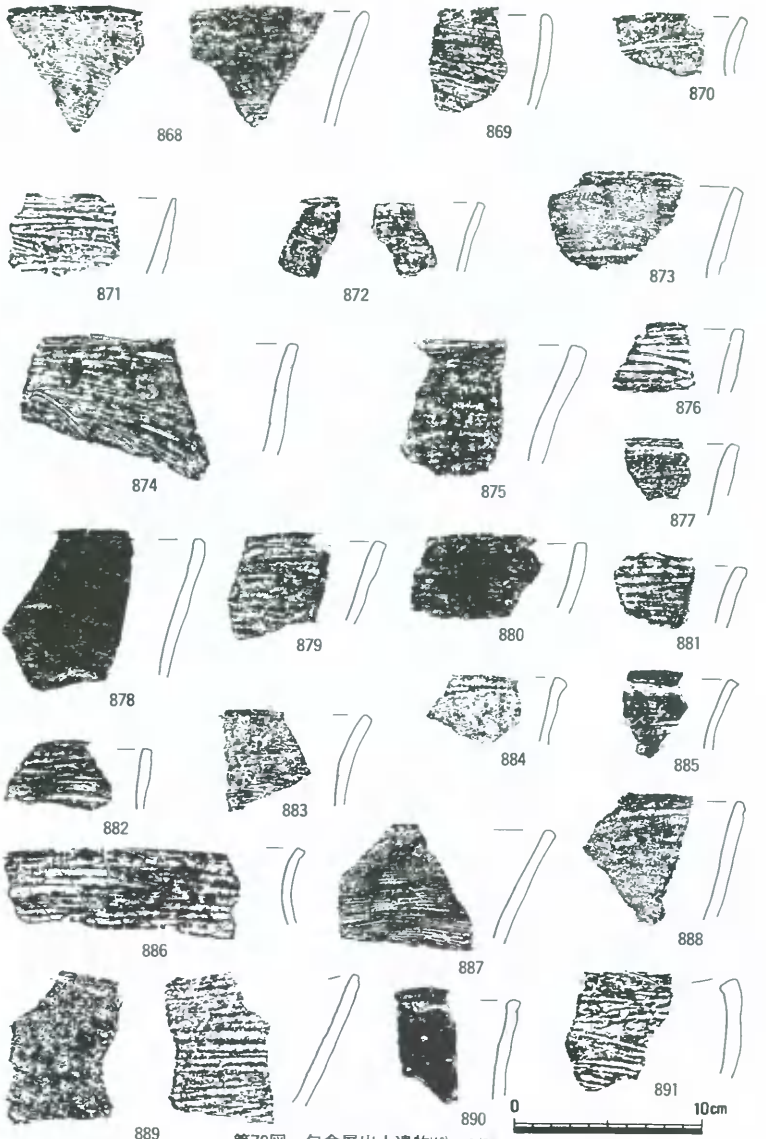
第66図　包含層出土遺物(4)　1/3

第67図　包含層出土遺物45)　(1/3)

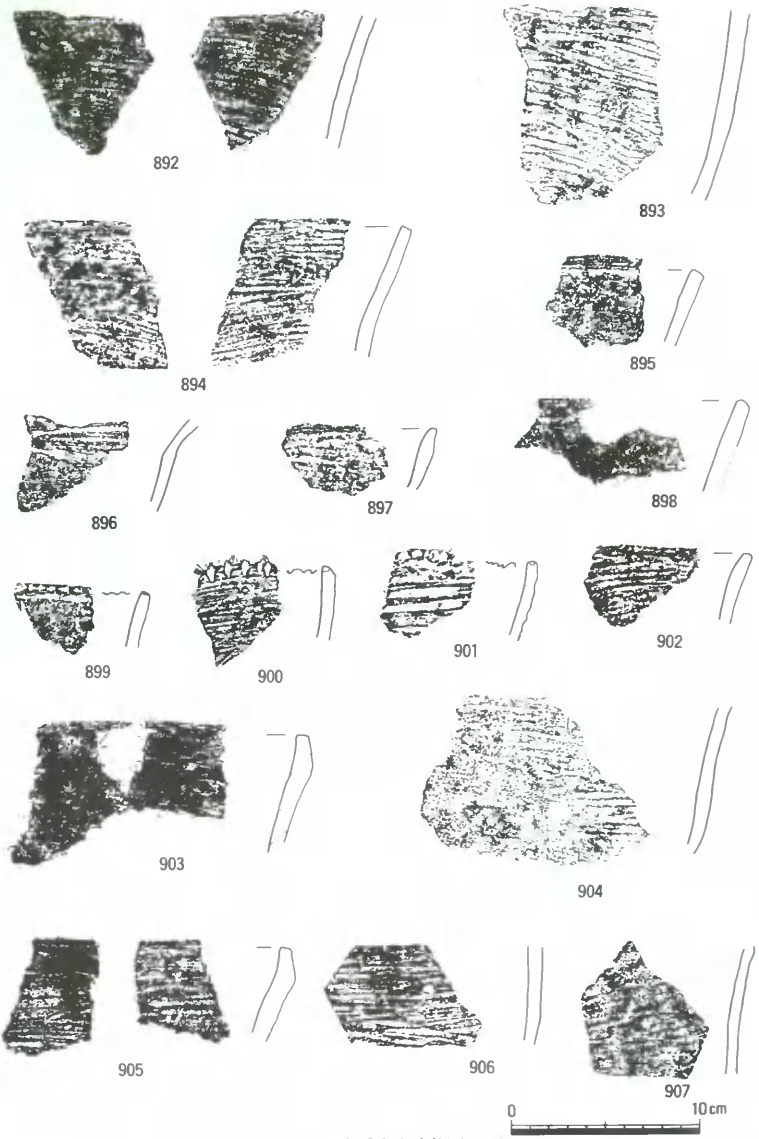
第68図　包含層出土遺物(46)　1/3



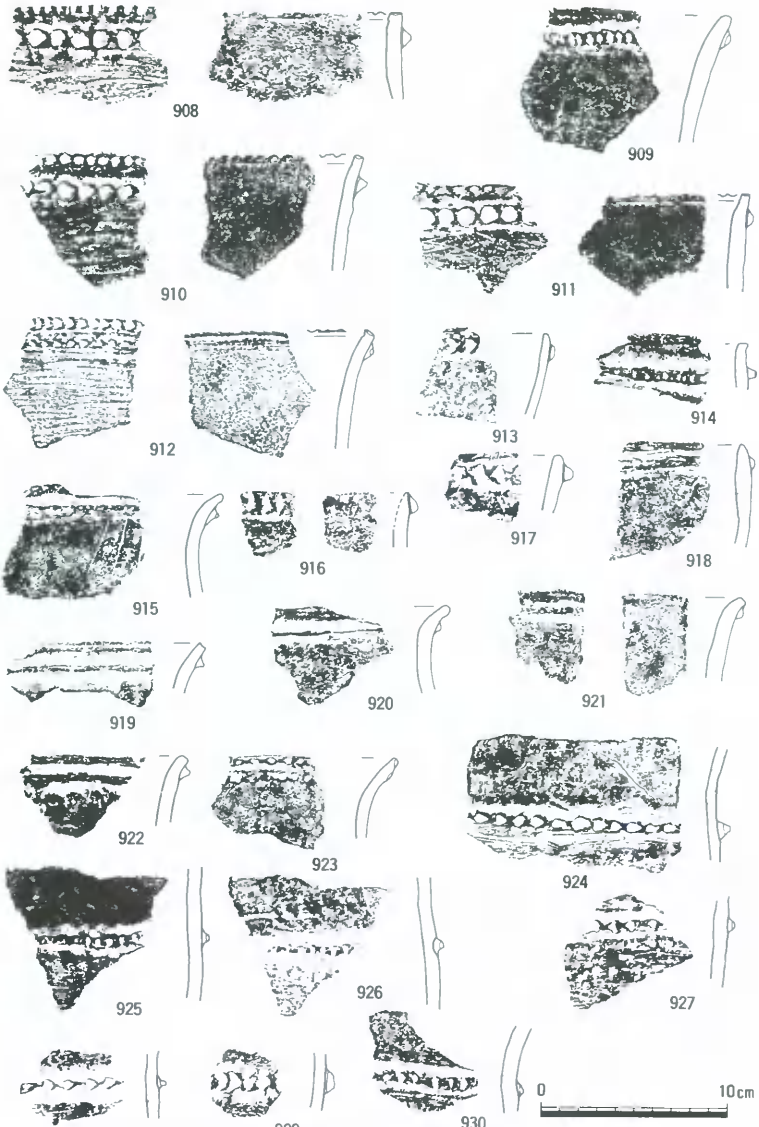
第69図　包含層出土遺物(47) (1/3)



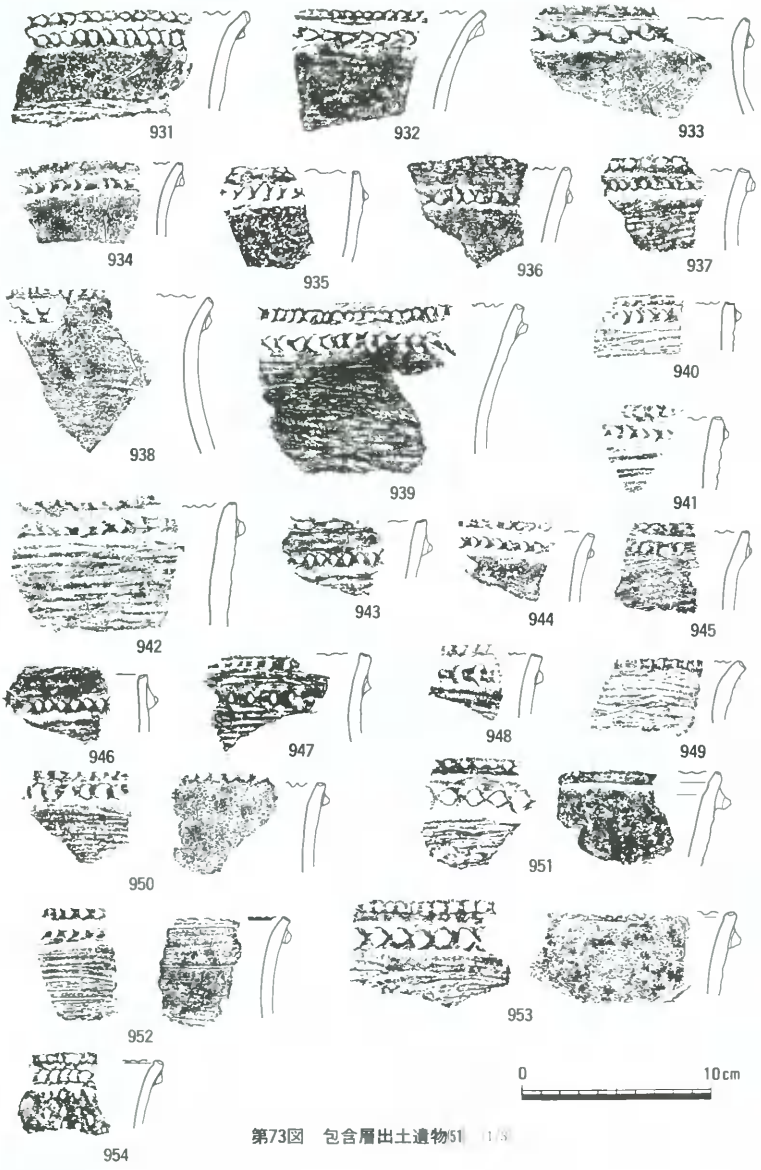
第70図　包含層出土遺物(48)　-1/3



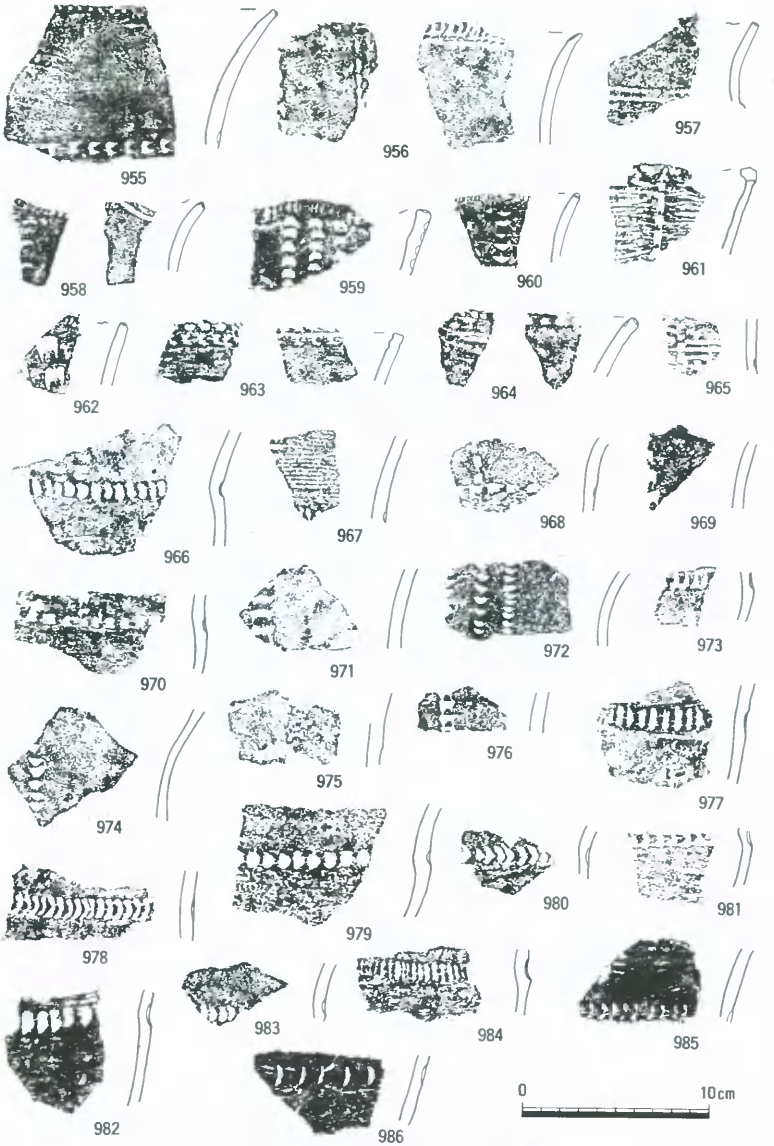
第71図　包含層出土遺物(49)　(1/3)



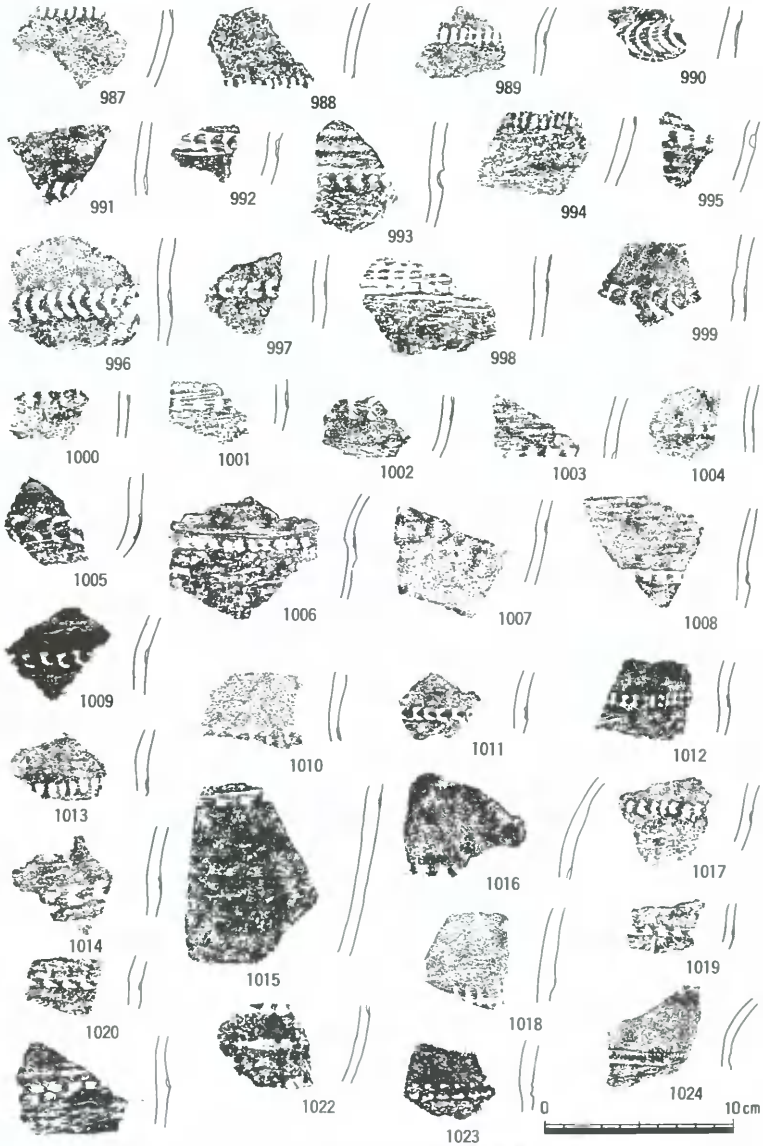
第72図　包含層出土遺物(50)　1/3



第73図　包含層出土遺物51　(1/3)

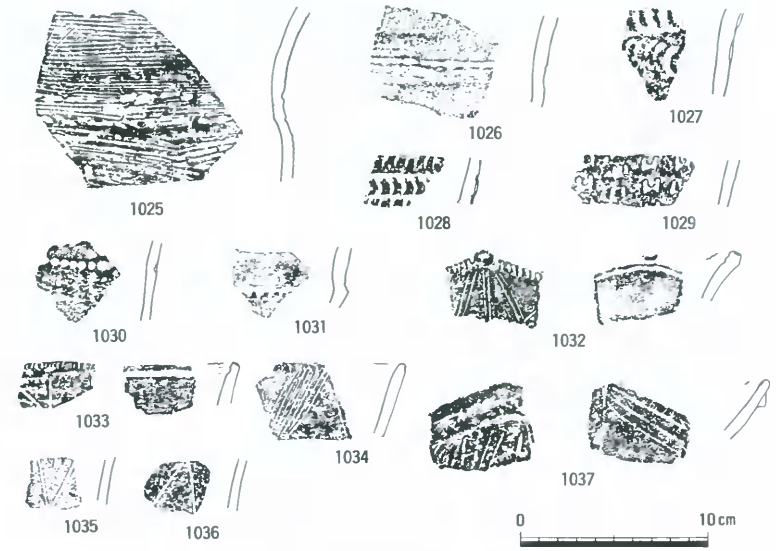


第74図　包含層出土遺物(52)　(1/3)

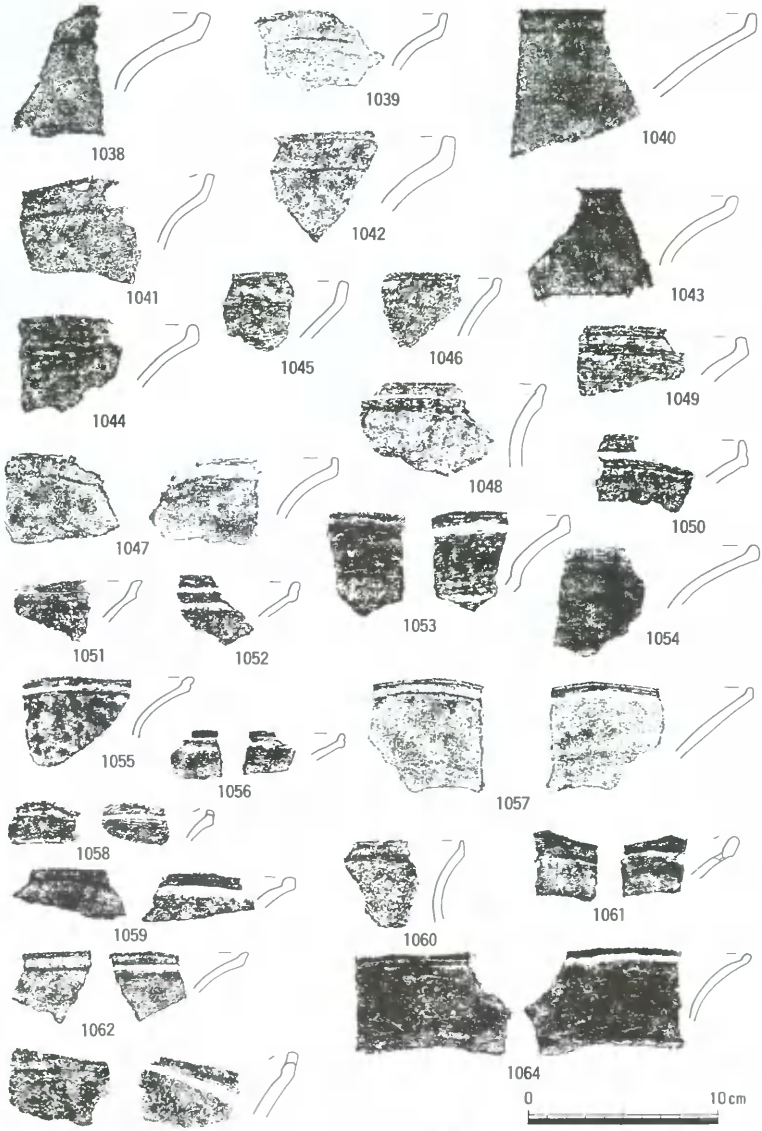


第75図　包含層出土遺物(3)

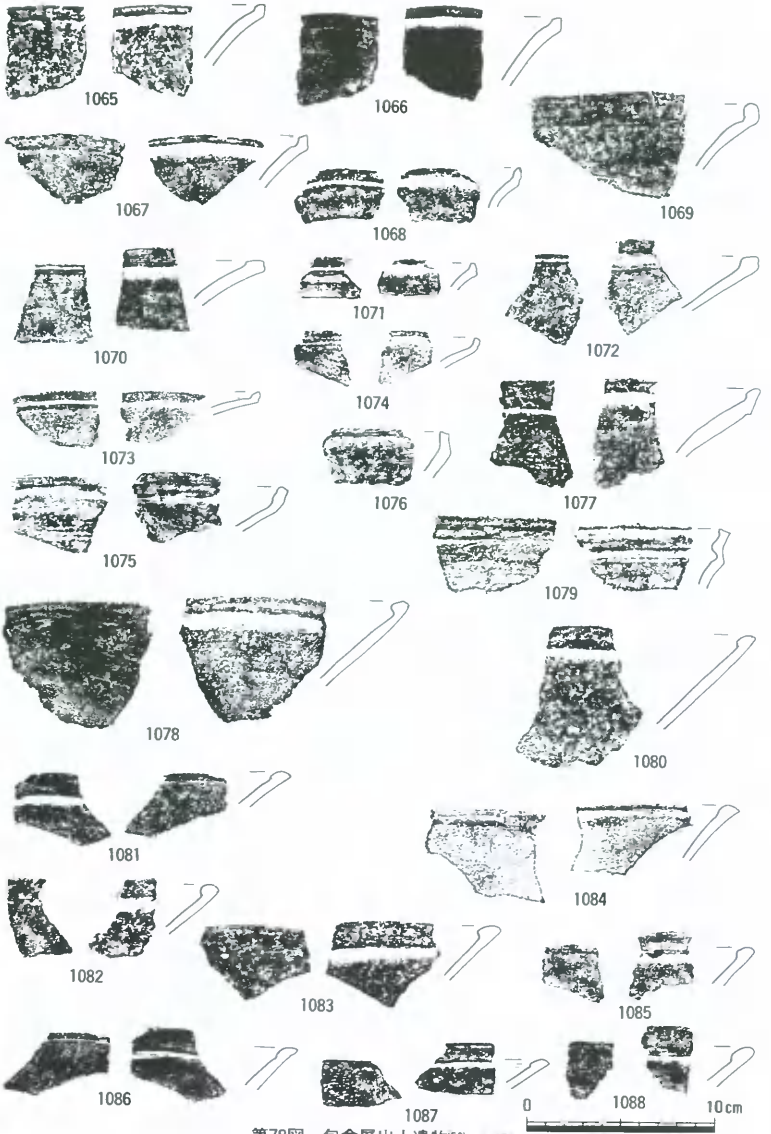
胴部に突帯のあるものは，いずれもその部分にキザミを付している。955～1031は，刺突または爪形文を有するものである。刺突文あるいは爪形文は胴屈曲部に沿って連続して付されるものと，口縁部に向かってタテに付されるものとがみられる。1038～1301は，精製土器の一群である。肩部から大きく外反するもの，胴部に屈曲をもたず浅鉢の形をしたもの，そして鉢形のものなどが認められる。1038～1079は，口縁端を上方に拡張あるいは拡張気味にするもので，1051・1055のようにその端面に沈線を施文するものも認められる。1078～1088は，口縁内面をカマボコ形に肥厚させるもの，また1089～1106にみられるように口縁内面に段状の沈線を付すものがみられる。1122・1123のようにリボン状の突起をもつものもある。1128～1139は口縁部に段をつけるもの，1172～1247は素縁の口縁部を形成するものなどが存在する。1302～1660は，条痕を主体とする粗製土器の一群である。1302・1340のように，口縁がゆるやかに外反し，肩部に屈曲をもって底部にいたるもの，1326のように口縁をゆるやかなくの字に外反させ胴部はふくらみをもつもの，1608のように鉢形のものなどがある。調整はアルカ属とサッ痕が多くみられ，口唇部のキザミもあるものとないものが存在する。1661～1724は，文様を有する一群のものである。1698は，先の細い工具による刺突文を施す。1716は，巻貝沈線文であるが，外面調整がアルカ属を用いていることからこの一群とした。



第76図　包含層出土遺物(4)　1/3

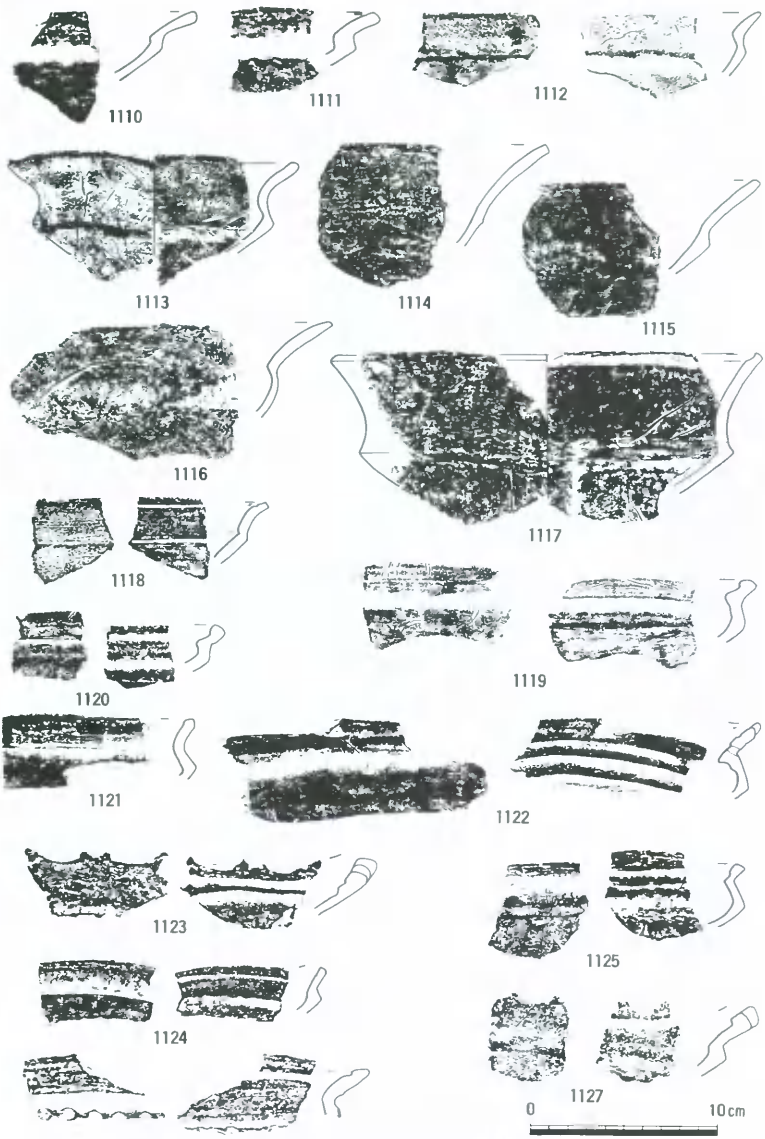


第77図　包含層出土遺物(5/5)

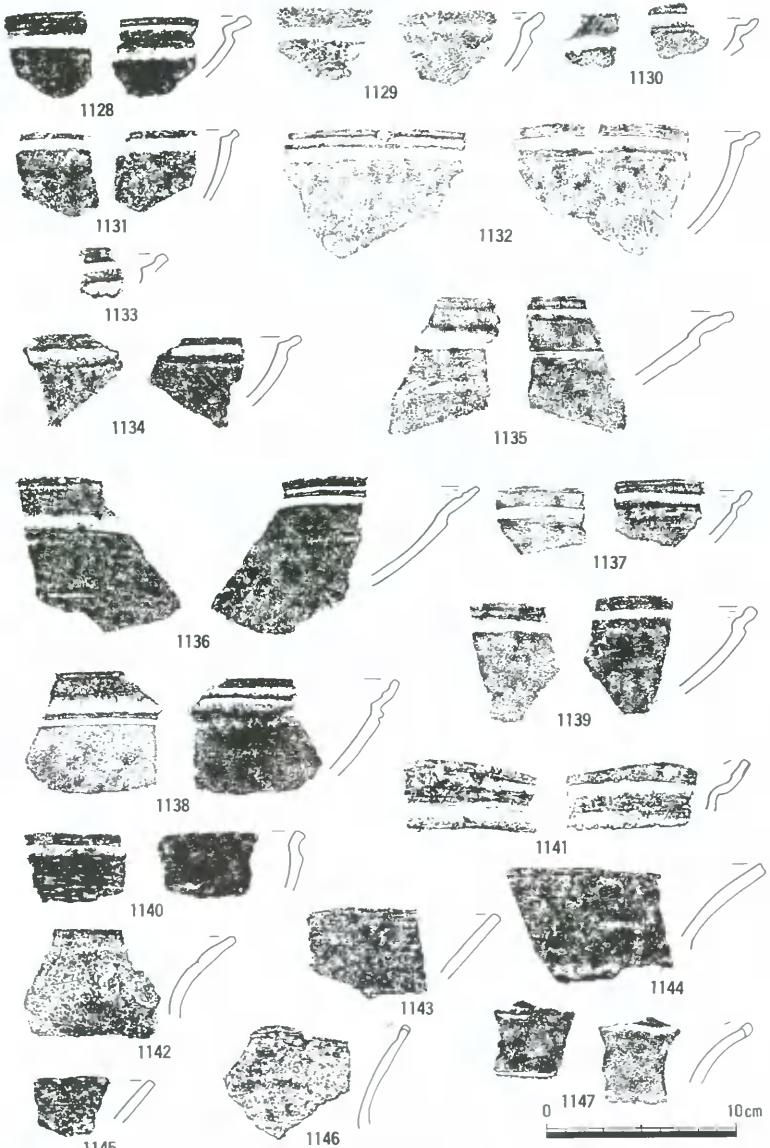


第78図　包含層出土遺物(56)　1/3

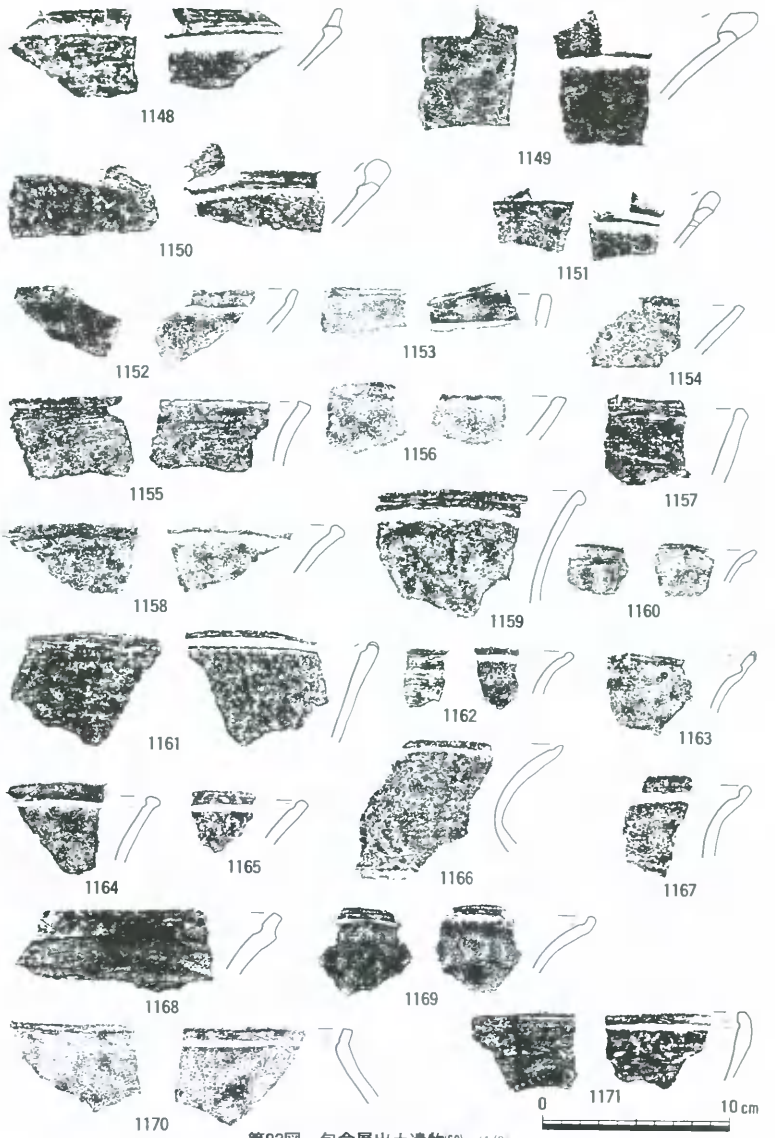
第79図　包含層出土遺物(57)　(1/3)



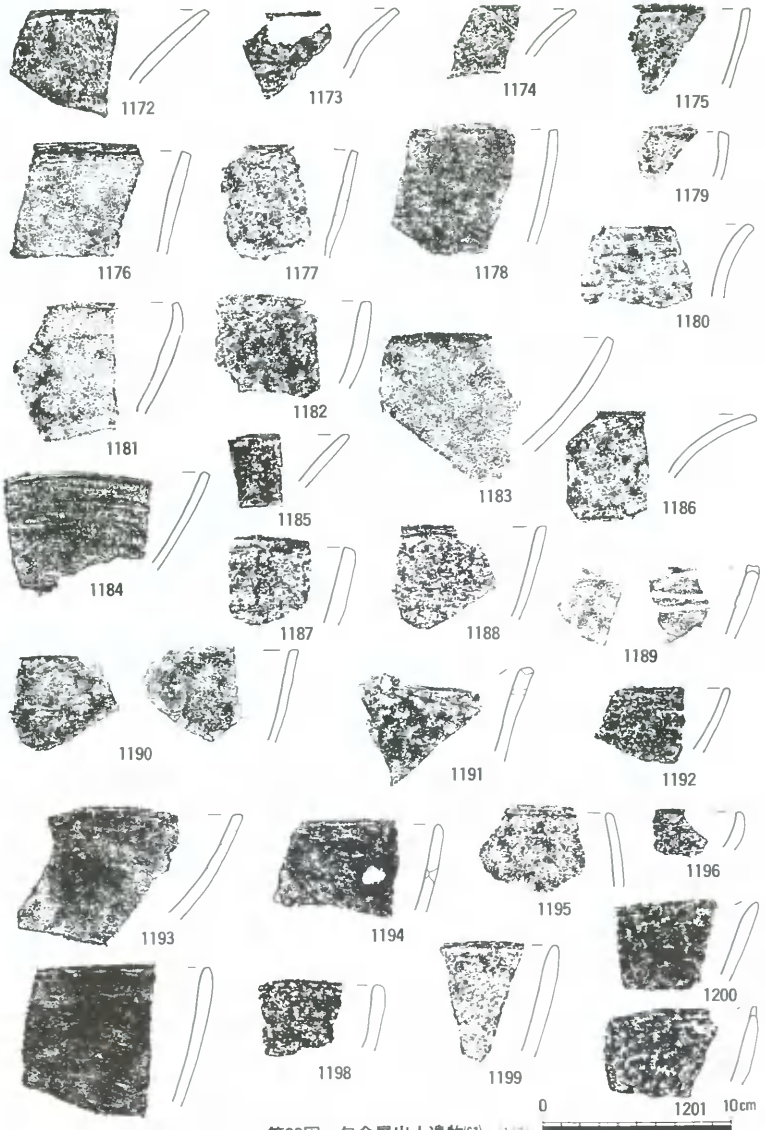
第80図　包含層出土遺物(58)



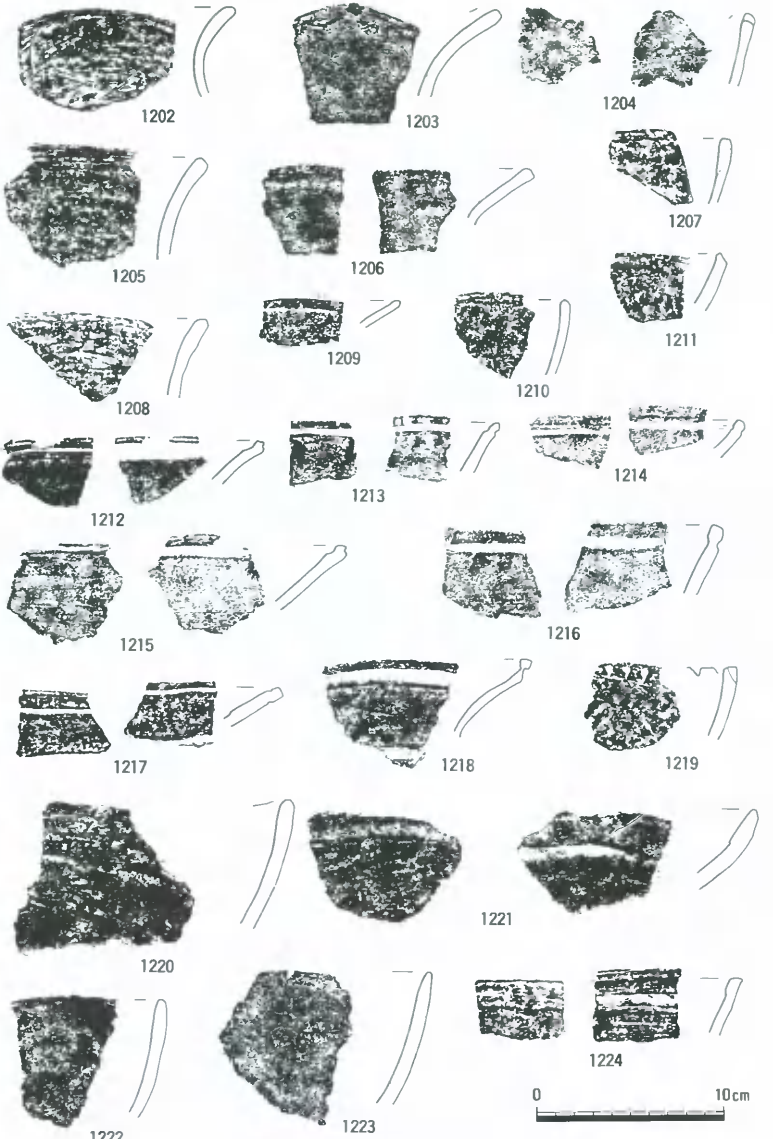
第81図　包含層出土遺物(59)　1/3



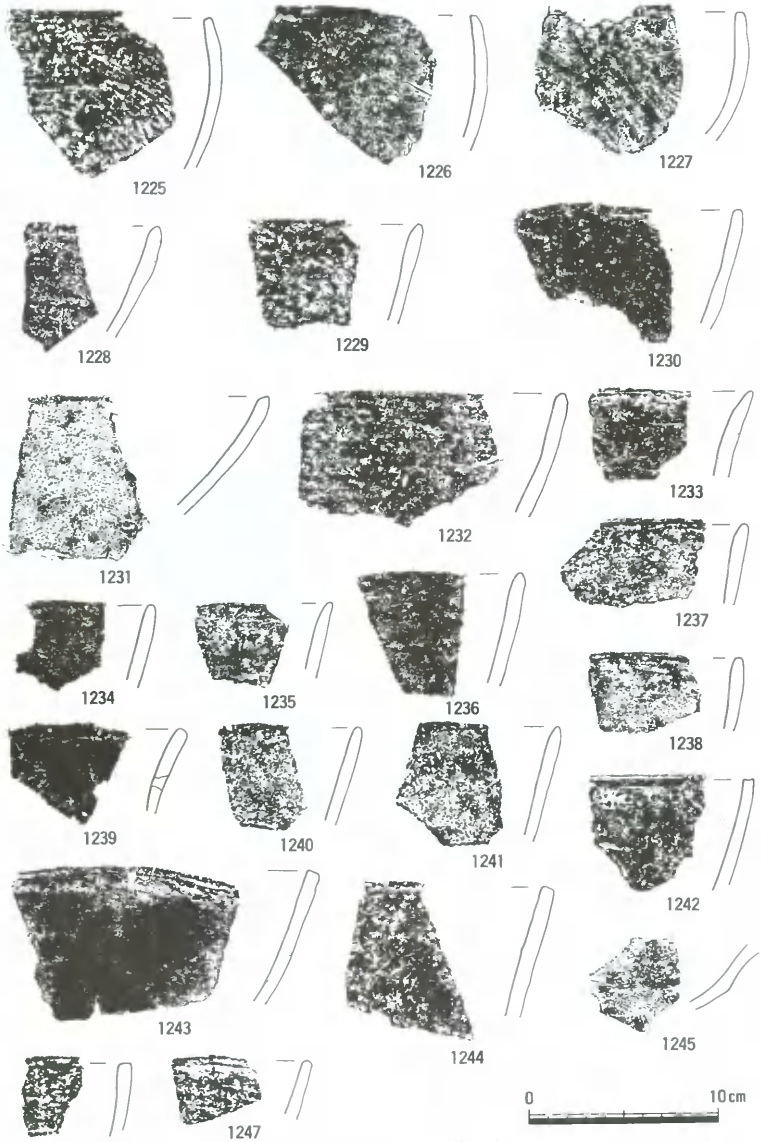
第82図　包含層出土遺物(60)　(1/3)



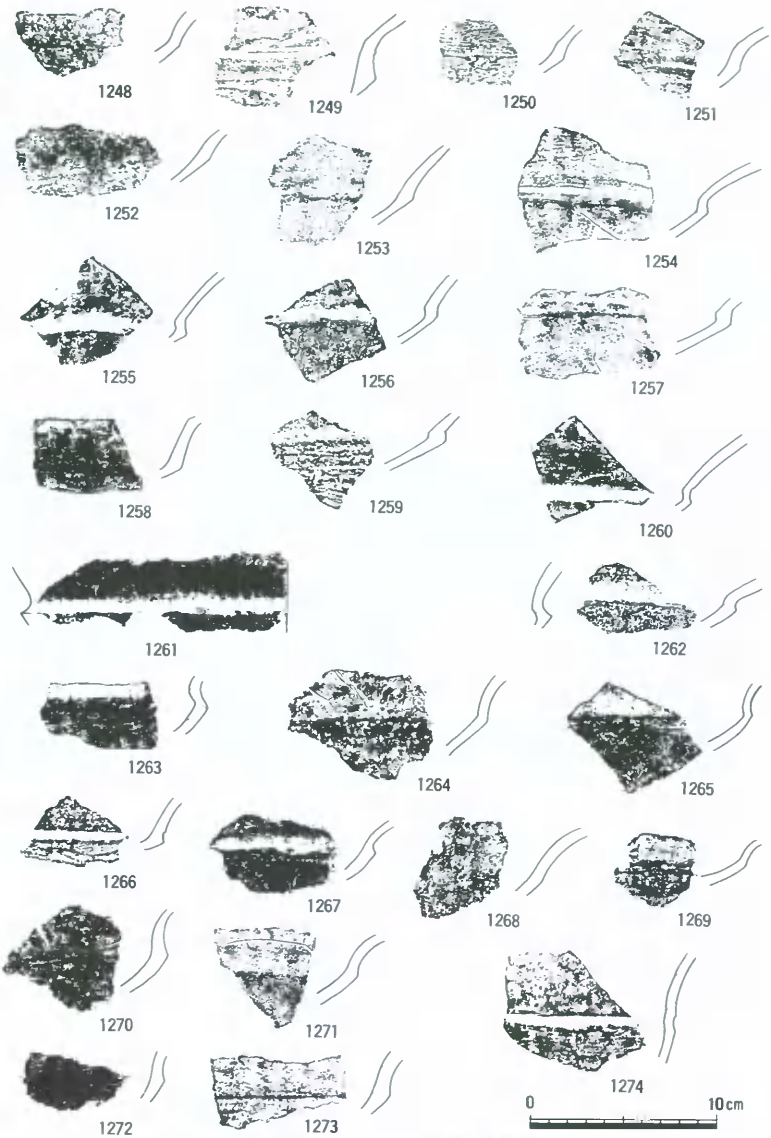
第83図　包含層出土遺物(61)



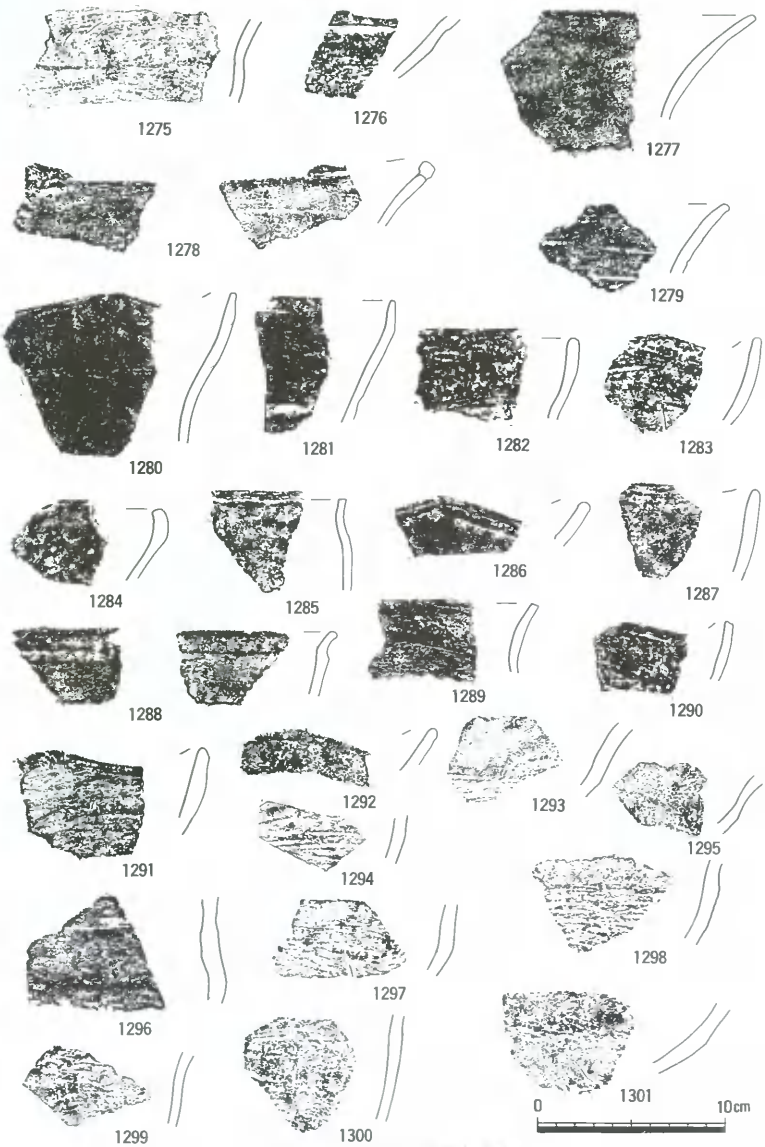
第84図　包含層出土遺物(62)　(1/3)



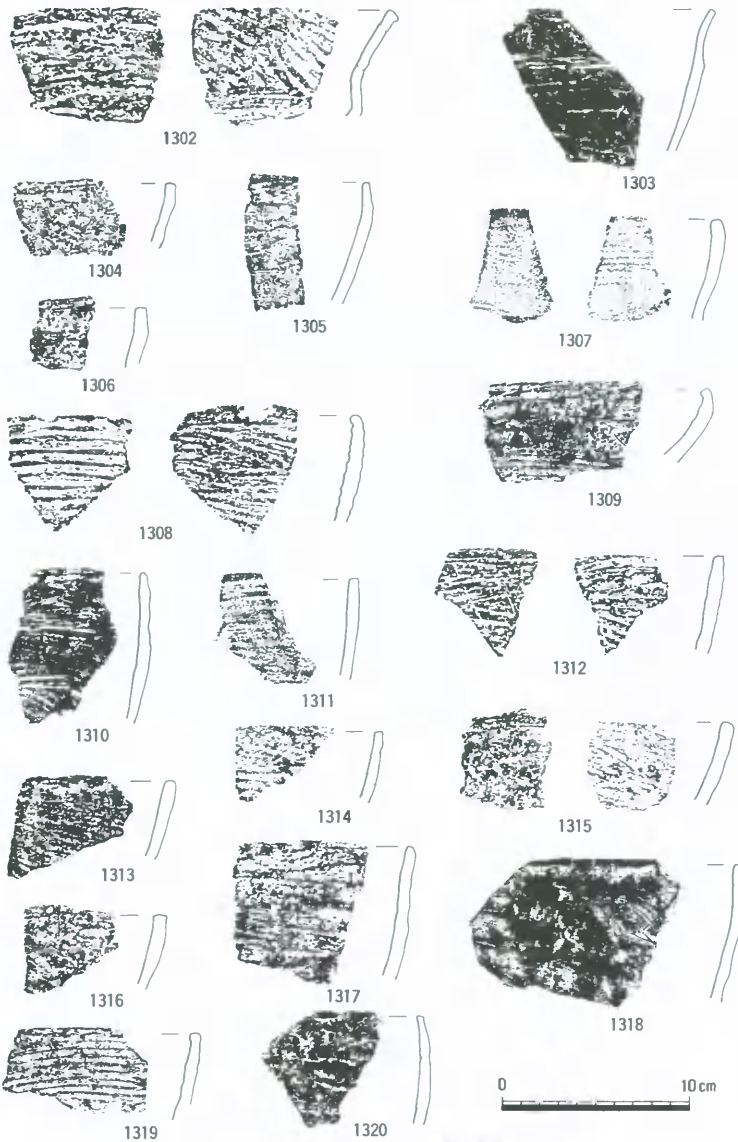
第85図　包含層出土遺物(63)　(1/3)



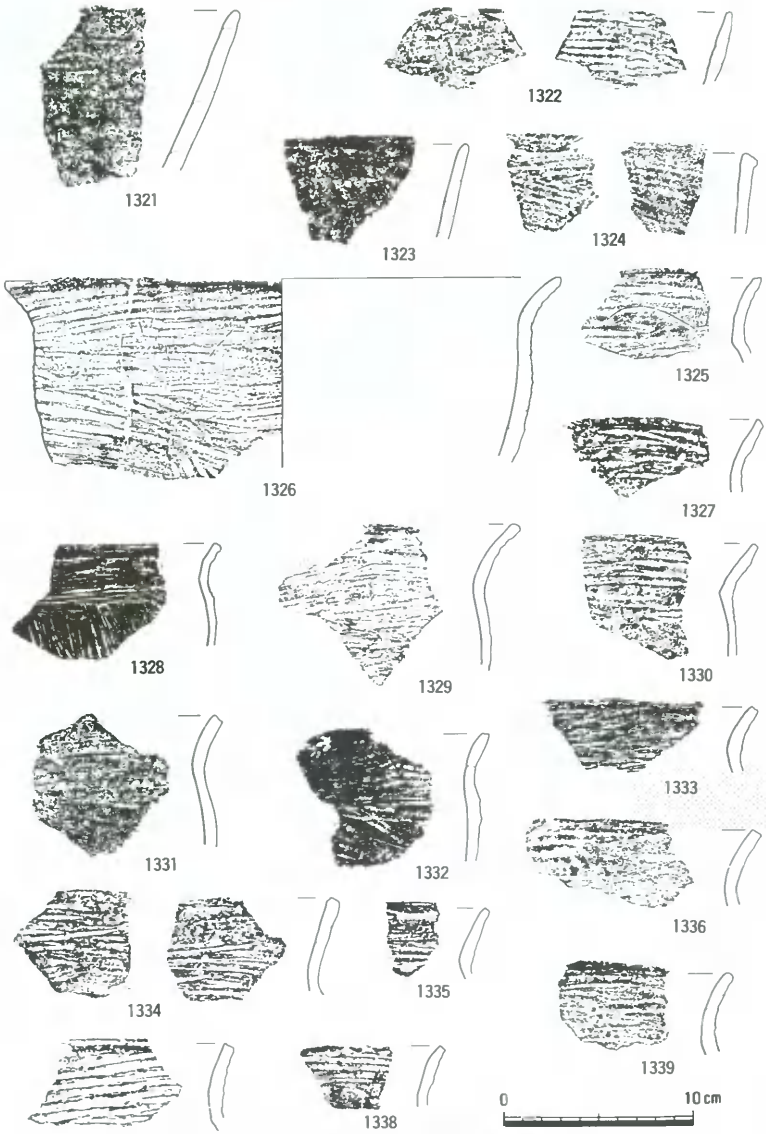
第86図　包含層出土遺物(64)



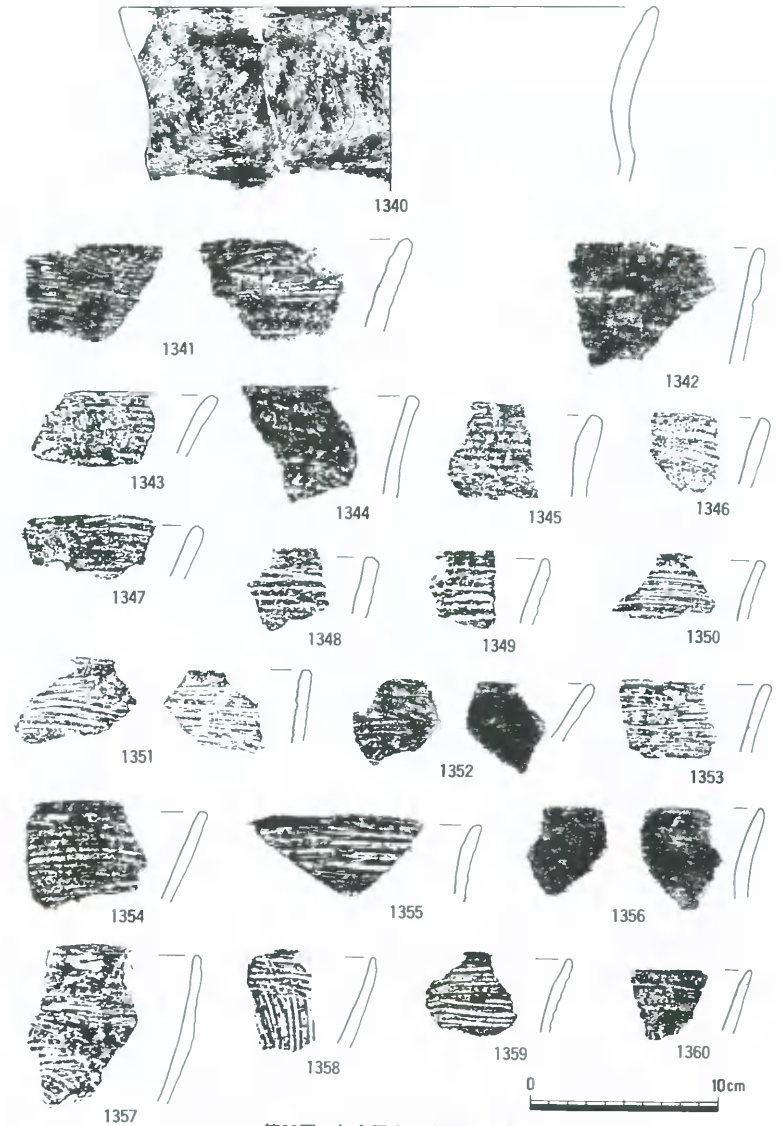
第87図　包含層出土遺物(65)　1/3



第88図　包含層出土遺物(66)

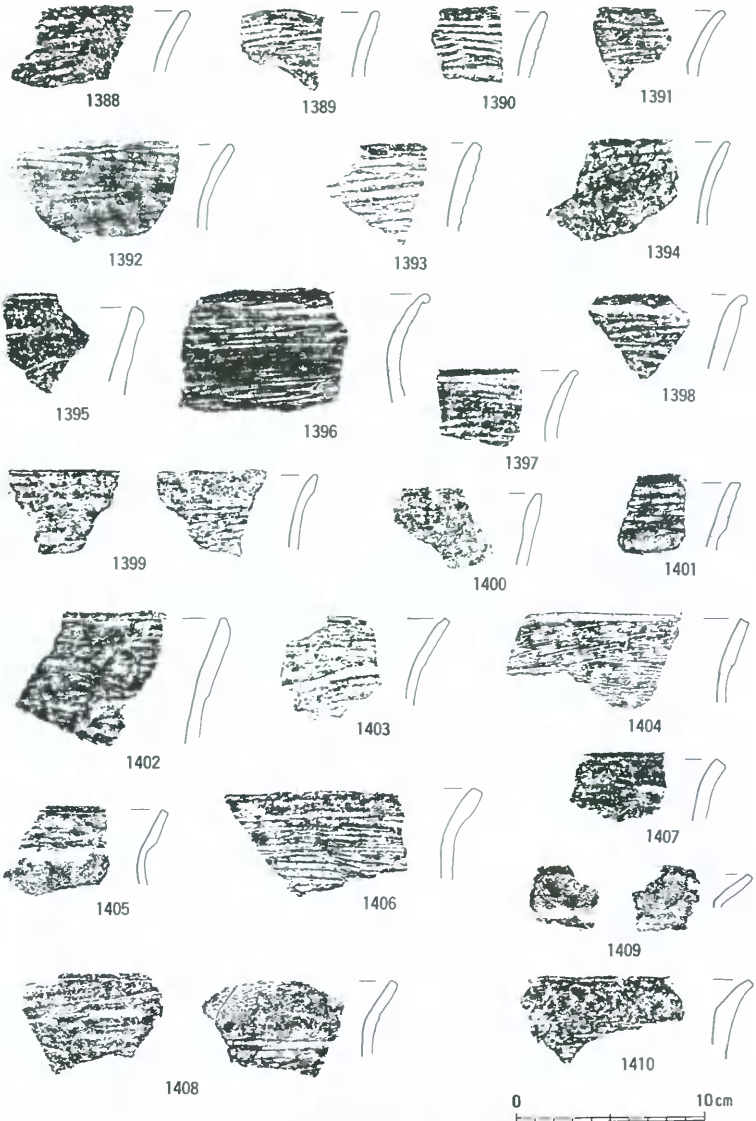


第89図　包含層出土遺物(67)



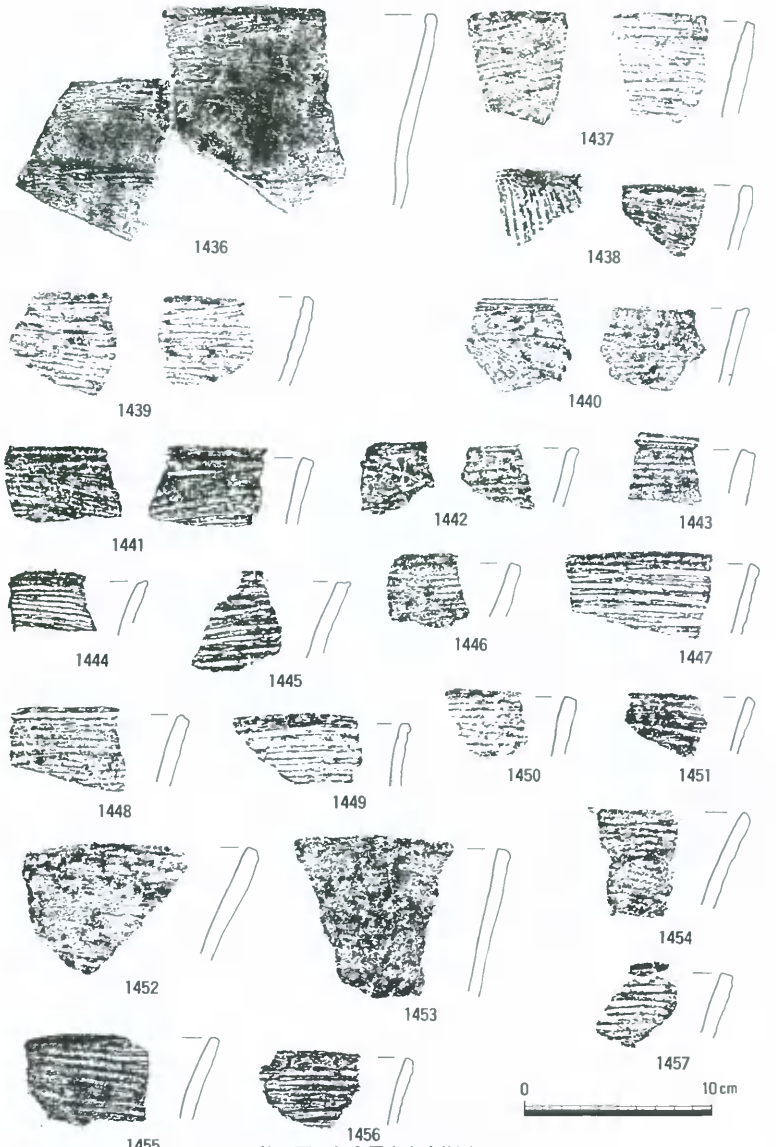
第90図　包含層出土遺物(68)　1/3

第91図　包含層出土遺物(69)　(1/3)



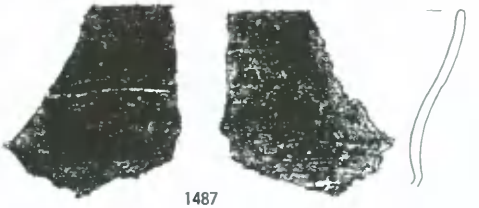
第92図　包含層出土遺物(70)　(1/3)

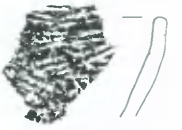
第93図　包含層出土遺物(1)　1/3

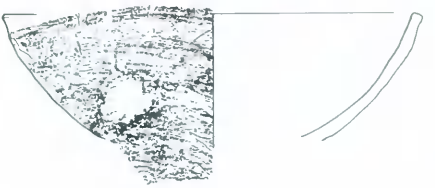


第94図　包含層出土遺物(72)　(1/3)

第95図　包含層出土遺物(73)　(1/3)

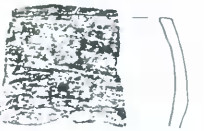

1487


1488


1489

1490

1491


1492

1493

1494

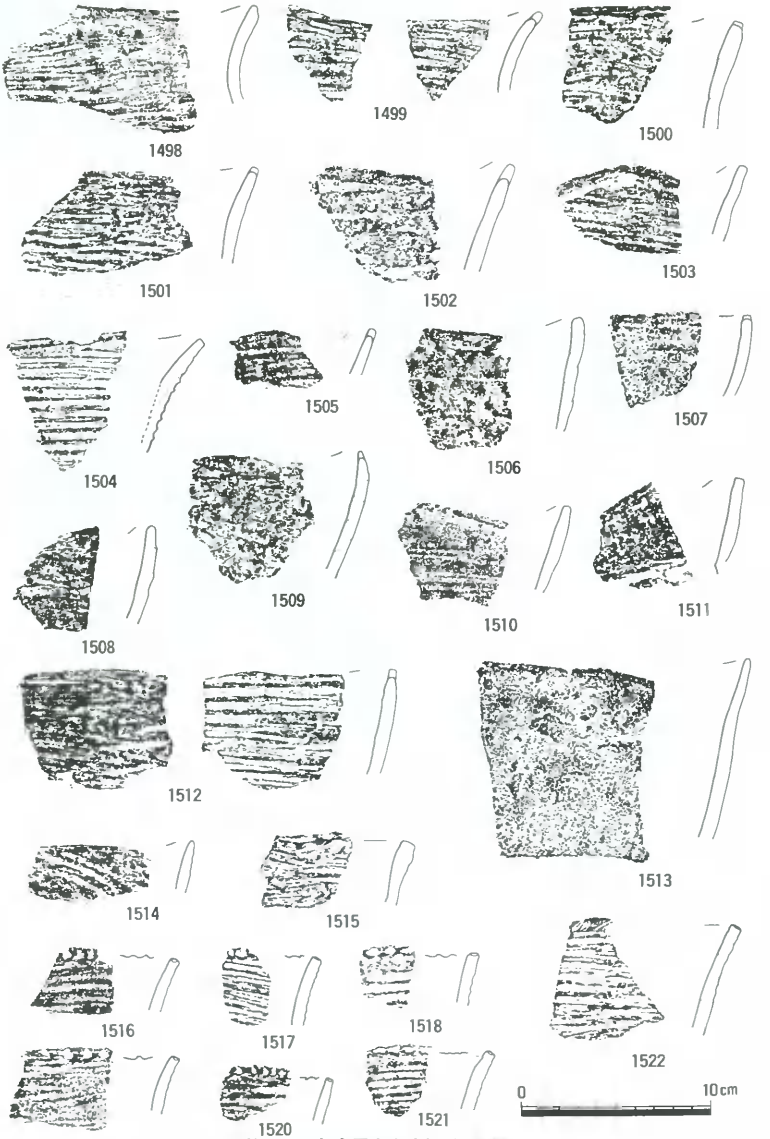
1497

1495

1496

0 10 cm

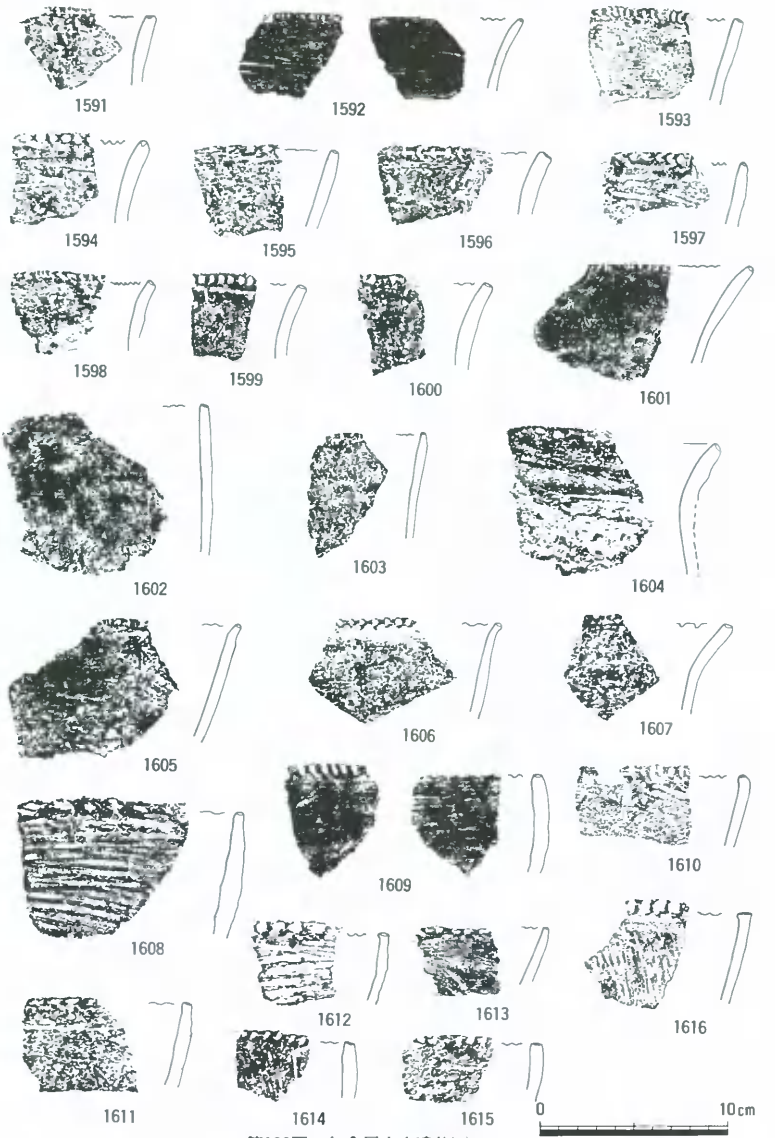
第96図　包含層出土遺物(74)　1/3



第97図　包含層出土遺物(75)　1/3

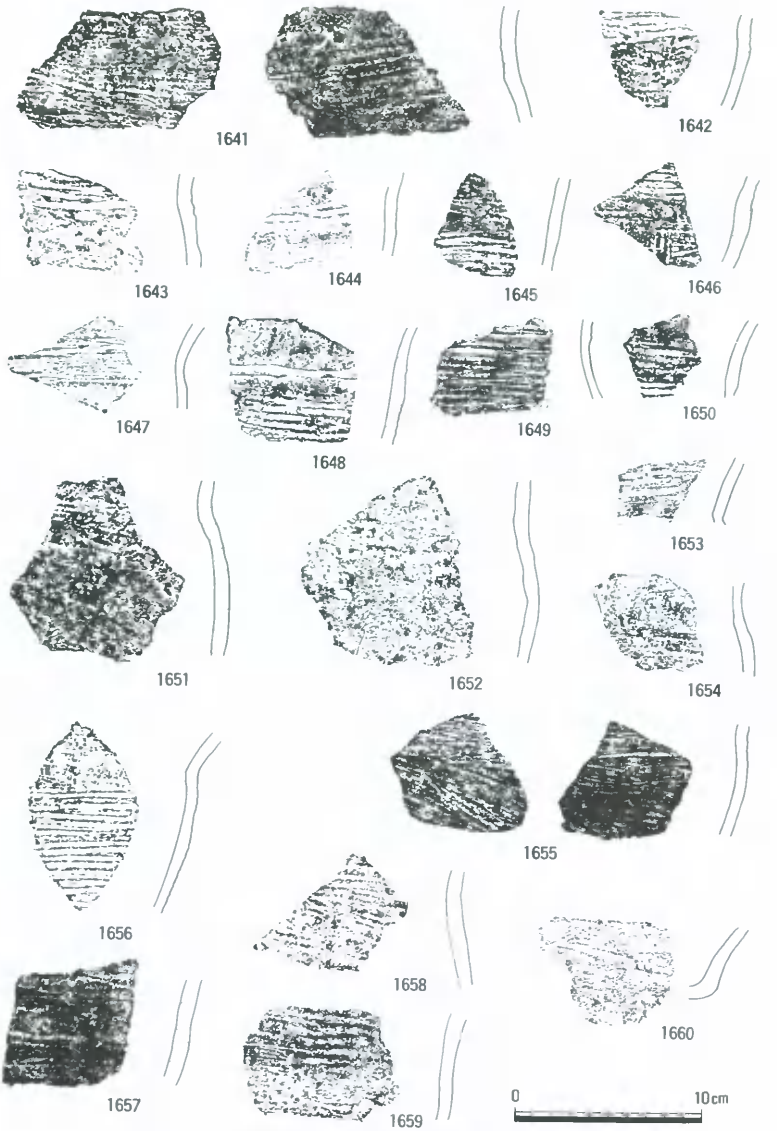
第98図　包含層出土遺物(76)　(1/3)

第99図　包含層出土遺物(77)　(1/3)

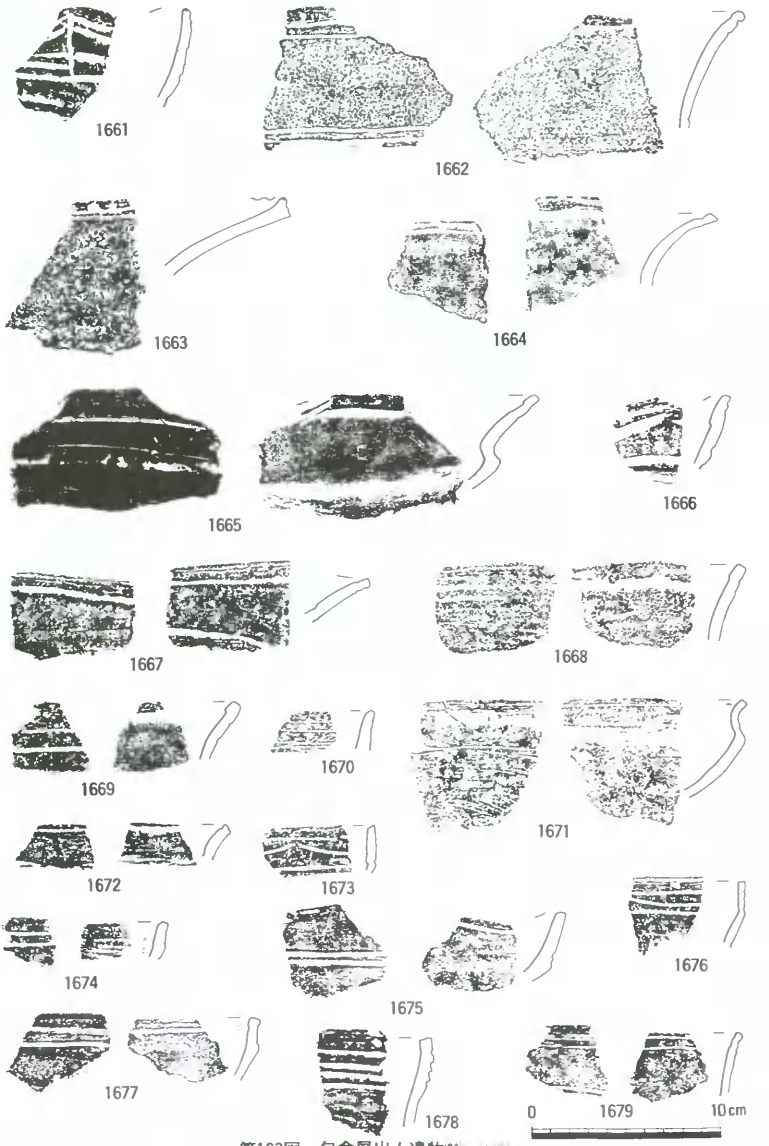


第100図　包含層出土遺物(78)　(1/3)

第101図　包含層出土遺物(79)



第102図　包含層出土遺物(80)　1/3



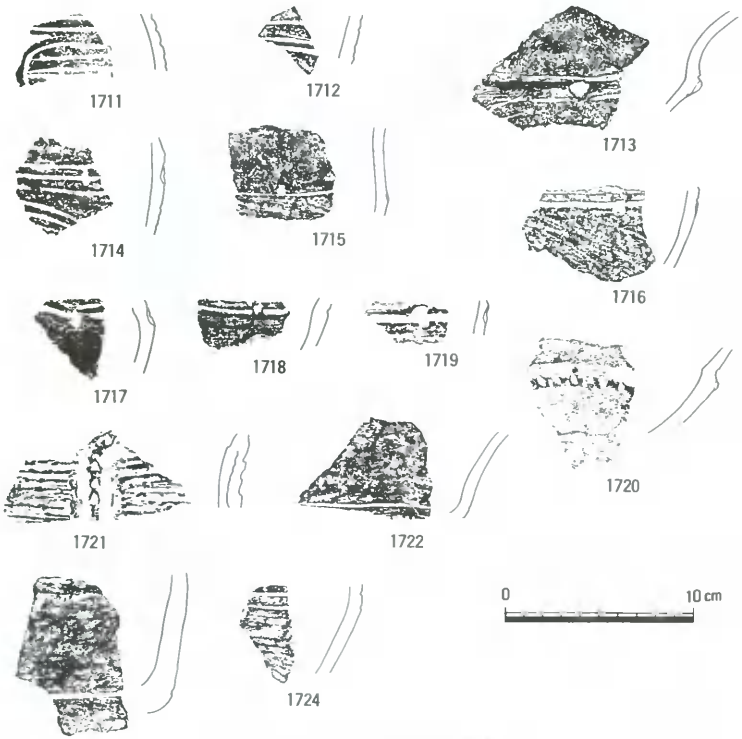
第103図　包含層出土遺物(1)

第104図　包含層出土遺物(82)

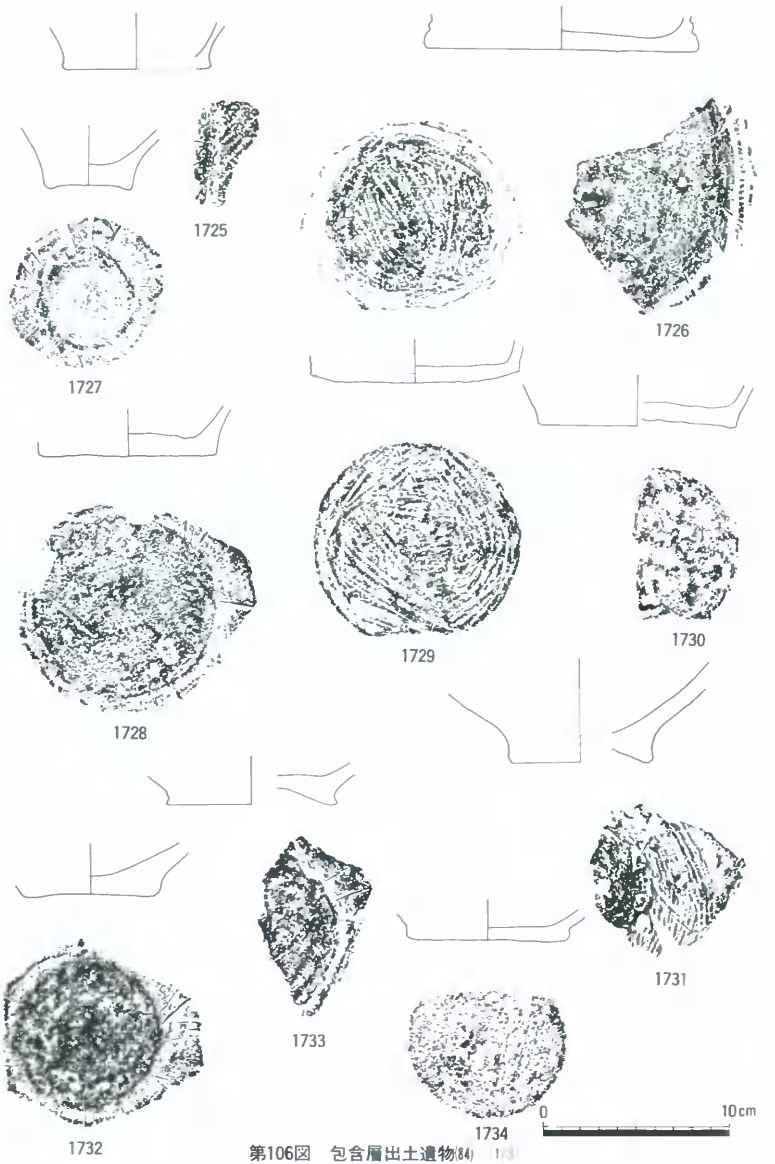
縄文時代の石器（第113～129図）

大量の石器が出土しているが，図化できたのはその一部である。**1**～**22**は，石匙であり，**1**は，石匙というよりは異形のタイプのものである。**2**～**15**は横形であり，**16**～**22**は縦形のものである。

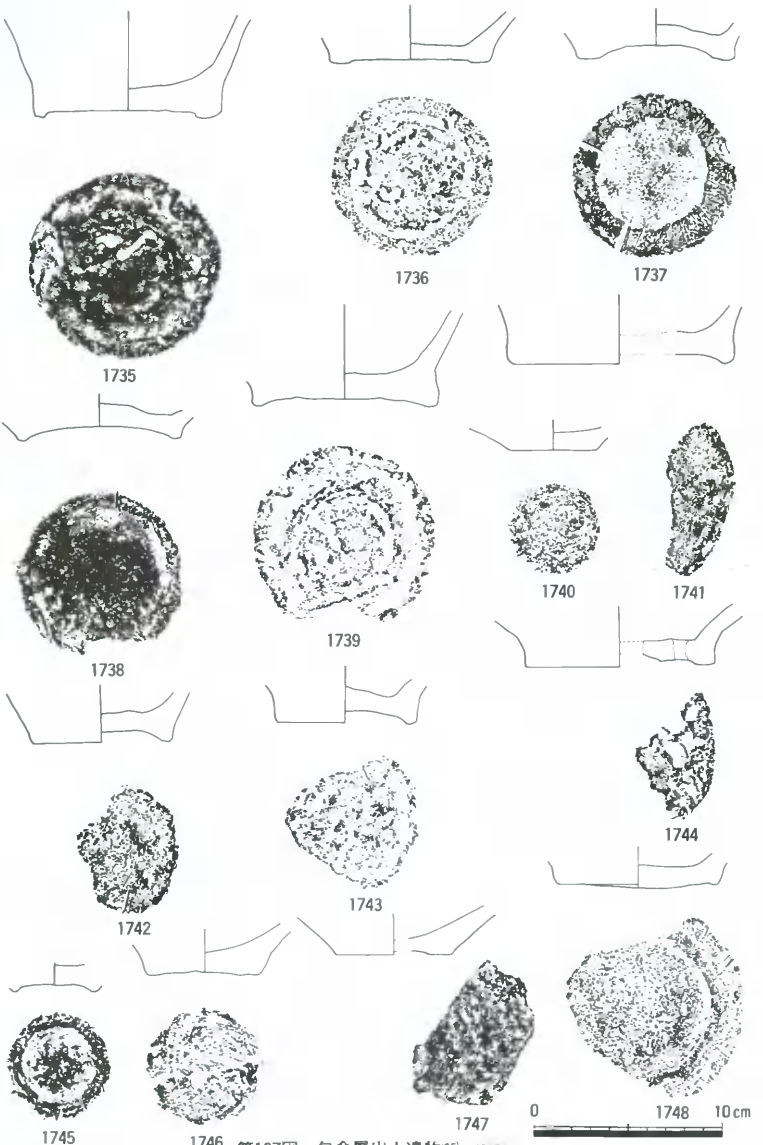
23～**92**・**94**～**96**は，削器である。**23**～**36**は三角形，**37**～**45**は横形，**46**～**83**は，これと同類のものである。**84**～**90**は楔形石器とされるものである。**92**は，長さ19㎝の削器と考えられるものである。**93**は，粘板岩性の石棒である。小片であるため全体は不明であるが，ヨコの沈線とナナメの沈線を施しているのが認められる。**97**・**100**はポイントとされるものであり，**100**は，自然面を残すが一応ポイントとした。**101**は，周辺が磨り石状になっているものである。**116**と**117**は，磨製石斧である。



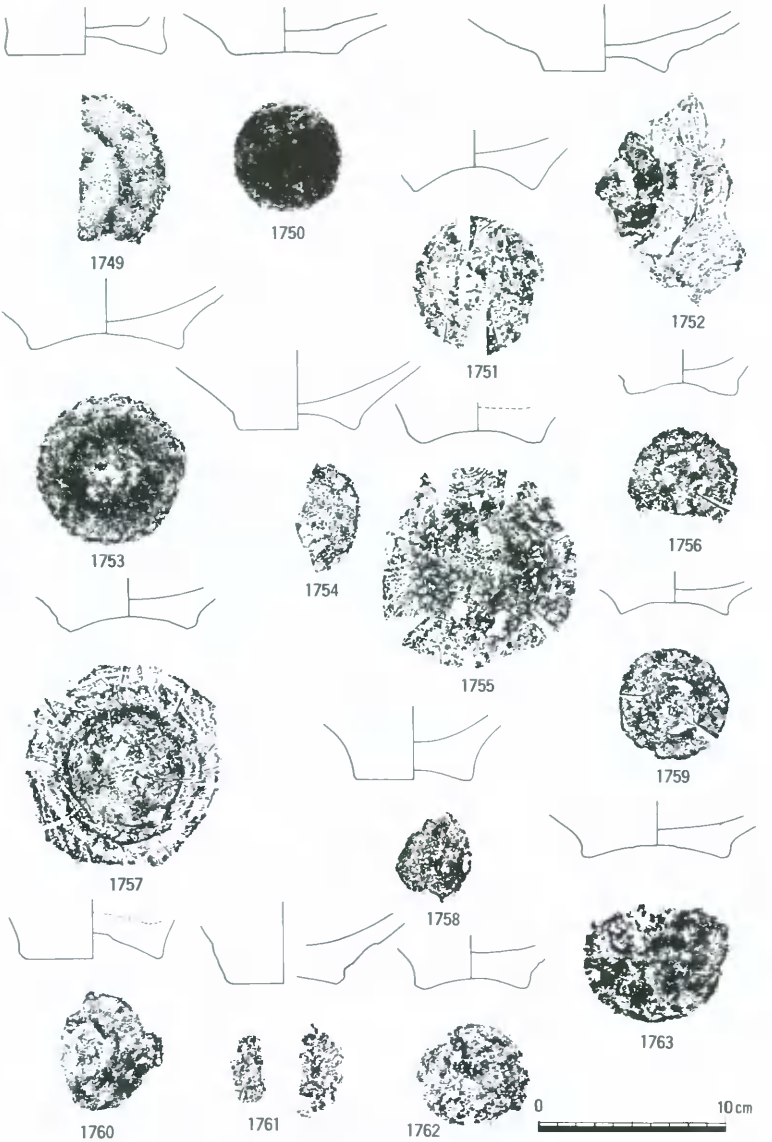
第105図　包含層出土遺物(83)



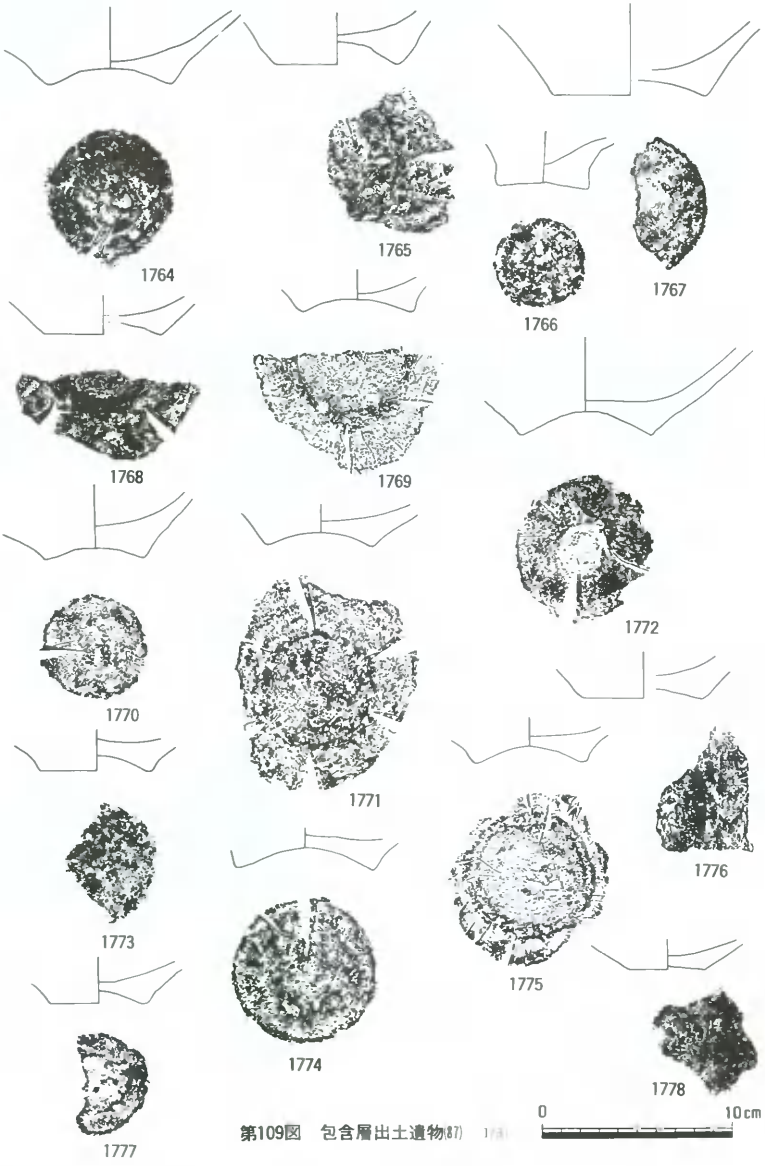
第106図　包含層出土遺物(84)



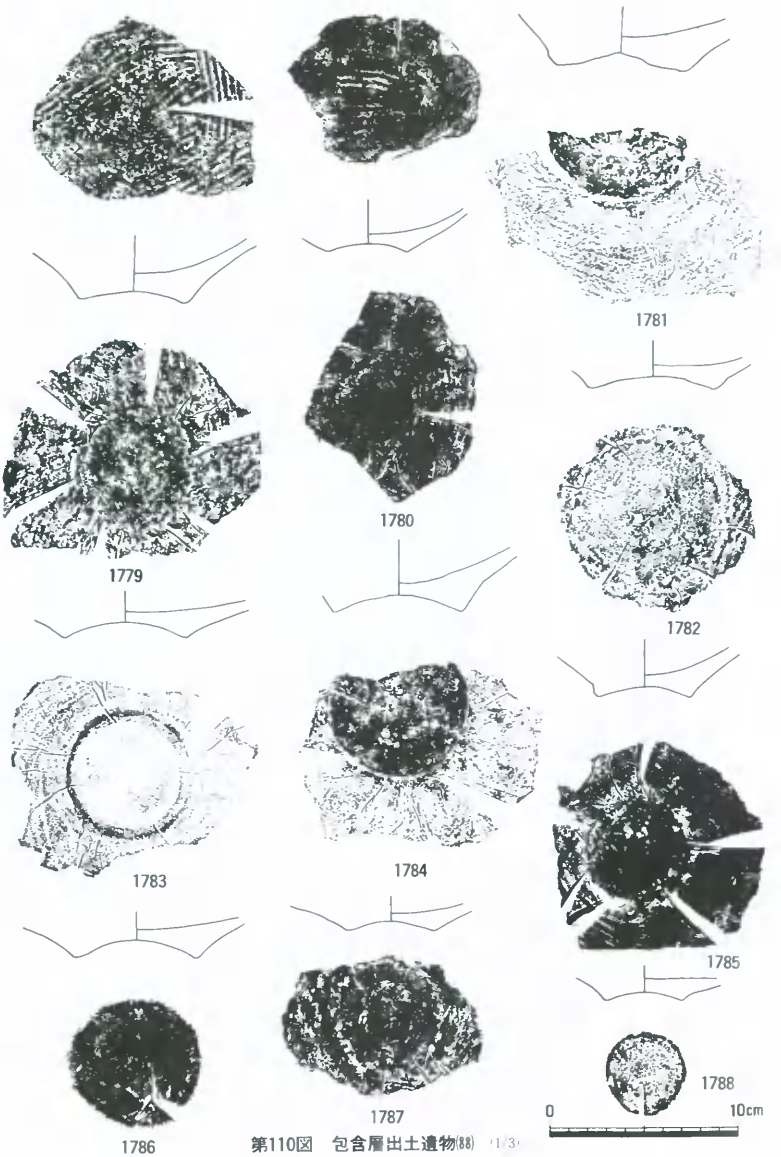
第107図　包含層出土遺物(85)



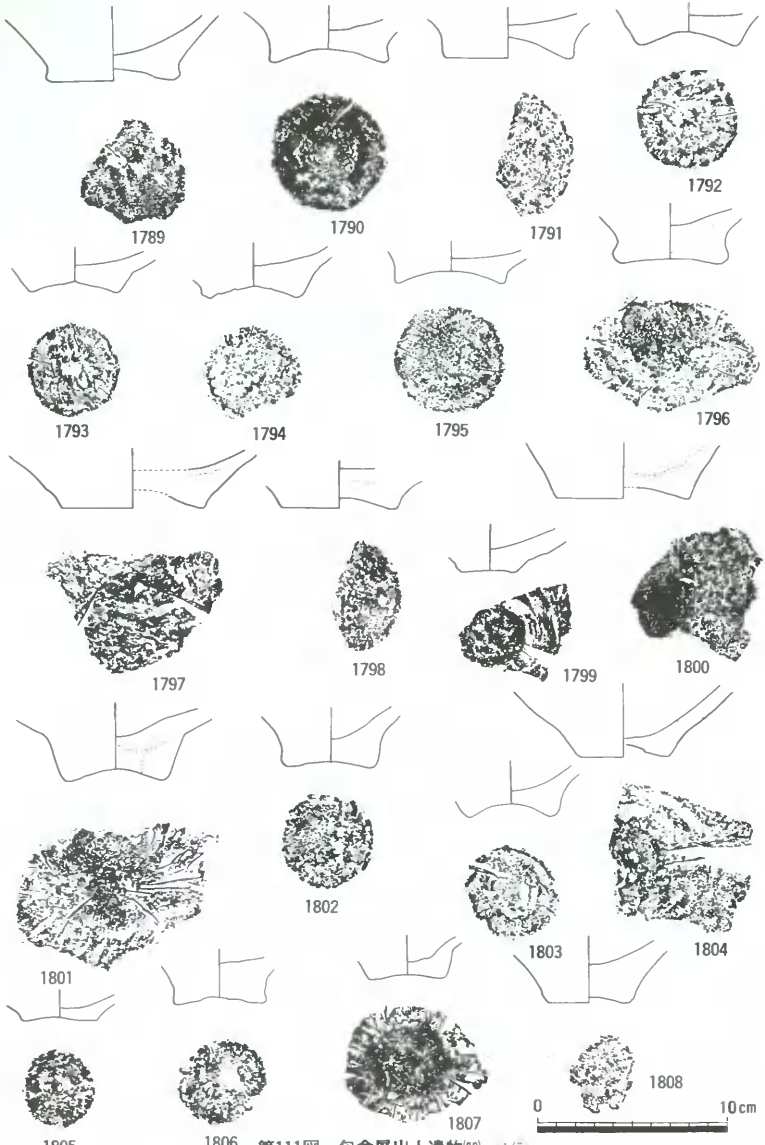
第108図　包含層出土遺物(86)　(1/3)



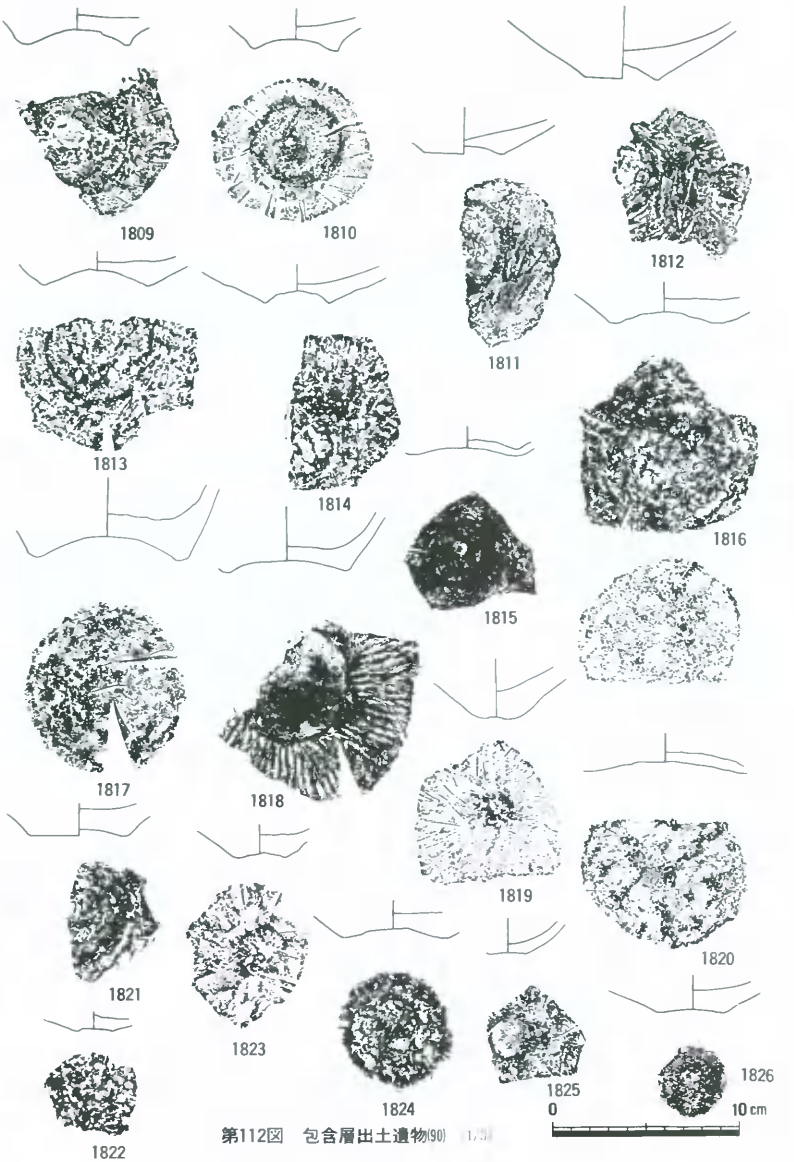
第109図　包含層出土遺物(87)



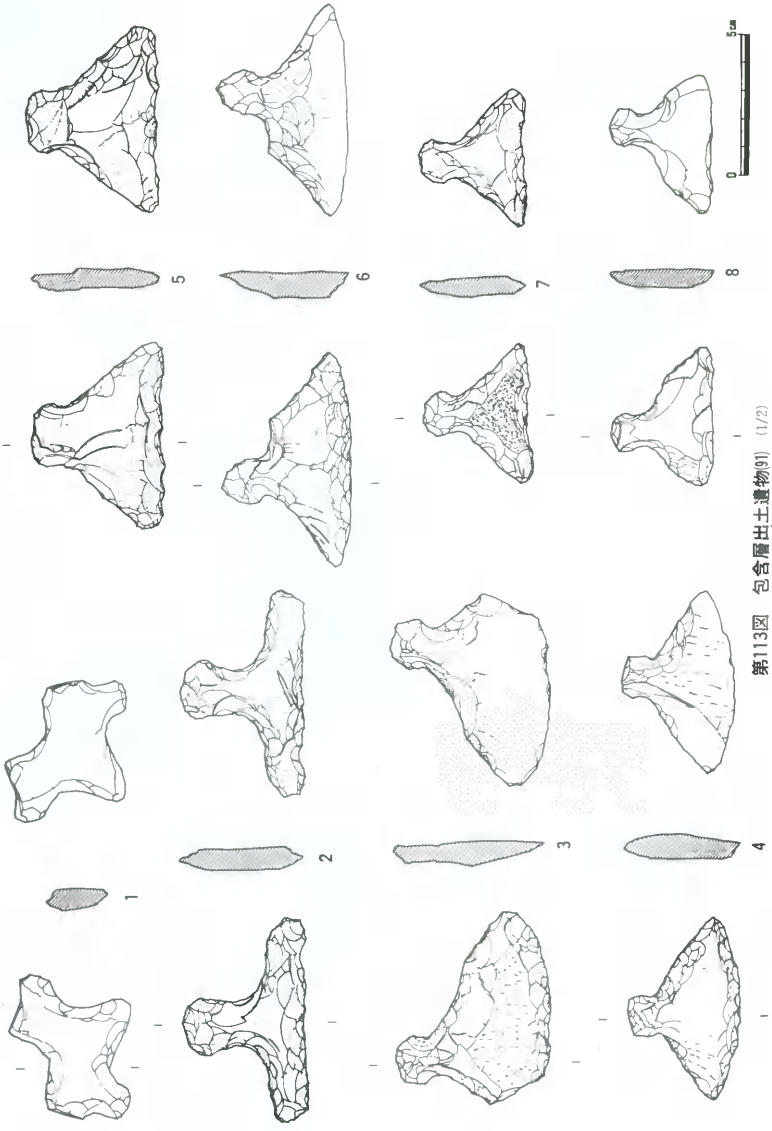
第110図　包含層出土遺物(88)　(1/3)



第111図　包含層出土遺物(89)　(1/3)

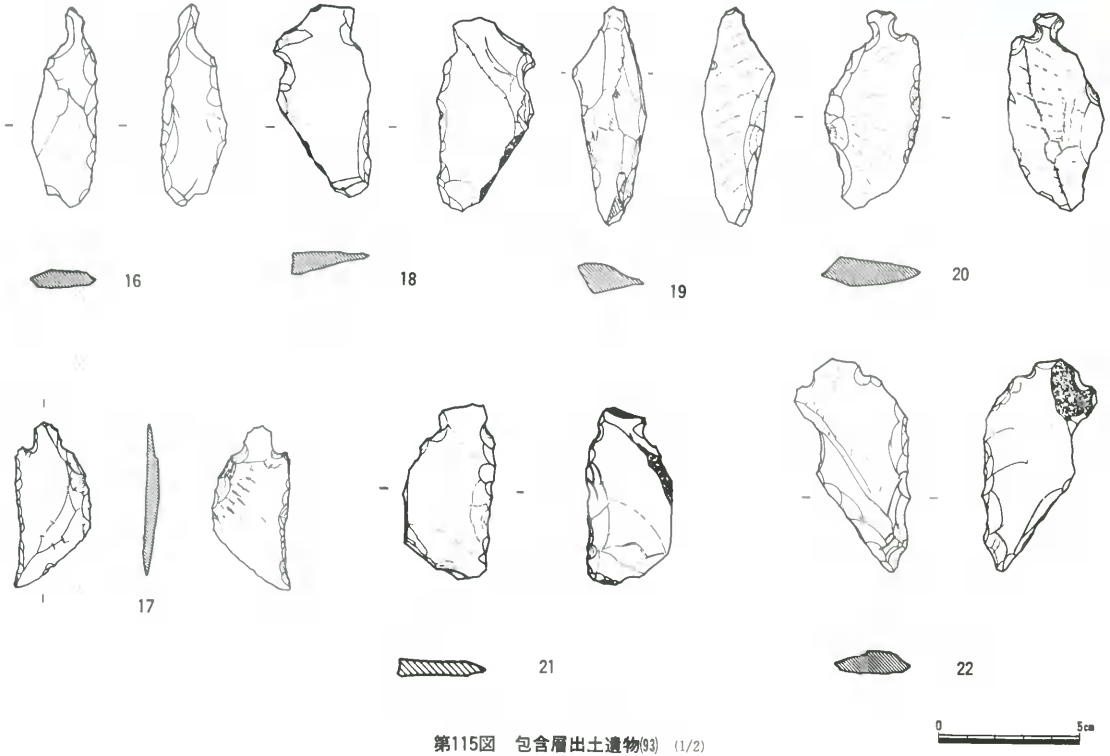


第112図　包含層出土遺物(90)

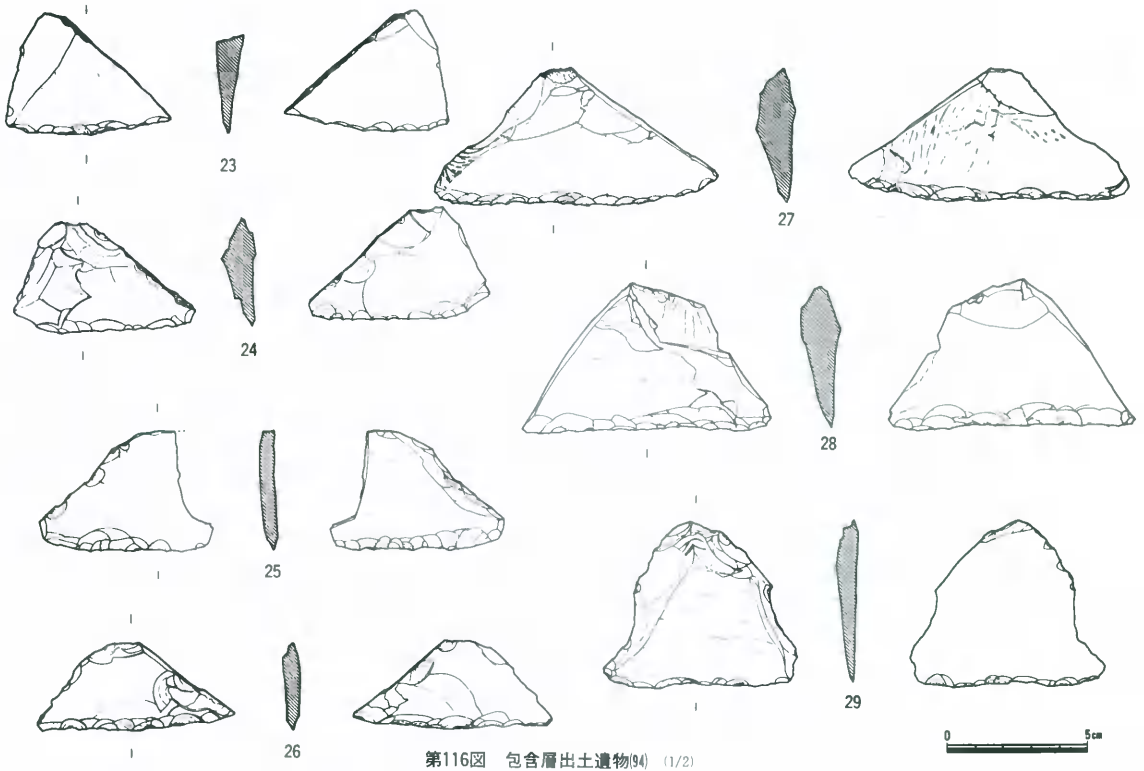


第113図　包含層出土遺物(91)　(1/2)

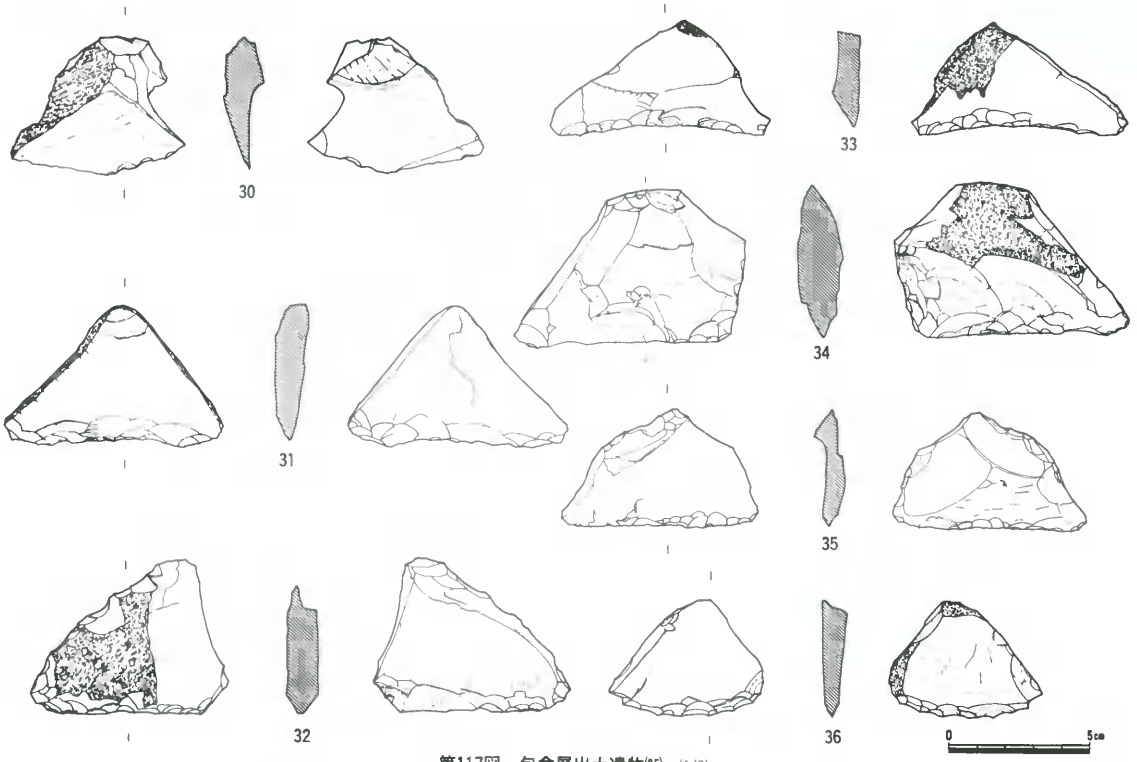
第114図　包含層出土遺物(2)　(1/2)



第115図　包含層出土遺物(93)　(1/2)

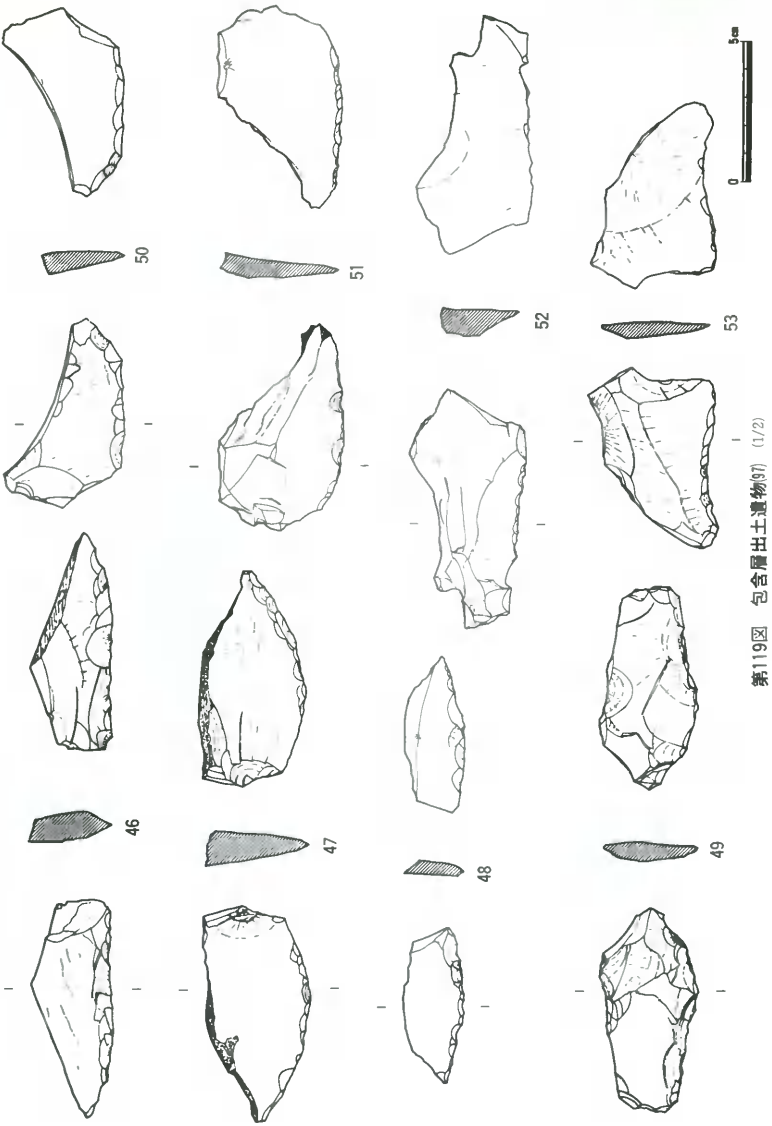


第116図　包含層出土遺物(94)　(1/2)

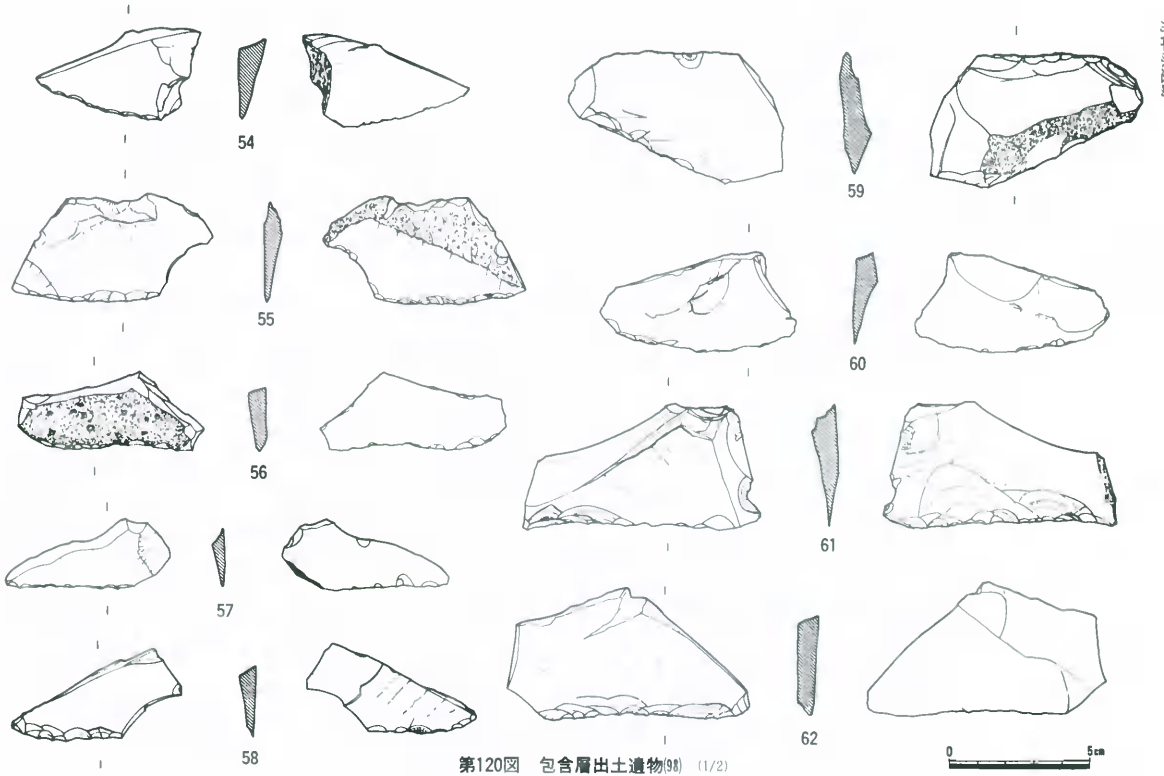


第117図　包含層出土遺物(95)　(1/2)

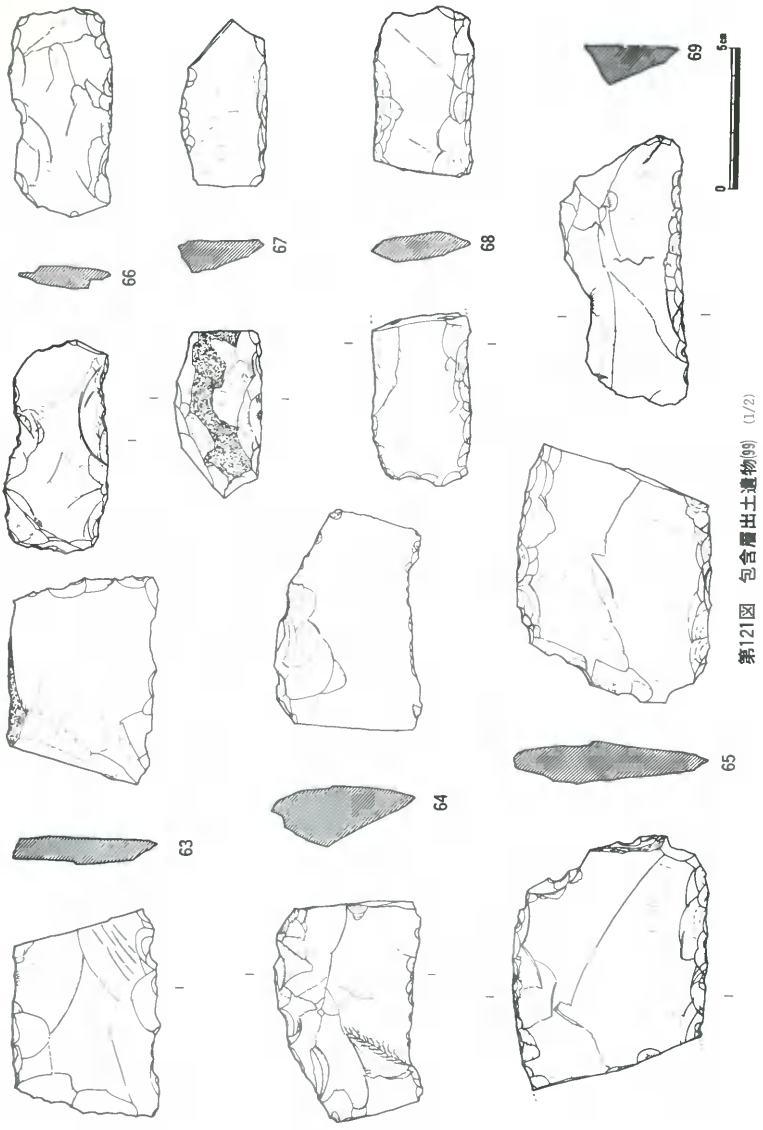
第118図　包含層出土遺物(96)　(1/2)



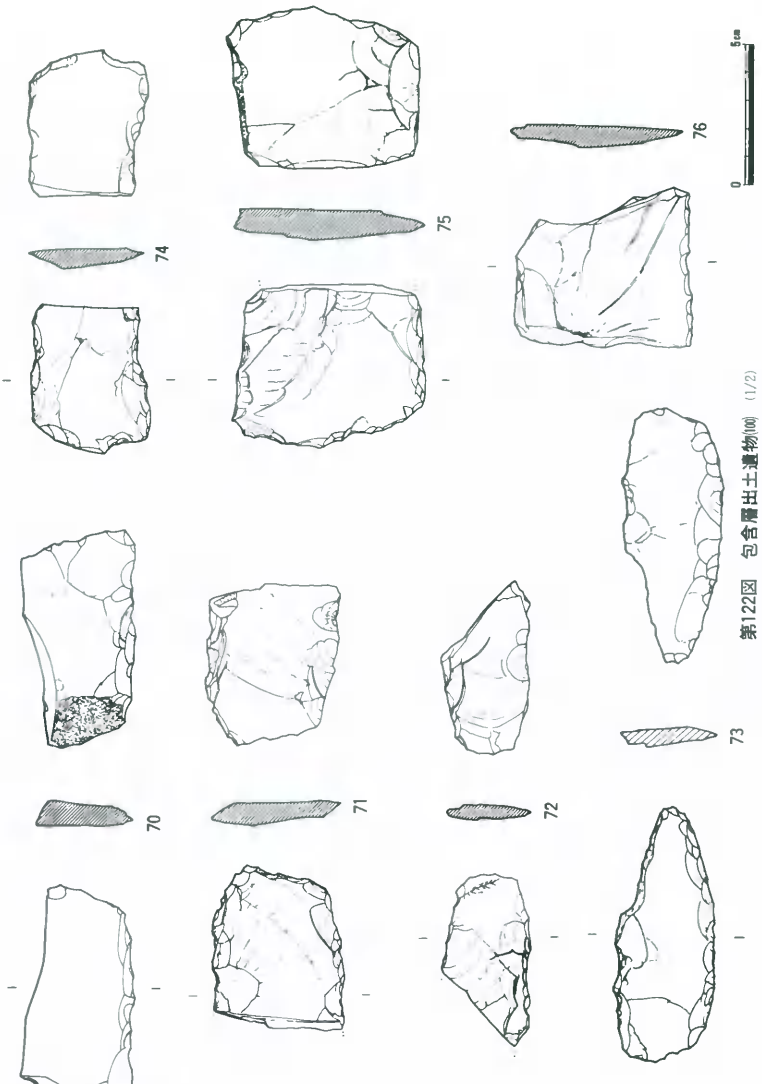
第119図　包含層出土遺物(97)　(1/2)



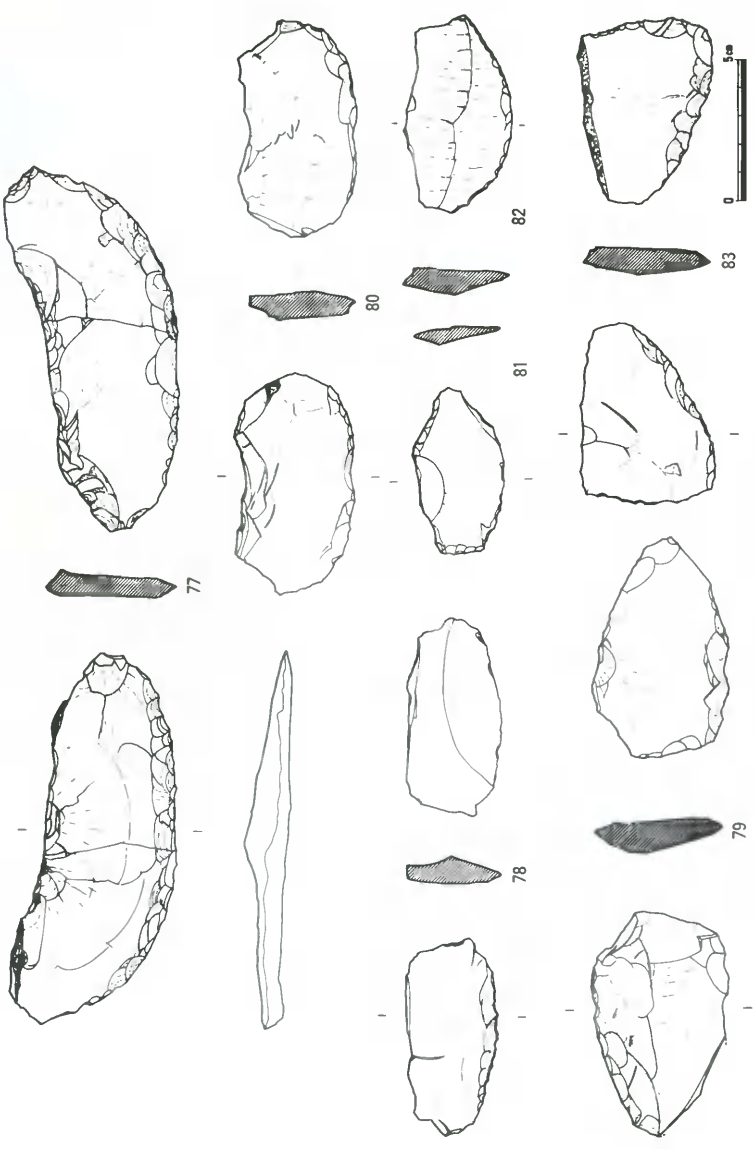
第120図　包含層出土遺物(98)　(1/2)



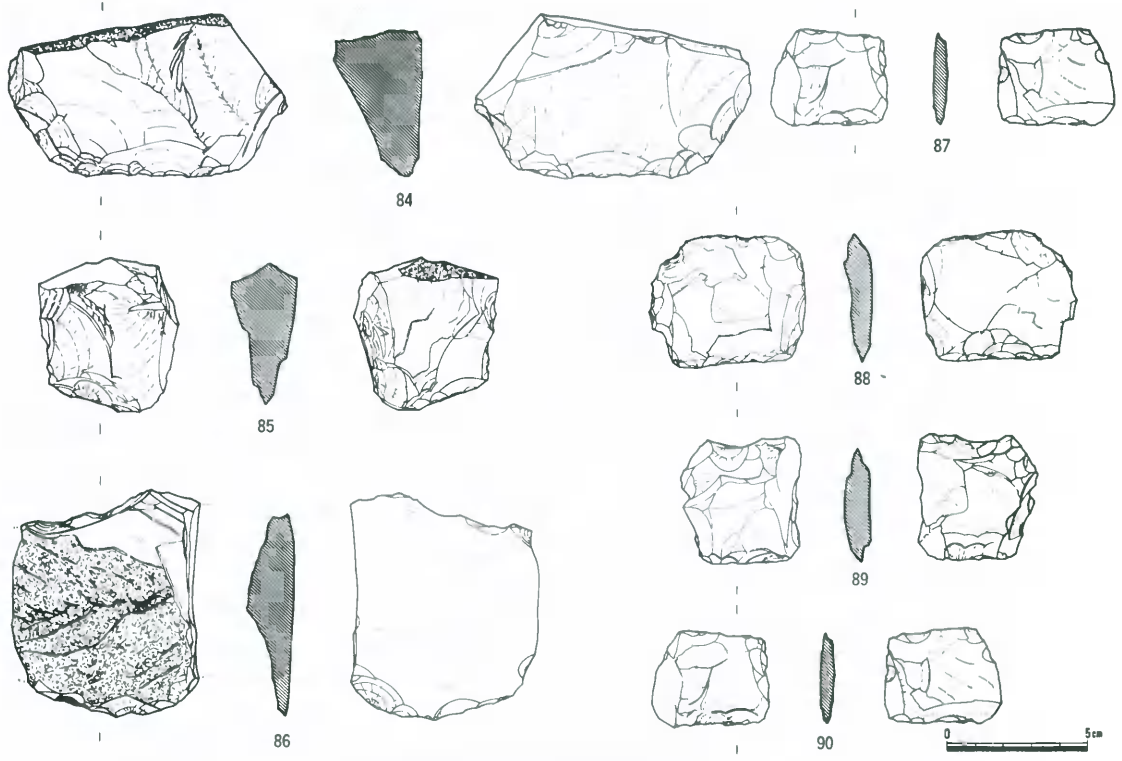
第121図　包含層出土遺物(99)　(1/2)



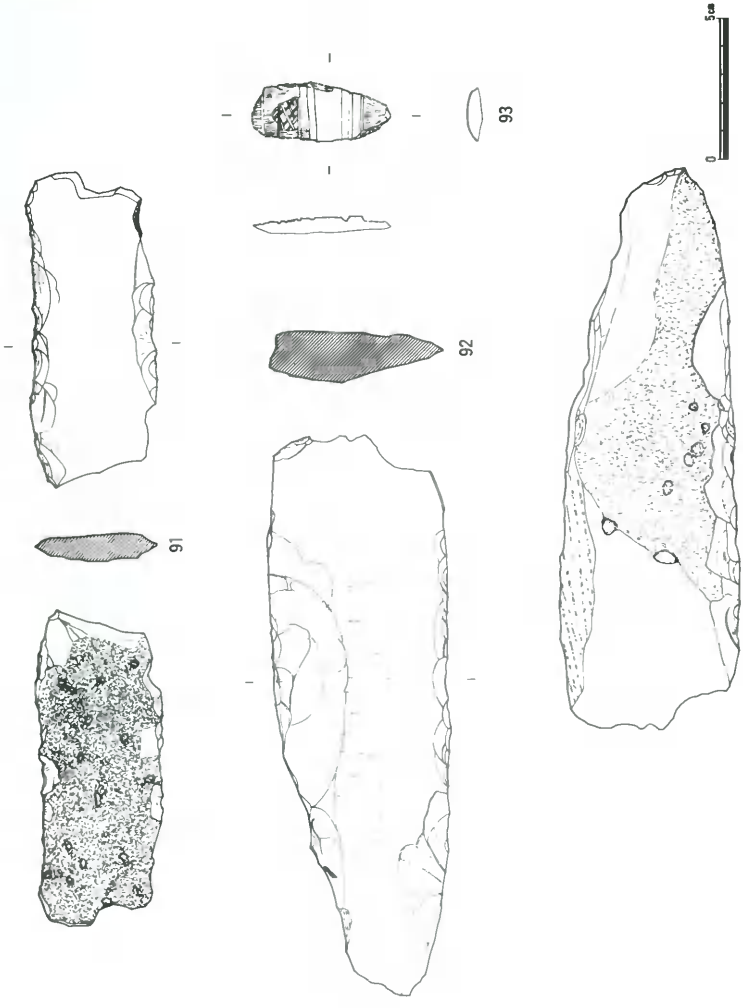
第122図　包含層出土遺物(100)　(1/2)



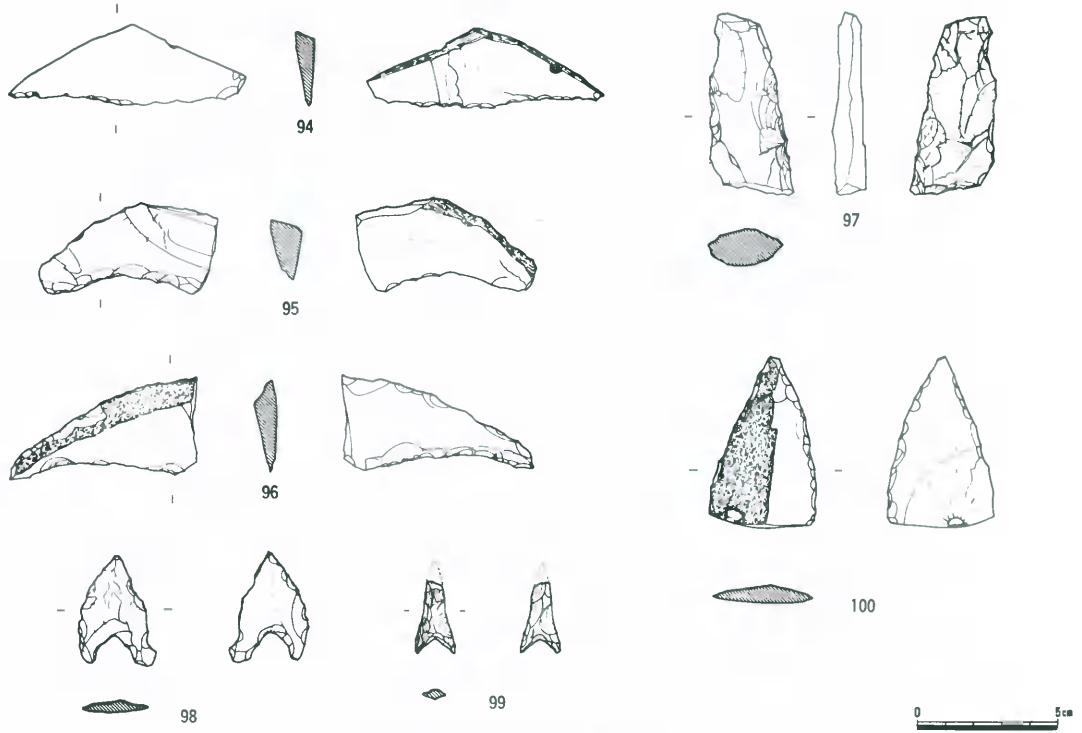
第123図　包含層出土遺物(101)　(1/2)



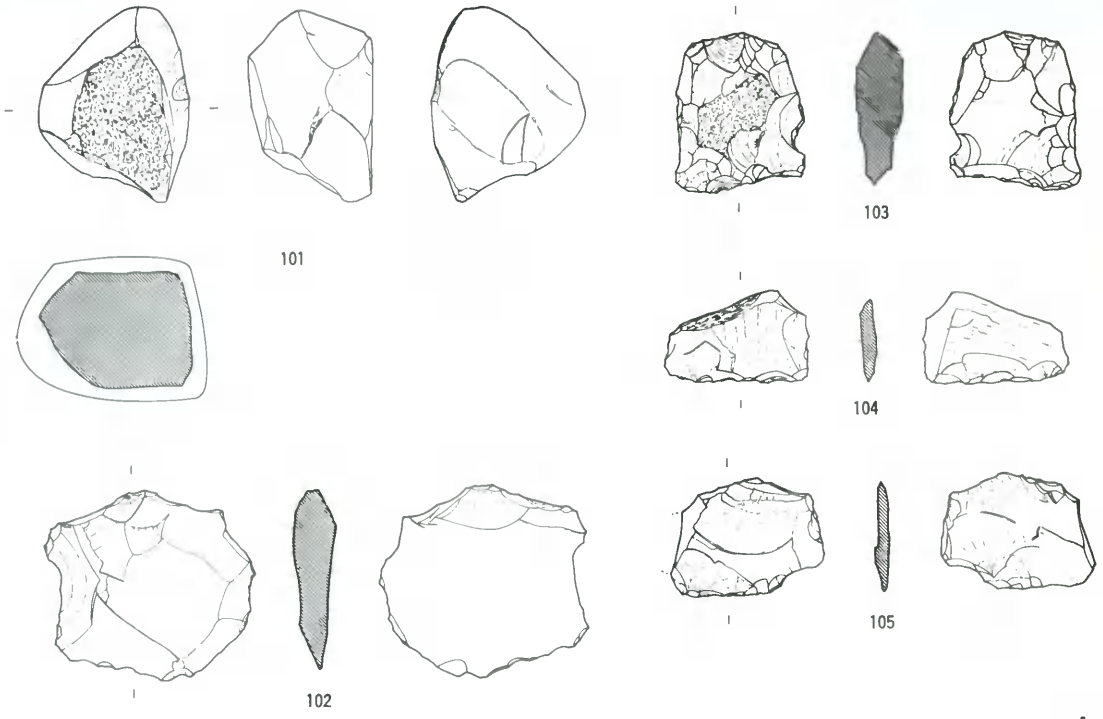
第124図　包含層出土遺物(102)　(1/2)



第125図　包含層出土遺物(1/2)

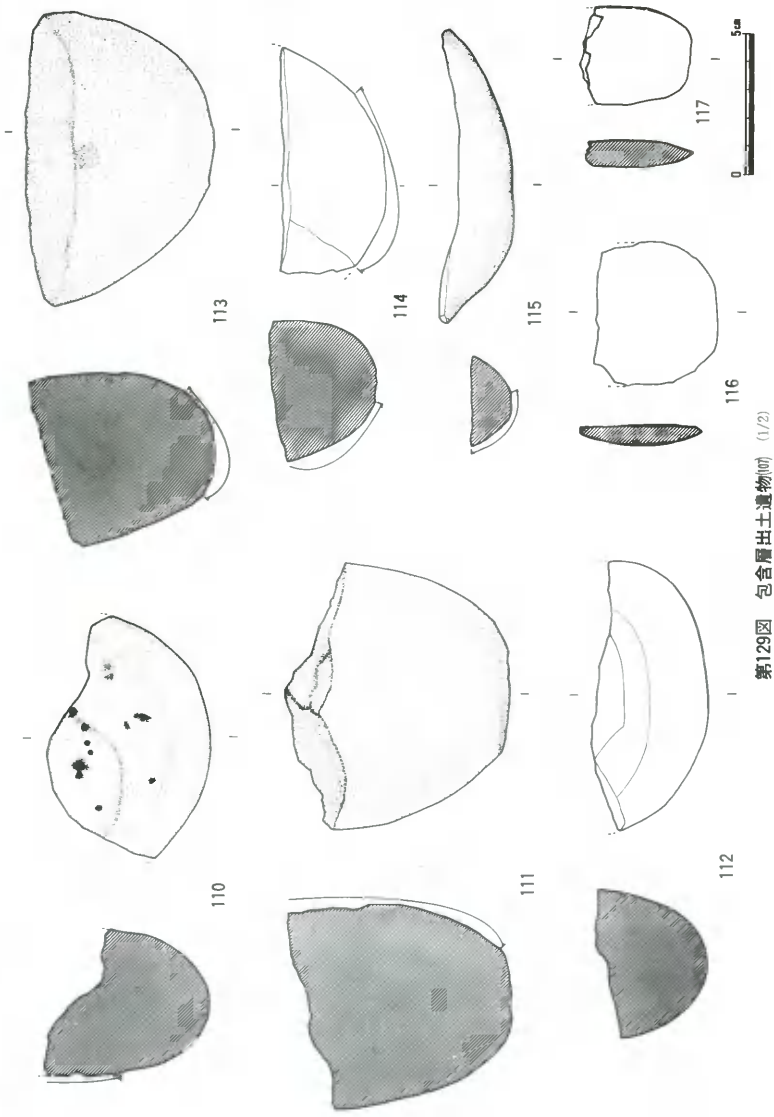


第126図　包含層出土遺物(10) (1/2)

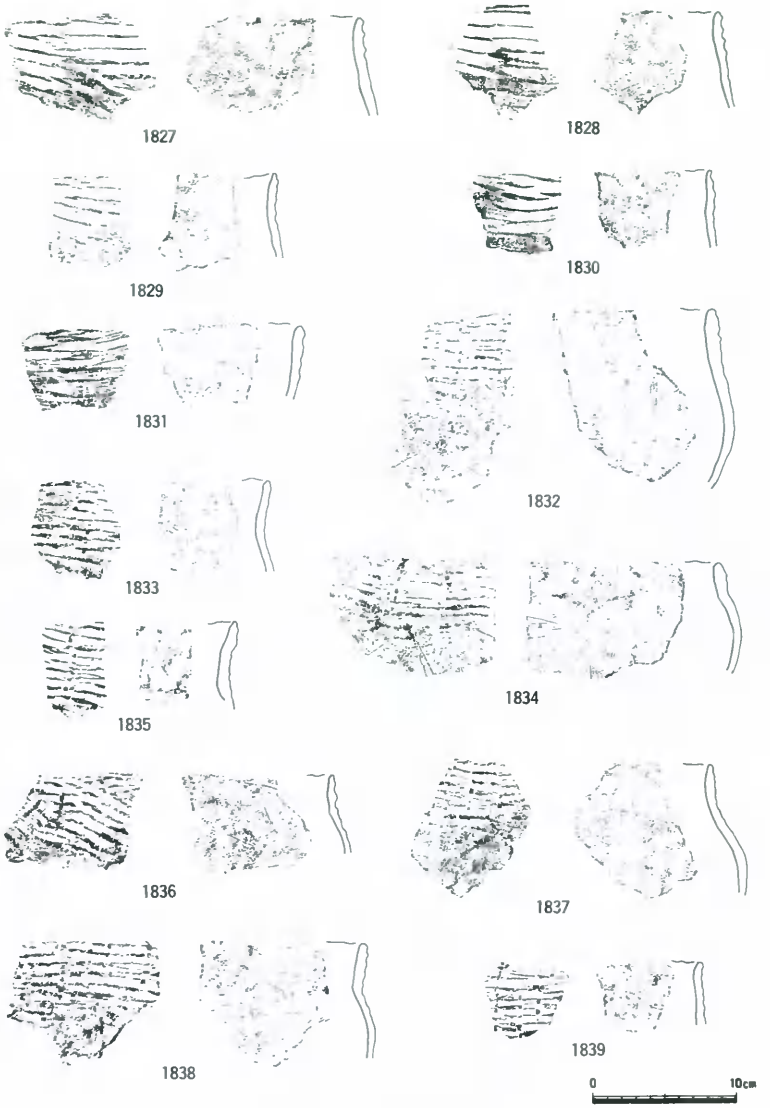


第127図　包含層出土遺物(5) (1/2)

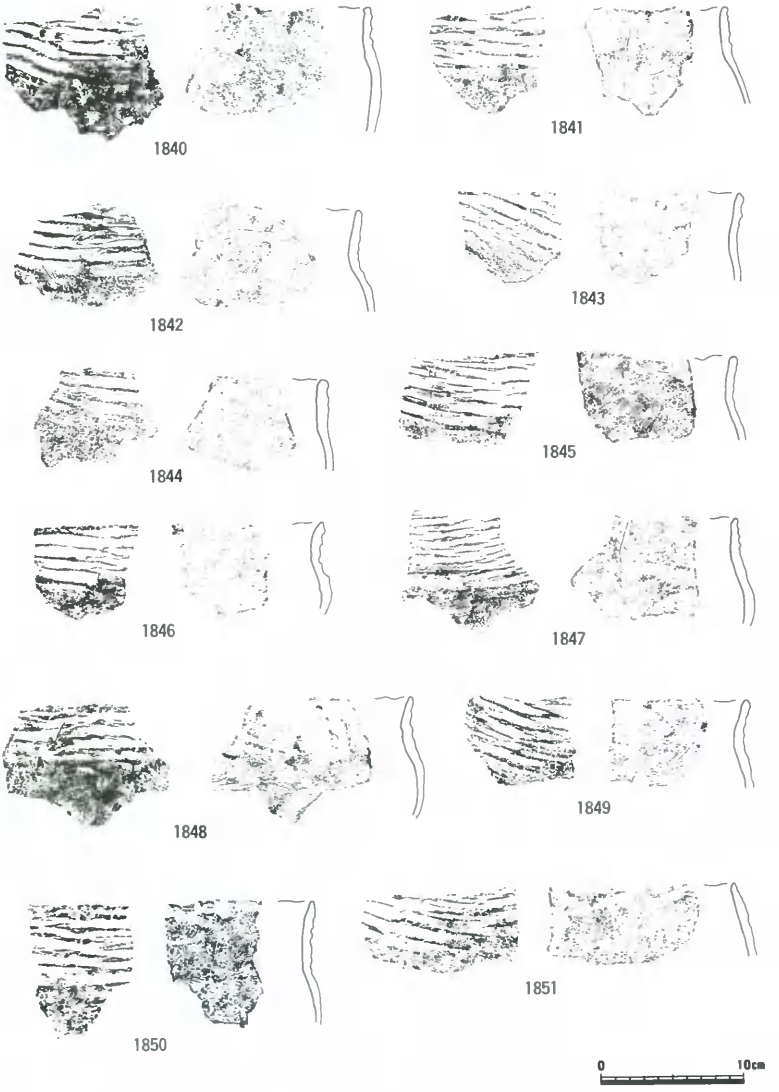
第128図　包含層出土遺物(106)　(1/2)



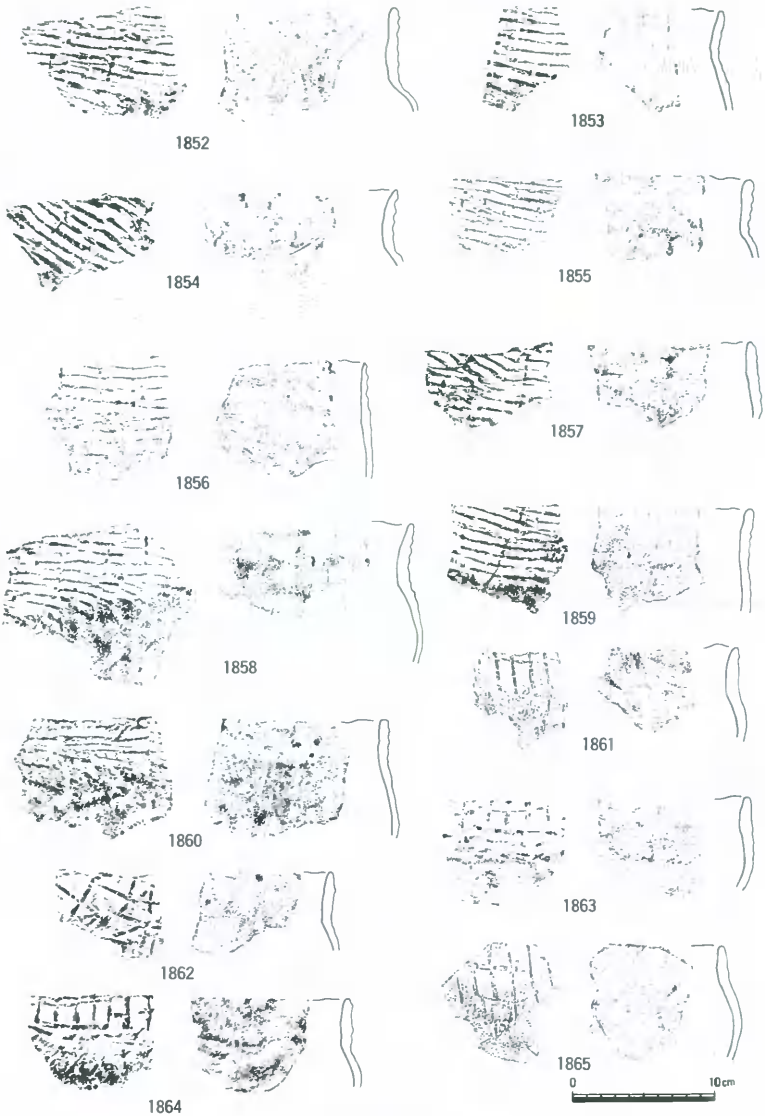
第129図　包含層出土遺物(1/2)



第130図　土器層出土遺物(1)　(1/4)



第131図　土器層出土遺物(2)　(1/4)



第132図　土器層出土遺物(3)　1/4

1866

1867

1868

1869

1870

1871

1872

1873

1874

1875

1876

1877

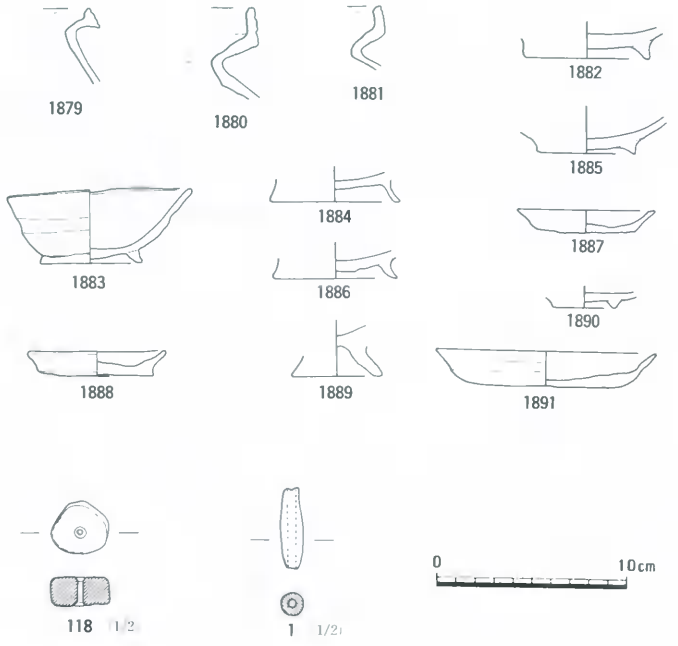
1878

第133図　土器層出土遺物(4)　1/4

弥生から中世の遺物（第134図）

1879は，口縁端面に凹線を施文し，内面には押圧痕を認める。**1880**は，口縁端面に沈線を施文し，**1881**は，櫛描沈線である。**1884**は内面をヘラミガキ，胎土は，精良なものである。**1891**は，内面を硯としているものである。**1882・1883・1885～1888・1890**は，早島式土器の破片である。

これらの土器の出土地区は，**1879**と**1882**はＡ区で，他はＣ区からの出土である。この他の遺物特に中世遺物は，それぞれの調査区の旧河道に伴う砂層中に多く包含されていたが，充分図化できなかったことを記しておくしだいである。



第134図　包含層出土遺物(10)（1/3・1/2）

第6節　小　　結

ここでは，縄文時代の遺物について，その時期的な位置付けをしておきたい。

前期（第135図）は，ⅠからⅤに類別することができたのである。（以後，前期Ⅰ類・前期Ⅱ類・前期Ⅲ類・前期Ⅳ類・前期Ⅴ類とする。）

前期Ⅰ類は，舟津原遺跡において最も古い時期のものと考えられるものである。羽島貝塚出土中に口縁部外面を肥厚させ，その下端に押圧痕を施すものが認められる。[註1] また，調整もアルカ属の条痕を用いるなどこれに近い内容を示している。しかしながら，肥厚部分に縄文を施文することがこれらと異なるのである。羽島貝塚のこの肥厚帯を有する土器に伴出するのは，羽島下層式[註2]とされるもので刺突文・貝殻文・爪形文を主体とするもので，縄文を施文することはないのである。このようなことから羽島下層式の範疇として把握できかねるものである。しかし，磯ノ森式[註3]より明らかに古い様相を示していることから前期Ⅰ類としたのである。

前期Ⅱ類は，斜行縄文・羽状縄文・連続爪形文などの文様を施文するものである。これらは，磯ノ森式と共通した内容を示しているのである。

前期Ⅲ類は，文様に棒状工具の先端による押し引き沈線を用いたもので，内外面には押圧痕がみられるものである。この土器は，彦崎貝塚出土の彦崎Ｚ１式の内容に近いものである。なお，16はこの型式に縄文の施文がないという見解[註5]からすれば問題となるものである。しかしながら，器面における押圧痕の存在からこの期に含めたのである。

前期Ⅳ類は，突帯の上から押し引くもの，またこの突帯上に羽状縄文を施文するもの，口縁端を内面に折り反して縄文帯とするものなどの内容を示すものである。この前期Ⅳ類の文様と共通する施文が認められるのは，彦崎貝塚あるいは里木貝塚からまとまって出土している。前者から出土するものでこの期と同じ様相を示すのは彦崎Ｚⅱ式[註7]とされるものであり，後者は，里木Ⅰ式[註8]とされているのである。この２つの土器型式は，最近の報告においてもほぼ同一型式とされる見解[註9]が出されている。なお，これと類似の土器とされる田井式[註10]の特徴である『口縁端部の断面形が，鋭角的に上にのびる形態の土器[註11]』とされるものはここにおいては認められていないのである。

前期Ⅴ類は，口縁端部内面を肥厚気味にした縄文帯，押し引きを付さない突帯，また39にみられるＬＬＲと考えられる縄文原体そして45における太い縄と細い縄によるＬＲの縄文原体などを特徴とするものである。この前期Ⅴ類にみられるような内容をもつ土器はあまり判然としないが，40の器形が中期初頭のものに類似するが文様の内容からそこまで下がるとは考えられないのである。高橋護氏が彦崎貝塚の出土土器について『彦崎Ｚⅱ式に続く未命名の土器群[註12]』

とされたものに近い様相を示しているのである。

以上が前期に属すると考えられる土器群であり，前期中葉を相前後する時期から終りごろにいたるまでの間において，ほぼ連続した土器の流れが認められたのである。

中期（第136図）は，ⅠからⅤに類別することができたのである。（以降，中期Ⅰ類・中期Ⅱ類・中期Ⅲ類・中期Ⅳ類・中期Ⅴ類とする。）

中期Ⅰ類は，粗く硬い繊維であるため条が縦行する特徴的な縄文原体を用いるものである。この縄文原体による地文に突帯文，アルカ属の押圧痕，爪形文などを施文している。口縁部内面は，肥厚させることはなく，縄文を施しているのである。

中期Ⅱ類は，中期Ⅰ類と同様の縄文原体の地文に半截竹管による沈線文を用いるものである。中期Ⅰ類とⅡ類は，縄文原体から船元式[註13]とされるものである。そして中期Ⅰ類は，里木貝塚出土[註14]の船元Ⅰ式Ａ類とされるもので中期Ⅱ類は，同じ貝塚出土中の船元Ⅲ式Ａ類そしてＢ類に類似することが考えられるのである。

中期Ⅲ類は，地文に深浅交互の縄文原体を施文するものである。また，この地文に半截竹管による弧線文などを施しているのである。この縄文原体を施文するものは，里木Ⅱ式の古段階[註15]に相当するものであり，里木貝塚においては船元Ⅳ式としているものと同じ内容を示しているのである。

中期Ⅳ類は，地文の縄文が撚糸文となるものであり，里木Ⅱ式の新段階[註16]に相当するものである。また，里木貝塚出土土器においては，里木Ⅱ式[註17]とされるものと同じ内容を示すものである。

中期Ⅴ類は，地文にアルカ属による条痕を用いるものである。この地文の上に太めの沈線による文様を描くものである。このⅤ類は，里木貝塚出土の里木Ⅲ式[註18]また福田貝塚出土の福田Ｃ式[註19]と類似する内容を示しているのである。

以上，中期は，中期初頭の段階と前半を代表する船元式の中葉と末葉の時期のものが見出されていないのである。中期全体の出土量も前期と同様に少ない傾向を示している。

後期（第137～139図）は，ⅠからⅧに類別することができたのである。（以降，後期Ⅰ類・後期Ⅱ類・後期Ⅲ類・後期Ⅳ類・後期Ⅴ類・後期Ⅵ類・後期Ⅶ類・後期Ⅷ類とする。）

後期Ⅰ類は，太い沈線を用いた曲線を多用するものである。この曲線は，鉤状文を主に描くが，曲線とならず沈線のコーナーが直角となるものも認められ，いずれも磨消縄文となる。この磨消縄文は，巻貝によって施文することで同様の効果を表現させているものが多く認められる。また，巻貝条痕の地文に太い沈線文を施すものも存在する。これら一連の特徴を示すものは，中津貝塚出土の中津式[註20]と同じ内容を示している。

後期Ⅱ類は，Ⅰ類に比べ細い２本ないし３本の沈線の先端が巻き込むようになり，対向する沈線は連続しないという特徴的な文様をもつものである。また，これらと伴うと考えられる口

縁部内面を肥厚させ縄文帯とする浅鉢形土器である。これらと共通する内容を示すのは，福田貝塚出土の福田KⅡ式[註21]とされるものである。

後期Ⅲ類は，口縁部内面を肥厚させるものである。これは，彦崎貝塚出土の彦崎KⅠ式[註22]とされるものと共通した内容を示している。

後期Ⅳ類は，口縁部外面を肥厚させるもので，同心円状の曲線の文様を多く用いるものである。これらの特徴を有する土器は，津雲貝塚出土の津雲A式[註23]とされるものとほぼ共通した内容をもつものである。

後期Ⅴ類は，Ⅲ類あるいはⅣ類のように顕著でないが，ふっくらとした口縁部を形成するものである。文様は，細い沈線を多用させるが，磨消縄文の効果的な使用はあまりみられなくなる。このように特徴を示す土器については，具体的な報告がみられない。しかし，広江・浜遺跡において，これと類似するものが若干報告[註24]されている。時期については，口縁部の処理及び文様から次のⅥ類の口縁部肥厚がⅤ類よりも顕著でない傾向がみられることからⅤ類をこの段階においたのである。

後期Ⅵ類は，口縁端部をわずかに肥厚気味にする他に，丸く終らせるもの，平坦に仕上げるものなどがみられる。また，Ⅲ類およびⅣ類にみられた頸部を無文帯にする深鉢形土器は，この段階になると無文帯と胴部文様との境を削り出しによる明瞭な段をもたなくなり，沈線を施文するのがある。このような内容を示すのは，彦崎貝塚出土の彦崎KⅡ式[註25]とされたものと類似するのである。

後期Ⅶ類は，沈線をヘラによって描き，細いキザミを用いている。これと近い内容を示すものは，馬取貝塚出土の馬取式[註26]である。しかし，この馬取式には，巻貝による沈線を施文するものが主体を占めているが，この報告書の図中で若干認められるのである。

後期Ⅷ類は，巻貝による沈線を施文するものである。キザミを付すものと付さないものがみられ，巻貝による側面圧痕あるいは，殻頂による刺突文などが付される。これと類似する内容をもつものは，馬取式また福田貝塚出土の福田KⅢ式[註27]とされるものである。

以上，後期は，終末の段階を除いて連続した土器の流れを明らかにすることができたのである。後期Ⅰ類よりも古相の内容をもつ土器が何点か認められ，また，終末の問題などとともに阿津走出遺跡との関連で後述する。

晩期（第140・141図）は，ⅠからⅤに類別することができたのである。（以後，晩期Ⅰ類・晩期Ⅱ類・晩期Ⅲ類・晩期Ⅳ類・晩期Ⅴ類とする。）

晩期Ⅰ類の粗製土器は，アルカ属の条痕を残すものである。口縁部は，比較的長めの傾向を示し，横位のアルカ属の条痕がみられ，胴部は縦位の調整痕を残すものである。精製土器は，杯部から大きく外反し，屈曲してから端部を大きく上方へと拡張するものである。この拡張部

外面に沈線を施すものもみられる。このような内容を示すものは，黒土遺跡[註28]また中山遺跡[註29]などにおいて出土が知られている。

晩期Ⅱ類の粗製土器は，外反する口縁部と胴部にかけて，横位のアルカ属による条痕がみられる。また，外反気味に直口する口縁部をもつものにも同様の条痕が施される。特に口縁部に用いられる整然とした条痕は，明らかに文様を意識したものと判断されるのである。また，胴部からゆるやかに外反して口頸部をつくる深鉢形土器には，小形の爪形文や刺突文を施すものが認められるのである。精製土器は，口縁部が屈曲しないもの，短く立ち上がり気味となるもの，口頸部が短く強く屈曲するものなどがある。これらの口縁部内面は，削り出しによる段をもつものが主体を占めるのである。また，鉢部から口頸部への屈曲は，逆くの字のように強くなる。このような内容を示すものは，舟津原貝塚出土の舟津原式[註30]である。そして今回の調査地点は前述したごとく接した地点になることからも舟津原式のより具体的内容を示すものと考えているのである。

晩期Ⅲ類の粗製土器は，胴屈曲部に□形文，連続した押し引き文，爪形文などが施文されている。口唇部のキザミも認められる。精製土器は，口縁端部の内面が粘土の貼り付けによるカマボコ状の突帯となるのである。このような内容を示すのは，原遺跡出土の原下層式[註31]と谷尻遺跡出土[註32]のものがこれに類似すると考えられるのである。

晩期Ⅳ類の粗製土器は，口縁端部外面に貼り付けの突帯文を有するものである。この突帯文および刺突文の内容においてかなりの相違が認められる。また，口縁端部内面には，沈線を施すものも認められている。精製土器は，鉢部から口頸部の屈曲はあまり強くない。このような内容を示すのは，黒土遺跡の黒土ＢⅡ式[註33]とされるものに類似するのである。

晩期Ⅴ類の粗製土器は，胴部に貼り付け突帯を有するもので，アルカ属の条痕は認められない。精製土器は口縁端部の丸くなる椀状のものが伴うと考えられるが明確に類別することはできなかった。このような内容を示すのは，黒土ＢⅡ式の一部と百間川沢田遺跡出土の沢田式[註34]とされるものである。

以上が舟津原遺跡における前期から晩期に至る位置付けである。文中で記したごとく個々に問題を含むものが多く認められている。これらについては，阿津走出遺跡出土遺物と比較検討することにし，あらためて後述する。（下澤）

註

註１　藤田憲司他「羽島貝塚の資料」『倉敷考古館研究集報第11号』1975年　47ページ図３の３及び４がこれに相当する。

註２　鎌木義昌・高橋護「瀬戸内」『日本の考古学Ⅱ』河出書房1965年・註１と同じ

註３　鎌木義昌・池田次郎「岡山県磯ノ森貝塚発掘報告」『吉備考古81・82合併号』1951年

註4　高橋護「彦崎貝塚」『岡山県史第18巻考古資料』1986年

註5　註1の51から52ページの彦崎Z I式の説明で，縄文の施文の認められないものとされている。これについては，里木貝塚出土の彦崎Z I式とされたものは，縄文の施文が認められている。また，註4においても縄文の遺存を述べられていることなど[註6]から本文中の判断とした。

註6　間壁忠彦・間壁葭子「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報第7号』1971年の26ページの20に縄文の施文がある。

註7　註4と同じ

註8　註6と同じ

註9　註6において，『山内氏が，里木Ⅰ式として，前期後葉に位置付けた土器群であり，彦崎貝塚でZⅡ式と呼ばれたものと近似したものであろう。』と述べられ，また註4で『彦崎Ⅱ式は，旧来，里木Ⅰ式土器と呼ばれたものと同一である。』と記している。

註10　鎌木義昌「玉野市田井遺跡の調査」『吉備考古78・79合併号』1950年

註11　高橋護「羽島貝塚」『岡山県史第18巻考古資料』1986年

註12　註4と同じ

註13　三森定男「西南日本縄文土器の研究」『考古学論叢1』1936年，高橋護「船元貝塚」『岡山県史第18巻考古資料』1986年

註14　註6と同じ

註15　高橋護「近畿・中国・四国地方」『縄文土器大成2中期』講談社　1981年

註16　註15と同じ

註17　註6と同じ

註18　註6と同じ

註19　木村幹夫・鎌木義昌「中国地方の縄文式土器」『日本考古学講座3』1956年

註20　註2・19と同じ

註21　註2・19と同じ

註22　註2・19と同じ

註23　註2と同じ

註24　間壁忠彦他「広江・浜遺跡」『倉敷考古館研究集報第14号』1979年

註25　間壁忠彦「縄文後期彦崎KⅡ（竹原）式土器をめぐって」『倉敷考古館研究集報第15号』1980年

註26　松崎寿和他「広島県文化財調査報告第4集」広島県教育委員会　1963年

註27　註2と同じ

註28　坪井清足『岡山県笠岡市高島遺跡調査報告』岡山県高島遺跡調査委員会1956年における図版33の上に認められる。

註29　高橋護氏御教示による。

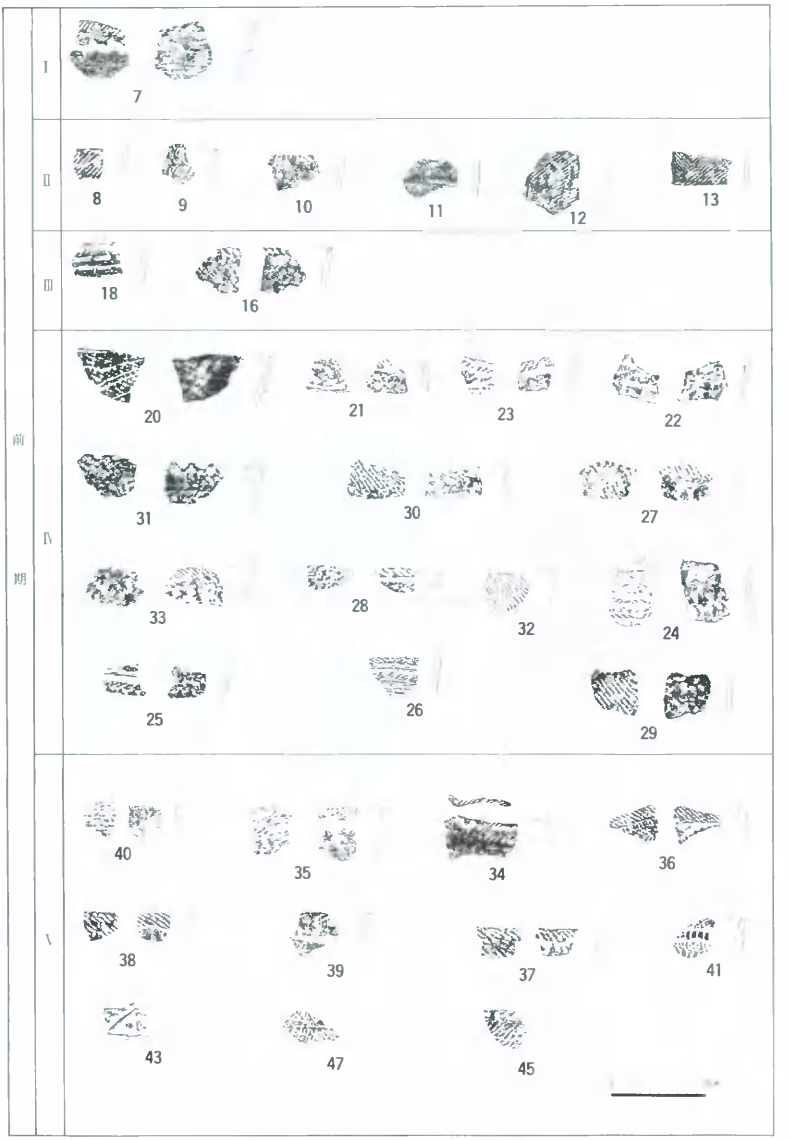
註30　鎌木義昌，江坂進「岡山県御津町原遺跡」『瀬戸内考古学2号』1958年，藤田憲司「倉敷市舟津原貝塚の資料」『倉敷考古館研究集報第16号』1981年

註31　註28と同じ

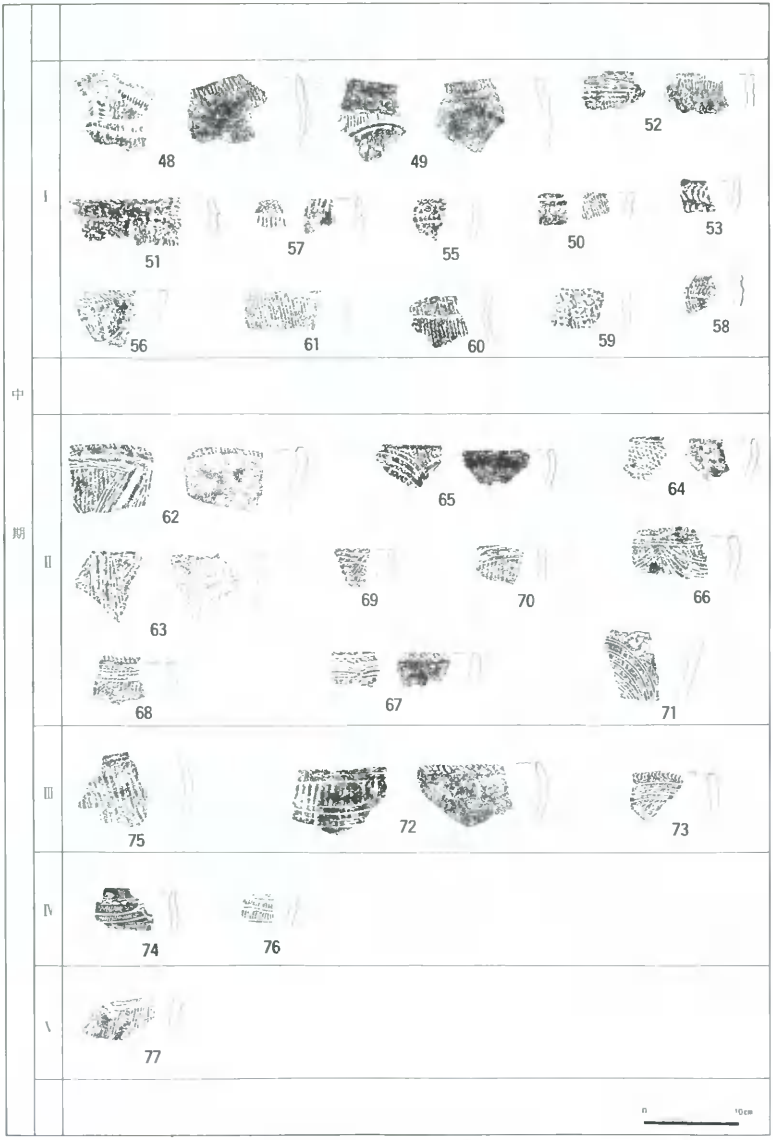
註32　岡山県教育委員会「谷尻遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告11』1975年

註33　註26と同じ・文化財保護委員会『吉胡貝塚』1952年の123ページ。

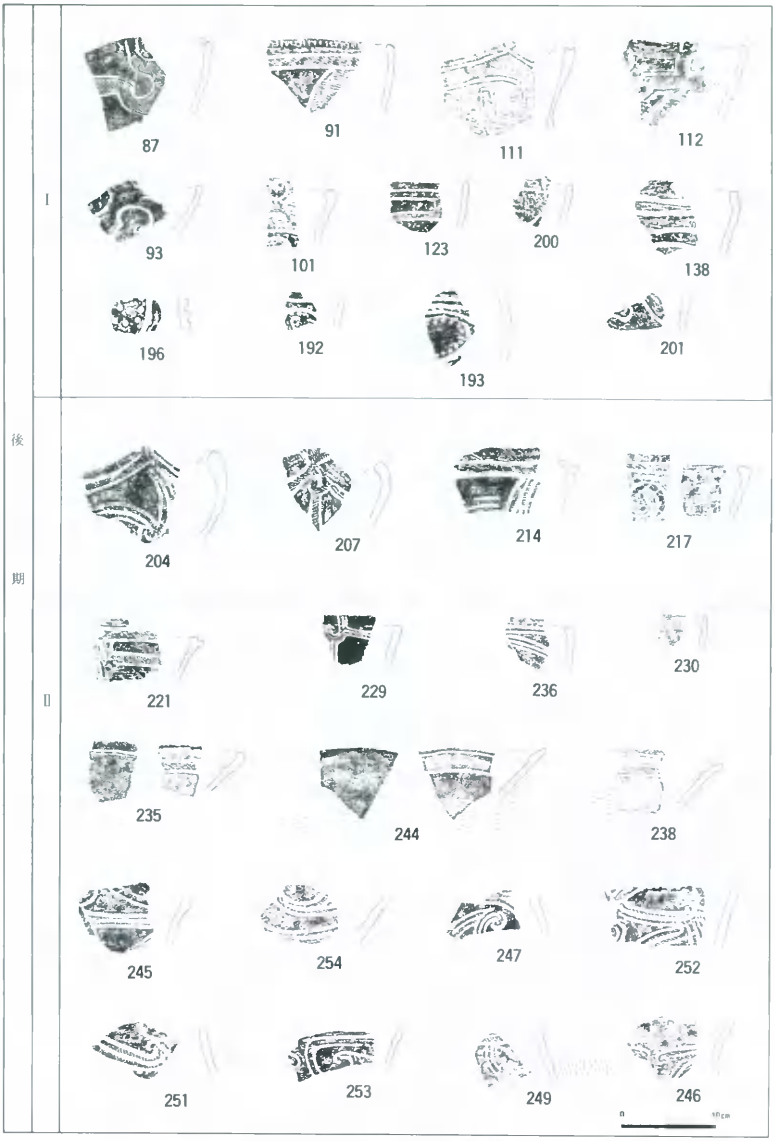
註34　岡山県教育委員会「百間川沢田遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告59』1985年



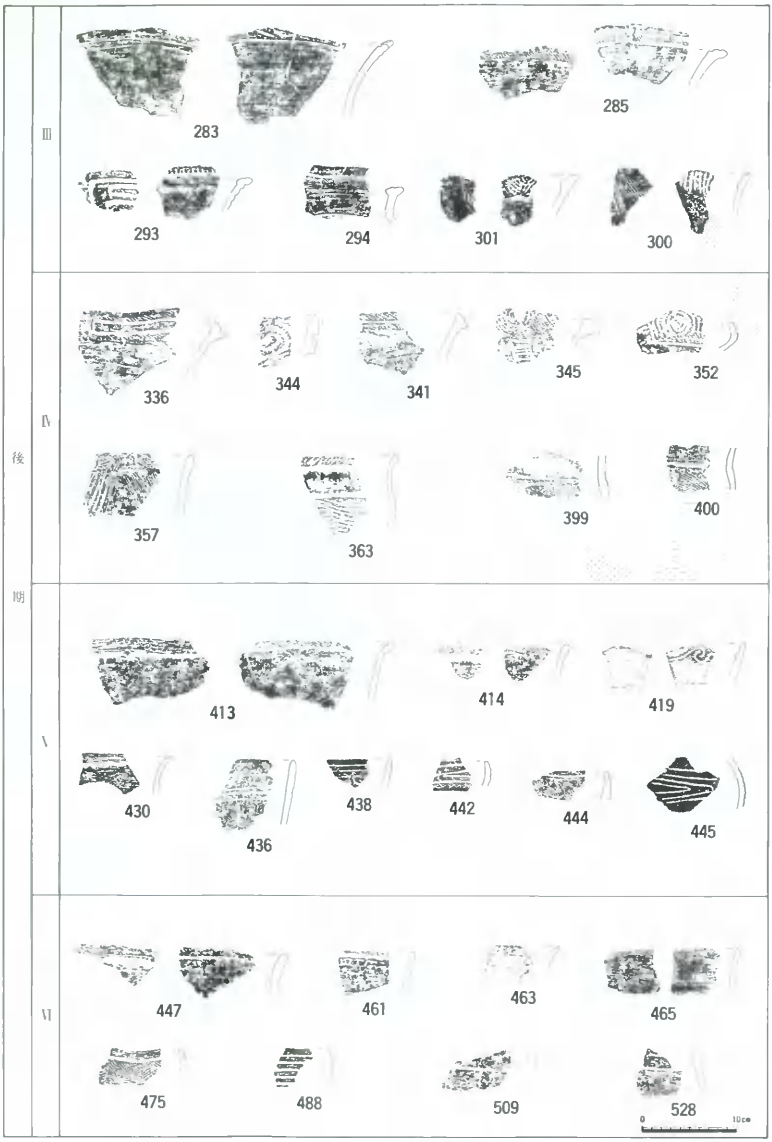
第135図　編　年　図(1)　1/6



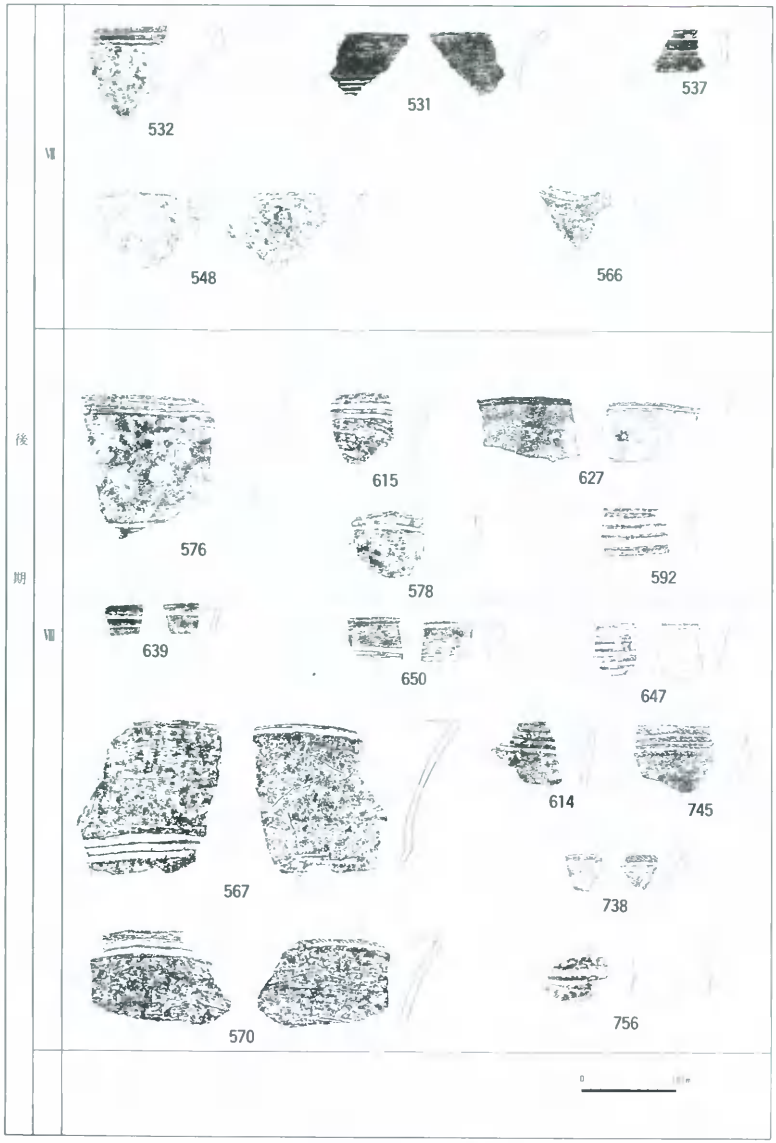
第136図　編　年　図(2)　1/6



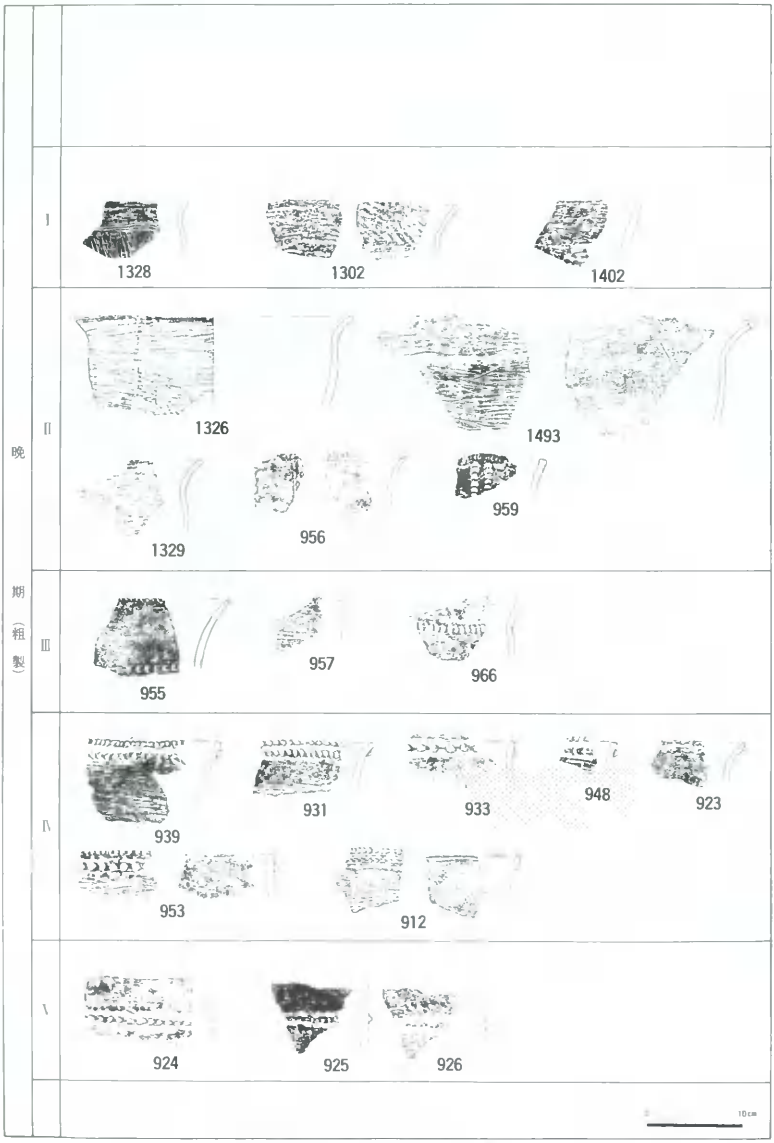
第137図　編　年　図(3)　1/6



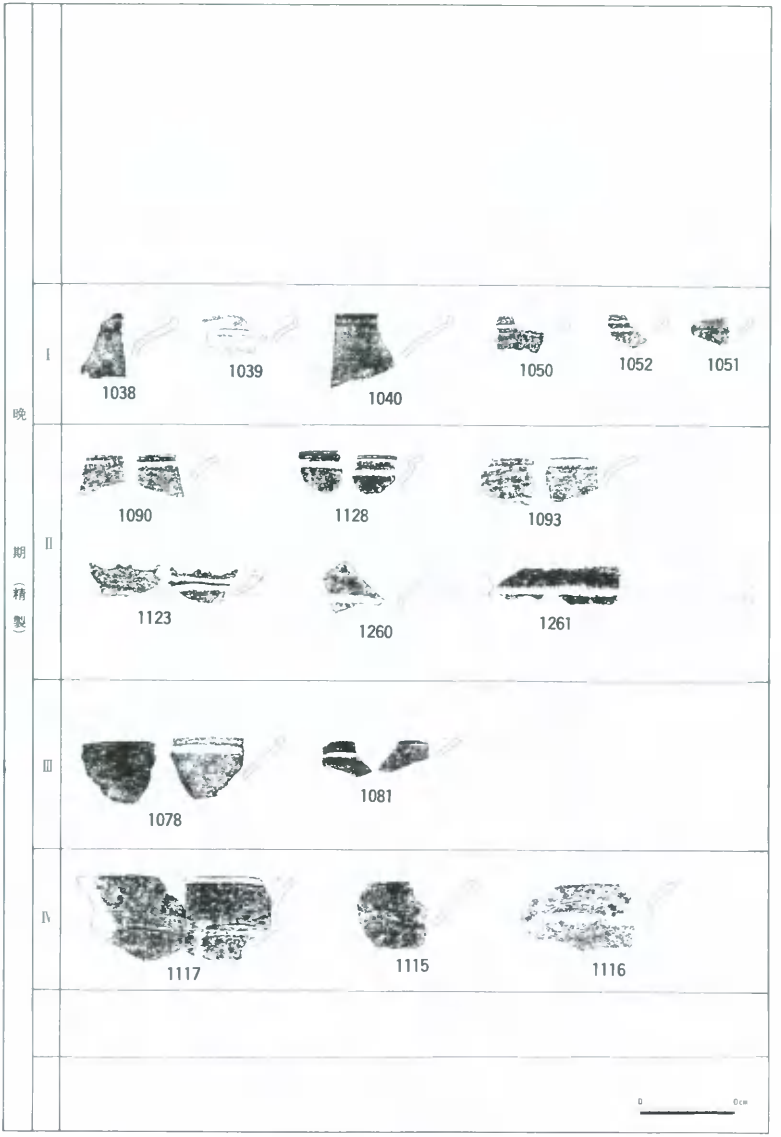
第138図　編　年　図(4)　1/6


後
期
Ⅵ
Ⅶ
532
531
537
548
566
576
615
627
578
592
639
650
647
567
614
745
738
570
756

第139図　編　年　図(5)



第140図　編　年　図(6)　1/6



第141図　編　年　図(7)　1/6

第６章　児島（こじま）インターチェンジ散布地の調査

第１節　遺跡の位置

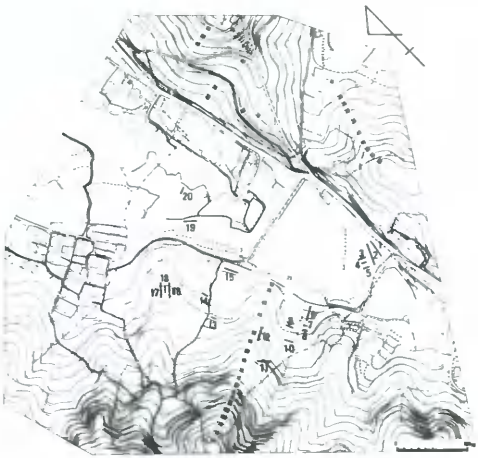
主要地方道玉野・玉島線を東折せずに、下津井電鉄の踏切りを越えて直進する。道は高さ144ｍの神道山から尾根線に高さを減じながら、新庄八幡宮の鎮座する丘陵へと続く尾根沿いに走る。道の西側には高さ148ｍの赤崎の丘陵がのびている。この両丘陵間にはさまれた谷部が調査対象となったのである。谷には３か所の池があり。そのうちの宮池から西丘陵裾および南の水田部を含む地区である。

第２節　調査に至る経緯

舟津原遺跡のＡ・Ｂ地区の終了後、昭和56年６月15日から８月28日にかけて実施した。

児島インターチェンジ予定地内には、従来の分布調査において４か所の散布地が認められていた。インターチェンジの用地は広大な面積が対象となるため、極力早い段階に遺跡の具体的把握が必要であった。この作業が遅れ遺跡の規模が大きくなれば、工事工程との競合が避けられない。このような状況になるのを防ぐ意味でも、早期に一次調査の実施を公団に要望していた。

昭和56年度に入り、公団から宮池部分の一部工事着工予定が発表され、発掘調査の必要に迫られたのである。問題となっていた用地買収につい



第１図　トレンチ調査位置図　(1/8,000)

ては、用地全体の60％ほどが終了している状況下であった。この60％について検討した結果、インターチェンジ内の主要な地区の調査が可能な状況であった。このようなことから、一次調査を実施したのである。

第３節　一次調査の結果

調査は、水田部と丘陵部に20本のトレンチを設定（第１図）して実施した。水田の現状は休耕地となり、雑草が背丈ほどものびている。丘陵部については、畑の開墾と孟宗竹によりほとんど自然面を認められない状態である。

谷部の水田部には７本のトレンチを設定し、新池と宮池の東寄りの水田については１～５のトレンチを設ける。いずれのトレンチも表土下200cmほどで湧水がはげしく、掘り下げができない。堆積土は花崗岩の風化土のみで，他の有機土の堆積は認められなかった。Ｔ－19・20は，通称てんぐ山からのびる山裾の末端にあたる位置にある。Ｔ－19は100cm，Ｔ－20は200cmでそれぞれ基盤層に達し，堆積土は花崗岩の風化土で，鉄分が多いため赤褐色をしている。

西側の丘陵部は、赤崎の丘陵の最も高い地点の148ｍほどのところから北東へ下がっていく地点にある。一部にはかなり傾斜のきつい所もあり、また平坦な尾根に連らなっている所もある。Ｔ－６～10は，用地北端の浅い谷地形を示す所で，現状では畑地となっている。Ｔ－10は地表下200cmほどで基盤層に達し，堆積土は花崗岩の風化土で茶灰色土である。他のトレンチもほぼこれと同様の内容を示す。Ｔ－11・12は東にのびるやせ尾根の南斜面に位置し，現状では孟宗竹林となり，斜面は段々に手が加えられている。２本のトレンチとも表土下20cmほどで花崗岩の基盤層に達し，基盤の面は孟宗竹の根や木の株により凹凸がみられるだけである。

Ｔ－13～15は，浅い谷状の地形を呈する位置にある。３本とも地表下200cmほどでも基盤層には達せず，堆積土は花崗岩の風化土である。

Ｔ－16～18は，丘陵頂部が平坦となる位置にある。表土下20cmほどで花崗岩の基盤に達し，基盤はほとんど凹凸なしの平坦である。北西側に段々が認められるため，この平坦は削平により形成されたものと判断される。

このような一次調査の結果をえて終了した。　　（下澤）

第７章　阿津走出南丘陵散布地の調査

第１節　遺跡の位置

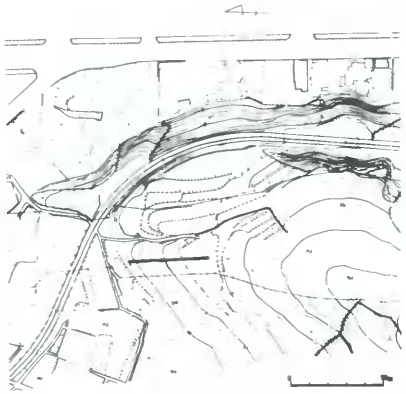
標高144ｍの神道山から北へのびる支丘に位置し、支丘は高さを減じながら阿津走出遺跡へとつながる。この支丘の北寄りに下津井電鉄の線路が横切っている。この線路から上が今回の調査の対象となったのである。

第２節　調査に至る経緯

当散布地は事前の分布調査では記録されていなかったものである。この神道山から派生する支丘には，分布調査において３か所の散布地が記されている。このことから，阿津走出南丘陵についてもこれらの一連の丘陵続きであるため，何らかの遺跡の存在が予想されたのである。調査は児島インターチェンジの一次調査が終了後阿津走出遺跡の調査と伴に実施した。

第３節　一次調査の結果

用地の在来線側は、丘陵頂部から東斜面については段々に畑を造成されており，旧地形を残しておらず，新幹線側については旧地形を保っている部分が認められた。この部分に南北に長いトレンチを設定（第１図）した。その結果、地表下15～20㎝掘り下げるが花崗岩の風化土を認めるだけで、遺構・遺物は検出されず今回の調査で終了した。（下澤）



第１図　トレンチ調査位置図（1/3,000）

第８章　高辻（たかつじ）散布地の調査

第１節　遺跡の位置

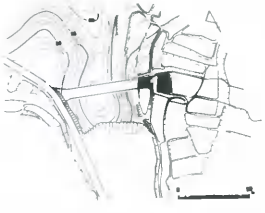
県道岡山・児島線の稗田十字路から右折して県道宇野津・下之町線に入り、県道沿いに所在する天王遺跡の先の道を左折する。丘陵裾沿いに幅１kmほどの谷を登り、中ほどで谷を横切り東側の丘陵へと移る。そして500mほどいって、東に池を見ながら畑の畔道に入り、その畔道を２kmほどいった細長く南にのびる丘陵の東斜面と畑が対象地である。

第２節　調査に至る経緯

高辻散布地は本州四国連絡橋陸上ルートの予定地ではなく、蟻蜂山トンネルの工事用道路として協議があったものである。分布調査の結果においては中世の遺物が小片ではあるが認められ、かつ地形的にも何らかの遺構の存在が予想されたのである。したがって工事施行の際には、事前の確認調査が必要であることを通知したのである。用地買収の遅れなどから、一次調査が可能になったのは昭和57年３月に入ってからであり、山際紫山遺跡と併行して実施しなければならない状況となった。

第３節　一次調査の結果

工事用道路の幅は、丘陵部で７m、畑で20mをはかる。調査は、畔道の両側の畑の表土をめくり遺構の検出につとめた。西の畑は基盤層が東に下がり、堆積土も花崗岩の風化土である。東の畑は、表土下20cmで安定した面を認め、さらに試掘で100～200cmの深さで掘り下げ、西と同じ内容を示す。また、このトレンチの東に行くにしたがい大きい転石が認められる。この一次調査の結果により、当遺跡の調査は終了した。（下澤）



第１図　トレンチ調査位置図
(1/4,000)

第9章　阿津走出(あつはしりで)遺跡の調査

第1節　遺跡の位置

主要地方道玉野・玉島線を南へ下る。左手には標高203mの竜王山を望み，その山裾に家屋が立ち並び，ほぼ平坦な面が海岸まで続く。この道と併行して下津井電鉄が走り，左手には塩田を埋め立てた新しい町と，ＪＲ瀬戸大橋線の児島駅がある。この地区は1971年まで塩田が営まれ，その塩田の区画ごとに赤崎浜，味野浜，小川浜などの名が付されている。道は新庄八幡宮の下で左に折れその丘陵裾を走る。神道山からのびる支丘の末端の一部が新庄八幡宮のある丘陵であり，その東側には細い谷を隔てて城山散布地のある独立丘陵がある。この間をぬけると前面には競艇場の駐車場の先に通称琴海湾が広がり，この手前が小さな入江になっている。この入江の先からは神道山から北へのびる支丘がゆるやかに高さを減じながらのび，その北側に谷を形成する。北側の城山散布地の独立丘陵の南端はなだらかな線を描かずに花崗岩の岩肌をそのまま露出させている。阿津走出遺跡は，この小さい入江の南側の山裾から城山の手前にかけて存在しているのである。

節2節　調査に至る経緯

阿津走出遺跡の調査は，家屋の移転が8月中に完了するため児島インターチェンジ散布地の調査終了を受けて，昭和56年9月から実施した。調査区は主要地方道玉野・玉島線の北側をＡ区，南側をＢ区とした。しかしながら実質的調査については，主要部分の調査は可能な状況であったが，路線の両側に付設される道路についてはまだ充分な了解が得られていなかったこと，また第1章第2節における保存問題などから，調査は継続しておこなうことができなかったのである。したがって個々の条件が整った地点から随時調査を実施していかなければならなかった。

現状においては遺跡の範囲が明確でないため，Ａ・Ｂ両区のトレンチによってその広がりを追求した。しかしＡ区については家屋移転の際の掘削により多量の製塩土器と灰が認められた。このことからＡ区についてはトレンチの掘削により影響を受けることが大きいため，Ｂ区について実施した。その結果，製塩土器の他に縄文時代後期から晩期の土器を多量に含む包含層を確認し，遺構も存在することが明らかとなった。

昭和56年９月からの調査は，全面調査ではなく一次調査の枠内で実施したものであり，遺構等が認められた地区については表土下を若干掘り下げただけでそれ以上の追求はしなかった。しかしながらこの調査においては，長さ160ｍ，幅26ｍを測る砂州上に存在する製塩遺跡と，縄文時代後期から晩期の遺構，遺物の存在を知ることができたのである。

昭和57年度に入り，保存協議の対象となっているＡ区とＢ区の北寄りを除いて，縄文時代後期から晩期の包含層が確認された丘陵裾部について調査を実施した。その結果，調査区の南端で６世紀代の製塩土器が多量に流入した住居址を検出した他，縄文時代後期から晩期の土壙を多数調査することができた。

昭和58年にはＢ区の主要地方道に近い西側の側道部分となる地区，及びさらに南寄りについて調査を実施した。トレンチ３本を入れた主要地方道寄りのＢ区については，掘削をしないため遺構の存在を確認して埋めもどした。なおＡ区の調査終了後に公団から新幹線用地については工事を起さない旨の話があった。このことから以後の調査は掘削部分については調査をし，それ以外については極力現状のままとしていくよう努めた。

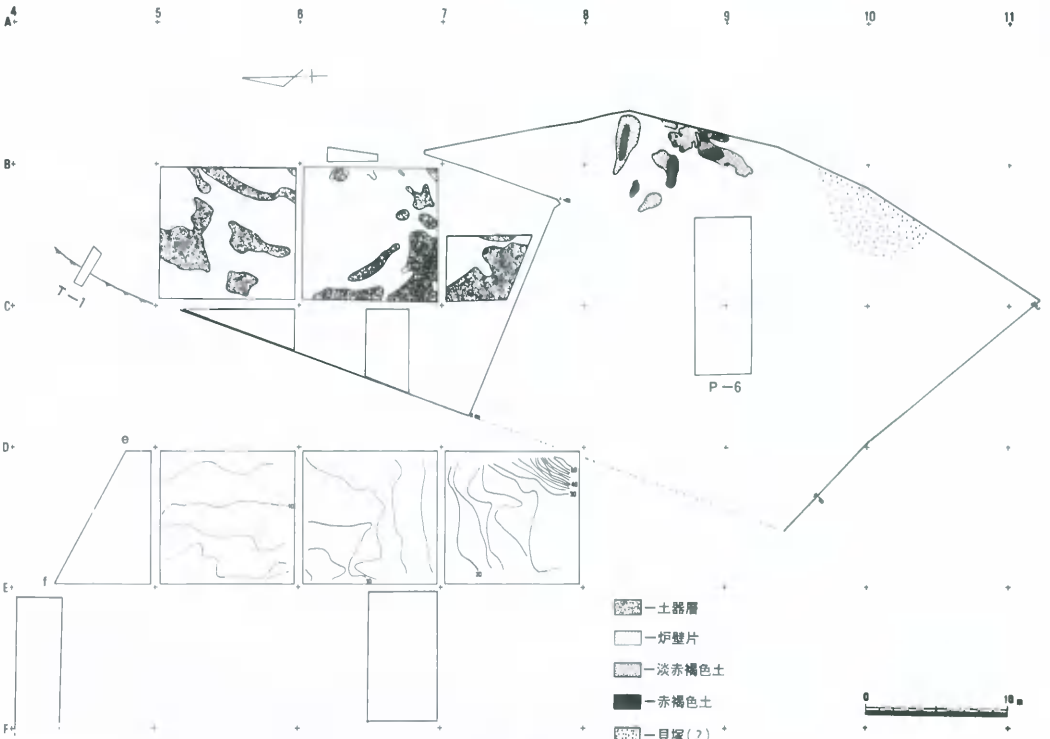
またこの年の10月には，工事用道路との関係で砂州北端寄りの用地外の畑に３か所のグリットを設定し掘り下げる。その結果，やはり耕土下20㎝ほどで土器層を検出し，あらためて砂州がここまでのびていることが再確認されたのである。さらに昭和56年度に一次調査をしたＡ区については，遺構検出面で調査を中止し焼土面や遺物が露出状態となっているため，人力により厚さ30㎝ほどにわたり花崗岩の風化土を被覆する保護措置を講じた。

昭和58年末に保存についての大筋の見通しが出されたのを受けて，昭和59年度からＰ－６と東側道の調査を開始し，引き続きＡＲ－２についても実施した。Ｐ－６では土器層と作業面と呼ばれるものが認められ，その下層には縄文時代後晩期の包含層中から抱石屈葬の人骨一体が検出された。東側道からは縄文時代前期の遺物が認められ，阿津走出遺跡の開始がより古くなったのである。

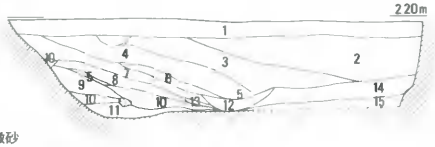
第３節　一次調査の結果

一次調査は昭和56年９月から実施したが，今回調査対象としたのは，Ａ区とＢ区の全域である。なお，この期間以降にも確認調査的なことを実施しているため，これらも含めて記述する。これによりさらに具体的に遺跡の内容が把握できたのである。すでに現地立ち会いにおいて，Ａ区の製塩土器散布が著しく，そのための掘り下げの確認については遺構をいためることが予想された。Ａ区（第２図）についてはグリットを設定し，面的な把握をすることにつとめ，必要以上の掘り下げは極力控えることにした。そして今回の調査は，Ａ区においてもＡ４－６と

第1図　調査位置図（1/2,000）

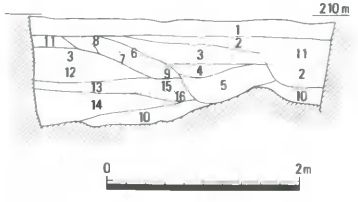


第２図　Ａ区調査位置図　(1/400)



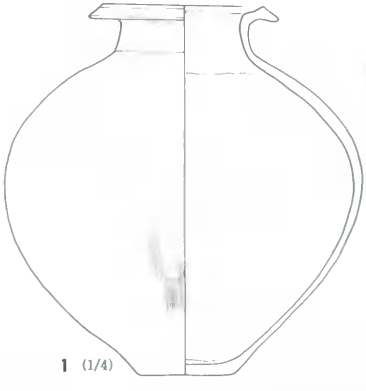
1　茶灰色砂
2　淡茶灰色細砂
3　淡灰茶褐色微砂
4　黄灰色微砂含む茶灰色細砂
5　淡黄灰色微砂(カキを含む)
6　土器層
7　茶灰色細砂
8　淡黄灰色細砂
9　淡灰色微砂
10　土器層
11　淡灰色中砂
12　暗黒灰色細砂
13　暗灰茶色微砂
14　淡灰色砂
15　マンガン

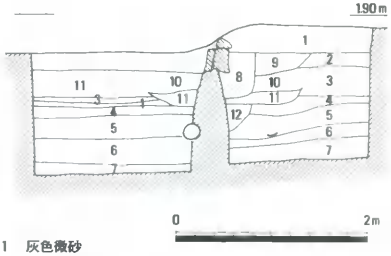
第3図　A区C6南壁土層断面図 (1/60)



1　茶灰色砂
2　淡灰茶色細砂
3　〃　(土器を含む)
4　淡灰茶色微砂
5　淡茶灰色粗砂混り微砂
6　黄灰色微砂(土器混り)
7　灰茶色細砂(　〃　)
8　土器層
9　土器層
10　灰色砂(マンガン)
11　淡暗茶色細砂
12　明黄褐色微砂(灰層)
13　暗茶灰色細砂
14　淡灰色砂
15　土器層
16　暗茶灰色粘質土

第4図　A区C5南壁土層断面図 (1/60)





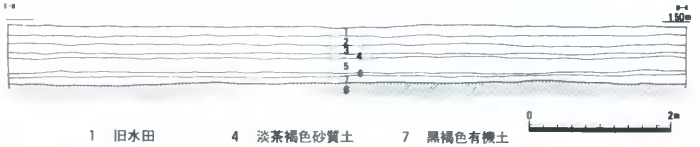
1　灰色微砂
2　黄褐色粘質微砂
3　茶褐色粘質微砂
4　淡茶灰色細砂
5　淡灰色細砂
6　茶灰色中砂
7　灰黄色粗砂
8　明黄褐色ブロック
9　黄灰色微砂
10　暗茶灰色微砂
11　黄色粘質微砂
12　黒灰色微砂

第5図　A区T－1北壁土層断面図 (1/60)・出土遺物 (1/4)

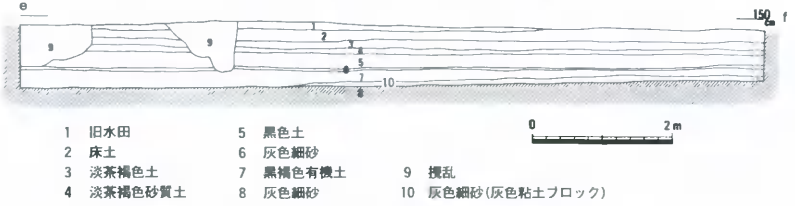
Ａ７の１部，そしてＢ４～６とＢ７の１部については畑であり，地権者の了解がとれず調査は昭和58年10月までまたなければならなかった。

Ａ８とＢ８においては，表土直下から貝を含む淡赤褐色土と赤褐色土の面を認める。現状では火を受けているのか，叩きしめてこのようになったのかは判断しかねた。いずれにしても，このような遺構が表土直下に面として広がる様子を示している。またＢ９からＢ10にかけて貝が多くまとまって認められる部分がある。この貝の散布の上面での観察の結果，その範囲は９×４ｍにわたって認められた。この部分が貝塚となるのかどうかの確認の掘り下げはしていない。この他のグリットでは表土直下から，灰層と土器層が認められているが，両者は伴に存在する部分や別々の部分もあるが，それ以上の追求はしていない。またこの面で認められる製塩土器は，ほとんどが薄手の指頭圧痕を多く止めるタイプのものである。

このことからこの灰層と土器層の状況は，Ａ区全域に存在することがより確実となった。しかしＤ４からのグリットにおいて全く様相が変ってしまったのである。第６図及び第７図の土層断面に示したように，表土直下からは先に認められた灰層や土器層は認められないのである。ここにおいては水田層が残され床土も存在している。遺物を含む層は５層の黒土色であり，この中に細片と磨滅した土器が含まれているが量は非常に少ないのである。６層は灰色細砂層で，全く遺物を含まない層であり下層に有機土が堆積している。調査区の東と西でこのような状況を示すとは考えていなかったのである。したがってこの事実から，調査前における東の畑と宅地部分，西の水田との相違はそのまま地下の変化を物語っていたことになる。東の海側が高く



第６図　Ａ区Ｄ6北壁土層断面図　1/80



第７図　Ａ区Ｄ4ｅ～ｆ土層断面図　1/80

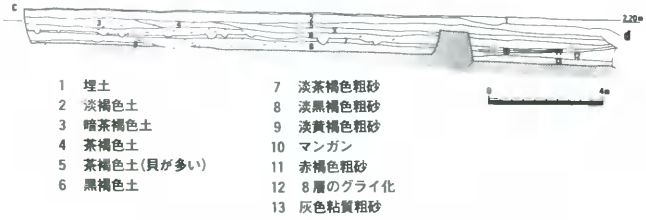
なり，西の内側が低くなっていることは，砂州が存在していることが予想されたのである。Ｄ５から７における２㎝の等高線は，Ｄ７の南東隅寄りで線が込んだ状況を示し，逆に北にいくにしたがってその間隔が空いてくる。これはＢ４において，畑と水田との境となっている高低差が30㎝ほど認められることからも判断できる。さらにこの部分については，昭和58年11月にＴ－１のトレンチ（第２図）を入れた結果，第５図にみられるごとく堆積層が西へ下がっていることが認められる。またこの土層の５層と６層にかけて，１の壺形土器の完全品が出土している。この土器は弥生時代後期中頃のもので，表面に鉄分の付着が著しく調整など不明である。そしてこのときに調査したＣ６とＣ５における土層断面（第３・４図）からも堆積層が東へ下がっていることが明らかにされている。このことから砂州の存在をあらためて強く感じたのである。

昭和58年５月に工事用道路がＡ３を東西に横断することを協議した段階で，遺跡地の末端の様子を把握していなかった。何故ならば路線外であるため，充分な調査ができなかったのである。このことから，第１図のＡ３のグリットにＡ・Ｂ・Ｃの３か所のグリットを設け，その内容を得ることにした。そして表土下10～20㎝で土器層に達することが明らかとなった。工事用道路については，地下に影響のないように盛土と鉄板を敷くことによって了解した。

Ａ５からＡ７の土器層は，保存との関係でその遺存状態を判断するため昭和58年11月に露出させたものである。その結果，砂州上に存在する製塩の遺跡であることが再確認された。

南壁のＣ６の土層断面図（第８図）の内容は，６層の黒褐色土中における遺構の存在，さらに８層の淡黒褐色粗砂中から土器片が認められている。これについては，その埋土と推定される部分から縄文時代後期後半のものと思われる。遺構については伴う遺物を出していない。しかし３層から８層上面に認められる土器は，いずれも薄手と厚手の製塩土器であり，特に８層上面からは薄手のものが検出されている。なお厚手の製塩土器は，タタキが太くヨコまたはナナメヨコに付されるものは認められない。

また，砂州の無遺物層となる灰色砂の標高をみるとＡ区のＴ－１で30㎝，Ｄ７で64㎝，Ｐ－６で120㎝，Ａ区南端のＣ10で150㎝ほどを測る。このことからＡ区については，砂州上に形成



第８図　Ａ区Ｃ6土層断面図　(1/200)

された製塩遺跡とその下層に縄文時代後晩期の包含層が存在することが明らかとなった。

A区に引き続き，B区についても調査を実施し，砂州の全体的な姿を把握することにしたのである。12本のグリットを設定（第9図）し，遺跡の広がりを追求した。G1からG5は，レベル的にはA区とほとんど変化なしでのびてきている地区である。G1とG2，G5において，表土下30cmほどで包含層を検出し，G3では南から北へ下がっていく包含層を認める。G4は，表土下50cmで花崗岩の再堆積土と考えられる風化土と黄褐色粘土が混る層が認められ，包含層は認められなかった。なおG1とG2は，第1図のA・Bのグリットと同じである。この2点は昭和58年10月に保存協議の関連で，再度掘り下げたのである。それによると35cmほどの造成土が認められ，炭化物や製塩土器を含む暗茶褐色土が40cmほどの厚さで存在している。さらにその下にも炭化物や焼土，製塩土器を含む層が認められ，そして標高2mほどで縄文時代後晩期の遺物が含まれる茶褐色風化土に達する。この層がA区に認められている灰色砂に続くものと推測される。

G6とG7は，先のG5までの地点よりも130cmほど高くなっており，この地点は表土から130cmで砂層に達する。この砂層上に10cm内外の包含層が認められ，縄文土器から土師器を含む。湧水が激しく，それ以上の掘り下げはできなかったが，砂層も花崗岩の風化土を主体としている。G8は掘り下げの途中で地権者の了解を得ていないため中止したが，花崗岩風化土を主体とする堆積がみられ，縄文時代の遺物を多く含んでいた。G9からG11において，縄文後晩期の土器を多く含んだ包含層と土壙状の落ち込みを確認する。そしてG12においても製塩土器と縄文土器を含んだ包含層が確認された。

このような一次調査から阿津走出遺跡は，南の下津井電鉄の線路から北にある城山の下近くまで広がっていることが明らかとなった。そして南の神道山から北へ派生する細長い丘陵裾にとり付くように長さ160m幅26mの砂州が形成され，そこに遺存状態の極めて良い製塩遺跡が営まれていたのである。またこの下層には縄文時代後期から晩期の

第9図　B区グリット位置図

段階のものも存在していることが明らかとなった。

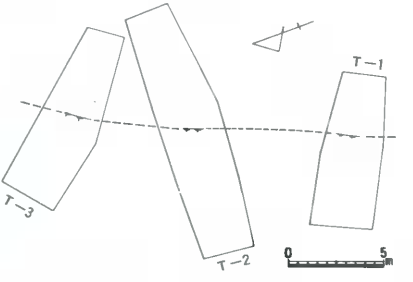
Ｂ区のＴ－１～３のトレンチ（第10図）は，工事用道路の確認調査を昭和58年５月に実施した。表土下150cmほどで黄褐色粘質土の面が認められ，この層は西へ下がっていく傾向を示している。Ｔ－２の２か所の土壙と考えられるものは，晩期の土器が周辺から検出されている。Ｔ－３については製塩土器の破片が検出されている。遺構のこれ以上の追求はやめ第２節で述べたように埋めもどしたのである。この３本のトレンチによって阿津走出遺跡の砂州の南西上りの様子を，若干なりとも知ることができたのである。

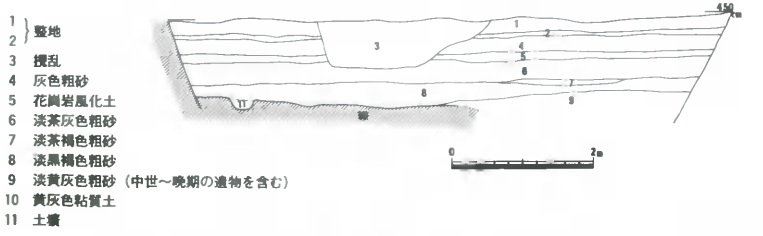
節４節　調査の概要

調査はＡ区の橋脚位置であるＰ－６，Ｂ区の西側溝，東側道，橋脚位置となるＡＲ－２，そして保存対象とならない丘陵裾部についてである。

Ｐ－６（第２・57図）

砂州の保存のため100ｍ間の中間に１か所設けられる橋脚にあたる。第128図の土層断面から製塩土器あるいはタタキ面を有するのは海抜170～190cmほどで，その厚さは50cmの堆積が認められる。この下層の暗茶灰色土中には，厚手の土器や貝を多く含んでいる。さらに，海抜19.5cmほどから堆積する黒褐色土から縄文時代の遺物を出土する。そして最も多く出土するのは，この層の下層から黒色細砂そして灰色細

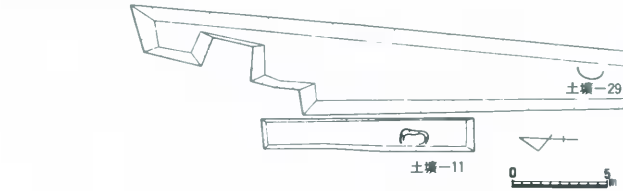


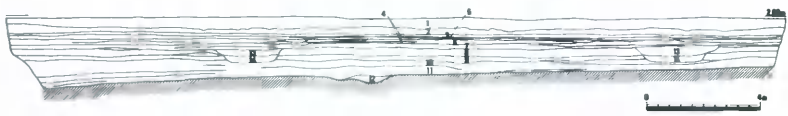


第10図　Ｂ区Ｔ－1～3遺構位置図（1/300）**・Ｔ－1南壁土層断面図**（1/80）

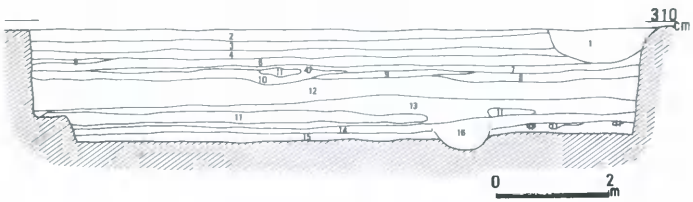
砂にかけてである。灰色細砂は砂州の基盤の最上面に堆積すると考えられるもので，上面での海抜は17cmを測る。この層になると遺物の含まれる量は少なくなる。黒褐色土中において抱石屈葬の頭部を検出し，さらに黒褐色土下に堆積する灰色砂中において埋葬状態で検出することができた。

東側道（第11図）



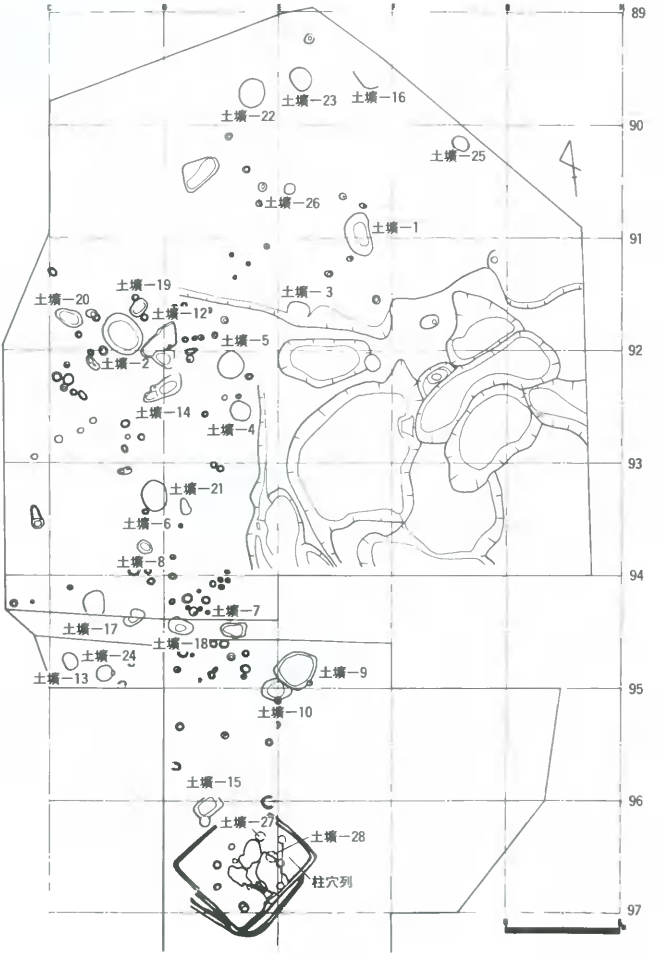


1 淡黄褐色土（客土）
2 茶灰色微砂
3 黄灰色微砂
4 鉄分
5 淡黄灰色微砂
6 茶灰色微砂
7 灰褐色微砂
8 暗褐色砂
9 茶灰色砂
10 暗灰色砂
11 赤灰色砂
12 赤褐色砂質土
13 茶褐色砂質土
14 黒褐色粘質微砂



1 崩壊
2 淡茶褐色微砂
3 茶褐色微砂
4 淡黄灰色微砂
5 黄灰色粘質土
6 淡灰黄色微砂
7 茶褐色微砂
8 黄褐色微砂
9 暗茶褐色微砂
10 黒褐色砂砂質土
11 砂礫
12 暗灰褐色粘質土
13 黄灰色粘質土
14 青灰色粘質土
15 青灰色微砂
16 土壙

第11図　B区東側道（1/300）・**東側東壁土層断面図**（1/200）・**西側西壁土層断面図**（1/100）



第12図　B区遺構配置図　(1/250)

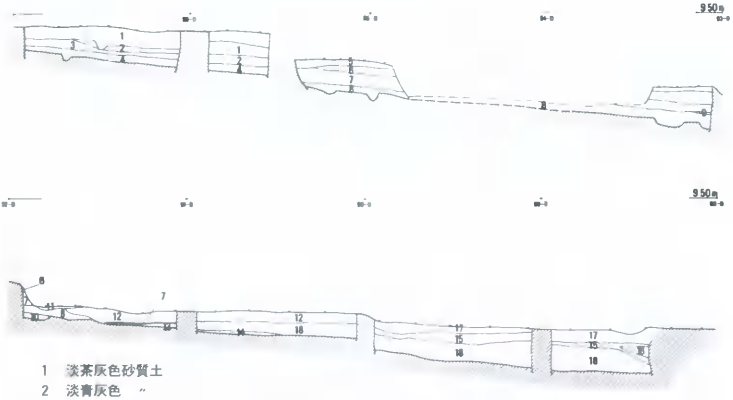
民家の移転が完了したため，昭和59年５月に調査に着手した。この部分は在来線の東側道にあたり，調査区内に南北方向の擁壁が存在するため，調査区が東西に分けられたようになった。

東側と西側とも砂を主体とする堆積土で，東側は砂州の外側寄りに位置し，西側は内に寄っていることから調査の堆積土中には粘質土を含む層が認められている。両者の層序の対照は，東西方向の土層断面を取ることができなかったためその比較をすることができなかった。しかし，東側の10層の暗灰色砂と西側の13層の黄灰色砂質土中には，縄文時代中期の船元式から晩期にいたる遺物を包含していた。この両者の層の上面は，東側の10層が海抜110cmほど，西側の３層が150cmほどを測り，東へ下がっているようである。

遺構は，東側から奈良時代の土壙，西側からは縄文時代晩期の土壙と中期にさかのぼる土壙が検出している。

西側溝（第１図）

新幹線用地に沿う西側道端はＵ字管を埋設するため，幅３ｍほどの側溝を表土下60～70cm掘り下げることとなり調査対象とした。掘削が包含層で止っていたため，東側から多くの遺物が出土し，遺物の採集をおこなった。その結果，花崗岩の風化土中より多量の縄文土器を検出した。



第13図　Ｂ区グリット南－北東壁土層断面図

ＡＲ－２（第１図）

保存のために橋脚をとばした両端の橋脚のうち，砂州にかかる南側の橋脚である。第138図の土層断面図にみられる４層と５層は，頸部の屈曲が強くなく，口縁部に太めのヨコ方向のタタキをもつ土器が包含されている。この土器層との間には６層と７層の堆積がみられるが，土器層に含まれる製塩土器の内容は同一タイプのものである。この製塩土器が含まれる層は６層の黒色粘質土中からである。５層の製塩土器は，現地では線が引けなかったのであるが，同一の層中にあったと考えている。この製塩土器が含まれる層から上には，７世紀ごろから８世紀にかけての須恵器（第140図）が出土している。

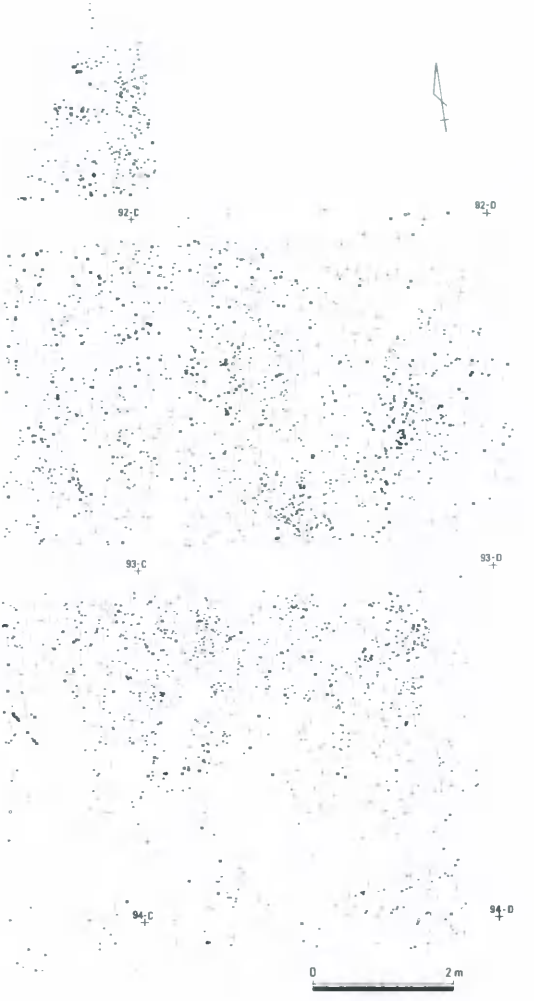
丘陵南裾部（Ｂ区グリット設定地）（第12図）

一次調査によって，縄文時代後晩期の包含層とそれに伴うと考えられる遺構が認められた部分である。そのため，包含層が広がる部分について５ｍでグリットを設定し，調査は保存協議の対象地ということで昭和57年５月から実施した。遺物が含まれる層は，第13図では４層の淡暗褐色土，７層の黒褐色土，８層の暗黄褐色土，18層の黒灰色粗砂質土で，このうち４，７，18層から多くの遺物を検出している。また東－西の土層断面である第14図においては，４層の黒褐色土と５層の暗黒褐色土中に多くの遺物を含んでいる。また遺構の切り込みも最下層の堆積土中から認められ，これより上層の断面では観察されていない。しかし，古墳時代の土壙が調査区北寄りで検出されており，これらは上層での掘り込みが確認されている。

調査区中央部分に土壙状のものが認められているが，これは第14図の土層断面中にその埋土の状況が認められ，いずれも砂を主にした堆積である。この底より現代の茶碗の小片が数点出土している。なお調査区の北東寄りの部分は，基盤層と考えられる黄褐色粘質土中に花崗岩の風化土が混る層が露出している状態で，遺構などは検出できなかった。

1　暗茶褐色土
2　茶褐色土
3　淡黒褐色土
4　黒褐色土
5　暗黒褐色土
6　淡茶褐色土
7　淡暗茶褐色土
8　淡茶灰色砂質土
9　淡黒褐色土
10　地山粘土フロックと灰色砂
11　茶灰色砂
12　淡黄褐色粘質粗砂
13　淡黄褐色粘土と黒灰色粘土
14　灰色砂
15　茶灰色粘質土
16　黒灰色土
17　灰色粘土
18　淡褐色細砂
19　茶褐色粗砂
20　灰色粗砂と黒灰色土のブロック
21　暗灰色粗砂

第14図　Ｂ区グリット東－西北壁土層断面図　1/50



第15図　B区グリット遺物分布図　1/80

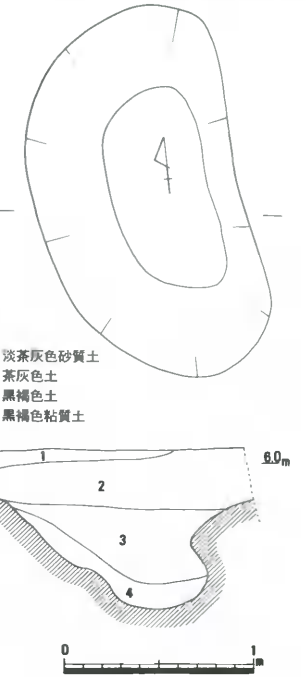
1　縄文時代の遺構・遺物

(1) 土　　壙

土壙－１（第16図）

91－ＥとＦの土堤下に検出されたものである。規模は198×108㎝で深さ54㎝を測る楕円形のプランを呈する。埋土は，黒褐色土と黒褐色粘質土の２層が認められる。

出土遺物は，埋土中からの検出である。**2**は，口縁外面を肥厚させ，ミガキをおこない，３本の沈線がみられる。内面はヨコのアルカ属条痕がみられる。**3**は，口縁部の破片で，外面に撚糸文の地文に沈線文を描く。内面はヨコのアルカ属条痕のあと平滑にしている。**4**は，キャリパー形の口縁部近くの破片である。外面には楕円形の沈線を描き，楕円と楕円の間には円形の刺突文を縦列に２点付している。楕円はＬＲの磨消縄文としている。内面はヨコのアルカ属条痕がみられる。**5**は，



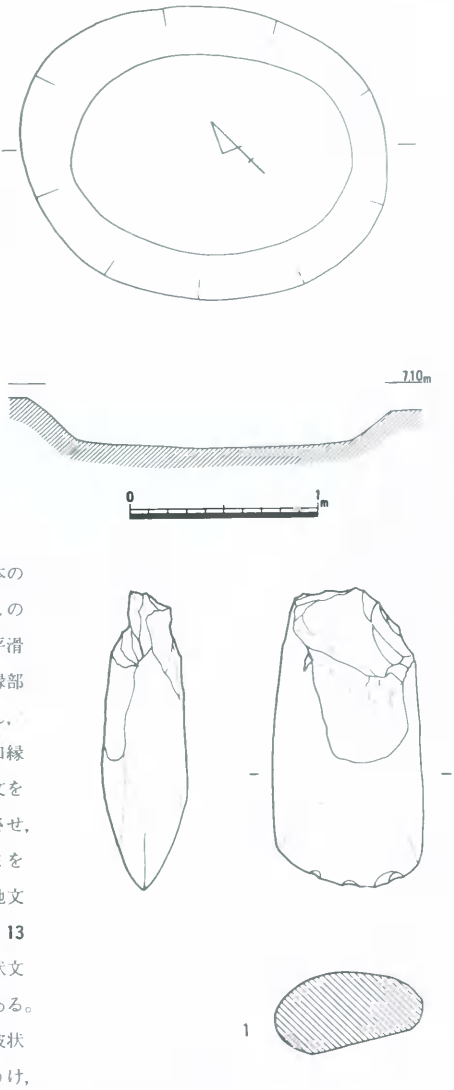
第16図　土壙－１（1/30）・出土遺物（1/3）

波状口縁をとるもので，口縁外面下に削り出し状の突帯をつくり，その上側の沈線内に円形の連続刺突文を付す。**6**は，外面に短い波状沈線がみられ，その下は平滑に仕上げている。内面も平滑となる。**7**は，**6**と同じ波状沈線の下に平行沈線文を施文している。

土壙－2（第17・18・19図）

91－Cの南東寄りに検出されたもので，規模は193×155cm，深さ24cmほどを測るほぼ円形の土壙である。土壙の埋土は黒褐色土のみであり，遺物もここより検出されている。

8は，波状口縁で波頂部から2本の沈線がおりる。沈線の外側にはRLの磨消縄文を施文している。内面は平滑にしている。**9**・**10**は，外面の口縁部下に2本の直線の磨消縄文を施文し，内面はミガイている。**11**は，波状口縁を示すもので，曲線を示す磨消縄文を施文する。**12**は，口唇端部を肥厚させ，その部分に3本単位で羽状にキザミを加えている。この部分には縄文の地文が認められるが撚りは不詳である。**13**は，器表面が剝離しているが，鉤状文が施文され，縄文の有無は不明である。内面調整は平滑にしている。**14**は波状口縁の破片で，波頂下に円孔をもうけ，そこから派生する文様帯をつくる。磨

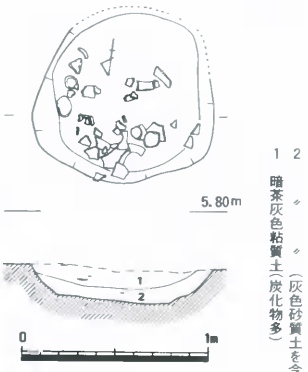


第17図　土壙－2　1/30・出土遺物(1)　1/3

第18図　土壙－2出土遺物(2)

第19図　土壙－2出土遺物(3)　(1/3)

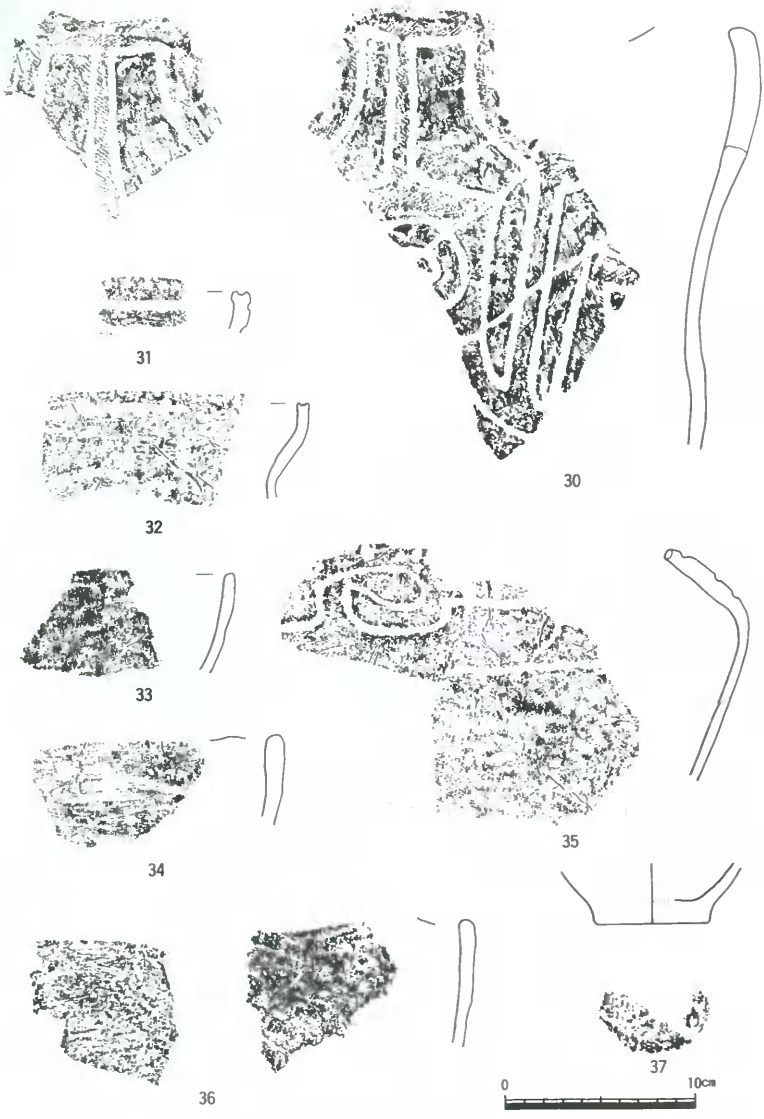
消縄文となるが，器面の風化のため撚りは不詳である。**15**は，沈線文の土器である。**16**は，鉤状文を施文する。**17**は，磨り消しをもつもので，沈線と円形刺突をめぐらす文様をもつ。**18**は，磨消縄文を有するもので，縄文はＲＬである。**19**は，**15**と同じ文様モチーフをもつ沈線文の土器である。**20**から**22**は，沈線文の胴部片である。**23**から**27**と**29**は，無文の土器である。**23**は，胴部から口縁まで外傾するもので，胴部下半で屈曲を認める。口唇部は平坦となり，キザミを付す。外面にはヨコの巻貝条痕が，内面は平滑に仕上げられている。**24**は，波状口縁となるもので，口縁端は丸くなる。外面はヨコの巻貝条痕をしたあと平滑とし，内面も平滑に仕上げている。**25**は，内傾気味の丸い口唇をもつもので，内外面ともミガイている。**26**は，口唇部にキザミを有するもので，外面は平滑とし，内面にヨコの巻貝条痕を認める。**27**は，口縁端部を肥厚気味にし，内側に張り出すようになる。外面調整は巻貝条痕のあとミガキをおこなう。内面調整もミガキをおこなっている。**29**は，波状口縁となるもので，口唇部にキザミを付し，外面調整は平滑となっている。**28**は，推定径10.6㎝を測る底部で，上げ底となり，調整は内外面剝離のため不詳である。**1**は，磨製石斧で，頭部が欠失しているものである。石鏃・スクレイパー・タタキ石が出土している。



第20図　土壙－3　1/30

土壙－3　（第20・21図）

91－Ｅの南西寄りに検出され，規模は97×93＋α㎝，深さ15㎝を測る方形状の土壙である。南側は後世の削平のため消失し，遺物は土壙内から比較的多くのものが検出されている。**30**は，波状口縁を有するもので，口縁に沿って沈線を描き，胴屈曲部近くまで磨消縄文

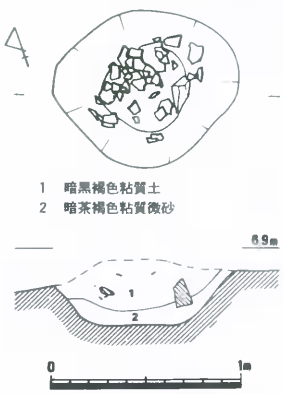


第21図　土壙－3出土遺物　1/3

を施文している。内面はミガキがみられる。**31**は，口唇部に円形の連続刺突文を施文し，外面には２本の沈線が認められる。内面は平滑に仕上げられている。**32**は，口唇部に円形の連続刺突文を施文し，内外面ともヨコの巻貝条痕がみられる。**33**は，内外面ともミガかれているものである。**34・36**は，波状口縁で，胴部に屈曲のある鉢形土器である。**34**の外面は，ヨコの巻貝条痕のあと平滑とし，内面は平滑としている。**35**は，口縁部が大きく内傾する鉢形土器で，波状口縁とするものである。波頂部には３か所の押圧痕がみられ，口縁に磨消縄文を施文している。**37**は，推定径65.8cmを測る底部で，内外面とも平滑としている。石鏃・スクレイパー・石匙が出土している。

土壙－４（第22・23・24図）

92－Ｄの中央やや東寄りに検出され，規模は98×83cm，深さ34cmを測る楕円状のプランを有するものである。遺物は土壙内にまとまって検出された。**38**は，磨り消したと考えられるが縄文の有無は不明である。**39**は，沈線文のものである。**40・41**は，胴部に鈎状の磨り消しを有するものである。**42**から**47・49**は，無文の浅鉢形土器である。**42**は，口縁端は平坦とし，胴上部で屈曲気味となるものである。外面はヨコの巻貝条痕，内面は巻貝条痕のあと平滑としている。**43**は，口縁端部を丸くし，外面は巻貝条痕，内面は平滑としている。**44**は，口縁部に１か所刺突がみられ，胴部上半で屈曲部を有する。外面は巻貝条痕のあと平滑，内面は平滑としている。**45**は，胴部上半から内傾気味となり，口縁端部は面取りをおこなっている。外面はヨコの巻貝条痕，内面は平滑としている。**46**は，内傾気味となるもので，内外面とも平滑としている。**47**は，口縁端部が内側に張り出すもので，口縁端面から胴部外面にかけて条痕がみられる。内面の口縁部下はナデがみられ，以下は平滑としている。**49**は，波状口縁を有するもので，外面はヨコの巻貝条痕のあとミガキを，内面は平滑としている。**48**は，浅鉢の形をとるもので，胴部に円孔を有する。外面は巻貝条痕のあと平滑，内面も平滑としている。**50・51**は，底部の破片である。**51**は，内外面とも平滑に仕上げ，外面の底に小さい凹凸があり，種子の圧痕とも考えられる。**50**は，中期の底部と考えられる。石錘が３点出土している。

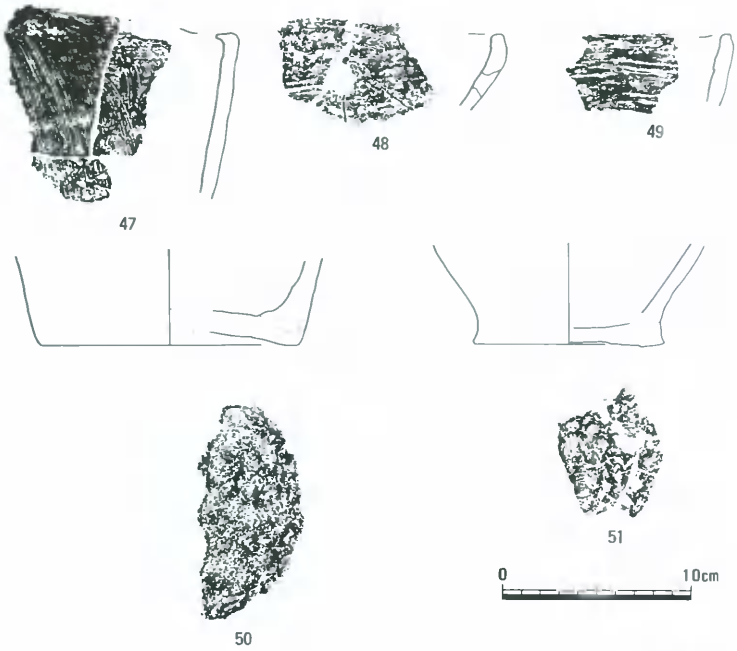


第22図　土壙－4

土壙－５（第25・26・27・28図）

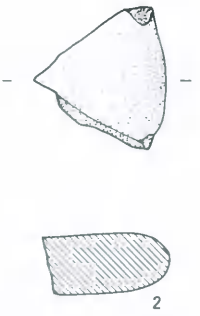
92－Ｄの北寄りに検出されたもので，規模は117×112cm，深さ31cmを測る円形状のプランを有するものである。埋土は暗黒灰色土が認められ，遺物はすべて

第23図　土壙－4出土遺物(1)　(1/3)



土壙内から出土している。

52は，内傾気味の波状口縁を有する深鉢型土器である。外面は沈線文を描き，口縁近くの一部に巻貝の擬縄文がみられるが他の施文は判断できない。内面は平滑としている。**53**は，内傾気味の口縁で，外面にＲＬの磨消縄文をもち，内面は平滑にしている。**54**は，薄い器壁のもので，外面にＲＬの磨消縄文をもち，内面は平滑としている。**55**は，内傾する口縁部を有するもので，外面は縄文地文に細い沈線を施文している。縄文の撚りは剝離して不詳である。**56**は，波状口縁を有し沈線文を施文するもので，地文に巻貝条痕を施し，内面は平滑としている。**57**は，口縁端を面取りするもので，外面に沈線文を施しているが縄文の有無は不詳である。**58**は，口縁端を面取りするもので，外面は巻貝条痕の地文の後，沈線文を施文する。内面は平滑にし

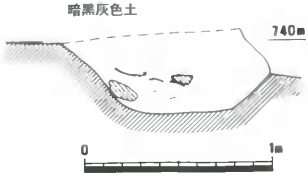


第24図　土壙－4出土遺物(2
1/3・1/2

ている。59は，口縁部内面に蓋受けのような受け部を有するもので，口縁端にキザミ，外面の口縁に沿って沈線を施文している。内外面ともミガキをしている。60は，胴部に沈線がみられるもので，剥離のため縄文の有無は不詳である。61は，外面にＲＬの磨消縄文を施文する。62は，内傾する胴部に鉤状文を描き，沈線内は無文とし，外側にＬＲの縄文を残している。内面はミガキがみられる。63は，沈線の屈曲が強い磨消縄文を施文している。65は，偏平な磨消縄文を施文する。66は，太い沈線をもつ磨消縄文を施文する。67は，胴部屈曲部に太い沈線で，短い鉤状文の磨消縄文を施文する。69は，太い沈線で曲線を描き，磨り消しとするものである。70は，大きく鉤状文を描くもので，巻貝の擬縄文による磨り消しとしている。71は擬縄文の磨り消しの施文をしている。72から75は，沈線文のみのものである。76は，撚糸文の地文に半截竹管による細い波状文を施文する。77から79は，口縁端にキザミを有するもので，器面調整は巻貝あるいは平滑である。80は，波状口縁を有するものである。81は，口縁部が大きく内湾する鉢形土器で，内外面とも平滑に仕上げている。82は，推定口径16cm，推定器高12.3cmの鉢形土器で，器形は胴部中ほどで内傾気味に外反する。口縁は多少凹凸がみられるが，波状を形成しないものと判断した。外面はヨコの巻貝条痕，胴部内面は押圧痕がみられるが，他は風化していて不詳である。83から86・90・95は，外面に巻貝条痕，内面は平滑がみられる無文土器である。87は，内外面とも巻貝条痕のあと平滑がみとめられるものである。99は，外面にヨコの巻貝条痕のあと平滑，内面は平滑がみとめられる。97・98は，底部の破片である。97は，内外面とも平滑に仕上げている。石鏃・石錘・スリ石・スクレイパーが出土している。

土壙－6（第29図）

93－Ｃの東寄り検出され，規模は138×109cm，深さ30cmを測る楕円形のプランを有するものである。埋土の暗黒褐色土中には，比較的多くの炭化粒を含んでいた。出土遺物はいずれも埋土中からである。100は，擬縄文による磨消縄文を施文し，内面は平滑にしている。101は，太い沈線による曲線を描き，その枠内にＲＬの縄文がみられる。102は，ヘラによる小さい波状の沈線文を施文し，その下は無文帯とする。103は，波状口縁となるもので，内外面とも巻



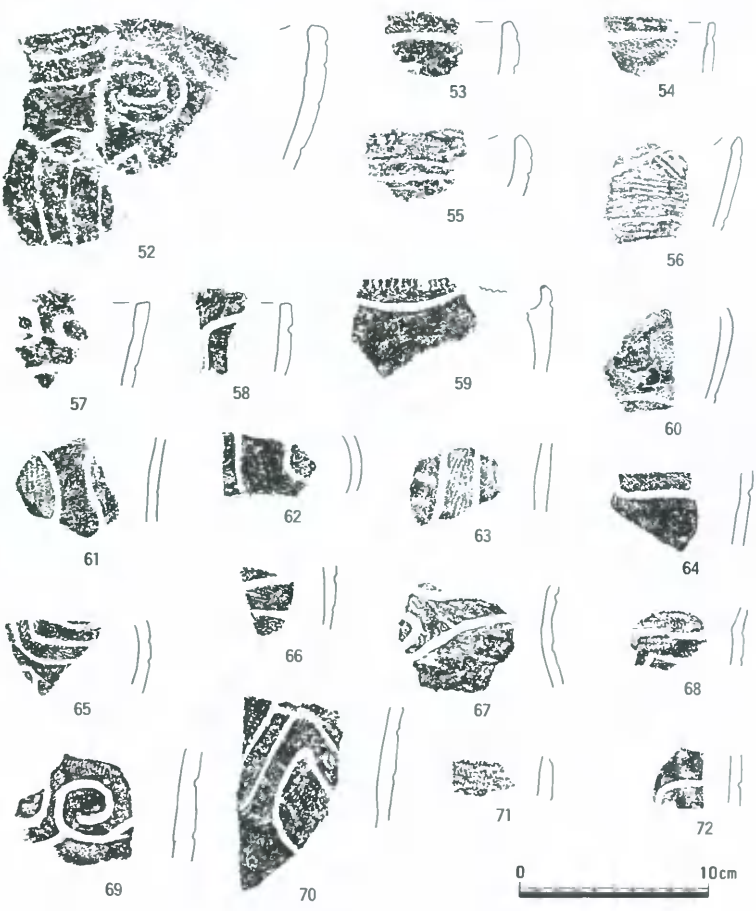
第25図　土壙－5 (1/30)

貝条痕のあと平滑にしている。**104・105**は底部で，**104**は，底部近くに３本１対の磨消縄文を描いている。

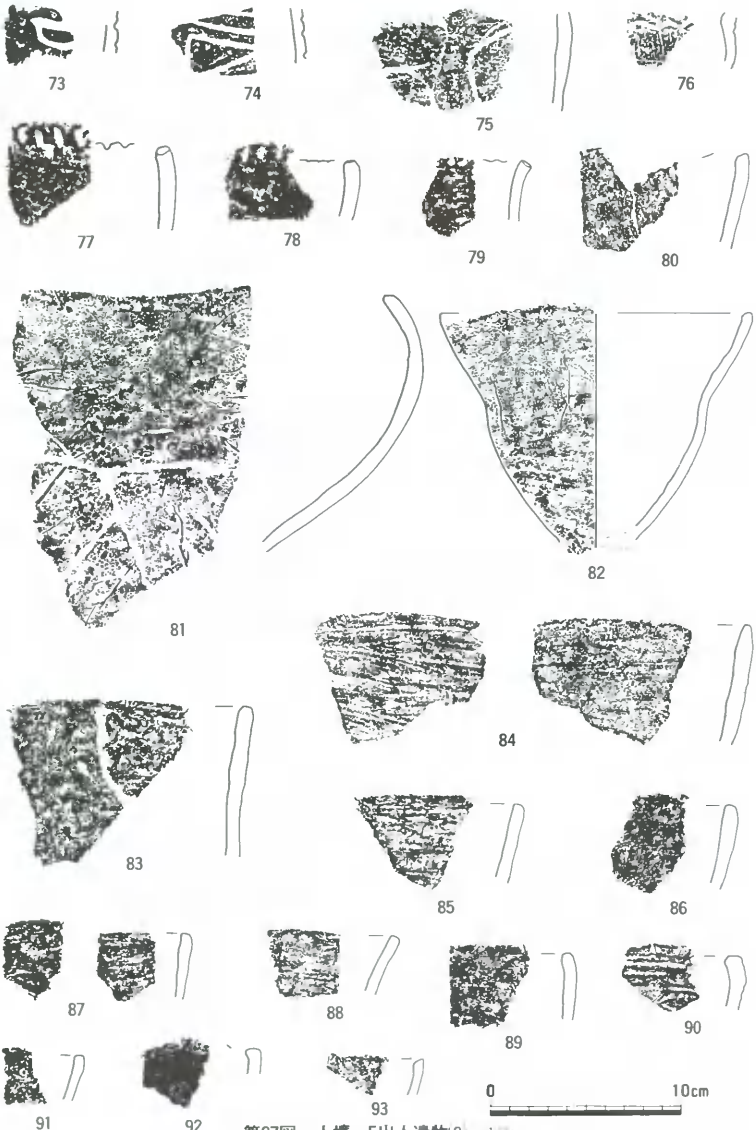
石鏃が，２点出土している。

土壙－７（第30図）

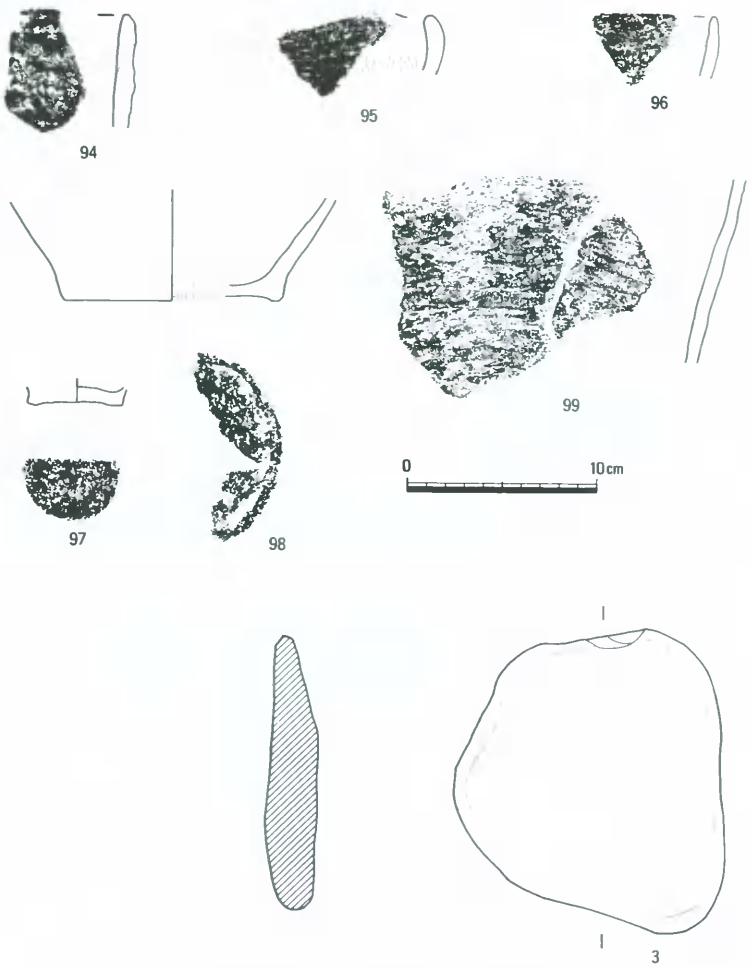
95－Ｄの中央に検出され，規模は110×69cm，深さ34cmを測る方形のプランを示すものであ



第26図　土壙－5出土遺物(1)　1/3



第27図　土壙－5出土遺物(2)



第28図　土壙－5出土遺物(3) (1/3・1/2)

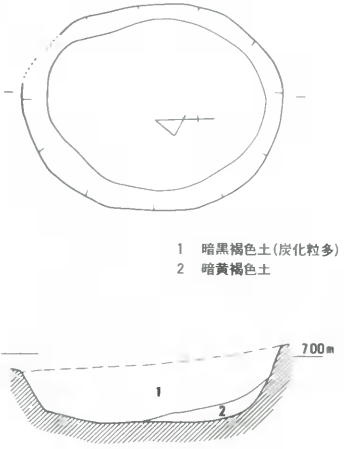
る。出土遺物はいずれも埋土中からのものである。**106**は，波状口縁を有し，口縁端にキザミを付するもので，沈線文を施文するが縄文の有無は風化のため不詳である。**107**は，外面にサッ痕，内面は平滑とするものである。**108**は，屈曲する端部を有する鉢形土器で，外面には

ヨコのアルカ属条痕，内面は平滑としている。この土壙は後期の上器が認められるが，107・108から晩期の時期とした。石鏃が13点出土している。

土壙－8（第31図）

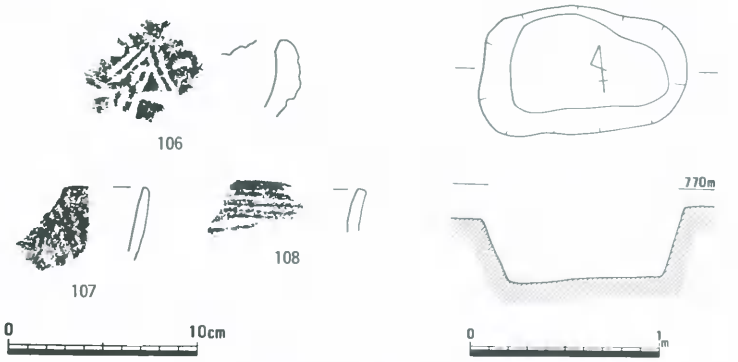
93－Cの南東寄りに検出され，規模は65×53cm，深さ23cmを測る楕円形のプランを示すものである。出土遺物はいずれも埋土中からのものである。

109は，太い沈線の磨消縄文を有する。110・112は，外面にヨコの巻貝条痕，内面は平滑とするものである。111は，外面にヨコの



第29図　土壙－6（1/30）・出土遺物（1/3）

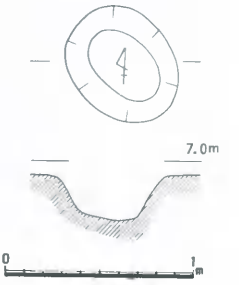
サッ痕，内面は平滑にしている。この土器についても後期と晩期の土器が認められるが，111から晩期の時期のものとした。

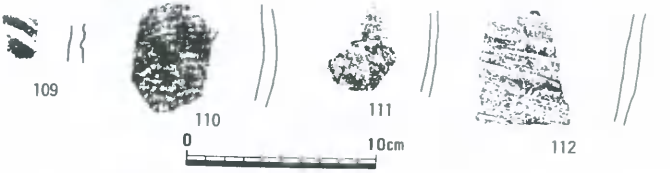


第30図　土壙－7 (1/30)・**出土遺物** (1/3)

土壙－9（第32・33・34・35・36図）

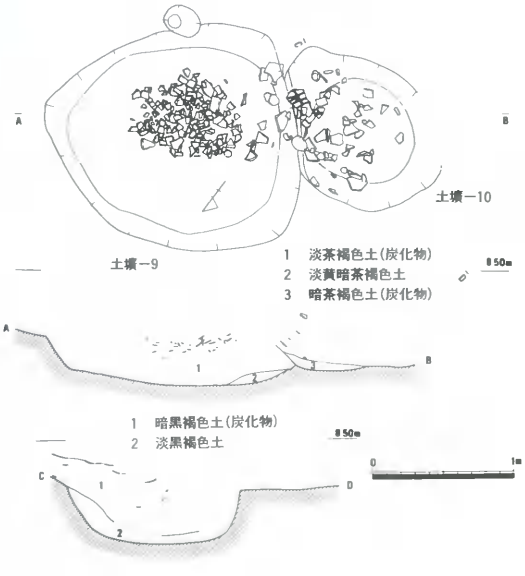
94－Eの南西端に検出され，南西辺において土壙－10と重複している。規模は178×156cm，深さ34cmを測る不整の方形プランを示している。遺物は土壙底より23cmほど浮いた状態で検出された。ほぼ80×60cmの範囲の平面状の1か所に小片の状態でまとまって認められた。**113**は，内傾する波状口縁を有するもので，外面はヨコの巻貝条痕ののち平滑として沈線文を施文する。**114**は，口縁端に凹みを有し，内面にはヨコの巻貝条痕がみられる。**115**は，内傾する波状口縁を有し





第31図　土壙－8 (1/30)・**出土遺物** (1/3)

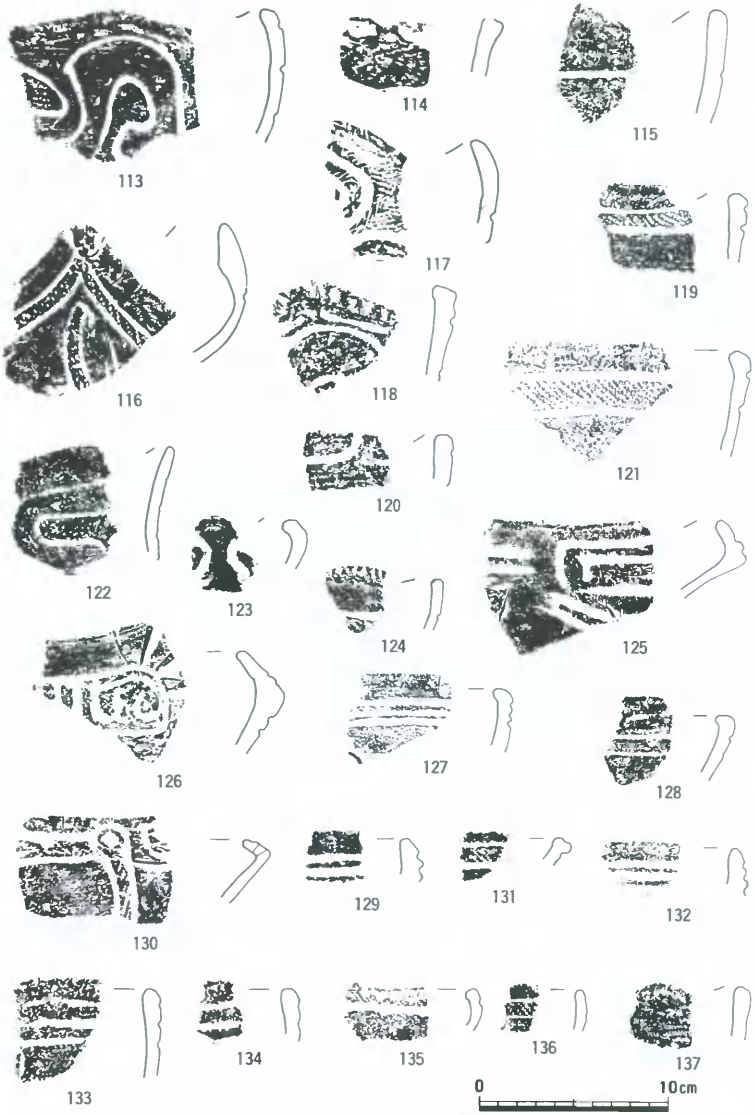
磨消縄文を施文している。116は，大きな波状口縁を有するもので，波頂部から口縁に沿って２本の沈線が，そして下方に沈線の先端を巻き込むようになる２本の沈線による磨消縄文を施している。117は，内傾する口縁に弧状の磨消縄文を施文する。118は，口縁端部内面を張り出し気味にして波状口縁となるもので，波線文を施し，内面は平滑としている。119は，口縁を肥厚気味にして，磨消縄文を施文する。120は，波状口縁を有するもので，巻貝条痕ののち平滑として沈線文を施文する。121・127・128は，口縁端を内側に張り出し気味にしている。125・126・130・143・144は，口縁部を強く内側に屈曲させるもので，屈曲部にかけても磨消縄文を施している。138から141は，口縁近くに２本の磨消縄文を施文している。142は，２本の沈線のうち下の沈線は押し引き状になっている。145・146から153，158から167は，磨消縄文をもつもので，150は，沈線の区画外にＬＲの縄文を施文している。また165と166は，３本の沈線による磨消縄文を施している。154は，太い沈線と擬縄文を施文している。155から157は，沈線文のものである。168から182は，無文の深鉢形土器である。168は，口縁端に押圧痕，169・181は，キザミを付している。170から173は，波状口縁を呈し，外面調整は巻貝条痕と巻貝条痕のあと平滑とする。内面調整は平滑が大半を占めており，169は，ミガキがなされている。なお，177は，内外面とも巻貝条痕によっている。183から185は鉢型土器である。184は，口縁部内面を肥厚させている。185は，円孔がみられ，磨消縄文を施文している。186から189は，底部でいずれも上げ底状となる。石鏃と石錘が出土している。



第32図　土壙－9・10　(1/40)

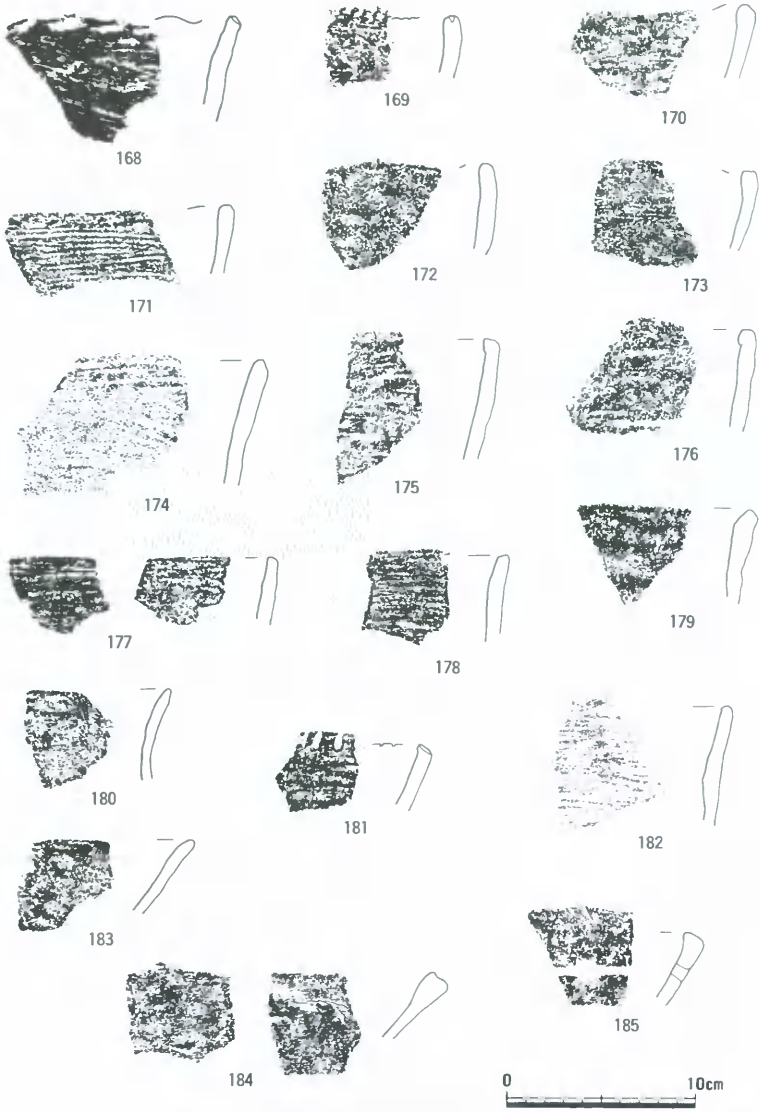
土壙－10（第32・37・38・39・40図）

95－Ｅのポイントの直下に検出され，土壙－９と重複している。規模は125×97㎝，深さ37㎝ほどを測り，円形のプランを

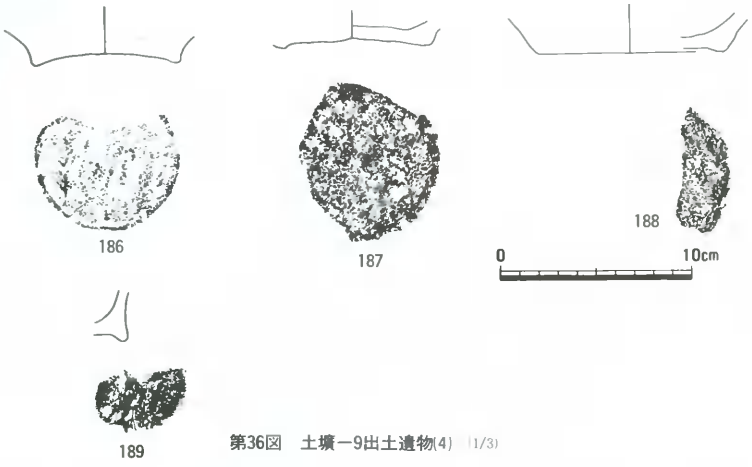


第33図　土壙一9出土遺物(1)　1/3)

第34図　土壙－9出土遺物(2)　1/3

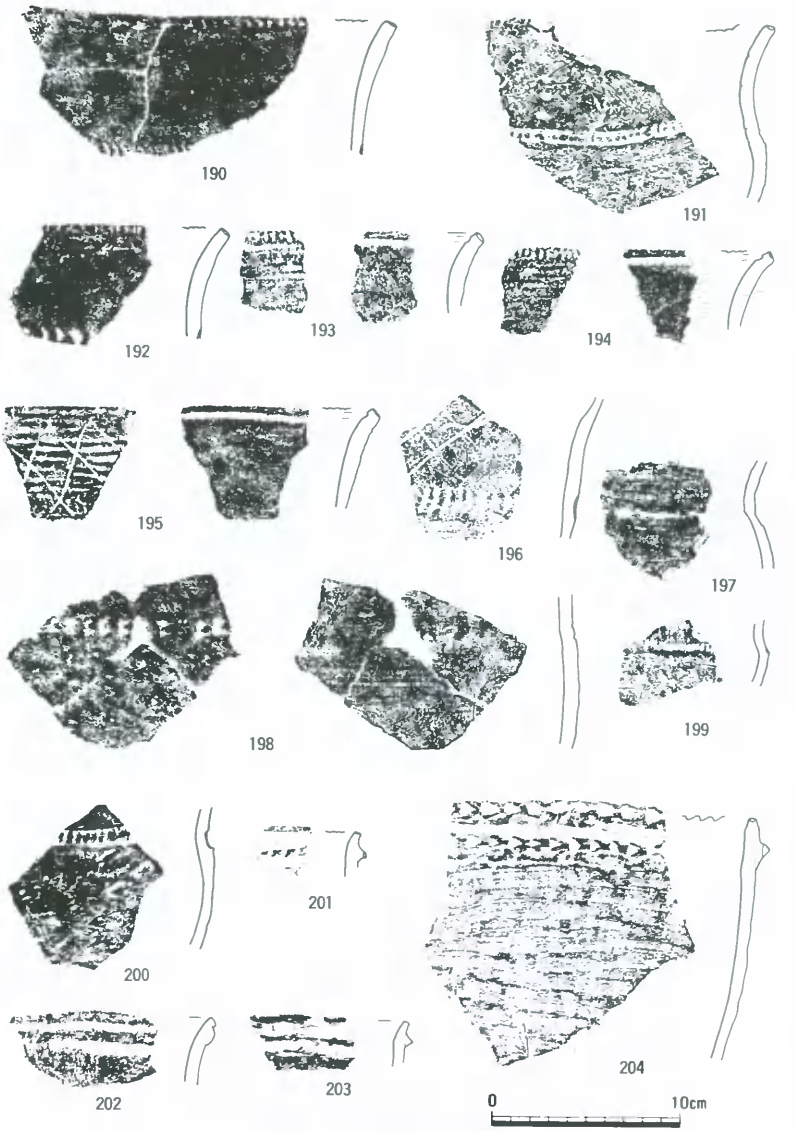


第35図　土壙－9出土遺物(3)

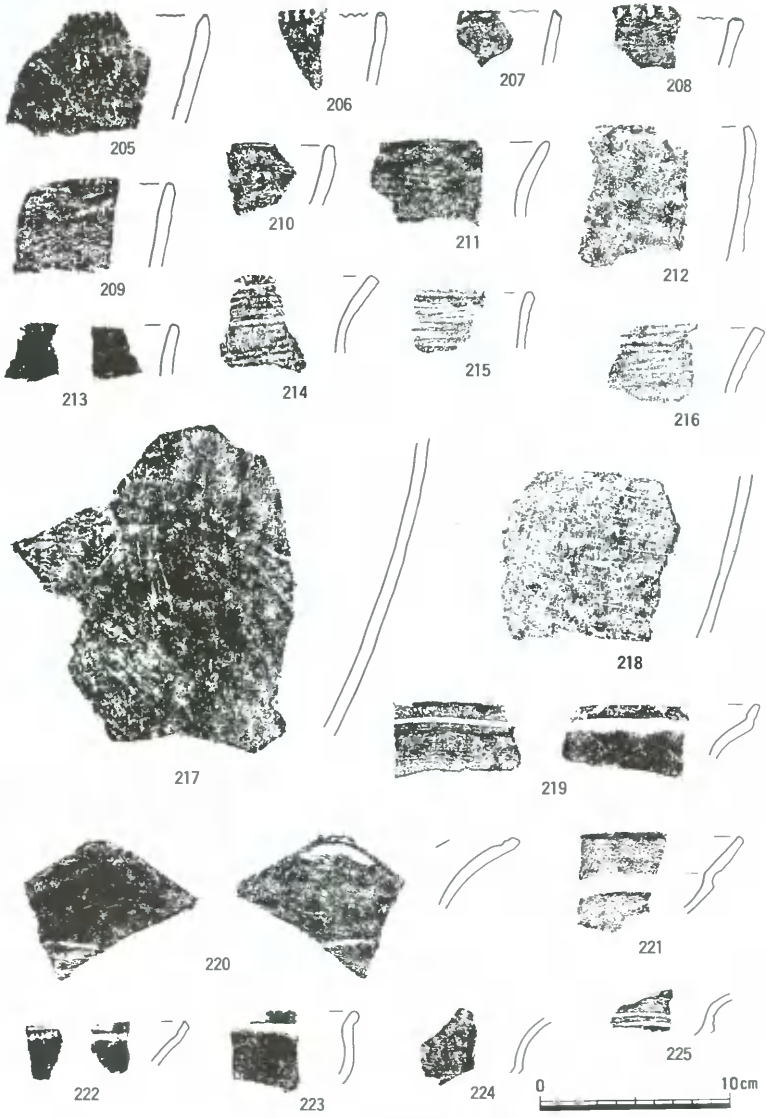


第36図　土壙一9出土遺物(4)　(1/3)

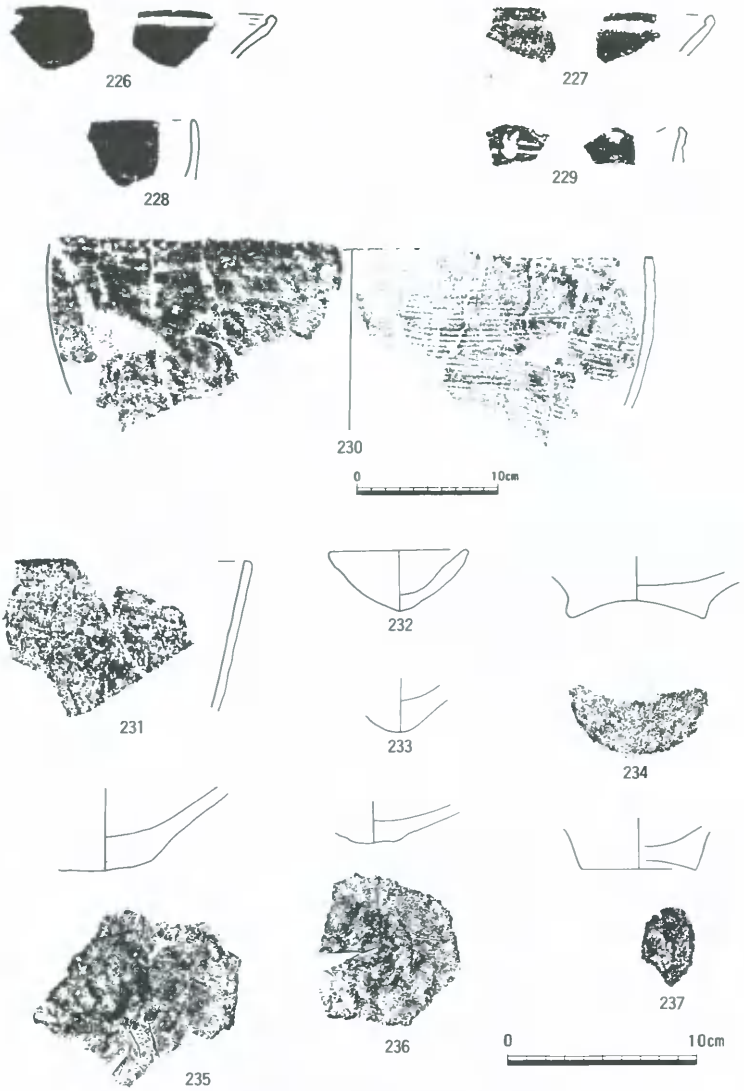
呈する。遺物は土壙底より53cmほど浮いた状況で検出され，東から土壙内に流れ込んだ様子を示している。190は，肩部から外反するもので，口縁端部にキザミを付している。肩屈曲部には○形の連続刺突文を施している。調整は内外とも平滑にしている。191は，肩部から外反し，波状口縁を呈するもので，波頂部に押圧痕を付し，口縁端部にはキザミを施す。波頂部から3方向に刺突文を肩部まで施文する。屈曲部には□形の連続押し引き文を施す。外面は肩部下半にヨコのサッ痕，内面は上半が平滑，屈曲部は押圧，下半はヨコのサッ痕をおこなう。192は，口縁端部にキザミを付し，屈曲部には○形の連続刺突文を施文する。外面は平滑にし，内面はキザミに近い平滑としている。193から195は，口縁内面に段状の沈線をもつものである。195は，頸部に交差する沈線を施文し，外面調整はアルカ属条痕，内面は平滑としている。196は，頸部に交差沈線文，肩屈曲部に○形の連続刺突文を施文する。胴部はヨコのサッ痕が認められる。197は，肩屈曲部に何ら文様を施さないもので，頸部はヨコのアルカ属条痕，胴部はヨコのサッ痕で内面は平滑としている。198は，肩屈曲部に□形の連続刺突文を施している。外面調整は頸部が平滑，胴部はヨコのサッ痕がみられ，内面調整は屈曲部に押圧痕がみられ，アルカ属条痕のあと平滑としている。199は，肩屈曲部に小さい連続刺突文を施文している。外面調整は頸部が平滑，胴部はサッ痕が認められ，内面調整は平滑にしている。200は，肩屈曲部に押し引きによる刺突文が施される。外面調整は頸部が平滑，胴部はヨコのサッ痕がみられ，内面調整は平滑としている。201から204は，突帯を有するものである。201は，口縁端にキザ



第37図　土壙一10出土遺物(1)　1/3

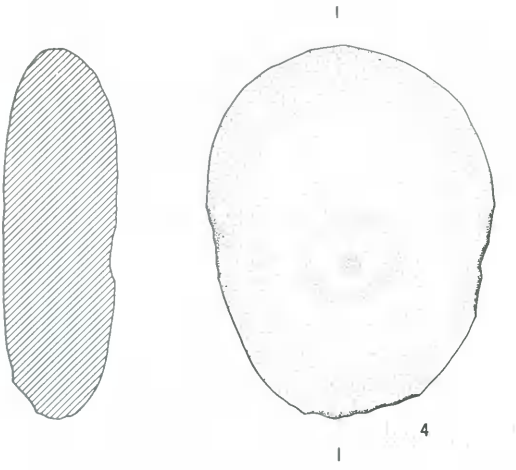


第38図　土壙－10出土遺物(2)



第39図　土壙－10出土遺物(3)　(1/3・1/4)

ミを施し，口縁下に貼付突帯を付し，突帯にキザミをおこなう。202と203は，口縁端と突帯にキザミをもたないものである。202は，カマボコ形の貼付突帯となる。204は，屈曲部をもたない突帯文土器で，口縁端部は平坦とならず丸く細くなるようで，そこにキザミを付す。口縁部下に幅広の粘土紐をまいて突帯文とし，キザミを施す。外面調整はヨコのサッ痕，内面調整は平滑としている。205から209は，口縁端部にキザミを有する粗製土器である。外面調整はアルカ属条痕とサッ痕がみられ，内面調整は平滑にしているものが多い。210から211は，口縁端部にキザミをもたないものである。外面調整はアルカ属条痕とサッ痕が認められ前者の方が多い。内面調整は平滑としている。213は，内外面ともアルカ属条痕をおこなっている。217と218は，粗製土器の胴部破片である。219から229は，精製土器の破片である。219は，口縁部が上方に立ち上がり，外面に沈線を施す。内外面ともミガキがみられる。220は，波状口縁を有するもので，波頂の内面に段を有する。222と226は，内面に段状の沈線をもつものである。223は，口縁端が外反気味に丸くなる。225は，屈曲部に沈線を施文する。229は，巻貝の先端による刺突文を施す。230は，推定口径42.4cmを測る粗製の浅鉢土器である。口縁端部は平坦とし，そこにキザミを施す。外面調整

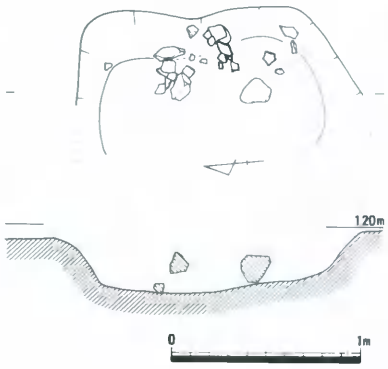


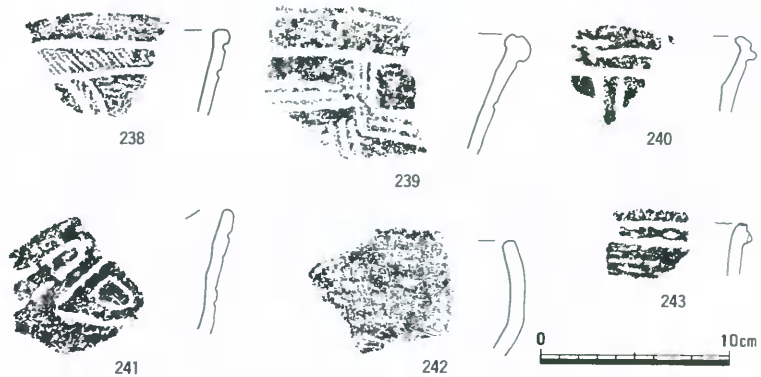
第40図　土壙－10出土遺物(4)　(1/2)

はヨコのサッ痕，内面調整はヨコのアルカ属条痕をおこない，口縁近くについては平滑にしている。また，外面には輪積み痕を明瞭にとどめている。**231**は，深鉢型土器と考えられるもので，外面がサッ痕，内面はミガキがおこなわれている。**232**は，口径7.1cm，高さ3.2cmを測る小形の鉢形土器である。外面は風化で内面は平滑となっている。**233**は，底部の破片である石器は凹み石，石錘，磨製石斧などが出土している。

土壙－11（第41図）

東側道において検出され，規模は152＋α×80＋αcm，深さ30cmの不整方形のプランを呈するものである。遺物は，土壙内で礫と伴に出土した。**238**は，外面に磨消縄文を施文し，内面はヨコの巻貝条痕のあと平滑とする。**239**は，口縁端部を肥厚させてハの字状のキザミを付す。３本単位の角張る磨消縄文を施文し，内面は平滑としている。**240**は，口縁端部を内傾させ，磨消縄文を施文する。**241**は，波状口縁をもち，連続しない沈線によって磨消縄文を施文する。**242**は，口縁が内傾する鉢形土器である。外面はヨコの巻貝条痕のあと平滑とし，内面は平滑としている。





第41図　土壙－11 (1/30)・**出土遺物** (1/3)

243は，口頸部下に貼付突帯をもつもので，口縁端と突帯にはキザミを付している。外面はヨコのアルカ属条痕，内面は平滑にしている。石器は，石鏃が出土している。

土壙－12（第42図）

91－Cの南西隅寄りに検出され，規模は92×67cm，深さ30cmを測る不整方形のプランを呈するものである。遺物（第42図）は埋土中からのものである。**244**は，突帯状の粘土の張り出し部をもち，その下に沈線文と円形刺突文を施文する。**245**は，ヘラ先による交差文を施している。土壙の時期は，**245**の土器から晩期とする。石鏃が出土している。

土壙－13（第43図）

94－Cの南西寄りに検出され，規模は95.5×71cm，深さ29cmを測る円形のプランを示すものである。遺物は，埋土中からの出土である。

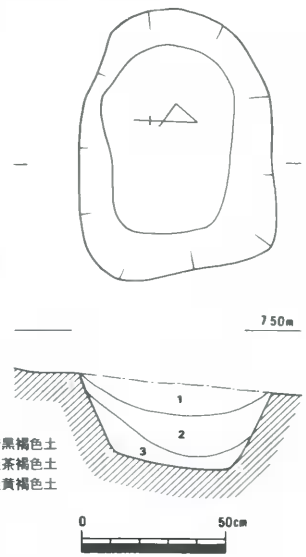
246は，口縁端部にキザミを付さない貼付突帯文である。突帯にはキザミを付す。外面はヨコのサッ痕，内面は平滑としている。**247**は，口縁端部に楕円の押圧痕を付し，貼付突帯はキザミを施している。外面はヨコのサッ痕，内面は平滑にしている。

石器は石鏃が6点検出され，**7**・**8**が平基式で，**10**は凹基式のものである。

土壙－14（第44図）

92－Dと93－Dの土堤下に検出され，規模は125.5×78.5cm，深さ26cmを測る楕円形で南東辺が尖るプランを呈する。遺物は埋土中からである。

248は，波状口縁をもち，磨消縄文を施文する。**249**は，内傾気味の口縁をもつ無文のもので，内外面とも平滑に仕上げている。**250**は，口縁端が丸くなるもので，外面は巻貝条痕，内面は平滑としている。**251**は，口縁端は**250**と同様であるが，外面調整は風化のため不詳である。**252**は，口縁端を上方へ拡張するもので，その端面に沈線を施している。内



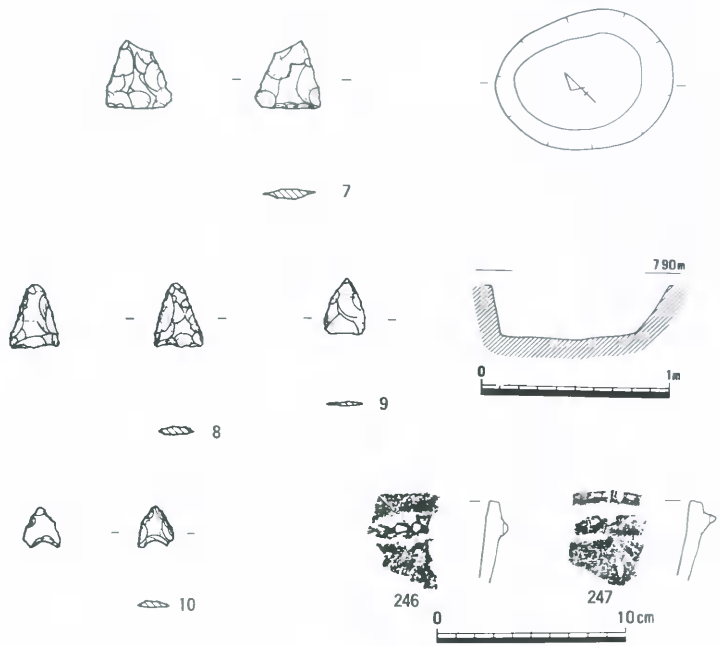
第42図　土壙－12 (1/20)・**出土遺物** (1/3)

外面ともミガキがおこなわれている。253は，擬縄文による磨り消しが認められる。土壙の時期は，252の土器から察すると晩期に属すると考えるのが妥当であろう。

土壙－15（第45図）

96－Dと93－Dの土堤下に検出され，規模は124×80cm，深さ45cmを測る方形のプランを呈するものである。埋土は3層認められ，2層の暗黄黒色土中に地山ブロックを含む。遺物はいずれも埋土中である。

254は，波状口縁を有する浅鉢形土器で，肩部を屈曲させ口縁部を外方へ拡張する。口縁部には太いヨコの沈線の下に同じ沈線で交差文を充填させている。肩部にはキザミを施し，内外面ともミガイている。255・258は，口縁端部に屈曲をもつ浅鉢形土器である。内外面ともミガキがみられる。256は，外反気味の頸部にヨコのアルカ属条痕，胴部は平滑にする。内面は平滑にしている。257は，口縁端を面取りしないもので，外面はヨコのアルカ属条痕，内面は平滑としている。259は，内外面とも平滑に仕上げている。260は，凹み底の底部で，内面にサッ



第43図　土壙－13（1/30）・出土遺物（1/3・1/2）

痕がみられる。この他に1の土製円盤が出土している。石鏃が4点出土している。

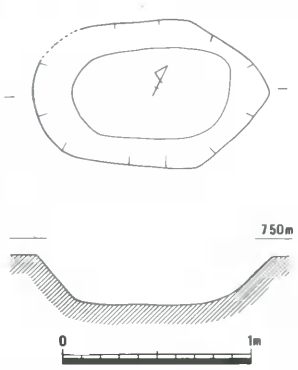
土壙－16（第46図）

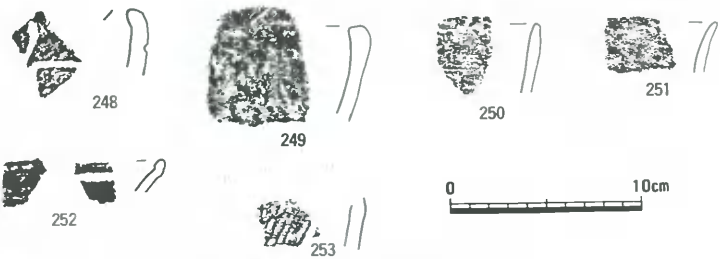
89－Eの東寄りに検出され，規模は削平のため不明であるが，プランは方形を呈する。深さは現存部分で14cmを測る。遺物は埋土中からのものである。

261は，口縁部が立ち上がり気味に外反し，屈曲部と口縁端面に浅く引いた状態の巻貝沈線が施される。内面の口縁下にも同様の巻貝沈線を施文している。胴部外面には巻貝条痕をおこなっている。**262**は，口縁端部を上方に立ち上がるもので，内外面ともミガキがみられる。**263・264**は，擬縄文と磨消縄文とを施すもので，**263**は，擬縄文としている。**265**は，胴部にRLの縄文を全面に施文している。

土壙－17（第47・48・49図）

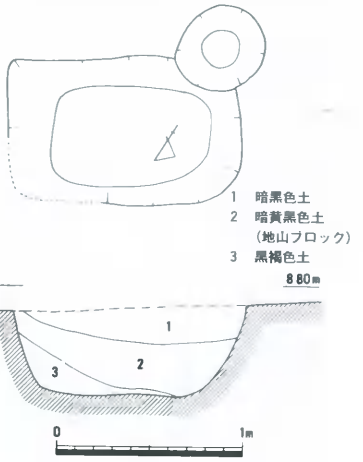
94－Cの中央やや北寄りに検出され，規模は104＋α×83cm，深さ31cmを測る方形のプランをもつものである。南西区は擁壁のため調査ができなかった。遺物はプラン確認面において，大きい破片が検出されている。**266**は，推定口径26.4cmを測る貼付突帯文を有するものである。外反する口頸部を有し，口縁端部は平坦とし，口縁部下にカマボコ状の貼付突帯を付す。頸部はヨコのミガキをおこない，胴部にかけてはヨコのサッ痕のあと平滑としている。内面の口縁部下にケズリによる段状沈線を施文する。調整は頸部押圧痕のあと平滑としている。**267**は，推定口径19cmを測る突帯文の土器である。外反する口頸部を有し，口縁端部は平坦となりキザミを付す。口縁下に貼付突帯を付すがキザミは施文

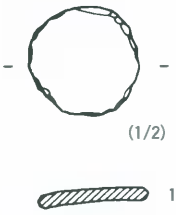


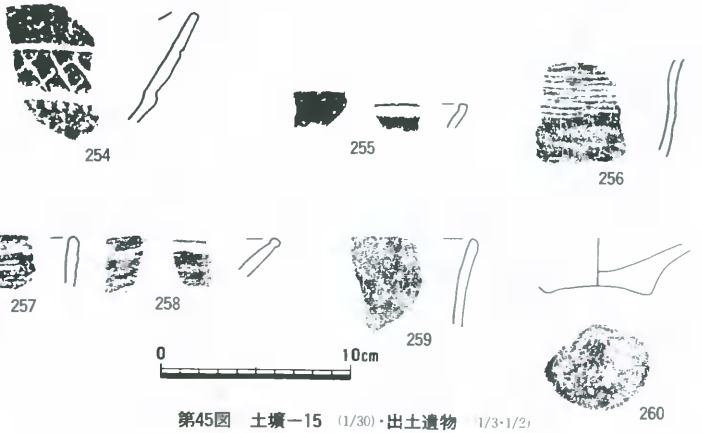


第44図　土壙－14 (1/30)・**出土遺物** (1/3)

していない。外面調整は頸部にアルカ属条痕ののち平滑とし，屈曲部を境としてヨコのサッ痕をおこなっている。内面は平滑としている。**268**は，外反する口頸部をもつもので，口縁端部は面取りをしていない。突帯は口縁部下に貼り付け，キザミを施している。内外面は平滑としている。**269**は，外反する口頸部を有するもので，口縁端部は平坦としキザミを付している。外面はヨコのアルカ属条痕，内面は平滑としている。**270**は，外反する口頸部を有するもので，口縁端部にキザミを施している。頸部には垂下するU形の刺突文を施文し，その脇に併行して一列の刺突文がみられる。さらに斜め方向に２本対の刺突文が施文され，屈曲部にはコ形の連続刺突文を施している。**271**は，外反する口頸部を有し，口縁端部にキザミを付す。調整は内外面とも平滑としている。**272**は，

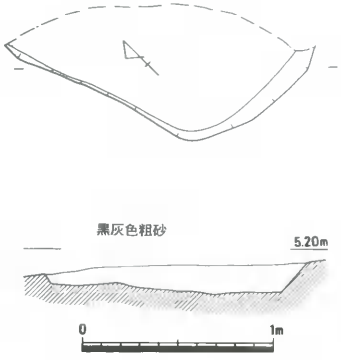


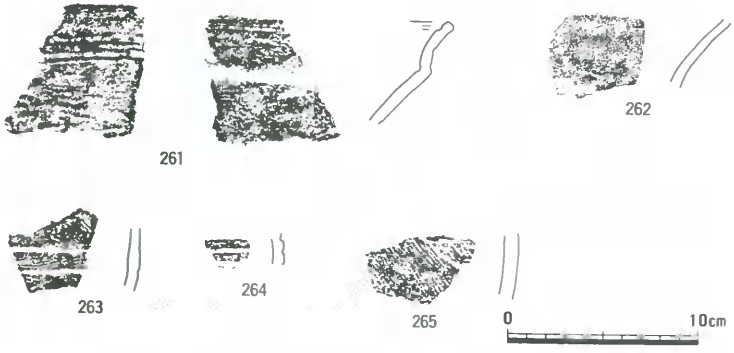




第45図　土壙－15 (1/30)・出土遺物 (1/3・1/2)

外反する口頸をもつもので，口縁端部にキザミを施す。屈曲部には連続刺突文を施文するが，内容は不明である。**273・274**は，口縁端部にキザミを付さないもので，いずれも外面はアルカ属条痕，内面は平滑にしている。**275**は，頸部がくの字に外反するもので，屈曲部に１本の沈線を施文し，その間に三角形の凹みをつくる。**276**は，屈曲部から上が平滑，下がヨコのサッ痕を施す。内面は平滑としている。**278**は，波状口縁をもつもので，浅い杯部から外反する口縁部をつくり，口縁内面にケズリの段状沈線が施される。杯部外面はアルカ属条痕を顕著に残す。他の内外面はミガキがなされている。**279**は，杯部から大きく上方へ拡張する口縁部をもつもので，口縁部内面に沈線を施文している。杯部外面はサッ痕でミガキがなされている。**280**は，口縁端部に押圧風のキザミを付し，外面にはヨコのアルカ属条痕をもつ。**281**は，外面にアルカ属条痕のあとヘラによる交差文を施文する。**282**は，口縁端部に押圧風のキザミを施す。**283**は，口縁端部にキザミを付さず，外面にヨコのアルカ属条痕をもつ。**284・285・288**は，浅鉢形土器で，**285**は，口縁端部を上方へ立ち上がらせている。**288**は，内面にケズリによる段状沈線を施す。**286・287**と**289～291**は，屈曲する肩部に刺突文を施すものである。**286**は，上下二列，**287・289・290**は，□形，**291**は，上側が





第46図　土壙－16 (1/30)・出土遺物 (1/3)

深く刺突されていないなど内容の変化が認められる。**292**は，破片の上部で平滑，下部でサッ痕と調整が異なるが，屈曲部は形成しない。**293**は，２本の沈線が巻き込むもので，沈線内には縄文は施文されず，外側に認められる。**294**から**296**は，底部の破片である。**294**と**296**は，後期のものであろう。

土壙－18（第50図）

94－Ｄの西寄りに検出され，規模は107×73cm，深さ50cmを測る楕円形のプランを有する。土器は検出することができず，時期は不明である。石鏃が２点出土している。

土壙－19（第51図）

91－Ｃの西寄りに検出され，規模は87×53cm，深さ20cmを測る楕円形のプランを呈する。遺物は検出することができず，時期は不明である。石鏃が１点出土している。

土壙－20（第52図）

91－Ｃの西寄りに検出され，規模は120×66cm，深さ31cmを測る楕円形のプランを呈する。土器は検出することができず，時期は不明である。石鏃とタタキ石が出土している。

土壙－21（第53図）

93－Ｄの東寄りに検出され，規模は76×44cm，深さ11cmを測る楕円形のプランを呈する。遺物は検出することができず，時期は不明である。

土壙－22（第54図）

89－Ｄの南東隅寄りに検出され，規模は118×95cm，深さ14cmを測る円形のプランを呈する。遺物は検出することができず，時期は不明である。

土壙－23（第55図）

89－Ｅの西寄りに検出され，規模は120＋α×92cm，深さ11cmを測る楕円形のプランを呈する。遺物は検出することができず，時期は不明である。

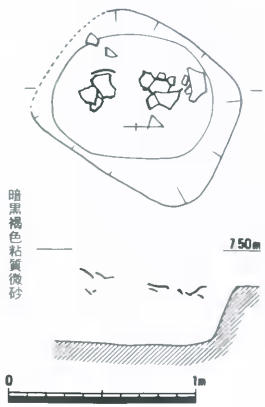
土壙－24（第56図）

94－Ｃの南寄りに検出され，規模は103×93cm，深さ18cmを測る円形のプランを示すものである。遺物は検出することができず，時期については不明である。

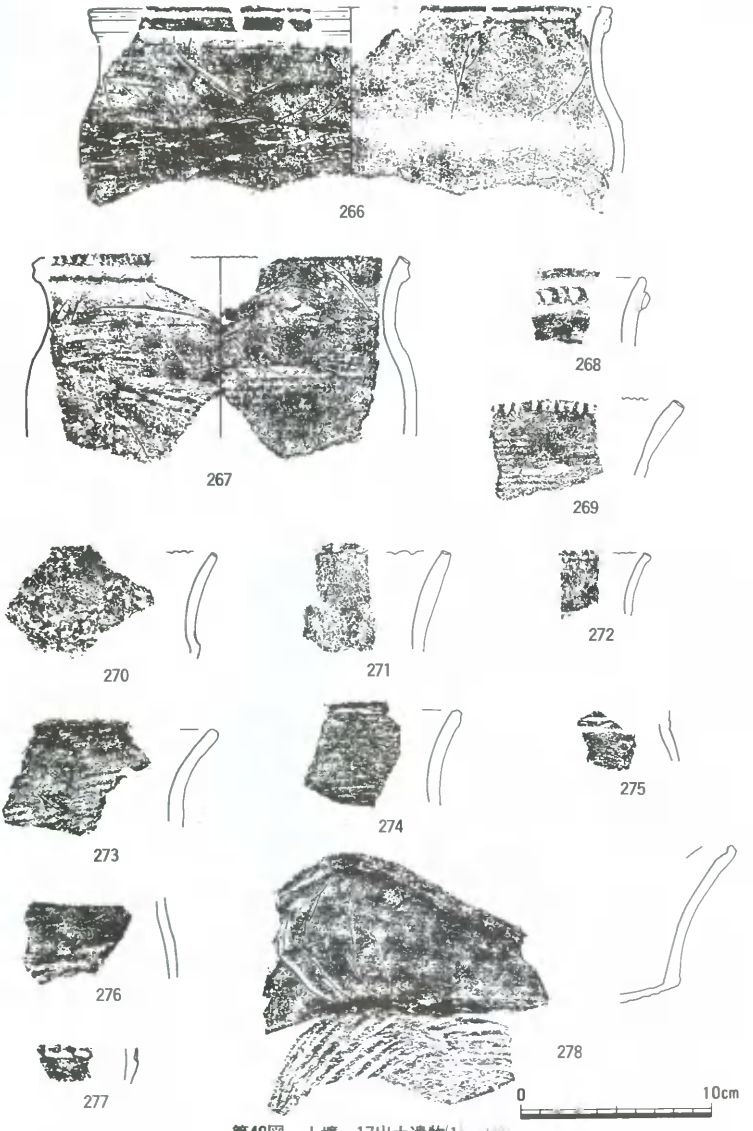
（２）埋葬人骨

抱石屈葬（第57図）

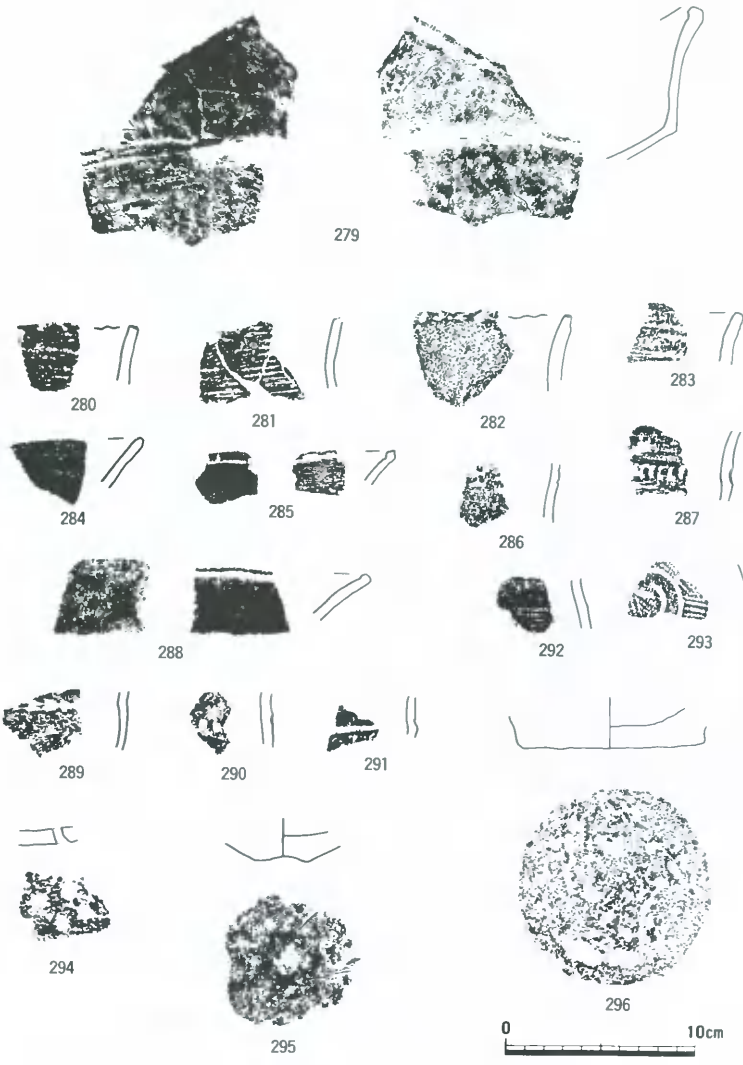
人骨は，Ｐ－６の東寄りに黒色細砂中において検出された。頭蓋が検出されたため，土壙などの掘り込みがないか精査したが確認することはできなかった。



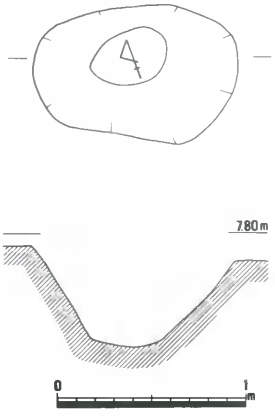
第47図　土壙－17　(1/30)



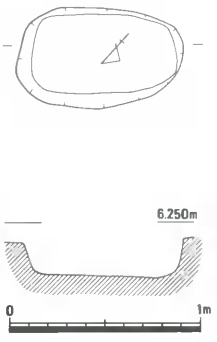
第48図　土壙－17出土遺物(1)



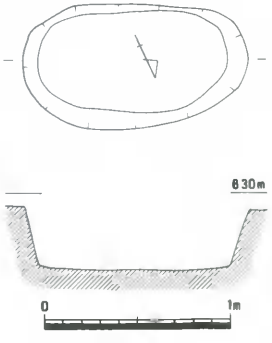
第49図　土壙一17出土遺物(2)　1/3



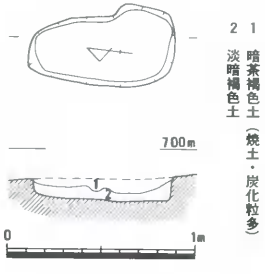
第50図　土壙－18 (1/30)



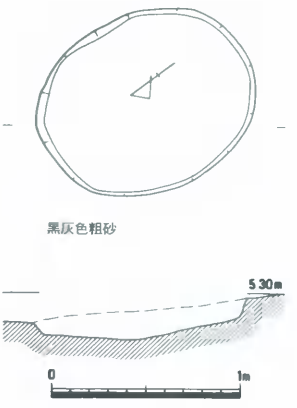
第51図　土壙－19 (1/30)



第52図　土壙－20 (1/30)



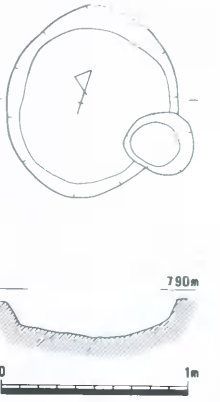
第53図　土壙－21 (1/30)



第54図　土壙－22

第55図　土壙－23

人骨は，仰臥して埋葬されており，頭蓋は，正面を向けているが，検出時には前に落ち込んだ状態であった。脊柱および肋骨の遺存状態は極めて悪かった。上肢骨は，右側についてその遺存状態がよく，原位置を保っていることが考えられた。上腕骨と前腕骨は，くの字状に曲げられている状態が観察され，また調査中に腰椎近くに細い骨片を認めていることから自由上肢骨がこの付近に位置していたことが考えられる。左上肢骨は，肩甲骨と鎖骨が認められるが，原位置を保っていないようである。

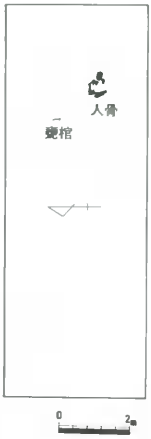


第56図　土壙－24

下肢骨は，寛骨・大腿骨・脛骨・腓骨・足骨などが認められている。この下肢骨の検出時の状態は，股関節と膝関節を非常に強く折りまげられたまま体の左側やや上方に倒れさせていた。この下肢骨と上肢骨の平面的な形態を見ると体がくの字状となっていることが観察されるのである。また，下肢骨の屈曲の状態から紐などによる結縛がなされていたことが推測されるのである。

石は，左胸部に長さ16cm，幅12cm，厚さ9cmさらにこの下に重ねた状態で長さ9cm，幅9cm，厚さ4cmのものが認められた。また右前腕骨の上には，長さ20cm，幅12cm，厚さ7cmのものが

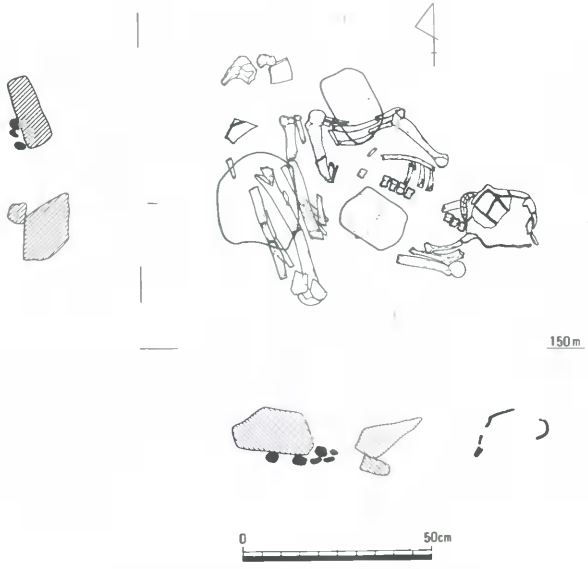
置かれていた。さらに，大腿骨と下腿骨の上には，長さ27cm，幅21cm，厚さ11.2cmのものが検出されたのである。いずれの石も花崗岩であり，取り上げの段階でボロボロにくずれてしまった。



時期については，後期から晩期の遺物が出土しており，判断が困難である。しかし埋葬状態および，人骨の特徴から晩期に入るのが妥当とされよう。

（3）包含層出土遺物

包含層の出土遺物（第58～122図）は，阿津走出遺跡の各調査地点において検出されたもので，先に述べたように，遺物の層序的な把握はできなかった。量的には，A地区のP－6及びB地区のグリット設定地点において多く出土している。第15図は，後者の遺物出土状況である。これによると，ほぼまんべんなく土器の散布がみられ，時期的にも両者が分かれるということはない。また，この平面での分布とは別に垂直分布を作図したが，堆積層が薄いため，ほぼ同レベル位置で



第57図　A区P－6埋葬人骨（1/160・1/15）

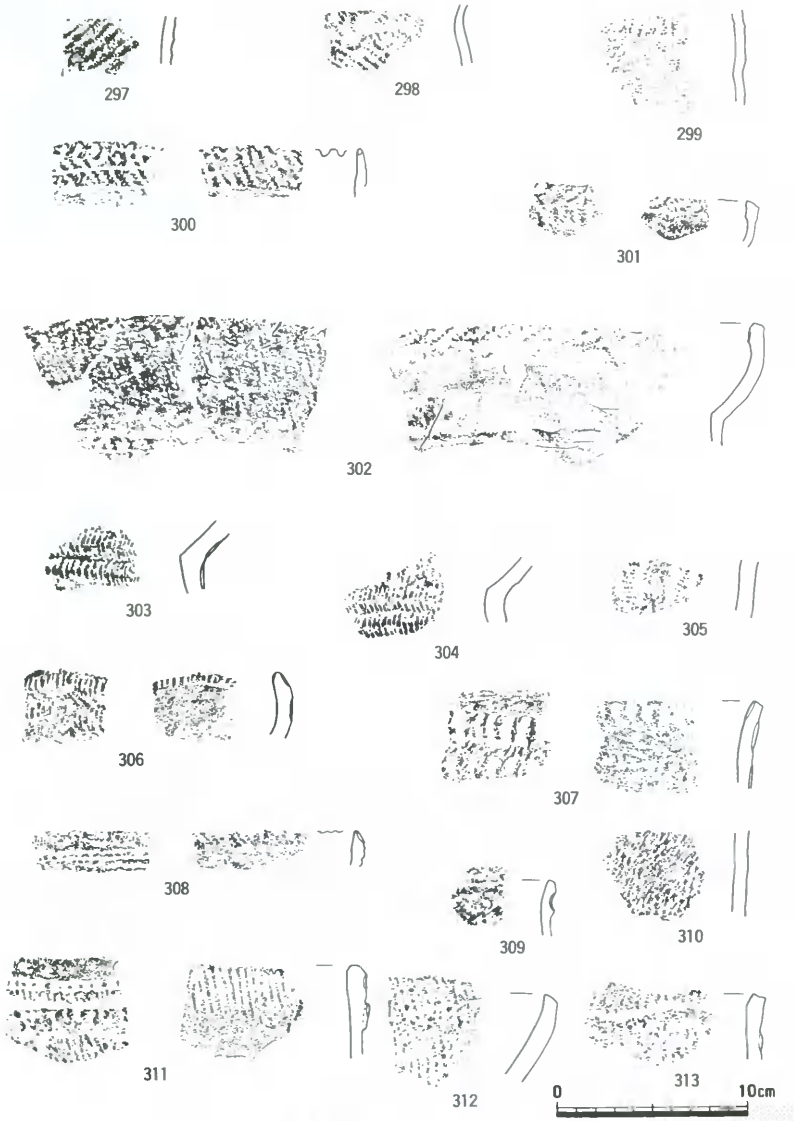
重複してしまうのである。

以下については，時代ごとに説明を加えておく。

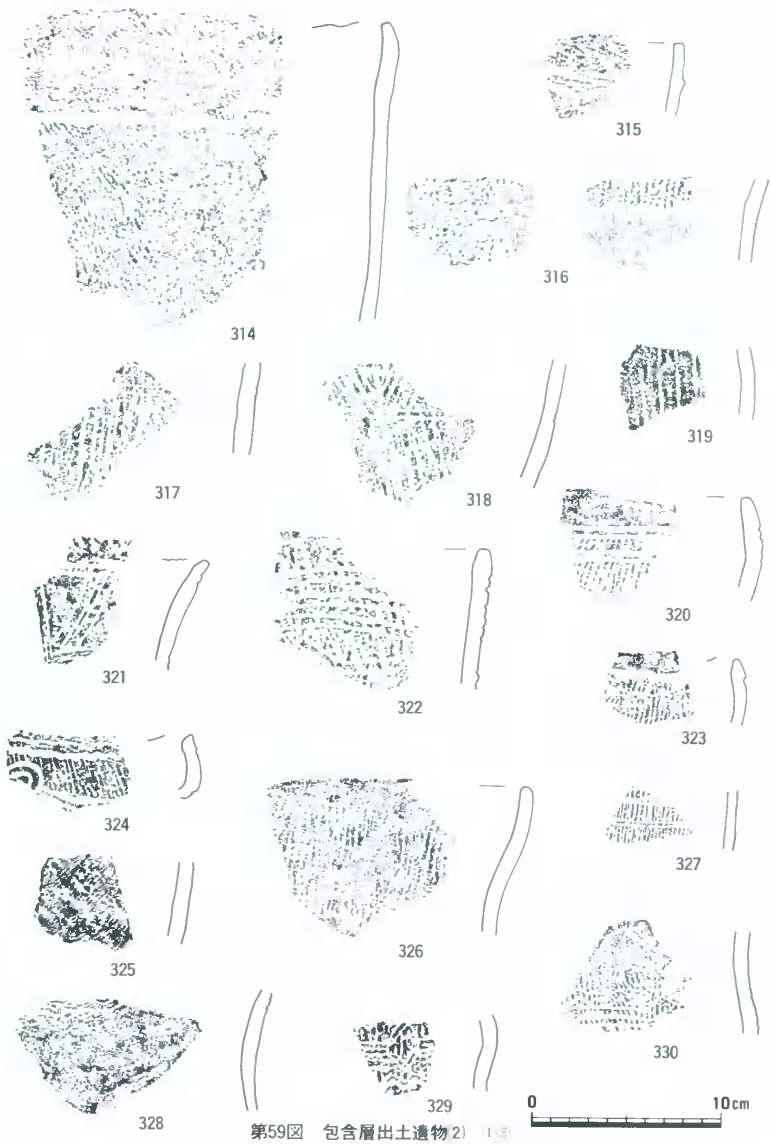
297～300は，前期になると考えられるものであり，298および299は，R$\left\{\begin{matrix}\\\\\end{matrix}\right.$の縄文を施文している。297は，L$\left\{\begin{matrix}R\\R\\R\end{matrix}\right.$の縄文を器面に施文している。301～314・316～337は，中期に属するものである。301・302は，キャリパー形の口縁を有するもので，口縁端部を肥厚させ，内面から口唇そして口縁外面に粒の太い縄文を施文している。303・304は，キャリパー形の口縁部となり，屈曲部にC形の連続爪形文を施している。305は，貼付突帯の上から爪形文を施文する。306は，口縁端部内面と外面にC形の連続爪形文を施文する。307は，縄文地文にC形爪形文，そして内面の口縁端部にかけて同様の爪形文を施文している。308は，口縁端面にアルカ属の殻頂近くを用いて押圧を施している。外面には竹管による押し引き状の沈線を施文し，内面の口縁下にはRLの縄文を施している。309も口縁下にアルカ属の殻頂近くの押圧痕を施している。310は，LRの地文を有するものである。311は，外面に強い撚りの縄文を施す。この突帯の上の口縁端部近くに連続する刺突文を施文するが，爪形とはならない。また，内面口縁下には，外面の地文の縄文と同じ撚りのものが施文されている。312は，口唇部から口縁外面にかけて縄文の地文を施すものである。313は，縄文の地文に突帯を付す。突帯は口縁に沿い波状を示すものと，弧状になるものが認められ，突帯上には爪形を施している。314は，口縁部が押圧による調整の関係から，波状を呈している。外面全体にRLの縄文を施文し，内面は平滑としている。316は，縄文の地文に細い沈線を描き，口縁下内面にも縄文を施文する。317は，細い沈線を施す。318は，沈線と深浅交互の縄文を施文している。319は，胴部に深浅交互の縄文を施文している。321は，地文に縄文を施していると考えられるが，風化のため不明である。沈線文を施文し，口唇部から内面にかけてRLの縄文を施文する。

320・322～328・330・332～334・337・399は，撚糸文を地文として施文しているものである。326は，撚糸文のみである。332の小さい波状の沈線文と弧状の沈線文は，いずれも同一工具により2本1対で施文されている。328・330・332は，頸部を無文帯としている。337は，上げ底で，底部まで撚糸文を施文している。329は，地文にアルカ属のタテの条痕を施すものである。335は，地文をもたない沈線文のみを施文するものである。336は，刺突と沈線とによって文様を施文するものである。器壁が薄く，文様の内容などから中期に入るかどうか問題があり，古い段階に属する可能性もある。331は，大きく外反しながら内傾気味の口縁部をつくるもので，口縁部は波状口縁となり，波頂部は肥厚して受口状になる。文様は地文がなく，太い沈線文が施文されている。

338～347は，中期末から後期の初めに位置すると考えられる。338は，大きく内側に曲る波状口縁をもつものである。波頂部と口縁には渦巻きの模様を施し，波頂部から垂下する文様を



第58図　包含層出土遺物(1)　(1/3)

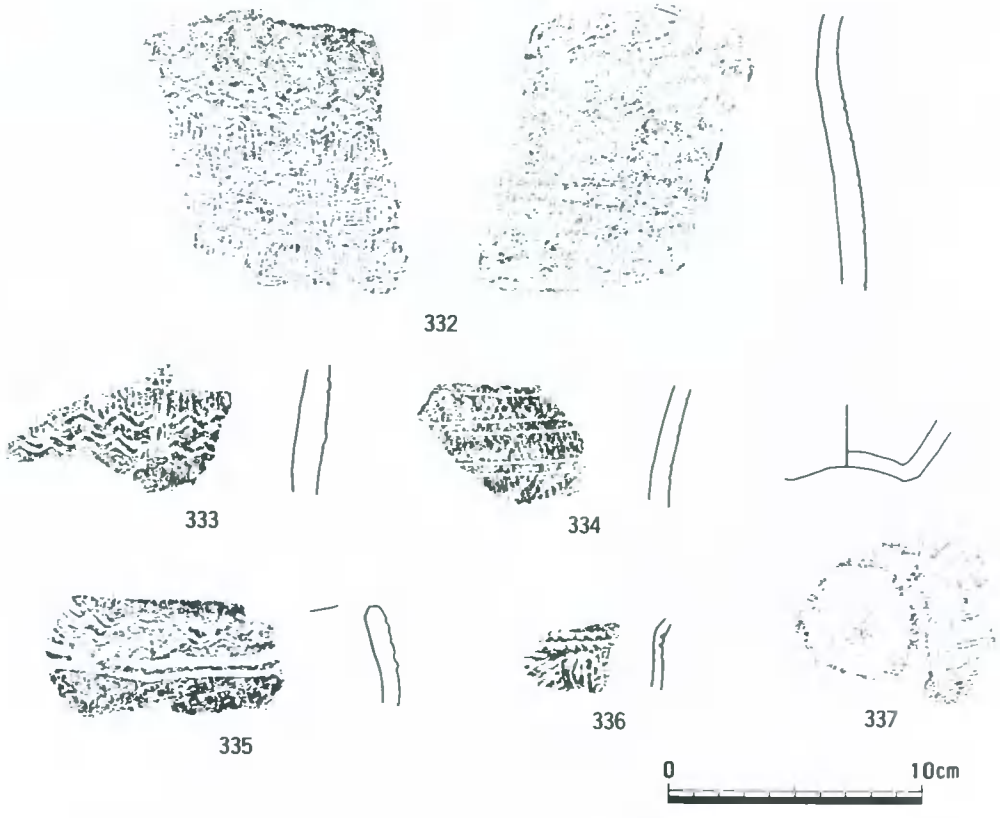


第59図　包含層出土遺物2)

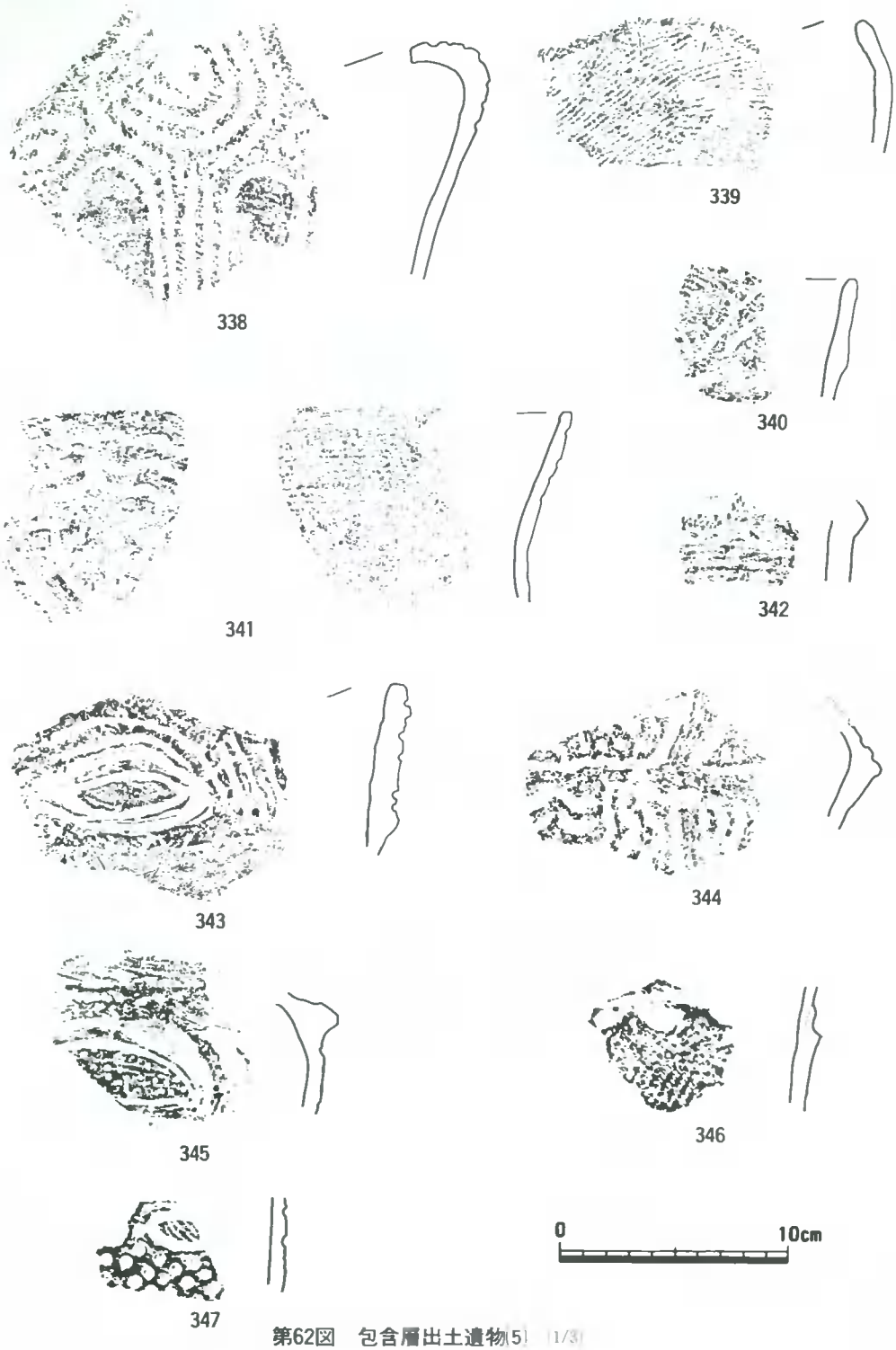
第60図　包含層出土遺物(3)（1/3）

描き，磨消縄文となる。339は，内傾する波状口縁をもつものである。外面はＬＲの縄文を施文し，内面にはヨコのアルカ属条痕を残している。340は，幅広の口縁帯をつくり，そこにＲＬの縄文の地文を施したあと細い沈線を描く。内面は平滑としている。341は，口縁部が外方に屈曲するもので，外面には沈線文を描いている。内面はヨコのアルカ属条痕を残す。342は，口縁部近くを肥厚させ凹みを付し，この部分にＬＲの縄文を施文する。肥厚帯から下はヨコの条痕，内面は平滑にしている。343は，幅広の口縁帯をつくり，この部分にＲＬの縄文を施文したあと沈線文を描いている。この沈線間は磨消縄文とはならないようである。344は，内傾する波状口縁をもつものである。波頂部を中心に両側に方形の区画を描き，その中に円形の刺突を充填し，頸部には太い沈線文を描いている。345は，口縁部に方形状の突帯をつくり，その内をさらに沈線で囲い刺突文を充填し，突帯下にはヨコのアルカ属条痕を残す。図は，上下逆の可能性もある。

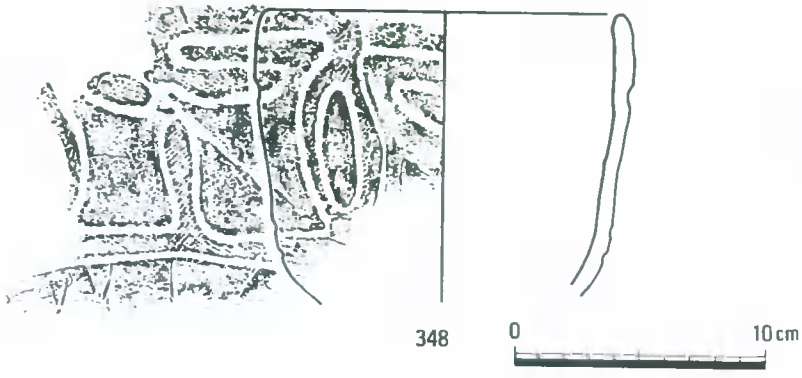
346は，押圧による凹みをもち，その下にＬＲの縄文を施文する。内面は巻貝条痕のあと平

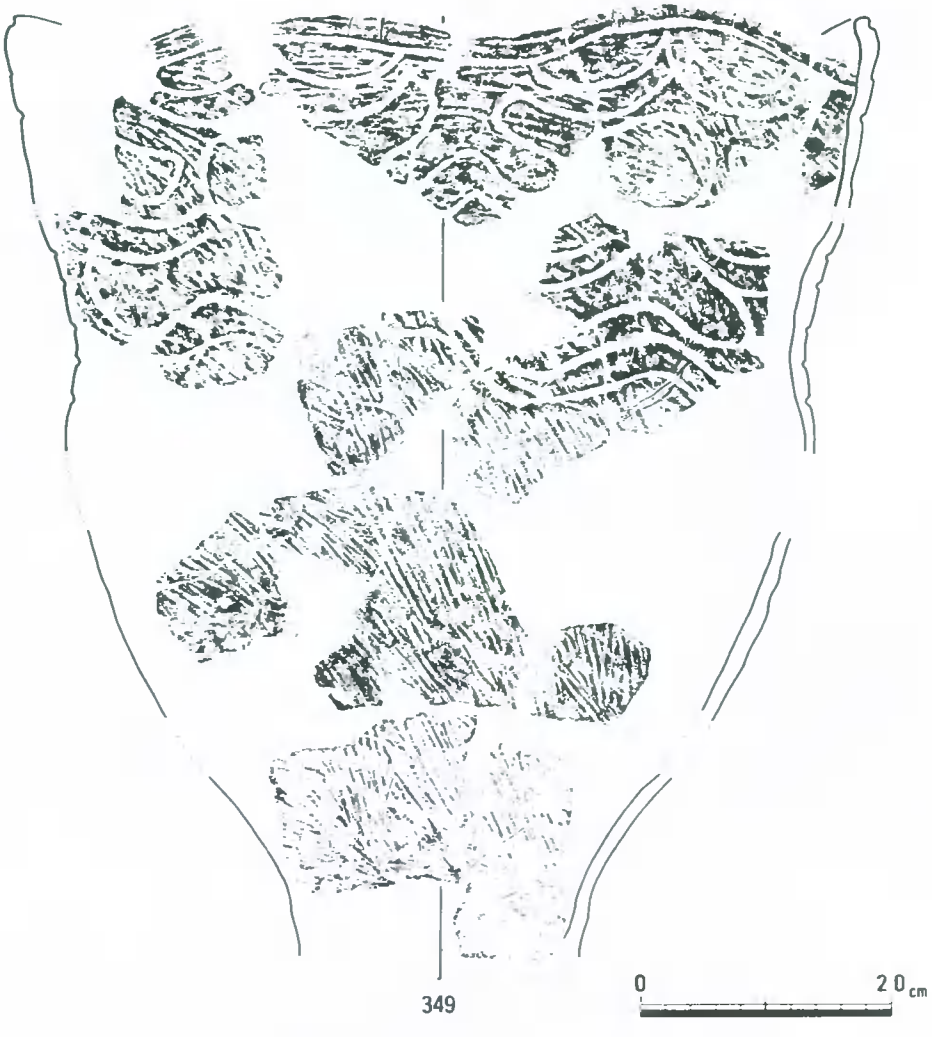


第61図　包含層出土遺物(4)　(1/3)

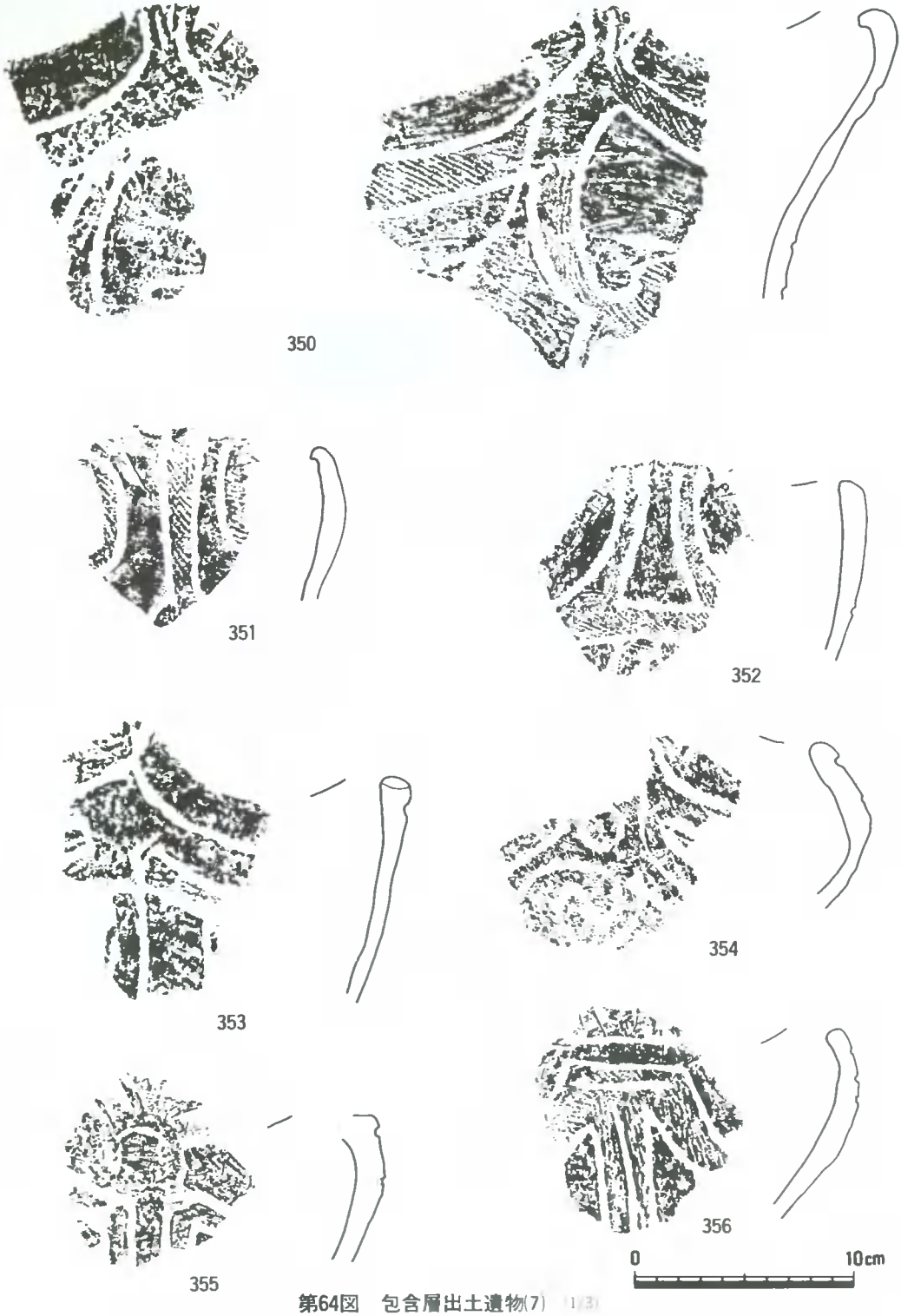


第62図　包含層出土遺物(5)　1/3





第63図　包含層出土遺物(6) (1/3・1/6)

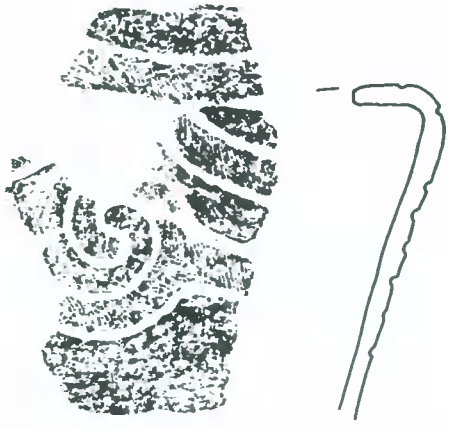


第64図　包含層出土遺物(7)　(1/3)

357

358

359


362

360

361

363

364

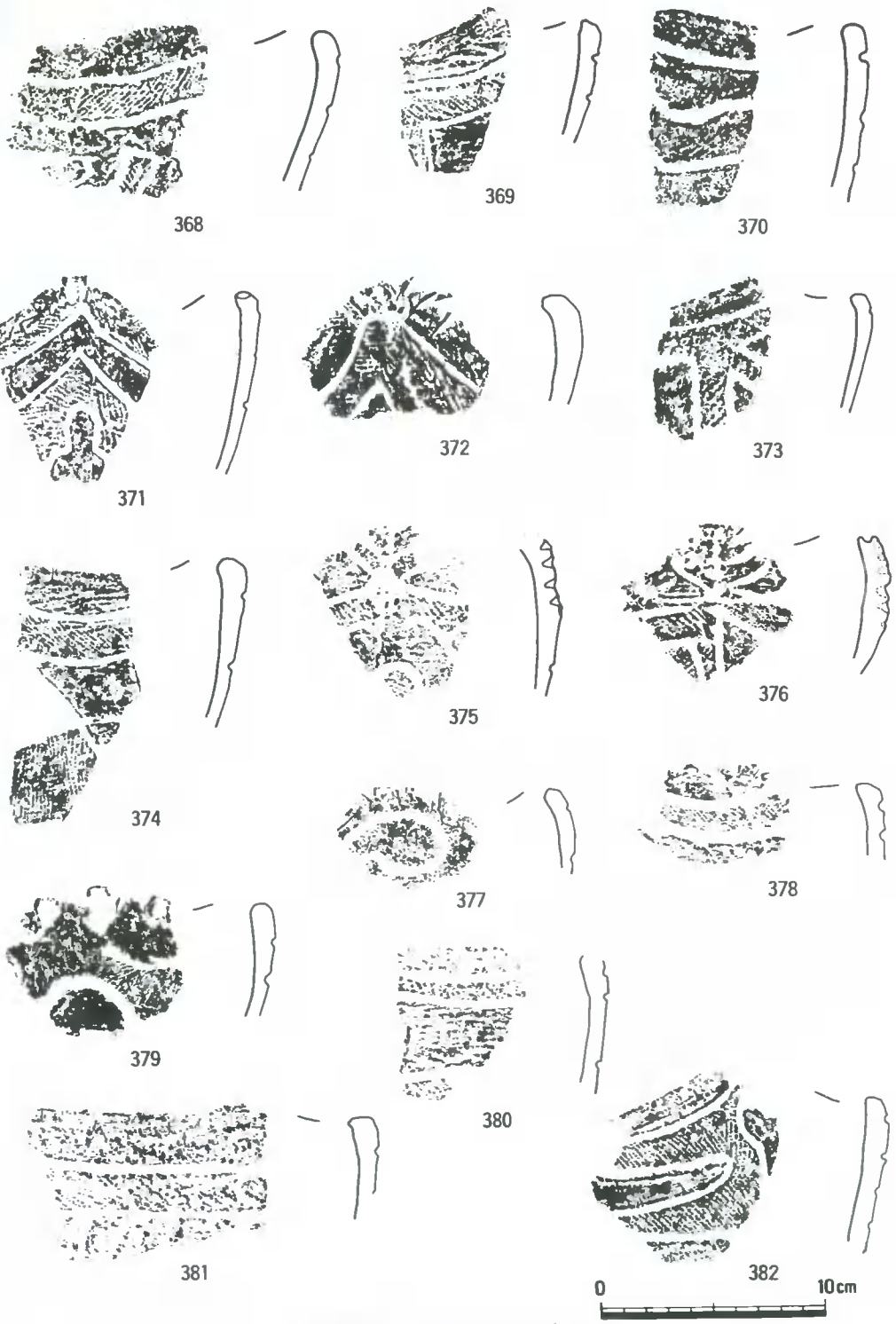
365

366

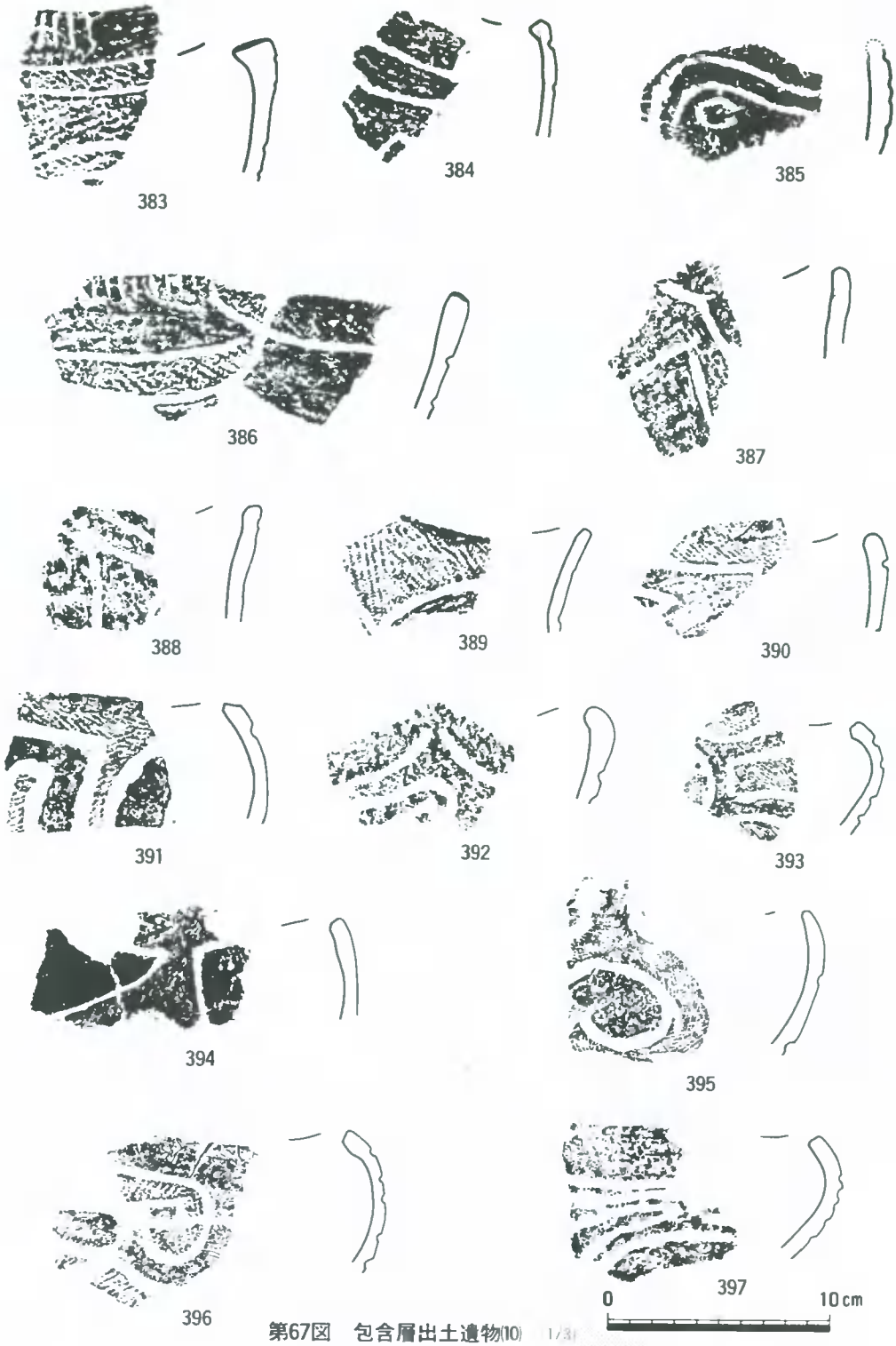
367

0 10cm

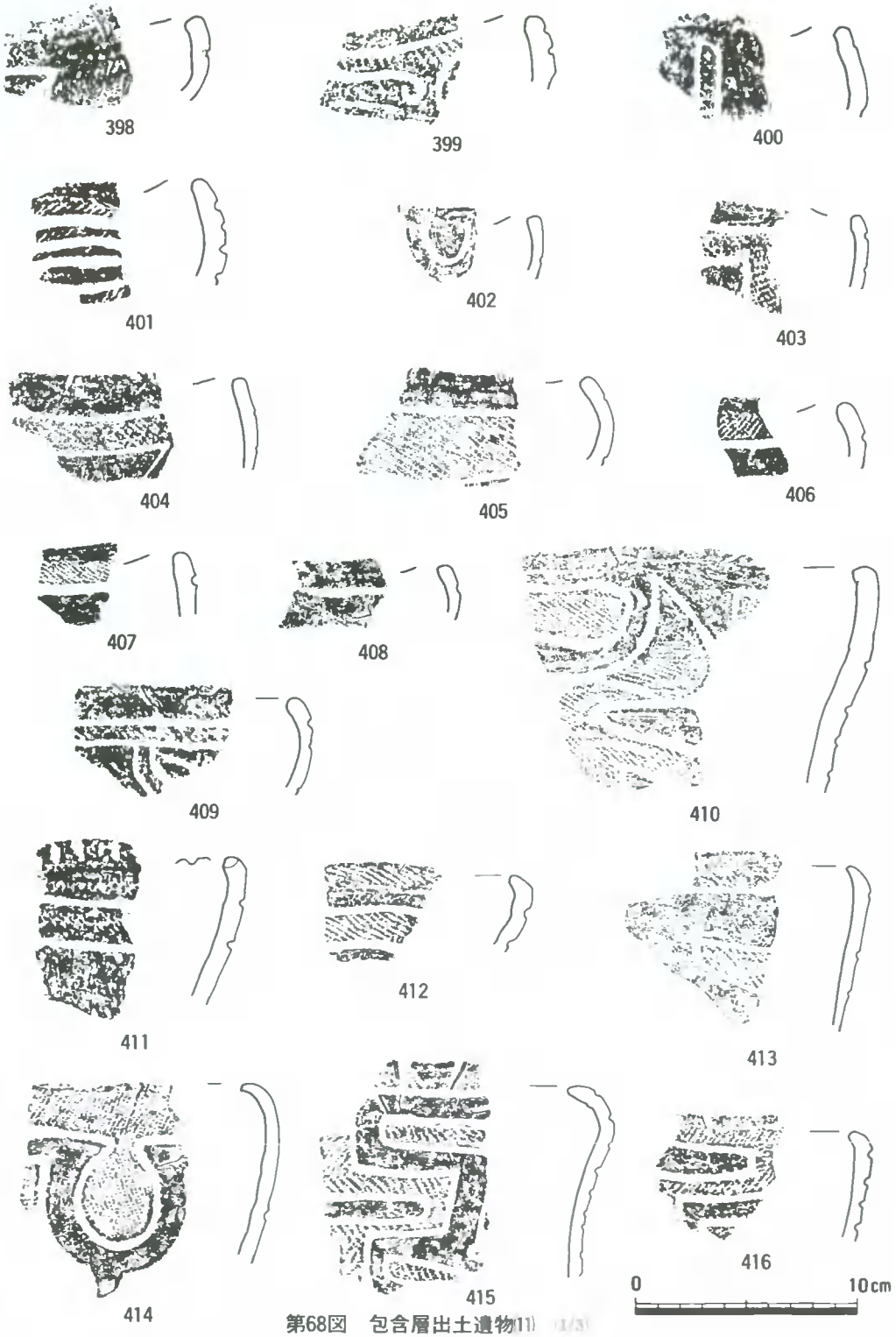
第65図　包含層出土遺物(8)　(1/3)



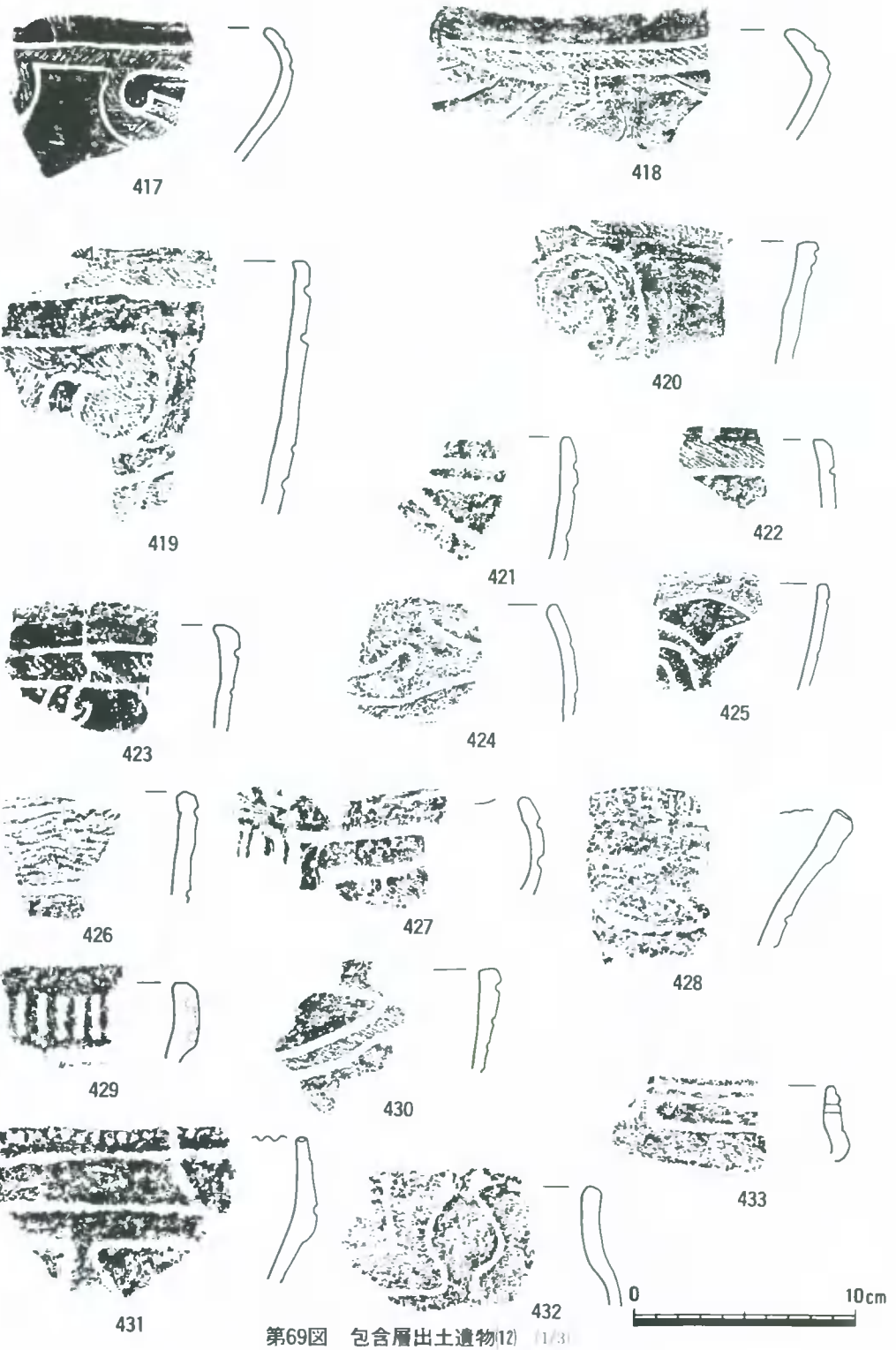
第66図　包含層出土遺物(9)　(1/3)



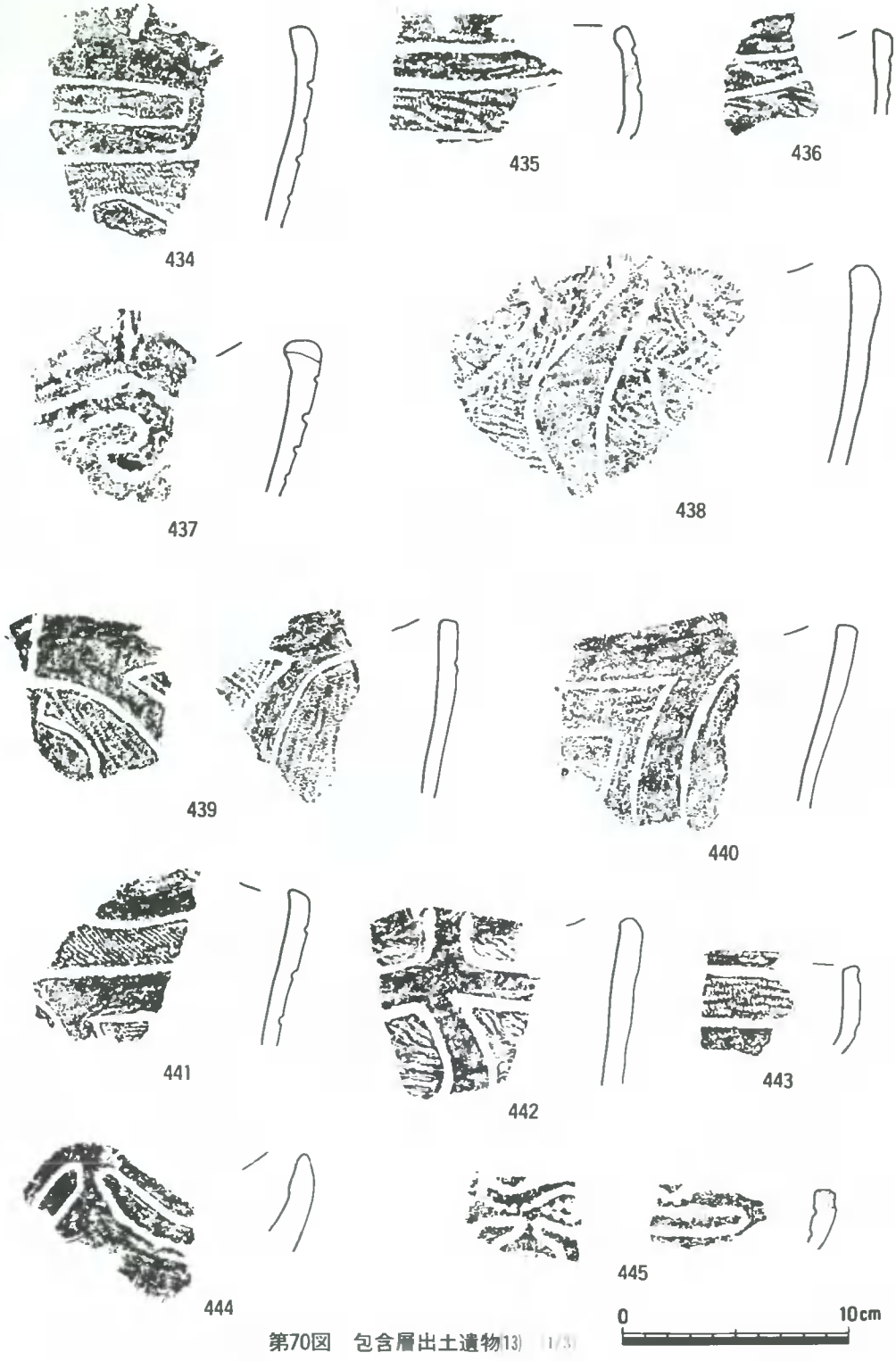
第67図　包含層出土遺物(10)　(1/3)



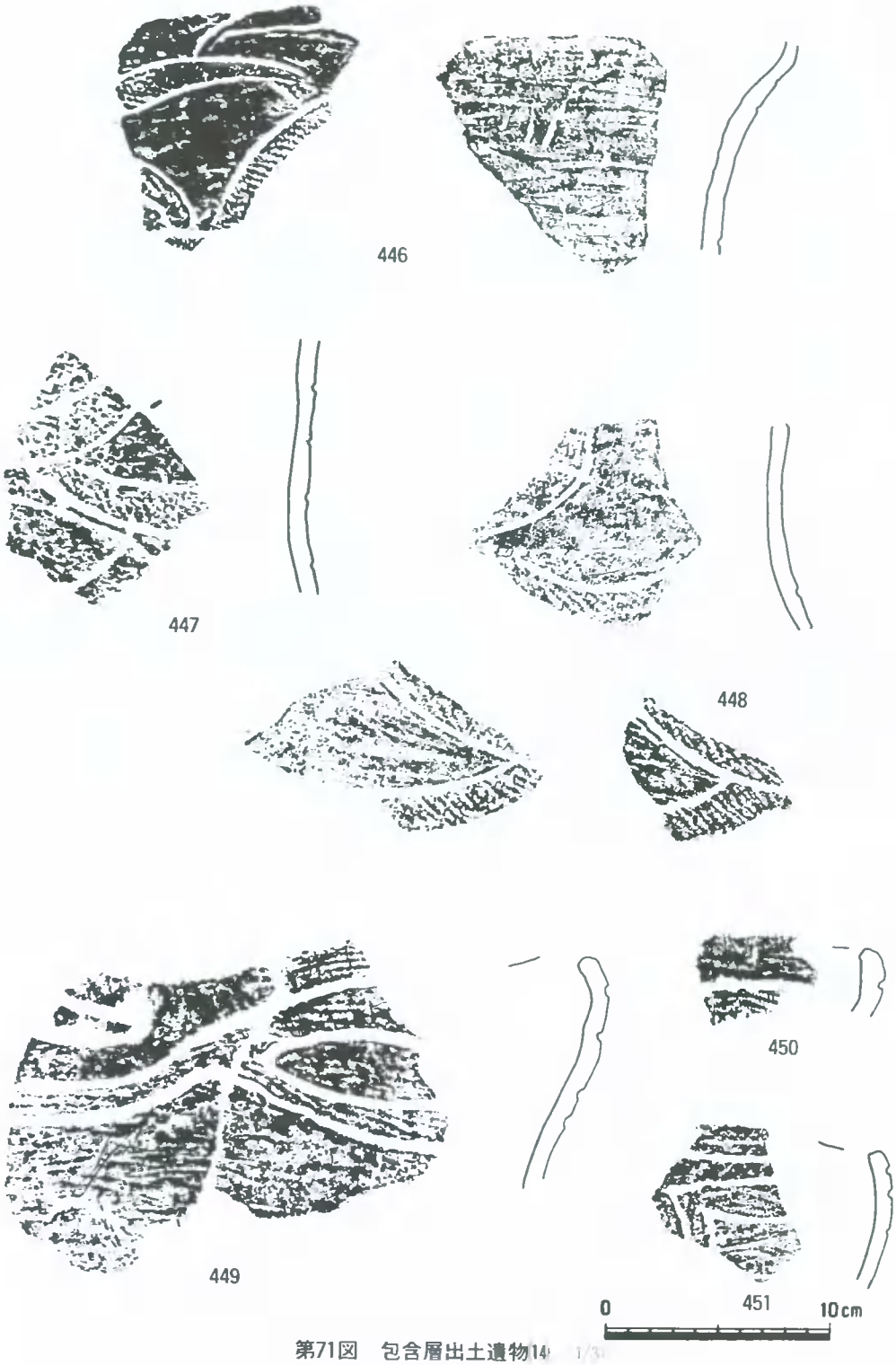
第68図　包含層出土遺物(1)　(1/3)



第69図　包含層出土遺物(12)　(1/3)

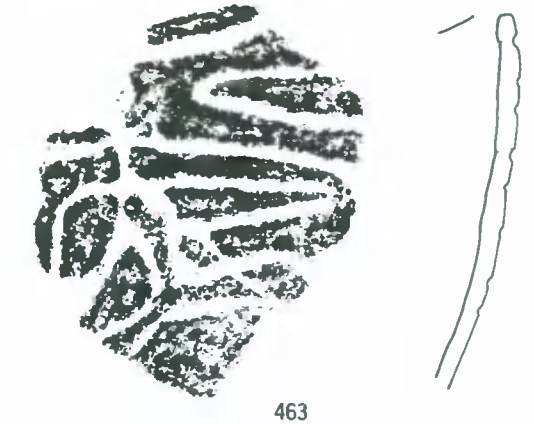


第70図　包含層出土遺物(3)　(1/3)



第71図　包含層出土遺物14　1/3

第72図　包含層出土遺物15


463

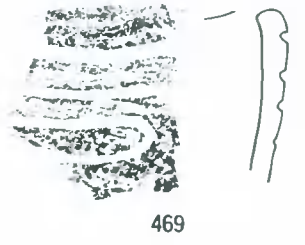
464

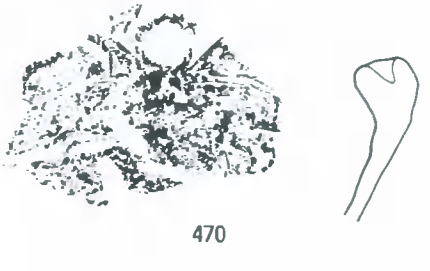
466

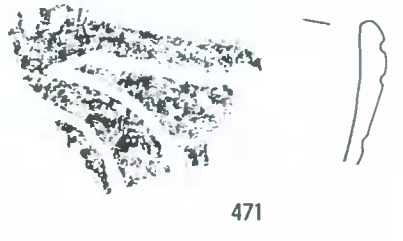
465

467

468

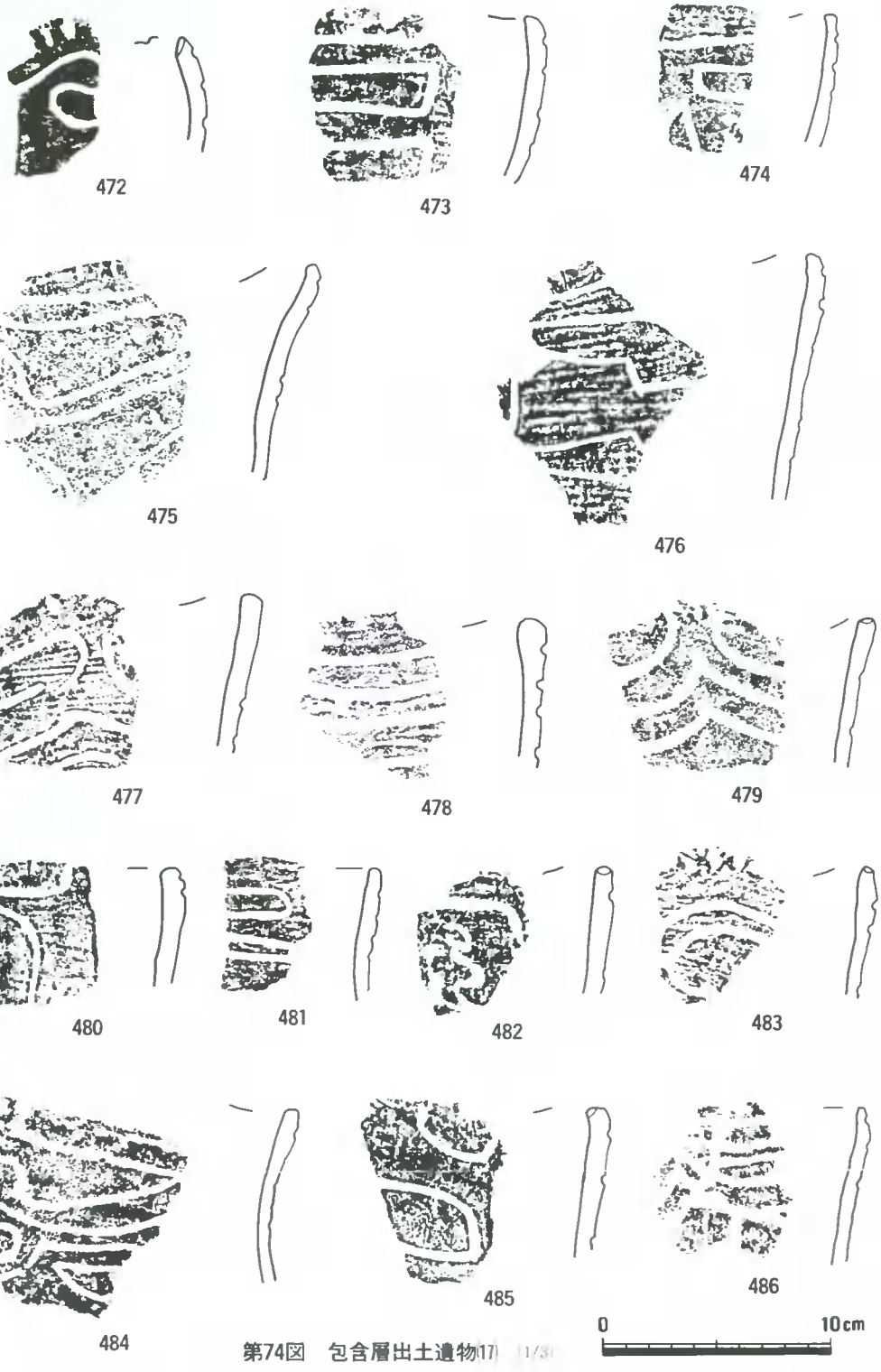

469


470

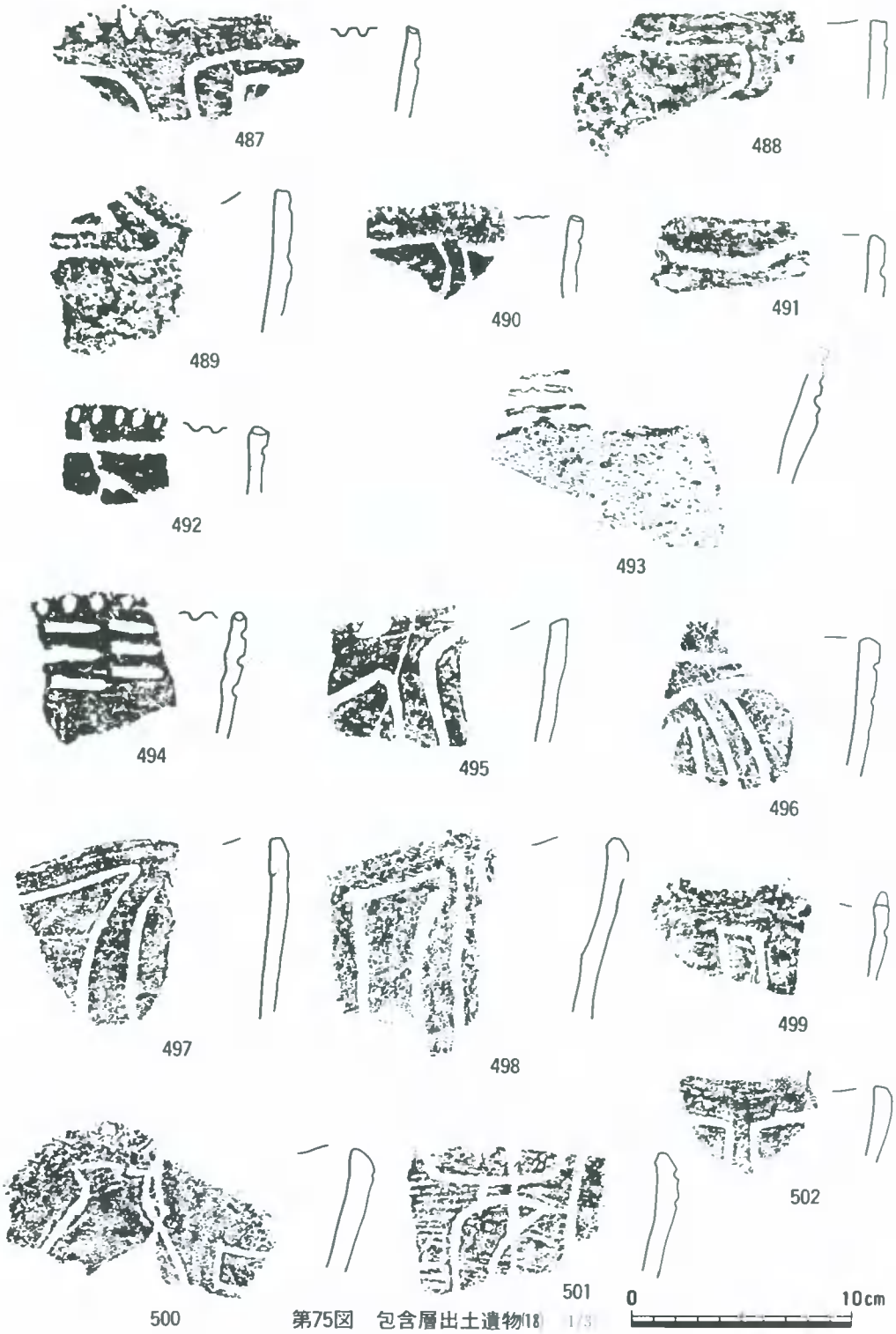

471

0 10cm

第73図　包含層出土遺物(16)　(1/3)

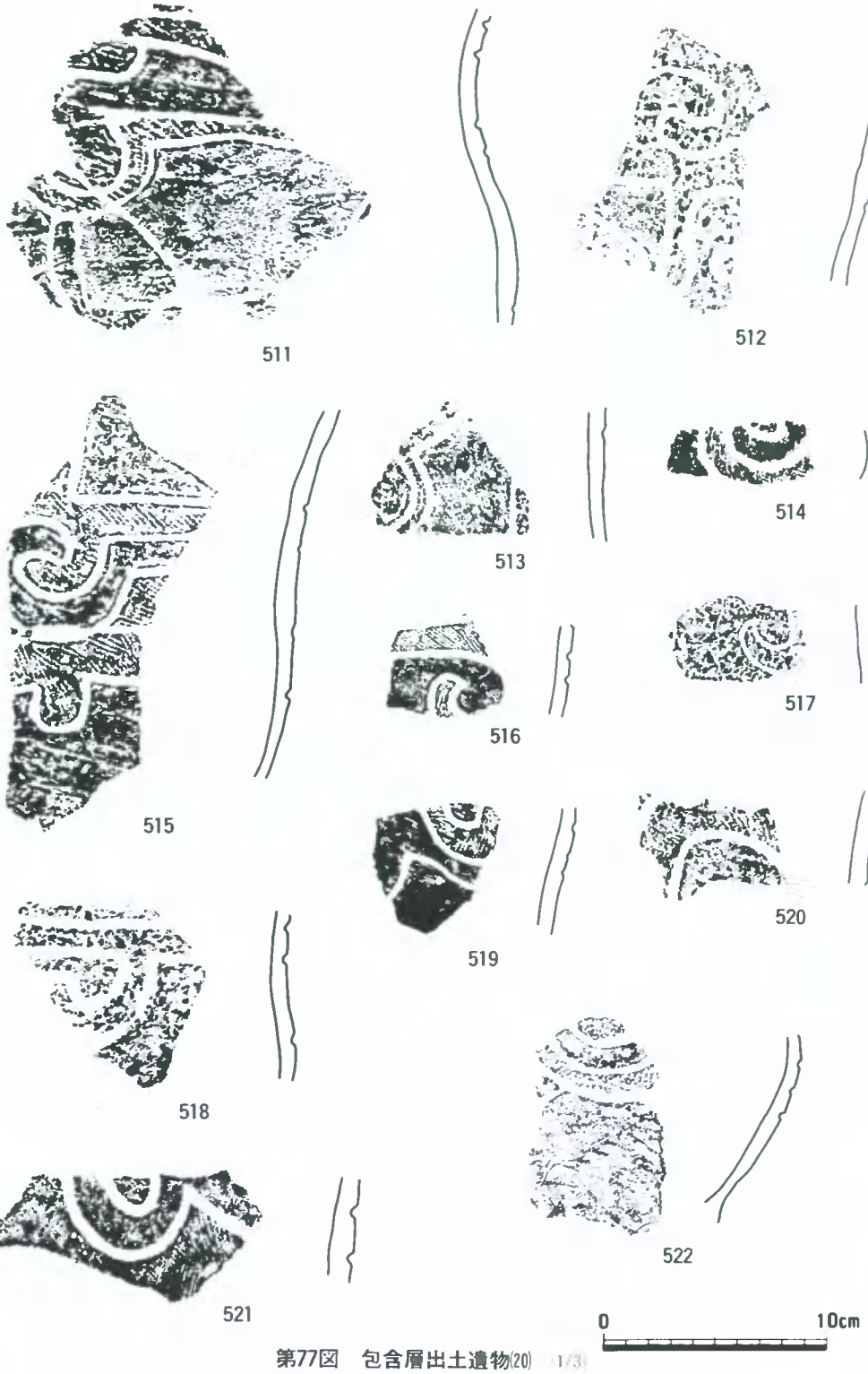


第74図　包含層出土遺物(17)　(1/3)



第75図　包含層出土遺物(18)　1/3

第76図　包含層出土遺物(19)　1/3



第77図　包含層出土遺物(20)　1/3

523

524

525

526

527

528

529

530

531

532

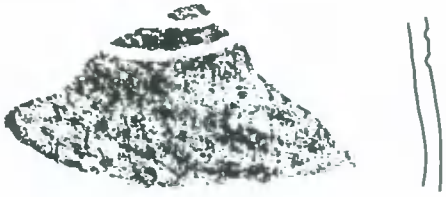
533

534

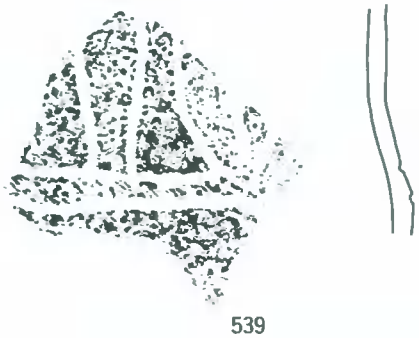
535

536

第78図　包含層出土遺物(21)　1/3


537

538


539

540

541

542

543

544

545

546

547

548

549

550

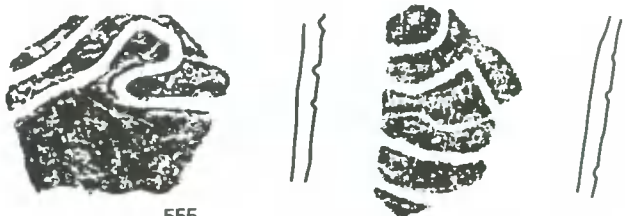
551

552

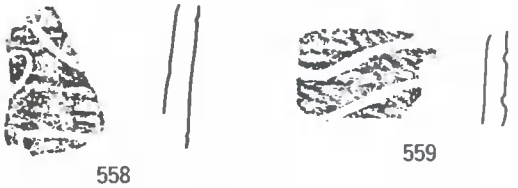
第79図　包含層出土遺物(22)　1/3

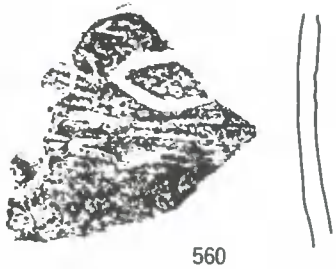
553

554


555 556

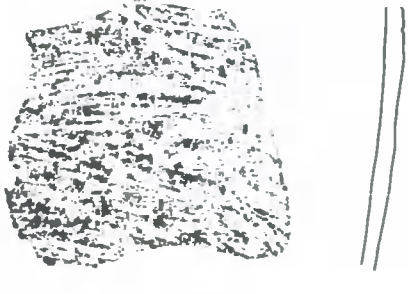
557


558 559


560

561

562

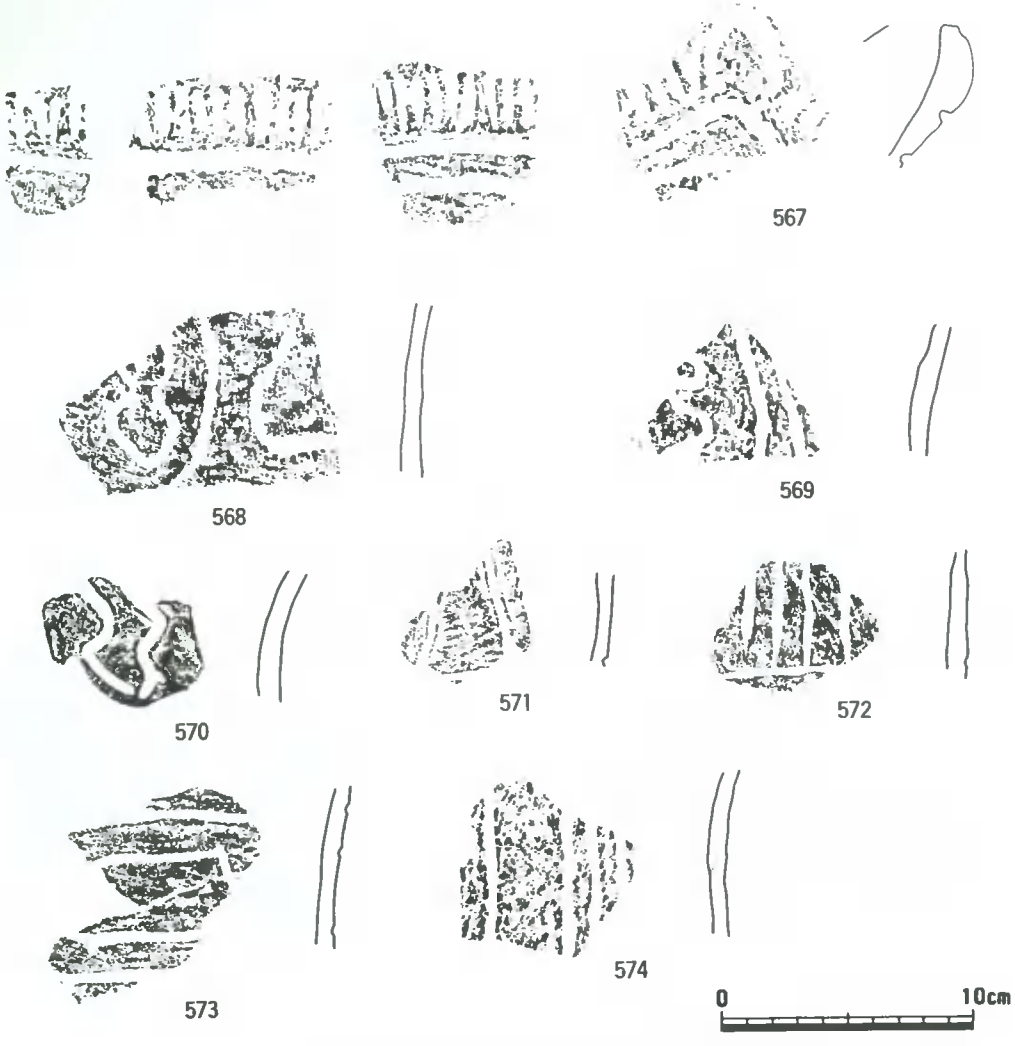

563

564

0　10cm

第80図　包含層出土遺物(23)

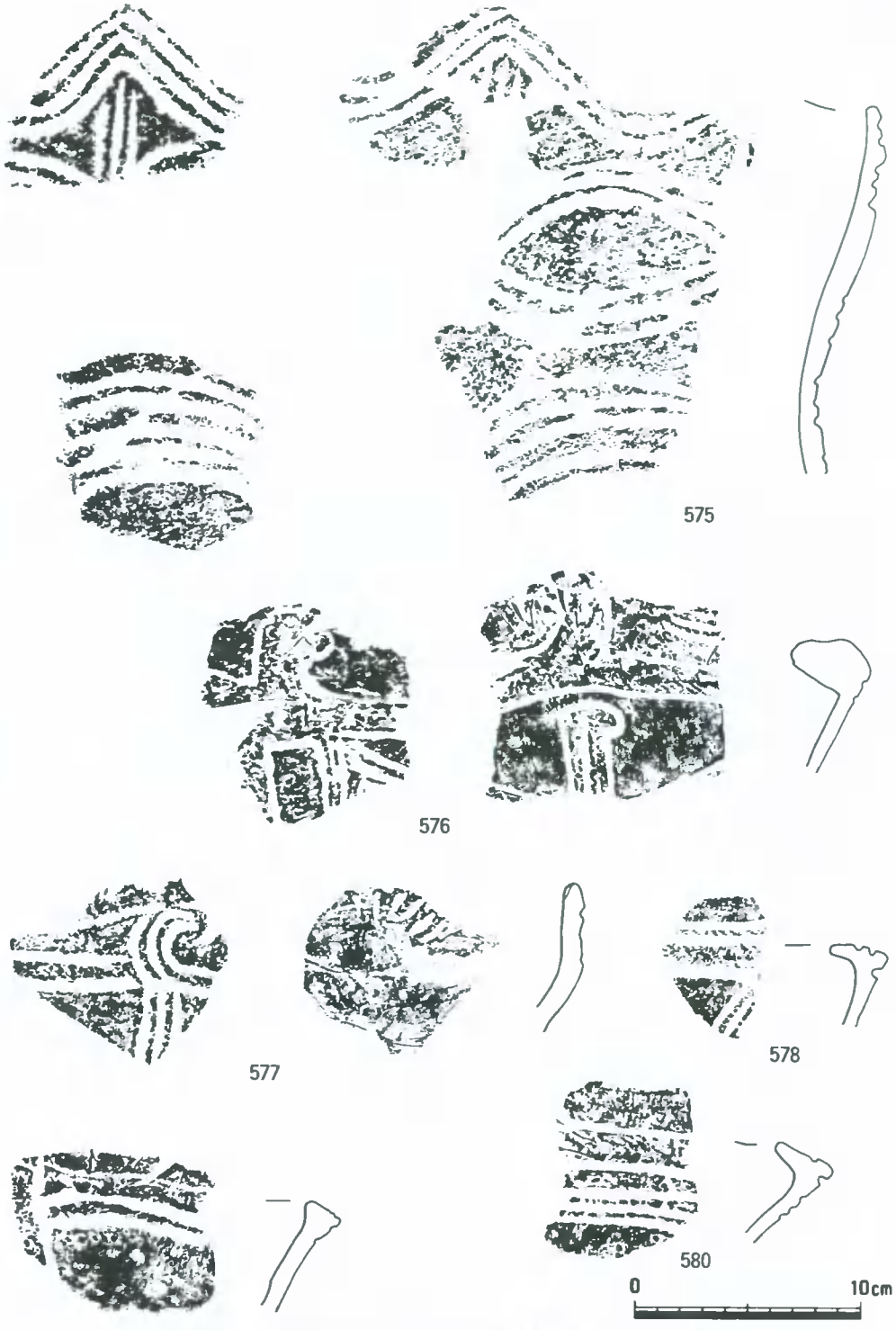
第81図　包含層出土遺物(24)　(1/3)



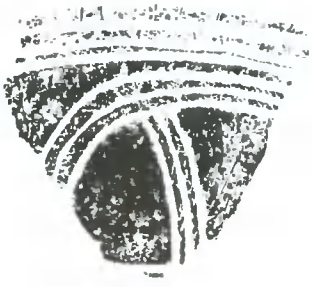
第82図　包含層出土遺物(25) (1/3)

滑としている。**347**は，上部に磨消縄文を施し，その下に竹管による刺突文を施文している。

348～757は，後期の土器である。**348～564**と**566～574**は，太い沈線により屈曲の大きい文様を構成する一群である。**348**は，推定口径12.6cmを測る小形の鉢形土器である。器面全体に形の整った磨消縄文を描いている。**349**は，全容が解る数少ない資料のうちの1つである。胴部上半で屈曲して内傾気味の波状口縁をつくり，胴部屈曲部から下はやや張り気味となり，さらにふくれ気味に底部へと続く。外面には全面にナナメの巻貝条痕がみられ，胴屈曲部から口縁にかけて屈曲の大きい沈線文を描いている。この沈線文を施文している部分については，描いたあとさらに丁寧にではないが，平滑としている。内面は巻貝条痕のあと，雑に平滑としている。



第83図　包含層出土遺物(26)　1/3

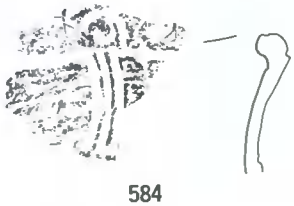


581

582

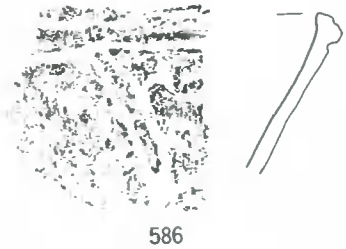
583

585

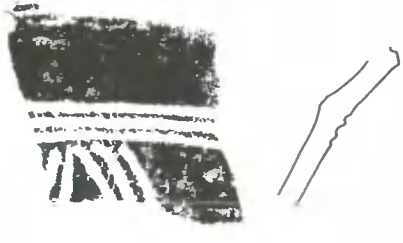


584

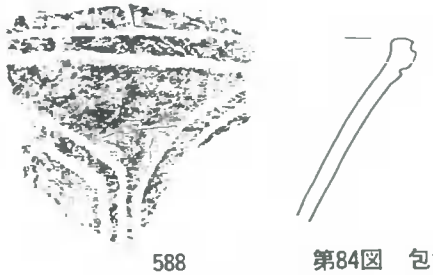
587



586



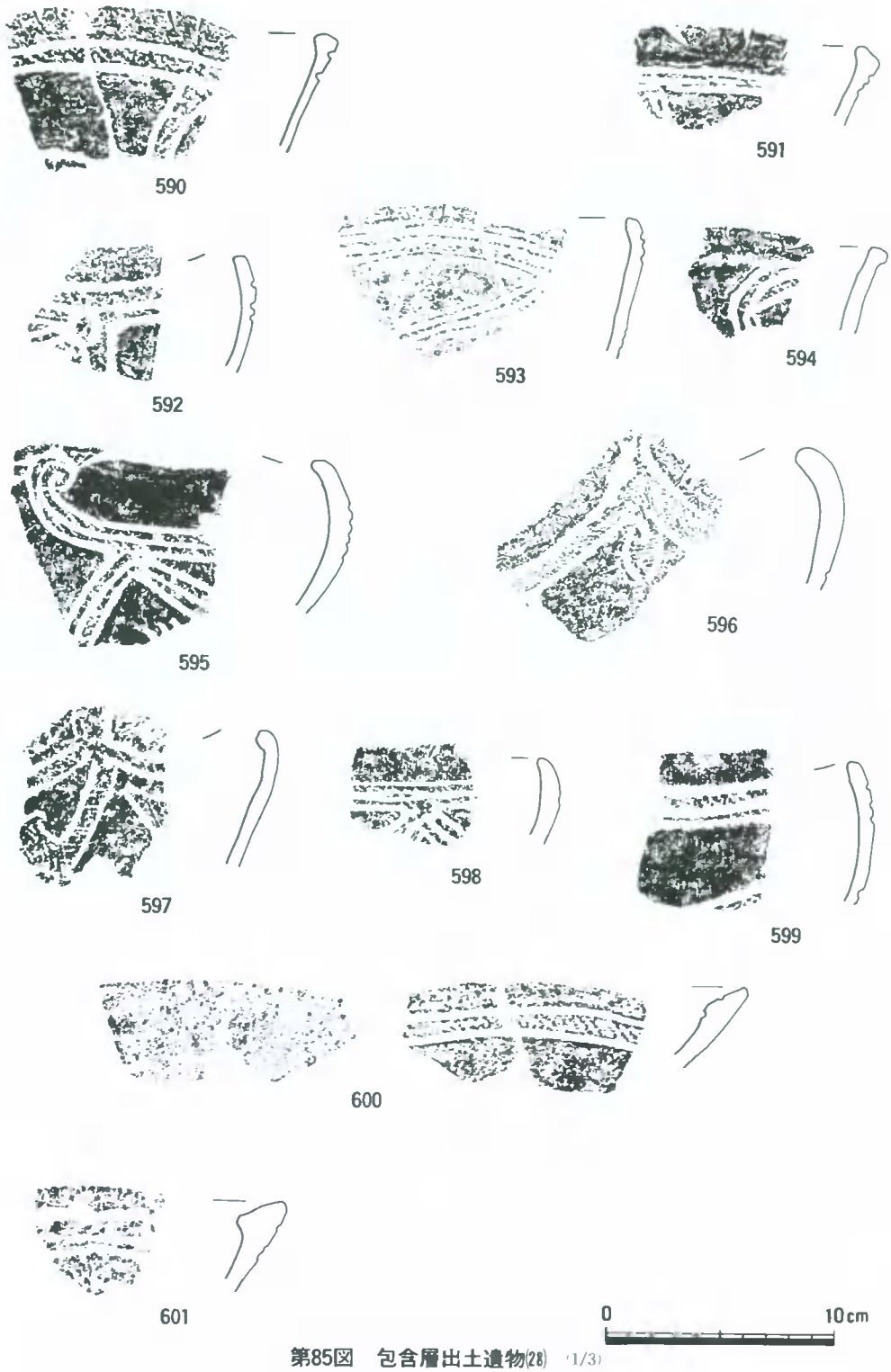
589



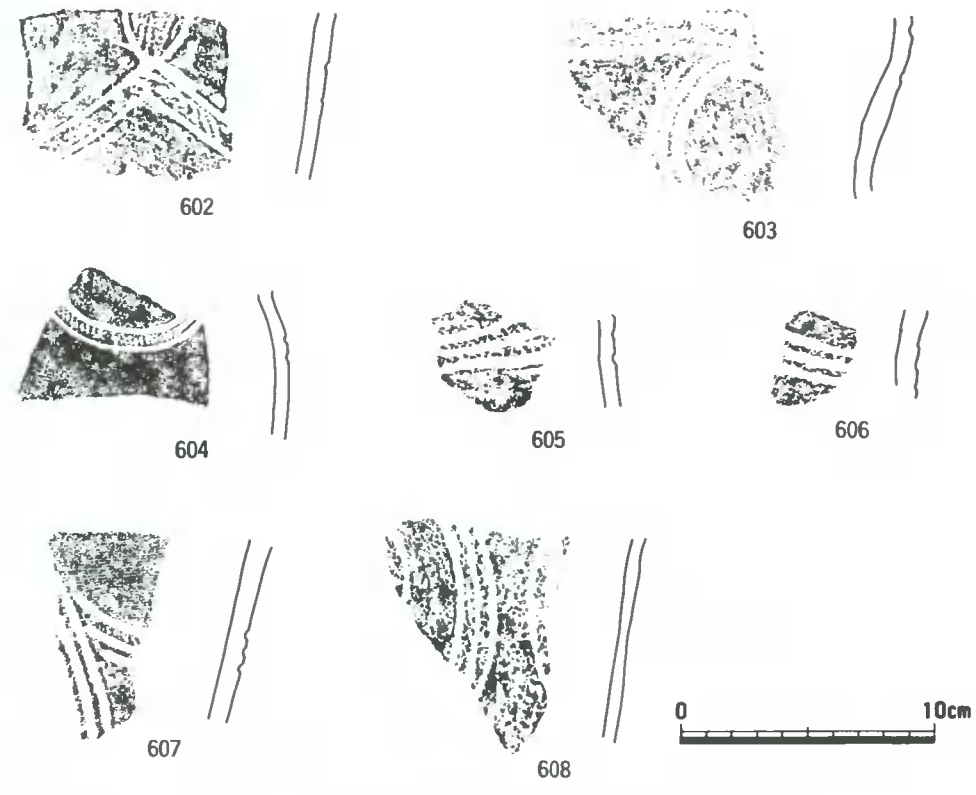
588

第84図　包含層出土遺物(27)　1/3

0　10cm



第85図　包含層出土遺物(28)　(1/3)



第86図　包含層出土遺物(29) (1/3)

350は，波状口縁となるもので，波頂部から垂下する磨消縄文となる鉤手文を施文する。351は，広い平坦部をもつ波状の口縁を呈するもので，頂部にはキザミを付す。外面調整は，巻貝条痕が認められ，頂部から垂下する磨消縄文を施文する。352は，広い平坦部をもつ波状口縁で，波頂部からＬＲの磨消縄文を描いている。353は，波状口縁をもつもので，擬縄文の磨り消しを施文し，内面には巻貝条痕をおこなう。354は，強く内傾して波状口縁とするもので，波頂部には円孔があり，磨消縄文を施文する。355は，波状口縁となるもので，波頂部に円形の刺突文で囲む擬縄文を施し，以下も擬縄文による磨消縄文を施文する。356は，広い平坦部をもつ波状口縁で，波頂部から磨消縄文を垂下させている。文様中に円形の刺突を沈線内に施す部分が認められる。357は，口縁端部を肥厚させ，波頂部の内側より円形の刺突を施し，口縁端部には縄文と短い沈線を施文する。358は，口縁端部を肥厚させ，上方より円形の刺突を施す。文様は刺突文と磨消縄文を施文している。359は，口縁端部を偏平とする波状口縁で，波頂部にはヨコから円孔を穿っており，また磨消縄文を垂下させている。内面はミガキをする。360は，口縁端部が水平に内側に屈曲するもので，屈曲部には円形の刺突文を施し，脚部にかけて磨消

縄文を施文する。361は，内傾気味の波状口縁を有するものである。口縁端部に施す沈線内に円形の刺突文がみられ，以下は磨消縄文を施文する。362は，口縁端部を水平方向に内側に屈曲させるものである。文様は磨消縄文を用い，内面は条痕のあと平滑としている。363は，肥厚気味の口縁部を有し，磨消縄文を施文するものである。364は，内湾する口縁を有し，口縁端部にキザミを付す。ヨコ方向に対向する茸状文の磨消縄文を施文する。365は，口縁端部を肥厚させ，正面から貫く円孔を施し，文様は刺突文と磨消縄文を施文している。366は，波状口縁を有し，波頂部から垂下する磨消縄文の両側より対向するようにコ状の文様を描いている。367は，波状口縁をもつもので，縄文の施文の有無は不詳である。368～370は，波状口縁をもち，磨消縄文を施文する。371と372は，波状口縁をもつもので，波頂部を中心として磨消縄文を施文する。373は，波状口縁で磨消縄文を施文し，内面はミガキがみられる。374は，波状口縁をもち，ＲＬの磨消縄文を施文する。375・376は，波状口縁をもち，波頂部から刺突文を施し，磨消縄文を垂下させる。377は，内傾する波状口縁をもつもので，縄文の施文は剝離のため不詳である。378は，内傾する口縁をもつもので，磨消縄文を施文する。379～382は，波状口縁をもつものである。379は，口縁部にキザミを付す。382は，波頂部から磨消縄文を垂下させる。383・384は，口縁部を肥厚させるもので，383は，キザミを付す。384は，口縁端を折り返すように肥厚させ，磨り消しは擬縄文とする。385は，縄文の施文有無は風化により不詳である。386～389は，外反する口縁部をもち，磨消縄文を施文する。387は擬縄文である。389は内面をミガイている。390・391・393～398・401～409は，内湾する口縁をもつものである。394・396・401・406は，ＬＲの磨消縄文を描く。398は，Ｌの縄文を用い，沈線内に円形刺突文を施している。402は，Ｕ形の沈線文の両端に，円形刺突文を施している。395の内面は押圧痕，397・405・409の内面は，ミガキがみられる。392は，対向する沈線を巻き込む文様を波頂下に描いている。410は，胴部がゆるやかに屈曲し，口縁部が内傾気味で，太い沈線による磨消縄文を描く。411は，口縁端部にキザミを付すものである。412～418は，内傾する口縁部をもち，波状にならないものである。415・416は，直線的な磨消縄文を描き，撚りは前者がＲＬ，後者がＬＲである。417は，平行する沈線から下へ鉤状文を垂下させ，ＬＲの磨消縄文を施文する。419・420は，ナナメに直口する口縁をもち，鉤状文を施文する。420の鉤状文の末端は結合していない。また，419の撚りはＲの一段である。423は，平行する沈線から鉤状文を垂下するが，その末端は下からの沈線と上からの沈線で巻き込むように描く。424は，対向する沈線がないものである。425は，文様の中心部に扇状の磨り消し部を描いている。426は，直口する口縁に擬縄文の磨消縄文を施す。内面は，ヨコの巻貝条痕の上から平滑としている。427は，文様中央部が突起となる。428は，口縁部に縄文を施文したあとキザミを付す。429は，口縁外面を肥厚させ，その部分にタテ方向の短い沈線を施し，その両端に円形の刺突文を加える。

432・433は，ふくらみをもつ胴部から直口する口縁をもつものである。434～436は，擬縄文の磨消縄文を施文する。437・438は，ＬＲの磨消縄文を施文する。439・440は，ゆるやかに屈曲する胴部から内傾気味の波状口縁をもつもので，両者とも擬縄文による磨消縄文を施文する。442は，Ｒの１段の磨消縄文を施文する。444は，沈線により文様を描いている。445は，沈線と刺突により文様を描いている。446～448は，同一個体の破片である。外面に磨消縄文を施文し，内面は巻貝条痕のあと平滑としている。449～451は，内湾する口縁に擬縄文の磨消縄文を施文する。452・454は，沈線文の土器である。452は，波状口縁を有し波頂部にキザミを付す。口縁部に沿って２本の沈線から鉤状文を垂下させる。455は，平底から低く外方へ開く胴部から強く内湾する口縁部をつくる浅鉢形土器である。胴部上半から口縁にかけて，磨消縄文を施文している。456・457・459～461は，沈線文を有するものである。462は，磨消縄文をもつもので，内面はミガキがみられる。464～474は，沈線による文様を構成するものである。外面調整は，巻貝条痕のあと平滑とするものが466・468・473，巻貝条痕のみを施すものが469・470などである。内面は，464に巻貝条痕を残すが，他は平滑としている。475は，磨消縄文をもつもので，内面にはヨコの巻貝条痕を残す。476・477は，巻貝条痕を地文として沈線で文様を描く。480～489は，沈線によって文様を構成するものである。483は，巻貝条痕を地文とし，内面は平滑とする。498は，胴部がゆるやかな屈曲をもつもので，擬縄文による磨消縄文を施文する。499～501は，沈線によって文様を構成するものである。499は，内面に押圧痕がみられ，501は，巻貝条痕を地文とする。502は，波状口縁となるもので，擬縄文による磨消縄文を施文する。503～507は，沈線文を文様とするもので，503以外は口縁部を拡張気味に直口させている。508は，肩部から直口する口縁部をつくるもので，口縁部から胴部にかけて磨消縄文を施文する。

509～564・568～574は，胴部の破片である。509は，屈曲する胴部にＬＲの磨消縄文を施文する。510は，巻貝条痕の地文に磨消縄文を施文する。511～523は，鉤状文を描いたもので，512は，細長い茸状文を垂下させる。517は，擬縄文で，521は，沈線の区画内を磨り消しとしている。527は，茸状文を描いている。531は，ＬＲの磨消縄文を施文している。532は，リボン状の磨消縄文を平行させて施文している。536は，Ｒの１段の磨消縄文を施文する。539は，磨消縄文を施文し，縄文中に押し引きによる刺突文を加えている。540は，内面の調整及び接合からこの位置とした。粒の細い縄文を用いた磨消縄文とし，縄文中に円形の刺突列点文を施文する。541は，Ｌの１段を用いた磨消縄文を施文する。542は，擬縄文による磨消縄文を施文する。543～552は，磨消縄文を施すものである。545は，肥厚させた部分に短い沈線を平列させ，その上下の端に円形の刺突を加える。地文には，ＬＲの縄文を施している。549～552までは，擬縄文による磨消縄文を施文する。553～563は，沈線によって文様を構成するものである。

559・563は，巻貝条痕の地文に沈線文を描く。557は，茸状文を描くが，中央部分で結合しておらず，対向するように施文している。564は，沈線と突帯によって磨消縄文を施文する。破片の位置は，内面の調整から判断した。567は，波状をもつ口縁部外面を肥厚させ，その部分に短い沈線を施す。波頂部分には，弧状の沈線を描き，擬縄文による磨消縄文を施文する。568は擬縄文の磨消縄文を施し，茸状文を描いている。572～574は，沈線によって文様を構成するものである。566は，口径17cmを測る鉢形土器である。胴下半部まで文様構成が明らかな数少ない資料である。文様は，ＲＬの磨消縄文となるもので，口縁部下に口縁と平行する磨消縄文帯をつくり，胴中位に大きな波状の磨消縄文帯を描く。また，胴下部には，やや波状のゆるやかな沈線と偏平な茸状文を描く沈線とによって縄文帯を構成させている。565・575～608は，２本あるいは３本の沈線が巻き込むように施文され，使用される沈線も比較的細く，文様の幅も狭くなる土器群である。

575は波状口縁をもつもので，ゆるやかに屈曲する胴部から内湾気味の口縁部をつくる。口縁部に沿うように３本の沈線が描かれ，上下３本の沈線よりなる楕円文と対向し，連続して施文されている。この対向する楕円文の沈線は，口縁部の波状と平行して描かれている。これによって，波頂部は菱形の空間を形成させ，この空間部に３本の縦位の沈線を充塡させている。さらにこの楕円文の下にも弧状の沈線を施文している。縄文については，器面の風化が著しく全体的に観察ができなかったが，縄文の施文は認められない。576は，口縁端部を内側に屈曲させるものである。口縁端面には突起をつくり，その突起から胴部に巻き込む沈線，また他の破片では方形の沈線を垂下させている。内面はミガかれている。577は，波状口縁をもつものである。波頂部に巻き込む沈線を施文し，口縁端部内側にキザミ状の短い沈線を付す。578は，口縁端部を逆Ｌ字に屈曲させるもので，端面と胴部にかけて磨消縄文を施文している。579は，口縁部を肥厚させるもので，口縁端面から胴部にかけて磨消縄文を垂下させている。580は，口縁端部が逆Ｌ字になるもので，口縁端面と胴部に文様を施文している。581は，口縁端部の肥厚が顕著でないもので，口縁端面から胴部にかけて，磨消縄文を施文している。内面の口縁近くの稜線部分に縄文を施している。582は，口縁端部を内側に拡張し，口縁端面から胴部にかけて磨消縄文を施文する。583は，口縁端部を内側に拡張するもので，口縁端面から胴部にかけて小さい鉤状文を垂下させる。584は，波状口縁をもち，口縁端部を内傾気味に肥厚させる。波頂部には沈線で半円を描き，そこから巻き込み文を垂下させる。585は，口縁端部を肥厚させ，胴部に沈線で巻き込み文を描く。586は，口縁端部を内側に肥厚させ，口縁端部から胴部にかけて磨消縄文を施文する。587は，口縁端部を肥厚させ胴部に沈線による巻き込み文を施文する。588は，口縁から胴部にかけて磨消縄文を施文する。589～591は，口縁部を内側に肥厚させ，口縁から胴部にかけて磨消縄文を施文する。592・593・595～599は，内湾する口

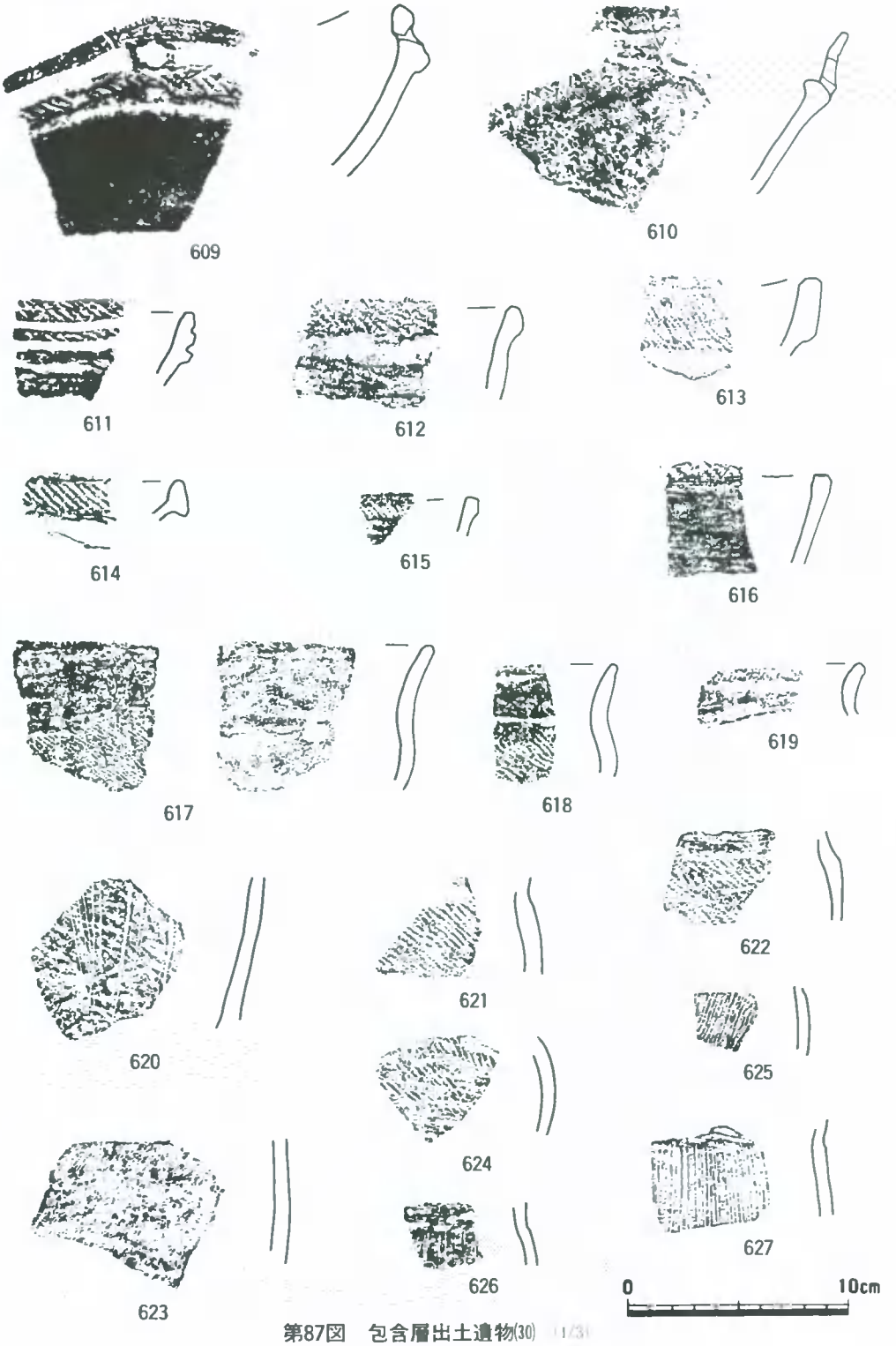
縁部をもつものである。592は，３本の沈線のうち中央の線が巻き込むことなく弧を描く。595は，巻き込み文を施文する。596は，波頂部の下に巻き込み文を描き，597は，同様に巻き込み文を垂下させる。600は，口縁部内面下を肥厚させ，肥厚部に磨消縄文を施文する。602～608は，胴部破片である。603は，縦位に対向する弧文を施し，604は，２本の沈線により磨消縄文を施文する。

609～616は，口縁部を肥厚させるもので，肥厚させた部分に縄文を施文する。609は，波状口縁で波頂部には円孔を設ける。口縁端から拡張した口縁端面は凹部をつくっている。610は，口縁部に円筒状の貼り付けをし，この円筒には磨消縄文を施文し円孔を設けている。616は，口縁部に縄文を施す。617～619は，まるい胴部からゆるやかに外反する口縁部をもつものである。617は，口縁端部と口唇部に縄文を施し，頸部は無文帯とする。内面は巻貝条痕のあと平滑としている。618は，胴部に縄文を施文し，口頸部はミガキがされている。619は，口唇部にＬＲの縄文を施文している。620～627は，前述した土器群の胴部破片と考えられる。620，627は垂下条線，623・625は，ＬＲの縄文を施文し，625の頸部の無文帯の境は沈線となる。628は，口縁端部内面に沈線と縄文を施文する。629～635は，口縁端部外面または内面にヘラ描きによる沈線を施し，キザミを加えている。637・638は，沈線をもたずキザミだけを施文するものである。637は，一部段状の部分が認められるが，消える所もみられる。

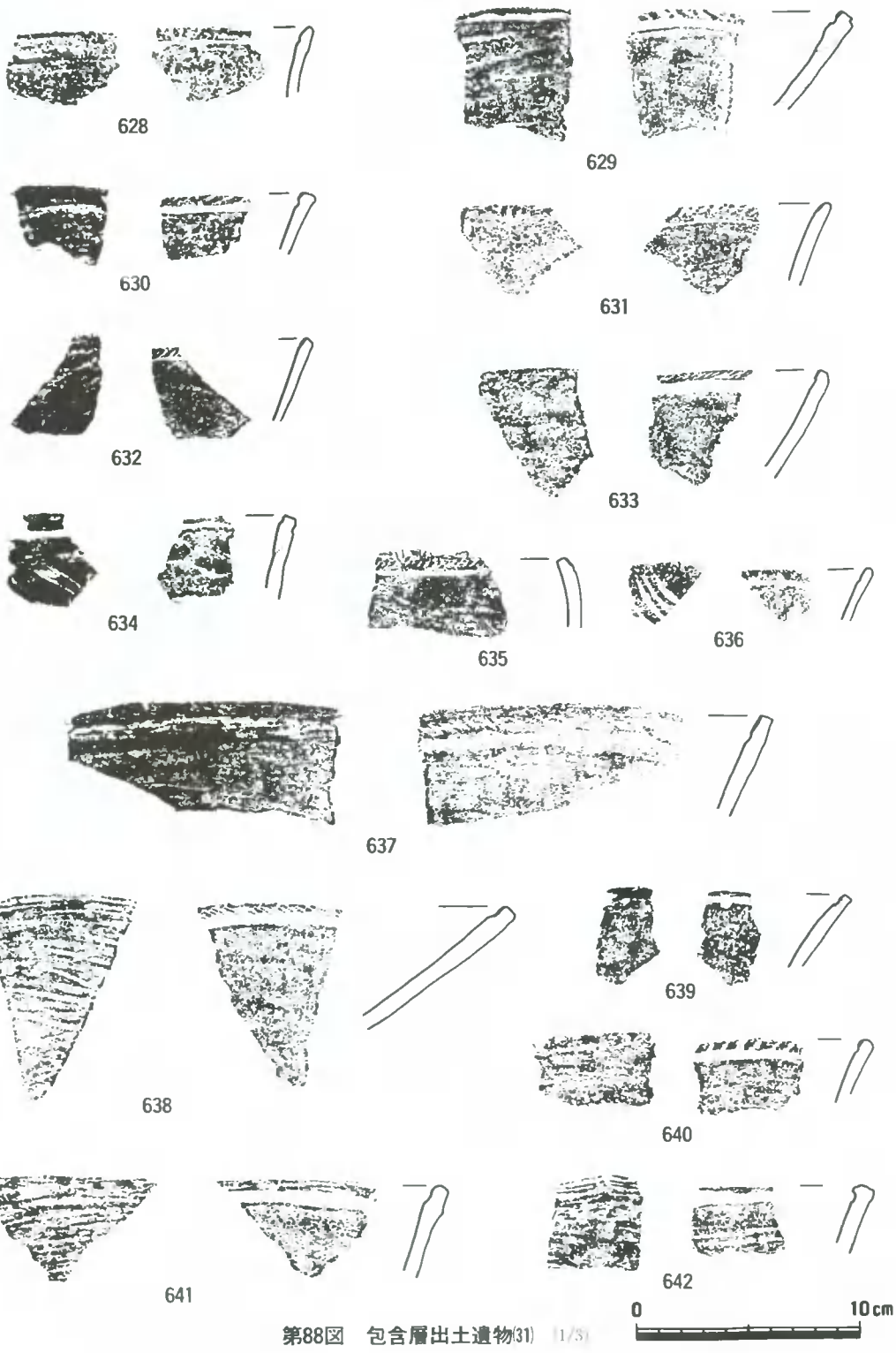
639～670は，沈線の施文具に巻貝を用いるものである。639～642は，外方に直口する口頸部をもつもので，内面にも巻貝沈線を施文するものがある。639は，巻貝の先端による刺突，640は，キザミが施される。643・644は，外面に巻貝沈線を施文している。645～649は，内外面に巻貝沈線を施文する。650～660・662～668は，口縁端部が立ち上がり，端面に巻貝沈線を施文するものである。この巻貝沈線間に，キザミを付すものと付さないものが存在する。663・668は，巻貝の側面による圧痕を付している。670は，口縁端部が立ち上がりさらに外方へ広がるもので，波頂部に押圧痕を付している。屈曲部には巻貝沈線，内面には段をつくっている。

669は，内湾する口縁部に，Ｌ１段の縄文を二重に結節して施文した磨消縄文を有する。671は波状口縁で，直口する口縁をもつものである。口縁端部は肥厚気味にし，その端面に縄文を施している。672は，屈曲する胴部に沈線を施し，屈曲部に沿い巻貝の回転による側面圧痕を施文している。

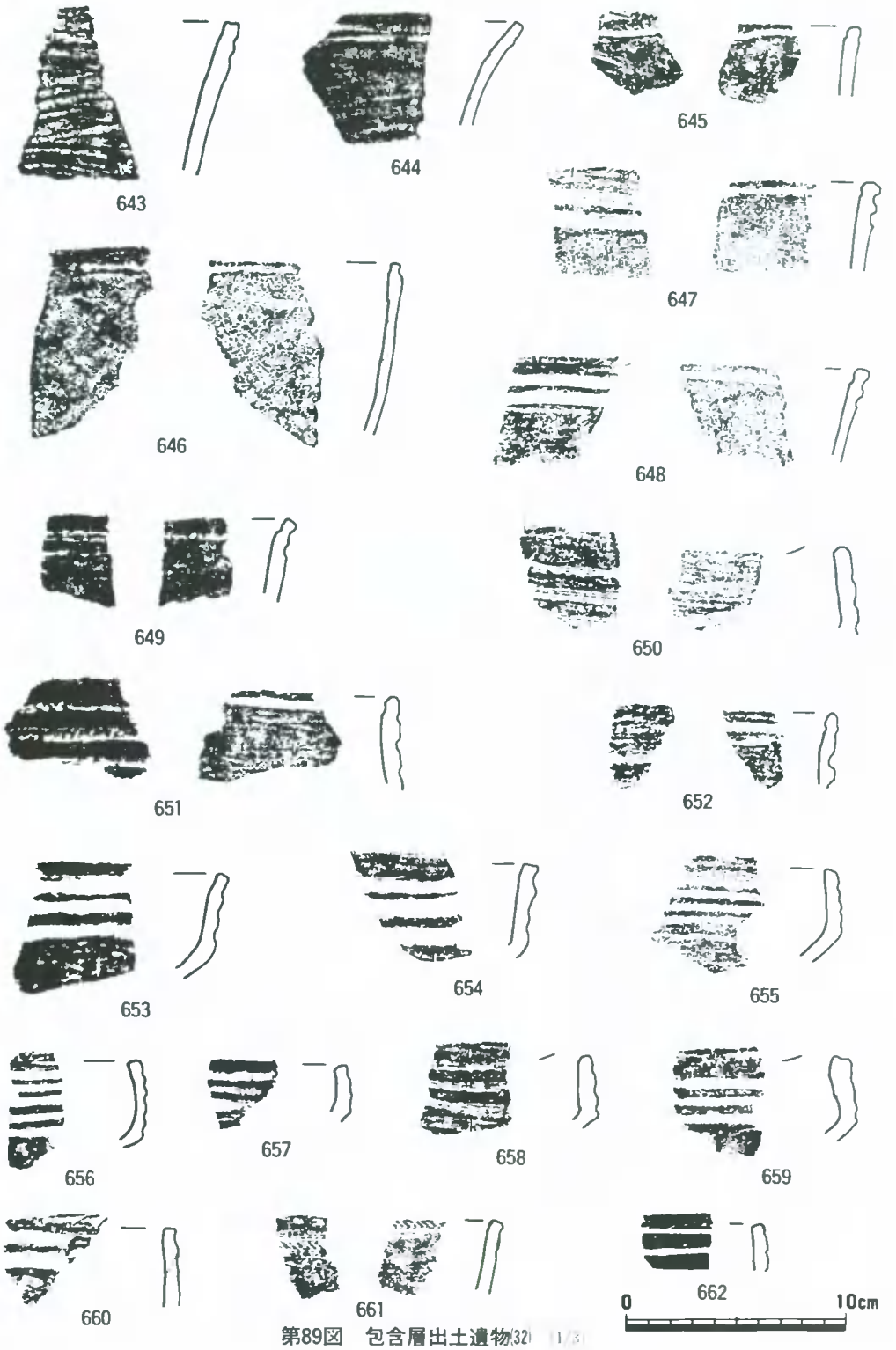
673は，屈曲する胴部をもつもので，屈曲部に沈線を施文し，その上にキザミを付す。そして，この下に小さい刺突による文様を施文している。内面はヨコの条痕がみられる。674は，胴部に押し引きで列点状に深く刺突する文様と沈線を施文している。この線の中は擬縄文による磨り消しとなる。675は，注口土器の破片と考えられる。竹管による円形刺突文を中心として，２本の沈線を描き，内にキザミを施している。676は上面にキザミを施し，中ほどには２



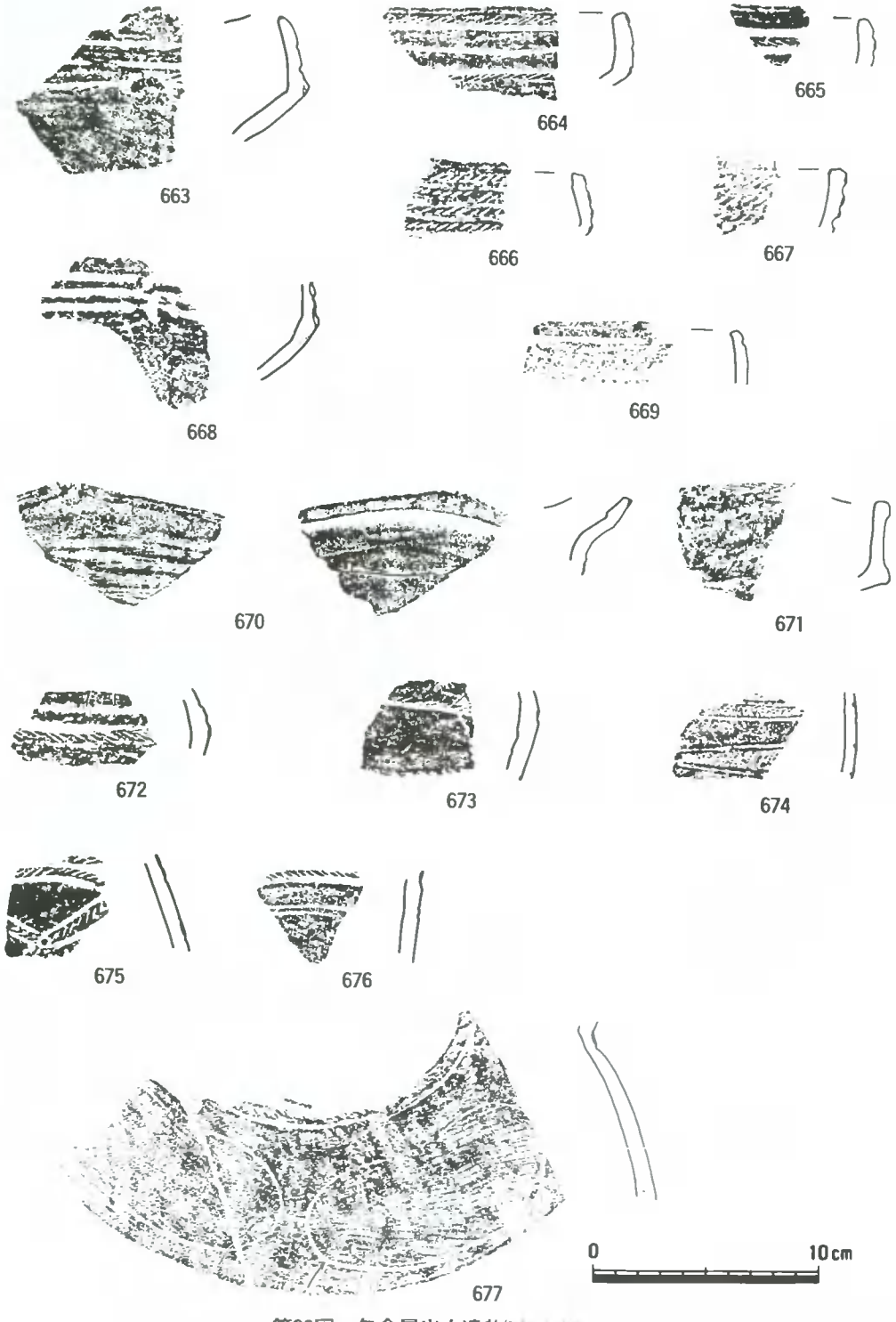
第87図　包含層出土遺物(30)



第88図　包含層出土遺物(31)　(1/3)



第89図　包含層出土遺物(32)　(1/3)

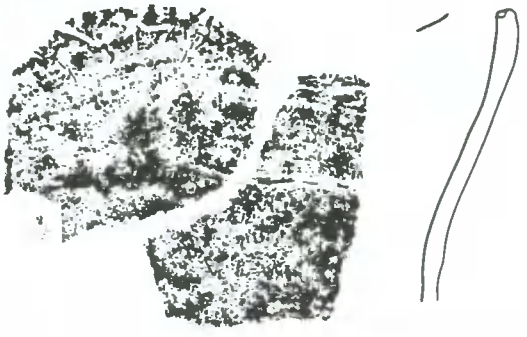


第90図　包含層出土遺物(33)　1/3

本の細い沈線を施文し，この沈線の下に擬縄文を施している。677は，屈曲する頸部をもつもので，頸部には沈線を施しているが，これは沈線が対向するように小さな刺突が付され，その上部にキザミを施文している。胴部には楕円状の沈線を描き，末端は連続せずに対向する小さい刺突を付す。楕円内には擬縄文を施文し，内面は押圧痕のあと平滑としている。

678～757は，外面または内面に巻貝条痕を主に用いる無文土器の一群である。678～691は，波頂部あるいは口唇部に円形の刺突文を施している。692は，波頂部のみに大きなキザミを施文している。外面調整は，ヨコの巻貝条痕をそのまま残すものと，その上からさらに平滑にするものが認められる他に，平滑のみとしているものもある。内面は平滑とするものが多く認められるが，外面調整と同じように巻貝と平滑も用いている。693は波頂部の突起に沈線が認められることから無文土器の一群には入らないものである。694～697は，まるい胴部から屈曲する頸部へゆるやかに外反気味となる口縁部をもつもので，内外面の調整は前者と同内容を示す。698～701は，浅鉢形の器形になるものである。702～757は，口唇部にキザミを施文しないもので，器種内容や内外面の調整については，キザミを施すものと同じような内容を示している。ただ，器種において743～752にみられるように口縁端部を肥厚させるものが存在している。

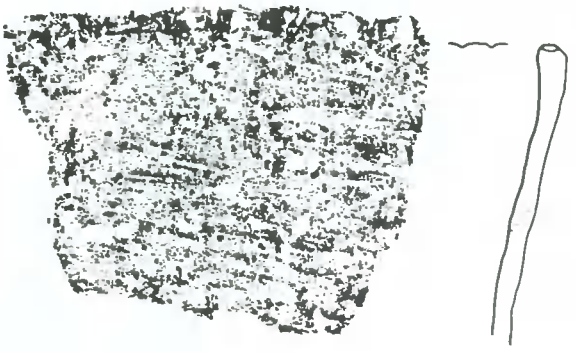
758～955は，晩期の土器群である。758～770は，口縁部に突帯文をもつものである。758は，屈曲する肩部から弓形に外反する口頸部をもち，口縁端部外面にカマボコ状の突帯を付す。突帯の口唇部端と中央部の2か所に小さいキザミを施文している。肩部屈曲部には□形の刺突が付され，この刺突文は上下の部分が深くなるため，一部においては深くなり過ぎて沈線となる。外面調整は，口頸部にヨコのアルカ属条痕のあと平滑とし，胴屈曲部下はサッ痕がみられる。内面調整は平滑としている。759は，胴屈曲部から直口し，上半近くで外に屈曲する。口唇部にキザミを付し，突帯はカマボコ状となり，そこに楕円あるいは菱形のキザミを付す。胴部の屈曲部には○形の刺突文を施文し，頸部にはヨコのアルカ属条痕を残し，内面は平滑としている。760は，口唇部に押圧風のキザミを付し，キザミをもつ貼付突帯を施す。内外面とも平滑としている。761は，口唇部にキザミをもつもので，口縁部下にキザミメ突帯を付す。キザミはC形の刺突文によっておこなわれている。762は，D形のキザミメ突帯をもつもので，頸部調整はアルカ属条痕のあと平滑とし，内面は平滑にしている。763は幅の狭いキザミメ突帯を付し，内外面の調整は平滑としている。764は，外に大きく張り出すキザミメ突帯を付すもので，口縁外面にはヨコのサッ痕をおこない，内面は平滑としている。766は，Ω形キザミメ突帯を付す。外面はアルカ属条痕のあと平滑とし，内面も平滑で口縁部下に段状の沈線を施文している。767は，突帯にキザミを付さないもので，肩屈曲部の刺突は風化のため不詳である。以下はサッ痕がみられ，内面は細い条痕が認められる。768は，突帯にキザミを付さないもので，頸部外面にはヨコのアルカ属条痕が，内面は平滑としている。769は，突帯にキザミを付



678

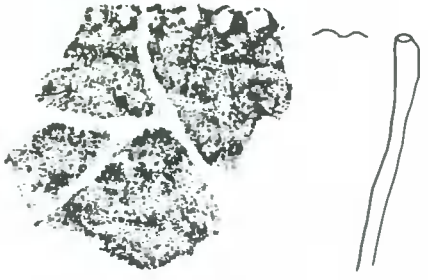
679

680



681

682



683

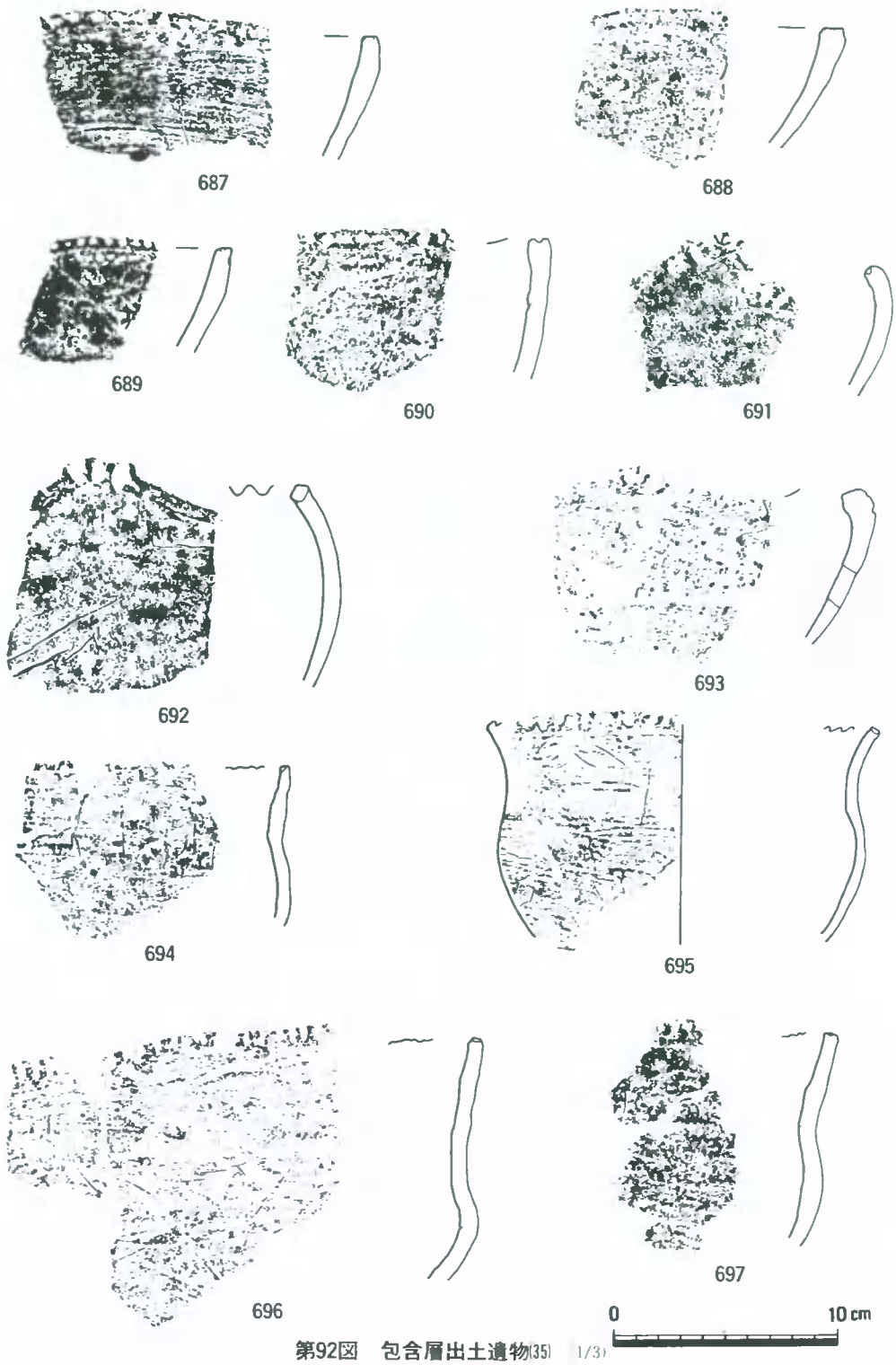
684

685

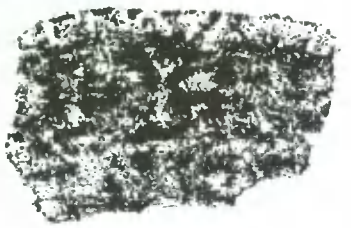
686

0　10cm

第91図　包含層出土遺物(34)　1/3



第92図　包含層出土遺物(35)　1/3)



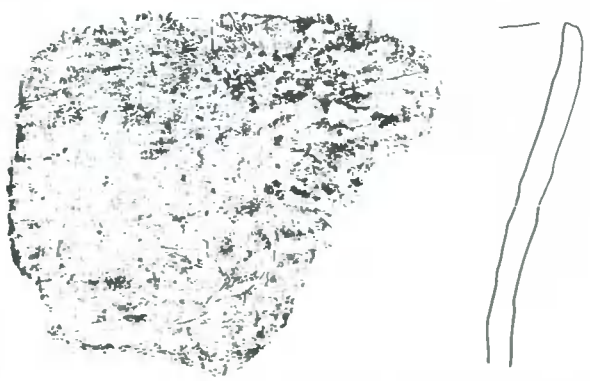
698

699

700

701

702

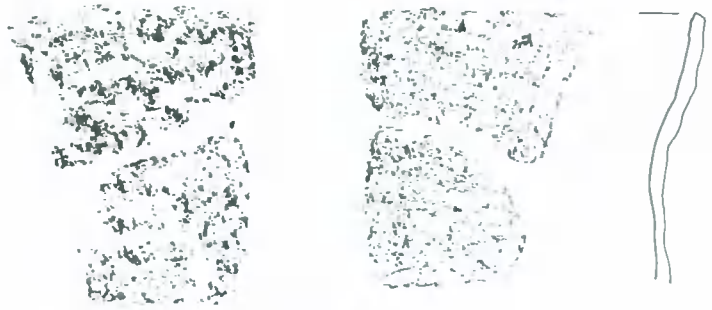


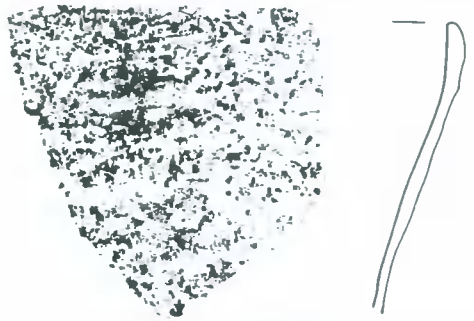
703

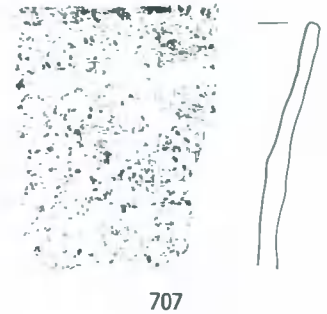
704

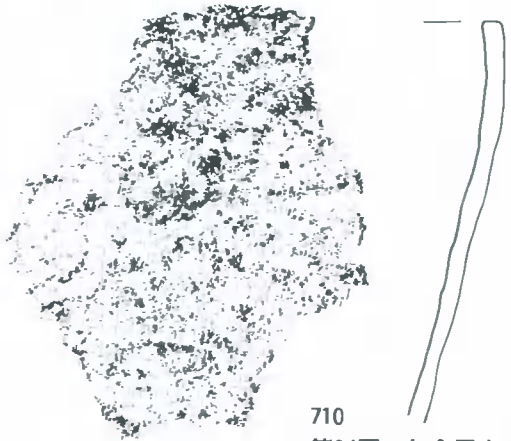
0　10cm

第93図　包含層出土遺物(36)　(1/3)



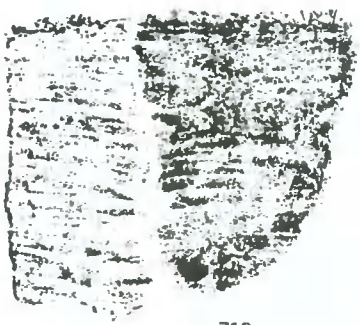






第94図　包含層出土遺物(37)　(1/3)

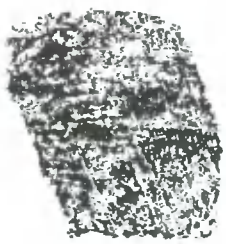
712



713

714

715

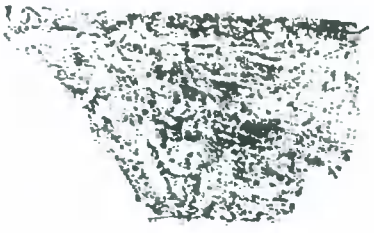


716

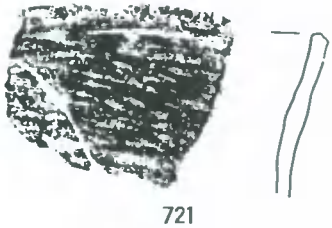
718

717

第95図　包含層出土遺物(38)　(1/3)


719

720

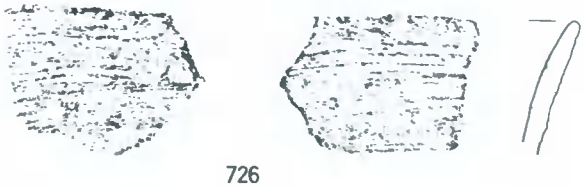

721

722

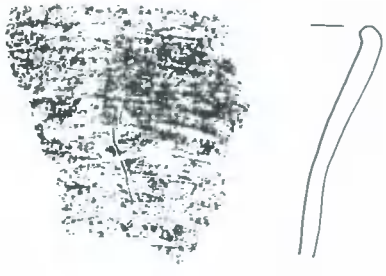
723

724

725


726

727


728

729

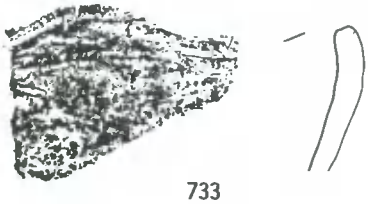
0 10cm

第96図　包含層出土遺物(3)　(1/3)

730

731

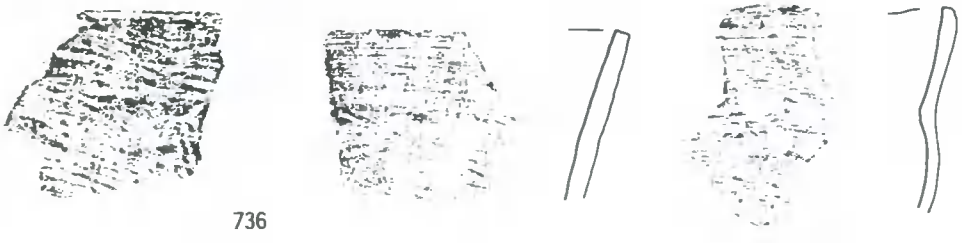
732



733

734

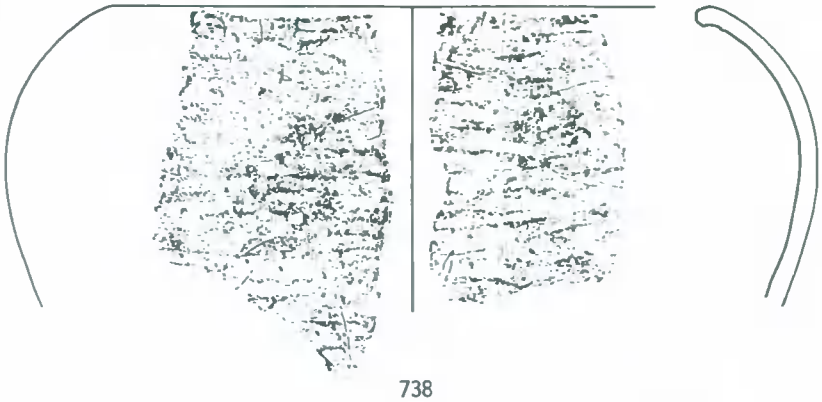
735



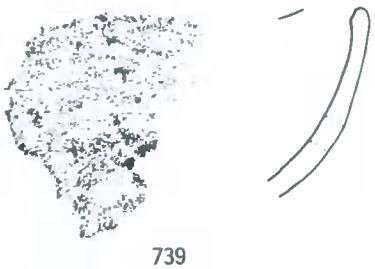
736　737

0　10cm

第97図　包含層出土遺物(40)　1/3

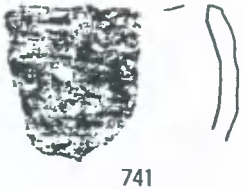


738

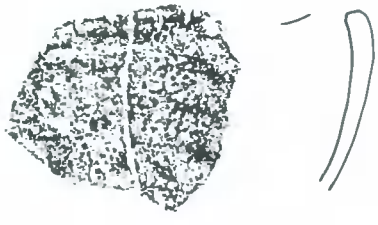


739

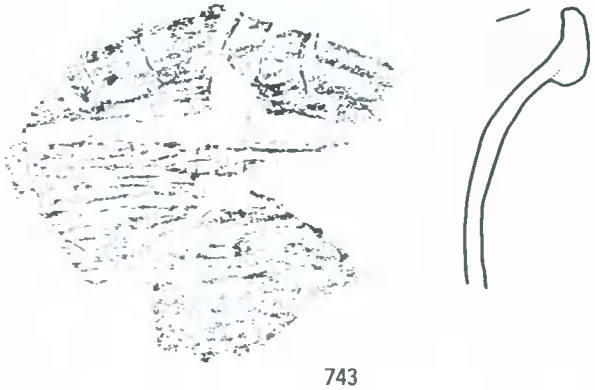
740



741

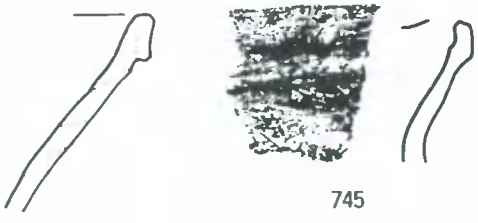


742



743

744



745

0 10cm

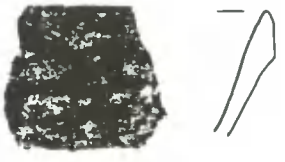
第98図　包含層出土遺物(41)

746

747

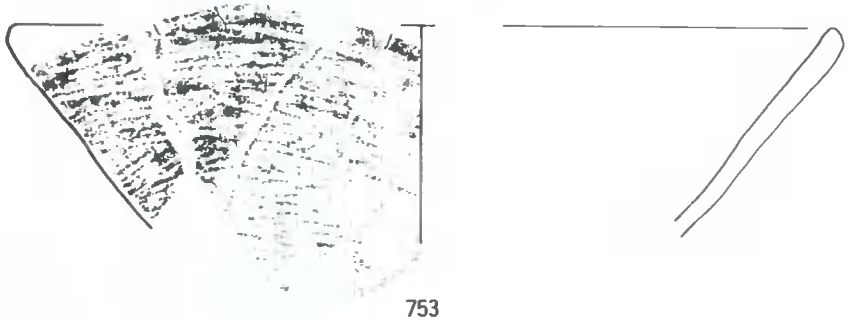
748

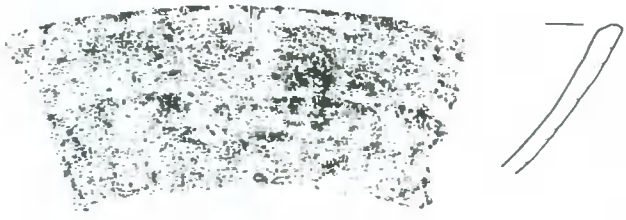
749

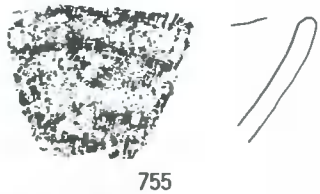

750

751

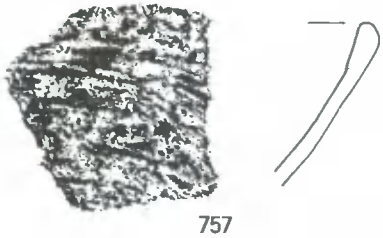
752


753


754

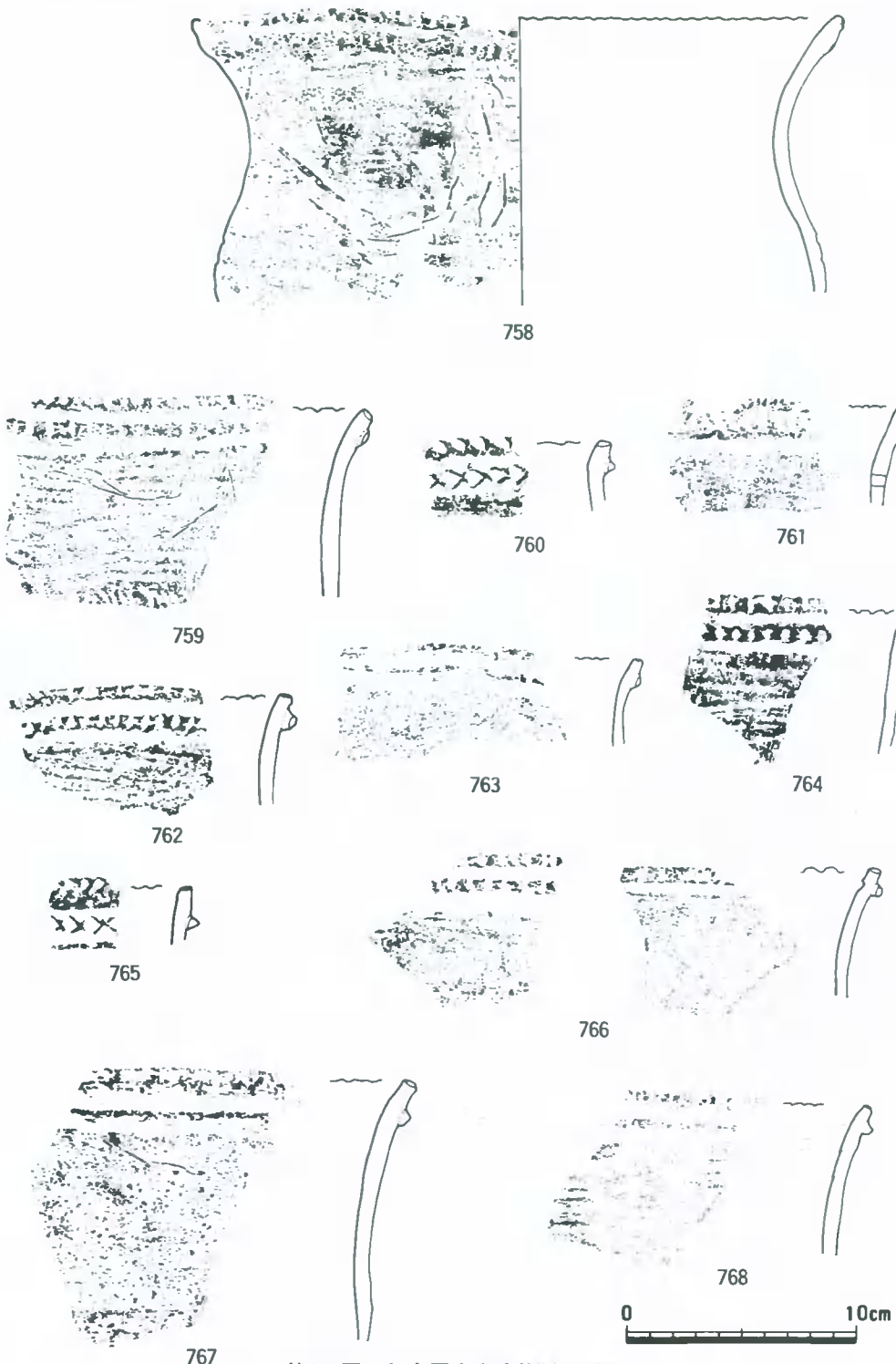

755

756


757

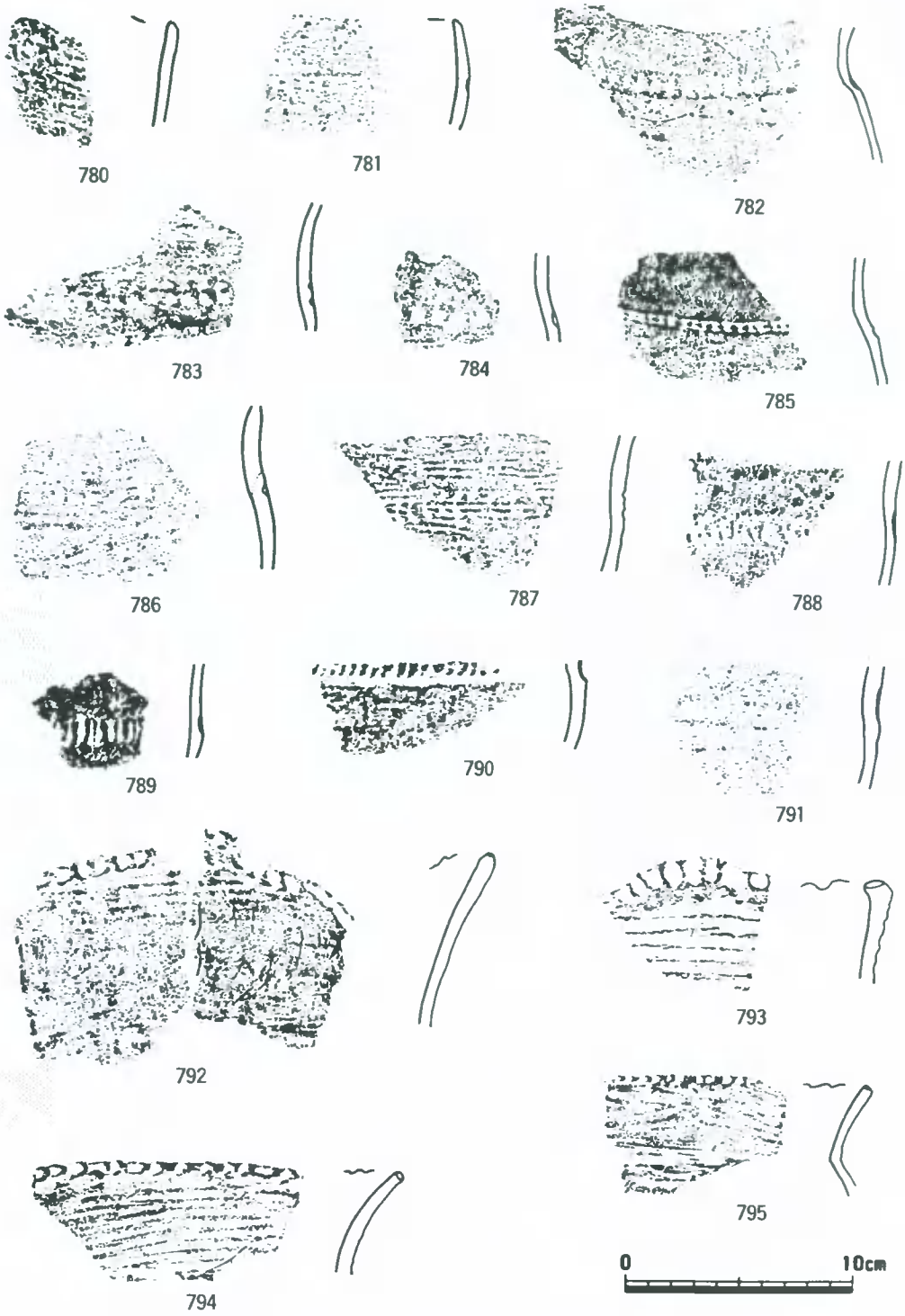
0　10cm

第99図　包含層出土遺物(42)　(1/3)



第100図　包含層出土遺物(43)　1/3

第101図　包含層出土遺物(4)　1/3

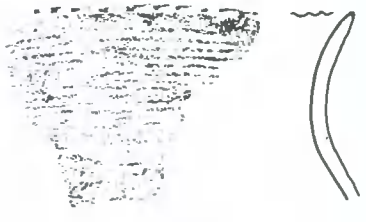


第102図　包含層出土遺物(45)　(1/3)

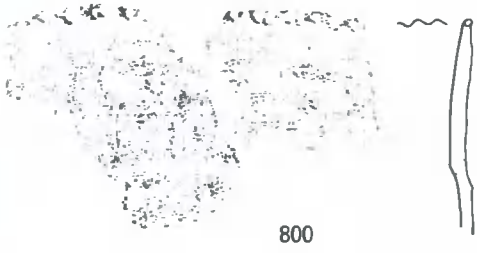
796

797

798

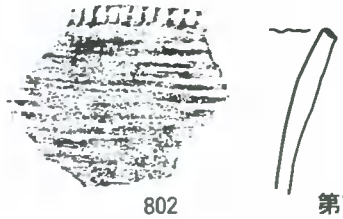


799

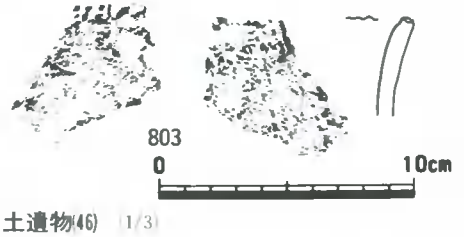


800

801



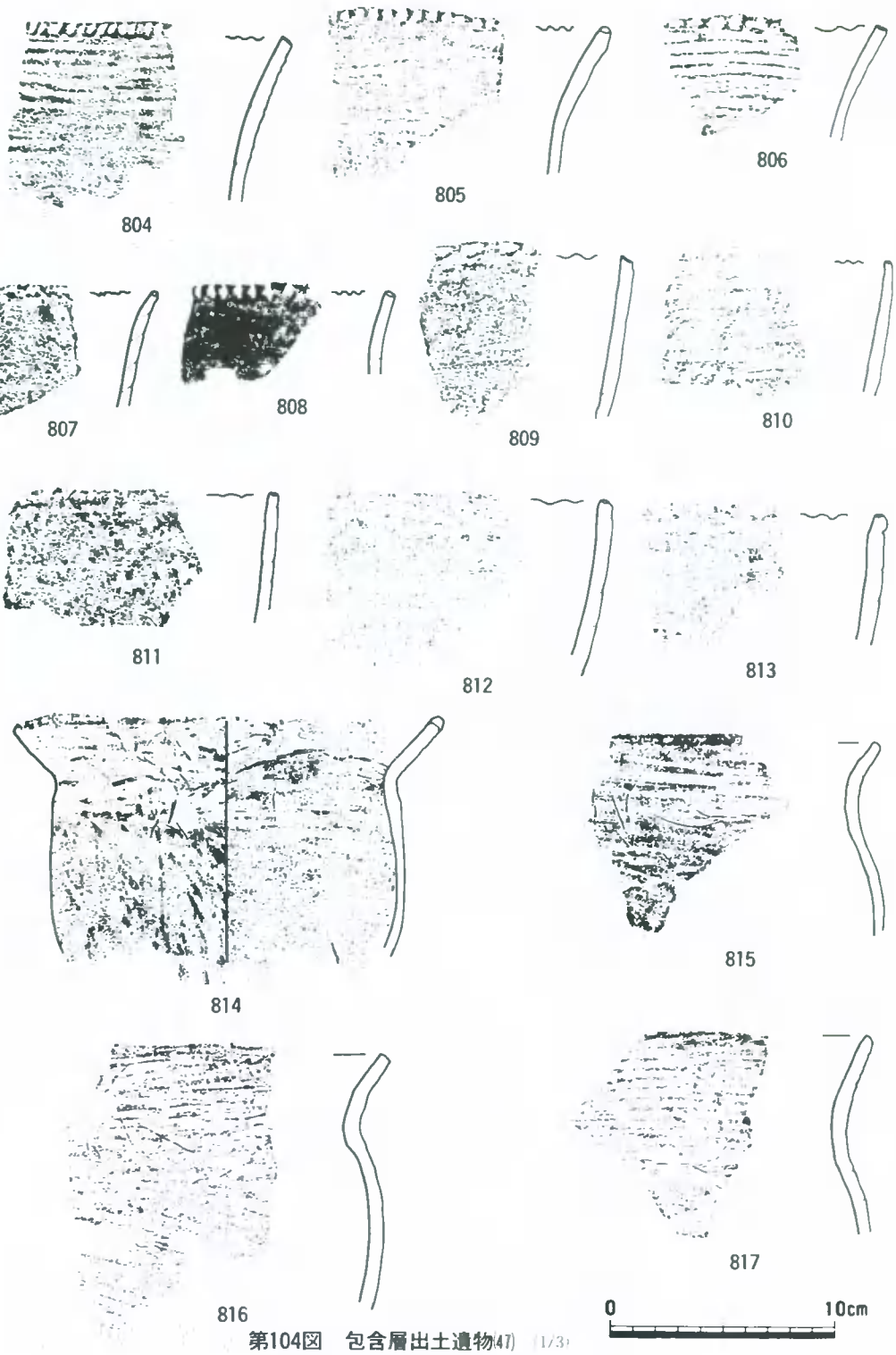
802



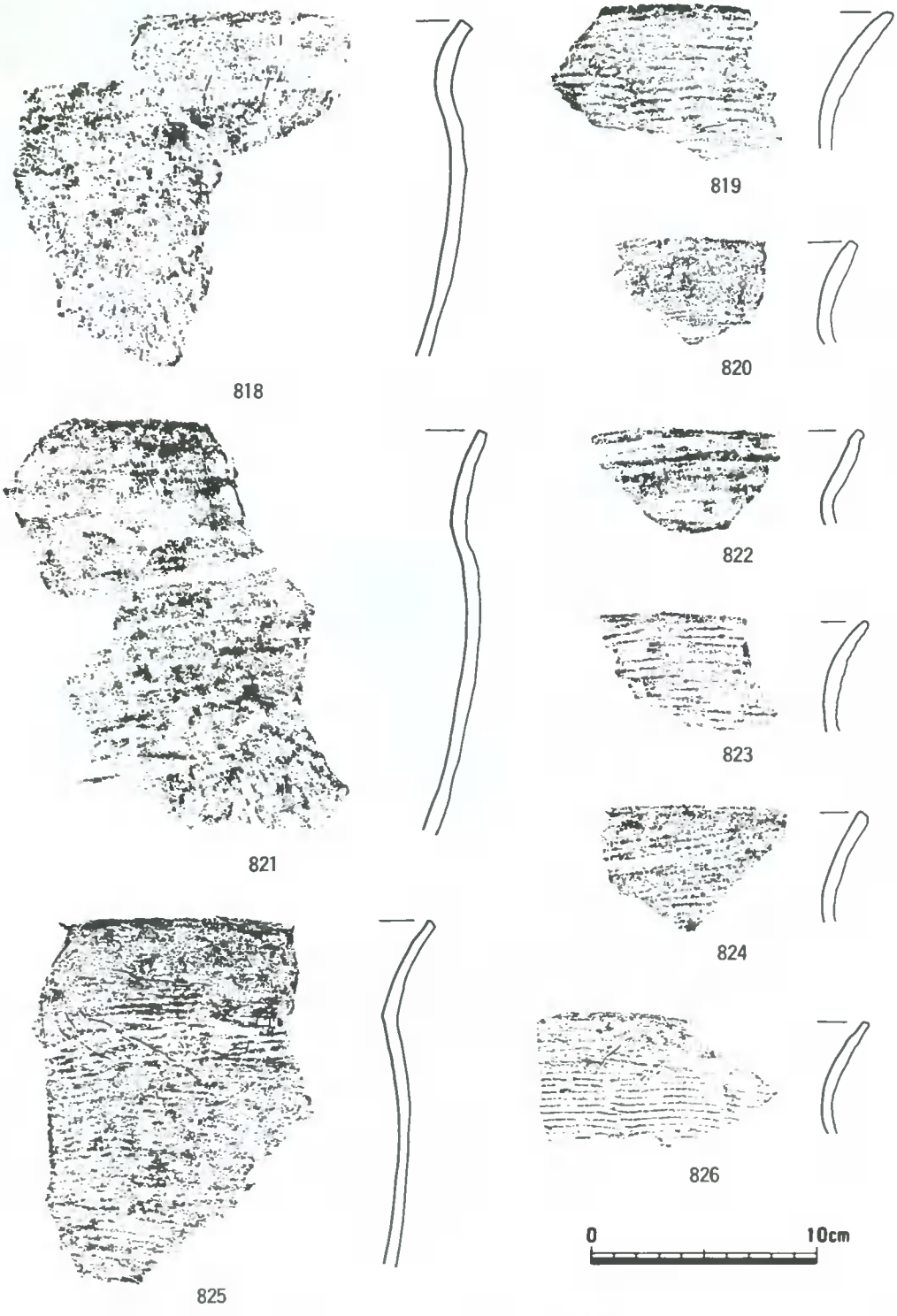
803

0　10cm

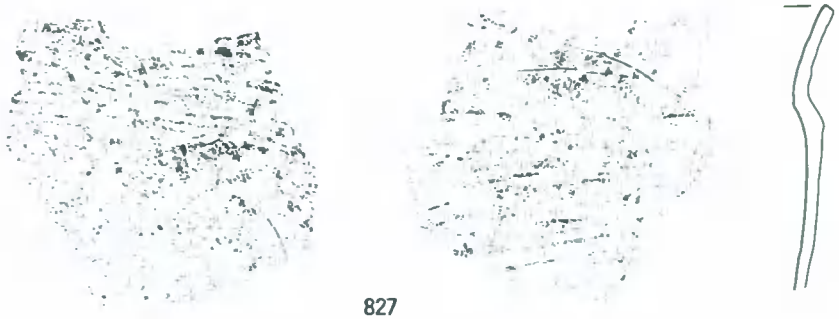
第103図　包含層出土遺物(46)　(1/3)



第104図　包含層出土遺物(47)　(1/3)



第105図　包含層出土遺物(48)　(1/3)


827

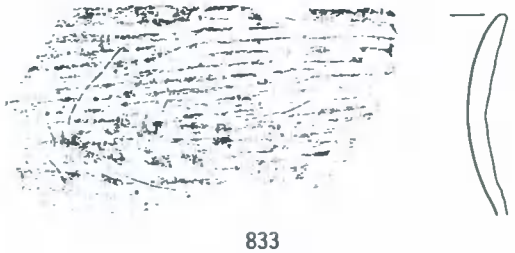
828

829

831

830

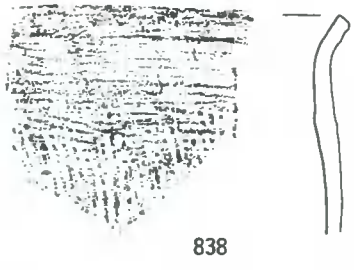
832

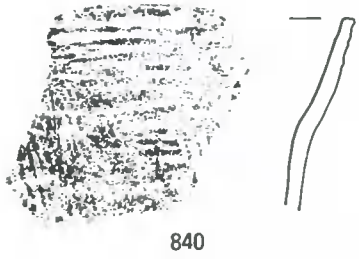

833

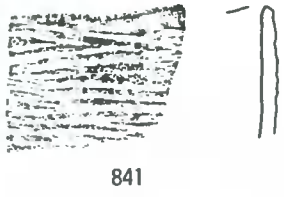
834

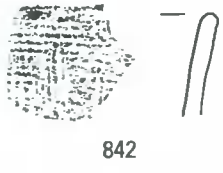
0 10cm

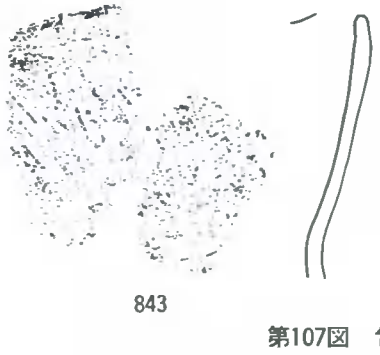
第106図　包含層出土遺物(49)　1/3

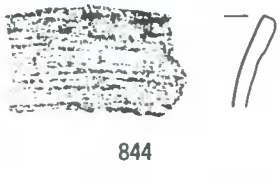




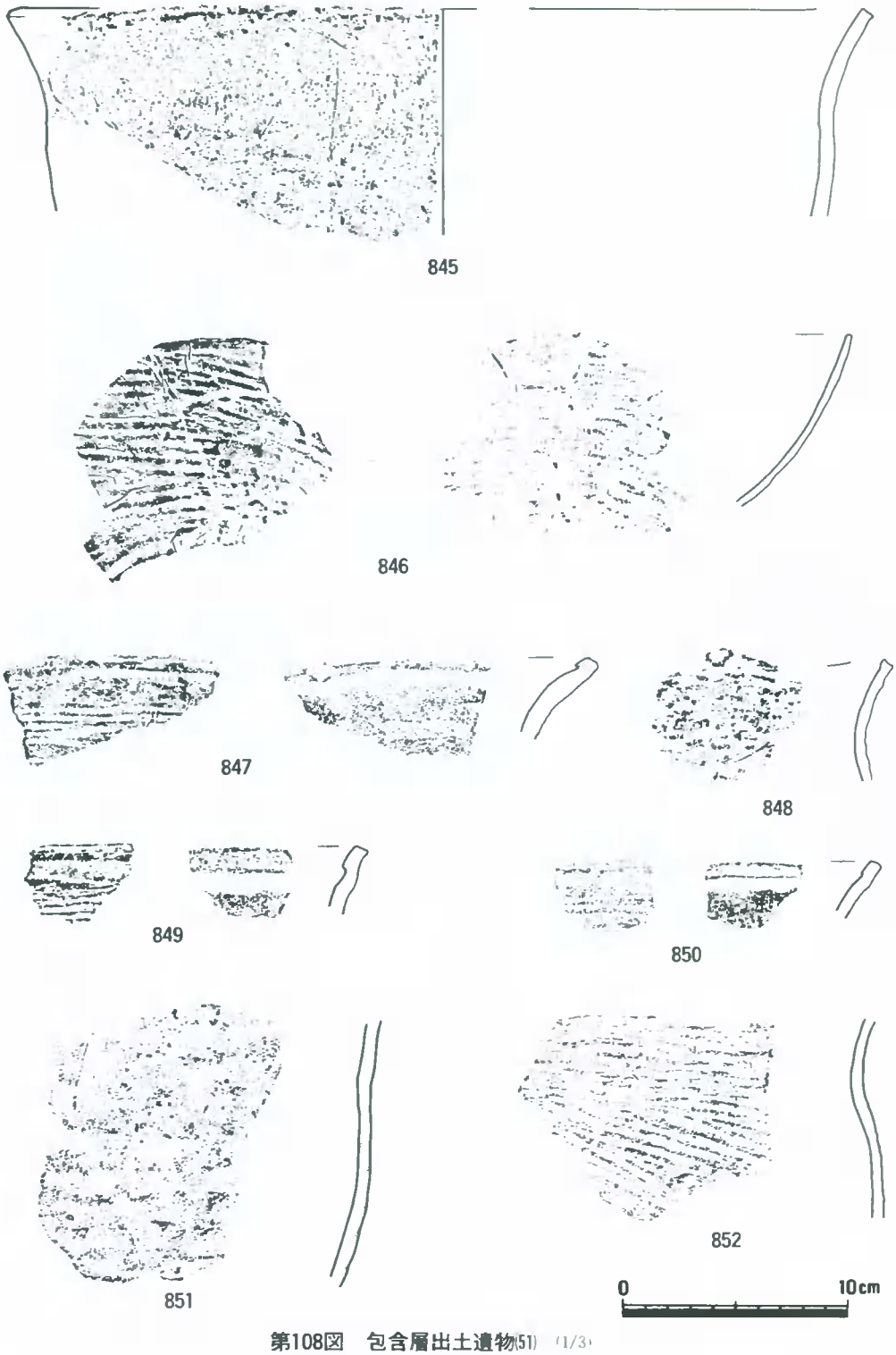








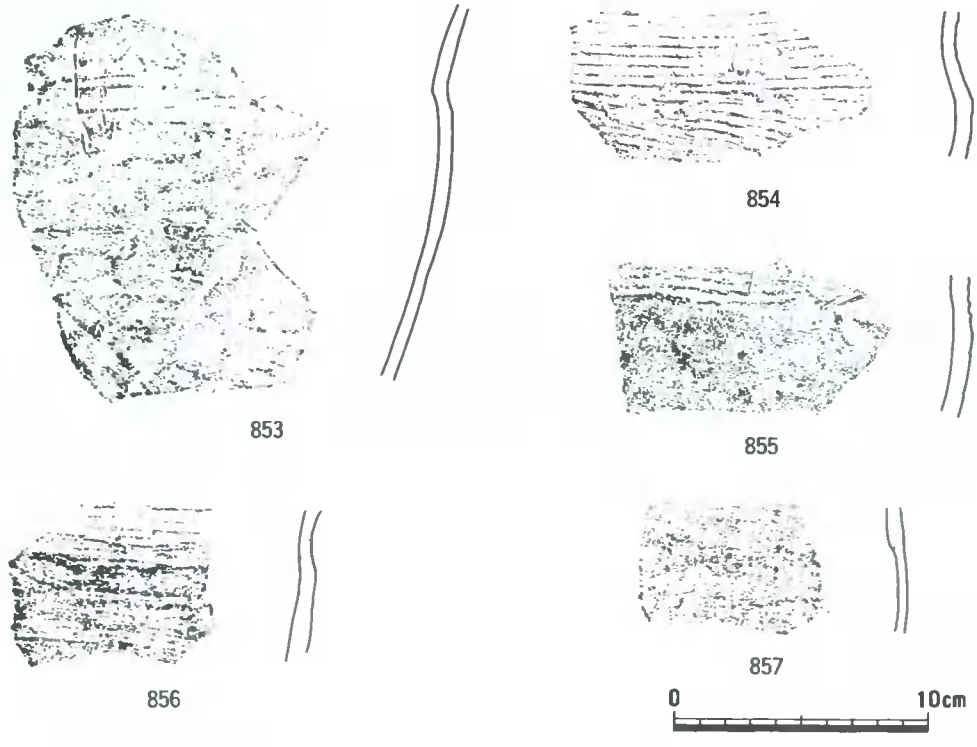
第107図　包含層出土遺物(50) (1/3)



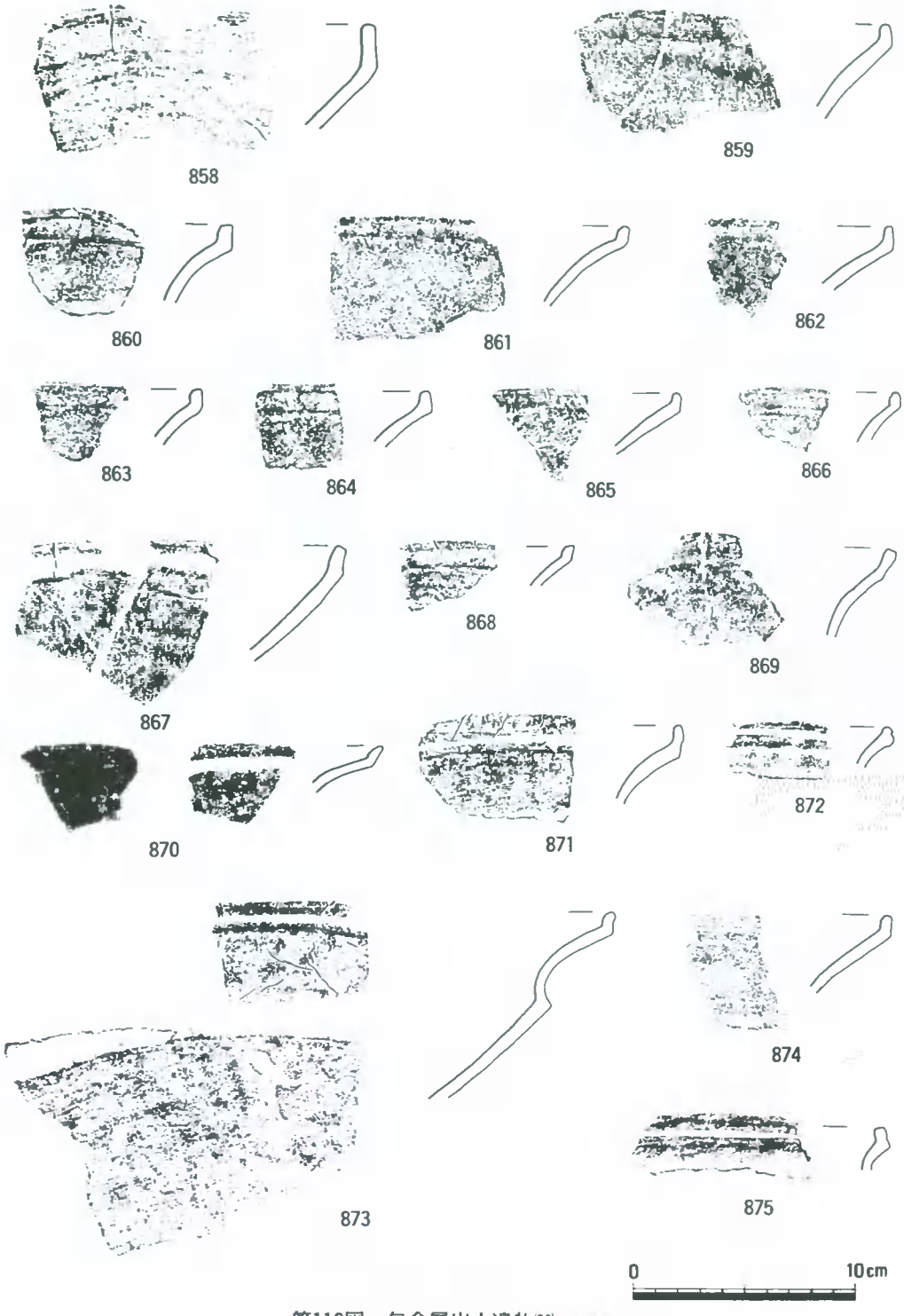
第108図　包含層出土遺物(51)　(1/3)

さないもので，内外面は平滑としている。770は，内傾気味の口頸部をもつもので，口唇部にはキザミを付さないで，内外面とも平滑としている。771～791は，口唇部にキザミを付し，また突帯をもたず，胴屈曲部に刺突文を施している。771は，口頸部を平滑にしてハ形の２本１対の沈線を施文している。772・774は，同一個体と考えられるもので，口縁部下に段状の深い沈線を施文することによって突帯状のようにみせている。頸部はヨコのアルカ属条痕を施した上から×状の沈線を描く。屈曲部は∩形の刺突文を施し，この刺突は幅1.6cmを測り，検出された爪形刺突文中においては最も大きいものである。胴部はヨコのサッ痕がみられ，内面は平滑にしているが，胴部においてはアルカ属条痕のあと平滑としている。773は，波状口縁をもつもので，波頂部から□形の刺突文を３方向に垂下させる。内面の波頂部には，段状の沈線が施文されている。外面はヨコのアルカ属条痕，内面は平滑としている。

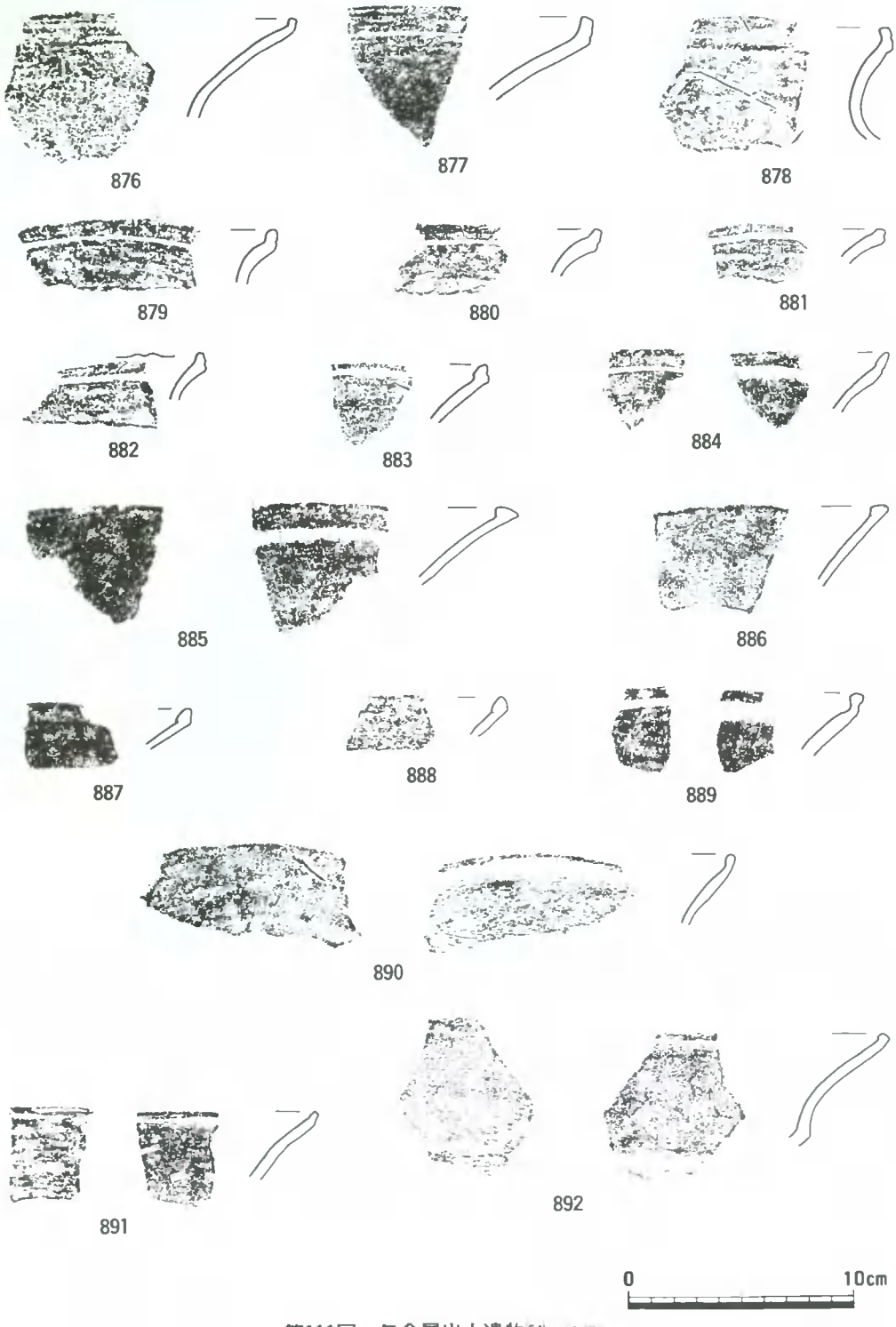
775は，口縁端部が細くなるもので，屈曲部にはC形刺突文を施している。内外面は平滑とし，胴部外面はヨコのサッ痕をおこなう。776は波状口縁をもち，波頂部から中央１本，両脇に２本単位の沈線を垂下させる。頸部外面はヨコのアルカ属条痕，内面は平滑とし，波頂内面には沈線文を施している。777・779は，屈曲部に∩形刺突文を付す。外面はヨコのアルカ属条



第109図　包含層出土遺物(52)　1/3

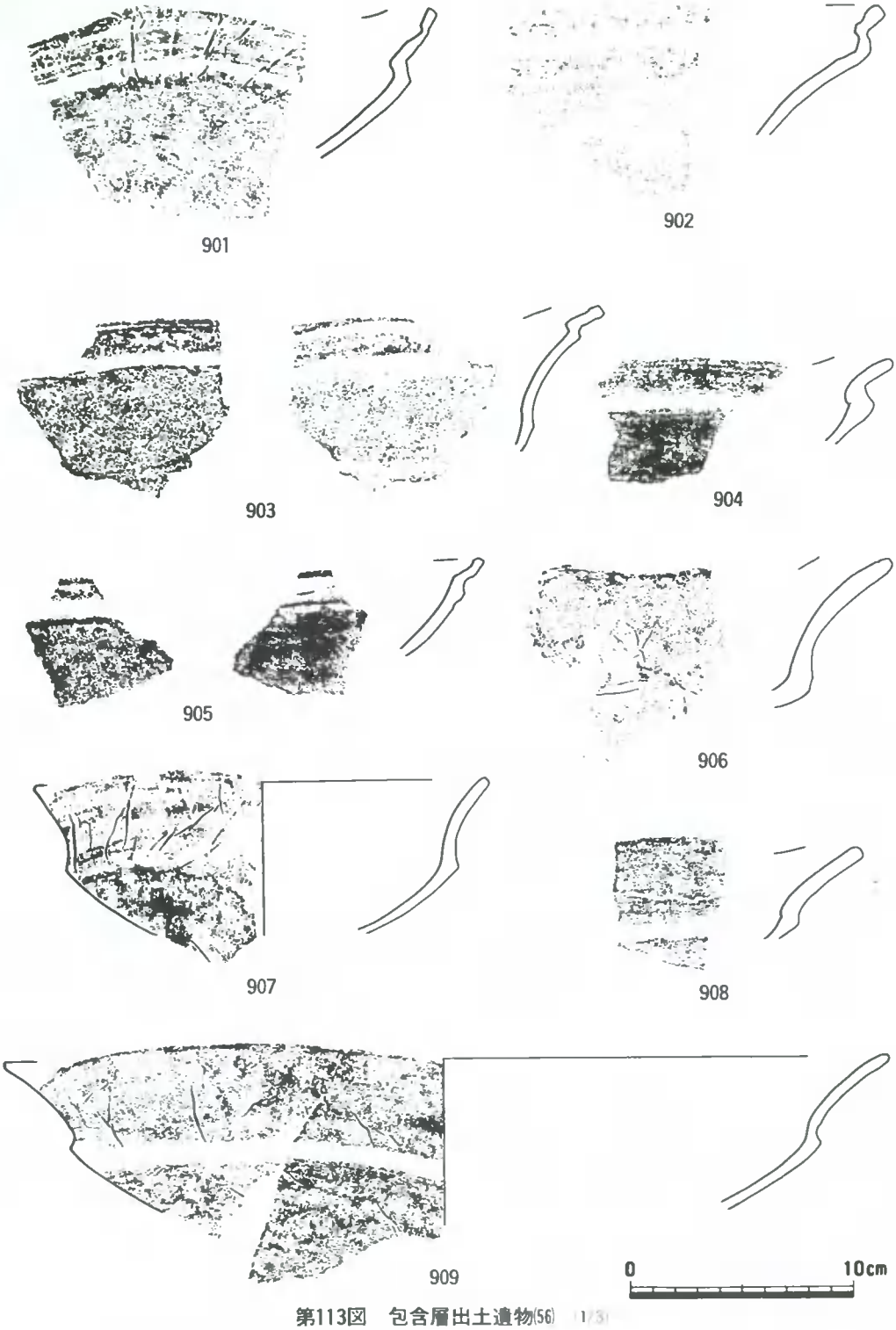


第110図　包含層出土遺物(53)　1/3

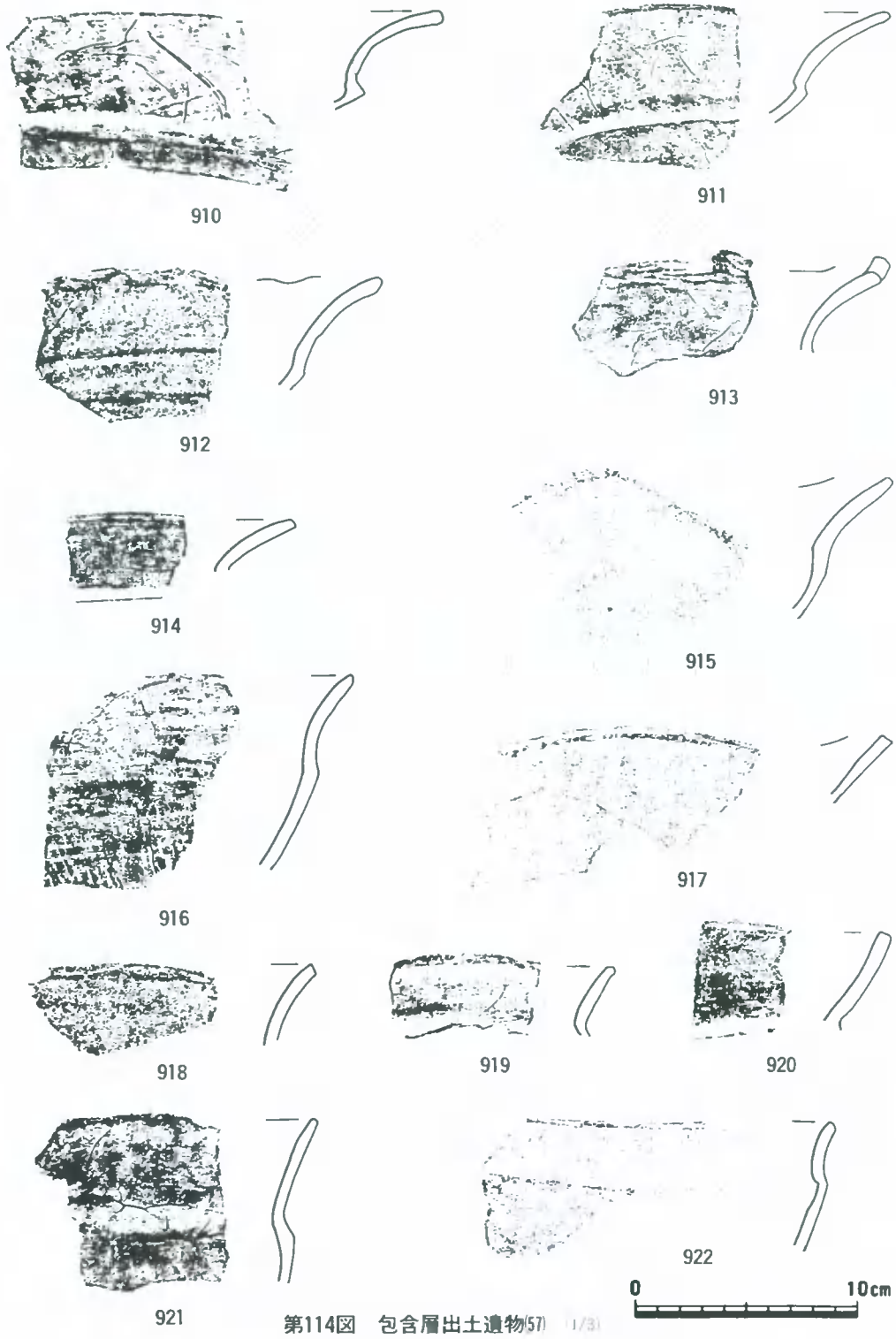


第111図　包含層出土遺物(54)　(1/3)

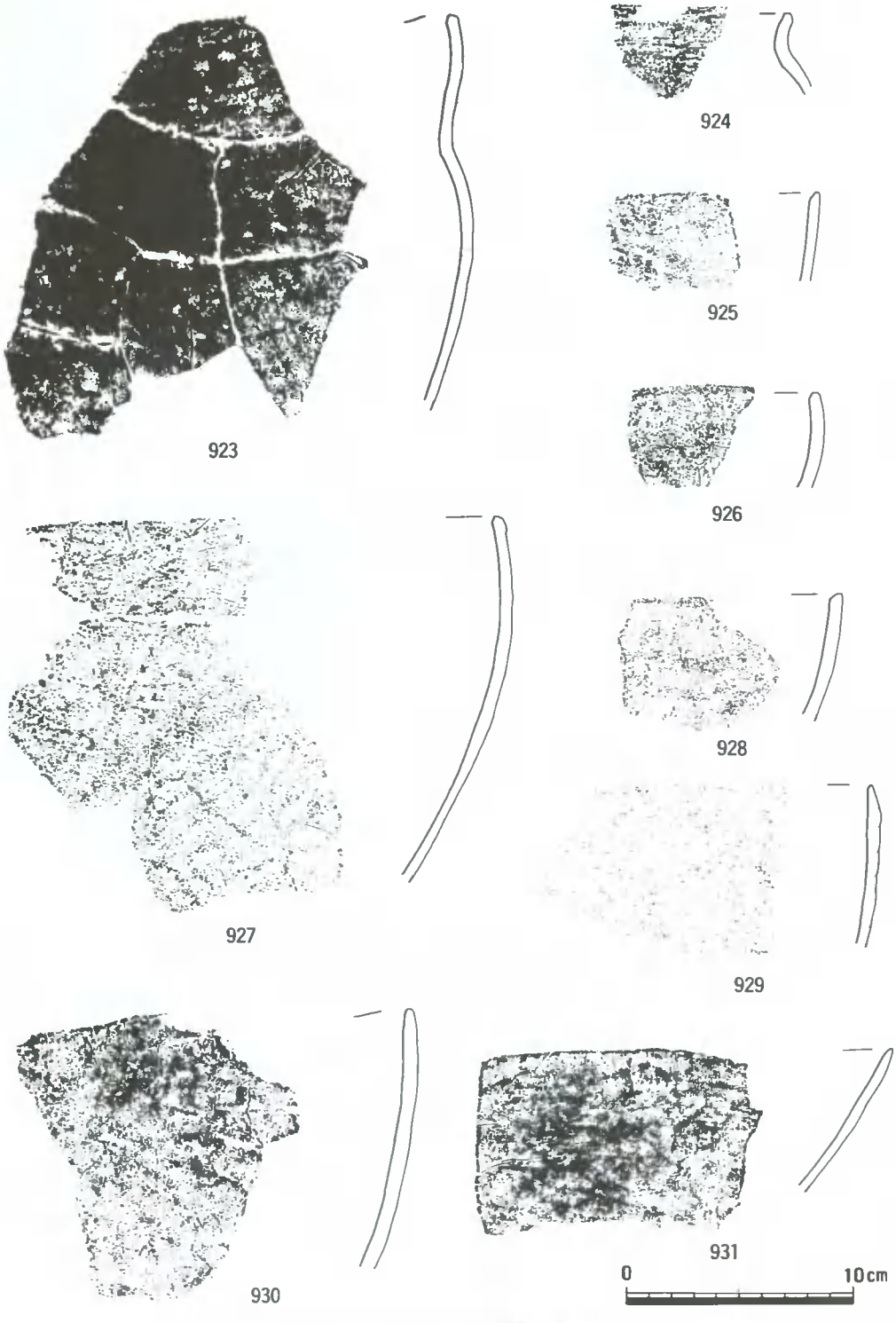
第112図　包含層出土遺物(55)　(1/3)



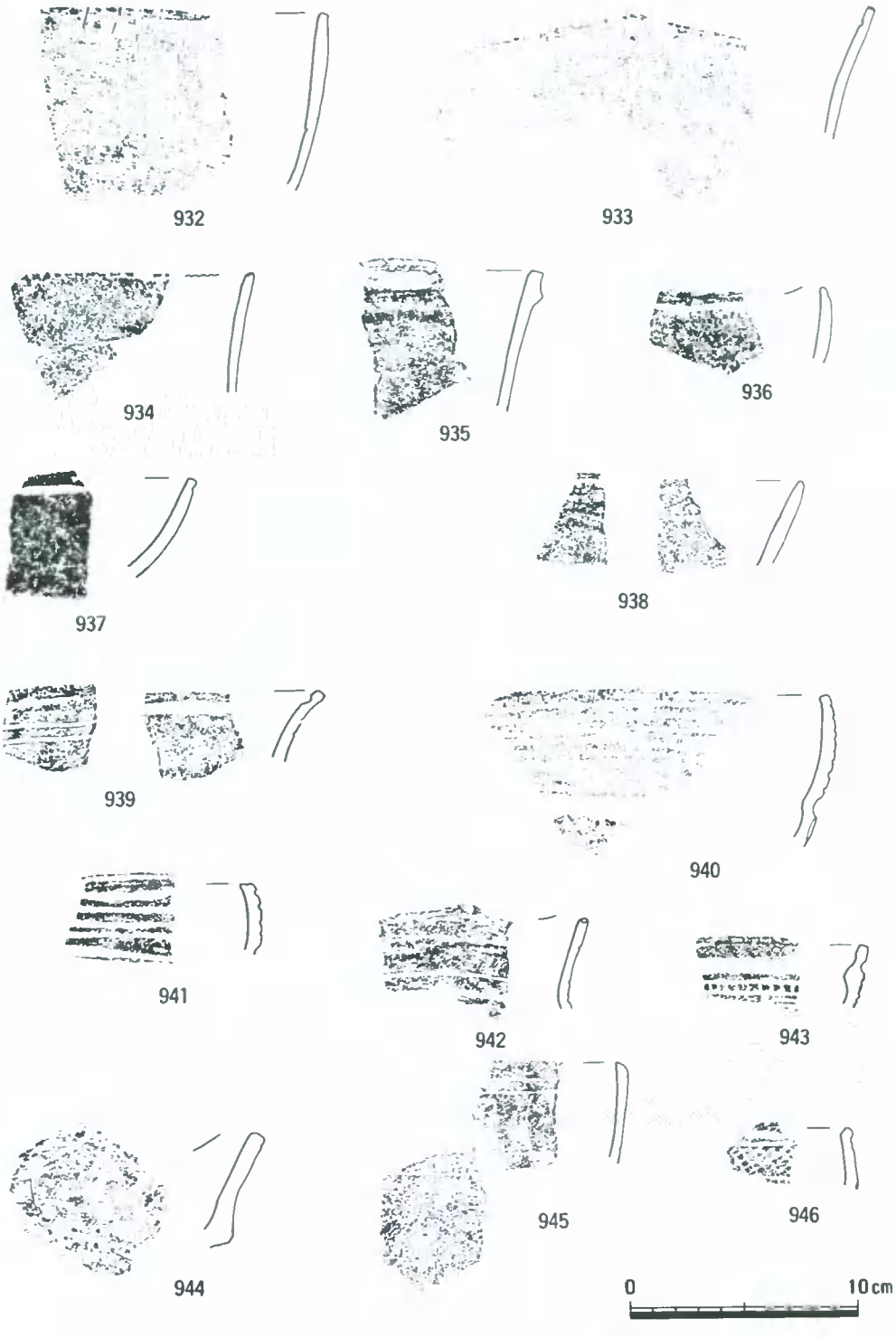
第113図　包含層出土遺物(56)　1/3



第114図　包含層出土遺物(57)　1/3



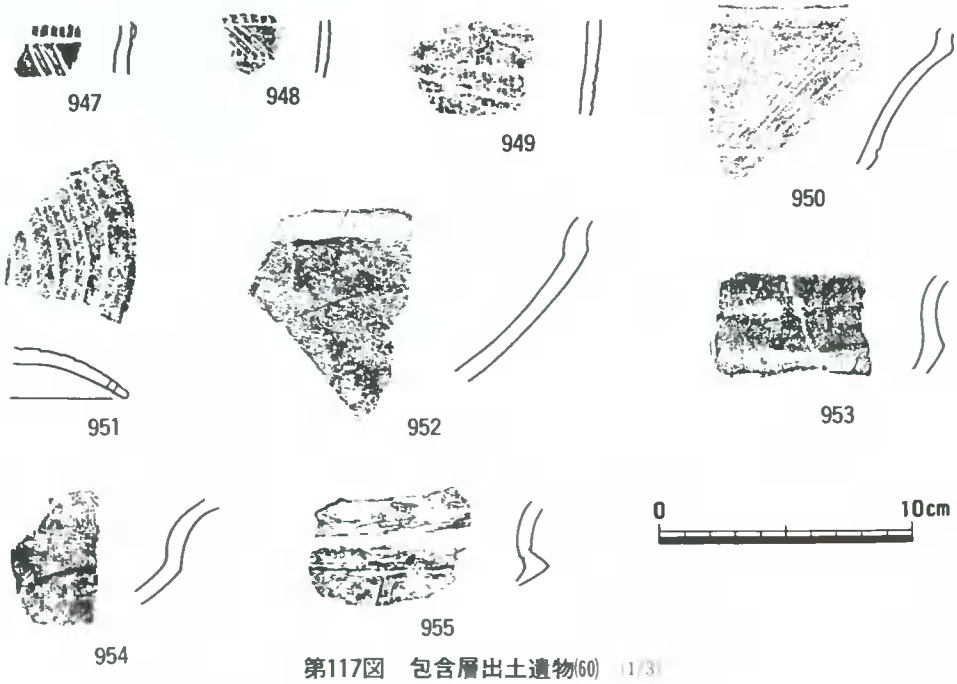
第115図　包含層出土遺物(58)　1/3



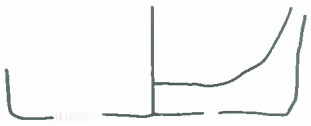
第116図　包含層出土遺物(59)　(1/3)

痕，胴部はヨコのサッ痕をおこなうが，779は，不明である。内面は平滑にしている。780は，波状口縁で，波頂部から刺突文を垂下させる。781は，丸い胴部をもつもので，胴部上半にC形の刺突文を施文している。782は，肩部が強く屈曲するもので，C形の刺突文を施文している。783は，□形の刺突文で，上下が深くなる。784は，肩屈曲部にD形の刺突文を施し，胴部はヨコのサッ痕，他の内外面は平滑としている。785は，肩屈曲部が幅の狭い□形の押し引き文状となる。786は，肩屈曲部に巻貝の殻頂による刺突文を施す。頸部外面はヨコのアルカ属条痕のあと平滑，胴部はヨコのサッ痕が認められる。787は，肩屈曲部に□形刺突文を施すが，上下が深くなっている。頸部にはヨコのアルカ属条痕のあと，ハ状に2本の刺突文が垂下され，胴部にはサッ痕がある。788は，肩屈曲部にコ形刺突文を施文している。789は肩屈曲部にC形刺突文を施し，頸部は平滑とし，胴部はサッ痕がみられる。790は肩屈曲部にコ形刺突文を施し，胴部は平滑とする。

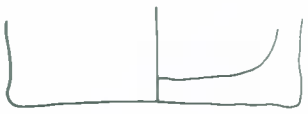
792～857は，突帯文や刺突文を施文しないものである。792～813は，口唇部にキザミを施すものである。792・793・801は，口縁部が波状を呈するものである。器形は，797のようにくの字に外反する口頸部をもち，深鉢形土器となるもの，798のようにくの字に屈曲する頸部をもつが浅鉢形土器となるものがある。800のように，前述した突帯やキザミをもつ土器と同じ器形を示すものも認められる。801～808は，ゆるやかに外反する口頸部をもつ。809～813は，内傾気味の鉢形となるものである。口頸部の外面調整は一部を除き，ヨコのアルカ属条痕で胴部



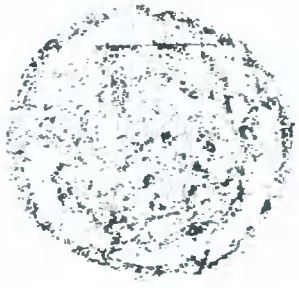
第117図　包含層出土遺物(60)　(1/3)



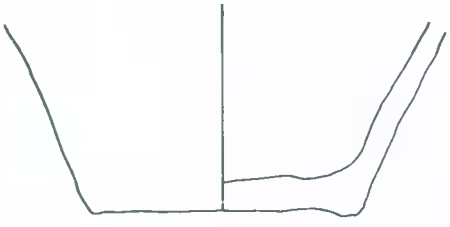
956

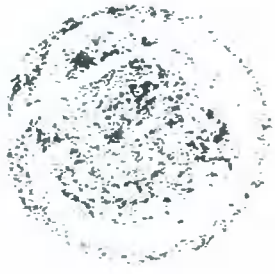


957

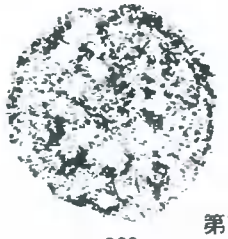


958



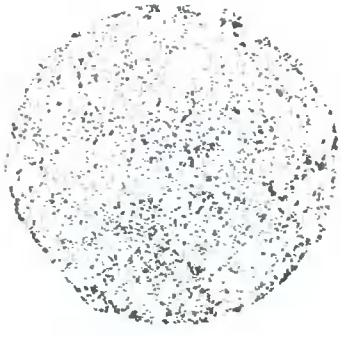


959



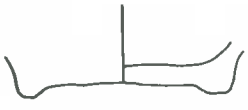
960

第118図　包含層出土遺物(61)　1/3



961

962

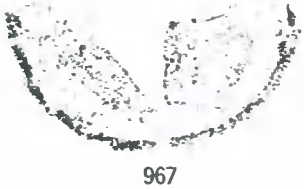


963

964

965

966



967

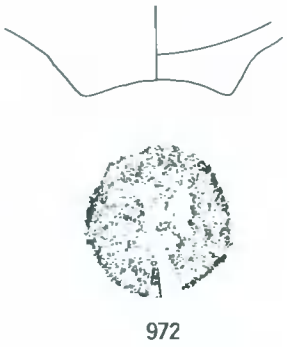
第119図　包含層出土遺物(62) (1/3)

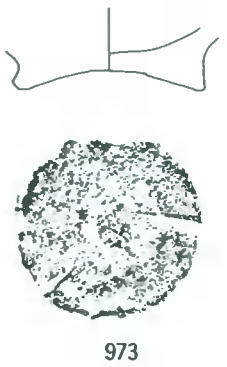
968

969

970

971


972


973

974

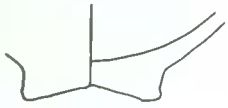
975

976

977

978

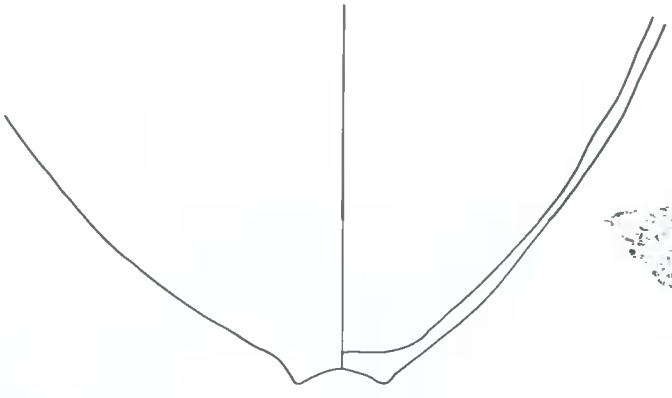
第120図　包含層出土遺物(63)　(1/3)

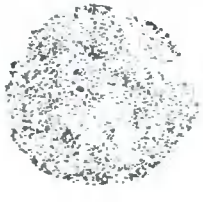


979

980

981




983

982

984

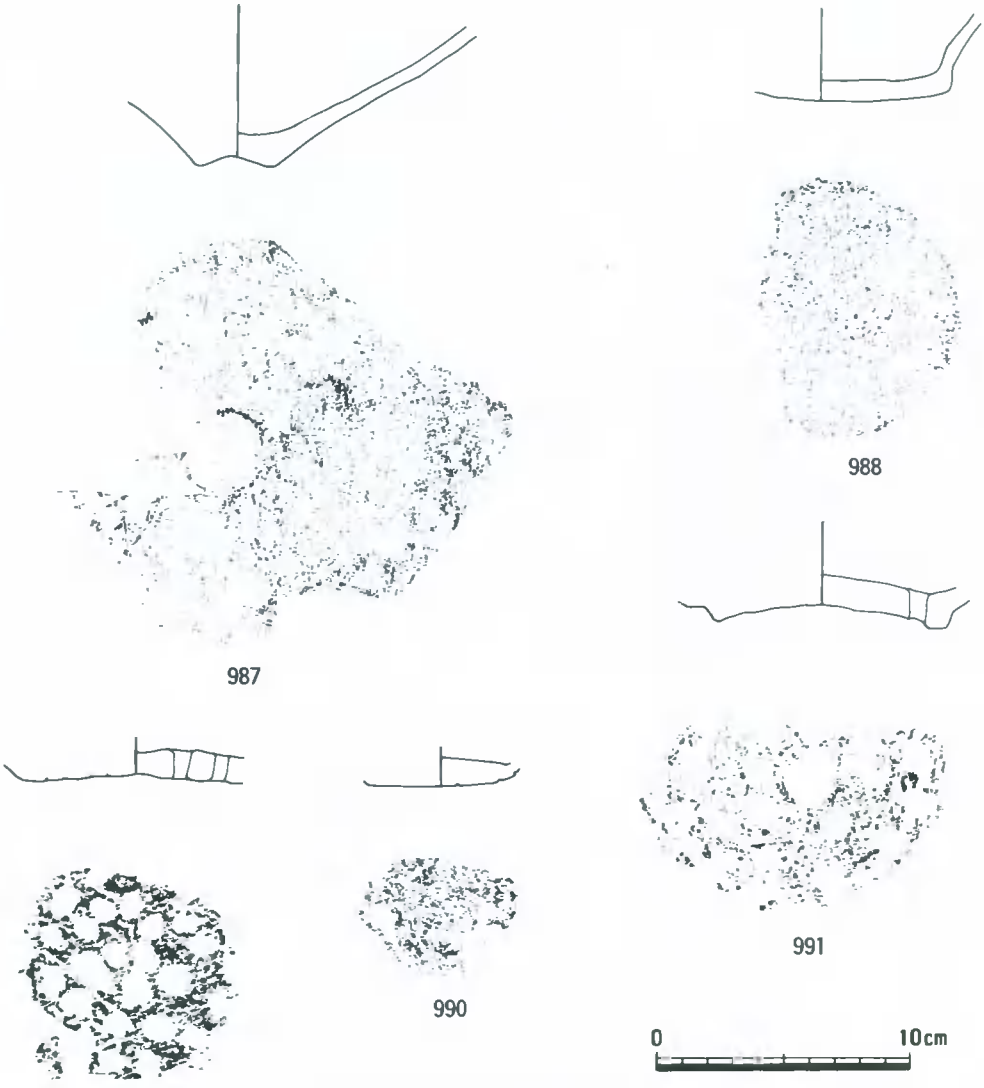
985

986

第121図　包含層出土遺物(64)　(1/3)

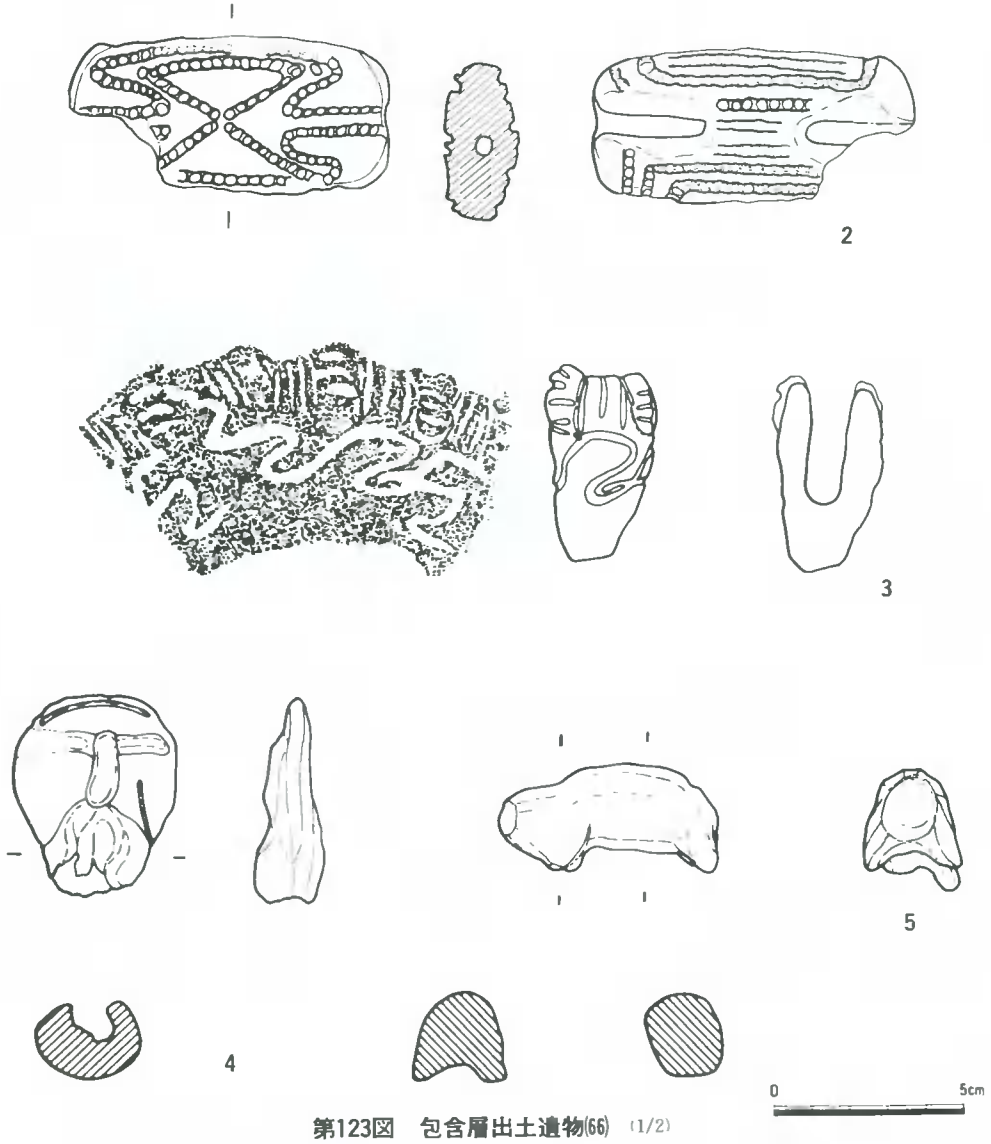
はヨコのサッ痕がみられる。内面はほとんど平滑としている。814～857は，口唇部にキザミを施文しないものである。器形はキザミを付すものと同じような内容を示しているが，814は，口縁部に突起を付している。調整においてもあまり変化はないが，836・838・840・842は，胴部のアルカ属条痕がヨコ方向ではなく，タテ方向に認められる。848は，波頂部に押圧痕を付す。847・849・850は，内面に段状の沈線を付す。

858～955は，精製土器の一群である。858～884は，口縁端部を上方に拡張する。871～884は，拡張した端面に一条の沈線を施文する。882は，口縁端部を小さな突起とし，その中央に押圧

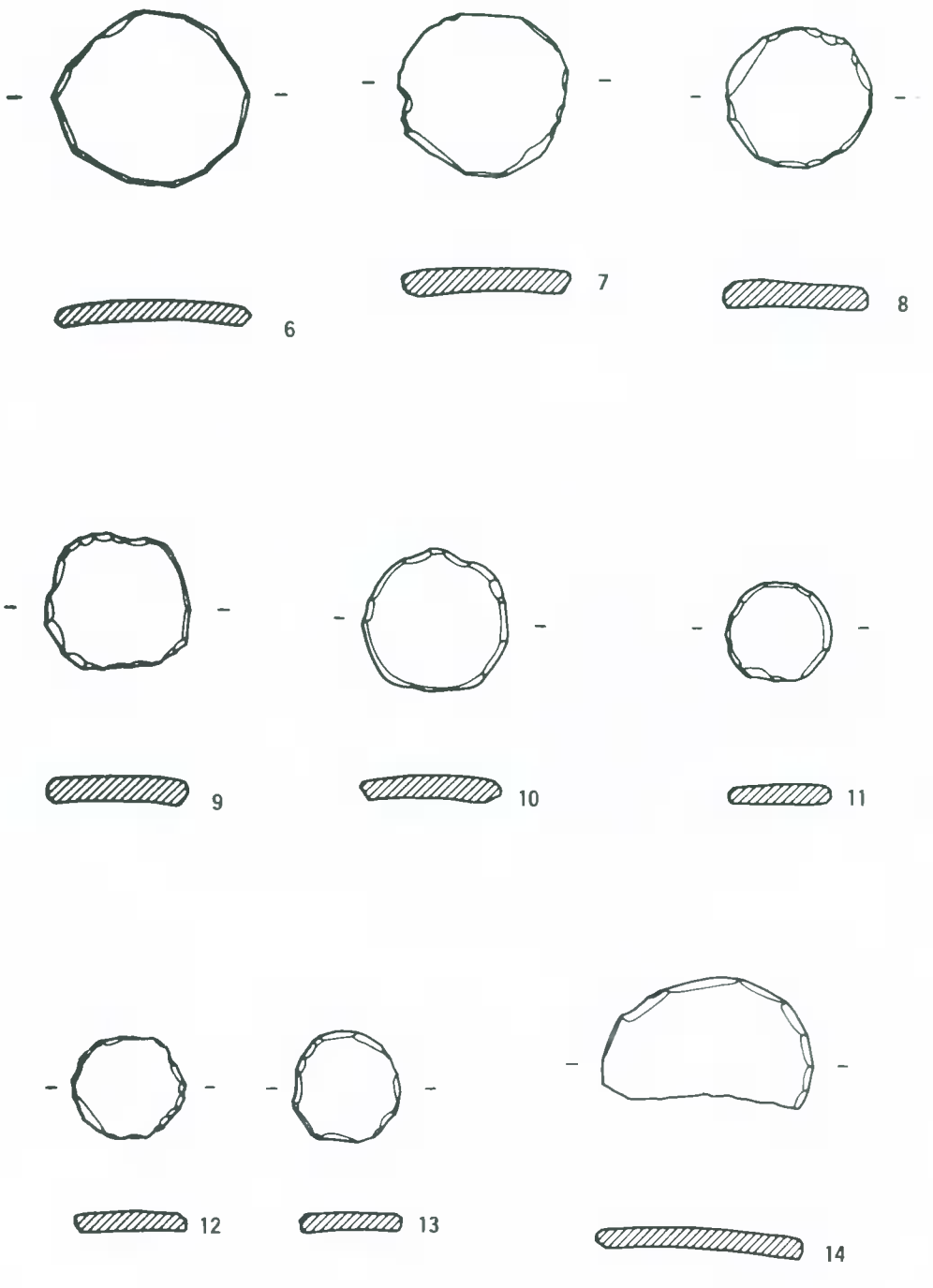


第122図　包含層出土遺物(65) (1/3)

を付している。885～888は，口縁端部内側にカマボコ状の粘土を付す。887は，粘土を巻き込むような断面を示している。891～893は，口縁部内面に段状沈線を付すものである。895～899は，胴部が丸く短く屈曲する口頸部をもつもので，内面には段状沈線を施す。901～905は，胴部に屈曲をもち，口縁端部も屈曲させ，幅広の口縁部をつくる。906～915は，逆くの字に屈曲し外反する口頸をもつ浅鉢形土器である。906・908・912・915は，波状口縁を呈する。913は，突起をもっている。916～922は，外反する口縁をもつ深鉢形の器種である。923は，波状でゆるやかに内湾する口縁部をもっている。924は，肩屈曲部から直口気味の短い口縁を付す。925



第123図　包含層出土遺物(66) (1/2)

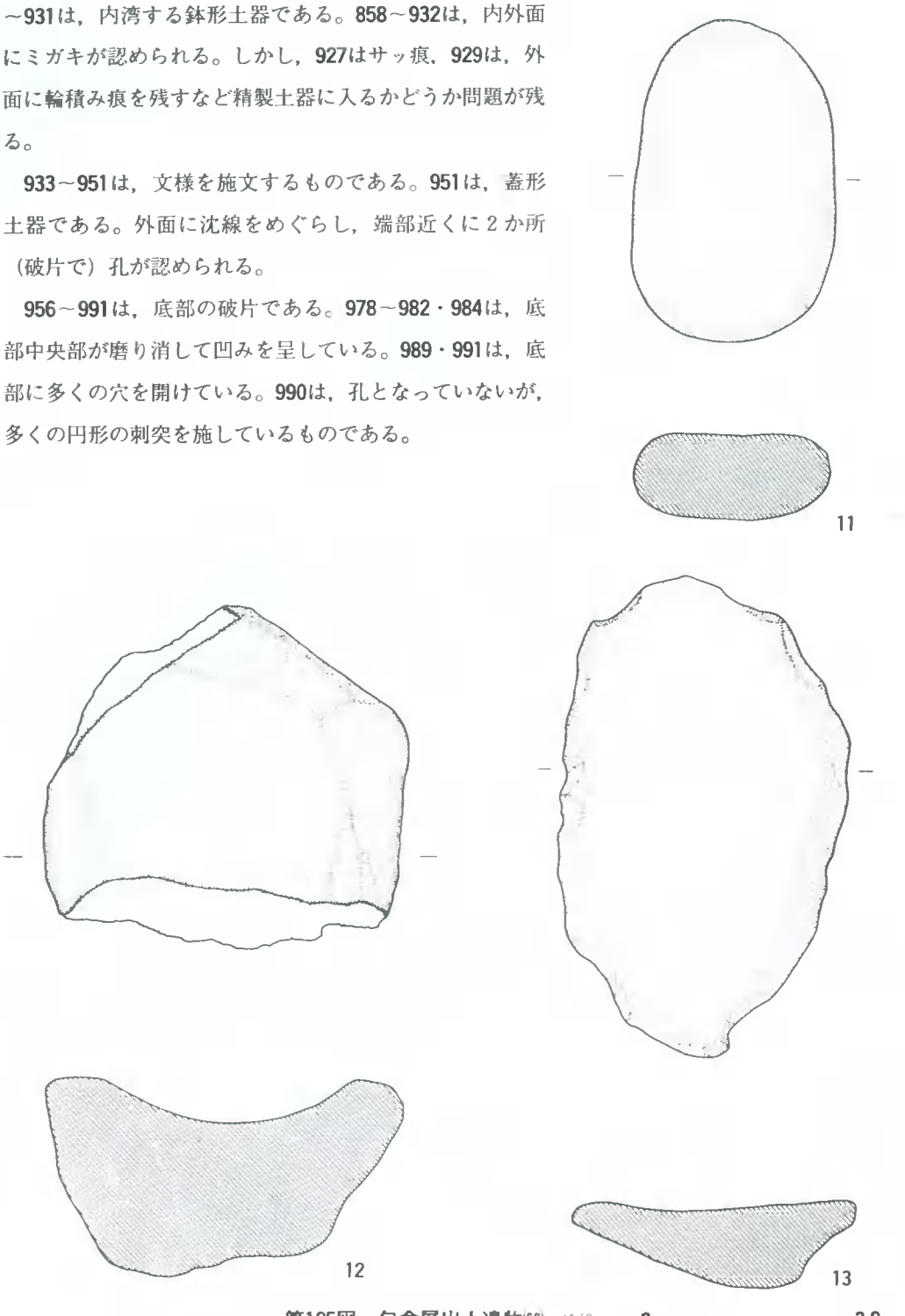


第124図　包含層出土遺物(67)　(1/2)

～931は，内湾する鉢形土器である。858～932は，内外面にミガキが認められる。しかし，927はサッ痕，929は，外面に輪積み痕を残すなど精製土器に入るかどうか問題が残る。

933～951は，文様を施文するものである。951は，蓋形土器である。外面に沈線をめぐらし，端部近くに２か所（破片で）孔が認められる。

956～991は，底部の破片である。978～982・984は，底部中央部が磨り消して凹みを呈している。989・991は，底部に多くの穴を開けている。990は，孔となっていないが，多くの円形の刺突を施しているものである。



第125図　包含層出土遺物(68)　(1/6)　0　20cm

土製品（第123・124図）

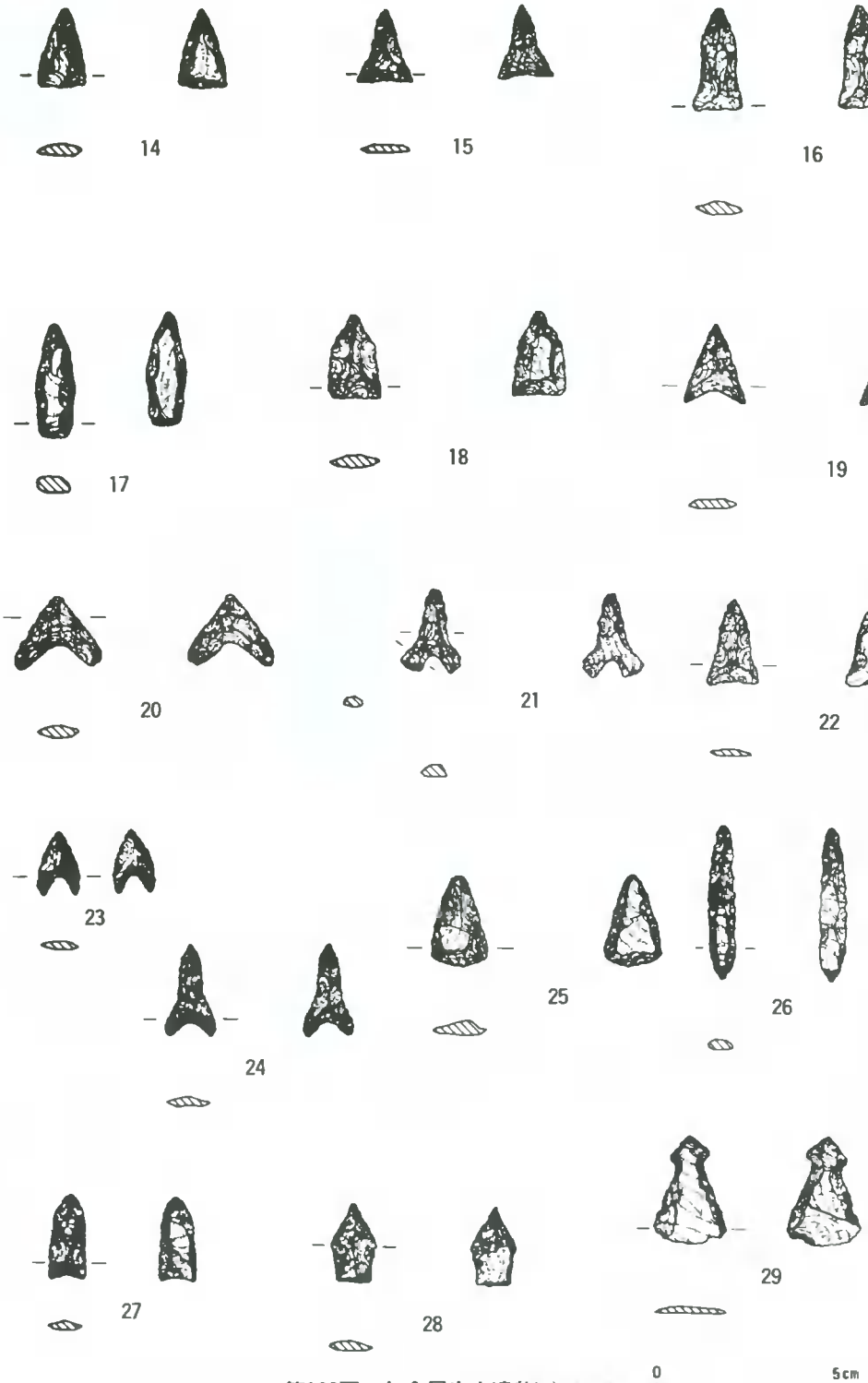
2は，94－Dの包含層から出土した長さが8.5cm，幅4.2cm，厚さ2.0cmを測る角の丸い長方形の形を有するものである。断面形状は楕円状となり，裏面中央部に長い方向に沿って径0.5cmほどの穴をあけている。文様は表面に円形の押し引き文風に蝶が横になったように描く。裏面は表面と同じ文様が描かれている。**3**は，D－6から出土した土器のミニチュアで，口頸部の4か所に瘤状の粘土貼り付けをしている。瘤にはヨコの短い沈線，その間にはタテの沈線を施している。胴部には横位の沈線文を施している。**4**は，A区の東側道から出土した土偶である。無花果（いちじく）状となり，目と鼻は粘土紐の貼り付けによって表現している。口は両側に押し広げて現わしている。**5**は，全長5.8cmを測るイノシシである。体部と足は表現されているが，頭部は付されていない。**6**－**14**は，土製円盤である。

石器（第125・126図）（図版139・151）

石器は，石鏃・石匙・石錐・スクレイパー・石斧・スリ石・凹み石・タタキ石・石皿・石錘・コアなどが出土している。これらのものは，一部を除き包含層からの出土が大半を占めている。したがって時期別での分類はできなかった。

石鏃は，630点余の出土が認められている。その形態は，平基・凹基・尖基・円基・五角形などが見られる。**29**（第126図）は，基部が裾広がりとなるものである。凸基式については，1点出土したことを確認したが，調査の過程においてその所在が不明となってしまった。石材はいずれもサヌカイトを用いている。

石匙は，縦形・横形が見られる。石斧は，打製と磨製のものが出土している。**294**（図版151）は，木葉形尖頭器である。石皿は，**12**・**13**（第125図）のようにかなり大形のものがみられ，特に**12**については凹部が3.8cmの深さをもつものがある。**11**（第125図）は，他の石皿のように明瞭な凹部を認められないが，すれてやや凹みとなっているのが観察されたので石皿とした。石材は，閃緑岩である。石錘は，比較的多く出土しているが，前述したように時期を明らかにすることができるのは極めて少ない。石材は特定のものに限られていないようである。石鏃および石錘については後述し，他のものについては石器一覧表にまとめた。



第126図　包含層出土遺物(69)　(1/2)

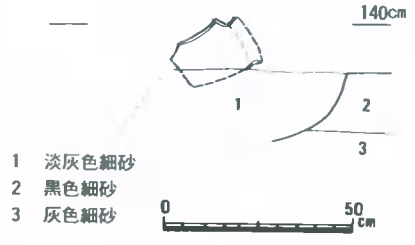
2　弥生時代の遺構・遺物

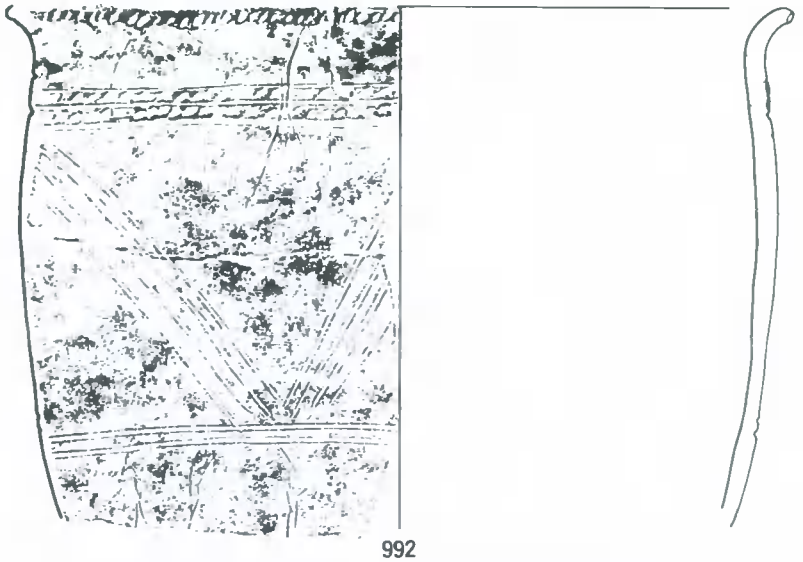
甕　　棺

甕棺（第57・127図）

Ｐ－６の中央東寄りに検出された。黒色細砂上面で，縄文後晩期の包含層中の遺物を検出途中に弥生時代の遺物が出土した。この黒色細砂には，後晩期より新しい時期の遺物は検出されていないのである。このため，この遺物がこの層に包含されているか否かが問題となった。この検出地点は，上層断面の関係から平面的な遺構の確認には支障があった。そのため，その有無については，土層断面において把握することとした。この結果から，遺物が検出された黒色細砂とその下に堆積する灰色細砂に切り込んだ土壙を確認した。そして，遺物の出土状態から甕棺と判断したのである。

出土遺物は，推定口径31.4cmを測る甕形土器である。器形は，外反する口縁部からやや張り気味の胴上半へと続き，胴下半においてもやや張り気味となっている。文様は，口唇部に連続したキザミを付している。頸部下には，３本の沈線を施文し，その間に楕円状の押圧痕を付す。胴下半には，２本の沈線を施し，頸部下の沈線の間に４本の沈線による山形の斜行線を施文する。内面には，細いハケ状の調整がされる。（下澤）





992

第127図　甕棺出土状態 (1/20)・**出土遺物** (1/3)

3　古墳時代の遺構・遺物

古墳時代の遺構および遺物は，製塩土器を中心として，遺跡のほぼ全域にみられる。特に，保存の対象となったＡ区では砂州上に立地する製塩遺跡が非常に良好に遺存している。

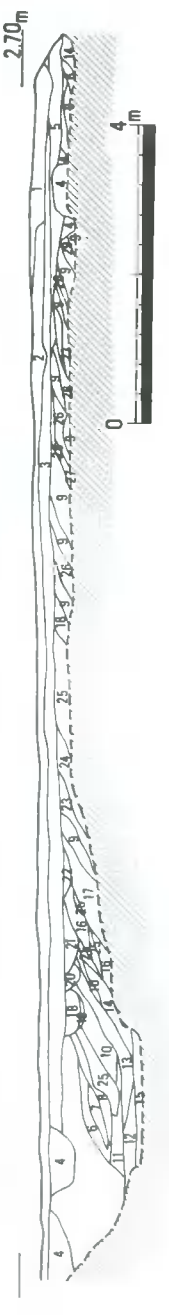
Ａ区の東西土層断面（第128図）では，土器層と灰層が交互に堆積し，しかもその堆積が順次西に広がっていく状況が明らかである。第６・10・14・23・24・27・29層は灰層，第７・８・17層は土器を含む灰層，第９層は厚手の製塩土器層，第25層は薄手の製塩土器層である。これらはいずれも東から西へ落ち込む状態で堆積している。

(1)　住　居　址

竪穴住居址－１（第129図，図版62）

Ｂ区の丘陵裾部の南端96－Ｄを中心に，一部96－Ｅ，97－Ｄにかけて検出された竪穴住居址である。北西部および北端は後世の削平を受け中央部も処々に新しい掘り込みが穿たれており遺存状況は良好でない。壁高もほとんど遺存しておらず僅かに海抜8.90ｍ程の床面から深さ10cm程で，幅20cm程の壁体溝が確認されている。この壁体溝からみて，この住居址は北東－南西490cm北西－南東480cmを測る隅丸方形のプランを呈するものと想定される。この住居址に伴うと思われる柱穴は検出されていないが，住居址南東辺の壁体溝に接して，長径65cm・短径50cm程の楕円形のプランを呈し，深さ25cm程を測る穴が一つ検出されている。

出土遺物としては，床面直上において薄手の細かいタタキで調整された製塩土器の細片が若干みられる。この住居址覆土の上層では，ほぼ完形のものを含み厚手の製塩土器片が多量に出土してい



1　花崗岩風化土（埋土）
2　茶灰色微砂
3　〃　（黄褐色粗砂を含む）
4　撹乱穴
5　耕作土
6　茶灰色微砂（灰層）
7　〃　（土器混り）
8　淡灰黄色微砂（灰層・土器含む）
9　土器層（厚手）
10　淡茶灰色微砂（灰層）
11　茶褐色粘質微砂（土器含む）
12　暗茶褐色土（炭分）
13　灰茶色微砂（炭・土器含む）
14　淡灰桃色微砂（灰層）
15　暗黒灰色微砂
16　灰黄色微砂
17　明黄褐色微砂（炭層）（炭，焼土，土器多く含む）
18　茶褐色微砂
19　18層と同じ（土器を多く含む）
20　暗茶褐色微砂
21　暗灰茶色微砂
22　18層と同じ（黄褐色微砂ブロック含む）
23　淡黄褐色微砂（灰層）
24　淡灰桃色微砂（〃）
25　土器層（薄手）
26　灰黄色微砂（土器含む）
27　灰層（焼土・炭含む）
28　焼土・炭
29　灰桃色微砂（灰層）

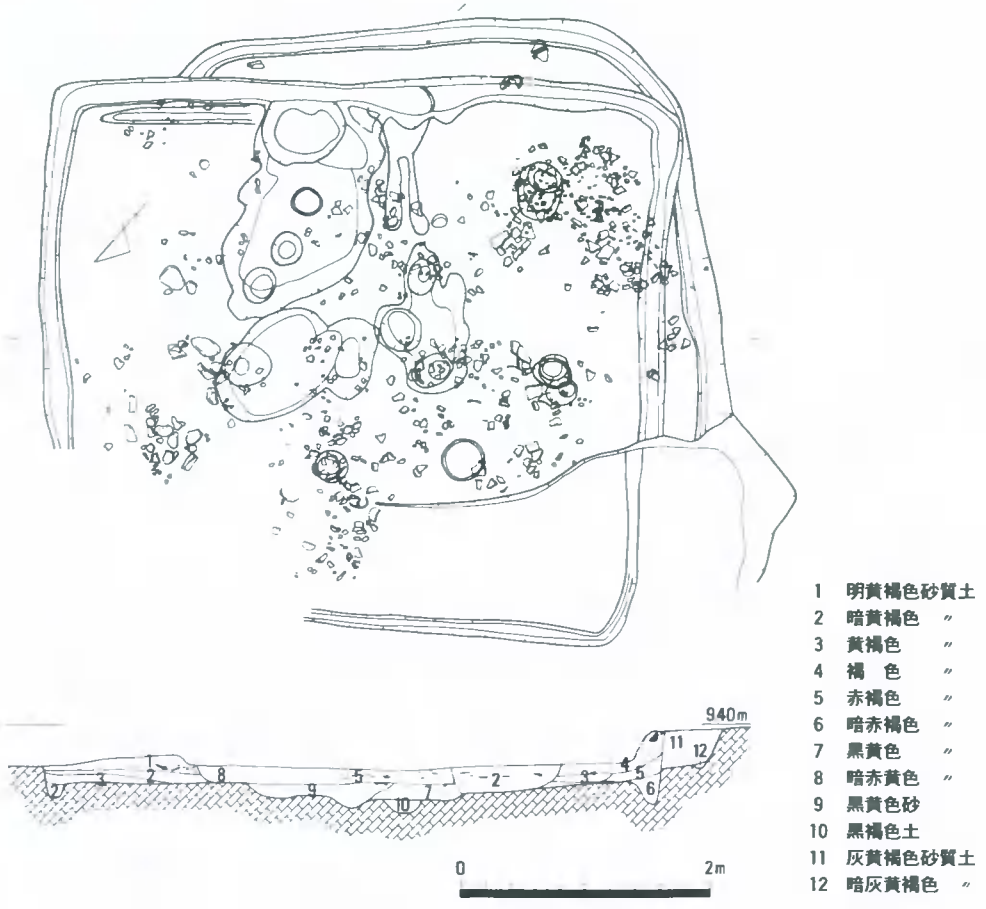
第128図　Ａ区ａ－ｂ土層断面図　(1/100)

るが，これらは二次堆積による遺物と考えられるものである。この竪穴住居址－１の時期は，出上遺物等から古墳時代前半と考えられる。

なおこの住居址の南東辺の北東部内側において幅13cm程の壁体溝状の溝が検出されているが他は削平されており詳細は不明である。また，この住居址の南東辺から南西辺にかけて外側に，幅18cmで，9.20ｍ程の検出面から20cm程を測る壁体溝状の溝が検出されている。この遺構は，竪穴住居址－１に削平されてほとんど遺存していないが，一辺450cm程の隅丸方形を呈する住居址の壁体溝と考えられる。この溝からは，くの字状に外反する甕形土器の口縁部等の土器片が出土しており，古墳時代初頭の竪穴住居址と考えられる。

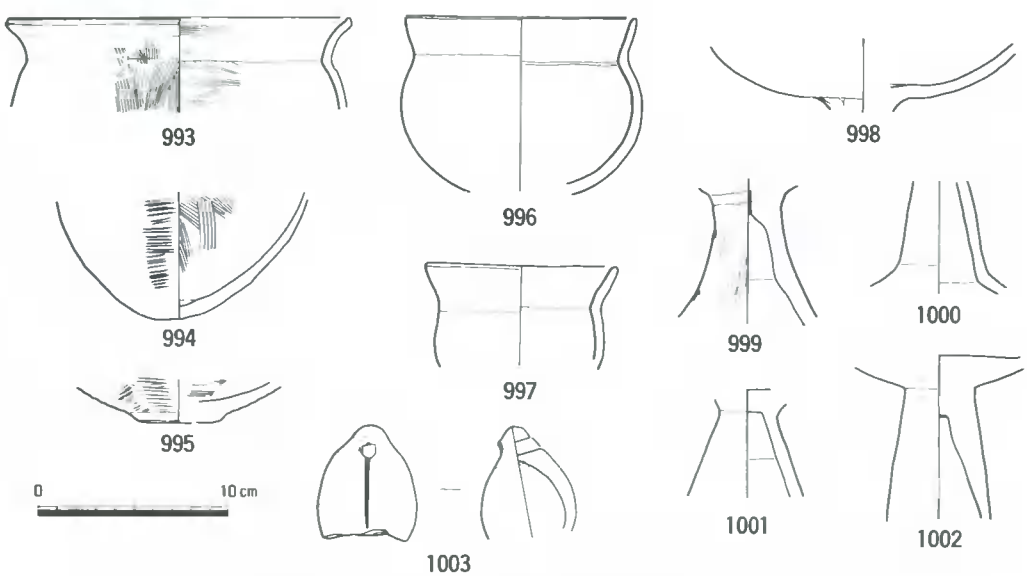
この遺構は，古墳時代初頭の住居址にほぼ重なるように，古墳時代前半の住居址が建てられた，２軒以上の住居址が重複しているものと考えられる。

竪穴住居址－１覆土の遺物（第130～135図）

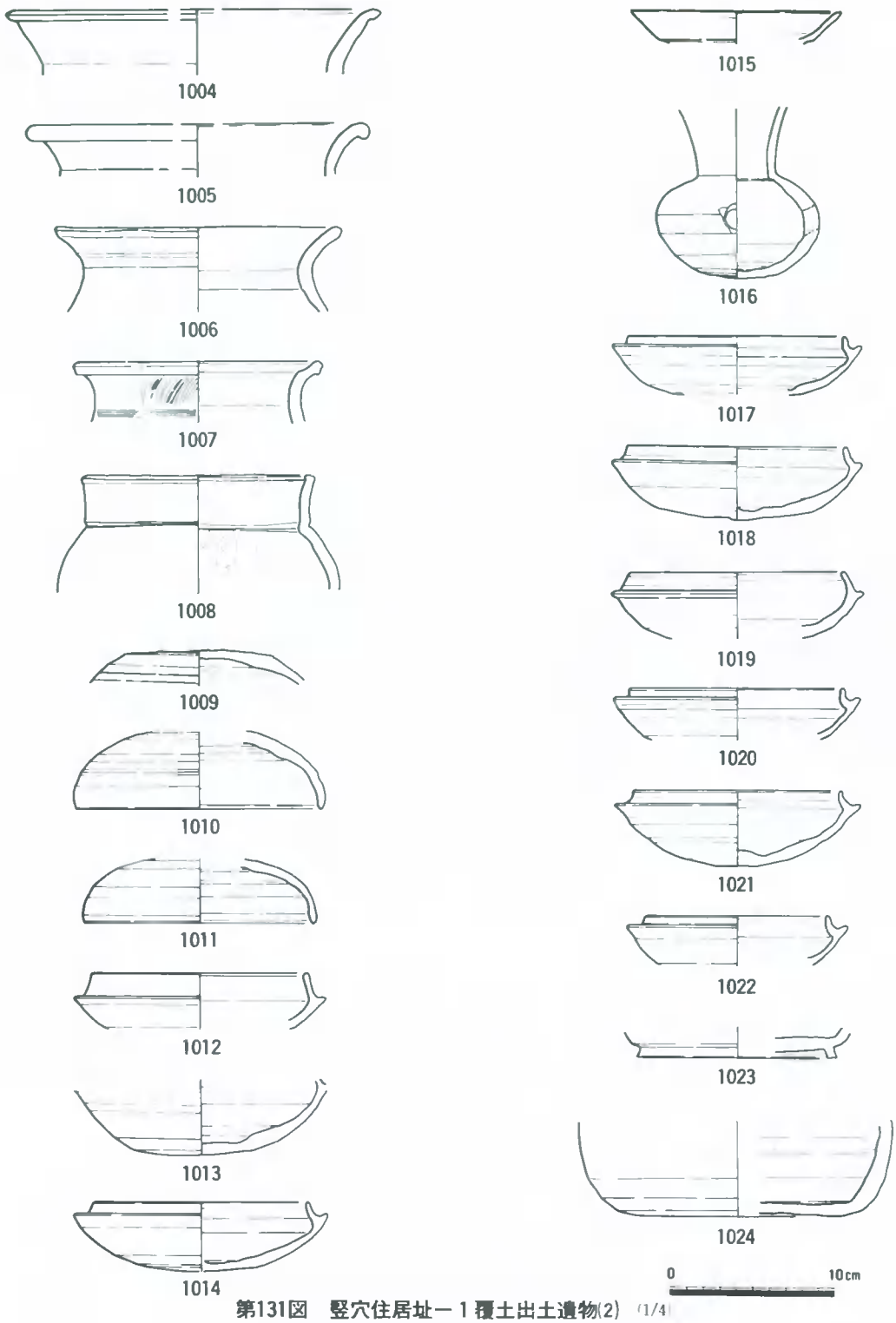


第129図　竪穴住居址－１　1/60

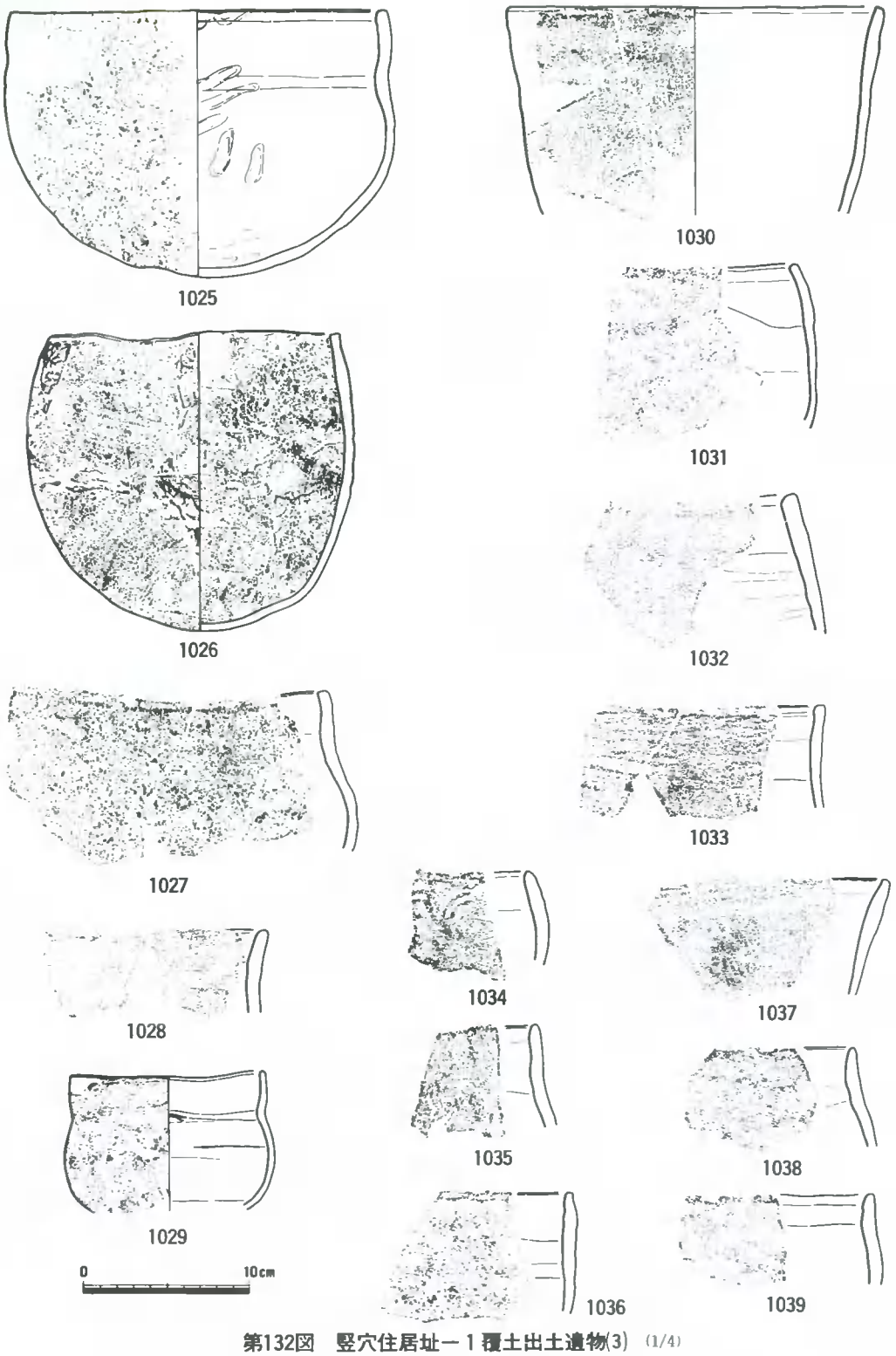
竪穴住居址－1においては遺構に伴う遺物は僅かであるが，その覆土中においては，流れ込みによると思われる非常に多量の製塩土器を主とした土器群が検出され、それらは土器溜り状を呈していた。993～1002は，土師器および土師質の土器である。993～995は甕形土器で，993はくの字状に折れ曲った口縁部が外反し，端部が上方に立ち上がる。内外面はハケメ調整される。994・995は底部片で994は丸底，995は平底の形態を残す。調整は外面を平行タタキ，内面ハケメである。996・997は坩形の甕形土器である。998～1002は高杯形土器で1000～1002は直線的な長い脚柱部をもつものである。1003はいわゆるタコ壺である。1004～1024は須恵器および須恵質の土器である。1004～1006は甕形土器，1007は壺形土器，1008は直口壺形土器である。1009～1011は杯蓋，1012～1014・1017～1022杯身である。1015・1016は鉢，1023は高台付の杯身である。1025～1073は厚手の製塩土器である。ここでは1025・1026・1040～1043等はほとんど完形に復元することのできるものが出土し，普通にみられる土器層とは性格を異にするものと思われる1025～1033・1035～1039は板状工具により叩かれ無文である。1040～1062は口縁部にヨコ方向の平行タタキを付せられた土器である。1063・1066は板状工具のタタキ目が口縁に残っている。1064・1070はタテ方向のタタキの上からヨコ方向にタタキ目を加えたものである。1065・1071～1073は山形のタタキ目をもつものである。器形は種々様々であるが，全体に体部から口縁部にかけてあまり屈曲しないものが多い。1074～1076は製塩土器脚部片で，しっかり踏張った脚部をもつもの，ほとんど形骸化した脚部となるもの等である。1077～1081は甕形土器の底部片である。1079・1081はタタキにより調整されている。



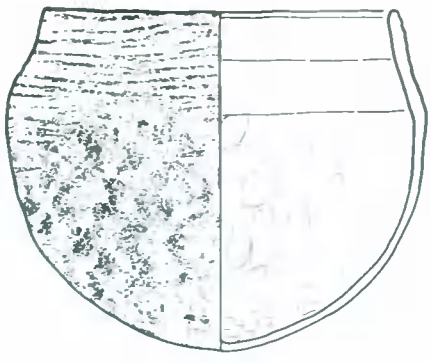
第130図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(1)　(1/4)



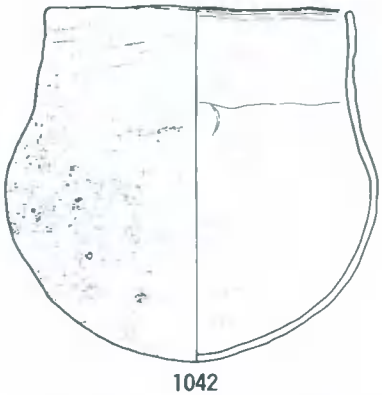
第131図　竪穴住居址－１覆土出土遺物(2)　(1/4)



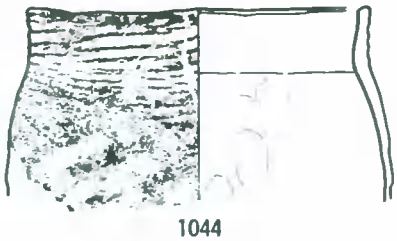
第132図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(3)　(1/4)

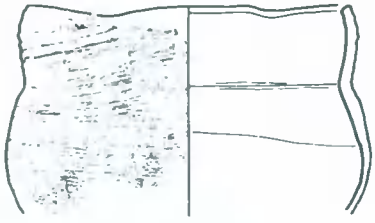

1040

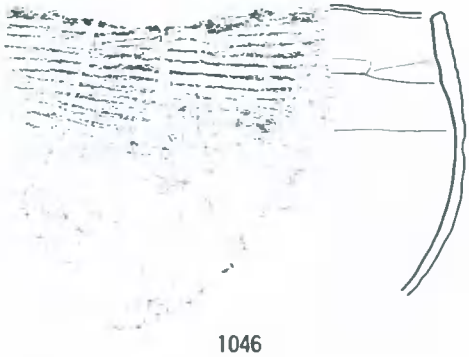
1041


1042

1043


1044

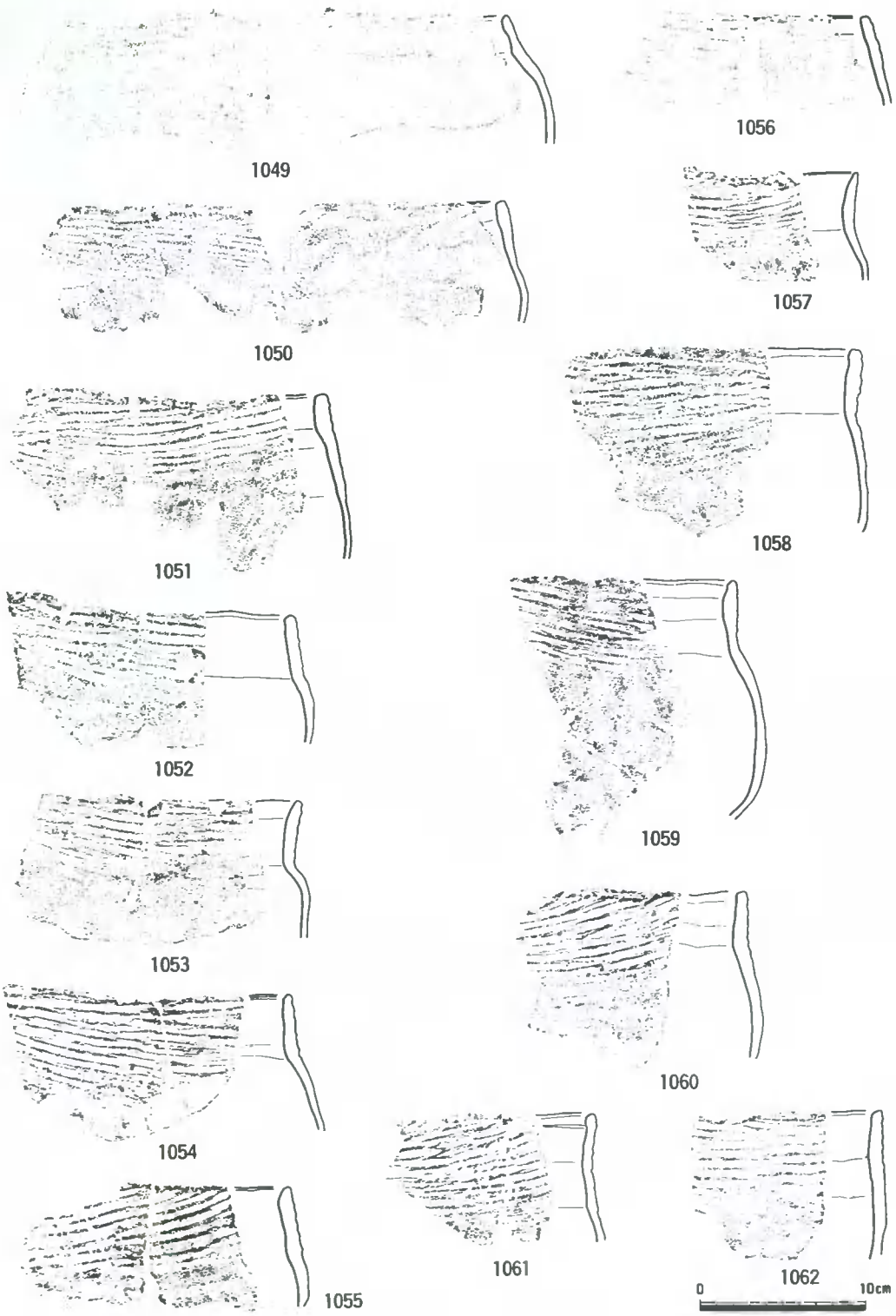

1045


1046

1047

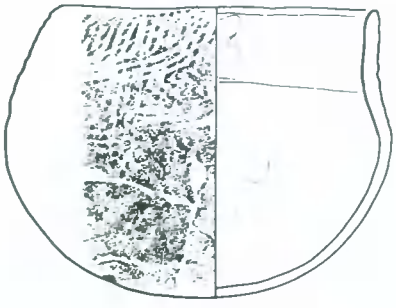
1048

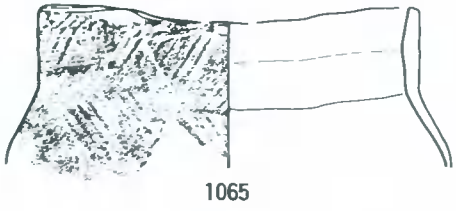
第133図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(4) (1/4)

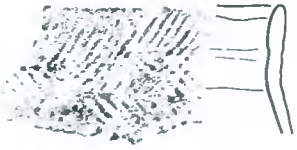


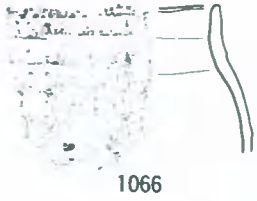
第134図　竪穴住居址－１覆土出土遺物(5)　(1/4)

1063

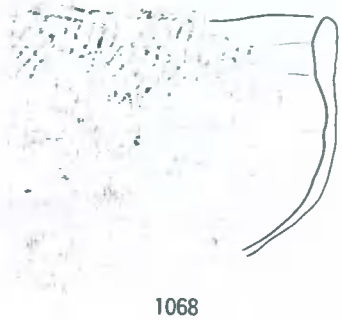

1064


1065


1072


1066

1067


1068

1069

1070

1071

1073

1074

1075

1076

1077

1078

1079

1080

1081

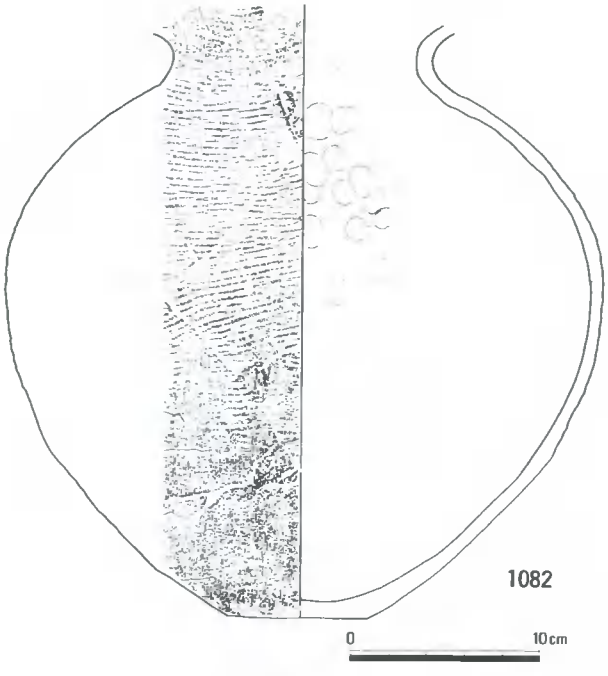
第135図　竪穴住居址－1覆土出土遺物(6)　(1/4)

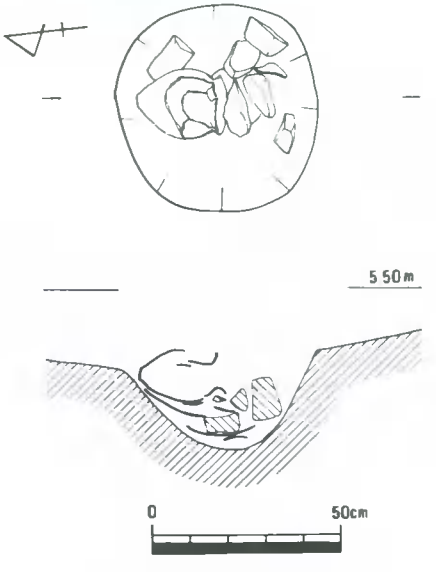
(2) 土　　壙

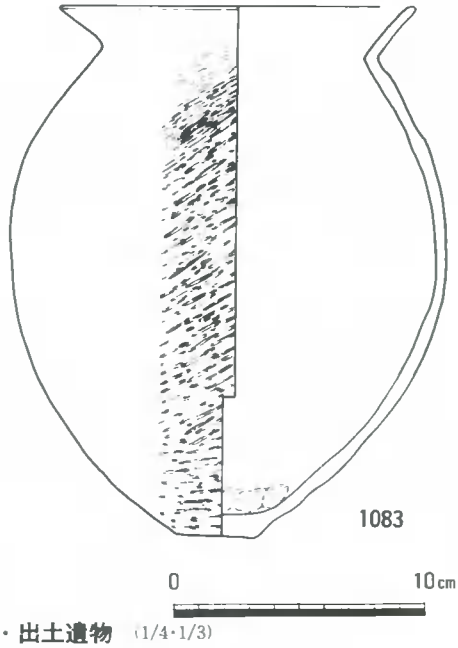
土壙－25（第136図）

丘陵南裾部90－Fにおいて検出された土壙である。平面形は直径50cm程のやや方形に近い円形を呈する。深さは，海抜約5.35mの検出面から27cmを測り，埋土には炭化材を含んでいる。

出土遺物としては，ほぼ完形の甕等の土器が10cm前後の角礫やサヌカイト片と伴に認められる。1082は口縁端部が欠損しているものの，肩部から胴部にかけて張りをもち，体部中央よりやや上で最大径となる壺形土器で，底径7cmを測る。外面は頸部から体部4分の3程まで平行タタキがみられる。体部下半はタタキ目の上を指ナデ調整し底部に至る。内面は指頭圧後，指ナデ調整をしている。底部の一部に黒斑がみられ，外面肩部か



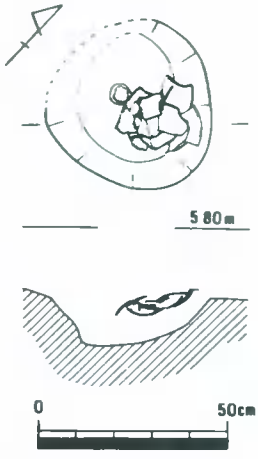




第136図　土壙－25（1/20）**・出土遺物**（1/4・1/3）

ら口縁内面にかけて丹塗りが施されている。1083はくの字状に外反する口縁部をもち，肩部はあまり張り出さないで，体部中央よりやや上で最大径となる。ほぼ完形の甕形土器である。口径14.0cm・底径3.1cm・器高21.0cmを測り，体部外面はタタキ調整されている。底部近くはヨコ方向の，それより上はナナメ方向の平行タタキである。内面は器面が剥離しており，調整は不明である。

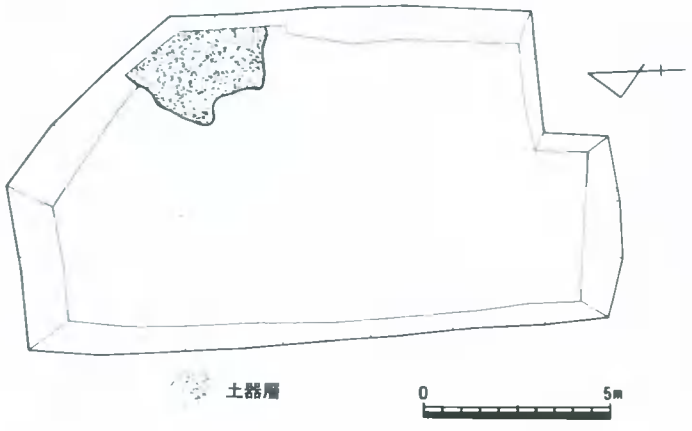
時期は出土遺物等から古墳時代初頭と考えられる。

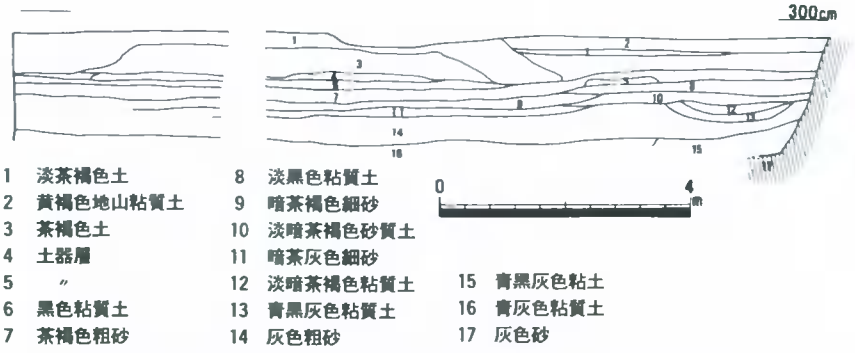


第137図　土壙－26(1/20)

土壙－26（第137図）

丘陵南裾部90－Ｅの西部において検出された土壙である。平面形は直径45cmの円形状を呈し，深さは海抜5.65ｍ程の検出面から15cmを測る。埋積土は灰茶色細砂が堆積し，底から少し上で土器片がかたまって出土している。





1　淡茶褐色土
2　黄褐色地山粘質土
3　茶褐色土
4　土器層
5　〃
6　黒色粘質土
7　茶褐色粗砂
8　淡黒色粘質土
9　暗茶褐色細砂
10　淡暗茶褐色砂質土
11　暗茶灰色細砂
12　淡暗茶褐色粘質土
13　青黒灰色粘質土
14　灰色粗砂
15　青黒灰色粘土
16　青灰色粘質土
17　灰色砂

第138図　ＡＲ－２土器層位置図 (1/200)・東壁土層断面図(1/120)

第139図　ＡＲ－２土器層出土遺物（1/4）

出土遺物としては，甕形土器や手捏ね土器がみられる。

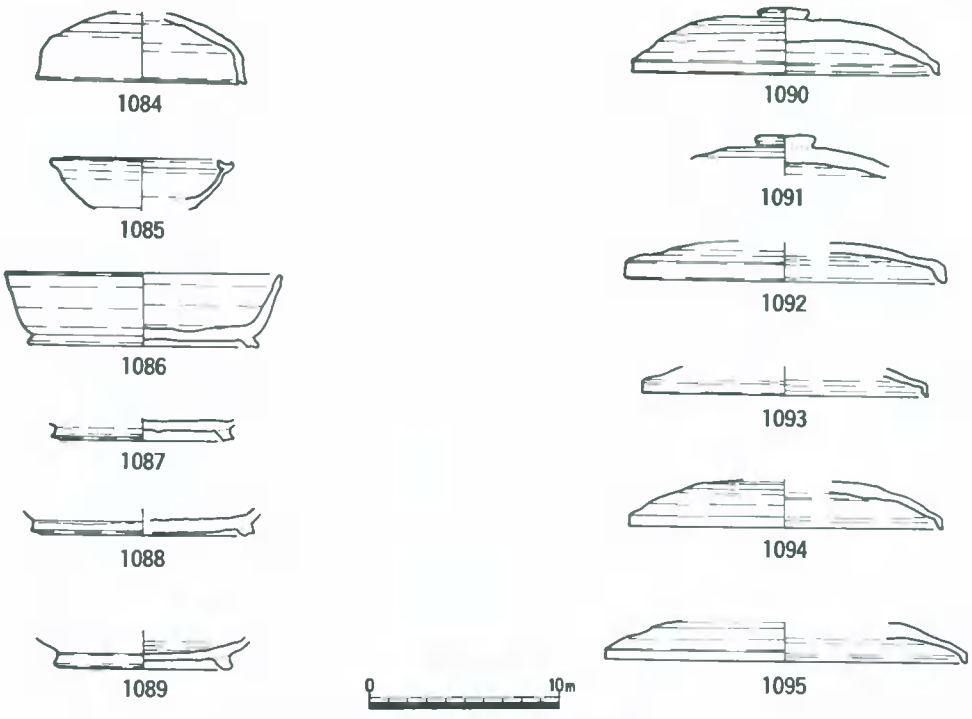
時期は出土遺物等から古墳時代初頭と考えられる。

(3)　製塩土器層

ＡＲ－２製塩土器層（第138・139図）

ＡＲ－２の北部東端で検出された。製塩土器片により堆積層をなしている遺構である。検出された範囲は南北約400㎝で，東側は調査区外におよんでおり東西250㎝程である。この製塩土器層は，第３層の茶褐色土層と第６層の黒色粘質土層との間，海抜200～210㎝程の間にほぼ水平に検出されている。

出土遺物としては，厚手の製塩土器がみられるだけで共伴している遺物はない。**1096**は内彎気味の体部から，少し屈曲部をもって上方に口縁部が立ち上がっている。外面は板状工具により叩かれ，無文である。**1097・1098**は体部からほとんど屈曲部をもたないで口縁部をつくって

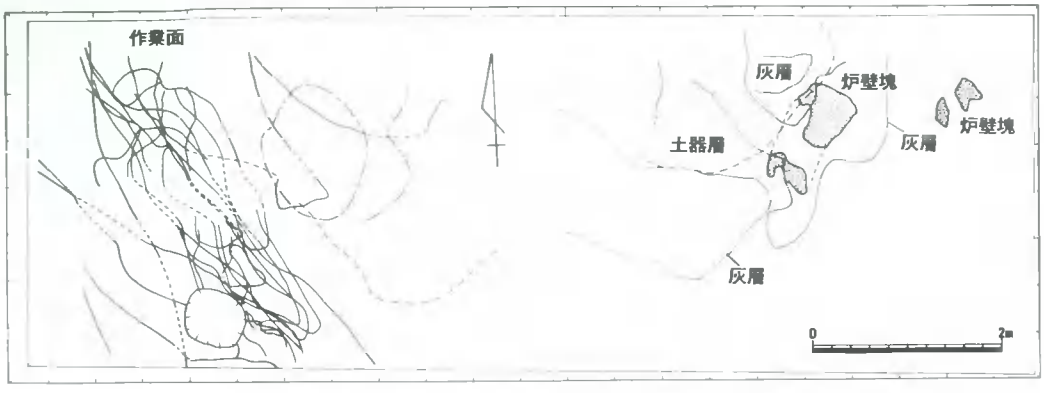


第140図　ＡＲ－２土器層上層の遺物 (1/4)

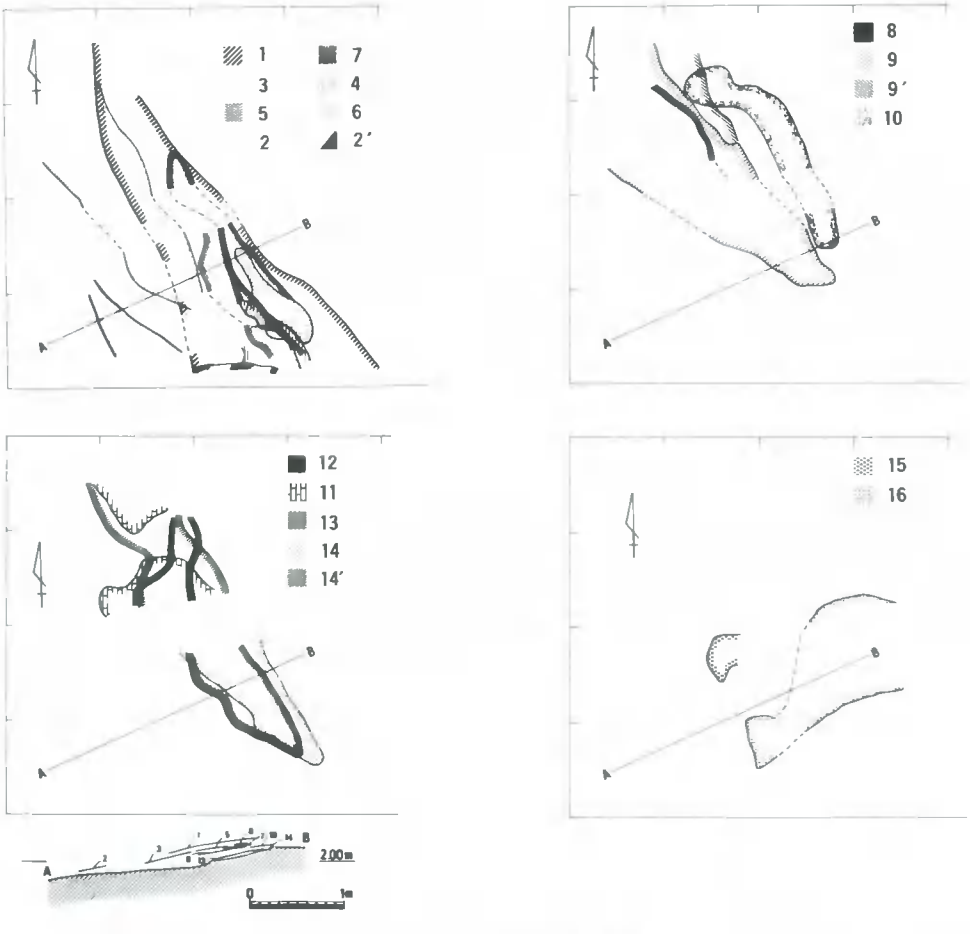
いる。外面は板状工具により叩かれ無文である。**1099**は体部からそのまま内彎気味に立ち上がり口縁部をつくっている。外面は格子目状のタタキがついている。**1100**～**1108**は，体部から屈曲部をほとんどもたないで立ち上がって口縁部をつくっているものであるが，内傾気味に立ち上がるもの（**1104**），外反気味に立ち上がるもの（**1108**）がある。外面はいずれも平行タタキにより調整されているが，**1105**・**1108**は少しナナメの平行タタキである。この図示した以外にも多量の製塩土器片があるが，ほとんどが口縁部を平行タタキにより調整しているものである。

ＡＲ－２土器層上層の遺物（第140図）

ＡＲ－２において検出された製塩土器層上層の第３層茶褐色土層において須恵器等の土器片が出土している。**1084**は口径11.2cmを測る杯蓋である。**1085**は口径8.2cmを測る杯身である。**1086**～**1088**は底部にしっかりと踏ん張った高台が貼り付けられている杯身で，**1086**は口径14.3cm・高台径12.2cm・器台3.9cmを測り，ヨコナデにより調整されている。**1087**は高台径8.5cm，**1088**は高台径約10.6cmを測り底部外面はヘラケズリ，内面はナデ調整されている。**1089**は底部に貼り付けの高台が巡るもので，高台径8.6cmを測る。底部内面は同心円タタキの後ナデで仕上げられている。**1090**は少し偏平になったつまみのついている杯蓋で口径16.3cm・器高3.5cmを測る。内面および口縁部付近はナデ調整され，外面上部はヘラケズリされている。**1091**～**1095**はいずれもつまみのつく杯蓋と思われるが，いずれも細片で口径等は推定である。



第141図　Ｐ－６古墳時代遺構配置図　(1/80)

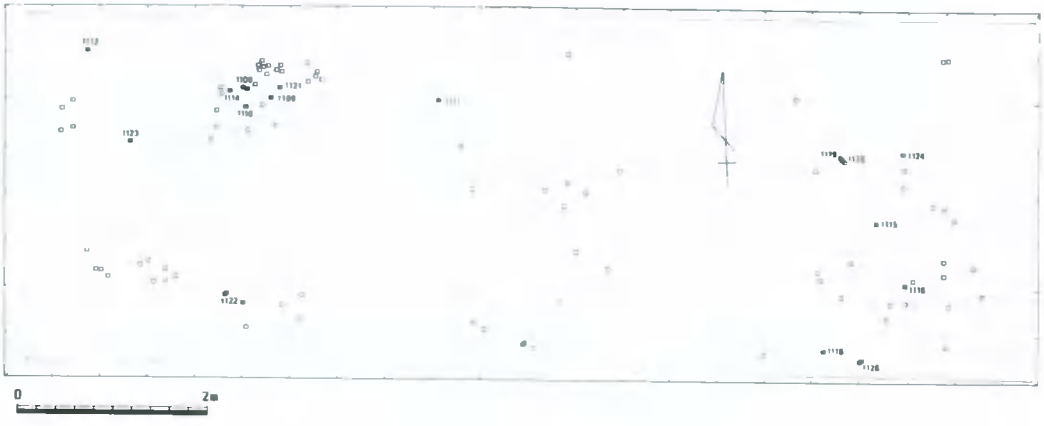


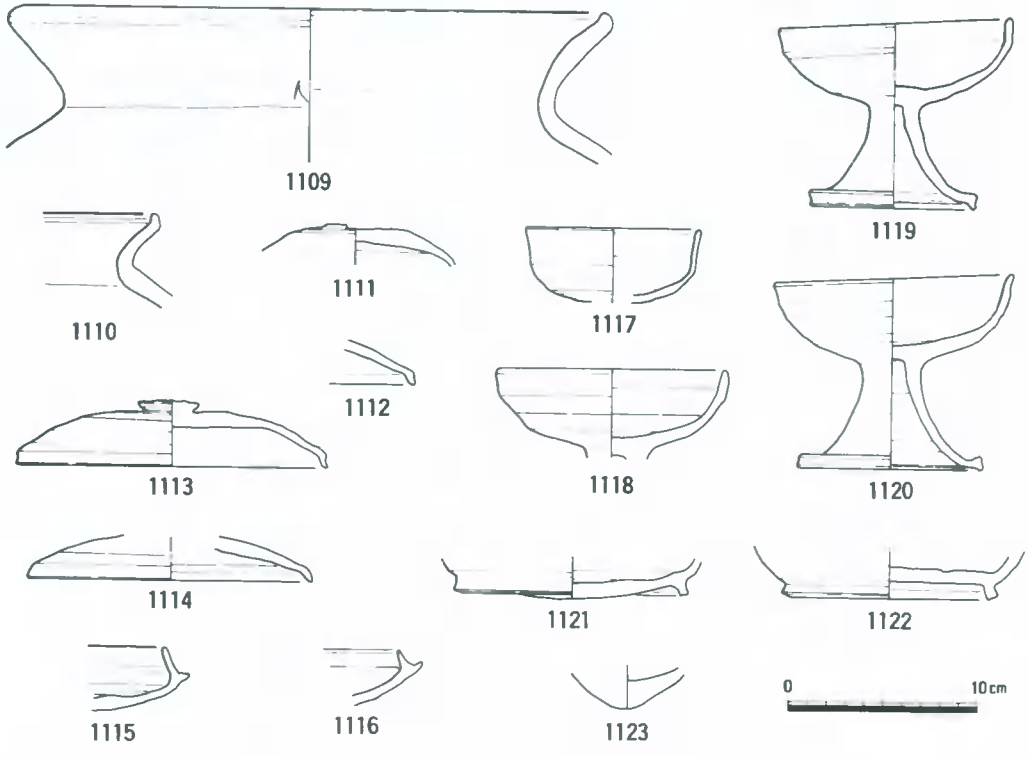
第142図　作業面変遷図　(1/80)

これらの出土遺物にはかなりの時期差がある。

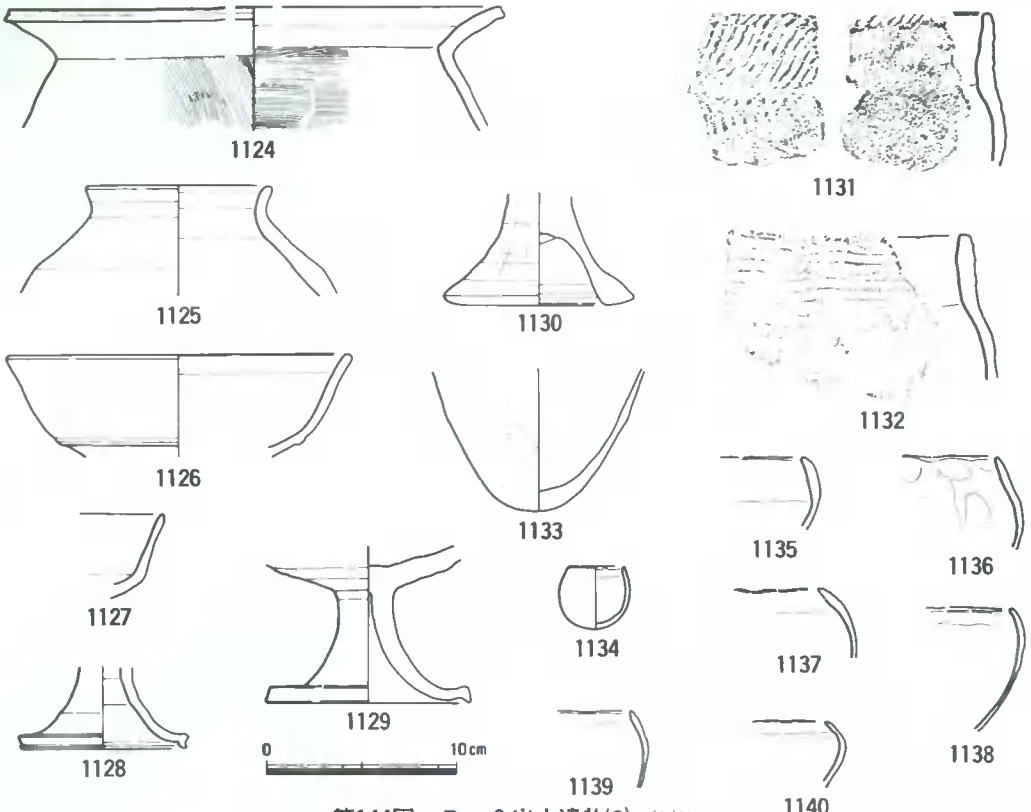
(4) 製塩作業面

Ｐ－６の調査では，表土直下の調査区南西部において，灰の混じった堅い土からなる「作業面」と呼ぶ遺構面が重なり合って検出された。作業面は平面的に16面が確認されている。それ





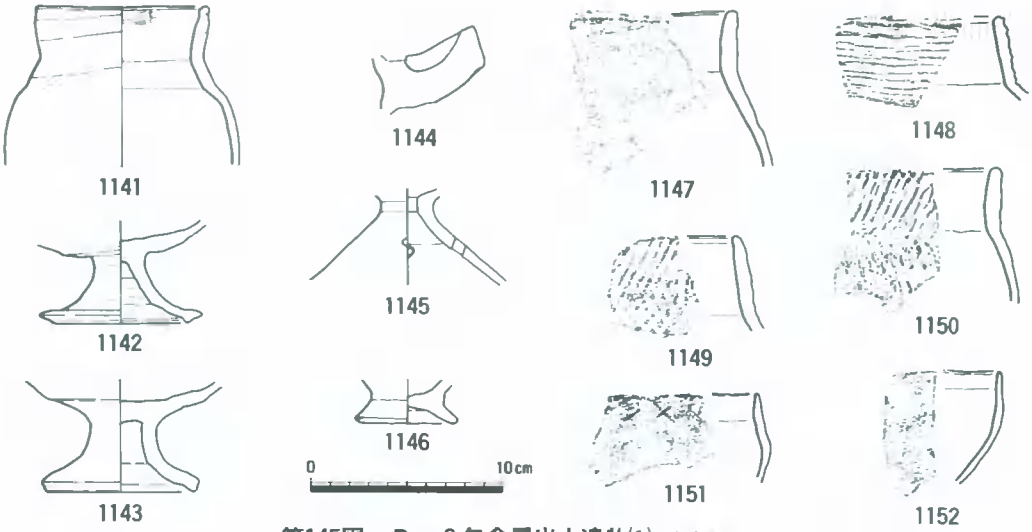
第143図　Ｐ－６出土遺物位置図 (1/80)・**出土遺物(1)** (1/4)



第144図　Ｐ－６出土遺物(2)　(1/4)

ぞれの面は北東から南西へ向う斜面を形成している。平面図でみるとそれぞれの作業面は重なり合ってしまうが，断面図では上で検出された作業面の下に次々ともぐり込んでいる状況が検出されている。実際にこの作業面が出来上がったのは，検出されたのとは逆に，第15・16面が最初であり，次いで第14面，第13面と次第に南西にずれながら形成されていったものと思われる。これらの作業面は，検出された位置が第15面と第16面のように平面的に離れているものもあり，同時に形成されたと思われるものもあるが，各作業面と作業面の間には灰層が入り込み，時間的にずれのあることが確認されている。

これらの作業面および作業面間の灰層に伴って出土している製塩土器は主として1135～1140の薄手の土器である。いずれも指頭圧により調整され内外面に「灰土」と呼ばれる石灰分がこびりついている。また，これらの製塩土器とともに1109～1122・1127～1129の須恵器や1123～1126・1130等の土器が出土したが，そのうち1115・1116はやや遡る須恵器で，1126は時期的に先行する土師器であろうか。1109は口径31cmを測る甕形土器で，口縁内面および肩部外面に自然釉がかかる。1111～1114は杯蓋，1115・1116・1121・1122は杯身で，1121・1122は高台がついている。1117～1120・1126～1129は高杯形土器である。1124は甕形土器で，体部内外面はハ



第145図　P－6包含層出土遺物(1) (1/4)

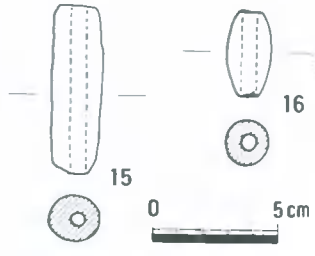
ケメ調整されている。1133は内外面に石灰分の付着した，指頭圧により調整された土器の底部片で，製塩土器の底部と思われる。

P－6ではこの製塩作業面の下から東半の表土直下にかけて土器層および灰層が検出された。土器層は奈良時代と考えられる薄手のものと，古墳時代後半の厚手のものとがみられる。また，この下の包含層からは，製塩土器とともに，2個一対の「炉壁塊」が2か所で検出され，西側の「炉壁塊」の間には焼土がみられる。この外に「炉壁」に用いられた石も出土している。

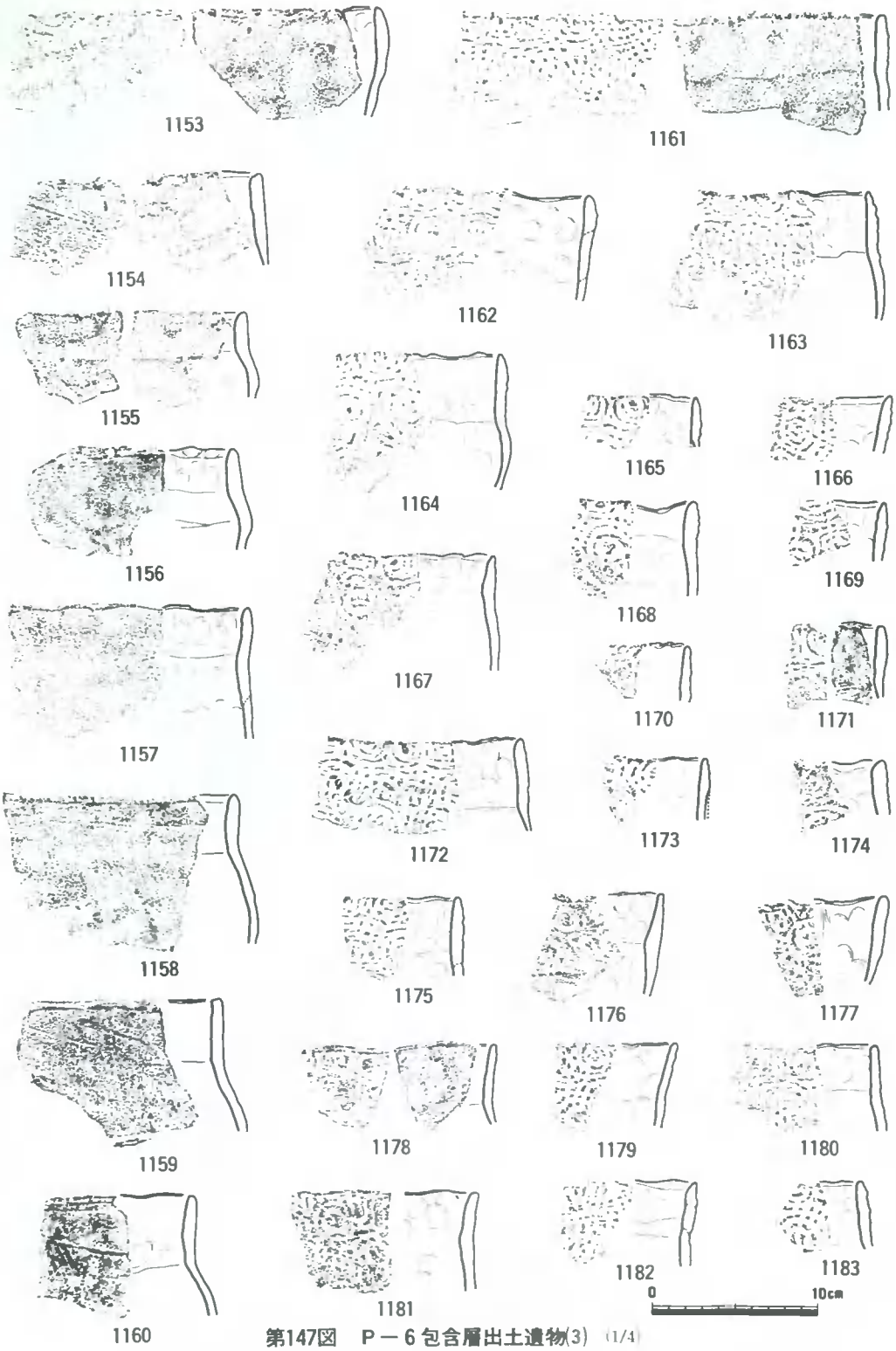
(5)　包含層の出土遺物

P－6　(第145～148図)

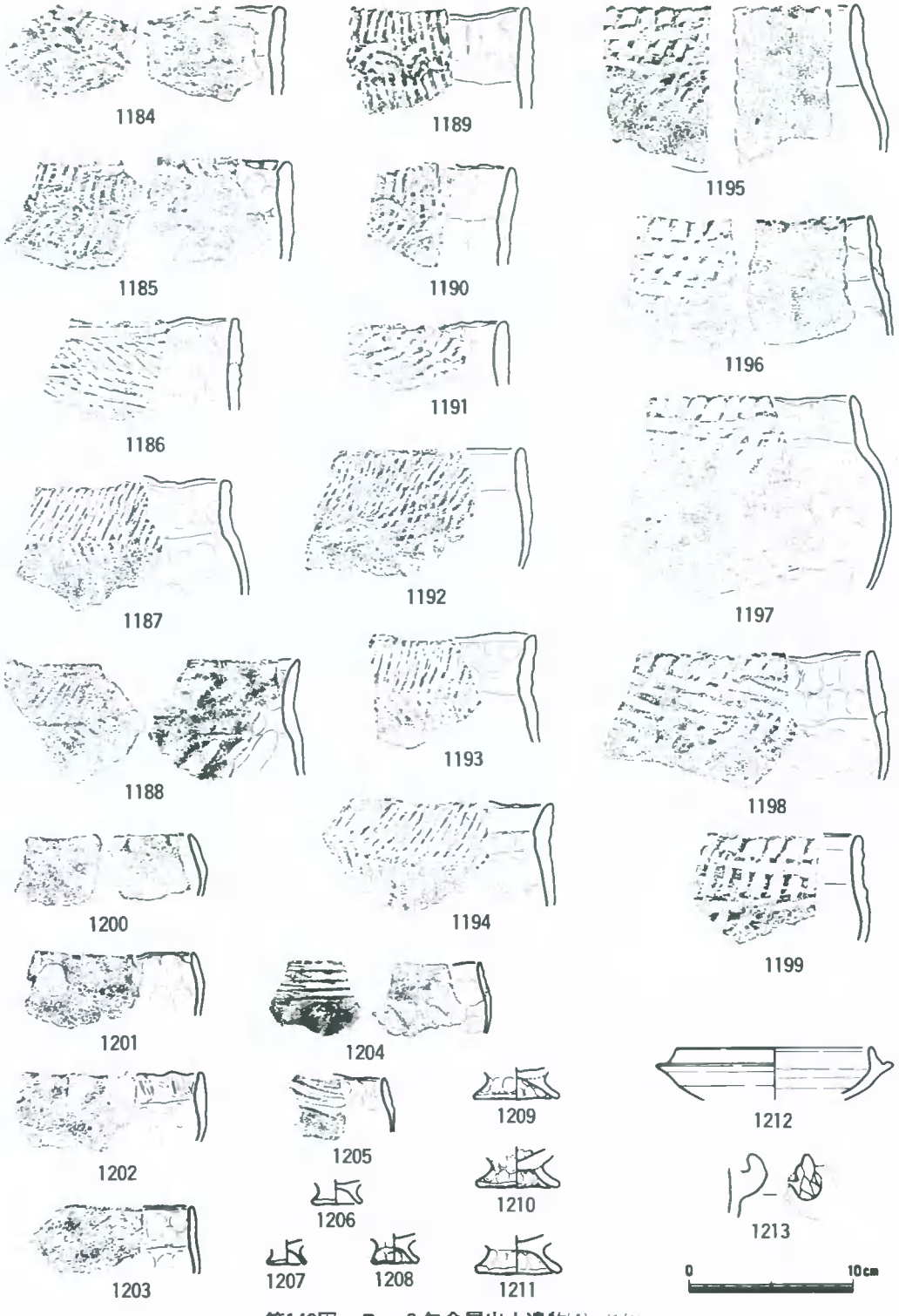
P－6においては茶灰色土層および暗茶灰色土層から製塩土器を中心として多量の土器等の遺物が出土している。1141は土師質の直口壺形土器である。口径は9.0cmを測り外面に粘土の巻き上げ痕が残る。口縁部内面にはハケメがみえる。1142・1143は須恵器の高杯形土器である。1144は甕形土器の把手片で上部にヘラ状工具による切り込みがある。1147～1150は厚手の製塩土器で口縁外面は，板状工具によるタタキ（1147），ヨコの平行タタキ（1148），山形のタタキ（1149・1150）が施されている。1151・1152は薄手の製塩土器で1151の口縁部には「×」文がみられる。これらは下層の暗茶灰色土から出土している。1153～1199は厚手の製塩土器片で，1153～1160は板状工具により叩かれている。1161～1181は同心円のタタキ目がみられる。1182～1184・1189・1191は同心円を弧状のタタキを重ねている。1187～1194は山形のタタキ，



第146図　P－6包含層出土遺物(2) (1/3)



第147図　Ｐ－６包含層出土遺物(3)　(1/4)



第148図　P－6包含層出土遺物(4)　(1/4)

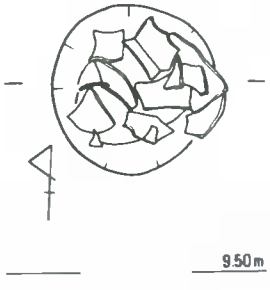
1195～1199はタテ方向の太目の平行タタキ目の上にヨコ方向のタタキ目を重ねたものである。1200～1205は薄手の製塩土器片で，1200～1203は指頭ナデされている。1204・1205は口縁外面に平行タタキが施されている。1206～1211は台付の製塩土器の脚部片で，1206～1208は脚部がかなり小さくなっているもの，1209～1211はしっかりとした脚部をもつもので，いずれも指頭ナデによりまとめている。1212は口径11.8cmを測る須恵器の杯身，1213は須恵器の甕形土器の上方に立ち上がる把手片である。この他に土錘が2点出土している。15は長さ6.6cm・幅2.0cmを，16は長さ3.3cm・幅1.8cmを測る。

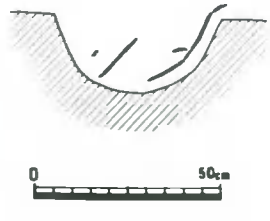
4　古代以降の遺構・遺物

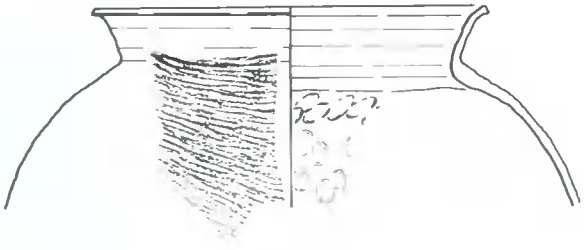
(1) 土　　壙

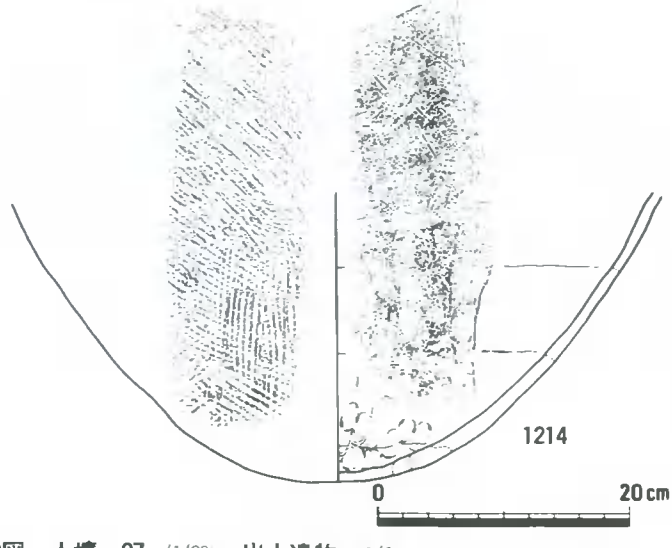
土壙－27（第149図）

丘陵南裾部96－Dで，竪穴住居址－1を切り込んで検出された遺構である。平面形は直径45cm程の円形を呈し，深さは海抜9.10mの検出面から25cmを測る土壙内に1214の甕形土器が埋められている。上部は後世の削平を受けているもの







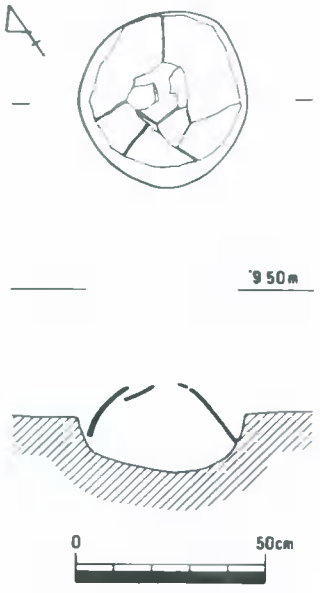


第149図　土壙－27（1/20）・出土遺物（1/6）

と思われ，当初の状況は明確ではないが，検出状況からみて甕棺墓であった可能性が考えられる。

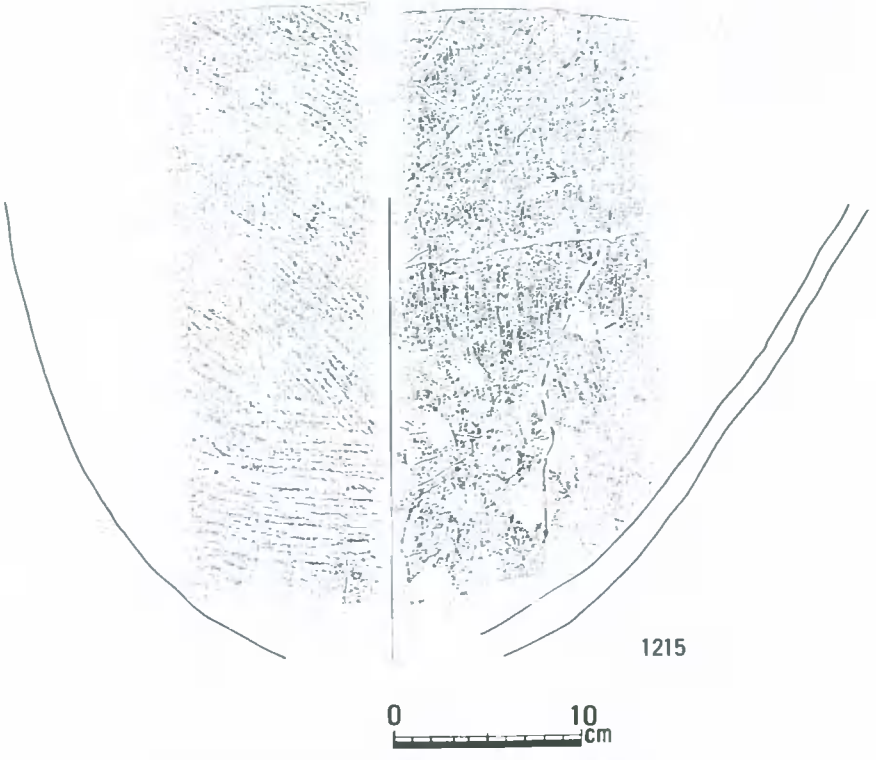
出土遺物としては1214の甕形土器以外は何も見い出せなかった。この甕形土器は口径31cmを測り，くの字状に外反した口縁の端部を少し外反し，ほとんど拡張しないでまとめている。肩部は少し張りをもち，肩部から胴部にかけて最大径となる。胴部下半は次第にすぼまり底部は丸底状を呈する。調整は，口縁部ヨコナデ，外面体部は格子目タタキ後ナデ，内面は肩部および底部は指頭ナデ，胴央部は板状工具によりナデられている。

時期は出土している甕形土器からみて13世紀頃と考えられる。



土壙－28（第150図）

丘陵南裾部96－Dの土壙－27から60cm程南東において，



第150図　土壙－28 (1/20)・**出土遺物** (1/4)

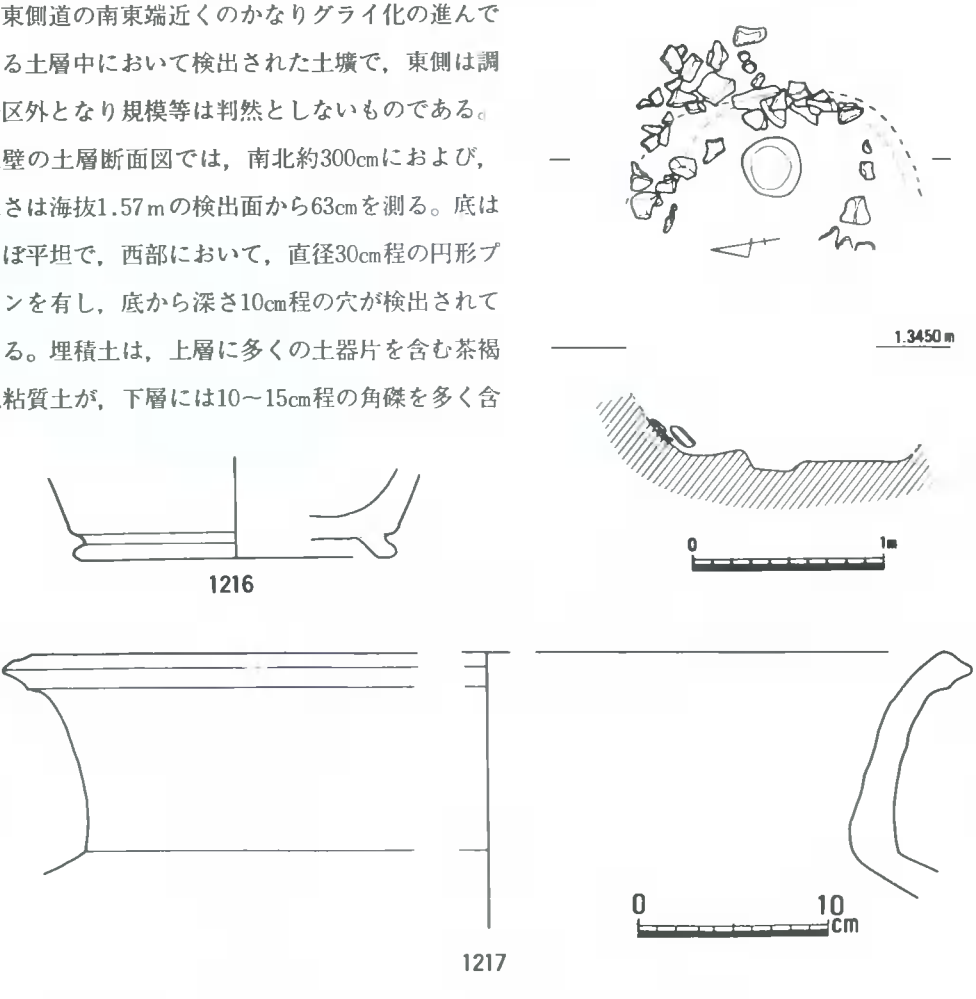
竪穴住居址－１を切り込んで検出された遺構である。平面形は直径45㎝程の円形を呈し，深さは海抜9.25ｍの出土した土器の上端から25㎝を測る。埋積土は，灰茶褐色土が堆積し，1215の甕形土器の底部片が下向きに埋められている。上部は後世の削平を受けているものと思われ，当初の状況は明確ではないが，検出状況からみて底部片により覆われた埋葬施設ではないかと思われる。

出土遺物としては，1215の胴部下半片以外には何も見い出せなかった。この土器は肩部から胴部上半にかけて最大径をもち底部にかけて次第にすぼまり丸底状の底部となる甕形土器である。調整は，外面格子目タタキ，内面指頭押圧ナデされている。

時期は，出土している土器からみて，土壙－27とほぼ同時期の13世紀頃と考えられる。

土壙－29（第151図）

東側道の南東端近くのかなりグライ化の進んでいる土層中において検出された土壙で，東側は調査区外となり規模等は判然としないものである。東壁の土層断面図では，南北約300㎝におよび，深さは海抜1.57ｍの検出面から63㎝を測る。底はほぼ平坦で，西部において，直径30㎝程の円形プランを有し，底から深さ10㎝程の穴が検出されている。埋積土は，上層に多くの土器片を含む茶褐色粘質土が，下層には10～15㎝程の角礫を多く含



第151図　土壙－29 (1/40)・**出土遺物** (1/4)

む，黒褐色粘質微砂が堆積している。

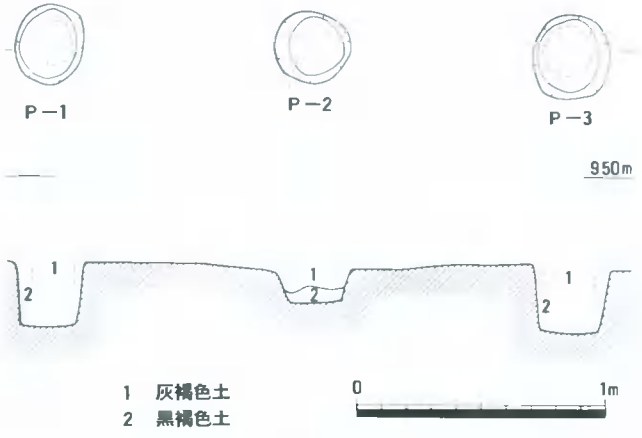
出土遺物としては，上層に土器片が多くみられたが，いずれも細片である。**1216**は須恵器の長頸壺形土器の底部片である。**1217**は，くの字状に外反した口縁の端部を少し外方に拡張している須恵質の甕形土器の口縁部片である。いずれも細片で径は推定である。

時期は，出土遺物から12世紀頃と考えられる。

(2) 柱 穴 列

柱穴列－1（第152図）

丘陵南裾部96－Eの西端で，竪穴住居址－1を切り込んで検出された遺構である。直径30cm



第152図 柱穴列 (1/30)

程の円形プランを有する柱穴が3本並んで検出されている。P－1は海抜9.16mの検出面から深さ25cmを測り，中央に直径17cm程の円形のプランを有する柱痕跡が確認されている。P－2は海抜9.13mの検出面から13cmの深さを測り，埋積土は上層に灰褐色土が，下層に黒褐色土が堆積し，柱痕跡はない。P－3は，海抜9.15mの検出面から27cmの深さを測り，中央に直径20cm程の円形のプランを有する柱痕跡が確認されている。各柱穴間の心々距離は，102cmを測るが，P－2は検出状況が若干異っており，補助的な性格をもつものとも考えられ，P－1とP－3の心々距離は205cmを測る。このP－1とP－3を結ぶ方向は南北ラインから約8°東へ振っている。

なお，この柱穴列に伴うと思われるものは，他に検出されておらず性格等は不明である。

時期は出土遺物がなく判然としないが，中世頃と思われる。（内藤）

第5節　小　　結

ここでは，縄文時代の遺物について，その時期的な位置付けをしておきたい。

前期（第153図）は，ⅠからⅡに類別することができたのである（以後，前期Ⅰ類・前期Ⅱ類とする）。前期Ⅰ類は，薄手で焼成の良好な土器であり，その縄文施文内容から磯ノ森式[註1]と類似した内容を示すのである。

前期Ⅱ類は，内外面にＲＬの縄文を施文し，外面は2本の細い平行沈線を描くものである。この内容を示すものは，彦崎ＺⅡ式あるいは里木Ⅰ式とされるものである。

中期（第153・154図）は，ⅠからⅧに類別することができたのである（以後，中期Ⅰ類・中期Ⅱ類・中期Ⅲ類・中期Ⅳ類・中期Ⅴ類・中期Ⅵ類・中期Ⅶ類・中期Ⅷ類とする）。中期Ⅰ類は，キャリパー形の口縁部を形成し，口縁部内面を突帯状に肥厚させる。この突帯部と器面に粒の太い縄文原体を施しているのである。このような内容を示すものは，和歌山県鷹島遺跡[註2]出土の鷹島式にみられるのである。

中期Ⅱ類は，粗く硬い繊維のため条が縦行する特徴的な縄文原体を用いるものである。また，爪形文を多用していることが認められる。このような内容を示すものは，里木貝塚出土の船元Ⅰ式Ａ類とされるものにみられるものである。

中期Ⅲ類は，Ⅱ類と同じ縄文原体をもつものである。口縁部外面には，アルカ属の殻頂部による押圧痕また隆起帯を用いている。このような内容を示すのは，里木貝塚出土の船元Ⅱ式Ａ類に近いのである。

中期Ⅳ類は，中期Ⅱ類以来の特徴的な縄文原体を用いるもので，突帯とその上からの押し引き状の沈線を施している。この他に，細い沈線を用いているのも認められる。このような内容を示すのは，里木貝塚出土の船元Ⅲ式Ａ類としたものに近いのである。

中期Ⅴ類は，中期Ⅱ類以来の特徴的な縄文原体を用いなくなり，深浅交互の縄文を用いるのである。このような内容を示すのは，里木貝塚出土の船元Ⅳ式または里木Ⅱ式の古段階とされたものである。

中期Ⅵ類は，撚糸文の地文を用いるものである。このような内容を示すのは，里木貝塚出土の里木Ⅱ式また里木Ⅱ式の新段階とされるものである。

中期Ⅶ類は，地文にアルカ属の条痕を施すものであり，その上に半截竹管状の沈線を用いている。このような内容を示すものは，福田貝塚出土の福田Ｃ式また里木貝塚出土の里木Ⅲ式とされたものである。

中期Ⅷ類は，口縁部に文様帯をもつもので，太い沈線による文様を描いている。文様は，磨

消縄文となるものもみられ，燃りはＲＬ・ＬＲの両者が認められる。また，アルカ属の条痕も，残されている。このような内容を示すものは，県内において具体的に明らかにされていないのである。

中期は，その初めの段階から終末と考えられるまでのⅠ類からⅧ類までに類別することができた。この類別は中期の間において空白期がなく連続した流れとして把握することができたのである。

後期（第154・155図）は，ⅠからⅥに類別することができたのである（以降，後期Ⅰ類，後期Ⅱ類・後期Ⅲ類・後期Ⅳ類・後期Ⅴ類・後期Ⅵ類とする。）後期Ⅰ類は，太い沈線により曲線を多様するものである。文様は，磨消縄文・巻貝による擬状縄文，沈線文などがみられる。器面の調整は，巻貝条痕を多用している。このような内容を示すものは，中津式とほぼ共通するものである。

後期Ⅱ類は，２本ないし３本の沈線によって磨消縄文を施文するものである。また沈線の先端が巻き込むようになるが，対向する沈線は連続しないという特徴をもつのである。浅鉢形の器形を有するものは，口縁部から下がった内面に突帯をつくり縄文帯とするものが多く認められている。このような内容を示すものは，福田ＫⅡ式とされるものと共通したものである。

後期Ⅲ類は，口縁部外面を肥厚させその部分に縄文を施文するものである。このような内容を示すものは，津雲Ａ式と類似するものである。

後期Ⅳ類は，口縁部内面に沈線と縄文を施文するものである。頸部を無文帯とする鉢形土器は，頸部と胴部の明瞭な段はなく沈線を加えるものも認められる。このような内容を示すものは，彦崎ＫⅡ式とされるものである。

後期Ⅴ類は，内面あるいは外面にヘラ描沈線と細いキザミを施文するものである。このような内容を示すものは，馬取貝塚出土のものに多くはないが出土しているようである。

後期Ⅵ類は，Ⅴ類のヘラ描沈線文が巻貝による沈線になったものである。キザミ目文・巻貝の側面圧痕文，巻貝の殻頂による刺突文などが施文されている。このような内容を示すものは，馬取式および福田ＫⅡ式に類似しているのである。

後期は，ⅠからⅥに類別されたが，中葉段階において土器の流れに空白期が存在していることが知られる。また，Ⅰ類における器種及び文様の多様さは，これまでのこの期の内容をより具体的に把握することを可能にさせている。

晩期（第156・157図）は，ⅠからⅤに類別することができた（以降，晩期Ⅰ類・晩期Ⅱ類・晩期Ⅲ類・晩期Ⅳ類・晩期Ⅴ類とする）。晩期Ⅰ類の粗製土器は，やや長めの口頸部をもち，屈曲もゆるやかであり，胴部の張りは口縁部よりも外へ出ないようである。口縁部外面にヨコのアルカ属による条痕が見られ，胴部はヨコのサッ痕あるいはタテの同様の条痕が認められる。

精製土器は，外方に大きく外反する口縁端部をさらに上方に大きく立ち上がらせるものである。このような内容を示すものは，黒土遺跡や中山遺跡において量は少ないが出土している。

晩期Ⅱ類の粗製土器は，強く外反するものとゆるやかに外反する口頸部をもつものが認められる。口唇部は，面取りしたものが主体を占めそこに押圧痕あるいはキザミを付している。口頸部には，横位のアルカ属の条痕を明瞭に残すものが多く認められており，文様としての意識があったものと考えるのが妥当であろう。精製土器は，Ⅰ類にみられた口縁端部の立ち上がりはめだたなくなる。口縁端部内面には，ケズリ出しによる段をつくっている。鉢部から口頸部への屈曲は，逆くの字のように強くなっている。このような内容を示すのは，舟津原式とされるものである。

晩期Ⅲ類の粗製土器は，胴部からゆるやかに外反する口頸部をもつものである。胴部の屈曲は，口径より小さくなり，その屈曲部に爪形刺突文を施文する。口頸部には，アルカ属の条痕地文を施したあと沈線による文様を加えている。口唇部には，キザミを加えている。精製土器は，口縁端部にカマボコ状の突帯を付すものである。また口頸部が短く屈曲する器種は，その屈曲がゆるやかになり内面の段も丸くなってしまう。このような内容を示すものは，原下層式あるいは，谷尻遺跡のNo.130土壙出土遺物に類似する。

晩期Ⅳ類の粗製土器は，口縁端部外面に貼り付け突帯文を付すものである。胴部の屈曲部には刺突文を用い突帯および口唇部にもキザミを付している。また口頸部にみられるアルカ属の横位の条痕は顕著でなくなる。精製土器は，鉢部の屈曲がゆるやかになり口頸部の立ちあがりが上方になる傾向を示す。このような内容を示すものは，黒土ＢⅡ式とされるものに類似する。

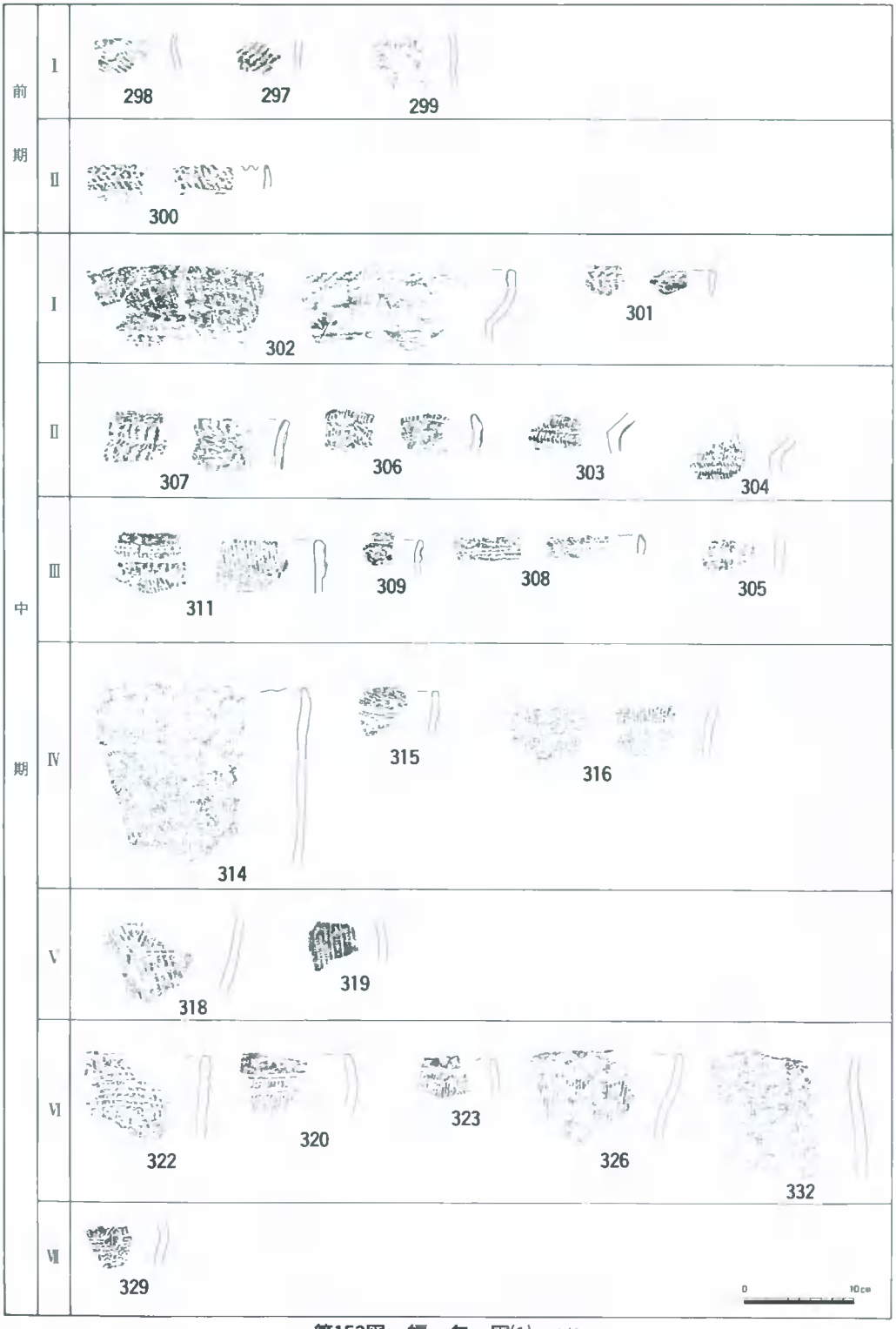
晩期Ⅴ類の粗製土器は，突帯文が口縁直下に付されるものである。精製土器は，明らかに類別することができないが，口縁部端が丸くなる碗状の土器が伴うと考えている。このような内容を示すのは，沢田式と類似するのである。

以上が阿津走出遺跡における前期から晩期にいたる類別である。この類別は，それぞれの段階において問題を含んでいることを述べてきている。このことについては，先に報告した舟津原遺跡の出土資料と伴に改めて第22章で述べる。　　（下澤）

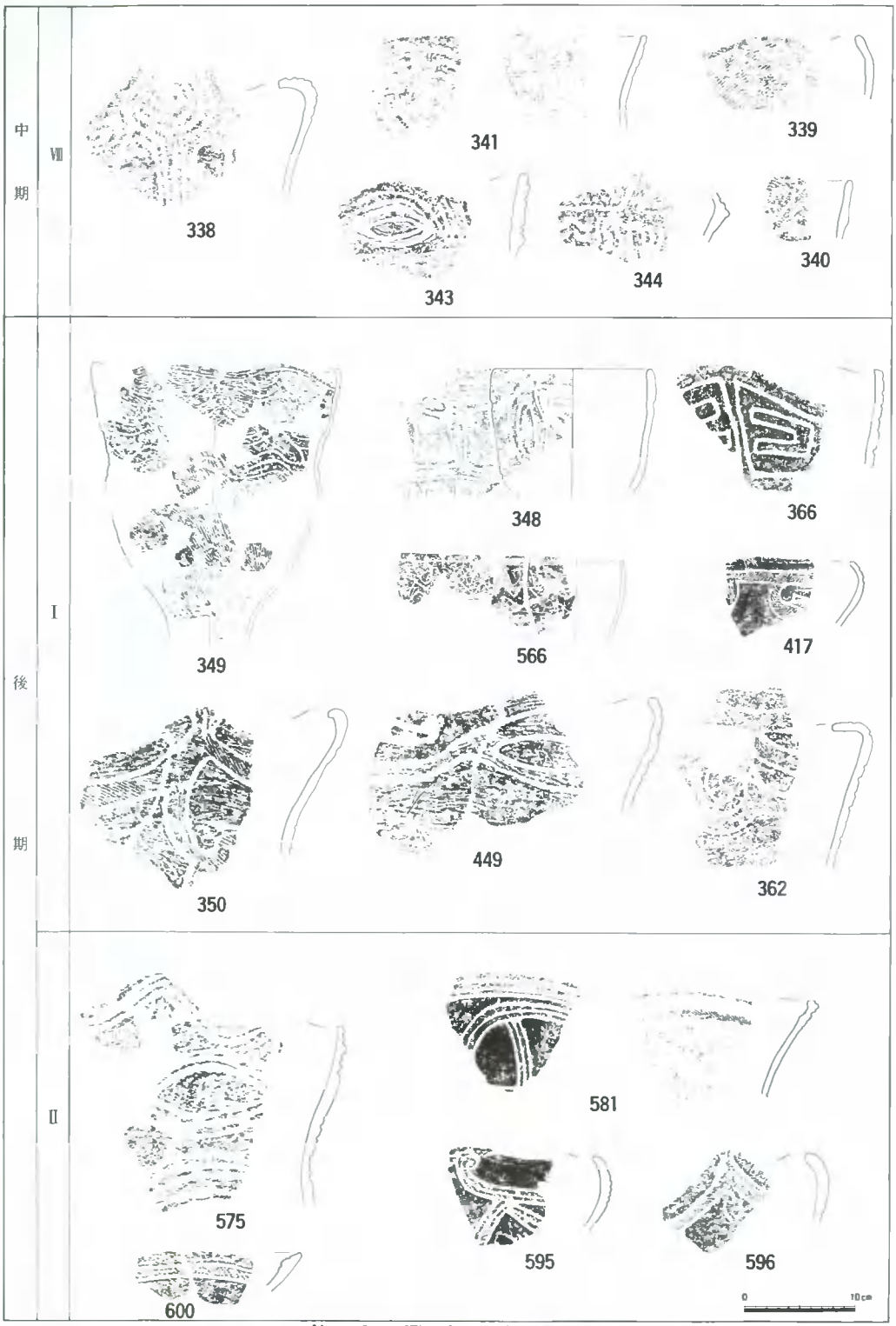
註

註1　第9章の小結の文中に同様の遺跡を引用しており，註の重複を避けるため同じものは註を付さない。

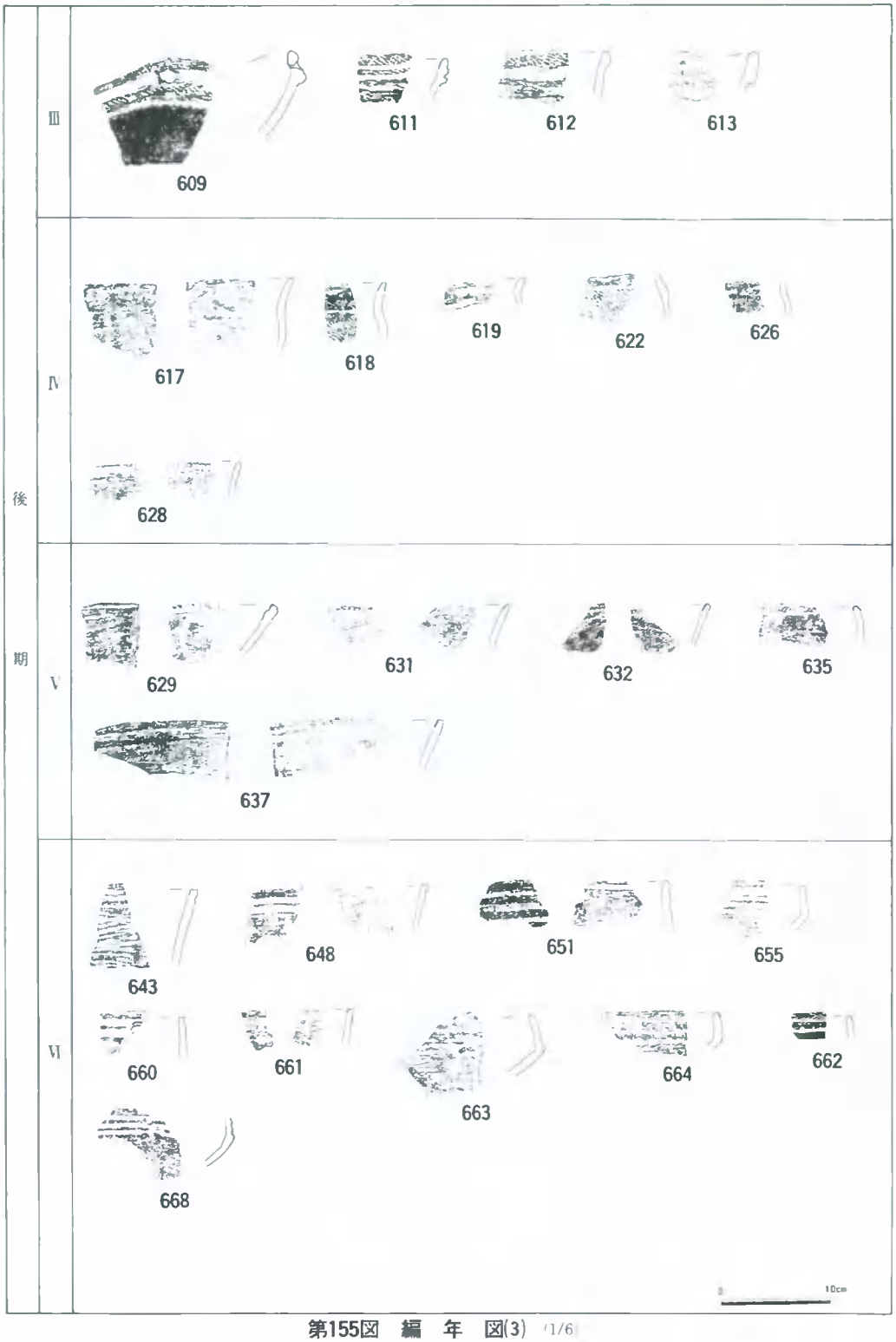
註2　巽三郎・中村貞史『鷹島遺跡発掘調査報告書』南紀考古同好会　1969年



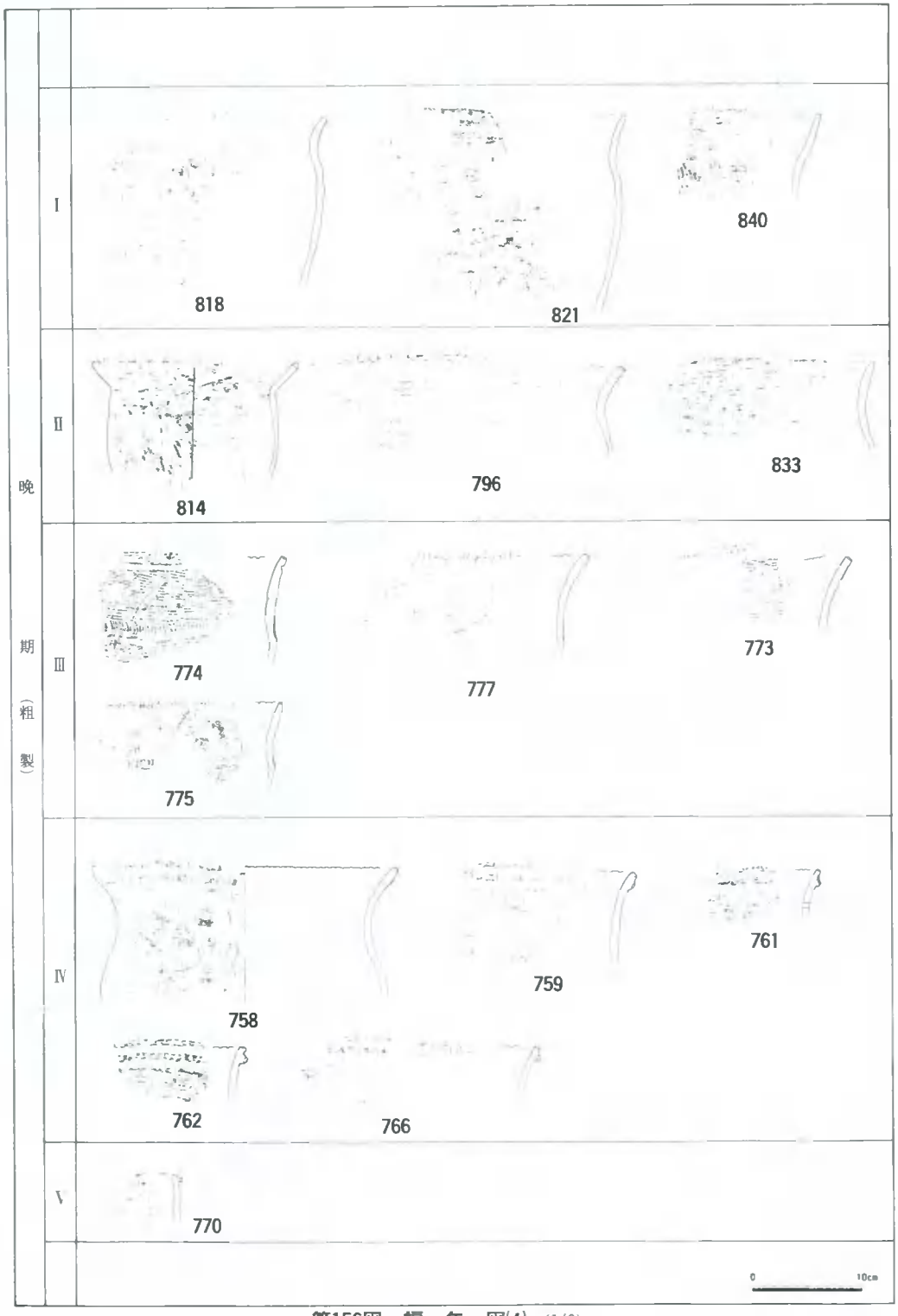
第153図　編　年　図(1) (1/6)



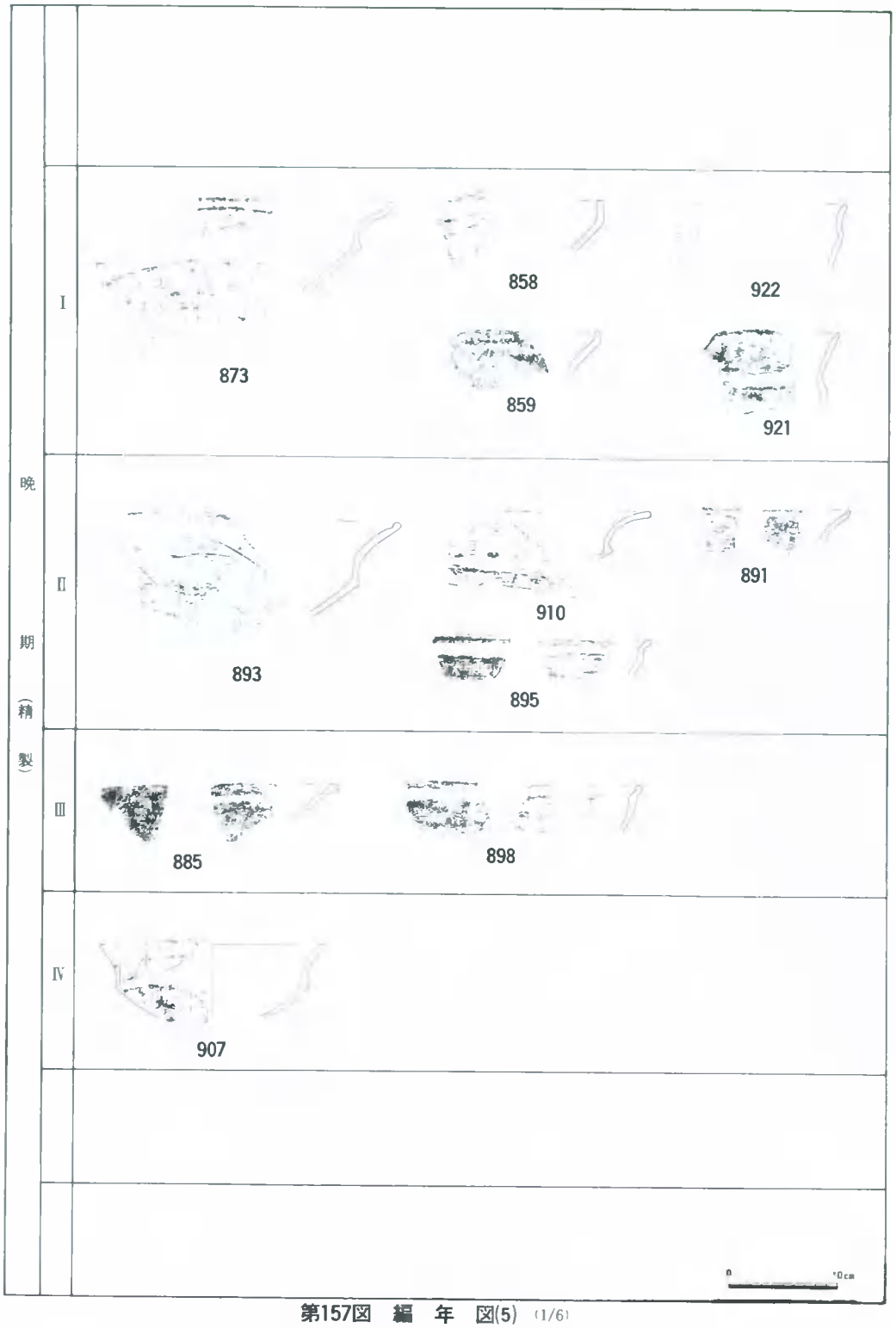
第154図　編　年　図(2)　(1/6)



第155図　編　年　図(3)　1/6



第156図　編　年　図(4)　(1/6)



第157図　編　年　図(5)　(1/6)

第10章　阿津丘陵散布地の調査

第１節　遺跡の位置

主要地方道玉野・玉島線が新庄八幡宮の北端を抜け，阿津走出遺跡を通り海岸部へと走る。東に児島競艇場をみながら下津井電鉄の琴海駅を上にみ，大畠漁港のある細い道を鷲羽山へと向う。この道の西側は，神道山となり遺跡はこの山から派生する支丘上に位置している。

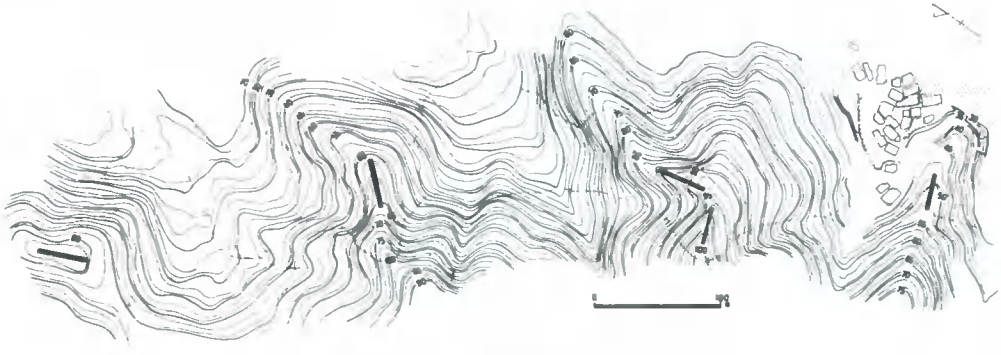
第２節　調査に至る経緯

阿津走出遺跡の調査中に，阿津丘陵部の工事着工のため一次調査の実施の要望があった。現状では２か所で調査を実施しているため，これを受けることは困難であった。しかし，公団から阿津走出遺跡を中止してもよいということであったため，急遽対応することとなった。

第３節　一次調査の結果

新庄八幡宮の南，阿津走出遺跡の南，競艇場の西，下津井電鉄琴海駅の西のそれぞれの尾根について遺跡の有無が調査された。５本のトレンチを設定したが，いずれの地点においても15cmほどで花崗岩の基盤に達する。また堆積土も表土の腐食土のみである。

以上のことから，この地点においては一次調査で終了した。　（下澤）



第１図　トレンチ調査位置図　(1/6,000)

第11章　石ノ塔伏台場跡の調査

第１節　遺跡の位置

県道鷲羽山停車場線が扇峪隧道を抜け，下津井電鉄の踏切りを通り線路を見ながら走る。下津井電鉄鷲羽山駅を左折して切り通しの細い道に入り，この道の右が石ノ塔伏台場跡である。この部分は，神道山から南へのびる丘陵と鷲羽山から北へのびる丘陵の鞍部となり，また最も狭った地形を示す。

ここは瀬戸内海国立公園の事務所があった場所であり，その撤去のため機械が人りさら地にされていたのである。

第２節　調査に至る経緯

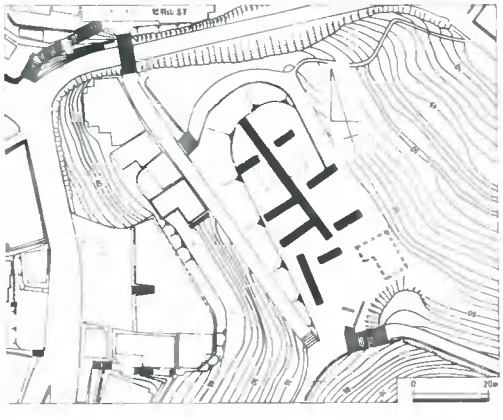
阿津走出遺跡と舟津原遺跡の２遺跡の調査を実施中に要望があった。現状では対応することが困難であることの旨を伝えたが，鷲羽山トンネルの工事工程からして早急に対応との再々の要請があった。９月の上旬になって舟津原遺跡の見通しがつき，また阿津走出遺跡よりも先に対応との公団からの要望により，阿津走出遺跡の調査を中断して実施することにしたのである。

第３節　一次調査の結果

石ノ塔伏台場跡については，岡山大学蔵の池田家文庫の中に〝石ノ塔伏台場〟とした絵図が残されている。また田之浦御台場と同様に，遺存状態が良いのではないかと推測された。

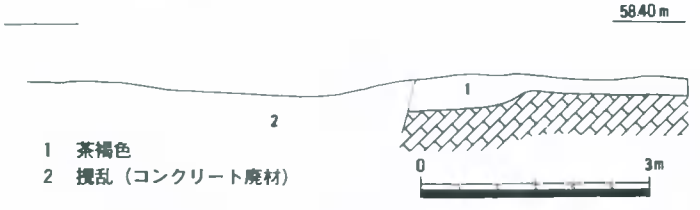
伏台場の遺構の遺存状態を把握するため，1,200㎡ほどの平坦部に９本のトレンチを設定した。

Ｔ－１（第４図）は，平坦部の中央部



第１図　トレンチ調査位置図（1/2,000）

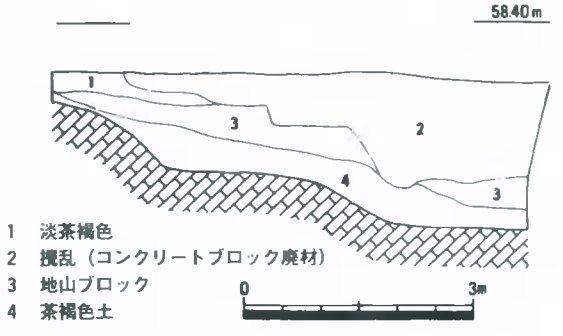
をほぼ南北に通すもので，これによって遺構の遺存状態がほぼ把握できると考えられた。表土下50～100cmで基盤層の花崗岩に達し，トレンチ北寄りで下がっていく。基盤面は凹凸の高低は認められるがほぼ平坦であり，トレンチ中央北寄りに攪乱穴があり，またその先には建物のコンクリートが２か所残されていた。土層は地山ブロックを多量に含む茶褐色の１層で，北の斜面部に基盤のブロックが認められる。Ｔ－３（第２図）は，表土下20～30cmで花崗岩の基盤層に達し，比較的平坦な面を示す。しかしトレンチの３分の２ほどは，コンクリート廃材を埋めた穴が掘られている。Ｔ－４（第３図）は，表土下40～190cmで基盤層に達し，基盤層は段状を示し下がっていく。土層はコンクリートの廃材が斜面に押し出された状態で，



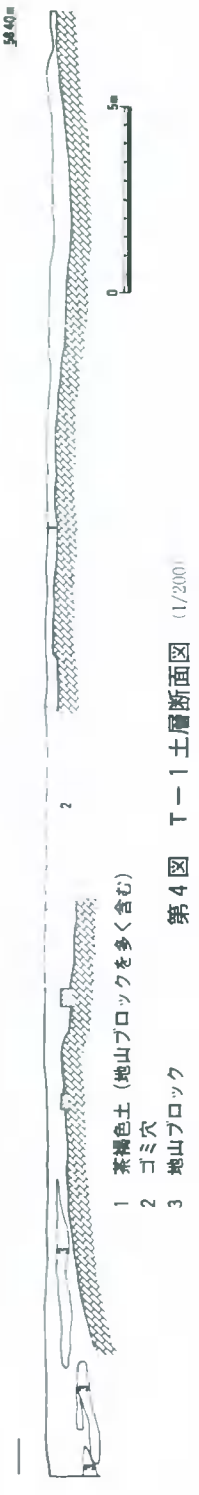
第２図　Ｔ－３土層断面図（1/100）

地山ブロックも厚く認められる。４層の茶褐色土の面が旧地形を残していると推測されるが，確認することはできなかった。以上のように，当伏台場はコンクリート廃材が認められたことから既存施設の撤去時とその設置の際にも大きな影響を受けたものと考えるのが妥当であろう。

このような結果から一次調査において終了した。（下澤）



第３図　Ｔ－４土層断面図（1/100）



第４図　Ｔ－１土層断面図（1/200）

第12章　菰池（こもいけ）遺跡の調査

第１節　遺跡の位置

調査地点は，主要地方道玉野・玉島線の味野中学校のところで南西に折れ，県道味野・呼松線に入る。この道路から赤崎幼稚園や赤崎保育園のある旧道へ入るのである。この旧道は，山裾に沿って曲りくねって走っており，鷲羽山スカイラインの橋脚の下を抜けて主要地方道玉野・玉島線に接続するのである。この交差点から南東へ300ｍほど戻った丘陵裾部が今回の調査対象となった地区である。

菰池遺跡は，昭和27年に鎌木義昌氏等により調査が実施されている。この時の調査地点は，旧道沿いの際の小区画であった。今回調査対象となった地区は，これより南西方向によった山裾に相当している。そして，第２章第２図中の菰池越遺跡との間，北西に延びる丘陵裾部である。

第２節　調査に至る経緯

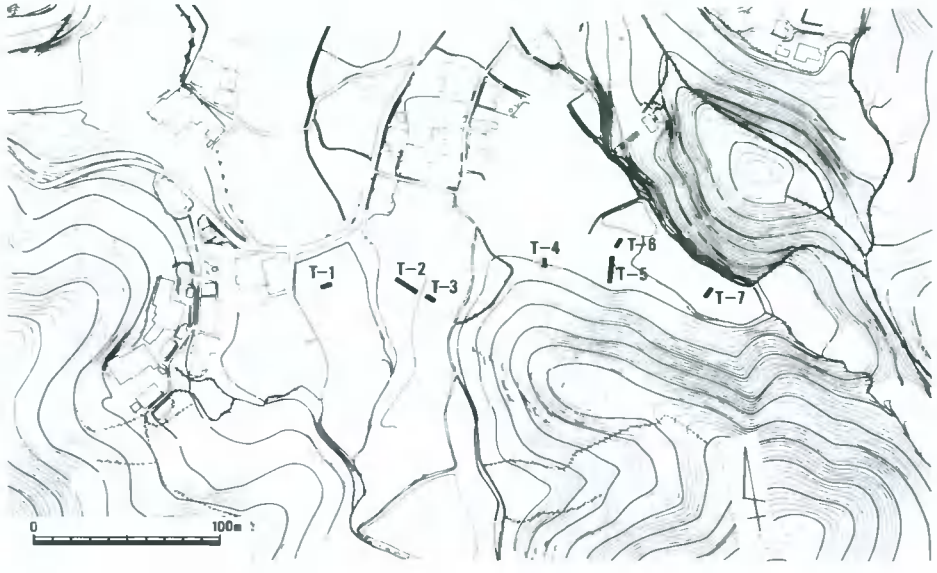
菰池遺跡は，昭和27年に行われた鎌木義昌氏らの調査により，弥生時代中期中葉の土器の出土した標式遺跡である。遺跡は調査された地点から南側の北西に延びる丘陵の先端部にかけて広がっていることが分布調査により確認されていたものである。第一次調査は阿津走出遺跡の調査を行っていた，昭和58年３月に実施した。

全面調査は、用地買収等の問題が解決した後の，てんぐ山散布地の一次調査終了後、昭和59年11月にまずＢ区から着手した。しかしその後すぐに，すでに工事が始まっていた天王遺跡の調査を先行させることになり，一時中断せざるを得なくなった。調査は12月に再開されたが，同時に中断していた阿津走出遺跡の調査が再開され，同時に併行して行うことになった。阿津走出遺跡の調査が終了した昭和60年２月から，工事工程の関係で調査の急がれるＡ区の調査を開始し，昭和60年６月に終了した。一時中断していたＢ区の調査は昭和60年６月に再開し，まず工事用道路の急がれる北東部について調査を先行し，この部分を昭和60年６月末に終了した。また残りのＢ区の調査は７月末に終了した。なおＣ区については，昭和60年12月に調査を行い，菰池遺跡の調査を終了した。

第３節　一次調査の結果

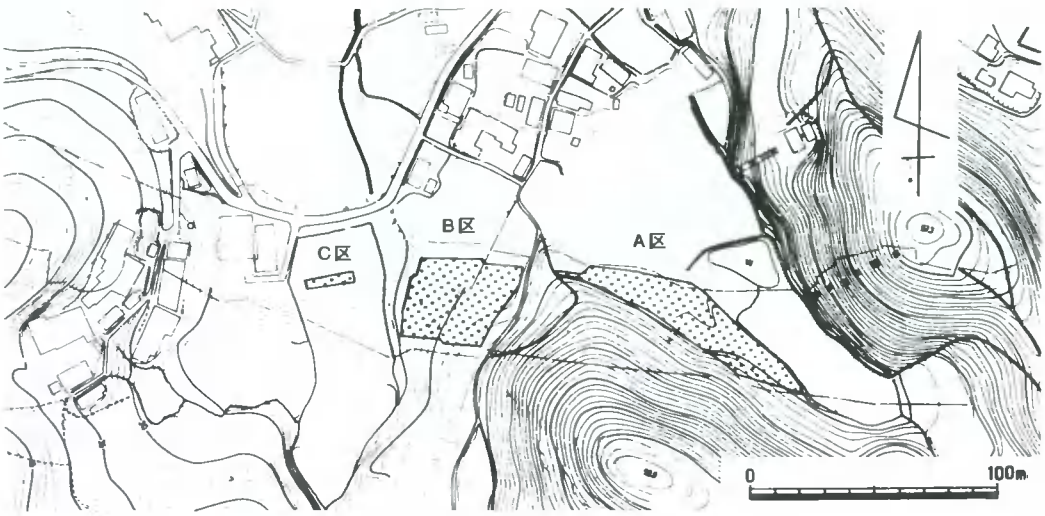
昭和58年３月１日から24日まで一次調査を実施した。用地は山林となっている丘陵部と畑に開墾されている丘陵裾部，水田が営まれている深い谷部にまたがっている。丘陵部については，丘陵裾を巡る林道新設に伴う確認調査を倉敷市が昭和57年７月に行い，遺跡が存在していないことが確認されていたので，丘陵裾部の畑地および谷部の水田について，斜面部は，斜面に直行するトレンチを、谷部は谷に直行するトレンチを合計７か所設定し確認調査を行った。

Ｔ－１は丘陵西側の谷部で，耕土下に堆積している微砂層および粘質土中に弥生時代から中世にかけての土器片がかなりみられたが，湧水が激しく充分に掘り下げることができなかった為，全面調査を行う際に再度確認することになった。**Ｔ－２・Ｔ－３**は丘陵の西裾部の斜面で，包含層中から弥生時代中期の甕等の土器やいわゆる早島式と呼ばれている中世の椀等が出土した。また多くのサヌカイトの剥片がみられ，**Ｔ－３**からは**106**点の石鏃が出土している。**Ｔ－４**は表土直下で地山となり遺構・遺物はない。**Ｔ－５**は丘陵の北裾部で，包含層中から弥生時代中期の壺・甕・高杯等の土器片や「早島式」の椀等が多量に出土している。またサヌカイト製の石庖丁片やサヌカイトの剥片が出土している。**Ｔ－６・Ｔ－７**は北側の谷部で，埋土中に弥生時代の土器や中国製の陶磁器・備前焼の擂鉢等の破片が認められているが，いずれも流土堆積で遺構は存在していない。

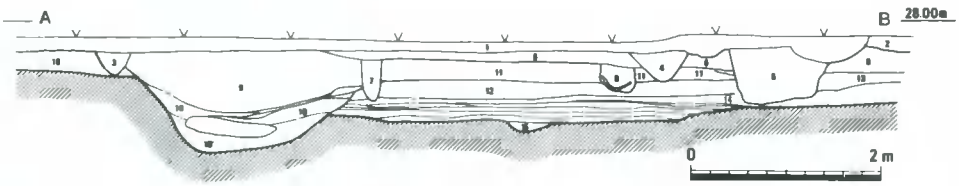


第１図　一次調査トレンチ位置図　(1/4,000)

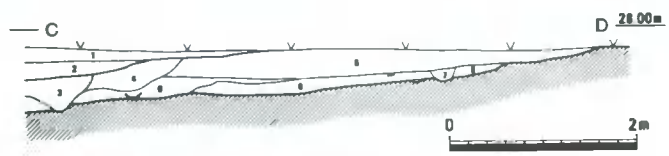
以上の結果から遺跡は丘陵裾部に存在していることが確認され，北西に延びる丘陵により遺跡が北裾部と西裾部に分断されていることから前者をＡ区、後者をＢ区とし，充分な確認調査を行えなかった西側の谷部をＣ区として全面調査を実施することになった。



第２図　調査区設定図　(1/3,000)



1　暗黒灰色細砂（耕作土）
2　暗灰色細砂（耕作土）
3　暗茶灰色砂
4　灰黄色細砂
5　黄灰色細砂
6　黄褐色砂
7　暗茶灰色砂
8　灰黄色細砂（土壙－21）
9　明灰黄褐色細砂（粗砂多く含む）
10　茶灰色粘質微砂（粗砂多く含む）
10′　茶灰色粘質微砂
11　茶灰色微砂
12　灰黄色微砂
13　灰茶色砂
14　黄灰色微砂
（暗茶灰色粘質微砂層を帯状に含む）
15　暗灰茶色粘質微砂



1　暗灰色細砂
2　黄褐色砂
3　灰褐色砂
4　灰色細砂
5　淡灰茶色砂
6　淡灰黄色微砂
7　黄灰色微砂（炭を含む）
8　黄灰色微砂

第３図　Ａ区土層断面図　(1/80)

第4節　調査の概要

1．A区の調査

A区は北西に延びる丘陵の北東側裾部の斜面にあたり，調査前においては，細かく段々に区切られた畑になっている。発掘調査は個々に区切られた畑の段ごとに行ったが，遺構はそれとは無関係に検出されている為，本報告書においては，全体を大きくA区として位置を示すことにした。

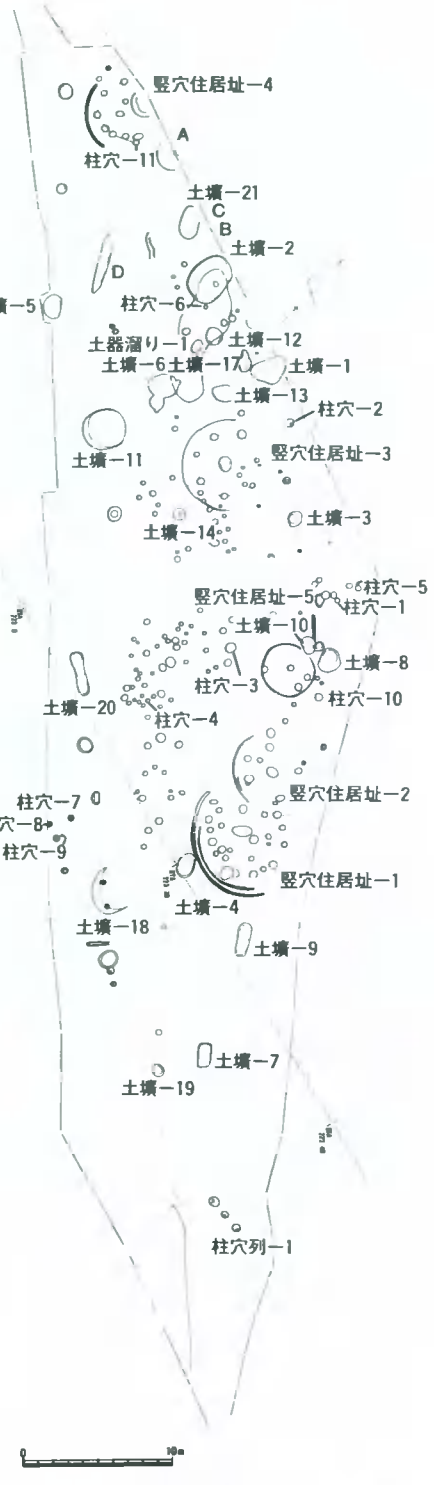
A区においては遺構検出面が表土直下となっているところが多く，遺構の北東部を中心にかなり後世の削平を受けている。埋積土が比較的よく遺存している西部の北壁断面（A－B）でみても，表土下10cmで茶灰色微砂の弥生時代の包含層が確認され，弥生時代中期の遺構は表土下30cmの灰黄色微砂層において検出される。

遺構はほぼ全域に亙って検出されているが，弥生時代中期の遺構は北側に多く広がっており，中世の遺構は丘陵からの変換部に多く認められている。

弥生時代の遺構・遺物

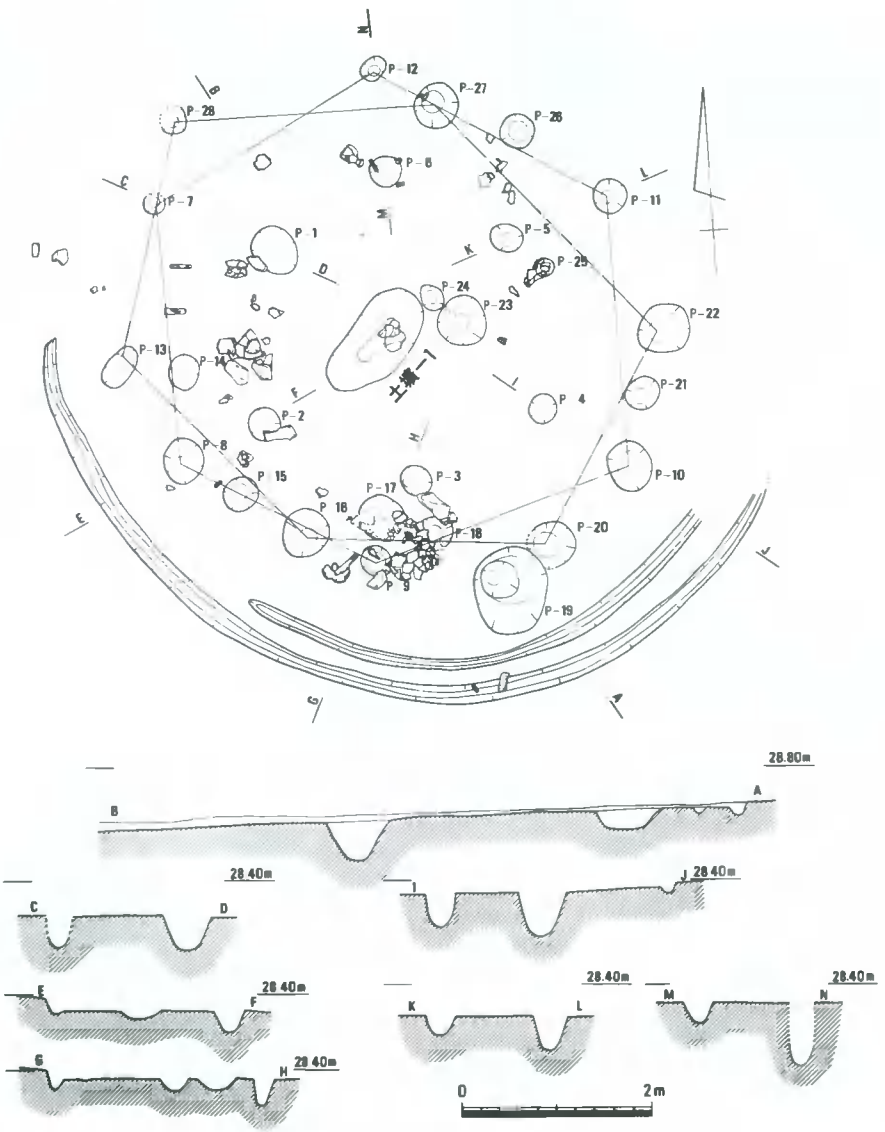
弥生時代の遺構はA区の北側に多く検出されているが，いずれも後世の削平を受けており，その全容が明らかにできたものは僅かである。また，包含層中から多量の土器等が出土していることからすでに削平を受けて遺存していない遺構がかなりあったものと思われる。

検出された遺構は，竪穴住居址5軒・土壙17基・柱穴多数・柱穴列1・土器溜り1等である。竪穴住居址－1では床面上に炭化した木材が多数



第4図　A区遺構配置図 (1/500)

みられ，焼骨が検出されていることから，焼失住居址の調査例として貴重なものである。土壙－１では用途は不明であるが，鉄片が出土し，供伴遺物から弥生時代中期前半の出土例として貴重なものである。土壙－２はほぼ平坦な床面に炭化材が多くみられ，壺・甕・高杯・鉢・台付鉢等完形或いはほとんど完形の土器が14点も出土しているもので，壁面はほぼ垂直に掘り下げられており，柱穴等は認められなかったものの，覆屋をもつ竪穴式の遺構が火災等により埋没したものではないかと考えられる。Ａ区の中央付近では数か所柱穴が集中して検出されているところがあり，調査においてまとめられるものはなかったものの，竪穴住居址か，建物等の



第５図　竪穴住居址－1　(1/80)

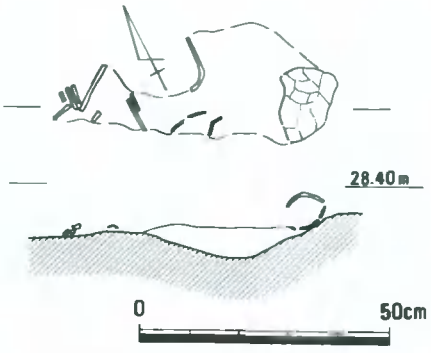
遺構が削平されている可能性が考えられる。

この他に単独で検出された柱穴ではあるが，柱穴－6から分銅形土製品が，包含層中から丁寧に調整された石槍が出土している。

(1) 住 居 址

竪穴住居址－1（第5～12図，図版80－1・2）

A区の中央やや南東寄りに検出された竪穴住居址で，北側の一部において2本の壁体溝を検出するが，他は削平のため確認することができなかった。外側の壁体溝から規模を推定すると390cmの円形のプランを有するものである。住居の床面からは炭化材が多く認められたことから，火を受けたと考えられるのである。なお竪穴住居址の北西側において竪穴住居址－2と重複している。

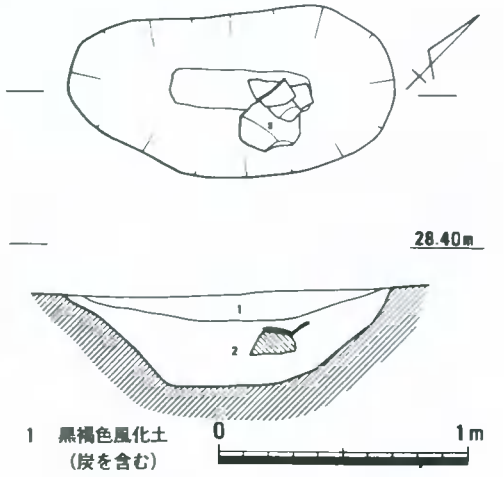


第6図 竪穴住居址－1焼骨 (1/15)

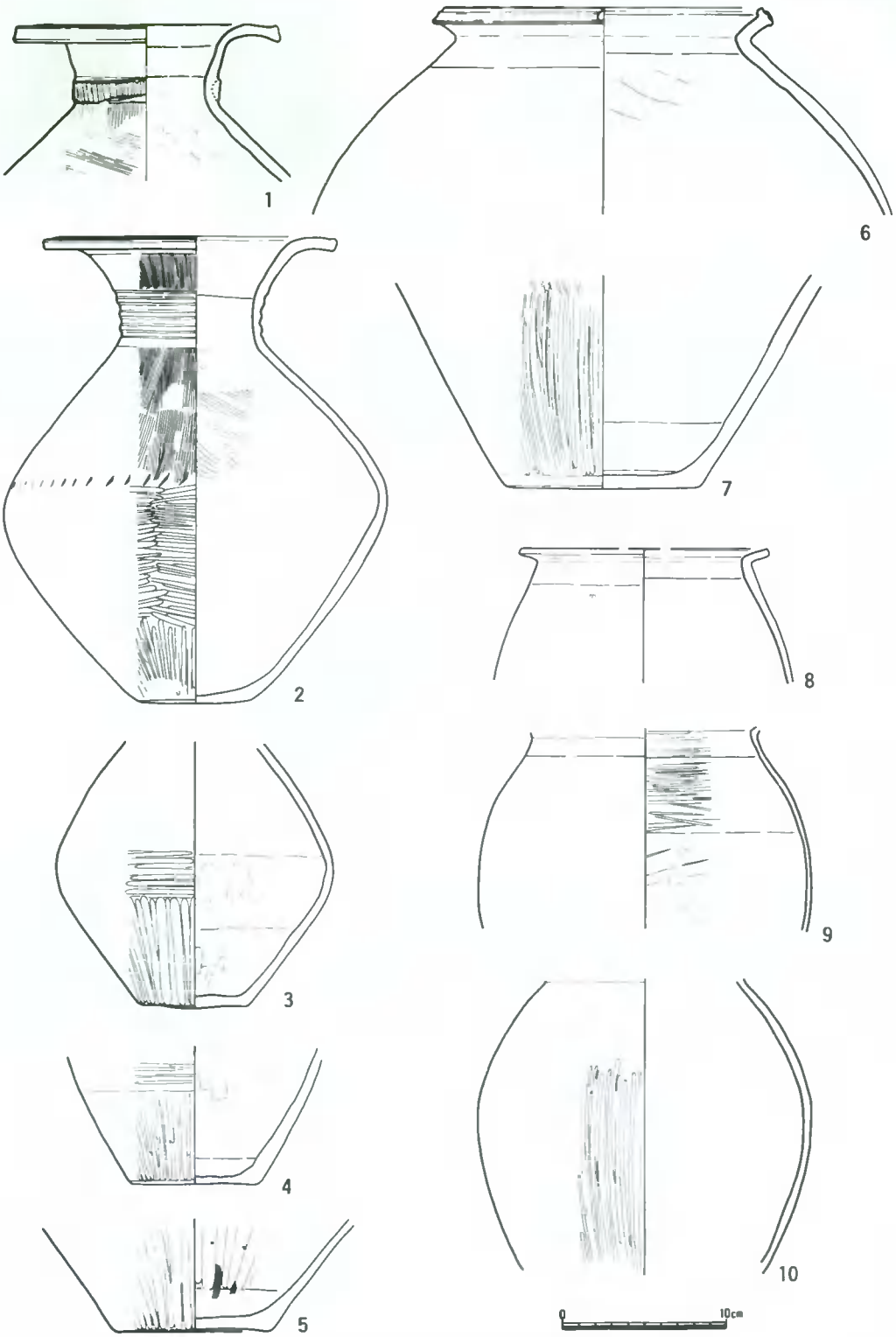
内側の壁体溝に伴う柱穴は，P－7・8・9・10・11・12の6本である。外側に伴う柱穴は，P－13・16・20・22・26・28の6本が確認された。また，土壙－1を囲むようにP－1・2・3・4・5・6の6本の柱穴が認められている。これら柱穴は，拡張したときにおいても継続して用いられていたと考えられる。

土壙－1の規模は，130×65cm，深さ35cmを測る楕円形のプランを有するものである。竪穴住居址における位置関係からすれば，住居址の中央穴として考えた方が妥当と考えられるものである。遺物は，甕形土器の底部の7と22の砥石が出土している。

P－9・17・18の周辺において，人骨が検出された（第6図）。検出時においては，60×20cmの範囲において，白っぽい骨状のものが認められたのである。この骨状のものは，非常に細かくバラバラの状態であったために獣骨ではないかと考え，作図をし，取り上げたのである。その後，早稲田大学の金子浩昌氏が来跡の際に，その骨を見られ，人骨の可能性を指摘されたのである。このことから，岡山理科大学の川中健二氏に鑑定を依頼したのである。その結果は，付篇記載されたごとく焼けた人骨であるこ

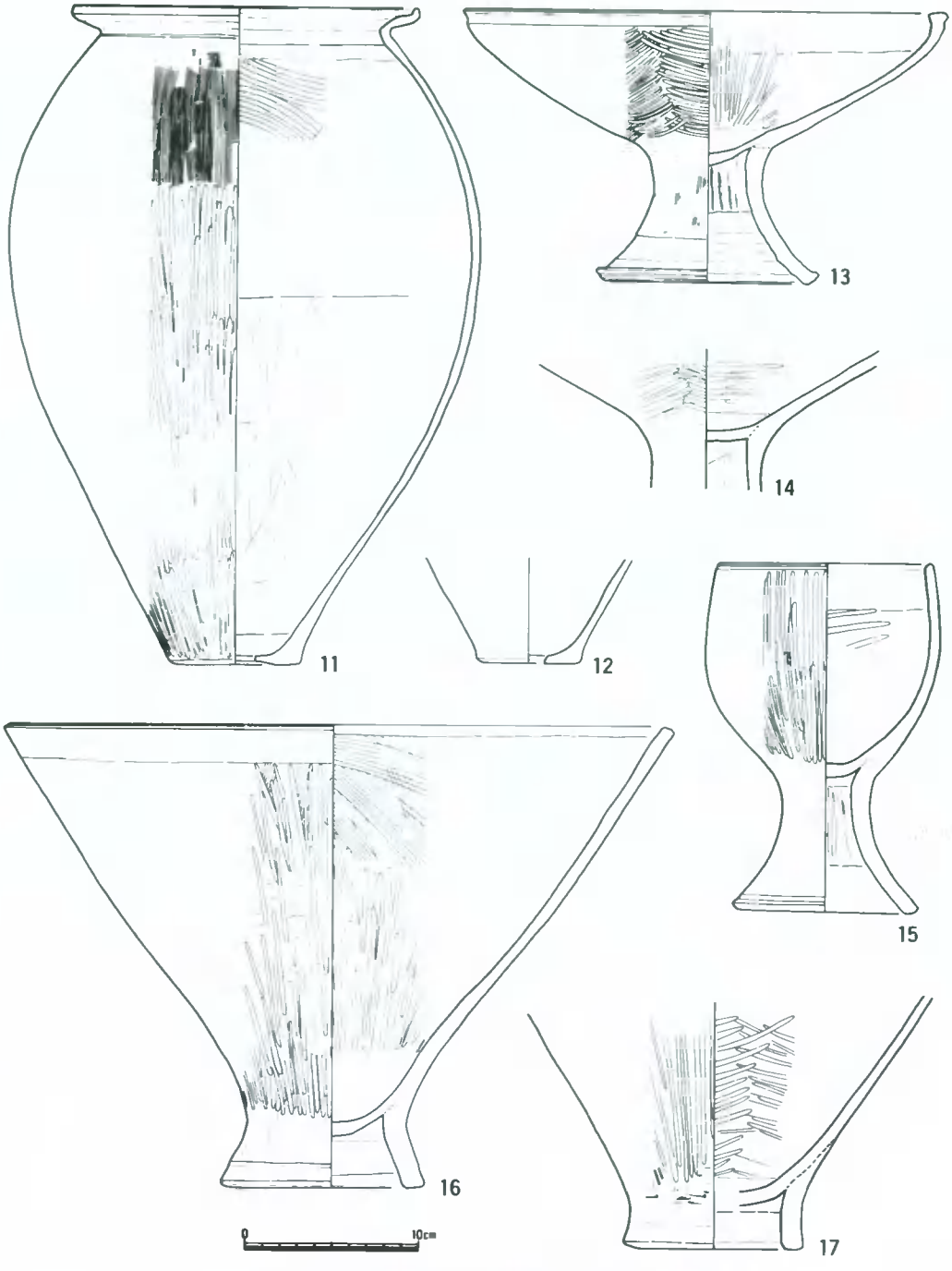


第7図 竪穴住居址－1土壙－1 (1/30)

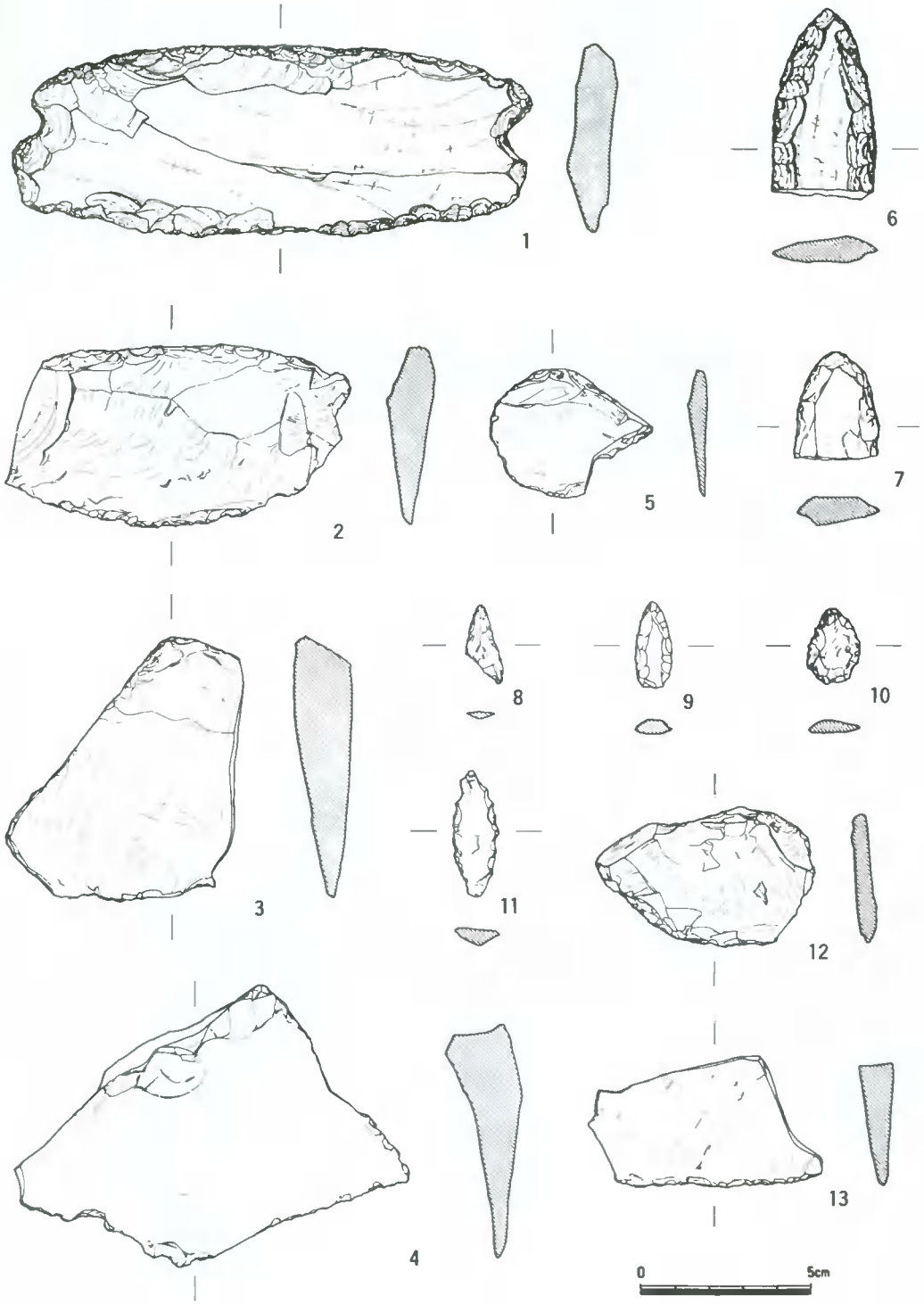


第８図　竪穴住居址－1出土遺物(1)　(1/4)

とが明らかとなったのである。この人骨は，検出時において炭化物を多く認め，また，第6図の断面に示したように，その下からも多くの炭を認めているのである。これらのことから，火



第9図　竪穴住居址ー1出土遺物(2) (1/4)

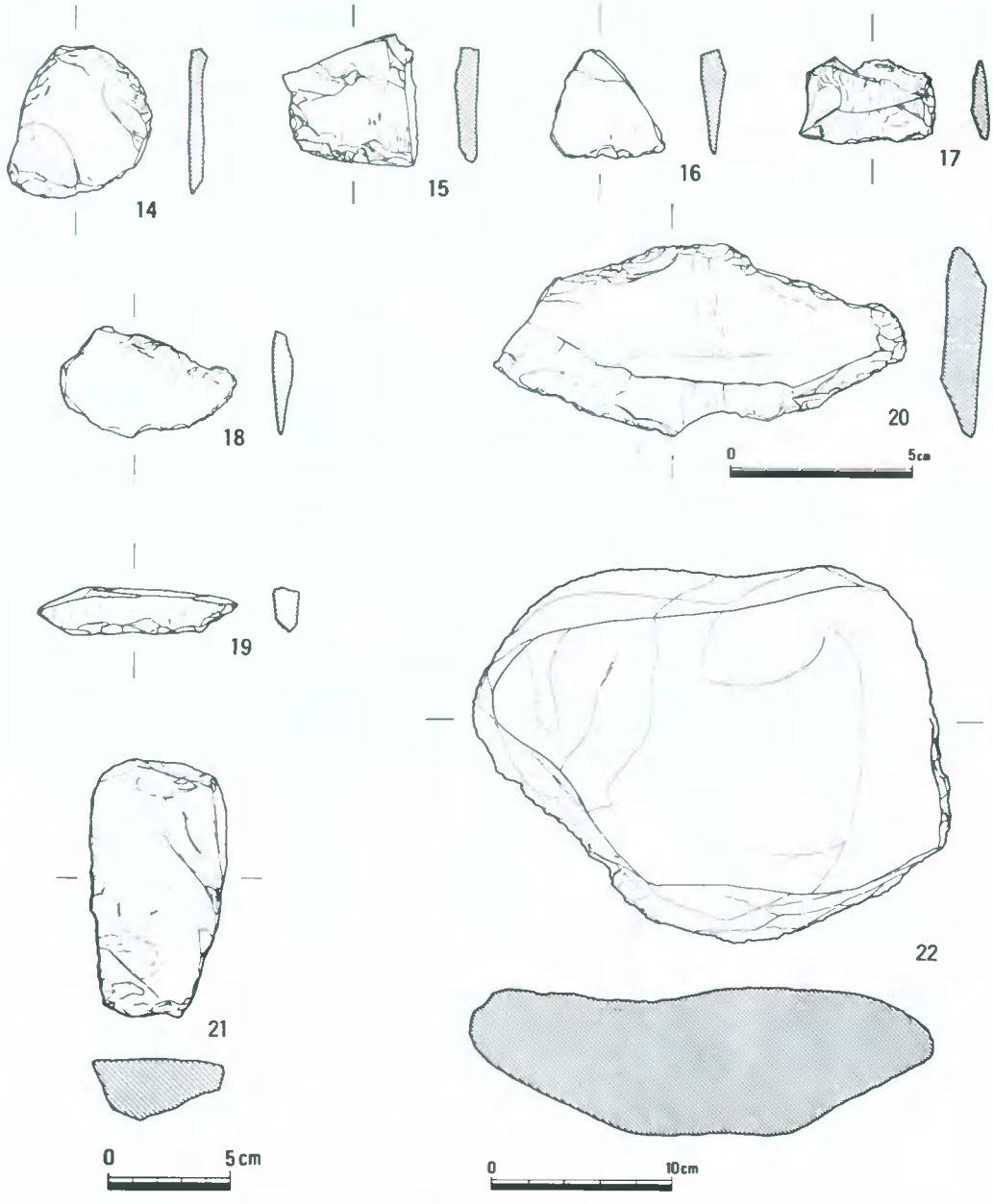


第10図　竪穴住居址－1出土遺物(3) (1/2)

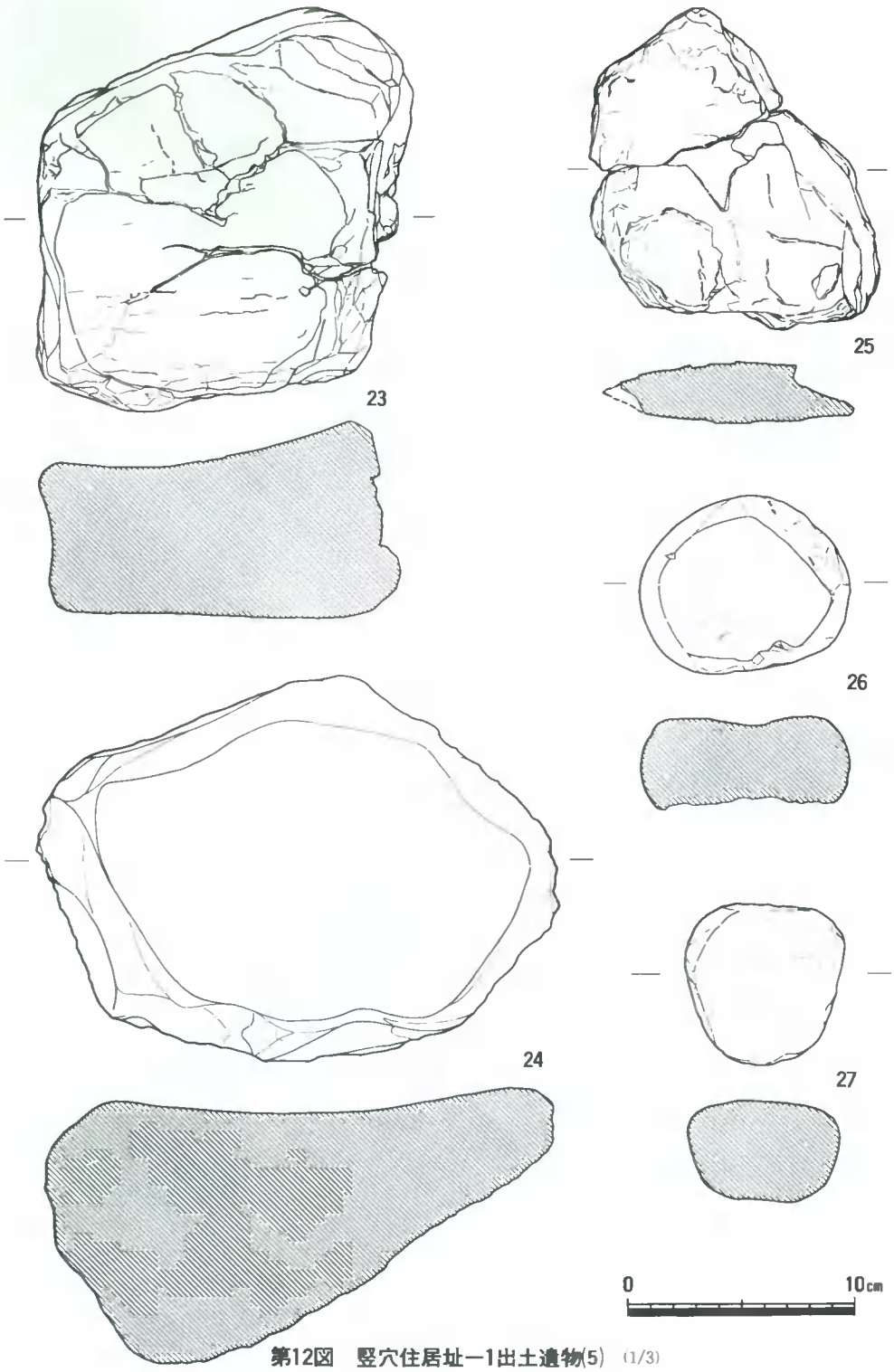
災の後に持ちこまれたのではなく，火災にあって死亡した可能性が非常に高いのである。

出土遺物（第８～12図）は，土器と石器である。土器は，壺・甕・高杯・台付鉢が存在する。

１は，頸部が逆ハの字状に立ち上がり端部が外に大きく拡張する壺形土器である。頸部下端に

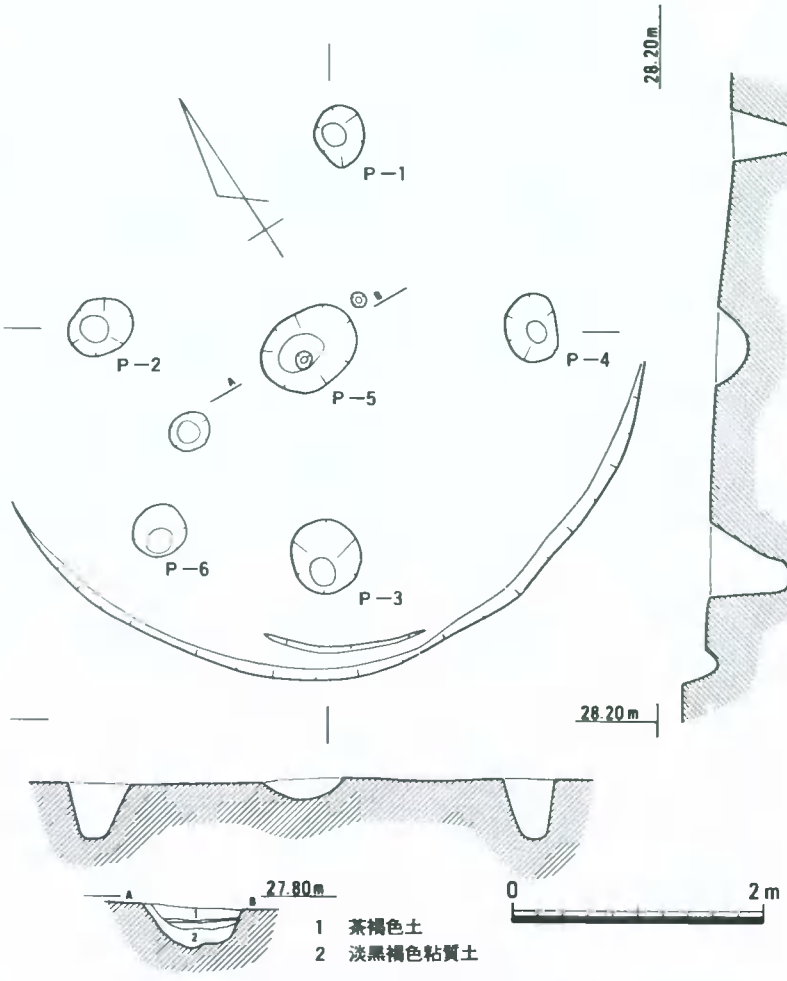


第11図　竪穴住居址－1出土遺物(4) (1/2･1/3･1/4)

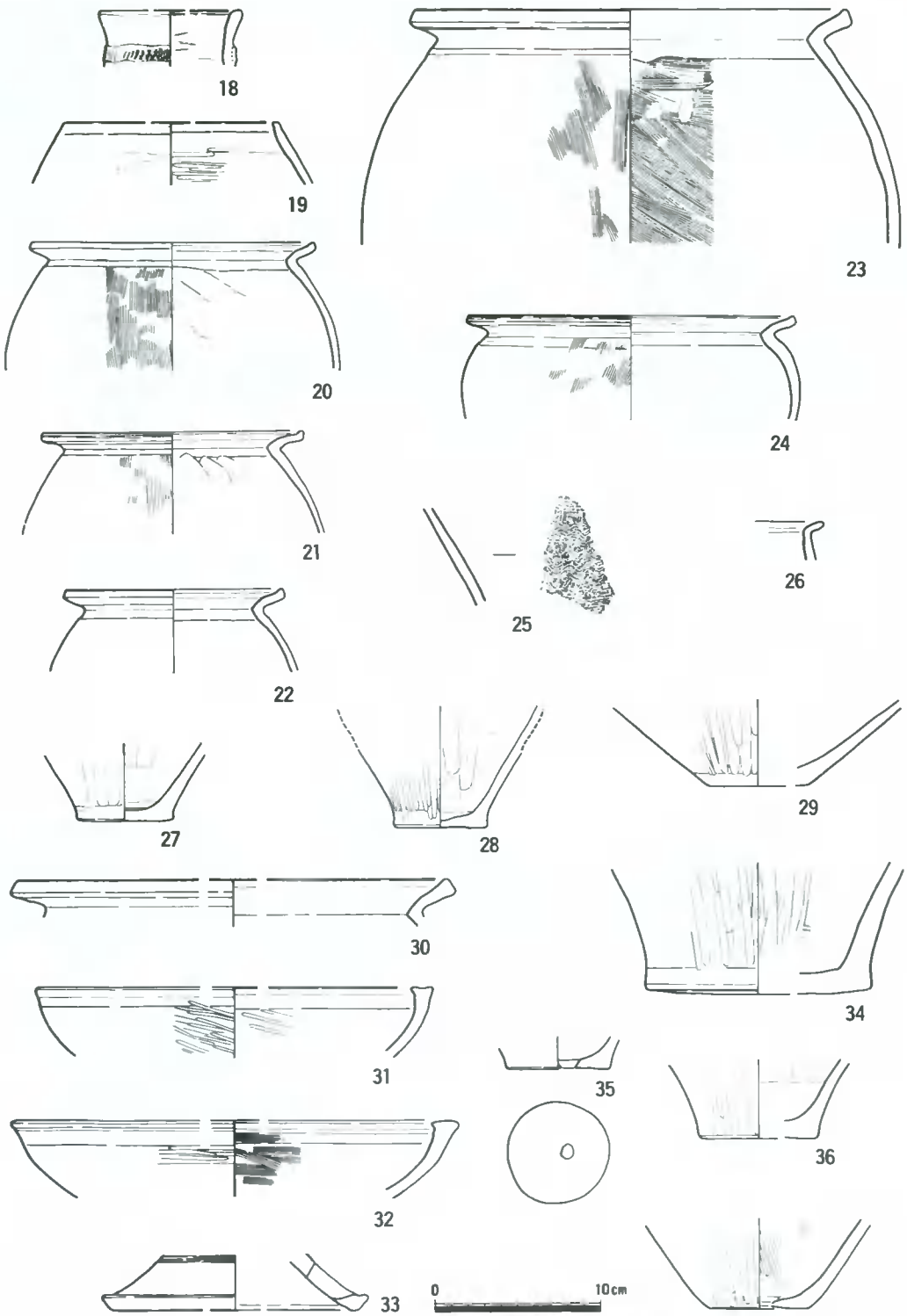


第12図　竪穴住居址－1出土遺物(5)　(1/3)

は，貼り付け突帯を付し，その上にキザミを付している。調整は，肩部外面にタタキが認められ，内面はナデをおこなっている。**2**は，口径17.9cm，器高28cm，底部径6.7cmを測る壺形土器である。口頸部は逆ハの字状に立ち上がり，端部が外に大きく拡張するものである。文様は頸部に4本の凹線を施文している。胴部には刺突文が認められる。調整は外面で，胴部上半はハケ，胴部下半はヘラミガキがみられる。また内面は，ナデとハケがみられる。**3**～**5**は，壺形土器の胴部から底部の破片である。**6**は，口径19cmを測る甕形土器である。口縁端には，2本の凹線を施し，円形浮文を貼り付けている。**8**は，口径14.8cmを測るくの字状に外反する口縁をもつ甕形土器である。口縁部の調整は，ナデをおこなっている。**11**は，口径19.5cm，器高37.5cm，底部径7.3cmを測る甕形土器である。口頸部はくの字状に外反し，端部は，立ち上がる。調整は，外面でハケのあと胴部上半までヘラミガキをおこなっている。また内面は，胴部

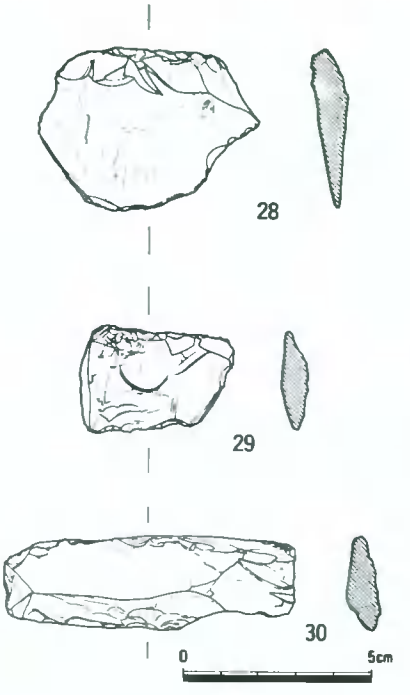


第13図　竪穴住居址－2 (1/60)



第14図　竪穴住居址－2出土遺物(1)　(1/4)

中ほどまでヘラケズリがみられる。底部は，焼成前の穴が認められる。**13**は，口径27.5cm，器高15.6cm，脚部径11.6cmを測る高杯形土器である。口縁下外面は，凹部を形成する。脚部端面に２本の凹線を施す。**15**は，口径12.1cm，器高20cm，脚部径9.5cmを測るコップ形の高杯形土器である。**16**は，口径37.3cm，器高26.4cm，台部径11.3cmを測る台付鉢形土器である。鉢部の内外面は，ヘラミガキがみられる。石器は，石庖丁・石槍・石鏃・スクレイパー・砥石などが出土している。



第15図　竪穴住居址－2出土遺物(2) (1/2)

竪穴住居址－２（第13～15図，図版80－１）

Ａ区の中央やや南東寄りに検出された竪穴住居址－１と重複している。規模は，北側が削平されているためプランを検出できなかったが，推定径520cmを測る円形の平面形態をもつものである。壁体溝は，一部確認している。柱穴は，Ｐ－１～４・６の５本柱である。中央穴は，竪穴住居址のほぼ中央に認められる。ここからは，**25**・**26**・**29**の土器片が出土している。

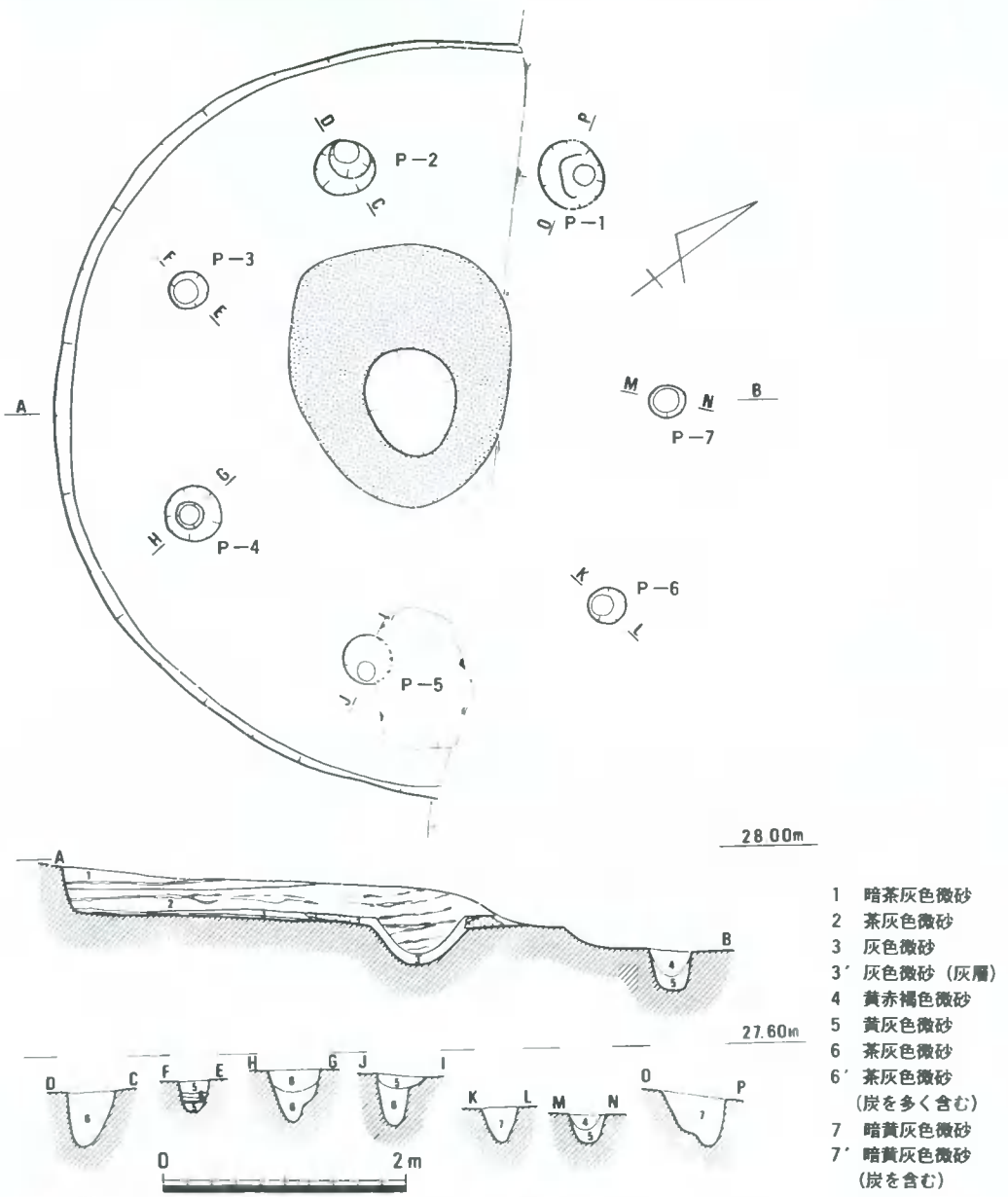
出土遺物（第14・15図）は，土器と石器である。土器は，壺・無頸壺・甕・高杯などである。**18**は，口径8.3cmを測る壺形土器である。頸部には，貼り付け突帯を付しその上からキザミを施している。**24**は，口径19.3cmを測る甕形土器である。口頸部はくの字状に外反するものである。外面調整は，タテ方向のハケが認められる。この**18**と**24**は床面直上から出土している。他に**27**・**34**・**36**が覆土中から出土している。中央穴からは，**25**・**26**・**29**が出土している。**23**は，中央穴近くから出土し，くの字状に外反する口頸部を有し端部はやや肥厚気味となる。内外面ともハケの調整が認められる。**25**は，胴部の破片であり，櫛描きの波状文と直線文が施文されている。**26**は，口縁部が水平方向に外反するものである。この甕は，胴部の張りがないものであり，時期的に古い様相を呈している。**29**は，壺の底部破片である。外部調整は，タテ方向のヘラミガキが認められる。

石器は，**29**と**30**が石庖丁で**28**がスクレイパーである。**28**と**29**は覆土から，**30**は中央穴近くから出土している。

竪穴住居址－３（第16・17図，図版81－１）

Ａ区の中央より少し北西寄りにおいて検出された竪穴住居址である。検出平面は北東側５分

の２程が，畑の開墾により上部を削られているが，直径600cmを測る円形である。柱穴は７本が検出されている。柱穴の直径は検出面で55cmから30cmまで様々である。柱穴の深さも一様ではなく，柱穴の底の高さも，最も高いＰ－３は27.12cm，最も低いＰ－１は26.70cmである。柱痕跡はいずれも認められず，柱穴内には黄灰色もしくは茶灰色の微砂が堆積している。Ｐ－１では南西側に，Ｐ－２では南側に柱穴の上部が広がっていることから，柱穴が抜き取られたも

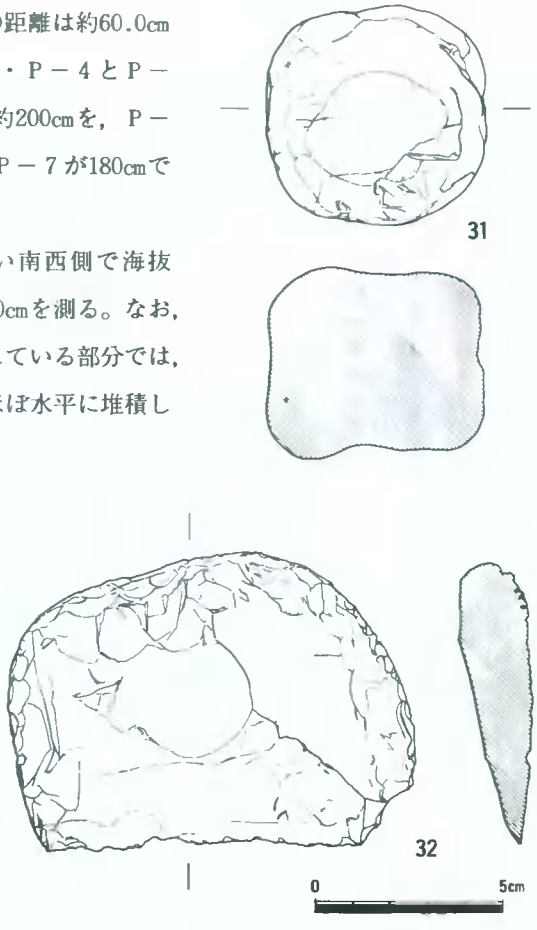


第16図　竪穴住居址－3 (1/60)

のと思われる。住居址の壁から柱穴までの距離は約60.0cmで，柱穴の心々距離は，Ｐ－１とＰ－２・Ｐ－４とＰ－５・Ｐ－５とＰ－６・Ｐ－７とＰ－１が約200cmを，Ｐ－２とＰ－３・Ｐ－３とＰ－４・Ｐ－６とＰ－７が180cmである。

住居址の床面は，削平を受けていない南西側で海抜27.0ｍを測り平坦である。また壁高は約40cmを測る。なお，壁体溝は認められなかった。覆土は遺存している部分では，上に暗茶灰色微砂が，下に茶灰色微砂がほぼ水平に堆積している。床面直上には灰色微砂層がみられる。この竪穴住居址のほぼ中央には，長径83cm，短径74cmの卵形の平面をもち，深さ30cmの中央穴がある。中央穴の底には灰層が堆積している。また中央穴の周囲40～90cmの範囲には炭・焼土塊が堆積している。

出土遺物としては，壺・甕等の土器の細片，サヌカイトの剝片，敲石と考えられる石器等がある。**31**は，一部に敲石に使われたと思われる痕を残している石器で，材質は花崗閃緑岩と考えられる。**32**は，一部を加工したと思われるサヌカイト製の石器であるが，刃部の調整は行われておらず，用途は不明である。これらはいずれも覆土から出土している。



第17図　竪穴住居址－3出土遺物　(1/2)

竪穴住居址－４（第18図，図版81－２）

Ａ区の北東端において検出された竪穴住居址である。住居址の上部は大半が畑の開墾により削平され，北端部は調査区外におよんでいる。この為検出することができたのは，住居址の西から南にかけて弧状に５ｍ程の壁体溝と，５本の柱穴だけで，住居址の規模等は判然としないものである。検出された状況から推定すると，この竪穴住居址は，直径約500cm程の円形を呈するものと思われる。床面は僅かに遺存している。南西部で海抜27.75ｍを測り，壁高は７cm程を残している。壁面に沿って幅15～20cm・床面からの深さ４cm程の溝が巡っている。覆土は炭を含んだ茶灰色微砂が堆積している。この住居址に伴う柱穴はＰ－１～５の５本である。柱穴の平面形は，直径40cm程の円形もしくは楕円形を呈し，床面の遺存しているＰ－３では床面

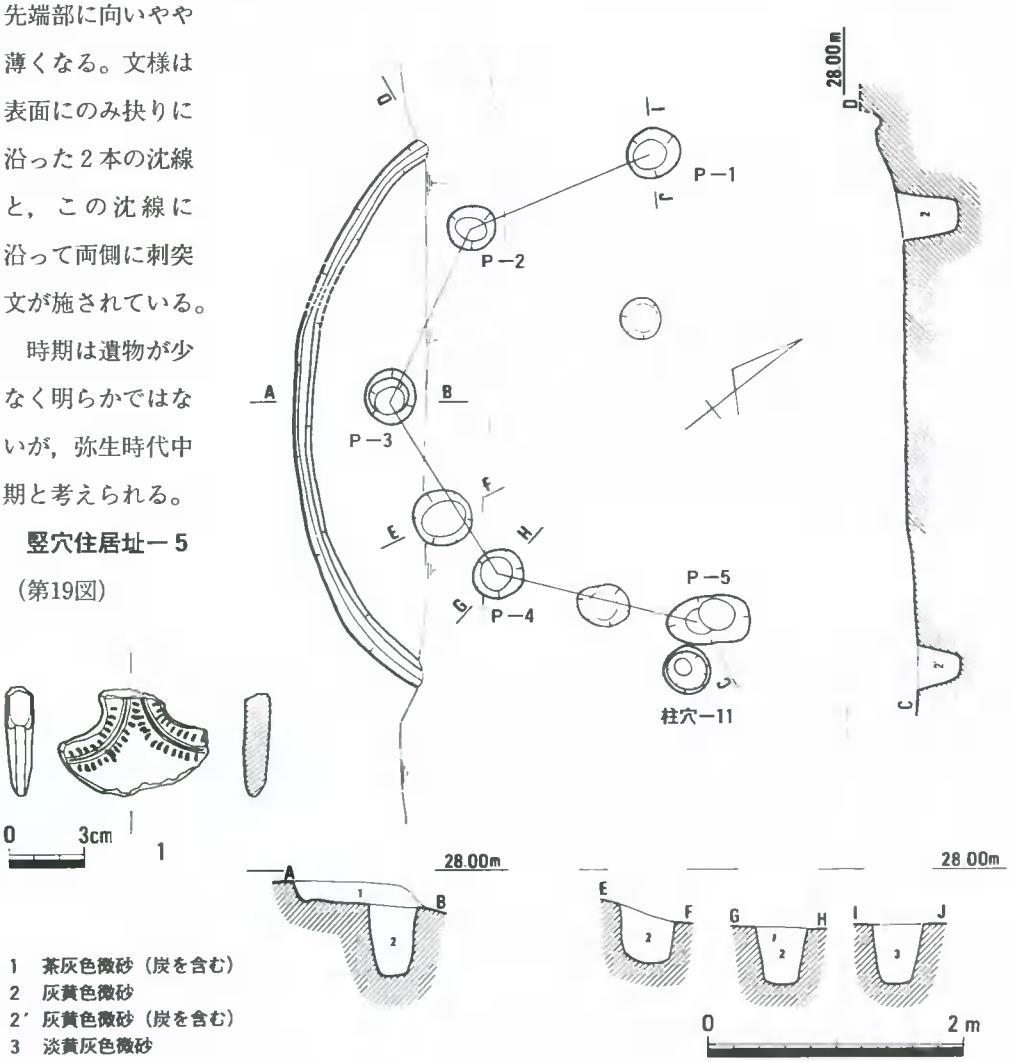
からの深さが60cmを測り，柱穴の底の高さは海抜27.15ｍである。他の柱穴（Ｐ－１・２・４・５）も底の高さはいずれも海抜27.10ｍ前後を測りほぼ揃っている。埋土はいずれも黄灰色微砂，淡黄灰色微砂が堆積し，Ｐ－５には炭化粒が含まれている。柱穴はこの他調査区外に２本が推定され，７本柱が想定される。

出土遺物は覆土がほとんど遺存していない為，僅かであるが，土器の細片・サヌカイトの剝片と分銅形土製品片がある。土器は細片で図示することはできなかったが，Ｐ－４から甕形土器の胴部片が出土している。**1**は，覆土中から出土した，抉り部で破損している約半分の分銅形土製品である。残存長は41.0㎜・残存最大幅は59.5㎜・残存最大厚は10.0㎜を測り，厚さは先端部に向いやや薄くなる。文様は表面にのみ抉りに沿った２本の沈線と，この沈線に沿って両側に刺突文が施されている。

時期は遺物が少なく明らかではないが，弥生時代中期と考えられる。

竪穴住居址－５

（第19図）



第18図　竪穴住居址－4 (1/60)・**出土遺物** (1/3)

A区の中央北東寄りにあり，土壙－10と接している。この竪穴住居址は，壁体溝と床面の一部が確認されたものである。埋土は茶褐色土が堆積している。

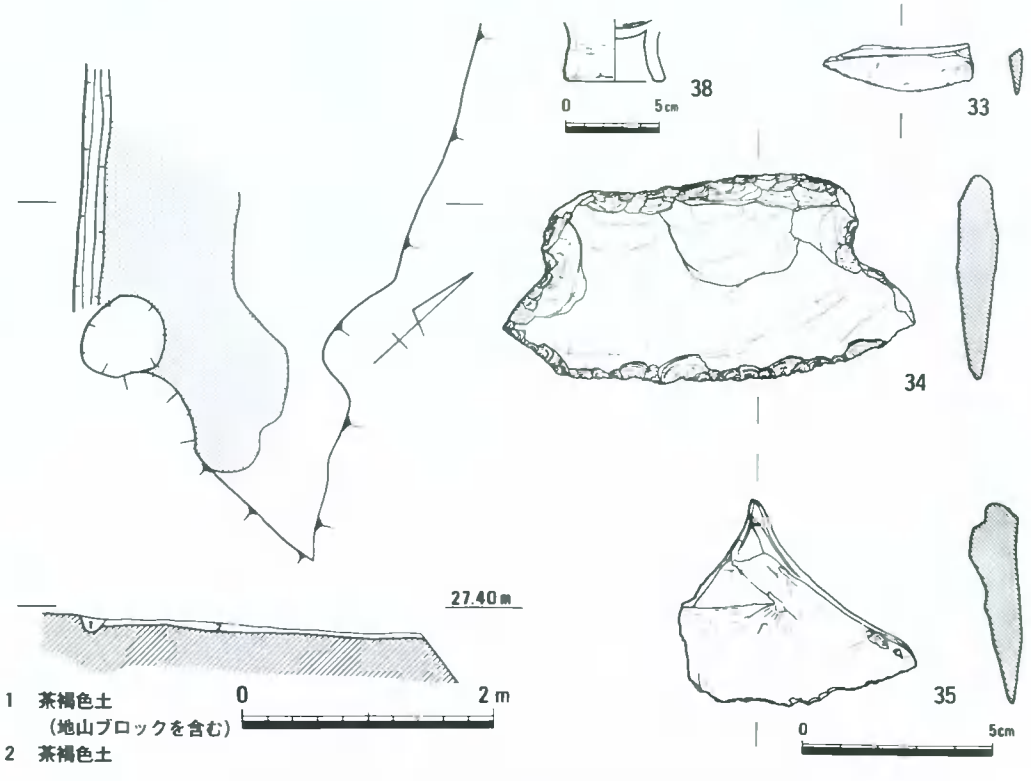
出土遺物（第19図）は，土器と石器がある。**38**は，台付鉢形土器の台部の破片である。台部径が5.4cmを測るもので，内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリの調整が認められる。この土器は，覆土からの出土である。

石器は，石庖丁とスクレイパーが出土している。**34**は，長さ11cm，幅5.3cm，厚さ1.1cmを測る石庖丁である。この石庖丁は，台形状の形態をとるもので，両端に抉りを設けているものである。

(2) 土　　壙

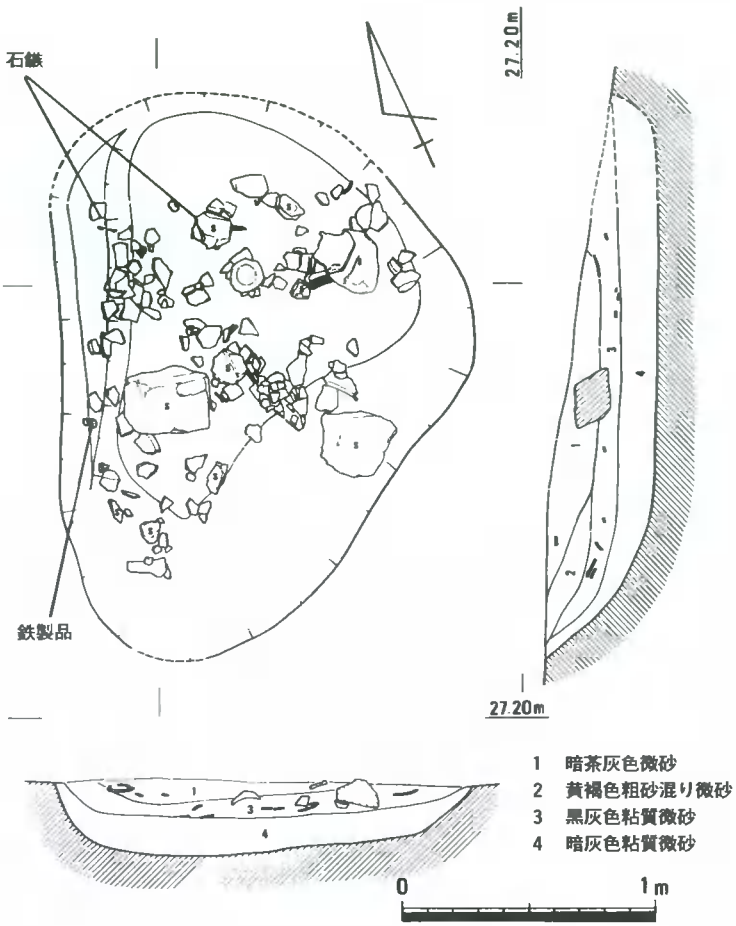
土壙－1（第20・21図）

A区の中央より北寄りで，竪穴住居址－3の北3m程の調査区境に接して検出された土壙である。平面形は隅丸の三角形状を呈するもので東西約160cm・南北約220cmを測る。深さは海抜約27.10mの検出面から約40cm程で底は平坦である。埋土は，レンズ状に4層が堆積，遺物は第1層の暗茶灰色微砂および第3層の黒灰色粘質微砂から出土している。



第19図　竪穴住居址－5 (1/60)・**出土遺物** (1/4・1/2)

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器片，石鏃等の石器・石製品，鉄製品等が出土している。39は，やや開き気味に上方に立ち上がった口縁端部を水平に折り曲げてまとめている壺形土器の口縁部片である。40は，頸部でくの字状に折れ曲がった壺形土器で，口縁端部が僅かに肥厚し，端面に凹線がみられる。口縁部はヨコナデされ，肩部外面はハケメにより調整されている。41～43・45～48は甕形土器で，ほとんどはくの字状に折れ曲がった口縁端部が，そのまま或いは僅かに肥厚してまとめられている。43は，肥厚した口縁端部が少し上方に拡張され，端面に２条の凹線文が施されている。52は，高杯形土器の口縁部片であるが，細片で口径等は不明である。54・55は台付鉢形土器の台部片で，54は，台部の付け根に貼り付け突帯が巡る。56は，高杯形土器の脚部片で，脚部径は推定である。脚端部は少し拡張され，裾部に三角形の透しが切り込まれているが貫通はしていない。その上部に数条の沈線が巡っている。１は，最大長47.2㎜・最大幅26.8㎜・最大厚5.3㎜を測り，上方および左右を少し折り曲げた長方形の鉄製品であるが，用途は不明である。36～39は，サヌカイト製の石鏃と思われる。36は，基部近くがやや丸くなっているが三角形状を呈し，基部は直線的である。37は，三角形状で基部がやや内彎気味である。38は，少し丸まった三角形状で基部が内彎している。39は，36に似た形状を呈するものであるが，一方は調整がなされておらず，未製品と考えられる。



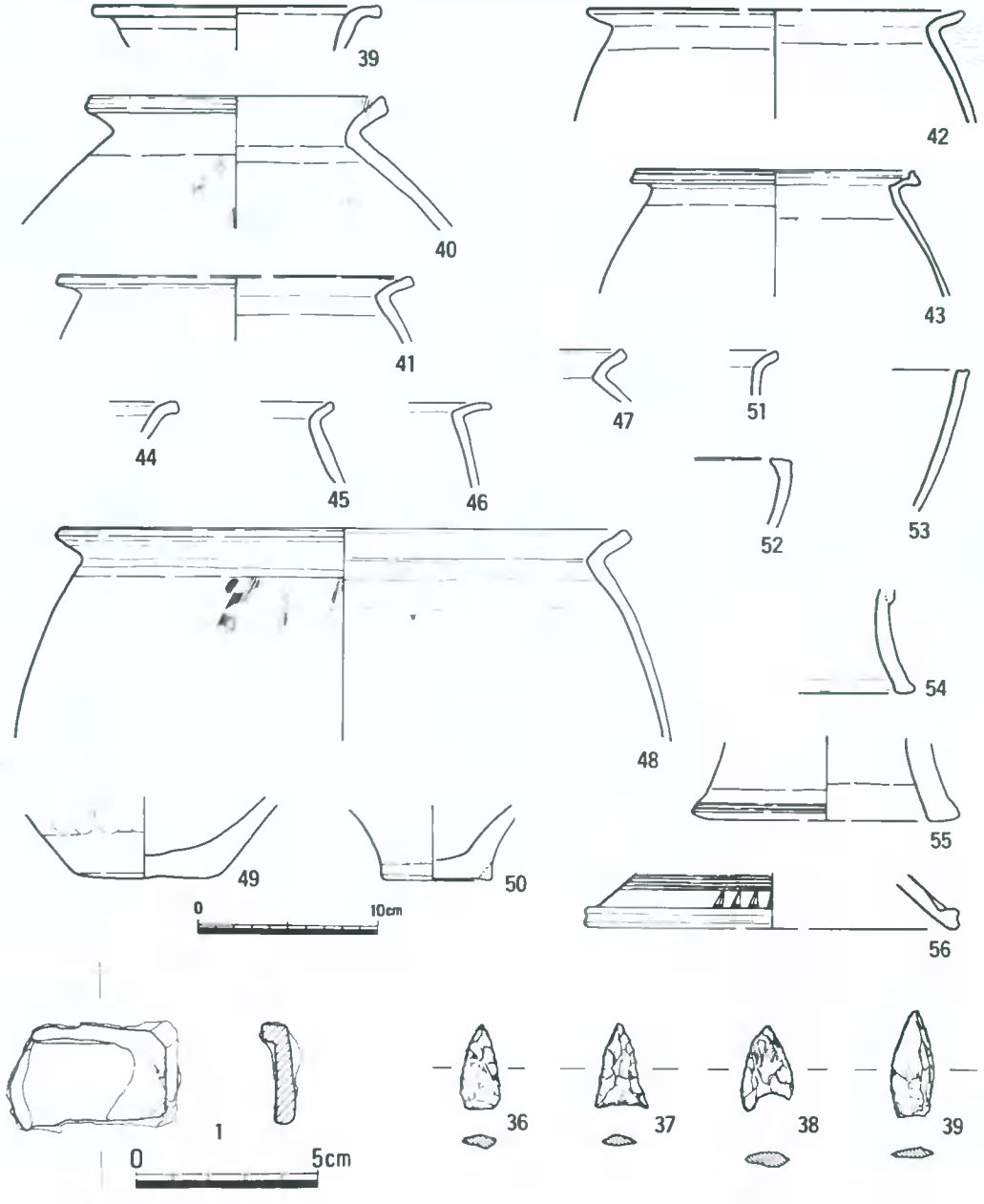
第20図　土壙－1　(1/30)

時期は，出土遺物等から若干新しい様相のものがみられるが，弥生時代中期前半と考えられ

る。

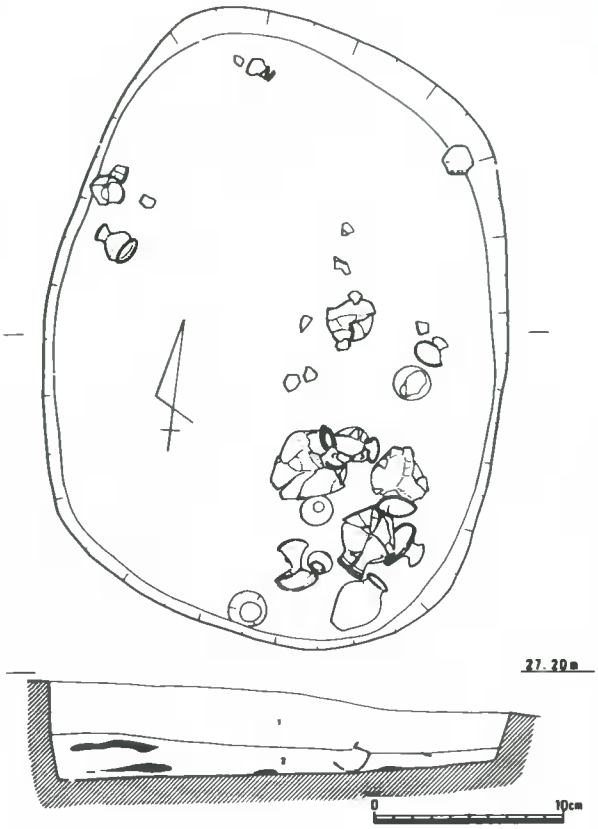
土壙－2（第22～25図，図版82－1・2）

A区北西半の中央北端調査区境において検出された土壙で，土壙－1の西約5mに位置している。平面形は南北320cm・東西250cm程の卵形に近い隅丸長方形を呈し，深さは海抜約



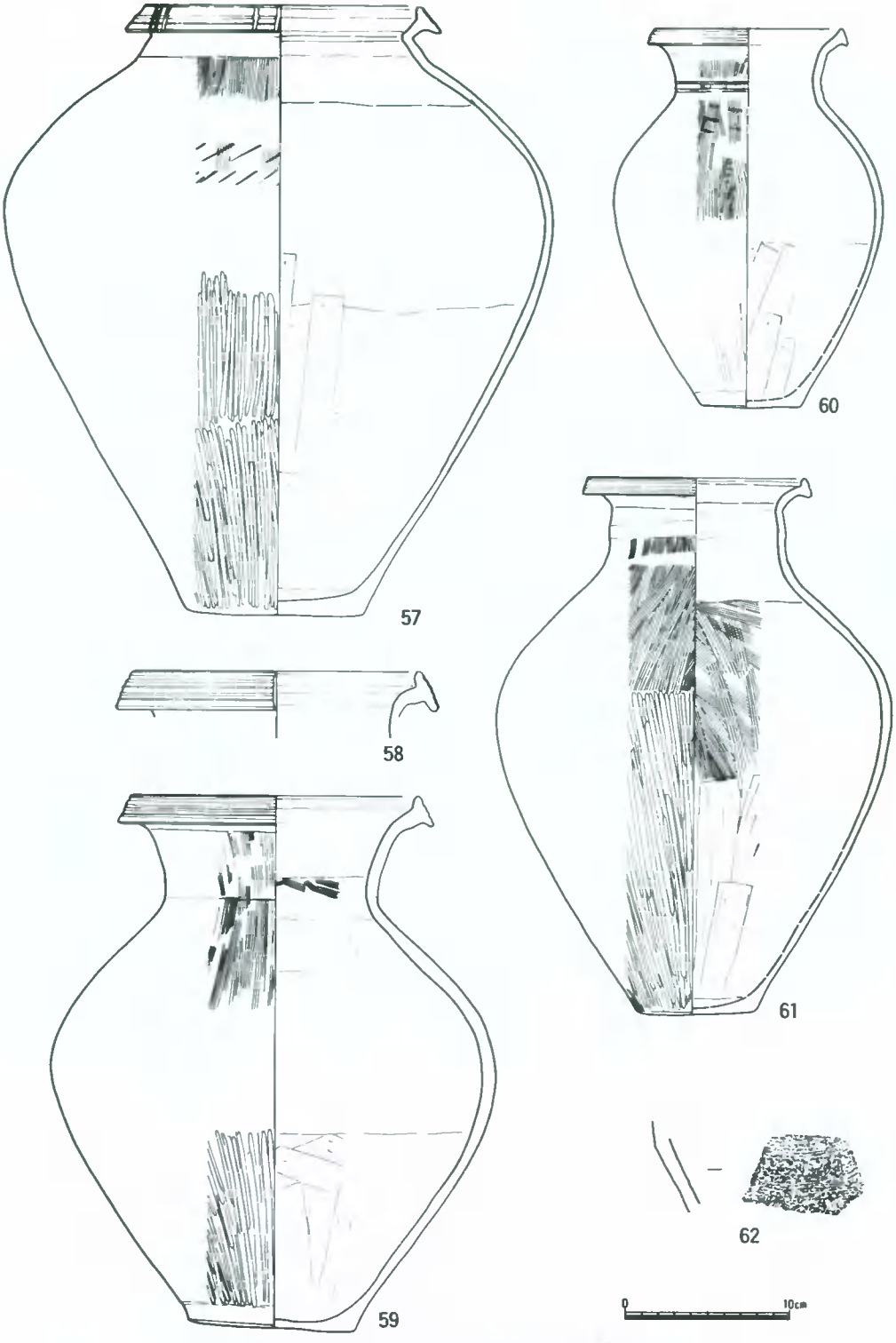
第21図　土壙－1出土遺物（1/4・1/2）

27.15ｍの検出面から50㎝を測り，床面は平坦である。埋土は第１層が粗い花崗岩粒を含む淡茶灰色微砂，第２層が淡灰黄色微砂で焼土・炭化材等を多く含んでいる。

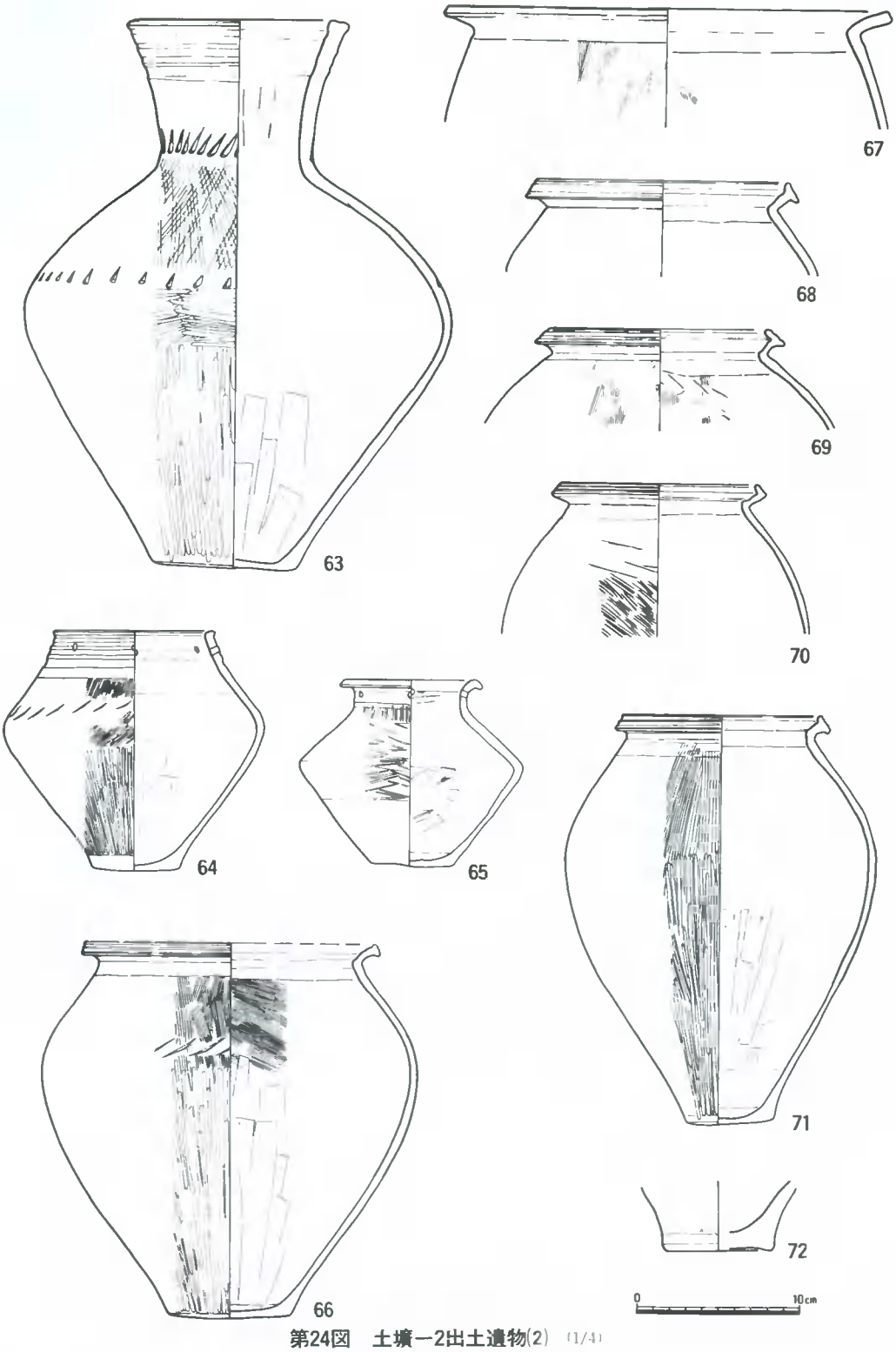


第22図　土壙－2　(1/40)

出土遺物としては，床面直上から焼土・炭化材等と伴に，壺・甕・高杯・鉢等完形或いはほぼ完形の土器類が多数認められている。**57**は，口径16㎝・底径10.7㎝・器高36.3㎝を測る，完形の壺形土器である。頸部で外側にくの字状に折れ曲がった口縁部が肥厚して，斜め上下方に拡張した端面に凹線文を施し，その上に３本単位の棒状浮文を貼り付けている。胴部は肩部下端で最大径となり，以下底部に向い次第にすぼまっていく。調整は頸部はヨコナデ，肩部はハケメ，胴部下半はヘラミガキされ，肩部にヘラ先による斜線文が２段巡っている。内面は胴部下半をヘラケズリしている。**59**は，土器中央部で最大径となる完形の壺形土器で，口径17.0㎝・底径9.5㎝・器高21.7㎝を測る。開き気味に立ち上がる頸部がさらに広がって肥厚し口縁部となる。口縁端面は斜め上下方に拡張し，端面に凹線文を施す。調整は，外面の頸部・肩部をハケメ，胴部下半はヘラミガキである。内面は頸部の一部にハケメ，胴部下半がヘラケズリされている。**60**は，口径11.0㎝・底径5.7㎝・器高22.5㎝を測る壺形土器で，開き気味に立ち上がる頸部がさらに広がって肥厚し口縁部となる。口縁端部は少し拡張し，端面に凹線文を施す。頸部下端に２条の凹線が巡り，胴部中央より少し上方で最大径となる。調整は外面頸部から胴部上半がハケメ，胴部下半はヘラミガキである。内面は胴部下半がヘラケズリされている。**61**は，口径13.0㎝・底径6.7㎝・器高32.0㎝を測る壺形土器である。上方に立ち上がる頸部から外反し，端部を少し拡張して口縁部をつくる。拡張した口縁端面に凹線文を施す。調整は外面が頸部下半から肩部をハケメ，胴部をヘラミガキしている。内面は肩部から胴部中央までハケメ，それ以下はヘ

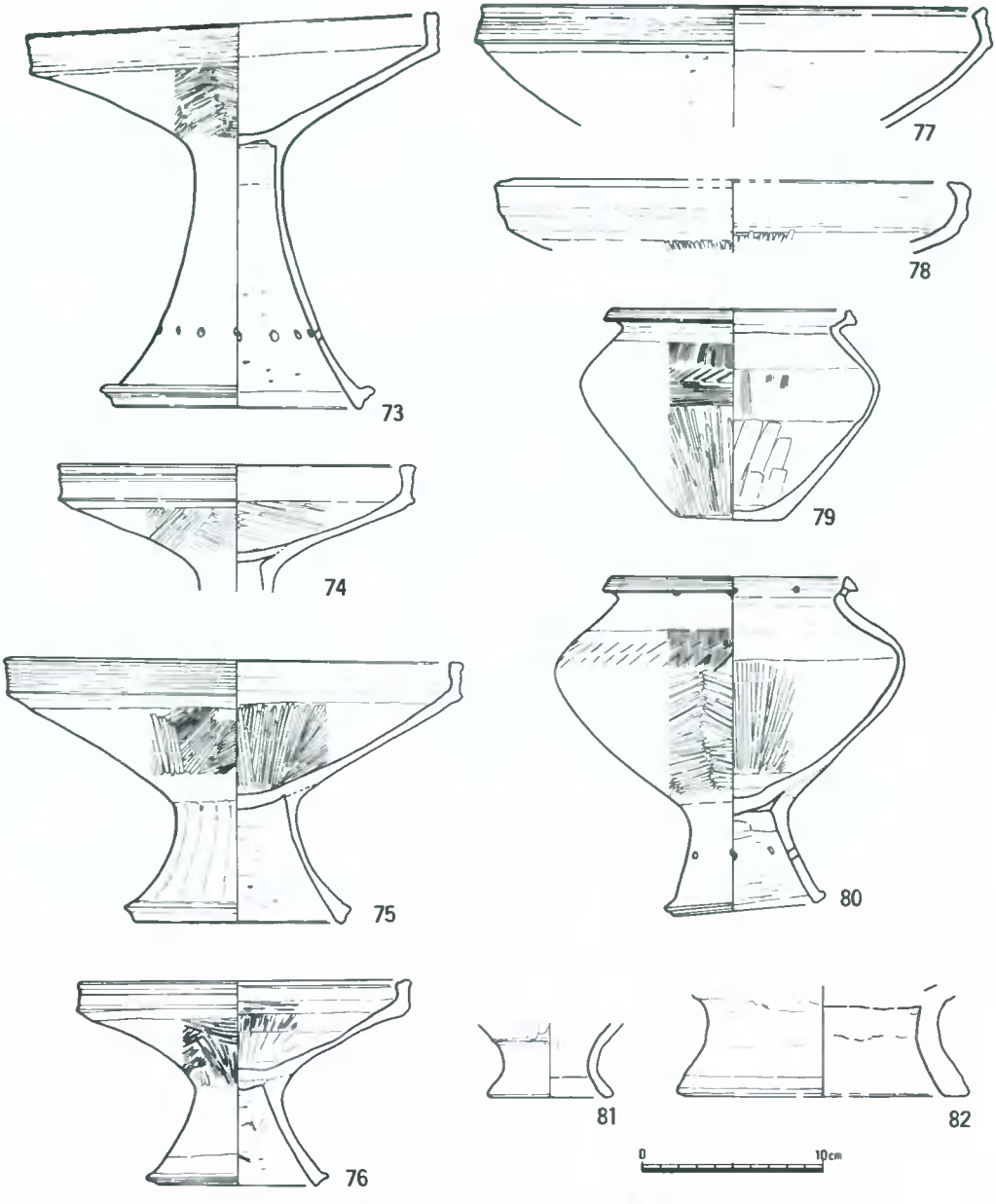


第23図　土壙一2出土遺物(1)　(1/4)



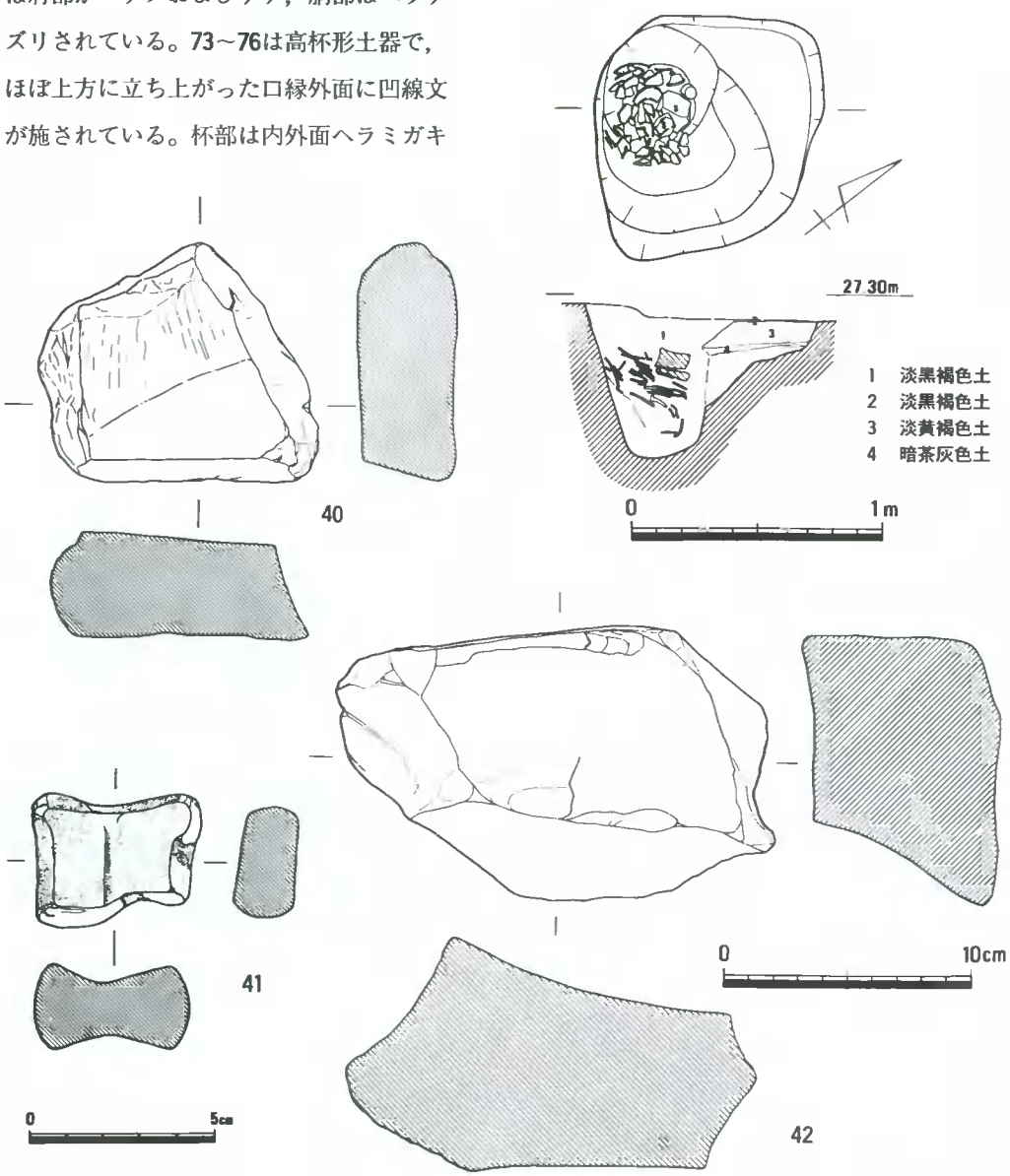
第24図　土壙一2出土遺物(2)　(1/4)

ラケズリされている。63は，直口壺形土器で広がり気味に立ち上がる頸部上半に凹線文を施す。調整は肩部がハケメ，胴部の最も張っているところはヨコ方向のヘラミガキで以下はタテ方向にヘラミガキされ，内面は胴部下半のみヘラケズリされている。64は，内傾して立ち上がった口縁部があまり肥厚しないでまとめられている。肩部にはヘラ先による斜線文が巡り，胴部外面はヘラミガキされている。内面は胴部下半がヘラケズリされている。口縁部には2個単位で

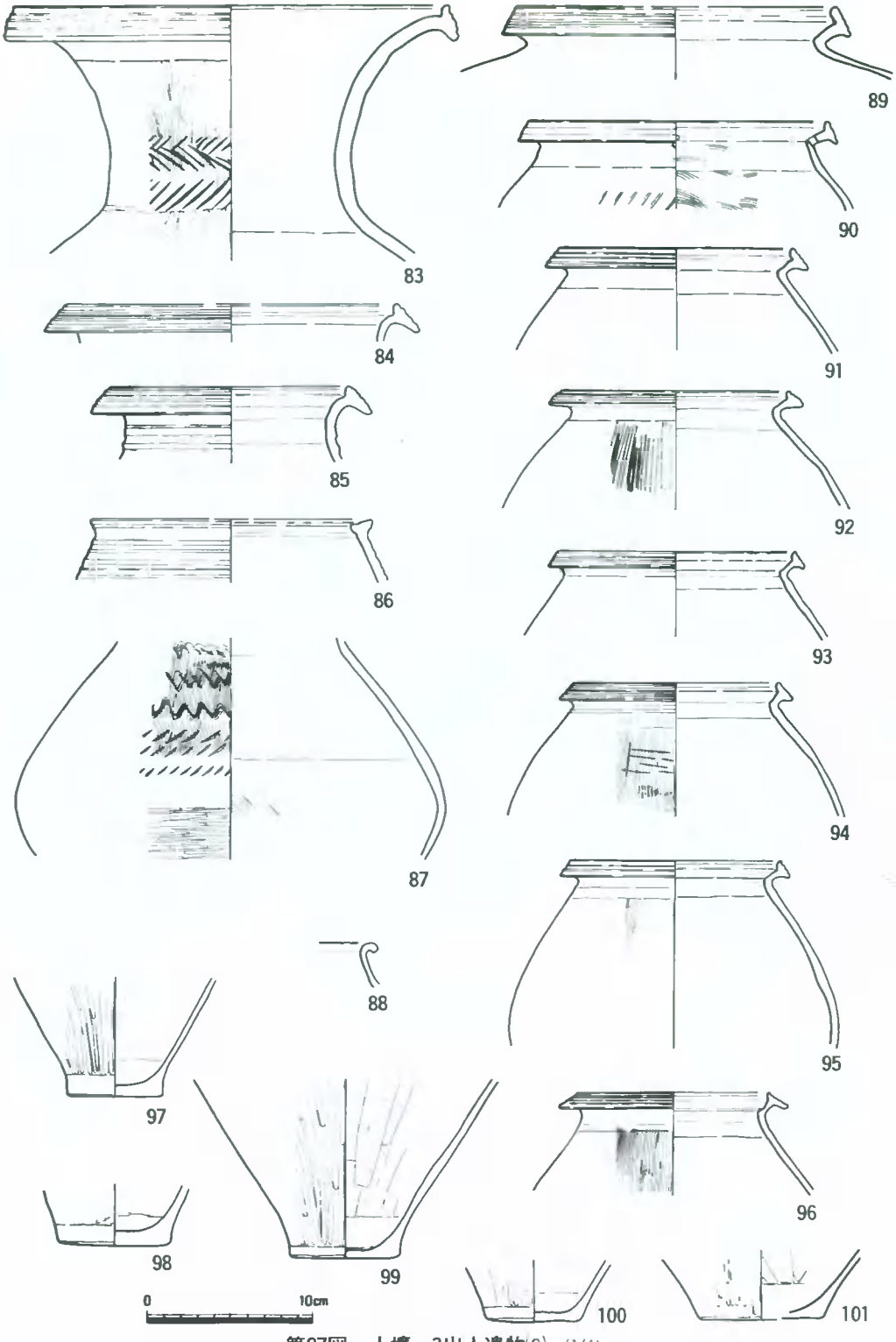


第25図　土壙一2出土遺物(3)　(1/4)

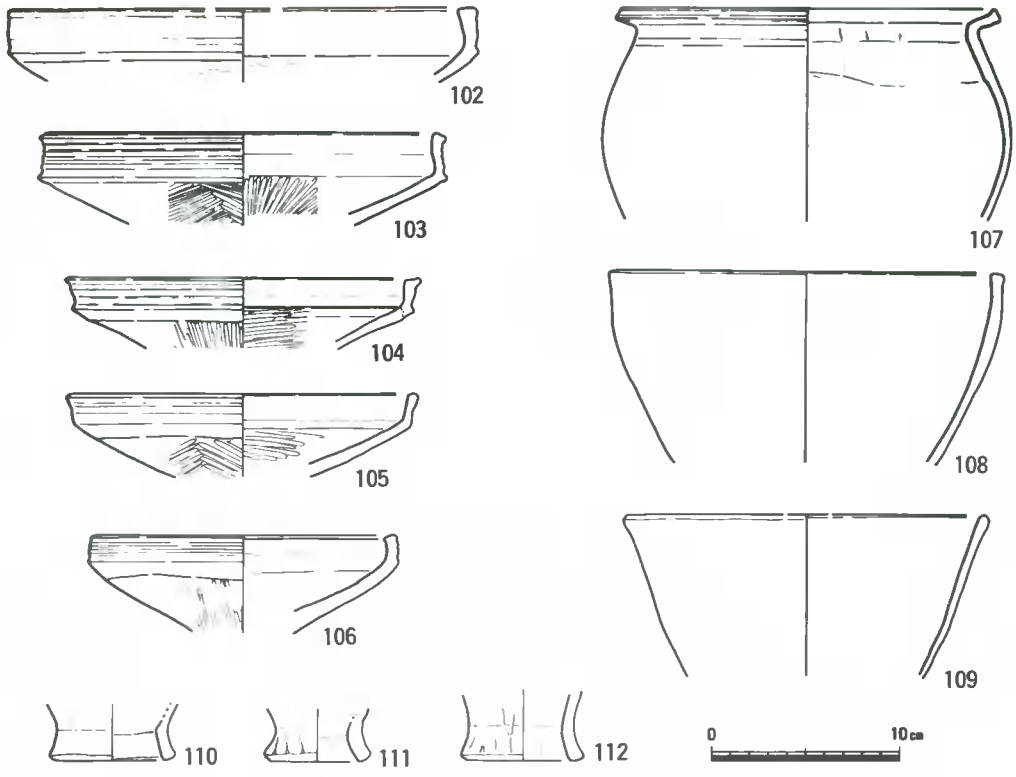
2か所円孔が穿たれている。65は，胴部が算盤玉形を呈する壺形土器である。少し上方に立ち上がった頸部が僅かに外反し下方に折れ曲がるように口縁部をつくる。胴部外面はヘラミガキ，内面下半はヘラケズリされる。頸部に2個単位で2か所に円孔が穿たれている。66は，鉢形土器，67～71は甕形土器である。くの字状に外反した口縁部が僅かに肥厚し，端面に凹線文が巡る。外面は肩部がハケメ，胴部がヘラミガキされているが，70はタタキ調整されている。内面は肩部がハケメおよびナデ，胴部はヘラケズリされている。73～76は高杯形土器で，ほぼ上方に立ち上がった口縁外面に凹線文が施されている。杯部は内外面ヘラミガキ



第26図　土壙－3 (1/30)**・出土遺物(1)** (1/2・1/3)



第27図　土壙－3出土遺物(2)　(1/4)



第28図　土壙－3出土遺物(3)（1/4）

されている。脚部は肥厚した端面に凹線文が施され，73の裾部には円孔が巡っている。80は台付鉢形土器で，くの字状に外反した口縁部に２個単位で２か所円孔が穿たれている。

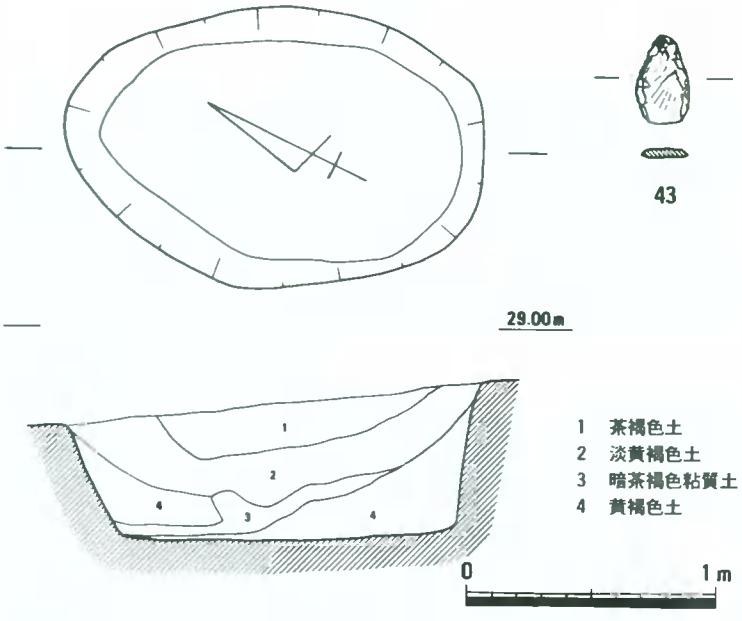
土壙－３（第26～28図，図版83－１）

Ａ区の中央やや北西寄りで検出された土壙で，竪穴住居址－３の東２ｍに位置している。検出面では一辺90cm程の歪んだ隅丸方形を呈している。深さは一段低くなっている東部で，海抜27.30ｍの検出面から約60cmを測る。

出土遺物は第１層の淡黒褐色土中から，壺・甕・高杯・鉢等の土器や砥石等の石器が出土している。40・41はいずれも砂岩製で砥石として使用されていたものと思われる。

83～85は壺形土器の頸部から口縁部片である。上方に立ち上がった頸部が外方に広がり，肥厚した口縁部端が上下に拡張し，拡張した端面に凹線文を施している。83は，ヘラミガキされた頸部外面下半にヘラ先により斜線文が施されている。85は頸部に凹線文を巡らせている。86は，内傾気味に立ち上がった口縁端部を少し拡張しただけの壺形土器で端面および外面に凹線文を施している。87は，内傾する頸部外面にハケメの上から櫛状工具による波状文とヘラ先による斜線文を施した壺形土器で胴部下半はヘラミガキされている。90～96は甕形土器の口縁部でくの字状に外反した口縁部が肥厚して上または上下に拡張し，拡張した端面に凹線文を施し

ている。外面は概ねハケメであるが，92はヘラ先状の工具で磨かれている。90は，外反した口縁部に円孔が穿たれている。102～106は高杯形土器で，杯部から折れ曲って立ち上がった口縁外面に凹線文を施している。107は鉢形土器である。108・109は台付鉢形土器の鉢部片と思われる。また，110～112は脚部片である。これらは器面が荒れていて調整が明瞭でないが，粗いヘラケズリおよび指頭ナデにより調整されている。

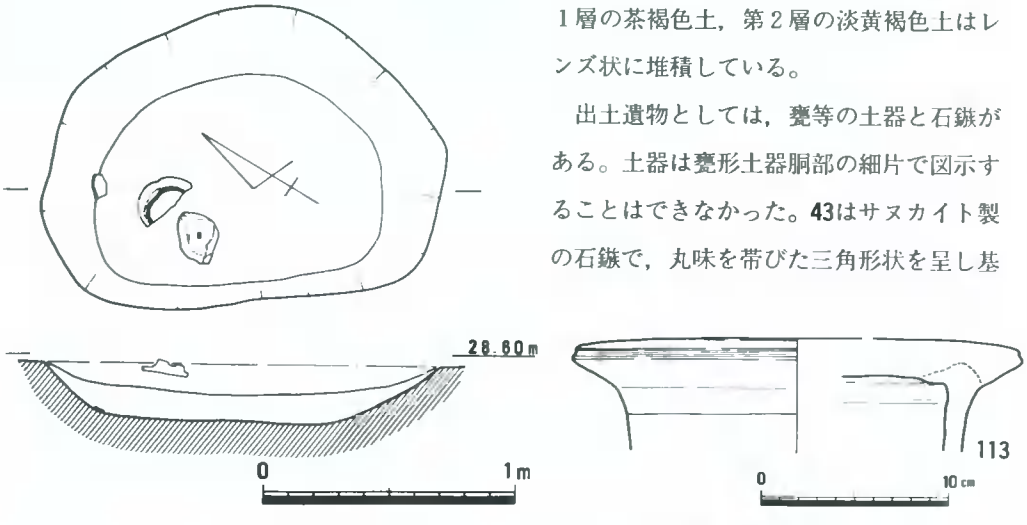


第29図　土壙－4 (1/30)・出土遺物 (1/2)

土壙－4（第29図）

A区の中央やや南側で，竪穴住居址－1の壁体溝の南側に接して検出された土壙である。平面形は，東西165cm，南北110cmの楕円形状を呈し，深さは海抜28.80mの検出面から60cmを測り，底はほぼ平坦である。埋土は4層で第1層の茶褐色土，第2層の淡黄褐色土はレンズ状に堆積している。

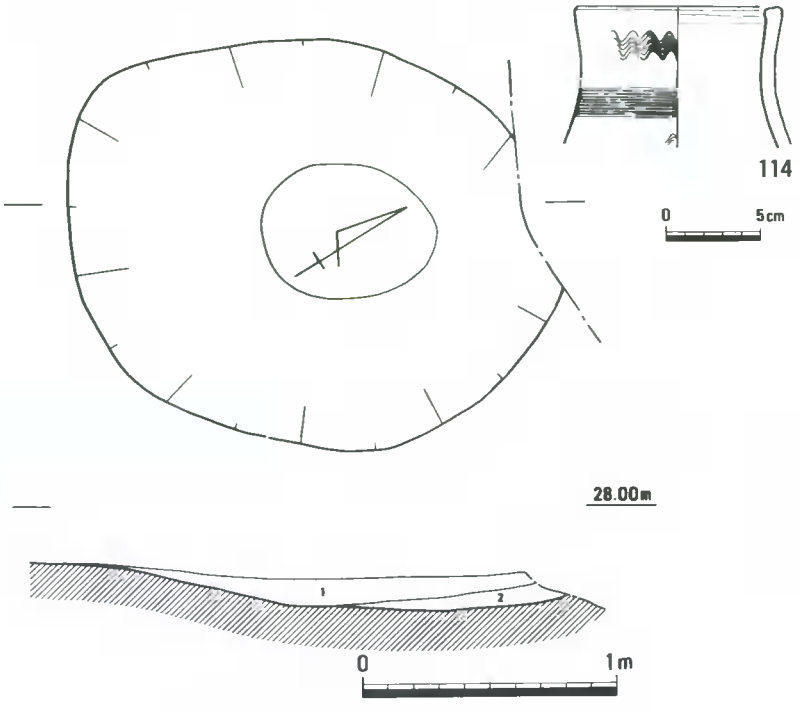
出土遺物としては，甕等の土器と石鏃がある。土器は甕形土器胴部の細片で図示することはできなかった。43はサヌカイト製の石鏃で，丸味を帯びた三角形状を呈し基



第30図　土壙－5 (1/30)・出土遺物 (1/4)

部は直線的である。調整はあまり細かく行われていない。

時期は遺物がほとんどなく明らかではないが，出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。



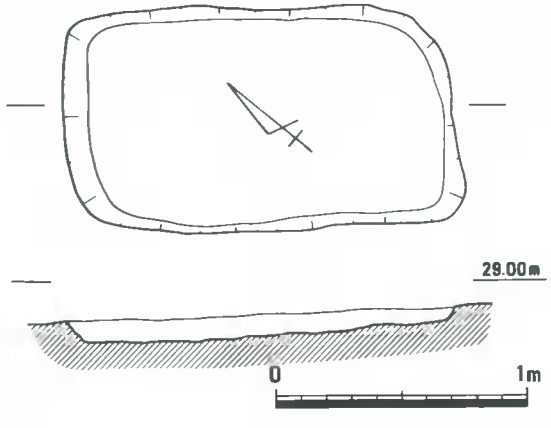
第31図　土壙－6 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壙－５（第30図）

Ａ区北西半中央の南西隅において検出された土壙である。平面形は東側が少し膨らんだ隅丸長方形を呈し，深さは海抜28.55ｍの検出面から25㎝程を測り，底はほぼ平坦である。埋土は上層に淡黄褐色微砂が，下層に淡灰褐色微砂がレンズ状に堆積している。

出土遺物としては，甕等の土器片がある。113は回転台型の土器で，検出面において出土したものである。台部径約24㎝で，指ナデにより調整されている。甕形土器は胴部の細片で図示することはできなかったが，底に近い壁面に貼り付いた状態で出土している。

時期は出土遺物が少なく明確ではないが，弥生時代中期と考えられる。



第32図　土壙－7 (1/30)

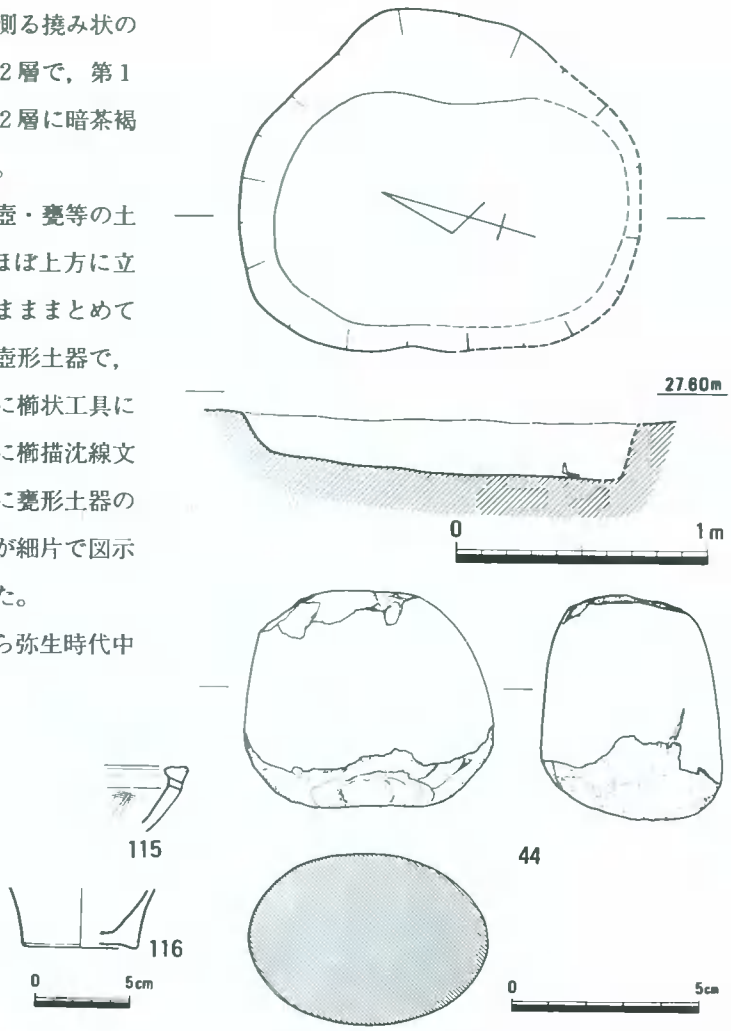
土壙－６（第31図）

Ａ区の中央やや北西寄りにおいて検出された土壙で，竪穴住居址－３の西３ｍ程に位置する。北端は土器溜り－１により切られている。平面形は，南北180㎝・東西160㎝程の少し歪んだ楕円形を呈するもので，深さは27.80ｍ

程の検出面から20cmを測る撓み状の土壙である。埋積土は2層で，第1層に茶灰色微砂が，第2層に暗茶褐色微砂が堆積している。

出土遺物としては，壺・甕等の土器片がある。**114**は，ほぼ上方に立ち上がった頸部をそのままとめて口縁部としている直口壺形土器で，頸部上半および胴部境に櫛状工具による波状文が，その間に櫛描沈線文が巡っている。この他に甕形土器の胴部片が出土しているが細片で図示することはできなかった。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。



第33図　土壙－8 (1/30)・**出土遺物** (1/4・1/2)

土壙－7（第32図）

A区の南東端寄りに検出されたものである。規模は，155×87cm，深さ9cmを測る長方形のプランを呈する土壙である。埋土は，黒褐色の花崗岩風化土である。遺物は，いずれも細片で図示することはできなかったが，甕等の土器片やサヌカイトの剝片が出土している。時期は弥生時代中期と考えられる。

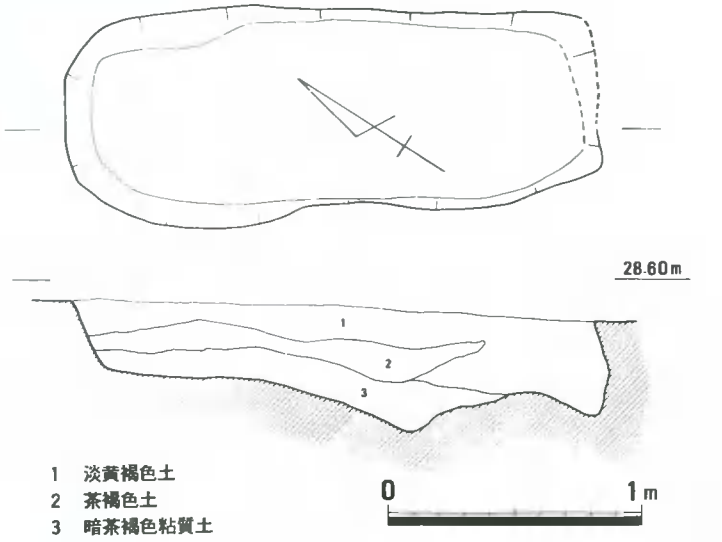
土壙－8（第33図）

A区の竪穴住居址－5の北東側に認められたものである。規模は，南側が確認できなかったが，推定の長さ158cm，幅135cm，深さ22cmを測る隅丸長方形の土壙である。埋土は暗茶褐色の花崗岩風化土が堆積している。

出土遺物は，土器と石器である。**115**は，高杯形土器の破片である。口縁部端は，肥厚気味となり，その外面にキザミメを付しているのである。また，口縁下には，2穴一対の貫孔がみられる。外面はヘラミガキ，内面は，ハケの上からヘラミガキの調整をおこなっている。**116**

は，甕形土器の底部破片である。外面がヘラミガキ，内面はヘラケズリをおこなっている。

44は，安山岩製の太型蛤刃石斧から転用した敲石である。大きさは，長さ5.7cm，幅6.7cm，厚さ4.8cmを測るものである。石の上下には，打撃痕による剝離が顕著に認められる。



第34図　土壙－9（1/30）

土壙－９（第34図）

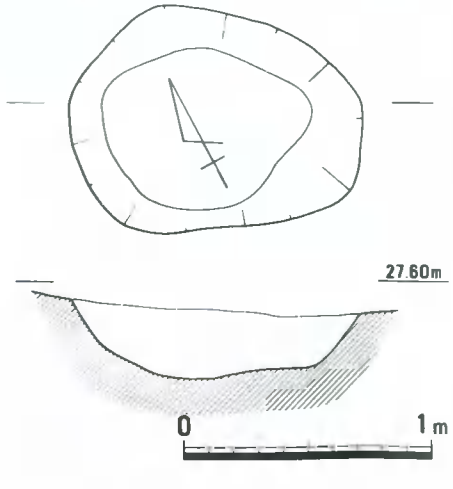
Ａ区の竪穴住居址－１の南東側に検出された。規模は，210×88cm，深さ48cmを測る長方形の土壙である。

底の状態は，平坦とならず凹凸が顕著である。出土遺物がなく，時期は特定できない。

土壙－10（第35図）

Ａ区の土壙－８の南西側近くに検出されたものである。規模は，116×90cm，深さ27cmを測る不整円形のプランを呈する。

埋土は，暗茶褐色の花崗岩風化土であり，遺物は検出されなかった。



第35図　土壙－10（1/30）

土壙－11（第36図）

Ａ区の中央やや西寄りにおいて検出された土壙で，竪穴住居址－３から４ｍ程南西に位置する。上部は畑の開墾により削平を受けており，北東端では床面直上まで削られているものである。平面形は長径290cm・短径260cm程の不整円形状を呈するもので，深さは，海抜28.70ｍの検出面から50cm程を測り，床面は平坦である。柱穴等は検出されなかったが，中央やや北寄りの床面に35×35cm程の範囲に焼土がみられ，規模等から覆屋を持つ竪穴の遺構が考えられる。埋土は茶灰色微砂が堆積し，中間に茶褐色粘質微

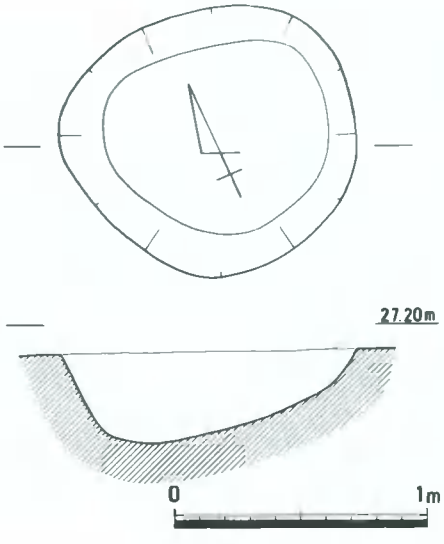
砂が水平に数本ベルト状に堆積している。

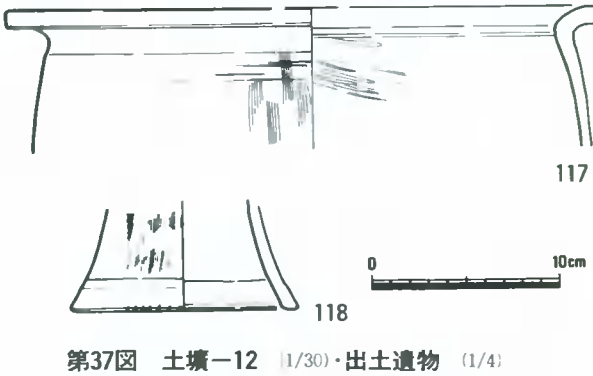
出土遺物は，いずれも細片で図示することはできなかったが，甕・鉢等の細片がみられる。またサヌカイトの剝片も出土している。

時期は遺物が少なく明瞭ではないが，弥生時代後期と考えられる。

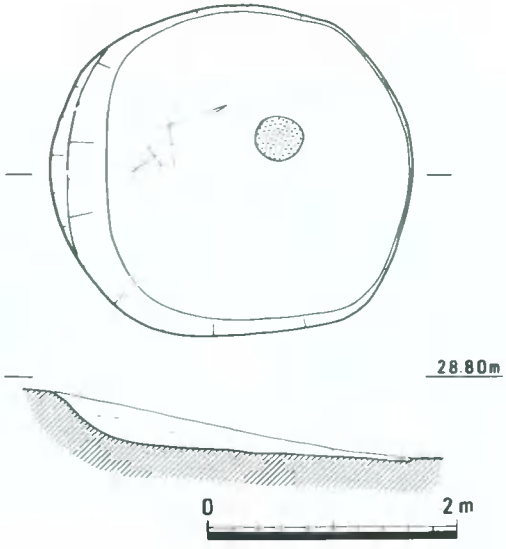
土壙－12（第37図）

A区の北西半中央やや北寄りにおいて検出された土壙で，土壙－1の西約3mに位置し，土器溜り－1を切っている。





第37図　土壙－12 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第36図　土壙－11 (1/60)

平面形は直径110cm程の不整円形を呈するもので，深さは海抜27.10mの検出面から35cm程を測る。埋積土は暗茶褐色微砂が1層である。

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器片やサヌカイトの剝片がある。**117**は，やや内傾気味に立ち上がった胴部から外反して水平な口縁部をつくる甕形土器で，体部上半の調整は，外面はハケメ，内面はヘラミガキがされている。**118**は，高杯形土器の脚部片で，ハの字状に広がった脚端部をほとんど肥厚しないでまとめている。脚柱部外面はハケメ，端部外面にキザミメが施されている。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

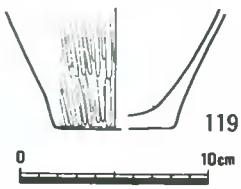
土壙－13（第38図）

A区北西半中央やや東寄りにおいて検出された土壙で，土壙－1の西に位置する。平面形は

長径137㎝・短形86㎝・40㎝の歪な瓢箪形を呈し，底は２段で海抜27.05ｍの検出面から浅いところで10㎝，深いところで20㎝を測る。埋積土は暗茶褐色微砂が１層である。

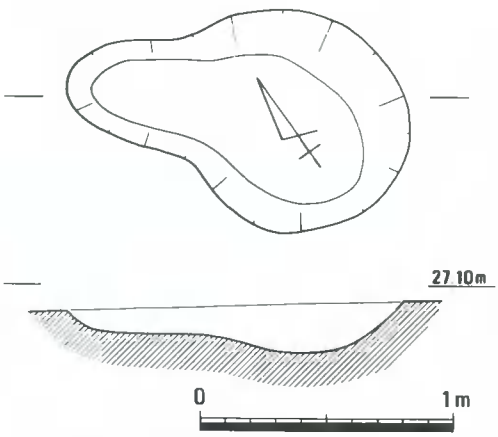
出土遺物としては，甕等の土器とサヌカイトの剝片がある。**119**は，甕形土器の底部であるが細片で底部径等は推定である。

時期は，出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。



土壙－14（第39図）

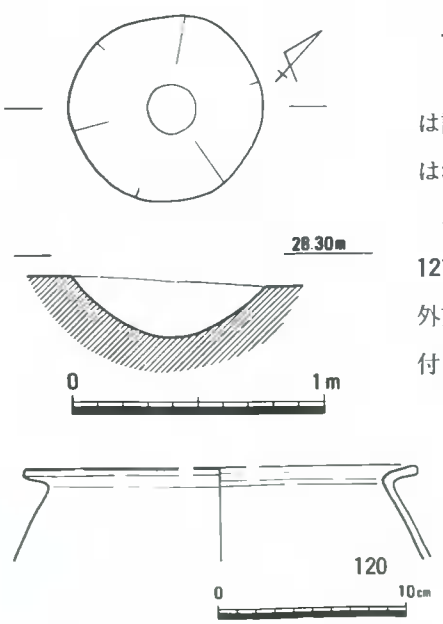
Ａ区中央からやや北西寄りに検出された土壙で，竪穴住居址－３の南１ｍに位置する。平面形は直径74㎝程の円形を呈し，深さは海抜約28.20ｍの検出面から25㎝を測る。埋積土は灰褐色微砂が１層堆積している。



第38図　土壙－13（1/30）**・出土遺物**（1/4）

出土遺物としては，**120**の甕形土器が出土している。内傾して立ち上がった肩部からくの字状に外反し，ほとんど肥厚しないで口縁をまとめている。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

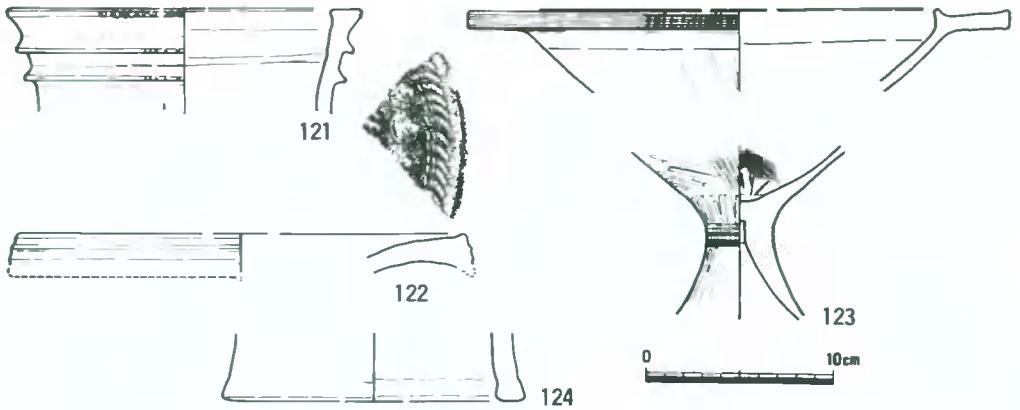


第39図　土壙－14（1/30）**・出土遺物**（1/4）

土壙－15（第40・41図）

Ａ区北西半の北端において検出された土壙で，大半は調査外であり規模等は不明である。確認できた深さは海抜27.35ｍの検出面から30㎝程である。

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器がある。**121**は，外傾気味に立ち上がった頸部がやや肥厚して外方につまみ出されている壺形土器で，頸部には貼り付け突帯が巡り，つまみ出された端面にキザミメを施している。**122**は，ほぼ水平に広がった口縁端部が肥厚して少し上下に拡張されている壺形土器の口縁部片で，拡張した端面に凹線文を，上面に櫛状工具により，キザミメ，円弧文を巡らせているものである。**123**は，口縁端部を外方へ大きく張り出させた高杯形土器である。口縁端面に凹線文



第40図　土壙－15出土遺物 (1/4)

を巡らし，ヘラ状工具によりキザミメを施している。外面は杯部・脚部ともヘラミガキされ，脚柱部に４条の凹線文が巡っている。　時期は出土遺物から弥生時代中期と考えられる。

土壙－16（第41・42図）

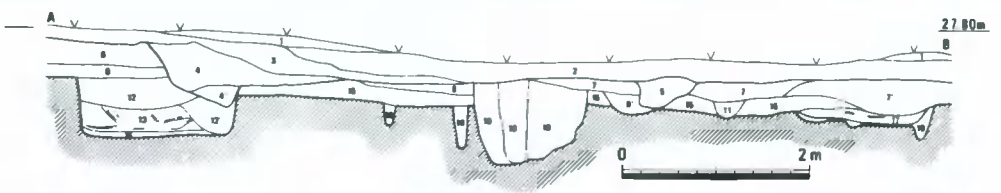
Ａ区北西半の北端において検出された土壙で，大半は調査区外であり規模等は不明である。確認できた深さは海抜27.20ｍの検出面から25cm程である。

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器片の他にサヌカイトの剝片がある。**125**は，くの字状に外反しやや肥厚した口縁の甕形土器で，屈曲部に貼り付け突帯文を巡らせ，端面に爪形圧痕を施している。**126**は，大型の高杯形土器であるが細片で口径等は推定である。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

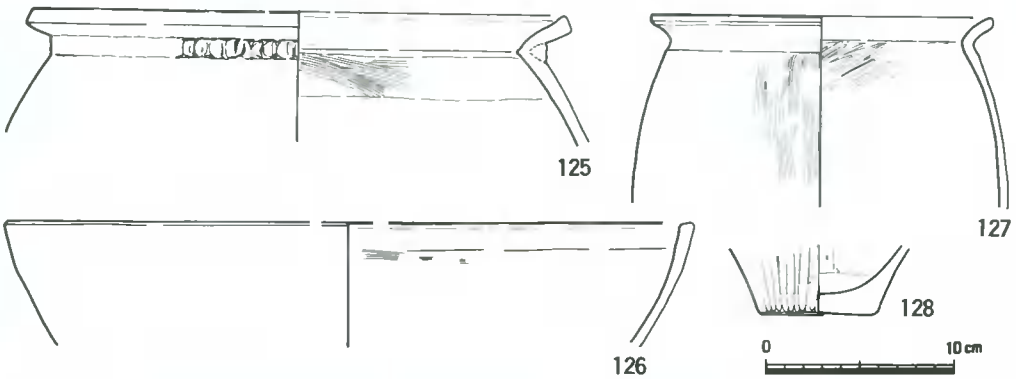
土壙－17（第４・42図）

Ａ区の北西半中央やや北寄りにおいて検出された土壙で，土壙－12の南隣に位置している。平面形は，南北90cm・東西50cm程の長楕円形を呈し，深さは海抜27.25ｍの検出面から15cm程



1　黄褐色砂層
2　淡黄灰色砂
3　茶灰色砂
4　淡黄褐色微砂（造成土）
5　黄褐色砂（土壙－15）
6　淡灰褐色砂
7　暗黄灰色砂
7′　暗茶灰褐色砂
8　暗茶灰色微砂
9　茶褐色微砂
9′　茶褐色微砂（土壙－16）
10　淡黄褐色砂混合茶灰色微砂
10′　暗茶灰色微砂
11　暗黄灰色微砂
12　淡黄灰色粗砂混微砂
12′　淡黄灰色微砂
13　赤褐色黒灰色混合黄灰色微砂（炭・焼土を多く含む）
14　黄灰色微砂
15　灰褐色砂
16　茶灰色微砂
17　黒灰色粘質微砂（土壙－1）
18　暗灰色粘質微砂（土壙－1）

第41図　Ａ区北壁土層断面図 (1/80)



第42図　土壙－16･17出土遺物　(1/4)

の浅い土壙である。埋土は暗茶褐色微砂が１層堆積している。

出土遺物としては，壺・甕等の土器片とサヌカイトの剝片がある。**127**は，肩部からくの字状に外反した口縁端部がそのまま肥厚しないでまとめた甕形土器で，肩部から胴部にかけて外面はハケメ調整されている。肩部内面はヘラミガキされている。**128**は，底部片である。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

(3) 柱　　穴

柱穴－１（第43図）

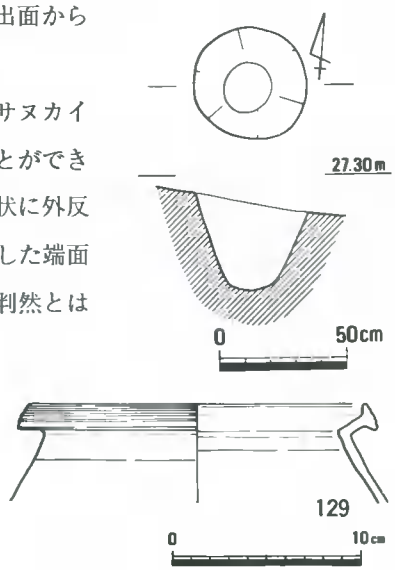
Ａ区中央の北東部において検出された柱穴で竪穴住居址－５の北側に位置している。平面形は直径45㎝程の円形を呈し，深さは海抜27.25ｍの検出面から40㎝を測る。

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器片と伴にサヌカイトの剝片がある。土器はいずれも細片で，図示することができたのは，**129**の甕形土器だけである。肩部からくの字状に外反した口縁端部が肥厚して，斜め上下に拡張され，拡張した端面に凹線文を施すものである。器面の調整は荒れていて判然とはしない。

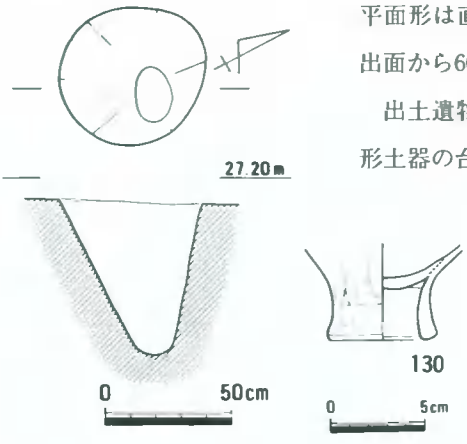
時期は弥生時代中期後半と考えられ，周囲に柱穴状遺構が何本か検出されているが，この柱穴に伴うと考えられるものはない。

柱穴－２（第44図）

Ａ区中央から少し北寄りにおいて検出された柱穴で，竪穴住居址－３から２ｍ程北に位置している。



第43図　柱穴－1　(1/30)・
出土遺物　(1/4)



第44図　柱穴－2 (1/30)・**出土遺物** (1/4)

平面形は直径55cm程の円形を呈し，深さは海抜27.10ｍの検出面から60cmを測る。

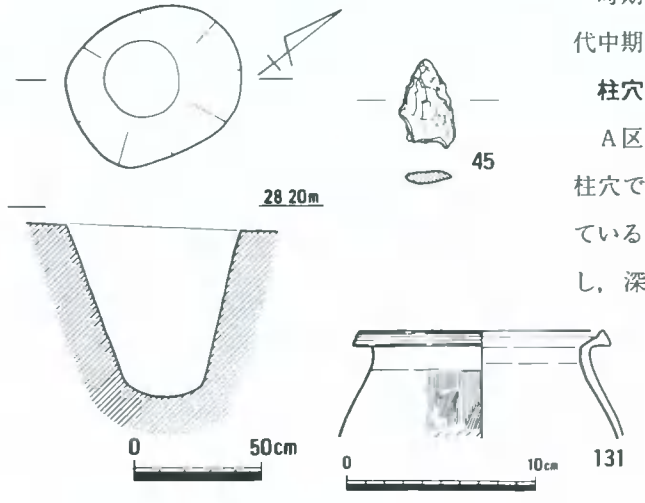
出土遺物としては，サヌカイトの剝片と伴に**130**の台付鉢形土器の台部片がある。粗いヘラケズリと指オサエにより調整されている粗製の土器である。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

柱穴－3・4（第45図）

Ａ区の中央から少し南東寄りで柱穴群が検出されたものの，建物等としてまとまるものは見いだせなかった。この柱穴群の北東部で柱穴－３が，南東部で柱穴－４が検出された。規模は柱穴－３が長径70cm・短径60cm程の楕円形を呈するプランをもち，深さは海抜28.15ｍの検出面から70cmを測る。Ｐ－４は直径22cm程の円形を呈するプランをもち，深さは海抜28.65ｍの検出面から23cm程を測る。

出土遺物としてはＰ－３から壺・甕等と伴にサヌカイトの剝片が，Ｐ－４からはサヌカイト製の石鏃が剝片と伴に出土している。**131**は，Ｐ－３から出土した甕形土器で，肩部から屈曲して外反した口縁部が肥厚し，少し上方に拡張され，拡張された端面に凹線文を施す。胴部外面はハケメ調整されている。**45**は，Ｐ－４から出土したサヌカイト製の石鏃で，やや丸まった三角形状の基部が内彎するものである。



第45図　柱穴－3 (1/30)・**出土遺物** (1/4)・
柱穴－4出土遺物 (1/2)

時期は出土遺物等からいずれも弥生時代中期と考えられる。

柱穴－5（第46図）

Ａ区中央の北東部において検出された柱穴で，柱穴－１の北1.2ｍ程に位置している。平面形は直径35cm程の円形を呈し，深さは海抜27.10ｍの検出面から45cm程を測る。

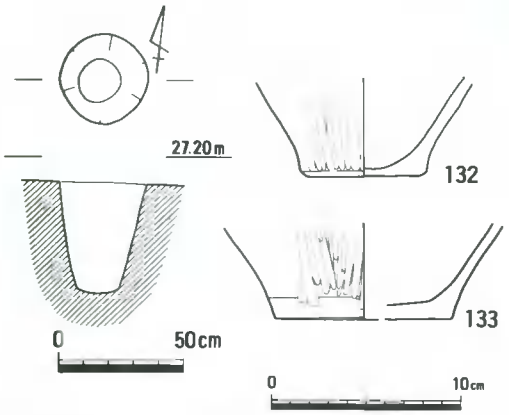
出土遺物としては，図示した甕形土器の底部片がある。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

柱穴－6（第47図，図版83

－２）

Ａ区の土壙－２の南東近くに検出されたものである。この柱穴は，径23cm，深さ62cmを測る円形のプランを呈するものである。柱穴の中から分銅形土製品が出土している。



第46図　柱穴－5 (1/30)・**出土遺物** (1/4)

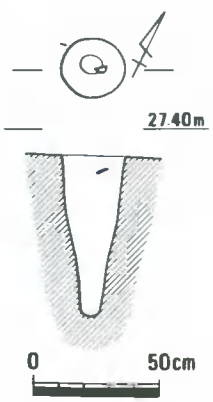
2（第47図）が分銅形土製品である。この分銅形土製品は，残存長4.3cm，幅7.2cm，厚さ1.2cmを測るものである。平面形態は，左右の抉り部について，あまり強くなく，断面のそれも胴部部分において若干肥厚気味になる程度である。また端部は，面取りをおこなっておらず丸く仕上げている。

表面文様は，眉状沈線を平行して２本描く。この眉状沈線は，中央部分で切れており，その部分に押圧による凹みが２か所付されている。刺突文は，この眉状沈線に沿うように付されるものと，分銅形の端部に沿って刺突されるものがある。これ以外の刺突文では，中央部分にＶ字状に施文されている。裏面文様は，左右の抉り部に沿うものと中央の上下に施文される刺突文が認められる。これら文様以外に，端面から裏面へ抜ける小孔が多数認められている。この小孔は，端面に沿うように斜めに設けられるものである。また，胴部においては，横方向の孔が認められている。

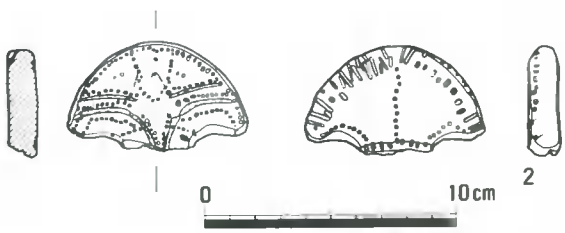
なお，表面の石抉り部の胴部近くにおいて籾痕が認められるのである。

柱穴－７（第48図）

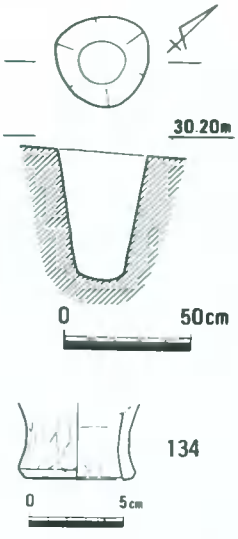
Ａ区南半の中央から北西寄りで検出された柱穴の一つで，平面形は直径35cm程の円形を呈する。深さは海抜30.15ｍの検出面から50cm程を測る。



出土遺物としては，土器片と砥石片がある。**134**は，台付鉢形土器の台部片で，台部径5.2cmを測る。調整は粗いヘラケズリと指ナデによる粗製土器である。**46**は砂岩製の砥石である。



第47図　柱穴－6 (1/30)・**出土遺物** (1/3)



時期は出土遺物等から，弥生時代中期と考えられる。

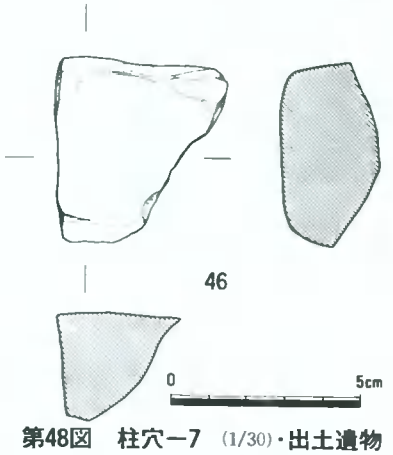
柱穴－8・9（第49図）

いずれもA区南半の中央から北寄りで検出された柱穴で，平面形はP－8が直径30cm程，P－9が直径38cm程の円形状を呈する。深さはいずれも浅く，海抜30.15mの検出面から10cm程を測るのみである。

出土遺物としては土器片が出土しているが，図示したもの以外はいずれも細片である。**135**は，柱穴－8から出土した甕形土器の底部片で，底部径10.0cmを測る。調整は外面をヘラミガキ，内面はヘラケズリされている。

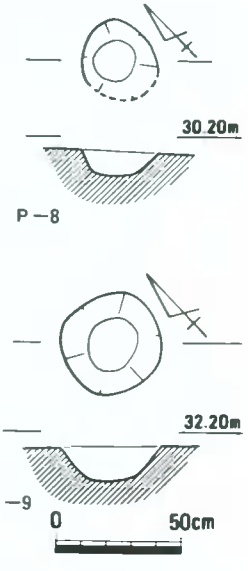
時期は出土遺物等からいずれも弥生時代中期と考えられる。

柱穴－10（第50図）



第48図　柱穴－7 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2)

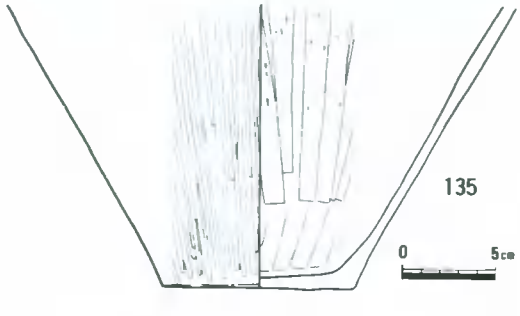
A区中央より少し東寄りで検出された柱穴で，土壙－8の南東1.5mに位置している。平面形は直径50cm程の円形を呈し，深さは海抜27.60mの検出面から40cmを測る。



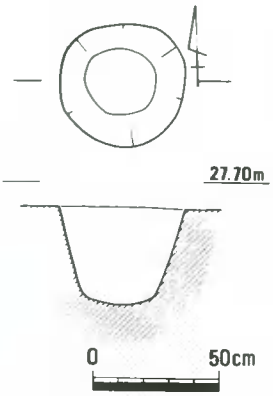
出土遺物としては，サヌカイト製の石鏃（**47**）が一点ある。この石鏃はアメリカ鏃と呼ばれているものを思わせる形状を呈するもので，基部が内彎している。

柱穴－11（第18・51図）

A区の北東端において検出された竪穴住居址－4で検出された柱穴の一つで，竪穴住居址－3のP－5に接っしている。平面形は直径37cm程の円形を呈し，深さは海抜27.45mの検出面から64.5cmを測る。埋積土は，黄灰色と灰色の微砂が混



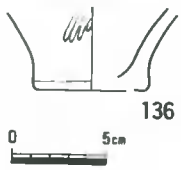
第49図　柱穴－8・9 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第50図　柱穴－10 (1/30)・
出土遺物 (1/2)

合して堆積している。

出土遺物としては，甕・高杯等の土器片があるがいずれも細片である。136は甕形土器の底部片であるが細片である為，底部径は推定である。外面はヘラミガキされている。



第51図　柱穴－11
出土遺物 (1/4)

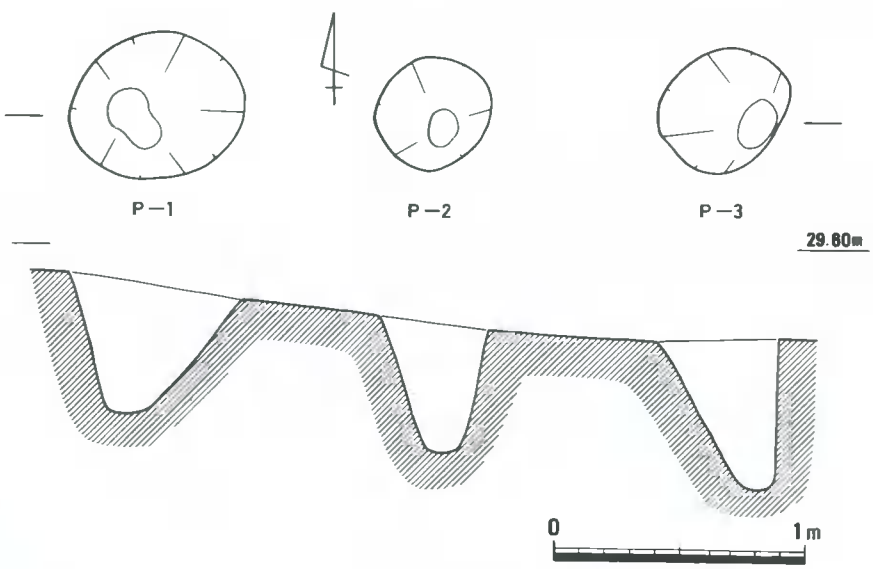
時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

(4) 柱　穴　列

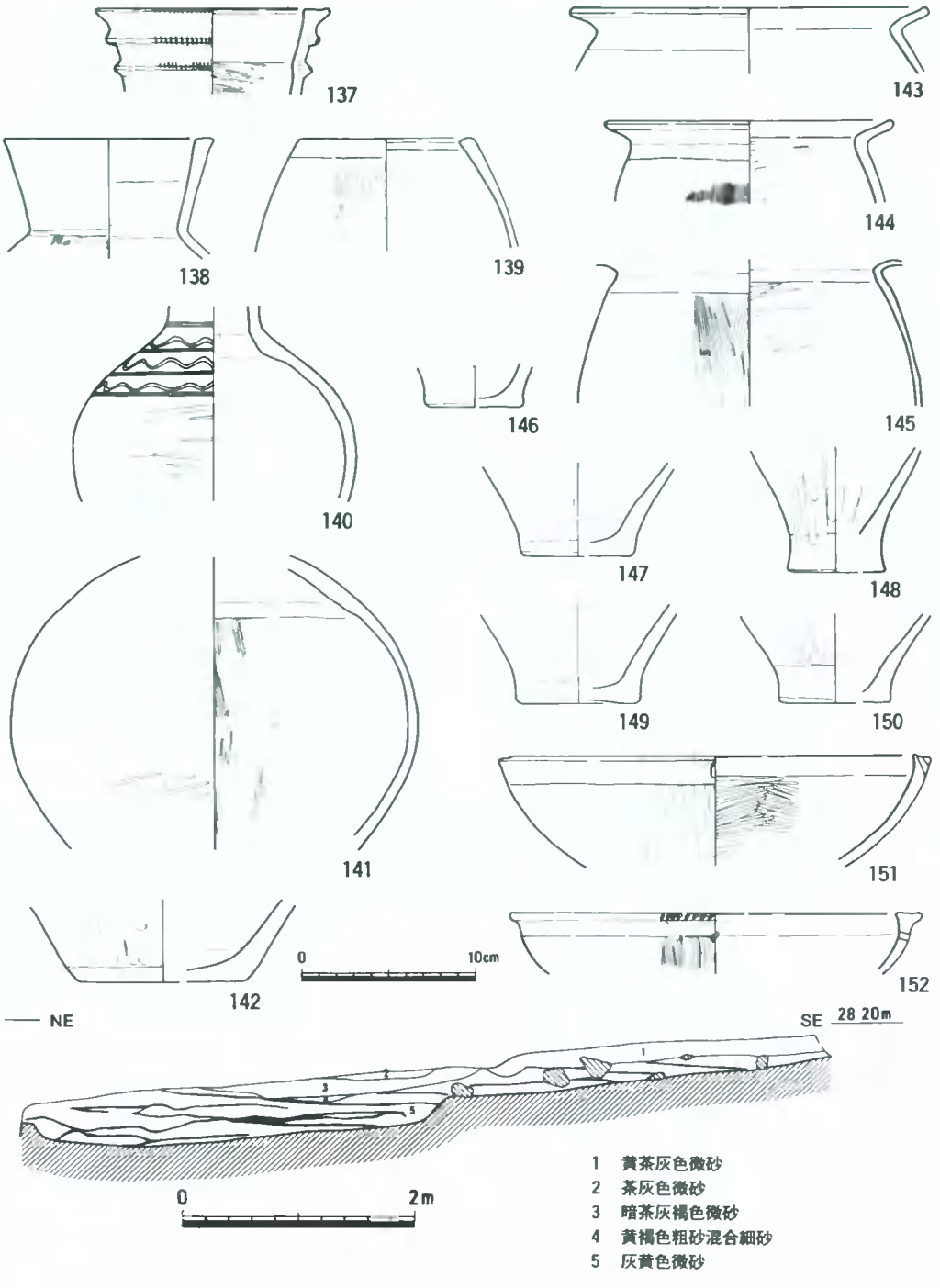
柱穴列－1（第52図）

A区の南東端に検出されたものである。柱穴列は，ほぼ東西方向に並ぶもので，3本確認されている他は，周辺にこれと伴うものは検出されていない。

P－1は，規模が70×56cm深さ50cmを測る円形のプランを呈するものである。P－2は，規模が48×41cm，深さ49cmを測る円形のプランを呈するものである。P－3は，規模が50×46cm，深さ59cmを測る円形のプランを呈するものである。柱穴内からは，出土遺物がなく，時期は不明である。



第52図　柱穴列－1 (1/30)



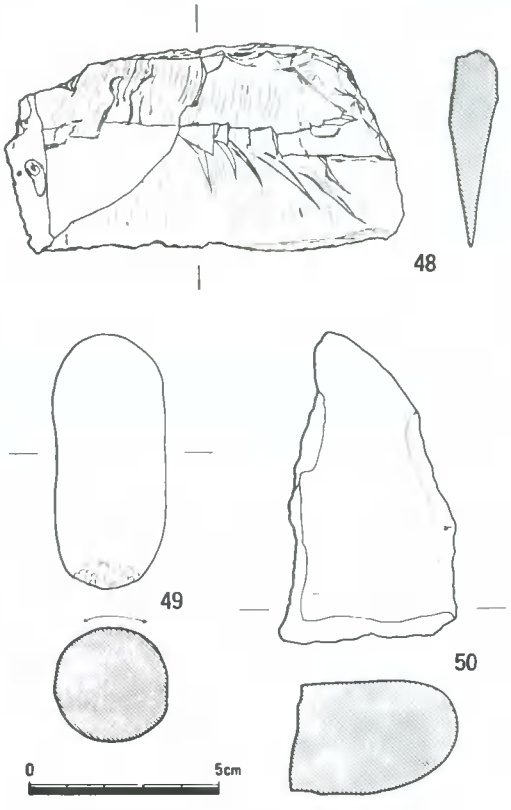
第53図　土器溜り－1土層断面図 (1/60)・**出土遺物(1)** (1/4)

(5) 土器溜り

土器溜り－１（第53・54図）

Ａ区北西半の中央から北西にかけて検出された土器溜りで，南から北へ向って下がる斜面の東西３ｍ・南北９ｍ程の範囲に土器がまとまって出土している。第53図の土層断面図は，土器溜りの中央やや南東で南東断面を見たもので，土器は主に第３層の暗茶灰褐色微砂中に認められる。

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器と伴に敲石・砥石等の石器やサヌカイトの剝片がある。**137・138**は，斜め上方にまっすぐ立ち上がる直口壺形土器で**137**は頸部に貼り付け突帯文を巡らし，端面にヘラ状工具によるキザミメを施している。**140・141**は，体部が球形を呈する壺形土器で，**140**は頸部から肩部にかけてヘラ先による沈線文および波状文を巡らせている。**143～145**は甕形土器で，くの字状に外反した口縁部をほとんど肥厚させないでまとめている。**151・152**は，高杯形土器の杯部片で，**151**はやや拡張気味に立ち上がった口縁端面部に円孔が穿たれている。**152**は杯部から屈曲気味に上方に立ち上がる口縁部に２個単位の円孔が穿たれている。**48**は，サヌカイト製の石庖丁と考えられるものであるが，刃部はそれ程調整が行われていない。**49**は花崗岩製の敲石，**50**は砂岩製の砥石である。

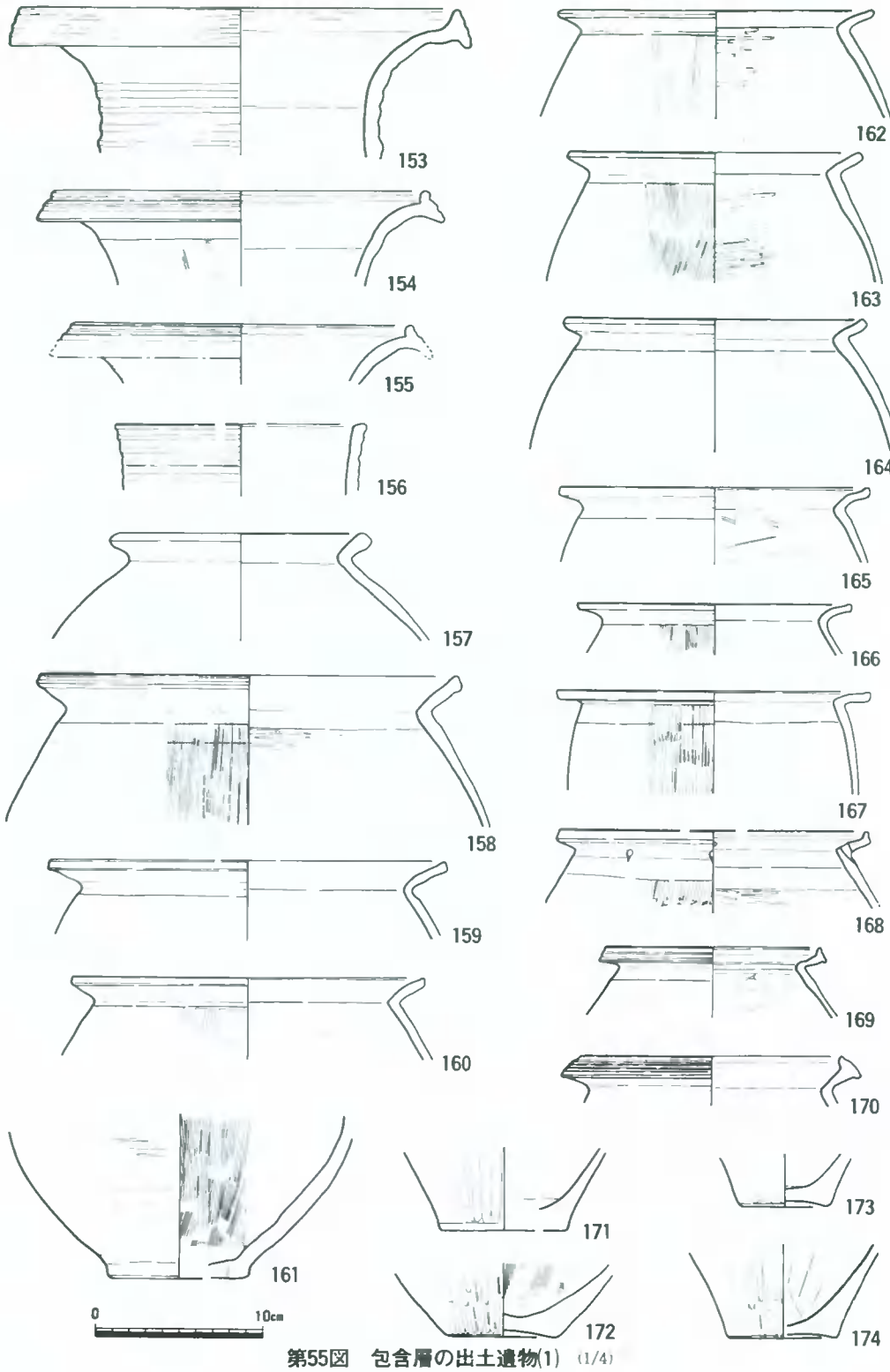


第54図　土器溜り－1出土遺物(2)（1/2）

(6) 包含層の出土遺物

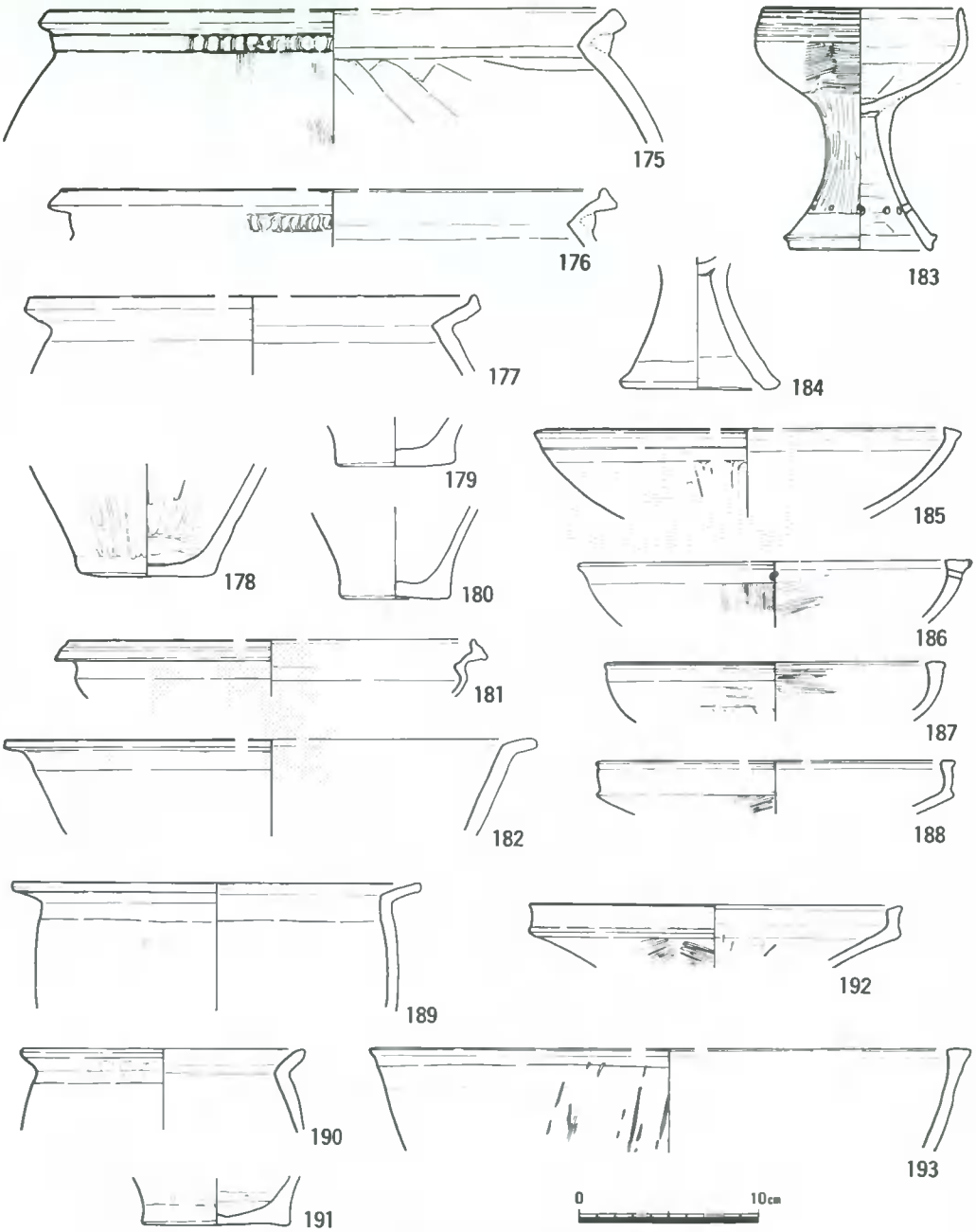
土器（第55～57図）

153～188はＡ区の中央部，**189～193**は北東部，**194～206**は南西部，**207～213**は北西部，**214～218**は南部から出土した土器である。**153～155**は，上方に立ち上がった頸部から外反した口縁端部が拡張し，拡張した端面に凹線文を施す壺形土器である。**156**は，上方に立ち上がった頸部をそのままとめて口縁部としている直口壺形土器で，外面に凹線文を施している。**158～166・189・190・194・215**はくの字状に外反した口縁部をあまり肥厚させずにまとめている甕形土器で，胴部外面は概ねハケメ調整されている。この他甕形土器には，口縁端部を上

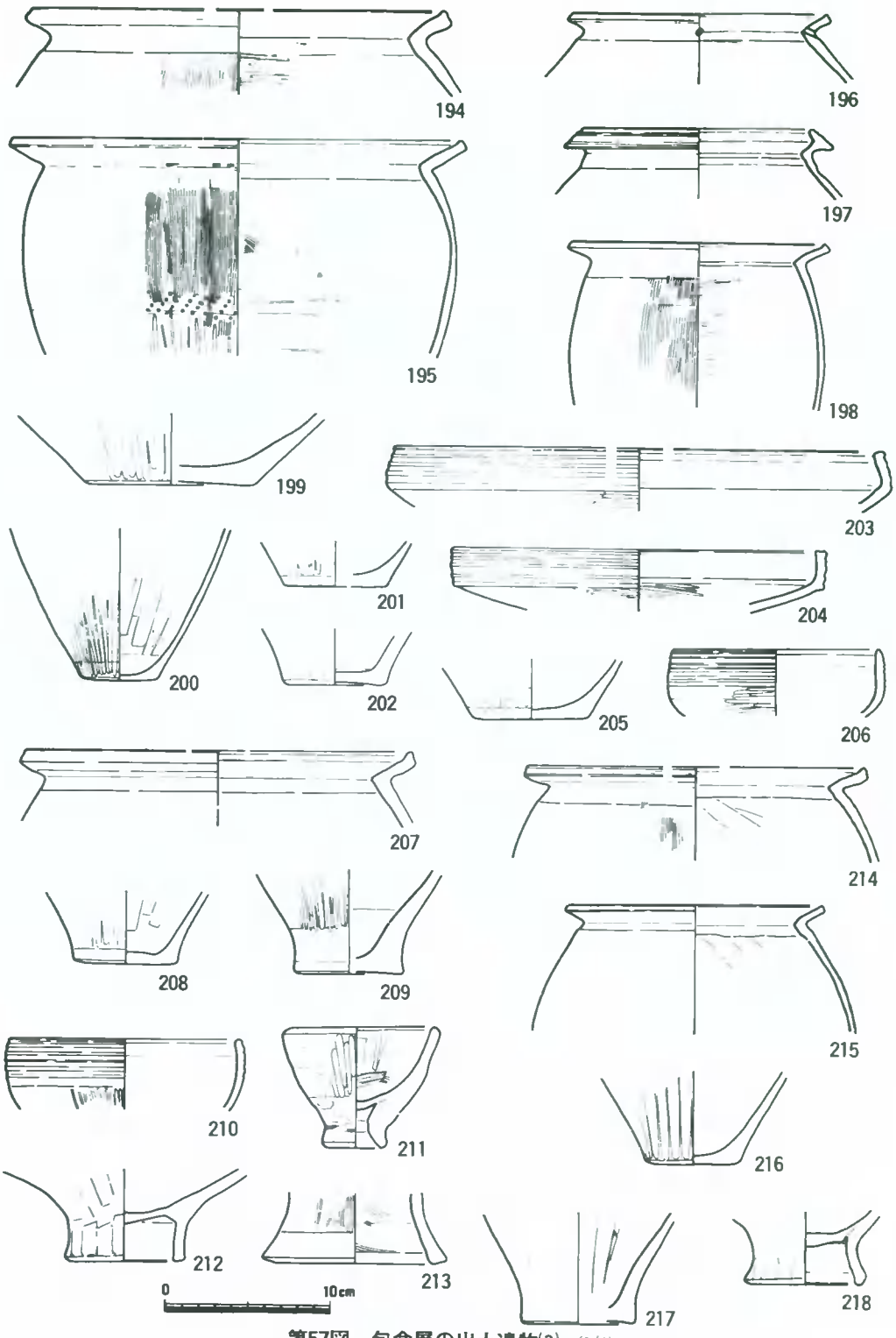


第55図　包含層の出土遺物(1)　(1/4)

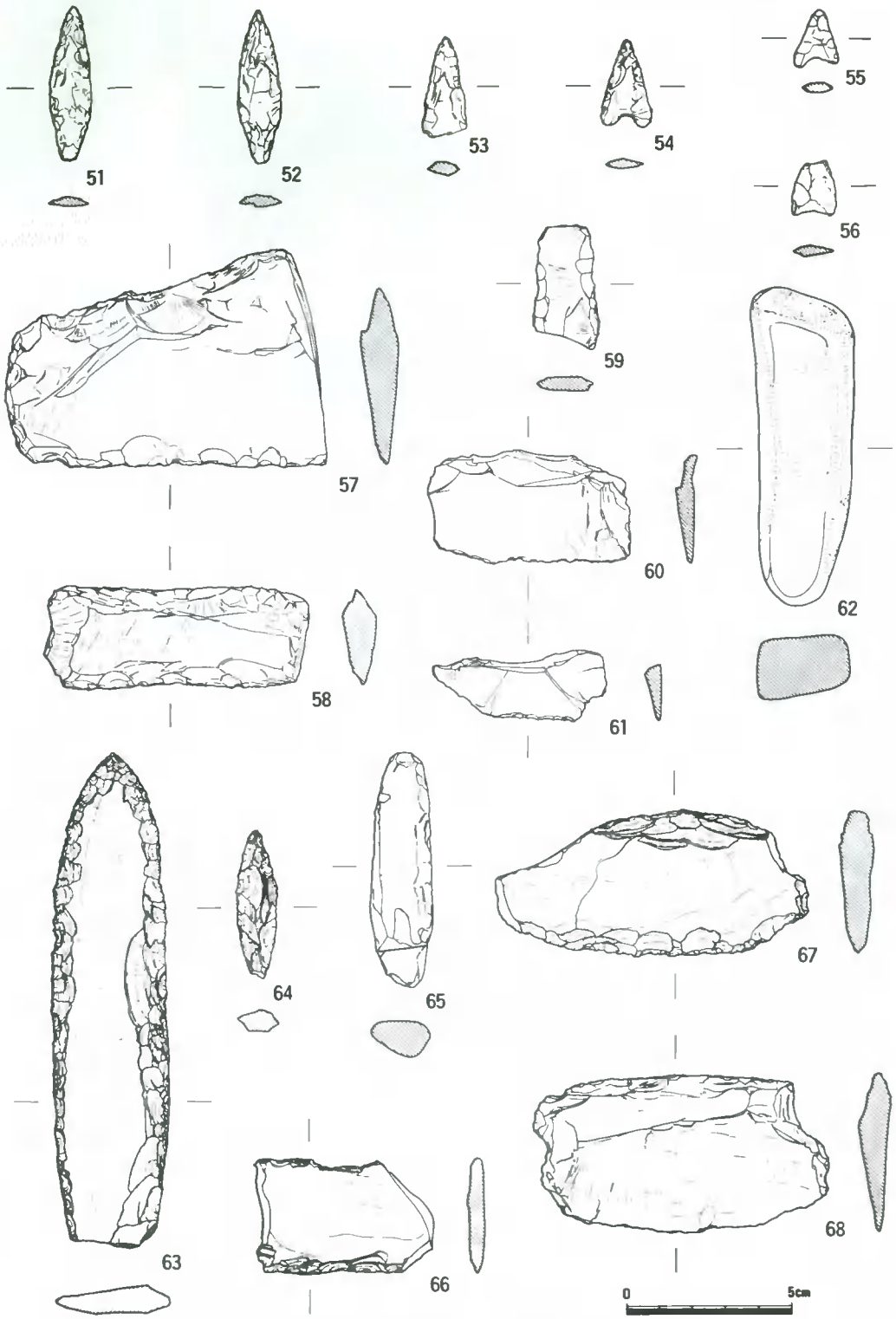
方（168・177・207・214）或いは斜めの上下方（169・170・197）に拡張し，拡張した端面に凹線文を施すものがある。185～187は，杯部から立ち上がり気味の口縁端部を肥厚させている高杯形土器である。188・192・204は杯部から屈曲して立ち上がった口縁部外面に凹線文を施している高杯形土器である。183・206・210は内彎気味に肥厚しないで立ち上がった口縁外面



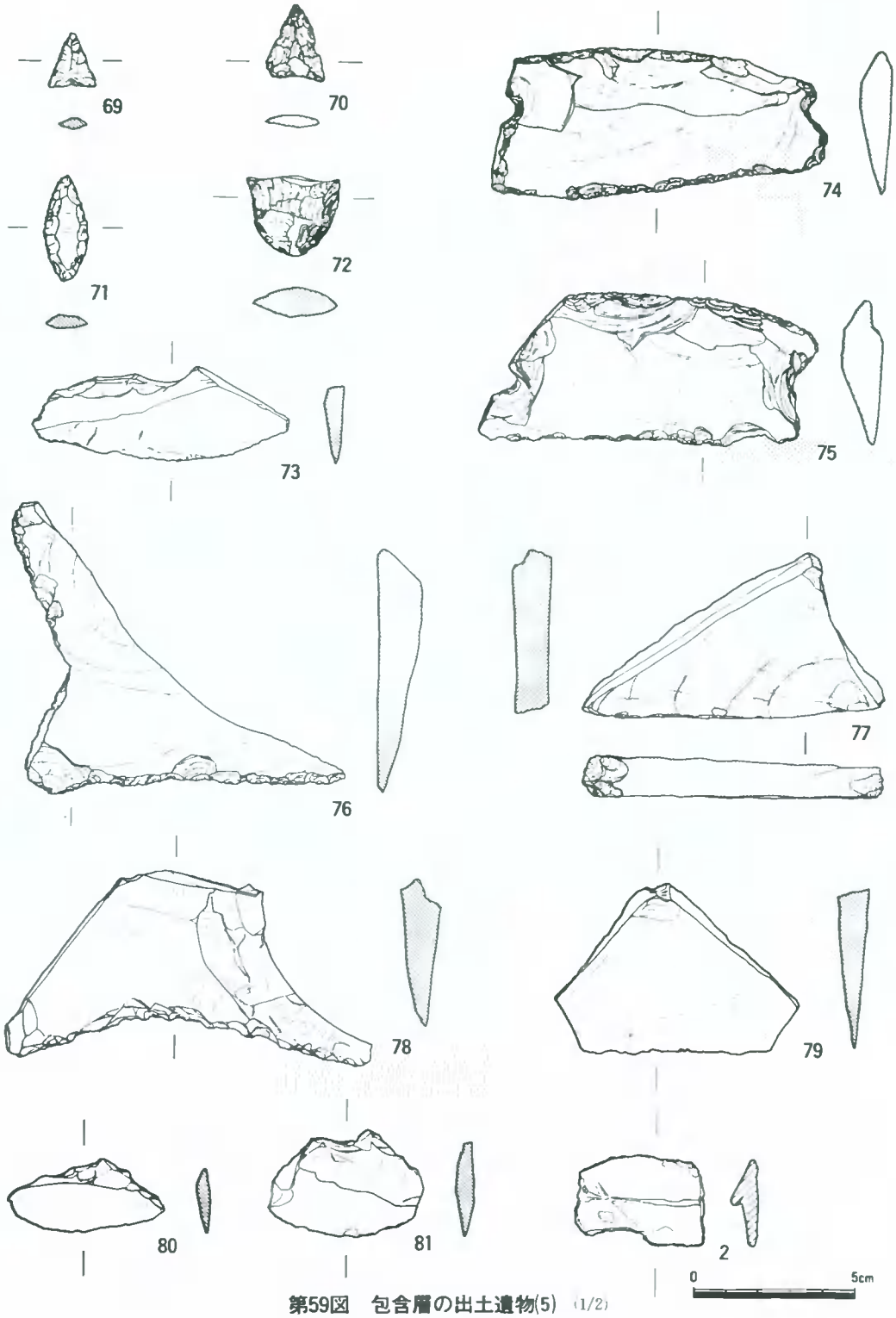
第56図　包含層の出土遺物(2)（1/4）



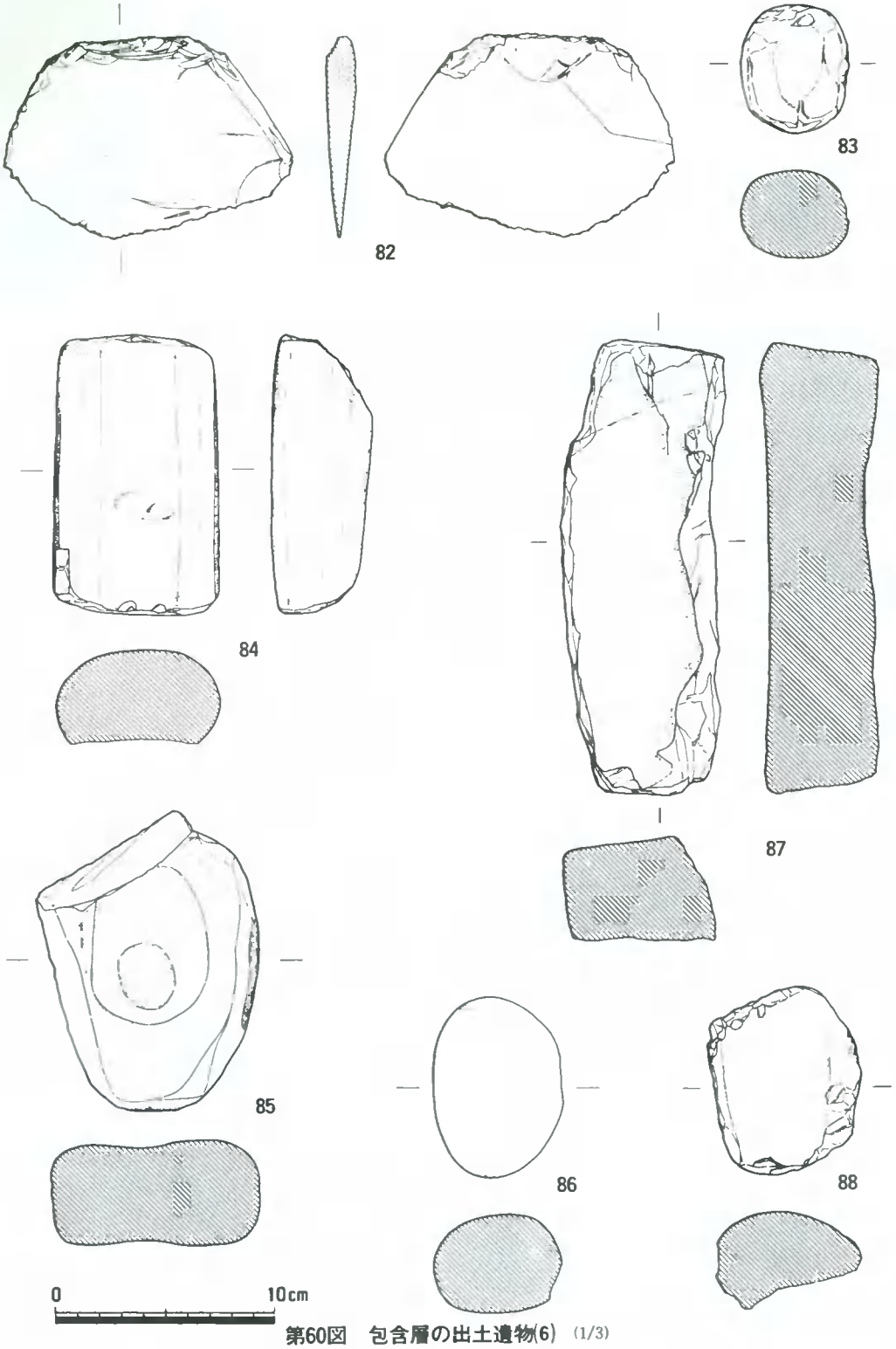
第57図　包含層の出土遺物(3)　(1/4)



第58図　包含層の出土遺物(4) (1/2)

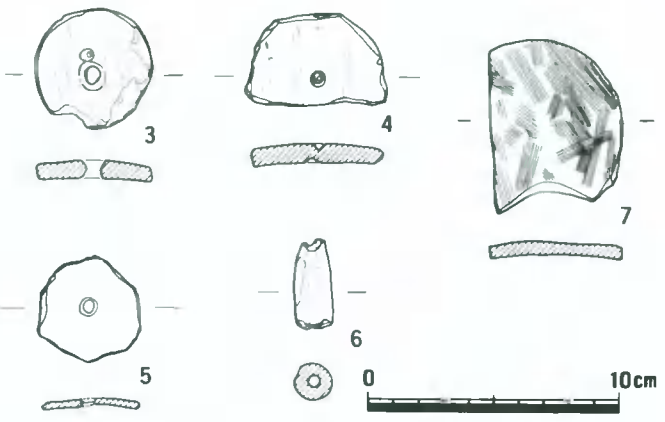


第59図　包含層の出土遺物(5) (1/2)



第60図　包含層の出土遺物(6)　(1/3)

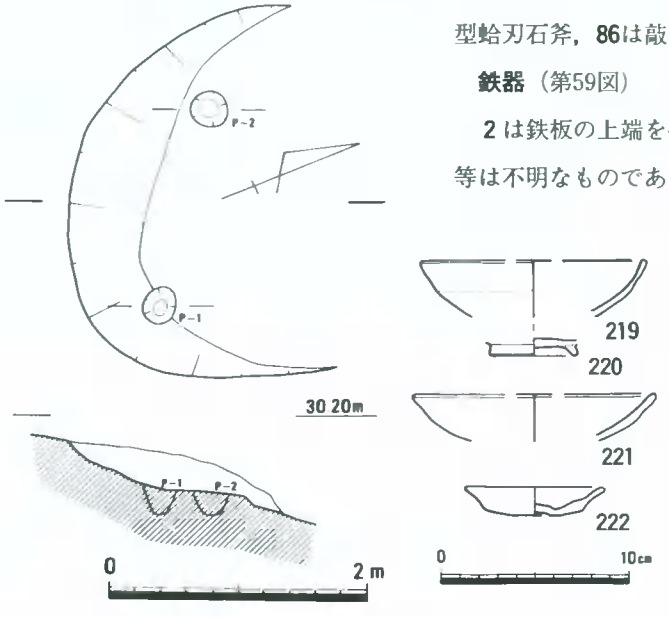
に凹線文を施し，椀状の杯部外面はヘラミガキされている高杯形土器である。211は，一部粗くヘラミガキされた他はヘラケズリ，指頭ナデにより調整された粗製の小型台付鉢形土器である。212・218は，粗いヘラケズリと指ナデにより調整された粗製の台付鉢形土器である。



第61図　包含層の出土遺物(7)　(1/3)

石器・石製品（第58～60図）

51・52・64・71は，基部が細長く突出する尖頭器状の石鏃で，身と茎の区別が不明瞭なものである。53～56・69・70は，三角形状を呈する石鏃で，基部は内彎するものが多い。石鏃はいずれもサヌカイト製である。63は，A区の北西部調査区北端で海抜26.95mの基盤層直上から出土したサヌカイト製の石槍である。両側から先端にかけて丁寧に調整が行われ，左側は若干磨耗している。57・67は，サヌカイト製のスクレイパー，58・68・74・75は，両端に扶りの入ったサヌカイト製の石庖丁である。84・85は，太型蛤刃石斧，86は敲石，87は砥石である。



第62図　土壙－18　(1/60)・出土遺物　(1/4)

鉄器（第59図）

2は鉄板の上端を折り曲げた断片であるが，用途等は不明なものである。

土製品（第61図）

3～4は土器片から作られた紡錘車で，中央に表裏両面から円孔を穿っているが，4は貫通していない未製品である。3の表面には失敗した痕跡がみられる。6は土錘，7は土器片で，一部加工しているが用途は不明なものである。

中世の遺構・遺物

(1) 土　　壙

土壙－18（第62図）

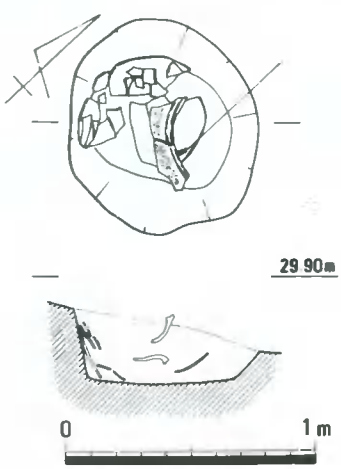
Ａ区の南東半中央より少し南において検出された土壙で，竪穴住居－１の南６ｍ程に位置している。北半は畑の開墾等により削平され，検出できたのは，直径３ｍ程の歪んだ円形を呈すると思われる平面プランの南半部のみである。深さは，海抜30.00ｍの検出面から40㎝を測り，床面は南から北に向って若干傾斜しているが平坦である。土壙中には，この土壙に伴うと思われる柱穴が２本検出されている。平面形は直径28㎝程の円形を呈するもので，床面からの深さは約18㎝を測る。埋土は全体に暗茶褐色風化土が堆積している。検出状況からみて，規模はやや小さいが，覆屋をもつ竪穴式住居様の遺構と考えられる。

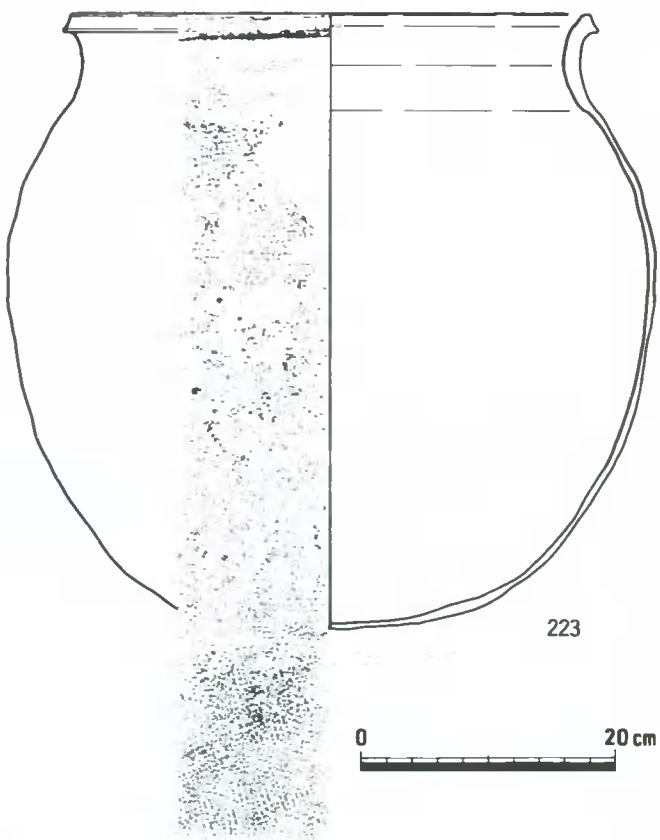
出土遺物としてはＰ－１からいわゆる早島式の椀等の土器片が出土している。椀はいずれも細片で口径は推定であるが，12～13㎝程を測る。**220**は高台部片で，径4.5㎝程の比較的しっかりとした高台が貼り付けられている。**222**は口径8.1㎝・器高1.5㎝を測る小皿である。

時期は出土遺物等から，12世紀後半から13世紀初頭と考えられる。

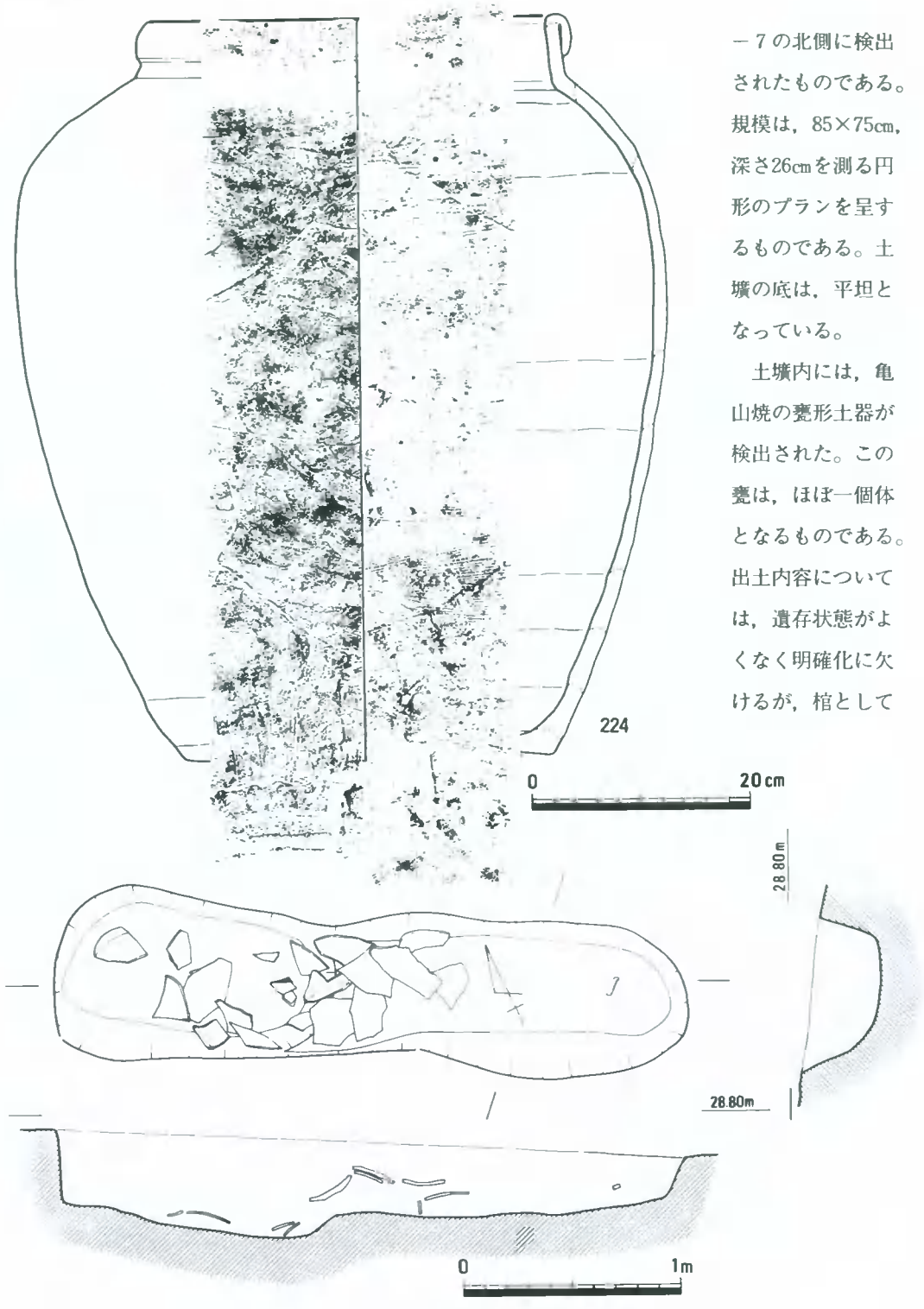
土壙－19（第63図）

調査区の南東寄りの，土壙





第63図　土壙－19 (1/30)・**出土遺物** (1/6)

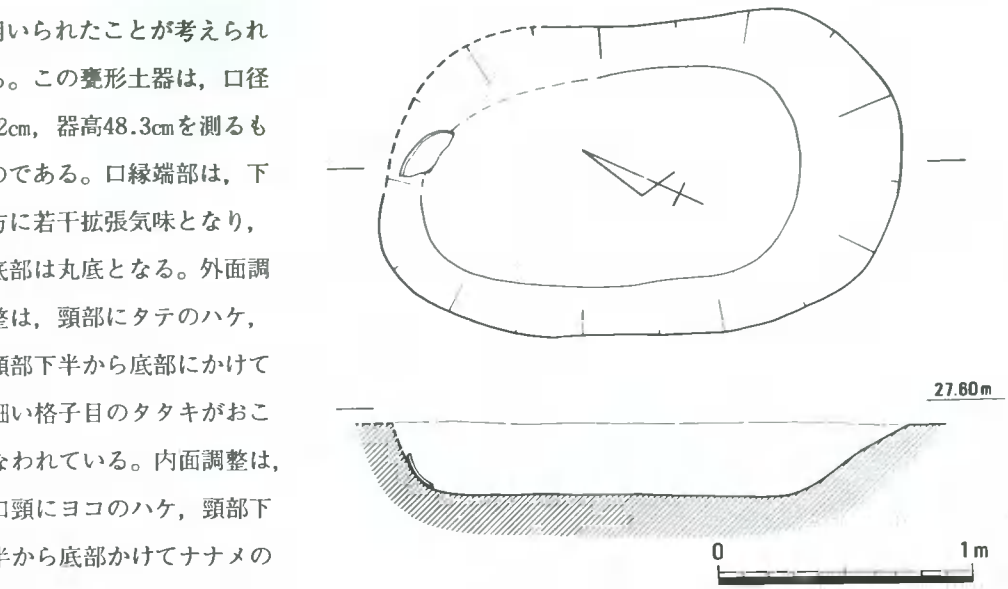


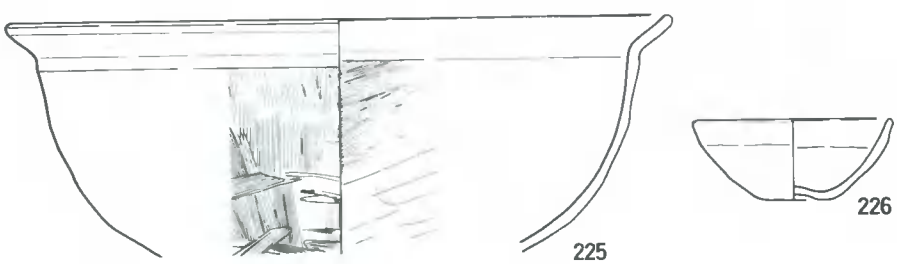
－７の北側に検出されたものである。規模は，85×75cm，深さ26cmを測る円形のプランを呈するものである。土壙の底は，平坦となっている。

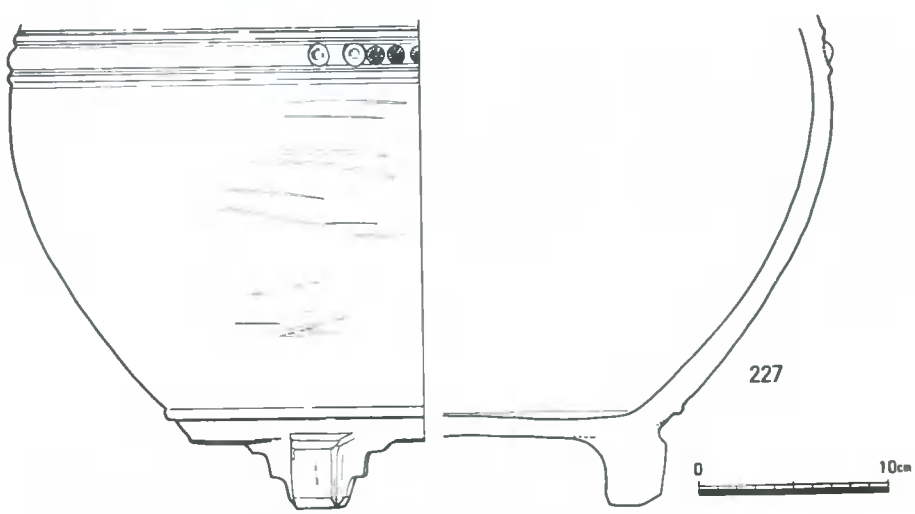
土壙内には，亀山焼の甕形土器が検出された。この甕は，ほぼ一個体となるものである。出土内容については，遺存状態がよくなく明確化に欠けるが，棺として

第64図　土壙－20 (1/30)・**出土遺物** (1/6)

用いられたことが考えられる。この甕形土器は，口径42㎝，器高48.3㎝を測るものである。口縁端部は，下方に若干拡張気味となり，底部は丸底となる。外面調整は，頸部にタテのハケ，頸部下半から底部にかけて細い格子目のタタキがおこなわれている。内面調整は，口頸にヨコのハケ，頸部下半から底部かけてナナメのハケがおこなわれている。







第65図　土壙－21 (1/30)・**出土遺物** (1/4)

土壙－20（第64図）

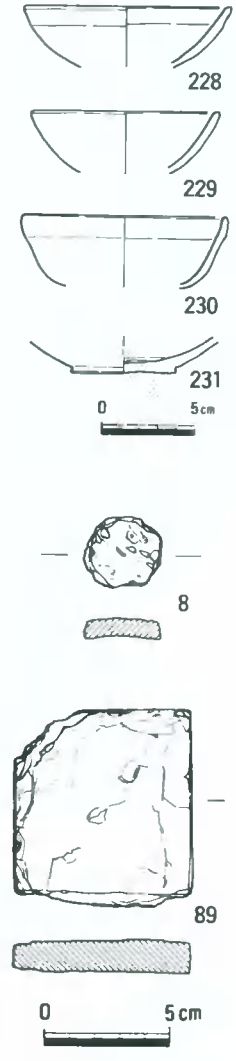
調査区の中央北西寄りに検出されたものである。規模は，290×73cm，深さ28～45cmを測る長方形のものである。底の状態は，平坦に掘られているが，二段となっている。土壙内からは，備前焼の甕形土器がほぼ一個体出土している。この備前焼の甕は，一部において底に敷いた状態を呈し，また，上から置いたような様子も認められている。このようなことから，出土状態は良好とはいえないが，この甕形土器を打ち欠いて，土壙の底面に敷き，さらに一部を上から被ったものと理解されるのである。このことから，この土壙は，墓として用いられたことが理解されるのである。

備前焼の甕形土器は，推定口径38cm，推定器高70.5cm，底部径33.1cmを測る。口縁端部は，幅広の折り返しをおこなっている。外面調整は，ケズリのあとナデをおこなっている。内面は，荒いヨコハケをおこなっている。底部内外面は，ナデがみられる。

土壙－21（第65図）

調査区の北西端寄りに検出されたものである。規模は，203×122cm，深さ26cmを測る隅丸方形のプランを呈するものである。底は，平坦となっている。土壙内からは，土鍋・早島式椀・火鉢が出土している。埋土は灰黄色細砂が1層堆積している。

225は，口径35cmを測る土鍋である。口縁部は，斜め上方に拡張し，内面は凹み気味となる。外面調整は，体部にタテのハケを行い体部中ほどまではハケの上からナデ，そして下半はヨコのヘラが認められる。**226**は，口径9.6cm，器高3.7cmを測る椀形土器である。底部は，凹凸気味となり，内面は凸状となる。外面調整は，体部中ほどまでヨコのナデが認められる。内面調整は，ヘラ状工具によるケズリが認められる。**227**は，火鉢の胴部から底部の破片である。胴部上半には，凹線の間に円形浮文を付す。円形浮文の右側の3か所のスタンプ風の文様は，円形浮文が剝離したあとの状態である。底部には，3本の足が付されている。



第66図　包含層の出土遺物
(1/4・1/3)

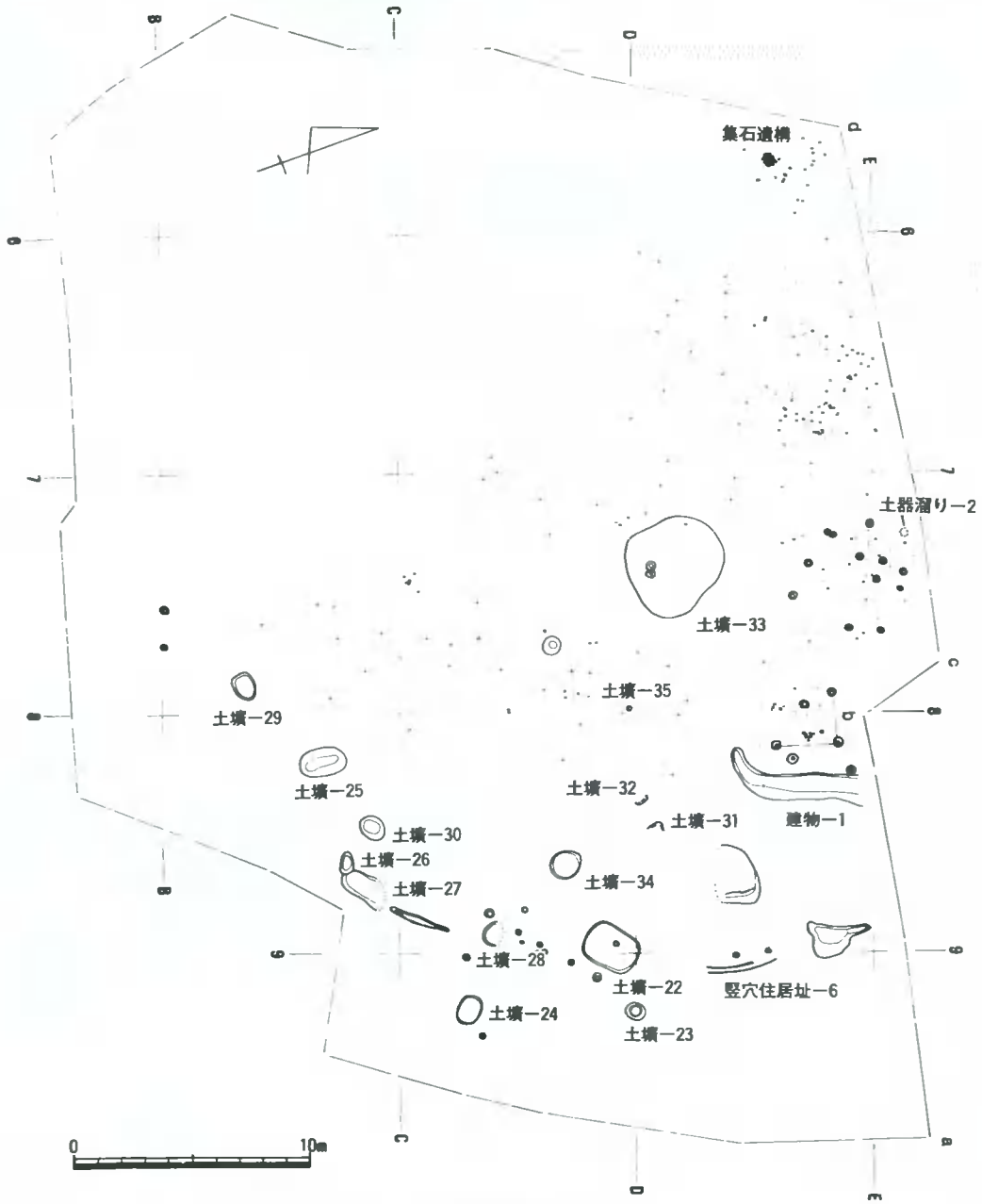
(2) 包含層の出土遺物

228～230は，早島式の椀形土器である。**231**は，須恵質のものである。

228は，口径10.9cmを測る。口縁部の内外面は，ヨコナデを行い，体部の内外面は，ナデが認められている。**229**は，推定口径

9.8cmを測る。調整は，内外面ともナデをおこなっている。**230**は，口径10.7cmを測る。調整は，内外面ともナデがおこなわれている。**231**は，底部径6.5cmを測る。底部には，糸切りが認められる。

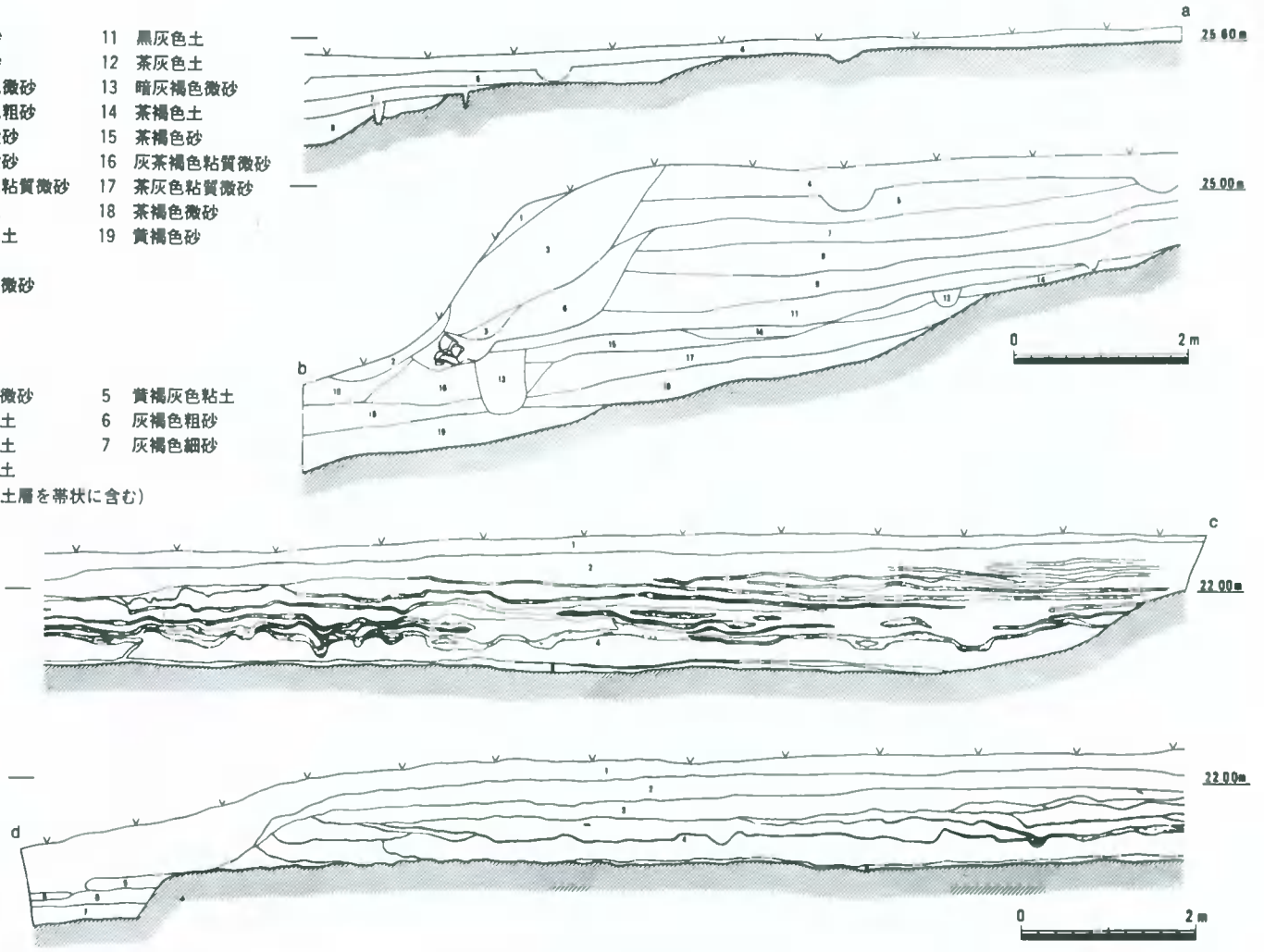
8は，径１cmを測る備前焼のメンコである。**89**は，一辺が7.0cmで厚さ1.1cmを測る方形のも



第67図　Ｂ区遺構配置図　(1/300)

1 淡灰色砂
2 黄灰色砂
3 暗灰黄色微砂
3′ 明黄灰色粗砂
4 灰褐色微砂
5 黄灰色微砂
6 淡黄灰色粘質微砂
7 黄灰色土
8 暗黄灰色土
9 茶灰色土
10 暗茶灰色微砂
11 黒灰色土
12 茶灰色土
13 暗灰褐色微砂
14 茶褐色土
15 茶褐色砂
16 灰茶褐色粘質微砂
17 茶灰色粘質微砂
18 茶褐色微砂
19 黄褐色砂

1 暗茶灰色微砂
2 淡茶褐色土
3 暗茶褐色土
4 灰色風化土
（褐色風化土層を帯状に含む）
5 黄褐灰色粘土
6 灰褐色粗砂
7 灰褐色細砂



第68図　B区北壁土層断面図 (1/80)

のである。材質は粘板岩で，用途については不詳である。

２．Ｂ区の調査

Ｂ区は北西にのびる丘陵の裾部にあたる。現状では，２段の畑となっている。この畑の高低差は，240cmを測る。このため調査前においては，削平がおこなわれていることが予想されたのである。しかし，基盤と考えられる層は，一定しておらず第68図の土層ポイントのａ～ｄにおいて茶灰色土・灰色粘土・黄褐色粘土というように変化してゆくのである。この変化は，明確に分離できず漸次変化してゆくのである。そして，これらの土層は，地表で観察されたような高低差ではなく，土層断面図のａ－ｂ間において，なだらかに傾斜を示し，ｃ－ｄ間においては，平坦な状態を呈しているのである。

Ｂ区の層序は，土層断面図ａ－ｂ間においては，18層の茶褐色微砂まで中世の遺物が含まれており，斜面堆積の厚さが認められるのである。またｃ－ｄ間のｃ寄りにおいては，表土直下から弥生期の遺構面を検出することができ，一部においては削平されているのも認められている。しかし，この土層断面図の中央からｄ寄りに認められる３層の暗茶褐色土は，弥生期の遺物を出土する包含層である。この土層の下に堆積する４層の灰色風化土は，縄文時代早期の遺物を包含している。またｄ近くにおいては一段下がっており，土層の内容から比較的，新しい土が認められている。

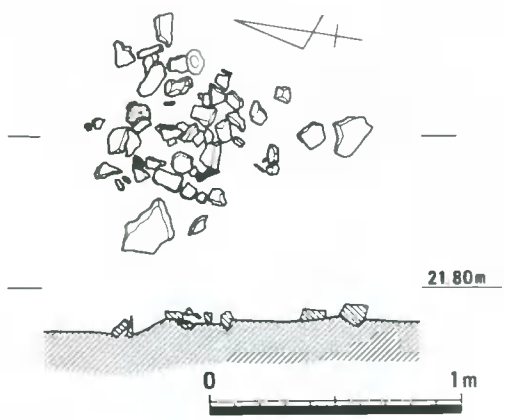
検出された遺構は，調査区東寄りに集中しており西に行くにしたがい見られなくなるのである。早期の遺物の分布は，調査区北寄りに多く認められる傾向を示しているのである。

縄文時代の遺構・遺物

遺物の分布は，調査区の南から北にかけ，北にゆくにしたがいその広がりが大きくなっている。特に，調査区東側から北にかけて密度が高くなっている。そして，この分布から北の用地外にもその範囲が広がっていることが考えられる。調査区の北端寄りに，集石遺構が検出されている。

(1) 集石遺構

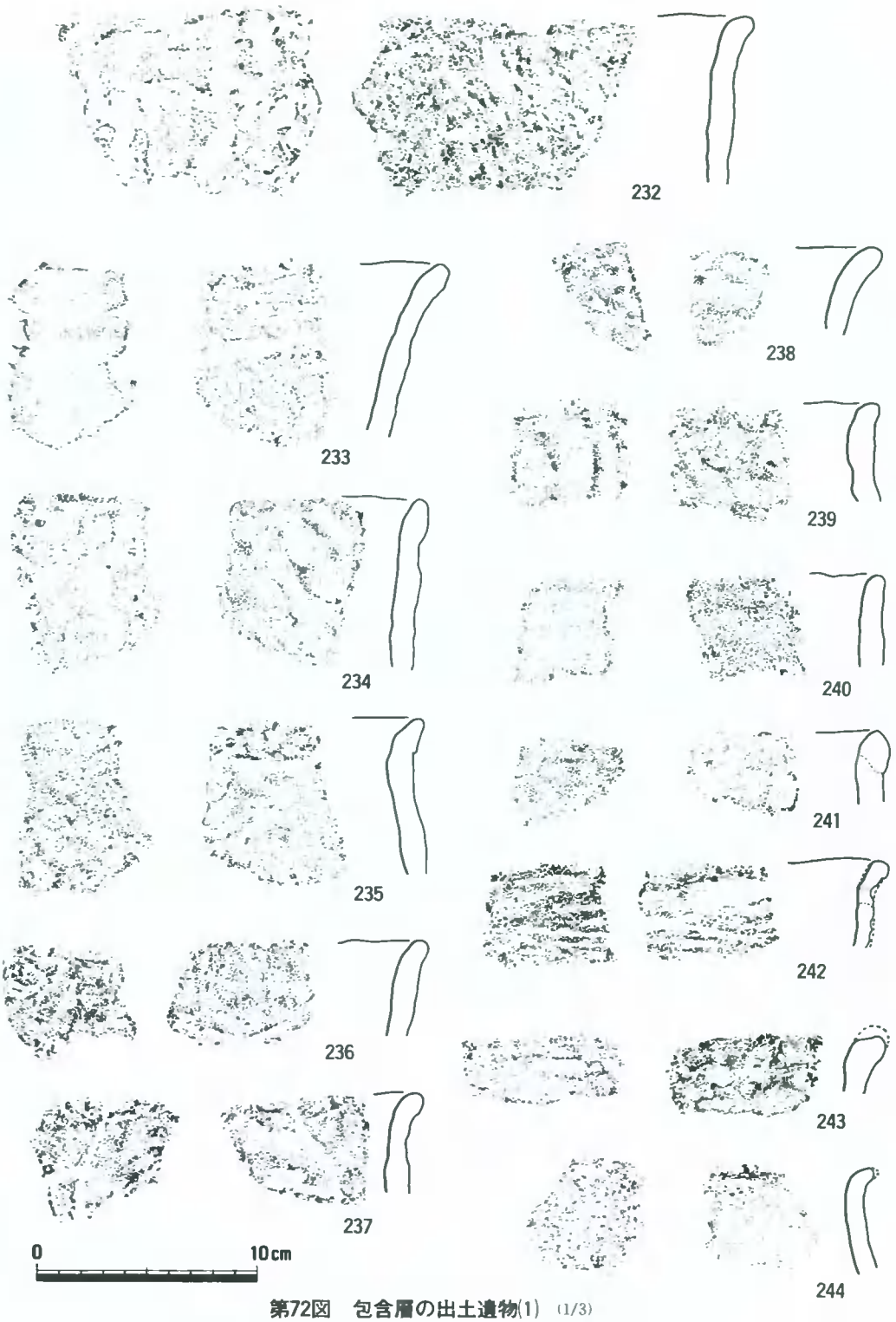
集石遺構（第69図，図版85－１・２，86－１）は，４層の灰色風化土中において検出されたものである。この上に堆積する暗茶褐色土は，北に行くにしたがい認められるが，南についてはその堆積は



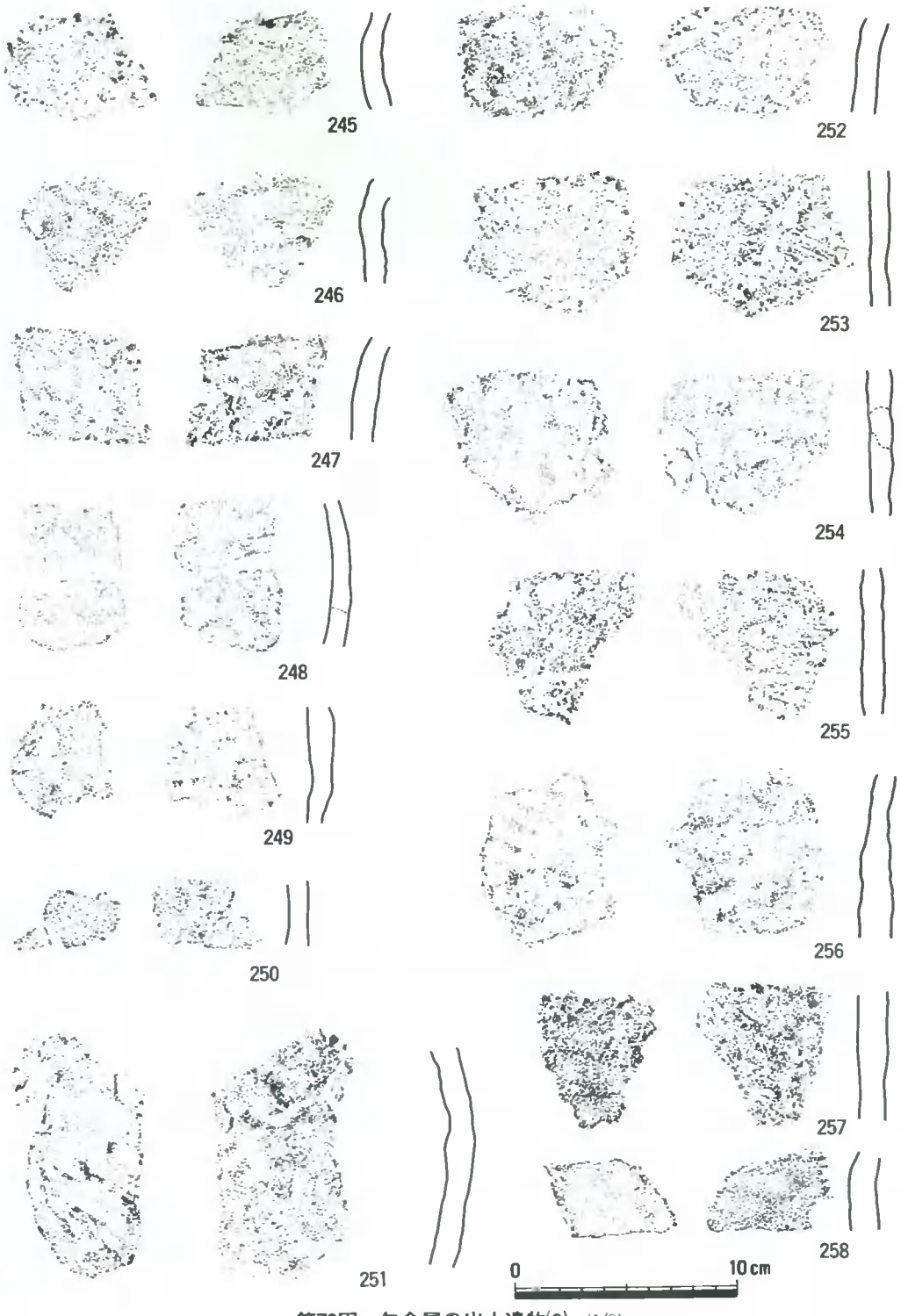
第69図　集石遺構　(1/30)

第70図　縄文早期土器分布図 (1/200)

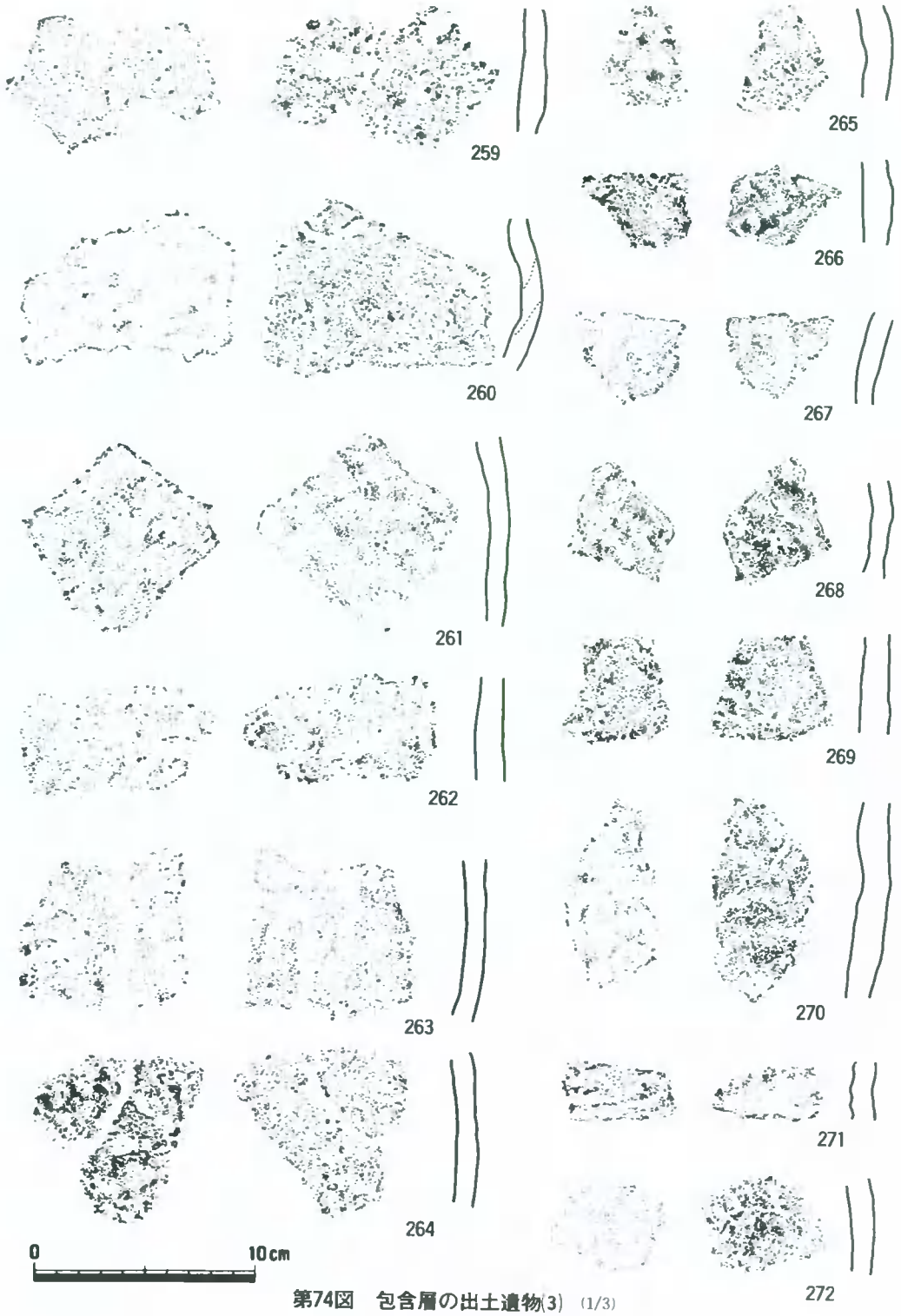
第71図　縄文早期土器水平・垂直分布図（水平1/150・垂直1/60）



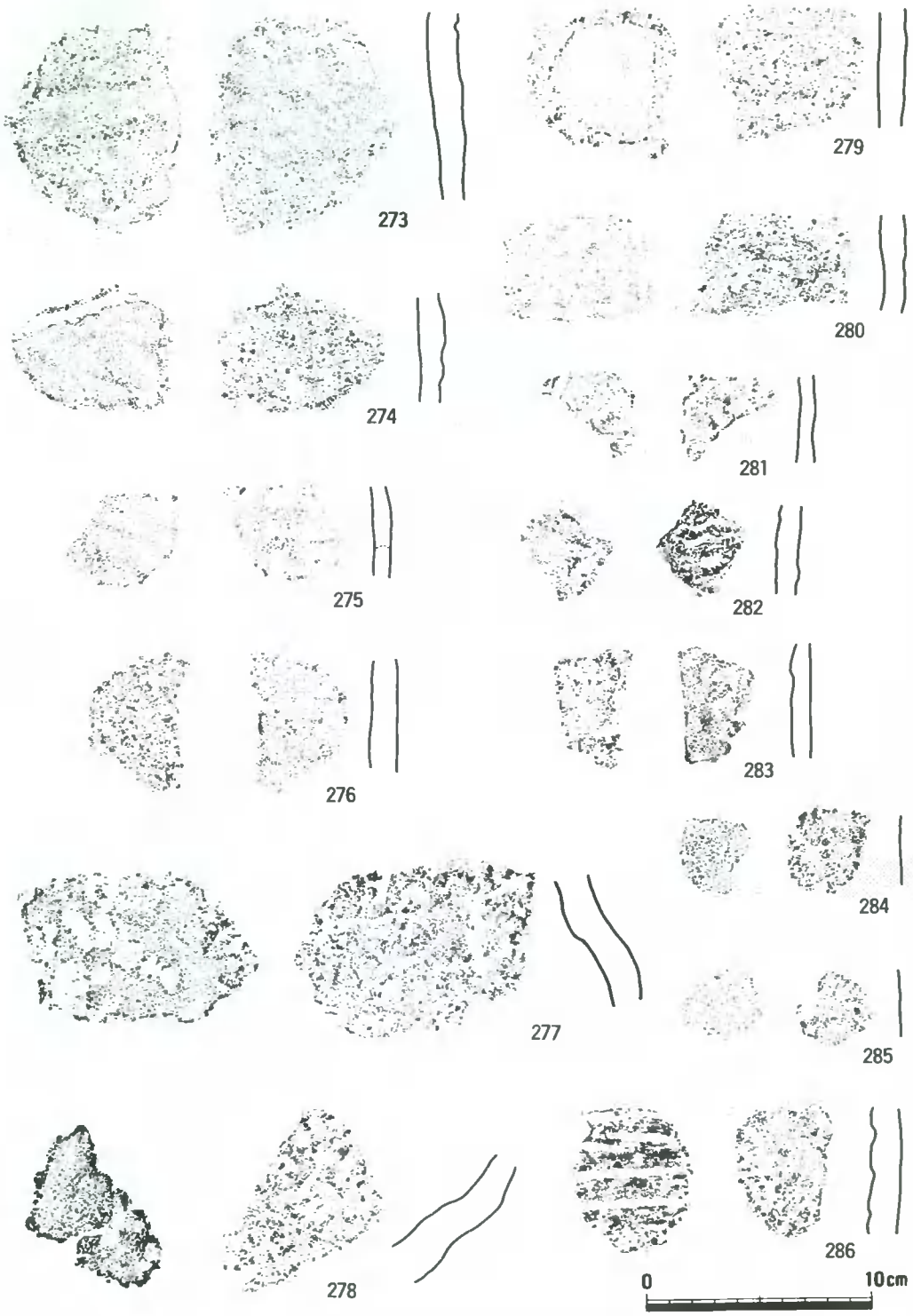
第72図　包含層の出土遺物(1)　(1/3)



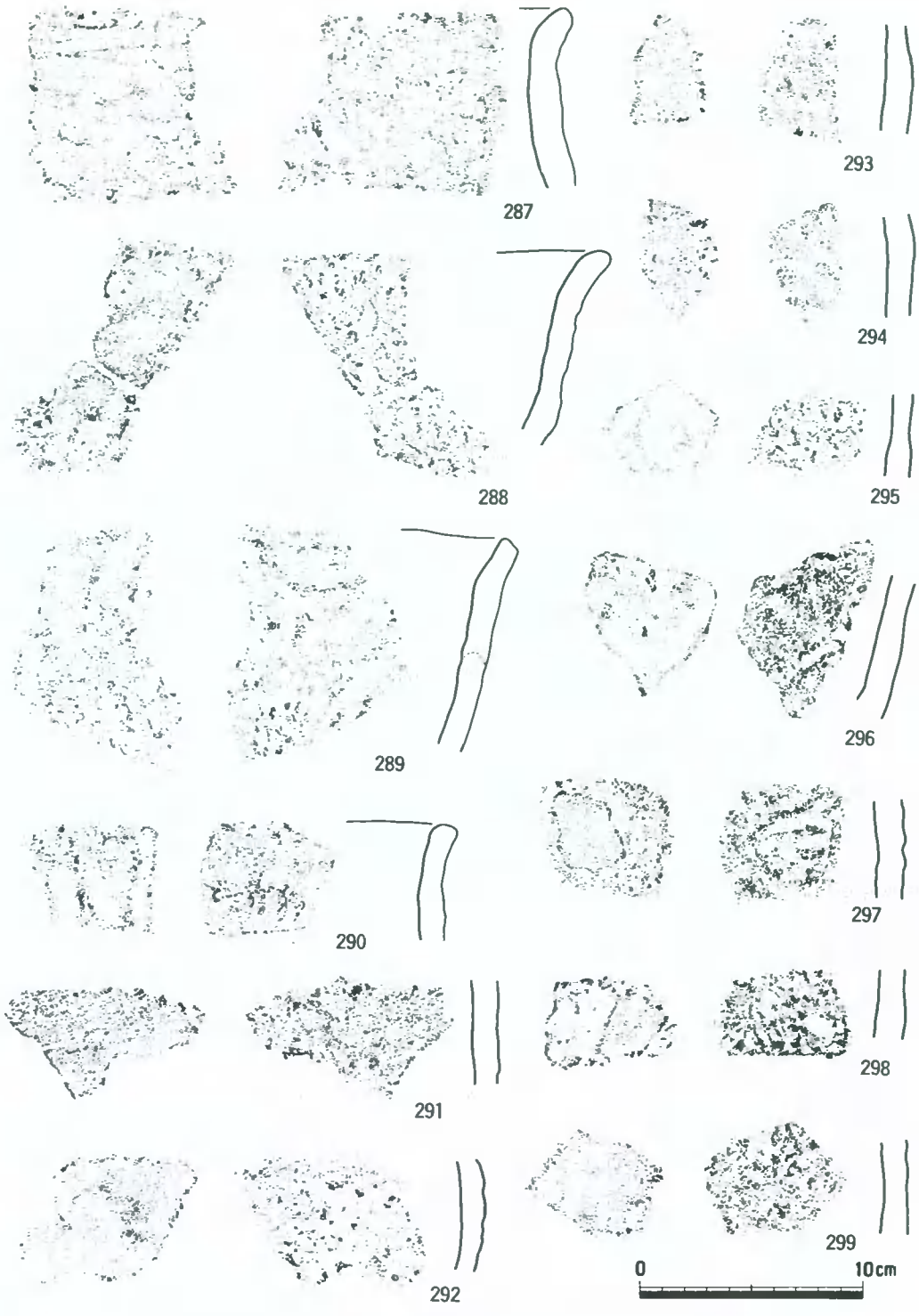
第73図　包含層の出土遺物(2) (1/3)



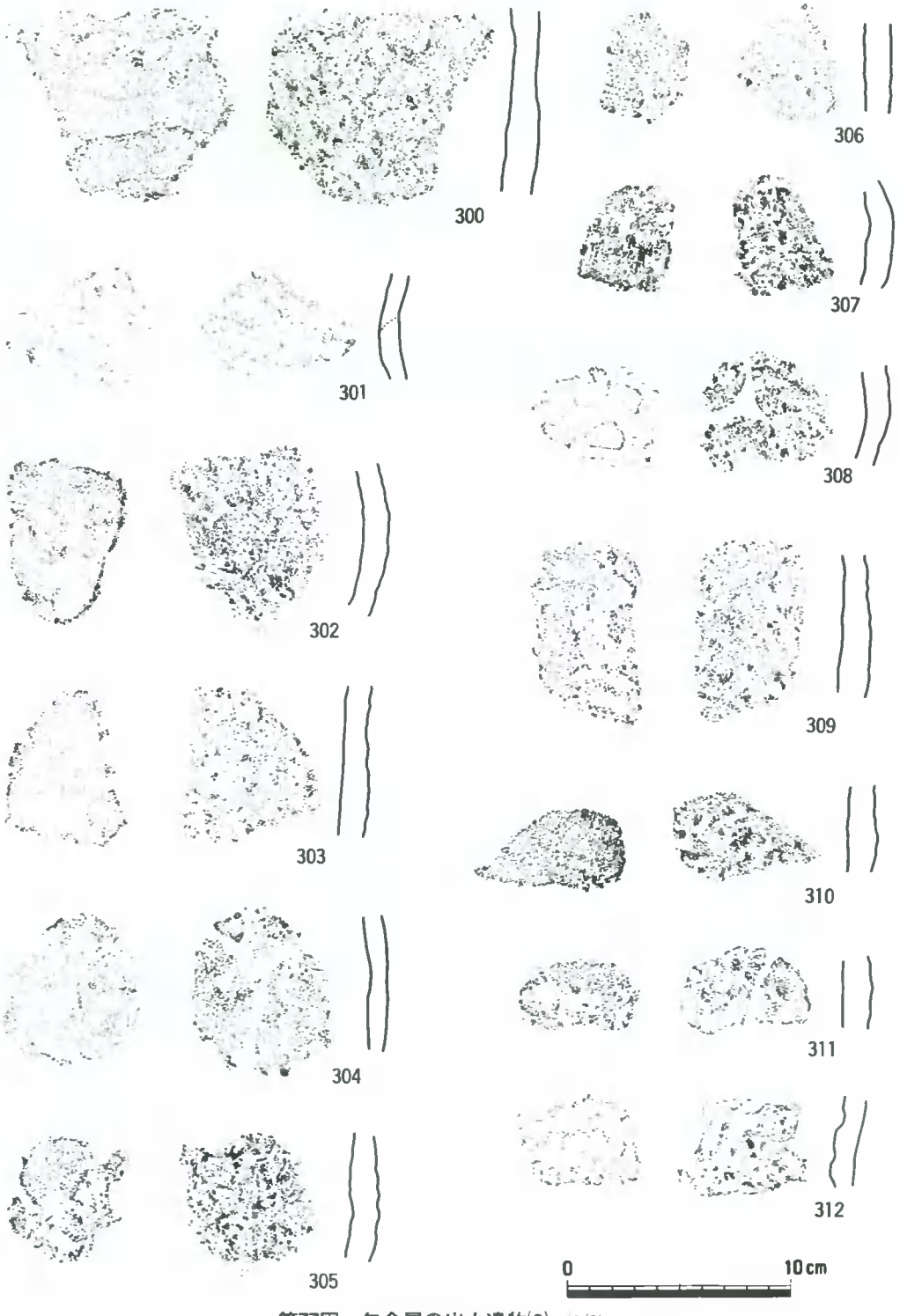
第74図　包含層の出土遺物(3)　(1/3)



第75図　包含層の出土遺物(4) (1/3)



第76図　包含層の出土遺物(5) (1/3)



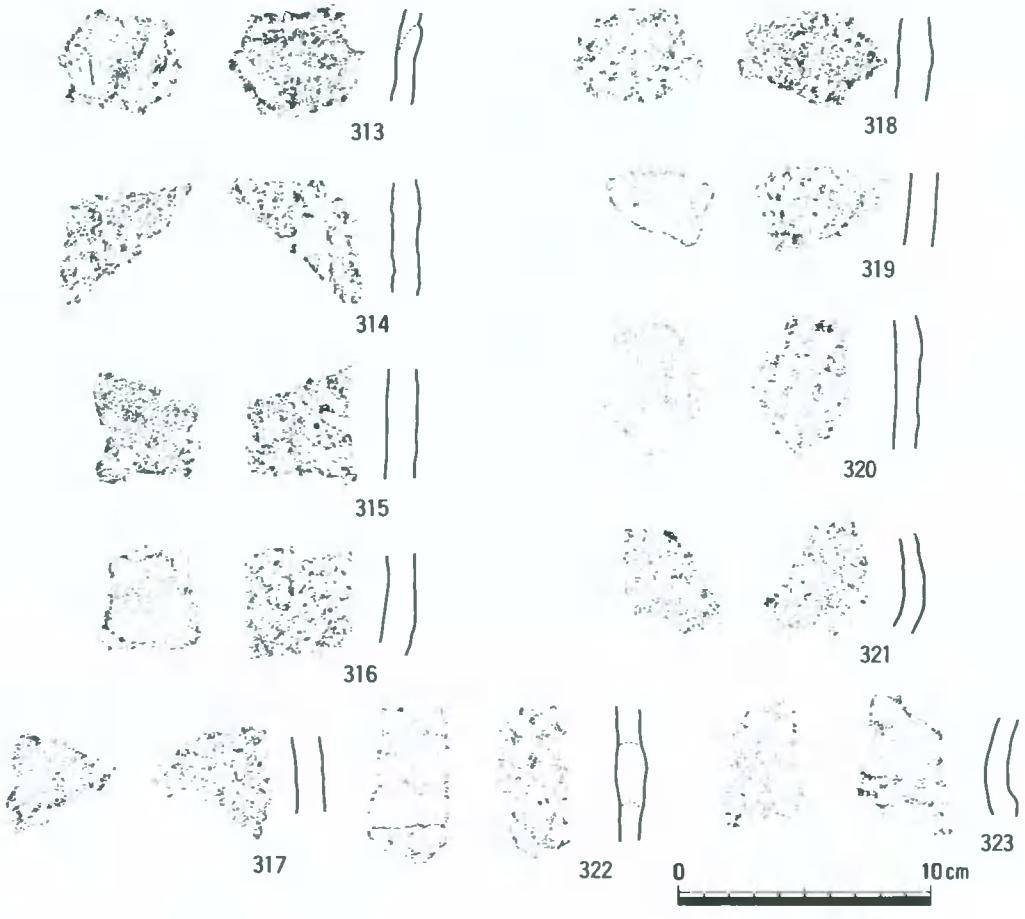
第77図　包含層の出土遺物(6) (1/3)

確認することはできなかったのである。

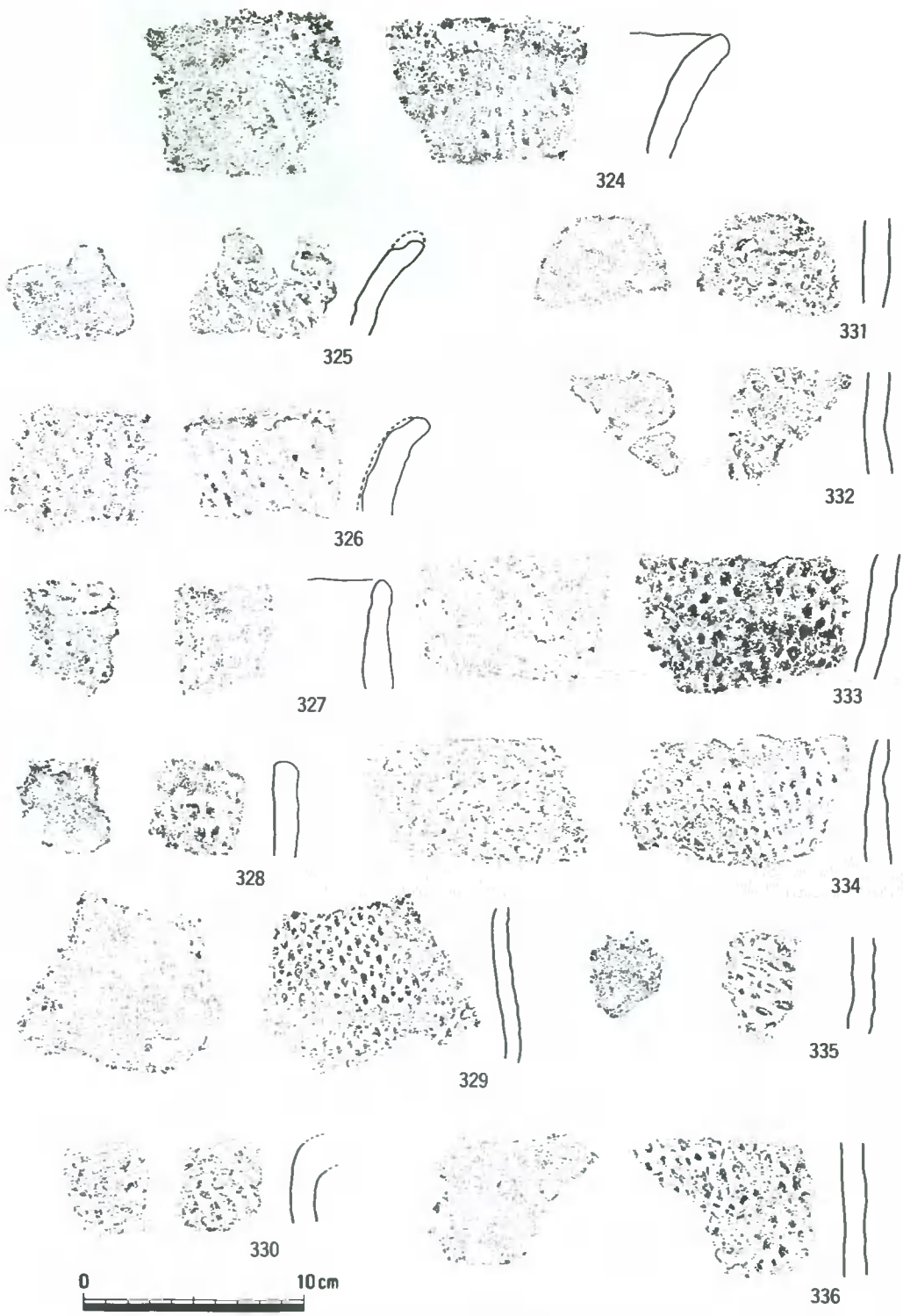
集石遺構は，230×190cmの範囲において検出されたのである。この集石は，主に花崗岩を用いており，火を受けた痕跡を止めているのである。また，集石の間からは，押型文の土器が出土している。このように，これが検出された土層と伴出の遺物から，縄文時代早期のものと判断したのである。

(2) 包含層の遺物

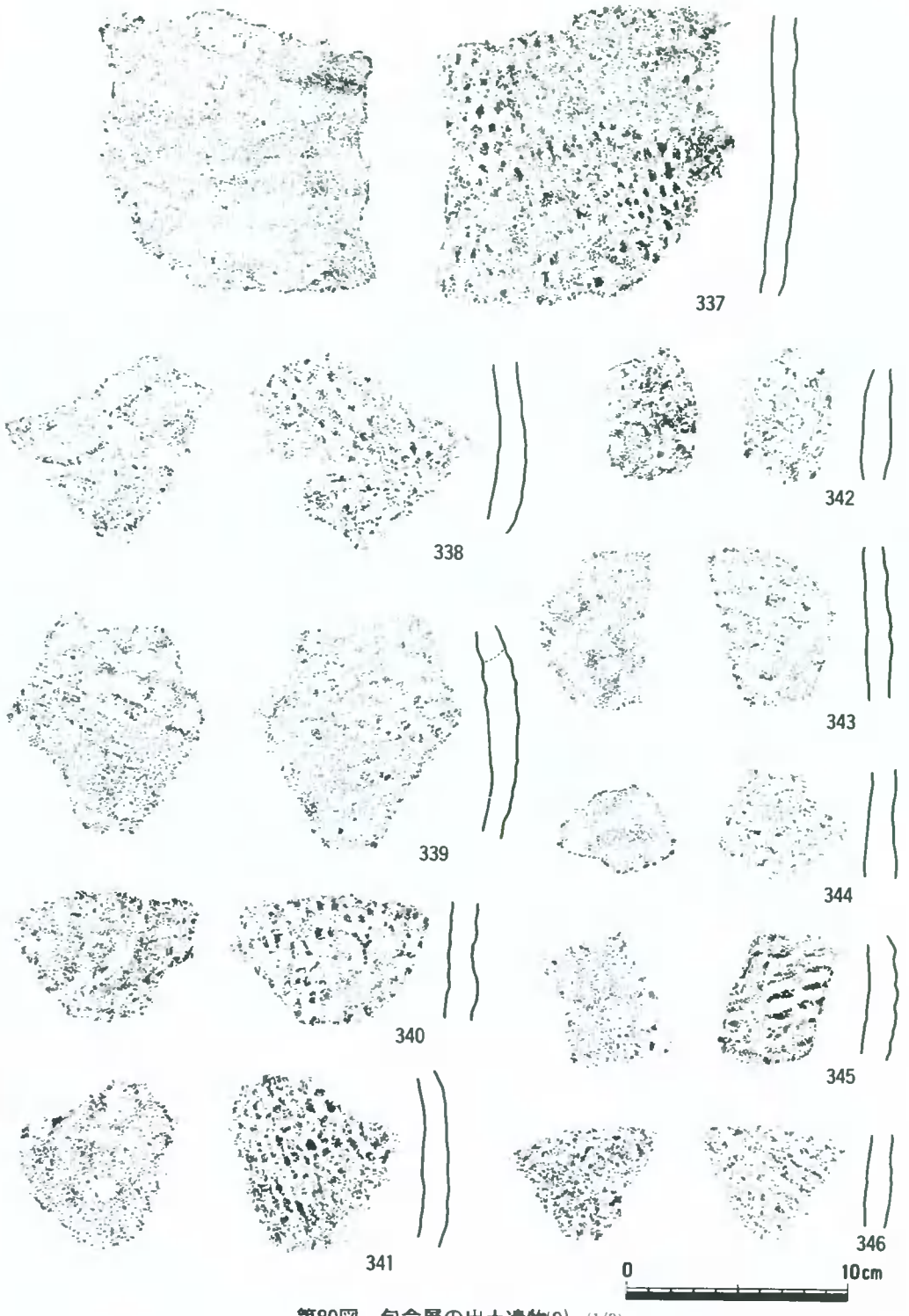
包含層からの出土は，灰色風化土層から出土したものである。第71図に示した垂直分布図中の○は無文，●は押型文，□は内面に凹線があり，外面に押型文がみられないもの，■は内面に凹線と，外面に押型文を施文されるものである。なお，前述のように分類しているが内面に凹線をもつもので外面に押型文がみられないものの中には，押型の施文が存在するものもあるようである。



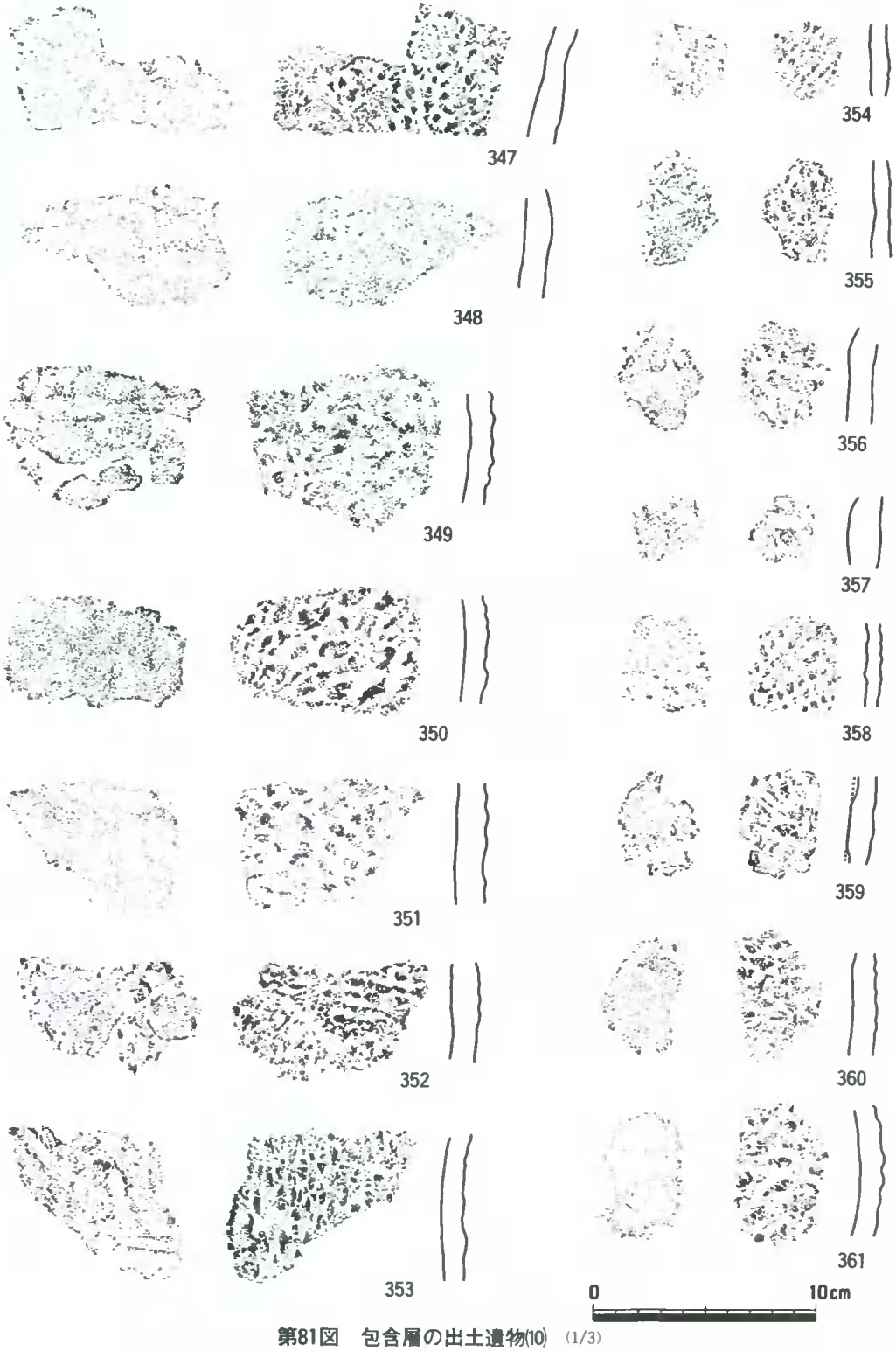
第78図　包含層の出土遺物(7)　(1/3)



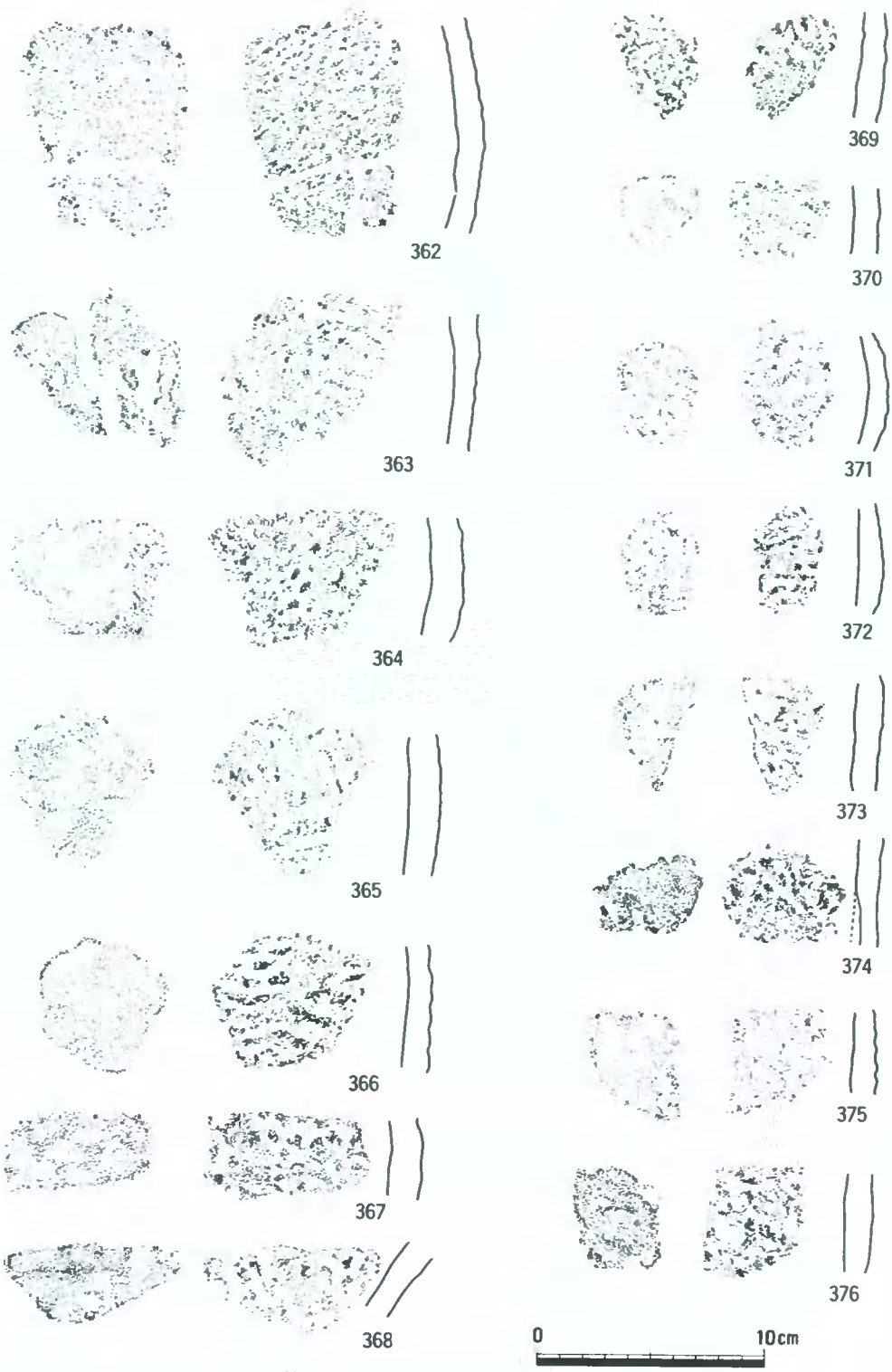
第79図　包含層の出土遺物(8)　(1/3)



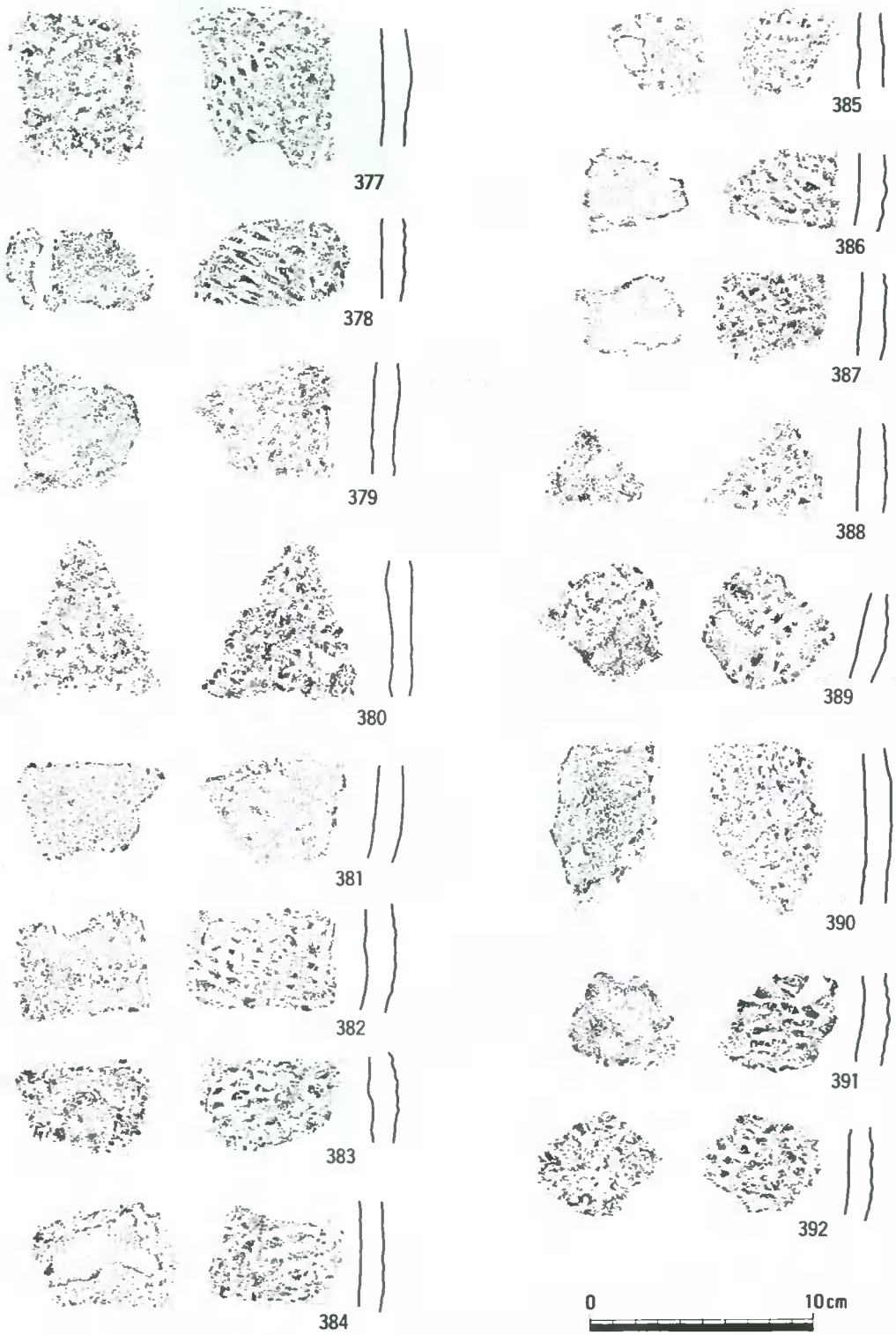
第80図　包含層の出土遺物(9)　(1/3)



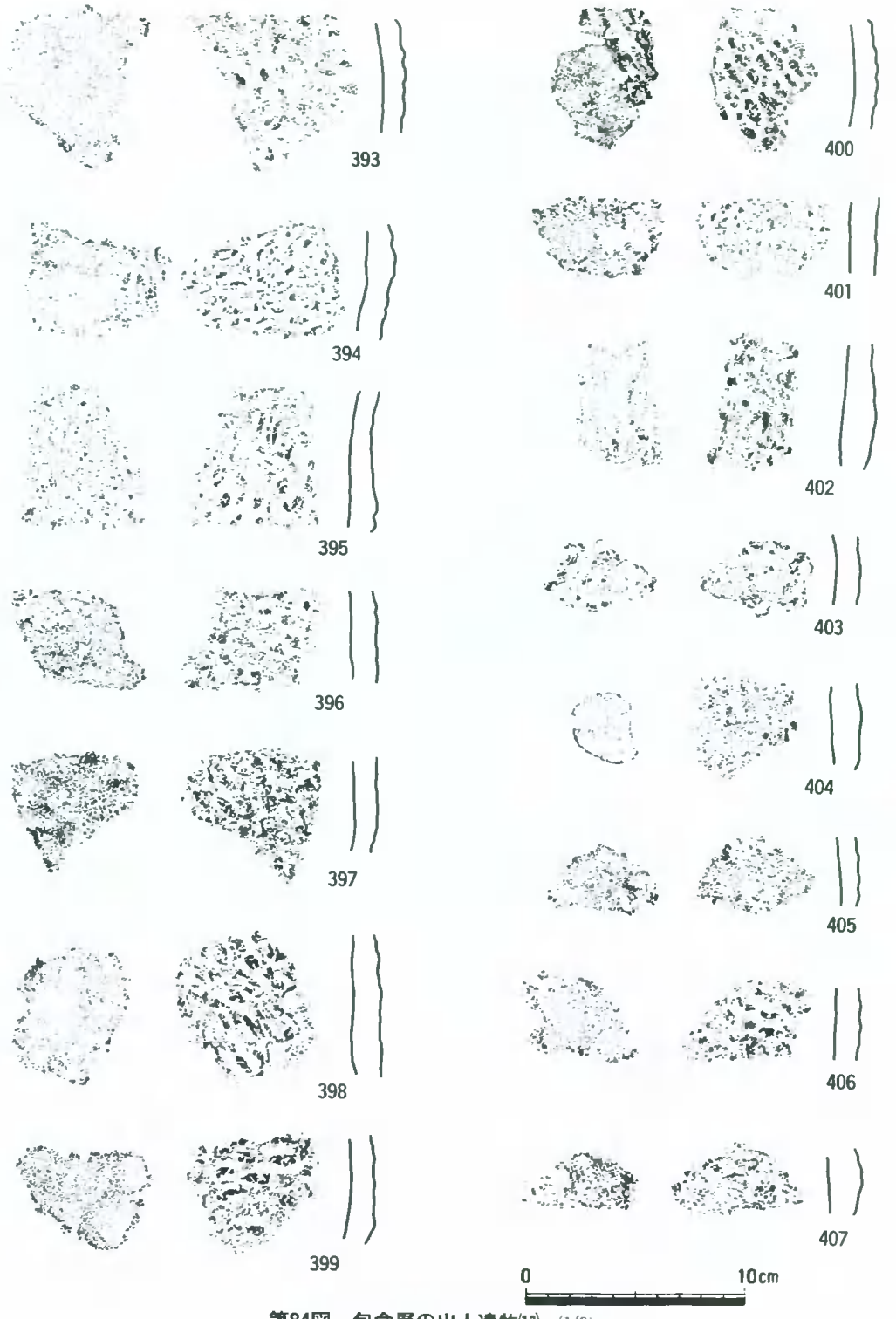
第81図　包含層の出土遺物(10) (1/3)



第82図　包含層の出土遺物(11)　(1/3)

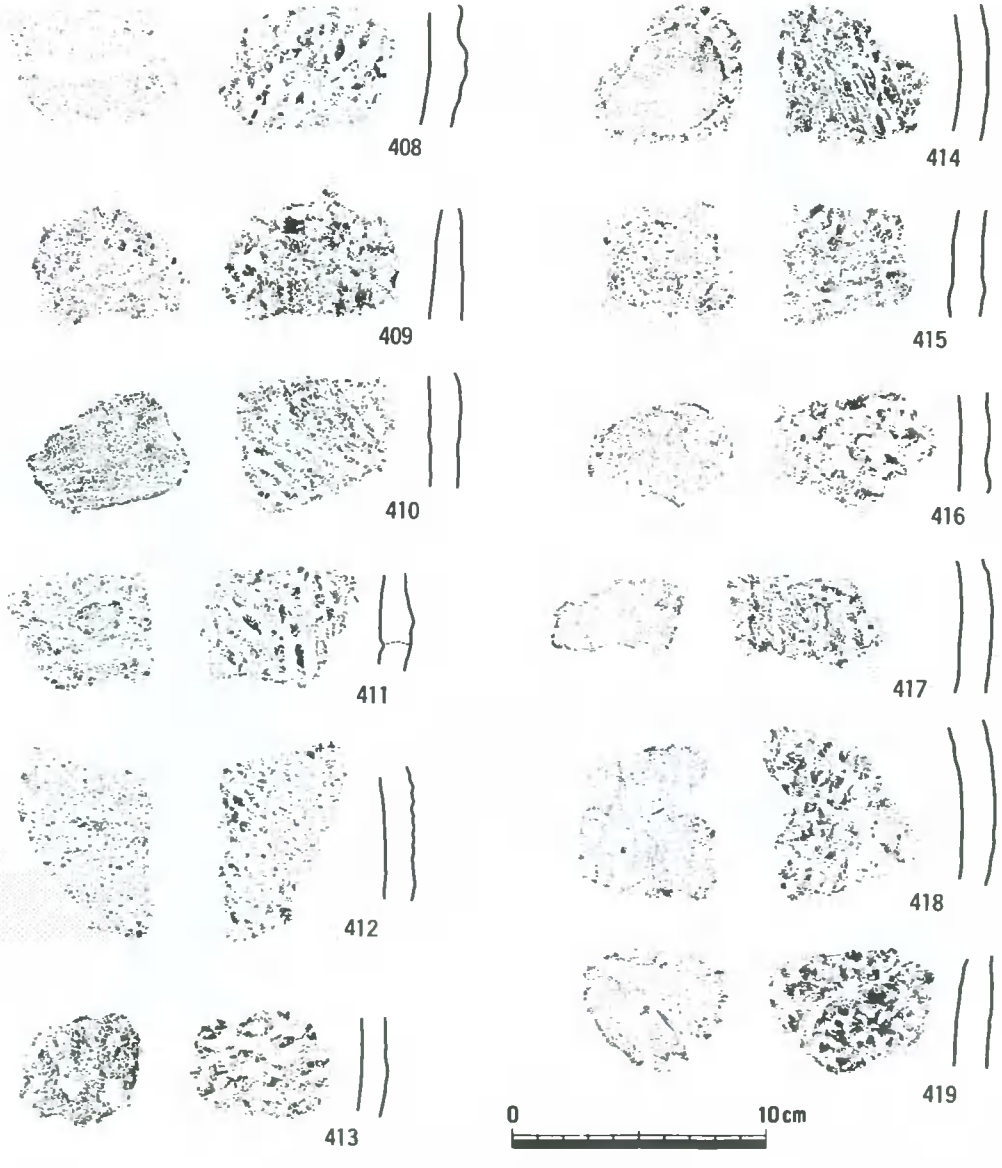


第83図　包含層の出土遺物(12) (1/3)

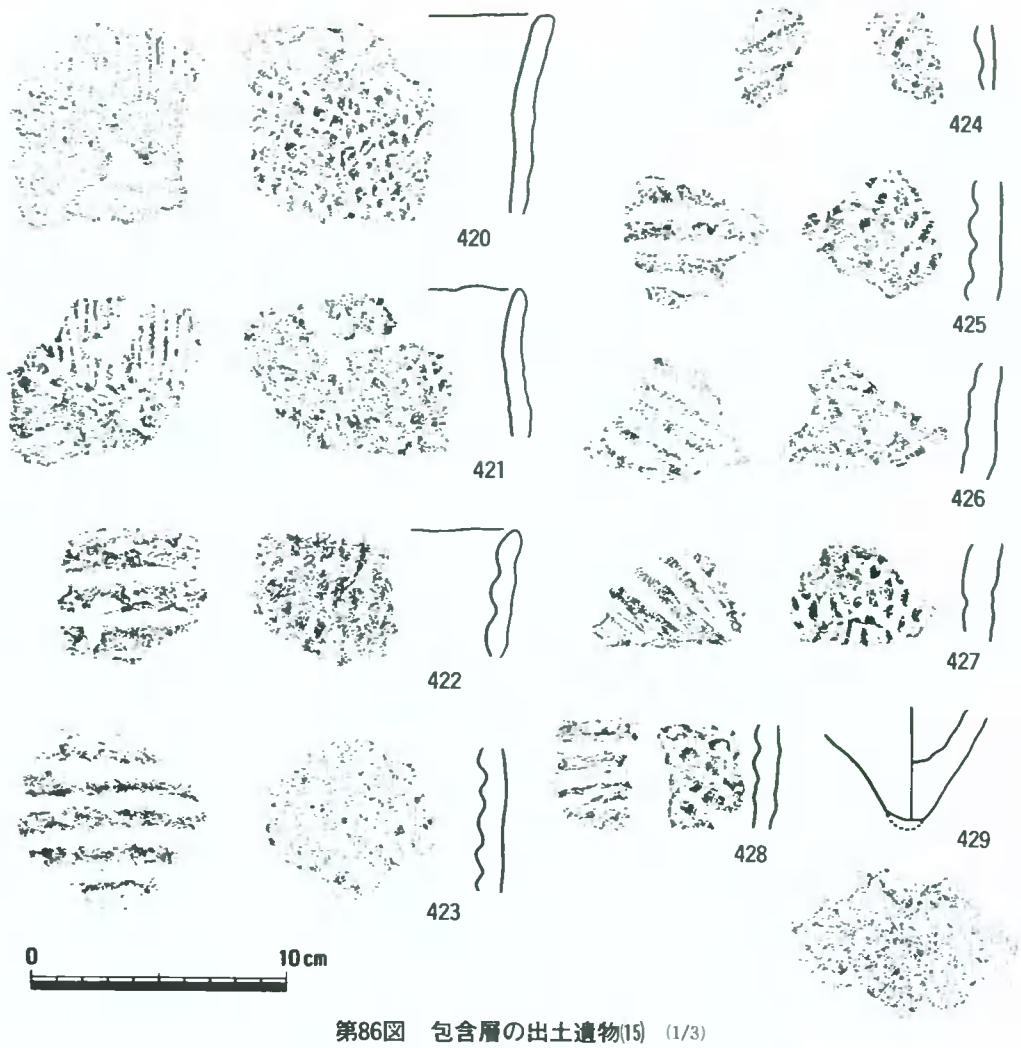


第84図　包含層の出土遺物(13)　(1/3)

232から244は，口縁部の破片である。232は，押型文を施文し，233から244は無文である。232は，口縁部を外方に屈曲気味にし，端部を外反させている。調整は，内外面とも指頭圧痕が顕著に認められている。外面には，楕円の押型文を施文している。色調は，外面灰黄茶褐色，内面灰橙褐色で焼成は良好である。胎土は，長石・石英・雲母を含んでいる。233は，胴部から口縁にかけて外に広がる器形をもつものである。表面は，剝離のため押型文の有無は不明である。色調は，外面灰黄色，内面暗灰色を示す。234は，口縁端部を丸く終らせるものである。

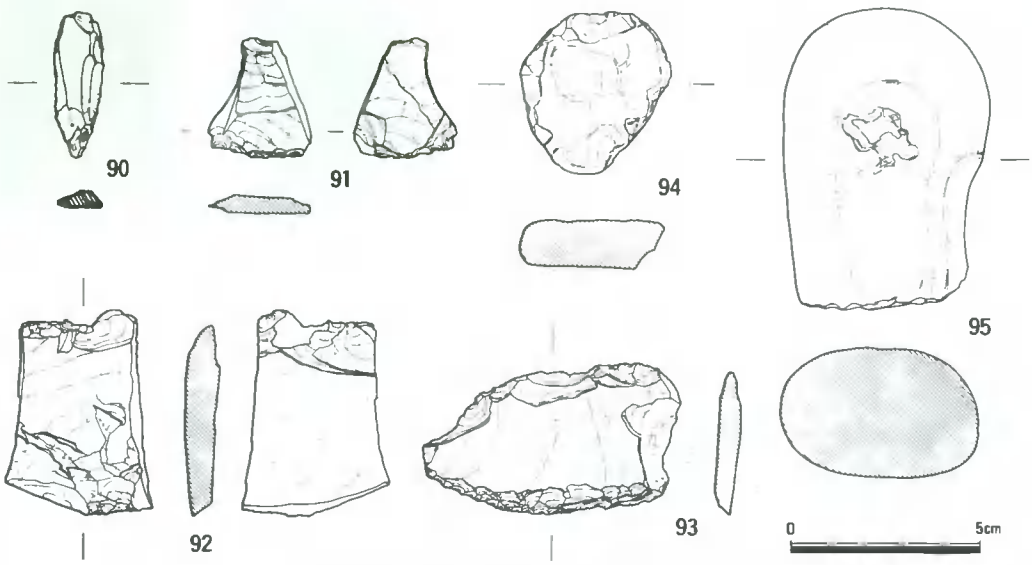


第85図　包含層の出土遺物(14)　(1/3)



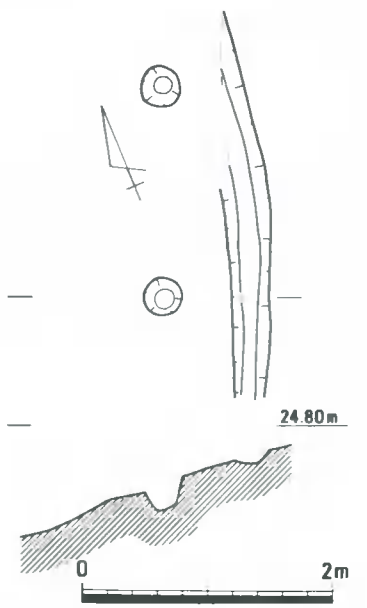
第86図　包含層の出土遺物(15) (1/3)

外面はナデ，内面は指頭圧痕とナデがみられる。色調は，内外面とも灰黄褐色を呈し，焼成は良好である。**235**は，胴部が内傾気味となり，口縁部は短く外反する。**236**は，口縁端部を外反気味にするものである。調整は，内外面とも指頭押圧痕を認めるのである。色調は，外面灰黄色，内面黄灰色を示している。**237**は，口縁部近くで押圧により器壁が薄くなり，口縁部は外反気味となり，端部は丸く終らせている。調整は，内外面とも押圧痕とナデが認められる。色調は，外面灰黄色，内面は黄灰色を呈し焼成は良好である。**238**は，口縁部を外反し端部を丸く終らせている。色調は，内外面とも暗灰橙色を示す。**239**は，口縁端部を外反気味に丸くするものである。調整は，外面指頭圧痕のあとナデ，内面は指頭圧痕を認める。色調は，内外面とも灰黄褐色を示し，胎土は砂粒を含む。**240**は，口縁端部を丸くするものである。内外面と



第87図　包含層の出土遺物(16) (1/2)

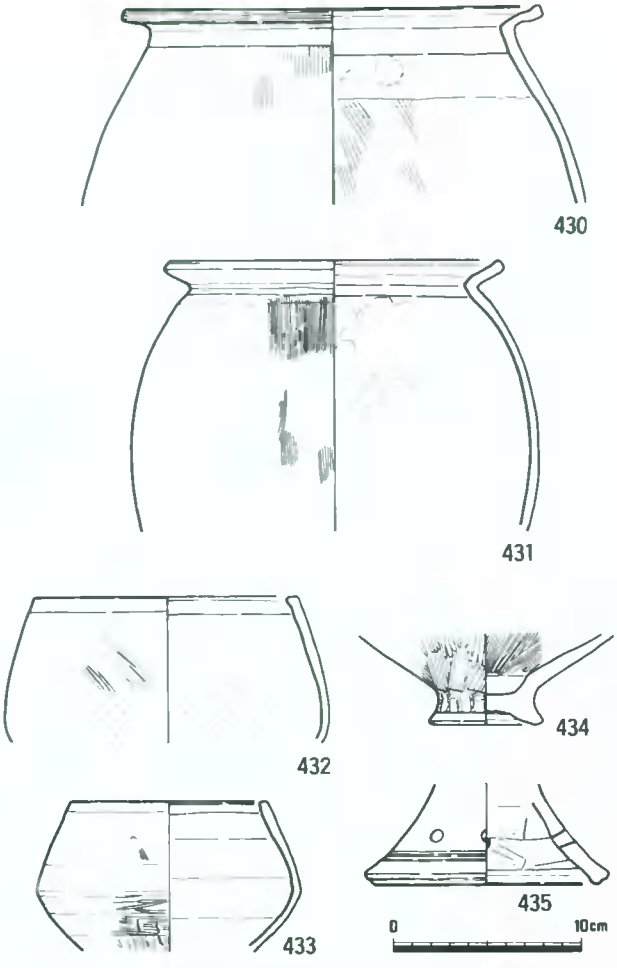
もナデが認められる。色調は，外面灰褐色・内面灰橙色を示す。**241**と**242**は，輪積みの跡が認められるものである。**243**は，口縁端部が肥厚気味となるものである。**244**は，内傾する体部に外反する口縁部をもつものである。調整は，外面ナデ，内面は不詳である。**245**と**246・248・250・251・253～258**（第73図）は，内外面ともナデがみられるものである。**247**（第73図）は，楕円の押型文を施文するものである。**249**と**252**（第73図）は，押型文の施文が考えられるものである。**259～265・267～270・272**（第74図）は，指頭押圧痕およびナデが認められる。**266**（第74図）は内外面とも楕円の押型文が施文される。**271**（第74図）は，内面に凹線を施文している。**273**（第75図）は，外面に沈線，**286**は，内面に凹線を施文している。**278**は，外面に楕円の押型文を施文する。**287～290**（第76図）は，体部から口縁にかけての破片である。**289・290**は外面に楕円の押型文を施文する。**300・302・303・305～311**（第77図）は，外面に楕円の押型文を施文させている。**313・315～320・322・323**（第78図）は，外面に楕円の押型文を施文するものである。**324～328**（第79図）は，口縁部が開くものと直口するものがあり，いずれも外面に楕円の押型文を施文している。**337～346**（第80図）は，外面に楕円の押



第88図　竪穴住居址－6 (1/60)

型文を施文するものであり，内面は，ナデ・指頭押圧痕が認められる。**347～355・358～361**（第81図）は，外面に楕円の押型文，内面には，ナデ・指頭押圧痕が認められる。**362～419**（第82～85図）は，一部の剝離のための不詳なものを除いて，外面に楕円の押型文を認めるものである。

420～428（第86図）は，内面に凹線をもち，外面は楕円の押型文を施文するものである。**429**（第86図）は，唯一の底部の破片である。底部は，尖底となり一部剝離をしている。内外面ともナデが認められる。胎土は，砂粒を含み雲母が認められる。色調は，内外面とも灰黄色を示し，焼成は良好である。



第89図　竪穴住居址－6出土遺物（1/4）

弥生時代の遺構・遺物

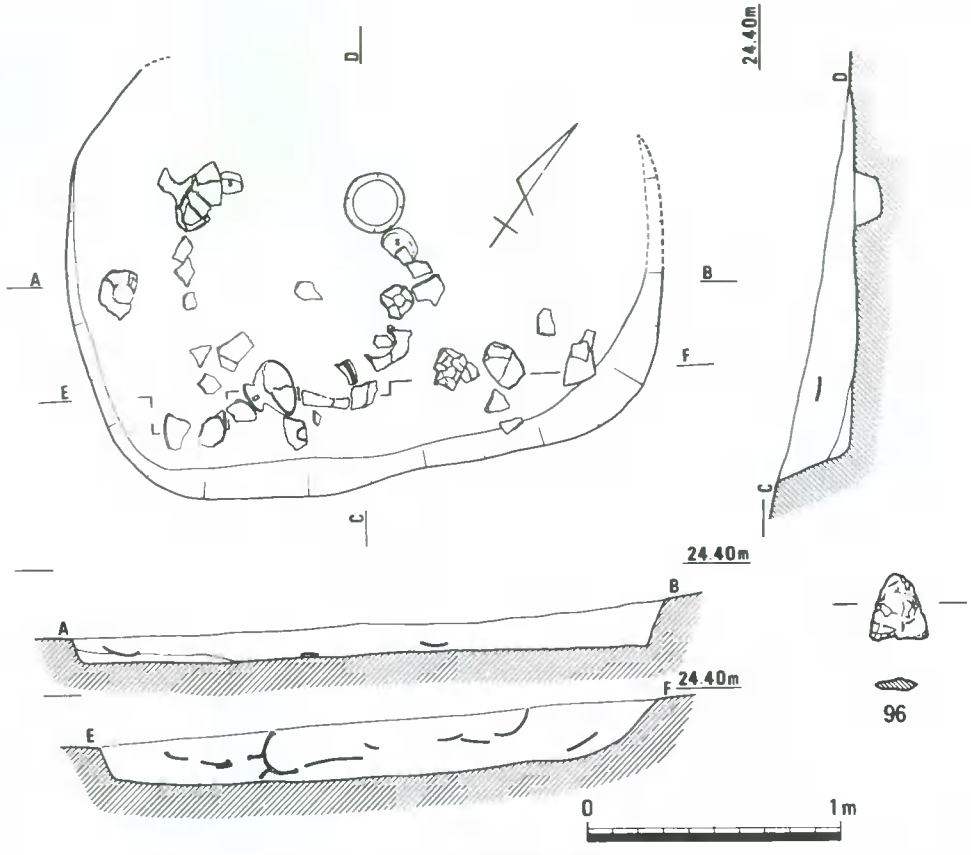
弥生時代の遺構は斜面の上方（東側）に集中して検出されており，７ラインより西からは遺物もほとんど出土していない。

検出された遺構は，竪穴住居址１軒・土壙10数基・柱穴数10本・土器溜り１か所等であるが，いずれも後世の削平を受けており，遺構の遺存状況は良好でない。

(1) 住　居　址

竪穴住居址－６（第88・89図，図版86－２）

ＤラインとＥラインのほぼ中間の９ライン上において検出された竪穴住居址である。海抜24.60ｍ程の地山面を切り込んで，幅25～38㎝，深さ10㎝程の壁体溝が2.5ｍ程検出されただけで床面は全く遺存しておらず，住居址の規模・形状等は不明である。この溝から40㎝程西側に直径30㎝程の円形のプランを有する柱穴が２本検出され，柱穴の底は海抜24.15ｍ程である。この２本の柱穴の心々距離は170㎝である。



第90図　土壙－22（1/30）**・出土遺物(1)**（1/2）

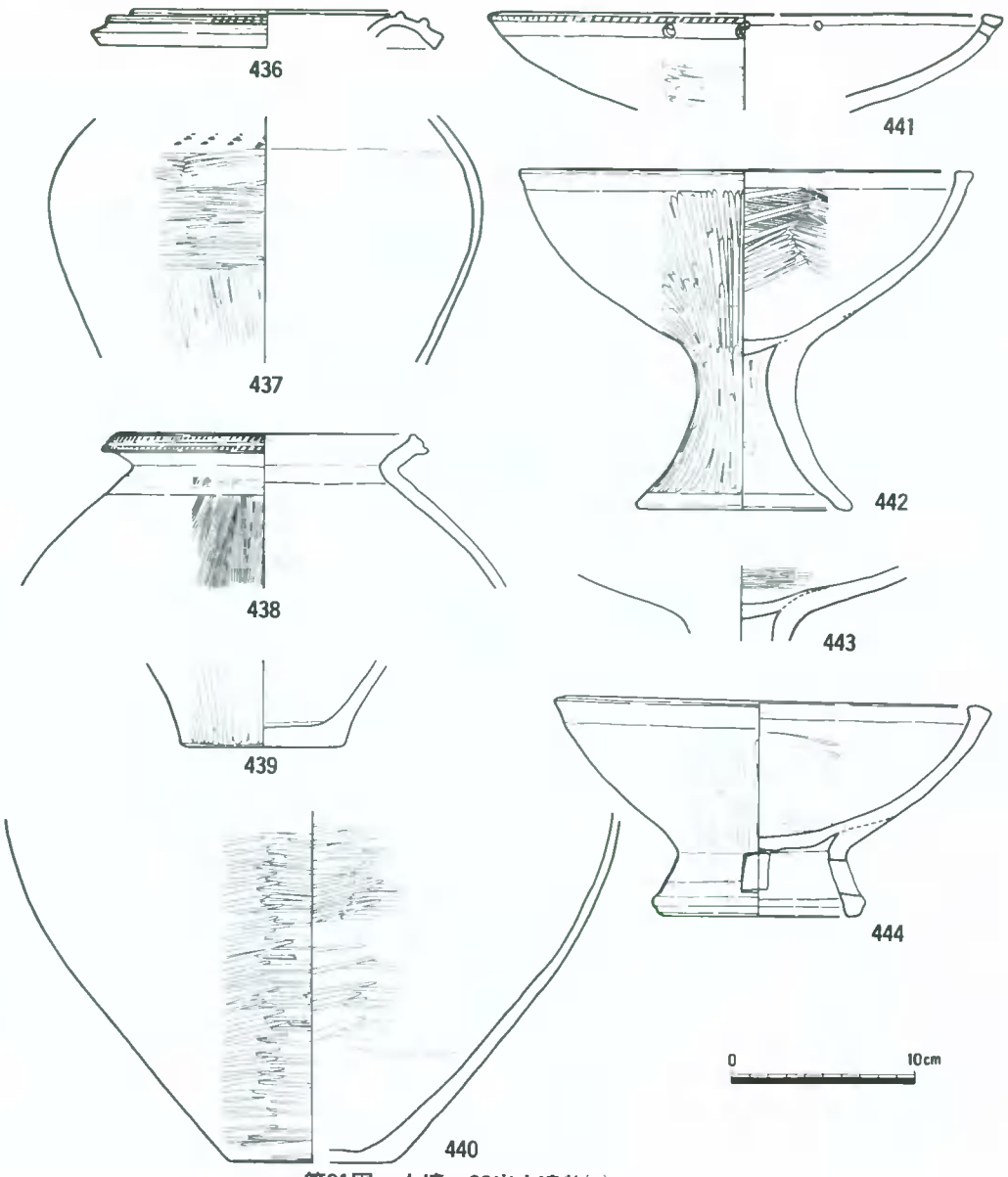
出土遺物としては，壁体溝および壁体溝のすぐ西側の地山面直上に，甕・高杯等の土器やサヌカイトの剝片がみられる。**430・431**は壁体構から出土した甕形土器である。**430**はくの字状に外反した口縁端部をやや肥厚させ，端面に凹線文を施している。器面の調整は荒れていて明瞭ではないが，肩部外面・胴部内面はハケメ調整されている。**431**はくの字状に外反した口縁端部をほとんど肥厚しないでまとめているもので，胴部外面をハケメ，内面を指ナデにより調整している。**432・433**は少し内傾気味に真直ぐ立ち上がって口縁部をつくる高杯形土器の杯部片である。**434**は台付鉢形土器，**435**は高杯形土器の脚部片である。

時期は，出土遺物等から弥生時代中期中葉と考えられる。

(2)　土　　壙

土壙－22（第90・91図，図版87－１・２）

９ラインとＤラインの交点から南側において検出された土壙である。北側は後世の削平を受けている。平面形は長辺240cm・短辺180cm程の隅丸長方形を呈すると推定され，深さは最も遺存状態の良好な南部の検出面（海抜24.45ｍ）から30cmを測り，床面はほぼ平坦である。土壙



第91図　土壙－22出土遺物(2) (1/4)

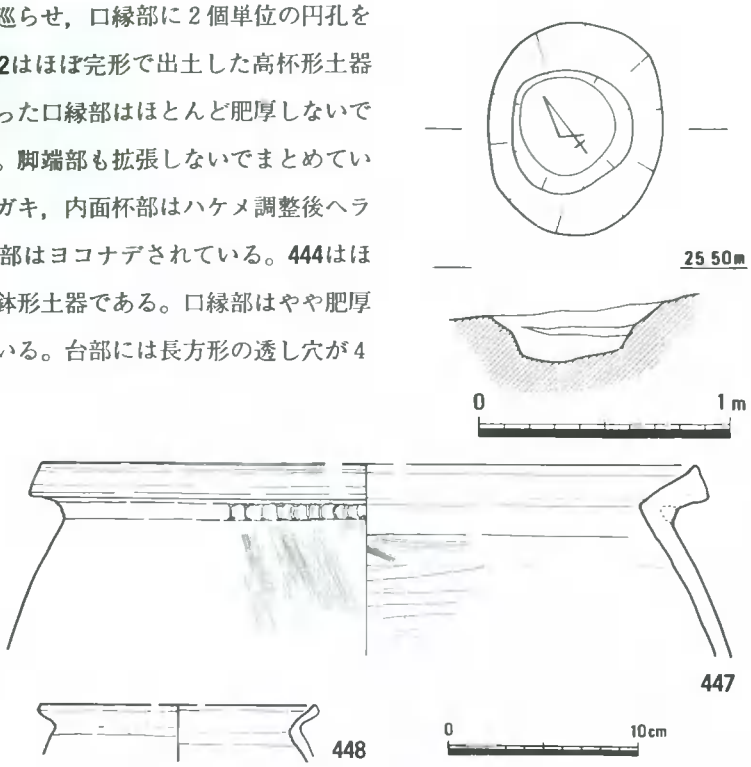
の中央から少し北西寄りでピットが検出されている。ピットの規模は，直径25cm程の円形プランで，床面から深さ10cm程を測る。埋積土はほとんど茶褐色土が堆積しており，床面直上に一部暗茶灰色土が堆積している。

出土遺物は茶褐色土中から壺・甕・高杯・台付鉢等がみられる。また石鏃も出土している。**438**はくの字状に外反した口縁端部を僅かに肥厚し，端面に凹線文を施しその上からキザミメを巡らせている。**441**は高杯形土器の口縁部片であるが，細片で口径等は推定である。口縁端

部外面にキザミメ文を巡らせ，口縁部に２個単位の円孔を２か所穿っている。**442**はほぼ完形で出土した高杯形土器で，杯部から立ち上がった口縁部はほとんど肥厚しないでそのままとめている。脚端部も拡張しないでまとめている。調整は外面ヘラミガキ，内面杯部はハケメ調整後ヘラミガキされている。端部はヨコナデされている。**444**はほぼ完形で出土した台付鉢形土器である。口縁部はやや肥厚し，内側へ拡張されている。台部には長方形の透し穴が４か所穿たれている。

鉢部の調整は内外面ともヘラミガキである。**96**はサヌカイト製の石鏃で三角形状を呈するものである。

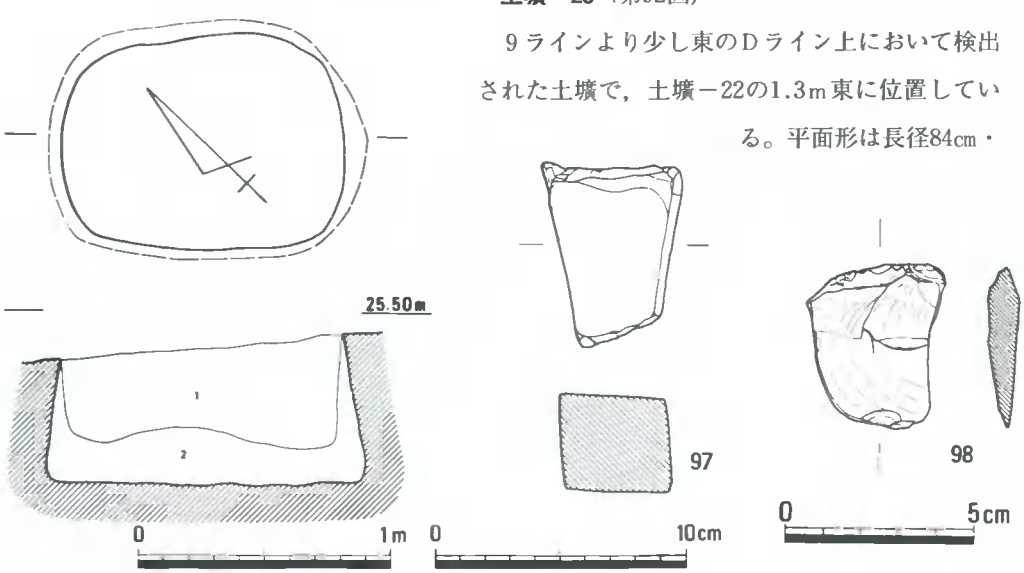
時期は出土遺物等から弥生時代中期中葉と考えられる。



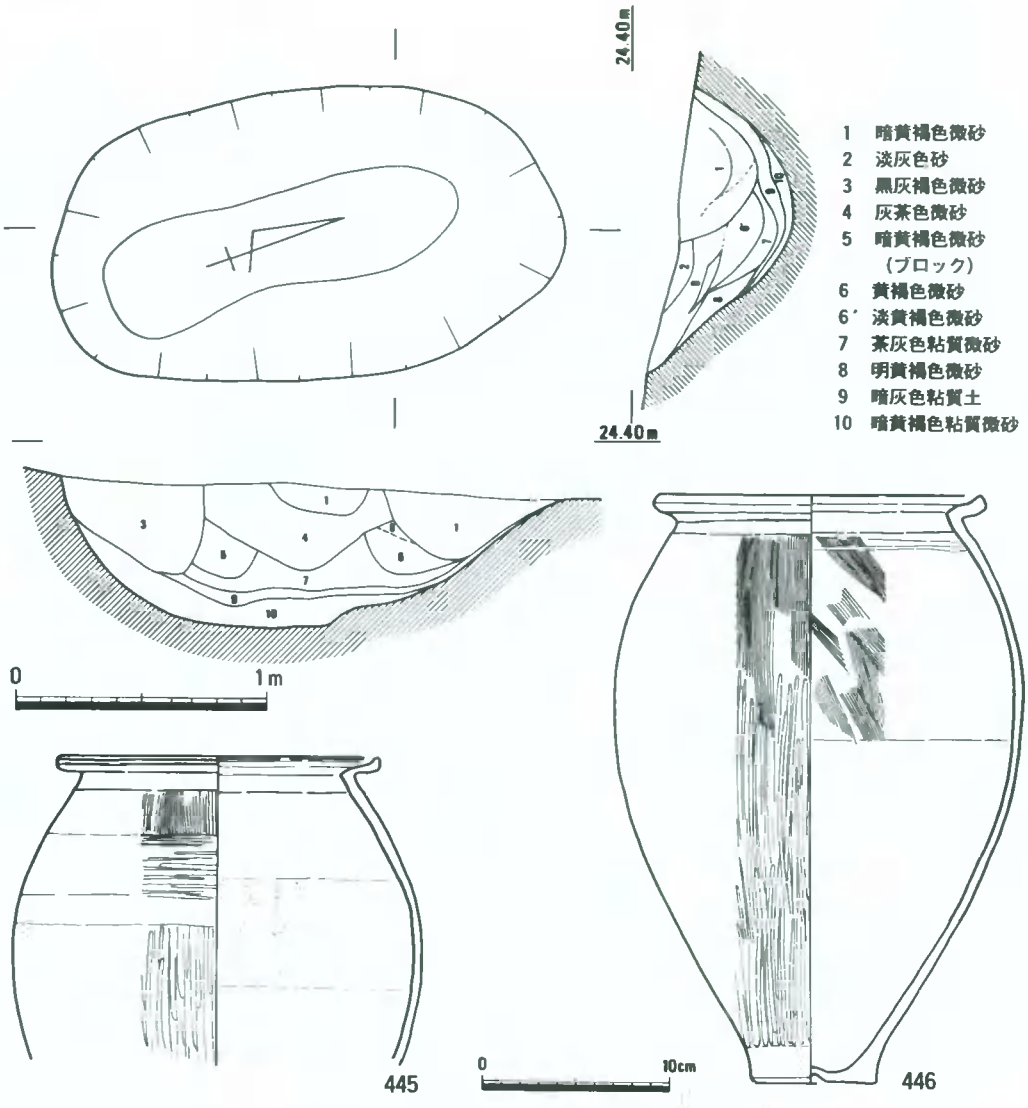
第92図　土壙－23 (1/30)・**出土遺物** (1/4)

土壙－23（第92図）

９ラインより少し東のＤライン上において検出された土壙で，土壙－22の1.3m東に位置している。平面形は長径84cm・



第93図　土壙－24 (1/30)・**出土遺物** (1/3・1/2)



第94図　土壙－25 (1/30)・出土遺物 (1/4)

短径69cm程の楕円形を呈し，深さは海抜25.40mの検出面から13cmを測る。埋積土は炭化粒を含む灰褐色土が堆積し途中に赤褐色土がブロック状に入っている。

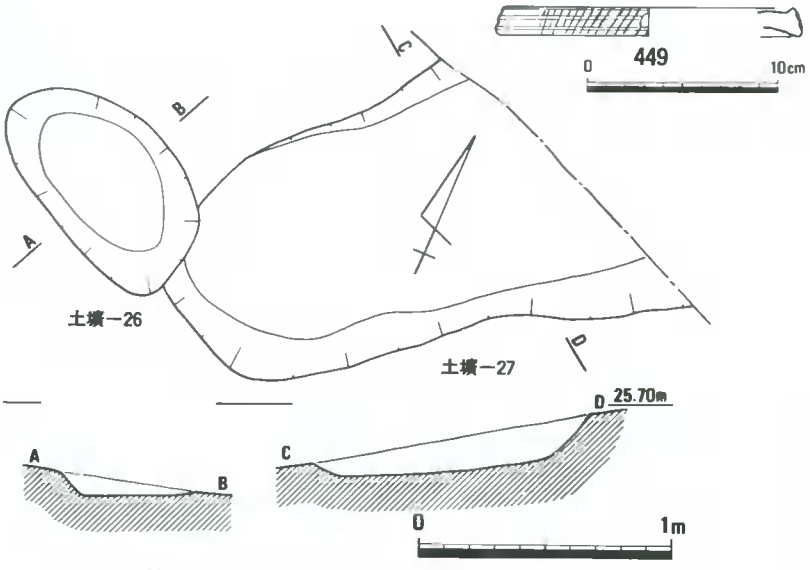
出土遺物としては甕等の土器がある。**447**は，大型の甕形土器であるが細片では口径等は推定である。くの字状に外反した口縁部を肥厚し，端面に凹線文を施す。外反した屈曲部外面に突帯を巡らせ端面に爪先圧痕がみられる。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

土壙－24（第93図）

9ラインとCラインの交点から3m程東で検出された土壙である。検出面での平面形は直径

113cm・短径85cm程の隅丸長方形に近い楕円形を呈し，底部に向って少しづつ広がっていく袋状を呈するものである。深さは海抜25.42mの検出面から60cm程を測り平坦である。埋積土は２層で，第１層が炭火粒を含む灰褐色土，第２層に淡褐色土が堆積している。

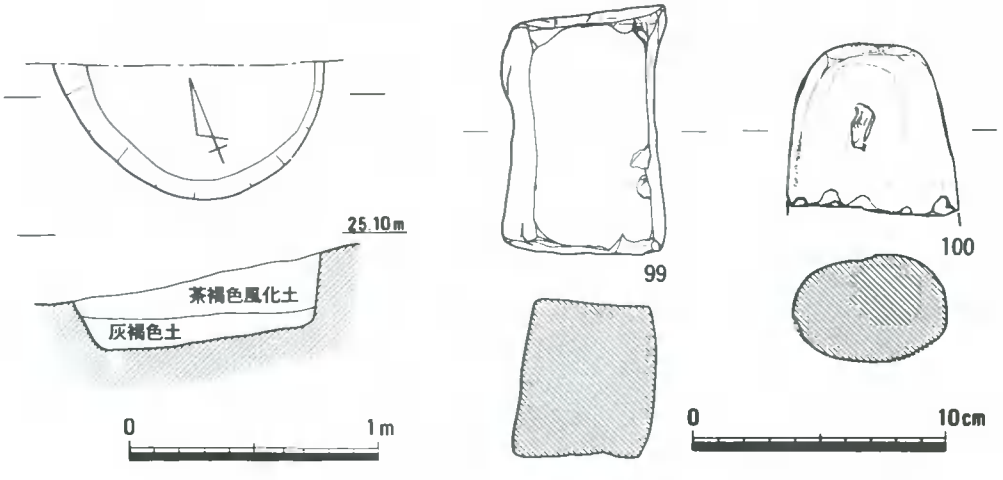


第95図　土壙－26・27 (1/30)・**出土遺物** (1/4)

出土遺物としては土器は認められなかったが，砥石等の石器がある。**97**は凝灰岩製の砥石，**98**はサヌカイト製の石庖丁片と考えられるものである。

土壙－25（第94図）

８ラインとCラインの交点から３m程南で検出された土壙である。検出された平面形は，南北200cm，東西118cm程の不整楕円状を呈する。深さは最も低いところで海抜24.34mの検出面から70cm程を測り底は平坦ではない。



第96図　土壙－28 (1/30)・**出土遺物** (1/3)

出土遺物としては，壺・甕等の土器がある。**445**はくの字状に外反した口縁端部が少し上方に拡張されている甕形土器で，外面の調整は肩部をハケメ，胴部はヘラミガキされている。**446**はくの字状に外反した口縁部をそのままとめているほぼ完形の甕形土器である。最大径は中央より少し上方にある。底部中央に穿孔気味の痕跡がみられるが穿孔はされていない。調整は，体部外面上半がハケメ，下半がヘラミガキされている。体部内面上半はハケメである。

時期は出土遺物等から弥生時代中期中葉と考えられる。

土壙－26（第95図）

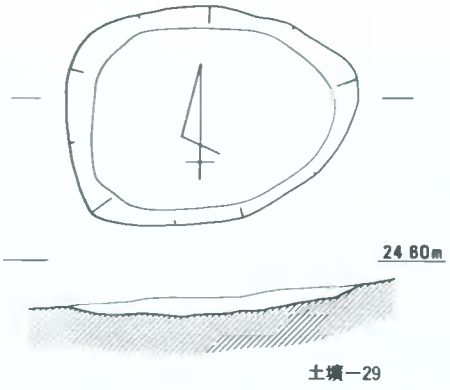
9ラインとCラインの交点から4ｍ程西で検出された土壙で，土壙－27を切っている。平面形は長径95㎝・短径53㎝程の楕円形状を呈する。深さは海抜25.45ｍの検出面から10㎝程を測り底は平坦である。

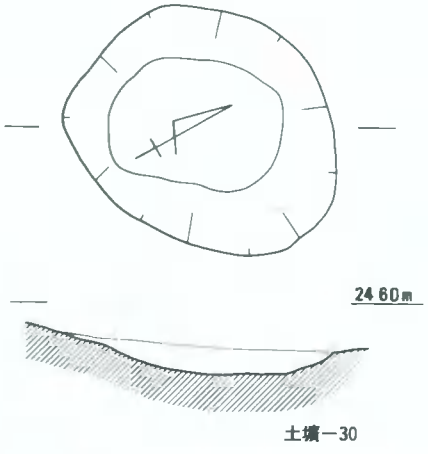
出土遺物としては，壺・甕等の土器片がみられるが，いずれも細片である。**449**はやや肥厚して拡張した端面に凹線文を施し，その上にヘラ状工具によるキザミメを巡らし，円形浮文を貼り付けた壺形土器の口縁端部片であるが，口径は推定である。

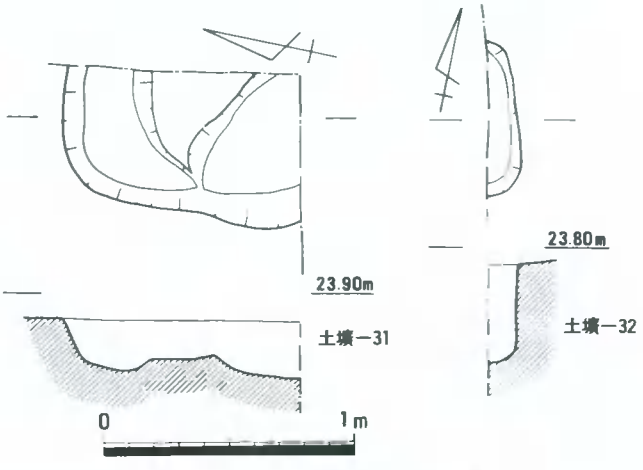
時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

土壙－27（第95図）

9ラインとCラインの交点から2ｍ程西で検出された土壙で，西端部は土壙－26により切られている。なお，北東部は試掘ト







第97図　土壙－29・30・31・32　1/30

レンチで掘削され明確ではない。規模は180cm×100cm程の不整な隅丸長方形状を呈し，深さは海抜25.67ｍの検出面から25cm程を測る。底はほぼ平坦である。

出土遺物は壺・甕等の土器片があるが，いずれも細片で図示できるようなものはない。

時期は出土遺物等から弥生時代中期と考えられる。

土壙－28（第96図）

９ラインとＣラインの交点から４ｍ程北において検出された土壙で，北半は試掘トレンチに削平され，直径110cm程の半円形のプランが検出されている。深さは海抜25.00ｍの検出面から30cm程を測る。埋積土は上層に茶褐色風化土が下層に灰褐色土が堆積している。

出土遺物としては，砥石等の石器がある。**99**は砂岩製の砥石，**100**は安山岩製の太型蛤刃石斧片を転用した敲石である。

時期は出土遺物が少なく判然としないが，弥生時代中期と考えられる。

土壙－29（第97図）

８ラインとＢラインの交点から３ｍ程北において検出された土壙である。平面形は東西120cm・南北90cm程の不整楕円形状を呈し，深さは海抜24.50ｍの検出面から12cm程の浅い土壙である。

出土遺物等はなく時期は不明である。

土壙－30（第97図）

８ラインと９ラインのほぼ中間，Ｃラインのすぐ南側において検出された土壙である。平面形は，長径110cm・短径92cm程の楕円形を呈する。深さは海抜24.50ｍの検出面から10cm程の浅い土壙で，底は平坦ではない。

出土遺物としては甕等の土器の細片があるだけで，図示できるようなものはない。

時期は遺物が少なく判然としないが，弥生時代中期と考えられる。

土壙－31・32（第97図）

８ラインとＤラインの交点から土壙－31は約５ｍ東で，土壙－32は４ｍ東で検出されているが，土壙－31は東側と南側を，土壙－32は西側を試掘トレンチで削平され規模等は判然としないものである。深さは検出面から，土壙－31は20cm，土壙－32は40cmを測る。

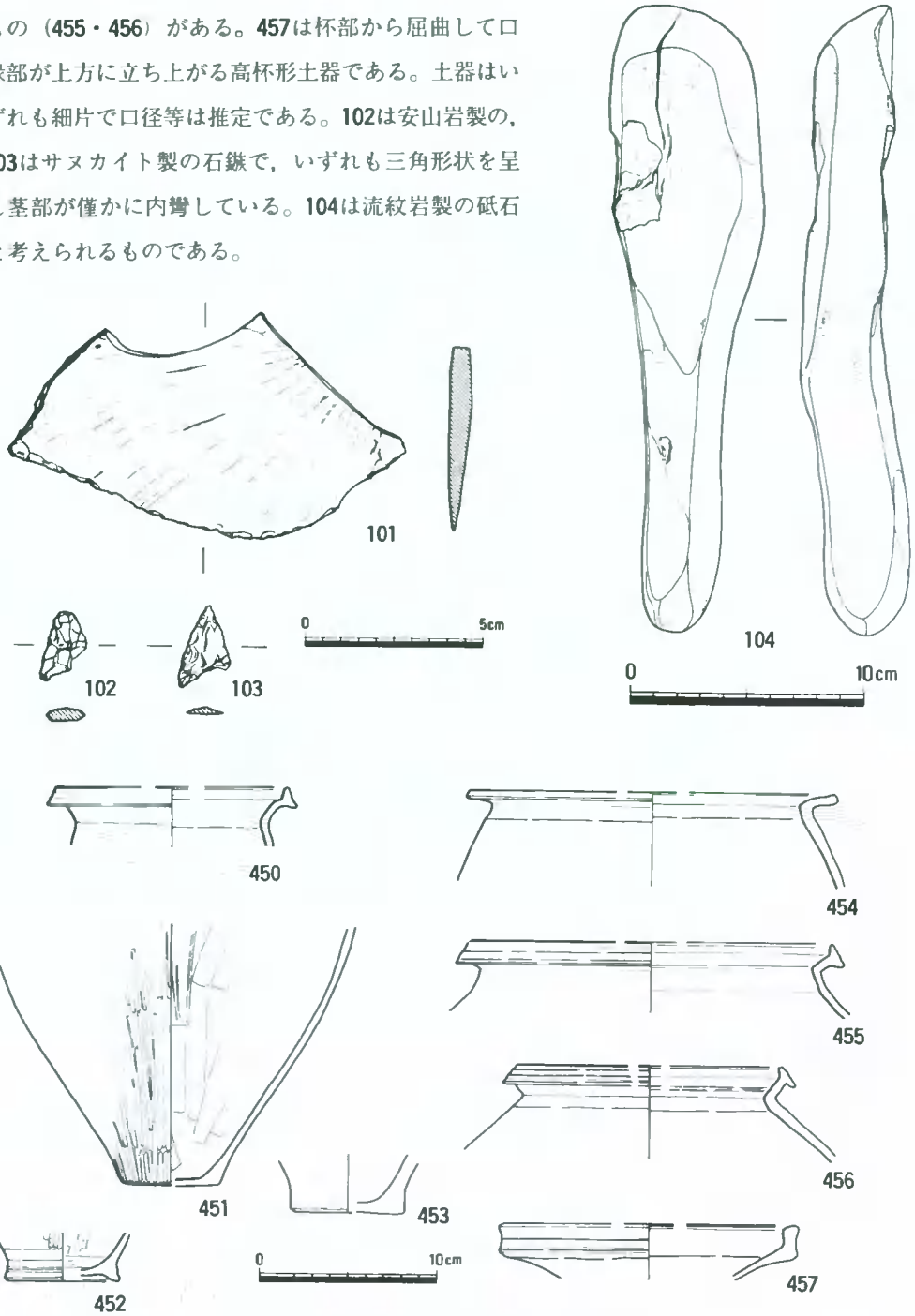
出土遺物としては，土器の細片が僅かにみられるのみで，時期も判然としない。

土壙－33（第98図）

７ラインと８ラインのほぼ中間，Ｄラインから北側において検出された土壙である。直径400cm程の不整円形のプランを呈す土器溜り状の遺構である。埋積土は黒褐色土が１層堆積している。

出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器片と伴に石鏃等の石器がみられる。**454**～**456**は甕

形土器で，くの字状に外反した口縁端が肥厚しないでそのまま端部をまとめているもの（454）と，肥厚させ斜面上下に拡張し，端面に凹線文を施すもの（455・456）がある。457は杯部から屈曲して口縁部が上方に立ち上がる高杯形土器である。土器はいずれも細片で口径等は推定である。102は安山岩製の，103はサヌカイト製の石鏃で，いずれも三角形状を呈し茎部が僅かに内彎している。104は流紋岩製の砥石と考えられるものである。



第98図　土壙ー33出土遺物（1/2・1/3・1/4）

時期は出土遺物等から弥生時代中期後半と考えられる。

(3) 土器溜り

土器溜り－２（第99図）

７ラインとＥラインの交点から３ｍ程東で海抜22.40ｍ程に東西80cm・南北100cm程の範囲に土器がまとまって出土している遺構で，掘り方等は検出されなかったものである。

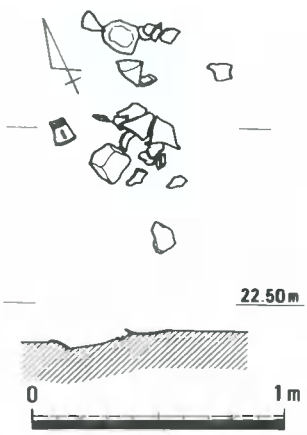
出土遺物としては，壺・甕・高杯等の土器がある。**458**は頸部から真直ぐ開き気味に立ち上っている直口壺形土器である。頸部に貼り付け突帯文を３本巡らせ，端面にキザミメ文を施す。**462**は杯部から彎曲して上方に立ち上がる高杯形土器である。**464**は大型の高杯形土器の杯部下半から脚部で，脚部上端に２条の貼り付け突帯文を巡らせている。脚柱部には長方形の透しを貫通させている。

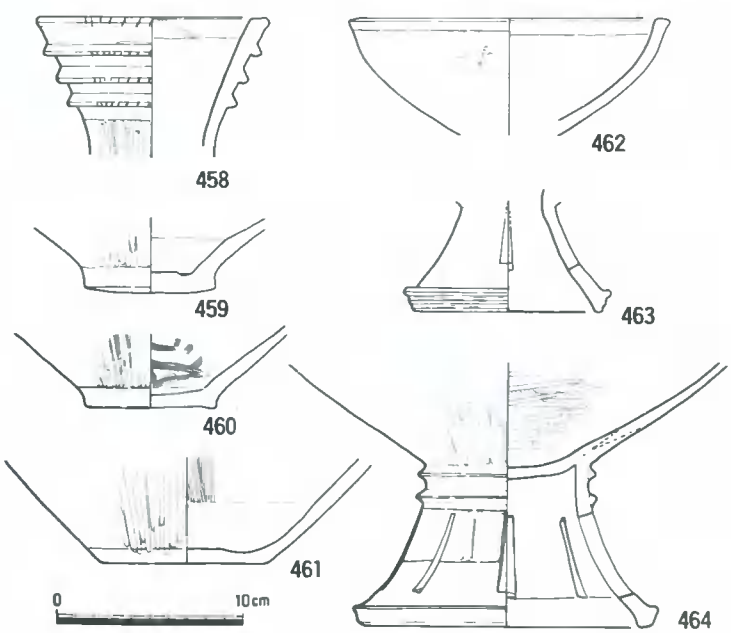
時期は弥生時代中期中葉と考えられる。

(4) 包含層の出土遺物

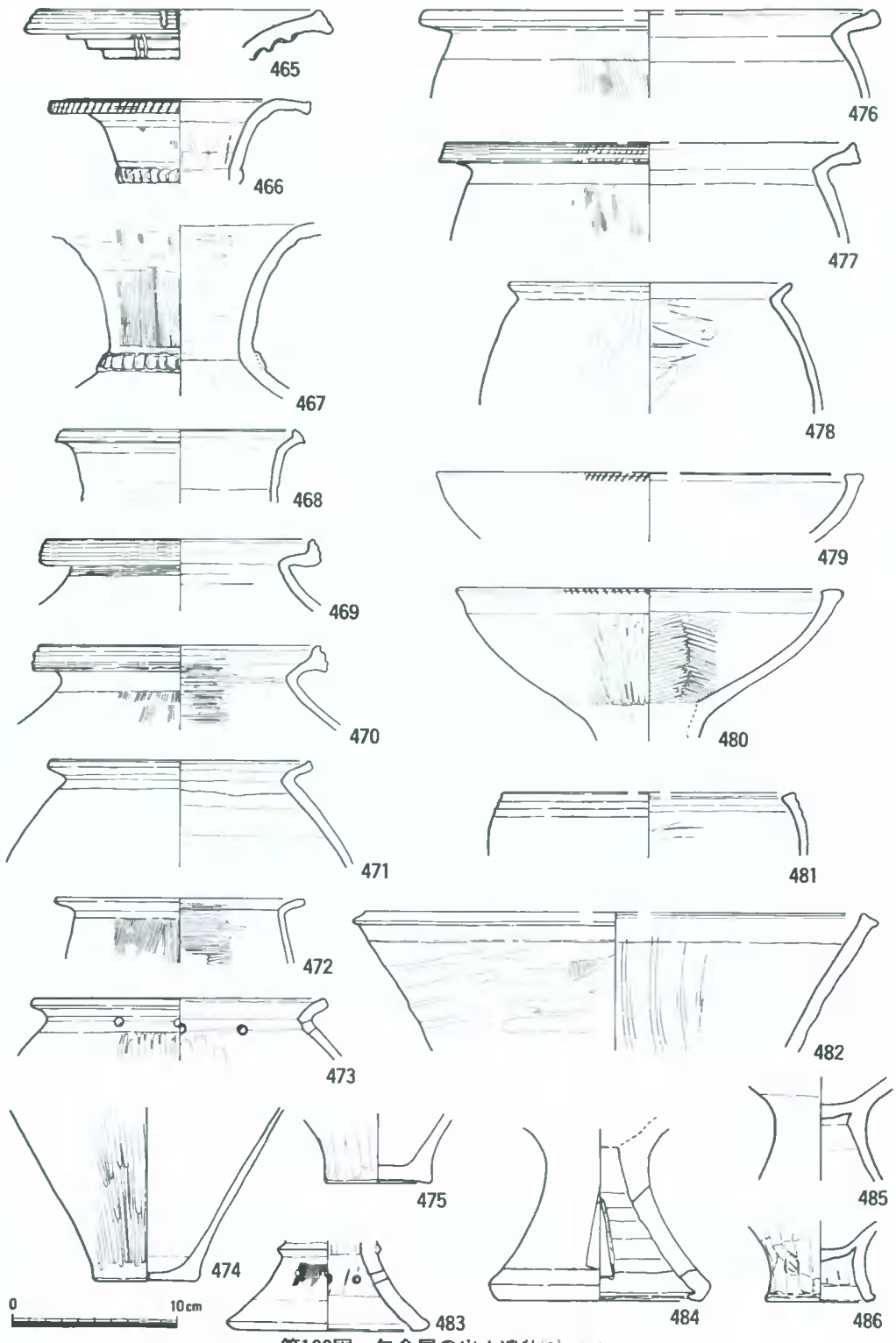
土器（第100図）

いずれも調査区の東半において出土しているものである。**465～468**は壺形土器で，**465**は口縁端部に凹線文を，口縁部から頸部にかけて貼り付け突帯文を巡らせてその上に棒状浮文を貼り付けている。**466**は口縁端面に凹線文を施し，その上にヘラ状工具によるキザミメを巡らせている。また頸部下端に貼り付け突帯文を巡らせ，その上に爪先圧痕を付している。**469～477**は甕形土器である。くの字状に外反した口縁部をそのまま或いは少し肥厚させている。**469**は上方に，

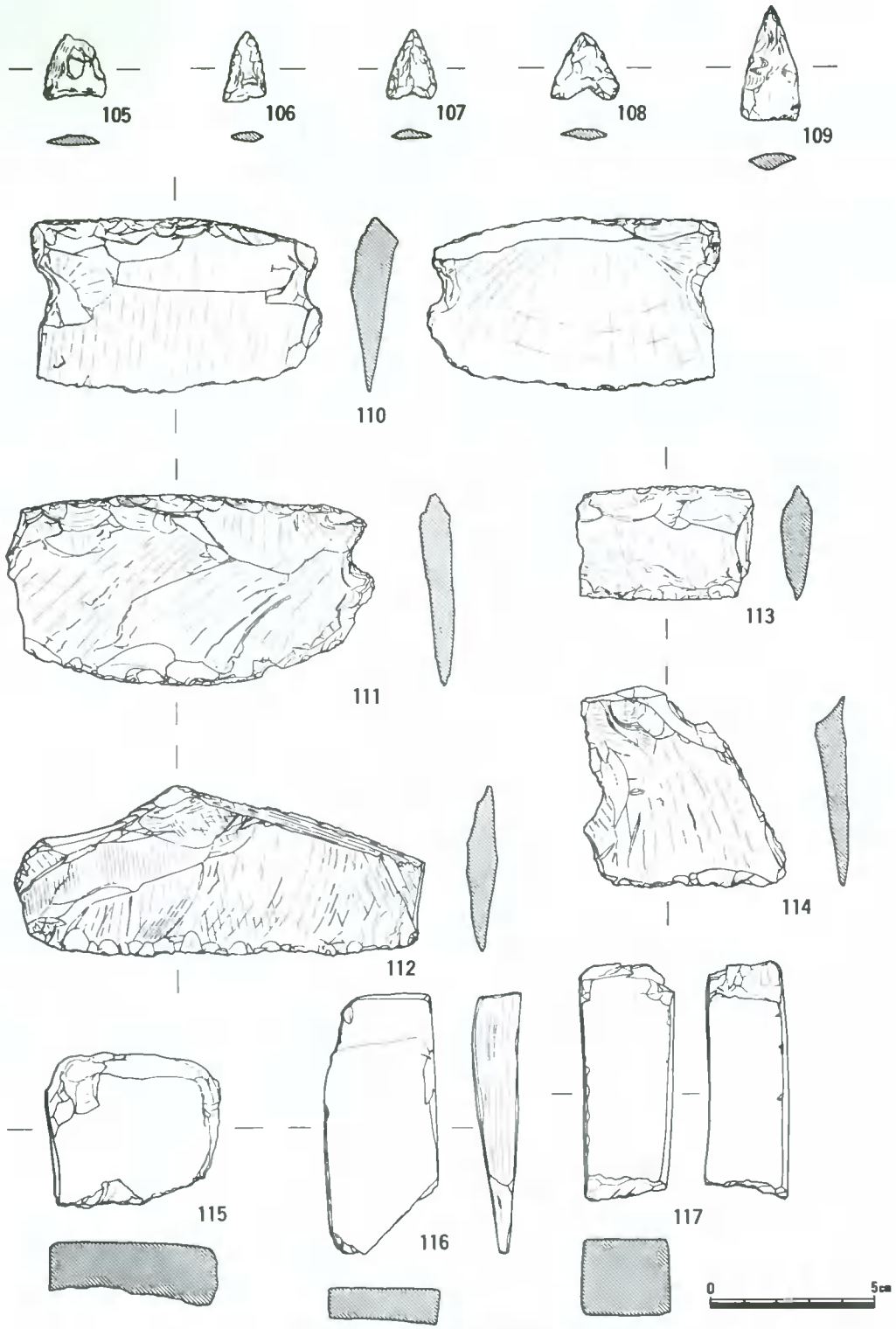




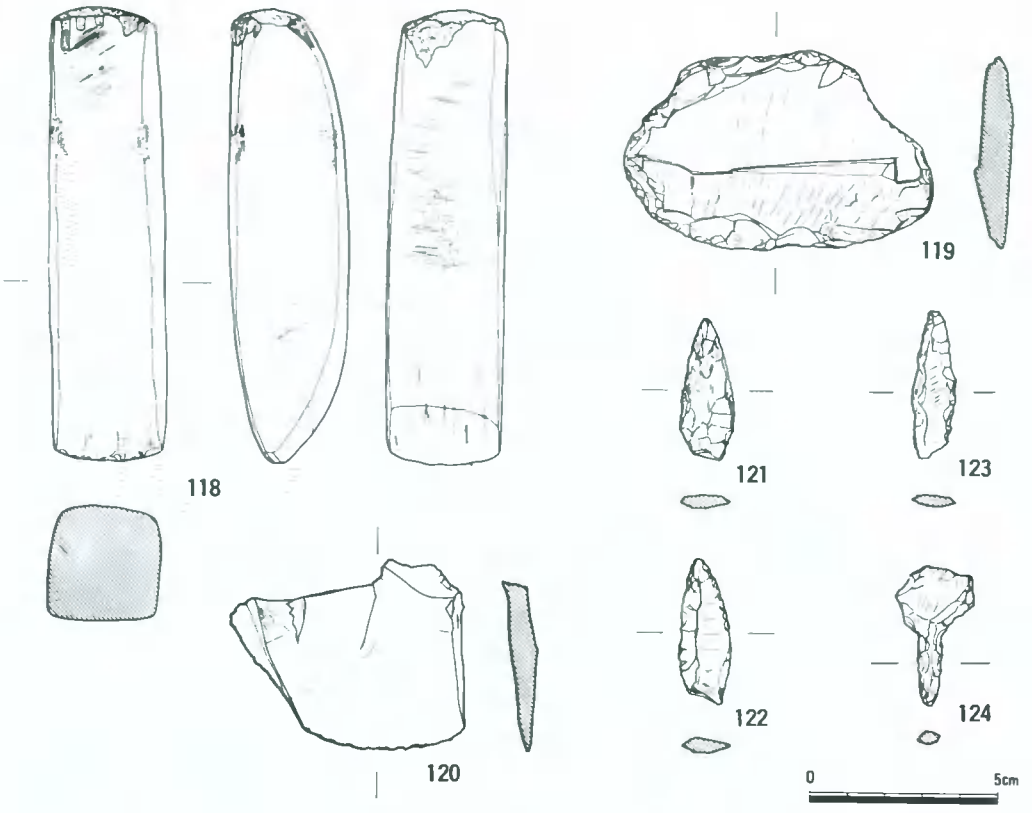
第99図　土器溜り－２（1/30）・**出土遺物**（1/4）



第100図　包含層の出土遺物(1)　(1/4)



第101図　包含層の出土遺物(2)　(1/2)

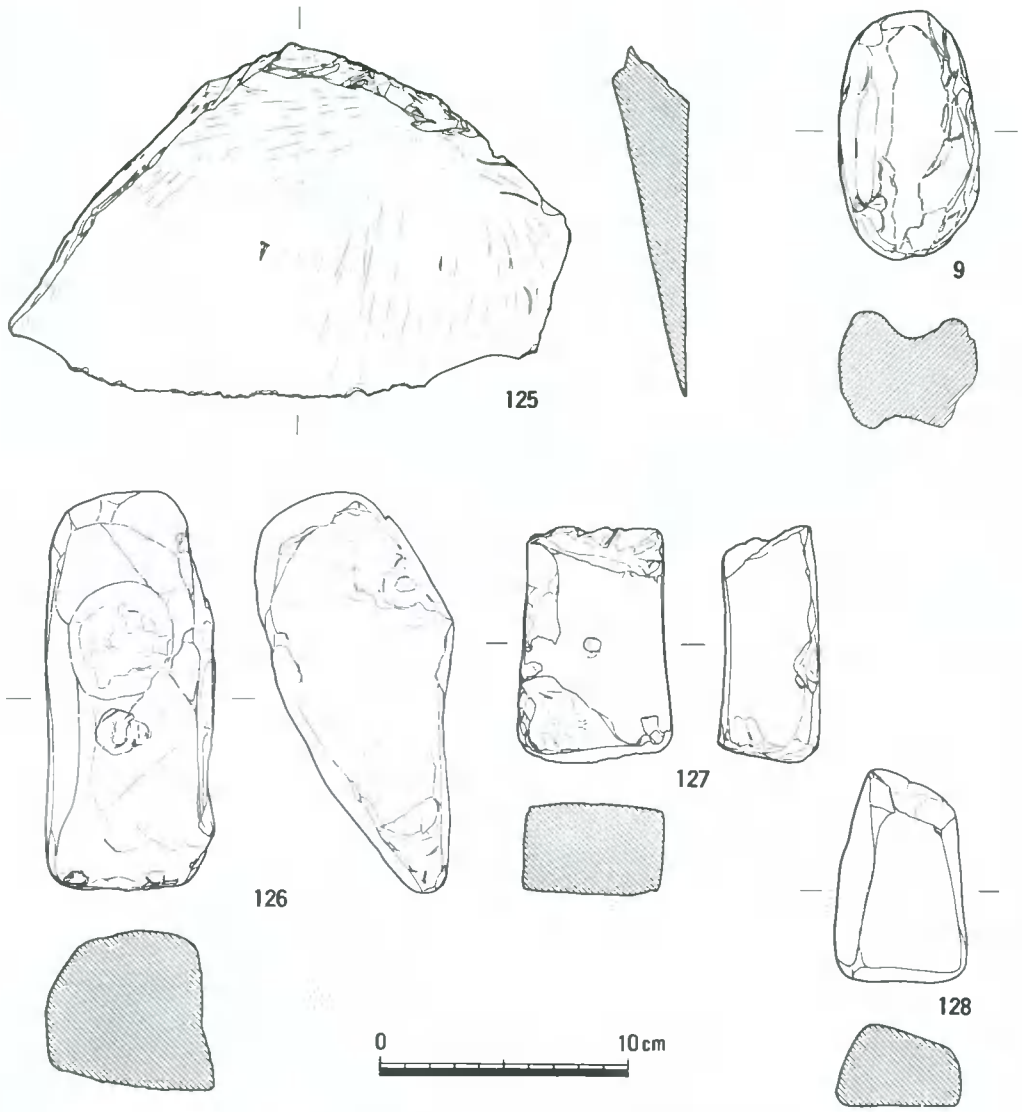


第102図　包含層の出土遺物(3) (1/2)

470は斜め上下方に拡張し端部外面に凹線文を施している。473は屈曲部に2個単位の円孔を2か所穿っている。477は口縁端面に凹線文を施し，ヘラ状工具によりキザミメを巡らせている。476・477は細片で口径は推定である。479・480は高杯形土器で，杯部から彎曲して上方に立ち上がった口縁端部外面にキザミメを巡らせている。481は内傾気味に立ち上がった口縁部外面に凹線文を施している。482は外面をハケメの上から指ナデで調整した台付鉢形土器である。483は脚部上端に，断面三角形の貼り付け突帯を巡らせ，脚柱部に円孔を穿っている高杯形土器の脚部片である。484は脚端部を少し内側に曲げて収めている高杯形土器の脚部で，脚柱部に三角形の透しを穿っている。486は粗いヘラケズリと指ナデにより調整しただけの粗製の台付鉢形土器の台部片である。

その他の遺物（第101～103図）

105～109は三角形状を呈するサヌカイト製の石鏃で105～108は基部が内彎気味のものである。110・111はサヌカイト製の石庖丁で横に抉りが入っている。112は石庖丁状を呈しているが横に抉りがなくスクレイパーの可能性も考えられる。115・117・126・127は凝灰岩製，116は頁



第103図　包含層の出土遺物(4) (1/3)

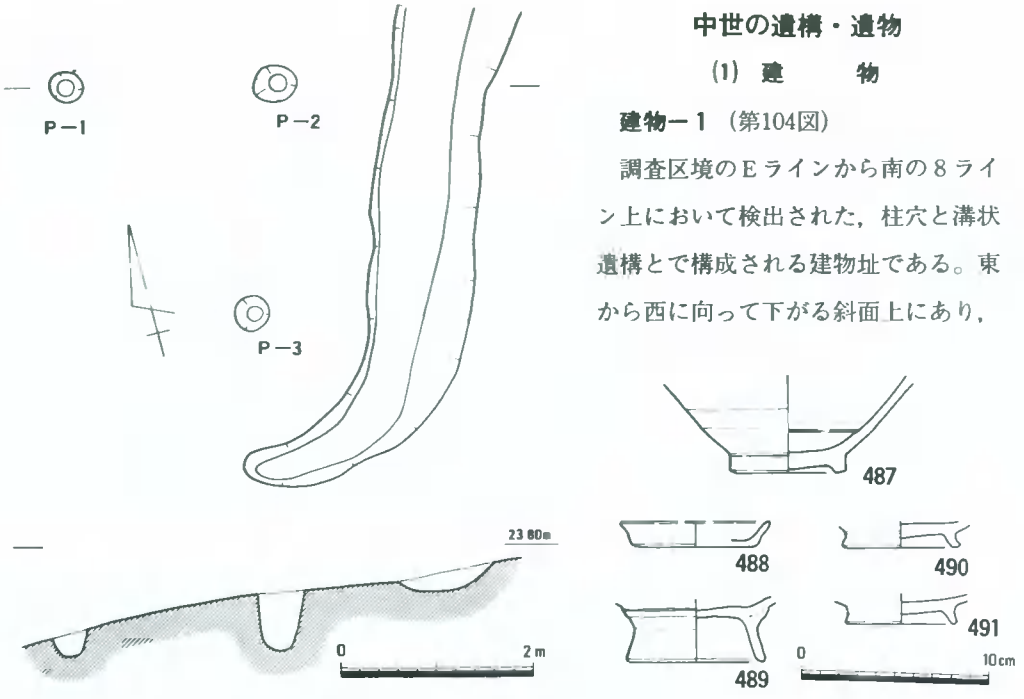
岩製，**128**は流紋岩製の砥石である。**118**はＤ－８の包含層中から出土した，結晶片岩製の柱状片刃石斧である。基部近くには着装痕がみられ刃部は少し磨耗している。**121～123**は基部が細長く突出する尖頭器状のサヌカイト製石鏃で身と茎の区別が不明瞭なものである。**123**は調整は充分に行われておらず未製品の可能性がある。**124**はサヌカイト製の石錐である。**113**はサヌカイト製の石庖丁と思われるが，両側とも刃部調整が行われており，石槍片とも考えられるものである。**114・119**はサヌカイト製のスクレイパーと思われるが，**119**は丁寧な刃部調整は行われていない。**9**は土製の土錘である。

中世の遺構・遺物

(1) 建　　物

建物－1（第104図）

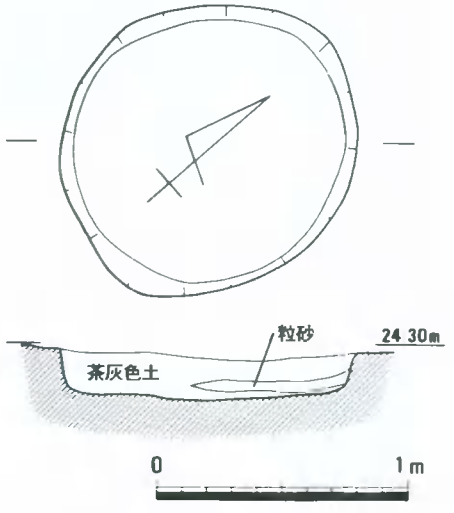
調査区境のEラインから南の8ライン上において検出された，柱穴と溝状遺構とで構成される建物址である。東から西に向って下がる斜面上にあり，



第104図　建物－1 (1/80)・出土遺物 (1/4)

南側は後世の削平を受けて遺構は遺存していない。柱穴は，直径40cm程の円形プランをもつものが3本検出されている。深さは検出面差がありそれぞれ異なるが，柱穴の底は海抜22.70m程で概ね一致する。柱穴間の心々距離は，P－1とP－2が220cm・P－2とP－3が240cmである。P－2・P－3から100cm程東側に，幅100cmで海抜23.60mの東側の肩口から25cm程の深さを測る南北方向の溝が検出されている。この溝はP－3の南で西に曲がるもので，検出された建物の雨落溝と考えられるものである。規模等は，遺構の一部が検出されただけで不明である。また建物の方向は南北に主軸をとると考えて，南北方向から，約20度東へ振っている。

出土遺物としては，いずれも溝の中から中国製陶磁器・土師質の椀・小皿等の土器片がみられる。**487**は福建省付近で作られたと考えられている中国製の白磁碗の底部片である。**488**は土師皿，**490・491**はいわゆる早島式の椀の高台



第105図　土壙－34 (1/30)

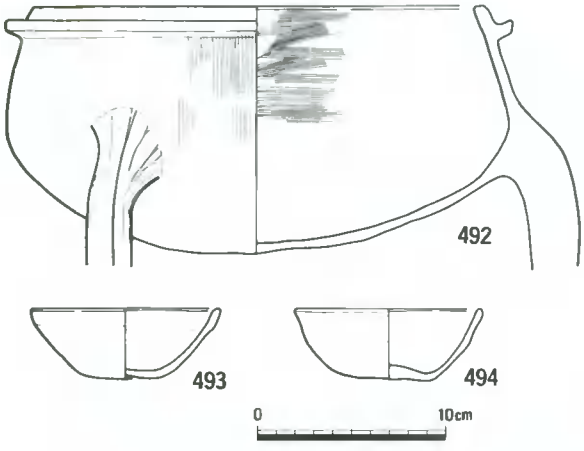
部付近の破片である。

時期は出土遺物等から12世紀頃と考えられる。

(2) 土　　壙

土壙－34（第105図）

９ラインとＤラインの交点から４ｍ程西で検出された土壙である。平面形は直径120㎝程の円形を呈し，深さは24.30ｍの検出面から20㎝を測る。底はほぼ平坦である。埋積土としては茶灰色土が堆積し間に粗砂層がブロック状に認められる。



第106図　土壙－35出土遺物（1/4）

出土遺物としては土鍋と思われる土器片があるが，細片で図示することはできなかった。

時期は出土遺物がほとんどなく明確ではないが中世と考えられる。

土壙－35（第106図）

８ラインとＤラインの交点から西へ0.8ｍ程の地山面直上において脚部は折れているものの胴部は完形の鍋が下向きに出土し，中から完形の小椀が２点出土した遺構である。なお，土器が出土した周辺部の精査を行ったが，掘り方等は検出できなかった。

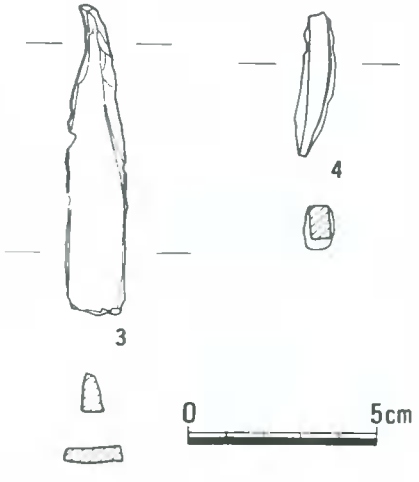
出土遺物としては以上の３点があるのみで，石や釘等も出土していない。

時期は出土遺物等から14世紀頃と考えられる。

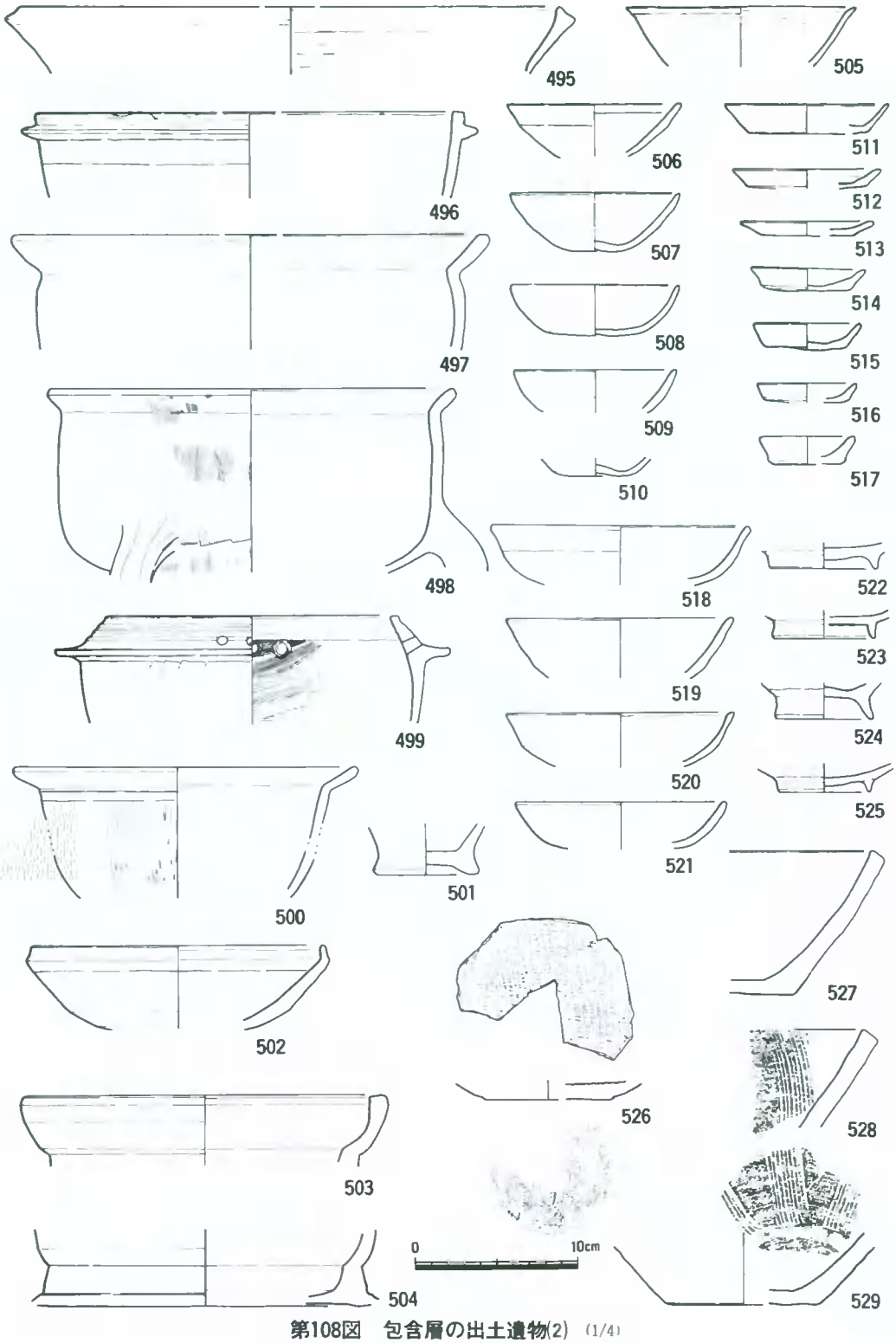
(3) 包含層の出土遺物

土器（第108図）

調査区の東半を主として，包含層中から様々な土器が出土している。時期は各期に亙るものが出土しており，ここでは，中世以降の計測できた土器を図示している。**496～500**は土鍋で，口縁部がくの字状に外反するものと，口縁部下端に貼り付け突帯が巡っているものがある。また３本の脚のつくものとつかないものとがある。**507～510**は土師質のヘソ皿，**511～517**は土師質の小皿である。**518～525**はいわゆる早島式の椀で，しっかりした高台をもつものと，形骸化した高台を貼り付けたものとがある。**526**は



第107図　包含層の出土遺物(1)（1/2）



第108図　包含層の出土遺物(2)　(1/4)

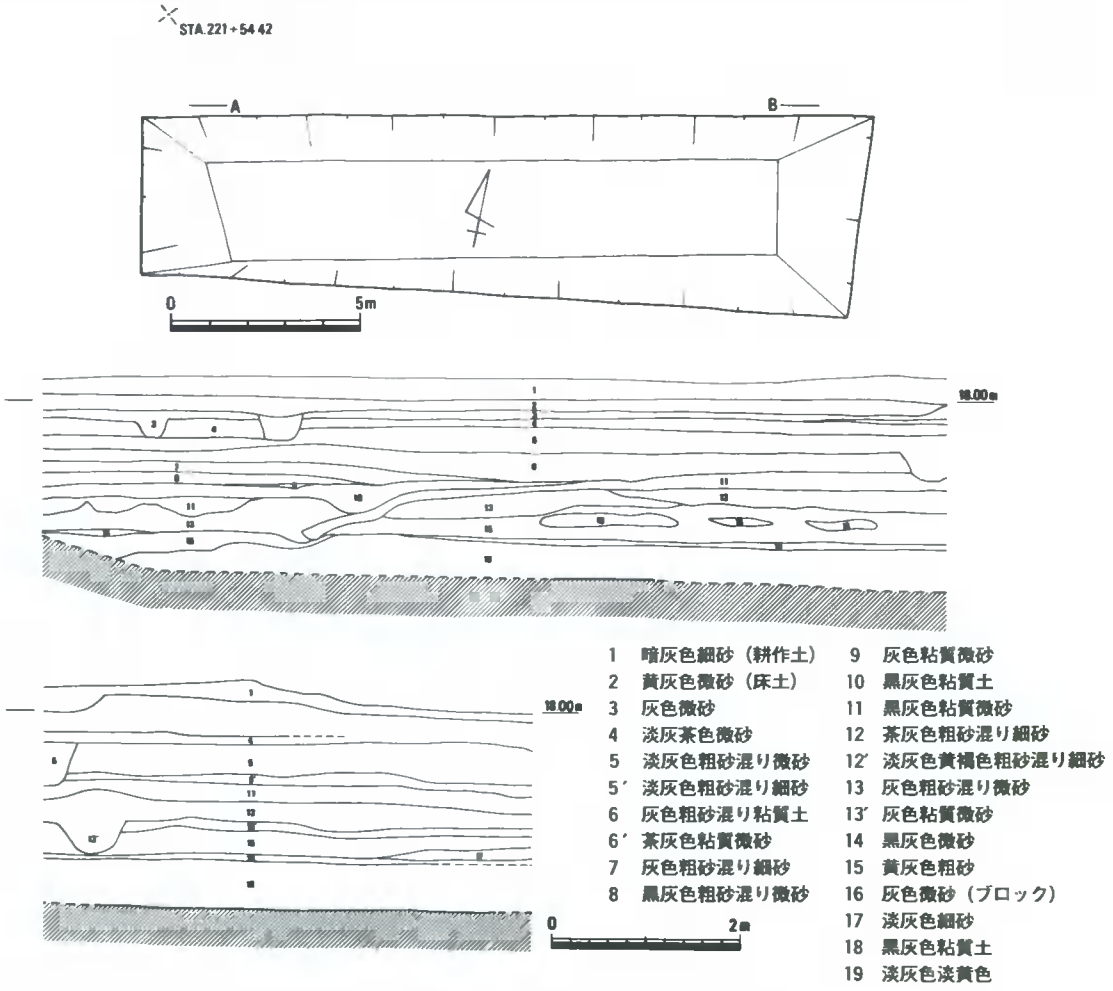
瀬戸焼のおろし皿である。527は東播系の捏鉢，528・529は備前焼の擂鉢である。

その他の遺物（第107図）

土器以外に時期は不明であるが鉄製の釘等が出土している。この外に図示することはできなかったが，土器溜り－２近くの包含層から滑石製の石皿片が出土している。

３．Ｃ区の調査

Ｃ区は菰池遺跡西端の谷部にあたり，湧水が多く一次調査の小さなトレンチでは充分に掘り下げることができなかったもので，今回の調査では用地内の20×５ｍの範囲を，遺物の見られなくなる表土下200cm程まで掘り下げ遺構確認を行った。ここでは表土下１ｍ程までは中・近世以降の水田層が見いだされるものの，それ以下は流れ込みによる堆積土が埋没しており，流



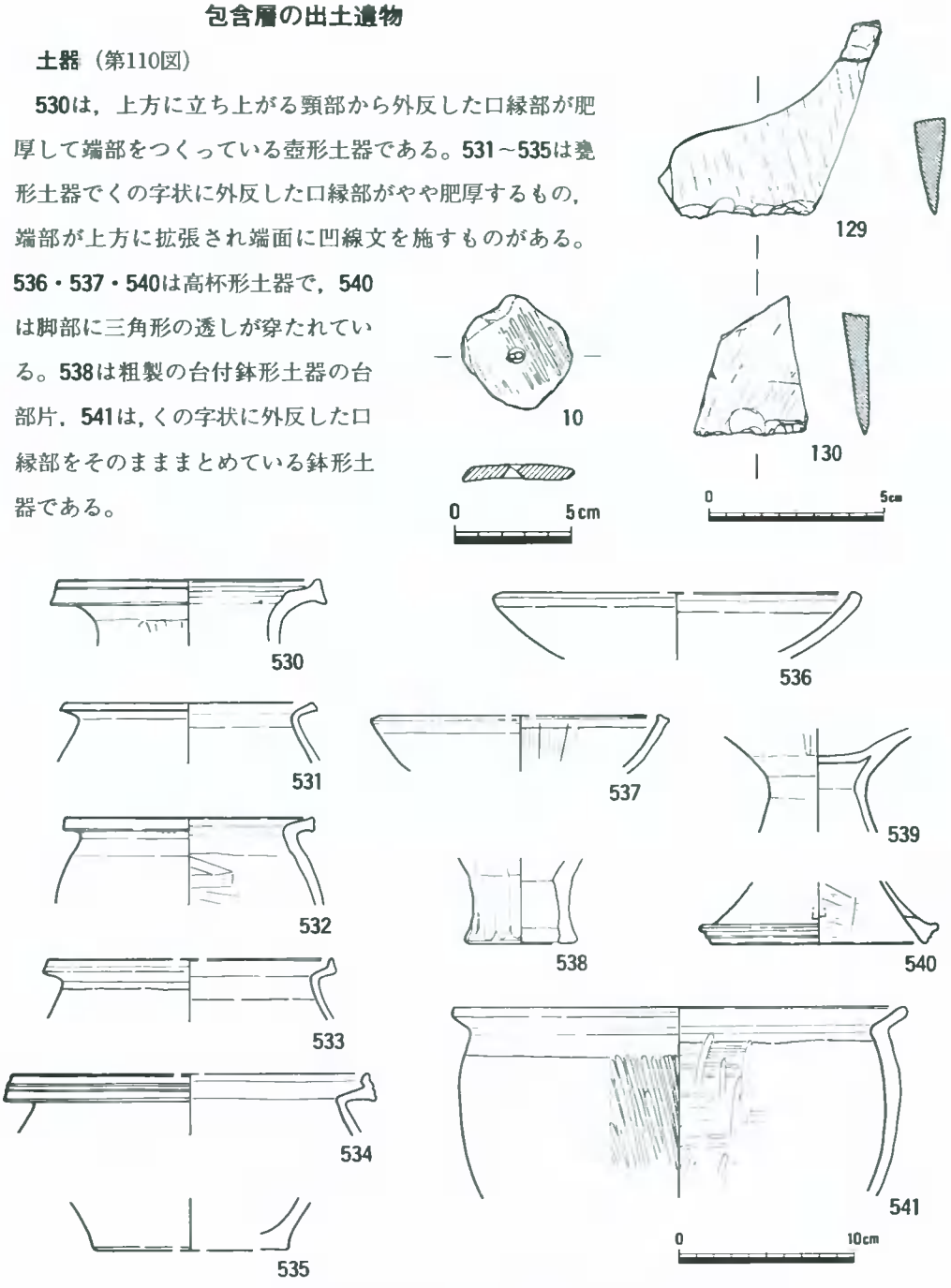
第109図　Ｃ区（1/200）**・北壁土層断面図**（1/80）

れ込みによる土器等の遺物は認められるが，遺構等は全く検出されなかった。

包含層の出土遺物

土器（第110図）

530は，上方に立ち上がる頸部から外反した口縁部が肥厚して端部をつくっている壺形土器である。**531**～**535**は甕形土器でくの字状に外反した口縁部がやや肥厚するもの，端部が上方に拡張され端面に凹線文を施すものがある。**536**・**537**・**540**は高杯形土器で，**540**は脚部に三角形の透しが穿たれている。**538**は粗製の台付鉢形土器の台部片．**541**は，くの字状に外反した口縁部をそのままとめている鉢形土器である。



第110図　包含層の出土遺物（1/3・1/2・1/4）

その他の遺物（第110図）

土器の他には，スクレイパー等の石器と土製紡錘車がある。**129・130**はサヌカイト製のスクレイパーである。刃部はあまり丁寧に調整されていない。**10**は土器片から転用した紡錘車で中央の穴は表裏双方から穿たれている。

第５節　小　　結

今回の菰池遺跡の調査では，これまで知られていた弥生時代中期中葉の遺構だけでなく，古くは縄文時代早期に遡る遺構・遺物が検出された。これらの土器は大半がＢ区の中央やや北東か西或いは南にかけての斜面上の堆積土から出土しているものであるが，全部で350片程ある。大半は厚手のもので100点程が無文或いは判然としないものまた，230点程が大小の楕円の押型文土器である。ここでは山形の押型文土器は出土していない。この他に薄手の土器が15点程みられ，楕円の押型文土器が３点ある。また，厚手のものには内面に凹線文が認められるものが20点程ある。楕円の大きさは長径が７～10cm程のものが多いが，小さいものでは５cm程のもの，大きいものでは15cmを測るものがみられる。

今回の調査でも弥生時代中期の遺構・遺物は最も多く認められている。Ａ区ではほぼ全域に広がっているものの，特に北西側に密集している。Ｂ区では調査区東半の斜面上部において認められている。検出された遺構は，弥生時代中期中葉のものだけではなく，弥生時代中期前半から弥生時代中期後半のものまで認められている。

この他に，いわゆる早島式の土器や備前焼・亀山焼等が出土する古代末から中世にかけての遺構も多く検出され，この菰池遺跡が，縄文時代早期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。

なお，これらの検出状況からみて，菰池遺跡の中心は，現在畑地および集落になっているＡ区調査区外の北側斜面にあると考えられる。（内藤）

表－1　金属製品一覧表

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
1	不明鉄製品	A区	土壙－1	鉄	47.2	26.8	5.3	30.17	21	158	
2	不明鉄製品	A区	包含層	鉄	40.2	27.2	3.3	20.26	59		
3	不明鉄製品	B区	包含層	鉄	81.3	15.6	10.3	11.72	107		
4	釘	B区	包含層	鉄	38.2	8.8	5.5	6.88	107		

表－2　土製品一覧表

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
1	分銅形	A区	竪穴住居址－4	土	41.0	59.5	10.0	20.64	18	158	
2	分銅形	A区	P－6	土	43.0	72.0	12.0	41.25	47	158	
3	紡錘車	A区	包含層	土器片	47.5	46.8	7.1		61		
4	紡錘車	A区	包含層	土器片	56.0	36.0	8.0		61		未製品
5	紡錘車	A区	包含層	土器片	42.1	41.3	9.5	6.04	61		
6	土錘	A区	包含層	土	36.0	15.3	14.5		61		
7	不明土製品	A区	包含層	土器片	64.2	52.8	5.3		61		未製品？
8	メンコ	A区	包含層	備前焼片	31.8	28.0	7.5	8.40	66		
9	土錘	B区	包含層	土	98.8	56.0	49.1		103		
10	紡錘車	C区	包含層	土器片	49.1	47.3	7.2	17.10	110		

表－3　石器・石製品一覧表

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
1	石庖丁	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	152.0	46.0	12.0	147.79	10	154	
2	石庖丁	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	102.0	56.8	14.0	77.70	10		
3	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	68.0	78.5	17.3		10		
4	スクレイパー？	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	116.7	83.9	20.9		10		
5	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	47.4	37.8	6.9		10		
6	石槍	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	(56.0)	30.0	8.0	15.69	10	154	
7	石槍	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	(32.4)	24.4	9.1		10		
8	石鏃	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	22.8	(10.9)	2.6		10		
9	石鏃	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	25.5	10.5	3.9	1.13	10		
10	石鏃	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	21.9	14.9	4.2	1.52	10		
11	石鏃？	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	47.3	13.8	8.9		10		
12	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	63.8	41.1	7.8		10		
13	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	68.3	38.4	12.2		10		
14	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	42.9	38.3	5.7		11		
15	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	35.4	36.9	7.0	11.48	11		

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
16	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	31.3	30.1	10.9		11		
17	スクレイパー?	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	37.0	24.3	4.6		11		
18	U・F	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	47.8	31.0	5.5		11		
19	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	53.9	13.7	6.7		11		
20	スクレイパー	A区	竪穴住居址－1	サヌカイト	113.6	58.0	11.9		11		
21	?	A区	竪穴住居址－1	閃緑岩	105.1	56.2	25.5	209.02	11		
22	作業台	A区	竪穴住居址－1	花崗岩	258.7	208.0	82.7	(5800)	11		
23	砥石?	A区	竪穴住居址－1	細粒花崗岩	165.0	162.0	85.9	330.70	12		
24	作業台	A区	竪穴住居址－1	花崗岩	231.0	167.5	115.5	(4600)	12		
25	作業台?	A区	竪穴住居址－1	細粒花崗岩	135.0	121.0	39.3	(591.32)	12		
26	敲石	A区	竪穴住居址－1	凝灰岩	91.5	76.0	40.5	461.20	12		
27	敲石	A区	竪穴住居址－1	角閃石花崗閃緑岩	70.6	70.3	43.4	307.47	12		太型蛤刃石斧転用
28	スクレイパー	A区	竪穴住居址－2	サヌカイト	58.1	43.8	10.3	20.25	15		
29	スクレイパー?	A区	竪穴住居址－2	サヌカイト	39.8	28.7	8.8	11.39	15		
30	スクレイパー	A区	竪穴住居址－2	サヌカイト	77.1	25.6	11.0	22.97	15		
31	敲石?	A区	竪穴住居址－3	花崗閃緑岩?	58.5	58.0	51.4	301.24	17		
32	スクレイパー	A区	竪穴住居址－3	サヌカイト	108.9	79.6	22.1	186.72	17		未製品?
33	U・F	A区	竪穴住居址－5	サヌカイト	38.7	12.4	3.7	1.63	19		
34	石庖丁	A区	竪穴住居址－5	サヌカイト	109.2	54.8	10.7	74.21	19		
35	スクレイパー	A区	竪穴住居址－5	サヌカイト	63.4	54.2	14.2	27.50	19		
36	石鏃	A区	土壙－1	サヌカイト	23.5	10.8	4.0	0.77	21	158	
37	石鏃	A区	土壙－1	サヌカイト	23.8	14.6	3.1	0.68	21		
38	石鏃	A区	土壙－1	サヌカイト	23.8	14.7	3.9	1.01	21		
39	石鏃?	A区	土壙－1	サヌカイト	29.6	11.8	3.0	1.06	21		
40	砥石	A区	土壙－3	砂岩	72.3	63.9	28.0		26		
41	砥石	A区	土壙－3	砂岩	45.2	35.8	16.1		26		携行用
42	砥石	A区	土壙－3	砂岩	179.0	110.0	94.0	1876.00	26		
43	石鏃	A区	土壙－4	サヌカイト	22.6	13.7	2.9	0.96	29		
44	敲石	A区	土壙－8	安山岩	56.7	67.2	48.1	294.33	33		太型蛤刃石斧転用
45	石鏃	A区	P－3	サヌカイト	23.1	(19.2)	3.4	1.09	45		
46	砥石	A区	P－7	砂岩?	45.5	48.8	28.5		48		
47	石鏃	A区	P－10	サヌカイト	25.3	12.5	3.4	0.80	50	158	
48	石庖丁?	A区	土器溜り－1	サヌカイト	105.0	55.2	16.7	89.97	54		
49	敲石	A区	土器溜り－1	花崗岩	67.5	30.1	29.0	110.18	54		
50	砥石	A区	土器溜り－1	砂岩	77.3	39.9	27.5	148.53	54		
51	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	47.0	12.3	3.6	1.64	58		
52	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	50.2	12.9	4.2	2.52	58	158	
53	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	30.1	13.7	4.2	1.31	58		
54	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	25.9	15.0	3.1	1.01	58	158	

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
55	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	17.0	13.9	3.3	0.52	58		
56	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	(17.0)	13.6	3.7	0.79	58		
57	スクレイパー	A区	包含層	サヌカイト	96.8	67.0	12.0	95.08	58		
58	石庖丁	A区	包含層	サヌカイト	81.9	31.3	10.5	36.22	58	158	
59	石鏃未製品?	A区	包含層	サヌカイト	36.9	19.9	5.3	4.10	58		
60	U・F	A区	包含層	サヌカイト	62.3	34.9	6.5	14.56	58		
61	U・F	A区	包含層	サヌカイト	53.1	21.4	5.0	4.80	58		
62	?	A区	包含層	安山岩	97.0	31.9	19.0	103.33	58		
63	石槍	A区	包含層	サヌカイト	151.7	34.8	8.6	57.98	58	158	
64	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	45.0	12.5	6.5	3.20	58		
65	携行用砥石?	A区	包含層	安山岩	72.3	19.2	12.5	22.03	58		
66	スクレイパー	A区	包含層	サヌカイト	53.0	35.5	5.0	17.96	58		
67	スクレイパー	A区	包含層	サヌカイト	94.0	45.0	10.5	49.35	58		
68	石庖丁	A区	包含層	サヌカイト	89.1	47.9	10.6	44.57	58		
69	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	17.1	14.2	3.6	0.50	59	158	
70	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	22.5	16.0	4.0	1.15	59		
71	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	32.8	13.2	4.3		59		
72	石槍	A区	包含層	サヌカイト	(25.0)	27.5	9.0	6.87	59		
73	スクレイパー	A区	包含層	サヌカイト	77.7	29.0	5.6	11.71	59		
74	石庖丁	A区	包含層	サヌカイト	102.4	46.5	9.0	56.46	59	158	
75	石庖丁	A区	包含層	サヌカイト	98.0	45.5	12.0	64.33	59	158	
76	U・F	A区	包含層	サヌカイト	97.0	76.5	14.0	54.11	59		
77	?	A区	包含層	サヌカイト	93.0	51.0	12.0	65.05	59		未製品?
78	スクレイパー	A区	包含層	サヌカイト	111.5	46.2	11.3	52.42	59		
79	U・F	A区	包含層	サヌカイト	74.5	51.8	10.5	26.61	59		
80	U・F	A区	包含層	サヌカイト	48.0	21.4	4.6	3.80	59		
81	U・F	A区	包含層	サヌカイト	51.5	33.6	6.0	8.79	59		
82	スクレイパー	A区	包含層	サヌカイト	131.7	90.3	13.3	168.20	60		
83	敲石?	A区	包含層	花崗斑岩	59.0	48.4	41.1	170.34	60		
84	太型蛤刃石斧	A区	包含層	安山岩	127.5	74.7	45.2	729.12	60	158	敲石に転用
85	作業台?	A区	包含層	砂岩	137.0	96.0	48.0	917.15	60		
86	敲石,磨石	A区	包含層	凝灰岩	81.1	58.1	45.1	291.66	60		
87	砥石	A区	包含層	花崗岩	204.9	70.0	53.6	1373.0	60		
88	太型蛤刃石斧	A区	包含層	安山岩	86.4	63.1	44.8	289.03	60		
89	砥石?	A区	包含層	粘板岩	77.8	70.8	14.7	151.04	66		
90	ナイフ型石器	B区	包含層	サヌカイト	39.1	12.8	4.8	2.49	87		
91	スクレイパー	B区	包含層	サヌカイト	31.8	27.2	4.8	5.43	87		
92	スクレイパー	B区	包含層	サヌカイト	54.5	38.0	9.0	25.44	87		
93	スクレイパー	B区	包含層	サヌカイト	64.0	38.0	5.5	19.78	87		

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
94	石錘？	B区	包含層	閃緑岩	45.2	39.1	14.0	33.16	87		
95	敲石？	B区	包含層	砂岩	80.9	54.5	34.4	239.31	87		
96	石鏃	B区　C－9	土壙－23	サヌカイト	18.0	15.6	3.1		90		
97	砥石	B区　C－9	土壙－25	凝灰岩	73.4	55.7	40.3	212.28	93		
98	石庖丁？	B区　C－9	土壙－25	サヌカイト	37.2	43.1	8.4	17.02	93		
99	砥石	B区　C－8	土壙－29	砂岩	98.5	66.0	62.0	649.59	96		
100	敲石	B区　C－8	土壙－29	安山岩	67.5	68.0	47.5	328.25	96	158	太型蛤刃石斧転用
101	スクレイパー	B区　D－8	土壙－34	サヌカイト	111.5	64.0	6.2	46.40	98		
102	石鏃	B区　D－8	土壙－34	安山岩	19.6	(12.5)	3.9	0.82	98		
103	石鏃	B区　D－8	土壙－34	サヌカイト	23.2	(14.3)	2.4	0.53	98		
104	砥石	B区　D－8	土壙－34	流紋岩	264.6	65.1	36.8	683.06	98		
105	石鏃	B区　C－8	包含層	サヌカイト	18.9	18.1	3.0	1.03	101		
106	石鏃	B区　T－3	包含層	サヌカイト	20.6	12.7	3.1	0.64	101		1次調査
107	石鏃	A区	包含層	サヌカイト	(20.4)	14.9	2.8		101		
108	石鏃	B区　D－8	包含層	サヌカイト	19.8	20.1	3.4	1.03	101		
109	石鏃	B区　C－8	包含層	サヌカイト	34.4	17.5	8.7	2.32	101	158	
110	石庖丁	B区　D－7	包含層	サヌカイト	87.2	52.2	11.4	62.00	101	158	
111	石庖丁	B区　D－8	包含層	サヌカイト	112.3	58.0	10.0	70.93	101		
112	石庖丁？スクレイパー	B区	包含層	サヌカイト	125.6	50.4	11.8	72.77	101		
113	石庖丁	B区　B－8	包含層	サヌカイト	53.3	34.2	10.9	25.98	101	25.	石槍片.?
114	スクレイパー	B区　C－7	包含層	サヌカイト	60.4	60.0	15.5	35.42	101	98	
115	砥石	B区　D－8	包含層	凝灰岩	46.9	53.1	23.2	63.34	101		
116	砥石	B区　D－8	包含層	頁岩	78.0	34.5	14.5	49.71	101		
117	携行用砥石	B区	包含層	凝灰岩	73.1	28.9	25.0	83.94	101		
118	柱状片刃石斧	B区　D－8	包含層	結晶片岩	122.1	31.1	31.9	279.54	102	158	
119	スクレイパー	B区	包含層	サヌカイト	81.8	52.3	10.5	56.66	102		
120	U・F	B区	包含層	サヌカイト	68.6	57.2	10.8	25.62	102		
121	石鏃	B区	包含層	サヌカイト	37.7	14.6	3.8		102		
122	石鏃	B区	包含層	サヌカイト	38.4	13.5	4.1	1.93	102		
123	石鏃	B区　D－8	包含層	サヌカイト	39.5	11.7	3.5	1.58	102		未製品？
124	石錐	B区	包含層	サヌカイト	37.5	20.5	4.4	2.29	102	158	
125	スクレイパー・石庖丁？	B区　C－8	包含層	サヌカイト	225.0	141.2	38.9	658.70	103		
126	砥石	B区　C－8	包含層	凝灰岩	157.9	67.2	78.3	1084.00	103		
127	砥石	B区　C－9	包含層	凝灰岩	93.4	61.8	40.3	331.52	103		
128	砥石	B区　C－8	包含層	流紋岩	84.2	52.9	38.4	226.70	103		
129	スクレイパー	C区	包含層	サヌカイト	63.3	60.0	9.4	20.96	110		
130	スクレイパー	C区	包含層	サヌカイト	39.8	32.0	7.2	8.69	110		

第13章　木見大賀（きみおおが）遺跡の調査

第１節　遺跡の位置

県道岡山・児島線を南西方向に下がってゆくと，西に戸津田遺跡の位置する丘陵がある。その丘陵が真近に迫る所の郷内橋の手前を南西へ下がる。道の西は水田が営まれ，東は比較的急峻な蟻蜂山の裾部に沿う。丘陵裾部には，国指定重要文化財と県指定重要文化財のある熊野神社が所在する。この県道白尾・藤戸線は，丘陵裾部よりも水田寄りに付設されている。旧道は，丘陵裾部に沿うように家屋の立ち並ぶ中を貫いている。そしてこの周辺を潤す森池の東に沿い，標高273ｍの由加山へと通じる。遺跡は，森池から北東の約300ｍのところにあり，旧道北側の蟻蜂山裾部から，南の種松山の裾部の間約700ｍである。

分布調査の地点名からは，種松山の裾部から県道白尾・藤戸線までをＧ，郷内川から100ｍ北の間をＦ，県道白尾・藤戸線の南側200ｍをＥ，県道白尾・藤戸線から蟻蜂山丘陵裾までをＣとした。

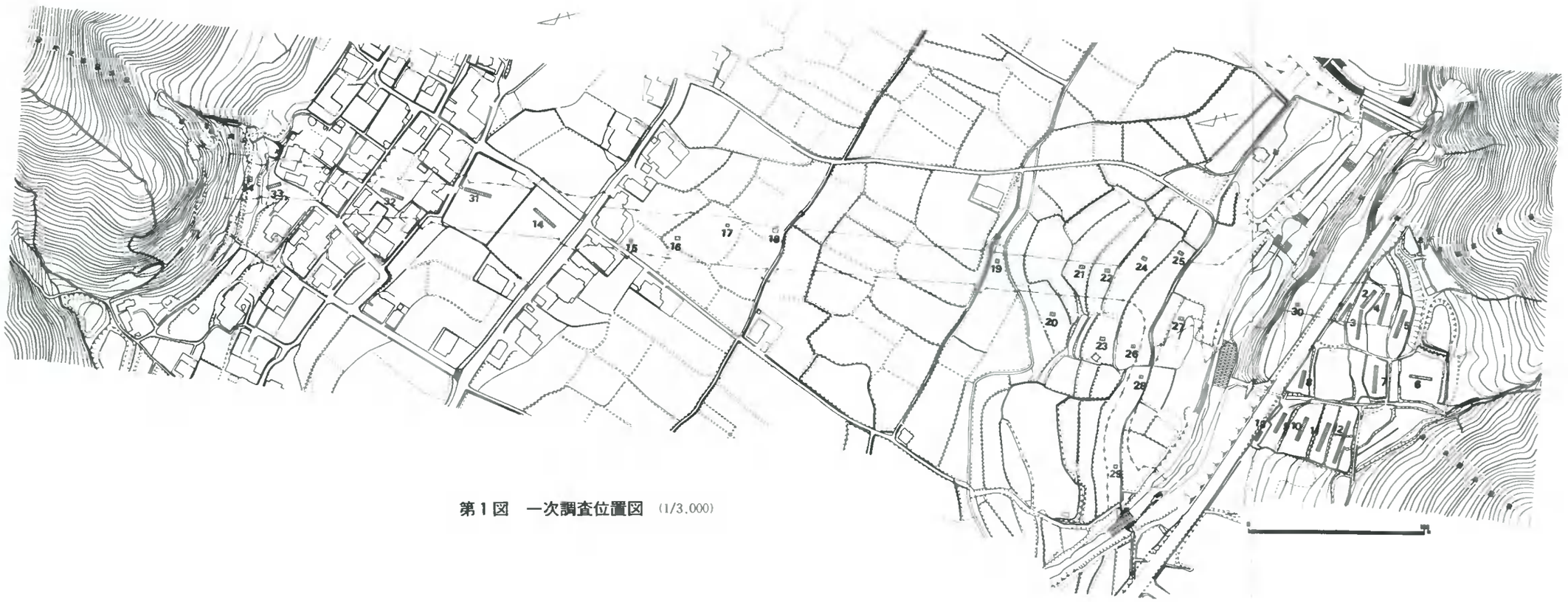
第２節　調査に至る経緯

木見大賀遺跡は，昭和52年２月から同年３月に実施した分布調査において散布地としたＣ，Ｅ，Ｆ，Ｇにあたるものである。

第一次調査は，阿津走出遺跡の側道部分の調査が終了したのを受け，Ｃ地点の調査に入った。Ｃ地点は，福南山トンネルの北坑口に当り，作業に伴う広いスペースが必要であった。従って，この地点については，路線幅だけでなく，作業ヤードも調査対象となったのである。

ＥとＦの２地点については，用地買収ができておらず，なおかつ地元の了解が得られなかったため，60年２月から実施することになった。この地点の調査は，60年度の工事工程の関係から59年２月より行われたが，菰池遺跡の調査をしていたため，２遺跡同時に調査を進めなければならなかった。

Ｃ地点については，家屋の移転が進んでおらず，61年度まで待たなければならなかった。61年５月に入り，一部の家屋の移転が進み，トレンチの設定位置により遺構の広がりが把握できる状況にまでなったので，地元の了解を得て調査を開始したのである。



第１図　一次調査位置図　(1/3,000)

この確認調査において，遺構の広がりを確認したため，残りの家屋の移転後に第二次調査を実施したのである。

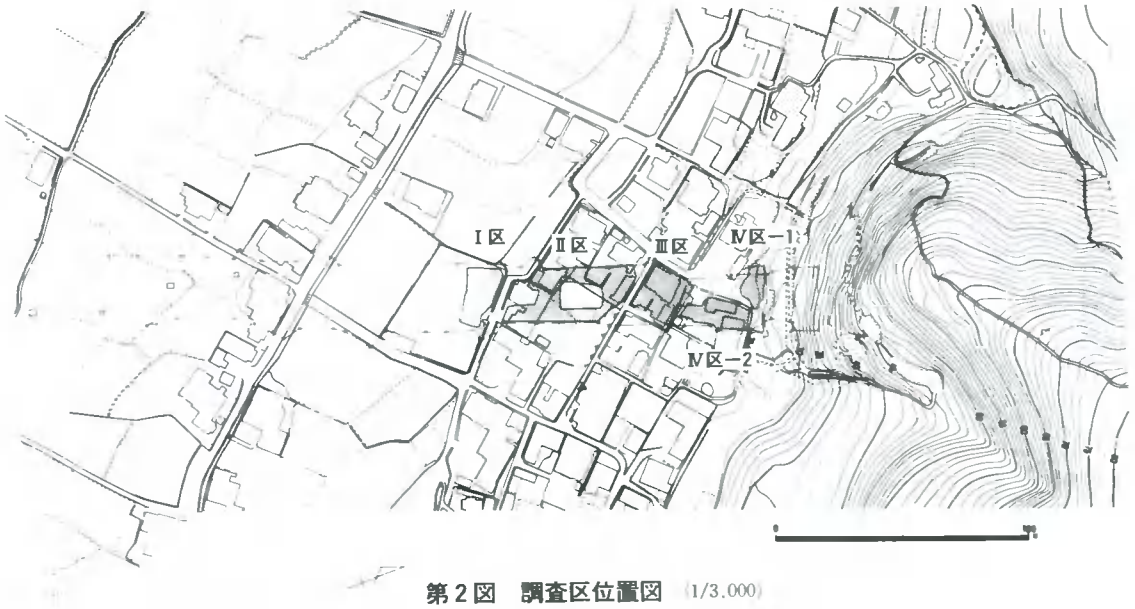
新幹線用地部分については，買収ができていない所が多くあり，公団の方針としても新幹線の着工を当分の間止めるということであり，今回の調査は在来線のみについて実施した。しかし一部買収済みの所については，調査を加えている部分もある。

Ｃ地区の発掘調査については，調査が可能となったのがかなり遅れたため，工事工程との関係で期間について競合する部分が生じた。このことについては，公団がⅡ区に橋脚のスパンを広げることにより，調査面積を少なくすることで調整を図ったのである。

第３節　一次調査の結果

Ｇ地点は，全域がやや南へゆるやかにのぼってゆく平坦な畑地となっており，一部に家屋の移転した所がある。昭和54年８月に県道白尾・藤戸線建設に伴い発掘調査された森荒手遺跡と接する地にある。このことから，何らかの遺構の存在を想定し，畑の区画ごとに13本のトレンチを設定した。

１～５においては，地表下30cmほどで基盤層に達する。この間の堆積土は花崗岩の風化土である。**６**は，地元の人によれば寺があったという地点である。地表下35cmほどで基盤層に達する。トレンチ北側において地山の下がりを認め，角礫の集積が存在する。この礫部分の基盤層



第２図　調査区位置図　(1/3,000)

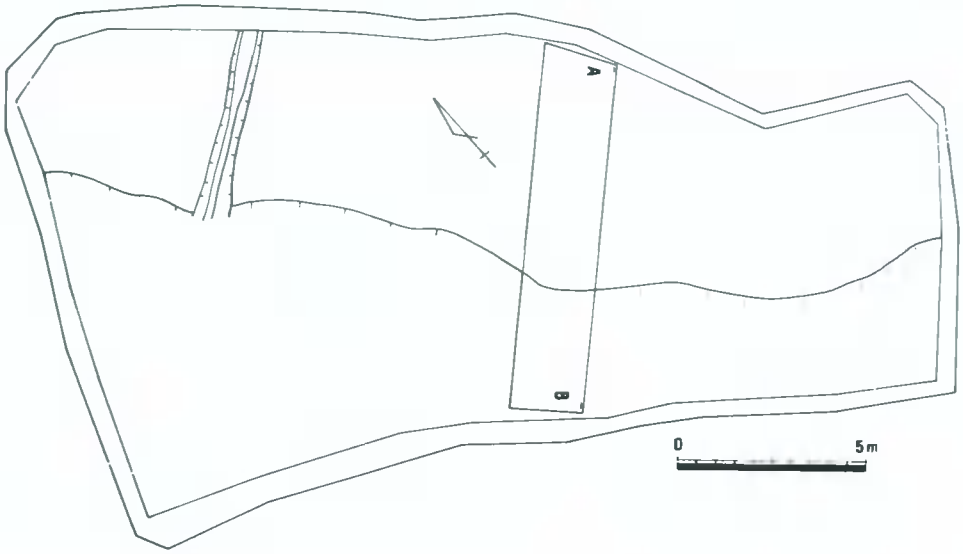
は，地表から165cmほどである。このことから削平による土砂により平坦部を造り出したようである。7～12については，地表下20～30cmにおいて基盤層に達する。いずれも畑地を平坦に造成しているようである。

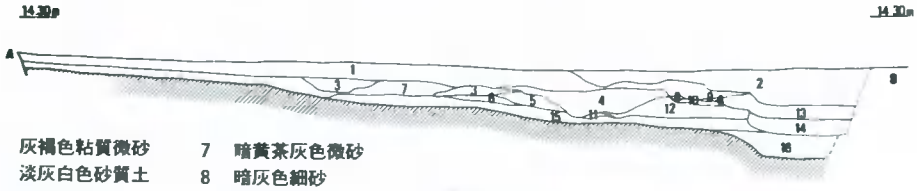
13は森荒手遺跡との関連で設定したが，20cmほどで基盤層に達した。

G地点は，比較的新しい時期に畑として開墾したと考えられ，古い時期の遺構・遺物は認められなかった。

E地点は，グリット番号19～30までで，現状は水田と畑地となっている。この地点は，新幹線用地が買収されていたため調査ができた。

19は，耕作土，床土，灰色粘土の堆積が70cmほど認められ，それより下層は砂礫となり湧水





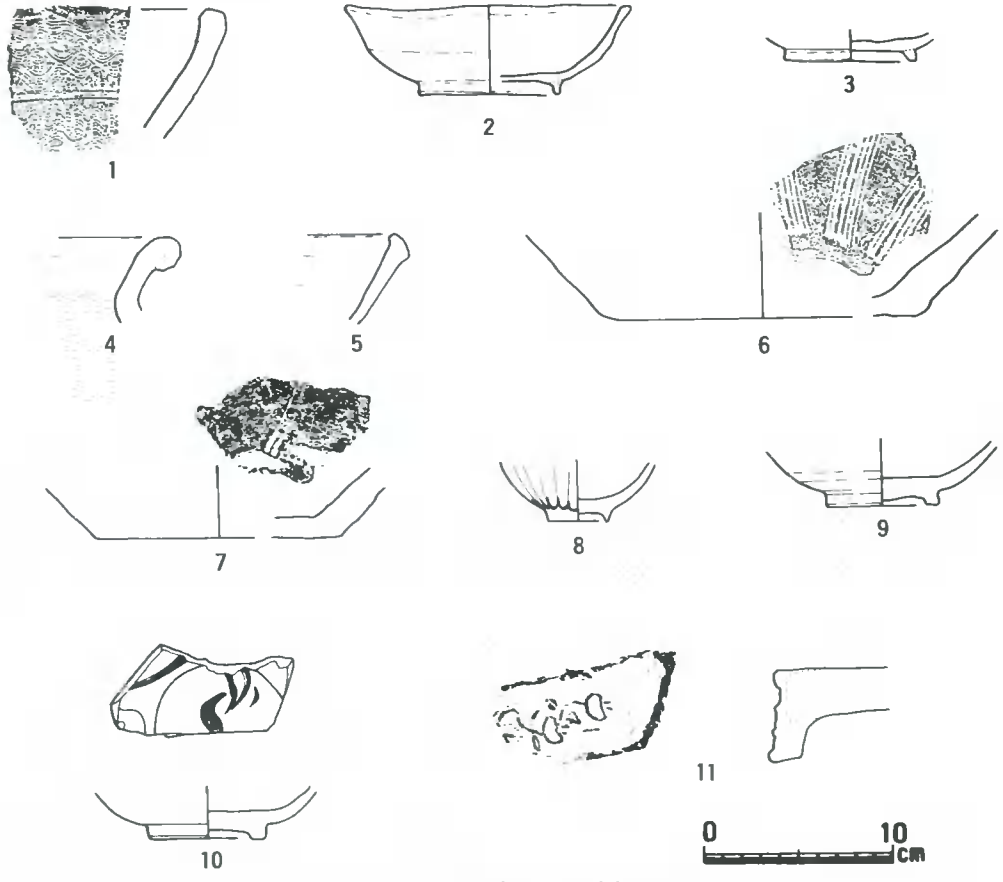
1 灰褐色粘質微砂
2 淡灰白色砂質土
3 暗黄灰色 〃
4 茶灰色 〃
5 灰茶色粘質微砂
6 茶灰色砂質土
7 暗黄茶灰色微砂
8 暗灰色細砂
9 淡黄灰色粗砂
10 灰色粘質土
11 灰色粗砂
12 明茶褐色粘質微砂
13 淡茶灰色粗砂
14 茶褐色礫混り粗砂
15 茶灰色砂質土
16 明青灰色粘質土

第3図　I区遺構配置図 (1/200・1/80)

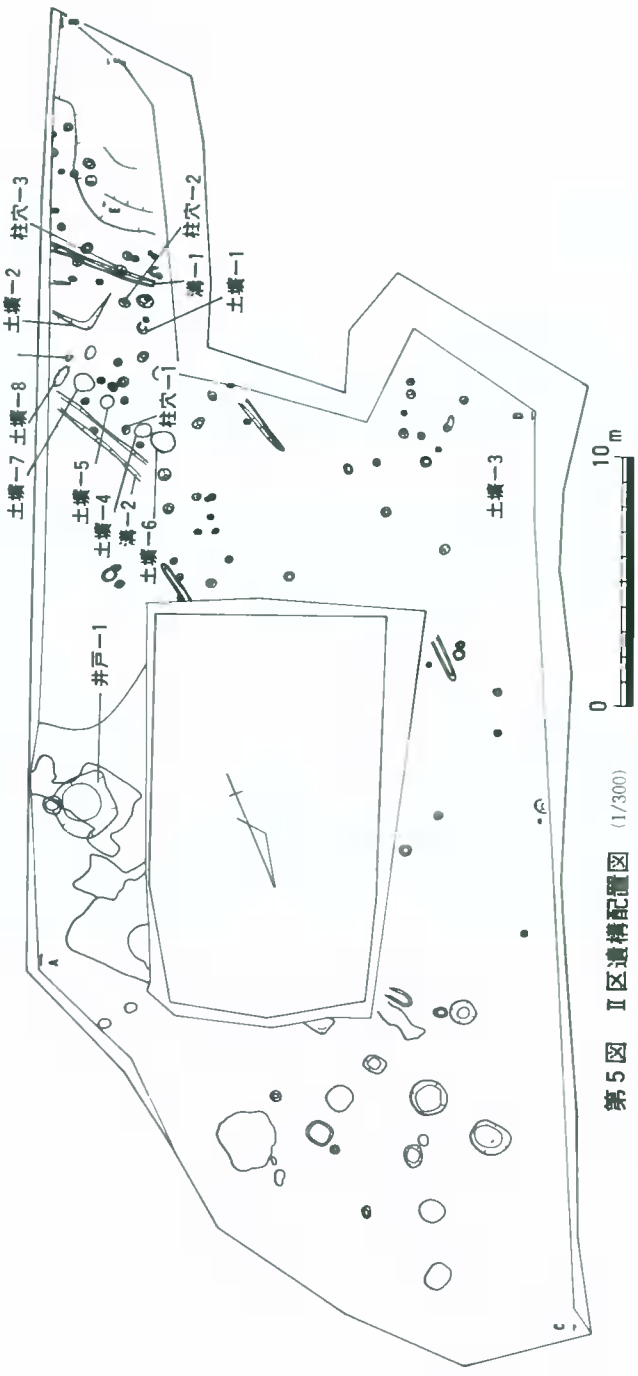
が多くなる。また床土直下より東西方向の旧河道を認める。**20・21**は，耕作土と灰色砂質土が50～60cmほど認められ，以下は淡赤褐灰色粘土が厚く堆積し，100cmほど掘り下げを行う。**21**のこの層から奈良時代と考えられる杯身の小片を検出するが，非常に磨滅がはげしい。**22～29**は，耕作土下から黄褐色の花崗岩の風化土の堆積がみられる。**28**において表土下60～65cmほどの厚さで，15～40cm大の礫層が認められる。この中に磨滅した須恵器，土師器を認める。**30**は，県道工事に伴い45cmほどの埋土が認められ，100cmほどで基盤層に達する。

Ｅ地点は，県道白尾・藤戸線の両側，番号は**14～18**である。**14**は，表土と床土が30cm，茶灰色粘土が45cm，灰色粘土35cmの堆積がみられ，灰色粘土の下は粗砂と粘土の互層となり，湧水がはげしくなる。**15～18**は，基本的には**14**と同じような層序を示すが，次第に砂質が多くなり，**18**においては下層に砂礫を認める。

Ｃ地点は，蟻蜂山の南裾にあたり，家屋が密集している地区である。**31**は南寄りに地表下40cmほどで鎌倉時代の基盤の下がりを認める。この上層に７世紀から室町時代にかけての包含



第４図　Ｉ区包含層出土遺物　(1/4)



第５図　Ⅱ区遺構配置図　(1/300)

層を認める。32は，弥生時代から室町時代にいたる遺物が出土し，これらに伴う遺構も断面において認められる。33は，基盤層をカットして平坦面を造成しているのが確認され，青磁，土師器が出土している。34は，表土下15cmで基盤層に達した。

以上の一次調査の結果により，Ｃ地点の4を除く120ｍ間の発掘調査が必要となった。

第４節　調査の概要

一次調査の結果を得て，昭和61年７月１日～同年12月13日において発掘調査を実施した。

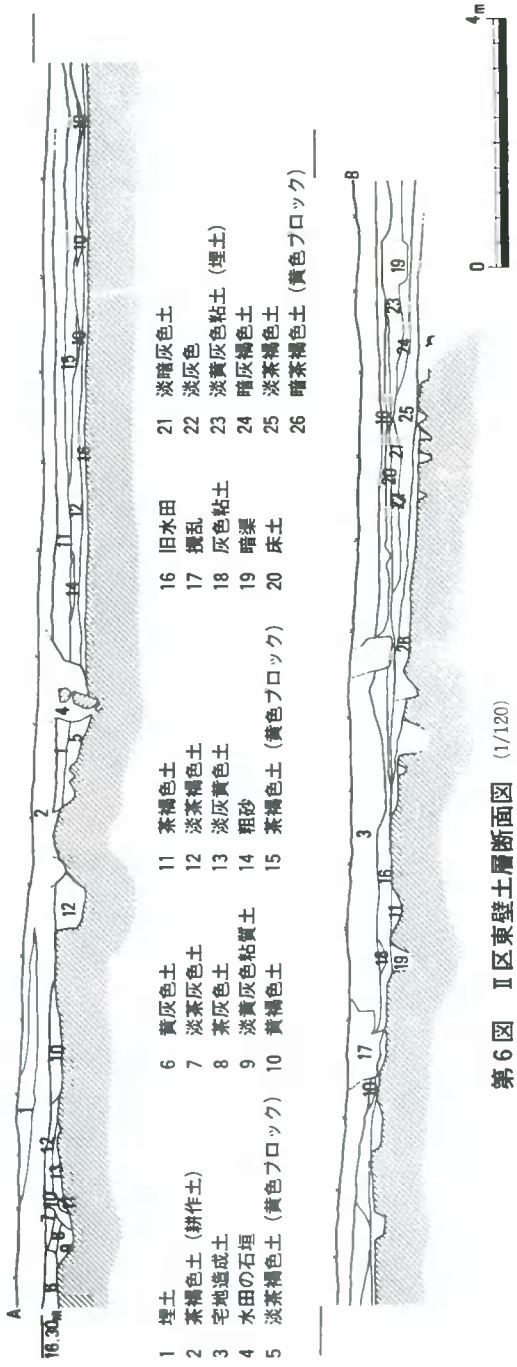
調査は，丘陵斜面を削平し平坦部を造成している関係から段々状になっており，このことから，南から平坦面ごとにⅠ区～Ⅳ区として実施した。

１．Ⅰ区の調査

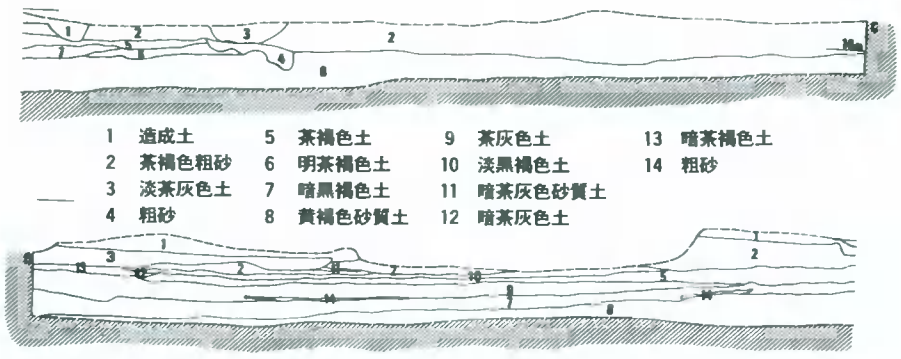
一次調査において，鎌倉時代の下がりと包含層を認めた地点である。表土下20cmほどで基盤層に達し，南に行くにしたがって下がっていく。堆積土は，南に行くにしたがい砂質土から粗砂の混入が多くなり，基盤においても砂を含むようになる。

検出された遺構は，幅15cm，深さ10cmの溝で粗砂で埋まっており，時期は，出土遺物がないため明らかでない。

出土遺物は，主に12～16層中に多く検出され，須恵器，早島式土器，擂鉢，青磁，



第６図　Ⅱ区東壁土層断面図（1/120）



第7図　Ⅱ区西壁土層断面図 (1/160)

軒平瓦などである。

2．Ⅱ区の調査

橋脚で飛ぶため，工事で影響を受ける部分について調査を実施した。

現状では宅地と畑になっている。東壁土層断面においては，4層が水田の石垣と考えられ，これより南において16層の水田層が認められる。4層から北については，家屋があったことを地元の人が話されており，その時の造成面が認められる。包含層は，21，24～26層において認められ，鎌倉～室町期の遺物が多く含まれている。基盤層は，黄褐色土で調査区南端近くで下がる。第8図がその下がりの土層断面図である。14，15層から弥生時代後期後半の遺物が出土している。これより上層は，7世紀～室町期にいたる遺物を多く出土していることから，Ⅰ区の下がりが中世で，Ⅱ区の下がりは弥生時代後期段階と考えられる。

また，西壁土層断面においては，東壁と様相を異にすることがうかがえる。遺物の含まれる層は，淡茶灰色土で中世ごろの遺物を多く含んでいる。弥生時代後期の包含層は，暗黒褐色土でこの層はⅣ区まで存在している。

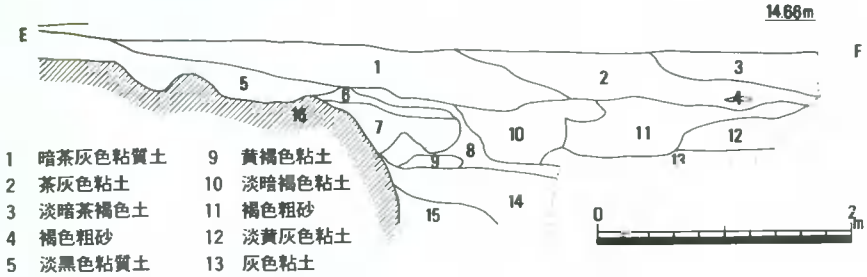
この両壁の土層堆積から，地形が北東寄りに高くなり，次第に南西へ低くなる。基盤層についても南西側にグライ化がみられる。

弥生時代の遺構・遺物

溝

溝－1（第5図）

幅25cm，深さ南東端で15cm，北西端で50cmを測る。長さ450cmほど確認されたが，両端での高低差は35cmを測る。



1　暗茶灰色粘質土　9　黄褐色粘土
2　茶灰色粘土　10　淡暗褐色粘土
3　淡暗茶褐色土　11　褐色粗砂
4　褐色粗砂　12　淡黄灰色粘土
5　淡黒色粘質土　13　灰色粘土
6　淡黄褐色土　14　淡黒灰色粘土
7　黄褐色粘質風化土　15　黒褐色粘土
8　淡黄褐色粘質土　16　黄褐色土（基盤層）

第８図　Ⅱ区下り土層断面図　(1/60)

出土遺物（第９図）は，鉢形土器と製塩土器である。12は，口径11cm，器高7.9cm，底部径3.4cmを測る鉢形土器で，内外面に指頭圧痕がみられる。胎土は細砂を含み，色調は淡灰黄褐色を示し，焼成は良好である。13～16は製塩土器で，脚部径が4.1～4.9cmを測り，外面にはタタキをした後にナデをしている。また内面と脚部には指頭圧痕を残す。胎土は細砂を含み，色調は淡橙褐色を示し，焼成は良好である。

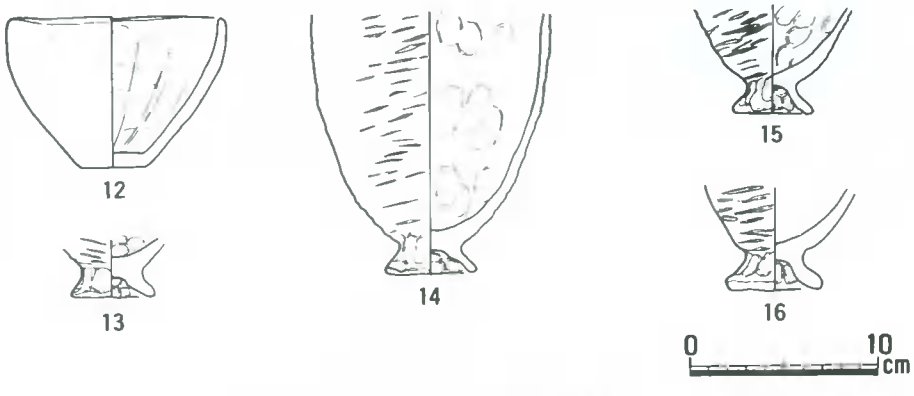
古墳時代の遺構・遺物

土壙

土壙－１（第10図）

グライ化のために東半分が確認できなかった。深さ27cmを測る。出土遺物（第10図）は須恵器が２点検出されている。

17は，口縁が焼け歪みのため楕円状を呈する。推定口径16cm，器高12.1cm，脚部径10.7cmを測る台付椀である。胎土は細砂を含み，色調は青灰色，焼成は堅緻である。18は，口径10.7cm，



第９図　溝－1出土遺物　(1/4)

器高3.9cm，底部径6.3cmを測る杯である。底部はヘラ切りをおこなう。胎土は微砂を含み，色調は青灰色，焼成は良好である。

中世以降の遺構・遺物

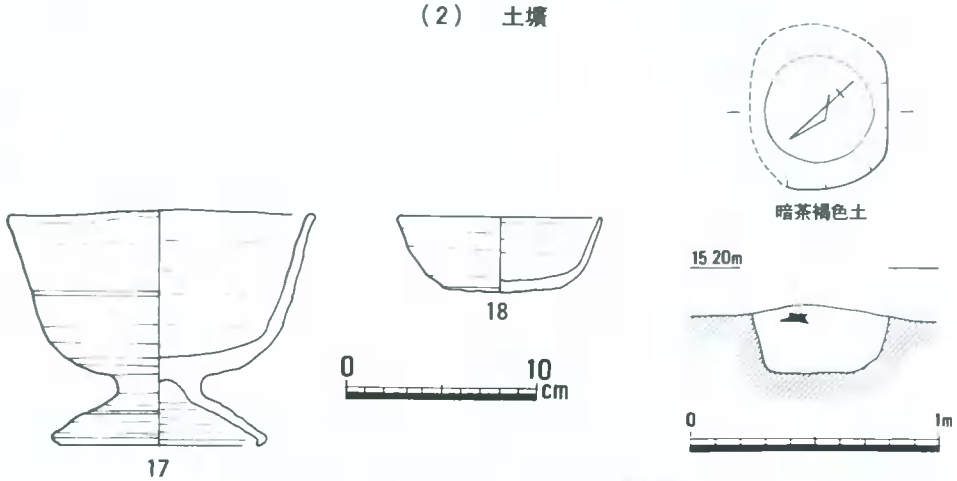
（1） 井戸

井戸－1（第11図）

調査区北東寄りに検出されたもので，後世の造成により上部は削平されていると考えられる。規模は25×23.5cm，深さ230cmの円形の形態をもつ。検出面から80cmほどの深さで段を有する。底は台形状となり，黄褐色の基盤層までで，湧水層までは掘り下げていない。

出土遺物（第13図）は，早島式土器，瀬戸焼，瓦，木器などである。**19**は，口径10.6cm，器高3.8cm，底部径3.8cmを測り，内外面ともナデによる調整がおこなわれ，底が凹む。**20**は，口径11.2cm，器高3.2～4.1cm，底部径4.2cmを測り，粗いナデ調整がおこなわれ，底部は歪んでいる。**21**は，口径9.6cm，器高3.6cm，底部径３cmを測り，内外面ともナデ調整を行い，底部は凹む。**22**は，口径10.2cm，器高3.8cm，底部径2.4cmを測り，内外面ともナデ調整を行い，底部はわずかに凹む。**23**は，口径10cm，器高3.9cm，底部径2.3cmを測り，内外面ともナデ調整を行うが，指頭圧痕が残る。いずれの土器も細砂を含み，色調は白灰色系を示し，焼成は良好である。**24**と**25**もこれらと同様の内容を示す破片である。**26**は，口径6.3cm，器高1.3cm，底部径5.1cmを測る皿形土器で，底部はヘラ切りがみられる。**27**は，口径6.5cm，器高1.4cm，底部径5.5cmを測る皿形土器で，胎土，焼成，色調は椀形土器と同じ内容を示す。**30**は，瀬戸焼のおろし皿である。**1**～**3**は木製品である。**2**の先は欠失ではなく切られており，端には２個の孔があけられている。**3**は杓子状のものであり，把手側が欠失している。

（2） 土壙



第10図　土壙－1（1/30）・出土遺物（1/4）

土壙－２（第５・13図）

調査区の南寄りに検出されたもので，長さ210cm以上，幅166cm，深さ12cmを測る。出土遺物（第14図）は，上師器の皿形土器，蓋，染付などである。

土壙－３（第15図）

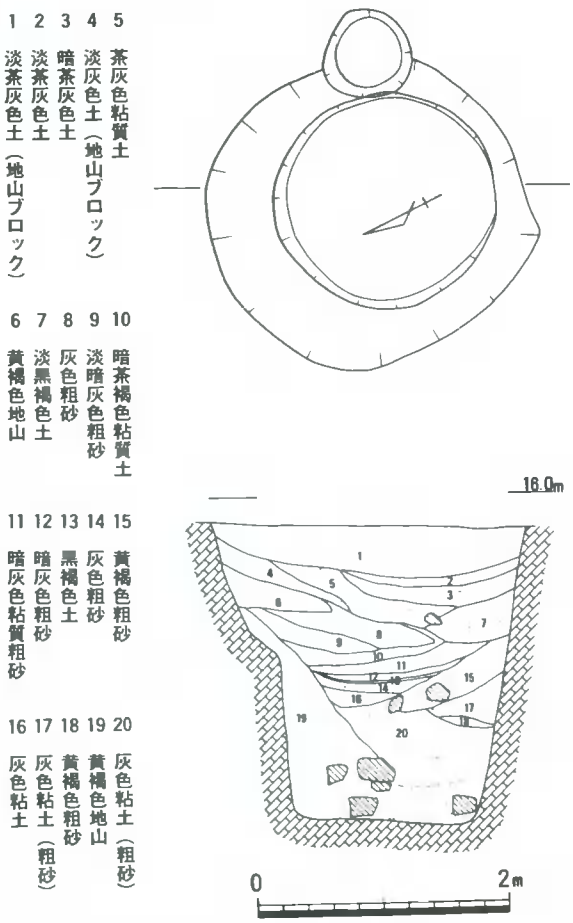
調査区西寄りの淡灰色土層より40～50cmの範囲にわたって検出されたもので，土壙のプランは確認できなかった。

出土遺物（第15図）は，早島式の椀である。**35**は，口径9.9cm，器高4.9cmを測り，底部には高台ではないが粘土を付して凹み状をつくっている。内外面ともナデ調整を行う。**36**は，口径10.3cm，器高3.3cm，底部径4.7cmを測り，内外面ともナデ調整を行い，底部は凹まない。**37**は，口径9.5cm，器高3.8cm，底部径3.7cmを測り，内外面ともナデ調整を行い，底部は凹みとなる。**38**は，口径10cm，器高3.1cm，底部径4.8cmを測り，内外面ともナデ調整を行い，底部はわずかに凹む。**39**は，口径9.8cm，器高3.1cm，底部径3.9cmを測り，内外面ともナデ調整を行い，底部は凹みとなる。**42**は，口径10.4cm，器高3.2cm，底部径4.8cmを測り，内外面ともナデ調整である。**44**は，口径9.9cm，器高3.4cm，底部径4.1cmを測り，内外面ともナデ調整を行う。

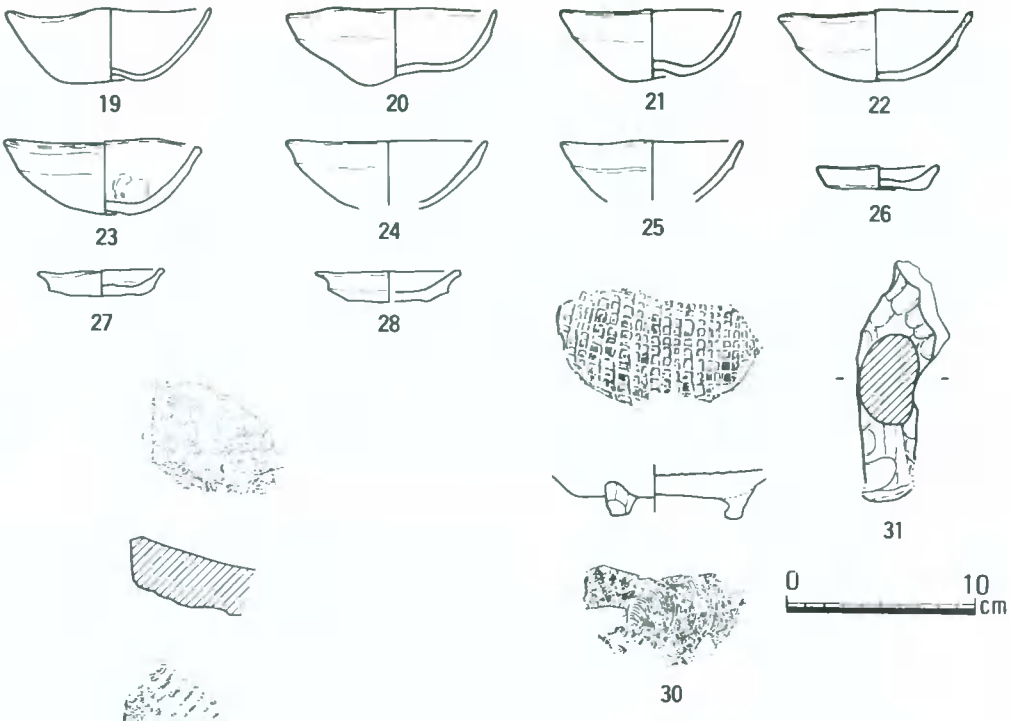
土壙－４（第16図）

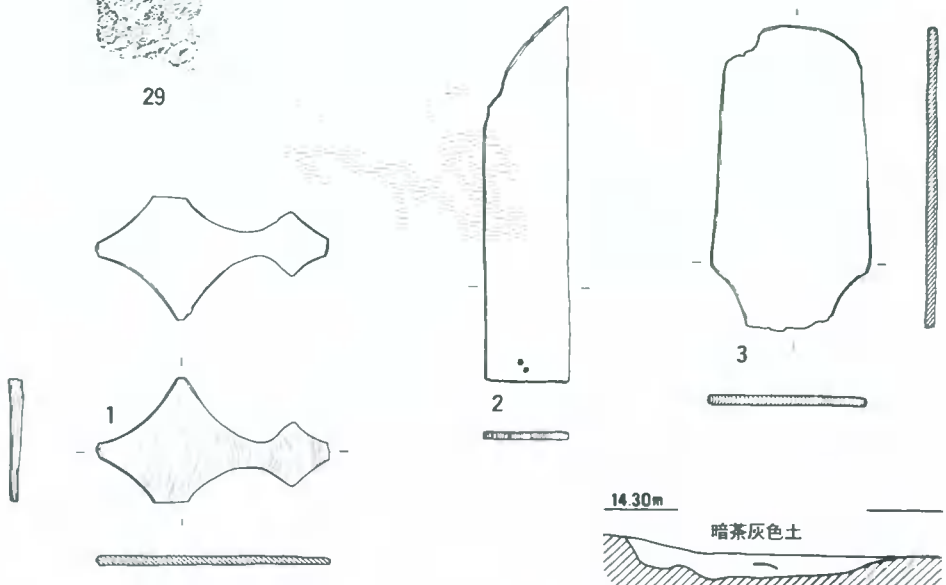
調査区の南寄りに検出した土壙で，径70cm，深さ30cmを測る円形のものである。

出土遺物（第16図）は，早島式土器と，鉢形土器である。**45**は，口径10.9cm，器高4.1cm，底部径4.6cmを測り，高台を付す。**46**は，口径10.4cm，器高３cm，底部径５cmを測り，低い高台を付す。**47**は，口径8.9cm，器高２cm，底部径3.3cmを測り，

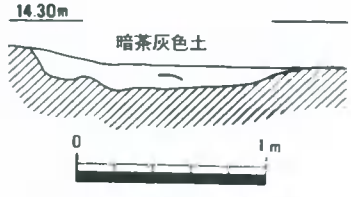


第11図　井戸－１　1/60



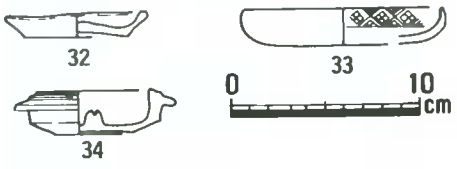


第12図　井戸－1出土遺物 (1/4)



第13図　土壙－2 (1/40)

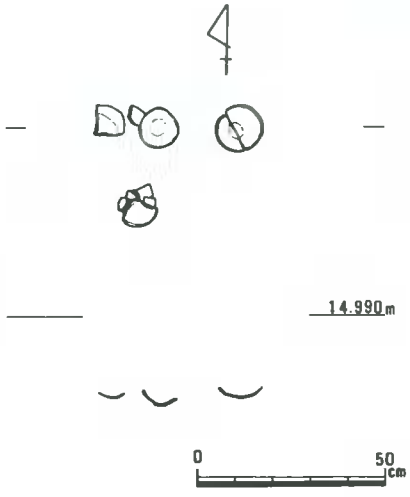
底部は凹む。**50**は，口径７cm，器高1.1cm，底部径5.6cmを測り，底部はヘラ切りとなる。**45**，**46**，**48**，**49**は椀で，**47**，**50**は皿である。いずれの土器も，胎土は細砂を含み，色調は白灰褐色から淡黄橙褐色を示し，焼成は良好である。**52**は，口径22.6cmを測る鉢形土器である。把手の取付け痕を残し，内外面に指頭圧痕を残す。



第14図　土壙－2出土遺物（1/4）

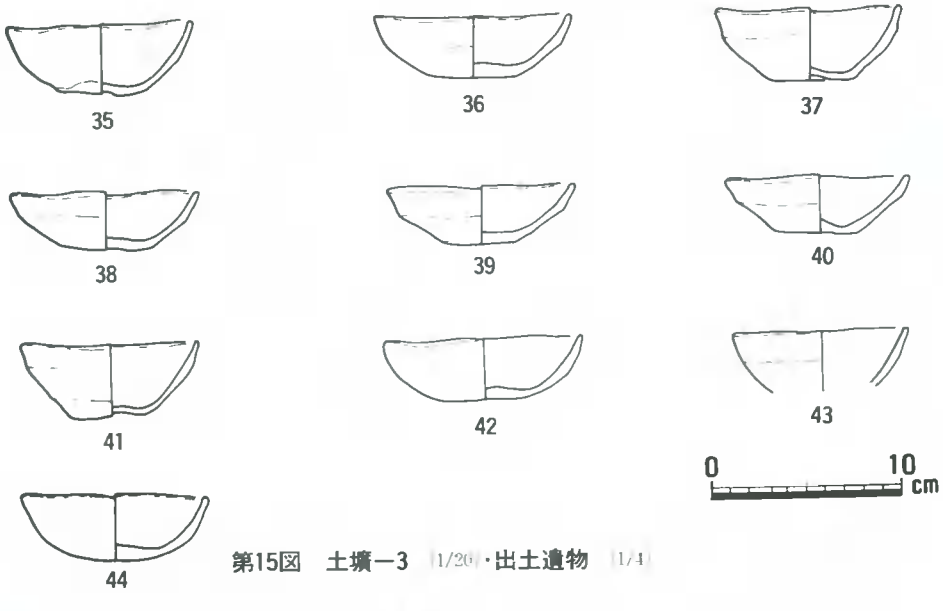
土壙－５（第17図）

調査区の南寄りに検出された土壙である。規模は，57×56cm，深さ17cmを測り，ほぼ円形の形態を呈する。埋土は一層のみで，焼土，炭化物を多く含んでいる。



土壙－６（第18図）

調査区の南寄りに検出された土壙である。規模は96×89cm，深さ42cmを測り，円形のプランを呈する。埋土は３層認められ，出土遺物は認められなかった。

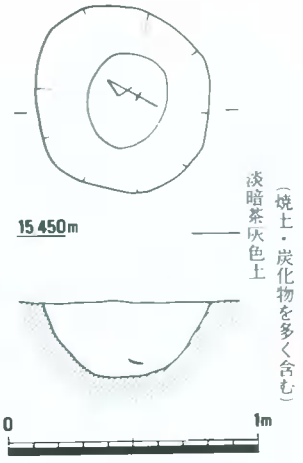


第15図　土壙－３（1/20）**・出土遺物**（1/4）

土壙－7（第19図）

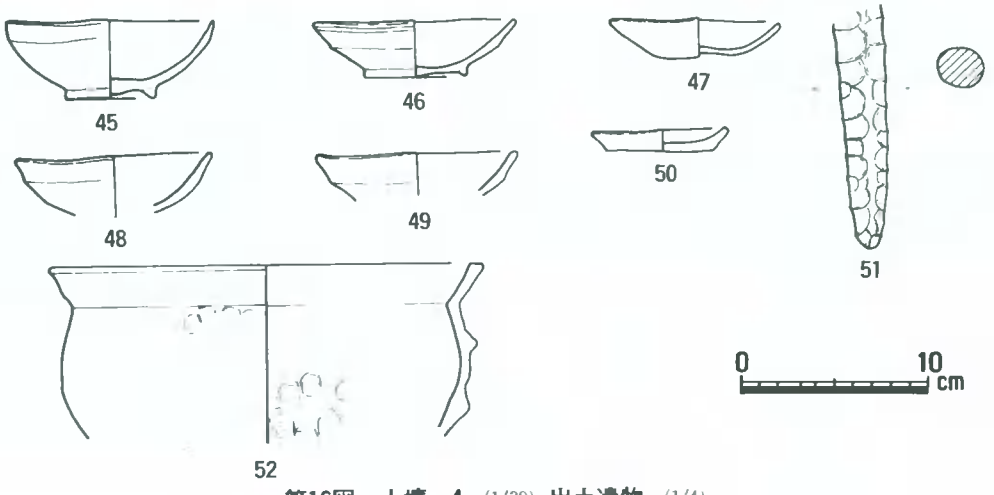
調査区の南寄りに検出された土壙である。規模は，92×82cm，深さ45cmを測り，円形のプランを呈する。埋土は1層のみで，焼土，炭化物を多く含む。

出土遺物（第19図）は，早島式の椀形土器と皿形土器である。**53**は，口径11.2cm，器高3.2cm，高台径4.1cmを測る椀形土器であり，内外面ともナデ調整で，底部はヘラ切りをおこなう。**55**は，皿形土器であるが，両者とも微砂を含み，色調は淡灰黄色で，焼成は良好である。



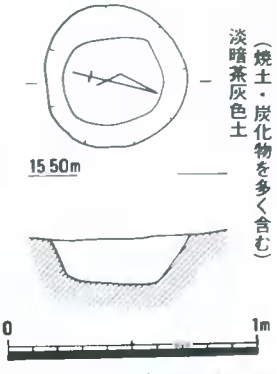
土壙－8（第20図）

調査区の南寄りに検出された長方形の土壙である。規模は，150×90cm，深さ33cmを測る。



第16図　土壙－4（1/30）**・出土遺物**（1/4）

出土遺物（第20図）は，備前焼の擂鉢である。小片のため口径は不明で，口縁外面に2本の沈線を加えている。内面は，密度のつまったオロシメを付している。

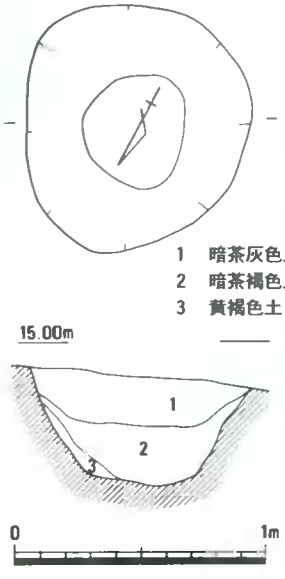


第17図　土壙－5（1/30）

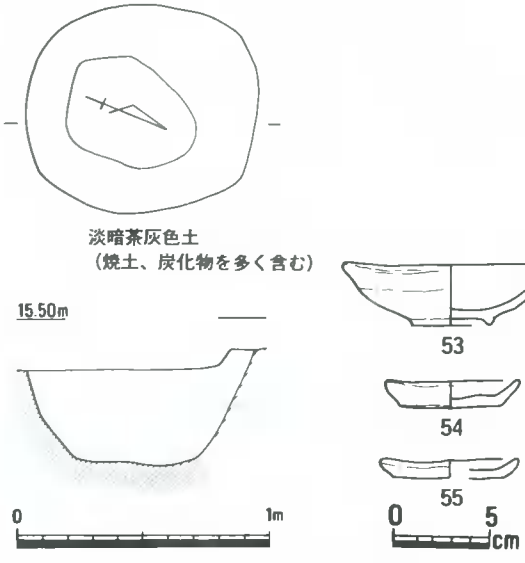
（3）　溝

溝－2（第5・21図）

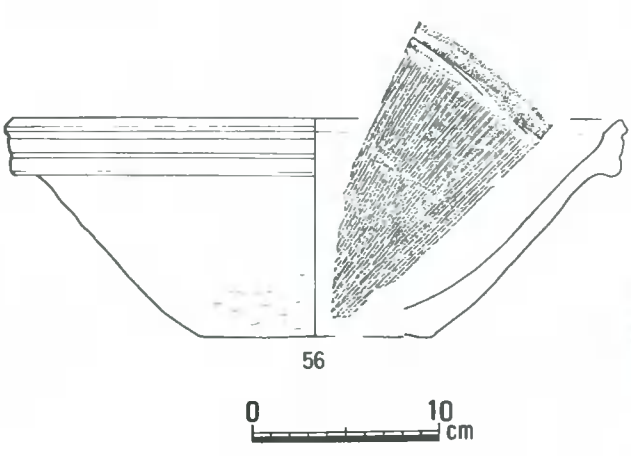
調査区のほぼ中央南寄りに検出されたものである。幅65cm，深さ10cmの浅いもので，北側については，立ち上

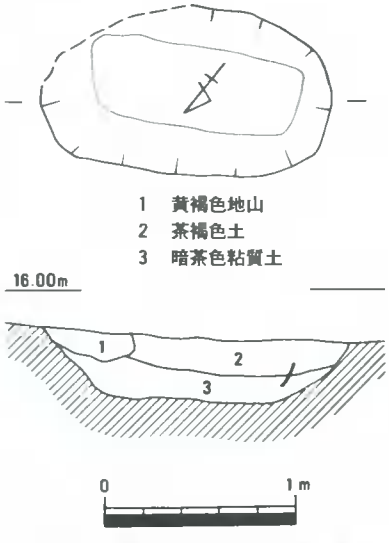


第18図　土壙－6 (1/30)

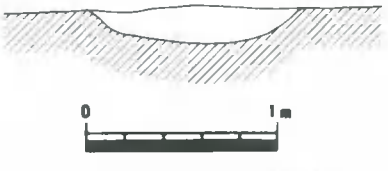


第19図　土壙－7 (1/30)・出土遺物 (1/4)





第20図　土壙－8 (1/40)・出土遺物 (1/4)



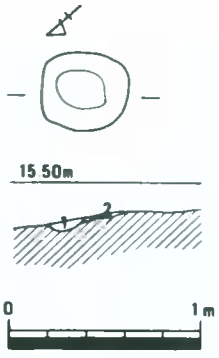
第21図　溝－2 (1/40)

がって消えてしまう。

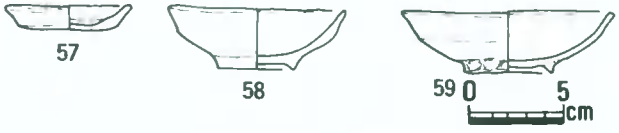
（４）　鍛冶炉

鍛冶炉（第22図）

調査区のほぼ中央南寄りに検出されたものであ



第22図　鍛冶炉 (1/40)



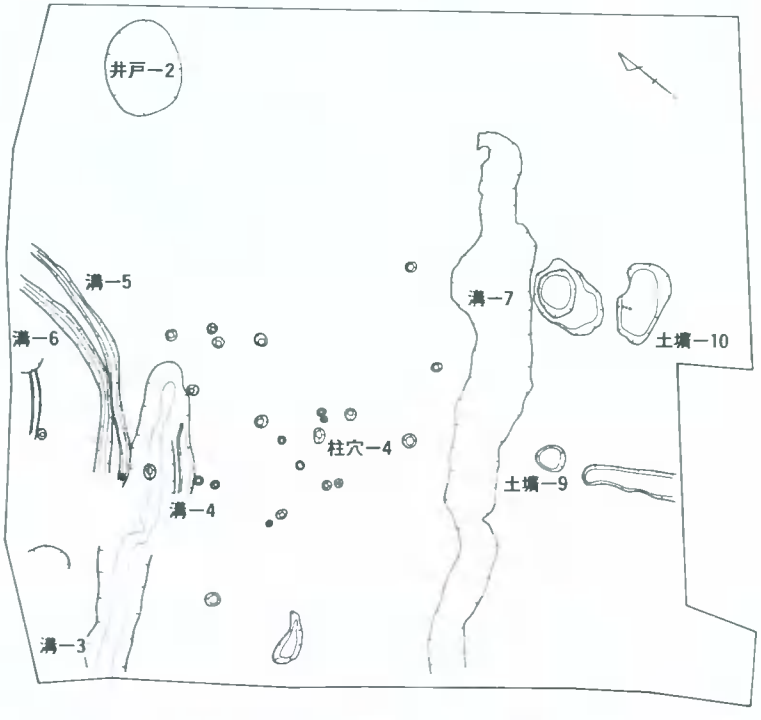
第23図　柱穴－1～3出土遺物 (1/4)

る。規模は，45×42cmの円形を示し，中央部分がとくに堅く焼け，周囲はドーナツ状に黒色土の焼け土となる。

(5)　柱　穴

柱穴（第5図）

調査区の南寄りに多く検出されているが，時期の解る遺物を伴う柱穴は1～3で他は不明である。出土遺物（第23図）の57は柱穴－1，58は柱穴－2，59は柱穴－3からの出土でいずれ

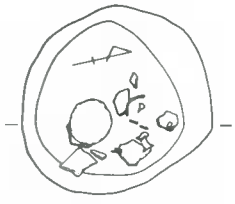


第24図　Ⅲ区遺構配置図 (1/200)

も早島式の土器である。

３．Ⅲ区の調査

Ⅱ区とのレベル差は，調査前において230cmほどである。家屋の敷地内であったため，その基礎部分はかなりいたんでいた。調査区北東端は丘陵斜面の基盤層を切り，その土砂で南西側に埋土をして宅地を造成したようである。したがって，北東寄りは遺構の残りはほとんどみられず，わずかに江戸時代の井戸が検出されたのみである。遺構の遺存は南西にかけて多く認められるが，市道下の水道管の付設に伴う工事によりかなり影響を受けている。

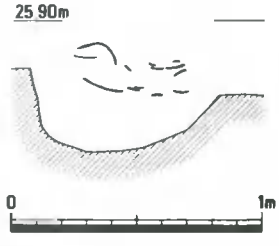


弥生・古墳時代の遺構・遺物

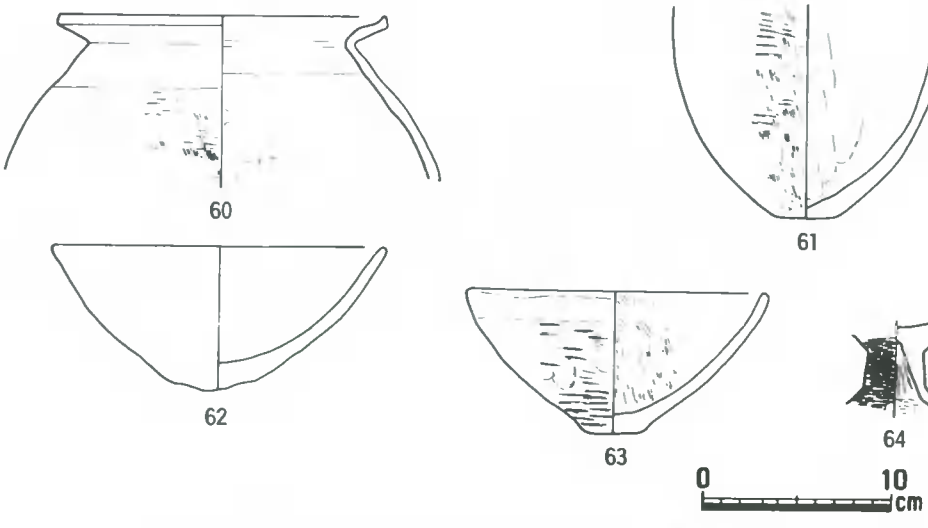
（１）　土　壙

土壙－９（第25図）

調査区の南寄りに検出されたもので，規模は，74cm，深さ28cmを測る円形のプランを示すものである。遺物は，プラン確認面から上で検出されており，土壙下層からは出土していない。

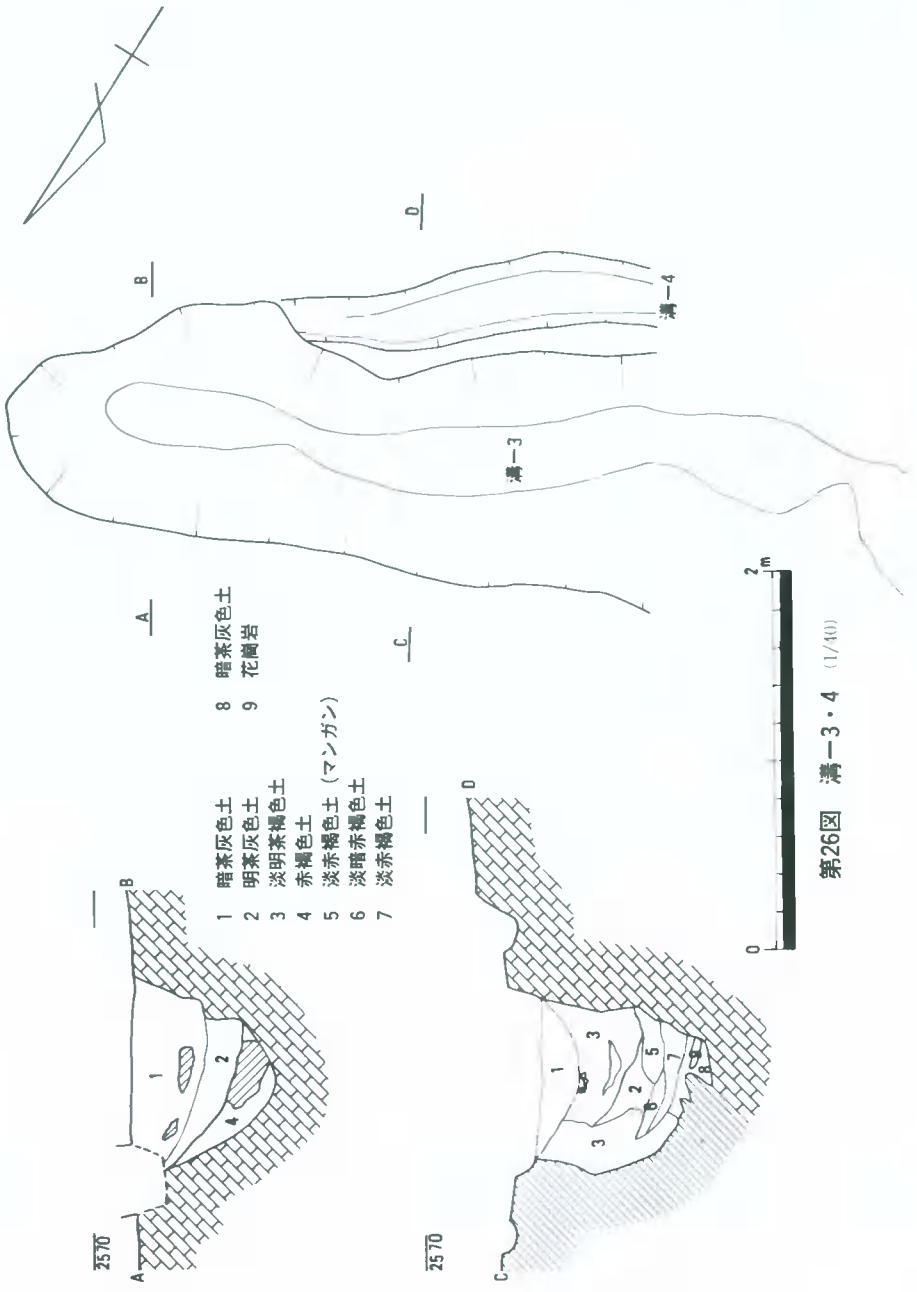


出土遺物（第25図）は，甕形土器，鉢形土器，高杯形土器である。**60**は，口径17.1cmを測る甕形土器で，頸部からくの字に外反し，口縁端部はナデによる凹部を有する。胴部外面は，タタキの後ハケ調整をおこない，内面は，指頭圧痕を認める。**61**

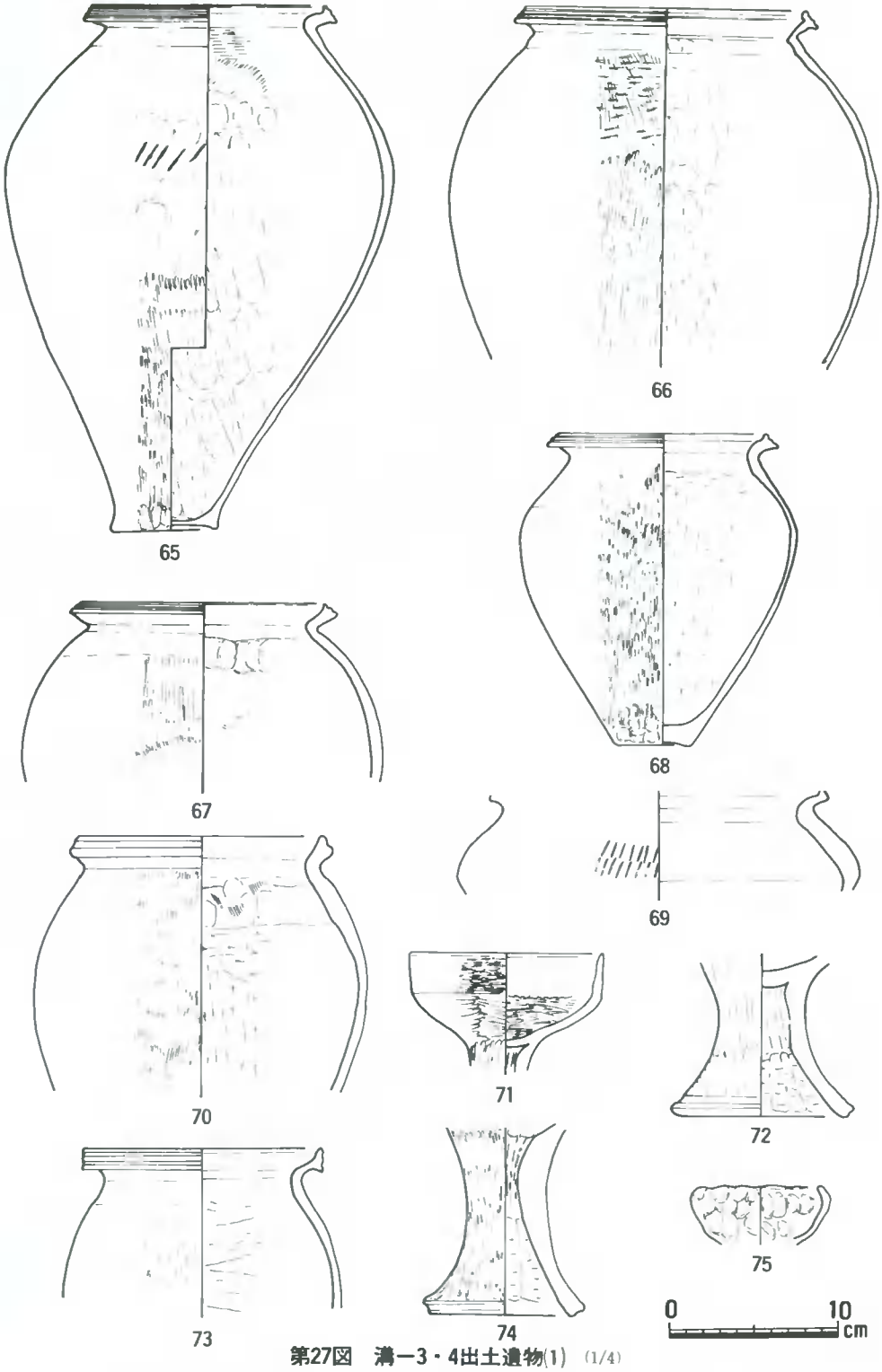


第25図　土壙－９　1/30・出土遺物　1/4

は，胴下半から底部にかけての破片で，底部は不安定な平底風となる。胴部外面は，タタキのあと縦方向のハケ調整をおこない，内面は，ナデ上げをおこなう。62は，口径17.4cm，器高4.1cm，深さ7.6cmを測る鉢形土器で，内外面ともナデ調整をおこなう。胎土は微砂を含み，色



第26図　溝－3・4　(1/40)



第27図　溝－3・4出土遺物(1)　(1/4)

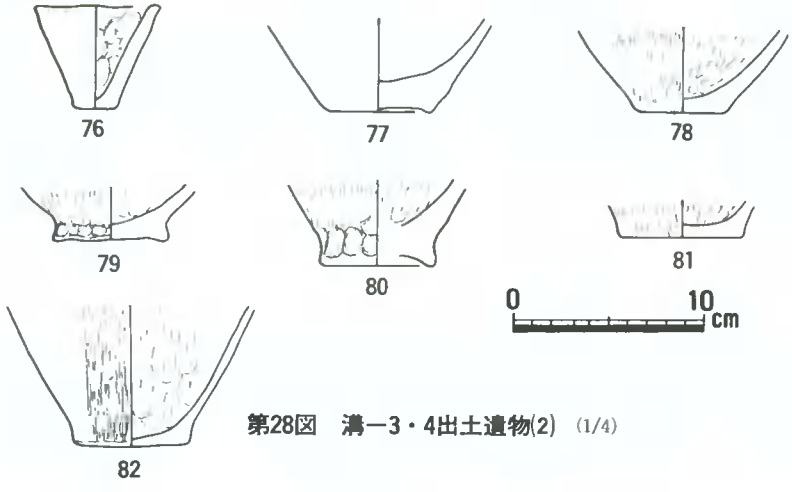
調は淡橙褐色を示し，焼成は良好である。**63**は，口径15.4cm，器高7.6cm，底部径2.7cmを測る鉢形土器で，外面はタタキのあと指頭圧痕，さらにナデをおこなう。内面は，ハケのあとナデをおこなう。胎土は細砂を含み，色調は淡黄褐色，焼成は良好である。**64**は，脚部破片で，杯部内面と脚外面には細いヘラミガキをおこなう。胎土は微砂を含み，色調は暗橙褐色を示し，焼成は良好である。

（2）　溝

溝－3（第26図）

調査区の北西寄りに検出されたものである。上方で幅105cm，下方で138cmを測り，下方に行くにしたがい広がる傾向を示す。両壁は，上方部分と上層断面C－Dの北東壁については花崗岩を認めるが，北西側については，風化土となり断面観察においてかろうじて判断される。底部は，平坦とならず凹凸が著しく，このことから人工的な溝ではなく自然流路と考えられる。

出土遺物（第27・28図）は，プラン検出段階でその周辺と溝中から出土しているが，量的には，検出時の方が多い。**65**は，口径13.8cm，器高30.6cm，底部径6cmを測る甕形土器である。拡張した口縁部には3本の凹線を，肩部上半に櫛状工具による連続刺突文を施文する。外面調整は，胴部下半から底部にかけて細いヘラミガキ，底部周辺には指頭圧痕を残す。内面調整は，頸部下半はハケを，さらにその下方に指頭圧痕がみられる。肩部上半から底部にかけてナナメ方向のヘラケズリをおこない，底部は上げ底状となり器壁は非常に薄くなっている。胎土は細砂を含み，色調は暗灰褐色を示し，焼成は良好である。**66**は，口径16.2cmを測る甕形土器で，拡張した口縁端面に3本の凹線を施す。外面調整は，肩部から胴部上半にかけてヨコのタタキを，そのあとタテのハケをおこない，胴部上半からはヘラミガキをおこなう。内面調整は，胴部中程までは指頭圧痕がみられ，以下はタテのヘラケズリをおこなう。胎土は微砂を含み，色調は淡灰褐色を示し，焼成は良好である。**67**は，口径14.1cmを測る甕形土器で，拡張気味の口縁端面に2本の凹線を施す。外面調整はハケ調整をおこない，内面調整は頸部下に指頭圧痕がみられ，以下はハケメのあとナデがみられる。胎土は細砂を含み，色調は橙褐色，焼成は良好である。**68**は，口径11.9cm，器高13.2cm，底部径4.1cmを測る甕形土器で，拡張した口縁端面に2本の凹線を施す。外面調整は，頸部から肩部にかけてナデ，以下はヘラミガキをおこない，底部には指頭圧痕がみられる。内面調整は，頸部下半からヘラケズリをおこなう。底部は若干上げ底気味となる。胎土は細砂を含み，色調は暗黄褐色，焼成は良好である。**70**は，口径14.3cmを測る甕形土器で，口縁端面に幅広の凹線を施す。外面調整は，タテのハケメがみられ，内面調整は，肩部に指頭圧痕がみられる。胴部上半にはヨコのヘラケズリと胴部下半にかけてはタテのヘラケズリをおこなう。胎土は細砂を含み，色調は暗橙褐色，焼成は良好である。**73**は，口径13.9cmを測る甕形土器で，拡張した口縁端面に2本の凹線を施す。外面調整は，肩部



第28図　溝－3・4出土遺物(2) (1/4)

にヨコのナデ，以下はタテのハケがみられる。内面調整は，ヨコのヘラケズリがみられる。胎土は微砂を含み，色調は暗橙褐色，焼成は良好である。**71**は，口径11.3cmの高杯形土器の杯部破片である。外面調整はヘラミガキをおこなうが，杯部は五角形状にヘラミガキをする。内面調整は，口縁部には押圧痕を残し，杯部はヘラミガキをおこなう。底は円盤充填である。胎土は微砂を含み，色調は橙褐色，焼成は良好である。**75**は，口径6.7cmの手捏土器である。内外面とも指頭圧痕が著しく，口縁，器面とも影響を受ける。胎土は微砂を含み，色調は淡黄褐色，焼成は良好である。**76**は，口径6.5cm，器高5.6cm，底部径２cmを測る小形鉢形土器で，内面に指頭圧痕がみられる。胎土は微砂を含み，色調は淡灰黄褐色，焼成は良好である。

溝－４（第26図）

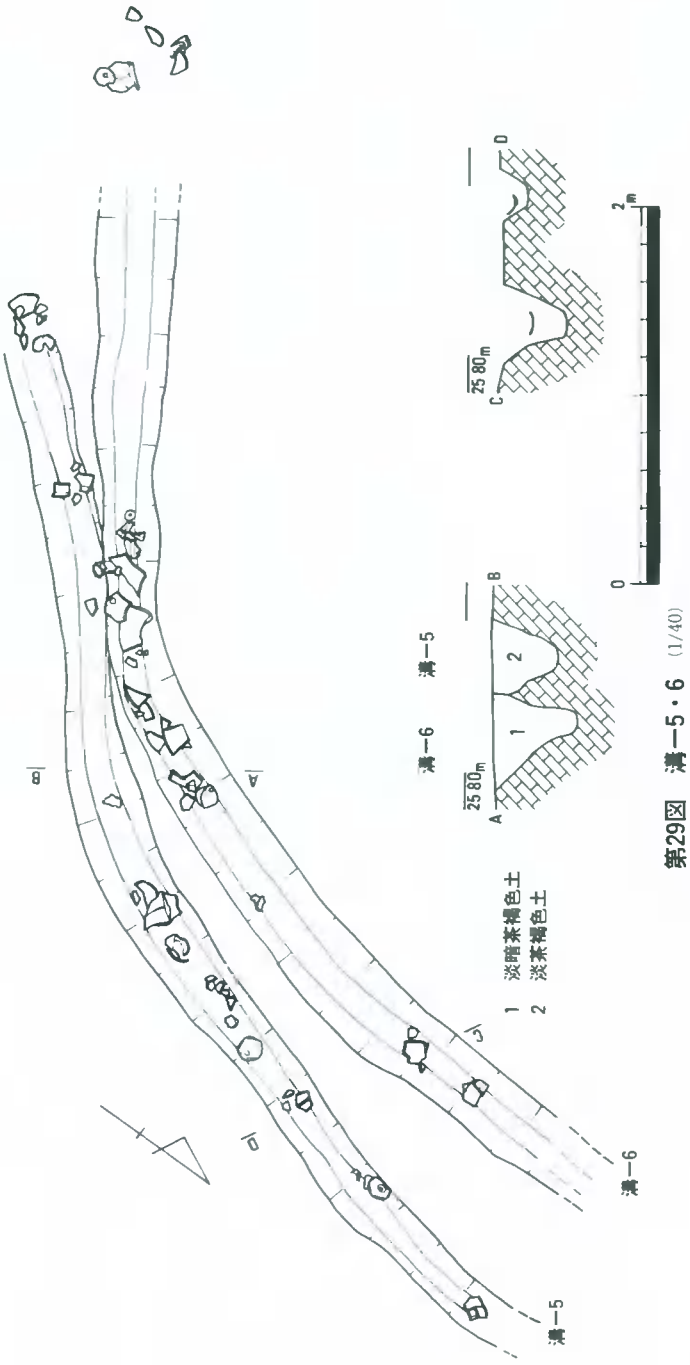
溝－３の南西に沿って検出されたもので，幅40cm，深さ23cmを測る。溝の北東は溝－３により切られ，南西端はプランが検出されなかった。溝内からの遺物の出土はみられなかった。

溝－５（第29図）

調査区の西端に弓状に検出されたもので，規模は，幅36cm，深さ36cmを測るものである。溝－６と一部で接し，断面観察から溝－５が溝－６によって切られていることが確認された。

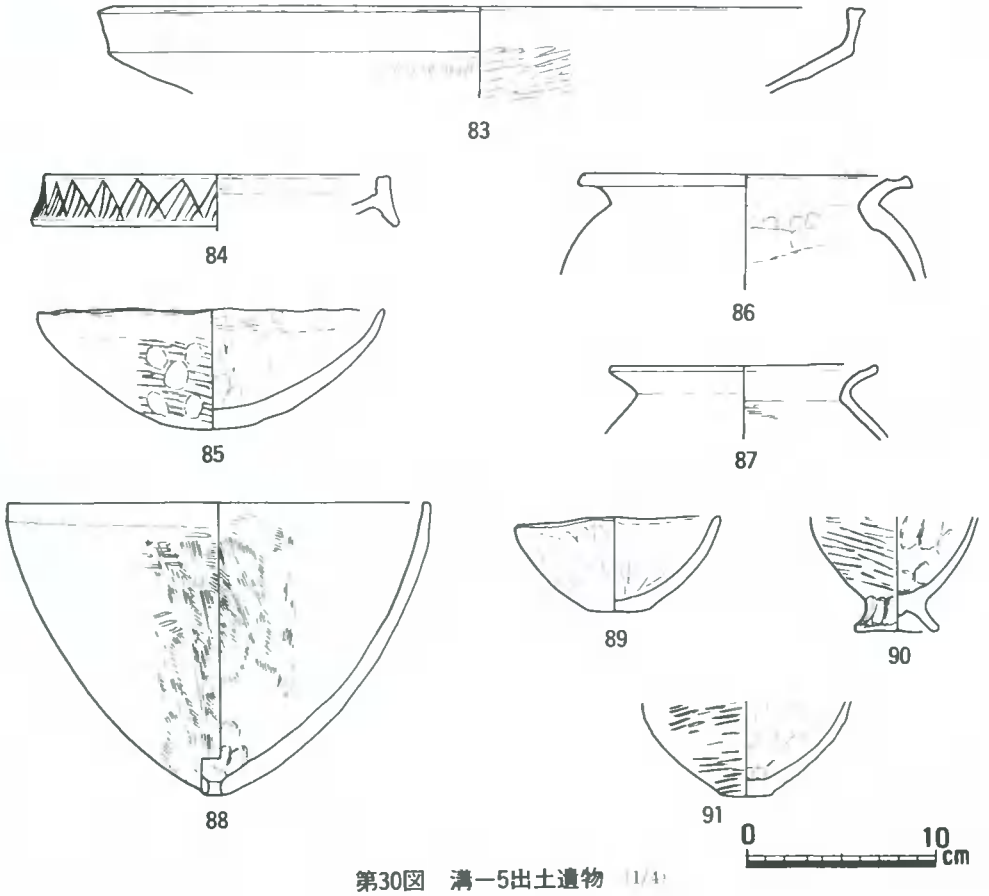
出土遺物（第30・31図）は，溝中より多く出土している。**83**は，口径38.8cmを測る高杯形土器の杯部の破片である。口縁は立ち上がり，端部は水平方向に拡張気味となる。調整は内外面ともヘラミガキをする。胎土は細砂を含み，色調は白灰褐色，焼成は良好である。**84**は，口径17.8cmを測る器台形土器の破片である。上下に拡張した口縁端面に鋸歯文を描き，中に斜線を充填する。胎土は微砂を含み，色調は黄橙褐色，焼成は良好である。**86**，**87**は，甕形土器の破片で，口縁内面はナデによる凹部を形成する。**85**は，口径18.4cm，器高6.4cmを測る鉢形土器

で，底部は丸底風となる。外面調整は，口縁端はヨコナデをおこない，以下はタタキのあと指頭圧痕が残るナデとなる。内面調整は，指頭圧痕－ヘラミガキ－ナデの順でおこなわれている。

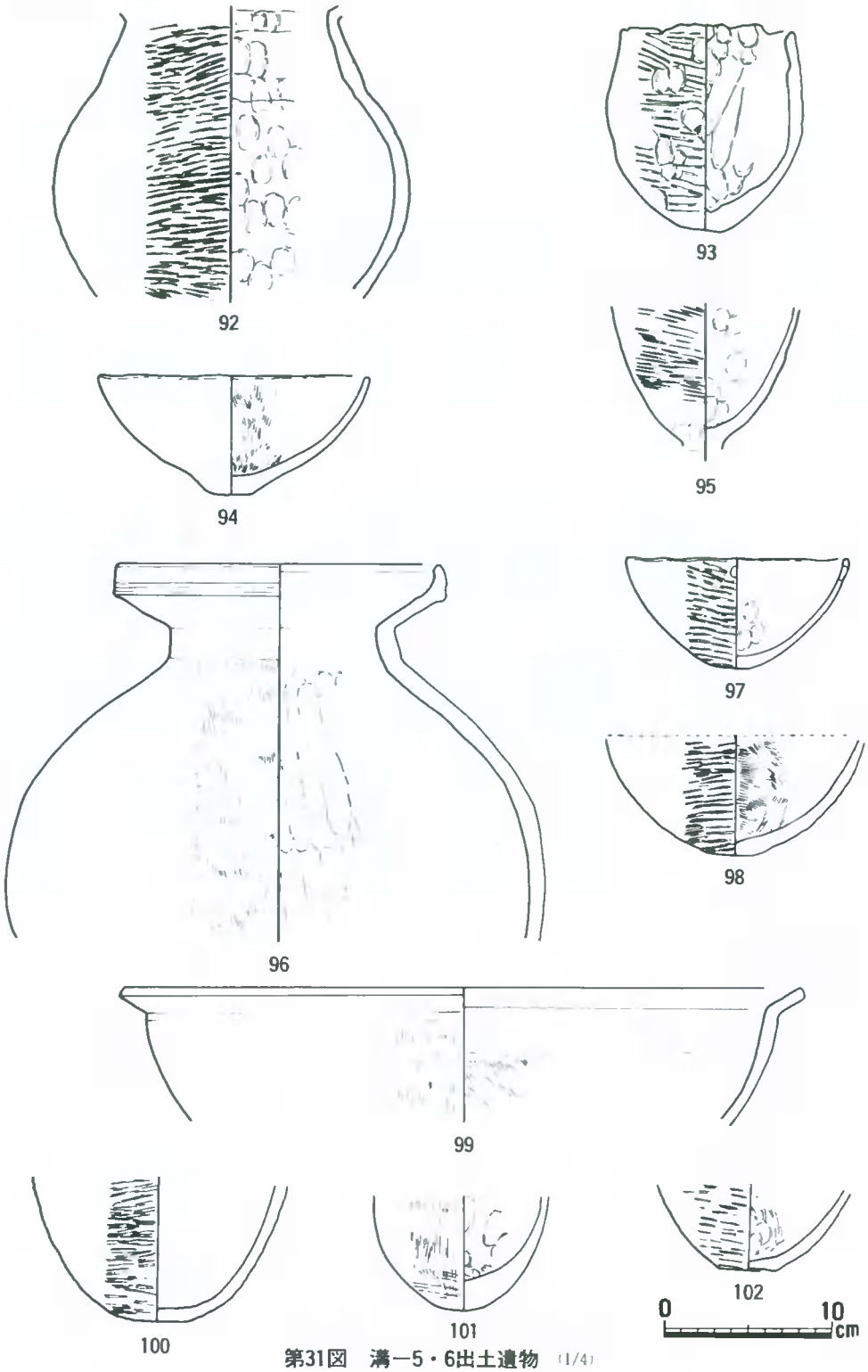


第29図　溝－5・6 (1/40)

胎土は微砂を含み，色調は橙褐色，焼成は良好である。**89**は，口径10.7cm，器高５cm，底部径3.1cmを測る鉢形土器で，外面にヘラミガキをおこなう。胎土，色調，焼成とも**88**と同内容を示す。**94**は，口径15.9cm，器高7.1cm，底部径2.1cmを測る鉢形土器で，外面はナデ，内面はハケのあとナデをおこなう。胎土，色調，焼成とも**88**と同内容を示す。**88**は，口径24cm，器高15.4cmを測る甕である。外面調整は，口縁下にはヨコナデをし，以下はヨコからナナメのタタキをおこない，その上から細いハケによりタタキメを消している。内面調整は，細いハケをおこない，底部は指頭圧痕を残す。**90**と**95**は，製塩土器である。いずれも外面にタタキを有し，内面は指頭圧痕を残す。**92**は壺形土器の頸部から胴部にかけての破片である。外面はタタキのあとナデをおこない，内面は全面に指頭圧痕を残し，胴部にはその上からナデをおこなう。胎土は細砂を含み，色調は淡橙褐色，焼成は良好である。**93**は，口径10.3cm，器高12.1cm，底部径３cmを測る鉢形土器で，口縁と器面の凹凸が著しい。外面調整は，タタキのあと指頭圧痕と



第30図　溝−5出土遺物 (1/4)



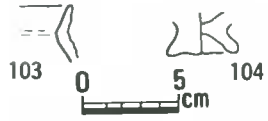
第31図　溝−5・6出土遺物 (1/4)

ナデがみられ，内面調整は，指頭圧痕とナデ上げをおこなう。

溝－６（第29図）

溝－５に接し北西側に検出されたものである。規模は，幅43cm，深さ45cmを測る。

出土遺物（第31図）は，溝中から多く検出されている。**96**は，口径18.6cmの壺形土器で，上方に拡張した口縁端面に凹部がある。頸部は短くハの字に開く。外面調整は胴下半にヨコのタタキのあとハケ調整をおこない，内面調整はタテのナデ上げをおこなう。**97**は，口径12.9cm，器高6.5cmを測る丸底の鉢形土器で，外面調整はタタキのあとナデをおこなう。内面調整は指頭圧痕とナデが認められ，口縁近くに円孔が１つある。胎土は微砂を含み，色調は黄橙褐色，焼成は良好である。**98**は，丸底の鉢形土器で，外面調整はタタキのあとナデをおこなう。内面調整はハケのあと指頭圧痕とナデをおこなう。胎土，色調，焼成とも**97**と同様である。**99**は，口径39.9cmの鉢形土器で，内外面ともハケ調整をおこなう。胎土は細砂を含み，色調は橙黄褐色，焼成は良好である。**100**，**101**は，丸底のタタキを有する胴部破片である。**102**は平底となる。　なお，溝３～６の４本の前後関係においては，３が４を切り，３は５に切られ，さらに５は６に切られていることが土層観察やプラン検出状況から確認された。このことから古い順に４－３－５－６となるが，４については３が自然流路であることから一時期に形成されていないことが調査で明らかとなった。したがって，４が３より古いとは判断しかねる部分もある。このことはまとめて触れたいと思う。



第32図　柱穴－4出土遺物（1/4）

（３）　柱　穴

柱穴－４（第24図）

調査区のほぼ中央に検出されたもので，大きさは44×29cm，深さ44cmを測る楕円状のプランを有する。

出土遺物（第32図）は，甕形土器と製塩土器である。**103**は，タタキを有するものである。

中世以降の遺構・遺物

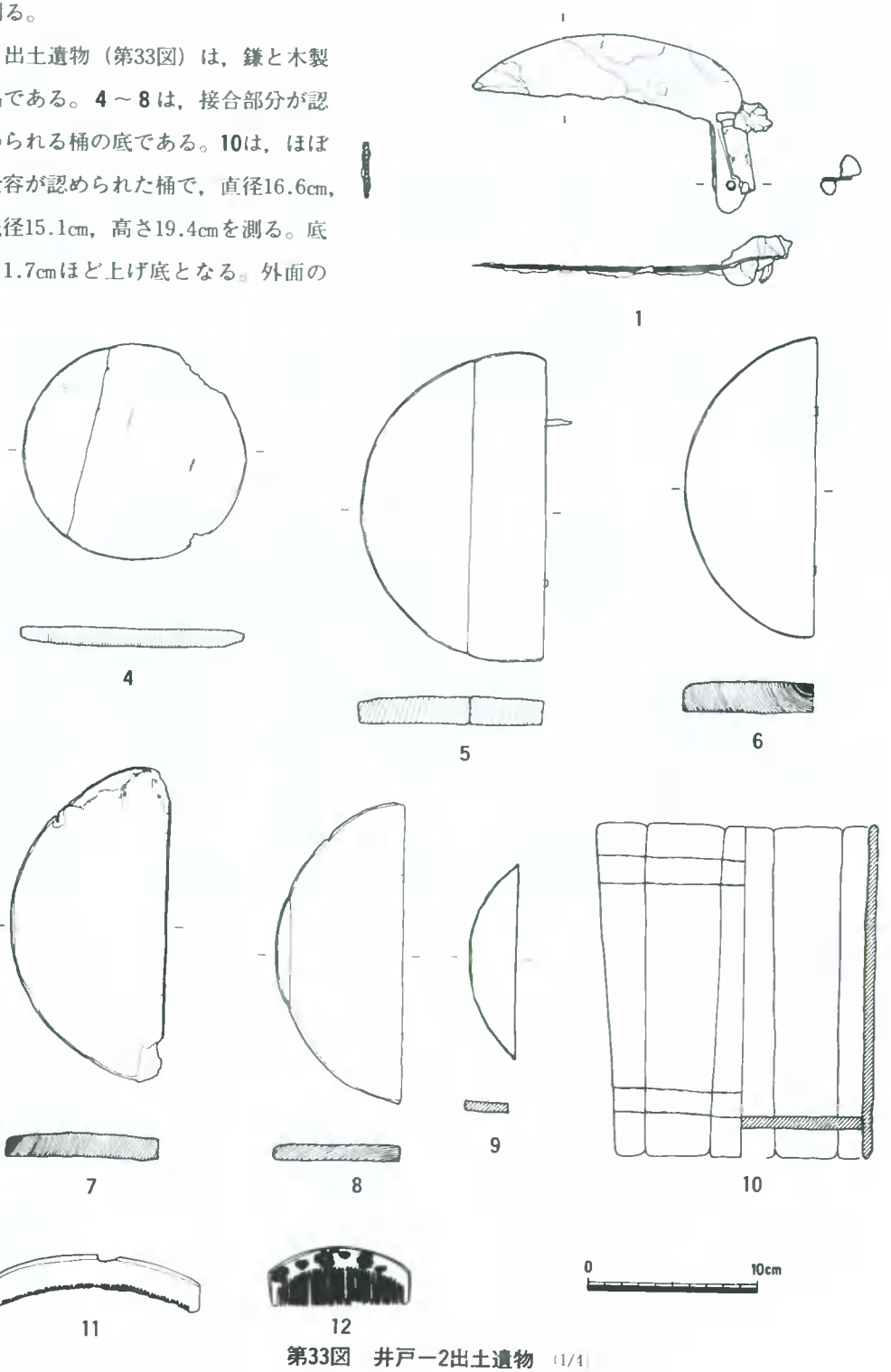
（１）　井　戸

井戸－２（第24図）

調査区の北隅に検出され，検出時においては素掘りの井戸と考えられたが，３ｍほど掘り下げた所で角礫を検出する。角礫は上から落ち込んだ状態を示し，それ以下については不安定ではあるが石積みが残されていた。しかしながら，石の崩落があったため検出面での規模と深さを確認して図化することは出来なかった。規模は，250×200cmの円形で，深さは440cmほどを

測る。

出土遺物（第33図）は，鎌と木製品である。**4**～**8**は，接合部分が認められる桶の底である。**10**は，ほぼ全容が認められた桶で，直径16.6cm，底径15.1cm，高さ19.4cmを測る。底は1.7cmほど上げ底となる。外面の



第33図　井戸一2出土遺物 (1/4)

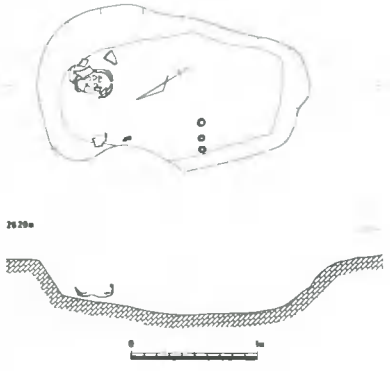
上下にたがの痕跡を認める。12は，櫛の完形品であり，長さ８cm，幅3.4cm，厚さ1.3cmを測る。漆地の上に赤く花文様を描く。１は，長さ14.2cm，幅３cmを測り，木柄が装着状態で遺存していた。

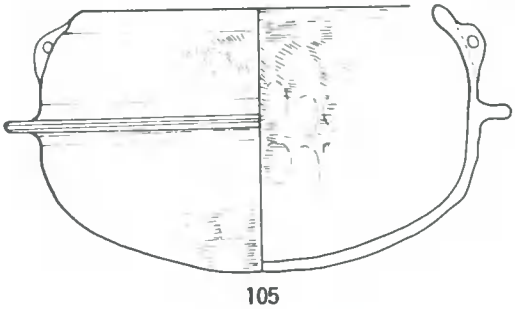
（２）　土　壙

土壙－10（第34図）

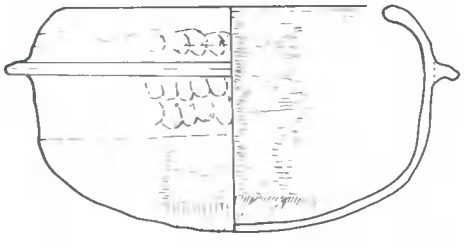
調査区の北西端寄りに検出され，規模は，215×125cm，深さ45cmのものである。

出土遺物（第34図）は，羽釜，擂鉢などである。**105**は，口径18.8cm，器高13.7cmを測り，胴部中位に幅1.6cm，厚さ８mmの鍔がある。また，口縁直下に一対の釣手が付される。胎土は微砂を含み，色調は黒灰褐色，

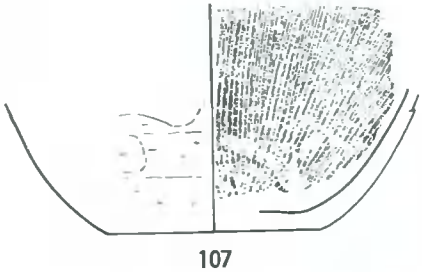




105



106



107

108

109

0　10 cm

第34図　土壙－10（1/60）**・出土遺物**（1/4）

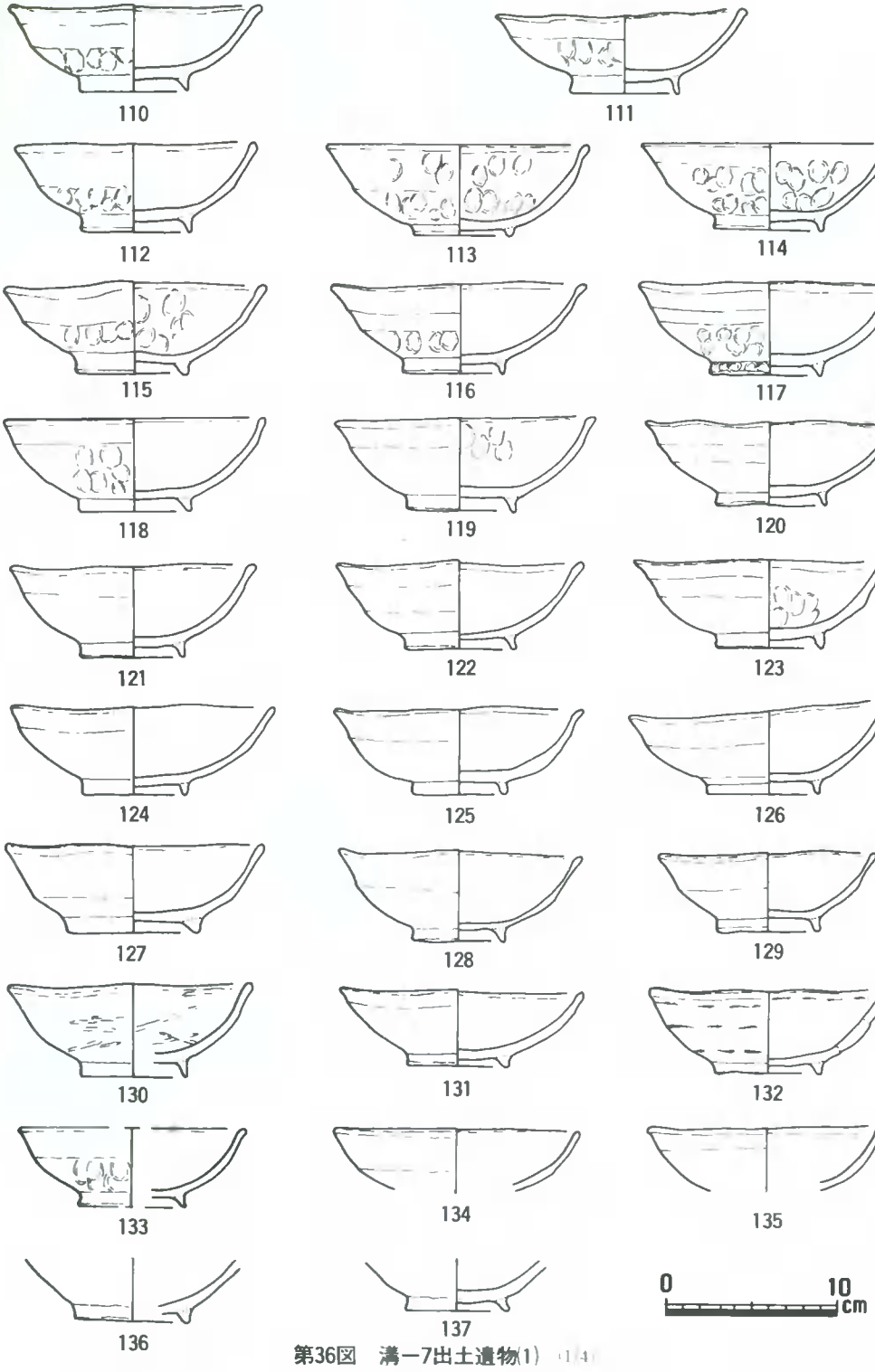
焼成は良好である。106は，口径17.2cm，器高11.8cmを測り，胴部上半に幅1.2cm，厚さ6㎜の鍔を付す。胎土は微砂を含み，色調は黒褐色，焼成は良好である。105.106ともススが付着している。107，108は，内面にオロシメを有する擂鉢であり，108は，使用による磨滅が著しい。109は，外面に2条の凸帯を有し，その上に押圧痕を加える土器である。

（3） 溝

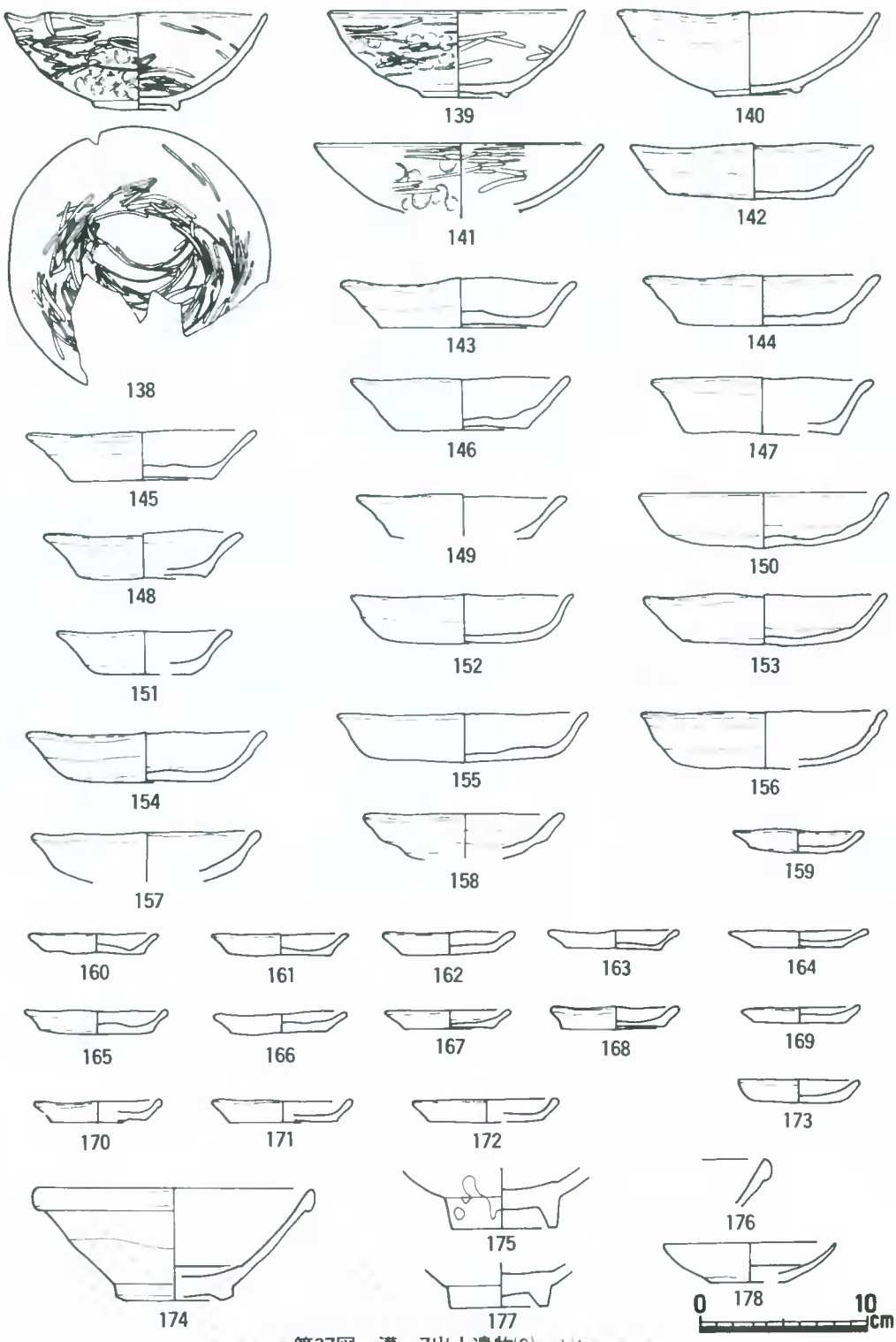
溝－7（第35図）

調査区中央寄りやや南東に検出されたが，幅および深さは凹凸が著しく，一定した数値を出すのは困難である。一応の規模は，最大幅200cm最小幅90cm，深さ50～75cmを測る。溝は中央部で2つに分かれ，さらに下方で1本となる。下方部分においては，集石部分が認められる。底は前述したように非常に凹凸が激しく，かつ溜り状に形成している部分が多く認められる。

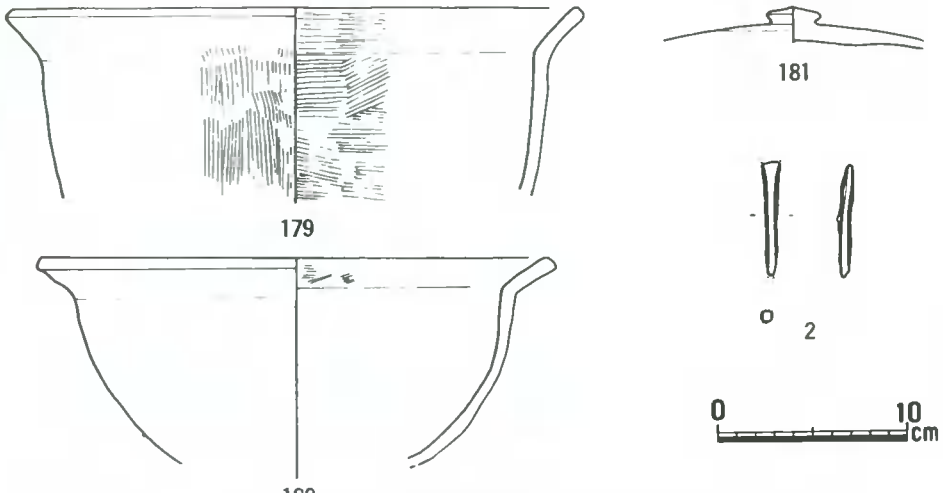
第35図 溝－7 (1/80)



第36図　溝－7出土遺物(1)



第37図　溝－7出土遺物(2)　1/4



第38図　溝－7出土遺物(3) (1/4)

遺物は，淡茶灰色土と黄灰色砂中に集中して早島式土器が出土している。この出土位置は，レベル的にも溝が半分ほど埋った段階で入った状況を示す。溝の底からは，宝珠つまみを付す須恵器が出土している。

出土遺物（第36～38図）は，早島式土器と須恵器である。**110～137**は，早島式土器の高台付椀である。大きさは，口径13.7～15.4cm，器高4.4～5.4cmのものが大半をしめる。**129**のみが口径12.6cmと小さくなっている。底部径は，５～7.6cmを測るが，5.9～6.4cmのものが多くみられる。指頭圧痕は，**113～115**では内外面に残し，**110～112**，**116～118**，**133**は外面に残し，**119**，**123**は内面に残す。**120～122**，**124～129**，**131**は明瞭な指頭圧痕は認められず，ナデによる調整がおこなわれている。**130**は，内外面ともヘラミガキが一部認められる。これらの胎土は，１mm前後の砂粒を含み，色調は白灰褐色あるいは淡橙黄灰色を示し，焼成は良好である。**138～141**は瓦器である。**138**は，口径15.4cm，器高5.8cm，高台径4.9cmを測り，高台の高さは４mmほどである。内外面とも暗文が存在する。胎土は細砂を含み，色調は黒褐色，焼成は良好である。**139**は，口径15.2cm，器高5.2cm，高台径５cmを測る瓦器で，内外面とも暗文を付す。**140**は，口径15.2cm，器高５cm，高台径５cmを測る瓦器で，暗文は二次的に火を受けて不詳である。**141**も瓦器である。**142～158**は，口径13.1～14.7cm，器高2.9～3.6cmを測る早島式の皿形土器である。この皿は，**142～149**，**151**のように底部が平底になるものと，**150**，**152～158**のように底部の屈曲面が直角に角をつくらずに丸く仕上げ，やや曲線を描くものの２種が認められる。**160～173**は，口径7～8.3cm，器高0.9～1.4cm，底部径5.3～6.5cmを測る早島式の小皿である。**174～177**は白磁椀，**178**は白磁皿である。**179**と**180**は鉢形土器で，**179**は内外面ともハケ

調整をおこなう。181は須恵器の杯蓋である。

4．Ⅳ区の調査

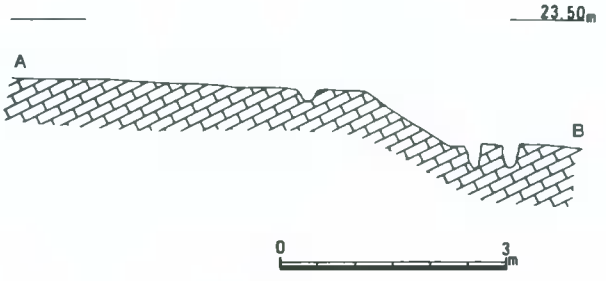
Ⅳ区は，家屋の移転の関係で蟻蜂山トンネルの出口部分（一次調査で33番のトレンチ位置）の地区をⅣ区－1として先に実施し，終了後に移転地をⅣ区－2としておこなった。ここでは，Ⅳ区－2を単独に扱い，Ⅳ区－1について従前の記述をしてゆく。

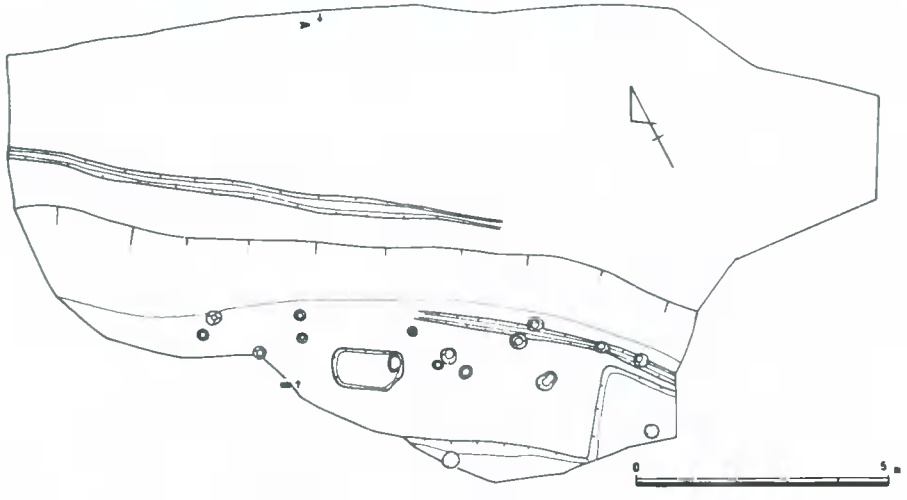
Ⅳ区－1は，丘陵斜面をカットして平坦面を造成している。丘陵裾端から420cmほど平坦となり，そこから60cmほどカットしてさらに平坦面を形成する。上部においては，幅30cm，深さ3cmほどの溝がカット面の上端に沿うように存在する。下の平坦面は，下端に沿うように幅20cm，深さ2cmほどの溝が沿う。柱穴と考えられる穴が検出されたが，建物として組み合うものは認められなかった。さらにこの平坦面から250cmほどでカットされているようであるが，民家の擁壁と接するためこれ以上の追求はできなかった。

出土遺物（第40図）は，下の平坦部より瓦が2点出土している。

Ⅳ区－2は，現状においては，家屋の敷地で平坦となっている。しかし敷地に入りがけは，斜傾がかなり強かった。

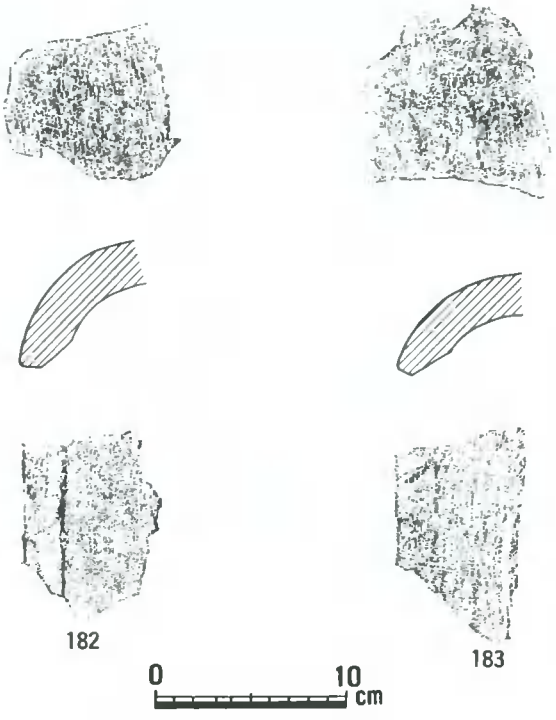
調査区の北東端になる基盤層から南西端の基盤層のレベル差は





第39図　Ⅳ区－1遺構配置図（1/100・1/150）

240cmほどである。この間の堆積層と遺物の関係をみると，14層の暗茶褐色土中には193～202が，それより上層には184～192の遺物が含まれている。また15層の黒褐色土中の出土遺物は203～219である。遺物の包含が認められた層についての時期を特定することはできない。しかし，15層の黒褐色土は，Ⅱ区南壁面で認められた７層の暗黒褐色土と同じような土質と出土遺物を示していることから，217～219の遺物を除けばほぼ対応するものと考えられる。



第40図　Ⅳ区－1出土遺物　(1/4)

また破線としている部分については，花崗岩の風化土に砂を含む状況で，安定した層を認めなかった。特に最も深くなっている22層付近においては，粗砂の互層となり，掘り下げができなかった。遺物は15層の黒褐色土までで，それ以下の層については溝－８に伴うもの以外出土していない。

弥生・古墳時代の遺構・遺物

(1)　土　壙

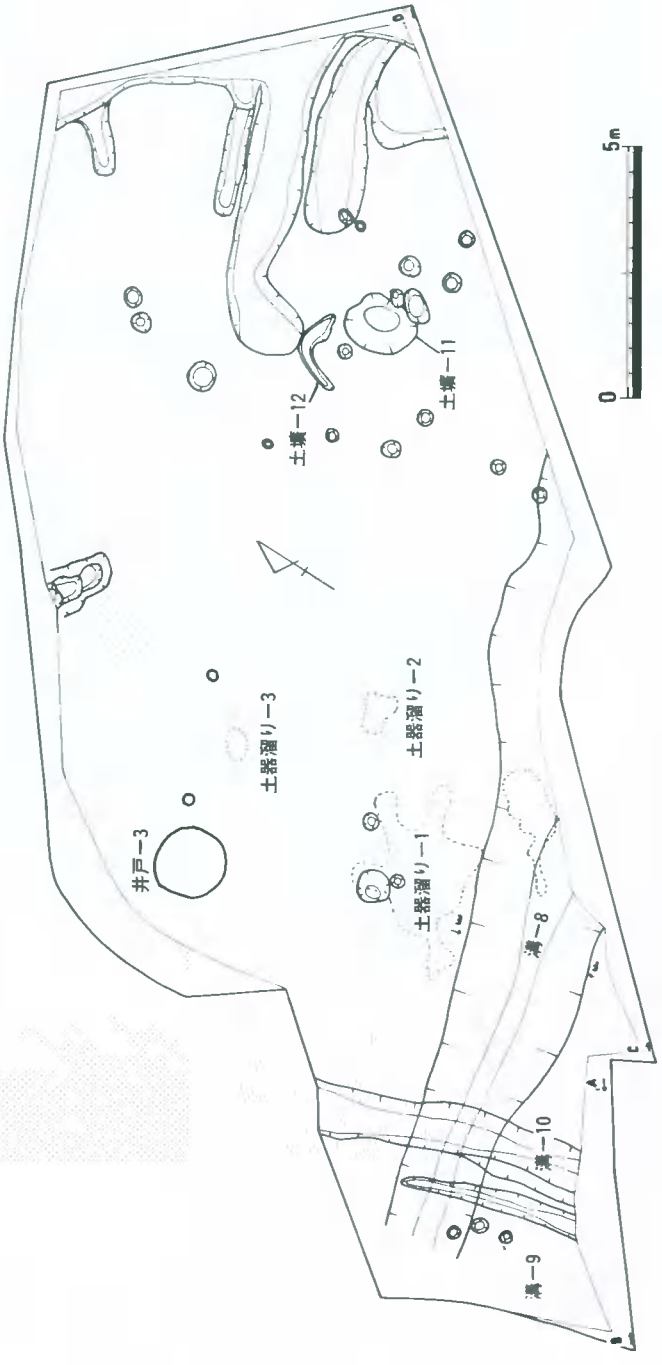
土壙－11（第45図）

調査区の東寄りに検出されたもので，遺物が集中していたため土壙の存在がわかったものである。したがって北西半分は確認できず，遺物の出土状態で推定した。土壙埋土は２層認められ，遺物は１層の上面に含まれる以外は，プラン検出面での出土である。

出土遺物（第45図）220は，壺形土器の口縁部破片である。上下に拡張した口縁端面に３本の凹線がみられる。221は，甕形土器の破片で，外面にタタキをもち，内面には押圧痕を残す。222は，大形の鉢形土器で口縁外面に凹線を３本施す。外面はハケのあとヘラミガキを，内面はハケのあとナデをおこなう。226は，タタキを有する製塩土器である。

土壙－12（第41図）

土壙－11の北西際に検出されたもので，幅42cm，深さ10cmほどのＬ字状のものである。



第41図　Ⅳ区−2遺構配置図 (1/150)

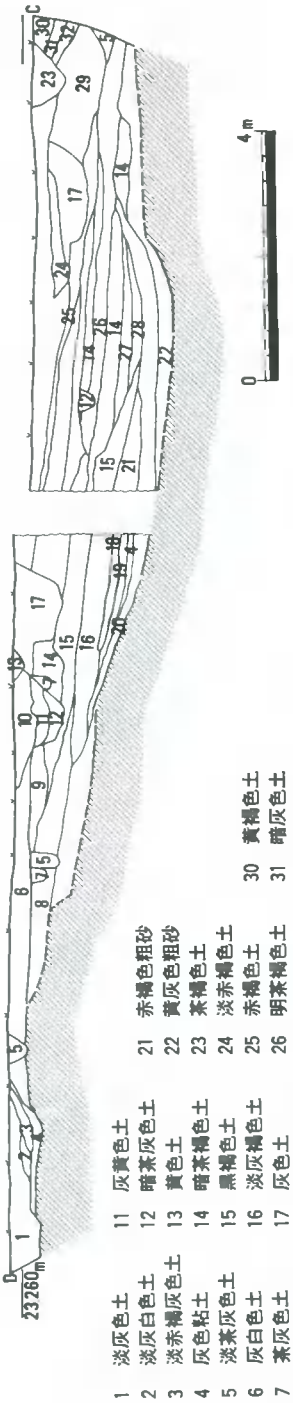
出土遺物（第46図）は，227の甕形土器である。胴部外面にタタキを，内面には指頭圧痕を残す。

（２）　溝

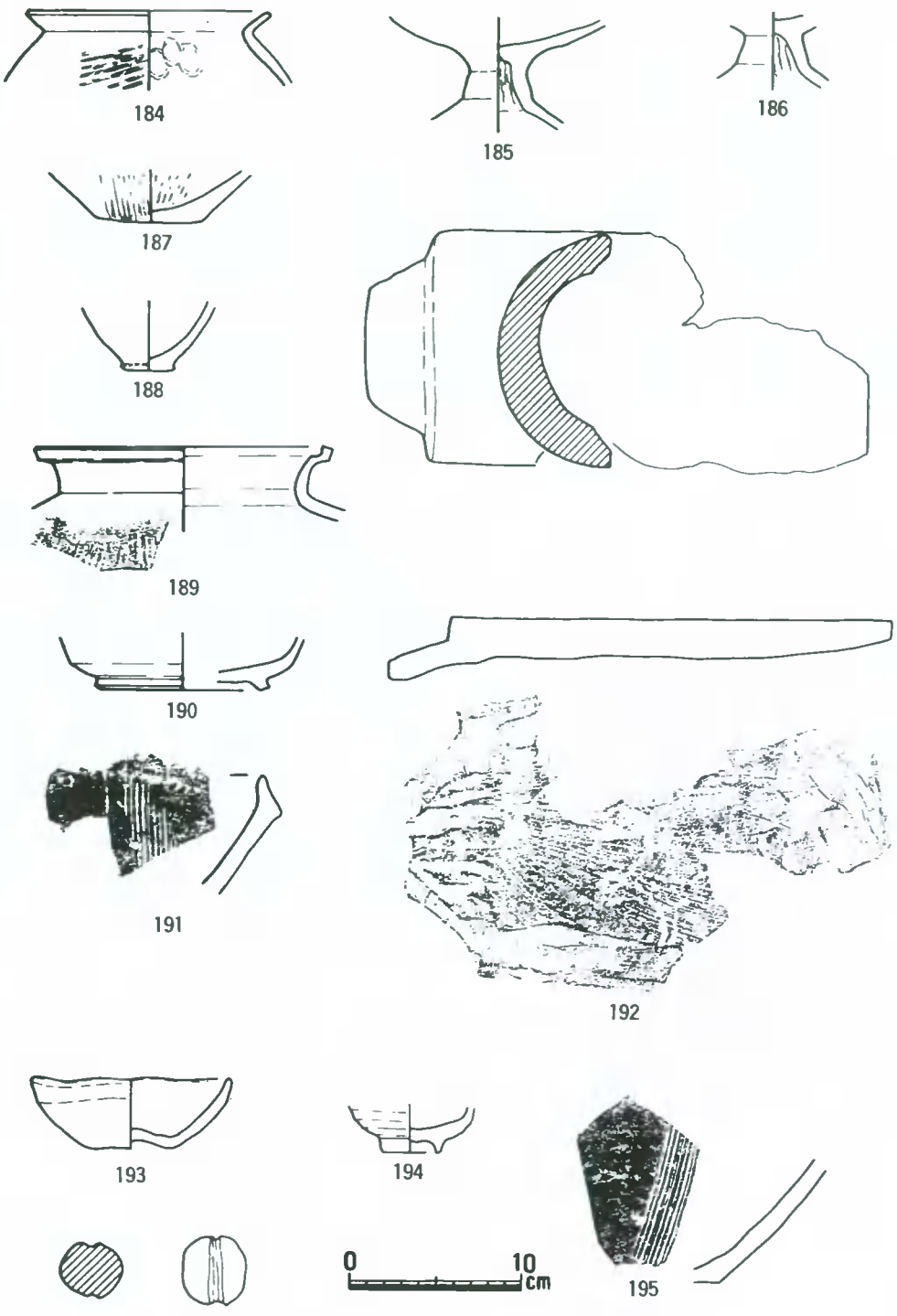
溝－８（第47図）

調査区の南側に，東から西にかけて検出されたもので，確認できた部分の規模は，幅275cm，深さ112cmを測る。土層断面に示したように，溝の壁が破線となっている部分は明確に把握できなかった所である。８層までは粘質土を含むが，９層では粗砂と細砂の互層となる。出土遺物（第48～50図）は，壺形土器，甕形土器，高杯形土器，鉢形土器，器台形土器，製塩土器などである。遺物のうち228，261は１層の花崗岩の風化土の上面から出土し，262～269は，その下層から検出している。

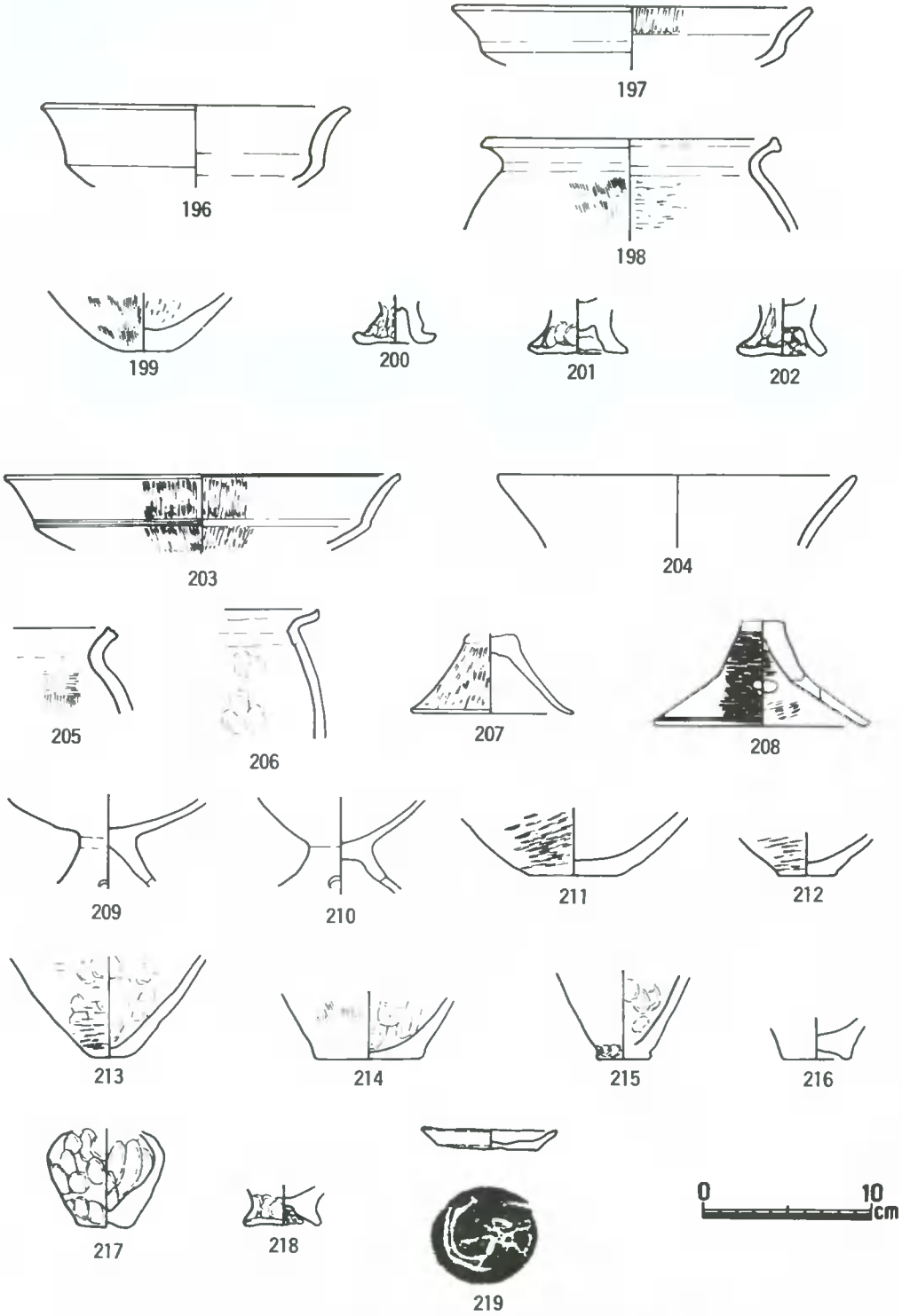
228は，長頸壺形土器で，頸部に上下２段凹線を有する。肩部から頸部の曲部に剝離しているが突帯を付す。胴部は算盤玉状となり，屈曲部に突帯を付し，その端面に波状文を施文する。頸部と胴部中央に指頭圧痕を残す。胎土は細砂を含み，色調は淡黄橙褐色，焼成は良好である。229は，口縁端に２本の凹線，端面に波状文と２本１対の棒状浮文を付す。231は，長頸の外面上下に凹線を多用し，その間にヘラミガキの斜線を施文し，内面には指頭圧痕を残す。233は，口径13.7cm，器高12.1cm，底部径5.4cmを測る鉢形土器である。口縁は短く外反し，端面は若干張り出し気味で，頸部に２か所の補修痕状の粘土が付されている。外面はヘラミガキを，内面はヘラケズリをおこなっている。胎土は細砂を含み，色調は淡灰黄褐色，焼成は良好である。241，248は，壺形土器である。241は，口縁を下方に拡張し，端面に凹線を付す。248は，口縁を上下に拡張し，ナデによる凹部を形成する。234～240は，甕形土器で，口縁端が下方に拡張するのは234，端面



第42図　Ⅴ区－２南東壁土層断面図（1/120）

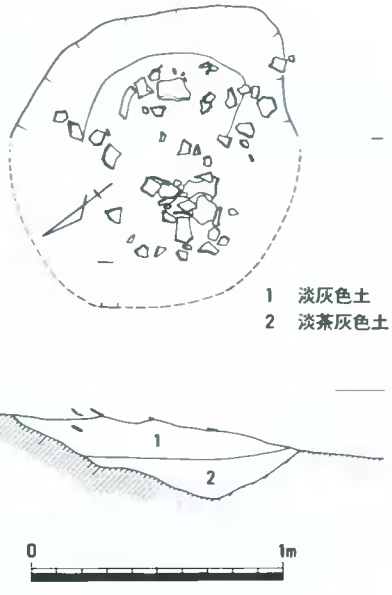


第43図　Ⅳ区－2暗茶褐色土上層・暗茶灰色土出土遺物 (1/4)



第44図　Ⅳ区－2暗茶褐色土･黒褐色土出土遺物 (1/4)

に凹線を施文するものは238，口縁端部を肥厚気味にさせるものは235～237，239，口縁端を丸く終らせるもの240などがある。245と246は，タタキを有する甕形土器である。245は，張りの少ない胴部から外反する口縁をつくり，口縁端は面取りをおこなう。外面肩部はナデ，以下はタタキさらにハケ調整をおこなう。内面は肩部下から指頭圧痕を残す。胎土は細砂を含み，色調は黄橙褐色，焼成は良好である。246は，張り気味の胴部からくの字に短く外反する口縁をつくり，口縁端は面取りをおこなわず，ヨコナデのままである。胴部外面はタタキのあとハケ調整をおこない，内面はヘラケズリのあと指頭圧痕がみられる。胎土は細砂を含み，色調は



第45図　土壙－11 (1/30)・出土遺物 (1/4)

橙茶褐色，焼成は良好である。249～251は，高杯形土器である。247は，脚部に沈線を施文している。250と251は，口径22.9cm，器高21.4cm，脚部径21.2cmを測る器台形土器で，口縁部は上下に拡張し，端面にヘラミガキの鋸歯文を施文し，中に斜線を充填する。筒部から裾部にかけて３段の凹線を施し，その間に方形の透かしを付す。胎土は細砂を含み，色調は灰黄橙褐色，焼成は良好であ

第46図　土壙－12 出土遺物 (1/4)

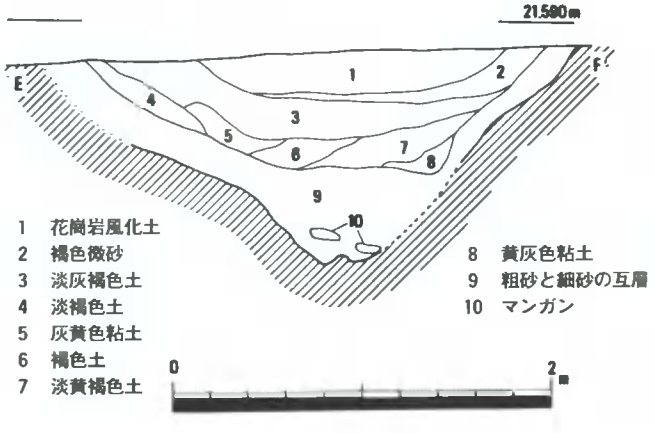
る。252～260は，製塩土器の脚部で，外面はヘラケズリ，脚部は指頭圧痕を残す。262は，口径10.7cm，器高13.1cm，底部径6.2cmを測る短頸壺形土器で，口縁端面に凹線を付す。肩部に工具の先端による羽状の刺突文を付す。外面調整は，ハケのあとヘラミガキをおこなう。内面調整は，肩部に指頭圧痕，以下にナデをしさらに底部にかけて縦方向のナデがみられる。263と265は，鉢形土器であり，265は半截竹管が２列施文されている。

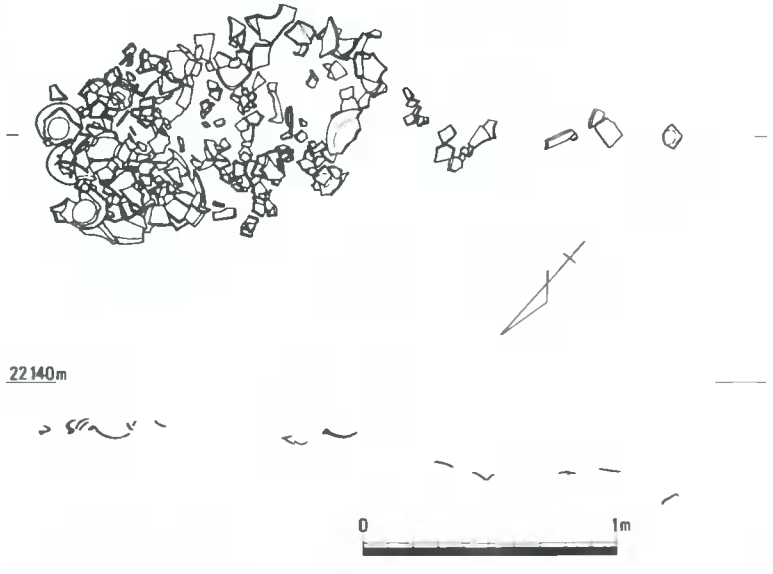
（３）　土器溜り

３か所検出されたが，比較的まとまって土器が集中している部分について記録した。出土した層は，Ⅳ区－２の東壁土層断面の層序から，暗茶褐色土に含まれるものと考えられる。

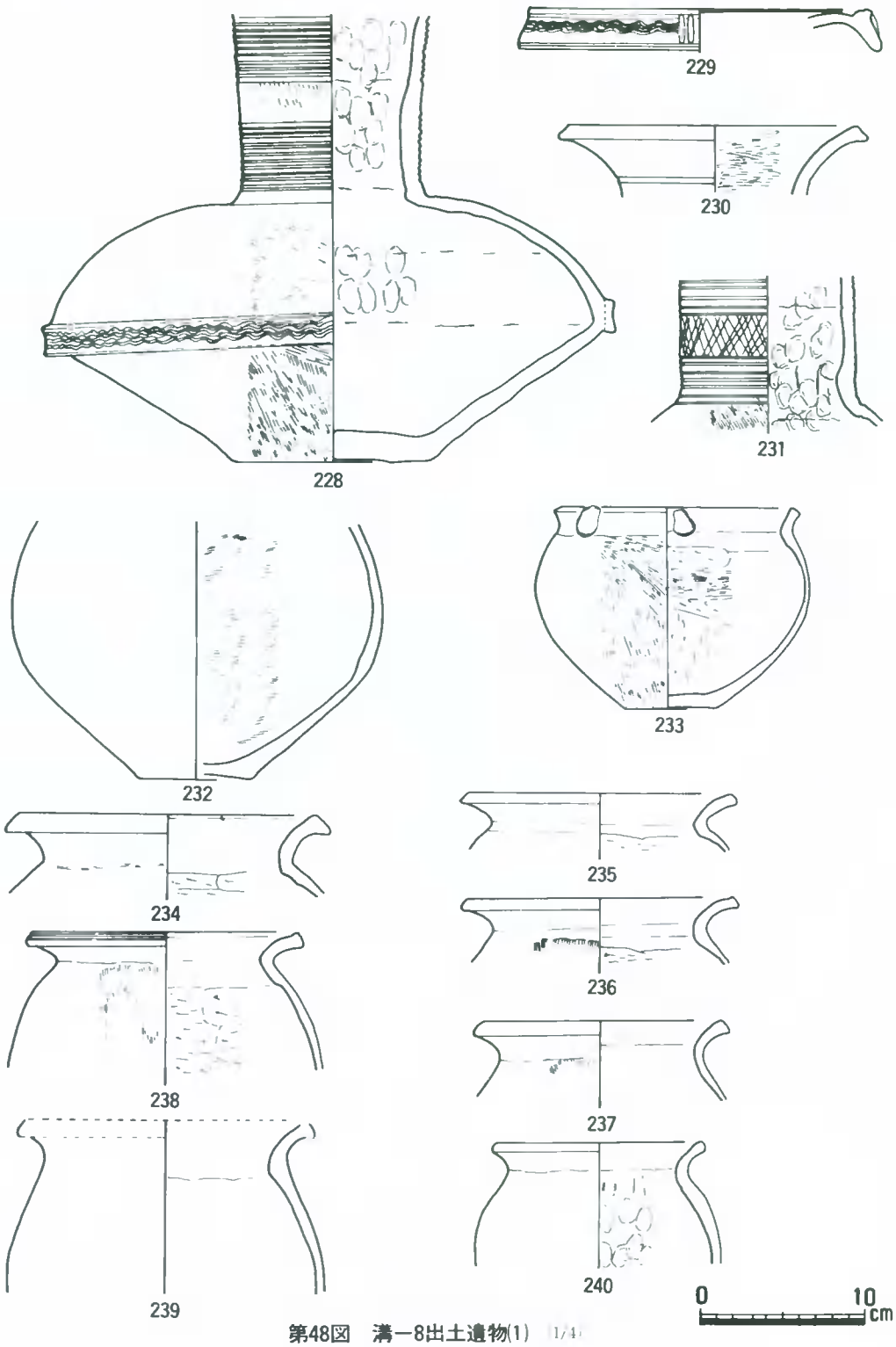
土器溜り－１（第41図）

調査区中央やや南西寄り，390×260cmの範囲に検出された。出土遺物（第51図）は，壺形土器，甕形土器，器台形土器，製

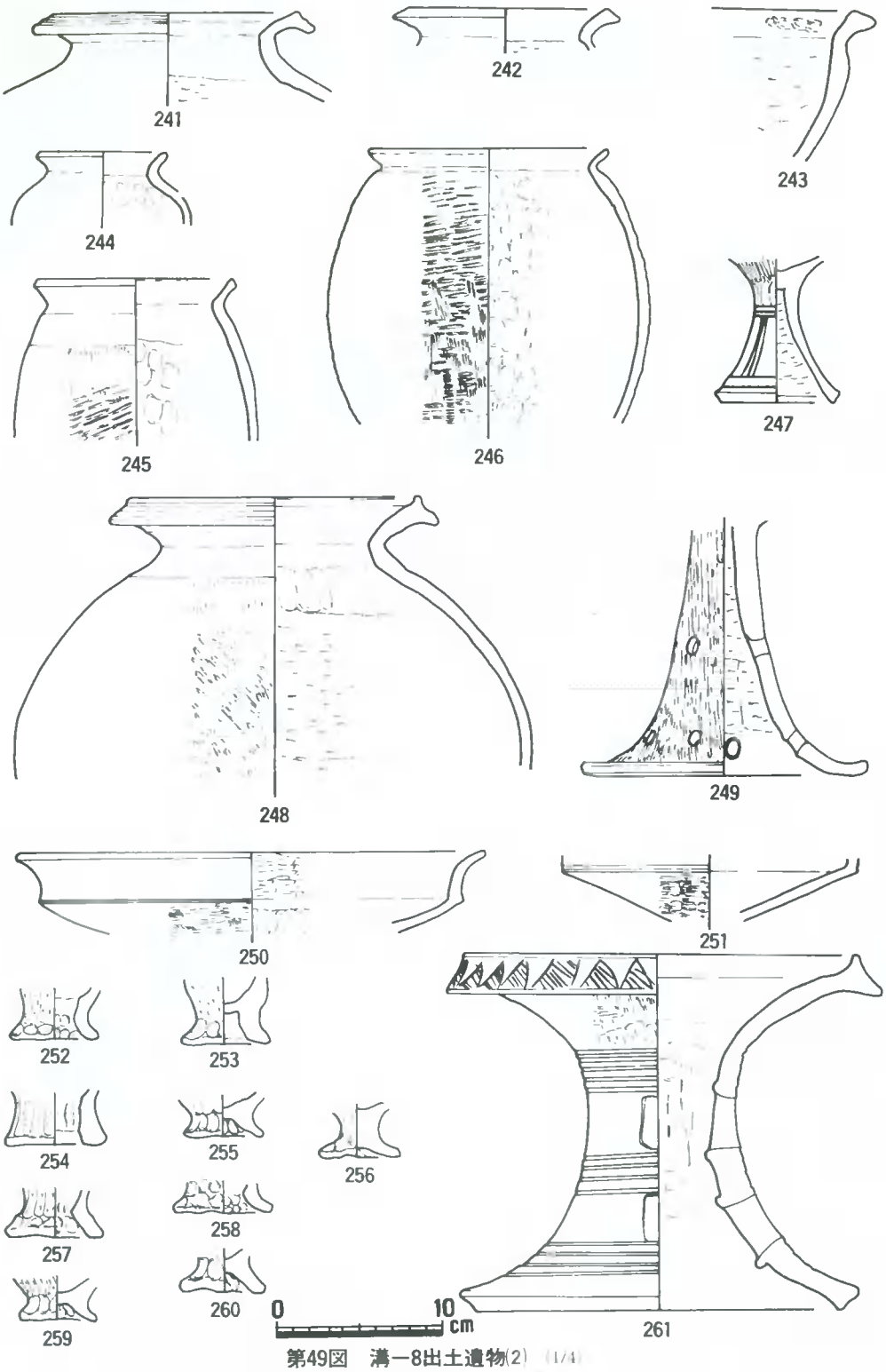




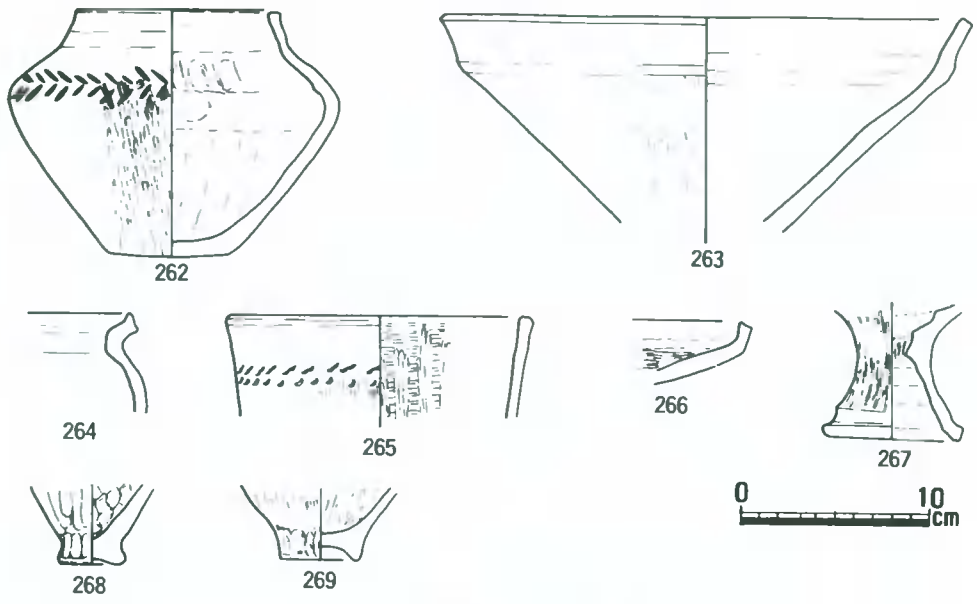
第47図　溝－８（1/40）**・遺物出土状態**（1/30）



第48図　溝一8出土遺物(1)　1/4



第49図　溝－8出土遺物(2)　(1/4)



第50図　溝－8出土遺物(3) (1/4)

塩土器である。**270**，**272**は皿形土器である。口縁端面に鋸歯文を付し内に斜線を充填するもの**270**，タタキを有するもの**271**などがある。**273**～**281**は，甕形土器である。**276**以外は，胴部外面にタタキを有する。**273**，**274**，**278**は，内面に指頭圧痕を残している。**283**，**284**，**286**，**287**，**289**は製塩土器で，**284**は，ヘラケズリ，**289**はタタキがおこなわれている。**285**は，口径20.6cmを測る器台形土器で，口縁端に２本の凹線，上下に拡張した端面に菱形の文様を描き，内に斜線を充填する。この菱形の上側に竹管の刺突文を施す。**290**は，壺の胴部破片で，器面に分銅形の文様を描く。

土器溜り－２（第41図）

土器溜り－１の北東側に80×60cmの範囲に認められた。出土遺物（第52図）は，甕形土器と壺形土器の底部である。**291**～**293**はタタキをおこなう。

土器溜り－３（第41図）

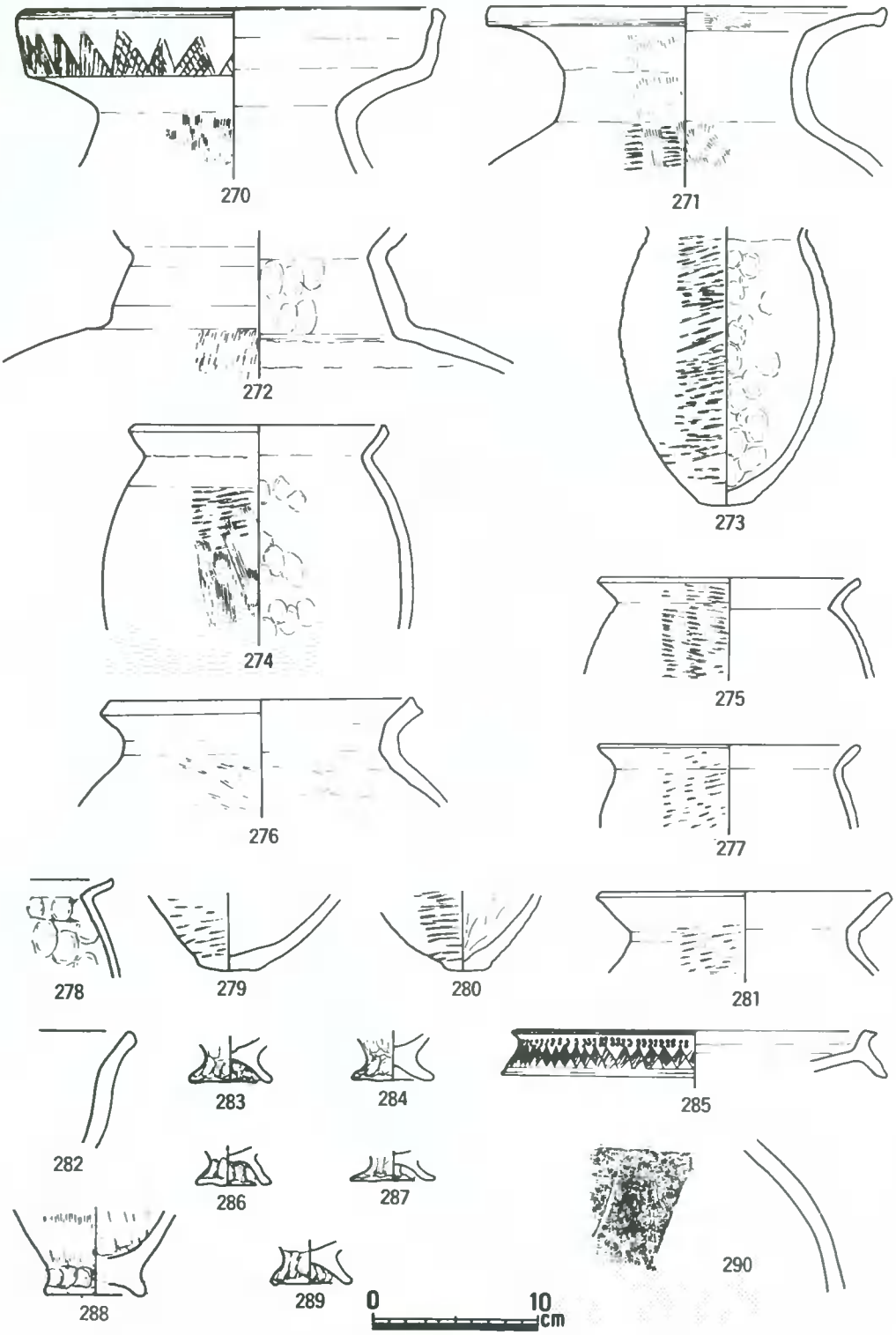
土器溜り－１の北寄りに，70×50cmの範囲に検出された。出土遺物（第53図）は，壺形土器，甕形土器などである。**298**は，頸部下端に突帯を付すものである。**300**はタタキをもつ。

古代・中世の遺構・遺物

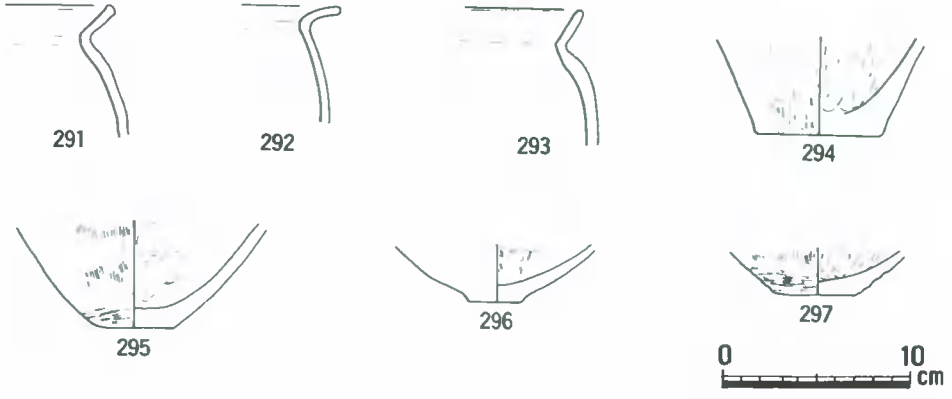
(1)　井　戸

井戸－３（第54図）

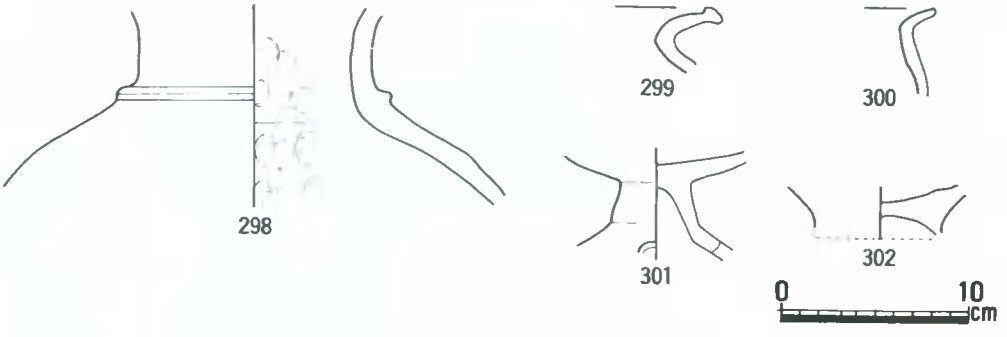
調査区の西寄りに検出されたものである。規模は，155×141cm，深さ133cmを測る。形態は，



第51図　土器溜り－1出土遺物 (1/4)



第52図　土器溜り－2出土遺物 (1/4)



第53図　土器溜り－3出土遺物 (1/4)

円形を呈する。底は，２段となり20×22cm，深さ18cmほどの円形の凹み状の穴を掘る。この井戸は，湧水の層には達しておらず，掘り上げ後についてもほとんど水はしみてこなかったのである。

出土遺物（第54図）は，**303**の平瓦と**304**の軒丸瓦の２点が出土している。

（２）　溝

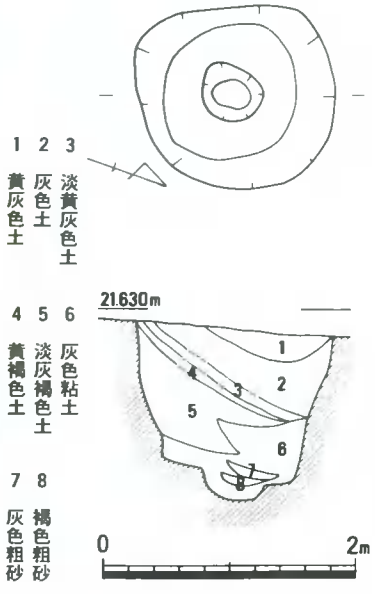
溝－９（第56図）

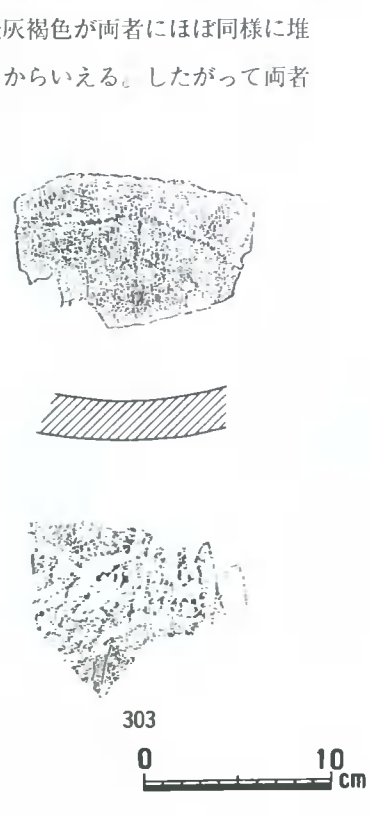
調査区の南西端に検出し，幅32cm，深さ22cm測る。北西寄りは浅くなり消失する。出土遺物（第55図）は，早島式の椀と小皿である。**305**は，高台径6.5cmを測る椀である。**306**は，口径8.1cm，器高1.1cm，底部径6.3cmを測る小皿で，底部はヘラキリがみられる。**307**もヘラキリがみられる。

溝－10（第56図）

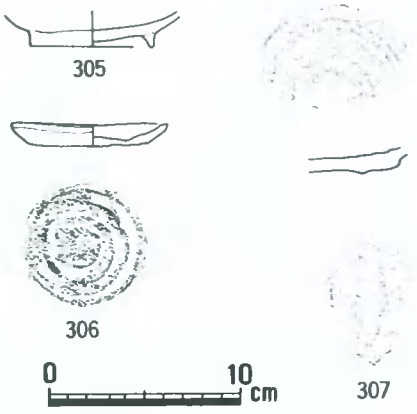
溝－９の北東側に平行して検出され，幅110cm，深さ32cmを測る。出土遺物（第58図）は，土鍋，小皿，平瓦などである。**310**は，口径8.4cm，器高1.9cm，底部径4.6cmを測る小皿である。**311**は，口径8.4cm，器高1.9cm，底部径4.6cmを測る小皿である。**312**は，格子目のタタキが認められる。**316**は，退化した唐草風の瓦当をもつ。この瓦当をもつ瓦はⅠ区の包含層から出土している**11**と同じである。

なお，溝－９と10との関係は，土層断面（第57図）からみても判断しがたい。このことは両者とも16層の淡明赤褐色を切って掘られ，そして埋土の最終段階で堆積したと考えられる10層の淡灰褐色が両者にほぼ同様に堆積していることからいえる。したがって両者

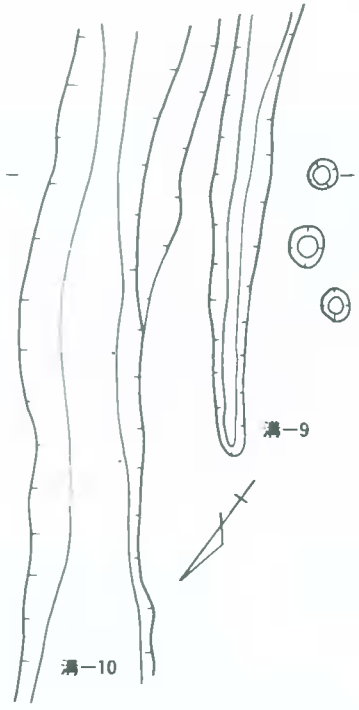


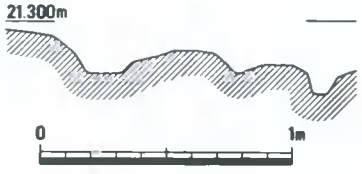


第54図　井戸－3（1/60）**・出土遺物**（1/4）



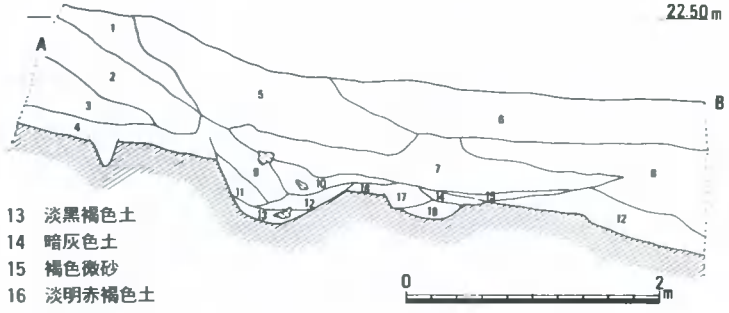
第55図　溝－9出土遺物 (1/4)



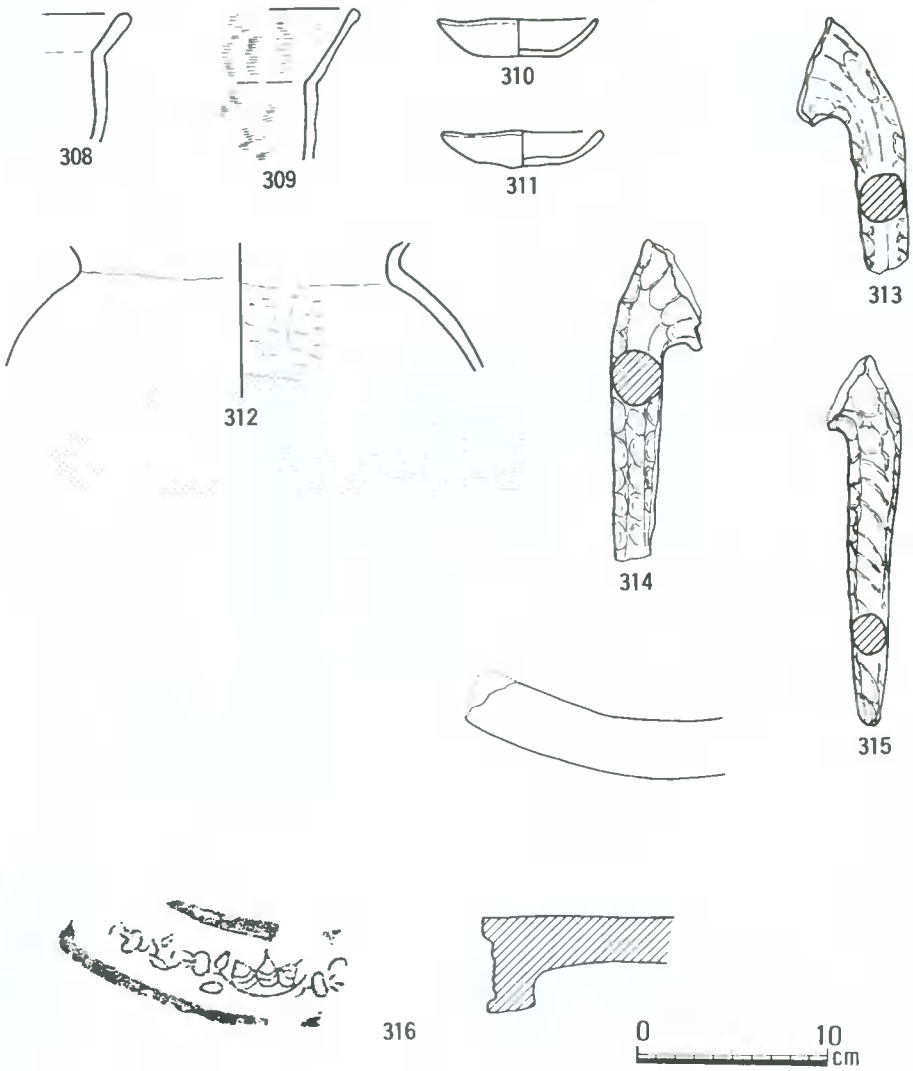


第56図　溝－9・10 (1/30)

1　茶灰色土
2　黄灰色粘土
3　暗茶灰色土
4　黒褐色土
5　淡茶褐色土
6　耕作土
7　花崗岩風化土
8　淡暗茶褐色土
9　明褐色土
10　淡灰褐色土
11　淡明褐色土
12　暗茶褐色土
13　淡黒褐色土
14　暗灰色土
15　褐色微砂
16　淡明赤褐色土
17　淡褐色土
18　暗灰色土



第57図　溝－9・10土層断面図 (1/60)



第58図　溝－10出土遺物（1/4）

の前後関係は認められない。

第５節　小　結

ここでは，弥生時代と中世の遺物について若干のまとめをしておきたい。弥生時代の遺物は，Ⅱ区からⅣ区において多く出土している。その内容は，遺構出土のものではなく包含層および自然流路と考えられる溝からのものである。このうち最も古くなるのが，溝－８の**266**（第50

図）の土器であり中期にさかのぼることができる。後期中葉段階になって，まとまった量の出土が見られるのである。これらの土器は，溝－８のプラン確認面において土器溜りとして検出されたものである。先に述べた土器の他２・３点のものを除いてほぼ同一時期の遺物として把握することが可能である。これらの土器は，高杯形土器における杯部の屈曲部にみられる凹線，甕形土器の口縁部がくの字に外反し，やや長めの胴部に横位のタタキを施すもの，さらに壺形土器の内容からも岡山県南部の土器との相違は見いだされない。このことは，製塩土器についてもその変化を認めることはできないのである。また，溝－３出土遺物の**65～74**（第27図）は溝－８より古い様相を示すものであるが，出土状態から一括として把握されなかったものである。そして，これらの土器においても先に触れたように岡山県南部の土器との組成の相違を認められないものである。

後期後半から終末にかけての段階においては，南部の土器と際立つ内容の変化を認めることができるのである。これは，器面の調整にタタキを多用することが顕著に認められるのである。溝－５の**85・88**（第30図）は，タタキを用い，また**92**（第31図）の壺形土器の胴部にタタキを，**96**（第31図）も胴部上半から下半にかけてタタキを用いているのである。さらに，この溝から出土する他の器種においても器面にタタキを残すものの割合が多く認められるのである。このタタキについては，製塩土器においても早い段階から用いられているのである。溝－１は，伴出遺物から後期中ごろとされるものであるが，ここから出土する製塩土器はいずれの個体においてもタタキによる調整を用いているのである。

このように木見大賀遺跡における弥生時代後期中葉段階までは，県南部の沖積地の遺跡から出土する同時期の遺物とほとんど相違を認めることができないのである。ただ，製塩土器においては，この遺跡が立地する児島の地がそれらの地域よりも先出的にタタキを施していることがうかがわれるのである。そして，後半から終末にかけて高杯形土器を除く主要な器種において，タタキを認められるようになるのである。特に，甕形土器の胴部は，球形にならず楕円形の胴長の器形が顕著にみられるようになる。また，胎土も山砂を含み色調は赤褐色を示し，器壁も厚くなる傾向をもつようになるのである。

次に，中世の遺物について概略を述べておきたい。特に，自然流路と考えられる溝－７上流出土遺物について触れておきたい。溝－７は，底から奈良期の遺物が検出されていることからこの時期に形成されたと考えるのが妥当であろう。そして，この溝が半ば埋まった時期に流入したのが中世の遺物である。これらの遺物は，灰白色を示す高台付椀形土器と皿形土器の２種と瓦器椀と輸入磁器などである。このうち早島式土器[註1]とされる高台付椀と皿のうち前者について見てゆきたい。

溝－７出土の高台付椀は，口径15.4～14.1cmを計るものが87％を占め12.6～13.7cmのものが

13％を占めており前者の割合が圧倒的に多いのである。この口径と類似のものを出土するのは，百間川当麻遺跡における井戸－3[註4]がこれとほぼ同様の内容を示している。そして，年代的に平安末から鎌倉初頭とされる岡山市鹿田遺跡[註5]出土の高台付椀よりも新らしい様相を示していることなどから鎌倉前半の年代が考えられるのである。

高台が消失段階で出現すると考えられているへそ皿[註6]とされるものが井戸－1および土壙－3から出土をみている。伴出の遺物から15世紀中ごろを前後すると考えられるのである。そして，このへそ皿についても胎土・色調・焼成などについて変化を認めることができないことからやはり，早島式土器と一連のものとして把握することが妥当であろう。　　（下澤）

註

註1　早島式土器については，1937年の水原岩太郎氏の発表以来多くの方々が論考されてきている。また器種においても限定的に把握された論[註3]もみられる。ここでは，早島式[註2]とされる高台付椀と皿との胎土について相違を認めることができなかったことから，早島式土器としている。

註2　水原岩太郎「考古行脚（一）早島行」『吉備考古32号』吉備考古会　1937年

註3　鎌木義昌「窯業」『日本の考古学Ⅵ』河出書房新社　1967年7月，福田正継「瀬戸内海中部北岸地域の早島式土器と呼ばれる土師質高台付椀について」第三回中世土器研究集会資料　1984年

註4　岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告46』1981年

註5　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『鹿田遺跡Ⅰ』1988年

註6　岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告65』1987年

第14章　てんぐ山散布地の調査

第１節　遺跡の位置

県道味野・呼松倉敷線の南にある赤崎保育園の南丘陵上に位置する。丘陵頂部は標高105ｍほどで，平坦部と北西と北東にのびる細い尾根がある。この頂部からは，平地には赤崎の町が，東には児島インターチェンジ散布地，西には菰池遺跡を望むことができる。

第２節　調査に至る経緯

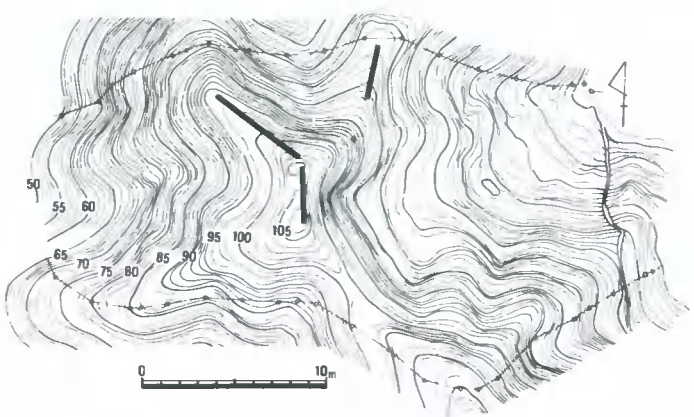
田之浦御台場跡の発掘調査が，昭和59年10月の初旬で終了する見通しとなった。この調査の終了後は菰池遺跡の調査に入る予定であったが，児島インターチェンジの工事との関係で，てんぐ山散布地の調査を先に実施してほしいとの要請があった。菰池遺跡については地元に若干の問題が残され，時間的な余裕があったことからてんぐ山散布地の一次調査を実施した。

第3節　一次調査の結果

てんぐ山は頂部が平坦となり，北西と北東にやせて細長い尾根がのびている。この３か所について確認のトレンチを設けた。３本のトレンチを設定したが，いずれにおいても表土下５～20㎝において花崗岩の基盤に達する。堆積土は，表土の腐食土と花崗岩の風化土である。

このようなことから，てんぐ山散布地については一次調査において終了した。

（下澤）



第１図　トレンチ調査位置図（1/4,000）

第15章　天王（てんのう）遺跡の調査

第１節　遺跡の位置

県道岡山・児島線の稗田十字路から南東に県道宇野津・下之町線に入る。この県道宇野津・下之町線は，東側に福南山から由加山に連なる山塊と，西側に広がる中山丘陵との間の谷を南下して通称琴海湾に面する児島下之町へ抜ける道である。天王遺跡は，稗田十字路から1.2㎞程南下すると谷が少し開けてくる東側の，福南山から南西に延びる一支丘陵の端部に位置しており，現在水田等になっている谷部を隔て，南西の丘陵上にある山際紫山遺跡と対峙している。

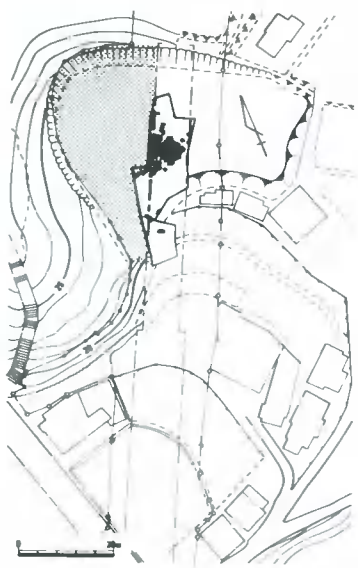
第２節　調査に至る経緯

菰池遺跡の発掘調査に入ったばかりの昭和59年11月に，まだ発掘調査の行われていなかった天王遺跡部分の工事が始まり包含層の一部が掘削されたことから，協議の結果，緊急に工事と並行して発掘調査を行うことになったものである。しかし，遺跡の対象面積が広く，工事の進行に併せて全部の発掘調査をすることは不可能である為，今回の工事の対象となっていない新幹線用地の部分については，発掘調査は行わず，別途協議することとなり，在来線の工事対象部分のみの発掘調査を行った。

なお，新幹線用地部分（第１図ドット部分）については，その後協議の結果，工事予定がないことから当面そのまま保存されることになっている。

第３節　調査の概要

発掘調査は，一部包含層が掘削された状況で，昭和59年11月12日から12月７日まで遺構の広がりが認められる範囲（第１図）について全面調査を行った。また同時に遺跡の南側および北側についても遺跡の広がりをトレン

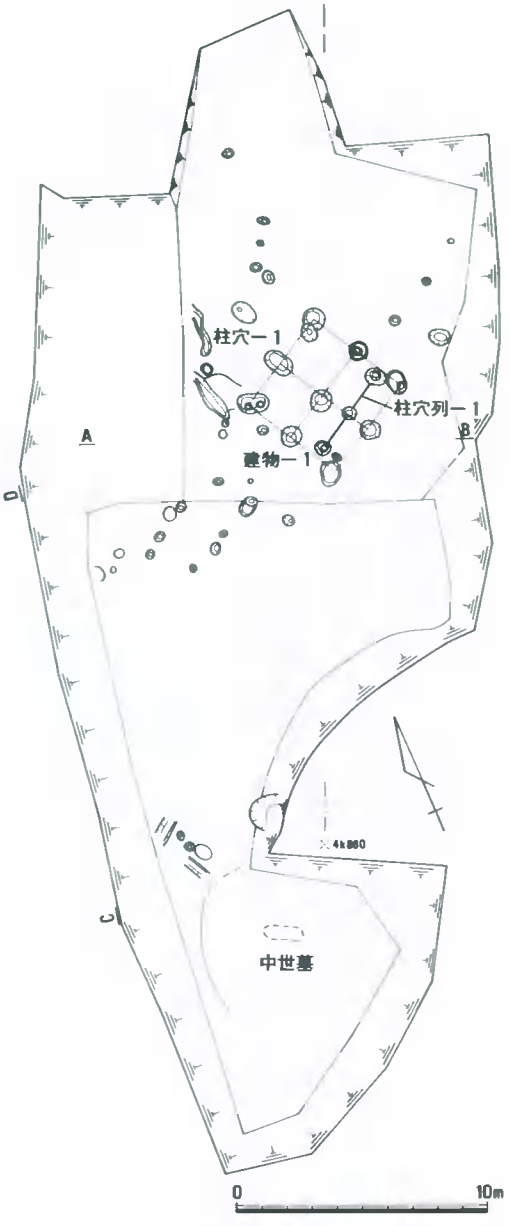


第１図　調査位置図　(1/1,600)

チ調査により確認したが，遺跡は確認されなかった。

検出された遺構は，遺跡の北部を中心に，弥生時代および，奈良時代の柱穴群が，また遺跡の南部からは白磁椀等の副葬を伴う中世墓が認められているのが主なものである。比較的多量の土器が出土したものの，遺構に伴う出土遺物は少ない。

第３図は上が調査区ほぼ中央の東西土層断面図（Ａ－Ｂ），下が西壁の南北断面図（Ｃ－Ｄ）である。この土層断面図からみて判るように，天王遺跡は，西から東に緩く，北から南へやや緩く下がる緩斜面上に位置している。



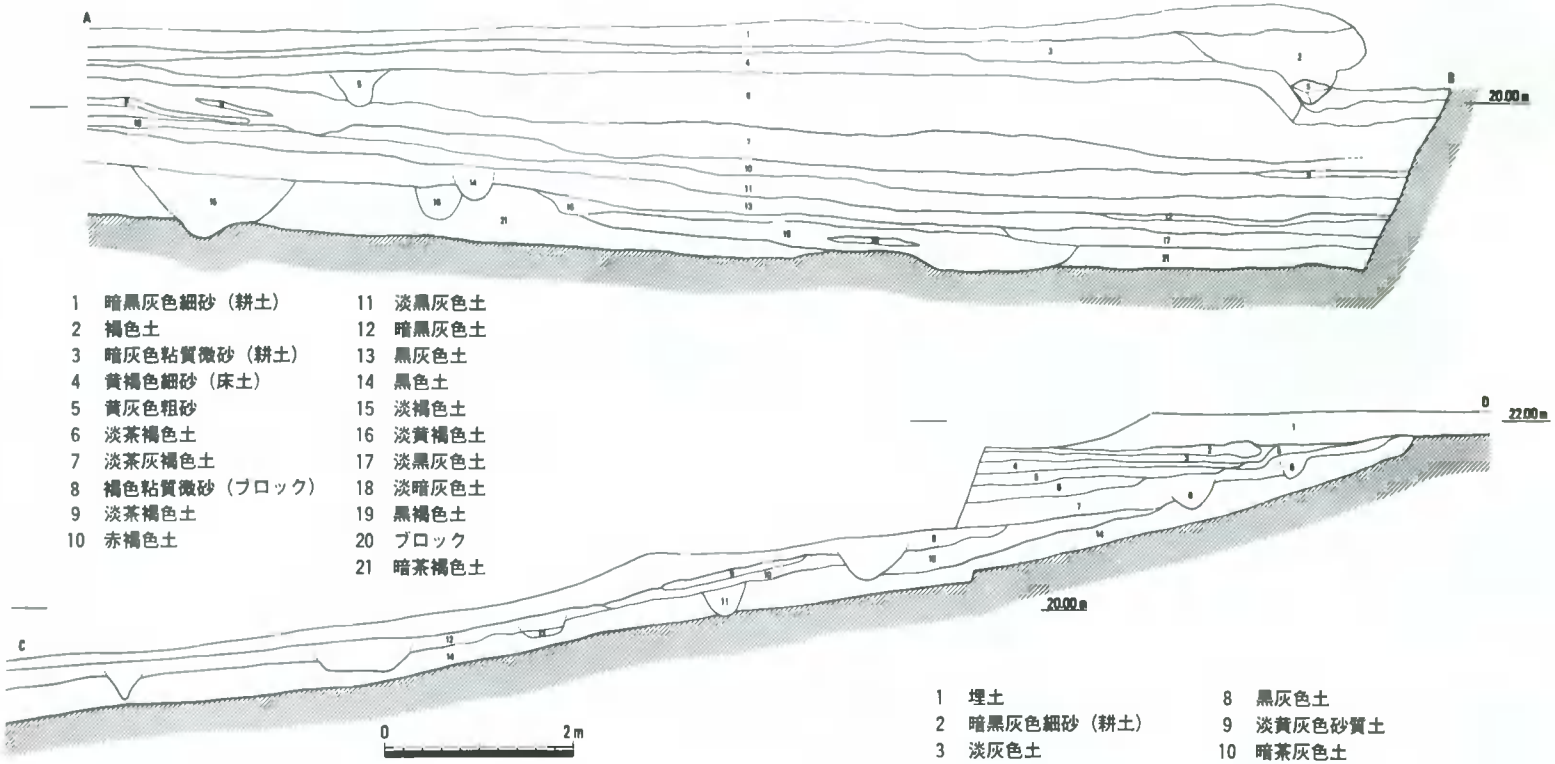
第２図　遺構配置図　(1/300)

１　弥生時代の遺構・遺物

(1)　柱　　穴

柱穴－１（第４図）

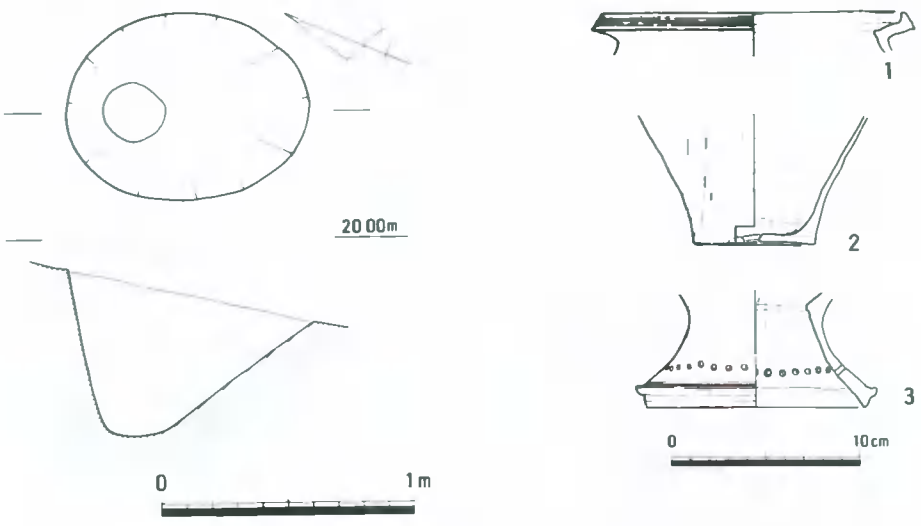
北半の柱穴群から検出されたものの一つで，奈良時代の建物から２ｍ程北西で単独に検出されたものである。長径97㎝・短径76㎝を測る楕円の平面形を呈するもので，深さは，海抜19.90ｍ程の検出面から66㎝を測る。上面では中心から南東へ広がりをもち，抜き取りの痕跡をもつと考えられるものである。出土遺物としては，甕および台付鉢の土器片がある。１は甕形土器の口縁片で，くの字状に折れ曲がった口縁端部を肥厚して上方に少しつまみ上げたもので，端面に数条の凹線文が巡っている。２は甕形土器の底部片で，底に焼成後穿孔されたものである。外面はヘラミガキ，内面はヘラケズリされている。３は台付鉢形土器の台部片で，ハの字状に広がった端部がやや肥厚し上方に少しつまみ上げ，端面に凹線を施している。裾部には貫通した円孔が巡っている。



1　暗黒灰色細砂（耕土）
2　褐色土
3　暗灰色粘質微砂（耕土）
4　黄褐色細砂（床土）
5　黄灰色粗砂
6　淡茶褐色土
7　淡茶灰褐色土
8　褐色粘質微砂（ブロック）
9　淡茶褐色土
10　赤褐色土
11　淡黒灰色土
12　暗黒灰色土
13　黒灰色土
14　黒色土
15　淡褐色土
16　淡黄褐色土
17　淡黒灰色土
18　淡暗灰色土
19　黒褐色土
20　ブロック
21　暗茶褐色土

1　埋土
2　暗黒灰色細砂（耕土）
3　淡灰色土
4　赤灰色土
5　灰色土
6　暗茶灰色土
7　淡茶灰色土
8　黒灰色土
9　淡黄灰色砂質土
10　暗茶灰色土
11　黄灰色土
12　黒灰色粘質土
13　黒色土
14　淡黄灰色土

第3図　A－B・C－D土層断面図　(1/80)

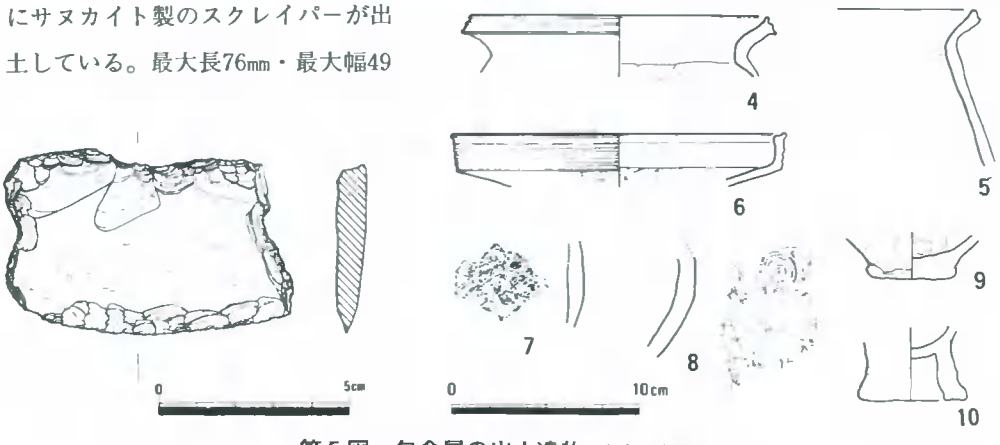


第4図　柱穴ー1 (1/30)・**出土遺物** (1/4)

調整は外面タテ，内面ヨコ方向にヘラケズリされている。これらの出土遺物からみて時期は弥生時代中期後半と思われる。

(2)　包含層の出土遺物

遺構に伴わない遺物としては，壺・甕・鉢・高杯等の土器片および石器等が出土している。**4**・**5**は甕形土器の口縁片でくの字状に折れ曲った口縁端部がわずかに肥厚し，端面に凹線文を施すものである。**6**は高杯形土器の口縁部片で上方に折れ曲がってやや肥厚する端部外面に凹線文を施し，杯部は内外面ともヘラミガキされている。**7**・**8**は壺形土器の胴部片で**7**は木葉文がヘラ先で描かれている。**8**は胴部の最も張っている部分に渦文が押し付けられているものである。**10**は台付鉢形土器の台部片で指頭圧により成形された粗製の土器片である。この他にサヌカイト製のスクレイパーが出土している。最大長76㎜・最大幅49



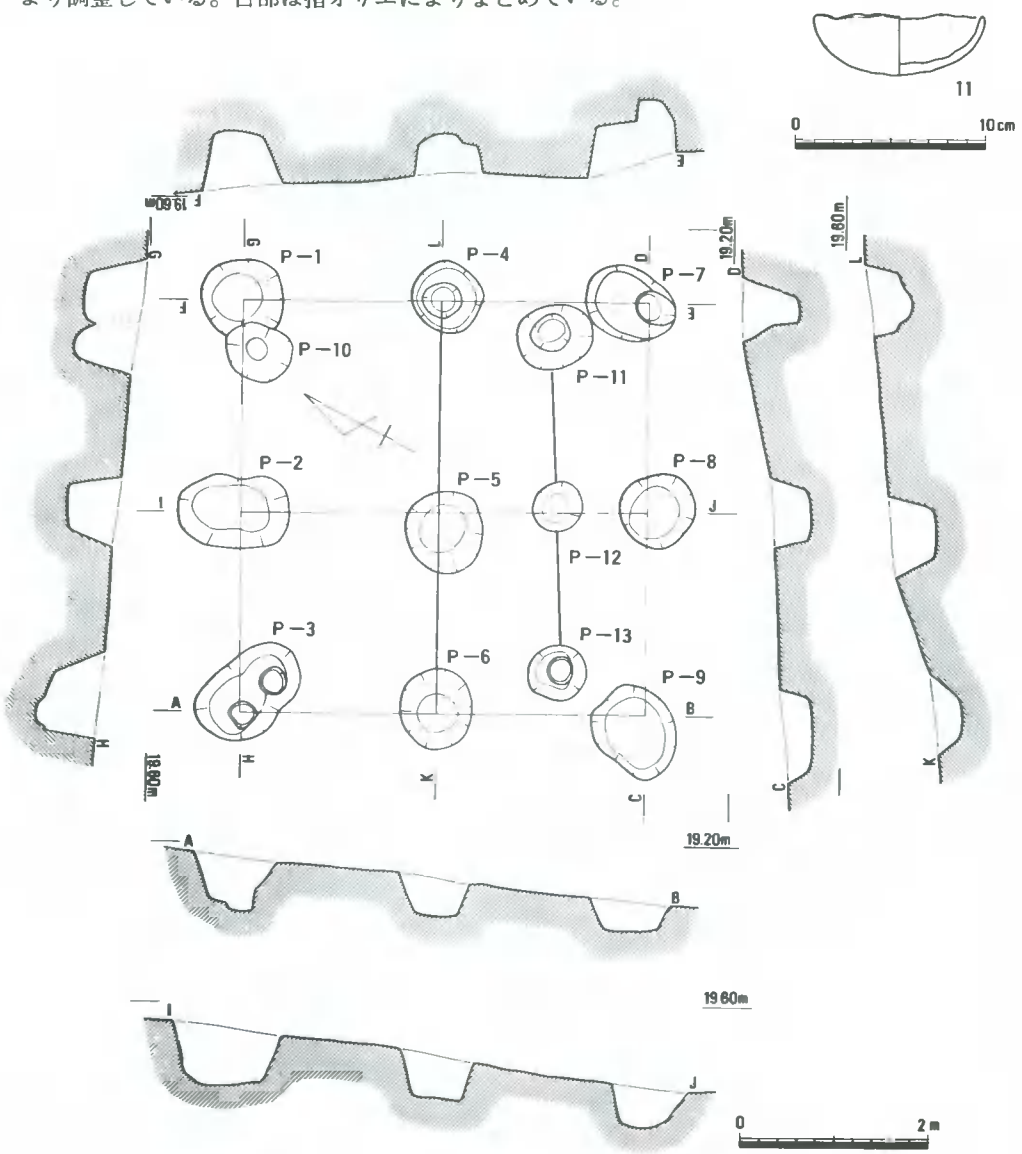
第5図　包含層の出土遺物 (1/2・1/4)

㎜・最大厚7.8㎜を測り，刃部を両面から調整しているものである。

2　古墳時代の遺構・遺物

包含層の出土遺物

古墳時代の遺物はあまり多くなく，遺構は検出されていない。土器はいずれも細片で図示できたのは製塩土器の底部片（12～15）のみである。体部は指ナデ調整後，外面を平行タタキにより調整している。台部は指オサエによりまとめている。



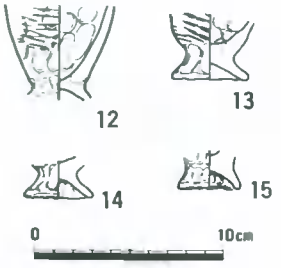
第６図　建物－1・柱穴列－１　(1/80)・建物－１出土遺物　(1/4)

3　奈良時代の遺構・遺物

(1)　建物・柱穴列

建物－1（第6図）

北半の柱穴群中において検出されたもので，真北から約30度程西に振った方向をもち，柱間1間が200～220cmの総柱2間×2間の建物遺構である。個々の柱穴は径80cm程の円形と思われるが，抜き取り穴により変形しているものがみられる。

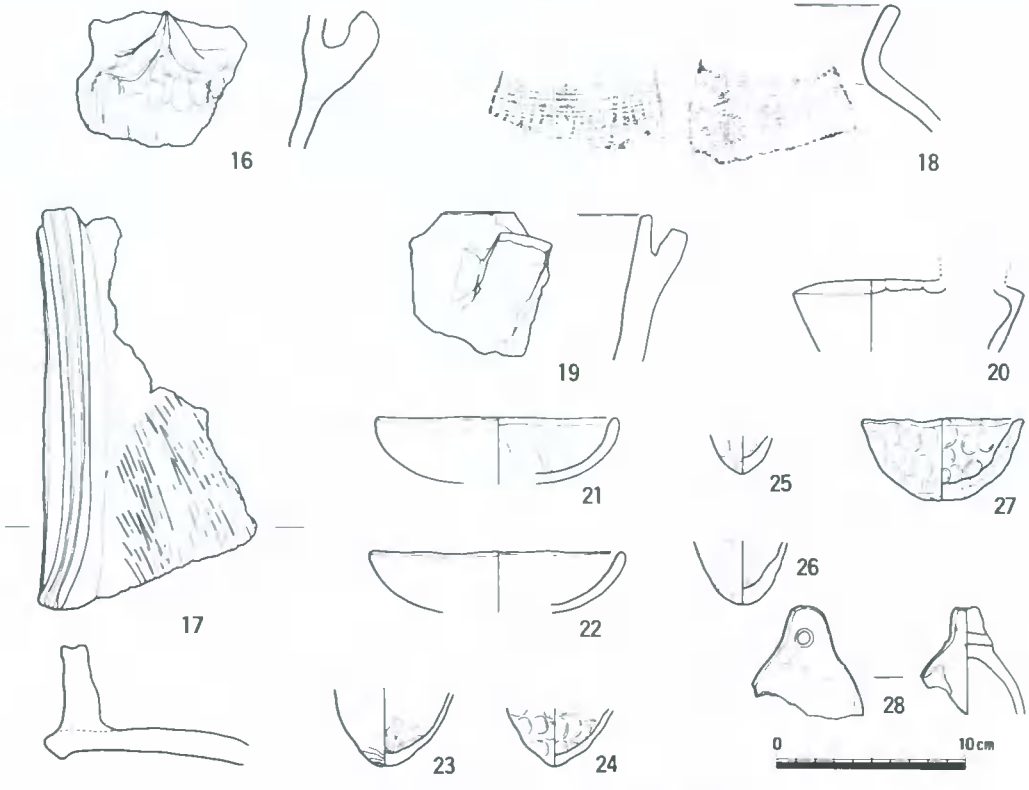


第7図　包含層の出土遺物 (1/4)

出土遺物としては，伴うものが極めて少なく，P－9から11の椀がP－5から須恵器の杯身の高台部片がある。

柱穴列－1（第6図）

北半の柱穴群中に建物－1を接して検出されたもので，建物－1とほぼ同一の方向を示した柱穴が3本検出されている。柱穴の規模は径60cm前後で建物－1のものより一回り小さい。柱間も1間約180cmとやや短い。なおこれらの柱穴は，建物－1のP－1を切っているP－10お

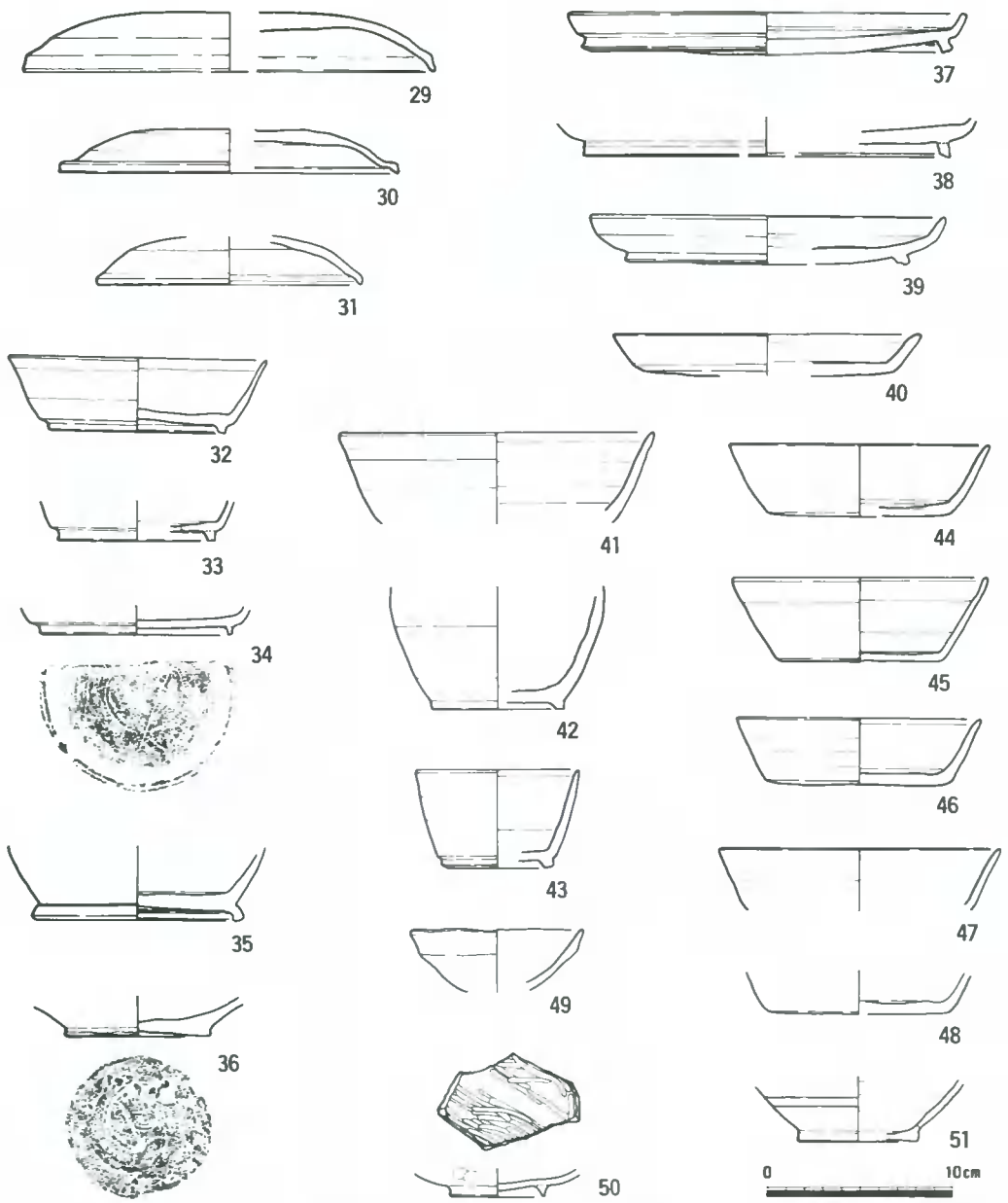


第8図　包含層の出土遺物(1) (1/4)

よびＰ－３の東側の柱穴痕と対応する可能性があり梁間360cmを測る２間×１間の建物になる可能性があり，建物－１と相前後しながら建てられた建物跡とも考えられる。

(2)　包含層の出土遺物

遺構に伴わない遺物としては，様々な器種の遺物が出土している。16は土師質の甕または甑の把手部分と思われる。17は竈の一部と考えられる土器片である。18～20は須恵質の土器片で



第９図　包含層の出土遺物(2)　(1/4)

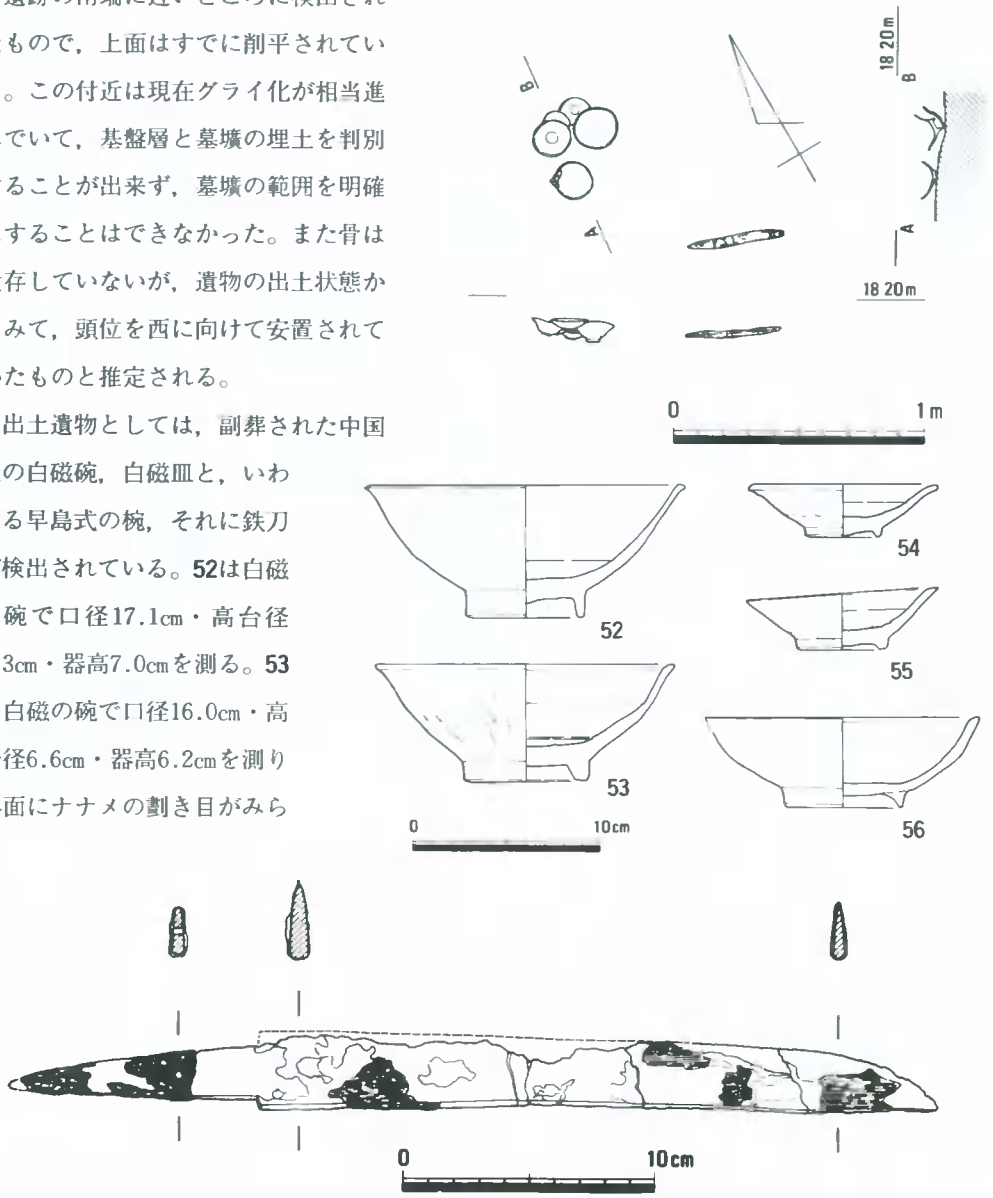
ある。21・22は土師質の椀，23～26は尖底気味の製塩土器片とみられる。27は手捏ねの土師質椀，28はタコ壺片，29～48は須恵器の蓋・杯身・皿等の土器片である。

4　中世の遺構・遺物

(1) 中 世 墓

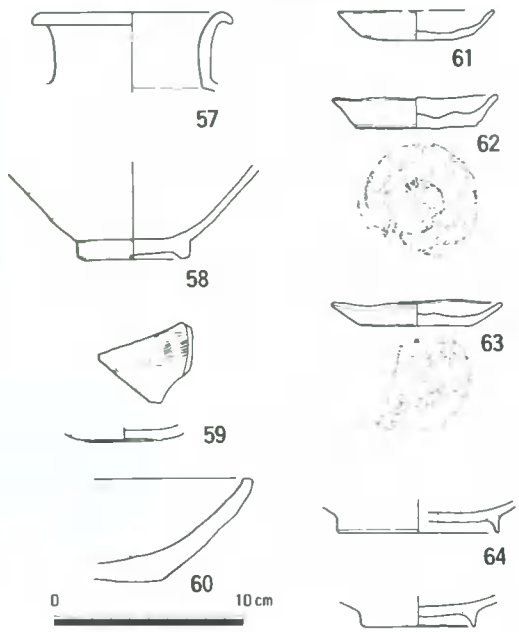
遺跡の南端に近いところに検出されたもので，上面はすでに削平されている。この付近は現在グライ化が相当進んでいて，基盤層と墓壙の埋土を判別することが出来ず，墓壙の範囲を明確にすることはできなかった。また骨は遺存していないが，遺物の出土状態からみて，頭位を西に向けて安置されていたものと推定される。

出土遺物としては，副葬された中国製の白磁碗，白磁皿と，いわゆる早島式の椀，それに鉄刀が検出されている。52は白磁の碗で口径17.1cm・高台径6.3cm・器高7.0cmを測る。53も白磁の碗で口径16.0cm・高台径6.6cm・器高6.2cmを測り外面にナナメの割き目がみら



第10図　中世墓 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)

れる。54・55は白磁の皿で55はやや歪なものである。これらは，いずれも中国製で福建省付近で製作されたとみられるものである。56はいわゆる早島式土器で口径14.6cm・高台径6.2cm・器高4.8cmを測る，乳灰白色を呈する土師質の土器である。また鉄刀は刃部がかなり欠落しているが，鞘および柄の木質部が付着して遺存している。復元推定全長は36.9cmで，刀身長27.1cmを測る。関部分の幅は刃部が欠損している為判然としないが，3.1cm程と推定される。目釘穴は１孔あり，刃部は反りが少なく直線的である。



第11図　包含層の出土遺物　(1/4)

(2)　包含層の出土遺物

遺構に伴わない遺物としては，中国製の青白磁・鉢・土師質の小皿・早島式の土器等がみられる。57～59は中国製の陶磁器で，57は四耳壺の口縁部片，58は白磁の碗，59は見込みに劃花文の描かれた同安窯系の皿である。この他にも細片で図化することができなかったが，劃花文の描かれている龍泉窯の椀や玉縁をもつ白磁の小椀の口縁部片等が出土している。これらはいずれも12世紀代のもので概ね中葉から後半のものである。60は小片で口径は不明であるが東播系の捏鉢である。61～63は土師質の小皿である。64・65はいわゆる早島式椀の貼り付けの高台部分の破片である。

第４節　小　　結

今回の発掘調査は，一部の包含層がすでに削平された状態で調査に入ったこと，また遺構面が現在ではかなりグライ化が進んでいたこともあり，遺構の検出はかなり困難なものとなったが，遺構は主として黒灰色土・黒灰色粘質土において検出されている。この黒灰色土・黒灰色粘質土の包含層からは，弥生時代から中世に至る各時期の土器等の遺物が出土している。極細片ではあるが，緑釉陶器も１点出土している。また，建物－１のＰ－２からはガラス滓が出土している。量的に最も多かったのは，建物跡がみられる奈良時代頃のもの，次いで弥生時代中期後半期のものである。日本では，12世紀代の遺構から多く出土している，中国製の陶磁器が副葬されていた中世墓の時期と併行する土器も認められている。この他に量的には少ないもの

の古墳時代前半の製塩土器片も出土しているなど，多様な時期にこの地で生活が営なまれていたことが明らかになった。（内藤）

第16章　菰池（こもいけ）オレントウ遺跡の調査

第１節　遺跡の位置

主要地方道玉野・玉島線から児島元浜町で西に折れ，県道味野・呼松倉敷線に入り下津井電鉄の踏切りを越え１㎞程行った南側，鷲羽山スカイラインの東側で，北に延びている尾根のかなり急な北西斜面上，標高40～45ｍ程のところに位置する。

この尾根から東の谷を挟んで菰池遺跡があり，谷の奥には菰池越遺跡がある。また北側は，その当時東から海が入り込んでいたと思われる，現在水田となっている低地部分を隔てて，竜王山に面している。

第２節　調査に至る経緯

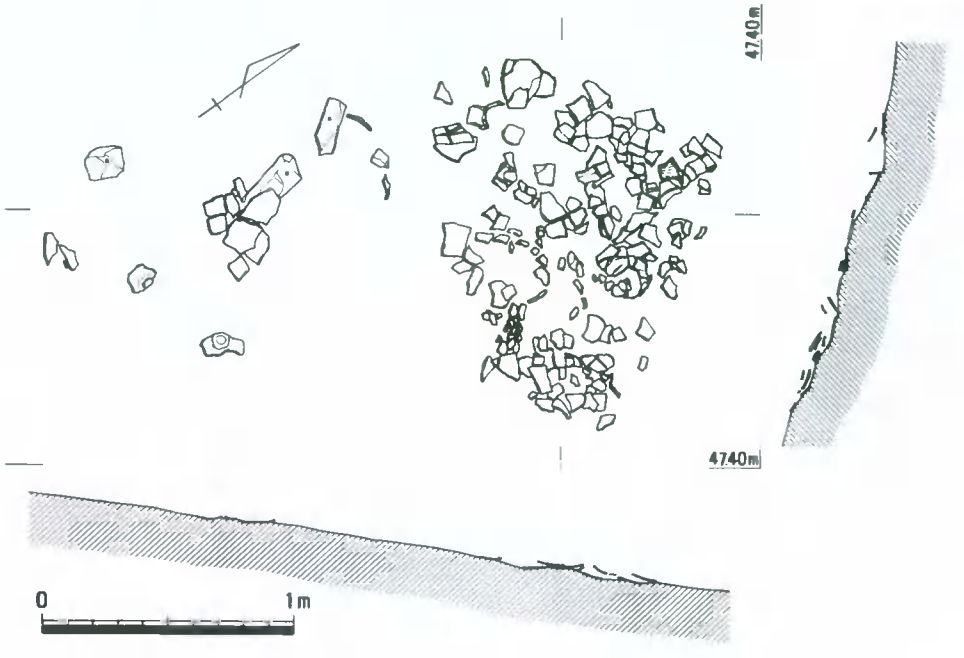
城山散布地の調査を行っていた，昭和60年８月菰池遺跡から谷を挟んだ西の尾根の掘削工事中に，土器片がまとまって出土し新たに遺跡が確認されたものである。すでに工事に入っていたことでもあり，いったん城山散布地の調査を中断して，工事が盆休みに入った８月13日より発掘調査に入った。発掘調査は土器片がまとまって出土した地点を中心に周辺部の削り出し，およびトレンチによる確認を行ったが，先に土器片の出土した付近以外に遺構・遺物等は検出されず，８月23日にすべての調査を終了した。

第１図　遺跡位置図　(1/4,000)

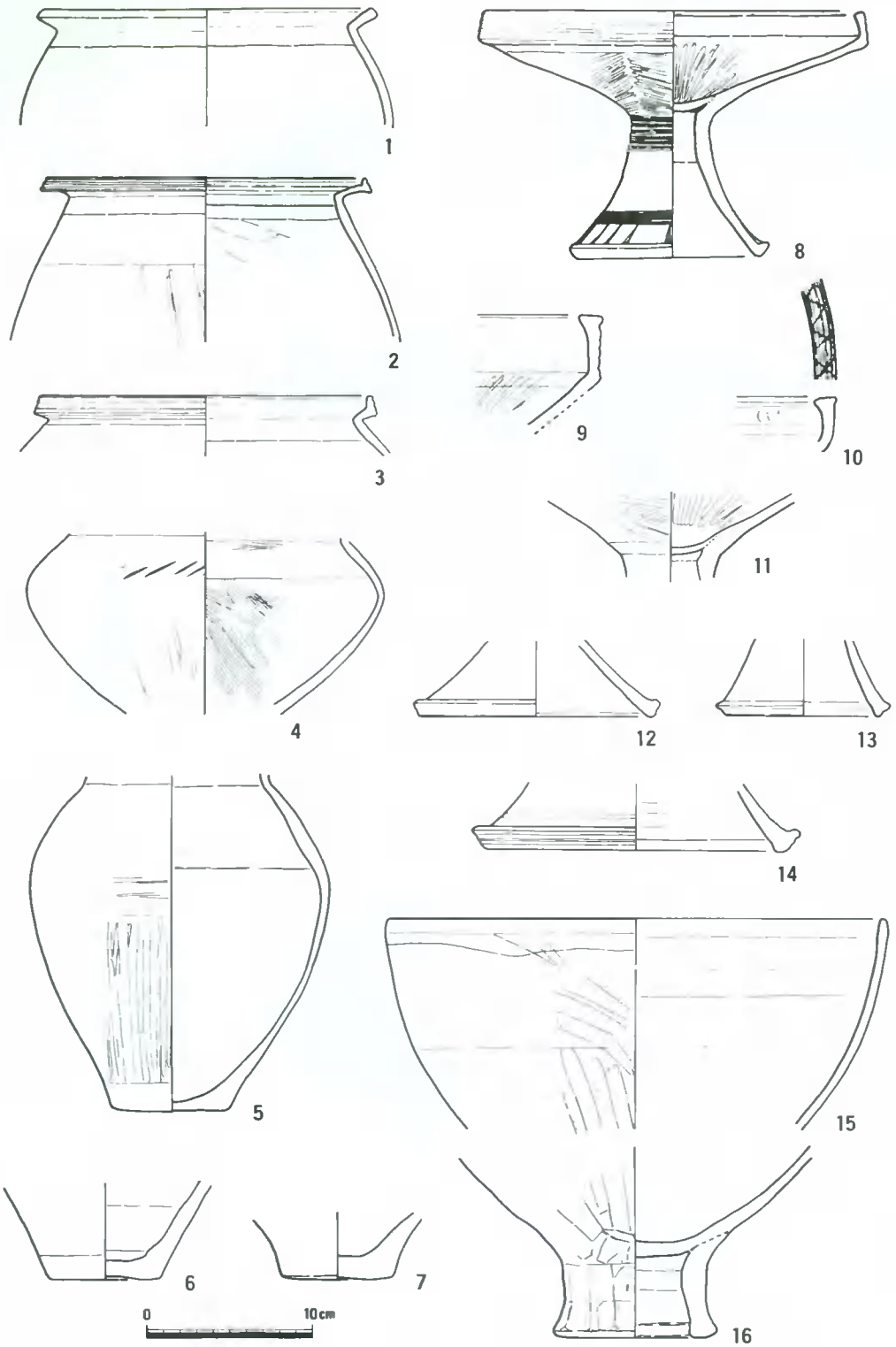
第３節　調査の概要

標高47ｍ程の北西斜面において，東西250㎝・南北130㎝程の範囲に土器片がまとまって出土している。特に，北東部を中心にして土器がかたまって認められ，西部には10～30㎝程の角礫が散見される。これらの角礫は転落した自然石と思われる。遺物を覆っている土は，地山によく似た明黄褐色微砂の花崗岩風化土であり，地山との区別が判然としない為，範囲を明確にすることはできなかった。出土している土器は，まとまった範囲にのみ見られ，個々の破片もかなり大きなものが多く，割れ口もほとんど磨耗していない。これらの土器は遠く離れたところにあったものが流されてきて堆積したものではなく，出土した斜面のすぐ上方にあったものが転落して，土器溜りを形成した状況を呈している。この土器溜りの周辺部について遺構精査を行ったが，この他に遺構・遺物とも検出することはできなかった。

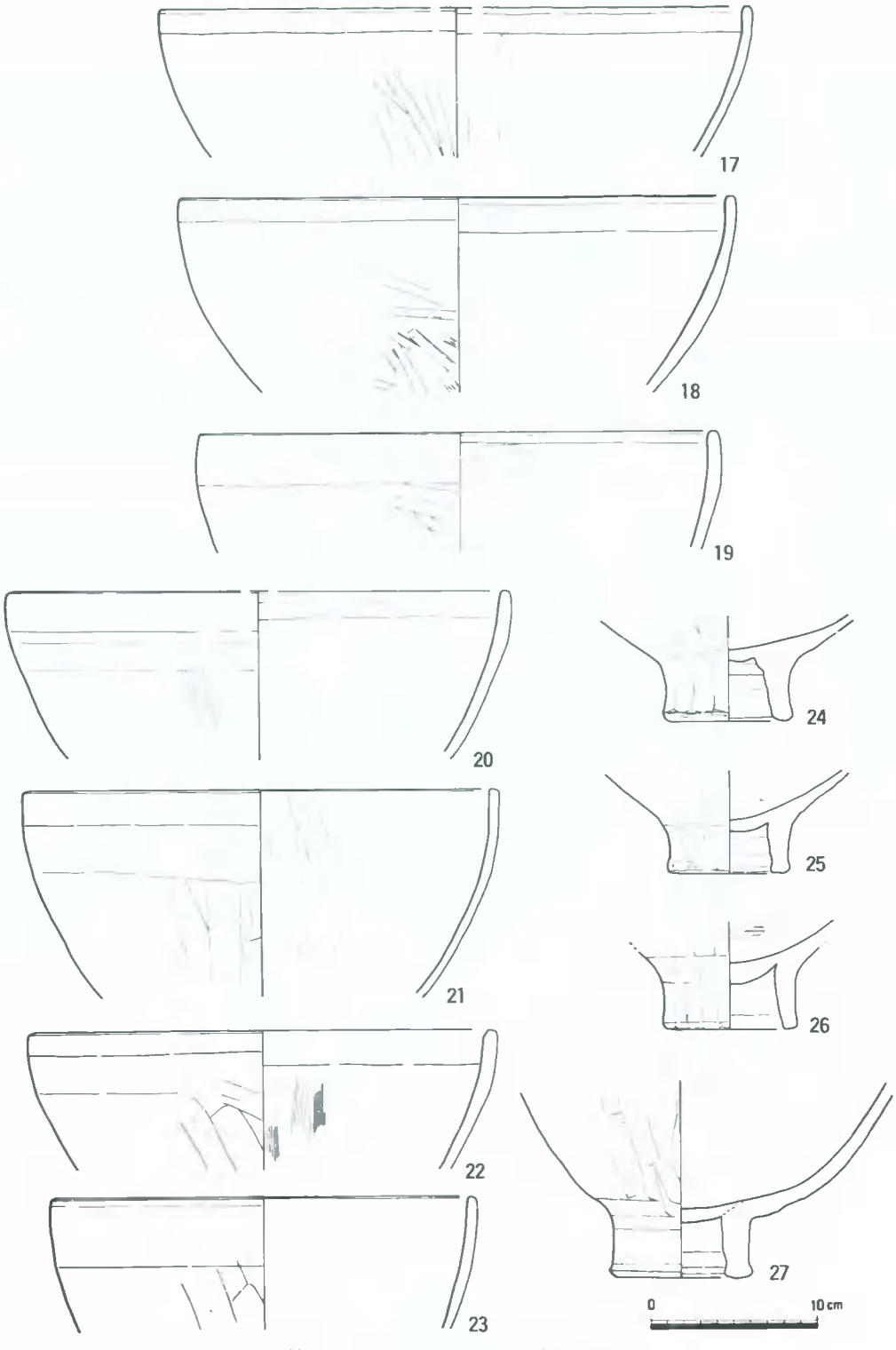
出土遺物としては，壺・甕・高杯・鉢・台付鉢等の土器がある。甕形土器（１～３・５～７）は，口縁部がくの字状に外反しやや肥厚するもの，肥厚した口縁端面に凹線が数条巡るもの，口縁端部が少し上方に立ち上がるもの等がある。胴部は中央より少し上方において径が最大となる。調整は，器壁が荒れていて判然としないものが多い。８～14は，高杯形土器で，８は口径22.4㎝・脚径10.8㎝・器高14.8㎝を測るほぼ完形のものである。やや内傾気味に立ち上



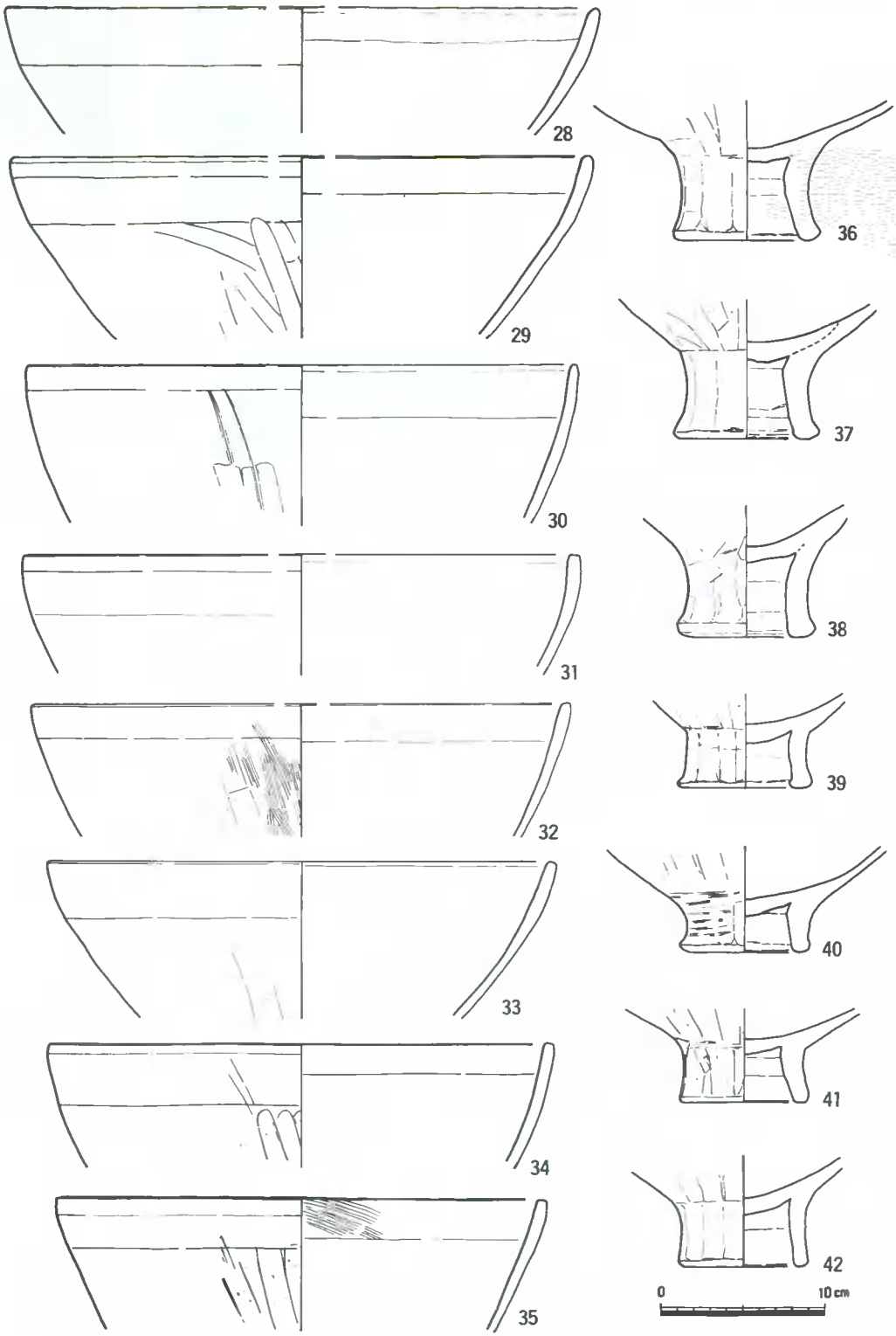
第２図　土器溜り遺物出土状況　(1/30)



第３図　土器溜り出土遺物(1) (1/4)



第4図　土器溜り出土遺物(2) (1/4)



第５図　土器溜り出土遺物(3) (1/4)

がった口縁外面に３条の凹線文が巡る。ハの字状に開いた脚部にも凹線文を施し，裾部に三角形の透しが巡っているが，いずれも貫通していない。杯部は内外面ともヘラミガキされている。**9**は大型の口縁部片で，肥厚しながら立ち上がった外面に凹線文が巡る。**12～14**はハの字状に開いた脚部片で，**14**は端部を僅かにつまみ上げ，凹線文を施している。**15～42**は台付鉢形土器である。**15**と**16**は同一個体と思われるもので，口径29.4cm・台部径9.7cm・復元器高約22.2cmを測る。椀状を呈する杯部は，口縁部がヨコナデされ，体部外面はナデおよびヘラケズリで調整されている。台部は指頭ナデにより成形され，端部はそれ程広がらないでおさめている。**17～23・28～35**は杯部片で，口径36.0cmから25.0cmのものまで様々である。形状も椀状を呈するもの，逆ハの字状に開くもの，開きながら口縁部付近で上方に立ち上がっているものなどがあるが，口縁端部はあまり肥厚しないでそのままとめている。なお，口径の大きなものの中には，推定のものが含まれている。調整は，器壁面の荒れているものが多く一概にはいえないが，口縁部はヨコナデ調整されている。体部は一部外面にハケメ調整がみられるもの（**20・32**），内面の一部にハケメのみられるもの（**17・22・35**）もあるが，大半は粗くヘラケズリし，指ナデ調整をしただけの粗製の土器である。**24～27・36～42**は台部片である。台部径は８cm前後であるが，高さは３cm前後のものから５cm程のものまで様々である。形状は端部に向ってやや広がるものと，まっすぐそのまま下がるものとがある。端部は，そのままとめているものと僅かに肥厚してまとめているものとがあるが，指頭により成形した後外面を粗くヘラケズリしているだけのものが多い。**40**は外面の一部が平行タタキで調整されている。これらの出土遺物からみて，この土器溜りは弥生時代中期後半のものと考えられる。

第４節　小　　結

ここで出土した土器群には器種に片寄りがある。若干の甕・鉢・高杯がみられるものの，大部分は台付鉢形土器である。この台付形土器は，児島・上之町保育園内遺跡[註1]（池尻遺跡）の報告において，製塩土器と推測され，児島城遺跡の発掘調査報告書[註2]において製塩土器として器形分類されているものと同様のもので，杯部の口径が30cm前後の大型の土器で，ナデとヘラケズリで調整された粗製の土器である。この粗製の土器のみが異常に出土しているということは，一般的な集落址を中心とし弥生遺跡とは異なった遺跡であることを示している。　　（内藤）

註

註１　間壁葭子「倉敷市児島上之町保育園内の遺跡」『倉敷考古館集報第６号』　1969年

註２　岡山県教育委員会　『岡山県埋蔵文化財報告19』　1977年

第17章　城山（しろやま）散布地の調査

第１節　遺跡の位置

阿津走出遺跡の北に存在する独立した丘陵で，城山と呼ばれている。現在東は，県道を隔てて競艇場の駐車場になっているが，戦前にはこの丘陵下まで海が来ていたということである。また南側も阿津走出からの入江が細長く谷状に入り込み，周囲と隔絶した地形を示す。

第２節　調査に至る経緯

菰池遺跡の発掘調査が終った後に，城山散布地の確認調査を実施した。城山散布地については，阿津走出遺跡の調査と併せて実施するよう協議を重ねてきたが，地権者との話合いがつかず，延び延びになっていた。最終的には用地中央部の一部が未解決で，他については了解をえた。一応この未解決部分を除外しても，遺構の広がりを把握するのに支障がないという判断をおこなったのである。

第３節　一次調査の結果

城山散布地は，本州四国連絡橋陸上ルート建設予定地内における分布調査において，丘陵頂部に城址の存在が云われていることが記録されている。また再度踏査した結果，丘陵全体が段々に開墾されていることが認められた。このような状況で城を想定して，平坦部から斜面部にかけて３か所トレンチを設定したのである。

３か所のトレンチのいずれにおいても表土下20cm内外で花崗岩の基盤に達する。このことから地形図に示したごとく開墾による削平が激しく，旧来の地形を留めていないことが確認された。このようなことから今回の調査で終了した。

第１図　トレンチ調査位置図
(1/3,000)

第18章　柳田（やないだ）散布地の調査

第１節　遺跡の位置

県道塩生・玉野線を入り，小厚池の北側丘陵にあたる。標高115ｍほどあり，南東へのびる丘陵が鞍部を形成している地点である。

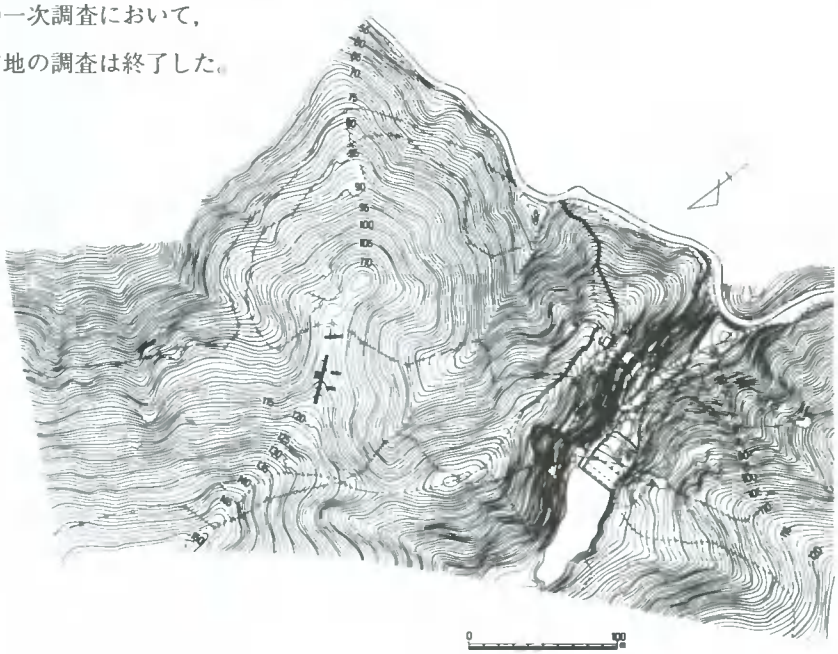
第２節　調査に至る経緯

稗田地区の道路部ルート変更に伴い分布調査の結果，何らかの遺構の存在が予想された。調査は菰池遺跡の調査終了後，伐採等の条件整備が終了後に実施された。

第３節　一次調査の結果

丘陵鞍部についてトレンチを設け実施した。Ｔ－１の中央附近で表土下80㎝ほどで炭焼土，灰の層を認める。この部分について北東側に拡張し追求するが，灰層の中に焼土と炭化粒が含まれており，堆積状況は表土から認められる。このことから，比較的新しい段階で火を使用したと推測される。Ｔ－２～４は，表土下20㎝ほどで黄褐色の基盤層に達する。

今回の一次調査において，
柳田散布地の調査は終了した。



第１図　トレンチ調査位置図（1/5,000）

第19章　稗田（ひえだ）散布地の調査

第１節　遺跡の位置

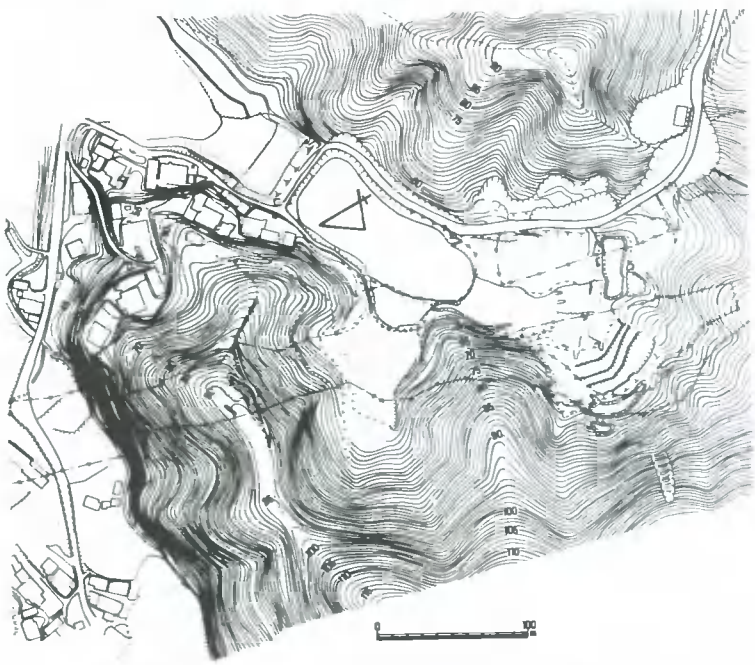
県道宇野津・下之町線の稗田十字路を西に走った南側の丘陵上にあたる。標高207ｍほどの神道山から派生する丘陵にあたり，頂部は比較的広い平坦面を有する。

第２節　調査に至る経緯

稗田地区の道路部ルート変更に伴い，分布調査の結果，丘陵頂部が広い平坦部を形成していることから，何らかの遺構の存在が想定された。

第３節　一次調査の結果

丘陵平坦部は墓地になっており，まだ移転がおこなわれていなかった。したがって，調査は墓地と墓地との間でトレンチが設定できる地点について１か所設けたのである。その結果，表土下で黄褐色土の基盤層に達する。他の確認できる部分も削ってみたが，やはり基盤層がすぐ露出する。このことから墓地造成で削平されたと考えられ，今回の調査において終了した。



第１図　トレンチ調査位置図　(1/5,000)

第20章　稗田佐古（ひえだ さこ）遺跡の調査

第１節　遺跡の位置

県道岡山・児島線の稗田十字路を西にまがり，県道宇野津・下之町線に入る。この県道が走る谷の狭った所の北側丘陵上で，稗田散布地を南西側に谷をへだてて望むことができる。丘陵は標高233ｍほどで，正面山から南へ派生する細長くのびた鞍部となる。

第２節　調査に至る経緯

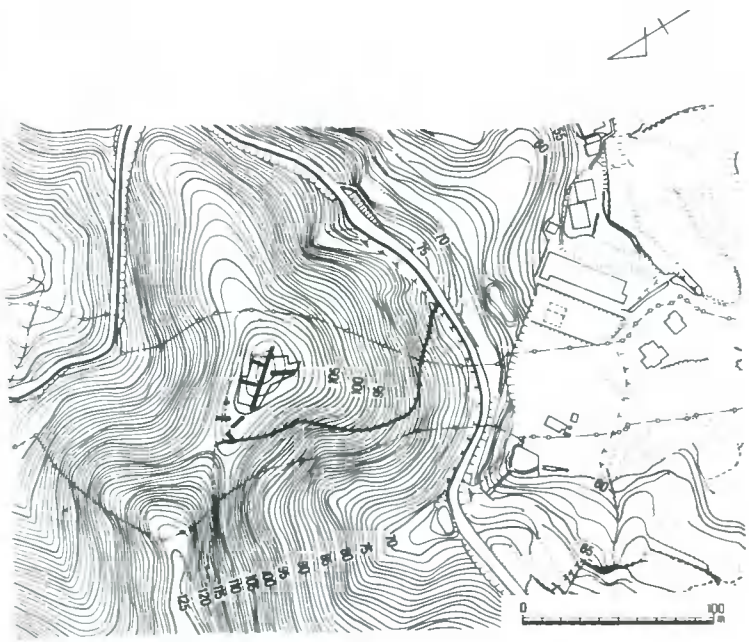
稗田地区の道路部ルート変更に伴い，分布調査を実施した結果，鞍部が広い平坦部をもち稗田の低地を望むことなどから，何らかの遺構の存在が予想されたのである。

第３節　一次調査の結果

調査は中央部のトレンチをまず設定し，遺構の検出につとめた。表土下10cmほどで淡黄灰白色土の基盤層に達し，その面に焼土ブロックのあることがわかった。このためこの焼土ブロックの広がりをみるため，さらに４か所のトレンチを設け，焼土ブロックが数か所確認できたのである。さらに丘陵北斜面に幅30cmほどの道状のものがあらたに認められたのである。

第４節　調査の概要

一次調査の結果を受けて，焼土面の存在が予想される丘陵平坦部の全面表土を剝いで調査を実施した。その結



第１図　調査区位置図　(1/4,000)

果，７か所の焼土面を検出することができた。また，北斜面に検出された道状の遺構は，大池から登ってくる山道と重なることが明らかとなった。

1は，長径53cm，短径35cm，深さ２cmを測る楕円形のプランを示す。埋土に炭化粒を含み，土壙周辺は焼けていない。

2は，長径84cm，短形80cm，深さ15cmを測る円形のプランを示す。埋土は焼土ブロックであり，土壙周辺は焼けていない。

3は，150×140cmの範囲に不整形な土壙がみられ，深さ３～８cmを測るものである。不整形な土壙であるが，検出時における掘り下げのため深い部分のみ残されて，現状のプランを示したものと考えられる。埋土は炭化粒と焼土ブロックが認められるが，土壙周辺は焼けていない。

4は，48×43cm，深さ20cmを測る円形の土壙である。埋土は焼土ブロックと炭化粒を含む。

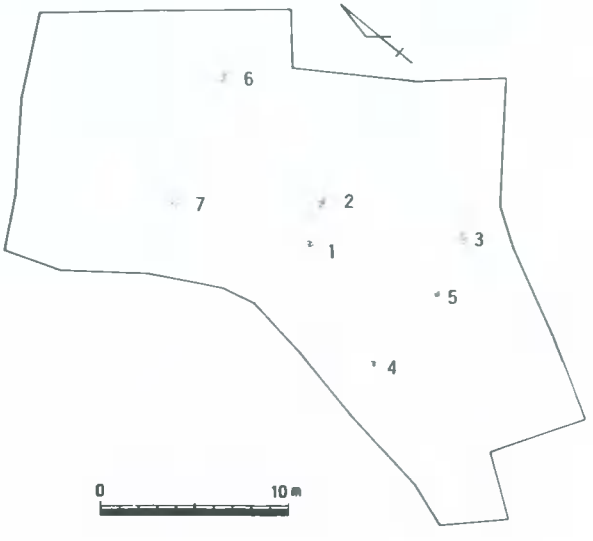
5は，48×35cm，深さ12cmを測る円形のものである。埋土は焼土ブロックと炭化粒であり，掘り込み面は焼けていない。

6は，140×80cm，深さ８cmの方形の掘り込みがある。埋土は焼土ブロックと炭がみられる。

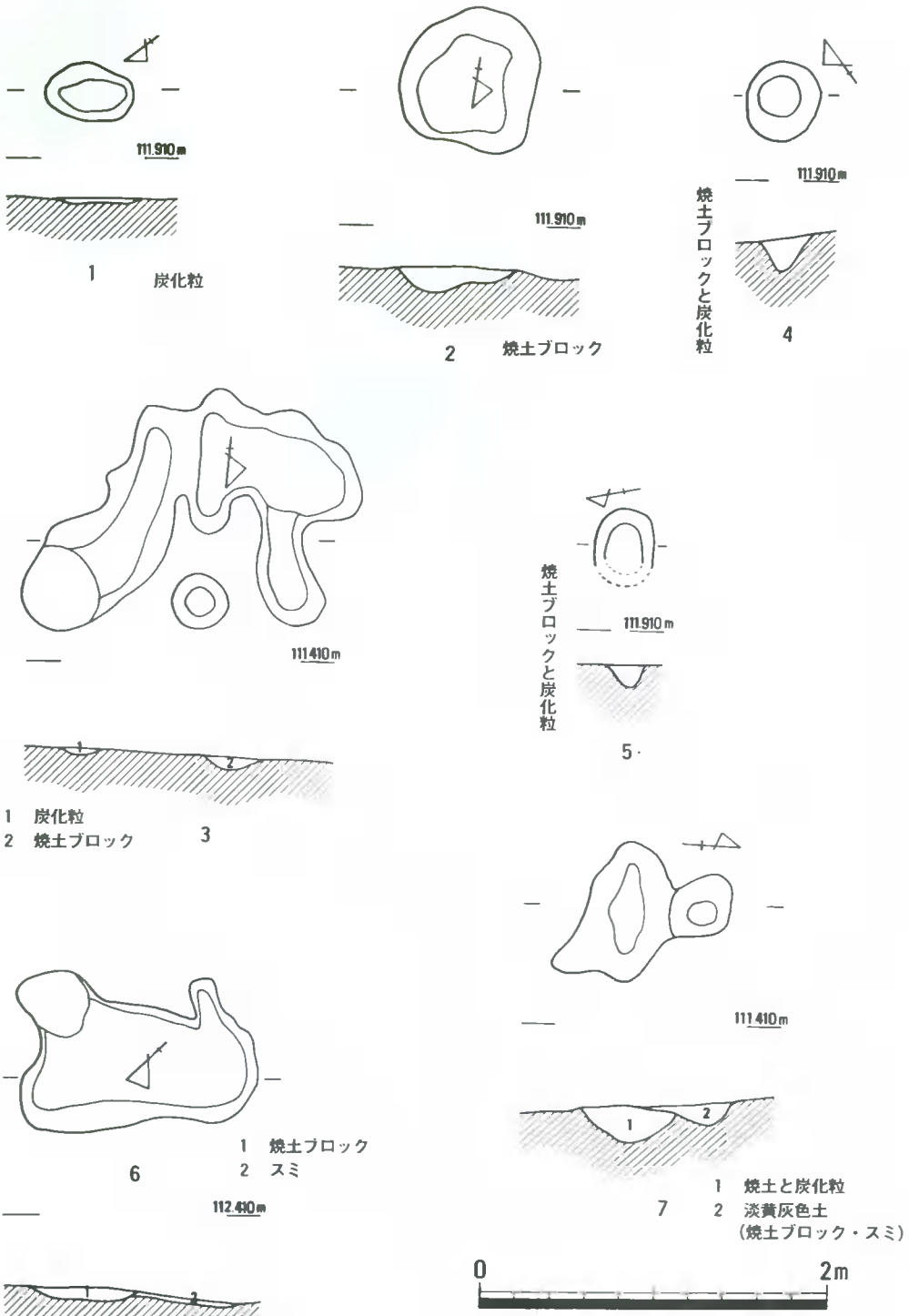
7は，85×80cm，深さ13～32cmを測り，２つ重複した状態で検出された。これは**3**と同様に検出時の掘り下げのため，深い部分のみが残されて現状のプランを呈したものと考えられる。埋土は焼土と炭化粒を含んでいる。

以上が焼土を有する掘り込みであるが，埋土中に焼土ブロックと炭化粒のいずれも含まれている。しかし，掘り込みの面は全く焼けていないのである。粘土面の位置する所も丘陵鞍部の平坦部に限られており，斜面側には認められなかったのである。また遺物も全然認められなかった。このようなことから，かなり新しい時期に焚火をした後，火を消すために掘られたものと考えるのが妥当であろう。

道状の遺構は，先に述べたように正面山に登る山道である。鞍部で低くなる所は土盛をして道をつくっている。この道は，現在でも佐古から丘陵を縦断する状況で林の間を通っている。



第２図　遺構配置図　(1/400)



第3図　遺構実測図　1/40

第21章　小川（おがわ）散布地の調査

第１節　遺跡の位置

主要地方道岡山・児島線が児島味野で，主要地方道玉野・玉島線に出る。この道は海岸沿いに２kmほどいき，遺跡はこの北側の丘陵上に位置する。この丘陵は山際紫山遺跡から続くもので，海よりの標高92ｍの地点が最も高く，そこから南へのびる支丘を形成している。

第２節　調査に至る経緯

トンネルの開口部にあたるが，工事が北から進んでいること，南側は橋脚となり工事がおこなわれていることなどから，この谷部については用地買収がなかなか進捗していなかった。60年度末の公団との協議で，61年度早々に調査可能になるとの話があった。このことにより，稗田佐古遺跡と並行して調査を実施しなければならなくなった。

第３節　一次調査の結果

谷部に３か所のトレンチを設け，遺構検出をおこなう。Ｔ－１は表土下230cmほど下げて，暗茶褐色土のみの堆積土である。この暗茶褐色土は花崗岩の風化土であり，土色の変化はみられない。Ｔ－３は，家屋の移転部分にグリットを設け掘り下げたが，攪乱が著しく充分な把握ができなかった。他の畑の段々も削って土層等を検討したが，包含層は認められなかった。このようなことから，一次調査において小川散布地の調査を終了した。

第１図　トレンチ調査位置図（1/3,000）

第22章　結　　語

第１節　縄文土器について

ここにおいては，先に小結で個々に述べた舟津原遺跡と阿津走出遺跡の縄文土器について，あらためて時期ごとに検討を加えてゆきたい。

なお，両遺跡については，各時期における類別が異なるため表－１にその関係を示しておく。

表－１　舟津原遺跡・阿津走出遺跡出土土器類別対照表

遺跡＼時期	前期		中期					後期			
舟津原遺跡	Ⅱ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅳ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
阿津走出遺跡	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ

前期　舟津原遺跡においては，ⅠからⅤ類に類別することができた。阿津走出遺跡では，ⅠからⅡ類に類別された。両者が同様の内容を示すのは，舟津原Ⅱ類と阿津走出Ⅰ類，そして舟津原Ⅳ類と阿津走出Ⅱ類である。前者は磯ノ森式に，後者は彦崎ＺⅡ式または里木Ⅰ式に相当するものである。阿津走出遺跡においては，２型式を認められたが，出土量は他の時期に比較して極めて少ないのである。また，土器の継続性が認められておらず，安定した時間的幅を形成するに至っていないことがうかがわれる。一方，舟津原遺跡は，磯ノ森式より前段階に属すると考えられる舟津原Ⅰ類が１片であるが検出されており，それ以降前期末の段階まで認めることができた。特に，Ⅳ類とⅤ類の出土量は，他の前期の遺物量に対して比較的多い傾向を示していることが注目される。Ⅱ類については，磯ノ森式を出した貝塚が接していること，さらにⅠ類については，同貝塚から磯ノ森式より古い時期のものが出土していることから理解できる。しかしながら，磯ノ森貝塚では，Ⅲ類以降から，出土が知られていない。このことは，磯ノ森貝塚の周辺域の時間的幅にかかわると思われるが，いずれにしても阿津走出遺跡とは逆に，前期の末まで安定した生活の場を形成していたことが知られる。

中期　舟津原遺跡においてはⅠ類からⅤ類に，阿津走出遺跡ではⅠ類からⅧ類に分けた。両者が同じ内容を示すのは，舟津原Ⅰ類と阿津走出Ⅱ類，舟津原Ⅱ類と阿津走出Ⅳ類，舟津原Ⅲ類と阿津走出Ⅴ類，舟津原Ⅳ類と阿津走出Ⅵ類，舟津原Ⅴ類と阿津走出Ⅶ類である。舟津原Ⅰ類とⅡ類及び阿津走出Ⅱ類～Ⅳ類は，船元式とされるものに含まれると考えられる。これは，

結　　語

この型式に特徴的に認められる縄文原体から判断される。この船元式よりも古くなるのが阿津走出Ⅰ類であり，この土器に施文される縄文原体は，先の船元式と明らかに異なることから判断された。またこの土器と同じ内容を示すものが，鷹島遺跡における第２類とされる。鷹島遺跡においては，『船元式の名で総称されてきた土器に包括されるが，（中略）その中でも最古の位置をしめるものと考える。』[註1]と述べ鷹島式と名付けている。また，層序においては，船元式よりも下層から出土していることが認められている。このようなことから，阿津走出Ⅰ類を鷹島式とした。なお，船元式の範疇でこれを把握してよいのか否かについては問題があろう。里木貝塚の報告においては，このⅠ類のキャリパー形の器形で内面に肥厚した縄文帯を有する同じ内容で，外面に爪形文を有する船元Ⅰ式Ｂ類について，『鷹島式と呼ばれるものに酷似する』[註2]また，鷹島の報告書中においても酷似する土器としている。しかし，鷹島式の特徴としている底部が五角形あるいは四角形となることについては，里木貝塚の報告書中[註3]にその存在が認められている。さらに，縄文原体についてもこれと同一の内容を示していることから，船元式の範疇あるいは鷹島式に酷似するものではなく，鷹島式そのものと判断するのが妥当であろう。分布については，鷹島の報告以外に鳥取県目久美遺跡[註4]，長崎県百花台遺跡[註5]，福岡県四箇遺跡[註6]において良好な資料が出土している。

次に舟津原Ⅲ類と阿津走出Ⅴ類，そして舟津原Ⅳ類と阿津走出Ⅵ類の型式名である。前者は縄文地文が深浅交互となるものであり，後者は撚糸文を地文とするもので，両者の縄文原体において顕著な相違が認められる。深浅交互の縄文を有するものは，里木貝塚において船元Ⅳ式とされている。一方この土器を高橋護氏は，里木Ⅱ（古）式[註7]とされている。しかし，この両者の型式内容の説明は，その差異を認めることができず，このことは，次の舟津原Ⅳ類と阿津走出Ⅵ類についても同様な問題を生じせしめている。具体的には，里木貝塚においてはこれは里木Ⅱ式とし，高橋護氏は里木Ⅱ（新）式[註8]とされている。やはり先と同様に，その内容説明について差異を認めることができない。この問題については，里木Ⅱ式を設定した山内清男氏による内容説明が不充分なことが起因するものであろう[註9]。しかしながら，この里木Ⅱ式の設定の根拠として示されている高橋護氏の見解を，それぞれが対応する型式について型式名称を異にしながら用いていること[註10]からすれば，その見解を矛盾しないものと判断し使用されていると理解する。したがって，型式内容は同じであるが，型式名称が異なるということが存在していたことになるのであろう。

舟津原Ⅴ類と阿津走出Ⅶ類は，前段階の撚糸文の地文に変り，アルカ属の条痕を地文とした。この土器は，里木貝塚の里木Ⅲ式とされたものであり，福田Ｃ式と同じものである。

中期の最終段階は，阿津走出Ⅷ類である。舟津原遺跡においての当該期に相当する土器は編年図中に示していないが，７点ほど図示している。この７点は，**80**から**86**でありⅧ類と対応す

る。これらの土器は，出土量が少なくその内容を充分に把握できかねる。しかし，地文にアルカ属の条痕をもつもの，細い波状を描くものなど前段階の様相を残すが，そこに描かれている沈線はいずれも太くなっている。また，口縁部に沈線の区画を設け，その中に刺突文を施しているものがみられる。この土器は，京都府北白川追分町縄文遺跡[註11]において，中期末に属するものに認められている。磨消縄文は明確に表現されないようであり，縄文の撚りはＲＬ・ＬＲの両者が認められる。このような内容を示すものは，先に述べたごとく具体的にその類例を示すのは困難である。時期については，北白川追分町縄文遺跡などから中津式の前段階とするものであり，中期末に相当すると考えられるのが妥当であろう。

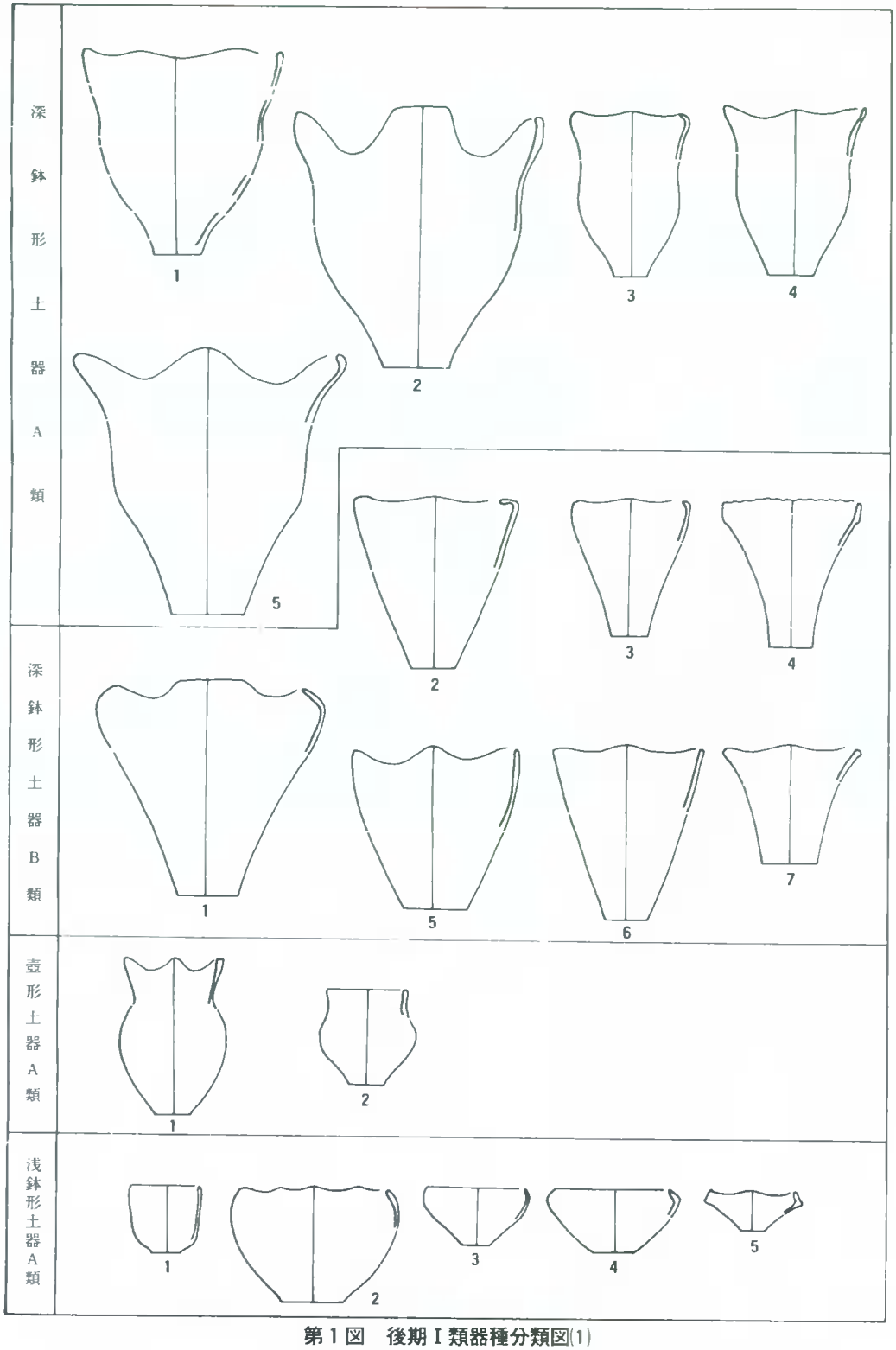
このようにみてゆくと，舟津原遺跡においては，中期初頭の型式が認められず，船元式になってからであり，その船元式も継続することはなく，その最も新しい段階から継続して認められる。一方，阿津走出遺跡においては，中期初頭から中期末まで認められている。鷹島式とそれに続く船元式の縄文原体は，いずれも特徴のあるものである。阿津走出遺跡における両者の継続は，これら縄文原体にみられる縄に用いられる繊維の，生活の場における使用域での有用性が格段に進んだことが理解される。このことは，これらの縄がその縄文原体の内容から，極めて堅く強い繊維によってつくられていることがうかがえる。そしてこのことが使用価値の高まりをもたらし，これらの分布域の拡大の最大の要因になったことが充分に考えられる。阿津走出遺跡の継続は，これらを背景として安定した生活の場を形成していったものと想定される。また，舟津原遺跡での空白期の存在は，この遺跡から東へ約1.4㎞の所に所在する船元貝塚と密接な関りをもっていたことがうかがわれる。

後期　舟津原遺跡においては，初頭から後半に至るまでの型式が認められている。阿津走出遺跡では，前半まで認められているがこれ以降は型式が認められない空白期が存在しているのである。このうち両遺跡でⅠ類としたものは，中津式の内容を備えたものである。特に阿津走出遺跡における当該期の出土量及び内容は，周辺地域の出土遺物からこの期の編年がなされている状況下において，中津式の基準的な資料を提供することができたものと判断された。ここでは，両遺跡出土のⅠ類の内容を検討することによって，中津式の概要を明らかにしてゆきたい。

器形は，深鉢形土器，壺形土器，浅鉢形土器が認められている。以下それぞれの器種について略記しておく。

深鉢Ａ類（第１図）は，文様を施文し胴部に屈曲を有するものである。口縁部の内容から５類に細分した。

深鉢Ｂ類（第１図）は，文様を有し胴部の屈曲をもたないものである。口縁部の内容から７類に細分した。



第1図　後期Ⅰ類器種分類図(1)

壺Ａ類（第１図）は，文様を施文し口縁部の内容から２類に細分した。

浅鉢Ａ類（第１図）は，文様を施文しその器形及び口縁部の内容から５類に細分した。

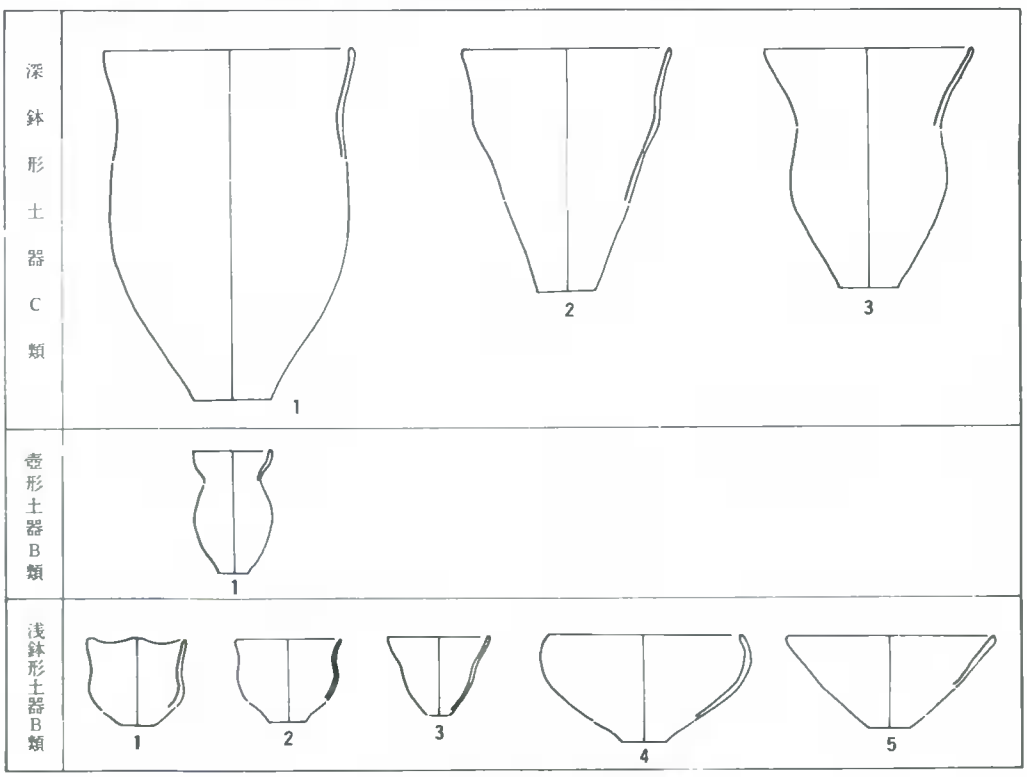
深鉢Ｃ類（第２図）は，文様の施文がなく巻貝による条痕地文とするものである。その器形から３類に細分した。なお口唇部に大きめのキザミを施しているものが認められる。

壺Ｂ類（第２図）は，文様の施文がなく巻貝による条痕地文とするものである。なお，口唇部に円形刺突文が存在している。

浅鉢Ｂ類（第２図）は，文様の施文がなく巻貝による条痕地文あるいは平滑に仕上げているものである。その器形から５類に細分した。

この分類したうち深鉢Ｃ1類と壺Ａ1類は，舟津原遺跡出土のものであり，他は阿津走出遺跡出土のものである。これらの土器における胴部以下は推定復元である。しかし，深鉢Ａ1類は口縁部から底部に至るまで破片が認められており，この形態としてさしつかえないと考えている。壺Ａ1類については長胴のものを想定したが，阿津走出**522**や**538**にみられる底部にいたる屈曲や頸部から胴部の屈曲を考慮するならば，より球形の胴部の存在が想定される。いずれについても，この段階において有文土器と無文土器の分離がなされていたことが理解される。

文様は，磨消縄文と巻貝条痕の地文に沈線文を描く２種類である。磨り消しは，縄文を用い



第２図　後期Ｉ類器種分類図(2)

たものと巻貝を回転させて縄文の効果を出す擬縄文によるものとがある。文様の施文内容は，掲載図中にその地文の具体的順序が判別された73個体について観察し，以下のような結果をえた。

ａ－縄文を施文した後に沈線を描くもの　64.4%
ｂ－沈線を描いた後に縄文を施文するもの　17.8%
ｃ－ａ，ｂ２種とも認められるもの　5.5%
ｄ－見込沈線を認めるもの　12.3%

このうちｃの施文が認められる阿津走出**350**の右の図は，波頂部から垂下する鉤状文の左に口縁に沿って描く文様が沈線の後に縄文を，そして鉤状文の屈曲する先端の右側に連続して文様となる部分が縄文を施文した後に沈線を施している。ｄの見込沈線とは，阿津走出**512**でみると，沈線を引く時にできる粘土の隆起を調整していないために明らかになったのである。つまりこの隆起帯の下に縄文の施文が認められた。このことは，文様を施文するにあたりあらかじめ細い線で文様の輪郭を描いていたことが理解されるのである。

文様の具体的構成内容は，この期の時間的流れを把握するのに主要な要素となり，これまでの編年について再検討できうる内容を備えている。ここでは，紙面の関係からその流れの概要を述べることにする。

前半の内容を示すとみられる阿津走出**566**の波状文は，中期後半にみられた細い波状文の影響を多分に受けたことが理解される。阿津走出**503**・**505**・**569**などにみられる垂下する波状文についても加曽利Ｅ式の中に認められる。阿津走出**465**の文様は，北白川追分町縄文遺跡の深鉢AI類ｆと分類されたなかに，口縁に蛇行文とした文様が描かれ，この影響をうかがうことができる。また阿津走出**493**・**494**・**507**についても同じようなことが指摘される。

さらに，阿津走出**438**・**446**・**561**などのように特定の意匠はなく，器面全体に自由な沈線を施している。このように，この段階は中津式の文様意匠を創出する前段階と考えられるのが妥当であろう。

前葉の段階に前後して出現すると考えられるのが，阿津走出**349**である。この土器は，波状文を基調とするものであり，波状文の一部を切ることによって新な文様を創り出している。阿津走出**566**の胴部下半にみられた茸形の沈線が阿津走出**348**・**364**のように，他との組み合せや独立したものとして用いられている。このように具体的意匠としての意識がみられる段階であるが，まだ，明確な鉤状文は認められない時期である。一応これらの内容を示す段階を前葉とした。

中葉は，明確な鉤状文が多用される段階である。また，阿津走出**366**，舟津原**112**のように直線的な文様も多く認められるようになる。鉤状文は，比較的大きく表現する傾向にあり，単独

または連続して描かれている。

後葉は，阿津走出**409・423**のごとく，鉤状文が沈線により画されるのである。また，舟津原**122**では，中葉の鉤状文の表現が弧状になって入ってくるのが，ここでは直線をもって描かれている。そして，阿津走出**513**にみられるように，沈線間の幅が狭くなることなどがこの段階の内容を示している。

後期Ⅰ類の縄文の撚りについては，判読されるものについてその割合を示すとＲＬが全体の42％，ＬＲが９％，擬縄文が13％，無節縄文が１％，沈線文が35％となる。このようなことから，沈線文の占める割合が意外に多く，この期の主要な文様を構成していた。

舟津原Ⅱ類と阿津走出Ⅱ類は同じ内容を示すもので，中津式に続く福田ＫⅡ式とされる。この期は前段階に比較して，器種の減少，文様の内容などにおいて大きな変化が認められるが，ここでは触れない。

舟津原Ⅲ類は彦崎ＫⅠ式とされるものであり，阿津走出遺跡においては出土が認められていない。舟津原Ⅲ類は，同Ⅳ類と阿津走出Ⅲ類の津雲Ａ式とにおいて，編年上の取り扱いに若干の相違が認められている。1955年の『日本考古学講座』[註12]において『包括内容の比重が変わるだけで，他の点でほとんど一致した内容を持っている。』また，1965年の日本の考古学[註13]において『縁帯部に幾何学的な文様を主とする点で，津雲遺跡の曲線的な縁帯文と相違する。』とし，同書中の瀬戸内の土器編年において，彦崎ＫⅠの横に津雲Ａ式をカッコ付けして用い，その説明を『基礎となる正式名称のある型式名』としている。また，間壁忠彦氏[註14]は，津雲Ａ式の横にカッコを付して彦崎ＫⅠ式という表現をし，またその逆の表現もされており両者を同一のものと考えておられるものと理解される。前者は，両者を独立した型式として把握しているのに対し，後者は，両者を含めた内容を一型式とする捕え方と理解される。ここでは，それらについて判断を示す遺物の内容ではない。しかしながら，彦崎ＫⅠと津雲Ａが同一型式であるならば，阿津走出遺跡においても彦崎ＫⅠ式が認められてもよいはずであるが，現在のところⅣ類の津雲Ａ式のものを認めているだけである。ここでは，これ以上について判断できかねるが，舟津原遺跡の編年図においては，前述したようにⅢ類とⅣ類に分けている。

舟津原Ⅴ類とⅥ類は，阿津走出遺跡においてはⅤ類の出土が認められていない。Ⅵ類は，先の論考[註15]によれば彦崎ＫⅡ式に相当する。Ⅴ類は，Ⅳ類に比較し口縁端部の肥厚が鋭角的に顕著ではないが口縁端部をふくらませ気味にした土器が多く認められる。この一群は，Ⅵ類にみられる口縁端部の肥厚がほとんど認められず，口縁端部が面取りをしたように平坦な形状をとる傾向のものが認められるものとは，明らかに異なる内容を示している。このようなことから，Ⅴ類とⅥ類を分け，前者を前述したごとく彦崎ＫⅡ式に，後者は第５章第５節で述べた未命名型式に相当すると考えるのが妥当であろう。

結　　語

舟津原Ⅶ類とⅧ類は，阿津走出Ⅴ類とⅥ類にそれぞれ対応する。これらは，馬取式と福田ＫⅢ式に類似する一群である。舟津原Ⅶ類と阿津走出Ⅴ類は，ヘラ状工具による沈線を用いるもので，これ以外は，次の舟津原Ⅷ類と阿津走出Ⅵ類と同じ内容を示す。このようなことから，巻貝による沈線を施文する前段階として類別した。

舟津原Ⅷ類と阿津走出Ⅵ類は，巻貝によって沈線を施す。この沈線は，巻貝の条痕をそのままとどめているものと，沈線内をミガいているのが認められる。文様は，この沈線以外に沈線間のキザミメ文，巻貝の側面圧痕文，巻貝の先端による刺突文などが認められている。口縁端面の処理は，巻貝によるナデが認められる他に面取りを行って平坦とする傾向が多く認められる。

このような内容を示すのは，馬取式にみられるものであり，県内においてはあまりその内容が明らかでない福田ＫⅢ式とされるものに近いものである。今回舟津原遺跡出土のⅧ類は，従来から不充分であった福田ＫⅢ式を充分補うものであり，出土量及び内容からして型式として把握される。このⅧ類と宮滝式との関係については，前者が波状口縁が発達せず，また沈線が整然としていること，さらに口縁端部の処理についても面取りをおこなうなどの内容をもっている。後者は，これらの逆の内容を示している。このようなことから，Ⅷ類は宮滝式よりも古い様相を示している。なお，舟津原遺跡編年図の後期Ⅷ類下の空欄は，県内においては百間川沢田遺跡[註16]の竪石調査区から出土の一群の土器を考えている。

晩期は両遺跡ともⅠ類からⅤ類に類別することができた。Ⅰ類は，単一の土器の様相を示すものではなく，岡山県内において具体的にまだ把握されていない段階の内容を示す。したがってⅠ類はⅡ類よりも古い様相を示す一群である。ここでは，Ⅰ類をさらにＡ～Ｃに類別することにする。IA類は，舟津原**1050**，阿津走出**871**・**875**・**878**の浅鉢である。この浅鉢は，口径に対し胴部径が大きいか，あるいは同程度の内容を示している。また，口縁部は上方に立ち上がり，外面に沈線を施している。

IB 類は，舟津原**1280**・**1487**，阿津走出**873**・**1055**である。これらは，逆くの字に外反する頸部に，上方に立ち上がる口縁部をもっている。IA のこのタイプに比較して，口頸部と杯部との関係において坏が深くなる傾向を示し，口縁端部の処理も丸味を帯びる。また，３段に屈曲する深鉢もこれに伴うものと考えている。

IC 類は，舟津原**1401**～**1405**・**1071**・**1170**，阿津走出**827**・**921**・**922**・**935**にみられる。舟津原遺跡のものは，粗製の深鉢であり，口縁部を肥厚気味にする特徴をもっている。阿津走出遺跡のものは，長めの口縁部を有し，張り出し気味の肩部をもつものである。

IA 類から IC 類の土器は，前述した如く，岡山県内においてほとんど知見がない。このようなことから，他に類例を示すと，IA 類は浅鉢の内容から鹿児島県上加世田遺跡[註17]，IB 類は鹿児

島県入佐遺跡[註18]，IC類は鹿児島県黒川洞穴[註19]などの出土土器に近い内容を示している。いずれにしてもそれぞれの土器の量が少なく，県内の土器との比較検討が不充分であり，これからの資料の増加をまちたい。

Ⅱ類は，両遺跡とも同じ様相を示すもので，ここではあらためて述べない。

Ⅲ類は，原下層式あるいは谷尻式[註20]とされる内容を含むものである。この両者の関係について，平井勝氏が検討を加えておられる[註21]。この中で，谷尻式と原下層式を編年表において，前後関係として把握されている。このことは，原下層式に突帯文が伴うことからであろう。しかし，突帯文を有する土器3・4は，明確な貼付突帯とならず，また浅鉢7～12[註22]も舟津原式からのケズリ出しの段の影響をまだとどめている内容を示している。このことから，先のごとく時間的前後関係に置かれるか否か検討が必要であろう。なお，このⅢ類の浅鉢においては，口縁端内面がカマボコ状の貼り付けによる肥厚帯が主体を占める。

Ⅳ類は，突帯文を有する土器であり，両遺跡とも同じ様相を示す。これらの土器は，黒土BⅡ式[註23]とされるものに含まれる。先の平井勝氏は，『突帯文土器の総称的意味で使用される黒土BⅡ式は，（中略）もし学史的な名称を残すとすれば，前池式と沢田式の間を埋めるものに限定して使用すべきではなかろうか』[註24]とされ，筆者も限定して使用すべきものと考えている。しかし，その位置付けについては，若干の問題が含まれていると考える次第である。特に，前池式については，遺構部分についての内容が比較的詳しく報告されているが，遺物の出土状態についてはほとんど不明である。また一部公表された図においては，爪形文が口縁部から垂下して施文するものがみられ，この様な土器は，谷尻式あるいは原下層式にみられるものであり，これらに伴出するのであろうか。

このようなことをふまえ，あらためてⅣ類の突帯文について触れる。舟津原**923**と阿津走出**758**は，他の突帯がそのまま器面に貼り付けて断面三角形状を呈するのに対し，これらは，器面を若干凹ませてからカマボコ状の突帯を付すものである。この突帯を伴っているのが，阿津走出遺跡土壙－10と土壙－17から出土している。土壙－10に伴出する浅鉢の文様内容は，口縁から垂下する刺突文の組み合わせ，口頸部と胴部の屈曲部に∩形爪形文，□形押し引き文，刺突文，そして口頸部で文様が交差するものなどが認められている。口縁内面には，沈線ではなくケズリの段を有するものが認められる。また，土壙－17は，口頸部と胴部の屈曲部に文様がなく，調整によって変化をもたせているものが存在する。そして，文様は口縁から垂下する刺突文と爪形文の組み合わせ，口頸部と胴部との屈曲部には∩形爪形文，□形刺突文が認められる。これらに伴う無文の深鉢は，口唇部にキザミを付するものと付さないもの，器面外面にアルカ属の条痕を残すものと消すものの両方が認められる。

このような内容を持つ土器を伴出するカマボコ形突帯文を，Ⅳ類に含め，他の断面三角形の

結　　語

突帯と同列に扱うか否かについては躊躇せざるをえないのである。したがって，ここでは仮に前者をⅣA類とし，後者をⅣB類として以下記することにする。ⅣA類の位置付けについては，深鉢の文様内容，カマボコ形突帯文の技法は，Ⅳ類の浅鉢の内面肥厚部にみられる貼り付けの手法と極めて近縁性をもっていることがうかがわれる。しかし浅鉢については，内面削り出し状の段をとどめているなど，Ⅲ類における内容と際立った相違が認められるのである。また，深鉢の内面削り出しの段については，先に述べた谷尻式とされるものに認められている。このようにみていくと，Ⅲ類に近接した時期が想定された。具体的には，谷尻式とされるものに続くもので，突帯文を伴うものとしては最も古い様相を示すものとして認識される。したがって，このⅣA類は先に述べた黒土BⅡ式の使用問題からすれば，これらの様相を有するものに用いるものとして理解されるべきであろう。

ⅣB類については，突帯文の断面が三角形を有する深鉢を伴うものであり，浅鉢の口縁端部の変化をほとんど認められなくなる。Ⅴ類は，突帯が口縁端に接するようになり，内傾気味の口縁をもつようになる。また，口頸部と胴部の屈曲が顕著でなくなり，その部分に突帯を付すものがみられる。これらの特徴を有するものは，先にも述べたが沢田式とほぼ同じ様相を示しているものと理解される。

表－2　舟津原遺跡・阿津走出遺跡出土土器型式一覧表

時期	前期					中期							後期								晩期					
遺跡	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
舟津原遺跡	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
阿津走出遺跡		■		■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■

以上，舟津原遺跡と阿津走出遺跡出土の前期から晩期にいたる土器の流れについて述べてきた。出土した土器は各時期にわたり，また搬入されたものもあり，それらの位置付けについて充分に検討しきれなかった面が多々あり，未消化のまま述べてきてしまった。これらについては，別の機会に述べることにする。　　（下澤）

註

註1　巽三郎・中村貞史『鷹島遺跡発掘調査報告書』南紀考古同好会　1969年の23ページ

註2　間壁忠彦・間壁葭子「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報』第7号　1971年の27ページ

註３　註２の図版17（２）に認められる

註４　米子市教育委員会『目久美遺跡』　1986年

註５　長崎県教育委員会の副島和明氏の御教授による

註６　福岡市教育委員会の横山邦継氏の御教授による

註７　高橋護「近畿・中国・四国地方」『縄文土器大成２』講談社　1981年

註８　註７と同じ

註９　平井勝「縄文時代」『岡山県の考古学』吉川弘文館　1987年において指摘されている。

註10　里木貝塚では，船元Ⅳ式を「加曽利Ｅ式の古式のものとの類縁が想定」また註９では里木Ⅱ式を「加曽利ＥⅠ式からＥⅡ式に併行」とされている。

註11　泉拓良他『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ』京都大学埋蔵文化財研究センター1985年

註12　鎌木義昌・木村幹夫「中国地方の縄文式土器」『日本考古学講座三』河出書房1955年

註13　鎌木義昌・高橋護「瀬戸内」『日本の考古学Ⅱ』河出書房新社1965年

註14　間壁忠彦「縄文後期彦崎ＫⅡ式（竹原）式土器をめぐって」『倉敷考古学館研究集報告第15号』　1980年

註15　註13，14と同じ

註16　岡山教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告59』　1985年

註17　加世田市教育委員会『上加世田遺跡発掘調査概要』1972年

註18　註17に同じ

註19　河口貞徳「黒川洞穴発掘報告」『鹿児島県考古学会紀要第２号』1952年，鹿児島県教育委員会「榎木原遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（44）』1987年

註20　岡山県教育委員会「谷尻遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告11』　1976年

註21　平井勝「岡山における縄文晩期突帯文土器の様相」『古代吉備第10集』1988年

註22　鎌木義昌・江坂進「岡山県御津町原遺跡」『瀬戸内考古学』第２号　1958年の土器番号である。

註23　文化財保護委員会『吉胡貝塚』1957年

註24　註21と同じ

第2節　石器について

ここでは，舟津原遺跡および阿津走出遺跡出土の石器について若干のまとめをしておきたい。両遺跡とも多量の石器を出土しており，舟津原遺跡においては，主要なものは図化が可能であったが，阿津走出遺跡については，図化する余裕がなく，一部を図版としたのである。舟津原遺跡は，石匙及びスクレイパーの種類が多く認められている。これらについては，先に述べたごとく，どの時期に属するかについては全く不明である。しかし，里木貝塚では，これらの形態についての時期的な流れは把握されている。このようなことから見てゆくならば，その内容とほぼ同じ様相のものが多く認められている。ただ，三角形を呈するスクレイパーについては，里木貝塚に見あたらない。

阿津走出遺跡においては，石鏃の出土が際立って多く認められている。この石鏃についても，一部を除いてその大半が包含層出土であり，時期を特定できない。しかし，舟津原遺跡における石鏃の量の少なさからすれば，その多さが注目される。このようなことから，サヌカイトの出土内容（剝片の状態）が，おおきくかかわってくることが考えられる。阿津走出遺跡で出土したサヌカイトの総量（製品を除く）は，約252.4kgである。このうちの78.5％については，その重さを1点1点計量したのである。その結果，0.01～20.00ｇまでが計量した全体の88.73％を占めてしまうのである。その内の1.01～10.00ｇまでのものが，58.16％と6割近くを占める内容である。このことは，阿津走出遺跡における石鏃の多量出土と密接な関りとして，このような小さな剝片が多く出土したと考えられる。一方，舟津原遺跡では，このような数的な処理はできなかったが，剝片のほとんどについて簡単な刃部を付していることが認められている。また，阿津走出遺跡においては，このような剝片に刃部を付すことがほとんど認められていない。

石製品は，両遺跡ともスリ石と石錘が多く認められている。このうち，石錘の出土数は，他を圧倒している。石材は，安山岩がその主体を占めている。　石材については，阿津走出遺跡からチャートと玻璃質安山岩が12.5kg出土しているが，これらを用いた製品は認められていない。また，石英14.16kg，水晶5.77kgが出土している。この石英と水晶の出土量が注目される。これらは，先のチャートと玻璃質安山岩のように石材として用いられたのではなく，他の目的に使用されたものと考えられる。その一つとして，土器の胎土中にみられる石英や水晶の細粒として用いられたことが推測されるのである。

この他に，大分県姫島の黒曜石が，舟津原遺跡，阿津走出遺跡から出土している。（下澤）

第３節　製塩土器について

今回の本州四国連絡橋関係の発掘調査は，製塩関係の遺構・遺物が多く出土した。このうち阿津走出遺跡は，その規模および内容において際立つ様相を呈している。ここでは，これら各遺跡出土の弥生時代後期から奈良時代にいたる製塩土器と共伴遺物を検討しその時期的流れを追求する。そして，阿津走出遺跡の遺跡構造と位置付けについて若干なりとも明らかにしたい。

弥生時代の製塩土器については，Ⅰ類からⅣ類に分類（第３図　木見大賀遺跡－250・253・254，山際紫山遺跡－10・19・22・29・36・37・50・56）することができた。以下，各類別ごとに述べてゆく。

Ⅰ類は，木見大賀遺跡出土の**253・254**である。いずれも脚部の破片である。脚部は、開き気味で，端部は肥厚させて安定感を増している。器面調整は，タテのヘラケズリが認められる。体部については，開き気味の直口するものが想定される。伴出する遺物は，**250**の高杯形土器である。この高杯形土器は，後期中葉の段階に相当し，吉備南部の沖積地遺跡である百間川遺跡群においては，百間川後期Ⅱの新相[註1]に類似する。

Ⅱ類は，山際紫山遺跡出土の**36・37**である。いずれの脚部もくの字に屈曲するもので，端部は，外開き気味となる。**36**の体部は，外方に開く度合いが見られなくなる。また**37**は，やや球形を描く体部を有する。調整は，体部外面にヨコのタタキを用い，脚部外面は，押圧によるものとみられる圧痕が認められる。伴出遺物は，**29**の高杯形土器である。時期は，Ⅰ類と同様に後期中葉の段階に相当する。しかし，この他の伴出遺物からして，このⅠ類よりも新しい様相を示している。

Ⅲ類は，山際紫山遺跡出土の**56**である。脚部は，前段階と同様にくの字に屈曲するものであるが，その径がやや小さくなる傾向を示し，脚端部も内側にやや踏ん張る形状を呈するようになる。調整は，Ⅱ類と同様にヨコのタタキが認められる。伴出遺物は，**50**の高杯形土器である。この高杯形土器は，後期後半に相当するもので，百間川遺跡群において百間川後期Ⅲ[註2]としたものに類似する。

Ⅳ類は，山際紫山遺跡出土の**19・22**である。脚部は，くの字に屈曲するがその度合いは強くならない。これに伴い，脚部径が小さくなる傾向を増し，内面の形態が丸味をもつようになる。調整は，体部にヨコのタタキ，脚部は押圧による凹凸が認められる。伴出遺物は，**10**の高杯形土器である。この土器は，後期末に相当するもので，先の百間川遺跡群においては百間川後期Ⅳとしたものに類似する。

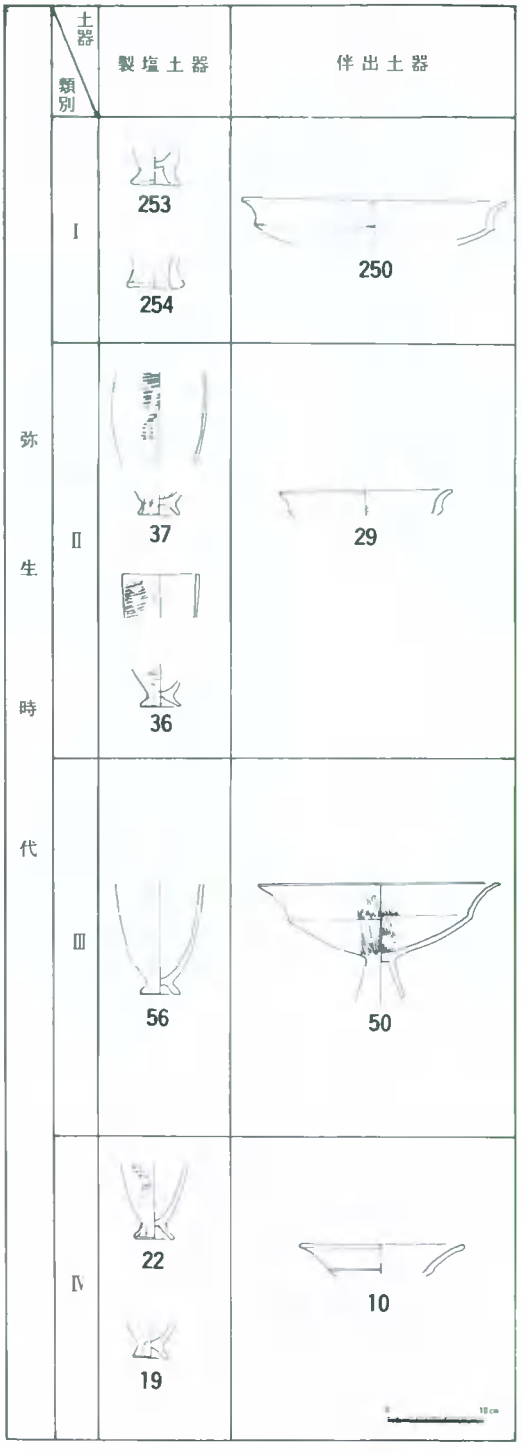
古墳時代は，Ⅰ類からⅥ類に分類（第４図　阿津走出遺跡－996・1012・1021・1040・

1043・1075・1076・1084・1085・1087・1120・1163・1194・1195・1200～1203・1218，舟津原遺跡－1832・1827，山際紫山遺跡－65・68）することができた。以下，各類別ごとに述べてゆく。

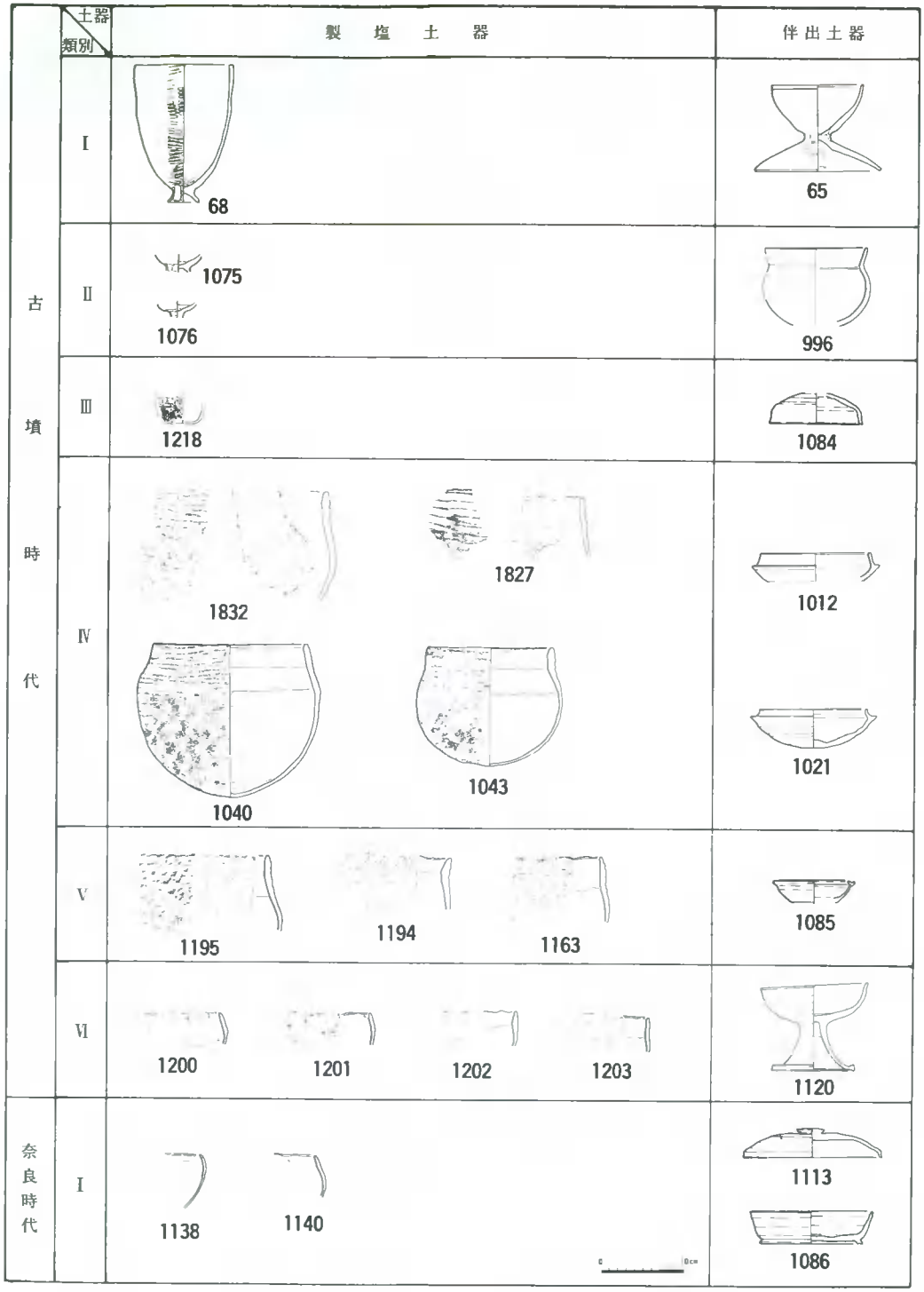
Ⅰ類は，山際紫山遺跡出土の**68**である。体部の形態が全体的にふっくらとなる。調整は，体部にヨコのタタキ，脚部には押圧による凹凸がみられる。内面は，丁寧に仕上げられており調整痕は認められない。底部には，ヘラによる絞った押圧痕が認められる。伴出遺物は，**65**の台付鉢形土器である。この土器は雄町遺跡の雄町13類及び百間川遺跡群では百間川古墳時代Ⅰ[註4]に相当する。[註3]

Ⅱ類は，阿津走出遺跡の**1075・1076**である。これらは，脚部が前段階に比較し，極端に矮小化してしまうのである。体部の脚部近くが下膨れとなり器高が低くなると想定されるものである。伴出遺物の**996**は，明らかに伴出するものではなく，遺跡の内容等から共伴関係を有するものと判断した。

Ⅲ類は，阿津走出遺跡出土の**1218**である。この遺物は，本文中には報告していないものである。したがって，ここでその出土状況について触れておく。**1218**は，第９章第３節の第７図の土層断面図に示された第５層の黒色土中から出土しているものである。この土器は，器壁が非常に薄く３㎜内外を示し，外面にはヨコのタタキを施している。底部は，脚部がなく不整形でケズリによる凹凸が著しい。内面は，アルカ属の貝殻腹



第３図　製塩土器編年図(1)　(1/8)



第４図　製塩土器編年図(2)　(1/8)

縁による調整が認められる。1084の須恵器の杯蓋は，伴出するものではなく，ＡＲ－２からの出土である。しかし，先に記した黒色土中から，これと同時期の須恵器の細片が出土しているので共伴関係を有することは間違いない。この土器は陶邑編年[註5]ではＭＴ－15に相当する。

Ⅳ類は，舟津原遺跡出土の1827・1832と阿津走出遺跡出土の1040・1043である。球形の胴部に内傾気味に立ち上がる口縁部をもつものである。この口縁部には，ヨコの比較的幅の広いタタキを用いる。内面には，押圧痕が認められる。図示した以外に，口縁部にタタキをもたないのもこの類に含まれると考えている。伴出遺物は，阿津走出遺跡の1012・1021である。これらの土器は横穴式石室墳の築造が盛行する６世紀中葉から後葉に至る時期のものである。

Ⅴ類は，阿津走出遺跡出土の1163・1194・1995である。この類は前段階に比較し器形が小さくまた口縁部の幅が狭くなるなどの傾向がみられる。また，口縁部から胴部への屈曲がそれほど強くなくなる。口縁部に見られたタタキもヨコ方向のタタキから多種多様なタタキ文様を用いるようになる。伴出遺物は，1085で，小形化した須恵器の杯身である。この土器は吉備南部では寒風Ａ類[註6]に相当する。

Ⅵ類は，阿津走出遺跡出土の1200～1203である。これらは，内傾気味の口縁をもち，しかもこの部分をわずかに肥厚気味にする傾向をもつ。そして，口縁端部の凹凸もはげしい。調整は，内外面とも押圧によっている。器壁は数㎜の薄さになっている。伴出の遺物は，1120の須恵器の高杯である。

奈良時代は，Ⅰ類だけが分類（第４図　1086・1113・1138・1140）することができた。

Ⅰ類は，阿津走出遺跡の1138・1140である。この類は，古墳時代のⅥ類とその調整内容において変化が認められない。しかし，器形は，体部がやや長くなり，底部が尖底になる。[註7]伴出遺物は，阿津走出遺跡の1086・1113の杯蓋と杯身である。この土器は寒風Ｃ類[註8]に相当する。

以上，弥生時代から奈良時代までの製塩土器の流れを指摘した。この流れにおいて，３回の画期が認められる。第１画期は弥生時代Ⅱ類，第２画期は古墳時代Ⅳ類，第３画期は，古墳時代Ⅵ類である。第１画期は，前代までヘラケズリによるものからタタキが用いられるという調整法の画期として把握される。第２画期は，弥生時代以来の脚部が消失し，器形も矮小化するのに伴い器壁が極端に薄く造られていたものから，全く逆の形として新たに出現した大形の土器で，Ⅲ類までの技術的淘汰から一転して容積が大きく，器壁の厚い器形となる。このことは，技術的側面だけでなく，すでに近藤義郎氏が指摘しているように６世紀前半における社会的背景に製塩集団の専業化[註9]として把握される。第３画期は，器面調整に用いられていたタタキにかわり，押圧痕が顕著に認められるようになる。また，容積も小さくなり器壁についても薄くなる。この期は，古墳時代Ⅲ類にみられた変化に相通じるものがあるが，社会的にはこの期を境に県内では土器製塩の遺跡は減少または衰退していく傾向が指摘されている。[註10]その社会的要因

については今後の課題である。

このような製塩土器の流れにおいて，阿津走出遺跡は，どのような内容を有していたのか再度検討を加えておきたい。

阿津走出遺跡は，古墳時代Ⅰ類から製塩土器の出土が認められている。このⅠ類からⅢ類の５世紀末ないし６世紀初頭の間は，Ａ区及びＢ区においても出土するがその量は極めて少ない。製塩土器の量が驚異的に増大するのは，Ⅳ類の６世紀に入ってからである。そして，その量的盛行は６世紀後半ごろまででピークに達すると考えられるが，本遺跡では奈良時代のⅠ類においてもかなりの量の土器捨場が認められる。この様子は，第128図の土層断面図によってうかがうことができる。さらに断面図からは，Ⅳ類及びⅤ類とからなる第９層が，右から左へと重なるようにみられ，またⅥ類と奈良時代Ⅰ類と考えられる薄手の堆積が見られる。この断面図は，遺跡の保存のため砂州の下層まで掘り下げをしておらず中途半端なものである。しかし，第３・４図の断面図と合せて検討すれば，これら製塩土器によって砂州が東西に拡張したものと判断される。また，Ａ区のＢ８のグリットのポイント近くでボーリングステックの確認によって，遺構検出面から80cmほどの厚さにわたって製塩土器の堆積に当らず，灰だけの堆積が認められている。また，土器製塩に伴う一連の作業関連の遺構は，古墳時代Ⅴ類に伴うと考えられるものと，古墳時代Ⅵ類から奈良時代Ⅰ類に伴うと考える炉壁片と推定される灰色土の塊が出土している。この炉壁片は香川県なかんだ浜遺跡の炉壁片に類似している指摘を受けている。[註11]このようなことから，阿津走出遺跡においては，６世紀前半から本格的な塩の生産がおこなわれたことが理解できるのである。それにともない，これまで自然条件により砂州が形成されていったものが，製塩作業の盛行に伴い土器捨場や灰、焼土の廃棄によって，砂州そのものが拡大していったことをそれぞれのトレンチ調査によって看取できる。

このように本州四国連絡橋陸上ルートの調査における弥生時代後期中葉から奈良時代にいたる製塩土器の流れを把握することができた。また，その間において３度にわたる画期が存在したことも明らかにされた。阿津走出遺跡は，その過程において，古墳時代前半から土器製塩がおこなわれ，６世紀前半から後半にかけて盛期をむかえ奈良時代まで継続されるのである。古墳時代Ⅲ類において技術的淘汰として出現したものが，古墳時代Ⅳ類において全く異質とも思える製塩土器が出現するのである。

さらに，古墳時代Ⅴ類にみられる青海波状のタタキが，非常に多く出土している。この文様をもつものは，県内の製塩関係の遺跡からの出土は，極めて少ないのである。このことから須恵器生産集団と土器製塩集団とのかかわりを推察させる。

阿津走出遺跡は，研究者の強い要請と関係機関の協力により幸いにも遺跡の大部分は保存された。したがって，これらの内容の検証は将来具体的に明らかにできる姿で残されている。

結　　語

以上述べてきたことは，出土資料の整理を充分にしておれば，資料を示すことによって具体的にすることができた。しかしながら，諸般の事情から概略的な資料しか示すことができ得なかったことは調査担当者の１人として残念に思う。今後，機会があれば個々の資料分析について公表する努力をし記して了解を得たい。

なお，本文を記すにあたり，近藤義郎氏より有益な助言を得たことをし記して，謝意を表する次第である。

（下澤）

註

註１　岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51』1982年

註２　岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告39』1980年

註３　岡山県教育委員会『埋蔵文化財発掘調査報告』1972年

註４　註２に同じ

註５　田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ　1966年

註６　岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告27』1978年

註７　近藤義郎『日本塩業大系原始・古代・中世（稿）』1980年において，倉浦式とされるものに相当する。

註８　註６に同じ

註９　註７に同じ

註10　註７に同じ

註11　現地において対策委員から直接指摘された。

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　71

本州四国連絡橋陸上ルート

建設に伴う発掘調査

Ⅱ

昭和63年12月20日　印 刷
昭和63年12月28日　発 行

編集　岡山県古代吉備文化財センター
発行　岡山県教育委員会
印刷　サンコー印刷株式会社

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　71

本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査 Ⅱ

（表・図版）

1988・12

岡山県教育委員会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 71

本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査 Ⅱ

（表・図版）

1988・12

岡山県教育委員会

1．舟津原遺跡出土の人骨について

岡山理科大学教授　池　田　次　郎

前頭骨破片１点と下顎骨破片２点が出土している。人骨の所属時期は明らかでないが，いずれも骨質はきわめて堅牢である。

前頭骨は右眼窩部，鼻部および右の側頭面から頬骨突起，眼窩上縁，眉間をへて左の眉弓までが残存する。前頭鱗の左半分はほとんど欠損し，頭頂縁は右側でも破損している。眉間から鼻部にかけてのプロフィールには縄文人特有の形態が認められる。眉間，眉弓は極度に強く，側頭線も鋭く，骨壁が厚いなど，成人男性骨の特徴を示すと同時に，その頑丈さは本資料が縄文後半期の人骨であることを示唆している。

下顎骨２片のうちの１つは，関節突起を欠くものの右半分はよく残っているが，左半分は犬歯歯槽部から後方を失っている。右では第１小臼歯，第１・第２大臼歯だけが顎骨に釘植しており，それ以外の歯は第３大臼歯を含め脱落紛失しているが，歯槽閉鎖は認められない。左の中切歯，側切歯も脱落している。大臼歯の磨耗はやや強く，壮年後半と推定される。下顎体厚14㎜，オトガイ孔の位置における下顎体高31㎜，枝幅35㎜である。

他の下顎骨破片は，左の第３大臼歯歯槽から右のオトガイ孔付近までの骨体片であるが，左の中切歯，側切歯および右の前歯の歯槽を欠損する。左の第２小臼歯と第１大臼歯が釘植しており，犬歯，第１小臼歯，第２・第３大臼歯の歯槽は開放している。比較的頑丈でオトガイ棘は鋭く，二腹筋窩，舌下腺窩は深いなど男性的特徴が濃厚である。残存する歯の磨耗はきわめて強いので，熟年である可能性が高い。前下顎幅50㎜，下顎体厚13㎜である。

２点の下顎骨計測値を津雲，吉胡縄文後晩期人および畿内現代人の平均値と比較するといずれも現代人よりも縄文後晩期男性の数値に近い。抜歯は認められない。

したがって，舟津原遺跡から出土した人骨は，いずれも縄文後晩期に属する可能性があると考えられる。

2．舟津原遺跡包含層出土の脊椎動物遺存体

早稲田大学考古学研究室　金　子　浩　昌

獣骨標本の記載（単位㎜）

イルカ科の一種　*Delphinidae gen. et sp. indet.*

A区T－2・3間の淡灰色粗砂

腰椎骨　1

棘突起を欠損，横突起も大部分を欠損している。椎体の骨端部分は，前端では椎体と骨化癒着しているが，後端ではその一部が剝離しているのがみられる。

椎体横径（椎体骨端）　30.0

同　長　　26.5

縄文時代貝塚から出土するイルカ類の椎体としては小さいものである。

ウ　マ　*Equus caballus*

A区西側溝

左脛骨片　1

骨幹の中間部分のみをのこす破片である。破損してから若干水磨を受けているらしい。

骨幹の最小径　　33.7

イノシシ　*Sus.scrofa*

B区砂礫

環　椎　1

左右の環椎翼を欠損し，一部水磨による磨滅がみられる。椎体前端の頭骨後頭顆との関節面である前関節窩はほぼ全体をみることができるが，後端の軸椎との関節面はその半分が失われている。この環椎翼の欠損はあまり古いものではなく，欠損部に新しい折れ口もみられ，発掘時の損傷のようである。従って，おそらく，埋没時にはもう少し完存に近い状態ではなかったろうか。

前関節窩左右幅　　67.0

大型の環椎であったとみてよく，おそらく現在ではこれ程の個体は殆んど稀にしかみることができないのではないかと思われる。

前頭骨片

左右の眼窩部分をのこすのみの破片である。前方部分は前頭骨の前端までがのこるもので，

おそらく上顎骨と鼻骨そして涙骨がはずれたものと思われる。特に人為的な加工の痕跡はみられない。後端は冠状縫合部分からのこるもので，中央部分を除いて左右の縫合線の大部分をみることができる。以上の状況からみて，この標本はイノシシの頭蓋が上顎，鼻，涙，頬，側，頭頂の諸骨がばらばらに遊離したものの一つであったとみてよい。おそらくそれは長期間低温の地に埋没している間にそうなったのであろう。

前頭骨幅（左右眼窩後端の前頭骨頬骨突起間の幅）　　113.0±

これもかなり大きい前頭骨である。縫合が全く化骨化していないのでまだ若い個体であり，老成すればさらに大きくなる可能性はある。

肩甲骨片

A区T－3・4間の砂礫

右側肩甲骨の関節窩から骨体にかけてのこるもので，全体の1/2弱が現存する部分である。

肩甲頚部最小幅　32.6

関節窩長　44.6

同　幅　30.3

大型の肩甲骨である。肩甲頚部最小幅が32.0を出るような大きさはおそらく稀にみるような大きな個体ではなかったかと思う。またその骨質は頑丈で老成した個体のものとみられる。破損は人為的のものではなく，き裂など損傷面から割れたのであろう。

〔歯　牙〕

切　歯

左I_1：1

右$I_{1\cdot2}$：各1

A区T－3・4間の砂礫

三点とも歯の全高61.5前後，歯冠部の全面に及ぶ咬耗がみられる。ほぼ同程度の大きさ・年令のイノシシの個体であったと思われる。

歯冠幅　I_1　左：6.2　右：7.0　I_2　右：8.0

この切歯と同程度の段階にある顎骨で臼歯磨滅の状態をみると，M_3がすでに完全に萌し，先端の咬頭はエナメル質に孔のあく咬耗がみられる段階である。

下顎犬歯

雄

No.1　左：B区T－4　：1　現存長87.8　図版2　上段7

No.2　B区砂礫　：1　現存長　84.5　同　同 6

No.3　右：B区砂礫　：1　現存長　56.6　同　同 5

No.4　右：A区砂礫　：1　現存長　61.5　図版2　上段4

上記の標本はそれぞれ別個体の下顎犬歯であって，大きさ，年令を異にしている。

これらのうちNo.1犬歯が最大のもので，その半ばが欠けているがなお現存長が87.0㎜に達するもので，おそらく原長は115.0㎜に達するものと思われる。下顎の舌側面をのこし，ごく先端部分のみ頬側をのこして，歯の咬合面がみられる。歯のほぼ中間部分での厚さ4.0㎜を計る。歯冠巾は25.0㎜はある。

No.2及びNo.3は，はるかに小さい個体のもので，No.2の歯冠幅は末端に近い部分で20.0㎜，中間部で18.0㎜を計るのみである。No.2，No.3ともに若い個体で，特にNo.3の犬歯は，咬合面が殆んど形成されていないので，萌出も途中であったと考えられる。おそらく臼歯M_2が萌出した1.5才位の個体であったろう。

No.4は犬歯の舌側の中間部分で，現存する幅は22.0㎜あり，No.1の標本に次いで大きい。また厚さも4.4㎜ある。薄い板状の形になっているが，意図的な加工が行われたかどうかは判然としない。しかし，このような犬歯の板から種々の牙製品がつくられる。その素材であった可能性もある。

右寛骨臼外側片　1

B区砂礫

現存長50.0㎜弱の小片である。寛骨臼の一部が剝離したもので，石器時代イノシシとしては普通にみる大きさのものといってよい。

ニホンジカ　*Cervus nippon*

第3頚椎骨　2

B区砂礫

大（No.1）・小（No.2）二つの第3頚椎骨が出土している。両方とも椎頭及び椎窩の関節骨端をはずしているので若い個体であるが，一方はかなり小さい。

	No.1	No.2
前関節突起～後関節突起間長	68.0±	57.4
同　幅	49.5	35.4

右上顎骨片　1

B区砂礫

dm^{3-4}，M^{1-2}を植立している。M^2はほぼ半ばを萌出した段階である。

左下顎骨片　1

B区砂礫

M_2・M_3の残植する近辺の骨をのこすのみの破片である。M_3がほぼ完出した段階のもので，

磨滅指数はM_2：5，M_3：6，生後3才の下顎骨である。

左下顎骨　1

B区トレンチ

P_{3-4}，M_{1-3}を植立する。下顎歯の大部分を失う。

P_3〈歯槽〉～M_3：83.7

M_3は完出し咬耗が進む。磨滅指数はM_1：2，M_2：3，M_3：5，生後6.5～7.0才を推定される。小さい下顎骨であって雌獣である。

左下顎骨片

A区T－1・2間の砂礫

P_{2-4}を植立する。後臼歯が欠けるので磨滅度を調べることができないが，前臼歯Pの磨滅の状況から推定すると，M_2：5，M_3：6と考えられ，先に記述した下顎骨とほぼ同年令の3才位と推定される。

ウ　シ　*Bos taurus*

右橈骨

B区T－1

近位端を僅かにのこし，骨幹部の大部分がのこるが，遠位端が失われる。

骨幹略中央の径　　41.1×22.1

左M_2

A区T－3・1間の砂礫

前・後の咬頭が僅かに磨滅した程度のものであるから，M_3の萌出はなお不完全なものであったろう。2才前後の個体とみられる。

歯冠長　　31.5

歯冠幅　　14.0（下端は欠損する）

大型獣骨について

上述した獣骨はイノシシとニホンジカを主とし，それにウマ，ウシといった家畜が含まれていた。イノシシとシカを比べるとイノシシの方が数が多くまた個体数を推定しても多いのではないかと思われる。イノシシとシカの量差は，この地域では普通この程度のものであるらしい。ただ，出土する層位などから厳密にその量差を明らかにすることはすでに難しいかも知れない。イノシシの場合，歯が多く，特に臼歯が皆無であるに犬歯のみ4点も出土し，しかも，すべて別個体のものであった。単なる自然堆積層中の出土ではなかったかも知れない。

ウマ・ウシは全く断片的な骨であって，埋没時の状況を知り得ない。いずれも中型の在来種のもののようである。

3．舟津原遺跡土壙－1出土魚骨について

早稲田大学考古学研究室　金　子　浩　昌

魚骨標本の記載（単位mm）

ヒ　ラ　*Ilisha elongata*

頭骨片　1

後頭部のみをのこす。さらに完全な形で埋存していたのではないかと思われるが発掘時に破損したと思われる。

右歯骨　1

歯骨連合部高　6.5

ヒラの内蔵骨はその他骨片となって含まれているようであったが，その部位を確認することはできなかった。

腹椎骨　5，尾椎骨　9

椎体径4.5前後のものばかりであり，おそらく同一の個体のものであろう。

鱗，その他鰭棘，肋骨など

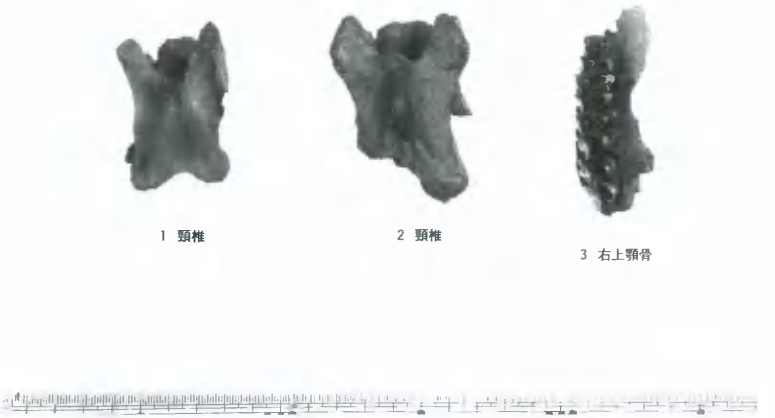
ヒラの鱗は大きいので採集は可能であるが薄いので完存することは無理である。本標本もそうした破片数10片が検出されている。上述の標本は体長22.0cm前後の個体のものと考えられる。

その他種名不詳種

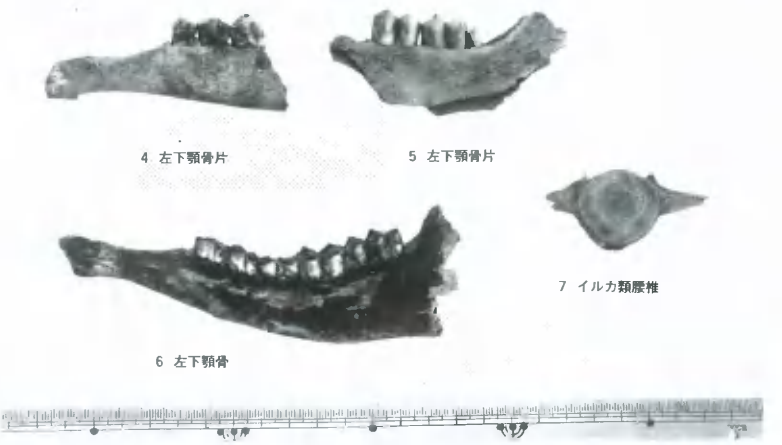
背鰭棘　2他

魚骨として検出された標本品種名として確認されたのはヒラのみであって，また標本も大部分本種のものと思われる。ヒラは西日本の河口，沿岸水域にすむニシン科の代表魚であり，旧児島湾岸域でも重要な魚種であった。縄文時代においても同様であったと思われる。ただ，この地域の古代漁撈関係の資料を調査する機会がこれまで殆んどなかったために資料を得ることができなかったものと思われる。ヒラについて先年県によって調査された奥坂遺跡No82袋状土壙内の魚骨より筆者は検出報告している。今後の調査によって資料の増すことが考えられる。しかし，その他の魚骨については今回多くを知ることができなかった。今後何らかの機会に，魚類についてのこの地域での調査が出来ればと考えている。

図版 1

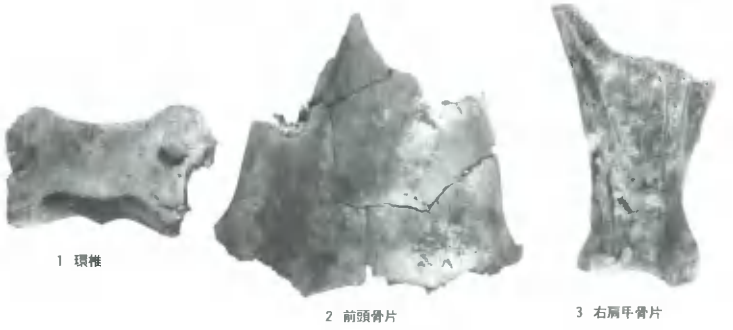


1．舟津原遺跡出土ニホンジカ頸椎・顎骨



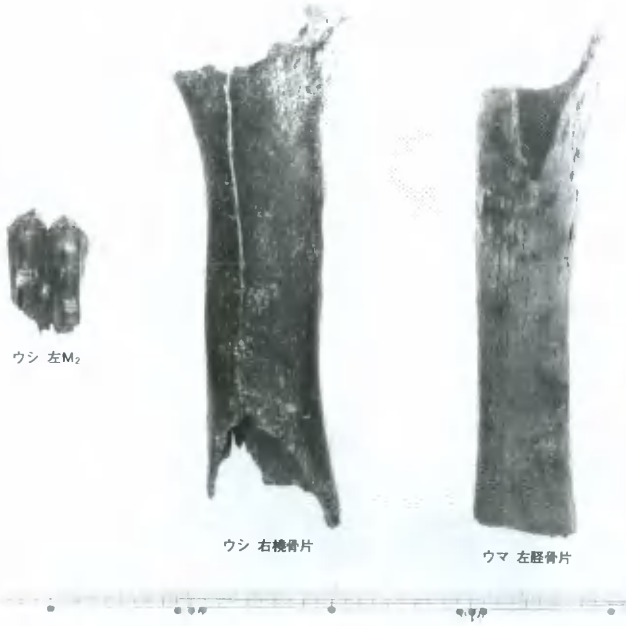
2．舟津原遺跡出土ニホンジカ下顎骨及びイルカ類腰椎骨

1．舟津原遺跡出土イノシシ歯牙



2．舟津原遺跡出土イノシシ環椎・前頭骨・肩甲骨

図版 3



1．舟津原遺跡出土獣骨

2．舟津原遺跡土壙－1出土魚骨

4．舟津原遺跡出土木片の樹種同定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 試　　料

試料は土壙－1から検出されたもの2点，土壙－2から検出されたもの18点，土壙－3から検出されたもの6点の合計26点である。試料の所属する時代や用途などは不明である。なお，作業の便宜のため試料にはNo．1～26の試料番号を付した。本報文中では試料は全てこの試料番号で表すこととする（表1）。

2 方　　法

剃刀の刃を用いて，試料の木口・柾目・板目三面の徒手切片を作成，ガム・クロラール（Gum Chloral）で封入，生物顕微鏡で観察・同定した。同時に，顕微鏡写真図版（図版1～4）も作成した。

3 結　　果

同定結果を一覧表で示す（表1）。

表1　舟津原遺跡出土材の樹種

試料番号	土壙など	種　　名
1	1－1	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) *sp.*〔コナラ属（アカガシ亜属）の一種〕
2	1－2	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.
3	2－1	*Morus bombycis*（ヤマグワ）
4	2－3	樹皮
5	2－4	*M. bombycis*.
6	2－5	*M. bombycis*
7	2－6	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.
8	2－8	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.
9	2－9	cf. *Cleyera japonica*（サカキ類似種）
10	2－11	*Abies* sp.（モミ属の一種）
11	2－12	*Abies* sp.
12	2－13	樹皮
13	2－16	*M. bombycis*
14	2－18	cf. *Cephalotaxus harringtonia*（イヌガヤ類似種）
15	2－19	*Torreya nucifera*（カヤ）
16	2－20	cf. *C. harringtonia*
17	2－22	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.

試料番号	土壙など	種　　名
18	2－26	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.
19	2－28	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.
20	2－30	*Pinus* (subgen. *Diploxylon*) sp. 〔マツ属（複維管束亜属）の一種〕
21	3－1	*Pinus* (subgen. *Diploxylon*) sp.
22	3－2	*Ginkgo biloba*（イチョウ）
23	3－3	*Quercus* (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp.
24	3－4	広葉樹？
25	3－5	T. *nucifera*
26	3－6	T. *nucifera*

次に，各試料の主な解剖学的特徴や一般的性質などについて種類ごとに述べる。

• イチョウ（*Ginkgo biloba*）　イチョウ科　No.22.

早材部から晩材部への移行は緩やかで，年輪界は明瞭。樹脂道・樹脂細胞はなく，異形細胞が認められる。放射仮道管はなく，放射柔細胞の壁は滑らか，分野壁孔はヒノキ型（Cupressoid）。放射組織は単列，1～10細胞高。

イチョウは，現生種は1科1属1種の落葉高木であるが，中生代から新生代第三紀まで多くの化石種が知られている。中国原産とする説が有力で，日本へは仏教伝来の頃に渡来したものとも考えられているが，日本に自生するとする見解もある。街路・庭・社寺などに植栽される。イチョウの材はやや軽軟で，割裂性は大きく，加工は容易で，保存性はあまり高くない。碁盤・将棋盤など各種用具材・薪材などに用いられる。種子は食用となる。

• カヤ（*Torreya nucifera*）　イチイ科　No.15, 25, 26.

早材部から晩材部への移行は緩やかで，年輪界は明瞭。樹脂細胞，樹脂道はない。放射仮道管はなく，放射柔細胞の壁は滑らか。放射組織は単列，1～10細胞高。仮道管内壁には対をなしたらせん肥厚が認められる。

カヤは，本州（岩手・山形県以南）・四国・九州の常緑広葉樹林中に点生する常緑高木で，樹高25～30mにもなるが生長は極めて遅い。庭木として植栽されることも多く，いくつかの変・品種がある。その材は針葉樹としては重い方で，強度は中程度，割裂性は大きく，加工は容易，保存性特に耐水性に優れる。建築・各種桶類・木地・器具・家具材など各種の用途が知られ，碁盤としては最高級品とされる。種子は食用となるほか，搾油（食用・燈用・頭髪用）されたり駆虫薬としても使われた。

• イヌガヤ類似種（cf. *Cephalotaxus harringtonia*）　イヌガヤ科　No.14, 16.

早材部から晩材部への移行は緩やかで，年輪界は明瞭。樹脂道はない。放射仮道管はなく，放射柔細胞の壁は滑らか。放射組織は単列，1～5細胞高。

イヌガヤは，本州（岩手県以南）・四国・九州に分布する常緑小高木～低木で，時に植栽される。なお，北海道西部・本州の主として日本海側・四国の一部には，匍匐性の変種ハイイヌガヤ（*C. harringtonia* var. *nana*）が分布する。イヌガヤの材はやや重硬で，器具・旋作材などに用いられる。種子は搾油（燈用）された。

・モミ属の一種（*Abies* sp.）　マツ科　No.10，11.

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで，年輪界は明瞭。樹脂細胞・樹脂道はない。放射仮道管はなく，放射柔細胞の末端壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型（Taxodioid）で1～4個。放射組織は単列，1～20細胞高。

モミ属には，モミ（*Abies firma*），ウラジロモミ（*A. homolepis*），アオモリトドマツ（*A. mariesii*），シラベ（*A. veitchii*），アカトドマツ（*A. sachalinensis*）の5種があり，アカトドマツを除く4種はいずれも日本特産種である。モミは本州（秋田・岩手県以南）・四国・九州の低地～山地に，ウラジロモミは本州中部（福島県以南）・紀伊半島・四国の山地～亜高山帯に，アオモリトドマツは本州（福島県以北）の亜高山～高山帯に，シラベは本州中部（福島県以南）→奈良県・四国に，アカトドマツは北海道に分布する常緑高木である。モミを除いては山地～高山・寒冷地に生育する。材の解剖学的特徴のみでは区別できないが，試料はモミである可能性が高い。モミの材はやや軽軟で，強度は小さく，割裂性は大きい。加工は容易で，保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか，建具・器具・家具・建築材など各種の用途が知られている。

・マツ属（複維管束亜属）の一種［*Pinus*（subgen. *Diploxylon*）sp.］　マツ科　No.20，21.

早材部から晩材部への移行は緩やかで，年輪界は明瞭。樹脂細胞はなく，樹脂道が認められる。放射組織は仮道管，柔細胞とエピセリウム細胞よりなり，仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。分野壁孔は窓状，単列，1～10細胞高。

複維管束亜属（いわゆる二葉松類）には，アカマツ（*Pinus densiflora*），クロマツ（*P. thunbergii*），リュウキュウマツ（*P. luchuensis*）の3種がある。アカマツとクロマツは本州・四国・九州に分布するが，クロマツは暖地の海沿いに多く生育し，また古くから砂防林として植栽されてきた。リュウキュウマツは琉球列島特産である。材は重硬で強度が大きく，保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途が知られている。

・コナラ属（アカガシ亜属）の一種［*Quercus*（subgen. *Cyclobalanopsis*）sp.］　ブナ科　No.1，2，7，8，17，18，19，23.

放射孔材で，道管は横断面では楕円形，単独で放射方向に配列，単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性，単列，1～15細胞高のものと複

合組織よりなる。柔組織は短接線状および散在状。年輪界は不明瞭。

アカガシ亜属（カシ類）には，アカガシ（*Quercus acuta*），イチイガシ（*Q. gilva*），アラカシ（*Q. glauca*）など7種があるが，果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木～小高木のウバメガシ（*Q. phyllyraeoides*）も，材構造上はカシ類と類似する。カシ類は，暖温帯常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要な構成種であり，主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域にまで分布するのがアカガシで，宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強靭で，器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

・ヤマグワ（*Morus bombycis*）　クワ科　No. 3，5，6，13.

環孔材で孔圏部は1～4列，晩材部へ向かって管径を漸減させ，のち塊状に複合する。大道管は横断面では楕円形，単独または2～3個が複合，小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し，壁孔は密に交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型，1～6細胞幅，1～50細胞高。柔組織は周囲状～翼状および散在状。年輪界は明瞭。

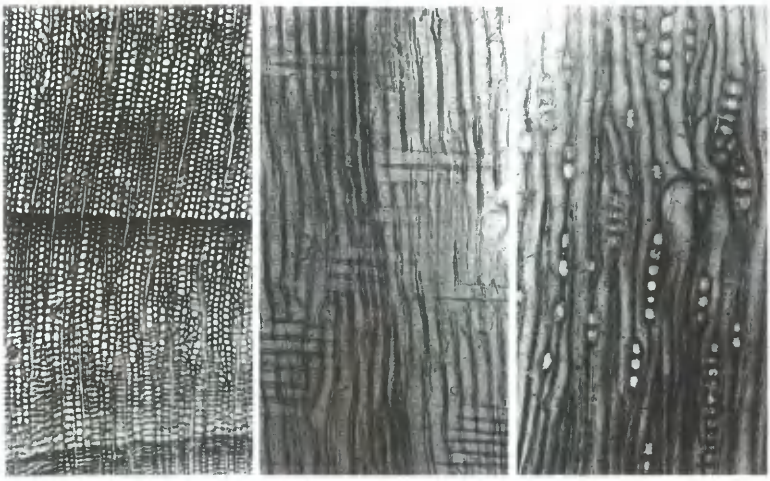
ヤマグワは北海道・本州・四国・九州の山野に自生し，また植栽される落葉高木で，多くの園芸品種があり養蚕に利用されている。材はやや重硬で強靱，加工はやや困難で，保存性は高い。装飾材や器具・家具材として用いられ，樹皮は和紙の原料や染料となり，果実は食用となる。

・サカキ類似種（cf. *Cleyera japonica*）　ツバキ科　No. 9.

散孔材で横断面では多角形。放射組織は異形Ⅱ型，1～2細胞幅，1～20細胞高。年輪界は不明瞭。

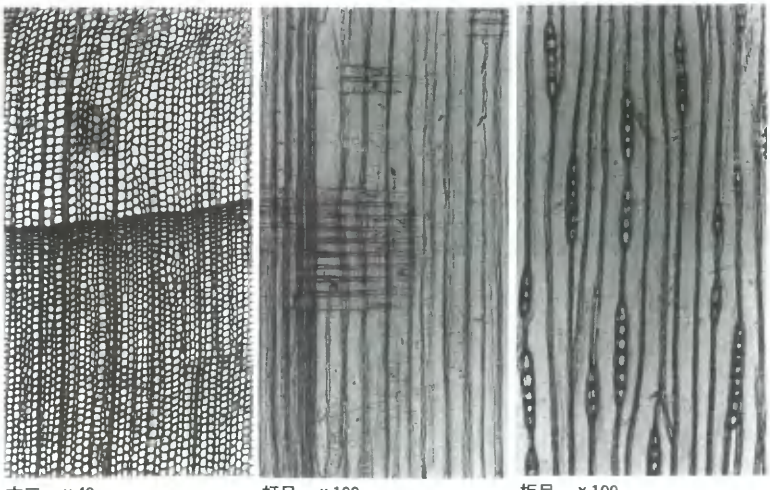
サカキは，本州（新潟・茨城県以西）・四国・九州・琉球に自生するとされる常緑高木で，暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）の構成種であり，神社などに植栽される。このため本来の自生北限は明らかではない。材は重硬・強靱で，割裂しにくく加工は困難。建築・器具材としても用いられるが，薪炭材として一般的である。枝葉を玉串として用いることでも知られる。

図版 1



木口　x 40　　柾目　x 100　　板目　x 100

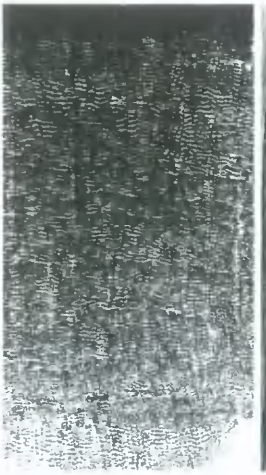
Ginkgo biloba No.22



木口　x 40　　柾目　x 100　　板目　x 100

Torreya nucifera No.25

図版 2



木口　x 40

柾目　x 100

板目　x 100

cf. *Cephalotaxus harringtonia* No.14

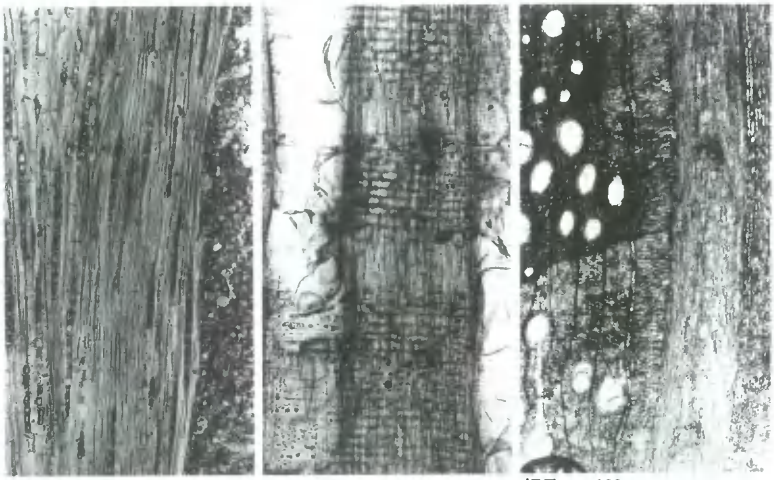
木口　x 40

柾目　x 100

板目　x 100

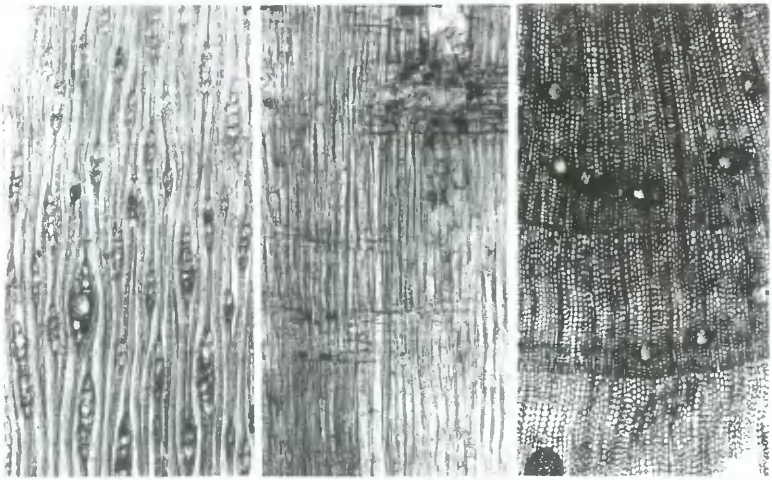
Abies sp. No.11

図版 3



木口　x 40　　柾目　x 100　　板目　x 100

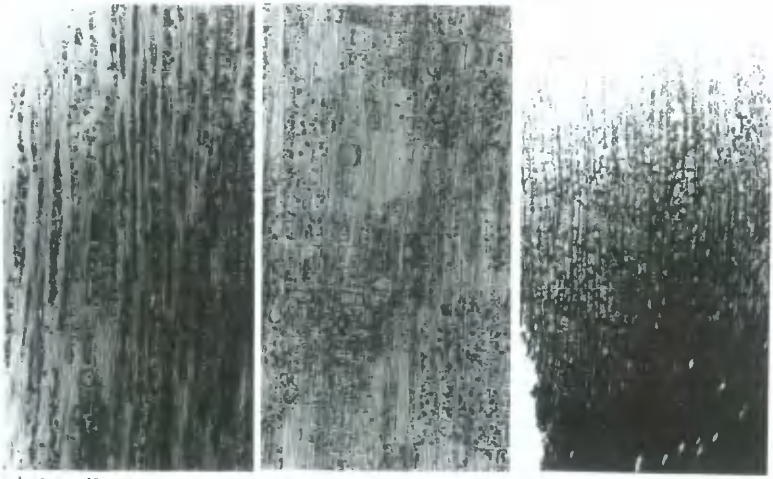
Pinus (subgen. *Diploxylon*) sp. No.21



木口　x 40　　柾目　x 100　　板目　x 100

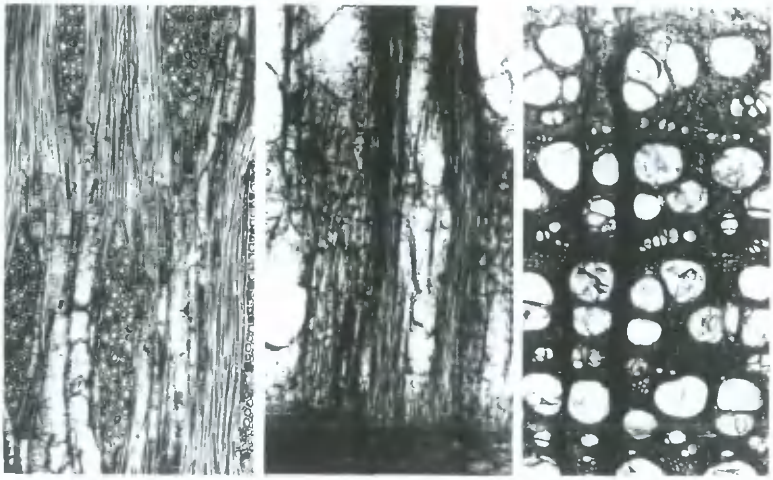
Quercus (subgen. *Cyclobalanopsis*) sp. No. 8

図版 4



木口　x 40　　柾目　x 100　　板目　x 100

Morus bombycis No. 5



木口　x 40　　柾目　x 100　　板目　x 100

cf. *Cleyera japonica* No. 9

5．舟津原遺跡出土花粉・珪藻分析及び種子同定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　花粉分析

1－1　試　　料

試料は，倉敷市舟津原遺跡の縄文後・晩期層の下層より採取された1点である。岩質は，黒色泥炭質シルト質粘土である。

1－2　化石の抽出

花粉・胞子化石の抽出は，試料10ｇ（湿重）を秤量し，48% HF－重液分離（$ZnBr_2$・比重2.15）－アセトリシス処理－10% KOHの順に物理・化学処理を行った。残渣をグリセリンゼリーで封入し，検鏡に供した。

1－3　分析結果及び考察

計数においては，プレパラート全域を考査した。その間に出現したすべての分類群及びその個数を表1に示した。花粉ダイアグラムにおける出現率は，樹木花粉は樹木花粉総数，草本・胞子は樹木花粉にそれらを加えたものを基数として，百分率で算出した。図表中複数の分類群をハイフォンで結んだものは，分類群間の区別が不明確なものである。

出現傾向は，コナラ亜属が優占し，スギ・マツ・ツガ各属，イチイ科－ヒノキ科－イヌガヤ科（T.–C.）が比較的高率に出現する。アカガシ亜属・シイノキ属などの暖温帯要素は出現しない。草本・胞子では，カヤツリグサ科が高率に出現，オモダカ・クロモ・ミツガシワ各属の水生植物を伴う。

堆積物は，縄文後・晩期層の下層とされている。しかしコナラ亜属が多産し，照葉樹は全く出現しない。また，亜寒帯性の針葉樹，カバノキ属が低率であることから，三好（1983）のＲＩあるいはＬ帯に相当し，約1万年前前後の堆積物と考えられる。周囲には，ナラ類を主とする冷温帯落葉広葉樹林が存在していたものと推定される。低地においては，カヤツリグサ科・ミツガシワなどが生育する湿地が形成されていたものと考えられる。

引用文献

三好教夫（1983）花粉分析学的研究よりみた中国地方の洪積世後期以降の植生変遷。日本植生誌　中国，至文堂，Ｐ．1－8．

表1　舟津原遺跡試料花粉分析結果

	Sample No.
Abies	1
Tsuga	14
Picea	1
Pinus subgen. *Haploxylon*	3
Pinus subgen. *Diploxylon*	1
Pinus (Unknown)	14
Sciadopitys	3
Cryptomeria	18
T. – C.	12
Salix	1
Juglans	1
Carpinus – Ostrya	13
Corylus	3
Betula	1
Alnus	10
Fagus	5
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	50
Ulmus–Zelkova	2
Acer	1
Tilia	1
Viburnum	1
Sagittaria	4
Hydrilla	1
Gramineae	64
Cyperaceae	406
Polygonum sect. Persicaria–Echino	4
Chenopodiaceae	1
Thalictrum	11
Ranunculaceae	2
Sanguisorba	26
Rosaceae	1
Leguminosae	4
Lythrum	4
Umbelliferae	28
Menyanthes	9
Artemisia	94
Carduoideae	10
Cichorioideae	7
Unknown	13
other Pteridophyta	27
Arboreal pollen	156
Nonarboreal pollen	676
Unknown	13
Fern spores	27
TOTAL	872

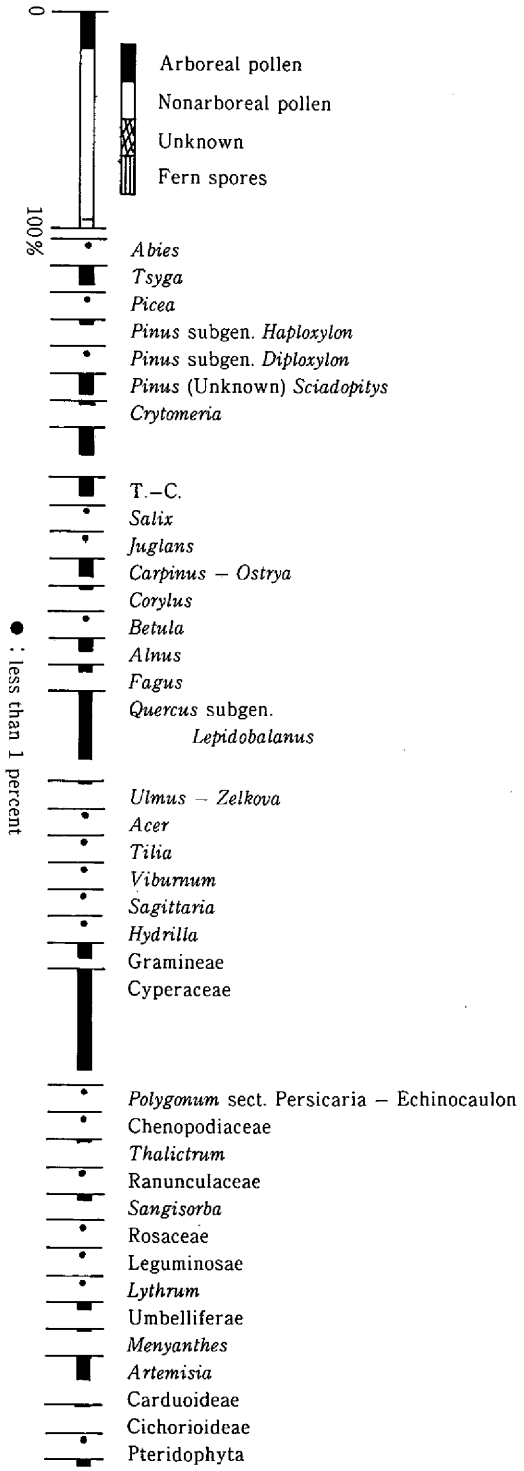


図1　舟津原遺跡試料花粉ダイアグラム

検出花粉・胞子化石名一覧表

検出花粉・胞子化石名（学名）	和　　名
ＡＰ－１（針葉樹花粉）	
Ginkgo	イチョウ属
Podocarpus	マキ属
Abies	モミ属
Tsuga sieboldii	ツガ
Tsuga diversifolia	コメツガ
Tsuga	ツガ属
Picea	トウヒ属
Pseudotsuga	トガサワラ属
Pinaceae	マツ科
Pinus subgen. *Haploxylon*	ゴヨウマツ亜属
Pinus subgen. *Diploxylon*	ニヨウマツ亜属
Pinus	マツ属
Sciadopitys	コウヤマキ属
Cryptomeria	スギ属
T.-C.	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科
Ephedra	マオウ属
Metasequoia	メタセコイア属
Sequoia	セコイア属
Taxodiaceae	スギ科
Dacrydium	リムノキ属
ＡＰ－２（広葉樹花粉）	
Myrica	ヤマモモ属
Juglans	クルミ属
Pterocarya	サワグルミ属
Platycarya	ノグルミ属
Carya	ペカン属
Salix	ヤナギ属
Alnus	ハンノキ属
Betula	カバノキ属
Carpinus–Ostrya	クマシデ属－アサダ属
Corylus	ハシバミ属
Castanea	クリ属
Castanopsis	シイノキ属
Fagus	ブナ属
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ亜属
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属
Aphananthe	ムクノキ属
Celtis	エノキ属
Onagraceae	アカバナ科
Epilobium	アカバナ属
Ulmaceae	ニレ科
Ulmus	ニレ属
Zelkova	ケヤキ属
Moraceae	クワ科
Viscum	ヤドリギ属
Magnoliaceae	モクレン科
Illicium	シキミ属
Euptelea	フサザクラ属
Nandina	ナンテン属
Akebia	アケビ属
Cercidiphyllum	カツラ属
Theaceae	ツバキ科
Camellia	ツバキ属
Eurya	ヒサカキ属
Hamamelidaceae	マンサク科
Hamamelis	マンサク属
Corylopsis	トサミズキ属
Saxifraga	ユキノシタ属
Rosaceae	バラ科
Prunus	サクラ属
Daphniphyllum	ユズリハ属
Ribes	スグリ属
Leguminosae	マメ科
Albizzia	ネムノキ属
Sapium	シラキ属
Mallotus	アカメガシワ属
Fagara	イヌサンショウ属
Phellodendron	キハダ属
Melia	センダン属
Orixa	コクサギ属
Skimmia	ミヤマシキミ属
Rhus	ウルシ属

検出花粉・胞子化石名（学名）	和　　名
Acer	カエデ属
Aesculus	トチノキ属
Ilex	モチノキ属
Euonymus	ニシキギ属
Buxus	ツゲ属
Vitis	ブドウ属
Ampelopsis	ノブドウ属
Parthenocissus	ツタ属
Rhamnaceae	クロウメモドキ科
Tilia	シナノキ属
Actinidia	マタタビ属
Stachyurus	キブシ属
Malvaceae	アオイ科
Elaeagnus	グミ属
Cornus	ミズキ属
Clethra	リョウブ属
Aucuba	アオキ属
Araliaceae	ウコギ科
Ericaceae	ツツジ科
Diospyros	カキ属
Styrax	エゴノキ属
Oleaceae	モクセイ科
Osmanthus	ヒイラギ属
Symplocos	ハイノキ属
Ligustrum	イボタノキ属
Fraxinus	トネリコ属
Trachelospermum	テイカカズラ属
Clerodendron	クサギ属
Lonicera	スイカズラ属
Sambucus	ニワトコ属
Viburnum	ガマズミ属
Weigela	タニウツギ属
Rutaceae	ミカン科
Abelia	ツクバネウツギ属
Liquidambar	フウ属
Illicium	シキミ属
Nyssa	ヌマミズキ属
Zanthoxylum	サンショウ属
Poncirus	カラタチ属
Adodendron	サカキカズラ属
ＮＡＰ（草本花粉）	
Humulus	カナムグラ属
Polygonum sect. Persicaria	サナエタデ節
Polygonum sect. Echinocaulon	ウナギツカミ節
Polygonum sect. Bistorta	イブキトラノオ節
Polygonum sect. Reynoutria	イタドリ節
Polygonum sect. Tovara	ミズヒキ節
Polygonum	タデ属
Fagopyrum	ソバ属
Rumex	ギシギシ属
Parnassia	ウメバチソウ属
Portulaca	スベリヒユ属
Caryophllaceae	ナデシコ科
Chenopodiaceae	アカザ科
Nelumbo	ハス属
Amaranthaceae	ヒユ科
Thalictrum	カラマツソウ属
Ranunculaceae	キンポウゲ科
Ranunculus	キンポウゲ属
Nymphaeaceae	スイレン科
Nymphaea	スイレン属
Aconitum	トリカブト属
Nuphar	コオホネ属
Euryale	オニバス属
Macleaya	タケニグサ属
Cruciferae	アブラナ科
Potentilla	キジムシロ属
Sanguisorba	ワレモコウ属
Rosaceae	バラ科
Leguminosae	マメ科
Acalypha	エノキグサ属
Aukia	アズキ属
Vicia	ソラマメ属
Dunbaria	ヒメクズ属
Geranium	フウロソウ属
Euphorbiaceae	トウダイグサ科

検出花粉・胞子化石名（学名）	和　名
Euphorbia	トウダイグサ属
Polygala	ヒメハギ属
Impatiens	ツリフネソウ属
Corchoropsis	カラスノゴマ属
Malva	ゼニアオイ属
Actinostemma	ゴキヅル属
Campanula	ホタルブクロ属
Trapa	ヒシ属
Lythrum	ミソハギ属
Rotala	キカシグサ属
Epilobium	アカバナ属
Ludwigia	チョウジタデ属
Haloragis	アリノトウグサ属
Myriophullum	フサモ属
Umbelliferae	セリ科
Paederia	ヘクソカズラ属
Utricularia	タヌキモ属
Nymphoides	アサザ属
Galium	ヤエムグラ属
Gentiana	リンドウ属
Montropastrum	ギンリョウソウ属
Rubiaceae	アカネ科
Rubia	アカネ属
Calystegia	ヒルガオ属
Cuscuta	ネナシカズラ属
Labiatae	シソ科
Mosla	ヤマジソ属
Solanaceae	ナス科
Solanum	ナス属
Justicia	キツネノマゴ属
Sesamum	ゴマ属
Plantago	オオバコ属
Ottelia	ミズオオバコ属
Patrinia	オミナエシ属
Scabiosa	マツムシソウ属
Campanulaceae	キキョウ科
Campanula	ホタルブクロ属
Platycodon	キキョウ属
Adenophora	ツリガネニンジン属
Carduoideae	キク亜科
Artemisia	ヨモギ属
Diaspananthus	クサヤツデ属
Cichorioideae	タンポポ亜科
Xanthium	オナモミ属
Sagittaria	オモダカ属
Caldesia	マルバオモダカ属
Hydrilla	クロモ属
Alisma	サジオモダカ属
Blyxa	スブタ属
Potamogeton	ヒルムシロ属
Liliaceae	ユリ科
Monochoria	ミズアオイ属
Urticaceae	イラクサ科
Iridaceae	アヤメ科
Aneilema	イボクサ属
Eriocaulon	ホシクサ属
Gramineae	イネ科
Sparganium	ミクリ属
Typha	ガマ属
Cyperaceae	カヤツリグサ科
Zea	トウモロコシ属
Polygalaceae	ヒメハギ科
Polemoniaceae	ハナシノブ科
Menyanthes	ミツガシワ属
Phyllanthus	コミカンソウ属
Gossypium	ワタ属
ＦＰ（形態分類花粉）	
Inaperturate pollen	無口型花粉
Monoporate pollen	単孔型花粉
Trizonoporate pollen	三孔型花粉
Trizonocolpate pollen	三溝型花粉
Trizonocolporate pollen	三溝孔型花粉
Polypantoporate pollen	多散孔型花粉
Tetrazonoporate pollen	四孔型花粉
Tetrazonocolpate pollen	四溝型花粉
Tetrazonocolporate pollen	四溝孔型花粉
ＦＳ（羊歯類胞子・形態分類胞子）	

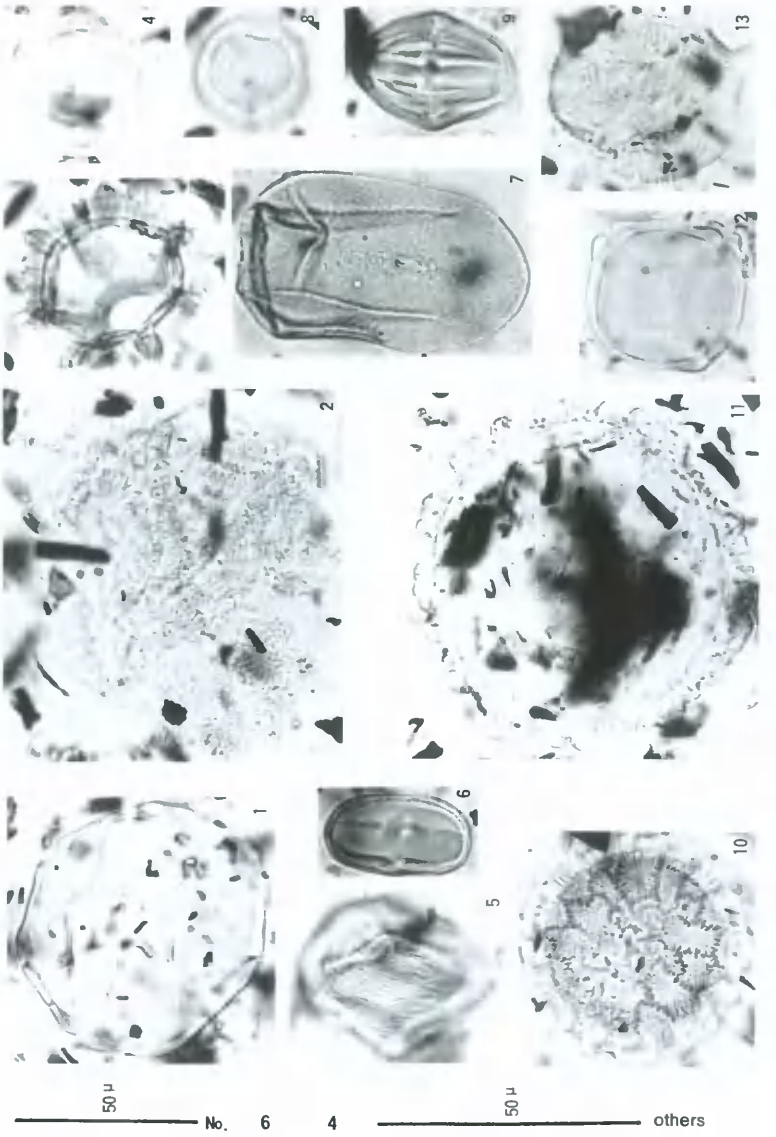
検出花粉・胞子化石名（学名）	和　名
Lyclpodiaceae	ヒカゲノカズラ科
Lycopodium	ヒカゲノカズラ属
Selaginellaceae	イワヒバ科
Selaginella	イワヒバ属
Ophioglossum	ハナヤスリ属
Osmundaceae	ゼンマイ科
Osmunda	ゼンマイ属
Lygodium	カニクサ属
Hymenophyllaceae	コケシノブ科
Pteris	イノモトソウ属
Ceratopteris	ミズワラビ属
Polypodiaceae	ウラボシ科
Salvinia natans	サンショウモ
Isoetes	ミズニラ属
Marsilea	デンジソウ属
Azolla	アカウキクサ属
Monolete spore	単条溝型胞子
Trilete spore	三条溝型胞子
その他の微化石	
Pseudoschizaea	淡水生藻類
Botryococcus	緑藻類
Dinoflagellates	渦鞭藻類
Pediastrum	クンショウモ属

図　版　説　明

図版　1

写真番号	花粉化石名	倍率
1	*Juglans*	×277
2	*Hydrilla*	〃
3	Cichorioideae	〃
4	*Artemisia*	〃
5	*Menyanthes*	〃
6	Umbelliferae	〃
7	Cyperaceae	〃
8	*Thalictrum*	〃
9	*Sanguisorba*	〃
10	*Polygonum* sect. persicaria– Echinocaulon	×190
11	*Tsuga*	〃
12	*Alnus*	×277
13	*Menyanthes*	×190

図版 1



2　珪藻分析

2－1　試　料

珪藻分析試料は，縄文後・晩期包含層から得られた1点で，花粉分析と同一である。

2－2　分析方法

珪藻の抽出は，以下の方法で行った。

試料の秤量（湿量5.6ｇ）－過酸化水素水処理（試料の泥化・有機物の分解漂白）－傾斜法にて粗粒砂を除去－分散剤（ピロリン酸ナトリウム）を加え粘土分を除去－Ｌ字形管分離法にて細砂分を除去－希釈－散布（18×18^{m}/$_{m}$カバーガラス上に0.5 cc）－自然乾燥－封入（プリュウラックス使用）－検鏡（1000倍）

珪藻殻の算定は，メカニカルステージを用い縦線に沿って移動させ任意に出現する珪藻200個体以上になるまで行った。この際，半分以上破損したものや溶解を受けたものについては1個体として数えなかった。

珪藻殻の同定及び生態性については，Hustedt（1930，1959，1961～1966），Patrick and Reimer（1966，1975），Florin（1970），Foged（1971，1974，1976，1977，1978，1980，1981，1982），小林（1964，1960），小林・原口（1969），安藤（1969），安藤・原口・小林（1971）などを参考とした。

2－3　分析結果及び考察

各試料から検出された珪藻は，塩分濃度に対する適応性（Halobion rate）を基準として真塩性（＝海水生），貧塩性（＝淡水生）に分け，貧塩性については，塩分，水素イオン濃度（pH），水の流動性の各生態区分も行い，アルファベット順にならべまとめた。

産出頻度の高い種については，全体を基数とする比率のダイアグラムを図2に示した。図中帯グラフのうち塩分濃度（海水・海水～汽水・汽水・淡水）に対するものは全体基数，貧塩性（淡水生）の各生態性に対するものは貧塩性の合計を基数としたものである。なお，帯グラフ，ダイアグラムは合計で100個以上検出されたものについて作成した。主要種は，図版2・3－1に示した。

次に珪藻群集の特徴を述べる。

貧塩好塩・好アルカリ性・流水不定の Rhopalodia gibberula が優占する他，Pinnularia viridis, P. viridis var. sudetica, Eunotia monodon var. tropica, E. pectinalis var. minor, Pinnularia appendiculata var. nipponica などの主に貧塩嫌塩，好酸性～不安性，好止水～流水不定性種によって占められる。この他，低率であったが，Diploneis ovalis, Gomphonema angnstatum, G. angnstatum var. producta, Navicula mutica, Pinnularia imperatrix, P. microstauron, P. nobilis, P. stomatophora, P. subcapitata, P. subcapitata などの付着性種を伴う。

このように，当試料は，優占種の Rhopalodia gibberula を除くと，Eunotia 属，Pinnularia 属の産出が高い。これらの種が多産する環境は，一般に腐植質に富む有機酸性水域の泥炭地や湿地に多くみられるとされる。これに対して，Rhopalodia gibberula は好塩性で時には流水にもみられ，pH に対する適応性も好アルカリ性であり今回多産した珪藻の一般的生態性に反するものである。

以上のことから堆積環境を述べると，当試料は有機酸性水域の湿原や泥炭地と考えられる。また，前述の *Rhopalodia gibberula* は大量に搬入されたものと推定される。

文　献

小林・山下（1969）　三宝寺池のケイソウ．陸水学雑誌，vol. 30，No. 3，p .98－107。

田中・吉田・中島（1977）　奥利根地域の珪藻類．群馬県奥利根地域学術調査報告書，Ⅱ，p .114～135。

3　種子同定

3－1　試　料

試料は縄文時代後期～晩期の遺物包含層の下層の土壌１点で，花粉，珪藻分析に用いた残りの全量を分析試料とした。試料は約460ｇ（湿重）あった。

3－2　方　法

試料を数日間水に浸しておいたのち，手で軽く揉みほぐしながら流水中で篩別，0.5㎜以上の残渣を室内で自然乾燥させ，再度篩別，双眼実体鏡下で種実を拾い出し，同定・計数した。同時に検出種実の拡大写真図版（図版３－２）も作成した。

3－3　結　果

残渣には，炭化材・炭火稈や昆虫の外骨格片，褐鉄鉱（高師小僧）などが認められたが，種実は少なかった。検出された種実の個体数を一覧表で示した（表３）。

表３　種実個体数

種　　名	個体数
Sagittaria sp.（オモダカ属の一種）	5
cf. *Oryza sativa*（イネ科類似種）	3
その他	5
合　　計	13

なお，試料中には同定できる大きさの材片は含まれていなかった。

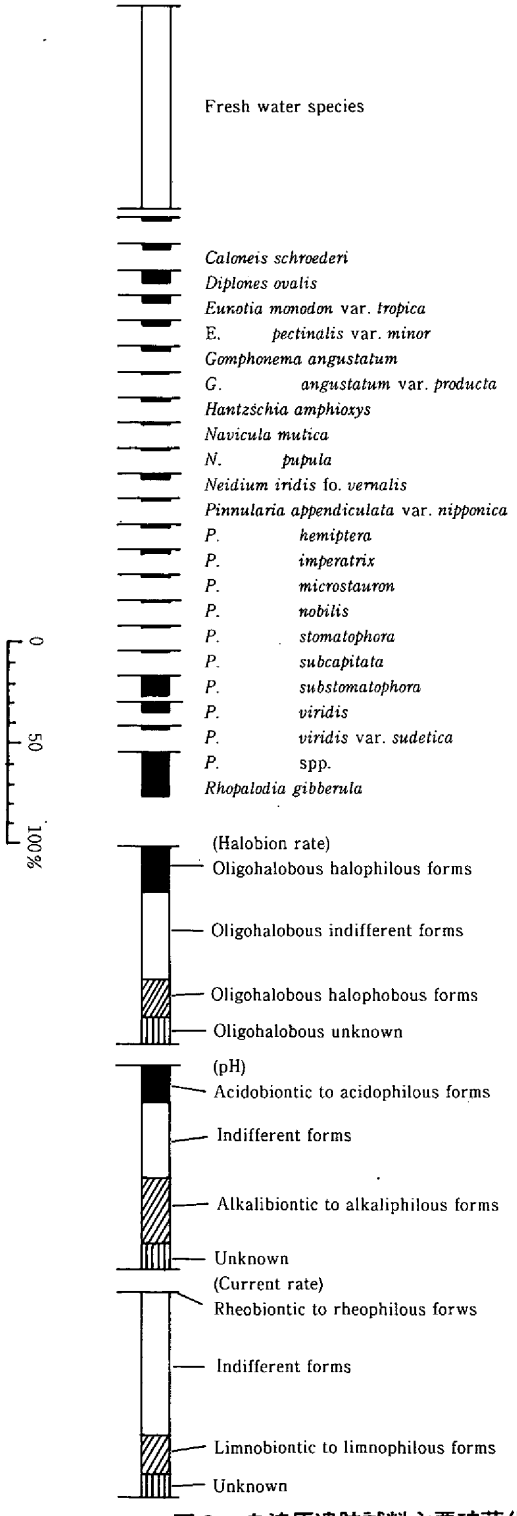


図2　舟津原遺跡試料主要珪藻化石ダイアグラム

表2　舟津原遺跡試料珪藻分析結果

Species Name	Ecology			
	H.R.	pH	C.R.	
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			1
Caloneis schroederi Hustedt	Ogh—ind	ind	ind	3
Cyclotella meneghiniana Kuetzing	Ogh—hil	al—il	ind	1
Cymbella aspera (Ehr.) Cleve	Ogh—ind	al—il	ind	1
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh—ind	ind	ind	2
Cymbella minuta Hilse ex Kabh.	Ogh—ind	ind	ind	1
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh—ind	ind	ind	1
Cymbella turgidula Grunow	Ogh—ind	al—il	ind	1
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh—ind	ind	ind	6
Eunotia bigibba Kuetzing	Ogh—hob	ac—il	unk	1
Eunotia lunaris (Ehr.) Grunow	Ogh—hob	ac—il	ind	1
Eunotia monodon Ehrenberg	Ogh—hob	ac—il	l—ph	1
Eunotia monodon var. *tropica* Hustedt	Ogh—unk	unk	l—ph	16
Eunotia pectinalis var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh—hob	ac—il	ind	9
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh—hob	ac—il	ind	1
Eunotia praerupta var. *bidens* Grunow	Ogh—hob	ac—il	ind	1
Eunotia praerupta var. *inflata* Grunow	Ogh—hob	ac—il	ind	2
Eunotia tridentula Ehrenberg	Ogh—unk	unk	unk	1
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh—ind	al—il	ind	7
Gomphonema angustatum var. *producta* Grunow	Ogh—ind	al—il	ind	5
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh—ind	ind	l—ph	1
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh—ind	al—il	ind	3
Meridion circulae var. *constricta* (Ralfs) V.Heurck	Ogh—ind	al—il	r—bi	2
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh—ind	al—il	r—ph	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh—ind	ind	ind	4
Navicula pupula Kuetzing	Ogh—ind	ind	ind	3
Neidium iridis (Ehr.) Cleve	Ogh—hob	ind	l—bi	1
Neidium iridis fo. *vernalis* Reichelt	Ogh—hob	ind	l—bi	3
Neidium iridis var. *amphigomphus* (Ehr.) V.Heurck	Ogh—hob	ac—il	l—bi	1
Pinnularia appendiculata (Ag.) Cleve	Ogh—hob	ind	ind	1
Pinnularia appendiculata var. *nipponica* Skvortzow	Ogh—hob	ind	l—ph	7
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh—ind	ind	ind	1
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh—hob	ac—il	unk	2
Pinnularia divergens var. *elliptica* (Grun.) Cleve	Ogh—hob	ind	unk	2
Pinnularia divergentissima (Grun.) Cleve	Ogh—ind	ac—il	ind	1
Pinnularia cf. *gentilis* (*Donkin*) Cleve	Ogh—ind	ind	l—bi	1
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh—ind	ac—il	ind	2
Pinnularia gibba var. *dissimilis* H.Kobayashi	Ogh—unk	unk	unk	2
Pinnularia hemiptera (Kuetz.) Cleve	Ogh—hob	ind	l—ph	3
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh—unk	unk	unk	4
Pinnularia leptosoma Grunow	Ogh—hob	ind	unk	2
Pinnularia maior Kuetzing	Ogh—ind	ac—il	l—bi	2
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh—ind	ac—il	ind	5
Pinnularia nobilis Ehrenberg	Ogh—hob	ac—il	unk	3
Pinnularia stomatophora (Grun.) Cleve	Ogh—ind	ac—il	l—ph	3
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh—ind	ind	ind	3
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh—ind	ac—il	unk	3
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh—ind	ind	ind	21
Pinnularia viridis var. *sudetica* (Hilse) Hustedt	Ogh—ind	ind	ind	12
Pinnularia spp.	Ogh—unk	unk	unk	4
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O.Muller	Ogh—hil	al—il	ind	48
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh—ind	ind	ind	2
Tabellaria flocculosa (Roth) Kuetzing	Ogh—hob	ac—il	l—bi	2
Marine Water Species				1
Marine to Brackish Water Species				0
Brackish Water Species				0
Fresh Water Species				216
Total Number of Diatoms				217

Legend

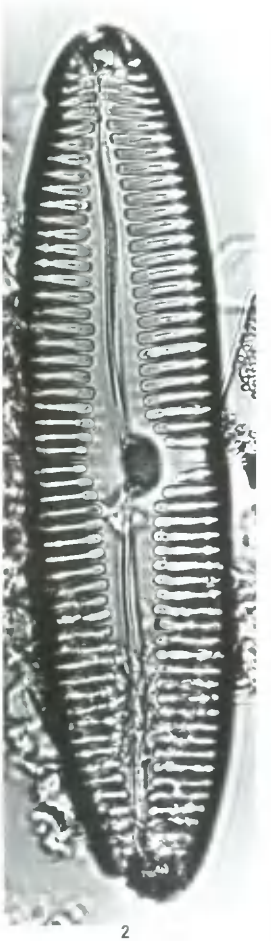
H.R. :Halobion rate
- Euh :Euhalobous (Marine Water)
- Ogh—hil :Oligohalobous halophilous forms
- Ogh—ind :Oligohalobous indifferent forms
- Ogh—hob :Oligohalobous halophobous forms
- Ogh—unk :Oligohalobous unknown

pH:potential of Hydrogen
- ac—bi :Acidobiontic forms
- ac—il :Acidophilous forms
- ind :Indifferent forms
- al—bi :Alkalibiontic forms
- al—il :Alkaliphilous forms
- unk :Unknown

C.R. :Current rate
- l—bi :Limnobiontic forms
- l—ph :Limnophilous forms
- ind :Indifferent forms
- r—bi :Rheobiontic forms
- r—ph :Rheophilous forms
- unk :Unknown

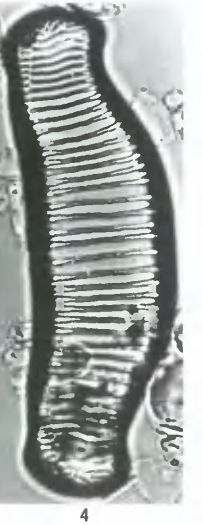
図版 2

1



2

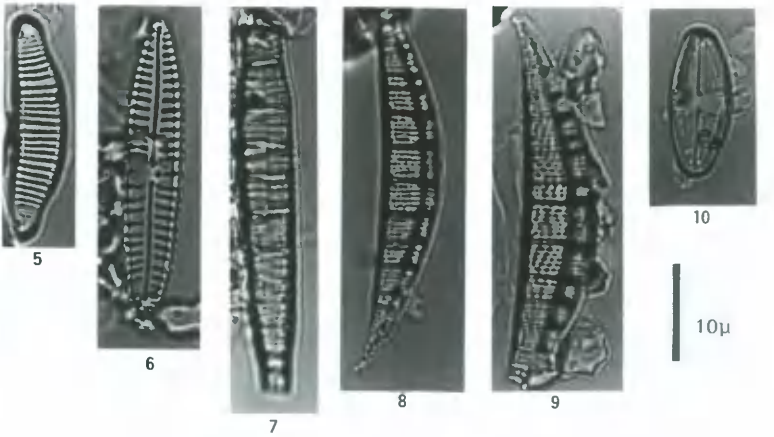
3



4

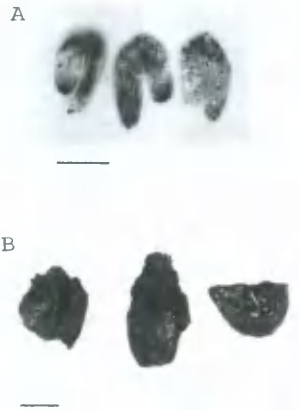
10 μ

図版 3 — 1



写真番号	珪藻化石種名	写真番号	珪藻化石種名
1	*Pinnularia maior* Kuetzing	6	*Gomphonema angustatum* (Kuetz.)Rabenhorst
2	*P. viridis* (Nitz.) Ehrenberg	7	*Meridion circulas* var *constricta* (Ralfs)V. Heurck
3	*Eunotia monodon* var. *tropica* Hustedt	8	*Rhopalodia gibberula* (Ehr.)O.Muller
4	*E. Praerupta* Ehrenberg	9	R. *gibberula* (Ehr.)O Muller
5	*E. Pectinalis* var. *minor* (Kuetz.)Rabenhorst	10	*Navicula mutica* Kuetzing

図版 3 — 2



A：*Sagittaria* sp.
B：cf. *Oryza sativa*
スケールは 1 mm

6．舟津原遺跡出土種子鑑定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　試　　料

送付された試料は湿った状態にあったので，保管中に大半のものはカビが生えた。従って全試料を自然乾燥させた後，拡大鏡あるいは双眼実体顕微鏡をもって形態の特徴その他鑑定に必要な要素について観察を行った結果以下の結果を得た。

2　鑑定結果

表1　種子鑑定結果

試料番号	種子名	試料番号	種子名
1	Quercus sp.（コナラ属の一種）※	22	cf. Quercus sp.
2	Quercus sp.	23	cf. Quercus sp.
3	Quercus sp.	24	cf. Quercus sp.
4	Quercus sp.	27	cf. Quercus sp.
5	cf. Quercus sp.（コナラ属の一種？）※	28	cf. Quercus sp.
6	Quercus sp.	29	cf. Quercus sp.
7	Quercus sp.	30	cf. Quercus sp.
13	Quercus sp.	36	Quercus sp.
16	cf. Quercus sp.	39	Quercus sp.
18	cf. Quercus sp.	44	Quercus sp.
19	cf. Quercus sp.	47	Quercus sp.
20	cf. Quercus sp.	49	Aesculus turbinata（トチノキ）
21	cf. Quercus sp.	50	Quercus sp.

※　この他，同じブナ科のCastanopsis（シイ属），pasania（マテバシイ属）の可能性も否定出来ない。

3　考　　察

今回受領した50個の試料中，表1に掲げたように26個の鑑定が可能であった。他のものは，保存不良あるいは破砕部分が多く鑑定は不可能であった。

表1に示したように大半はQuercus sp.（コナラ属の一種）であり，No.1，No.5はシイ属

あるいはマテバシイ属の可能性も否定できない。

No.16～30の試料では保存が比較的悪いため，Quercus sp.（コナラ属）と鑑定はしたが，cf.（鑑定の確実性が低い）と言う表示を行った。

No.36～50における試料は大半 Quercus sp.（コナラ属）であったがNo.49は Aesculus turbinata（トチノキ）と鑑定した。

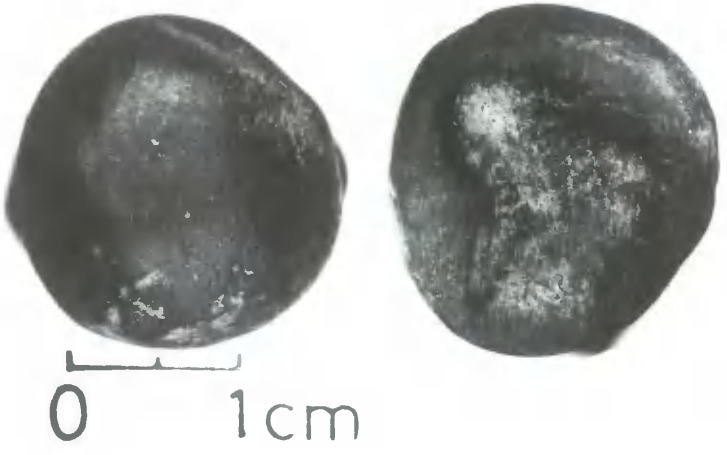
外形のみにて種の同定は不可能ではあるが Quercus（コナラ属）中には一般にクヌギ，ナラ，コナラ，ミズナラ，カシワ，アベマキ等の常緑，コルクガシ，ウバメバシ，アカガシ，シラガシ，アラガシ，ウラジロガシ等の落葉種が含まれる。

図版１に示されているような，やゝ球形を示す種子はクヌギの種子と類似しているが確実な同定は出来ていない。

今回の種子鑑定の殆んどが Quercus, 一部が Aesculus であったが，試料は土壙中より採取されているのでコナラ属あるいはトチノキのみを選択的にその中に集積した可能性もある。

図版 1

1．Quercus sp.



2．Aesculus turbinata

7．阿津走出遺跡出土の縄文時代人骨

岡山理科大学教授　池　田　次　郎
岡山理科大学教授　川　中　健　二

岡山県古代吉備文化財センターが，本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査の一環として実施した倉敷市児島阿津一丁目所在の阿津走出遺跡から１体の埋葬人骨が発見された。人骨は縄文時代後・晩期の包含層に，頭を東南東に向け，仰臥屈位で埋葬されている。股関節と膝関節を強く折り曲げた左右の下肢骨は体の左側に倒れており，左の大腿骨と下腿骨の上には，25cm×20cm程度の石が乗っている。これよりやや小さい石が，左胸部と右前腕の上にもあるので，抱石葬とみることができる。

保存状態

骨質はきわめて堅牢であるが，破損が著しく，欠損部位が多いため，完全に復元できた骨は皆無に近い。

頭蓋骨：脳頭蓋はほぼ完形に近く復元できたが，左右の頭頂骨と側頭骨，後頭骨に欠損部がみられ，とくに左頭頂骨は矢状縁付近を除きその大部分を欠いている。蝶形骨は左右の大翼を残すだけである。

顔面骨としては，前頭骨に接続する左の頬骨と，左下顎頭を欠く下顎骨が残っている。下顎骨には左右の第３大臼歯だけが釘植しており，左右の中切歯と第１大臼歯，左の第２小臼歯，右の側切歯の歯槽は完全に閉鎖している。また右の第２小臼歯と第２大臼歯の歯槽は閉鎖こそしていないが，きわめて浅く，これらの歯は生前に脱落していた疑いがある。

胴骨：第１・第３・第４頸椎および第１・第２腰椎のほか腰椎もしくは下位胸椎の椎弓破片が残存する。肋骨は右の肋骨体破片，胸骨は体の上半分だけが残っている。

上肢骨：左肩甲骨の外側縁から関節窩，肩甲棘基部にかけて残っているが，右肩甲骨はみられない。左右の鎖骨は両端の一部を欠くが，ほぼ完全である。右上腕骨は遠位½を，左上腕骨は近位½を残しているが，後者は大結節，小結節および頭の大部分を欠いている。右橈骨は頭および頸の後半分と遠位端を欠き，左橈骨は遠位約½を残すが，茎状突起を欠損する。右尺骨は近位約⅓と中央付近の骨体が，左尺骨は遠位約⅓が残っている。手骨としては，中手骨，基節骨，中節骨の破片が認められる。

下肢骨：寛骨は左右とも腸骨，坐骨の破片で恥骨はない。右大腿骨は近位約⅓を残すが，頭の大部分，大転子，小転子を欠き，左大腿骨はほぼ全長にわたって残存するが，近位端では頭

の内側部，大転子後面，小転子を，遠位端では内側上顆，内側顆および外側顆後部を欠く。膝蓋骨の前面の破片が残存するが，左右いずれかは判定できない。右脛骨は近位約⅔と遠位端が残存するが，上関節面の一部や内果が欠損し，左脛骨は骨体中央部約⅔と，近位端，遠位端の破片が残っている。右腓骨は遠位端とそれに続く骨体の一部，左腓骨は骨体中央部約⅓を残している。足骨としては，左右の距骨と踵骨，右第３楔状骨，中足骨，指骨が遺存するが，いずれも破損している。

性・年齢の判定

寛骨の形態から男性と判定される。冠状縫合，矢状縫合，人字縫合など頭蓋縫合の癒合は進行していないが，下顎骨では第３大臼歯以外の大臼歯，小臼歯の歯槽がほとんど閉鎖しており，第３大臼歯は左右とも咬合面のほぼ全域にわたって象牙質が露出していること，椎骨体に縁嘴形成が認められ，それは第３，第４頸椎でとくに著しく，それらの椎体が扁平化していることなどを考慮すれば被葬者の死亡年齢は熟年後半と推定される。

人骨の特徴（表１～３，図版１・２）

欠損部が多いため計測できた項目は少ないが，それらを地理的に近く同時代の津雲貝塚出土の男性の平均値と比較しながら，阿津走出人骨の特徴を検討する。

頭蓋骨：脳頭蓋の最大長，バジオン・ブレグマ高は津雲人とよく一致し，そのため長高示数にも差はない。左頭頂骨が破損しているため正確な最大幅は得られないが，復元した頭蓋から推定される最大長は約144㎜で，これも津雲人の144.4㎜と変わりない。したがって長幅示数は76.6程度となり，津雲人とともに中型に属す。

上面観での輪部は楔形で，ラムダ前圧痕が存在する。側面観では後頭部が紡錘状に後方に突出し，正中矢状弧長も津雲人の数値と一致するが，矢状前頭示数はやや小さい。側頭線，乳突上稜はきわめて強く，外耳道骨腫は認められない。基底長，基底幅ともやや小さく，頭蓋基底示数も僅かに小さいが，両耳幅は大きい。乳様突起の大きさは中程度で，舌下神経管は左右とも単一である。

眉間上窩は深く，眉間と眉弓は強く隆起し，右眼窩上縁に眼窩上孔は認められない。上顔幅は津雲人よりやや小さいが，最小前頭幅は一致する。

下顎骨体は歯槽縁の骨吸収のため低く，きゃしゃで，下顎体厚は小さいが，下顎枝は比較的頑丈で，下顎角の内外面，オトガイ棘など筋付着部は強い。下顎角幅，前下顎幅は津雲人より狭く，下顎骨長は長い。下顎枝幅は津雲人と同程度であるが，下顎枝高が著しく低いため，下顎枝示数は津雲人より大きい。下顎切痕の高径，幅径および示数とも津雲人と大差ない。下顎角は外反し，角前切痕が認められる。

四肢骨：左鎖骨は右鎖骨より短く，細いが長厚示数はほぼ一致する。左右とも津雲人より短

く，細く，長厚示数も小さく，きゃしゃである。中央矢状径は津雲人と大差ないが，中央垂直径が小さいので，骨体断面示数は著しく小さい。肩甲骨関節窩の幅径は津雲人とほとんど変らないが，長径が小さいため長幅示数は大きい。

上腕骨骨体中央の最大径，周径は津雲人より小さく，最小径はやや大きいので，骨体断面示数は著しく大きい。大結節稜，小結節稜および三角筋粗面は強い。橈骨および尺骨の最小周も津雲人より小さい。尺骨の上前後径は津雲人と一致するが，上横径が著しく小さいため扁平示数は著しく大きい。

大腿骨の最大長は津雲人よりはるかに長く，中央周は同程度である。したがって中央周の最大長に対する比では津雲人より小さい。骨体中央部の横径，矢状径，および中央断面示数は津雲人とほぼ一致し，柱状性は強い。骨体上部の横径ないし最大径は津雲人よりやや小さく，矢状径ないし最小径は大きいので，上骨体の断面示数は著しく大きい。骨体の弯曲は強く，殿筋粗面や大転子の小殿筋付着部も強い。

脛骨の最小周，中央部および栄養孔部における骨体周はいずれも津雲人よりやや小さい。中央部，栄養孔部における矢状径，横径のうち，栄養孔部横径のみ津雲人と一致するが，それ以外は津雲人よりやや小さい。中央断面示数は津雲人より僅かに小さく，脛示数はやや大きいが大差なく，いずれも著しい扁平性を示す。脛骨粗面，ヒラメ筋線は強く発達し，脛骨粗面外側部の前脛骨筋付着部は深く陥凹している。骨体の後面にヒラメ筋線から骨体中央付近まで延びる第四稜が認められる。

左大腿骨最大長からピアソン式を用いて計算した推定身長は162.1cmで，津雲人の157.0cmよりかなり大きい。

以上，阿津走出男性骨は，脳頭蓋計測値では津雲人の平均値とほとんど完全に一致し，下顎骨計測値で大差ない。四肢長骨も津雲人に比しやや細いが，鎖骨，大腿骨，脛骨の骨体の扁平性という点では津雲人より著しい。これに対して，上腕骨の骨体断面示数と尺骨の扁平示数は津雲人よりはるかに大きく，津雲人と異なるが，計測値のみならず筋付着部の発達度などを含め，阿津走出人骨は津雲人に酷似し，この地域の縄文後・晩期人の典型的な特徴を備えていると結論できる。

表1　阿津走出遺跡出土人骨（熟年男性）頭蓋骨計測値および示数

		阿津走出	津　雲
1	最大長	(188)	186.2
5	基底長	100	103.4
7	大後頭孔長	(33)	34.8
9	最小前頭幅	95	95.5
11	両耳幅	(129)	125.2
13	基底幅	(103)	106.1
17	バジオン・ブレグマ高	(133)	134.0
20	耳ブレグマ高	(115)	112.9
25	正中矢状弧長	373	375.0
26	正中矢状前頭弧長	123	121.9
29	正中矢状前頭弦長	108	108.9
17/1	長高示数	(70.7)	71.6
20/1	長耳ブレグマ高示数	(61.2)	61.0
5/13	頭蓋基底示数	97.9	96.9
29/26	矢状前頭示数	87.8	89.5
43	上顔幅	106	109.0
66	下顎角幅	101	105.4
67	前下顎幅	48	50.3
68	下顎骨長	77	75.0
69(3)	下顎体厚	9	12.9
70	下顎枝高　右	57	61.8
70(3)	下顎切痕高　右	13	13.2
70a	下顎頭高　右	57	—
71	下顎枝幅　左	33	33.7
	右	34	34.0
71(1)	下顎切痕幅　右	37	36.3
79	下顎枝角	117	121.1
71/70	下顎枝示数　右	59.6	55.1
70(3)/71(1)	下顎切痕示数　右	35.1	36.6

表2　阿津走出遺跡出土人骨（熟年男性）上肢骨計測値および示数

		阿津走出		津　雲	
		左	右	左	右
	鎖　骨				
1	最大長	142	147	153.2	152.5
4	中央垂直径	8	8	10.0	10.0
5	中央矢状径	12	13	13.3	13.2
6	中央周	33	35	39.3	38.8
6/1	長厚示数	23.2	23.8	25.9	25.6
4/5	骨体断面示数	66.7	61.5	76.2	76.3
	肩甲骨				
12	関節窩長	35	—	37.1	
13	関節窩幅	26	—	26.4	
13/12	関節窩長幅示数	74.3	—	71.5	
	上腕骨				
5	中央最大径	22	(22)	23.7	23.9
6	中央最小径	18	(18)	17.9	17.7
7	骨体最小周	—	(64)		65.0
7 a	中央周	67	—	68.8	
6/5	骨体断面示数	81.8	(81.8)	74.7	73.1
	橈　骨				
3	最小周	42	—	43.4	
	尺　骨				
3	最小周	36	—	38.9	
5（1）	上関節面高	—	38		—
6（1）	上幅	—	27		29.1
13	上横径	—	20		21.2
14	上前後径	—	21		25.5
13/14	扁平示数	—	95.2		82.6

表3　阿津走出遺跡出土人骨（熟年男性）下肢骨計測値および示数

		阿津走出		津　雲	
		左	右	左	右
	大腿骨				
1	最大長	430	—	414.9	
6	中央矢状径	29	—	28.9	
7	中央横径	25	—	25.5	
8	中央周	87	—	86.6	
9	骨体上横径	28	28	30.4	30.5
9'	骨体上部最大径	29	29	—	—
10	骨体上矢状径	25	25	24.8	24.2
10'	骨体上部最小径	25	25	23.5	23.1
15	頸垂直径（高）	32	—	31.5	
16	頸矢状径(幅･深)	27	—	26.1	
17	頸周	97	—	95.8	
23	外顆最大長	56	—	58.6	
8/1	頑丈示数	20.2	—	20.9＊	
6/7	中央断面示数	116.0	—	113.2	
10/9	上骨体断面示数	89.3	89.3	81.5	79.5
10'/9'	上部断面示数	86.2	86.2	—	—
16/15	頸断面示数	84.4	—	83.0	
	脛　骨				
8	中央最大径	31	31	31.7	32.1
8a	栄養孔部矢状径	—	35		35.4
9	中央横径	19	19	19.7	19.6
9a	栄養孔部横径	—	22		21.9
10	骨体周	82	83	82.5	83.7
10a	骨体周	—	91		92.2
10b	最小周	75	—	75.6	
9/8	中央断面示数	61.3	61.3	62.4	61.5
9a/8a	脛示数	—	62.9		62.0

＊：平均値より算出

1 頭蓋骨前面観

2 頭蓋骨側面観

3 頭蓋骨上面観

4 下顎骨

図版 2

上 肢 骨

下 肢 骨

椎 骨

阿津走出遺跡出土人骨（2）

8．阿津走出遺跡胎土分析及び材同定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　胎土分析

1－1　試料と分析の目的

試料は，古墳時代後期の製塩炉址と考えられている遺構より採取された粘土塊（試料番号1）とその付近の土層断面から採取した茶灰色土（試料番号2），同一遺跡の北壁土層断面より採取された粘土（試料番号3）の3点である。

本分析は，これら試料中に含まれる砂分の鉱物組成を比較することにより，試料間の関係を探ることを目的とする。

1－2　分析方法

試料を鉄乳鉢にて軽く粉砕，超音波洗浄を行い，分析篩を用いて水洗し，径1/16㎜以下の泥分を除去する。乾燥の後，径1/4㎜<・1/4～1/8㎜・1/8㎜>の3段階に篩別，1/4～1/8㎜の砂分をテトラブロモエタン（比重約2.96）により重液分離，重鉱物のプレパラートを作製し，偏光顕微鏡下で同定した。同定の際不透明鉱物については，斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものをAとし，それ以外をBとした。また，軽鉱物については実体鏡による概査を行った。

1－3　分析結果

試料の分析結果を表1・図1に示す。各試料の砂分の特徴を以下に述べる。

試料1の重鉱物組成は，黒雲母が非常に多く約80％を占める。他に少量の角閃石と微量の斜方輝石・カンラン石・ジルコンを含む。軽鉱物は長石が多く，また径1/4㎜<の砂分中には，灰～暗灰色の貝殻片が多数含まれる。顕微鏡下で，貝殻片の焼成痕は判然としなかった。

試料2の重鉱物組成は，鏡下では同定不能の鉱物が約70％を占める。この鉱物は，無色で柱状の細粒結晶が球状の集合体をなす。表1では，「不明」と表示し，集合体を1粒として計数してある。この鉱物の他には，黒雲母が約20％と微量のザクロ石・角閃石・斜方輝石・単斜輝石・ジルコンが含まれる。軽鉱物は長石が多く，少量の上記不明鉱物の集合体も含まれる。また，貝殻片は認められなかった。

試料3の重鉱物組成は，黒雲母が約90％を占め，他に微量の角閃石・斜方輝石・ザクロ石が含まれる。軽鉱物は長石が多く，また貝殻片は認められなかった。

以上の結果の中で，不透明鉱物に触れなかったのは，不透明鉱物のほとんどを占めるBは，2次的に生成した褐鉄鉱と考えられるからである。

1－4　考　察

(1)　試料1と2について

試料1は炉内より採取されており，また2は遺跡周辺の自然堆積層にみとめられないとされている。おそらく試料2は，他所から遺跡内へ搬入され，集積・使用されたものと考えられる。そこで，上記の分析結果より，2つの試料について考えられることを以下に述べる。

試料1は，貝殻片を含む粘土であり，ごく普通の自然堆積層中にみられる粘土に比べ特異である。したがって，人為的に貝殻を混入された可能性が強い。製塩との関連から，製塩炉の壁の一部とも考えられる。近藤・岩本（1986）には，粘土の土手で囲まれた製塩炉の例が紹介されているが，そこで使用された粘土とは山土に灰と焼き貝片を混ぜた灰土であろうという推測をしている。試料1に含まれる貝殻片が焼かれたものであるのか否か，鏡下では判然としなかったが，試料1が上記例のような粘土に相当する可能性は高いと考えられる。

試料2の不明重鉱物については，光学的性質・結晶の状態・比重（重液に近い）などから，アラレ石の可能性が考えられる。アラレ石の化学組成が$CaCO_3$であることからすると，製塩過程における海水からの析出物の可能性もある。今回分析試料とは時代性が異なるが，縄文時代の製塩土器やその包含層中に$CaCO_3$を主成分とする析出物が付着あるいは含まれている事例が，寺門（1983）によって紹介されている。以上より，試料2は，製塩炉の灰かあるいは製塩土器や捨て灰の包含層の粘土であることが考えられる。

(2)　3つの試料の関係について

試料1と3は，黒雲母が大部分を占め，少量の角閃石を伴うという砂粒の重鉱物組成が近似している。このことから試料1は試料3の粘土に，貝片などを混ぜて作られた可能性が考えられる。試料2は，砂粒の重鉱物組成からみて，他の2点と直接的な関係（例えば原材料と製品というような）はないと考えられる。

引用文献

近藤義郎・岩本正二（1986）　塩の生産と流通。岩波講座「日本考古学3－生産と流通－」，p.122～139.　岩波書店。
寺門義範（1983）　製塩。加藤晋平・小林達雄・藤本強　編「縄文文化の研究2－生業－」，p.239～251.　雄山閣。

表1　阿津走出遺跡試料重鉱物組成

試料番号	重鉱物組成											同定鉱物粒数
	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石		黒雲母	ジルコン	ザクロ石	不透明鉱物		不明	
				緑色	褐色				A	B		
1	1	2		19	1	249	1		2	36		311
2		2	1	3		47	1	5	1	10	147	217
3		1		4		289		1		17		312

※：数値は粒数

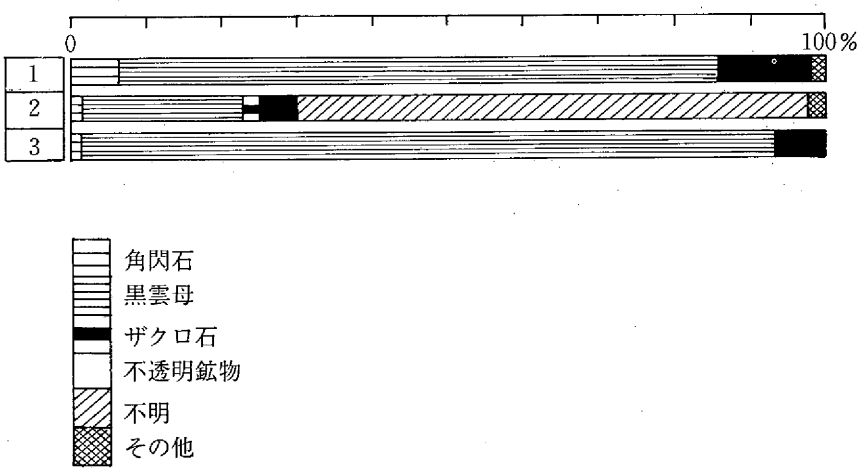
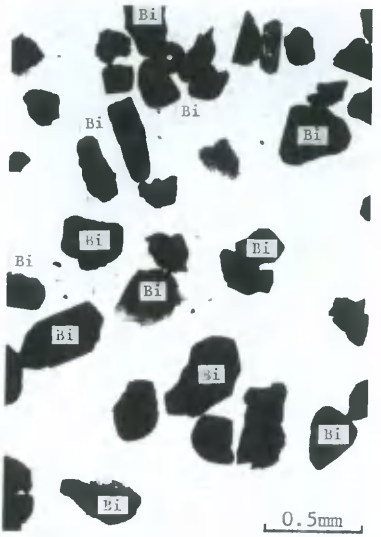


図1　阿津走出遺跡試料重鉱物組成

図版 1

No. 1

No. 2



No. 3

Opx：斜方輝石
Ho　：角閃石
Bi　：黒雲母
Z　　：ジルコン
，　　：不明鉱物

下方ポーラーのみ

2　炭化材同定

2－1　試　料

試料はNo．1，2の2点で，B－5区トレンチ東（No．1）および同区表土（No．2）から検出されたものである。試料の性格や時代などは不明である。

2－2　方　法

試料を乾燥させたのち，木口・柾目・板目三断面を作成，双眼実体鏡ならびに走査型電子顕微鏡で観察・同定した。同時に，顕微鏡写真図版（図版2）も作成した。

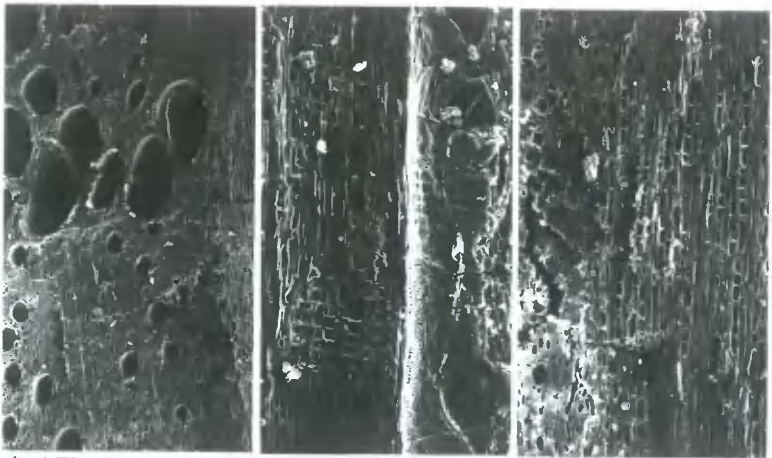
2－3　結　果

試料はともに，コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種［*Quercus*（subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*）sp.］と同定された。試料の主な解剖学的特徴は次のようなものである。

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は管壁は厚く，横断面では円形，小道管は管壁は中庸～厚く，横断面では角張った円形，ともに単独。単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

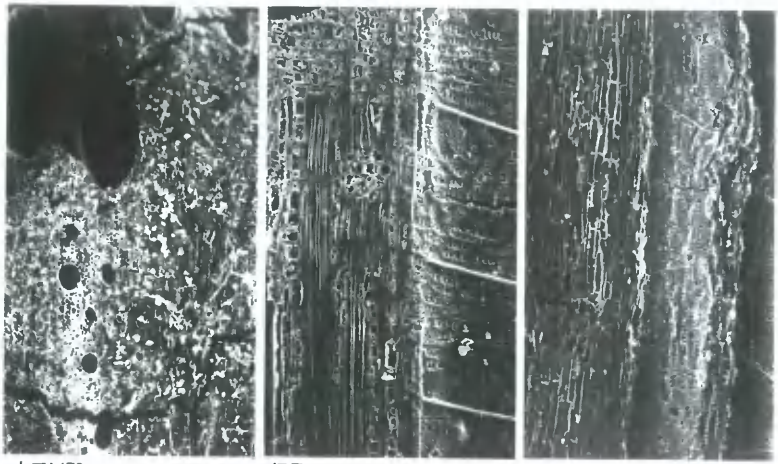
クヌギ節は，コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で，果実（いわゆるドングリ）が2年目に熟するグループで，クヌギ（*Quercus acutissima*）とアベマキ（*Q. variabilis*）の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州に，アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが，中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で，材は重硬である。古くから薪炭材として利用され，人里近くに萌芽林として造林されることも多く，国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材，楯木などの用途が知られる。樹皮・果実はタンニン原料となり，果実は染料・飼料ともなった。アベマキはクヌギによく似た高木で，樹皮のコルク層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが，更に重い。用途もクヌギと同様であるが，樹皮が厚いため薪材にはむかず，炭材としてもクヌギより劣るとされる。

図版 2



木口×70　　柾目×140　　板目×140

Quercus (subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) sp. No.1



木口×70　　柾目×140　　板目×140

Quercus (subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) sp. No. 2

9．菰池遺跡出土の焼骨について

岡山理科大学教授　川　中　健　二

1985年5月に実施された菰池遺跡（弥生時代中期中葉：岡山県倉敷市菰池）の発掘調査に際して，その竪穴住居址－1床面から焼骨が検出された。発掘担当者から筆者に対して，この焼骨が人骨かどうかの判別も含めて，調査が依頼された。

この焼骨資料は，後述の同定可能な骨片の形態的特徴から，人骨であることは間違いない。

観察結果

資料はいずれも破片になっているが，その中で，頭蓋骨・胴骨・四肢骨を判別することができた。

1.頭蓋骨

頭蓋骨の破片と判別できるものは約200片が残存しており，残存骨片中もっとも多数を占めている。この中で，①左側頭骨乳突部（これは径が37㎜×22㎜で，残存骨片中最大である），②右頭頂骨の前頭角を含む破片（25㎜×14㎜），③後頭骨の外後頭隆起を含む部分，④右側頭骨錐体の内耳孔を含む中心部の破片，⑤左側頭骨の頬骨突起基部，⑥右上顎骨の前頭突起などを同定することができた。骨片の多くは頭蓋冠のものと考えられ，顔面頭蓋の骨は極めて少なく，下顎骨と考えられる骨片は残っていない。歯は1本の歯根が残っているだけである。

上記の①は後頭縁下部と鱗縁後部を残しており，この後頭縁は鋸歯状を呈し，対応する後頭骨と縫合していたことを示している。また，②の前頭縁にも冠状縫合の跡が残されている。骨の厚さは，①の最厚部で4.1㎜，④の外後頭隆起と内後頭隆起の間で10.6㎜で，比較的薄いようである。

残存骨片の骨質はいずれも硬く，保存状態は良好である。径が1㎝以下の小さい破片では，外板と内板が剝離しているが，比較的大きい破片では剝離していない。色調は外板も内板もともに灰白色であるが，内板は心持ち茶色味を帯びている。

外板の表面（頭頂面）には，皺のような小さい亀裂を多数認めることができるが，内板の表面（大脳面）には亀裂はほとんど見られない。また，残存している骨片には，頭頂面が凹湾するといった，著しい変形を認めることはできない。

2.胴骨

第1頸椎の左半分，第2頸椎の歯突起と上関節面を含む椎体，頸椎と思われる椎骨の椎体2個，椎弓根の破片8個，肋骨骨体と思われる骨片1個だけが残存している。

破片の表面の色調は，頭蓋骨と同様に，灰白色である。第２頸椎の椎体と，椎弓根の破片は変形していないようであるが，第１頸椎の上関節面には亀裂が走り，２個の椎体は収縮しているように思われる。

３．四肢骨

約40個の骨片が四肢骨のものと判別できた。長骨はいずれも長軸方向に裂け，かつ大きい破片でも長径が２～３cm，小さいものでは１cm以下の小片になっている。同定できたものは，①左脛骨の内側縁を含む骨体の破片（これは４個の小片になっていたものを接合することができた），②左腓骨骨体下部の前縁と後縁を含む破片，③前腕の骨の破片と思われる破片２個，④大腿骨骨頭の一部と思われる海綿質の破片などである。

これらの骨片の表面の色は，やはり灰白色であるが，頭蓋骨に比べると黒味がやや強い。①の外面には多数の横方向の亀裂が走り，残存している骨片の中では表面の骨質がもっとも弱くなっている。②の外面の亀裂は，小数であるが大きく，この骨片は外面が凹湾し，変形の程度は残存骨片中もっとも著しい。③は，長軸方向に割れていることは①，②と変わりないが，横方向の亀裂は小さく少ない。

考察

はじめに触れたように，本資料の内同定可能な骨片はすべて人骨であることは間違いない。同定できた破片は少ないが，その中では同一部位が重複することはないので，すべてが１個体のものとみてよいであろう。

本資料が成人骨であることはまず間違いないが，その性や死亡時年齢を推定するための材料は極めて少ない。前頭骨の頭頂縁や側頭骨の後頭縁が，縫合が癒着していなかったために対応する骨からはずれたとすれば，壮年と考えることも不可能ではない。また，頭蓋骨の骨の厚さが比較的薄いので，女性と考えることも不可能ではない。しかし，縫合の癒着がかなり進んでいても，縫合に沿って割れるのが焼骨の特徴であるといわれているし[註1]，火を受けることによって収縮した可能性も高いので，いずれも断定することはできない。

すべての骨片の表面は灰白色を呈しており，長骨の破片には表面に横方向の亀裂が走っているものや変形しているものも少なくない。したがって，本資料はBaby[註2]による分類の完全焼骨に該当する。また，骨片の表面に残された亀裂は，白骨化する前の，軟部が付着していた間に火を受けたことを示している[註1,3]。つまり，本資料は，初めは付着していた軟部が焼け去り，骨そのものが焼けるようになるに至るまで必要な時間にわたって，700～800℃以上という比較的高温の火を受けた[註4]と推測することが可能である。

下肢骨の破片は，表面に多くの大きい亀裂が走り，変形の程度も大きいが，頭蓋骨・胴骨・上肢骨の破片は亀裂も小さく，ほとんど変形していない。これらの点から，体の各部位が受け

た火の強さに差があったとも推測することができる。しかし，焼けることによる変化の差は，それぞれの骨の緻密質の厚さや，骨の構築などの違いによってもたらされるのかもしれないといわれるので[註5]，体の各部位が受けた火の強さの差についても断定することはできない。

本資料を調査する機会を与えて頂いた岡山県古代吉備文化財センターの下澤公明氏と内藤善史氏，観察に当たって御指導頂いた岡山理科大学の池田次郎教授に感謝の意を表したい。

註

註1　Buikstra, J.E. (1973) Technique and interpretation in the study of a complex cremation site. In "The Perrins Ledge Crematory" J.E. Buikstra & L.Goldstein (eds.) pp. 15－23. Illinois State Museum. 池田[註5]より引用。

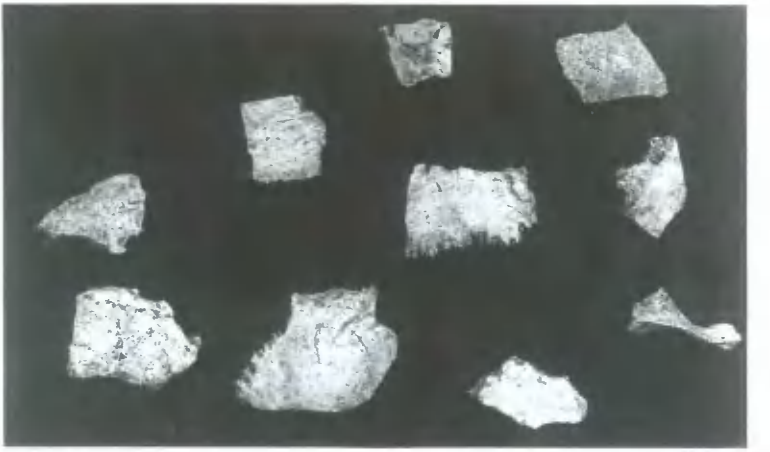
註2　Baby,R.S. (1954) Hopewell Cremation Practices.Papers in Archaeology,No.1.The Ohio Historical Society. 池田[註5]より引用。

註3　Binfold,L.R. (1963) An analysis of cremations from three Michigan sites.Wisconsin Archaeologist, 44：98－110. Ubelaker[註6]より引用。

註4　Herrmann, B. (1977) On histological investigations of cremated human remains. J.Human Evolution, 6：101－103.

註5　池田次郎（1981）「出土火葬骨について」奈良県橿原考古学研究所編『太安萬侶墓』pp. 79－88。

註6　Ubelaker,D.H. (1978) "Human Skeletal Remains－Excavation, Analysis, Interpretation", Taraxacum,Washington,D.C.



頭蓋骨

胴骨および四肢骨

葭池遺跡竪穴住居址－1出土焼骨

表－1　舟津原遺跡縄文土器観察表

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1	A区土壙－1	晩期Ⅱ類	口縁部～胴部	上アルカ属条痕 下ケズリ	条痕→ミガキ		口唇押圧痕	黒灰色			微砂	良	11	115－1
2	〃	〃	〃					黒褐色		暗灰色	〃，金雲母	〃	〃	
3	〃	〃	口縁部	アルカ属条痕	アルカ属条痕			灰白色	灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	115－1
4	〃	〃	底部	ミガキ	ミガキ			淡灰色			〃	〃	〃	〃
5	〃	〃	口縁部	〃	〃			黒褐色			〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	ケズリ	上条痕 下ケズリ			黒灰色	灰色		〃	〃	〃	〃
7	B区T－1	前期Ⅰ類	胴部	アルカ属条痕	アルカ属条痕	縄文	LR	淡褐色			細砂	〃	23	115－2
8	C区	前期Ⅱ類	口縁部	風化	〃	L		淡茶灰色			微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
9	B区T－1	〃	〃	風化	〃	爪形文	口唇キザミ	暗茶褐色	黒褐色		細砂	〃	〃	〃
10	C区	〃	胴部		平滑	〃	爪形 縄文	〃			微砂	〃	〃	〃
11	B区T－1	〃	〃		〃	〃		淡茶褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃	風化	風化	縄文	L地文	茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃		平滑	〃	羽状縄文	淡暗褐色			〃	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃		押圧	〃	異方向縄文 R	淡茶褐色			〃	〃	〃	〃
15	C区	〃	〃		押圧	〃	RL	茶褐色			〃	〃	〃	〃
16	B区T－1	前期Ⅲ類	口縁部		押圧痕	〃	口唇キザミ R	淡茶灰色			〃，カクセン石，雲母	〃	〃	〃
17	A区T－5北サレキ	前期Ⅱ類	胴部		風化	〃	突帯 LR	暗茶灰色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
18	B区T－1	前期Ⅲ類	口縁部				押し引き沈線	淡茶褐色			細砂	〃	〃	〃
19	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		平滑	縄文	LR	淡黄褐色			〃，金雲母	〃	〃	〃
20	C区	前期Ⅳ類	〃		押圧	〃	突帯上押引き，R地文				〃	〃	〃	〃
21	B区T－2	〃	〃		〃	〃	突帯，RL	茶褐色	黒灰色		微砂，火山ガラス	堅緻	〃	〃
22	A区T－1,2間サレキ	〃	〃				突帯押圧痕						〃	〃
23	A区T－1,2間	〃	〃		押圧	縄文	LR 刺突	淡茶褐色			微砂，火山ガラス	良	〃	〃
24	B区T－2	〃	胴部		〃	〃	羽状縄文・貼り付け突帯	茶灰色	黒灰色		粗砂		24	〃
25	C区	〃	〃		〃	〃	突帯 RL	淡黒褐色		茶褐色	〃	良	〃	〃
26	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	突帯上押し引き R	暗黒灰色			細砂	〃	〃	
27	B区T－1	〃	口縁部			〃	口唇キザミ R	淡暗茶褐色			粗砂	〃	〃	115－2
28	B区T－2	〃	〃	平滑		〃	口唇－R	淡褐色			微砂	堅緻	〃	〃
29	C区	〃	胴部		押圧	〃	RL	茶褐色			〃	〃	〃	〃
30	B区T－2,3間	〃	口縁部			〃	キザミ RL	暗茶褐色			〃	〃	〃	〃
31	C区	〃	〃		押圧	〃	RL	暗茶灰色			〃，火山ガラス	良	〃	〃
32	B区T－2	〃	〃		剝離	〃	〃	茶褐色			粗砂，〃	堅緻	〃	〃
33	〃	〃	〃		押圧	〃	〃	〃	黒灰色		細砂，〃	良	〃	〃

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
34	C区	前期Ⅴ類	口縁部		押圧	縄文	L	茶灰色			細砂	良	24	115−2
35	B区T−2	〃	〃		〃	〃	LR	暗茶褐色	黒灰色		〃	堅緻	〃	〃
36	B区T−4	〃	胴部			縄文 爪形文	RL	暗灰色		淡灰褐色	細砂，火山ガラス，金雲母	良	〃	〃
37	C区	〃	口縁部		押圧	〃	〃	淡黒灰色			粗砂	〃	〃	116−1
38	〃	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色			微砂	〃	25	〃
39	〃	〃	〃	風化	風化	〃	LLR？	淡茶灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
40	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	内外・撚り不詳．外・半截竹管4段	暗茶褐色			〃	〃	〃	
41	B区T−2	〃	〃			爪形文		茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	116−1
42	A区T−1,3間サレキ	〃	〃		平滑		縄文？ 貼り付けーキザミ	淡暗茶灰色			粗砂	〃	〃	
43	C区	〃	胴部			縄・文	突帯 RL地文	暗茶灰色			微砂，カクセン石	〃	〃	116−1
44	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	内外縄文	褐色		茶褐色	火山ガラス	〃	〃	
45	B区T−2	〃	口縁部		平滑	〃	LR	茶灰色		黒灰色	細砂	〃	〃	116−1
46	B区T−4	〃	胴部		上ケズリ 下平滑	〃	L	茶褐色			微砂	〃	〃	〃
47	B区T−3	〃	〃		押圧		沈線 圧痕文	〃			〃	〃	〃	〃
48	C区	中期Ⅰ類	口縁部		平滑		キザミ：縄文地文	暗茶灰色		茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	〃
49	〃	〃	〃		〃	縄文	R アルカ属押圧痕	茶褐色			粗砂	〃	〃	〃
50	A区T−5北サレキ	〃	〃			〃	L アルカ属の押圧痕	淡灰白色			微砂	〃	〃	
51	C区	〃	〃	風化	風化	〃	アルカ属押圧 キザミ	暗茶褐色			粗砂	モロイ	〃	116−1
52	〃	〃	〃			〃	縄文 連続押圧	黒灰色		暗灰色	粗砂	良	〃	〃
53	A区T−1,3間サレキ	〃	〃			爪形文	爪形	淡茶灰色			細砂	〃	26	
54	C区	〃	〃	平滑	平滑			暗茶灰色		茶褐色	微砂，火山ガラス	モロイ	〃	
55	〃	〃	〃		〃		爪形 刺突	〃			細砂	良	〃	
56	B区 サレキ	〃	〃					茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	116−1
57	B区T−4	〃	〃			爪形文	爪形 縄文？	〃			〃	モロイ	〃	〃
58	〃	〃	胴部				キザミ	褐色			〃	良	〃	〃
59	B区T−2	〃	〃			爪形文	爪形 地文有り	茶褐色			粗砂	堅緻	〃	〃
60	B区T−1	〃	〃		風化	縄文	爪形刺突 縄文地文	淡茶褐色			細砂，火山ガラス	良	〃	〃
61	B区T−3	〃	〃			〃	縄文 円形刺突	淡黒灰色			微砂	〃	〃	〃
62	B区T−1	中期Ⅱ類	口縁部			〃	R 縄文地文	淡茶灰色	黒灰色		細砂	〃	〃	〃
63	B区 サレキ	〃	〃				縄文？	茶褐色			粗砂	〃	〃	〃
64	B区T−1	〃	〃			縄・文	縄文地文	淡茶灰色		黒褐色	微砂	〃	〃	〃
65	C区	〃	〃		風化	〃	〃	茶褐色	黒灰色		細砂	モロイ	〃	〃
66	B区T−1	〃	〃	風化	平滑	〃	沈線	暗茶灰色			〃，火山ガラス	良	〃	116−2
67	〃	〃	〃		〃	〃	地文縄文 RL	茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	〃
68	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	平滑		〃	L 沈線	〃		淡灰白色	〃	〃	〃	〃

69	B区T－2北サレキ	中期Ⅱ類	口縁部		風化			淡灰色			細砂	良	27	116－2
70	B区T－4	〃	胴部		平滑		縄文？	暗茶褐色			〃，火山ガラス，　金雲母	〃	〃	〃
71	A区T－5北サレキ	〃	〃			縄文	縄文地文	〃	黒褐色		粗砂，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
72	C区	中期Ⅲ類	口縁部		風化	〃	〃	淡暗茶灰色			火山ガラス	〃	〃	〃
73	B区T－4	〃	〃				口唇－キザミ　縄文？	暗茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	〃
74	A区T－1,3間サレキ	中期Ⅳ類	〃			撚糸文	L	茶褐色			微砂，金雲母	〃	〃	〃
75	C区	中期Ⅲ類	〃			縄文	RL	〃	暗褐色		細砂	〃	〃	〃
76	A区T－3,4間サレキ	中期Ⅳ類	胴部					淡茶灰色			微砂	〃	〃	
77	〃	中期Ⅴ類	〃					暗茶灰色		茶褐色	粗砂	〃	〃	
78	C区	前期？	口縁部	風化	風化		刺突	〃			細砂	〃	〃	116－2
79	A区T－3,4間サレキ	中期？	〃				内外縄文の押圧	淡灰褐色	黒褐色	淡灰褐色	微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
80	B区T－2	後期	〃	条痕	ケズリ	沈線	波状沈線	淡灰白色	黒灰色		〃	〃	28	〃
81	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		円形刺突	淡茶灰色			粗砂	〃	〃	〃
82	B区T－1	〃				縄文	沈線　縄文地文	淡褐色			微砂	〃	〃	〃
83	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部～胴部			沈線	タテの沈線	茶褐色			〃，カクセン石，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
84	〃	〃	胴部			巻貝沈線	RL　刺突	淡茶褐色			粗砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
85	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	磨り消	RL	黒灰色		淡灰白色	細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	116－2
86	〃	〃	〃		風化	〃	〃	淡茶灰色	暗灰色		〃	〃	〃	〃
87	B区T－1	後期Ⅰ類	口縁部			〃	〃	茶褐色		暗茶褐色	微砂	〃	〃	117－1
88	A区T－4,5間 淡灰色粗砂	〃	〃			〃	〃	〃			細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	〃
89	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	〃	茶灰白色	暗灰色	茶灰白色	〃	〃	〃	
90	〃	〃	〃	〃	〃	〃	LR	暗灰色			粗砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
91	B区T－2	〃	口縁部～胴部	〃	〃	〃	キザミ　RL	淡橙色		茶褐色	細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
92	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部			〃	RL	淡褐色			〃，カクセン石	〃	〃	
93	C区	〃	〃			〃	〃	〃			〃	〃	〃	117－1
94	A区東側溝サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	〃	茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
95	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	淡茶褐色			粗砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
96	〃	〃	〃			〃		淡褐色			細砂	〃	29	
97	B区T－5	〃	〃			〃	LR	褐色		黒灰色	微砂	〃	〃	
98	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃	縄文？	〃	暗灰色	淡茶褐色	細砂	〃	〃	
99	B区T－5	〃	〃			〃	RL	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
100	B区T－2	〃	〃			〃	〃	淡橙色			細砂	〃	〃	
101	B区T－3	〃	〃		平滑	〃	〃	淡黒褐色		淡灰白色	微砂，金雲母(多)	〃	〃	117－1
102	A区T－5,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	縄文？	茶灰色	黒灰色		細砂	〃	〃	
103	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	RL	淡灰白色		茶灰色	〃，金雲母	〃	〃	
104	〃	〃	〃	〃	〃	〃		淡黄褐色			粗砂	〃	〃	
105	A区東側溝	〃	〃	〃	〃	〃		茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
106	A区T－4,5間サレキ	後期1類	口縁部	風化	風化		縄文？	黒褐色			細砂	良	29	
107	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			磨り消	RL	茶褐色			〃	〃	〃	
108	B区T－1	〃	〃			〃	〃	淡橙色		暗茶灰色	微砂	〃	〃	117－1
109	B区T－4	〃	〃			〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	
110	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑	〃	〃	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
111	〃	〃	口縁部～胴部	風化	風化	〃	〃	茶褐色		黒褐色	粗砂，カクセン石(多)	〃	〃	117－1
112	〃	〃	口縁部		平滑	〃	〃	淡褐色			微砂，カクセン石，金雲母	〃	〃	〃
113	A区T－5北サレキ	〃	〃		〃	〃	〃	淡赤褐色		茶灰色	〃	〃	〃	
114	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			〃	〃	茶褐色			細砂	〃	〃	
115	B区T－1	〃	〃			〃		淡茶灰色			〃	〃	30	117－1
116	B区サレキ	〃	〃		ミガキ	〃		暗茶褐色	黒灰色		微砂，金雲母	〃	〃	
117	A区T－3.4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃		茶褐色			細砂	〃	〃	
118	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			〃	RL	〃			微砂	〃	〃	
119	C区	〃	〃	カワアイ巻貝	平滑	〃	〃	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
120	A区T－5北サレキ	〃	〃			〃	〃	淡黒褐色			〃，金雲母	〃	〃	
121	B区T－2サレキ	〃	〃			〃	沈線2本	淡茶褐色			〃	〃	〃	
122	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃		〃			微砂	〃	〃	117－1
123	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		ミガキ	〃	RL	暗茶褐色			〃	〃	〃	
124	B区T－2サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃		〃			〃	〃	〃	
125	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	縄文？	淡黒褐色			〃	〃	〃	
126	〃	〃	〃			〃	巻貝の刺突，RL	淡褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
127	〃	〃	〃			〃	RL	淡暗茶褐色			細砂，カクセン石(少)	〃	〃	
128	B区T－4	〃	〃			〃	擬縄文	茶褐色			粗砂	〃	〃	
129	A区T－5北サレキ	〃	〃	風化	風化	〃		淡茶灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
130	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	縄文？	茶褐色			〃	〃	〃	
131	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	RL	〃			〃	〃	〃	
132	A区T－5北サレキ	〃	〃			〃	〃	〃		暗茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
133	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	LR					〃	〃	
134	B区T－4	〃	〃		ミガキ	〃	縄文？	茶褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
135	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	LR	暗茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
136	B区T－2	〃	〃			〃	RL	淡茶褐色	黒色		〃	〃	〃	
137	B区T－1	〃	〃			沈線文		淡茶灰色			微砂，火山ガラス	〃	31	117－1
138	B区T－3	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	〃					細砂	〃	〃	117－2
139	A区東側溝サレキ	〃	〃			〃		茶褐色	黒褐色		〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
140	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃		淡黒灰色			粗砂，火山ガラス	〃	〃	

141	A区T－4,5間サレキ	後期Ⅰ類	口　縁　部	風　化	風　化			淡灰黄色			細砂	良	31	
142	B区T－5	〃	〃	アルカ属条痕		沈　線　文		茶褐色			粗砂	〃	〃	117－2
143	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	風　化			淡灰褐色			細砂	〃	〃	
144	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				波状口縁	淡褐色		暗茶灰色	〃，カクセン石	〃	〃	
145	〃	〃	〃		巻貝押圧痕			淡灰色		黒褐色	粗砂	〃	〃	117－1
146	A区T－1,2間サレキ	〃	〃					淡暗茶褐色			細砂	〃	〃	117－2
147	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	磨　り　消		淡灰白色		暗灰色	〃	〃	〃	
148	〃	〃	〃		条痕→平滑	沈　線　文		〃		黒褐色	〃	〃	〃	
149	B区T－2	〃	〃	アルカ属条痕	上ケズリ下平滑		沈線	茶褐色		暗茶褐色	微砂	〃	〃	
150	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			沈　線　文		淡灰白色		茶褐色	細砂	〃	〃	
151	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			沈　線		褐色			〃，カクセン石	〃	〃	
152	〃	〃	〃			磨　り　消		暗茶褐色				〃	〃	
153	A区東側溝	〃	〃	風　化	風　化	沈　線　文		淡茶灰色	黒褐色		細砂，火山ガラス	〃	〃	117－1
154	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					〃			粗砂	〃	〃	
155	B区　サレキ	〃	胴　部			磨　り　消	RL	橙色	灰色		細砂	〃	32	
156	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			〃	縄文？	淡黒灰色	淡暗灰色		〃	〃	〃	
157	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	RL	暗茶褐色			微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	117－2
158	〃	〃	〃	風　化	風　化	〃	〃	淡茶褐色			粗砂，カクセン石	〃	〃	
159	〃	〃	〃			〃		淡乳灰色	暗灰色	淡乳灰色	細砂，〃，火山ガラス	〃	〃	117－2
160	〃	〃	〃	ケ　ズ　リ	平　滑	〃	RL	暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
161	B区T－4	〃	〃			〃	LR	淡灰白色	黒灰色	暗黄灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
162	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃		淡灰黄色			微砂，金雲母	〃	〃	
163	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃	縄文？	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
164	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	RL	茶褐色		暗灰色	粗砂	〃	〃	
165	B区T－1	〃	〃		平　滑	〃	〃	〃	黒褐色		細砂	〃	〃	
166	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃		〃			〃	〃	〃	
167	B区T－4	〃	〃			〃	RL	暗茶褐色	暗灰色		〃，金雲母	〃	〃	
168	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		ミ　ガ　キ	〃	〃	〃			微砂	〃	〃	
169	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平　滑	〃	LR	〃			〃，金雲母	〃	〃	
170	〃	〃	〃			〃		明褐色			細砂	〃	〃	
171	A区T－2サレキ	〃	〃			〃		茶灰色			〃	〃	〃	
172	B区T－3	〃	口　縁　部		平　滑	〃	RL	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
173	A区T－1,2間サレキ	〃	胴　部			〃	擬縄文	淡茶灰色			〃	〃	〃	
174	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	RL	茶褐色		黒灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
175	B区T－2,3間サレキ	〃	〃			〃	〃				微砂，火山ガラス(多)，金雲母	〃	〃	
176	B区T－1	〃	〃		風　化	〃					細砂	〃	〃	
177	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平　滑	〃	RL				〃，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
178	A区T－3,4間サレキ	後期Ⅰ類	胴部			磨り消					細砂	良	32	
179	A区T－5北サレキ	〃	〃			〃	RL			灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
180	B区T－4	〃	〃			〃	縄文？	暗茶灰色			微砂	〃	33	117－2
181	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	平滑	〃	RL 充塡縄文	淡茶褐色			粗砂，カクセン石	〃	〃	〃
182	B区T－5	〃	〃		〃	〃	〃	淡褐色		茶褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
183	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		〃	〃	巻貝沈線 縄文？	淡黄灰色			〃，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
184	B区T－4	〃	口縁部	巻貝条痕			沈線	暗茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
185	A区T－4,5間サレキ	〃	胴部			沈線		淡茶褐色			細砂，カクセン石	〃	〃	
186	B区T－2	〃	〃		平滑	巻貝沈線	カワアイ巻貝	淡黒褐色		淡黄灰色	粗砂	〃	〃	
187	A区T－5北サレキ	〃	〃			沈線文	沈線	暗灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
188	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					黒灰色			〃	〃	〃	
189	B区T－1	〃		風化	風化	沈線文		茶褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	117－2
190	B区T－3	〃	口縁部	アルカ属条痕	平滑	〃		淡茶灰色			微砂	〃	〃	
191	A区T－1,2間サレキ	〃	胴部	〃	〃	磨り消		〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	
192	〃	〃	〃		〃	沈線文		淡灰白色			粗砂	〃	〃	
193	B区T－1	〃	〃			〃	刺突	淡茶褐色			細砂	〃	〃	117－2
194	B区 サレキ	〃	〃	風化		〃		褐色	淡灰色		〃	〃	〃	〃
195	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				円形刺突	淡茶灰色			粗砂，金雲母，カクセン石	〃	〃	
196	〃	〃	口縁部	風化	風化		〃	〃	暗灰色		細砂	〃	〃	
197	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	暗茶褐色			粗砂	〃	〃	
198	B区T－4	〃	胴部	平滑	〃			淡暗茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
199	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		剝離		刺突区画 擬縄文					〃	〃	
200	B区T－2	〃	口縁部		平滑	磨り消	擬縄文	茶褐色			微砂	〃	〃	
201	A区T－1,2間サレキ	〃	胴部			〃	〃	褐色	暗灰色		〃，火山ガラス(多)	〃	〃	117－2
202	B区 サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	〃	淡茶褐色				〃	〃	
203	B区T－5	〃	〃		平滑	〃	〃	暗茶褐色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	117－2
204	B区サレキ	後期Ⅱ類	口縁部	風化	風化	〃	RL	淡茶灰色			〃	〃	34	118－1
205	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	〃
206	A区東側溝	〃	〃			〃	〃	淡灰色		茶褐色	〃	〃	〃	117－1
207	A区T－3南サレキ	〃	〃		平滑	〃	〃	淡褐色		灰褐色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃	118－1
208	B区サレキ	〃	〃			〃	〃	淡茶灰色			微砂	〃	〃	〃
209	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					〃			細砂	〃	〃	
210	A区T－2南サレキ	〃	〃			磨り消	RL	淡茶褐色			〃	〃	〃	118－1
211	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			沈線文	波状口縁	黒灰色			粗砂	〃	〃	
212	〃	〃	〃			磨り消		茶褐色			細砂	〃	〃	

213	B区T－1	後期Ⅱ類	口　縁　部			磨　り　消	RL	淡茶灰色		橙色	細砂，火山ガラス	良	34	118－1
214	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	
215	B区　サレキ	〃	〃		平　滑	〃	〃	淡茶灰色			〃	〃	〃	118－1
216	B区T－4	〃	〃			〃	〃	淡灰白色			細砂	〃	〃	
217	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃	〃	茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	118－1
218	B区T－5	〃	〃			〃	〃	〃			〃，金雲母	〃	〃	〃
219	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			〃	〃	黒褐色	灰色		微砂	〃	35	
220	B区T－2	〃	〃			〃	〃	茶褐色			細砂，金雲母(多)	〃	〃	118－1
221	B区T－2,3間	〃	〃		平　滑	〃	〃	淡黒褐色			粗砂	モロイ	〃	〃
222	B区T－2	〃	〃		上平滑下カワアイ巻貝	〃	〃	茶褐色	灰色		微砂	良	〃	118－2
223	A区T－4,5間サレキ	〃	口縁部～胴部	風　化	風　化	〃	〃	暗茶灰色			粗砂，金雲母	〃	〃	
224	B区T－5	〃	口　縁　部				キザミ	淡茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	118－2
225	B区T－1	〃	〃	風　化	風　化	磨　り　消		暗茶褐色			〃	〃	〃	
226	B区T－3,4間サレキ	〃	〃		平　滑	〃	RL	淡黄橙色			微砂	〃	〃	
227	〃	〃	〃			〃	沈線3本	褐色		褐色	〃	〃	〃	
228	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃	RL	淡暗灰色			〃	〃	〃	
229	〃	〃	〃		ミ　ガ　キ	〃	縄文？	淡灰褐色			〃	〃	〃	118－2
230	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	RL	黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
231	〃	〃	〃		ミ　ガ　キ	〃	波状口縁　撚り不揃	淡褐色			微砂	〃	〃	
232	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃	RL	〃			細砂	〃	〃	
233	B区T－5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	淡茶褐色			粗砂	〃	〃	
234	B区T－3	〃	〃			〃	縄文？	茶褐色			微砂	〃	〃	118－2
235	A区東側溝	〃	〃	ミ　ガ　キ		〃	RL	〃			〃，金雲母(多)	〃	〃	〃
236	A区T－1,2間サレキ	〃	〃					淡灰色		暗灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
237	B区T－4	〃	〃			磨　り　消	RL	茶褐色		黒灰色	微砂，　〃	〃	〃	
238	A区東側溝	〃	〃	巻貝→平滑	平　滑	〃	〃	暗茶褐色			細砂	〃	36	118－2
239	B区T－4	〃	〃	巻貝条痕		〃	〃	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
240	B区T－2	〃	〃	条痕→平滑		〃	〃	茶褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
241	B区T－1	〃	〃	平　滑	平　滑	〃	〃	淡茶灰色		淡黒褐色	〃，金雲母(多)	〃	〃	
242	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化		内－沈線　RL	茶褐色			細砂	〃	〃	
243	A区T－1,2間サレキ	〃	〃			磨　り　消	RL	〃			微砂	〃	〃	
244	A区東側溝	〃	〃	風　化	風　化			〃			細砂	〃	〃	118－2
245	B区T－4	〃	胴　　部			磨　り　消	縄文？	暗茶灰色		茶褐色	粗砂	〃	〃	
246	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃		茶褐色		黒灰色	〃	〃	〃	
247	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃		暗茶褐色			細砂	〃	〃	
248	A区東側溝サレキ	〃	〃			〃	RL	暗茶灰色		淡灰褐色	粗砂	〃	〃	
249	B区　サレキ	〃	〃			〃	〃	橙色		淡灰色	微砂	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
250	A区T－1,2間サレキ	後期Ⅱ類	胴部		ミガキ	磨り消	RL	暗茶灰色			微砂，金雲母	良	36	
251	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃		茶褐色			細砂	〃	〃	
252	〃	〃	〃		平滑	〃		〃			〃	〃	〃	118－2
253	〃	〃	〃			〃	RL	暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	〃
254	A区東側溝サレキ	〃	〃			〃	〃	暗茶灰色			粗砂，金雲母(多)	〃	〃	〃
255	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃		茶褐色			〃	〃	37	
256	〃	〃	〃		平滑	〃	RL	〃			微砂	〃	〃	
257	B区T－4	〃	〃		ミガキ	〃	〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
258	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑	〃	〃	淡灰白色			〃	〃	〃	118－2
259	〃	〃	〃			〃		淡茶灰色			〃	〃	〃	
260	B区T－2,3間	〃	〃			〃	RL	茶褐色	黒褐色		細砂	〃	〃	
261	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			黒灰色			粗砂	〃	〃	
262	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		磨り消			茶褐色			細砂	モロイ	〃	
263	B区T－3	〃	〃			磨り消	RL	暗茶灰色			微砂，金雲母	良	〃	118－2
264	〃	〃	口縁部	巻貝	平滑	〃	〃	淡茶褐色			〃	〃	〃	
265	A区T－3,4間サレキ	〃	胴部			〃		茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
266	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃	縄文？	暗茶灰色			〃	〃	〃	
267	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		風化	沈線文		茶褐色		暗茶褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
268	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ハケ状のもの	磨り消	縄文？	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
269	B区T－5	〃	〃			〃	RL	茶褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
270	B区T－4	〃	〃			〃	〃	淡灰白色		淡灰褐色	細砂	〃	〃	
271	A区T－5北サレキ	〃	〃			〃	〃	茶褐色			微砂	〃	〃	
272	B区T－4	〃	〃		上ケズリ下平滑	〃	LR	〃			細砂	〃	〃	
273	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	RL	黒褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
274	〃	〃	〃	〃	〃	〃		茶褐色			粗砂，〃，〃	〃	〃	
275	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	カワアイ巻貝条痕		〃	RL	淡灰褐色			細砂	〃	〃	
276	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃		淡茶褐色			微砂	〃	〃	
277	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	RL	〃			〃	〃	〃	
278	B区T－4	〃	〃		ミガキ	〃	〃 刺突	暗茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
279	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	茶褐色			細砂	〃	〃	
280	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	黒褐色			微砂	〃	〃	
281	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			沈線文		淡茶灰色			〃，金雲母	〃	〃	
282	B区T－4	〃				磨り消	縄文？	茶褐色		淡暗灰色	微砂	〃	〃	
283	〃	後期Ⅲ類	口縁部～胴部	平滑	巻貝→平滑	〃	RL	淡茶灰色	黒灰色		細砂，金雲母	〃	38	119－1
284	A区T－4,5間サレキ	〃	口縁部	風化	風化		内－沈線	暗茶褐色			〃	〃	〃	

285	A区T－3,4間サレキ	後期Ⅲ類	口縁部			磨り消	内－沈線2－RL 外－RL	淡灰色		淡茶褐色	微砂，金雲母(多),火山ガラス,カクセン石	良	38	119－1
286	〃	〃	〃			〃	外－RL 内－RL	茶灰色			粗砂	〃	〃	〃
287	〃	〃	〃				内－太い沈線 外－爪形の刺突	淡茶灰色			〃	〃	〃	
288	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			磨り消	RL	淡灰白色			細砂	〃	〃	119－1
289	B区T－5	〃	〃	風化	風化			淡茶褐色	淡灰色		〃	〃	〃	
290	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	〃			淡茶灰色			〃	〃	〃	119－1
291	B区T－2	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	RL	〃			微砂	〃	〃	〃
292	B区T－3	〃	〃			〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	〃
293	〃	〃	〃		風化	〃	〃	〃		暗茶褐色	〃	〃	〃	〃
294	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	暗茶灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	〃
295	B区T－4	〃	〃				押圧	茶褐色			細砂	〃	〃	〃
296	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			磨り消		暗灰色			〃	〃	39	
297	A区東側溝	〃	〃	風化	風化	沈線文		茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	119－1
298	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			磨り消	口唇肥厚沈線 沈線2本					〃	〃	
299	B区T－1北サレキ	〃	〃				沈線 RL	暗茶褐色	黒色		火山ガラス(多)，石英(多)	〃	〃	
300	C区	〃	〃				爪形	〃			細砂	〃	〃	
301	〃	〃	〃			沈線文		茶灰色	暗灰色		〃	モロイ	〃	
302	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	RL	淡黄褐色			微砂	良	〃	
303	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		〃		外－撚り不詳	淡灰褐色			〃	〃	〃	
304	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	磨り消	RL	茶灰色			〃	〃	〃	
305	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	淡茶灰色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
306	A区T－5北サレキ	〃	胴部		平滑	〃	LR	淡黒褐色			火山ガラス，細砂	〃	〃	
307	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	〃	〃	〃	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
308	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	暗茶灰色			〃	〃	〃	
309	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	RL	茶褐色			細砂	〃	〃	
310	〃	〃	〃			〃	LR	淡茶褐色	黒灰色		微砂	〃	〃	
311	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ケズリ	〃	〃	茶灰色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
312	B区T－5	〃	〃			〃	〃	淡茶灰色		暗灰色	〃	〃	〃	
313	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑		RL	淡茶褐色		淡灰色	細砂	〃	〃	
314	〃	〃	〃				LR	黒灰色			微砂	〃	〃	
315	A区東側溝サレキ	〃	〃		平滑		〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	120－1
316	A区T－5北サレキ	〃	〃		風化		羽状縄文	淡茶褐色			細砂	〃	〃	
317	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑	磨り消	RL	茶褐色		黒灰色	〃	〃	〃	
318	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		〃		〃	淡暗灰色		淡黒灰色	微砂，金雲母	〃	〃	
319	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					淡茶灰色		黒灰色	微砂	〃	〃	
320	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		風化	縄文	羽状縄文	茶褐色		暗灰色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
321	A区東側溝サレキ	〃	〃		平滑		LR	〃		黒褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
322	A区T−3,4間サレキ	後期Ⅲ類	胴部		上下条痕 平滑	磨り消	RL？	暗茶灰色			細砂	良	39	
323	〃	〃	〃				RL	茶褐色			微砂	〃	〃	
324	B区T−5	〃	〃	ミガキ	アルカ堀条痕	沈線文	垂下条線	〃		暗茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	40	120−1
325	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	茶灰色	暗茶灰色	茶灰色	粗砂	〃	〃	
326	〃	〃	〃		条痕	〃	〃	淡黄灰色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	120−1
327	〃	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
328	〃	〃	〃	風化	風化	〃	〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
329	〃	〃	〃			〃	〃	淡黄灰色		黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	
330	〃	〃	〃		ミガキ	〃	〃	黒灰色			〃	〃	〃	
331	〃	〃	〃			〃	〃	暗茶灰色			粗砂	〃	〃	
332	〃	〃	〃		平滑	〃	〃	淡黒褐色			細砂	〃	〃	
333	〃	〃	〃			〃	〃	淡灰色		黒灰色	〃	〃	〃	
334	〃	〃	〃		ミガキ	磨り消	LR 刺突	茶褐色			微砂，カクセン石，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
335	B区T−4	後期Ⅳ類	口縁部〜胴部	風化	風化	〃	RL	黒褐色			細砂，金雲母，火山ガラス	〃	41	119−2
336	A区T−5サレキ	〃	口縁部	平滑	上平滑 下ケズリ	〃	〃	灰色	黒褐色	灰色	微砂	〃	〃	〃
337	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡茶褐色			細砂	〃	〃	〃
338	〃	〃	〃	〃	〃	磨り消	RL	茶褐色	黒灰色	茶褐色	〃	〃	〃	〃
339	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	淡黒灰色			〃	〃	〃	
340	B区T−2,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	〃	淡茶灰色			微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
341	B区T−4	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
342	A区T−1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑	〃	〃	淡灰褐色	黒灰色	暗茶褐色	〃	〃	〃	119−2
343	A区T−3,4間サレキ	〃	〃				沈線 RL	茶褐色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
344	A区T−4,5間サレキ	〃	〃			磨り消		褐色	暗灰色		微砂	〃	〃	
345	A区T−1,2間サレキ	〃	〃			沈線文		淡灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
346	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	平滑			口唇−RL	淡灰褐色		茶褐色	〃，カクセン石	〃	〃	
347	〃	〃	〃		ミガキ	磨り消	LR	茶褐色			〃，〃	〃	〃	
348	B区T−3	〃	〃		平滑	〃	RL	淡茶灰色			細砂	〃	〃	119−2
349	B区 サレキ	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色		黄橙色	微砂	〃	〃	
350	C区	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕		R	〃			粗砂	〃	〃	119−2
351	B区T−2,3間サレキ	〃	〃		平滑		垂下条線	淡茶褐色	黒灰色		微砂	〃	〃	〃
352	A区T−1,2間サレキ	〃	〃			磨り消	RL	〃			〃	〃	〃	〃
353	B区T−4	〃	胴部			〃	口唇−押圧 RL	茶褐色			細砂	〃	〃	
354	A区T−5北サレキ	〃	口縁部				RL	淡茶褐色	暗茶灰色		微砂	〃	〃	120−1
355	A区T−1,3間サレキ	〃	〃			磨り消	〃	茶褐色			細砂	〃	〃	119−2
356	B区T−1	〃	〃			沈線文		淡灰色		黒褐色	微砂	〃	〃	

357	A区T－1,2間サレキ	後期Ⅳ類	口縁部	条痕	風化	沈線文		淡黄褐色		暗灰色	微砂	良	42	119－2
358	B区T－3	〃	〃	巻貝カワアイ	平滑	〃	垂下条線	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
359	B区T－1	〃	〃				波状文	暗茶褐色		茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	120－1
360	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部～胴部				口縁外－弧状沈線　胴－垂下条線	淡灰色			〃，〃	〃	〃	〃
361	A区東側溝サレキ	〃	口縁部	平滑	平滑		キザミ	黒褐色	暗灰色	暗茶褐色	〃	〃	〃	
362	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		ミガキ	磨り消	RL	〃			微砂	〃	〃	120－1
363	〃	〃	口縁部～胴部	ミガキ	平滑	〃	〃	淡黄褐色		黒灰色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	〃
364	A区T－5北サレキ	〃	口縁部		〃	〃	〃	灰色		茶褐色	〃	〃	〃	
365	〃	〃	口縁部～胴部		ミガキ	〃	〃	淡黒褐色			〃	〃	〃	
366	〃	〃	口縁部		平滑	〃	〃	灰色		茶褐色	〃	〃	〃	
367	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		〃	〃	〃	茶褐色	灰色	暗茶褐色	細砂	〃	〃	120－1
368	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	条痕→平滑			口縁外－LR	暗茶灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	〃
369	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		口縁外－RL	淡黄褐色		淡灰色	細砂，カクセン石(少)	〃	〃	
370	〃	〃	〃	平滑	平滑		RL	暗茶褐色			微砂，カクセン石(多)	〃	〃	120－1
371	B区　サレキ	〃	〃	風化	〃	磨り消	〃	暗黄橙色		黒褐色	細砂	〃	〃	
372	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ヨコケズリ	ミガキ		口唇－RL	暗赤褐色				〃	〃	
373	B区T－2	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	LR(?)	〃		淡黒褐色	微砂，金雲母	〃	〃	
374	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃		淡茶褐色			〃	〃	〃	
375	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	RL	〃			〃	〃	43	
376	〃	〃	〃	平滑	平滑	〃	〃	〃	暗灰色		〃	〃	〃	120－1
377	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	巻貝	〃	〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	〃
378	A区T－5北サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	結節文	赤褐色			粗砂	〃	〃	
379	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		平滑	〃	RL	茶褐色			微砂	〃	〃	
380	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕		突起	淡灰白色		黒灰色	細砂，カクセン石，金雲母(多)	〃	〃	
381	〃	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	RL	暗茶褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	
382	A区T－2南サレキ	〃	〃		ミガキ	〃		茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
383	B区T－1	〃	〃		風化		爪形　沈線	淡橙色			〃，〃	〃	〃	
384	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風化	〃	磨り消	RL	淡灰色		淡黒灰色	細砂，〃	〃	〃	
385	B区T－5	〃	〃			〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	
386	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風化	平滑	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
387	B区T－2	〃	〃	平滑	〃	〃	〃	〃			微砂	〃	〃	120－1
388	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃，金雲母	〃	〃	
389	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				外－RL	暗褐色			粗砂，カクセン石(少)	〃	〃	
390	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	RL	茶褐色			微砂	〃	〃	
391	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				口唇外－RL　胴上－沈線	淡茶褐色			粗砂，金雲母	〃	〃	
392	〃	〃	〃	風化	風化		外－RL	黒褐色			〃	〃	〃	
393	〃	〃	〃		平滑	磨り消	RL	暗茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
394	A区T－4,5間サレキ	後期Ⅳ類	胴部		巻貝条痕	磨り消	RL	茶灰色		茶褐色	細砂，金雲母	良	43	
395	〃	〃	〃		巻貝条痕→平滑	〃	〃	〃	暗茶灰色		微砂，〃	〃	〃	
396	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	巻貝条痕	〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	
397	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑	〃	〃	淡茶灰色		暗茶灰色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
398	A区T－5北サレキ	〃	〃		〃	〃	〃	淡黒褐色	淡灰色		細砂	〃	〃	
399	B区T－4	〃	〃		〃	〃	〃	暗茶灰色			〃，金雲母	〃	〃	
400	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	〃	〃	〃	淡茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
401	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	淡灰色			細砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
402	B区T－5	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色		淡黒褐色	〃，〃	〃	〃	
403	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
404	B区T－2	〃	〃	平滑	平滑	〃	〃	暗茶灰色		茶褐色	微砂，金雲母	〃	44	
405	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		巻貝条痕→平滑		〃	淡黒褐色			〃	〃	〃	
406	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	縄文	〃	茶褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
407	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			磨り消	〃	黒灰色			〃	〃	〃	
408	A区東側溝サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑		〃 羽状縄文	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
409	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		ケズリ	磨り消	〃	淡茶褐色			〃	〃	〃	
410	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	淡黄褐色	茶灰色		細砂	〃	〃	
411	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	擬縄文	褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
412	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		RL	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
413	B区T－3	後期Ⅴ類	口縁部	平滑	〃	磨り消	〃	淡黒褐色			微砂，火山ガラス(多)	〃	45	120－2
414	B区T－2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	茶褐色	黒灰色		細砂	〃	〃	
415	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文？	淡茶灰色	黒灰色		微砂	〃	〃	
416	A区北西斜面サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	RL			茶褐色	細砂	〃	〃	
417	B区T－5	〃	〃	〃	〃	〃	LR	茶褐色			〃	〃	〃	
418	B区T－3	〃	〃	風化	風化	〃	〃					〃	〃	
419	A区T－5北サレキ	〃	〃			〃	RL	暗茶褐色			細砂	〃	〃	120－2
420	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		外－RL 内－沈線 RL	褐色			微砂	〃	〃	
421	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化	磨り消	縄文？	暗茶褐色			粗砂	〃	〃	
422	B区 サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	結節文	茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
423	〃	〃	〃	平滑	平滑	〃	LR	淡茶灰色			〃	〃	〃	
424	B区T－3	〃	〃	巻貝条痕	〃	沈線文		〃		淡黒灰色	微砂，金雲母	〃	〃	120－2
425	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	〃		口縁外－RL	淡暗茶褐色			〃，カクセン石(少)	〃	〃	
426	〃	〃	〃				RL	暗灰褐色			細砂，カクセン石	〃	〃	
427	〃	〃	〃	条痕	平滑		口縁外－RL	暗茶褐色			微砂，金雲母(小)	〃	〃	
428	A区T－2サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		口縁外面肥厚	暗茶灰色		黒褐色	粗砂	〃	〃	

429	A区T－1,3間サレキ	後期V類	口縁部	巻貝条痕→平滑	平滑	磨り消	RL	淡灰白色	暗灰色		微砂	良	45	120－2
430	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	〃		〃	茶褐色	黒褐色		〃	〃	46	〃
431	〃	〃	〃				〃	暗茶褐色			粗砂	〃	〃	
432	B区T－2	〃	〃	ミガキ	平滑	磨り消	〃	茶褐色		淡黒褐色	微砂	〃	〃	
433	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	〃		〃	褐色	灰色		〃，金雲母	〃	〃	
434	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	条痕	〃	磨り消	〃	茶褐色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	
435	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		ミガキ	〃	〃	淡灰褐色	〃		〃，火山ガラス	〃	〃	
436	〃	〃	〃			〃	LR	茶褐色	暗茶灰色		細砂，金雲母	〃	〃	120－2
437	A区T－2サレキ	〃	〃			沈線文		暗茶灰色		淡灰白色	粗砂	〃	〃	
438	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			磨り消	LR	淡灰色	暗灰色		微砂	〃	〃	
439	B区T－5	〃	〃			〃	RL	淡茶灰色	〃		〃	〃	〃	120－2
440	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		縄文？	黒灰色		淡灰白色	粗砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
441	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			磨り消		暗茶褐色			細砂	〃	〃	
442	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	RL 結節文	暗灰色		暗茶褐色	微砂	〃	〃	
443	A区T－5サレキ	〃	〃		平滑	〃	縄文？	茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
444	B区T－3	〃	〃		〃	〃	RL	〃			〃	〃	〃	120－2
445	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	巻貝沈線	巻貝2＋α	〃	黒灰色	茶褐色	細砂	〃	〃	〃
446	〃	〃	胴部			磨り消		暗茶褐色			〃	〃	〃	
447	B区T－3	後期VI類	口縁部	平滑	平滑	〃	RL	茶褐色	黒褐色		微砂	〃	47	
448	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	〃 内外－沈線	褐色			〃，カクセン石	〃	〃	120－2
449	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	外・内－RL 内－沈線	淡黒灰色			粗砂，金雲母	〃	〃	〃
450	B区T－2北サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	RL	褐色			微砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
451	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	黒褐色		淡黒灰色	細砂	〃	〃	
452	〃	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色		黒褐色	微砂，金雲母	〃	〃	120－2
453	〃	〃	〃	風化	風化	〃	LR 内－沈線	〃			細砂	〃	〃	
454	A区東側溝サレキ	〃	〃			〃	RL	淡灰白色	暗灰色		微砂	〃	〃	
455	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		内－沈線 RL 外－RL	淡褐色			粗砂，金雲母，カクセン石	〃	〃	
456	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	RL	淡暗茶褐色			細砂	〃	〃	120－2
457	B区T－2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
458	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	カワアイ巻貝条痕		内－沈線 RL	暗茶灰色			粗砂	〃	〃	
459	A区T－5北サレキ	〃	〃	平滑	平滑	巻貝沈線	RL	茶褐色	黒褐色		細砂	〃	〃	
460	A区T－3,1間サレキ	〃	〃	ミガキ	風化	磨り消	内－沈線 RL	淡灰白色			〃，金雲母	〃	〃	
461	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		内－沈線 結節文	黒褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
462	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑		内－ヘラ沈線，結節文	暗茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
463	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				内－結節文	灰褐色			〃	〃	〃	
464	〃	〃	〃		平滑		外－沈線 LR 内－沈線 LR	暗茶褐色			粗砂，金雲母(多)	〃	〃	
465	〃	〃	〃	平滑	〃	磨り消	LR	〃			微砂	〃	〃	120－2

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
466	A区T－1,3間サレキ	後期Ⅵ類	口縁部	平滑	平滑	磨り消	縄文？	淡茶褐色			微砂，金雲母	良	48	
467	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	縄文		暗茶褐色				〃	〃	
468	A区T－1,3間サレキ	〃		条痕→平滑	条痕→平滑	磨り消	LR	褐色			微砂	〃	〃	120－2
469	〃	〃	口縁部	ミガキ	ミガキ	〃	LR？	黒褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
470	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		縄文？	淡灰褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
471	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	磨り消	RL	茶褐色		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
472	〃	〃	〃		〃			淡灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
473	A区T－5北サレキ	〃	〃		〃	磨り消	LR	淡黄褐色		淡黒褐色	微砂，〃	〃	〃	
474	B区T－5	〃	〃	風化	風化	〃	内－縄文？	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
475	B区T－4	〃	〃		〃	〃	RL	淡茶褐色	暗灰色		〃	〃	〃	120－2
476	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑	〃	LR	灰褐色			微砂	〃	〃	〃
477	〃	〃	〃		〃		RL	黒褐色			細砂	〃	〃	
478	〃	〃	〃				外－巻貝圧痕	暗茶褐色			微砂，火山ガラス(多)，カクセン石	〃	〃	
479	〃	〃	〃				RL	淡黒灰色			粗砂	モロイ	〃	
480	〃	〃	胴部		ミガキ		〃	黒灰色			〃	良	〃	
481	B区 サレキ	〃	〃		平滑	磨り消	〃	黒褐色			細砂	〃	〃	
482	A区T－5北サレキ	〃	口縁部	平滑	〃	〃	〃	暗灰色		黒褐色	〃	〃	〃	
483	C区	〃	〃		ミガキ	〃	LR	暗茶褐色			〃	〃	〃	120－2
484	A区T－5北サレキ	〃	〃				〃	暗茶灰色		黒褐色	微砂	〃	〃	
485	B区T－2,3間サレキ	〃	〃			磨り消	押し引き沈線 LR	黒褐色			〃	〃	〃	
486	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	条痕	条痕		撚糸文	淡茶灰色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	120－2
487	C区	〃	〃		平滑		RL	赤褐色			細砂	〃	〃	
488	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			磨り消	縄文？	茶褐色			〃	〃	〃	
489	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	LR	黒褐色			微砂	〃	〃	120－2
490	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					〃			細砂	〃	〃	
491	B区T－4	〃	〃	ミガキ	ミガキ		沈線	淡黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
492	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		アルカ状条痕→平滑		外－沈線	黒灰色		茶褐色	細砂	〃	〃	
493	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		内－沈線1	暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
494	B区T－1	〃	〃		上→平滑 下→ケズリ	磨り消	LR	茶褐色			微砂	〃	49	
495	A区T－2サレキ	〃	胴部			〃	RL	灰褐色			〃	〃	〃	
496	B区T－4	〃	〃		風化	〃	〃	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
497	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	LR	淡黒褐色			微砂	〃	〃	
498	〃	〃	〃	〃	平滑	〃	RL	茶褐色			〃	〃	〃	
499	A区T－5北サレキ	〃	〃			〃	〃	〃			細砂	〃	〃	
500	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	LR	淡茶灰色			微砂	〃	〃	

501	A区T－1,2間サレキ	後期Ⅵ類	胴部	平滑	平滑	磨り消	縄文？	茶褐色			微砂	良	49	120－1
502	B区T－2	〃	口縁部		〃		円形刺突 R	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
503	B区サレキ	〃	胴部			縄文	R L	黒褐色		暗茶灰色	微砂	〃	〃	
504	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑	磨り消	L R	茶褐色		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
505	〃	〃	〃				R L	淡茶褐色		暗灰色	微砂	〃	〃	
506	〃	〃	〃			磨り消	L R	淡灰褐色		〃	〃	〃	〃	
507	B区T－1	〃		風化			地文撚糸文？	茶褐色		淡黒褐色	細砂	〃	〃	
508	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		ミガキ		L R	〃		黒灰色	微砂	〃	〃	
509	A区東側溝サレキ	〃	〃	風化	風化	沈線文	垂下条線	暗茶褐色		暗灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	120－1
510	A区T－3,4間サレキ	後期	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ	〃		淡灰黒色		淡灰黒色	〃	堅緻	50	121－1
511	C区	〃	口縁部		平滑	磨り消	R L	茶褐色			〃，火山ガラス	良	〃	
512	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	縄文？	淡茶灰色		茶褐色	粗砂	〃	〃	
513	A区T－5,4間サレキ	〃	口縁部～胴部	〃	〃	〃	R L	茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	121－1
514	A区T－5北サレキ	〃	口縁部		平滑	沈線文		〃			〃	〃	〃	
515	B区T－3	〃	〃		〃	〃	円形刺突	淡黒灰色			微砂	〃	〃	121－1
516	B区 サレキ	〃	〃		〃	磨り消	巻貝押圧 刺突	淡茶灰色			〃	〃	〃	〃
517	A区T－3,1間サレキ	〃	〃				沈線 キザミ	淡灰色			〃	〃	〃	〃
518	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			沈線文		黒褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
519	B区T－5	〃	〃			磨り消	刺突 縄文？	茶褐色			細砂，〃	〃	〃	121－1
520	A区T－1,3間サレキ	〃	胴部			〃	R L	淡茶灰色			〃，金雲母	〃	〃	
521	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					淡茶褐色		黒灰色	〃	〃	〃	
522	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			磨り消	R L	淡茶灰色			〃	〃	〃	
523	B区T－4	〃	〃				沈線	茶褐色			〃	〃	〃	121－1
524	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			磨り消	L R	淡茶褐色			〃	〃	〃	〃
525	B区サレキ	〃	〃		巻貝条痕→平滑	〃	R L	淡橙灰色		暗橙色	微砂	〃	〃	
526	A区東側溝サレキ	〃	〃		ミガキ		キザミ	褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
527	A区T－1,3間サレキ	〃	〃				擬縄文 キザミ	暗茶灰色		淡黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	121－1
528	A区東側溝サレキ	〃	〃		平滑	磨り消	〃	淡灰白色		暗灰色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
529	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	二段の円形刺突 縄文？	茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	〃
530	B区T－5	〃	〃		上下平滑条痕	〃	擬縄文	茶灰色		黒灰色	微砂	〃	〃	
531	A区T－1,3間サレキ	後期Ⅵ類	口縁部～胴部	平滑	平滑		内外－沈線 キザミ	淡茶褐色	暗灰色		細砂	〃	51	
532	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	風化	アルカ属条痕		沈線2 キザミ	黒褐色			〃，金雲母	〃	〃	121－1
533	〃	〃	〃	ケズリ	平滑		外－沈線 キザミ	褐色			〃，火山ガラス(多)，カクセン石	〃	〃	〃
534	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	〃		沈線 キザミ	淡褐色			微砂	〃	〃	
535	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		キザミ	淡灰褐色			〃	〃	〃	
536	B区T－4	〃	〃				〃	茶灰色	黒灰色		〃，金雲母	〃	〃	
537	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		平滑		沈線 キザミ	淡灰白色			〃	〃	〃	121－1

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
538	B区T−2	後期Ⅶ類	口縁部		平滑		キザミ	茶褐色	黒褐色		微砂	良	51	
539	B区T−4	〃	〃	風化	風化		沈線 キザミ	黒褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
540	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		キザミ	淡灰色			細砂	〃	〃	121−1
541	A区T−1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	〃		〃	淡暗灰色			微砂	〃	〃	
542	〃	〃	〃	風化	〃		内−沈線 キザミ	茶褐色			〃	〃	〃	
543	〃	〃	〃	平滑	〃		〃	淡黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
544	B区 サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		キザミ	淡茶灰色			微砂	〃	〃	
545	A区T−3,4間サレキ	〃	〃				〃	淡黄橙色	暗灰色		〃	〃	〃	
546	B区サレキ	〃	〃	平滑	風化		〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
547	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕→平滑	ミガキ		内−沈線 キザミ	灰黄褐色		茶灰色	細砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
548	〃	〃	〃	風化	風化		キザミ	淡茶灰色		暗茶灰色	〃	〃	52	
549	〃	〃	〃				口唇下キザミ 沈線	〃			微砂	〃	〃	
550	B区T−4	〃	〃				内−キザミ	茶褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
551	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		キザミ	〃	黒灰色		微砂	〃	〃	
552	A区T−4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		内−沈線 キザミ	淡茶色			細砂	〃	〃	
553	〃	〃	〃				〃	茶褐色			微砂	〃	〃	
554	〃	〃	〃				内−沈線 キザミ	〃			細砂，金雲母	〃	〃	
555	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		〃	淡茶灰色			微砂	〃	〃	
556	A区T−3,4間サレキ	〃	〃				〃 口唇−沈線	茶褐色			〃，カクセン石(少)	〃	〃	
557	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		〃	淡茶灰色	灰色		細砂	〃	〃	
558	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	茶灰色			微砂，火山ガラス(少)	〃	〃	
559	〃	〃	〃				内−キザミ→沈線	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
560	〃	〃	〃	風化	風化		沈線 キザミ	淡灰色			〃，金雲母	〃	〃	
561	〃	〃	〃				口縁内−キザミ 沈線	暗茶褐色			粗砂	〃	〃	
562	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	風化	風化		口縁内−沈線 キザミ	淡茶褐色			細砂	〃	〃	
563	B区T−3	〃	〃			磨り消	擬似縄文	淡黒灰色			微砂	〃	〃	121−1
564	A区T−5北サレキ	〃	〃		平滑	〃	〃	淡黒褐色			〃	〃	〃	
565	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		巻貝圧痕 沈線	褐色			〃，カクセン石	〃	〃	
566	A区T−4,5間サレキ	〃	胴部			沈線文	沈線 キザミ	暗茶褐色		茶褐色	細砂	〃	〃	
567	A区T−3,4間サレキ	後期Ⅶ類	口縁部−胴部	平滑	平滑	巻貝沈線文	口縁内−巻貝1 屈曲部−巻貝3	茶褐色		黒灰色	〃，金雲母	〃	53	122−1 〃 −2
568	A区T−1,3間サレキ	〃	〃			〃	巻貝2段 内−巻貝 キザミ	淡黄茶灰色			微砂	〃	〃	122−1 〃 −2
569	A区T−3,4間サレキ	〃	口縁部	平滑	平滑	〃	外−巻貝2 内−巻貝1 キザミ	暗茶褐色		黒褐色	細砂，カクセン石(少)	〃	〃	
570	〃	〃	〃			〃	外−巻貝 内−刺突 キザミ	淡黄茶灰色	暗灰色		〃	〃	〃	122−1 〃 −2
571	〃	〃	〃	平滑	平滑	〃	外−巻貝2 内−巻貝1 キザミ 口唇−凹み	茶褐色			〃	〃	〃	
572	A区T−1,3間サレキ	〃	〃		〃	〃	外−巻貝 ミガキ 内−巻貝 キザミ 押圧	淡茶褐色			〃	〃	〃	

573	A区T－3,4間サレキ	後期Ⅲ類	口　縁　部	平　滑	平　滑	巻貝沈線文	外－巻貝2段　内－巻貝　キザミ	暗茶褐色			細砂，火山ガラス，カクセン石	良	53	
574	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		〃		内－沈線　キザミ　外－ナデの凹部	淡灰白色	黒灰色		微砂	〃	〃	
575	A区T－3南サレキ	〃	〃	風　化	〃	巻貝沈線文	キザミ	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
576	B区T－3	〃	口縁部－胴部	平　滑	条痕→平滑	〃		淡茶灰色			〃，〃	〃	54	122－1 〃　－2
577	B区　サレキ	〃	口　縁　部	アルカ属条痕	平　滑	〃		黒褐色			〃	〃	〃	
578	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ケ　ズ　リ	〃	〃	押圧痕	茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	122－1 〃　－2
579	A区T－1,3間サレキ	〃	胴　部	風　化	〃	〃	沈線2＋α	暗茶褐色		淡褐色	〃	〃	〃	
580	B区サレキ	〃	口　縁　部	巻　貝	〃	〃	沈線	黒褐色		暗灰色	微砂	〃	〃	
581	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		ミ　ガ　キ	〃	巻貝－ミガキ　押圧	茶褐色		黒灰色	〃	〃	〃	
582	A区T－5北サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃		淡黒褐色			細砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
583	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平　滑	〃	外…巻貝2＋α	淡茶褐色			微砂，カクセン石	〃	〃	
584	〃	〃	〃		〃	〃	外－巻貝3	黒灰色		淡灰白色	細砂	〃	〃	
585	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃	巻貝3	淡黄灰色			微砂	〃	〃	
586	〃	〃	〃		平　滑	〃	ミガキ	淡灰色		黒灰色	〃	〃	〃	
587	A区T－2サレキ	〃	〃			〃	巻貝4	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
588	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃	外－沈線	黒褐色			〃，カクセン石	〃	〃	
589	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	外－巻貝2＋α	茶灰色	暗灰色		〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
590	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	巻貝3	淡茶灰色	黒灰色		〃	〃	〃	
591	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃	外－巻貝3	淡灰白色	暗灰色		〃，金雲母	〃	〃	
592	〃	〃	〃		巻貝条痕→平滑	〃	巻貝3＋α　ミガキ	暗茶灰色			微砂，金雲母	〃	〃	122－1 〃　－2
593	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平　滑	〃	外－巻貝3＋α	淡褐色			細砂	〃	〃	
594	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	巻貝沈線		〃	外－巻貝3　ミガキ	淡茶褐色			微砂	〃	〃	
595	B区T－2	〃	口縁部～胴部	巻貝条痕－ミガキ	ミ　ガ　キ	〃	巻貝2	黒褐色			〃	〃	55	
596	〃	〃	〃	アルカ属条痕	上平滑下アルカ属条痕	〃	巻貝4	淡黒灰色			細砂	〃	〃	122－1 〃　－2
597	A区T－3,4間サレキ	〃	口　縁　部		ヨコアルカ属条痕	〃	巻貝3	暗灰色		灰白色	微砂	〃	〃	
598	〃	〃	〃		巻貝条痕	〃	外－巻貝3　突起	茶灰色			細砂，カクセン石，雲母(少)	〃	〃	
599	〃	〃	〃			〃	外－巻貝4	淡茶灰色			〃，火山ガラス(少)	〃	〃	
600	A区T－3南サレキ	〃	〃			〃	沈線・ミガキ	淡黒褐色			微砂	〃	〃	
601	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平　滑		〃	外－巻貝3	淡茶褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
602	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		巻貝条痕	〃	外－巻貝ミガキ　内－巻貝	淡灰白色	暗灰色		細砂，金雲母	〃	〃	
603	〃	〃	〃	ミ　ガ　キ	風　化	〃	ミガキ	暗茶褐色			〃	〃	〃	
604	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平　滑	〃	外－巻貝＋α	黒灰色		茶褐色	微砂，金雲母(少)	〃	〃	
605	〃	〃	〃		下　条　痕	〃	外－巻貝	黒褐色		茶灰色	細砂	〃	〃	
606	〃	〃	〃			〃	外－巻貝3	暗茶褐色			〃	〃	〃	
607	A区東側溝サレキ	〃	〃	風　化	風　化			暗茶灰色			〃	〃	〃	
608	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			巻貝沈線文	巻貝3＋α	淡灰白色			微砂	〃	〃	
609	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		巻貝条痕→平滑	〃	外－巻貝2　内－巻貝1	黒褐色			細砂，カクセン石(少)	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
610	A区T－2南サレキ	後期堰類	口縁部		ミガキ	巻貝沈線文	沈線 ミガキ					良	55	
611	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	〃	〃	沈線 ミガキ 巻貝押圧	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
612	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	内－巻貝1 外－巻貝2 口唇－凹み	茶褐色			〃，カクセン石(少)	〃	〃	
613	〃	〃	〃			〃	外－巻貝 扇状押圧痕 内－巻貝1	茶灰色			細砂，カクセン石	〃	〃	
614	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑	〃	巻貝3	淡茶褐色			微砂	〃	56	
615	〃	〃	〃		〃	〃	〃	淡黒褐色			〃，金雲母(多)	〃	〃	
616	A区T－1,3間サレキ	〃	〃				貼り付け 沈線	淡灰色			細砂	〃	〃	
617	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕→平滑			茶褐色			〃	〃	〃	
618	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		ミガキ	巻貝沈線文	外－巻貝2＋α	淡灰白色	暗灰色		微砂，カクセン石	〃	〃	
619	B区T－5	〃	〃	上巻貝下平滑	風化			淡茶灰色		淡茶褐色	細砂	〃	〃	
620	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			巻貝沈線文	外－巻貝2＋α	〃	暗灰色		〃，金雲母	〃	〃	
621	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	巻貝の殻頂刺突	茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス(多)	〃	〃	
622	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化		〃	外－巻貝1	〃			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
623	〃	〃	〃			〃	〃	茶灰色			細砂	〃	〃	
624	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑	〃	巻貝1＋α	黒褐色			微砂	〃	〃	
625	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃	〃	巻貝中ミガキ					〃	〃	
626	〃	〃	〃	〃	ケズリ	〃	内－巻貝1	黒褐色			細砂	〃	〃	
627	B区T－4	〃	〃	平滑	〃	〃		茶褐色			微砂	〃	〃	
628	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	ケズリ	風化		内－沈線1	淡灰白色		黒褐色	細砂	〃	〃	
629	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			巻貝沈線文	内－巻貝1 口唇－巻貝	茶褐色		暗茶褐色	微砂，カクセン石(少)	〃	〃	
630	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	条痕→ミガキ	ミガキ		内－沈線 ミガキ	黒灰色	茶灰色		〃	〃	〃	
631	〃	〃	〃	巻貝	ケズリ	巻貝沈線文	内－巻貝	茶褐色			〃	〃	〃	
632	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	巻貝条痕	〃	内－巻貝1	黒灰色		茶褐色	〃，雲母(多)	〃	〃	
633	B区T－2	〃	口縁部～胴部			〃	沈線－ミガキ 扇状押圧痕	黒褐色			〃	〃	57	
634	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部			〃	扇状押圧痕	暗茶褐色			〃	〃	〃	
635	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	外－巻貝2＋α 内－巻貝1	淡褐色			粗砂	〃	〃	
636	〃	〃	〃	平滑	平滑	〃	内－巻貝1 外－巻貝2	淡暗灰色		淡黒灰色	細砂	〃	〃	
637	〃	〃	〃	風化	〃	〃	外－巻貝2 内－巻貝1	黒褐色		淡灰白色	〃	〃	〃	
638	〃	〃	〃		〃	〃	外－巻貝 扇状押圧痕 内－巻貝1	黒灰色		茶褐色	微砂	〃	〃	
639	〃	〃	〃	平滑	〃	〃	外－巻貝2 内－巻貝1	淡灰白色		暗黒灰色	〃，雲母	〃	〃	
640	〃	〃	〃			〃	〃 〃		暗灰色		細砂，〃	〃	〃	
641	A区東側溝サレキ	〃	〃			〃	ミガキ	褐色	黒灰色		微砂	〃	〃	
642	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		ケズリ	〃	外－巻貝2＋α 内－巻貝1	淡灰褐色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
643	〃	〃	〃		巻貝条痕→平滑	〃	〃 〃 口唇－凹み	茶灰色			細砂	〃	〃	
644	A区T－3南サレキ	〃	〃		平滑	〃	沈線 ミガキ	淡灰色			微砂	〃	〃	

645	A区T－3,4間サレキ	後期Ⅶ類	口縁部	ケズリ	平滑	巻貝沈線文	内－巻貝1	茶灰色			細砂，カクセン石(少)	良	57	
646	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		〃	〃	外－巻貝3＋α　内－巻貝1	暗灰色		淡灰白色	〃	〃	〃	
647	A区東側溝サレキ	〃	〃			〃	扇状押圧痕	褐色		茶灰色	微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
648	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑	〃	内・外－沈線　ミガキ	淡灰色	黒褐色		〃	〃	〃	
649	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	巻貝条痕		〃	内－巻貝1　外－扇状押圧痕	淡灰白色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
650	〃	〃	〃		アルカ属条痕	〃	〃　外－巻貝1＋α	黒灰色			細砂	〃	〃	
651	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	内・外－巻貝	茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
652	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		ケズリ	〃	扇状押圧痕	淡茶灰色		暗茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
653	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕→平滑	平滑	〃	内－巻貝1	灰白色		茶灰色	微砂	〃	〃	
654	〃	〃	〃	ミガキ	巻貝条痕→ミガキ	〃	〃	暗茶灰色			細砂，金雲母	〃	58	
655	〃	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	〃	〃	茶灰色			微砂，カクセン石(少)	〃	〃	
656	〃	〃	〃	平滑	〃	〃	〃　口唇－巻貝	淡茶灰色			〃，　〃　(多)，金雲母(少)	〃	〃	
657	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	巻貝→平滑	〃	〃		淡灰黄色			〃	〃	〃	
658	〃	〃	〃	風化	風化		内－沈線　ミガキ	淡灰色	黒灰色		粗砂	〃	〃	
659	〃	〃	〃	巻貝→平滑	巻貝条痕	巻貝沈線文	内－沈線	淡茶灰色			微砂	〃	〃	
660	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	内－巻貝1　口唇－凹み	淡灰色			〃，カクセン石(多)	〃	〃	
661	B区　サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃	〃		暗茶褐色		黒灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
662	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	巻貝→平滑	巻貝条痕→平滑	〃	内－巻貝1					〃	〃	
663	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	〃	〃	黒褐色			微砂，カクセン石(少)	〃	〃	
664	〃	〃	〃			〃	〃	灰白色			細砂	〃	〃	
665	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	
666	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	巻貝条痕→平滑	〃	〃	暗茶褐色			〃，カクセン石(少)	〃	〃	
667	〃	〃	胴部			〃	巻貝2　扇状押圧痕	暗灰色		淡褐色	微砂	〃	〃	
668	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	巻貝3＋α	暗茶褐色			〃	〃	〃	
669	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		巻貝条痕→平滑	〃	巻貝4＋α	〃		暗灰色	〃，金雲母	〃	〃	
670	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	ヘラミガキ	淡灰白色			〃	〃	59	
671	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	巻貝4＋α	淡黄灰褐色			〃	〃	〃	
672	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		平滑	〃	巻貝　ナデ	褐色		淡灰色	〃	〃	〃	
673	A区T－1,3間サレキ	〃	〃				ヘラ沈線	黒褐色			〃	〃	〃	
674	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	巻貝条痕	巻貝沈線文	巻貝3　ミガキ	淡黒灰色			〃	〃	〃	
675	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上下－アルカ属条痕	アルカ属条痕	〃	巻貝2　扇状圧痕	暗茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
676	〃	〃	〃			〃	巻貝2＋α	茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
677	〃	〃	〃	巻貝条痕		〃	巻貝1＋α	暗褐色			微砂	〃	〃	
678	〃	〃	〃			〃	〃	淡暗茶褐色			細砂	〃	〃	
679	〃	〃	〃			〃	巻貝2＋α	淡茶褐色			〃，カクセン石	〃	〃	
680	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃		淡茶灰褐色	黒灰色		微砂，金雲母	〃	〃	
681	B区T－2	〃	〃	〃	〃	〃		淡黒褐色			〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
682	A区T－3,4間サレキ	後期前葉	胴部		ケズリ	巻貝沈線文	扇状押圧痕	淡茶褐色		暗茶灰色	微砂，カクセン石	良	59	
683	〃	〃	〃	上ミガキ下ケズリ	平滑	〃	巻貝2	黒褐色			〃，〃	〃	〃	
684	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	ケズリ	〃	沈線3＋α	淡茶灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
685	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	巻貝3	黒灰色			〃	〃	〃	
686	〃	〃	〃			〃	巻貝3＋α　巻貝の刺突	淡灰色			細砂，カクセン石	〃	〃	
687	〃	〃	〃	平滑		〃	〃	淡灰褐色			〃	〃	〃	
688	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃	扇状押圧痕　巻貝の刺突	淡灰白色		黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	
689	B区T－2	〃	〃	平滑	平滑	〃		暗茶褐色			微砂	〃	〃	
690	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	巻貝2　扇状押圧痕	淡灰色			細砂	〃	〃	
691	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		ミガキ	〃	巻貝3＋α　扇状押圧痕	淡黄灰褐色	灰色		〃	〃	〃	
692	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	巻貝3＋α	淡灰白色			〃	〃	〃	
693	〃	〃	〃			〃	巻貝2＋α	乳褐色		黒褐色	微砂	〃	〃	
694	〃	〃	〃			〃	〃　貫孔	暗灰色			〃，カクセン石	〃	〃	
695	〃	〃	〃	風化	風化	〃		淡灰褐色	暗灰色		細砂	〃	〃	
696	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	巻貝2＋α	暗褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
697	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	沈線－ミガキ　扇状押圧痕	黒灰色		淡灰白色	細砂	〃	60	
698	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑	〃		淡灰褐色			微砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
699	〃	〃	〃	風化	風化	〃	巻貝3＋α	暗灰褐色		黒灰色	〃，〃，雲母	〃	〃	
700	〃	〃	〃		巻貝条痕	〃	巻貝4＋α	淡灰白色			〃	〃	〃	
701	〃	〃	〃			〃	巻貝2＋α	淡灰褐色	黒褐色	淡灰褐色	細砂	〃	〃	
702	〃	〃	〃	巻貝条痕	平滑	〃	〃	褐色		黒灰色	〃，カクセン石(少)	〃	〃	
703	〃	〃	〃			〃	巻貝3＋α	淡乳白色	暗灰色	淡乳白色	〃	〃	〃	
704	B区T－4	〃	〃			〃	沈線－ミガキ　巻貝押圧	黒灰色			〃	〃	〃	
705	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑		〃	巻貝2＋α	暗茶灰色			微砂，カクセン石	〃	〃	
706	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	扇状押圧痕	茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
707	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	〃	巻貝1＋α	淡褐色			〃，カクセン石，金雲母	〃	〃	
708	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	巻貝2＋α	黒褐色			〃	〃	〃	
709	〃	〃	〃	条痕	平滑	〃	巻貝3＋α	〃	淡褐色	黒褐色	〃，金雲母	〃	〃	
710	〃	〃	〃	平滑	風化	〃	巻貝2＋α	淡灰白色		淡灰色	〃	〃	〃	
711	〃	〃	〃	〃	平滑	〃	巻貝3＋α	褐色	黒褐色	褐色	〃	〃	〃	
712	〃	〃	〃	〃	〃	〃	巻貝1＋α	淡茶灰色			〃，カクセン石	〃	〃	
713	〃	〃	〃	風化	風化	〃	巻貝2＋α	淡灰白色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
714	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	条痕→平滑	平滑	〃	巻貝　ミガキ	淡褐色		暗茶褐色	微砂，〃	〃	〃	
715	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	〃	〃	巻貝1＋α	淡暗灰色			〃，カクセン石，雲母	〃	〃	
716	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃			茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	

717	A区T－3,4間サレキ	後期Ⅶ類	胴部		平滑	巻貝沈線文	巻貝2＋α	淡褐色			細砂	良	60	
718	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風化	風化			暗茶灰色	淡黒灰色		〃	〃	〃	
719	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			巻貝沈線文	巻貝2＋α	淡黒褐色			微砂	〃	〃	
720	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	平滑	ケズリ	〃	巻貝1＋α	黒灰色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
721	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	巻貝3＋α	〃			細砂	〃	〃	
722	〃	〃	〃	ケズリ	カワアイ巻貝条痕	〃	巻貝1＋α	黒褐色			微砂	〃	〃	
723	〃	〃	〃		平滑	〃	巻貝2＋α	淡茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
724	〃	〃	口縁部	風化	風化	〃	外－巻貝2 内－巻貝1 キザミ	淡茶灰色		暗灰色	細砂，カクセン石，火山ガラス(多)	〃	61	
725	A区T－3南サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑	〃	沈線－ミガキ キザミ	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
726	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	ミガキ	〃	外－巻貝2 内－巻貝1 キザミ	暗茶褐色			〃，カクセン石(多)	〃	〃	
727	〃	〃	〃			〃	外－巻貝2 内－巻貝 キザミ	茶灰色			〃，カクセン石	〃	〃	
728	〃	〃	〃	巻貝条痕			内－キザミ	茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
729	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	巻貝沈線文	巻貝 ミガキ キザミ	暗茶褐色			〃	〃	〃	
730	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	外－巻貝2 内－巻貝1 キザミ	暗茶灰色			〃，カクセン石(少)	〃	〃	
731	〃	〃	〃	風化	風化	〃	〃 キザミ 内－巻貝1	暗茶褐色			〃	〃	〃	
732	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	〃 〃 〃 キザミ	茶褐色		暗茶灰色	微砂	〃	〃	
733	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃	〃	巻貝2 ミガキ	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
734	A区東側溝サレキ	〃	〃	風化	〃	〃	キザミ	暗茶灰色			〃	〃	〃	
735	〃	〃	〃	巻貝条痕→平滑	〃	〃	〃	淡灰白色		淡褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
736	〃	〃	〃	風化	風化	〃	〃	〃	灰色		粗砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
737	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕		〃	内－巻貝沈線 キザミ	茶褐色			微砂，カクセン石，金雲母	〃	〃	
738	A区T－3南サレキ	〃	〃	巻貝条痕→平滑	平滑	〃	キザミ	暗茶褐色			〃，金雲母	〃	62	
739	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		内－沈線 キザミ	黒褐色			細砂	〃	〃	
740	A区T－3南サレキ	〃	〃	ケズリ		巻貝沈線文	キザミ	黒灰色			〃	〃	〃	
741	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	巻貝条痕→平滑	〃	〃 巻貝 ミガキ	黒褐色		淡茶灰色	微砂	〃	〃	
742	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	巻貝条痕→ミガキ	巻貝条痕→ミガキ		内－沈線 キザミ	茶褐色			〃	〃	〃	
743	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	巻貝沈線文	内－巻貝1 キザミ	褐色			〃，カクセン石(少)	〃	〃	
744	A区T－2南サレキ	〃	〃	平滑	ミガキ	〃	キザミ	淡黒褐色			〃	〃	〃	
745	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ			内－沈線					〃	〃	
746	A区T－1,2間サレキ	〃	口縁部～胴部	ミガキ	条痕→ミガキ	巻貝沈線文	巻貝3 押圧痕	淡灰色	黒褐色		微砂，金雲母(多)	〃	〃	
747	〃	〃	口縁部		巻貝条痕	〃	巻貝沈線 キザミ	茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
748	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	巻貝3 キザミ	淡灰白色			粗砂	〃	〃	
749	A区T－5北サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃		茶褐色		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
750	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		巻貝条痕	〃	外－巻貝3	〃	黒灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
751	〃	〃	〃		風化	〃	外－巻貝3＋α キザミ	〃			〃，金雲母	〃	〃	
752	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		平滑	〃	ミガキ キザミ	淡黒灰色			微砂	〃	〃	
753	A区T－3,4間サレキ	〃	胴部	ミガキ	カワアイ巻貝条痕	〃	巻貝2 キザミ	茶褐色			〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
754	A区T－3,4間サレキ	後期Ⅲ類	胴部	平滑	平滑	巻貝沈線文	巻貝1＋α ミガキ	暗茶褐色			微砂	良	62	
755	〃	〃	〃	〃		〃	巻貝2 キザミ 扇状押圧痕	淡暗茶褐色			細砂	〃	〃	
756	B区T－2	〃	〃			〃	扇状押圧痕 キザミ	茶褐色			〃	〃	〃	
757	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	アルカ属条痕ミガキ			口縁内キザミ 沈線	〃			微砂	〃	〃	
758	A区T－4,5間サレキ	〃	胴部			巻貝沈線文	巻貝2＋α キザミ	〃			細砂	モロイ	〃	
759	B区T－1	後期Ⅰ類	口縁部～胴部	巻貝条痕	巻貝条痕→平滑		口唇－キザミ	〃			〃，金雲母	良	63	121－2
760	B区T－4	〃	口縁部	〃			口唇－巻貝押圧	暗茶灰色	黒灰色		〃，〃	〃	〃	
761	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化		口唇キザミ	淡暗灰色			粗砂	〃	〃	
762	A区T－5サレキ	〃	〃	巻貝条痕	平滑		キザミ	淡茶灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
763	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化		口唇－キザミ	茶褐色			粗砂	〃	〃	
764	B区T－5	後期Ⅰ～Ⅱ類	〃	巻貝条痕	平滑		〃	〃			微砂	〃	〃	
765	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	巻貝条痕			淡茶灰色			粗砂，カクセン石	〃	〃	121－2
766	B区T－2	〃	口縁部～胴部	風化	平滑			淡灰白色	黒褐色		細砂，火山ガラス	〃	〃	
767	A区T－1,2間サレキ	〃	口縁部	巻貝条痕→ミガキ	巻貝条痕→ミガキ			暗茶褐色		褐色	微砂	〃	〃	
768	B区T－2,3間	〃	〃	平滑	巻貝条痕			淡茶灰色	灰色		細砂	〃	〃	121－2
769	A区T－1,2間サレキ	後期	口縁部～胴部					茶褐色			粗砂	〃	64	
770	B区T－1	〃	口縁部	巻貝条痕	巻貝条痕			橙色		淡茶灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
771	B区T－5	〃	〃	巻貝カワアイ	巻貝カワアイ			茶灰色		褐色	〃	〃	〃	
772	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕→平滑	巻貝条痕			淡茶灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
773	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上巻貝下ケズリ	アルカ属条痕			黒灰色			細砂	〃	〃	
774	A区T－3,1間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→巻貝	巻貝→平滑			淡黒褐色			〃	〃	〃	
775	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕			茶褐色			〃	〃	〃	
776	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上平滑下巻貝カワアイ	平滑			淡褐色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
777	〃	〃	口縁部～胴部	巻貝条痕→平滑	〃			茶褐色	暗灰色		微砂，火山ガラス	〃	〃	
778	B区T－3	後期Ⅱ類	口縁部	風化	風化			〃			〃	〃	〃	
779	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡茶灰色			細砂	〃	〃	
780	B区 サレキ	後期Ⅰ類	胴部	巻貝条痕	巻貝条痕			淡茶褐色			微砂	〃	65	123－1
781	A区T－5北サレキ	後期Ⅲ類	口縁部	〃	〃			茶褐色	暗灰色		細砂，火山ガラス	〃	〃	
782	B区 サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑			〃		黒灰色	〃	〃	〃	
783	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	条痕	風化			淡茶灰色			微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
784	A区T－1,2間サレキ	後期Ⅳ類	口縁部	条痕→平滑	巻貝条痕			黒灰色	黒灰色	淡褐色	細砂	〃	〃	121－2
785	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		口唇－キザミ	暗茶褐色	暗灰色			〃	〃	
786	B区T－5	〃	〃					茶褐色			微砂	〃	〃	
787	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ				淡茶灰色			細砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
788	B区T－3	後期Ⅳ～Ⅴ類	〃	条痕	風化			淡黒灰色			微砂	〃	〃	121－2

789	A区T－3,4間サレキ		口縁部	ケズリ	ケズリ							細砂	良	65	
790	〃	後期Ⅳ～Ⅴ類	〃	風化	風化			淡茶褐色	暗灰色		〃，金雲母	〃	〃	
791	〃	〃	〃	〃	〃			暗灰色		淡灰色	〃	〃	〃	
792	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色		暗茶灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
793	〃	〃	〃					暗茶灰色			〃	〃	〃	
794	〃	〃	〃	風化	風化			茶褐色			〃	〃	〃	
795	B区T－5	〃	〃	平滑	平滑			暗茶褐色			〃	〃	〃	
796	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	ケズリ			淡茶灰色			微砂	〃	〃	
797	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕				暗茶褐色			細砂	〃	66	
798	〃	〃	〃	風化	風化			茶灰色			〃	〃	〃	
799	B区 サレキ	〃	〃	ミガキ	巻貝条痕→平滑			淡茶褐色			微砂	〃	〃	
800	B区T－2,3間サレキ	後期Ⅳ～Ⅴ類	〃	巻貝条痕	巻貝条痕			茶灰色			〃	〃	〃	
801	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃			〃	暗灰色		〃	〃	〃	
802	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
803	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			黒褐色			細砂	〃	〃	
804	〃	〃	〃	〃	巻貝条痕→平滑		口唇ー凹部	茶褐色			〃	〃	〃	
805	〃	〃	〃	〃	平滑			〃	黒褐色		〃	〃	〃	121－2
806	A区T－2サレキ	〃	〃	巻貝条痕雑なミガキ	巻貝条痕			暗茶灰色			微砂	〃	〃	〃
807	〃	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕			淡茶灰色			〃	〃	〃	
808	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			細砂	〃	〃	
809	〃	〃	〃	〃	〃			〃	暗茶褐色		〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
810	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	風化			淡茶灰色		暗茶灰色	〃，金雲母	〃	〃	
811	〃	〃	〃	巻貝条痕	平滑			黒褐色			微砂	〃	〃	123－1
812	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃			茶褐色			細砂	〃	〃	
813	〃	〃	〃	〃	巻貝条痕			〃			〃，金雲母	〃	〃	
814	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	カワアイ巻貝	カワアイ巻貝			〃			微砂	〃	〃	
815	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕			〃		暗茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
816	A区T－1,3間サレキ	後期	〃	上平滑下条痕	平滑			〃			微砂	〃	67	
817	〃	〃	〃	ケズリ	巾5mmナデ			淡灰色	黒灰色		〃	〃	〃	121－2
818	B区 サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		口唇ーキザミ	淡茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
819	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	〃		ヘラ沈線	淡黒褐色			微砂	〃	〃	
820	B区T－5	〃	〃	〃	〃		内ーキザミ	茶褐色			粗砂	〃	〃	
821	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部～胴部	巻貝条痕	〃			〃	暗灰色		細砂	〃	〃	
822	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	カワアイ巻貝条痕	〃			褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
823	A区T－3,4間サレキ	〃	口，縁部	上巻貝下アルカ属条痕	上平滑下ケズリ			淡黄褐色		淡茶灰色	微砂	〃	〃	
824	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	巻貝条痕			茶褐色	暗灰色		細砂	〃	〃	
825	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					〃	黒灰色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
826	A区T－5北サレキ	後期	口縁部	条痕	平滑		口唇－巻貝	茶褐色	暗灰色	淡灰色	細砂，火山ガラス	良	67	
827	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上巻貝条痕	風化			〃			微砂	〃	〃	
828	〃	〃	〃	巻貝条痕	アルカ属条痕			淡茶灰色		淡明茶褐色	〃	〃	〃	
829	〃	〃	〃	上ミガキ下ケズリ	上巻貝条痕下平滑		屈曲部キザミ	茶褐色			細砂，カクセン石	〃	〃	
830	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		頸部－巻貝沈線	淡灰色			微砂，〃	〃	〃	
831	〃	〃	胴部	上アルカ属下巻貝条痕	上平滑下巻貝条痕			暗茶灰色			細砂	〃	〃	
832	〃	〃	〃	上巻貝条痕下ケズリ	風化			淡茶褐色		淡黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	
833	A区T－5北サレキ	〃	口縁部	風化	平滑			暗茶灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
834	A区T－3,4間サレキ	〃	胴部	上アルカ属条痕下ケズリ	上巻貝→下アルカ属→平滑			茶褐色			〃	〃	68	
835	B区T－2	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	上平滑下巻貝条痕			〃			〃	〃	〃	
836	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上巻貝条痕下アルカ属	アルカ属条痕			淡灰褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
837	B区T－3	〃	口縁部	アルカ属条痕→平滑	平滑			黒褐色			微砂	〃	〃	
838	B区T－1	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			淡茶灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	121－2
839	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡黒灰色			微砂	〃	〃	
840	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	条痕			淡灰白色	暗灰色		細砂	〃	〃	
841	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					赤褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
842	〃	〃	〃	アルカ属条痕	風化			淡明茶褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
843	〃	〃	〃	条痕→平滑	アルカ属条痕			淡褐白色		黒褐色	細砂，〃	〃	〃	
844	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕				暗灰色		淡黄灰褐色	〃，金雲母	〃	〃	
845	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	風化			暗茶褐色			粗砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
846	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	アルカ属条痕			淡茶灰色			細砂，〃，〃	〃	〃	
847	B区 サレキ	〃	〃	〃	平滑ケズリ			淡黄褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
848	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化			茶褐色			〃	〃	〃	
849	〃	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ			淡茶灰色	暗灰色		〃	〃	〃	
850	A区T－2サレキ	〃	〃	ヨコケズリ				黒褐色		淡茶灰色	〃	〃	〃	
851	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	ミガキ			茶褐色			微砂	〃	〃	
852	〃	〃	口縁部－胴部	〃	平滑			〃			細砂	〃	69	123－1
853	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部	条痕→平滑	上ケズリ下平滑							〃	〃	
854	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	下ケズリ				茶褐色			細砂，カクセン石	〃	〃	
855	〃	〃	〃	ケズリ	平滑			〃			微砂	〃	〃	
856	B区 サレキ	〃	〃	〃	〃			茶灰色			細砂	〃	〃	123－1
857	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	ケズリ			暗茶褐色			微砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
858	〃	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色			細砂	〃	〃	
859	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ→アルカ属条痕	巾6㎜ナデ			淡茶灰色	黒灰色		微砂	〃	〃	
860	B区T－2	〃	口縁部～胴部	平滑				淡茶褐色			細砂	〃	〃	

861	A区T－1,3間サレキ	後期	口縁部	ケズリ	押圧痕			淡灰色	暗灰色	淡灰褐色	微砂，カクセン石	良	69	
862	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			暗茶褐色			細砂	〃	〃	
863	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			暗灰色			微砂	〃	〃	
864	〃	〃	〃	ミガキ	〃			淡黒灰色	黒褐色	淡褐色	〃	〃	〃	
865	B区 サレキ	〃	〃	平滑	〃			淡灰黄色		黒褐色	〃	〃	〃	
866	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黄茶灰色	黒灰色		細砂	〃	〃	
867	B区 サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色		淡茶灰色	〃	〃	〃	
868	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕			茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	70	123－1
869	〃	〃	〃	〃	平滑			暗茶灰色			微砂，〃，〃	〃	〃	
870	〃	〃	〃	〃	巻貝条痕			茶褐色			細砂	〃	〃	
871	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡黄灰色			微砂	〃	〃	
872	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	カワアイ巻貝	カワアイ巻貝			淡茶灰色		淡茶褐色	細砂	〃	〃	
873	B区T－5	〃	〃	巻貝条痕	巻貝条痕			茶褐色		淡黄灰色	〃	〃	〃	
874	A区T－2南サレキ	〃	〃	〃	巻貝→平滑			暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
875	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝→平滑	平滑			淡黒褐色			〃	〃	〃	
876	B区T－2	〃	〃	巻貝条痕	ミガキ			淡橙色			微砂	〃	〃	
877	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	カワアイ巻貝条痕	平滑			茶褐色			細砂	〃	〃	
878	B区T－6東サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃			暗茶灰色			微砂	〃	〃	
879	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃			茶褐色			細砂	〃	〃	
880	〃	〃	〃	〃	風化			淡茶褐色			微砂	〃	〃	
881	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃				黒褐色			〃，金雲母	〃	〃	
882	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡茶褐色			〃，〃，カクセン石	〃	〃	
883	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	〃			黒灰色			〃	〃	〃	
884	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	巻貝沈線	上巻貝条痕下平滑			茶褐色			〃	〃	〃	
885	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	平滑			淡黄灰色		淡黒褐色	細砂	〃	〃	
886	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	巻貝条痕→ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
887	A区T－3南サレキ	〃	口縁部～胴部	カワアイ巻貝	〃			淡黄灰色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
888	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部	巻貝条痕	平滑		沈線	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
889	〃	〃	〃	平滑	巻貝条痕			〃		黒灰色	〃	〃	〃	
890	C区	〃	〃	カワアイ巻貝	風化			暗茶褐色			微砂	〃	〃	123－1
891	B区 サレキ	〃	〃	巻貝条痕	上平滑下ケズリ			淡橙色	黒灰色		〃，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
892	A区T－2サレキ	〃	胴部	〃	巻貝条痕			淡茶灰色			〃	〃	71	
893	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	123－1
894	B区 サレキ	〃	口縁部	アルカ属条痕→平滑	巻貝条痕			暗茶灰色			微砂，〃	〃	〃	
895	A区T～4,5間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	平滑			淡青灰色	黒褐色	淡茶褐色	細砂	〃	〃	
896	〃	〃	〃	カワアイ巻貝	〃			茶褐色	褐色		微砂，カクセン石	〃	〃	
897	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	巻貝→平滑			淡黄茶灰色			細砂	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
898	A区T－3,4間サレキ	後期	口縁部	平滑	巻外→平滑			茶褐色			細砂	良	71	
899	〃	〃	〃	カワアイ巻外条痕	平滑		口唇－キザミ	淡茶灰色	暗灰色		〃	〃	〃	
900	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上巻貝カワアイ下アルカ属条痕	〃		〃	茶褐色			微砂	〃	〃	
901	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	巻貝－アルカ属条痕	〃		〃	暗茶褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
902	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	二枚貝条痕			淡褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
903	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	巻貝条痕	アルカ属条痕－平滑			暗茶褐色			〃	〃	〃	123－1
904	A区T－3,4間サレキ	〃	胴部	上巻貝条痕下アルカ属	下巻貝条痕			茶褐色			粗砂	〃	〃	
905	A区東側溝サレキ	〃	口縁部	上平滑下アルカ属条痕	アルカ属条痕		口唇－凹み	〃			微砂	〃	〃	
906	A区T－4,5間サレキ	〃	胴部	上巻貝条痕下アルカ属	平滑			淡茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
907	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	巻貝条痕			淡褐色		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
908	〃	晩期Ⅳ類	口縁部	〃		突帯文	口縁キザミ 口唇下突帯 キザミ 内面ケズリの段						72	
909	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	貼り付け－キザミ	茶褐色			細砂	良	〃	
910	B区T－4	〃	〃	ケズリ	〃	〃	キザミ	淡茶褐色			〃	〃	〃	123－2
911	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	口唇下突帯－キザミ 内面ケズリの段	淡暗茶褐色			微砂	〃	〃	
912	A区T－5北サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	〃	口唇－キザミ 内－沈線 貼り付け－キザミ	淡黒褐色	灰色	茶褐色	〃	〃	〃	
913	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃	〃	〃 貼り付け－キザミ	暗灰色		褐色	細砂	〃	〃	
914	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			〃	貼り付け－キザミ	淡暗茶灰色			〃	〃	〃	
915	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	〃	黒褐色			粗砂	〃	〃	123－2
916	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅴ類	〃			〃	〃	黒灰色			〃	〃	〃	
917	〃	晩期Ⅳ類	〃		平滑	〃	〃	暗灰色			〃	〃	〃	
918	〃	〃	〃		〃	〃	貼り付け	茶褐色			微砂，カクセン石	〃	〃	123－2
919	〃	〃	〃	平滑		〃	〃	黒褐色			細砂	〃	〃	〃
920	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	〃			微砂	〃	〃	〃
921	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	淡灰白色			粗砂	〃	〃	
922	A区T－5北サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑	〃		淡茶灰色	黒灰色		微砂，火山ガラス	〃	〃	
923	〃	〃	〃	風化	風化	〃	キザミ	淡黒褐色			細砂	〃	〃	
924	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅴ類	胴部	上平滑下ケズリ		〃	貼り付け－キザミ	淡黄褐色		淡茶褐色	〃	〃	〃	123－2
925	A区T－2サレキ	〃	〃	突帯下ケズリ		〃	キザミ	淡灰白色			〃	〃	〃	
926	B区サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	風化	〃	貼り付け－キザミ	淡灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
927	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	平滑	〃	キザミ	灰白色	灰色	茶灰色	〃	〃	〃	
928	〃	〃	〃	上平滑下条痕	〃	〃	〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
929	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		〃	〃	貼り付け－キザミ	黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
930	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	上平滑下ケズリ	〃	〃	茶褐色			細砂，〃	〃	〃	123－2
931	A区T－4,5間サレキ	晩期Ⅳ類	口縁部	上平滑下アルカ属条痕	平滑	〃	〃 口唇－キザミ	暗茶褐色		黒褐色	微砂，〃	〃	73	〃
932	A区T－5北サレキ	〃	〃	平滑	〃	〃	キザミ	淡黒褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	

933	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅳ類	口　縁　部	ケ　ズ　リ	平　滑	突　帯　文	貼り付けーキザミ　口唇ーキザミ	暗黒灰色		黒灰色	細砂	良	73	
934	〃	〃	〃	〃	風　化	〃	〃　　〃	淡暗灰色			〃	〃	〃	
935	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	巾0.5㎜平滑		〃	〃　　〃					〃	〃	
936	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風　化	風　化	〃	〃　口唇ー押圧	暗茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
937	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	平　滑	〃	〃　口唇ーキザミ	〃		黒褐色	微砂，金雲母	〃	〃	
938	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケ　ズ　リ	〃	〃	〃　　〃	淡灰褐色	暗灰色	暗灰色	細砂	堅緻	〃	
939	A区T－5	〃	〃	〃	〃	〃	キザミ	淡黄灰色			〃，金雲母，火山ガラス	良	〃	123－2
940	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃	〃	貼り付けーキザミ　口唇ーキザミ	淡灰色			微砂	〃	〃	
941	A区東側溝	〃	〃	アルカ属条痕	〃	〃	〃　　〃	淡茶灰色			〃	〃	〃	
942	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃	〃	〃　　〃	淡灰白色	暗茶灰色	淡灰白色	細砂	〃	〃	123－2
943	A区T－4,5層サレキ	〃	〃	ケ　ズ　リ	ケ　ズ　リ	〃	〃　　〃	黒褐色			〃	〃	〃	
944		〃	〃			〃	ＲＬ	淡茶灰色			〃	〃	〃	
945	A区T－5北サレキ	〃	〃	ケ　ズ　リ	平　滑	〃	貼り付けーキザミ　口唇ー押圧	淡灰白色			微砂	〃	〃	
946	A区T－2サレキ	〃	〃	アルカ属条痕		〃	〃　　〃					〃	〃	
947	A区　サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	〃	キザミ	淡灰色			細砂	〃	〃	
948	A区東側溝	〃	〃	〃	平　滑	〃	貼り付けーキザミ　口唇ーキザミ	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
949	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属ケズリ	〃	〃	口唇ーキザミ	淡茶褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
950	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平　滑	アルカ属条痕	〃	貼り付けーキザミ　口唇ーキザミ	暗茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
951	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平　滑	〃	突帯ーキザミ 口唇ーキザミ 内ーケズリの段	淡灰褐色			〃	〃	〃	
952	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	条痕→平滑	〃	貼り付けーキザミ　口唇ーキザミ	暗灰色		暗灰色	粗砂	〃	〃	
953	〃	〃	〃	〃	風　化	〃	〃　　〃	淡茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	123－2
954	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風　化	〃	〃	〃	黒褐色			〃	〃	〃	〃
955	A区東側溝	晩期Ⅲ類	〃	平　滑	平　滑	爪　形　文	口唇ーキザミ	暗灰色		黒灰色	微砂	〃	74	125－1
956	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅱ類？	〃	風　化	〃		内面ーキザミ　タテのキザミ	淡灰色			細砂	〃	〃	〃
957	A区T－4,5間サレキ	晩期Ⅲ類	〃	平　滑	風　化	爪　形　文	口唇ーキザミ　ヨコ刺突	淡黄灰褐色			微砂，金雲母，カクセン石	〃	〃	〃
958	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃		〃	〃　タテ爪形	淡黒褐色			〃，金雲母(少)	〃	〃	
959	A区東側溝	晩期Ⅱ類	〃			〃	〃	暗茶褐色	灰色		〃	〃	〃	
960	A区T－5北サレキ	晩期Ⅲ類	〃	平　滑	平　滑	〃	タテ爪形	茶褐色			〃	〃	〃	
961	〃	〃	〃	アルカ属条痕→ケズリ	ケ　ズ　リ		刺突	淡黄灰色	黒褐色		〃	〃	〃	
962	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			爪　形　文	口唇ーキザミ　タテー刺突	淡茶灰色			〃	〃	〃	
963	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平　滑	平　滑		〃　内・外ー刺突	茶褐色			〃	〃	〃	125－1
964	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	〃		内ー連続キザミ　口唇ーキザミ	淡灰色		暗灰色	〃，カクセン石(少)	〃	〃	
965	〃	〃	胴　部	上ーアルカ属条痕	〃	爪　形　文	タテ・ヨコ刺突	暗灰褐色		淡茶褐色	細砂	〃	〃	
966	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃	〃	タテ・ヨコの爪形	暗褐色			〃，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	125－1
967	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	暗灰色			〃	〃	〃	
968	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			〃	ヨコ刺突	淡茶褐色			〃，カクセン石	〃	〃	125－1
969	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		風　化	〃	タテ爪形	淡褐色			〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
970	B区T−4	晩期Ⅲ類	胴部	ケズリ	平滑	爪形文	タテ・ヨコ爪形	淡灰褐色			細砂	良	74	125−1
971	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	平滑	〃	〃	タテ刺突	淡灰色			〃，金雲母	〃	〃	
972	A区T−5北サレキ	〃	〃			〃	タテ爪	淡灰白色	黒灰色		微砂	〃	〃	
973	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			〃	ヨコ爪形	淡灰褐色			細砂	〃	〃	
974	〃	〃	〃	平滑	平滑	〃	ヨコ・タテ爪形	淡灰白色			〃，金雲母，カクセン石，火山ガラス(多)	〃	〃	
975	A区T−1,3間サレキ	〃	〃	〃	巻貝条痕→平滑	巻貝沈線文	巻貝1＋α	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
976	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			爪形文	ヨコ・タテ刺突	淡褐色		暗灰色	〃，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
977	〃	〃	〃	上平滑 下ケズリ	平滑	〃		暗茶灰色		淡灰褐色	〃，〃	〃	〃	
978	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ヨコ爪形	淡灰褐色		暗茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	125−1
979	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	上平滑 下ナデ	上平滑 下ケズリ	〃	〃	淡茶灰色			〃	〃	〃	
980	A区T−4,5間サレキ	〃	〃			〃	〃	黒褐色			〃	〃	〃	
981	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	下ケズリ	平滑	〃	〃	暗灰色			細砂	〃	〃	
982	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	ナデ	〃	タテ・ヨコ爪形	暗茶褐色		黒褐色	微砂	〃	〃	125−1
983	A区T−4,5間サレキ	〃	〃			〃	ヨコ爪形	淡茶灰色			〃，金雲母，カクセン石	〃	〃	
984	〃	〃	〃	下ケズリ	押圧痕	〃	〃	明褐色			細砂	〃	〃	
985	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			〃	〃	淡茶灰色	灰色		〃	〃	〃	
986	A区T−1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑	〃		淡褐色			微砂	〃	〃	
987	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			〃	ヨコ爪形	茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	75	
988	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑	〃	〃	〃			微砂	〃	〃	
989	A区T−4,5間サレキ	〃	〃	上平滑 下ケズリ	風化	〃	〃	〃			〃，金雲母	〃	〃	
990	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			〃		暗茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
991	A区T−4,5間サレキ	〃	〃	上一平滑	上平滑 下ケズリ	〃	ヨコ爪形	淡黄褐色		茶灰色	微砂	〃	〃	
992	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑	〃	〃	茶褐色	暗灰色		細砂	〃	〃	
993	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	上平滑 下ケズリ	風化	〃	〃	淡灰白色		黒灰色	〃	〃	〃	
994	A区T−4,5間サレキ	〃	〃	平滑	ケズリ	〃	〃	茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
995	A区T−1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑	〃		淡褐色			微砂	〃	〃	
996	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	上平滑 下ケズリ	〃	〃	ヨコ爪形	淡灰褐色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	125−1
997	A区T−4,5間サレキ	〃	〃	〃	風化	〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	
998	〃	〃	〃	平滑	ケズリ	〃	刺突	淡黄骨灰色			〃	〃	〃	
999	〃	〃	〃	上一平滑		〃	ヨコ爪形	淡茶灰色		黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	
1000	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	下ケズリ	平滑	〃	ヨコ刺突	褐色			粗砂	〃	〃	
1001	〃	〃	〃	上アルカ属下ケズリ	〃							〃	〃	125−2
1002	〃	〃	〃	下ケズリ	〃	爪形文	ヨコ爪形	淡乳灰色			微砂	〃	〃	
1003	A区T−1,3間サレキ	〃	〃	条痕	〃	〃		淡茶灰色			〃	〃	〃	
1004	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	上平滑 下ケズリ	〃	〃	ヨコ刺突	淡灰褐色			粗砂	〃	〃	

1005	A区T－4,5間サレキ	晩期Ⅲ類	胴部	上平滑下ケズリ	平滑	爪形文	ヨコ爪形	黒灰色		暗茶灰色	微砂	良	75	
1006	A区T－5北サレキ	〃	〃	上条痕下ケズリ	〃	〃	ヨコ刺突	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1007	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃	〃	〃	淡乳灰色			細砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
1008	〃	〃	〃	上ーアルカ属条痕	〃	〃	〃	茶褐色			微砂	〃	〃	125－1
1009	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃	〃		淡茶灰色			〃	〃	〃	
1010	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化	〃	ヨコ爪形	暗褐色			細砂	〃	〃	
1011	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	平滑	〃	ヨコ刺突	淡褐色		暗灰色	微砂，火山ガラス	〃	〃	125－1
1012	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	押圧痕	〃	ヨコ爪形	淡茶灰色		黒灰色	〃，〃	〃	〃	
1013	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上平滑	平滑	〃	ヨコ刺突	暗灰色			細砂	〃	〃	
1014	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ		〃	〃	茶褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
1015	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	平滑	ケズリ	〃	刺突	〃			〃	〃	〃	
1016	〃	〃	〃	風化		〃	ヨコ爪形	淡茶灰色	暗茶灰色		細砂	〃	〃	
1017	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	平滑	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
1018	〃	〃	〃	上平滑	〃	〃	ヨコ刺突	淡褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1019	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃	〃	〃	淡灰色			微砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1020	〃	〃	〃	〃		〃	〃	暗灰色		茶褐色	細砂	〃	〃	
1021	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	風化	〃	〃	茶褐色			〃	〃	〃	
1022	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑	〃		淡茶褐色		淡暗茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
1023	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃	〃	ヨコ刺突	淡暗灰色			〃	〃	〃	
1024	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上ミガキ下ケズリ		〃		茶褐色			〃	〃	〃	
1025	A区T－5北サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	刺突文		淡茶灰色		黒褐色	〃，火山ガラス	〃	76	125－1
1026	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上平滑	風化	爪形文	押し引き	〃			粗砂	〃	〃	
1027	〃	〃	〃			〃		茶灰色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1028	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	アルカ属条痕→平滑			淡茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
1029	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		平滑	爪形文	タテ刺突	淡灰白色		暗茶褐色	微砂	〃	〃	
1030	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃	〃	ヨコ刺突	黒灰色			細砂	〃	〃	
1031	〃	〃	〃	〃	〃		押し引き	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1032	A区東側溝	晩期	口縁部				口唇ーキザミ	黒灰色			〃	〃	〃	
1033	A区T－5北サレキ	〃	〃	平滑	平滑		ヘラ沈線	暗茶褐色			〃	〃	〃	
1034	A区T－1,2間サレキ	〃	〃		〃	沈線文	キザミ	淡灰白色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1035	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅲ類	胴部		〃	〃	山形	暗茶褐色			〃	〃	〃	
1036	A区T－4,5間サレキ	晩期	〃				山形の沈線	茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1037	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部		平滑	巻貝沈線文	巻貝沈線　ミガキ	灰褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1038	〃	晩期Ⅰ類	〃	風化	風化			茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	77	125－2
1039	〃	〃	〃	平滑	平滑			淡茶褐色	暗灰色		〃	〃	〃	〃
1040	〃	〃	〃	風化	風化			淡黒褐色		茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
1041	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					黒褐色			〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1042	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅰ類	口縁部	ミガキ	ミガキ			淡暗灰色		黒褐色	微砂，火山ガラス	良	77	
1043	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡黒灰色			〃，〃	〃	〃	
1044	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			〃	〃	〃	125－2
1045	〃	〃	〃	〃	〃			淡黒灰色			〃	〃	〃	
1046	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化			茶灰色			細砂	〃	〃	
1047	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					黒褐色			〃	〃	〃	125－2
1048	B区T－2,3間サレキ	〃	〃					〃		茶褐色	微砂	〃	〃	
1049	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1050	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃		外－沈線	淡灰黒色			〃	〃	〃	
1051	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1052	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		沈線	黒褐色			〃	〃	〃	
1053	〃	〃	〃	〃	〃			淡黒灰色	淡灰色		〃	〃	〃	
1054	A区T－3,4南寄りサレキ	〃	〃	〃	〃			黒褐色			細砂	〃	〃	
1055	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色		黒褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	125－2
1056	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		外－沈線	黒褐色			〃	〃	〃	
1057	〃	〃	〃		〃			〃			〃，金雲母	〃	〃	
1058	〃	〃	〃	ミガキ	〃		内－ケズリの段　突起	淡灰褐色		黒色	〃	〃	〃	
1059	A区T－3南サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒灰色			〃	〃	〃	
1060	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅱ類	〃	風化	風化			黒褐色			細砂	〃	〃	
1061	A区T－3南サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1062	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					暗茶褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
1063	〃	〃	〃				内－沈線	黒褐色			〃	〃	〃	
1064	A区T－3南サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡黒灰色			微砂	〃	〃	125－2
1065	B区サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃	〃	78	
1066	A区T－2サレキ	〃	〃	〃	〃		内－凹部	黒褐色			〃	〃	〃	
1067	A区T－3,4間黒褐色粘質土	〃	〃	風化	風化		内－段	淡黒褐色			〃	〃	〃	
1068	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃		押圧　沈線	〃			〃	〃	〃	
1069	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					淡暗茶灰色			〃，カクセン石	〃	〃	125－2
1070	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化		沈線	淡黒褐色			〃	〃	〃	
1071	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		〃	黒褐色	茶灰色		〃	〃	〃	
1072	A区T－4,5間サレキ	〃	〃				外－沈線	淡茶褐色			〃	〃	〃	
1073	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					淡茶灰色		黒褐色	細砂	〃	〃	
1074	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		外－沈線	黒褐色			微砂	〃	〃	
1075	〃	〃	〃	〃	条痕		内－凹部	〃			細砂	〃	〃	
1076	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡茶褐色		黒褐色	微砂，金雲母	〃	〃	

1077	A区T－4,5間サレキ	晩期Ⅱ類	口　縁　部				淡黄褐色	黒灰色		細砂	良	78	125－2
1078	A区T－1,3間サレキ	晩期Ⅲ類	〃	風　化	風　化		暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1079	A区T－5北サレキ	〃	〃	平　滑	平　滑		淡灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	125－2
1080	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		淡灰茶褐色			微砂	〃	〃	〃
1081	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			内－貼り付け　外－沈線	淡暗茶褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
1082	A区T－1,3間サレキ	〃	〃				淡黒褐色			〃	〃	〃	
1083	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化		淡茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1084	A区東側溝サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		黒褐色			〃	〃	〃	125－2
1085	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃	内－肥厚	茶褐色	黒褐色	茶褐色	〃	〃	〃	
1086	A区T－2サレキ	〃	〃			内－沈線　外－ケズリの段	茶灰色		淡黒褐色	〃	堅緻	〃	125－2
1087	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		淡茶褐色			〃	良	〃	
1088	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃	内－肥厚	暗茶褐色			〃	〃	〃	
1089	A区T－3南サレキ	晩期Ⅱ類	〃	〃	〃		淡暗茶灰色			〃	〃	79	
1090	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃	内－ケズリの段	暗茶灰色	淡茶褐色		細砂	〃	〃	
1091	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃	内－段	淡灰白色		暗茶灰色	微砂	〃	〃	
1092	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	風　化	風　化		淡黒灰色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1093	A区東側溝	〃	〃	ミガキ	ミガキ		暗茶灰色	黒灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
1094	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			内－ケズリの段	黒褐色			〃	〃	〃	
1095	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風　化	風　化		淡茶灰色			〃，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
1096	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	内－段　外－押圧	暗茶褐色			〃	〃	〃	
1097	〃	〃	〃	〃	〃	〃	黒褐色			〃	〃	〃	
1098	A区T－4,5間サレキ	〃	〃			内－ケズリの段	淡黒褐色			〃	〃	〃	
1099	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		黒褐色			細砂	〃	〃	125－2
1100	〃	〃	〃	〃	〃	内－段有り	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1101	A区T－1,3間サレキ	〃	〃			内－沈線	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1102	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		黒褐色			〃	〃	〃	
1103	A区T－4,5間サレキ	〃	〃				淡茶灰色			〃	〃	〃	
1104	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ	内－ケズリの段	淡灰白色	淡灰色		〃	〃	〃	
1105	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃	内－段	茶灰色		淡茶灰色	〃	〃	〃	
1106	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅰ類	〃	風　化	風　化	内－ケズリの段　波状口縁	黒灰色			細砂，カクセン石	〃	〃	
1107	A区T－2南サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		淡黒褐色			微砂	〃	〃	125－2
1108	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	風　化		暗灰色			細砂	〃	〃	
1109	A区T－2南サレキ	〃	〃	ケズリ	ミガキ		黒褐色		茶灰色	微砂，カクセン石	〃	〃	
1110	A区T－1,2南サレキ	晩　期	口縁部～胴部	ミガ、キ	〃		〃			〃	〃	80	
1111	A区東側溝	〃	口　縁　部	風　化	風　化		茶灰色		淡黒褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
1112	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		淡暗灰色			細砂	〃	〃	
1113	〃	〃	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ		暗茶褐色			〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1114	A区T－1,3間サレキ	晩期Ⅳ類	口縁部	上条痕 下ケズリ	上平滑 下ケズリ			淡茶褐色	黒灰色		微砂	良	80	
1115	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡灰白色			〃	〃	〃	
1116	A区東側溝サレキ	〃	口縁部～胴部	風化	風化			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1117	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡灰褐色			〃	〃	〃	124－2
1118	A区T－5北サレキ	晩期	口縁部	上ナデ 下ケズリ	〃		内－沈線	黒灰色	灰色		〃，金雲母(多)	〃	〃	
1119	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅱ類	〃	ミガキ	〃			暗灰色		黒灰色	細砂	〃	〃	
1120	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	〃			黒褐色			微砂	〃	〃	
1121	B区サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃，金雲母(多)	〃	〃	
1122	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡黒灰色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	125－2
1123	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		内－ケズリの段	淡暗茶褐色	黒灰色		細砂	〃	〃	124－1
1124	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		内－沈線	淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1125	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡茶褐色			〃	〃	〃	
1126	B区サレキ	〃	〃	平滑	平滑		押圧痕	黒褐色			〃	〃	〃	
1127	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				突起					〃	〃	
1128	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		内－ケズリの段	茶褐色			微砂	〃	81	
1129	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		突起	淡灰白色		淡暗褐色	細砂	〃	〃	
1130	〃	〃	〃					黒褐色			〃	〃	〃	
1131	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部－胴部	風化	風化			〃			微砂	〃	〃	
1132	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		平滑			暗茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	125－2
1133	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部				ケズリの段	褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1134	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	ミガキ			黒褐色			〃	〃	〃	
1135	A区T－3,4間サレキ	晩期	〃	ケズリ	〃		内－ケズリの段　外－ナデ	淡暗茶灰色			細砂	〃	〃	
1136	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	ミガキ	〃		〃　口唇－キザミ	淡黒褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	
1137	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		内面－段　外面－凹部	淡灰白色			細砂	〃	〃	
1138	A区T－3南サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		沈線	暗茶褐色			微砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1139	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	〃			茶灰色		黒褐色	細砂，火山ガラス(少)	〃	〃	
1140	〃	〃	〃	ケズリ	〃		外－凹み	暗灰色			微砂	〃	〃	
1141	B区サレキ	〃	〃		平滑		押圧痕	淡黒褐色			〃	〃	〃	
1142	B区T－4	〃	口縁部～胴部	平滑	〃			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1143	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	風化	風化			茶灰色		暗灰色	細砂	〃	〃	
1144	〃	〃	〃	〃	〃			淡茶灰色			微砂，カクセン石	〃	〃	
1145	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1146	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
1147	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				頸部下－沈線1 or 段	〃			〃，金雲母	〃	〃	
1148	A区T－5北サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			〃			〃	〃	82	

1149	A区T－2南サレキ	晩期	口縁部	ミガキ	ミガキ			暗灰色			微砂，火山ガラス	良	82	124－1
1150	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	条痕→平滑			淡灰白色			〃	〃	〃	〃
1151	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	ミガキ			淡黒灰色			〃	〃	〃	
1152	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					黒灰色		茶褐色	〃	〃	〃	
1153	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		内一段	黒褐色			細砂，雲母	〃	〃	
1154	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化			〃			微砂	〃	〃	
1155	A区T－5北サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			〃	灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
1156	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					茶褐色			細砂	〃	〃	
1157	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1158	〃	〃	〃	風化	風化			黒褐色			微砂	〃	〃	
1159	A区T－2南サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色		茶灰色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1160	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		外一肥厚	淡褐色			細砂	〃	〃	
1161	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃		内一沈線	黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
1162	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				内一沈線1	〃		灰白色	〃，カクセン石	〃	〃	
1163	〃	〃	〃	平滑	平滑		内一段 波状部刺突	淡灰白色			細砂	〃	〃	
1164	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化		内一沈線	淡黄褐色	灰色		微砂	〃	〃	
1165	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		〃	黒褐色			細砂	〃	〃	
1166	〃	〃	〃	風化	風化		〃	茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1167	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡茶褐色			〃	〃	〃	
1168	B区サレキ	〃	〃	条痕	平滑			暗茶褐色		暗茶灰色	微砂	〃	〃	
1169	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ		外一沈線	黒褐色			細砂	〃	〃	
1170	〃	〃	〃	風化	風化		内一沈線	暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1171	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ	平滑		内一沈線	〃			微砂	〃	〃	
1172	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化			黒褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	83	
1173	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡暗茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1174	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色			細砂	〃	〃	
1175	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					淡茶褐色	暗灰色		微砂，火山ガラス	〃	〃	
1176	A区T－5北サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			細砂	〃	〃	
1177	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			微砂	〃	〃	
1178	〃	〃	〃	〃	〃			茶灰色		黒褐色	細砂	〃	〃	
1179	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色			微砂	〃	〃	
1180	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			黒褐色	灰色		〃	〃	〃	
1181	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡暗茶灰色	黒灰色		細砂	〃	〃	
1182	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡黄灰色	明灰色		微砂	〃	〃	
1183	A区T－3南サレキ	〃	〃	風化	風化			茶褐色		淡黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	
1184	A区東側溝	〃	〃	平滑	平滑			淡茶褐色	暗灰色	淡灰色	〃，〃	〃	〃	
1185	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					黒褐色	〃		〃，〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1186	A区T－4,5間サレキ	晩期	口縁部	ミガキ	ミガキ			黒褐色	茶灰色		微砂	良	83	124－1
1187	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
1188	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1189	A区T－3,4間サレキ	〃	〃		ミガキ		内－沈線2本 突起	淡黒褐色			細砂	〃	〃	
1190	A区T－2サレキ	〃	〃	ミガキ	〃			暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1191	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－押圧	淡黒褐色			〃	〃	〃	
1192	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			〃			〃	〃	〃	
1193	A区T－3南サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒灰色			〃	〃	〃	
1194	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					淡黄灰白色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1195	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1196	〃	〃	〃	〃	〃			〃			〃	〃	〃	
1197	B区T－5	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	124－1
1198	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1199	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃	〃	〃	
1200	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			黒褐色		淡灰白色	〃	〃	〃	
1201	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1202	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃	〃	84	
1203	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	風化		口唇－押圧	淡黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1204	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					暗茶灰色			〃	〃	〃	
1205	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			粗砂	〃	〃	
1206	〃	〃	〃	〃	〃			黒灰色			微砂，カクセン石(少)	〃	〃	
1207	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色	暗茶灰色		〃	〃	〃	
1208	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃			〃			細砂	〃	〃	
1209	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		内－ケズリの段	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
1210	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色		黒褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
1211	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			〃，〃	〃	〃	
1212	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		内－ケズリの段 外－沈線 口唇－沈線	淡明褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
1213	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		内－沈線1 外－沈線1	暗茶灰色			〃，カクセン石(多)	〃	〃	
1214	〃	〃	〃				内･外－沈線	茶灰色			細砂，カクセン石	〃	〃	
1215	〃	〃	〃	平滑	平滑			淡灰白色			微砂，〃(多)	〃	〃	
1216	〃	〃	〃				内－ケズリの段 外－沈線1				細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
1217	A区T－4,5間サレキ	〃	〃				内･外－沈線	黒褐色			微砂	〃	〃	
1218	A区T－2南サレキ	〃	〃	ミガキ	ケズリ			淡黒灰色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1219	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡黄灰褐色			細砂	〃	〃	
1220	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑			淡灰色	灰色		微砂	〃	〃	124－1

1221	B区T－1	晩　期	口　縁　部					淡黒褐色			細砂，火山ガラス(多)	良	84		
1222	A区T－4,5間サレキ	〃	〃					淡黄灰褐色	黒灰色		〃	〃	〃		
1223	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平　滑	平　滑			茶褐色			微砂	〃	〃		
1224	〃	〃	〃	上条痕→平滑 下平滑	アルカ属条 痕→平滑			黒褐色			〃	〃	〃		
1225	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部～胴部	上アルカ属条痕 下〃	平滑	ミ　ガ　キ		黒灰色		茶褐色	〃，火山ガラス	〃	85	124－1	
1226	A区T－4,5間サレキ	〃	口　縁　部	平　滑				淡茶灰色			〃，　〃	〃	〃	〃	
1227	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	平　滑			黒褐色			〃，　〃	〃	〃		
1228	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	〃			淡茶灰色	暗灰色		細砂，金雲母	〃	〃		
1229	B区T－2	〃	〃	平　滑	〃			暗茶褐色			微砂	〃	〃		
1230	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃	〃	〃		
1231	〃	〃	〃	風　化	風　化			淡暗灰色			細砂	〃	〃		
1232	A区T－1,2間サレキ	〃	口縁部～胴部	平　滑	平　滑			淡茶灰色			微砂	〃	〃		
1233	A区T－3,4間サレキ	〃	口　縁　部	〃	〃			淡灰白色	暗灰色	淡褐色	〃，カクセン石	〃	〃		
1234	〃	〃	〃	〃	〃			淡茶灰色	〃		細砂，火山ガラス	〃	〃		
1235	〃	〃	〃	ミ　ガ　キ	ミ　ガ　キ			茶褐色			微砂	〃	〃		
1236	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	平　滑	風　化			淡茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃		
1237	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	〃			茶褐色			〃，　〃	〃	〃		
1238	〃	〃	〃	平　滑	平　滑			暗茶灰色			〃	〃	〃		
1239	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	風　化			淡灰褐色		暗茶褐色	微砂	〃	〃		
1240	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	〃			淡明茶褐色			細砂	〃	〃		
1241	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃		
1242	〃	〃	〃	平　滑	平　滑		口唇－凹部	茶灰色			微砂	〃	〃		
1243	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黄褐色			〃	〃	〃		
1244	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色			細砂	〃	〃		
1245	〃	〃	胴　部	〃	〃			淡褐色		暗灰色	微砂	〃	〃		
1246	〃	〃	口　縁　部					黒褐色			〃	〃	〃		
1247	〃	〃	〃	平　滑	平　滑			淡茶褐色			〃	〃	〃		
1248	A区T－4,5間サレキ	〃	胴　部	上平滑 下ケズリ	ケズリ			淡黄灰褐色		暗茶灰色	〃	〃	86		
1249	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上押圧ケズリ 下ケズリ	上平滑 下ケズリ			茶褐色		暗茶褐色	〃，カクセン石	〃	〃		
1250	〃	〃	〃	上平滑 下ケズリ	平　滑			茶灰色		黒褐色	〃，雲母	〃	〃		
1251	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色		淡灰褐色	〃	〃	〃		
1252	〃	〃	〃	〃				淡褐色		暗灰色	細砂，カクセン石	〃	〃		
1253	〃	〃	〃	〃	平　滑			淡灰褐色	暗灰色	淡灰褐色	〃	〃	〃		
1254	〃	〃	〃	ミ　ガ　キ	ミ　ガ　キ			黒褐色			〃，金雲母	〃	〃		
1255	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色		黒褐色	微砂，　〃	〃	〃		
1256	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風　化	風　化			淡明褐色		黒灰色	〃	〃	〃		
1257	A区T－3,4間サレキ	〃	〃					暗褐色			〃	〃	〃		

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1258	A区T－1,3間サレキ	晩期	胴部	平滑	ケズリ			茶褐色		黒褐色	微砂	良	86	
1259	〃	〃	〃	上下平滑アルカ属染痕	風化			〃			細砂	〃	〃	
1260	A区T－5北サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			〃			微砂，火山ガラス	〃	〃	
1261	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			茶灰色	黒灰色		〃	〃	〃	
1262	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	下ケズリ				茶褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
1263	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1264	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	風化			茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
1265	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			〃		黒褐色	微砂	〃	〃	
1266	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上下平滑ケズリ	平滑			黒褐色			〃	〃	〃	
1267	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上下ナデ平滑	〃			淡灰褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
1268	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃			茶褐色			微砂	〃	〃	
1269	〃	〃	〃	平滑	〃			〃	灰色	淡灰白色	〃	〃	〃	
1270	〃	〃	〃	〃	〃			淡茶灰色	〃		〃	〃	〃	
1271	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1272	A区T－2サレキ	〃	〃					淡茶灰色		黒褐色	〃	堅緻	〃	
1273	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			〃	良	〃	
1274	A区T－5北サレキ	〃	〃	上下ミガキケズリ	上下平滑ナデ			暗茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1275	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ミガキ	ミガキ			〃		暗灰色	〃	〃	87	
1276	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上下平滑ケズリ	平滑			淡茶褐色			〃	〃	〃	
1277	A区T－3南サレキ	〃	口縁部	平滑	条痕→平滑			黒褐色		淡黄灰色	〃	〃	〃	
1278	〃	〃	〃	ケズリ→平滑	アルカ属条痕→平滑			淡暗茶褐色			〃	〃	〃	
1279	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1280	A区T－4,5間サレキ	〃	口縁部～胴部	アルカ属条痕	〃			茶褐色			細砂	〃	〃	
1281	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部		風化			淡黒褐色		茶褐色	〃	〃	〃	
1282	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			淡茶灰色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1283	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→ミガキ	アルカ属条痕→ミガキ			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1284	A区T－2.3間サレキ	〃	〃	風化	風化			〃			〃	〃	〃	
1285	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部～胴部	平滑	平滑			黒褐色			細砂	〃	〃	
1286	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	〃	〃			淡茶灰色		黒褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
1287	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡灰色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	
1288	〃	〃	〃	上下ミガキケズリ	上下ミガキケズリ			暗灰色		黒褐色	〃	〃	〃	
1289	〃	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色			粗砂	〃	〃	
1290	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1291	A区T－5北サレキ	〃	〃					淡茶灰色			細砂	〃	〃	
1292	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化			淡茶褐色			〃	〃	〃	

1293	A区T－3,4間サレキ	晩　期	胴　部	上平滑下アルカ属条痕	上アルカ属条痕下平滑			黒褐色		淡褐色	細砂，火山ガラス	良	87		
1294	〃	〃	〃	〃	平　滑			暗灰色			微砂，カクセン石	〃	〃		
1295	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃			黒灰色			〃，　〃	〃	〃		
1296	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平　滑	上ケズリ下平滑			淡褐色	灰色		細砂	〃	〃		
1297	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上下一平滑	平　滑			茶褐色			〃	〃	〃		
1298	〃	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	〃			淡灰褐色			微砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃		
1299	〃	〃	〃	上平滑下ケズリ	〃			〃			細砂	〃	〃		
1300	〃	〃	〃	〃	〃			黒褐色			〃	〃	〃		
1301	〃	〃	〃	上一平滑	風　化			〃			粗砂，カクセン石，金雲母	モロイ	〃		
1302	A区T－1,2間サレキ	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	アルカ属条痕一平滑	上アルカ属下ケズリ			明褐色			細砂	良	88		
1303	A区T－3,4間サレキ	〃	口　縁　部		〃			淡黒褐色			微砂	〃	〃		
1304	〃	〃	〃	ケ　ズ　リ	風　化			茶褐色			細砂	〃	〃		
1305	A区T－5北サレキ	〃	〃	〃	条　痕			暗灰色		茶褐色	微砂	〃	〃		
1306	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平　滑	平　滑			茶褐色			細砂	〃	〃		
1307	A区T－5北サレキ	〃	〃	アルカ属条痕一平滑	アルカ属条痕			暗灰色			〃，火山ガラス	〃	〃		
1308	A区T－3南サレキ	晩期Ⅱ類	〃	アルカ属条痕	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	暗茶褐色			微砂	〃	〃		
1309	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	ケ　ズ　リ			淡茶灰色	黒灰色		〃，火山ガラス(多)	〃	〃		
1310	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	ミ　ガ　キ			黒褐色			細砂	〃	〃		
1311	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	風　化			暗茶褐色		黒褐色	微砂，金雲母	〃	〃		
1312	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上ケズリ下アルカ属条痕	ケ　ズ　リ			淡灰白色	灰色		細砂	〃	〃		
1313	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平　滑			茶褐色	暗灰色		微砂	〃	〃		
1314	〃	〃	〃	〃	ケ　ズ　リ			暗茶褐色			細砂	〃	〃		
1315	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	ケ　ズ　リ	アルカ属条痕			〃			〃	〃	〃		
1316	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風　化	〃			淡茶灰色			粗砂	〃	〃		
1317	〃	〃	〃	上アルカ属一平滑下平滑	平　滑			淡黄茶灰色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃		
1318	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	条　痕	条　痕			茶褐色			微砂	〃	〃		
1319	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケ　ズ　リ	ケ　ズ　リ			淡茶褐色			細砂	〃	〃		
1320	〃	〃	〃	風　化	平　滑			〃			〃，火山ガラス	〃	〃		
1321	〃	〃	〃	ケ　ズ　リ	ケ　ズ　リ			淡黄灰褐色	黒灰色		〃，　〃	〃	89		
1322	〃	〃	〃					黒灰色		淡灰褐色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃		
1323	〃	〃	〃	ケ　ズ　リ	平　滑			暗茶灰色		淡褐色	微砂，金雲母	〃	〃		
1324	〃	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色	淡灰色		粗砂	〃	〃		
1325	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	風　化			淡灰褐色	黒灰色		細砂〃火山ガラス(多)	〃	〃	-	
1326	B区T－4	〃	口縁部～胴部	アルカ属条痕	平　滑			暗茶褐色	〃		微砂	〃	〃	124－2	
1327	A区T－1,2間サレキ	〃	口　縁　部	アルカ属条痕	風　化			茶褐色			〃，金雲母	〃	〃		
1328	A区T－1,3間サレキ	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	上アルカ属条痕下タテアルカ属	上平滑下条痕			〃			細砂，　〃	〃	〃	124－2	
1329	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅱ類	〃	アルカ属条痕	平　滑			黒灰色			〃，　〃	〃	〃		

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1330	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅱ類	口縁部～胴部	上アルカ風条痕下平滑	平滑			茶褐色		黒褐色	微砂	良	89	124－2
1331	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃			暗茶褐色			細砂	〃	〃	
1332	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕	〃			茶灰色			〃	〃	〃	
1333	〃	〃	口縁部	アルカ風条痕→ケズリ	アルカ風条痕→平滑			暗茶褐色		黒褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
1334	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕	上平滑下アルカ風条痕			暗灰色		淡黒灰色	細砂	〃	〃	
1335	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡茶褐色			微砂	〃	〃	
1336	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃			茶褐色	黒灰色	淡明灰色	〃	〃	〃	
1337	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕	風化			淡黄灰褐色	〃	暗褐色	細砂	〃	〃	
1338	〃	〃	〃	上アルカ風条痕下平滑	平滑			黒褐色			〃	〃	〃	
1339	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕	〃			茶褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	
1340	B区T－2	〃	口縁部～胴部	平滑	ケズリ			〃	黒灰色	暗茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	90	124－2
1341	C区	〃	口縁部	アルカ風条痕	アルカ風条痕			暗茶灰色	〃		粗砂	モロイ	〃	
1342	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ヨコ・アルカ風条痕				淡暗茶褐色			細砂	良	〃	
1343	〃	〃	〃	アルカ風条痕	平滑			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1344	A区T－3,1間サレキ	〃	〃	〃	アルカ風条痕			〃			細砂	〃	〃	
1345	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡茶灰色	淡灰色		〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1346	〃	〃	〃	〃	〃			淡茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1347	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕→平滑	〃			茶褐色			微砂	〃	〃	
1348	〃	〃	〃	アルカ風条痕	平滑			淡茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1349	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡灰色		淡黒灰色	細砂	〃	〃	
1350	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃				茶褐色			微砂	〃	〃	
1351	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕	アルカ風条痕			淡灰色			細砂	〃	〃	
1352	A区T－2サレキ	〃	〃	〃	〃			黒褐色			〃	〃	〃	
1353	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑			黒灰色			〃	〃	〃	
1354	〃	〃	〃	〃	〃			黒褐色			〃	モロイ	〃	
1355	〃	〃	〃	〃	〃			黒灰色	灰色		微砂	良	〃	
1356	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	アルカ風条痕			暗茶褐色			細砂	〃	〃	
1357	〃	晩期Ⅰ類	〃	〃	平滑			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1358	〃	〃	〃	上ヨコ・下タテーアルカ風条痕	アルカ風条痕			茶褐色			細砂	〃	〃	
1359	A区T－1,3間サレキ	晩期Ⅱ類	〃	アルカ風条痕	〃			淡灰褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1360	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	ミガキ			黒褐色			微砂	〃	〃	
1361	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕	平滑			淡灰白色			細砂，金雲母	〃	91	
1362	〃	〃	〃	〃	風化			淡黒褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1363	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕→ケズリ	上平滑下アルカ風条痕							〃	〃	
1364	〃	〃	〃	アルカ風条痕	アルカ風条痕			淡茶灰色	黒灰色		微砂	〃	〃	

1365	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅱ類	口縁部	アルカ属条痕	アルカ属条痕			淡黄灰褐色			細砂	良	91	
1366	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃				黒褐色			微砂	〃	〃	
1367	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃				淡茶灰白色		黒灰色	〃	〃	〃	
1368	〃	〃	〃	〃	平滑			淡黄褐色			細砂	〃	〃	
1369	〃	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1370	A区T－2サレキ	〃	〃	〃				淡茶灰色			〃	〃	〃	
1371	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃				暗茶灰色			〃，カクセン石，金雲母	〃	〃	
1372	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃				淡青灰色	暗灰色		微砂	〃	〃	
1373	〃	〃	〃	〃	平滑			灰黄褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1374	A区T－3南サレキ	〃	〃	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	淡灰色	灰色		〃	〃	〃	
1375	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1376	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化			黒灰色			細砂	〃	〃	
1377	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡暗灰褐色			〃	〃	〃	
1378	〃	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
1379	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	上ケズリ下平滑			茶褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
1380	〃	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			黒褐色			〃	〃	〃	
1381	〃	〃	〃	〃	〃		口唇ー沈線	淡灰褐色	黒灰色	黒灰色	粗砂	〃	〃	
1382	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃		ヨコアルカ属条痕	暗灰色		淡灰白色	微砂	〃	〃	
1383	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃	〃	〃	
1384	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	〃			淡灰白色		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
1385	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化			淡灰色	暗灰色		〃，カクセン石	〃	〃	
1386	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上アルカ属下アルカ属→平滑	平滑			黄褐色		黒灰色	〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1387	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃			淡暗茶灰色			微砂	〃	〃	
1388	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			茶褐色			細砂	〃	92	
1389	〃	〃	〃	上アルカ属条痕下平滑	〃			黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
1390	〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃			暗茶灰色		黒灰色	〃	〃	〃	
1391	〃	〃	〃	ケズリ	〃			茶褐色			〃	〃	〃	
1392	A区T－2サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	ミガキ			黒褐色			〃	〃	〃	
1393	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			暗茶灰色		淡黄褐色	細砂	〃	〃	
1394	〃	〃	〃	ケズリ	平滑			淡黄茶灰色			微砂	〃	〃	
1395	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色			細砂	〃	〃	
1396	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃			淡灰白色			〃	〃	〃	
1397	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1398	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			〃		黒褐色	微砂	〃	〃	
1399	〃	〃	〃	条痕	アルカ属条痕→平滑			淡灰白色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
1400	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	平滑			黒褐色			細砂	〃	〃	
1401	A区T－1,3間サレキ	晩期Ⅰ類	〃	上アルカ属条痕下ナデ	〃			暗灰色		黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1402	A区T－2,3間サレキ	晩期Ⅰ類	口縁部	アルカ属条痕	平滑			淡黒褐色			微砂	良	92	
1403	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	条痕→平滑			淡明灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1404	B区サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下条痕	ナデ			茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
1405	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			淡灰色		黒灰色	細砂	〃	〃	
1406	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	上平滑下ケズリ			淡茶褐色			微砂	〃	〃	124－2
1407	〃	〃	〃	ケズリ	〃			黒褐色			細砂	〃	〃	
1408	A区T－4,5間サレキ	〃	〃		下ーアルカ属条痕			淡茶灰色			微砂，金雲母	〃	〃	
1409	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ				〃		黒褐色	細砂	〃	〃	
1410	〃	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	上平滑下ケズリ			茶褐色	暗灰色		微砂	〃	〃	
1411	〃	後期Ⅱ類	〃	アルカ属条痕	平滑			淡茶褐色	黒褐色		細砂	〃	93	
1412	〃	〃	〃	上条痕下アルカ属	〃			淡暗茶褐色		淡黒灰色	〃	〃	〃	
1413	〃	〃	〃	ヨコーアルカ属条痕				茶灰色		黒褐色	〃	〃	〃	
1414	〃	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡黄茶灰色			微砂，カクセン石，金雲母	〃	〃	
1415	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃				黒灰色		淡黄褐色	細砂	〃	〃	
1416	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化			淡明褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
1417	〃	〃	〃	〃	平滑			茶褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1418	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	風化			〃	黒褐色		〃	〃	〃	
1419	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	上アルカ属条痕下平滑			淡灰褐色			〃	〃	〃	
1420	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	平滑			黒褐色	茶灰色		微砂	〃	〃	
1421	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上アルカ属下ケズリ	風化			茶褐色	淡灰色		細砂	〃	〃	
1422	〃	〃	〃	ケズリ	〃			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1423	〃	〃	〃	風化	アルカ属条痕			黒灰色			微砂	〃	〃	
1424	A区T－2サレキ	〃	〃	ナデ？	〃			暗茶灰色		灰褐色	細砂	〃	〃	
1425	〃	〃	〃	アルカ属条痕？	ミガキ			〃		黒褐色	微砂	〃	〃	
1426	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	条痕			茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1427	〃	〃	〃	ケズリ	風化			淡暗茶灰色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	
1428	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			淡茶灰色			〃	〃	〃	
1429	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇ー沈線	〃	黒灰色		微砂，火山ガラス	〃	〃	
1430	〃	〃	〃	ケズリ	風化			〃			細砂	〃	〃	
1431	〃	〃	〃	〃	〃			〃		暗茶灰色	粗砂	〃	〃	
1432	〃	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色			微砂	〃	〃	
1433	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	ミガキ			〃		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
1434	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑			淡茶褐色			微砂	〃	〃	
1435	〃	〃	〃	平滑	〃			淡褐色			〃	〃	〃	
1436	B区T－4	〃	口縁部ー胴部	上アルカ属条痕→平滑下平滑	〃			黒灰色		暗茶褐色	〃	〃	94	

1437	A区T－4,5間サレキ	晩期Ⅱ類	口縁部	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色	暗灰色		細砂，火山ガラス，カクセン石	良	94	
1438	A区T－3,4間サレキ	晩期Ⅰ類	〃	〃	条痕			〃			微砂，〃	〃	〃	
1439	〃	晩期Ⅱ類	〃	〃	アルカ属条痕			暗茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
1440	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－沈線風	〃			〃，〃	〃	〃	
1441	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			灰黄褐色		黒褐色	微砂，〃	〃	〃	
1442	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃			淡茶灰色			〃	〃	〃	
1443	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化		口唇－沈線風	淡茶褐色			細砂	〃	〃	
1444	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑			茶褐色			〃	〃	〃	
1445	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黄灰色	黒灰色		微砂	〃	〃	
1446	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化			黒灰色			細砂	〃	〃	
1447	〃	晩期Ⅰ類	〃	〃	平滑			淡明茶灰色	暗灰色		微砂，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
1448	〃	晩期Ⅱ類	〃	〃	風化			茶褐色	黒灰色		細砂	〃	〃	
1449	〃	〃	〃	〃	平滑			暗灰褐色		黒灰色	〃	〃	〃	
1450	〃	〃	〃	〃				淡茶灰色	暗灰色		微砂	〃	〃	
1451	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	ミガキ			黒褐色			〃	〃	〃	
1452	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡灰茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1453	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	風化			淡茶灰色			〃，〃，カクセン石	〃	〃	
1454	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡褐色			〃，〃	〃	〃	
1455	〃	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑			淡乳白色			〃	〃	〃	
1456	〃	〃	〃	〃	平滑			淡灰白色			微砂	〃	〃	
1457	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		アルカ属条痕	淡茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1458	〃	〃	〃	〃	〃			茶褐色		淡灰褐色	〃	〃	95	
1459	〃	〃	〃	〃	風化			淡灰褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1460	〃	〃	〃	ケズリ	平滑			茶褐色			〃，雲母	〃	〃	
1461	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上条痕→平滑下アルカ属	〃			黒褐色			微砂	〃	〃	
1462	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃			暗灰色		黒灰色	細砂	〃	〃	
1463	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡灰白色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1464	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	風化			淡茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1465	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	平滑			暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1466	A区T－2 サレキ	〃	〃	アルカ属条痕				茶灰色		暗灰色	微砂	〃	〃	
1467	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→ケズリ	平滑			淡褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
1468	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	アルカ属条痕			淡茶灰色	黒灰色	暗茶灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
1469	〃	〃	〃	ケズリ	平滑			暗茶灰色			微砂	〃	〃	
1470	〃	〃	〃	アルカ属条痕	風化			茶褐色		暗茶褐色	粗砂，金雲母	〃	〃	
1471	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上ケズリ下平滑	平滑			淡灰白色		淡茶灰色	微砂	〃	〃	
1472	A区T－3南サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	淡灰色	暗灰色		〃	〃	〃	124－2
1473	A区T－3･4間サレキ	〃	〃	ケズリ	上平滑下ケズリ			淡黄灰褐色			細砂	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1474	A区T－3,4間サレキ	晩期	口縁部	アルカ属条痕	アルカ属条痕			淡茶灰色			微砂	良	95	
1475	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黄褐色			細砂	〃	〃	
1476	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			黒灰色			〃	〃	〃	
1477	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	上ナデ下平滑			淡黄灰色			微砂	〃	〃	
1478	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑			〃			細砂	〃	〃	
1479	〃	〃	〃	条痕	〃			茶褐色			〃	〃	〃	
1480	〃	〃	〃	〃	〃			暗茶灰色			微砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1481	A区T－2 サレキ	〃	〃	〃				淡明灰色		黒褐色	〃	〃	〃	
1482	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑			淡暗灰色			〃	〃	〃	
1483	〃	〃	〃	〃	〃		アルカ属の条痕	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
1484	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→上ケズリ	〃			淡茶灰色			微砂	〃	〃	
1485	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃			黒褐色			細砂	〃	〃	
1486	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡明茶褐色	暗灰色		微砂	〃	〃	
1487	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部～胴部	平滑	アルカ属条痕→平滑			暗灰色		黒灰色	細砂	〃	96	124－1
1488	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	アルカ属条痕	風化			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1489	B区T－1	〃	口縁部～胴部	条痕	ケズリ			黒灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
1490	A区T－1,2間サレキ	〃	口縁部		〃			淡黄灰色	黒灰色		〃	〃	〃	
1491	〃	〃	〃	平滑	アルカ属条痕→ナデ			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1492	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	平滑			淡黄茶灰色		黒灰色	〃	〃	〃	
1493	〃	〃	口縁部～胴部	アルカ属条痕	上ケズリ下ナデ			灰白色		灰褐色	細砂	〃	〃	
1494	A区T－1,2間サレキ	〃	口縁部	風化	風化		内－沈線	茶褐色			〃	〃	〃	
1495	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1496	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑			淡黒褐色			〃，〃	〃	〃	
1497	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑			茶褐色			〃	〃	〃	
1498	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ケズリ→アルカ属条痕	〃			暗灰色			微砂	〃	97	
1499	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			淡黄茶灰色	暗灰色		〃	〃	〃	
1500	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	上平滑下ケズリ			淡茶褐色	〃	明褐色	細砂	〃	〃	
1501	〃	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕→平滑			褐色	灰色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
1502	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	風化			茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1503	〃	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡灰色			〃，金雲母	〃	〃	
1504	A区T－3南サレキ	〃	〃	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕	〃	暗灰色		微砂	〃	〃	
1505	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒灰色			細砂	〃	〃	
1506	A区T－5北サレキ	〃	〃					淡黄白色		黒褐色	〃	〃	〃	
1507	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		口唇－キザミ	暗茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
1508	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	ケズリ	〃			淡明褐色	灰色		〃	〃	〃	

1509	A区T－3,4間サレキ	晩期	口縁部	ケズリ	ケズリ			淡黒褐色			細砂	良	97	
1510	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化			茶灰色			粗砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
1511	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	平滑			黒褐色			細砂	〃	〃	
1512	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	アルカ属条痕→平滑			茶褐色	黒灰色		微砂	〃	〃	
1513	B区T－5	〃	〃		ケズリ			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1514	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡茶褐色	灰色		〃	〃	〃	
1515	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	〃		-	淡灰白色			粗砂	〃	〃	
1516	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化		口唇－キザミ	淡灰褐色		淡灰色	細砂，金雲母	〃	〃	
1517	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑		〃	茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1518	〃	〃	〃	〃	風化		〃	淡暗茶灰色		茶褐色	微砂	〃	〃	
1519	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑		口唇－押圧	暗茶褐色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
1520	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	ミガキ		口唇－キザミ	淡灰色			〃	〃	〃	
1521	〃	〃	〃	〃	風化		〃 内－ケズリの段	淡黄褐色		淡黒褐色	細砂	〃	〃	
1522	〃	〃	〃	〃	平滑		〃	黒褐色			〃	〃	〃	
1523	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃		ヨコのアルカ属条痕	暗茶灰色			〃	〃	98	
1524	〃	〃	〃	アルカ属条痕→ケズリ	〃		口唇－キザミ	淡茶灰色		淡灰褐色	微砂	〃	〃	
1525	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	アルカ属条痕→平滑		〃	淡茶褐色		淡茶灰色	〃	〃	〃	
1526	A区東側溝サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		〃	茶褐色		暗茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
1527	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化		〃	淡茶褐色			粗砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
1528	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑		アルカ属条痕	茶褐色			細砂	〃	〃	
1529	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－キザミ	茶灰色			微砂	〃	〃	
1530	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化		〃	淡黒灰色			細砂	〃	〃	
1531	A区T－2 サレキ	〃	〃	〃			〃					〃	〃	
1532	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化		口唇－押圧	淡茶褐色		暗茶灰色	細砂	〃	〃	
1533	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	平滑	アルカ属条痕	口唇－キザミ ヨコ	淡茶灰色			微砂，カクセン石	〃	〃	
1534	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃 アルカ属条痕	淡灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1535	A区T－5,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	暗茶灰色			〃	〃	〃	
1536	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	黒褐色			微砂	〃	〃	
1537	〃	〃	〃	〃	〃		〃	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
1538	〃	〃	〃	〃	〃		〃	淡茶灰色		淡黄茶灰色	〃	〃	〃	
1539	〃	〃	〃	〃	風化		〃	淡茶褐色	淡茶灰色		〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
1540	〃	〃	〃	〃	〃		〃	茶褐色			〃，〃	〃	〃	
1541	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃			〃	〃	〃	
1542	〃	〃	〃	上ケズリ下アルカ属	平滑		〃	〃			〃	〃	〃	
1543	〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃		口唇－押圧	〃		黒褐色	〃	〃	〃	
1544	A区T－3南サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－キザミ	〃			微砂	〃	〃	
1545	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	ミガキ		〃	淡明灰色		黒灰色	〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1546	A区T－3,4間サレキ	晩期	口縁部	アルカ属条痕	風化		口唇－キザミ	茶褐色			細砂	良	98	
1547	〃	〃	〃	〃	平滑		〃	淡茶褐色			微砂	〃	〃	
1548	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	淡灰色			細砂	〃	〃	
1549	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化		〃	淡茶灰色		茶褐色	〃	〃	〃	
1550	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑		口唇－刺突と押圧	淡灰色		暗灰色	〃，金雲母	〃	〃	
1551	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	風化		口唇－押圧	淡茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	
1552	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃			アルカ属条痕	暗灰色		黒灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	124－2
1553	B区T－4	〃	胴部	〃	平滑		口唇－キザミ	暗茶褐色		黒褐色	微砂	〃	99	
1554	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	〃	〃		〃	茶褐色	黒灰色		細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
1555	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－押圧	〃		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1556	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	〃		口唇－キザミ	淡茶灰色			〃	〃	〃	
1557	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	〃		〃	黒褐色			微砂	〃	〃	
1558	〃	〃	〃	ケズリ	〃		〃	茶褐色			細砂	〃	〃	
1559	〃	〃	〃	〃	風化		〃	〃	黒灰色		〃	〃	〃	
1560	〃	〃	〃	〃	平滑		〃	〃	暗灰褐色		〃	〃	〃	
1561	〃	〃	〃	〃	〃		〃	淡茶褐色			〃	〃	〃	
1562	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	淡茶灰色			〃	〃	〃	
1563	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	淡黒灰色			微砂	〃	〃	
1564	〃	〃	〃	〃	風化		〃	淡明灰褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
1565	〃	〃	〃	〃	平滑		口唇－押圧	黒灰色			微砂	〃	〃	
1566	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	ケズリ		口唇－キザミ	黒褐色			細砂，雲母	〃	〃	
1567	A区T－3南サレキ	〃	〃	〃	平滑		口唇－押圧	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1568	B区T－2,3間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－キザミ	黒褐色			細砂	〃	〃	
1569	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	ケズリ		〃	暗茶褐色		茶褐色	微砂	〃	〃	
1570	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	平滑		〃	淡褐色	暗灰色		細砂	〃	〃	
1571	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	暗茶灰色			微砂	〃	〃	
1572	〃	〃	〃	平滑	〃		〃	暗灰色			〃	〃	〃	
1573	〃	〃	〃	風化	風化		〃	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
1574	〃	〃	〃	平滑	〃		〃	淡茶灰色			〃	〃	〃	
1575	〃	〃	〃	風化	〃		〃	淡暗茶灰色			微砂	〃	〃	
1576	〃	〃	〃	〃	〃		〃	淡黄褐色			粗砂	モロイ	〃	
1577	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		〃	淡茶褐色		淡黒褐色	微砂	良	〃	
1578	〃	〃	〃	風化	風化		〃	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
1579	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	黒灰色			〃	〃	〃	
1580	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		〃	淡黄茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	

1581	A区T－1,2間サレキ	晩期	口縁部	アルカ属条痕	風化		口唇－キザミ	茶褐色			細砂	良	99	
1582	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	〃		〃	暗茶褐色			微砂，カクセン石	〃	〃	
1583	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	ミガキ		〃	茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
1584	〃	〃	〃	〃	風化		〃	暗茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1585	〃	〃	〃	〃	平滑		〃	茶褐色			〃	〃	〃	
1586	〃	〃	〃	〃	風化		〃	〃	黒灰色		微砂，カクセン石，金雲母	〃	〃	
1587	〃	〃	〃				〃	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
1588	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	風化	風化		〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
1589	〃	〃	〃	アルカ属ケズリ	平滑		〃	淡茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
1590	〃	〃	〃	ケズリ	〃		ヨコアルカ属条痕	〃			〃	〃	〃	
1591	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－キザミ	茶褐色	黒灰色		〃	〃	100	
1592	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃		〃	淡灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1593	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	平滑	〃		〃	灰白色	暗灰色		〃，カクセン石	〃	〃	
1594	〃	〃	〃	〃	風化		〃	黒褐色			〃	〃	〃	
1595	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	平滑		口唇－押圧	茶褐色			微砂	〃	〃	
1596	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		口唇－キザミ	灰褐色			細砂	〃	〃	
1597	〃	〃	〃	ケズリ	平滑		〃	淡灰色		暗灰色	〃	〃	〃	
1598	〃	〃	〃	風化	風化		〃	茶褐色	黒灰色		〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1599	A区T－4,5間サレキ	〃	〃				〃	暗灰色			〃，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
1600	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	平滑	風化		〃	茶褐色	黒灰色		微砂	〃	〃	
1601	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	風化	〃		〃	茶灰色		暗茶灰色	粗砂	〃	〃	
1602	A区T－2 サレキ	〃	〃	ケズリ	ナデ		〃	灰褐色			細砂	〃	〃	
1603	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	〃	平滑		〃	淡茶褐色			微砂 火山ガラス(多)	〃	〃	
1604	A区T－1,3間サレキ	〃	口縁部－胴部		〃		凹部	淡灰白色	灰色	淡灰色	細砂	〃	〃	
1605	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	ケズリ	〃		口唇－キザミ	茶褐色		黒灰色	粗砂	〃	〃	
1606	〃	〃	〃	〃	ミガキ		〃	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1607	〃	〃	〃	〃	平滑		〃	淡褐色			〃	〃	〃	
1608	〃	〃	〃	アルカ属条痕	風化		〃	淡黄灰褐色	黒灰色		粗砂	〃	〃	
1609	〃	〃	〃	〃	アルカ属条痕			茶灰色		黒褐色	細砂	〃	〃	
1610	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		口唇－キザミ	淡茶褐色			微砂	〃	〃	
1611	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		口唇－押圧	淡黄灰色		黒灰色	細砂，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
1612	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		口唇－キザミ	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
1613	A区T－2 サレキ	〃	〃	ケズリ			〃	暗茶灰色			〃	〃	〃	
1614	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕			〃	淡灰褐色			〃	〃	〃	
1615	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑		〃	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
1616	〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃		〃	茶褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
1617	〃	〃	〃	〃	〃		〃	黒褐色			〃	〃	101	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1618	A区東側溝サレキ	晩期	口縁部				口唇ーキザミ	灰色		茶褐色	微砂，金雲母	良	101	
1619	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		〃	淡黒褐色			細砂	〃	〃	
1620	〃	〃	〃	ケズリ	〃			暗茶灰色			微砂	〃	〃	
1621	A区T－4,5間サレキ	〃	〃				口唇ー押圧痕　外ー線描き	暗茶褐色	暗灰色		細砂	〃	〃	
1622	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化		口唇ーキザミ	淡茶褐色			〃	〃	〃	
1623	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑		突起	茶褐色		黒灰色	微砂	〃	〃	
1624	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇ーキザミ	暗灰色	淡灰色		〃	〃	〃	
1625	A区T－3,4間サレキ	〃	胴部	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色			〃，金雲母(多)	〃	〃	
1626	A区T－2　サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	上アルカ風下巾4mmのもの			淡茶灰色			細砂	〃	〃	
1627	B区　サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	平滑			淡灰色		淡橙灰色	微砂，金雲母	〃	〃	
1628	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	〃			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1629	〃	〃	〃		上下平滑ナデ			淡茶褐色			〃	〃	〃	
1630	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	平滑			〃			細砂	〃	〃	
1631	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下平滑	〃			淡黒灰色			〃	〃	〃	
1632	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	風化			淡灰白色		暗茶灰色	粗砂，金雲母	〃	〃	
1633	〃	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	平滑			淡灰色	黒褐色	淡褐色	微砂	〃	〃	
1634	〃	〃	〃	上条痕下ケズリ	上下平滑条痕			暗茶褐色			〃	〃	〃	
1635	〃	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ	ケズリ			淡茶褐色			〃	〃	〃	
1636	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	ケズリ	平滑		凹部	淡茶灰色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1637	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上下アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色			細砂	〃	〃	
1638	A区T－2　サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕下ケズリ				淡茶灰色		黒褐色	微砂	〃	〃	
1639	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上条痕下ケズリ	平滑			暗茶灰色			細砂	〃	〃	
1640	〃	〃	〃	〃	〃			暗灰色		黒褐色	微砂	〃	〃	
1641	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	二枚貝→平滑			淡灰白色	灰色		細砂	〃	102	
1642	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	上二枚貝下ケズリ			茶褐色		黒褐色	微砂	〃	〃	
1643	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上ーアルカ属条痕	平滑			淡黒褐色			細砂	〃	〃	
1644	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上条痕下ケズリ	〃			灰茶褐色			微砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
1645	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上アルカ属ー平滑下アルカ属条痕	〃			淡茶灰色	暗灰色		〃	〃	〃	
1646	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上アルカ属条痕　下ケズリーアルカ属条痕	上下条痕平滑			淡灰白色		黒褐色	〃	〃	〃	
1647	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	上ーアルカ属条痕				淡褐色		淡黒灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
1648	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕				淡黒灰色			細砂	〃	〃	
1649	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	平滑			淡褐色		黒褐色	微砂	〃	〃	
1650	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	〃			茶褐色		淡暗灰色	〃，カクセン石	〃	〃	
1651	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	上平滑下ケズリ	上ケズリ下平滑			茶灰色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1652	A区東側溝サレキ	〃	〃	風化	上下平滑ケズリ			淡茶灰色		淡黒褐色	粗砂	〃	〃	

1653	A区T－3,4間サレキ	晩期	胴部	上平滑下ケズリ	平滑			黒褐色			微砂，金雲母	良	102		
1654	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色		淡暗茶褐色	〃，〃	〃	〃		
1655	〃	〃	〃	上条痕下二枚貝	アルカ属条痕			黒灰色		明褐色	〃，火山ガラス	〃	〃		
1656	B区 サレキ	〃	〃	上平滑下アルカ属条痕	平滑			黒褐色		灰色	〃	〃	〃		
1657	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色	灰色		〃	〃	〃		
1658	〃	〃	〃	上ケズリ下条痕→平滑	平滑			淡灰褐色		淡灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃		
1659	A区T－4,5間サレキ	〃	〃	上アルカ属下ケズリ	風化			茶褐色		淡黄灰色	微砂，〃，金雲母	〃	〃		
1660	A区T－3,4間サレキ	〃	底部	ケズリ				淡灰色		暗茶褐色	細砂，火山ガラス(少)	〃	〃		
1661	A区 サレキ	〃	口縁部		平滑	沈線文		淡茶灰色	黒褐色		微砂，火山ガラス	〃	103		
1662	B区T－4	〃	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ		沈線	淡黄茶灰色			細砂	〃	〃		
1663	A区T－3,4間サレキ	〃	口縁部	剝離	〃		口唇－キザミ	黒褐色			〃，金雲母	〃	〃		
1664	〃	〃	〃	ミガキ	〃		外－沈線	〃		黒褐色	微砂	〃	〃		
1665	B区T－4	〃	〃					暗茶褐色			〃，金雲母(多)	〃	〃	124－1	
1666	B区T－5	〃	〃	ミガキ	ミガキ		沈線	黒褐色			〃	〃	〃		
1667	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				内・外－沈線 内－ケズリの段	〃	淡灰色	黒褐色	細砂，金雲母	〃	〃		
1668	A区T－4･5間サレキ	〃	〃	風化	風化		外－沈線2	茶褐色	黒灰色		〃，〃	〃	〃		
1669	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				外－沈線 内－段	〃			微砂	〃	〃		
1670	A区T－4,5間サレキ	〃	〃				沈線	黒褐色			細砂	モロイ	〃		
1671	B区T－5	〃	〃	ミガキ	ミガキ		外・内－沈線	淡黒褐色			微砂，金雲母	良	〃	124－1	
1672	A区T－1,2間サレキ	〃	〃				口唇内外－沈線	茶褐色			〃	〃	〃		
1673	〃	〃	〃			沈線文		淡暗茶灰色			細砂	〃	〃	126－1	
1674	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				外－沈線2 内－沈線3	褐色			微砂，カクセン石	〃	〃		
1675	〃	〃	〃	平滑	平滑		内・外－沈線 波状口縁	茶灰色			〃，カクセン石(少)	〃	〃		
1676	A区T－5北サレキ	〃	〃			沈線文		淡黒褐色			〃	〃	〃		
1677	B区T－4	〃	〃				沈線	黒褐色	暗灰色		〃，金雲母	〃	〃		
1678	A区T－5北サレキ	〃	〃	条痕	平滑	沈線文		淡黄灰色	黒灰色	茶褐色	〃	〃	〃		
1679	A区T－3,4間サレキ	〃	〃	風化	風化		外－沈線2 内－沈線2	暗茶灰色			細砂	〃	〃		
1680	B区T－2	〃	〃	〃	〃	沈線文		茶褐色			〃	〃	104		
1681	A区T－3,4間サレキ	〃	〃				外－沈線2	灰褐色			微砂	〃	〃		
1682	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		〃	茶褐色			〃，金雲母(少)	〃	〃		
1683	A区T－4･5間サレキ	〃	〃	風化	風化		内－沈線－ミガキ 器頂で刺突	淡茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃		
1684	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	平滑			淡黒褐色			微砂	〃	〃		
1685	〃	〃	〃	〃	〃			茶灰色		暗茶灰色	〃	〃	〃		
1686	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	〃	〃		口唇－沈線	淡茶灰色	黒褐色		〃	〃	〃		
1687	A区T－3,4間サレキ	〃	〃			沈線文		茶褐色			細砂	〃	〃		
1688	〃	〃	〃	風化	風化		沈線	暗茶灰色			〃	〃	〃	126－1	
1689	〃	〃	〃	〃	〃	沈線文		黒褐色	暗灰色	黒褐色	微砂	〃	〃		

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1690	A区T−4,5間サレキ	晩期	口縁部				沈線	淡灰白色	黒灰色		微砂	良	104	
1691	A区T−5北サレキ	〃	〃			沈線文	〃，刺突	茶褐色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
1692	A区T−3,4間サレキ	〃	〃			〃	キザミ	淡褐色			細砂	〃	〃	
1693	〃	〃	〃					茶褐色			〃，カクセン石	〃	〃	126−1
1694	〃	〃	〃		アルカ風条痕（？）		外ー沈線	黒褐色			微砂	〃	〃	〃
1695	A区T−4,5間サレキ	〃	〃			沈線文		〃			〃	〃	〃	〃
1696	B区T−5	〃	〃	平滑	風化		口唇ー押圧	淡茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
1697	A区T−3,4間サレキ	〃	〃				口唇ーキザミ　内ー肥厚	灰褐色		暗灰色	〃	〃	〃	
1698	A区T−4,5間サレキ	〃	胴部				刺突	淡黄灰色			微砂	〃	〃	
1699	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕→平滑	平滑		ヘラ沈線	暗灰色		黒色	細砂	〃	〃	
1700	C区	〃	〃	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色			微砂	堅緻	〃	126−1
1701	A区T−3,4間サレキ	〃	〃		風化		沈線ーキザミ	黒褐色			〃	良	〃	〃
1702	A区T−1,2間サレキ	〃	〃				ヘラ沈線	〃			〃	〃	〃	
1703	A区T−3,4間サレキ	〃	〃		平滑	沈線文	沈線　キザミ				〃	〃	〃	126−1
1704	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	ミガキ		〃		淡暗茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	〃
1705	A区T−3,4間サレキ	〃	〃		ミガキ	〃		黒褐色			〃	〃	〃	〃
1706	A区T−1,2間サレキ	〃	〃					淡黒褐色			〃	〃	〃	〃
1707	A区T−3,4間サレキ	〃	〃		平滑	沈線文		黒褐色			〃	〃	〃	
1708	A区T−5北サレキ	〃	〃		ミガキ			暗茶灰色		黒茶褐色	〃	〃	〃	126−1
1709	A区T−3,4間サレキ	〃	〃		平滑	沈線文		黒灰色			〃	〃	〃	
1710	A区T−1,2間サレキ	〃	〃				ヘラ沈線	黒褐色	暗灰色		〃	〃	〃	126−1
1711	A区東側溝サレキ	〃	〃		平滑			茶褐色		黒褐色	細砂	〃	105	〃
1712	A区T−1,2間サレキ	〃	〃				ヘラ沈線	淡黄灰青色			微砂	〃	〃	
1713	B区サレキ	〃	〃	平滑	ケズリ		沈線	黒褐色		茶褐色	細砂	〃	〃	126−1
1714	A区T−1,2間サレキ	〃	〃		平滑	沈線文		暗茶灰色		〃	微砂	〃	〃	
1715	B区T−4	後期	〃	上ー平滑下ー巻貝カワアイ	上ー平滑下ー巻貝カワアイ		貝？押圧痕	淡灰褐色			〃，金雲母	〃	〃	
1716	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕→ミガキ	平滑	巻貝沈線文	沈線　押圧	黒褐色			〃	〃	〃	
1717	B区T−4	〃	〃				巻貝押圧痕	茶褐色			〃	〃	〃	
1718	A区T−1,3間サレキ	晩期	〃	ミガキ	ミガキ		沈線　押圧	淡灰白色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
1719	B区サレキ	後期	〃			巻貝沈線文	巻貝押圧	黒褐色	灰色		〃	〃	〃	
1720	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	平滑	平滑		キザミ	〃			〃	〃	〃	
1721	A区T−1,2間サレキ	〃	〃	アルカ風条痕				淡黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1722	〃	〃	〃	ミガキ	条痕→ミガキ		沈線	淡茶灰色			微砂	〃	〃	
1723	A区T−3,4間サレキ	〃	〃	平滑	上ミガキ下条痕		〃	淡暗灰色		黒灰色	〃	〃	〃	
1724	B区サレキ	〃	〃	〃	アルカ風条痕	沈線文		暗茶褐色		茶褐色	〃	〃	〃	

1725	B区T－6東サレキ	前期	底部	風化	風化		R	淡茶褐色			微砂	良	106		
1726	A区T－2南サレキ	後期Ⅱ類	〃	平滑	平滑	磨り消		茶褐色	黒灰色		〃	〃	〃	126－2	
1727	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡褐色		灰褐色	〃	〃	〃	〃	
1728	〃		〃	風化	風化			淡茶褐色			粗砂，金雲母	〃	〃		
1729	A区T－2南サレキ		〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶灰色			細砂	〃	〃	126－2	
1730	B区T－2,3間サレキ	後期Ⅱ類	〃	風化	風化			茶褐色	黒灰色		〃，火山ガラス，金雲母(多)	〃	〃		
1731	A区T－2南サレキ		〃	平滑	平滑			淡灰白色		暗灰色	微砂	〃	〃		
1732	A区T－1,3間サレキ		〃		〃			淡褐色	暗灰色		細砂，火山ガラス	〃	〃		
1733	〃		〃	風化	風化			淡茶褐色	〃		〃，〃	〃	〃		
1734	A区東側溝サレキ		〃	ケズリ	平滑			茶褐色		黒褐色	微砂	〃	〃	127－2	
1735	A区T－2サレキ	後期Ⅰ類	〃					〃			細砂	〃	107		
1736	A区東側溝サレキ	〃	〃		風化			〃			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	126－2	
1737	A区T－1,2間サレキ	〃	〃	平滑	アルカ属条痕			淡茶灰色	黒灰色		〃	〃	〃	〃	
1738	B区T－1	〃	〃	風化	風化			〃	黒褐色		〃	〃	〃		
1739	B区サレキ	〃	〃					暗茶褐色	黒灰色		〃，火山ガラス(多)	〃	〃		
1740	A区T－5北サレキ	〃	〃	風化	風化			茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃		
1741	B区T－1	〃	〃					茶灰色	黒灰色		〃	〃	〃		
1742	〃		〃					淡茶灰色			粗砂	〃	〃		
1743	A区東側溝サレキ		〃					茶灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃		
1744	B区 サレキ	後期Ⅰ類	〃	風化	平滑		孔	淡褐色		淡茶灰色	微砂，〃	〃	〃		
1745	A区T－4,5間サレキ		〃	平滑	ミガキ			茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃		
1746	A区T－5北サレキ		〃	ケズリ	アルカ属条痕			〃		〃	細砂	〃	〃		
1747	A区T－1,2間サレキ		〃	ミガキ	ミガキ			〃		〃	〃	〃	〃		
1748	A区T－5北サレキ	後期	〃	風化	風化			淡茶灰色		暗茶灰色	粗砂，火山ガラス	〃	〃		
1749	〃		〃	〃	〃			淡茶褐色			細砂，〃	〃	108		
1750	A区T－1,3間サレキ		〃	磨滅	平滑			淡暗灰色		淡黒褐色	微砂，〃	〃	〃		
1751	A区東側溝サレキ		〃	平滑	アルカ属条痕→平滑			淡黄褐色			細砂，金雲母	〃	〃		
1752	A区T－1,3間サレキ		〃	〃	アルカ属条痕			茶褐色			微砂，〃，火山ガラス(多)	〃	〃		
1753	A区T－1,2間サレキ		〃	〃	アルカ属条痕→平滑			淡橙灰色			〃，〃	〃	〃	126－2	
1754	〃		〃	〃	ケズリ			淡灰褐色		黒褐色	〃	〃	〃		
1755	A区T－4,5間サレキ		〃	風化	風化			茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃		
1756	A区T－1,2間サレキ		〃					〃		暗灰色	〃	〃	〃		
1757	A区T－1,3間サレキ		〃	平滑	平滑			淡灰白色		淡暗灰色	微砂，金雲母	〃	〃		
1758	A区T－1,2間サレキ		〃	風化	〃			淡黄灰色		淡暗黄褐色	〃	〃	〃		
1759	A区T－5北サレキ		〃	ミガキ	アルカ属条痕→平滑							〃	〃	127－1	
1760	A区T－1,2間サレキ		〃	平滑	剝離			茶褐色	黒灰色		微砂	〃	〃		
1761	A区東側溝サレキ		〃	〃	ケズリ			淡灰色			〃	〃	〃		

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
1762	A区T－5北サレキ		底部	平滑	アルカ属条痕			暗茶褐色			細砂	良	108	
1763	A区T－1,3間サレキ		〃	〃	風化			灰白色		暗灰色	〃	〃	〃	
1764	B区T－6東サレキ		〃	〃	アルカ属条痕→ケズリ			淡黒褐色			微砂	〃	109	127－2
1765	A区T－4,5間サレキ		〃	〃	風化			淡黄褐色		淡茶褐色	細砂	〃	〃	
1766	B区T－5		〃		押圧			暗茶褐色			微砂，金雲母(多)	〃	〃	
1767	A区T－1,2間サレキ		〃	平滑	アルカ属条痕			淡茶褐色	淡黒褐色		微砂	〃	〃	
1768	A区T－4,5間サレキ		〃	〃	平滑		底部外面磨滅	淡黄褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1769	A区T－5北サレキ		〃	〃	ケズリ			茶褐色	黒褐色		細砂	〃	〃	
1770	A区T－1,2間サレキ		〃	〃	平滑			淡茶灰色	〃	黒褐色	微砂	〃	〃	
1771	A区T－4,5間サレキ		〃	風化	〃			茶褐色	暗茶褐色		細砂	〃	〃	127－2
1772	A区T－1,2間サレキ		〃	平滑	〃			〃	灰色		〃	〃	〃	〃
1773	A区T－1,3間サレキ		〃	〃	アルカ属条痕			〃			〃	〃	〃	
1774	A区T－3,4間サレキ		〃	風化	風化			淡灰色			〃，金雲母	〃	〃	
1775	A区T－1,3間サレキ		〃		〃			淡灰白色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
1776	〃		〃	平滑				淡灰色		淡暗灰色	細砂，金雲母	〃	〃	
1777	A区T－1,2間サレキ		〃	〃								〃	〃	
1778	〃		〃	ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
1779	A区T－4,5間サレキ		〃	平滑	アルカ属条痕→平滑			淡明灰褐色		黒褐色	〃，カクセン石，火山ガラス	〃	110	
1780	A区T－1,3間サレキ		〃		〃			淡暗灰色			〃，金雲母(多)	〃	〃	
1781	〃		〃		〃			茶灰色	黒褐色	淡灰褐色	〃，金雲母	〃	〃	
1782	A区T－5北サレキ		〃		平滑			茶褐色		黒灰色	細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
1783	A区T－1,3間サレキ		〃	平滑	ミガキ			淡暗灰色	暗灰色		微砂，金雲母	〃	〃	
1784	〃		〃	〃	アルカ属条痕→平滑			茶褐色	〃		細砂，〃	〃	〃	127－1
1785	〃		〃		平滑			暗灰色	灰色		微砂，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
1786	B区T－6東サレキ		〃	ミガキ	ミガキ			淡黒褐色			〃	〃	〃	
1787	A区T－2南サレキ		〃	平滑	平滑			黒褐色		茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	127－1
1788	A区T－1,2間サレキ		〃		〃			茶褐色			細砂	〃	〃	〃
1789	A区T－1,3間サレキ	晩期	〃		アルカ属条痕			〃		暗茶褐色	〃	〃	111	
1790	B区T－4	〃	〃	磨滅	風化			淡茶灰色		暗茶灰色	〃	〃	〃	
1791	A区東側溝サレキ	〃	〃		ケズリ			淡茶褐色			微砂	〃	〃	
1792	〃	〃	〃					暗茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
1793	〃	〃	〃					茶灰色	黒色	茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
1794	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		平滑			茶褐色		黒灰色	〃	〃	〃	
1795	A区T－2,3間サレキ	〃	〃	平滑	〃							〃	〃	
1796	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	〃	〃			淡褐色		黒褐色	粗砂	〃	〃	

1797	A区T－4,5間サレキ	晩期	底部					淡灰褐色	黒灰色	茶褐色	微砂	良	III	
1798	A区T－1,3間サレキ	〃	〃	平滑	アルカ属条痕			茶褐色			細砂	〃	〃	
1799	A区T－4,5間サレキ		〃					〃		黒灰色	微砂	〃	〃	
1800	A区T－1,2間サレキ		〃	ケズリ	剝離			〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	
1801	A区T－5北サレキ		〃	平滑	ケズリ			淡茶灰色		茶褐色	微砂	〃	〃	
1802	A区東側溝サレキ		〃	風化	風化			淡暗茶灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
1803	〃		〃	平滑				暗茶灰色			〃，金雲母	〃	〃	
1804	A区T－4.5間サレキ		〃					淡茶灰色	暗茶灰色	茶褐色	〃	〃	〃	
1805	B区T－2		〃	風化	平滑			淡茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
1806	A区T－5北サレキ		〃		アルカ属条痕			暗茶褐色		〃	〃	〃	〃	
1807	〃		〃	平滑	平滑			茶灰色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
1808	B区サレキ		〃		〃			〃	暗茶灰色		粗砂	〃	〃	
1809	A区T－1,2間サレキ		〃		ナデ			褐色	茶褐色		細砂	〃	II2	
1810	A区T－1,3間サレキ		〃					淡灰色			〃	〃	〃	
1811	〃		〃		平滑			淡灰白色		黒灰色	微砂	〃	〃	
1812	〃		〃		〃			茶灰色		〃	細砂，金雲母	〃	〃	
1813	A区T－4,5間サレキ		〃	ケズリ	〃			淡灰白色		灰褐色	〃	〃	〃	
1814	〃		〃	〃				〃		黒褐色	微砂	〃	〃	
1815	C区	前期III類	〃	押圧	押圧			暗茶褐色			〃	堅緻	〃	
1816	A区T－4,5間サレキ		〃					淡黒褐色			細砂	良	〃	
1817	B区T－2	中期	〃	平滑	条痕			茶褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	127－2
1818	A区T－1,3間サレキ	〃	〃		アルカ属条痕		L地文	赤褐色			粗砂	〃	〃	
1819	A区T－5北サレキ		〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色		黒灰色	微砂	〃	〃	127－1
1820	C区	前期	〃	押圧	押圧			淡茶灰色			細砂	〃	〃	
1821	A区T－4,5間サレキ		〃	平滑	平滑			〃	淡灰褐色		〃	〃	〃	
1822	〃		〃	ケズリ	風化			〃	黒褐色		〃	〃	〃	
1823	A区T－1,3間サレキ		〃		平滑			茶灰色		黒褐色	〃	〃	〃	127－1
1824	A区T－1,2間サレキ		〃		〃			茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
1825	A区T－4,5間サレキ		〃					淡明茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
1826	A区T－1,2間サレキ		〃	平滑	平滑			淡黒灰色	黒灰色	茶灰色	微砂	〃	〃	

※ 胎土は，実体顕微鏡を使用し，観察倍率は40倍である。

表－２　舟津原遺跡石器・石製品一覧表

番号	遺　物	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	図	図版	備　考
1	石匙	B区T－5	砂礫	サヌカイト	48.2	41.6	7.0	17.13	113		
2	〃	D区		〃	72.1	43.8	7.5	16.55	〃		
3	〃	〃		〃	68.0＋	54.7	9.3	27.49	〃		
4	〃	〃		〃	63.8	39.4	8.5	15.38	〃		
5	〃	〃		〃	64.3	46.3	7.6	19.43	〃		
6	〃	〃		〃	75.0	47.5	10.6	23.94	〃		
7	〃	〃		〃	49.4	37.0	7.2	10.68	〃		
8	〃	A区T－3,4間	砂礫	〃	49.3	36.1	6.2	10.41	〃		
9	〃	D区		〃	72.3＋	46.6	10.0	25.21	114		
10	〃	A区		〃	77.1＋	31.6	11.0	19.59	〃		
11	〃	B区T－1		〃	75.8	38.7	6.3	21.68	〃		
12	〃	D区		〃	68.6＋	31.8	9.0	17.90	〃		
13	〃	A区T－4,5間	砂礫	〃	58.2	41.8	6.3	14.36	〃		
14	〃	A区T－3,4間	〃	〃	62.6	46.4	10.0	26.82	〃		
15	〃	B区T－4		〃	59.1	50.5	5.2	13.96	〃		
16	〃	A区T－1,3間	砂礫	〃	71.9	22.7	6.0	11.44	115		
17	〃	D区		〃	58.6	25.3	6.5	8.33	〃		
18	〃	A区T－3,4間	砂礫	〃	69.0	32.1	6.3	18.68	〃		
19	〃	B区T－1		〃	77.4	24.2	11.0	17.13	〃		
20	〃	A区T－2,3間	砂礫	〃	70.9	34.6	8.9	20.12	〃		
21	〃	B区T－2		〃	61.2	29.0	5.1	15.21	〃		
22	〃	A区T－3,4間	砂礫	〃	78.1	33.2	7.4	22.73	〃		
23	スクレイパー	B区		〃	58.7	41.8	10.7	18.36	116		
24	〃	A区		〃	64.2	39.2	12.0	21.66	〃		
25	〃	A区T－4		〃	61.5	43.1	6.3＋	19.09	〃		
26	〃	A区T－3,4間	砂礫	〃	68.9	31.3	6.8	12.52	〃		
27	〃	D区		〃	99.5	48.9	12.9	46.59	〃		
28	〃	A区T－1,3間	砂礫	〃	87.2	51.7	14.0	48.76	〃		
29	〃	B区T－5		〃	68.2	57.4	7.8	27.42	〃		
30	〃	A区T－3,4間	砂礫	〃	61.1	49.1	14.4	25.14	117		
31	〃	A区T－2	〃	〃	76.5	47.6	10.2	38.28	〃		
32	〃	B区T－1		〃	68.0	54.0	10.6	50.03	〃		
33	〃	A区T－4,5間	砂礫	〃	77.0	36.2	8.9	24.27	〃		
34	〃	A区T－3,4間	〃	〃	76.0	54.2	15.3	79.99	〃		
35	〃	A区T－5	茶灰色粗砂	〃	68.2	40.7	8.7	22.81	〃		
36	〃	A区	砂礫	〃	54.0	41.1	8.7	21.33	〃		
37	〃	B区T－1		〃	78.2	23.4	7.6	15.41	118		
38	〃	A区T－1,3間	砂礫	〃	59.7	22.2	4.7	6.67	〃		
39	〃	B区T－3		〃	107.6	41.0	10.4	43.01	〃		
40	〃	B区T－5		〃	72.5	27.2	11.3	15.64	〃		
41	〃	A区T－1,3間	砂礫	〃	101.8	36.6	12.2	40.60	〃		
42	〃	A区	灰色粘質砂礫	〃	101.7＋	21.0	15.0	21.84	〃		
43	〃	A区T－1,3間	砂礫	〃	99.0	35.0	16.0	49.05	〃		
44	〃	A区T－2,3間	〃	〃	82.9＋	32.7	7.4	23.66	〃		
45	〃	A区T－3,4間	〃	〃	77.8＋	27.7	7.0	14.17	〃		
46	〃	A区T－1,2間	〃	〃	76.0	28.6	10.0	23.54	119		
47	〃	A区T－3,4間	〃	〃	75.0	37.7	11.0	34.22	〃		
48	〃	A区T－2	〃	〃	54.0	21.5	5.3	6.86	〃		
49	〃	A区T－4,5間	〃	〃	70.0	32.0	7.0	19.76	〃		
50	〃	A区T－2南	〃	〃	66.6＋	31.5	7.8	20.72	〃		
51	〃	A区T－4,3間	〃	〃	73.7	43.2	7.9	20.38	〃		
52	〃	〃	〃	〃	84.4	41.0	7.7	24.38	〃		
53	〃	〃	〃	〃	60.3	35.3	5.8	17.56	〃		
54	〃	〃	〃	〃	52.8	33.0	12.3	16.14	120		

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
55	スクレイパー	A区T−3,4間	砂礫	サヌカイト	72.3	32.8	6.7	16.34	120		
56	〃	A区T−1,3間	〃	〃	65.0	25.3	6.2	11.16	〃		
57	〃	B区T−3		〃	58.0	24.3	4.3	5.27	〃		
58	〃	A区T−4,5間	淡灰色粗砂	〃	60.0	23.0	5.9	9.46	〃		
59	〃	B区T−1		〃	72.0	46.3	10.0	37.85	〃		
60	〃	A区T−2南	砂礫	〃	70.0	32.6	8.0	16.44	〃		
61	〃	A区	〃	〃	83.0	43.0	9.2	40.53	〃		
62	〃	A区	〃	〃	84.0	43.0	8.8	40.53	〃		
63	〃	A区T−1,3間	〃	〃	72.0	53.0	9.2	48.64	121		
64	〃	A区		玻璃質安山岩	69.6	50.6	19.8	80.83	〃		
65	〃	A区	灰色砂礫	サヌカイト	72.0+	69.0	13.4	98.39	〃		
66	〃	A区T−1,3間	砂礫	〃	73.9	37.1	8.6	28.72	〃		
67	〃	A区T−4,5間	〃	〃	59.0	31.0	11.2	23.66	〃		
68	〃	A区	〃	〃	60.2+	35.5	35.8	24.71	〃		
69	〃	A区T−4,5間	〃	〃	95.8	42.5	9.3	67.73	〃		
70	〃	A区T−3,4間	〃	〃	67.0	40.0	9.2	44.25	122		
71	〃	A区T−2	〃	〃	90.3	39.2	5.1	22.12	〃		
72	〃	A区T−1,2間	〃	〃	52.5	46.3	7.4	27.88	〃		
73	〃	A区T−3,4間	〃	〃	60.2+	31.2+	5.6	12.64	〃		
74	〃	A区T−5		〃	50.4+	54.6	7.0	21.13	〃		
75	〃	B区T−5		〃	57.6+	68.3	13.5	66.18	〃		
76	〃	A区T−1,3間	砂礫	〃	56.0	61.0	8.0	38.16	〃		
77	〃	B区T−4		〃	131.5	49.0	11.3	80.63	123		
78	〃	A区T−3,4間	砂礫	〃	69.6	33.2	9.1	20.73	〃		
79	〃	A区T−1,3間	〃	〃	76.0	48.3	10.6	46.13	〃		
80	〃	〃	〃	〃	77.7	39.4	9.1	38.85	〃		
81	〃	A区T−1,2間	〃	〃	58.2	31.4	7.0	11.33	〃		
82	〃	B区T−1		〃	69.7	38.0	9.5	22.39	〃		
83	〃	A区T−3,4間	砂礫	〃	64.4	47.8	10.4	36.03	〃		
84	楔形石器	B区	排土中	〃	94.6	57.0	27.2	166.20	124		
85	〃	A区T−3,4間	砂礫	〃	54.0	49.7	22.4	70.32	〃		
86	〃	A区T−1,2間	〃	〃	63.3+	82.0	16.0	104.71	〃		
87	〃	A区T−4,5間	〃	〃	41.7	33.7	5.0	11.08	〃		
88	〃	A区T−2,3間	〃	〃	45.5	54.0	9.8	30.69	〃		
89	〃	〃	〃	〃	42.5	44.3	9.0	23.34	〃		
90	〃	A区T−4,5間	砂礫	〃	41.0+	33.8	5.2	11.08	〃		
91	スクレイパー	B区T−5		〃	110.3	43.3	10.6	70.11	125		
92	〃	A区T−1,3間	砂礫	〃	191.2	61.5	17.0	241.16	〃		
93	石棒	A区T−3,4間	〃	〃	4.9+	1.9+	0.5+	6.75	〃		
94	スクレイパー	A区T−4,5間	〃	〃	83.5	28.8	6.7	13.53	126		
95	〃	B区T−6		〃	61.4	28.4	12.2	21.83	〃		
96	〃	A区T−2南	砂礫	〃	71.0	32.5	7.3+	13.88	〃		
97	ポイント	D区		〃	62.9+	29.0+	11.0	24.96	〃		
98	石鏃	B区T−5		〃	39.1	24.8	4.4	3.59	〃		
99	〃	B区	表採	〃	25.0+	14.0	3.2	0.92	〃		
100	ポイント	A区T−1,3間	砂礫	〃	60.6	37.6	7.2	14.29	〃		
101	スリ石(?)	〃	〃	〃	62.3	41.7	53.3	189.15	127		
102	スクレイパー	B区T−3		〃	67.8	64.4	14.0	74.87	〃		
103	〃	B区T−2,3間		玻璃質安山岩	54.7	45.0	17.4	50.03	〃		
104	〃	A区T−1,3間	砂礫	サヌカイト	50.0	32.2	5.0	11.67	〃		
105	〃	B区T−3		〃	55.0	40.0	5.3	14.63	〃		
106	凹み石	B区T−6	砂礫	石英斑岩?	108.5	116.5	49.8	860.00	128		
107	〃	A区サレキ	〃	斑栃岩	86.3	69.0	40.0	360.00	〃		
108	タタキ石	A区T−1,3間	〃	玄武岩	117.0	66.7	52.3	620.00	〃		

番号	遺　物	出土地区	遺　構	材　質	最大長 ㎜	最大幅 ㎜	最大厚 ㎜	重　量 g	図	図版	備　考
109	スリ石	A区T－4,5間	砂礫	石英斑岩？	62.2	56.3	47.0	17.81	128		
110	スリ石	A区T－1,3間	〃	流紋岩	59.6＋	84.6＋	48.7＋	246.87	129		
111	タタキ石	A区	側溝	石英斑岩	74.3＋	92.2＋	69.1＋	635.00	〃		
112	スリ石	〃	〃	玄武岩	39.0＋	93.0＋	53.0＋	234.64	〃		
113	タタキ石	〃	〃	花崗岩	64.2＋	102.7＋	59.6＋	525.00	〃		
114	〃	〃	黒灰砂	玄武岩	38.4＋	79.5＋	50.0＋	208.83	〃		
115	スリ石	A区	灰色砂礫	石英斑岩	19.2＋	97.4＋	33.0＋	88.21	〃		
116	磨製石斧	B区T－1		頁岩？	42.2＋	51.4＋	7.2＋	20.05	〃		
117	〃	A区T－4,5間	砂礫	結晶片岩	38.7＋	34.8	9.0＋	20.21	〃		

表－1　阿津走出遺跡縄文土器観察表

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整 外	器面調整 内	文様	施文内容	色調 外	色調 中	色調 内	胎土	焼成	図	図版
1	A区T－1	弥生後期											5	
2	B区土壙－1	〃 Ⅵ類	口縁部	ミガキ	アルカ属条痕	沈線文		淡明褐色			微砂	良	16	128－1
3	〃	〃 Ⅶ類	〃		アルカ属条痕→平滑		撚糸の地文	淡茶灰色			〃	〃	〃	〃
4	〃	〃 Ⅷ類	胴部	ミガキ	上平滑→下アルカ属	磨り消	LR	淡黒茶色			細砂	〃	〃	〃
5	〃	中期	口縁部				円形刺突	茶褐色	暗灰色	茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	〃
6	〃	中期Ⅵ類	胴部		平滑		波状沈線	淡黒褐色			微砂，〃	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃	平滑	〃		〃	淡茶褐色	淡黒褐色	淡茶褐色	〃，〃，火山ガラス	〃	〃	〃
8	B区土壙－2	後期Ⅰ類	口縁部		〃	磨り消	RL	明褐色		明褐色	〃，火山ガラス	〃	18	
9	〃	〃	〃		ミガキ	〃	〃	茶褐色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	
10	〃	〃	〃			〃	〃	褐色			〃，〃	〃	〃	
11	〃	〃	〃		ミガキ	〃	〃	暗茶褐色		暗茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
12	〃	〃	〃			〃	縄文？	黒褐色	暗茶褐色	〃	〃	〃	〃	
13	〃	〃	〃		平滑	〃	？	褐色	黒灰色	〃	〃，火山ガラス，雲母	〃	〃	128－1
14	〃	〃	〃		〃	〃	撚り？	茶褐色		茶灰色	微砂，〃	〃	〃	〃
15	〃	〃	〃		〃	沈線文		〃	黒褐色	茶褐色	〃，〃，カクセン石	〃	〃	〃
16	〃	〃	胴部		〃	磨り消	RL	暗茶褐色	〃	褐色	〃，カクセン石，金雲母	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃		〃	〃	撚り？円形の刺突	淡褐色	〃		〃，火山ガラス	〃	〃	
18	〃	〃	〃		〃	〃	RL	暗茶褐色	淡黒褐色	暗茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
19	〃	〃？	〃		〃	沈線文		淡褐色	黒褐色		〃，カクセン石，金雲母	〃	〃	
20	〃	〃	〃		〃	〃		茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
21	〃	〃	〃			〃		暗茶褐色			〃，〃	〃	〃	
22	〃	〃	〃		平滑	〃		茶褐色			〃，〃，金雲母	〃	〃	
23	〃	〃		巻貝	〃		口唇－キザミ	暗茶褐色	黒灰色	暗茶褐色	粗砂	〃	〃	128－1
24	〃	〃	口縁部	巻貝→平滑	〃			〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			茶褐色			微砂，〃，金雲母	〃	〃	
26	〃	〃	〃	巻貝	平滑		口唇－キザミ	暗茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	〃	〃	〃	
27	〃	〃	〃	巻貝→ミガキ	ミガキ			茶褐色	〃	茶褐色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	128－1
28	〃	〃	底部					褐色	茶灰色		〃 火山ガラス	〃	19	
29	〃	〃	口縁部	平滑	風化		口唇－キザミ	明褐色			〃，〃，金雲母	〃	〃	
30	B区土壙－3	〃	口縁部－胴部			磨り消	RL	淡褐色	暗灰色		〃，〃，〃	〃	21	128－2
31	〃	〃	口縁部		平滑	沈線文	口唇－円形刺突	茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
32	〃	〃	口縁部～胴部	巻貝	巻貝		〃	淡褐色	黒灰色	淡褐色	〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	128－2
33	〃	〃	口縁部	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	微砂，金雲母	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
34	B区土壙－3	後期Ⅰ類	口縁部	巻貝→平滑	平滑			淡茶灰色			微砂，火山ガラス(多)	良	21	128－2
35	〃	〃	口縁部～胴部	平滑	〃	磨り消	擬縄文	〃	黒褐色	淡茶灰色	細砂，金雲母(多)	〃	〃	〃
36	〃	〃	口縁部	巻貝	〃			淡黒褐色	〃	淡黒褐色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
37	〃	〃	底部	平滑	〃			褐色	淡黒褐色		〃，火山ガラス	〃	〃	
38	B区土壙－4	〃	口縁部			沈線文	縄文？	茶褐色			微砂 〃 金雲母	〃	23	129－1
39	〃	〃	〃			〃		〃		淡黒褐色	〃，〃	〃	〃	〃
40	〃	〃	胴部		ミガキ	磨り消	RL	褐色		暗茶褐色	〃，〃	〃	〃	
41	〃	〃	〃		平滑	〃	撚り？	暗茶褐色	黒褐色	暗褐色	〃，金雲母	〃	〃	129－1
42	〃	〃	口縁部～胴部	巻貝	巻貝→平滑			茶褐色	暗茶褐色	茶褐色	細砂，〃	〃	〃	〃
43	〃	〃	口縁部	〃	平滑			淡茶褐色	暗茶灰色	淡茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	〃
44	〃	〃	口縁部～胴部	巻貝→平滑	〃			暗茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	微砂，〃	〃	〃	〃
45	〃	〃	〃	巻貝	〃			茶褐色	〃	茶褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
46	〃	〃	口縁部	平滑	〃			暗茶褐色			粗砂，〃	〃	〃	
47	〃	〃	口縁部～胴部	条痕	〃			褐色	黒褐色	茶褐色	微砂	〃	24	129－1
48	〃	〃	口縁部	巻貝→平滑	〃			茶褐色			粗砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	〃
49	〃	〃	〃	巻貝→ミガキ	〃			暗茶褐色	黒灰色	暗茶褐色	微砂，〃，〃	〃	〃	
50	〃	〃	底部	平滑	〃			茶褐色		茶褐色	細砂，〃，〃	〃	〃	
51	〃	〃	〃	〃	〃			〃	暗灰色	暗茶褐色	微砂 カクセン石	〃	〃	
52	B区土壙－5	〃	口縁部		〃	磨り消	擬縄文				金雲母，火山ガラス	〃	26	129－2
53	〃	〃	〃		〃	〃	RL	暗茶褐色	黒褐色	淡茶褐色	細砂	〃	〃	
54	〃	〃	〃			〃	〃	褐色			〃	〃	〃	
55	〃	〃	〃			沈線文	縄文施文か	明褐色			〃	〃	〃	
56	〃	〃	〃		平滑	〃		暗茶褐色		淡黒褐色	微砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
57	〃	〃	〃			磨り消？		茶褐色	黒褐色	褐色	〃，〃	〃	〃	
58	〃	〃	〃	巻貝	平滑	沈線文		褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
59	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		口唇－キザミ	暗灰色	黒褐色	褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
60	〃	〃	胴部		平滑	磨り消？		暗茶褐色			細砂	〃	〃	
61	〃	〃	〃			磨り消	RL	茶褐色	淡黒褐色	茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
62	〃	〃	〃		ミガキ	〃	〃	褐色	暗灰色	褐色	微砂，カクセン石	〃	〃	
63	〃	〃	〃			〃	LR	茶褐色	褐色	〃	〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
64	〃	〃	〃	ミガキ	平滑	〃	RL	褐色			〃	〃	〃	
65	〃	〃	〃		〃	〃	〃	明褐色			金雲母，火山ガラス	〃	〃	
66	〃	〃	〃		〃	〃	〃	暗茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
67	〃	〃	〃			〃	擬縄文	〃	黒褐色	暗茶褐色	〃	〃	〃	
68	〃	〃	〃			〃	〃	茶褐色	〃	〃	〃，金雲母	〃	〃	

69	B区土壙－5	後期Ⅰ類	胴部		平滑	磨り消	擬縄文		淡茶褐色			微砂　金雲母	良	26	129－2
70	〃	〃	〃			〃	〃		茶褐色	黒褐色		〃，火山ガラス	〃	〃	〃
71	〃	〃	〃			〃	〃		〃	暗茶褐色	暗茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
72	〃	〃	〃			沈線文			淡灰白色	暗灰色	淡灰白色	〃，　〃　，火山ガラス	〃	〃	
73	〃	〃	〃			〃			茶褐色	黒褐色	茶褐色	〃，火山ガラス	〃	27	
74	〃	〃	〃			〃			淡茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
75	〃	〃	〃		平滑	〃			暗茶灰色		褐色	細砂	〃	〃	
76	〃	〃	〃				波状文　撚糸文		淡灰白色	暗灰色	淡灰白色	〃	〃	〃	
77	〃	〃	口縁部	巻貝	平滑		口唇－キザミ		褐色	暗褐色	褐色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
78	〃	〃	〃	平滑	〃				茶褐色			〃	〃	〃	
79	〃	〃	〃				口唇－キザミ		褐色			微砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
80	〃	〃	〃						茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
81	〃	〃	口縁部－胴部	平滑	平滑				暗茶褐色		褐色	細砂，　〃　，　〃	〃	〃	129－2
82	〃	〃	〃	巻貝	風化				褐色	黒褐色	〃	微砂，　〃	〃	〃	〃
83	〃	〃	口縁部	〃	平滑				淡茶灰色	淡暗茶灰色	淡茶灰色	〃，　〃　，金雲母	〃	〃	〃
84	〃	〃	〃	〃	巻貝→平滑				暗灰色		褐色	細砂，カクセン石，　〃	〃	〃	
85	〃	〃	〃	〃	平滑				褐色	暗灰色	〃	〃，火山ガラス，　〃	〃	〃	
86	〃	〃	〃	〃	〃				淡茶褐色	淡茶褐色	乳白色	〃，　〃	〃	〃	
87	〃	〃	〃	巻貝→平滑	巻貝→平滑				暗茶褐色			〃	〃	〃	
88	〃	〃	〃	風化	風化				褐色	黒褐色	褐色	微砂	〃	〃	
89	〃	〃	〃	平滑	平滑				〃	〃		細砂，火山ガラス	〃	〃	
90	〃	〃	〃	巻貝	〃				暗茶褐色	〃	暗茶褐色	微砂	〃	〃	
91	〃	〃	〃	平滑	〃				茶褐色	〃	茶褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
92	〃	〃	〃	条痕	〃				暗灰色	黒灰色	暗灰色	微砂	〃	〃	
93	〃	〃	〃	風化	風化				褐色	暗灰色	褐色	〃	〃	〃	
94	〃	〃	〃	平滑	平滑				暗茶褐色	茶灰色	茶褐色	細砂，金雲母，火山ガラス	〃	28	
95	〃	〃	〃	巻貝	〃				褐色			〃，　〃	〃	〃	
96	〃	〃	〃	平滑	〃				淡黒褐色			微砂，　〃	〃	〃	
97	〃	〃	底部	風化	風化				褐色			細砂	〃	〃	
98	〃	〃	〃	平滑	平滑				灰褐色		褐色	〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
99	〃	〃	胴部	巻貝→平滑	〃				褐色		暗茶褐色	〃，　〃　，　〃	〃	〃	129－2
100	B区土壙－6	〃	口縁部		〃	磨り消	擬縄文		淡茶灰色			微砂	〃	29	
101	〃	〃	胴部		〃	〃	RL		淡褐色	灰色		細砂，火山ガラス	〃	〃	
102	〃	中期Ⅵ類	〃		〃								〃	〃	
103	〃	後期Ⅰ類	口縁部	巻貝→平滑	巻貝→平滑				暗茶褐色	暗灰色		細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
104	〃	後期Ⅱ類	底部				撚り？		褐色	黒灰色	黒灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
105	〃	後期Ⅰ類	〃						淡褐色	灰色		微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
106	B区土壙－7	後期	口縁部			磨り消?		茶褐色			細砂	良	30	130－1
107	〃	晩期	〃	サッ痕	平滑			褐色	茶褐色	茶褐色	微砂	〃	〃	
108	〃	〃	〃	アルカ属糸痕	〃			茶褐色	黒褐色	黒褐色	〃，金雲母	〃	〃	130－1
109	B区土壙－8	後期Ⅰ類	胴部		〃	磨り消	RL	〃	淡黒褐色		〃，火山ガラス	〃	31	〃
110	〃	後期	〃	巻貝	〃			〃	〃	茶褐色	細砂，〃	〃	〃	〃
111	〃	晩期	〃	サッ痕	〃			〃		暗茶灰色	微砂，金雲母	〃	〃	
112	〃	後期	〃	巻貝	〃			〃	淡黒灰色	茶褐色	細砂	〃	〃	130－1
113	B区土壙－9	後期Ⅰ類	口縁部－胴部	巻貝→平滑	〃	沈線文		淡黒褐色			微砂，火山ガラス	〃	33	130－2
114	〃	〃	口縁部	縄文	巻貝			暗茶褐色	黒灰色	暗茶褐色	〃，〃	〃	〃	
115	〃	〃	〃			磨り消	RL	茶褐色	茶灰色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
116	〃	〃	〃		平滑	〃	〃	〃	黒褐色	茶褐色	細砂，〃	〃	〃	130－2
117	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	暗灰色		〃	〃	〃	
118	〃	〃	〃		〃	沈線文	口唇－押圧	褐色	〃		微砂 火山ガラス	〃	〃	
119	〃	〃	〃		〃	磨り消	RL，	黒褐色	暗茶褐色	暗茶褐色	〃	〃	〃	
120	〃	〃	〃			〃	擬縄文	茶褐色			細砂	〃	〃	
121	〃	〃	〃		平滑	〃	RL	淡茶褐色	淡灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
122	〃	〃	〃		〃	〃	〃	褐色	淡黒褐色	淡黒褐色	〃，〃	〃	〃	
123	〃	〃	〃			沈線文		淡茶褐色	暗茶褐色	淡茶褐色	微砂	〃	〃	
124	〃	〃	〃		ミガキ	磨り消	撚り?	茶褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
125	〃	〃	〃	ミガキ	〃	沈線文		淡茶灰色	暗茶灰色		細砂，火山ガラス	〃	〃	130－2
126	〃	〃	〃			磨り消	RL	黒褐色		淡茶褐色	微砂，金雲母，カクセン石	〃	〃	
127	〃	後期Ⅱ類	〃		平滑	〃	撚り?	淡橙色		茶褐色	粗砂，〃，〃	〃	〃	
128	〃	〃	〃			〃	RL	茶褐色	淡黒褐色	〃	微砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
129	〃	〃	〃			沈線文	施文?	淡茶灰色			〃	〃	〃	
130	〃	〃	〃	風化	風化	磨り消	RL	淡黄白色	灰色		〃	〃	〃	
131	〃	〃	〃			〃	〃	淡黒灰色			〃	〃	〃	
132	〃	〃	〃			〃	〃	淡茶褐色			〃	〃	〃	
133	〃	〃	〃	ミガキ		〃	撚り?	褐色	暗灰色	茶褐色	細砂	〃	〃	
134	〃	〃	〃			沈線文		〃	〃	茶灰色	〃	〃	〃	
135	〃	〃	〃		ミガキ	磨り消	RL	淡褐色		淡黒灰色	微砂，雲母	〃	〃	
136	〃	〃	〃			〃	〃	褐色			〃	〃	〃	
137	〃	後期	〃			〃	擬縄文	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
138	〃	後期Ⅱ類	〃		平滑	〃	RL	茶褐色	黒褐色	茶褐色	〃，金雲母	〃	34	130－2
139	〃	〃	〃	平滑		〃	撚り?	暗茶褐色	〃	暗茶褐色	細砂	〃	〃	
140	〃	〃	〃		平滑	〃	RL	褐色			微砂	〃	〃	

141	B区土壙−9	後期Ⅱ類	口縁部			磨り消	RL	茶灰色			微砂，金雲母	良	34	130−2
142	〃	〃	〃			〃	〃	淡褐色			〃，〃	〃	〃	
143	〃	〃	〃			磨り消？		茶褐色	淡黒褐色		〃，雲母	〃	〃	
144	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡茶褐色	茶灰色	淡茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
145	〃	後期Ⅰ類	胴部			磨り消	RL	淡黒灰色		暗灰色	〃，雲母，カクセン石	〃	〃	
146	〃	〃	口縁部			〃	〃	黒褐色		淡茶褐色	〃，〃，〃	〃	〃	
147	〃	〃	〃					茶褐色	淡黒褐色	茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	130−2
148	〃	〃	胴部		ミガキ	磨り消	RL	〃			〃，〃	〃	〃	
149	〃	〃	〃			〃	〃	〃	暗灰色	茶褐色	〃，〃	〃	〃	
150	〃	〃	〃		平滑	〃	LR	〃		褐色	細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	130−2
151	〃	〃	〃			〃	撚り？	褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
152	〃	〃	〃			？	縄文？	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
153	〃	〃	〃		平滑	磨り消	RL	〃			〃	〃	〃	
154	〃	〃	〃		〃	擬縄文		暗茶褐色			〃	〃	〃	
155	〃	〃	〃		〃	沈線文		褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
156	〃	〃	〃		〃	〃		茶褐色			〃	〃	〃	
157	〃	〃	〃			〃		褐色			〃	〃	〃	
158	〃	〃	〃		平滑	磨り消	縄文？	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
159	〃	〃	〃			〃	RL	淡褐色		淡黒灰色	細砂	〃	〃	
160	〃	〃	〃			〃	〃	褐色	暗灰色	暗灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
161	〃	〃	〃		平滑	〃	撚り？	暗褐色	黒褐色	暗褐色	微砂	〃	〃	
162	〃	後期Ⅱ類	〃			〃	〃	褐色	暗灰色	茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
163	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	RL	暗褐色			微砂	〃	〃	
164	〃	〃	〃		平滑	〃	〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
165	〃	〃	〃			〃 ？	撚り？	茶灰色			細砂	〃	〃	
166	〃	〃	〃		平滑	磨り消	？	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
167	〃	〃	〃		〃	〃	縄文？	淡褐色	淡黒褐色		微砂	〃	〃	
168	〃	後期	口縁部	巻貝→平滑	〃		口唇−押圧	淡茶褐色	淡暗灰色		細砂，金雲母，火山ガラス	〃	35	
169	〃	〃	〃	条痕	ミガキ		口唇−円形刺突	褐色			〃〃	〃	〃	
170	〃	〃	〃	巻貝→平滑	〃			暗茶褐色	黒褐色	暗茶灰色	〃，〃，カクセン石	〃	〃	
171	〃	〃	〃	巻貝	〃			茶褐色	暗茶褐色		〃，〃	〃	〃	
172	〃	〃	〃	ハクリ	ハクリ			褐色			〃，〃	〃	〃	
173	〃	〃	〃	条痕	平滑			暗褐色			〃	〃	〃	
174	〃	〃	〃	巻貝	〃			茶褐色	茶灰色		〃	〃	〃	130−2
175	〃	〃	〃	巻貝→平滑	〃			〃	淡黒褐色		〃	〃	〃	
176	〃	〃	〃	平滑				褐色			〃	〃	〃	130−1
177	〃	〃	〃	巻貝	巻貝			淡黒褐色		茶褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
178	B区土壙→9	後期	口縁部	巻貝	平滑			茶灰色		淡黒褐色	細砂 火山ガラス	良	35	
179	〃	〃	〃	ハクリ	ハクリ			茶褐色			粗砂，金雲母	〃	〃	
180	〃	〃	〃	平滑	平滑			褐色		茶褐色	細砂	〃	〃	
181	〃	〃	〃	〃	巻貝→平滑		口唇ーキザミ	茶褐色	淡黒褐色	〃	微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
182	〃	〃	〃	巻貝	〃			茶灰色	淡黒灰色	〃	〃 ，〃 ，〃	〃	〃	130−2
183	〃	?	〃	平滑	平滑			淡茶灰色	黒褐色	淡茶灰色	〃 ，火山ガラス	〃	〃	
184	〃	後期	〃	サッ痕	ミガキ							〃	〃	
185	〃	〃	〃					茶灰色			微砂	〃	〃	
186	〃	〃	底部	アルカ属条痕ー平滑				〃			〃 ，火山ガラス	〃	36	
187	〃	〃	〃		平滑			褐色	黒褐色	褐色	〃 ，金雲母	〃	〃	
188	〃	〃	〃		〃			〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	
189	〃	後期Ⅱ類	〃	平滑	平滑			茶褐色		暗黒褐色	〃	〃	〃	
190	B区土壙ー10	晩期Ⅳ類	口縁部	〃	〃	爪形文	口唇ーキザミ ○形	〃	淡茶灰色		〃 ，火山ガラス	〃	37	130−1
191	〃	〃	口縁部～胴部	下サッ痕	上平滑 下サッ痕	押し引き文	口唇ーキザミ	〃	暗灰色	茶褐色	〃 ，金雲母(多)	〃	〃	〃
192	〃	〃	口縁部	平滑	平滑	爪形文	○形	〃	黒褐色	黒褐色	〃	〃	〃	
193	〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃		口唇ーキザミ 内ー段	暗茶褐色	黒灰色	暗茶褐色	〃	〃	〃	
194	〃	〃	〃	〃	〃		〃 内ー沈線	〃	黒褐色	〃	粗砂	〃	〃	
195	〃	〃	〃	〃	〃	沈線文	〃 交叉沈線 内面ー段	褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
196	〃	〃	胴部		〃	爪形文	交叉文 ○形	淡褐色	黒灰色	淡褐色	〃 ，〃	〃	〃	
197	〃	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	〃			茶褐色	黒褐色	黒褐色	細砂，〃	〃	〃	
198	〃	〃	〃	上平滑 下サッ痕	条痕→平滑	爪形文	□形	〃	暗茶褐色	淡黒褐色	〃	〃	〃	
199	〃	〃	〃	〃	平滑	〃	刺突文	〃		淡暗茶褐色	〃 ，金雲母	〃	〃	
200	〃	〃	〃	〃	〃	押し引き文		暗茶褐色			貝片，火山ガラス	〃	〃	
201	〃	〃	口縁部			突帯	口唇ーキザミ 突帯ーキザミ	茶灰色	黒褐色	茶灰色	細砂 〃	〃	〃	
202	〃	〃	〃	風化	風化	〃		茶褐色			〃	〃	〃	
203	〃	〃	〃	平滑	平滑	〃		黒褐色			〃	〃	〃	130−1
204	〃	〃	口縁部～胴部	サッ痕	〃	〃	口唇ーキザミ 突帯ーキザミ	淡黒褐色			〃	〃	〃	〃
205	〃	〃	口縁部	タテのサッ痕	〃		口唇ーキザミ	茶褐色	暗茶褐色	暗茶褐色	〃	〃	38	
206	〃	〃	〃	アルカ属条痕	風化		〃	〃			〃 ，カクセン石	〃	〃	
207	〃	〃	〃	サッ痕	〃		口唇ー押し引き風キザミ	淡茶灰色	灰色	淡茶灰色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
208	〃	〃	〃	アルカ属条痕	平滑		口唇ーキザミ	茶褐色			〃	〃	〃	
209	〃	〃	〃	サッ痕	〃		〃	淡茶褐色		茶褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
210	〃	〃	〃	〃	〃			暗灰色	黒褐色	黒褐色	〃	〃	〃	
211	〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃			暗茶褐色	淡黒褐色		〃 ，火山ガラス	〃	〃	
212	〃	〃	〃	サッ痕	〃			茶褐色	暗茶褐色		〃	〃	〃	

213	B区土壙－10	晩期Ⅳ類	口　縁　部	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色			細砂　火山ガラス	良	38	
214	〃	〃	〃	〃	平　滑			〃			微砂	〃	〃	
215	〃	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色		茶褐色	〃	〃	〃	
216	〃	〃	〃					茶褐色		暗茶灰色		〃	〃	
217	〃	〃	胴　部	サ　ッ　痕	平　滑			〃			細砂	〃	〃	
218	〃	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃，雲母	〃	〃	
219	〃	晩期Ⅰ類	口　縁　部	ミ　ガ　キ	ミ　ガ　キ		外－沈線	黒褐色		黒褐色	微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	130－1
220	〃	晩期Ⅳ類	〃	〃	〃		内－段	暗茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	〃，カクセン石	〃	〃	〃
221	〃	晩　期	口縁部～胴部	風　化	〃			茶灰色		黒褐色	〃，金雲母	〃	〃	〃
222	〃	〃	口　縁　部	ミ　ガ　キ	〃			淡黒褐色			〃，〃，カクセン石	〃	〃	
223	〃	〃	〃	〃	〃			黒褐色			〃	〃	〃	130－1
224	〃	〃	胴　部	〃	〃			茶褐色	黒褐色	茶褐色	〃，カクセン石	〃	〃	
225	〃	〃	〃			沈　線　文		暗茶褐色	淡黒褐色	淡黒褐色	細砂	〃	〃	
226	〃	〃	口　縁　部	ミ　ガ　キ	ミ　ガ　キ		内－段	淡黒褐色			微砂	〃	39	
227	〃	〃	〃					黒褐色				〃	〃	
228	〃	〃	〃	平　滑	平　滑			淡黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
229	〃	〃	〃	アルカ属条痕			巻貝殻頂刺突	〃			〃，〃	〃	〃	
230	〃	晩期Ⅳ類	口縁部～胴部	サ　ッ　痕	アルカ属条痕		口唇－キザミ　輪積み残す	茶褐色			細砂	〃	〃	
231	〃	〃	口　縁　部	〃	ミ　ガ　キ			暗茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	
232	〃	〃	完　全　品		平　滑			〃			〃	〃	〃	
233	〃	〃	底　部		〃			褐色	暗茶褐色	褐色	微砂	〃	〃	
234	〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃			〃		淡黒褐色	細砂	〃	〃	
235	〃	〃	〃	サ　ッ　痕	〃			茶褐色	黒褐色	黒褐色	粗砂	〃	〃	
236	〃	〃	〃	〃	風　化			〃	灰色	茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
237	〃	晩　期	〃	平　滑	平　滑			褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	
238	B区土壙－11	後期Ⅰ類	口　縁　部		巻貝→平滑	磨　り　消	ＲＬ	茶灰色			〃，黒雲母，火山ガラス	〃	41	
239	〃	後期Ⅱ類	〃		平　滑	〃		暗茶褐色	淡黒褐色	暗茶褐色	カクセン石，金雲母，火山ガラス(多)	〃	〃	130－2
240	〃	〃	〃			?		茶褐色	暗灰色		微砂	〃	〃	
241	〃	後期Ⅰ類	〃			磨　り　消	ＲＬ	淡褐色	淡灰色		細砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	130－2
242	〃	〃	〃	平　滑	巻貝→平滑			淡茶褐色	〃		〃，金雲母，〃	〃	〃	〃
243	〃	晩期Ⅳ類	〃	〃	アルカ属条痕	突　帯	口唇－キザミ	淡茶灰色	暗灰色		微砂，火山ガラス	〃	〃	〃
244	B区土壙－12	後期Ⅰ類	胴　部			沈　線　文	円形刺突	褐色	〃		〃	〃	42	
245	〃	晩　期	〃		平　滑		ヘラ沈線	暗灰色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
246	B区土壙－13	晩期Ⅳ類	口　縁　部	サ　ッ　痕	〃	突　帯	突帯－キザミ	淡黒褐色			〃	〃	43	
247	〃	〃	〃	〃	〃	〃	口唇－楕円の押圧　突帯－キザミ	淡暗灰色	暗灰色	暗灰色	微砂	〃	〃	
248	B区土壙－14	後　期	〃			磨り消?		茶褐色			細砂	〃	44	
249	〃	〃	〃	平　滑	平　滑			暗茶褐色		暗茶褐色	〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
250	B区土壙－14	後期	口縁部	巻貝	平滑			茶褐色	黒褐色		微砂	良	44	
251	〃	晩期	〃	風化	〃			黒褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
252	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ		外－沈線	〃			〃	〃	〃	
253	〃	後期	胴部			磨り消	擬縄文	茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
254	B区土壙－15	晩期Ⅱ類	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ	沈線文	斜格子	淡茶褐色		暗茶褐色	〃，〃，金雲母	〃	45	
255	〃	〃	口縁部	〃	〃			黒褐色	淡黒灰色	黒褐色	〃	〃	〃	
256	〃	〃	胴部	上アルカ風条痕下平滑	平滑			暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
257	〃	〃	口縁部	アルカ風条痕	〃			〃			〃，〃	〃	〃	
258	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			細砂	〃	〃	
259	〃	〃	〃	平滑	平滑			淡茶褐色	暗灰色	淡茶褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
260	〃	〃	底部	〃	サッ痕			茶褐色	淡黒褐色	茶灰色	細砂	〃	〃	
261	B区土壙－16	後期	口縁部～胴部	巻貝	風化	沈線文	巻貝沈線	淡黒灰色			〃	〃	46	
262	〃	晩期Ⅰ類	胴部	ミガキ	ミガキ			暗茶褐色		淡黒褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	130－1
263	〃	後期	〃	平滑		磨り消	擬縄文	〃			〃，金雲母，カクセン石	〃	〃	〃
264	〃	〃	〃	〃		〃	撚り？	黒褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
265	〃	〃	〃		平滑	縄文	RL	淡茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
266	B区土壙－17	晩期Ⅳ類	口縁部～胴部	上ミガキ下サッ痕平滑	押圧→平滑	突帯	貼り付け突帯	暗茶褐色			細砂，金雲母	〃	48	131－1
267	〃	〃	〃	上アルカ風→平滑下サッ痕	平滑	〃	口唇－キザミ	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	〃
268	〃	〃	口縁部	平滑	〃	〃	貼り付→キザミ	茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
269	〃	〃	〃	アルカ風条痕	〃		口唇－キザミ	淡黒褐色			細砂	〃	〃	131－1
270	〃	〃	口縁部～胴部			爪形文	〃	淡茶褐色		暗茶灰色	〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
271	〃	〃	口縁部	平滑	平滑	〃	〃	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
272	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			微砂，火山ガラス	〃	〃	
273	〃	〃	〃	アルカ風条痕	〃			〃	暗茶灰色	黒褐色	細砂，金雲母	〃	〃	131－1
274	〃	〃	〃	〃	アルカ風条痕→平滑			〃			微砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
275	〃	〃	胴部		平滑	沈線文		暗茶褐色			〃	〃	〃	
276	〃	〃	〃	上平滑下サッ痕	〃			明褐色			〃	〃	〃	
277	〃	〃	〃			爪形文		〃			〃	〃	〃	
278	〃	〃	口縁部～底部	ミガキ底アルカ風条痕	ミガキ		内－削り段	淡黒褐色			細砂 雲母	〃	〃	131－1
279	〃	〃	口縁部～胴部	ミガキ	上ミガキ下サッ痕			〃			〃，〃，火山ガラス	〃	49	
280	〃	〃	口縁部	アルカ風条痕	平滑		口唇－押圧風	黒褐色			〃	〃	〃	
281	〃	〃	〃	〃	〃			淡暗灰色	黒褐色	黒褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
282	〃	〃	〃	風化	風化		口唇－押圧風	褐色	淡黒褐色	淡黒褐色	細砂	〃	〃	
283	〃	〃	〃	アルカ風条痕	平滑			淡灰白色			微砂	〃	〃	
284	〃	〃	〃	平滑	〃			茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	131－1

285	B区土壙－17	晩期Ⅳ類	口縁部	ミガキ	ミガキ	沈線		黒褐色			微砂，火山ガラス，雲母	良	49	
286	〃	〃	胴部	条痕→平滑		刺突文	二点平列	茶褐色			〃	〃	〃	
287	〃	〃	〃	上下平滑サッ痕	上下平滑条痕	爪形文	□形	明褐色	暗灰色	淡茶灰色	〃，金雲母	〃	〃	
288	〃	〃	口縁部	ミガキ	ミガキ		内－沈線	淡黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
289	〃	〃	胴部	上下平滑サッ痕	平滑	爪形文	□形	褐色		淡黒褐色	微砂	〃	〃	
290	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
291	〃	〃	〃	〃		刺突文		〃	灰色		微砂	〃	〃	
292	〃	〃	〃	〃	条痕			暗茶褐色		褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
293	〃	後期Ⅰ類	〃			磨り消	RL	茶褐色			〃	〃	〃	
294	〃	後期Ⅱ類	底部	風化	風化		孔	〃			細砂，金雲母	〃	〃	
295	〃	晩期Ⅳ類	〃	サッ痕	平滑			〃	黒褐色		〃	〃	〃	
296	〃	後期Ⅰ類	〃		〃		植子の圧痕	暗茶褐色			〃 金雲母	〃	〃	
297	B区西側溝	前期Ⅰ類	胴部		〃		L	茶褐色			微砂 カクセン石(多)	〃	58	
298	A区P－6灰色細砂	〃	〃		上下平滑押圧	縄文地文	R	淡茶灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
299	〃	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色			細砂，カクセン石(多)	〃	〃	
300	B区90－E	前期Ⅱ類	口縁部				口唇－キザミ 内外－RL	黒褐色			微砂	〃	〃	
301	〃	中期Ⅰ類	〃				内外－RL	淡褐色	灰色		〃	〃	〃	
302	B区90－F	〃	〃		平滑		L	茶褐色	〃		〃，カクセン石(多)	〃	〃	131－1
303	〃	中期Ⅱ類	胴部		〃	爪形文		淡黒褐色			〃， 〃	〃	〃	
304	B区95－D 373	〃	〃			〃		茶褐色	暗灰色		細砂	〃	〃	
305	A区C9～11	〃	〃		爪形			〃			〃，カクセン石，金雲母	〃	〃	
306	B区92－E	〃	口縁部		平滑	爪形文	内外－爪形	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
307	B区東側道	〃	〃		〃	〃	L 内外－爪形	淡茶灰色	暗灰色		粗砂，雲母	〃	〃	
308	B区90－F	中期Ⅲ類	〃				アルカ属の圧痕 RL	茶褐色		黒褐色	微砂，カクセン石	〃	〃	131－2
309	B区88－D	〃	〃				アルカ属殻頂部で押圧	淡茶褐色			細砂	〃	〃	
310	B区東側道	中期Ⅱ類	〃		平滑	爪形文	L 内外－爪形 307と同一個体	淡茶灰色	暗灰色		粗砂	〃	〃	
311	A区P－6灰色細砂	中期Ⅲ類	〃			〃	内外－縄文	茶褐色			微砂	〃	〃	
312	B区90－F	〃	〃		平滑		L	淡茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	131－2
313	B区東側道(東)	〃	〃		〃		〃	淡褐灰色	淡橙色		微砂	〃	〃	
314	B区88－D	中期Ⅳ類	口縁部－胴部		〃		RL	暗茶褐色		淡茶褐色	細砂 カクセン石(多)	〃	59	131－2
315	A区C9～11	前期Ⅰ類	口縁部		〃		突帯－ヘラ R	茶褐色	黒褐色		微砂	〃	〃	
316	B区AR－2灰色粗砂	〃	胴部				LR？	淡茶灰色			細砂	〃	〃	
317	〃	中期	〃			沈線文		〃			粗砂，金雲母	〃	〃	
318	B区T－1	中期Ⅴ類	〃		平滑	縄文	深浅交互の縄文	茶褐色			微砂，火山ガラス，雲母	〃	〃	
319	A区P－6黒色細砂	〃	〃			〃	〃	〃			細砂	〃	〃	
320	B区94－C	中期Ⅵ類	口縁部		平滑	撚糸文		暗茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	131－2
321	A区側溝	中期	〃		〃		RL	淡茶灰色	淡暗灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	〃

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
322	B区東側道	中期Ⅵ期	口縁部		細い条痕	撚糸文	沈線	灰白色	黒褐色	暗茶灰色	細砂，金雲母，火山ガラス	良	59	131－2
323	B区92－E	〃	〃		平滑	〃		淡茶灰色	〃	淡茶灰色	粗砂，火山ガラス	〃	〃	
324	B区西側溝	〃	〃			〃		淡明褐色	灰色		微砂，〃	〃	〃	
325	B区92－F 45	〃	胴部		平滑	〃		淡茶灰色	〃		粗砂，金雲母	〃	〃	
326	B区94－C	〃	口縁部		〃	〃		茶褐色			細砂，カクセン石	〃	〃	131－2
327	B区AR－2灰色細砂	〃	胴部		〃	〃		〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
328	B区94－C	〃	〃		〃	〃		〃			〃	〃	〃	
329	B区92－C 1218	中期Ⅵ類	〃	アルカ属条痕		沈線文	地文にアルカ属条痕	淡茶灰色			微砂，金雲母	〃	〃	
330	B区AR－2灰色粗砂	中期Ⅵ類	〃		平滑	撚糸文		茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
331	B区東側道	中期	口縁部		〃	沈線文		淡暗灰色		淡茶灰色	粗砂，〃	〃	60	132－1
332	〃 (東)	中期Ⅵ類	胴部		条痕→平滑	撚糸文		茶褐色			微砂，金雲母	〃	61	131－2
333	B区92－C 1002	〃	〃		平滑	〃		淡茶灰色	茶灰色		〃，〃	〃	〃	
334	B区93－C 644	〃	〃			〃		茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
335	B区東側道	〃	口縁部		平滑	沈線文		淡茶灰色			細砂	〃	〃	
336	A区P－6黒色細砂	中期	胴部				刺突と沈線	〃			〃	〃	〃	131－2
337	B区東側道(東)	中期Ⅵ類	底部		細い条痕	撚糸文		〃			〃，カクセン石	〃	〃	
338	B区東側道	中期Ⅶ類	口縁部		平滑	磨り消	RL	明茶褐色			〃，金雲母	〃	62	132－1
339	B区94－C 19	〃	〃		アルカ属条痕	撚糸文	LR	暗褐色			〃，〃	〃	〃	
340	B区東側道	〃	〃		平滑		RL地文	淡橙色			〃，〃	〃	〃	
341	B区東側道(東)西側溝	〃	口縁部－胴部		アルカ属条痕	沈線文		淡茶褐色			〃，〃，カクセン石	〃	〃	132－1
342	B区92－C 219	〃	胴部		平滑	磨り消	LR	〃			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
343	A区P－6灰色粗砂	〃	口縁部		〃	沈線文	RL	淡明褐色		明灰白色	微砂，火山ガラス	〃	〃	132－1
344	B区91－C	〃	〃			〃	円形刺突	茶褐色			〃	〃	〃	〃
345	B区88－D	〃	胴部		平滑	〃	〃	〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	
346	B区92－C 1300	〃	〃		巻貝→平滑	磨り消	LR	淡茶灰色	黒灰色	淡茶灰色	微砂，〃	〃	〃	
347	B区T－1	〃	〃		平滑	〃	RL 竹管の刺突	茶褐色			〃	〃	〃	
348	B区92－C 165	後期1類	口縁部－胴部		〃	〃	RL	灰褐色		暗灰黄褐色	〃	〃	G3	
349	B区	〃	口縁部－底部	巻貝		沈線文	丹塗り	赤褐色			〃	〃	〃	
350	B区93－C 372	〃	口縁部－胴部		平滑	磨り消	RL	淡茶褐色	黒褐色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	G4	132－1
351	A区P－6灰色細砂	〃	口縁部	巻貝→平滑		〃	〃	淡明褐色			〃，雲母	〃	〃	〃
352	B区93－C 930	〃	〃		平滑	〃	LR	茶褐色		淡茶灰色	細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	〃
353	B区92－C 886，25	〃	〃		カワアイ巻貝	〃	カワアイ擬縄文	〃			〃，〃	〃	〃	
354	B区91－B 90	〃	〃			〃	撚り？	淡茶灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	
355	B区西側溝	〃	〃				円形刺突 擬縄文	茶褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
356	B区92－B 508	〃	〃			磨り消	RL	暗茶灰色	淡暗灰色	暗茶灰色	火山ガラス，カクセン石，雲母	〃	〃	132－2

357	B区94－C	後期Ⅰ類	口縁部	平滑	平滑	磨り消	RL	茶褐色			微砂，雲母，火山ガラス	良	65	
358	B区94－E	〃	〃			〃	円形刺突 RL	淡褐色	黒褐色		〃 〃	〃	〃	
359	A区G9～11	〃	〃		ミガキ	〃	RL	茶褐色	淡黒灰色		〃，金雲母(多)	〃	〃	
360	B区92－D	〃	〃		平滑	〃	〃	淡黄灰色			〃，雲母	〃	〃	
361	B区95－D	〃	〃			〃	円形刺突 擦り？	茶褐色			〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
362	B区90－C	〃	口縁部～胴部	条痕→平滑		〃	RL	〃			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
363	B区95－D	〃	口縁部			〃	〃	〃	黒灰色	茶褐色	〃	〃	〃	
364	B区93－C 718	〃	〃			〃	〃	〃	黒褐色		〃	〃	〃	
365	B区92－C 1309	〃	〃			〃	擦り？	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
366	〃 1325，1330	〃	〃		平滑	〃	LR	〃	黒褐色		微砂，火山ガラス	〃	〃	132－2
367	B区93－B 764	〃	〃		〃	〃 ？		〃			細砂，〃	〃	〃	
368	B区91－C	〃	〃		〃	〃	RL	〃			〃	〃	66	
369	A区P－6黒色細砂	〃	〃		〃	〃	〃	〃			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
370	B区92－B 81	〃	〃			〃	LR	〃	茶灰色	茶褐色	〃，〃，〃	〃	〃	
371	B区93－C 507	〃	〃		ミガキ	〃	RL	淡茶褐色			〃，〃，〃	〃	〃	
372	B区93－B 343	〃	〃			〃	頂に刺突 RL	茶褐色	淡灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
373	B区93－C 787，789	〃	〃		ミガキ	〃	RL	淡茶白色		淡黒灰色	〃，金雲母	〃	〃	
374	A区P－6黒色細砂	〃	〃			〃	〃	淡暗茶褐色		茶褐色	〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
375	B区西側溝	〃	〃			〃	〃	茶褐色	灰色		〃，〃	〃	〃	
376	B区92－B 59	〃	〃			〃	〃	〃	〃		粗砂，〃	〃	〃	
377	〃 409	〃	〃			〃 ？		淡茶褐色	淡黒灰色		細砂，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
378	B区93－C 118	〃	〃			〃	RL	茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
379	B区92－C 21	〃	〃			〃	擦り？	淡黒褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
380	B区83 7 20	〃	〃		平滑	〃	RL	茶褐色	灰色		微砂，〃	〃	〃	
381	B区92－C 299	〃	〃		〃	〃	〃	淡褐色	黒灰色	淡褐色	〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
382	B区93－C 667	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色			〃	〃	〃	
383	〃 300	〃	〃		平滑	〃	口唇－キザミ RL	茶褐色	淡暗灰色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	67	
384	B区93－C 797	〃	〃			〃	擬縄文	褐色			〃	〃	〃	
385	B区95－D	〃	〃			？		茶褐色			細砂	〃	〃	
386	B区93－B	〃	〃		平滑	磨り消	口唇－キザミ RL	〃			〃，金雲母	〃	〃	132－2
387	B区93－C 846	〃	〃			〃	擬縄文	〃			微砂，〃	〃	〃	
388	B区92－C 893	〃	〃		平滑	磨り消？		淡黄褐色	暗灰色	暗茶灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
389	B区93－C	〃	〃		ミガキ	磨り消	RL					〃	〃	
390	B区西側溝	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
391	B区T－3	〃	〃		〃	〃	〃	淡黄白色	黒灰色		〃，金雲母	〃	〃	
392	B区93－C 385	〃	〃			磨り消？		淡褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
393	A区P－6黒色細砂	〃	〃			磨り消	RL	淡茶灰色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
394	B区92－C 449	後期Ⅰ類	口縁部		平滑	磨り消	LR	茶褐色	淡黒灰色	茶褐色	微砂，金雲母	良	67	・
395	A区P－6黒色細砂	〃	〃		押圧	〃	RL	淡灰褐色			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
396	〃 灰色細砂	〃	〃		平．滑	〃	LR	暗茶褐色		淡暗茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
397	B区93－C 804	〃	〃		ミガキ	〃 ？		茶褐色		暗茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
398	〃 510	〃	〃			〃	円形刺突 L	淡茶褐色			〃，〃	〃	68	
399	B区東側道(東)	中期Ⅵ類	〃			撚糸文		淡茶灰色			〃，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
400	B区93－C 934	後期Ⅰ類	〃		平滑	磨り消	RL	淡茶褐色	灰色	淡茶褐色	〃	〃	〃	
401	B区92－C 1051	〃	〃			〃	LR	茶褐色	淡灰色		〃	〃	〃	
402	A区P－6黒色細砂	〃	〃			〃	撚り？	淡茶灰色	黒褐色		〃	〃	〃	
403	B区93－C 779	〃	〃		ミガキ	〃	RL	〃	淡黒灰色	淡茶灰色	〃	〃	〃	
404	B区92－B 273	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色		淡暗茶褐色	〃，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
405	B区93－C	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	〃	明褐色	暗灰色	暗灰色	〃	〃	〃	
406	A区P－6灰色細砂	〃	〃	平滑	平滑	〃	LR	淡茶灰色			〃，金雲母	〃	〃	
407	〃 黒褐色	〃	〃		〃	〃	RL	暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
408	B区93－F 22	〃	〃			〃	撚り？	茶褐色	淡黒褐色		細砂，金雲母	〃	〃	
409	B区91－B 205	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	RL	暗茶褐色			微砂	〃	〃	
410	A区G9～11	〃	〃		平滑	〃	〃	淡橙色	灰白色		〃，火山ガラス(多)	〃	〃	132－2
411	B区92－C 18	〃	〃		〃	〃	口唇ーキザミ RL	茶褐色	暗灰色	茶褐色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
412	B区94－E	〃	〃		〃	〃	RL	暗茶褐色			〃	〃	〃	
413	B区94－D	〃	口縁部～胴部	巻貝	ミガキ	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
414	B区93－D	〃	口縁部		平滑	〃	LR	淡褐色			〃	〃	〃	133－1
415	A区P－6黒色細砂	〃	口縁部～胴部	平滑		〃	RL	〃	灰色		〃 金雲母 カクセン石	〃	〃	〃
416	B区91－C	〃	口縁部		平滑	〃	LR	淡黒褐色		茶褐色	〃 〃	〃	〃	
417	B区93－C	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	LR	茶灰色	暗灰色	茶灰色	〃	〃	69	
418	B区94－D	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色		淡黒褐色	細砂，雲母	〃	〃	133－1
419	A区G9～11	〃	〃		〃	〃	R	淡橙色			微砂，金雲母，カクセン石	〃	〃	〃
420	B区西側溝	〃	〃		〃	〃	RL	茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
421	B区93－B 284	〃	〃		〃	〃 ？		〃	黒褐色	茶褐色	微砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
422	A区P－6灰色細砂	〃	〃			〃	LR	〃			〃	〃	〃	
423	B区92－B 28	〃	〃		平滑	〃	RL	〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	
424	B区西側溝	〃	〃		〃	〃	撚り？	〃	黒褐色		微砂	〃	〃	
425	B区93－C	〃	〃		〃	〃	〃					，	〃	
426	〃 284	〃	〃		巻貝→平滑	〃	擬縄文	茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	良	〃	
427	〃 1046	〃	〃		平滑	〃	RL	淡黒褐色			細砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
428	B区92－C 309	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色	暗茶褐色		微砂，雲母	〃	〃	

429	B区92－C　580	後期Ⅰ類	口　縁　部		平　滑		円形刺突	淡褐色			微砂，火山ガラス	良	69	
430	B区93－C	〃	〃		〃	磨　り　消	ＲＬ	黒褐色		茶褐色	〃	〃	〃	
431	B区93－B　482	〃	〃			磨り消？		淡黒褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
432	B区西側溝	〃	〃		平　滑	磨　り　消	ＲＬ	茶褐色			細砂，〃，〃	〃	〃	
433	A区Ｐ－6	〃	〃		〃	〃	〃	茶灰色			〃	〃	〃	
434	B区93－D	〃	〃		〃	〃	擬縄文	茶褐色	灰色		微砂　金雲母	〃	70	133－1
435	A区Ｐ－6灰色細砂	〃	〃		〃	〃	〃	〃	黒灰色		〃，〃	〃	〃	
436	〃　灰色砂	〃	〃		〃	〃	〃	〃		暗茶褐色	〃，火山ガラス	〃	〃	
437	B区92－C　92	〃	〃		〃	〃	ＬＲ	〃			細砂	〃	〃	
438	B区西側溝	〃	〃		〃	〃	〃	〃			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
439	A区Ｐ－6黒色細砂	〃	〃		〃	〃	擬縄文	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
440	B区西側溝	〃	〃		〃	〃	〃	淡茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
441	B区93－C　164	〃	〃		ミ　ガ　キ	〃	ＲＬ	茶褐色			〃，〃	〃	〃	
442	A区Ｐ－6黒色細砂	〃	〃			〃	Ｒ	淡褐色			〃，〃，カクセン石	〃	〃	
443	A区Ｐ－6	〃	〃		巻　貝	沈　線　文		茶灰色	暗茶灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
444	B区ＡＲ－2灰色粗砂	〃	〃			〃		茶褐色			細砂	〃	〃	
445	B区92－C　527	〃	〃			〃	円形刺突	〃	淡黒褐色		〃，金雲母	〃	〃	
446	B区93－C	〃	胴　部		巻貝→平滑	磨　り　消	ＲＬ	〃			微砂，〃	〃	71	
447	〃　781	〃	〃		平　滑	〃	〃	暗茶褐色	暗灰色	茶褐色	〃，〃	〃	〃	
448	B区93－C 27,17,8 / B 163,32	〃	〃		巻貝→平滑	〃		茶褐色			〃，〃	〃	〃	
449	B区92－B　350	〃	口　縁　部		平　滑	〃	擬縄文	〃	黒褐色		細砂	〃	〃	133－1
450	〃　418	〃	〃			〃	〃	〃	暗灰色		微砂，金雲母	〃	〃	
451	B区93－D	〃	〃			〃	〃	淡暗茶灰色	黒褐色	淡灰白色	〃，〃	〃	〃	
452	B区93－C　240,241	〃				沈　線　文		茶褐色	暗灰色		細砂，〃，火山ガラス	〃	72	133－1
453	〃　41	〃	〃		平　滑	磨　り　消	ＲＬ	〃	黒褐色	茶褐色	微砂，カクセン石，〃	〃	〃	
454	A区Ｃ9～11	〃	〃			沈　線　文		淡橙色		暗灰色	〃，〃，雲母	〃	〃	
455	B区92－C　163	〃	胴部～底部		平　滑	磨　り　消	ＬＲ	茶褐色			粗砂，金雲母	〃	〃	133－2
456	B区東側道(東)	〃	口　縁　部		〃	沈　線　文		淡茶灰色			微砂	〃	〃	
457	B区93－C　181	〃	〃		〃	〃		暗茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	細砂	〃	〃	
458	B区92－C　306	〃	〃		〃	磨　り　消	擬縄文	茶褐色		〃	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
459	B区西側溝	〃	〃	巻　貝	〃	沈　線　文		〃	黒褐色		粗砂，〃，〃	〃	〃	
460	B区93－C　999	〃	〃		〃	〃		淡褐色			微砂	〃	〃	
461	〃　670	〃	〃		〃	〃		暗茶褐色	黒褐色		〃，金雲母	〃	〃	
462	B区92－B　367	〃	〃		ミ　ガ　キ	磨　り　消	ＲＬ	茶褐色			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
463	B区95－D　285	〃	口縁部～胴部			〃		褐色			〃，火山ガラス	〃	73	
464	B区93－C　680	〃	口　縁　部		巻　貝	沈　線　文		茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
465	B区93－ＤＥ土堤	〃	〃		平　滑	〃		〃			微砂，〃，金雲母	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
466	B区93－C 1170	後期Ⅰ類	口縁部	巻貝→平滑	平滑	沈線文		暗茶褐色	淡黒褐色		微砂，金雲母，火山ガラス	良	73	
467	〃 460	〃	〃		〃	〃		茶褐色			細砂，〃，〃	〃	〃	
468	B区92－C 587,487	〃	〃	巻貝→平滑	〃	〃		淡褐色		茶褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
469	A区G9－11	〃	〃	巻貝	〃	〃		淡茶褐色	茶灰色		〃，雲母	〃	〃	
470	B区93－B 382	〃	〃	〃	〃	〃		明褐色			〃．金雲母	〃	〃	
471	B区92－C 738	〃	〃		〃	〃		暗茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	細砂	〃	〃	
472	B区93－C 34	〃	〃			〃		〃			微砂	〃	74	
473	B区92－C 880	〃	〃	巻貝→平滑	平滑	〃		淡茶褐色			〃．金雲母，火山ガラス	〃	〃	
474	B区92－E	〃	〃		〃	〃		茶褐色			〃，〃，〃	〃	〃	
475	B区西側溝	〃	口縁部－胴部		巻貝	磨り消	RL	黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
476	B区93－C 720,721,722	〃	口縁部	巻貝	平滑	沈線文		茶褐色			微砂，〃，金雲母	〃	〃	
477	B区94－C	〃	〃	〃	〃	〃						〃	〃	
478	A区P－6黒色細砂	〃	〃			〃		淡褐色	灰色		微砂，火山ガラス	〃	〃	
479	B区92－C 21	〃	〃	平滑	平滑	〃		淡灰白色	淡黒灰色		細砂	〃	〃	
480	B区93－C 252	〃	〃		〃	〃		茶褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
481	A区P－6灰色細砂	〃	〃			〃		〃		暗茶褐色	〃，〃	〃	〃	
482	B区92－C 410	〃	〃		上下条痕 平滑	〃		赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	細砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
483	B区西側溝	〃	〃	巻貝	平滑	〃		淡灰白色	黒灰色		微砂，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
484	B区93－B 292	〃	〃			〃		暗茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
485	B区93－C 408	〃	〃		平滑	〃		淡褐灰色			微砂，〃	〃	〃	
486	B区91－B 218	〃	〃			〃		茶褐色		暗茶褐色	〃，〃	〃	〃	
487	B区94－D	〃	〃		平滑	〃	口唇－キザミ	〃	暗灰色		細砂	〃	75	
488	B区93－C 729	〃	〃		〃	〃		淡褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
489	B区92－C 162	〃	〃		〃	〃		淡茶灰色			細砂，〃，〃	〃	〃	
490	B区92－B 278	〃	〃	巻貝→平滑		磨り消	口唇－キザミ 擬縄文	茶褐色			〃，〃	〃	〃	
491	〃 472	〃	〃		平滑	沈線文		〃	暗灰色	淡茶灰色	微砂	〃	〃	
492	B区92－C 795	〃	〃		〃	磨り消	口唇－キザミ LR	〃			細砂	〃	〃	
493	〃 754,755 1259,177	〃	〃	平滑	〃	沈線文		淡黄灰色	灰色		微砂	〃	〃	
494	B区93－C 43	〃	〃	巻貝	〃	〃		茶褐色	暗灰色		〃．金雲母，火山ガラス	〃	〃	
495	B区92－C 981,978	〃	〃			〃		赤褐色	暗茶褐色		〃，〃，〃	〃	〃	
496	〃 544	〃	〃		平滑	磨り消		茶褐色	灰色	茶褐色	〃，〃，〃	〃	〃	
497	A区P－6 黒色細砂	〃	〃			沈線文		〃	黒褐色		〃	〃	〃	
498	B区92－B・C 土堤	〃	〃	巻貝→平滑		磨り消	擬縄文	赤褐色			〃	〃	〃	
499	B区93－C 248	〃	〃	〃	押圧痕	沈線文		茶褐色			〃．金雲母	〃	〃	
500	A区G9～11	〃	〃			〃		淡橙色			〃，〃，カクセン石	〃	〃	

501	A区G9～11	後期Ⅰ類	口縁部	巻貝	平滑	沈線		茶褐色	淡灰色		細砂，金雲母，火山ガラス	良	75	
502	A区P－6 黒色細砂	〃	〃		〃	磨り消	擬縄文	〃			微砂，火山ガラス	〃	〃	
503	B区92－C 1062.1027 1029.1025	〃	口縁部～胴部			沈線文		暗茶褐色			細砂，金雲母，火山ガラス	〃	76	
504	A区P－6 黒色細砂	〃	口縁部			〃		茶褐色	灰色		〃，火山ガラス(多)，雲母	〃	〃	133－2
505	B区西側溝	〃	〃		平滑	〃	口巻ーキザミ	暗茶褐色			微砂，カクセン石，〃	〃	〃	
506	B区93－C 744	〃	〃		〃	〃		淡茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
507	B区西側溝	〃	〃			〃		淡灰白色	暗灰色		〃，〃	〃	〃	
508	B区93－C 744	〃	〃		平滑	磨り消	撚り？	淡茶褐色			〃，〃	〃	〃	
509	A区P－6	〃	胴部		〃	〃	LR	茶褐色			細砂，火山ガラス	〃	〃	
510	B区93－C・D土堤	〃	〃	巻貝	ミガキ	〃	RL	〃	暗灰色		微砂，金雲母，カクセン石	〃	〃	
511	B区93－B 320	〃	〃		平滑	〃	〃	淡茶褐色	淡黒褐色		細砂，〃，火山ガラス	〃	77	133－2
512	B区93－C 410	〃	〃		〃	〃	〃	淡明褐色			微砂，〃，〃	〃	〃	
513	B区93－B 31	〃	〃		〃	〃？		茶褐色	明褐色		〃，〃	〃	〃	
514	B区93－C 854	〃	〃			〃	RL	淡黒褐色			〃，〃	〃	〃	
515	A区G9～11	〃	〃		平滑	〃	〃	淡橙色			〃，カクセン石，雲母	〃	〃	133－2
516	A区P－6 黒色細砂	〃	〃		〃	〃	〃	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
517	B区93－B 48	〃	〃			〃	カワアイの擬縄文	暗茶褐色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	
518	B区92－C 844	〃	〃		平滑	磨り消？		淡茶褐色			細砂，〃；火山ガラス	〃	〃	
519	B区93－C	〃	〃		ミガキ	磨り消	撚り？	淡乳褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
520	B区93－F 1	〃	〃		平滑	〃	RL	褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
521	B区93－C	〃	〃			〃	〃	淡乳褐色	淡灰色	淡乳褐色	微砂，〃，カクセン石	〃	〃	
522	A区P－6 灰色粗砂	〃	胴部～底部	平滑	平滑	〃	〃	暗茶褐色			〃，〃	〃	〃	
523	A区G9～11	〃	胴部		〃	〃	〃	淡橙色			細砂	〃	78	
524	B区92－C 1144	〃	〃			〃？		淡茶褐色	黒褐色		微砂，火山ガラス	〃	〃	
525	B区95－D	〃	〃		平滑	〃	RL	茶褐色	〃	茶褐色	〃，〃	〃	〃	
526	B区92－B 4	〃	〃			〃	〃	〃	〃	〃	〃，金雲母	〃	〃	
527	A区G9～11	〃	〃		ミガキ	〃	撚り？	赤褐色	〃		〃，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	133－2
528	B区94－E	〃	〃		平滑	〃	LR	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
529	B区92－B 219	〃	〃		〃	〃	RL	〃			〃，〃	〃	〃	
530	B区93－C 685	〃	〃		〃	〃	〃	〃	淡灰色	茶褐色	細砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
531	B区92－B 294	〃	〃		〃	〃	LR	〃	暗灰色	〃	微砂，〃，〃	〃	〃	
532	B区92－C 198	〃	〃		〃	〃	撚り？	〃			〃，〃，〃	〃	〃	
533	B区93－C 536	〃	〃		〃	〃	RL	淡黄褐色			〃，〃	〃	〃	
534	〃 276	〃	〃		〃	〃	〃	赤褐色			〃	〃	〃	
535	〃 86	〃	〃		〃	〃	撚り？	淡褐色	灰色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
536	A区P－6 灰色砂	〃	〃		風化	〃	R	茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
537	B区92－C 636	〃	〃		平滑	〃	撚り？	淡茶灰色	淡黒灰色	淡黄灰色	〃	〃	79	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
538	B区92－B・C土壌	後期Ⅰ類	胴部		平滑	磨り消	RL	明褐色			微砂，火山ガラス	良	79	
539	B区93－C 875	〃	〃		〃	〃	押し引き RL	茶褐色	暗茶灰色	暗茶灰色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
540	B区92－C 225	〃	〃		〃	〃	RL 円形刺突	〃	暗灰色		〃，〃	〃	〃	
541	〃 596	〃	〃		〃	〃	L	〃	灰色	茶褐色	金雲母，火山ガラス，カクセン石	〃	〃	
542	B区92－B 252	〃	〃			〃	撚縄文	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
543	B区93－C 623,627	〃	〃		平滑	〃	RL	茶褐色	暗灰色	茶褐色	微砂	〃	〃	
544	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃		〃	〃	〃	淡茶灰色			細砂，金雲母	〃	〃	
545	A区P－6 灰色細砂	〃	〃		〃	〃	円形刺突 LR	茶褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
546	B区93－C 57	〃	〃		〃	〃	LR	〃			〃，金雲母	〃	〃	
547	A区P－6 黒褐色	〃	〃		巻貝→平滑	〃	RL	暗茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
548	B区93－C 164	〃	〃			〃	〃	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
549	B区88－D	〃	〃			〃	カワアイ撚縄文	暗茶褐色	淡黒灰色	茶褐色	粗砂	〃	〃	
550	B区94－D	〃	〃			〃	楕円刺突 〃	茶褐色	淡黒褐色	淡黄白色	微砂，雲母	〃	〃	
551	A区P－6 黒色細砂	〃	〃			〃	カワアイ 〃	〃			〃，金雲母	〃	〃	
552	B区AR－2灰色粗砂	〃	〃		平滑	〃	撚縄文	暗茶灰色		淡暗茶灰色	〃，〃	〃	〃	
553	A区P－6 灰色細砂	〃	口縁部			沈線文		淡明褐色			〃，〃	〃	80	
554	B区T－3	〃	胴部		平滑	〃		淡黄褐色			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
555	A区P－6 灰色細砂	〃	〃		〃	〃		暗茶褐色		暗茶灰色	〃，〃 (多)，〃 (多)	〃	〃	
556	B区92－C 882	〃	〃		〃	〃		茶褐色	黒褐色		〃，〃，〃	〃	〃	
557	B区93－C 719	〃	〃		〃	〃		暗茶褐色	淡黒褐色	茶褐色	細砂	〃	〃	
558	B区92－B 73	〃	〃		巻貝→平滑	〃		〃	〃		〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
559	B区AR－2 灰色細砂	〃	〃	巻貝	平滑	〃		茶褐色	暗茶褐色		〃，〃，〃 (多)	〃	〃	
560	B区92－C 715	〃	〃	巻貝→平滑	〃	〃		〃	黒褐色		〃，〃，〃	〃	〃	
561	〃 1320	〃	〃			〃		淡褐色			〃，〃	〃	〃	
562	〃 502	〃	〃			〃		暗茶褐色	黒褐色		微砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
563	〃 319	〃	〃	巻貝	平滑	〃		淡暗茶褐色	〃	茶褐色	〃，〃，〃 (多)	〃	〃	
564	B区93－B 847	〃	〃		〃	磨り消	撚り？	茶褐色		茶灰色	〃，〃	〃	〃	
565	B区94－C・D	〃	底部	巻貝	〃	〃		〃	黒褐色		〃	〃	81	
566	B区91－C	〃	口縁部－胴部		〃	〃	RL	〃		茶灰色	〃，金雲母	〃	〃	
567	B区91－B 17.14.257	〃	口縁部			〃	撚縄文	〃	茶灰色		金雲母，カクセン石，火山ガラス	〃	82	
568	B区92－C 17	〃	胴部		平滑	〃	〃	赤褐色			〃，〃，〃	〃	〃	
569	〃 961	〃	〃		〃	沈線文		淡茶褐色	暗茶灰色	赤褐色	粗砂，金雲母，〃	〃	〃	
570	A区P－6 黒色細砂	〃	〃			〃		茶褐色			微砂，〃，〃 (多)	〃	〃	
571	〃	〃	〃		平滑	磨り消	撚り？	〃			〃，〃	〃	〃	
572	B区93－C	〃	〃		〃	沈線文		〃	暗灰色	淡灰色	細砂	〃	〃	

573	A区P－6 黒色細砂	後期Ⅰ類	胴部		巻貝	沈線文		淡茶灰色	暗灰色		細砂	良	82	
574	B区92－C 1140	〃	〃			〃		茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
575	B区88－D	後期Ⅱ類	口縁部～胴部		巻貝→平滑	〃		暗茶灰色		茶褐色	粗砂，〃，〃	〃	83	134－1
576	B区93－C 116	〃	口縁部		ミガキ	磨り消	RL	茶褐色			微砂，〃，〃	〃	〃	
577	B区94－E	〃	〃			〃	〃	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
578	B区93－C 979	〃	〃			〃	〃	〃	黒褐色		微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
579	B区93－B 25	〃	〃			〃	撚り？	茶褐色	暗灰色		〃，〃，〃	〃	〃	
580	B区93－C 176	〃	〃		ミガキ	〃	〃？	褐色			金雲母，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
581	〃 577	〃	〃		平滑	〃	内.外－RL	黒褐色		暗茶褐色	微砂	〃	84	134－1
582	B区94－C	〃	〃		ミガキ	〃	RL	淡黒褐色	黒褐色		〃，金雲母	〃	〃	
583	B区94－B	〃	〃		平滑	〃	〃	茶褐色	灰色		細砂，カクセン石，火山ガラス	〃	〃	
584	B区94－D	〃	〃		〃	沈線文		淡茶褐色	黒灰色		微砂	〃	〃	134－1
585	B区93－C	〃	〃			磨り消	撚り？	茶褐色		黒褐色	〃	〃	〃	
586	B区93－B 24	〃	〃	ミガキ		〃	〃？	〃			〃	〃	〃	
587	B区92－C 328	〃	〃		平滑	〃	RL	〃		暗茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
588	B区92－B 440	〃	〃	平滑		〃	〃	褐色			〃	〃	〃	
589	B区93－C	〃	〃	ミガキ		〃	撚り？	淡灰色			〃，金雲母	〃	〃	
590	B区西側溝	〃	〃		平滑	〃	RL	茶褐色	黒褐色		〃 〃	〃	85	
591	B区93－C 63	〃	〃		ミガキ	〃	撚り？	暗茶灰色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
592	B区93－C 150	〃	〃		〃	〃	RL	〃			〃	〃	〃	
593	B区西側溝	〃	〃		平滑	〃	〃	淡暗茶褐色			細砂	〃	〃	
594	B区93－C	〃	〃	ミガキ		〃	〃	淡明褐色	暗灰色	淡明褐色	〃，金雲母	〃	〃	
595	〃	〃	〃	〃		〃	〃	淡茶褐色	〃	淡茶褐色	微砂，〃	〃	〃	
596	B区西側溝	〃	〃	平滑		〃	〃	〃			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	134－1
597	B区92－C 73	〃	〃		風化	〃	〃	茶褐色			細砂，〃，〃	〃	〃	
598	B区93－B 22	〃	〃		ミガキ	〃	撚り？	茶灰色	暗灰色	茶褐色	微砂，〃	〃	〃	
599	B区93－C 171	〃	〃		平滑	〃	RL	淡茶灰色			〃	〃	〃	
600	B区西側溝	〃	〃	平滑	〃	〃	〃	茶褐色			〃，火山ガラス(多)，金雲母(多)	〃	〃	
601	B区92－B 302	〃	〃			〃		〃	暗灰色	茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
602	B区93－C	〃	胴部		ミガキ	〃	RL	〃			〃，〃，カクセン石	〃	86	
603	B区東側道(東)	〃	口縁部～胴部			〃	撚り？	暗茶褐色		淡黒褐色	粗砂，火山ガラス	〃	〃	
604	A区P－6 黒色細砂	〃	胴部		ミガキ	〃	RL	茶褐色		淡黒灰色	微砂	〃	〃	
605	B区93－F 21	〃	〃		平滑	〃	〃	〃			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
606	B区92－B	〃	〃		〃	〃	〃？	〃		淡黒褐色	〃，〃	〃	〃	
607	B区94－D	〃	〃		〃	〃	撚り？	〃	茶灰色		〃	〃	〃	
608	B区93－B 34	〃	〃		巻貝→平滑	〃	〃？	淡灰色	暗灰色	淡灰色	〃，金雲母	〃	〃	
609	A区P－6 黒色細砂	後期Ⅲ類	口縁部			〃	RL	茶褐色	黒褐色		〃，〃，火山ガラス	〃	87	134－2

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
610	B区93－C 167	後期Ⅲ類	口縁部		平滑	磨り消	撚り？	茶褐色			微砂	良	87	
611	A区P－6 黒色細砂	〃	〃		〃	〃	RL	淡灰白色			〃，金雲母	〃	〃	
612	〃 黒色細砂	〃	〃	平滑	〃	〃	〃	淡茶灰色	灰色		〃	〃	〃	134－2
613	〃	〃	〃		サッ痕		〃	淡黒灰色	〃		細砂，火山ガラス	〃	〃	
614	〃 黒色細砂	〃	〃			磨り消	〃	茶褐色	淡黒灰色		微砂，金雲母	〃	〃	
615	〃 黒褐色	〃	〃	平滑	平滑	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
616	〃 黒色細砂	〃	〃	〃	〃		口唇－縄文					〃	〃	
617	〃 〃	後期Ⅳ類	口縁部～胴部		巻貝→平滑	磨り消	RL	淡橙色			微砂，カクセン石，金雲母	〃	〃	134－2
618	B区西側溝	〃	〃		平滑		〃	灰白色	黒灰色		〃，金雲母	〃	〃	
619	〃	〃	口縁部	平滑	〃		LR	淡橙色	灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
620	A区P－6 黒褐色	〃	胴部	巻貝→RL	サッ痕→平滑		垂下条線	茶褐色	黒褐色		〃，〃	〃	〃	
621	〃 灰色粗砂	〃	〃		平滑	縄文	RL	淡灰白色		明灰色	細砂	〃	〃	
622	〃 〃	〃	〃		上：平滑 下：条痕		〃	茶灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
623	B区93－C 275	〃	〃		平滑	磨り消	LR	茶褐色			細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
624	A区P－6 黒色細砂	〃	〃		〃		RL	〃			微砂，金雲母(多)	〃	〃	
625	B区92－F 57	〃	〃		ミガキ	磨り消	LR	淡茶褐色			〃，〃	〃	〃	
626	A区P－6	〃	〃		平滑		垂下条線	茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
627	〃 黒色細砂	〃	〃		〃	磨り消	〃	〃			〃，雲母	〃	〃	
628	B区AR－2 灰色粗砂	〃	口縁部	サッ痕			RL 内－縄文，沈線	茶灰色		淡黒褐色	〃 〃	〃	88	
629	A区P－6 黒色細砂	後期Ⅴ類	〃	平滑	平滑		内－沈線，キザミ	淡黒褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	134－2
630	〃	〃	〃	〃	〃		〃	茶褐色	暗茶褐色		〃，〃	〃	〃	
631	〃 灰色粗砂	〃	〃	〃	〃	沈線文	〃	暗茶灰色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
632	〃 〃	〃	〃	〃	ミガキ	〃	キザミ ヘラ沈線	〃			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
633	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃	〃	平滑	〃	内－沈線，キザミ	淡褐色	暗灰色		〃，〃	〃	〃	
634	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	〃	〃	内 外－沈線	淡茶灰色	〃	淡茶灰色	〃，〃	〃	〃	
635	〃 〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃	キザミ	暗茶褐色			〃，〃，カクセン石(多)	〃	〃	
636	〃 〃	後期Ⅳ類	〃				縄文？	明褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
637	B区AR－2 灰色粗砂	後期Ⅴ類	〃	平滑	平滑	キザミ		暗茶灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	134－2
638	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	巻貝→平滑	ミガキ			茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
639	〃 灰色細砂	後期Ⅵ類	〃	平滑	平滑	巻貝→沈線文	巻貝の刺突	淡茶灰色			〃	〃	〃	
640	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	キザミ	淡灰白色		淡暗灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
641	A区P－6 灰色粗砂	〃	〃	巻貝	〃	〃	内－巻貝 沈線	茶褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
642	〃 黒色細砂	〃	〃	巻貝→平滑	〃	〃	内－1	〃			〃	〃	〃	
643	〃 灰色砂	〃	〃	〃	平滑	〃	2本	〃			〃 金雲母	〃	89	
644	B区95－D	〃	〃	平滑	〃	沈線文		淡暗茶褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	

645	A区P－6 灰色細砂	後期VI類	口縁部	平滑	平滑	巻貝→沈線文	内－1	淡灰白色	灰色		微砂	良	89	
646	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃		〃	〃		〃	〃		細砂	〃	〃	134－2
647	A区P－6	〃	〃	平滑	〃	〃	外－1 内－2	明褐色			微砂	〃	〃	
648	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	〃	〃	沈線内ミガキ	黒灰色			〃	〃	〃	
649	〃 黒色細砂	〃	〃	〃	〃	〃		暗茶褐色			〃	〃	〃	
650	〃 灰色砂	〃	〃		巻貝	〃	3本	淡黒灰色		淡灰白色	細砂，金雲母	〃	〃	
651	〃 黒色細砂	〃	〃		巻貝→沈線文	〃	〃	黒褐色			微砂	〃	〃	134－2
652	〃 灰色粗砂	〃	〃	平滑		〃	内－1 外－3	〃			〃	〃	〃	
653	〃 黒色細砂	〃	〃	下－サッ痕	ミガキ	〃	ミガキ	淡茶灰色	暗茶灰色		〃，金雲母	〃	〃	134－2
654	〃 〃	〃	〃		平滑	〃	〃	淡暗茶灰色		暗茶灰色	〃，雲母	〃	〃	
655	〃 灰色細砂	〃	〃			〃	4本	淡褐色	暗灰色		〃	〃	〃	
656	〃 黒色細砂	〃	〃		平滑	〃	5本	淡茶灰色	茶灰色		〃	〃	〃	
657	〃 灰色砂	〃	〃	ミガキ	巻貝→ミガキ	〃	3本	暗茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
658	A区P－6 灰色砂	〃	〃		巻貝	〃	3本	淡黒褐色			〃，雲母	〃	〃	
659	〃 黒色細砂	〃	〃		平滑	巻貝	ミガキ	茶褐色			〃，金雲母	〃	〃	
660	〃 灰色細砂	〃	〃		〃	巻貝→沈線文	扇状圧痕 ミガキ	淡茶灰色			細砂，〃	〃	〃	
661	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃	平滑	〃	沈線文	キザミ	淡暗灰色		淡黒灰色	〃，〃	〃	〃	
662	A区P－6	〃	〃		アルカ属条痕→ミガキ	〃	〃 ヘラ沈線	茶灰色	暗灰色		微砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
663	〃	〃	〃				沈線 キザミ	淡茶灰色	淡黒灰色	灰白色	〃，〃，〃	〃	90	134－2
664	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃			沈線	キザミ	茶褐色	黒灰色		〃，〃，〃	〃	〃	〃
665	A区P－6	〃	〃		平滑	巻貝→沈線文	〃	〃			〃，火山ガラス	〃	〃	
666	〃 黒色細砂	〃	〃	巻貝		〃	〃	淡黒褐色			細砂	〃	〃	
667	〃 〃	〃	〃			〃	〃 刺突	淡黒灰色			〃	〃	〃	
668	A区P－6	〃	胴部			〃	巻貝の圧痕	淡黒褐色		茶灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
669	〃	後期	口縁部		条痕→ミガキ	磨り消	し	暗茶褐色			微砂，カクセン石(多)	〃	〃	
670	〃 灰色砂	〃	〃	巻貝			内一段	茶褐色		淡暗灰色	〃，金雲母	〃	〃	
671	B区92－C 894	〃	〃	風化	風化		口唇一縄文	〃			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
672	A区P－6	〃	胴部		平滑		巻貝側面回転圧痕	茶灰色	灰色		微砂	〃	〃	
673	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃		条痕		キザミ一刺突	暗茶褐色		茶褐色	細砂，金雲母，火山ガラス(多)	〃	〃	
674	A区P－6 灰色砂	〃	〃		平滑	磨り消	擬縄文	淡茶褐色			微砂	〃	〃	
675	〃	〃	〃				キザミ一沈線	茶褐色			〃	〃	〃	
676	〃 黒色細砂	〃	〃		平滑	磨り消	〃 一擬縄文	〃		茶灰色	〃，雲母	〃	〃	
677	〃 灰色細砂	〃	〃		押圧→平滑	〃	擬縄文	〃	淡暗灰色	暗灰色	〃	〃	〃	134－2
678	B区92－C 203	後期I類	口縁部	巻貝→平滑	平滑		口唇一円形刺突	〃		暗茶褐色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	91	
679	〃 255	〃	〃	〃	巻貝→平滑			〃			〃，〃，〃	〃	〃	〃
680	B区93－C 151	〃	〃	〃	平滑		口唇一キザミ	淡茶褐色	淡灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
681	B区92－B 495	〃	口縁部一胴部	巻貝	〃		〃	茶褐色	暗灰色	暗茶灰色	細砂，金雲母	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
682	B区93－B 283	後期Ⅰ類	口縁部	平滑	巻貝→平滑		口唇－キザミ	茶褐色	黒褐色	暗茶褐色	細砂，金雲母	良	91	
683	B区92←C 1106	〃	〃	〃	平滑		〃	淡褐色	〃		微砂，〃	〃	〃	
684	B区94－D	〃	口縁部～胴部	巻貝	巻貝→平滑		〃	〃	茶灰色		細砂，〃	〃	〃	
685	B区93－C 689	〃	口縁部	上平滑下サッ痕	平滑		押し引き	茶褐色	暗茶褐色		微砂	〃	〃	
686	B区93－C・D	〃	〃	巻貝→平滑	〃		口唇－円形刺突	淡黄灰色	黒褐色		〃，金雲母，カクセン石	〃	〃	
687	B区92－C	〃	〃	巻貝	〃		〃	茶褐色	黒灰色		細砂，火山ガラス	〃	92	
688	B区93－C 291	〃	〃	平滑	〃		〃	淡褐色			微砂，金雲母，〃	〃	〃	
689	B区92－C 54	〃	〃	〃	〃		口唇端－円形刺突	茶褐色	黒褐色	茶褐色	細砂，〃	〃	〃	
690	B区93－B 349	〃	〃	巻貝→平滑	〃		口唇－円形刺突	〃	暗灰色	〃	〃，〃	〃	〃	
691	〃 125	〃	〃	平滑	〃		口唇－刺突	淡茶褐色			〃，〃	〃	〃	
692	B区93－C 15	〃	〃	〃	〃			茶褐色	淡黒灰色		微砂，〃	〃	〃	
693	B区93－B 30	〃	〃	〃			縄文？	暗茶灰色			細砂	〃	〃	
694	B区92－C 201	〃	口縁部～胴部	巻貝→平滑	平滑		口唇－キザミ	茶褐色			粗砂	〃	〃	
695	B区93－B	〃	〃	〃	巻貝→平滑		〃	〃			微砂，火山ガラス	〃	〃	
696	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	平滑		〃	淡褐色			細砂，金雲母	〃	〃	135－1
697	B区92－C 1076	〃	〃	〃	押圧→平滑		〃	淡灰褐色	暗灰色	茶褐色	微砂，火山ガラス	〃	〃	
698	B区93－B 74	〃	口縁部	平滑	平滑		口唇－ハ状キザミ	淡茶灰色			〃，金雲母	〃	93	
699	B区93－C 255	〃	〃	サッ痕	〃		口唇－キザミ	暗茶褐色		淡黒褐色	細砂，〃	〃	〃	
700	B区92－C 1103	〃	〃	平滑	〃		〃	〃	黒褐色		微砂，〃	〃	〃	
701	B区93－B 86	〃	〃	ミガキ	〃		〃	褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
702	B区T－3	〃	口縁部～胴部	巻貝→平滑	〃							〃	〃	135－1
703	B区92←B 403	〃	〃	〃	巻貝→平滑			暗茶褐色	暗灰色	茶褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
704	B区93－C 100	〃	口縁部	巻貝	巻貝			茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
705	〃 157,159	後期Ⅰ～Ⅱ類	口縁部～胴部	平滑	ナデ状			赤褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	94	
706	B区92－C 30	〃	口縁部	巻貝	巻貝→平滑			暗茶褐色			〃，〃	〃	〃	
707	B区93－C 814	〃	〃	カワアイ巻貝	平滑			〃			細砂，火山ガラス	〃	〃	
708	B区92－B 340	〃	〃	巻貝	巻貝→平滑			茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	135－1
709	B区93－C 186	〃	〃	巻貝→平滑	〃			淡明褐色	淡灰色	淡灰褐色	〃，〃，カクセン石	〃	〃	
710	〃 915	〃	口縁部～胴部	ハクリ	ハクリ			淡褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
711	B区92－C 906	〃	口縁部	巻貝	平滑			淡茶褐色	茶灰色		細砂，〃，〃	〃	〃	
712	〃 929	〃	口縁部～胴部	〃	巻貝→平滑			茶灰色	淡黒褐色	茶灰色	微砂，〃	〃	95	135－1
713	〃 280	〃	口縁部	巻貝→平滑	平滑			茶褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
714	〃 668	〃	〃	巻貝	〃			暗茶灰色	暗灰色	茶灰色	粗砂，〃，カクセン石	〃	〃	135－1
715	B区92－B 296	〃	口縁部～胴部	巻貝→平滑	〃			茶褐色			細砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
716	B区92－C 1088	〃	〃	上平滑下サッ痕	〃	爪形文	つ形	〃	黒灰色		微砂	〃	〃	

717	B区92－C 889,1019 1018	後期Ⅰ－Ⅱ類	口縁部～胴部	上平滑 下サッ痕	平滑			明褐色			細砂，金雲母，火山ガラス	良	95	
718	〃 320	〃	〃	〃	風化			淡褐色			〃，〃	〃	〃	
719	〃 731	〃	〃	巻貝→平滑	平滑			暗茶褐色	淡黒灰色		〃 〃	〃	96	
720	B区93－C 68	〃	〃	巻貝	巻貝			茶褐色			微砂	〃	〃	
721	〃 184	〃	〃	巻貝→平滑	巻貝→平滑			淡乳褐色			〃，金雲母	〃	〃	
722	〃 149	〃	〃	〃	平滑			暗茶褐色			細砂，〃	〃	〃	
723	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	〃			茶褐色	暗茶褐色	茶褐色	微砂，〃	〃	〃	
724	B区92－C 1114 1115	〃	口縁部	カワアイ巻貝	〃			暗茶褐色			細砂，〃，カクセン石	〃	〃	
725	B区93－C	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			微砂	〃	〃	
726	B区95－D 388	〃	〃	アルカ属条痕→サッ痕	アルカ属条痕			〃		暗黒褐色	細砂，金雲母	〃	〃	
727	B区93－C 166	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色			微砂，〃	〃	〃	
728	〃 155	〃	〃	巻貝→平滑	〃			〃			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
729	〃 361	〃	〃	〃	巻貝→平滑			淡黒褐色			細砂	〃	〃	
730	〃	〃	口縁部～胴部	〃	平滑			褐色				〃	97	
731	B区92－B 356	〃	口縁部	巻貝	巻貝			茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
732	B区92－C 172,173	〃	〃	平滑	平滑			暗赤褐色			〃，〃，〃	〃	〃	
733	〃 170	〃	〃	巻貝→平滑	〃			淡茶褐色	暗灰色	茶褐色	〃，〃，〃	〃	〃	
734	〃 184		〃	平滑	〃			暗茶褐色	茶褐色		細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
735	A区P－6 黒色細砂	後期Ⅴ－Ⅵ類	〃	巻貝→平滑	巻貝			暗灰色		茶褐色	微砂，金雲母	〃	〃	135－2
736	〃 灰色細砂	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			茶褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	
737	〃 黒色細砂	後期Ⅰ類	口縁部～胴部	巻貝	巻貝→平滑			淡黒灰色		茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	135－1
738	B区92－C	〃	〃	巻貝→平滑	条痕→平滑			淡橙色		淡茶灰色	〃，火山ガラス(多)，カクセン石	〃	98	
739	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色			細砂，金雲母	〃	〃	
740	B区92－C 1053	〃	口縁部	巻貝	〃			黒褐色	黒褐色	茶褐色		〃	〃	
741	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	巻貝→平滑	巻貝→平滑			茶灰色	暗灰色		微砂，金雲母	〃	〃	
742	B区93－C 1042	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色			〃，〃	〃	〃	
743	A区P－6 灰色細砂	後期Ⅲ類	〃	巻貝→平滑	巻貝→平滑			淡褐色	淡黒灰色	淡褐色	〃，〃	〃	〃	135－2
744	〃 黒色細砂	〃	〃	巻貝	〃			淡茶褐色	〃		〃，〃	〃	〃	〃
745	〃 〃	〃	〃	平滑	平滑			明褐色			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	〃
746	〃 〃	〃	〃	巻貝	〃			淡灰白色	黒褐色	黒褐色	金雲母，カクセン石，火山ガラス	〃	99	
747	〃 〃	〃	〃	平滑	巻貝			茶褐色		淡黒褐色	微砂，金雲母	〃	〃	
748	〃 〃	〃	〃	〃	平滑			〃			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
749	〃 〃	〃	〃		〃		キザミ	〃			〃，〃	〃	〃	
750	〃 〃	〃	〃	平滑	〃			淡茶灰色		茶灰色	〃，火山ガラス	〃	〃	
751	〃 灰色細砂	〃	〃	〃	〃			茶褐色	淡黒褐色	茶褐色	〃	〃	〃	
752	〃 灰色粗砂	〃	〃	風化	〃			淡茶灰色			〃	〃	〃	
753	B区西側溝	後期Ⅱ類	〃	巻貝	〃			淡黒灰色		茶灰色	〃，カクセン石	〃	〃	135－2

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
754	B区91－B 1	後期Ⅱ類	口縁部		平滑		輪積み	茶褐色	黒褐色		粗砂，金雲母	良	99	
755	B区93－C 807	〃	〃	平滑	〃			〃	淡黒灰色		〃，〃	〃	〃	
756	〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			褐色		暗茶褐色	微砂	〃	〃	
757	B区93－B 109	〃	〃	巻貝→平滑	平滑			暗茶褐色	淡黒褐色		細砂	〃	〃	
758	B区西側溝		口縁部～胴部	アルカ属条痕→平滑	〃	爪形文	キザミ	茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	100	136－1
759	〃	晩期Ⅳ類	〃	アルカ属条痕	〃	〃	○形	〃			〃	〃	〃	〃
760	A区P－6 黒色細砂	〃	口縁部	平滑	〃	突帯	口唇－突帯，キザミ	淡茶灰色			〃	〃	〃	
761	B区94－D	〃	〃	風化	風化	〃	口唇－キザミ 突帯－爪形	淡茶褐色			〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
762	B区西側溝	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	平滑	〃	口唇－突帯，キザミ	暗茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
763	〃	〃	〃	平滑	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
764	B区93－B 10	〃	〃	サッ痕	〃	〃	〃	茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
765	B区93－C	〃	〃		〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
766	B区西側溝	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	〃	〃	〃	暗茶褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
767	〃	〃	口縁部～胴部	上風化下サッ痕	細い条痕	爪形文	口唇－突帯	淡茶褐色		茶褐色	粗砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	136－1
768	〃	〃	口縁部	アルカ属条痕	平滑	突帯	〃	淡黄灰色		淡茶灰色	細砂，カクセン石	〃	〃	
769	〃	〃	〃	平滑	〃	〃	〃	淡橙色		淡黒褐色	〃，金雲母	〃	101	
770	A区P－6 黒色細砂	晩期Ⅴ類	〃	〃	〃	〃	〃	淡灰白色	灰色		微砂	〃	〃	
771	B区西側溝	晩期Ⅲ類	〃	〃	〃	沈線文	口唇－キザミ	茶褐色		暗茶褐色	細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
772	B区94－D	〃	口縁部～胴部	上アルカ属下サッ痕	〃	爪形文	〃 ，○形	淡灰色		淡黒灰色	粗砂，雲母	〃	〃	
773	B区西側溝	〃	口縁部	アルカ属条痕	〃	刺突文	〃	淡橙色		暗茶灰色	細砂，黒雲母(多)	〃	〃	136－1
774	B区94－B，C，D	〃	口縁部～胴部	上アルカ属下サッ痕	上平滑 下アルカ属→平滑	爪形文	〃 ，○形	淡茶褐色		〃	〃，金雲母(多)	〃	〃	〃
775	B区90－C	〃	〃	上平滑下サッ痕	平滑	〃	○形	茶褐色	灰色		微砂	〃	〃	
776	B区西側溝	〃	口縁部	アルカ属条痕	〃			〃		茶灰色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
777	B区94－C，D	〃	口縁部～胴部	上アルカ属下サッ痕	〃	爪形文	口唇－キザミ，○形	〃		淡黒褐色	細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
778	B区西側溝	〃	〃	上条痕下サッ痕	〃	〃	〃 〃	〃	暗茶褐色		〃	〃	〃	136－1
779	B区95－D 186	〃	口縁部	アルカ属条痕	〃	〃		暗茶灰色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
780	B区94－B・C・D	〃	〃	〃			刺突	茶褐色	茶灰色		微砂	〃	102	
781	B区西側溝	〃	〃	平滑	平滑	爪形文	○形	淡黒褐色			細砂	モロイ	〃	
782	B区92－C	〃	胴部	風化	風化	〃	C形	茶褐色	暗茶褐色	茶褐色	粗砂	良	〃	
783	B区西側溝	〃	〃	上アルカ属→平滑下サッ痕	平滑	刺突文	□形	〃			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
784	B区92－C	〃	〃	上平滑下サッ痕	〃	爪形文	D形	淡茶褐色			〃，〃，〃	〃	〃	
785	B区93－C 689	〃	〃	〃	〃		押し引き	茶褐色	暗茶褐色		〃	〃	〃	
786	B区西側溝	〃	〃	上アルカ属→平滑下サッ痕	上平滑下条痕	刺突文	円形	〃			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
787	〃	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	平滑	〃	□形	淡茶褐色		淡暗茶灰色	〃，金雲母	〃	〃	
788	B区91－B 31	〃	〃	風化	風化	爪形文	○形	淡黒褐色			〃，火山ガラス	〃	〃	

789	B区94－D	晩期Ⅲ類	胴部	上平滑下サッ痕	平滑	爪形文	C形	茶褐色		暗茶褐色	細砂，金雲母	良	102	
790	B区91－B 136	〃	〃	下サッ痕	〃	〃	ℑ形	〃	暗灰色		微砂 〃	〃	〃	
791	B区西側溝	〃	〃	上平滑下サッ痕	上平滑下アルカ属条痕	〃	〃	淡黄褐色		淡茶灰色	細砂	〃	〃	
792	B区92－C 534	晩期Ⅱ類	口縁部	アルカ属条痕	風化		口唇－キザミ	茶褐色	黒褐色		粗砂，金雲母	〃	〃	
793	A区P－6 灰色砂	〃	〃	〃	平滑		〃	茶褐色		黒褐色	微砂， 〃	〃	〃	
794	〃 黒色細砂	〃	〃	〃	〃		〃	淡茶灰色		〃	〃	〃	〃	
795	〃 〃	〃	口縁部～胴部	上アルカ属条痕下平滑	〃		〃	淡茶褐色	茶灰色		〃 ，雲母	〃	〃	
796	〃 灰色砂	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	上アルカ属条痕下平滑		口唇－押圧風キザミ	〃		黒褐色	〃 ，金雲母	〃	103	136－2
797	〃 灰色細砂	〃	〃	上条痕下サッ痕	上ナデ下平滑		口唇－キザミ	茶褐色			〃 ， 〃	〃	〃	〃
798	B区東側道(裏)	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	平滑		〃	〃		淡黒褐色	細砂	〃	〃	
799	A区P－6 灰色砂	〃	〃	〃	〃		〃	淡茶褐色		淡茶褐色	微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
800	〃 〃	〃	〃	上条痕下サッ痕	風化		〃	淡褐色	茶褐色		細砂， 〃	〃	〃	136－2
801	B区西側溝	〃	口縁部	アルカ属条痕	平滑	刺突文		茶褐色		暗茶褐色	〃 ，雲母，火山ガラス	〃	〃	
802	B区94－D	〃	〃	〃	〃	アルカ属条痕	口唇－キザミ	〃	暗茶褐色		微砂	〃	〃	
803	B区95－D 72	〃	〃				タテの刺突	淡褐色	灰色	淡褐色	〃 金雲母 火山ガラス	〃	〃	
804	B区94－D	〃	〃	アルカ属条痕	平滑	アルカ属条痕	口唇－キザミ	淡茶褐色			〃	〃	104	
805	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	〃			茶褐色			〃 ，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
806	〃 灰色細砂	〃	〃	アルカ属条痕→サッ痕	〃		口唇－押圧	〃			〃 ， 〃	〃	〃	
807	〃 黒褐色	〃	〃		〃		口唇－キザミ 輪積み痕残す	〃	淡黒灰色	茶褐色	〃 ，火山ガラス	〃	〃	
808	B区95－D 42	〃	〃	平滑	〃		〃	淡灰白色	暗灰色	淡茶灰色	〃	〃	〃	
809	A区P－6 灰色砂	〃	〃	サッ痕	〃			淡茶灰色		黒褐色	細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
810	〃 〃	〃	〃	上平滑下アルカ属サッ痕	〃		口唇－キザミ	淡黒褐色			微砂， 〃	〃	〃	
811	B区94－D	〃	〃		〃		輪積み痕残す	〃			〃	〃	〃	
812	B区西側溝	〃	〃		〃		口唇－押圧 輪積み痕残す	茶褐色		茶灰色	細砂，カクセン石	〃	〃	
813	〃	〃	〃		〃		〃 〃	〃			微砂	〃	〃	
814	B区92－C 246	〃	口縁部～胴部	上アルカ属下アルカ属サッ痕	上平滑下アルカ属→平滑			淡黒褐色	暗褐色	淡茶灰色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
815	B区95－D 285	〃	〃	サッ痕一平滑	平滑			茶褐色	暗茶褐色	暗茶褐色	微砂，金雲母	〃	〃	
816	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	〃			淡茶褐色		黒褐色	細砂	〃	〃	
817	〃 〃	〃	〃	上アルカ属条痕下平滑	上平滑下アルカ属条痕		接合痕残す	茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
818	B区93－C 320	晩期Ⅰ類	〃	上アルカ属条痕下平滑	平滑			淡黒褐色			細砂， 〃	〃	105	
819	A区P－6 灰色細砂	晩期Ⅱ類	口縁部	アルカ属条痕	〃			淡茶灰色	淡黒灰色	淡茶灰色	〃	〃	〃	
820	〃 灰色砂	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	〃			茶褐色	淡黒褐色	淡黒褐色	微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
821	B区93－C 322	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	上アルカ属条痕下平滑	上アルカ属条痕下平滑			〃			〃 ， 〃	〃	〃	
822	B区95－D 251	晩期Ⅱ類	口縁部	サッ痕	平滑			淡黄褐色		暗茶褐色	細砂 火山ガラス	〃	〃	
823	B区92－C 139	〃	〃	アルカ属条痕	〃			茶灰色	黒褐色	暗褐色	〃 ，金雲母	〃	〃	
824	〃 627	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃	〃	〃	
825	〃 229	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	上平滑下アルカ属→サッ痕	〃			茶褐色		黒褐色	〃 ，金雲母，火山ガラス	〃	〃	136－2

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
826	A区P－6 黒色細砂	晩期Ⅱ類	口縁部	アルカ属条痕	サッ痕			淡茶褐色			微砂 金雲母 火山ガラス	良	105	
827	B区93－C 328	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	上アルカ属下サッ痕	上平滑下アルカ属条痕			暗茶灰色		茶褐色	細砂	〃	106	
828	B区92－C	晩期Ⅱ類	〃	アルカ属条痕→サッ痕	平滑			淡褐色			〃，金雲母，火山ガラス(多)	〃	〃	
829	A区P－6黒色細砂	〃	口縁部	上アルカ属下サッ痕	〃			茶褐色		淡黒褐色	〃 〃	〃	〃	
830	B区92－C 1291	〃	口縁部～胴部	〃	〃			暗茶褐色			〃	〃	〃	
831	B区95－D 433	晩期Ⅰ類	〃	上アルカ属条痕下平滑	〃			〃	黒褐色	暗茶褐色	微砂，金雲母	〃	〃	
832	〃	〃	口縁部	アルカ属条痕	上平滑下アルカ属条痕			黒褐色			〃，〃	〃	〃	
833	B区92－C 232	晩期Ⅱ類	〃	上アルカ属下サッ痕	アルカ属条痕→平滑			暗茶褐色	黒褐色		粗砂，〃	〃	〃	
834	A区P－6 灰色砂	晩期Ⅰ類	〃	上アルカ属→サッ痕下平滑	平滑			淡褐色	暗灰色	淡褐色	微砂，〃	〃	〃	
835	〃 〃	晩期Ⅱ類	口縁部～胴部	アルカ属条痕	上平滑下アルカ属条痕			〃	灰色		〃，〃	〃	107	
836	B区92－C 234	晩期Ⅰ類	口縁部	〃	平滑			淡茶灰色	淡黒褐色	淡黒褐色	細砂，〃，カクセン石	〃	〃	
837	A区P－6 灰色砂	晩期Ⅱ類	〃	〃	上ナデ下サッ痕			淡褐色	茶褐色	暗茶褐色	微砂，〃	〃	〃	
838	〃 黒色細砂	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	上条痕下サッ痕	平滑			暗茶灰色			細砂，雲母	〃	〃	136－2
839	B区92－C	晩期Ⅰ～Ⅱ類	口縁部	アルカ属条痕→平滑	〃			黒褐色	茶褐色	淡黒褐色	〃，金雲母	〃	〃	
840	〃 259	晩期Ⅰ類	〃	上アルカ属下アルカ属→サッ痕	アルカ属条痕→平滑			茶灰色	暗灰色	茶灰色	〃，〃	〃	〃	
841	A区P－6 灰色砂	〃	〃	上アルカ属下アルカ属→平滑	〃			淡黒褐色		黒褐色	微砂	〃	〃	
842	〃 〃	〃	〃	アルカ属条痕→サッ痕	平滑			淡茶灰色	淡暗灰色	淡茶灰色	〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
843	B区93－C・D土堤	〃	口縁部～胴部	アルカ属条痕	アルカ属条痕→平滑			茶褐色			細砂，カクセン石	〃	〃	
844	B区92－C 630	晩期Ⅱ類	口縁部	〃	平滑			淡黒褐色			〃	〃	〃	
845	〃 141	〃	口縁部～胴部	上アルカ属下サッ痕	上アルカ属条痕下平滑			茶褐色	暗茶灰色		〃，火山ガラス(多)	〃	108	
846	〃 219	晩期	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕→平滑			〃		淡暗灰色	微砂，金雲母	〃	〃	
847	A区P－6 灰色砂	〃	口縁部	上アルカ属→平滑下アルカ属	平滑		内一段と押圧	淡黒褐色		黒褐色	細砂，〃	〃	〃	
848	B区93－C 435	〃	〃	サッ痕	上平滑下アルカ属条痕		口唇ーキザミ	暗茶褐色			〃，〃	〃	〃	
849	A区P－6 黒褐色	〃	〃	アルカ属条痕			内一段	暗茶灰色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
850	〃 黒色細砂	〃	〃	アルカ属条痕→平滑	平滑		〃	淡茶灰色			微砂，〃	〃	〃	
851	〃	〃	胴部	平滑	上アルカ属条痕下平滑		輪積み痕残す	淡橙色		淡黒褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
852	A区P－6 灰色砂	〃	〃	アルカ属条痕	平滑			淡褐色		黒褐色	微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
853	〃 黒色細砂	〃	〃	上アルカ属ーサッ痕下サッ痕	〃			淡暗茶褐色	暗灰色	茶褐色	〃，〃	〃	109	
854	〃 灰色砂	〃	〃	アルカ属条痕	〃			淡黒褐色		茶灰色	粗砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
855	〃 〃	〃	〃	上アルカ属条痕	サッ痕			淡茶灰色			微砂，〃	〃	〃	
856	〃 〃	〃	〃	上アルカ属下サッ痕	平滑			茶灰色		黒褐色	細砂，〃	〃	〃	
857	〃 〃	〃	〃	上条痕下サッ痕	〃			淡茶褐色			〃，〃	〃	〃	
858	〃	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	巻貝→平滑	〃			淡茶灰色	黒褐色		微砂，〃，火山ガラス	〃	110	
859	B区95－D	〃	口縁部	ミガキ	ミガキ			茶褐色	〃		〃，〃	〃	〃	
860	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	〃	〃			〃	〃	黒褐色	〃，〃	〃	〃	

861	B区92－C 211	晩期Ⅰ類	口縁部	ミガキ	ミガキ			淡茶褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	良	110		
862	B区95－D 333	〃	〃	〃	〃			〃	暗灰色	淡茶褐色	〃，〃	〃	〃		
863	A区P－6 灰色砂	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃，〃	〃	〃		
864	〃 黒色細砂	〃	〃		〃	ミガキ		暗茶灰色	黒褐色		〃，〃	〃	〃		
865	〃 〃	〃	口縁部～胴部	ミガキ	〃			黒褐色			〃	〃	〃		
866	〃 〃	〃	口縁部	〃	〃			茶褐色			〃，金雲母	〃	〃		
867	B区95－D 466	〃	〃	〃	〃			〃	黒褐色	茶褐色	〃，カクセン石	〃	〃		
868	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃，金雲母	〃	〃		
869	B区95－D 9	〃	〃	〃	〃	沈線文		暗茶灰色			〃，〃	〃	〃		
870	B区96－D～E	〃	〃	〃	〃			〃			〃，〃	〃	〃		
871	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	〃	沈線文		〃			〃，〃	〃	〃	137－1	
872	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		黒褐色			〃	〃	〃		
873	〃 黒色細砂	〃	口縁部～胴部	上ミガキ 下平滑	〃			淡暗茶灰色			〃，火山ガラス	〃	〃	137－1	
874	B区93－C・D土堤	〃	胴部	風化	風化		沈線 押圧	黒褐色			細砂	〃	〃		
875	A区P－6 灰色砂	〃	口縁部	ミガキ	ミガキ	沈線文		〃			微砂，金雲母	〃	〃		
876	〃 灰色細砂	〃	〃	アルカ風条痕→平滑	平滑	〃		淡褐色	淡黒灰色		〃，〃	〃	111		
877	B区95－D 283	〃	〃	ミガキ	ミガキ		沈線	茶褐色	茶褐色	黒褐色	〃，〃	〃	〃		
878	B区89－E	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色	淡茶褐色		〃	〃	〃		
879	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	〃	沈線文		淡茶灰色		淡黒灰色	〃	〃	〃		
880	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		淡暗灰色		黒褐色	〃，金雲母	〃	〃		
881	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		茶褐色		〃	〃，〃	〃	〃		
882	〃 灰色粗砂	〃	〃	〃	〃	〃		〃		〃	〃，〃	〃	〃		
883	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		暗灰色		淡黒褐色	〃	〃	〃		
884	B区96－D・E	〃	〃	〃	〃		外－沈線 内一段	淡黒褐色		茶褐色	〃，金雲母	〃	〃		
885	B区92～F 26	晩期Ⅲ類	〃	〃	〃		貼り付け	茶褐色	黒褐色		〃，〃	〃	〃		
886	B区94－B～D	〃	〃	〃	〃			明褐色		淡黒褐色	〃	〃	〃		
887	B区95－D 285	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃		
888	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	〃	〃			〃			微砂，〃	〃	〃		
889	B区96－D・E	晩期Ⅱ類	〃	〃	〃		外一凹部	茶褐色	茶灰色	茶褐色	〃	〃	〃		
890	B区95－D 308	〃	〃	〃	〃			暗茶褐色	黒褐色		〃，金雲母，火山ガラス(多)	〃	〃		
891	A区P－6 灰色砂	〃	口縁部～胴部	〃	〃		内面－段	暗茶灰色	〃	暗茶灰色	〃，〃，〃	〃	〃		
892	〃 〃	〃	〃	〃	〃		〃	茶褐色			〃，〃，〃	〃	〃		
893	B区93－C・D土堤	〃	〃	〃	〃		突起	暗茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	112	137－1	
894	B区95～D 93	〃	口縁部	平滑	平滑			淡黒褐色			〃，金雲母	〃	〃		
895	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	ミガキ	ミガキ			〃			〃，〃	〃	〃		
896	〃 〃	〃	〃	〃	〃			〃			〃，雲母	〃	〃		
897	〃 灰色砂	〃	口縁部～胴部	〃	〃		内面－沈線	黒褐色		淡黒灰色	〃，金雲母	〃	〃		

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
898	B区西側溝	晩期Ⅲ類	口縁部～胴部	平滑	平滑			茶褐色			カクセン石，金雲母，火山ガラス	良	112	
899	A区P－6 黒色細砂	晩期	〃	ミガキ	ミガキ	沈線文	内	淡褐色			微砂，火山ガラス	〃	〃	137－2
900	B区92－F 54	〃	口縁部	サッ痕	平滑		内－削りの段	淡黒褐色			〃	〃	〃	
901	A区P－6 黒色細砂	〃	口縁部～胴部	上平滑下ミガキ	〃			〃		茶褐色	〃，火山ガラス(多)	〃	113	137－1
902	B区西側溝	〃	〃	ミガキ	ミガキ			茶褐色		暗茶褐色	〃，カクセン石	〃	〃	
903	A区P－6	〃	〃	上平滑下サッ痕	平滑			淡黄灰色		黒褐色	細砂	〃	〃	
904	〃 灰色細砂	〃	口縁部	ミガキ	ミガキ			黒褐色			微砂，金雲母	〃	〃	
905	B区95－D 443	晩期Ⅱ類	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
906	B区91－B 8	晩期	口縁部～胴部	平滑	風化	沈線文		褐色	灰色		〃	〃	〃	
907	B区92－C 247	晩期Ⅳ類	〃	ミガキ	ミガキ			黒褐色			〃	〃	〃	137－2
908	A区P－6 灰色砂	晩期	〃	〃	〃			茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
909	B区93－C・D土堤	晩期Ⅱ類	〃	〃	〃			〃	淡黒褐色		〃	〃	〃	
910	B区AR－2 灰色細砂	〃	口縁部	〃	〃			淡褐色			〃，金雲母	〃	114	
911	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	〃	〃			暗茶灰色			〃	〃	〃	
912	〃	〃	口縁部～胴部	〃	〃			茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
913	B区AR－2 灰色粗砂	〃	口縁部	〃	〃			暗茶灰色			〃，〃	〃	〃	
914	A区P－6 黒色細砂	〃	〃	〃	〃			黒褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
915	B区西側溝	晩期	口縁部～胴部	上ミガキ下サッ痕	〃			淡黒褐色			細砂，雲母	〃	〃	
916	B区95－C 349	晩期Ⅰ類	〃	上サッ痕下サッ痕	平滑			淡明褐色	黒褐色		〃	〃	〃	
917	A区P－6 黒色細砂	晩期	口縁部	ミガキ	ミガキ			黒褐色			微砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
918	〃 灰色砂	〃	〃	風化	風化			淡黒褐色			〃，〃	〃	〃	
919	B区AR－2 灰色粗砂	〃	〃	ミガキ	ミガキ			茶褐色			〃，カクセン石	〃	〃	
920	B区95－D 47	〃	〃	〃	〃			淡黒褐色			〃，金雲母	〃	〃	
921	B区92－C	晩期Ⅰ類	口縁部～胴部	平滑	平滑			〃			〃	〃	〃	137－1
922	B区西側溝	〃	〃	ミガキ	ミガキ			茶褐色			〃	〃	〃	137－2
923	B区95－D 285	〃	〃	平滑	平滑			淡茶褐色			〃	〃	115	〃
924	A区P－6 灰色細砂	晩期	口縁部	〃	上平滑下アルカ減条痕			茶褐色			〃	〃	〃	
925	〃 〃	〃	〃	ミガキ	ミガキ			茶灰色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
926	〃 灰色砂	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色	淡暗灰色	茶褐色	細砂，火山ガラス	〃	〃	
927	〃 黒色細砂	〃	口縁部～胴部	サッ痕	〃			〃			〃，金雲母	〃	〃	
928	〃 灰色砂	〃	口縁部	平滑	〃			〃	淡暗灰色		微砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
929	B区西側溝	〃	〃		〃		輪積み痕残す	暗茶褐色			細砂	〃	〃	
930	B区93－C 514	〃	口縁部～胴部	平滑	風化			淡茶灰色	暗灰色	淡黄灰色	〃	〃	〃	
931	B区92－C 1283	〃	〃	ミガキ	押圧→平滑			淡茶褐色		淡黒褐色	〃	〃	〃	
932	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	サッ痕	平滑			淡黒褐色			細砂，火山ガラス	〃	116	

933	A区G9～11	晩期	口縁部			刺突文	口唇ーキザミ	淡灰黄色		黒褐色	微砂	良	116	
934	B区93－C 257	〃	〃	平滑	平滑		〃	淡灰白色	黒灰色		細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
935	B区93－D	〃	〃	ミガキ	ミガキ			淡暗茶褐色	暗茶灰色		微砂，〃	〃	〃	
936	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	〃	〃	沈線文	削り出し状	黒褐色			〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
937	B区95－D 406	〃	〃	〃	〃	〃		淡暗灰色	暗灰色	淡暗灰色	〃，〃	〃	〃	
938	B区AR－2 灰色細砂	〃	〃	平滑			内－LR	〃			〃，〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
939	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	ミガキ	ミガキ	沈線文	内一段	〃			〃，金雲母	〃	〃	
940	〃 〃	〃	〃		平滑	〃	キザミ	淡茶灰色		暗茶褐色	細砂	〃	〃	
941	〃 〃	〃	〃			〃		淡暗灰色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
942	〃 黒色細砂	〃	〃		ミガキ	〃		茶灰色		黒褐色	〃，火山ガラス(多)	〃	〃	
943	B区90－F	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色	淡暗灰色	〃	細砂，火山ガラス，金雲母	〃	〃	
944	B区西側溝	〃	〃	〃				淡橙色			〃	〃	〃	
945	A区P－6 灰色細砂	〃	〃			沈線文		淡黒灰色		暗灰色	微砂	〃	〃	
946	B区93－C・D土堤	〃	〃		平滑	〃		暗茶灰色	黒褐色		〃，カクセン石	〃	〃	
947	B区95－D	〃	胴部			〃	キザミ突帯	黒褐色			〃	〃	117	
948	A区P－6 黒色細砂	〃	〃		平滑		沈線 キザミ	茶褐色			〃	〃	〃	
949	B区92－B 75	〃	〃			沈線文		〃	黒褐色		細砂	〃	〃	
950	A区P－6 灰色粗砂	〃	〃	ミガキ	ミガキ	〃		黒灰色			微砂，金雲母	〃	〃	137－2
951	〃 〃	〃	口縁部			〃	円孔2か所	暗茶褐色			〃	〃	〃	〃
952	B区95－D	〃	胴部	ミガキ	ミガキ			茶褐色			〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
953	〃	〃	〃	〃	〃			暗灰色		黒褐色	〃	〃	〃	
954	B区96－D・E	〃	〃	〃	〃			淡茶褐色	茶灰色		〃，火山ガラス	〃	〃	
955	B区AR－2 灰色粗砂	晩期Ⅱ類	〃	〃	〃			黒褐色		淡暗茶灰色	〃	〃	〃	
956	B区92－D	中期	底部	風化	風化			明橙色	暗灰色		細砂	〃	118	
957	B区91－B 145	〃	〃	平滑				茶褐色			粗砂	〃	〃	
958	B区94－C 30	後期	〃	〃	平滑			暗茶褐色			細砂	〃	〃	
959	B区92－C	〃	〃	〃	〃			茶褐色			〃，雲母(多)	〃	〃	
960	B区91－B 100	〃	〃	〃	巻貝			〃			粗砂，金雲母	〃	〃	
961	A区P－6 灰色細砂	〃	〃	巻貝	平滑			淡灰白色			細砂	〃	119	
962	B区94－D	〃	〃	平滑	〃			淡茶褐色	淡黒灰色		微砂	〃	〃	
963	B区91－C	後期Ⅱ類	〃					〃			〃，金雲母，火山ガラス(多)	〃	〃	
964	B区93－C	〃	〃					茶褐色	淡黒灰色		細砂	〃	〃	
965	A区P－6 灰色砂	〃	〃					〃	暗灰色	茶褐色	〃，金雲母	〃	〃	
966	〃 灰色細砂	〃	〃					淡灰白色			微砂，火山ガラス	〃	〃	
967	〃 〃	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色	灰色		〃，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
968	B区西側溝	後期	〃					淡茶褐色			粗砂	〃	120	
969	A区G9～11	〃	〃		風化			茶褐色			〃	〃	〃	

土器番号	出土地区	時期	部位	器面調整		文様	施文内容	色調			胎土	焼成	図	図版
				外	内			外	中	内				
970	A区P－6 黒色細砂	後期	底部		巻貝→平滑			茶褐色		淡黒灰色	細砂，金雲母，火山ガラス	良	120	
971	〃 〃	〃	〃	平滑	平滑			〃			微砂，〃	〃	〃	
972	〃 〃	晩期	〃	〃	サッ痕			〃		淡茶灰色	〃，〃，火山ガラス	〃	〃	
973	〃 〃	〃	〃	〃	平滑			〃		淡灰白色	粗砂	〃	〃	
974	〃 〃	〃	〃	アルカ属条痕→サッ痕	〃			〃		〃	微砂，火山ガラス	〃	〃	
975	〃 灰色砂	〃	〃	アルカ属条痕→サッ痕	〃			〃		〃	〃，〃	〃	〃	
976	B区92－C	後期	〃	平滑	〃			〃		暗灰色	〃，金雲母	〃	〃	
977	A区P－6 灰色砂	晩期	〃	サッ痕	〃			〃		黒褐色	細砂，〃，火山ガラス	〃	〃	
978	〃 〃	〃	〃	〃	〃			淡茶褐色	淡黒灰色	淡茶褐色	微砂，〃	〃	〃	
979	〃 黒色細砂	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕→平滑			茶褐色		淡茶灰色	細砂，〃	〃	121	
980	〃 灰色粗砂	〃	〃	カワアイ→巻貝	平滑			〃		黒褐色	〃	〃	〃	
981	〃 〃	〃	〃	アルカ属条痕	〃			〃		〃	微砂，金雲母	〃	〃	
982	B区93－C	〃	胴部～底部	サッ痕	〃			茶灰色			細砂，火山ガラス(多)	〃	〃	
983	B区89－E	〃	底部	巻貝→平滑	巻貝→平滑			淡橙色		淡灰白色	〃	〃	〃	
984	A区P－6 灰色砂	〃	〃	アルカ属条痕	アルカ属条痕			淡暗灰色		茶褐色	微砂	〃	〃	
985	〃 〃	〃	〃	平滑	平滑			茶褐色		淡暗黒灰色	細砂，金雲母，火山ガラス	〃	〃	
986	〃 〃	〃	〃	巻貝				淡茶灰色		淡茶灰色	微砂，〃，〃	〃	〃	
987	B区91－B 22	〃	〃	平滑	サッ痕			茶褐色			細砂，カクセン石	〃	122	
988	B区93－C・D土堤	〃	〃	〃	アルカ属条痕→平滑			〃			〃	〃	〃	
989	B区91－B 34	後期Ⅱ類	〃				多孔	〃			微砂，火山ガラス	〃	〃	
990	B区西側溝	?	〃?				刺突				火山ガラス(多)	〃	〃	
991	B区91－B 44	後期Ⅱ類	〃	平滑			多孔	茶褐色			金雲母，火山ガラス	〃	〃	

※ 胎土は，実体顕微鏡を使用し，観察倍率は40倍である。

表－2 阿津走出遺跡石鏃一覧表

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
1	B区93－C	暗黒褐色土	サヌカイト	19.9+	15.8	2.9	0.75	Ⅱ－a		139	
2	表採		〃	25.3	18.5	3.0	1.51	?		〃	未製品
3	〃		〃	32.5	20.4	3.8	2.18	?		〃	〃
4	B区西側溝		〃	26.2	20.3	4.6	1.84	?		〃	〃
5	〃 94－D	黒褐色土	〃	24.6	21.4+	4.5	2.33	Ⅰ－a		〃	
6	〃 92－C	〃	〃	20.0	16.5+	3.7	1.04	〃		〃	
7	〃 西側溝		〃	20.0	17.0	2.5	0.81	?		〃	未製品
8	〃 94－C	黒褐色土	〃	21.9+	13.6	2.8	1.10	Ⅰ－a		〃	
9	〃 西側溝		〃	16.7	17.4	2.7	0.60	Ⅱ－b		〃	
10	表採		〃	25.5	15.5	4.6	1.49	Ⅰ－a		〃	
11	B区西側溝		〃	35.4	19.3	4.3	2.88	?		〃	未製品
12	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	12.3	13.2	3.1	0.45	Ⅰ－a		〃	
13	表採		〃	16.7+	14.0+	2.6	0.43	?		〃	
14	B区94－E	土壙－9・10土堤	〃	26.2	14.4+	4.2	1.33	Ⅰ－a		〃	
15	〃 94－D	土壙－7	〃	22.2	14.5	3.2	1.03	Ⅱ－a		〃	
16	〃 90～E		〃	27.0	15.4+	3.0	1.26	〃		〃	
17	〃 92－C	黒褐色土	〃	24.3	16.1	4.7	1.30	Ⅰ－a		〃	
18	〃 96－D		〃	28.1	17.8	6.1	2.68	〃		〃	未製品
19	〃 6グリット		〃	20.5	10.1+	3.2	0.55	V		〃	
20	〃 93－C	土壙－6	〃	19.0+	10.6+	2.6	0.39	Ⅱ－b		〃	
21	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	24.9	17.7	2.9	0.94	Ⅱ－d		〃	
22	〃 6グリット		〃	19.0+	3.4	3.3	0.73	V		〃	
23	〃 93－C	土壙－6	〃	24.2	16.2+	3.1	0.73	Ⅱ－C		〃	
24	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	29.6+	3.2	5.0	1.47	Ⅱ－a		〃	
25	〃 93－C	黒褐色土	〃	22.1+	19.2	4.3	1.88	〃		〃	
26	〃 91－C	南壁土堤中	〃	24.7	18.9	2.9	1.33	?		〃	未製品
27	B区95－D		〃	21.8+	12.7	2.5	0.80	?		〃	
28	〃 89－E		〃	28.4+	18.4	4.5	1.84	Ⅱ－a		〃	
29	〃 93－C	黒褐色土	〃	22.4+	18.2	3.8	1.32	〃		〃	
30	〃 91－C	南壁土堤中	〃	32.8	24.4	6.8	5.12	Ⅰ－a		〃	未製品
31	〃 94－C・D	褐色土	〃	21.1+	15.7+	3.0	1.14	〃		〃	
32	〃 94－C	暗黒褐色土	〃	33.0+	24.4	7.5	6.98	?		〃	未製品
33	〃 94－D		〃	26.9+	15.6+	3.1	1.08	Ⅱ－a		〃	
34	〃 T～2		〃	31.2+	16.1	5.7	1.90	Ⅱ－e		〃	
35	〃 92－C	黒褐色土	〃	35.4	18.3	4.3	2.54	Ⅱ－a		〃	未製品
36	〃 93－B	〃	〃	26.6	16.9+	4.5	1.45	〃		〃	
37	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	24.7	17.6	4.9	1.78	Ⅰ－a		〃	未製品
38	〃 〃	〃	〃	51.0	35.0	7.3	10.37	?		〃	〃
39	〃 91－C	〃	〃	24.3	25.7	6.5	2.48	?		〃	〃
40	〃 90～E	土堤中	〃	20.0+	18.9+	3.8	1.62	Ⅰ－a		〃	
41	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	27.8	20.2	3.7	1.87	?		〃	未製品
42	A区P－6	黒色細砂	〃	23.8	12.0	3.4	0.85	Ⅱ－e		〃	
43	B区94－D	暗黒褐色土	〃	32.4	20.2	4.7	2.13	〃		〃	
44	〃 93－C，93－D	〃	〃	23.6+	16.8	4.2	0.81	Ⅱ－C	126－21	〃	
45	A区P－6	黒色細砂	〃	12.0+	12.8	2.3	0.33	?		〃	
46	B区94－D	暗黒褐色土	〃	23.9+	14.0+	4.0	1.03	Ⅱ－a		〃	
47	〃 93－B	黒褐色土	〃	20.0+	14.4+	2.7	0.43	Ⅱ－b		〃	
48	〃 94－E	土壙－9	〃	26.2	16.3	3.0	0.95	Ⅱ－C		〃	
49	〃 95－C	47	〃	21.3	13.7+	3.0	0.94	Ⅱ－a		〃	
50	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	32.0	22.9	4.3	0.75	?		〃	未製品
51	〃 92～C	〃	〃	19.6	17.2	4.1	1.21	Ⅱ－e		〃	
52	A区P－6	灰色細砂	〃	20.7	17.2	3.4	0.82	Ⅱ－a		〃	
53	B区88－C		〃	22.6	15.2	3.2	0.94	〃		〃	
54	〃 90－C		〃	22.7	17.1+	4.4	1.54	Ⅰ－a		〃	

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
55	B区91－C	黒褐色土	サヌカイト	20.7	12.7	3.7	0.93	Ⅰ－a		139	
56	〃 89－C		〃	28.5	17.5	5.0	1.97	〃		〃	
57	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	17.0	14.5	2.2	0.36	Ⅱ－b		〃	
58		黒色土	〃	30.9	20.4	3.0	1.58	Ⅵ	126－29	〃	
59	B区94－D		〃	22.5	11.4＋	3.2	0.59	Ⅰ－b		〃	
60	〃 89－C		〃	23.4	15.0	3.6	1.13	Ⅰ－a		〃	
61	〃 92－B	暗黒褐色土	〃	36.5	10.1	6.0	2.32	Ⅳ		〃	未製品
62	〃 91－C	〃	〃	28.2	19.7	3.4	1.35	Ⅱ－a		〃	
63	A区P－6	黒色細砂	〃	20.3	16.8	3.4	0.22	?		〃	未製品
64	〃 〃	〃	〃	18.2＋	14.5＋	2.5	0.69	Ⅱ－a		〃	
65	B区94－D	土壙－7	〃	20.3＋	13.6＋	2.3	0.39	Ⅱ－C		〃	
66	A区P－6	灰色細砂	〃	21.9	14.2	3.8	1.21	Ⅰ－a		〃	
67	B区95－D,96－D	土壙－15	〃	16.4＋	12.2	3.3	0.60	〃		〃	
68	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	32.7	10.9	4.9	0.95	Ⅰ－d	126－17	〃	
69	〃 92－C	黒褐色土	〃	27.1	13.4	3.6	1.07	Ⅱ－a		〃	
70	〃 94－D	〃	〃	20.7＋	14.0	2.9	0.79	Ⅰ－a		〃	
71	〃 〃	土壙－7	〃	25.9	16.0	4.1	1.25	Ⅰ－b		〃	
72	〃 〃	〃	〃	20.6＋	17.2	3.4	0.84	Ⅱ－e		〃	
73	〃 〃	〃	〃	21.9＋	11.4＋	2.9	0.44	〃		140	
74	A区	北壁断面	〃	13.0＋	13.7＋	2.7	0.41	〃		〃	
75	B区94－C	土壙－13	〃	41.7	18.1	4.2	3.57	?		〃	未製品
76	A区P－6	黒色細砂	〃	27.5	17.2	3.4	1.15	?		〃	〃
77	B区AR－2	灰色粗砂	〃	17.3＋	13.9	2.3	0.56	Ⅰ－a		〃	
78	A区P－6	黒色細砂	〃	20.8	22.4	5.3	1.43	?		〃	未製品
79	B区91－B	暗黒褐色土	〃	22.6	14.1	3.7	0.97	Ⅰ－a	126－14	〃	
80	〃 〃	〃	〃	24.3＋	14.6＋	2.7	0.95	〃		〃	
81	A区P－6	黒色細砂	〃	16.0	11.3＋	3.2	0.54	〃		〃	
82	B区90－C		〃	39.2	20.0	3.5	2.21	?		〃	未製品
83	A区P－6	灰色細砂	〃	27.8	26.8	5.8	2.00	?		〃	〃
84	B区92－C	暗黒褐色土	〃	19.3	14.8	3.0	0.87	?		〃	〃
85	〃 89－C		〃	23.0	16.3	2.0	0.79	?		〃	
86	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	26.9＋	14.5＋	3.0＋	1.16	Ⅰ－a		〃	
87	A区P－6	灰色細砂	〃	36.1＋	25.5＋	8.3	8.20	?		〃	未製品
88	〃 〃	〃	〃	28.4	14.2＋	3.2	0.68	Ⅰ－d		〃	
89	B区93－B	187	〃	21.2	24.5	4.0	0.86	Ⅱ－b	126－20	〃	
90	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	14.0＋	20.1	3.1	0.46	?		〃	
91	〃 〃	〃	〃	21.1＋	14.7	3.1	0.91	Ⅱ－a		〃	
92	〃 〃	〃	〃	21.8＋	11.9＋	3.8	0.72	Ⅱ－f		〃	
93	〃 92－C	1210	〃	26.5	18.2	4.4	1.25	Ⅱ－a		〃	
94	〃 95－E	73	〃	21.1	13.4	3.5	0.68	Ⅴ－a		〃	
95	A区P－6	灰色細砂	〃	25.5	13.5＋	1.9	0.82	Ⅰ－a		〃	
96	B区94－B～D		〃	22.6	23.0	4.3	2.46	?		〃	未製品
97	〃 〃	暗黒褐色土	〃	23.5＋	13.9＋	3.3	1.23	Ⅱ－a		〃	
98	〃 93－C	〃	〃	23.2	16.1	3.3	1.17	?		〃	未製品
99	〃 92－D	土壙－12	〃	34.7	22.6	3.8	2.25	Ⅰ－a		〃	
100	〃 96－C	包含層	〃	20.4	10.4	3.3	0.62	Ⅱ－e		〃	
101	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	16.7＋	15.2＋	4.1	0.74	?		〃	
102	〃 94－B～D	〃	〃	19.1	16.0	4.4	0.77	Ⅱ－b		〃	
103	〃 94－D	〃	〃	19.2	14.2＋	2.2	0.60	Ⅱ－a		〃	
104	A区P－6	黒色細砂	〃	19.3	13.8	3.8	0.42	〃		〃	
105	〃 〃	黒色細砂	〃	19.9＋	14.4	3.1	0.47	Ⅰ－b		〃	
106	〃 〃	〃	〃	22.7	13.6	3.7	0.69	Ⅰ－a		〃	
107	〃 〃	灰色細砂	〃	21.3	15.5	2.6	0.48	Ⅰ－b		〃	
108	B区94－D	暗黒褐色土	〃	27.9	16.1	2.9	1.47	?	126－15	〃	未製品

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
109	A区P－6	黒色細砂	サヌカイト	22.5	15.1	3.5	1.46	?		140	
110	〃　〃	灰色細砂	〃	19.9+	22.2	4.7	1.91	?		〃	
111	〃　〃	黒色細砂	〃	25.0	14.9	3.1	1.29	Ⅰ－a		〃	未製品
112	B区92－B	101	〃	18.1	13.3	2.7	0.43	〃		〃	
113	〃 90－F		〃	23.7	13.3+	3.4	0.88	Ⅱ－e		〃	
114	A区P－6	黒色細砂	〃	16.1	13.7	3.2	0.53	Ⅱ－a		〃	
115	B区93－C	暗黒褐色土	〃	27.7+	12.7+	3.3	1.20	?		〃	
116	〃 東側道	青灰色砂	〃	18.5	12.9	3.0	0.58	Ⅰ－a		〃	未製品
117	A区P－6	灰色細砂	〃	25.6+	17.8+	3.8	1.70	〃		〃	
118	〃　〃	〃	〃	20.3+	17.2	2.2	0.35	〃		〃	
119	〃　〃	黒色細砂	〃	23.7+	14.3+	1.7	0.49	?		〃	
120	B区92－C	黒褐色土	〃	24.7	14.2	4.1	1.38	?		〃	未製品
121	〃 93－B	茶褐色土	〃	24.3	16.2+	3.1	0.65	Ⅱ－c		〃	
122	〃 95－E		〃	20.5+	13.4	2.6	0.66	Ⅰ－a		〃	
123	〃 94－B～D		〃	26.9+	14.0	2.5	1.01	〃		〃	
124	〃 92－C	1320	〃	24.6	15.2	4.1	1.44	〃		〃	
125	〃 90－F		〃	43.5+	26.7	5.7	4.20	Ⅱ－c		〃	
126	〃 94－B－D	暗黒褐色土	〃	18.9	14.5+	2.5	0.65	Ⅰ－a		〃	
127	A区D－6	黒色砂	〃	21.0	17.9	3.6	1.16	?		〃	未製品
128	B区6グリット		〃	24.0+	13.5	4.0	0.90	Ⅱ－e		〃	
129	〃 93－B	黒褐色土	〃	22.0	12.9	3.5	0.82	Ⅰ－a		〃	
130	〃 東側道	青灰色粗砂	〃	16.9+	12.5+	3.3	0.62	Ⅱ－e		〃	
131	〃 94－B－D	暗黒褐色土	〃	22.6+	13.7	3.6	0.96	Ⅰ－a		〃	
132	〃 94－C	〃	〃	24.0	14.2	3.5	0.95	?		〃	未製品
133	〃 94－D	〃	〃	20.7+	19.0	3.4	0.72	Ⅰ－a		〃	
134	〃 89－E		〃	17.0	14.3	2.9	0.58	?		〃	未製品
135	〃 90－D		〃	28.8	16.9	3.6	1.63	Ⅴ－a		〃	〃
136	〃 94－D	土壙－7	〃	24.0	15.2+	3.9	1.22	〃	126－18	〃	
137	〃 93－C	黒褐色土	〃	23.0	16.0	3.2	0.84	Ⅱ－e		〃	
138	〃 89－E		〃	30.6	17.3+	3.4	0.93	Ⅱ－c		〃	
139	〃 88－D	包含層	〃	21.7	13.0	3.2	0.83	Ⅱ－a		〃	
140	〃 94－D	土壙－18	〃	17.2+	12.0+	3.3	0.45	Ⅱ－e		〃	
141	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	30.4	24.4	6.5	4.12	Ⅰ－a		〃	未製品
142	〃 92－C	〃	〃	16.7+	11.7	2.7	0.35	Ⅱ－e		〃	
143	〃 88－D		〃	25.8+	13.4+	2.9	0.64	Ⅱ		〃	
144	〃 90－D		〃	19.4	13.3	2.8	0.46	Ⅱ－e		〃	
145	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	21.5	17.1	3.8	1.02	Ⅱ－a		〃	
146	〃 89－E		〃	23.3+	15.8	2.4	0.76	Ⅱ－b		141	
147	〃 6グリット	包含層下	〃	17.3	15.3	3.5	0.22	Ⅱ－e		〃	
148	〃 93－B	暗黒褐色土	〃	24.2+	11.8+	3.1	0.62	Ⅱ－c		〃	
149	〃 94－C	土壙－13	〃	27.1	20.3	5.9	2.29	Ⅰ－a		〃	未製品
150	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	22.2	11.2+	3.1	0.60	〃		〃	
151	〃 90－F		〃	18.7+	13.8	3.3	0.93	Ⅱ－a		〃	
152	〃 93－B	茶褐色土	〃	25.2+	16.1	5.5	1.88	Ⅰ－a		〃	
153	〃 94－B－D	暗黒褐色土	〃	31.8	21.3+	3.6	2.34	Ⅱ－a		〃	
154	〃 94－D	〃	〃	22.9	12.6	3.1	0.75	Ⅰ－a		〃	
155	〃　〃	土壙－7	〃	24.7	16.0	5.2	1.87	Ⅱ－a		〃	
156	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	18.6	17.6	3.0	0.79	〃		〃	
157	〃 92－D	〃	〃	18.9+	18.1	3.6	0.82	〃		〃	
158	〃 89－E		〃	31.6	17.9+	6.5	2.95	Ⅰ－a		〃	
159	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	29.5+	15.1+	3.7	1.37	?		〃	
160	〃 94－B－D		〃	25.4+	14.7+	2.6	0.77	Ⅱ－a		〃	
161	〃 94－D	土壙－7	〃	18.9+	14.5	3.2	1.04	Ⅰ－a		〃	
162	〃 92－B,92－C	土堤.暗黒褐色土	〃	17.2+	18.5+	2.9	0.91	Ⅱ－a		〃	

番号	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	分　類	図	図版	備　考
163	B区95－D		サヌカイト	31.7	14.0	4.3	1.98	V－b		141	
164	〃 89－E	包含層	〃	27.5	14.6+	3.0	1.04	I－a		〃	
165	〃 94－D	土壙－7	〃	34.6	17.6	3.5	1.60	Ⅲ		〃	
166	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	24.9	23.1	2.3	0.90	?		〃	未製品
167	〃 94－D	土壙－18	〃	21.4	19.4	3.0	1.32	Ⅱ－e		〃	
168	〃 93－B	黒褐色土	〃	28.8	15.6	3.8	1.45	V－b		〃	
169	〃 95－D,96－D	土壙－15	〃	21.8+	13.9	4.0	0.94	I－a		〃	
170	〃 94－C	暗黒褐色土	〃	19.3	14.0	3.5	0.76	〃		〃	
171	〃 94－E	土壙－9･10土堤	〃	14.9+	15.2	2.0	0.56	〃		〃	
172	〃 91－E		〃	28.7	25.9	3.0	2.29	〃		〃	未製品
173	〃 94－C	暗黒褐色土	〃	22.0	14.1	2.2	0.79	V－b		〃	
174	〃 90－D		〃	24.2	22.0	6.9	4.74	I－a		〃	未製品
175	〃 93－B	黒褐色土	〃	26.2	16.8	5.1	1.52	Ⅱ－a		〃	
176	〃 94－E	土壙－9	〃	20.4	17.0	3.5	1.05	I－a		〃	
177	〃 95－D,96－D	土壙－15	〃	24.7	17.8	5.1	2.47	Ⅱ	〃		未製品
178	〃 90－C		〃	25.4	19.1+	3.3	1.37	?		〃	
179	〃 92－C	黒褐色土	〃	20.3+	16.7	2.4	0.88	I－a		〃	
180	〃 94－D	〃	〃	28.0	14.3	2.4	0.97	?		〃	未製品
181	〃 95－D		〃	16.5+	14.1	3.0	0.60	Ⅱ－e		〃	
182	〃 93－C	暗黒褐色土	〃	21.5	20.8	4.6	1.96	I－a		〃	未製品
183	〃 92－C	〃	〃	31.8+	18.6+	3.4	2.06	?		〃	
184	〃 94－D	〃	〃	22.1+	17.1	3.5	0.88	Ⅱ－e	126－19	〃	
185	〃 94－C	〃	〃	25.7	12.6+	2.7	0.84	I－a		〃	
186	〃 94－D		〃	25.2	16.1	4.9	1.70	Ⅲ	126－25	〃	未製品
187	〃 90－C		〃	34.9	24.3	4.4	3.61	?		〃	〃
188	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	29.0	15.9	4.1	2.23	I－a		〃	〃
189	〃 94－C	黒褐色土	〃	29.2	18.8	3.1	1.61	Ⅱ－a		〃	
190	〃 92－C	〃	〃	19.0+	15.0	2.6	0.86	I－a		〃	
191	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	28.3+	23.2+	5.7+	2.79	〃		〃	未製品
192	〃 95－C	32	〃	25.0+	11.8	2.0	0.28	〃		〃	
193	〃 東側道	青灰色粗砂	〃	22.3+	13.1+	3.6	0.61	Ⅱ－e		〃	
194	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	42.3	26.6	5.3	3.07	?		〃	未製品
195	〃 92－C	〃	〃	25.8+	17.6+	3.5	1.62	I－a		〃	
196	〃 東側道	青灰色砂	〃	34.3	31.1+	7.5	6.26	Ⅱ－e		〃	
197	〃 92－B,92－C	土堤,暗黒褐色土	〃	23.5	15.9	3.0	0.79	V－a		〃	
198	A区P－6	北壁断面	〃	28.1	24.5	4.0	2.56	?		〃	未製品
199	B区93－B	黒褐色土	〃	26.6+	16.0	3.2	1.04	I－a		〃	
200	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	20.9	27.3	5.7	4.00	?		〃	未製品
201	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	25.2	14.9	3.7	0.67	Ⅱ－a		〃	
202	A区P－6	黒褐色土	〃	16.8	17.6	2.5	0.18	I－a		〃	
203	B区95－D	包含層	〃	23.6+	17.2	4.0	1.30	〃		〃	
204	〃 94－C	黒褐色土	〃	18.4+	14.0+	2.4	0.50	?		〃	
205	〃 94－E	土壙－9･10土堤	〃	30.5	19.3	4.5	2.03	I－a		〃	未製品
206	〃 95－C	包含層	〃	26.8	15.0	3.0	1.30	〃		〃	
207	〃 91－C	土壙－2	〃	28.3	16.0	4.6	1.68	?		〃	未製品
208	〃 89－E		〃	22.6	21.6	3.9	1.53	Ⅱ－a		〃	〃
209	〃 94－D	土壙－7	〃	20.0+	13.6	4.0	0.87	〃		〃	
210	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	18.0	12.1	2.6	0.36	Ⅱ－e	126－23	〃	
211	〃 93－B	茶褐色土	〃	21.1+	14.3	4.4	1.17	I－a		〃	
212	〃 94－B～D		〃	22.5	17.5	3.9	0.94	Ⅱ－a		〃	
213	〃 93－C	茶褐色土	〃	19.4+	13.6	4.4	1.23	〃		〃	
214	〃 94－E	土壙－9･10土堤	〃	24.6+	14.8+	4.2	1.32	?		〃	
215	〃 93－B	黒褐色土	〃	24.5+	21.6	4.6	2.21	I－a		〃	
216	〃 93－C	暗褐色土	〃	31.9	17.9	4.2	2.56	Ⅱ－a		〃	未製品

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
217	B区94－D	暗黒褐色土	サヌカイト	22.9	14.4＋	2.8	0.84	Ⅱ－a		141	
218	〃 92－B,92－C	〃	〃	19.2	15.4	3.4	0.74	Ⅰ－a		142	
219	〃 90－G		〃	16.5	18.0	4.3	1.11	Ⅱ－a		〃	
220	〃 94－C・D	土壙－7	〃	26.8＋	17.1	4.6	1.56	〃		〃	
221	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	18.9＋	19.8	3.5	1.63	Ⅰ－a		〃	
222	〃 94－D	〃	〃	20.8	11.5	3.7	0.68	Ⅴ－b		〃	
223	〃 94－B～D	〃	〃	22.1	19.1	5.0	2.02	Ⅱ－a		〃	
224	〃 93－B	茶褐色土	〃	20.5	14.9	3.0	0.94	Ⅱ－e		〃	未製品
225	〃 96－D	竪穴住居址－1	〃	21.6＋	17.9	2.9	1.18	Ⅰ－a		〃	
226	〃 91－C	土壙－19	〃	22.8	13.7＋	3.7	1.05	Ⅱ－a		〃	
227	〃 92－D,93－D	暗黒褐色土	〃	28.5	8.3＋	3.6	1.03	Ⅰ－a		〃	
228	〃 93－C	〃	〃	16.6	22.2	3.2	1.38	〃		〃	未製品
229	〃 94－B－D		〃	26.3＋	15.7	4.8	1.11	Ⅱ－e		〃	
230	〃 90－E		〃	49.6	24.3	6.6	7.53	?		〃	未製品
231	〃 92－C		〃	21.9	18.3	3.2	0.71	Ⅱ		〃	〃
232	〃 〃	暗黒褐色土	〃	29.2	17.3	2.7	1.07	?		〃	〃
233	〃 東側道	排土中	〃	28.3＋	13.5	3.7	1.26	Ⅰ－a		〃	
234	〃 92－C	黒褐色土	〃	22.1＋	12.0	3.6	0.98	?		〃	
235	〃 6グリット		〃	41.3	22.4＋	7.9	7.18	Ⅰ－a		〃	
236	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	16.8＋	20.7	3.3	1.01	〃		〃	
237	〃 94－D	〃	〃	17.8＋	12.6＋	2.6	0.50	?		〃	
238	〃 89－D・E,90－E		〃	24.1＋	17.0	3.4	1.41	Ⅰ－a		〃	
239	〃 東側道	青灰色粗砂	〃	19.5＋	15.2＋	3.0	0.64	Ⅱ－e		〃	
240	〃 〃	排土中	〃	23.9＋	23.2＋	5.6	2.56	Ⅲ		〃	
241	〃 〃	〃	〃	15.6＋	12.6＋	3.2	0.43	Ⅱ		〃	
242	〃 〃	〃	〃	33.9	21.8	4.9	3.59	Ⅱ－e		〃	未製品
243	〃 90－E		〃	14.4＋	15.0	2.8	0.42	Ⅱ－b		〃	
244	〃 93－C	茶褐色土	〃	17.3	15.2	3.1	0.68	Ⅰ－a		〃	
245	〃 6グリット	砂層上面包含層	〃	17.2＋	17.8＋	2.6	1.04	?		〃	
246	〃 94－D	黒褐色土	〃	21.8	15.9＋	3.9	0.88	Ⅰ－b		〃	
247	〃 92－F		〃	24.3	16.9＋	4.6	1.82	Ⅰ－a		〃	
248	〃 94－D	土壙－7	〃	20.6	12.4	3.5	0.85	Ⅰ－d		〃	
249	〃 94－B～D	暗黒褐色土	〃	21.9	14.0	3.0	0.70	Ⅰ－a		〃	
250	〃 92－B,92－C	土堤.暗黒褐色土	〃	24.7	20.1	3.0	1.46	Ⅱ－a		〃	
251	〃 92－C	黒褐色土	〃	26.5	22.1	3.0	1.72	〃		〃	未製品
252	〃 90－E		〃	18.6	13.5	3.1	0.80	Ⅰ－a		〃	
253	〃 92－C	黒褐色土	〃	20.3	18.0	4.3	1.95	〃		〃	未製品
254	〃 93－B	〃	〃	19.9	18.2	3.1	1.06	〃		〃	
欠番											
256	B区94－B～D		〃	22.6＋	15.9	3.5	1.22	Ⅰ－a		142	
257	〃 東側道	黒褐色砂	〃	47.5＋	28.1＋	5.6	7.67	Ⅱ－a		〃	
258	〃 〃	排土中	〃	21.6	16.4＋	2.7	0.57	Ⅱ－b		〃	
259	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	27.2＋	13.6＋	2.4	0.66	Ⅱ		〃	
260	A区P－6	黒色細砂	〃	13.1＋	16.8	3.6	0.80	Ⅰ－a		〃	
261	B区94－D	土壙－7	〃	22.5	32.4	6.9	4.42	?		〃	未製品
262	〃 92－C	黒褐色土	〃	24.3＋	13.9＋	2.7	0.83	?		〃	
263	〃 94－B～D		〃	22.6＋	19.6＋	3.8	1.56	?		〃	
264	〃 90－E		〃	31.1＋	18.4	6.1	2.12	Ⅰ－c		〃	
265	〃 95－D		〃	20.2＋	13.4＋	2.5	0.65	Ⅰ－a		〃	
266	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	26.0	17.2	4.3	2.01	〃		〃	
267	〃 89－E		〃	24.1	19.0＋	4.6	1.77	〃		〃	
268	〃 90－E		〃	22.2＋	17.6＋	2.4	0.98	?		〃	
269	〃 92－B,92－C	暗黒褐色土	〃	22.3	15.5	4.2	1.14	Ⅰ－a		〃	
270	〃 91－C	〃	〃	27.1＋	17.5	3.7	1.56	〃		〃	

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
271	B区東側道	黒褐色砂	サヌカイト	15.1+	8.8+	2.8	0.24	?		142	
272	〃 〃	側溝	〃	21.6	15.1	3.0	0.85	Ⅱ－a		〃	
273	〃 93～C	暗黒褐色土	〃	46.0	24.9	7.8	8.28	?		〃	未製品
274	〃 92－C	〃	〃	17.4+	14.7+	2.3	0.49	?		〃	
275	〃 東側道	排土中	〃	18.3+	11.4	3.8	0.65	Ⅰ－a		〃	
276	〃 94－D	土壙－7	〃	21.6	12.4	4.5	1.07	〃		〃	
277	〃 88－C		〃	29.0	16.9	3.6	1.81	〃		〃	未製品
278	〃 92－C	黒褐色土	〃	28.9	19.7+	4.5	2.39	〃		〃	
279	〃 90－C		〃	31.4	25.3	5.5	2.81	?		〃	未製品
280	〃 90－D		〃	26.4	23.0	3.6	1.82	?		〃	〃
281	〃 91－C	南壁土堤中	〃	36.2+	26.8+	5.5	5.67	Ⅰ－a		〃	
282	〃 93－B	黒褐色土	〃	33.0	21.8	4.8	4.12	?		〃	
283	〃 95－D,96－D	土壙－15	〃	23.2	26.1	7.4	2.71	?		〃	未製品
284	〃 92－C	黒褐色土	〃	22.0+	14.5+	2.2	0.64	?		〃	
285	〃 95－E	20	〃	19.4+	15.8	3.4	0.82	Ⅱ－a		〃	
286	〃 89－C		〃	35.8	22.8	5.1	4.66	?		〃	未製品
287	〃 92－D	土壙－5	〃	32.2	23.3	5.6	4.71	Ⅰ－a		〃	〃
288	〃 94－C	暗黒褐色土	〃	43.2	19.4	6.3	4.76	?		〃	〃
289	〃 93－C	351	〃	23.7	17.0	4.0	1.39	Ⅰ－a		〃	
290	〃 95－D		〃	17.3+	15.4	2.7	0.86	〃		143	
291	A区P～6	灰色細砂	〃	31.0+	21.2+	4.1	2.39	〃		〃	
292	B区92－B	暗黒褐色土	〃	33.5+	18.7+	3.4	1.75	Ⅱ		〃	
293	〃 〃	〃	〃	30.8	33.7	6.0	5.11	?		〃	未製品
294	A区P－6	灰色細砂	〃	22.0	24.1	5.7	2.99	?		〃	〃
295	B区東側道		〃	15.0+	12.8+	1.7	0.39	Ⅰ－a		〃	
296	〃 94－B～D	暗黒褐色土	〃	22.5	12.8+	3.9	0.90	〃		〃	
297	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	28.3+	21.0	4.8	2.59	〃		〃	
298	〃 東側道		〃	33.0+	23.5	5.6	3.38	?		〃	
299	〃 〃	排土中	〃	22.4	16.5+	3.5	0.69	Ⅰ－a		〃	
300	〃 95－D	1	〃	23.1+	12.7+	3.1	0.69	?		〃	
301	〃 92－B	暗黒褐色土	〃	29.1	27.5	4.1	4.56	?		〃	未製品
302	〃 94－C	黒褐色土	〃	19.2+	18.5+	3.5	1.23	?		〃	
303		灰色粗砂(マンガン)	〃	22.6	16.3	4.4	1.00	Ⅱ－e		〃	
304	B区92－F		〃	26.4+	16.8+	2.6	0.73	〃		〃	
305	〃 6グリット		〃	24.6	17.1	4.9	1.56	Ⅱ－a		〃	
306	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	28.8	19.4+	4.3	1.35	Ⅱ－e		〃	
307	〃 95－D		〃	19.4+	13.7+	2.8	0.68	Ⅰ－a		〃	
308	〃 94－B～D		〃	19.5	28.6	4.8	2.85	?		〃	未製品
309	〃 90－E		〃	23.6	12.0	2.9	0.45	Ⅱ－e		〃	
310	〃 92－C	黒褐色土	〃	21.0	18.5	2.6	0.95	Ⅱ－a		〃	未製品
311	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	15.2	23.5	4.0	1.20	〃		〃	〃
312	〃 93－B	黒褐色土	〃	33.0	23.3	4.8	3.62	Ⅰ－a		〃	〃
313	〃 91－C	黒褐色土	〃	29.5	16.4	3.5	1.73	?		〃	
314	〃 95－D		〃	17.8	12.5+	3.4	0.70	Ⅴ－a		〃	
315	〃 94－D	土壙－20	〃	25.5	11.2	3.2	0.80	〃		〃	
316	〃 〃	土壙－7	〃	21.7	21.0	3.7	1.73	?		〃	未製品
317	〃 90－E		〃	23.2	16.3	4.1	1.24	Ⅱ－c		〃	
318	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	23.6	15.1	2.9	1.36	Ⅱ－a		〃	
319	〃 93－C	黒褐色土	〃	17.4+	13.2	2.5	0.59	Ⅰ－a		〃	
320	〃 94－D	〃	〃	23.0+	19.6+	3.9	1.96	?		〃	
321	〃 96－C	1	〃	25.7+	12.4	3.7	1.10	Ⅱ－e		〃	
322	〃 95－D	162	〃	23.3+	14.7+	4.2	1.24	Ⅰ－a		〃	
323	A区P－6	黒褐色土	〃	16.7+	16.7	2.1	0.69	Ⅱ－a		〃	
324	〃 〃	〃	〃	23.5	14.4	4.0	0.96	〃		〃	

番号	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	分　類	図	図版	備　考
325	B区AR－2	灰色粗砂	サヌカイト	33.3	16.2	5.6	2.39	Ⅰ－a		143	未製品
326	〃　〃	〃	〃	17.5+	17.9	3.6	1.06	〃		〃	
327	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	27.2	19.0	2.8	1.38	?		〃	未製品
328	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	24.8	13.2+	3.9	1.14	Ⅰ－a		〃	
329	A区P－6	黒褐色土	〃	18.4+	16.8	3.1	0.97	Ⅱ－a		〃	
330	B区東側道	黒褐色砂	〃	18.2+	14.9	2.9	0.73	Ⅰ－a		〃	
331	〃 94－C	黒褐色土	〃	30.8	22.7	5.8	3.75	?		〃	未製品
332	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	18.2+	11.2+	2.5	0.53	?		〃	
333	〃 95－D	82	〃	17.9+	11.8	2.5	0.63	Ⅰ－a		〃	
334	〃 94－E	土壙－9･10土堤	〃	30.7	19.3	3.7	2.90	?		〃	未製品
335	〃 東側道	黒褐色砂	〃	28.6+	15.1+	3.7	1.63	Ⅱ－c		〃	
336	〃 93－C.93－D	土堤.暗黒褐色土	〃	17.1+	16.6+	5.0	1.45	?		〃	
337	〃 東側道	黒褐色砂	〃	26.5	12.5	3.5	0.93	Ⅴ－a		〃	
338	〃　〃		〃	15.3+	19.6+	2.9	1.10	?		〃	
339	A区P－6	黒褐色土	〃	18.5	11.4	2.7	0.61	Ⅱ－a		〃	
340	B区95－E	5	〃	29.6	16.7	4.3	1.95	〃		〃	
341	〃 90－C		〃	16.9	25.6	6.3	2.65	Ⅱ?		〃	未製品
342	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	23.4	23.6	4.6	3.07	?		〃	〃
343	〃 92－B	黒褐色土or粗砂	〃	24.0+	13.6+	3.7	1.01	?		〃	
344	A区P－6	黒色細砂	〃	19.3+	13.8+	2.7	0.54	Ⅱ－c		〃	
345	B区AR－2	灰色粗砂	〃	31.0+	25.9+	3.7	2.51	?		〃	
346	〃 94－C･D	褐色土	〃	36.0	27.2	4.8	4.36	?		〃	未製品
347	〃 95－D	43	〃	26.3	13.4	2.8	0.92	Ⅰ－b		〃	
348	〃 89－C		〃	18.3+	17.3	4.3	1.47	Ⅰ－a		〃	
349	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	27.9	19.9	5.5	2.59	?		〃	未製品
350	〃 東側道		〃	19.0	26.5	4.2	2.08	Ⅰ－a		〃	〃
351	〃 93－C	黒褐色土	〃	29.0	17.0	4.3	1.21	?		〃	〃
352	〃 93－D	〃	〃	22.1	29.2	5.9	4.11	?		〃	〃
353	A区P－6	黒色細砂	〃	15.7+	19.4	5.2	1.56	Ⅰ－a		〃	
354	B区東側道		〃	25.7	19.8+	4.0	1.52	〃		〃	
355	〃　〃	黒褐色砂	〃	18.1	19.1	3.2	1.12	Ⅱ－b		〃	未製品
356	A区P－6	黒褐色土	〃	21.0	14.6+	2.9	0.74	Ⅰ－a	126－14	〃	
357	B区91－C	暗黒褐色土	〃	23.6	18.6	4.0	0.73	Ⅱ－a		〃	未製品
358	〃 東側道		〃	25.4	12.4	4.4	1.12	Ⅱ－e		〃	
359	〃 95－C	48	〃	20.2	14.4	3.3	0.85	Ⅰ－a		〃	
360	〃 91－D		〃	26.0	31.9	5.3	4.04	?		〃	未製品
361	〃 東側道		〃	39.3	25.1	4.5	4.73	?		〃	〃
362	A区P－6	灰色細砂	〃	19.1	17.5	2.3	0.89	Ⅰ－a		144	
363	B区94－C	暗黒褐色土	〃	24.0	15.6	3.3	1.21	?		〃	未製品
364	〃 94－B	〃	〃	26.6	19.5	7.1	3.50	?		〃	〃
365	〃 94－D	黒褐色土	〃	23.5+	18.6+	5.5	1.72	?		〃	
366	〃 91－C	土壙－2	〃	40.0	30.6	5.5	7.01	?		〃	未製品
367	〃 東側道	青灰色砂	〃	24.2+	15.1+	4.2	1.06	?		〃	
368	〃 93－D	暗黒褐色土	〃	28.7	22.3	6.9	4.52	?		〃	未製品
369	〃 東側道	黒褐色土	〃	26.0	13.0	4.4	1.58	?		〃	〃
370	A区P－6	黒色細砂	〃	17.5	11.7	2.5	0.48	Ⅰ－a		〃	
371	B区92－C	暗黒褐色土	〃	20.3	15.7+	3.3	0.65	〃		〃	
372	〃 94－D	〃	〃	23.9	17.8	3.4	1.77	?		〃	未製品
373	〃 91－B	〃	〃	20.1	14.9+	4.2	0.85	Ⅰ－a		〃	
374	A区P－6	黒色細砂	〃	28.0	23.4	6.9	4.82	?		〃	未製品
375	B区東側道	黒褐色砂	〃	21.4	14.7+	3.2	0.61	Ⅱ－a		〃	
376	〃　〃	茶褐色粗砂	〃	22.2	13.1+	2.6	0.36	Ⅰ－a		〃	
377			〃	16.8+	17.4+	3.6	0.21	?		〃	
378	B区東側道	黒褐色砂	〃	27.8	20.7	4.4	2.61	?		〃	未製品

番号	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	分　類	図	図版	備　考
379	B区91－B	暗黒褐色土	サヌカイト	24.9+	16.2	4.0	1.32	Ⅰ－e		144	
380	A区P－6	黒色細砂	〃	13.8	12.2+	2.0	0.28	Ⅰ－a		〃	
381	B区90－G		〃	14.1	14.0	3.7	0.57	Ⅱ－a		〃	
382	〃 東側道	青灰色粗砂	〃	28.5	15.7	3.3	1.08	Ⅱ－e		〃	
383	〃　〃		〃	15.6+	18.9	3.1	0.59	Ⅱ－b		〃	
384	〃　〃		〃	13.9	15.0	3.9	0.50	〃		〃	
385	A区P－6	灰色細砂	〃	14.9+	13.1+	3.7	0.72	?		〃	
386	〃　〃	〃	〃	14.8+	13.0	2.6	1.56	Ⅰ－a		〃	
387	〃　〃	〃	〃	16.0+	14.3	2.9	0.73	〃		〃	
388	〃　〃	灰色砂(粗砂)	〃	23.9	10.7	3.1	0.84	Ⅱ－d	126－27	〃	
389	〃　〃	灰色細砂	〃	22.3+	17.2	2.9	0.29	Ⅱ－a		〃	
390	B区95－C	包含層	〃	22.6+	9.9+	3.5	0.80	Ⅱ－e		〃	
391	〃 東側道		〃	25.8	13.4+	2.8	0.77	Ⅱ－e		〃	
392	A区P－6	灰色細砂	〃	16.7	14.7	3.7	0.72	Ⅱ－a		〃	
393	B区90－F		〃	23.8+	46.0+	6.9	5.82	?		〃	
394	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	45.3	31.5	6.1	10.09	?		〃	未製品
395	A区P－6	灰色細砂	〃	35.2	17.4	2.9	1.48	?		〃	〃
396	〃　〃	〃	〃	22.5+	18.1	3.1	0.97	Ⅱ－e		〃	
397	B区東側道		〃	18.1	17.2	3.4	0.80	Ⅱ－b		〃	
398	A区P－6	灰色砂(粗砂)	〃	21.5	20.2	3.8	1.28	Ⅰ－a		〃	
399	B区89－D		〃	23.6	21.5	4.5	2.06	〃		〃	未製品
400	A区P－6	灰色細砂	〃	15.3	17.9	4.0	0.66	Ⅱ－b		〃	
401	〃　〃	黒色細砂	〃	27.6+	17.7+	4.5	1.51	Ⅱ－a		〃	
402	〃　〃	灰色砂	〃	20.8+	10.9+	2.7	0.56	Ⅴ－a		〃	
403	B区93－C	341	〃	18.0+	13.4	3.4	0.85	Ⅰ－a		〃	
404	A区P－6	灰色細砂	〃	30.1	12.0+	2.8	0.32	〃		〃	
405	B区93－C	699	〃	15.9+	17.1+	3.1	0.99	?		〃	
406	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	19.0	14.1	3.9	0.70	Ⅱ－e		〃	
407	〃 92－B	〃	〃	22.9	19.3	5.4	1.90	?		〃	未製品
408	〃 92－C	1286	〃	25.6+	21.4+	8.1	4.77	?		〃	
409	A区P－6	灰色細砂	〃	15.7	13.4+	2.7	0.52	Ⅰ－a		〃	
410	B区92－C	黒褐色土	〃	33.2+	14.8+	3.8	1.91	?		〃	
411	A区P－6	黒色細砂	〃	17.8	20.5	3.3	0.98	Ⅱ－a		〃	
412	〃　〃	灰色細砂	〃	32.8	20.1	6.0	4.27	?		〃	未製品
413	B区93－C	704	〃	21.9	14.9	3.6	1.16	Ⅰ－a		〃	
414	〃 東側道	青灰色粗砂	〃	21.5+	17.2+	2.0	0.67	?		〃	
415	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	21.8+	14.5+	3.9	0.86	?		〃	
416	A区P－6	黒色細砂	〃	28.4	14.4+	3.5	1.69	Ⅰ－a		〃	
417	〃　〃	黒色細砂	〃	23.8+	24.0	4.2	1.39	Ⅱ－c		〃	
418	B区東側道	黒褐色砂	〃	19.9+	12.7	2.9	0.51	Ⅱ－e		〃	
419	〃 93－C	745	〃	15.4+	14.7+	2.6	0.58	Ⅱ－a		〃	
420	〃 94－D	黒褐色土	〃	26.8	20.4	3.3	1.94	?		〃	未製品
421	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	18.0	14.0	3.0	0.72	Ⅰ－a		〃	
422	〃 93－C	700	〃	30.0	25.7	5.2	3.13	?		〃	未製品
423	〃 90－D		〃	21.1+	16.8+	3.4	1.49	Ⅰ－a		〃	
424			〃	27.3	13.5+	2.6	0.63	Ⅱ－b		〃	
425	B区93－D,93－E	暗黒褐色土	〃	17.3+	16.0	3.5	0.41	Ⅰ－a		〃	
426	〃 92－B	〃	〃	20.0+	17.3	3.5	1.44	?		〃	
427	A区P－6	灰色細砂	〃	21.1+	18.3+	2.5	0.74	?		〃	
428	B区90－F		〃	16.4	17.7	3.8	0.78	Ⅱ－a		〃	
429	〃 東側道	青灰色粗砂	〃	19.2	17.4	3.3	0.85	〃		〃	
430	〃　〃		〃	18.1	16.2+	3.0	0.56	〃		〃	
431	A区P－6	灰色細砂	〃	50.5+	24.4	5.6	8.57	Ⅰ－a		〃	
432	〃　〃	黒色細砂	〃	18.3	16.8	4.6	0.59	Ⅱ－a		〃	

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
433	B区92－D	土壙－5	サヌカイト	14.6+	18.2+	3.1	0.91	?		144	
434	〃 90－D		〃	23.7	16.2	4.3	1.68	Ⅰ－a		〃	
435	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	22.7	15.5	2.3	0.80	〃		145	
436	〃 92－C	283	〃	19.4+	13.8+	2.9	0.77	〃		〃	
437	A区P－6		〃	22.2	13.8	3.0	0.83	〃		〃	
438	B区東側道	黒褐色砂	〃	42.3+	16.2+	6.1	3.56	?		〃	
439	A区P－6	灰色細砂	〃	23.3	15.5+	3.3	1.12	Ⅰ－a		〃	
440	〃 〃	暗茶灰色土	〃	16.8+	11.9	3.1	0.48	Ⅱ－a		〃	
441	〃 〃	黒色細砂	〃	27.2+	15.5+	4.2	1.33			〃	キリ
442	B区92－C	1316	〃	21.3+	16.6	4.8	1.41	Ⅱ－a		〃	
443	〃 94－D	黒褐色土	〃	29.2	17.6	5.2	2.64	?		〃	未製品
444	〃 92－C	8	〃	17.5	14.1	3.7	0.74	Ⅰ－a		〃	
445	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	30.9+	23.0+	5.0	2.26	?		〃	未製品
446	A区P－6	灰色細砂	〃	16.3+	16.2	3.2	0.68	Ⅱ－a		〃	
447	B区91－B	暗黒褐色土	〃	19.1+	10.3+	3.7	0.66	Ⅰ－a		〃	
448	〃 90－C		〃	36.9	26.5	7.1	4.08	〃		〃	未製品
449	〃 東側道	黒褐色砂	〃	23.7+	14.7	4.0	0.33	Ⅱ－e		〃	
450	〃 92－D	暗黒褐色土	〃	40.9	24.4	5.8	7.09	?		〃	
451	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	17.9+	17.1	2.7	0.23	Ⅰ－a		〃	
452	〃 92－B	387	〃	29.0+	19.6	2.9	1.75	Ⅱ－e		〃	
453	〃 93－C	暗黒褐色土	〃	25.7	16.3	6.0	2.34	?		〃	未製品
454	〃 90－E		〃	33.1	25.5	6.0	3.97	?		〃	〃
455	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	23.6	21.0	3.5	1.80	?		〃	〃
456	〃 92－C	7	〃	19.3	14.7	3.2	0.76	Ⅰ－a		〃	
457	〃 96－D	竪穴住居址－1	〃	23.9+	16.2+	2.9	0.99	?		〃	
458	〃 95－C	包含層	〃	21.9	25.3	6.5	3.75	?		〃	未製品
459	〃 92－B	暗黒褐色土	〃	29.7	21.5	4.9	3.17	?		〃	〃
460	〃 93－E	〃	〃	22.0	15.8	2.4	0.80	Ⅰ－a		〃	
461	〃 90－F		〃	28.5	13.2	3.4	1.08	Ⅰ－d		〃	
462	A区P－6	黒色細砂	〃	25.5	16.6	3.6	1.08	Ⅱ－e		〃	
463	B区東側道	黒褐色砂	〃	20.5+	20.7	4.4	2.11	?		〃	
464	A区P－6	灰色細砂	〃	19.8+	14.7	3.7	0.84	Ⅰ－a		〃	
465	B区94－E	土壙－9･10土堤	〃	24.3+	17.0	3.2	1.55	?		〃	
466	A区P－6	黒色細砂	〃	29.2+	15.7+	3.8	1.54	Ⅰ－b		〃	
467	B区東側道		〃	19.4	15.7	2.9	0.88	?		〃	
468	A区P－6	灰色細砂	〃	34.0+	19.2	5.2	1.67	Ⅰ－a		〃	
469	〃 〃	黒色細砂	〃	22.2	14.5+	3.2	0.62	Ⅱ－b		〃	
470	〃 〃	〃	〃	17.5+	20.6+	4.1	1.13	Ⅱ－a		〃	
471	〃 〃	〃	〃	14.4+	16.2	2.9	0.52	Ⅱ－e		〃	
472	B区90－C		〃	23.2+	17.7+	5.0	1.94	Ⅱ－a		〃	
473	〃 〃		〃	16.2+	16.1+	3.4	0.64	〃		〃	
474	A区P－6	黒色細砂	〃	26.5+	15.0+	2.5	0.87	Ⅱ－e		〃	
475	〃 〃	灰色細砂	〃	12.8+	16.5	3.8	0.83	Ⅱ－a		〃	
476	B区93－B	暗黒褐色土	〃	23.9	15.9	3.7	0.90	Ⅱ－b		〃	
477	A区P－6	灰色細砂	〃	32.7+	19.0	4.9	2.49	Ⅱ－a		〃	
478	〃 〃	〃	〃	35.9	22.5	8.0	5.21	?		〃	未製品
479	B区東側道		〃	35.1	22.5	4.7	3.55	Ⅰ－a		〃	〃
480	A区P－6	灰色細砂	〃	25.4+	14.0+	3.5	1.13	?		〃	
481	〃 〃	黒色細砂	〃	26.4	12.8+	2.6	0.74	Ⅰ－a		〃	
482	B区92－B	暗黒褐色土	〃	23.3	17.2+	2.5	1.02	〃		〃	
483	〃 90－D		〃	20.0	15.0+	2.5	0.73	〃		〃	
484	A区P－6	灰色細砂	〃	12.7	12.8	2.4	0.28	Ⅱ－a		〃	
485	〃 〃	黒色細砂	〃	14.7	12.5+	2.0	0.40	Ⅰ－a		〃	
486	〃 〃	〃	〃	31.0	16.0	4.6	1.86	Ⅱ－a		〃	未製品

番号	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	分　類	図	図版	備　考
487	B区93－D	黒褐色土	サヌカイト	19.3+	20.9+	3.7	1.68	?		145	
488	A区P－6	黒色細砂	〃	23.8+	16.9+	3.3	0.26	Ⅱ－a		〃	
489	〃　〃	〃	〃	17.6+	17.9	3.2	0.76	Ⅱ－C		〃	
490	B区93－E	暗黒褐色土	〃	13.6+	15.4	2.8	0.67	Ⅱ－a		〃	
491	〃 91－B	〃	〃	19.4	18.0	4.0	1.08	Ⅰ－a		〃	
492	〃 東側道	黒褐色砂	〃	14.6	23.3	5.5	1.10	?		〃	未製品
493	〃　〃	〃	〃	28.4+	15.9+	2.7	0.78	Ⅱ－e		〃	
494	〃　〃	〃	〃	19.0+	14.3	3.4	0.82	Ⅱ－a		〃	
495	A区P－6	黒色細砂	〃	17.3	13.9	4.4	0.79	〃		〃	
496	B区91－E	土壙－3	〃	27.0+	25.8	4.9	4.78	?		〃	
497	〃 東側道	排土中(ユンボ)	〃	24.4+	18.5+	3.5	1.63	?		〃	
498	A区P－6	灰色細砂	〃	18.4+	20.4	3.6	1.20	Ⅱ－c		〃	
499	B区東側道	黒褐色砂	〃	24.7+	17.8	4.3	1.01	Ⅱ－e		〃	
500	〃 93－D	暗黒褐色土	〃	22.7+	23.2	4.7	2.02	Ⅰ－a		〃	
501	〃 88－C		〃	16.9+	20.9	6.1	2.76	〃		〃	
502	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	24.7	14.1+	2.9	0.97	〃		〃	
503	A区P－6	灰色細砂	〃	16.8	19.0	3.1	0.21	〃		〃	未製品
504	〃　〃	灰色砂(粗砂)	〃	21.3	14.4+	3.2	0.88	〃		〃	
505	〃　〃	黒色細砂	〃	22.0+	13.0	3.2	0.67	Ⅱ－f		〃	
506	B区93－D	黒褐色土	〃	33.0+	19.0+	5.3	1.89	?		〃	
507	A区P－6	灰色細砂	〃	43.2	7.5	3.1	1.10	Ⅳ	126－26	146	
508	B区89－D・E,90－E		〃	16.8	15.5	3.6	0.62	Ⅱ－a		〃	
509	A区P－6	灰色細砂	〃	11.7+	12.8	3.0	0.43	Ⅰ－a		〃	
510	〃　〃	黒色細砂	〃	19.7	15.4	3.2	0.91	〃		〃	
511	B区93－C	暗黒褐色土	〃	21.1	17.3	3.4	1.49	〃		〃	未製品
512	〃 東側道	黄灰色砂	〃	22.8	15.4	4.1	1.09	Ⅱ－a		〃	〃
513	〃　〃	〃	〃	15.5+	16.3	4.2	1.02	〃		〃	
514	〃　〃	黒褐色砂	〃	16.4	15.7	3.5	0.82	?		〃	未製品
515	〃 90－F		〃	20.7	15.2	3.7	0.71	Ⅱ－a		〃	
516	〃 92－C	428	〃	19.8	15.5	2.9	0.76	Ⅰ－a		〃	
517	A区P－6	灰色細砂	〃	26.1	13.0+	3.6	0.82	Ⅱ－c		〃	
518	〃　〃	〃	〃	24.2	14.3	2.2	0.63	Ⅱ－a	126－22	〃	
519	B区東側道	黒褐色砂	〃	16.0+	13.2+	2.9	0.49	Ⅱ－e		〃	
520	A区P－6	黒色細砂	〃	23.1	25.3	4.5	2.94	?		〃	未製品
521	B区93－D	黒褐色土	〃	25.3	18.9	6.4	2.57	Ⅰ－a		〃	
522	A区P－6	灰色細砂	〃	20.7	14.1	3.6	0.81	〃		〃	
523	〃　〃	黒色細砂	〃	21.7	16.5	5.5	1.75	Ⅱ－a		〃	未製品
524	〃　〃	〃	〃	21.2	15.8	3.1	0.65	?		〃	〃
525	B区91－B	158	〃	21.1	13.3+	3.8	0.95	Ⅱ－a		〃	
526	〃 東側道(東)	黒褐色砂	〃	27.5	17.4+	3.5	0.32	Ⅱ－e		〃	
527	A区P－6	灰色細砂	〃	30.5	9.2+	2.9	0.79	Ⅱ－f		〃	
528	B区91－B	暗黒褐色土	〃	21.0+	12.3	3.0	0.78	Ⅴ		〃	
529	〃 東側道		〃	21.2+	14.4	3.8	0.81	Ⅱ－a		〃	
530	A区P－6	灰色細砂	〃	23.1	17.7	3.7	1.49	〃		〃	未製品
531	〃　〃	黒色細砂	〃	16.1	14.3	2.9	0.48	〃		〃	
532		表採	〃	24.6	21.5	3.0	1.66	?		〃	未製品
533	A区P－6	灰色細砂	〃	25.8	14.2	2.6	0.50	Ⅱ－f	126－24	〃	
534	B区93－G	2	〃	19.5+	11.8+	4.0	0.76	Ⅰ－a		〃	
535	A区P－6	黒色細砂	〃	19.3+	11.9+	3.2	0.43	Ⅱ－f		〃	
536	B区6グリット	包含層下	〃	37.4	21.5	6.4	4.71	?		〃	未製品
537	〃 95－E		〃	31.9	18.5	3.4	2.98	?		〃	
538	A区P－6	黒色細砂	〃	14.9+	18.0	3.8	0.39	Ⅰ－a		〃	
539	〃　〃	〃	〃	16.2+	9.4+	2.1	0.34	?		〃	
540	B区92－E	黒褐色土~暗黒褐色土	〃	30.4	20.4+	5.0	2.92	Ⅰ－a		〃	

番号	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	分　類	図	図版	備　考
541	A区P－6	黒褐色砂	サヌカイト	24.0+	18.8	3.8	1.63	Ⅰ－a		146	
542	〃　〃	灰色細砂	〃	15.9+	16.6	3.8	0.96	Ⅱ－a		〃	
543	〃　〃	黒色細砂	〃	16.5+	20.8	3.5	1.27	〃		〃	
544	〃　〃	灰色細砂	〃	31.5	15.6	4.1	1.38	Ⅱ－c		〃	
545	〃　〃	暗茶灰色土	〃	15.9+	17.0	3.3	0.37	Ⅱ－a		〃	
546	B区91－B	159	〃	21.1	12.3+	3.5	0.49	〃		〃	
547	〃 東側道		〃	17.0+	13.1+	3.3	0.62	〃		〃	
548	〃 94－C	茶褐色土	〃	16.4+	16.0	3.8	1.02	〃		〃	
549	A区P－6	黒色細砂	〃	16.0	11.5	2.4	0.28	〃		〃	
550	B区90－D		〃	32.7+	12.9+	4.0	1.66	Ⅰ－a		〃	
551	〃 91－B	暗黒褐色土	〃	26.8	13.3	2.9	0.65	Ⅱ－f		〃	
552	〃 東側道	黒褐色砂	〃	22.5+	14.9+	2.8	1.17	Ⅱ－a		〃	
553	A区P－6	灰色細砂	〃	24.0	16.3	2.6	0.64	?		〃	未製品
554	B区94－D	黒褐色土	〃	29.5	14.0	4.1	1.38	Ⅰ－c	126－16	〃	
555	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	18.0+	21.4	3.4	1.18	Ⅰ－a		〃	
556	〃 92－C	黒褐色土	〃	18.6+	21.7	6.3	2.21	〃		〃	
557	〃 91－C	暗黒褐色土	〃	27.1	19.6	3.8	1.77	〃		〃	未製品
558	〃　〃	黒褐色土	〃	34.9+	15.5+	3.3	1.87	?		〃	
559	〃 東側道	茶褐色粗砂	〃	17.6	12.2	3.0	0.52	Ⅱ－a		〃	
560	A区P－6	灰色細砂	〃	27.5+	17.2+	3.3	1.57	Ⅰ－a		〃	
561	B区東側道		〃	32.3+	16.6+	3.3	1.22	Ⅱ－e		〃	
562	A区P－6	黒色細砂	〃	15.6+	9.0	2.0	0.26	Ⅰ－a		〃	
563	B区93－C	黒褐色土	〃	24.5	22.3	5.6	2.16	〃		〃	未製品
564	〃 92－C	1290	〃	28.2	13.0+	2.7	0.96	Ⅴ－b		〃	
565	〃 東側道		〃	26.8+	18.3+	4.1	1.71	Ⅱ－a		〃	
566	〃 91－B	黒褐色と暗黒褐色の間の粗砂	〃	23.5	16.5	3.8	1.11	〃		〃	
567	〃 東側道	茶褐色粗砂	〃	21.4	18.7+	4.9	1.22	〃		〃	
568	〃 90－D		〃	23.7	17.7	3.9	1.05	Ⅰ－a		〃	
569	〃 90－C		〃	33.0	22.1	5.7	2.17	?		〃	未製品
570	〃 90－F		〃	20.0	15.2	2.6	0.16	Ⅱ－a		〃	
571	A区P－6	黒色細砂	〃	23.6	14.9	4.2	1.06	〃		〃	
572	B区東側道	黒褐色砂	〃	20.8	19.8+	3.0	1.33	〃		〃	
573	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	22.4	16.9	3.0	0.80	〃		〃	
574	〃　〃	〃	〃	26.5	18.8	5.5	2.37	Ⅰ－a		〃	
575	B区91－B	黒褐色土と暗黒褐色土の間の粗砂	〃	16.0+	15.2	4.6	0.30	〃		〃	
576	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	19.7	14.1	3.3	0.77	Ⅱ－a		〃	
577	〃　〃	〃	〃	16.0+	19.3	4.6	0.56	Ⅰ－a		〃	
578	〃　〃	〃	〃	33.0	17.4+	3.4	0.65	Ⅱ－d		〃	
579	B区91－B	黒褐色土と暗褐色土の間の粗砂	〃	22.0+	16.3+	3.2	1.13	Ⅱ－a		147	
580	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	19.0+	19.1+	3.8	1.42	Ⅰ		〃	
581	〃　〃	〃	〃	16.4+	15.7	3.5	0.75	Ⅱ－a		〃	
582	〃　〃	〃	〃	16.7+	19.0	3.9	0.22	〃		〃	
583	B区90－D		〃	20.4+	13.2.	3.1	0.63	〃		〃	
584	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	25.1	15.4+	3.5	0.34	Ⅰ－a		〃	
585	〃　〃	〃	〃	28.7	16.8+	3.3	0.62	Ⅰ－b		〃	
586	B区東側道	茶褐色粗砂	〃	22.0	14.4	3.7	0.94	Ⅱ－a		〃	
587	〃 90－C		〃	23.5	17.3	3.2	1.36	Ⅰ－a		〃	
588	〃　〃		〃	20.8+	13.2+	3.0	0.26	〃		〃	
589	〃 東側道	黒褐色砂	〃	12.0+	10.0	1.7	0.24	Ⅱ－b		〃	
590	〃 90－C		〃	26.5	21.2	3.7	2.19	?		〃	未製品
591	〃 94－C,D	褐色土	〃	26.0	16.2	4.5	0.34	?		〃	〃
592	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	19.3	13.4	1.9	0.33	Ⅰ－a		〃	
593	B区東側道	茶褐色粗砂	〃	16.9	15.3	3.6	0.60	Ⅱ－a		〃	
594	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	16.0+	14.1	2.8	0.68	〃		〃	

番号	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	分類	図	図版	備考
595	B区90－C		サヌカイト	25.5	13.9	2.3	0.97	Ⅱ－a		147	未製品
596	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	10.8+	16.7	2.9	0.50	〃		〃	
597	B区東側道	青灰色砂	〃	20.7+	20.5+	3.3	1.38	Ⅰ－a		〃	
598	〃 〃	土壙－11	〃	21.9+	16.8+	3.0	1.03	Ⅱ－a		〃	
599	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	17.9+	12.9+	2.6	0.58	〃		〃	
600	B区東側道	青灰色砂	〃	24.2+	11.4+	3.3	0.75	?		〃	
601	〃 91－B	黒褐色土と暗黒褐色土の間の粗砂	〃	20.0+	11.0	2.4	0.60	Ⅱ－a		〃	
602	〃 東側道	青灰色砂	〃	21.4	15.1	3.6	1.17	Ⅰ－a		〃	未製品
603	〃 9グリット		〃	25.5	15.2+	2.9	0.81	Ⅱ－a		〃	
604	〃 東側道	土壙－11	〃	28.2	14.8	3.4	1.07	Ⅰ－a		〃	
605	A区10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	16.1+	12.5+	2.1	0.38	Ⅱ－a		〃	
606	〃 P－6	灰色細砂	〃	32.2	14.2+	3.2	1.64	?		〃	
607	〃 10－C,11－C,9－D	側溝(56年調査区)	〃	23.8	12.7+	3.0	0.77	Ⅱ－a		〃	
608	〃 〃	〃	〃	20.9	16.8	2.7	0.40	〃		〃	
609	〃 〃	〃	〃	18.4+	12.9+	3.0	0.58	?		〃	
610	〃 〃	〃	〃	17.0	11.3	2.7	0.47	Ⅰ－a		〃	
611	B区西側溝		〃	18.3	12.8	3.7	0.73	Ⅱ－b		〃	
612	〃 〃		〃	27.0	25.9	4.3	4.01	?		〃	未製品
613	〃 〃		〃	39.6	28.8	6.9	6.25	?		〃	〃
614	〃 〃		〃	19.7	13.0	3.0	0.37	Ⅱ－b		〃	
615	〃 〃		〃	19.9	12.7	3.9	0.86	Ⅰ－a		〃	
616	B区T－1		〃	47.5	19.6	5.8	5.73			〃	
617	〃 〃		〃	19.5+	15.9	3.2	0.86	Ⅱ－a		〃	
618	〃 〃		〃	22.2	19.3	4.2	1.33	Ⅰ		〃	
619	〃 〃		〃	20.7+	15.6+	3.1	0.81	?		〃	
620	〃 T－2		〃	22.4	12.7	3.0	0.71	Ⅴ	126－28	〃	
621	〃 〃		〃	19.3	12.6	2.9	0.61	〃		〃	
622	〃 〃		〃	26.8+	20.0+	4.5	2.01	?		〃	
623	表採		〃	20.7	13.3	3.2	0.82	Ⅰ－a		〃	
624	B区		〃	20.2	16.3	4.1	1.25	〃		〃	
625	表採		〃	22.3	15.9	3.3	0.94	Ⅱ－a		〃	
626	〃		〃	31.9+	17.0+	3.7	2.00	Ⅰ－a		〃	
627	〃		〃	22.4+	8.8+	2.6	0.20	Ⅱ－e		〃	
628	〃		〃	28.2+	25.1+	4.4	3.65	Ⅰ－a		〃	未製品
629	B区94－C	土壙－13	〃	24.0	23.0	5.0	2.40	〃	43－7		
630	〃	〃	〃	22.2	16.8	3.9	3.10	〃	43－8		
631	〃	〃	〃	19.0	14.3	2.1	0.40	〃	43－9		
632	〃	〃	〃	14.2	12.2	3.2	0.35	Ⅱ－a	43－10		

表－3　阿津走出遺跡石器・石製品一覧表

番号	遺　物	出土地区	遺　構	材　質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重　量 g	図	図版	備　考
1	コア	B区92－D	暗黒褐色土	サヌカイト	94.9	74.8	32.0	293.59			
2	〃	〃　〃	〃	〃	728.0	72.6	24.6	104.89			
3	打製石斧？	〃　〃	〃	〃	478.0＋	70.8＋	12.0＋	32.68			刃部磨く
4	コア	〃 東側道	黒褐色砂－青灰色粗砂	〃	57.4＋	77.8＋	31.4＋	158.36			
5	〃	〃　〃	〃	〃	71.6	58.0＋	47.2＋	280.02			
6	スリ石	〃 88－D		安山岩	114.9	82.6	21.9	247.01			
7	コア	〃 92－D	暗黒褐色土	サヌカイト	64.8＋	89.4	37.3	233.00			
8	凹み石	A区P－6	灰色粗砂	花崗岩	106.4	92.5	54.0	539.12			
9	〃	〃　〃	〃	安山岩？	86.6	77.1	48.5	554.01			
10	石錘	B区東側道		凝灰岩	106.2	69.4	53.2	445.55			切れ目
11	〃	A区P－6	灰色細砂	安山岩？	100.8	76.3	22.2	201.76			
12	〃	B区93－E	暗黒褐色土	安山岩	85.5	58.5	18.5	132.04			
13	〃	〃 東側道	黒褐色砂	砂岩	88.3	74.8	26.0	240.05			
14	〃	A区P－6	灰色粗砂	安山岩	123.4	93.8＋	24.0	327.22			
15	スリ石	B区東側道	青灰色粗砂	〃	66.7＋	38.0＋	29.3＋	132.06			長方形
16	石錘	〃　〃	黒褐色砂	凝灰岩	80.4	64.7	19.3	89.57			
17	スリ石	〃 93－E	暗黒褐色土	安山岩	80.4	68.0	18.0	149.66			扁平
18	〃 or タタキ石	〃 東側道		流紋岩	73.2＋	45.6＋	36.5＋	132.18			
19	石錘	〃　〃	茶褐色粗砂	安山岩	86.6	74.7	19.8＋	168.21			細長い
20	〃	〃 91－F	暗黒褐色土	〃？	78.6	56.4	25.8＋	98.24			
21	スリ石・タタキ石	〃 東側道	茶褐色粗砂	砂岩	113.6	60.0	23.0	184.02			扁平
22	石錘	A区P－6	灰色細砂	安山岩	86.9＋	75.5＋	17.0＋	136.04			
23	スリ石	B区東側道	黒褐色砂	〃	140.8	39.6	21.4	126.38			長方形
24	石錘	〃　〃	茶褐色粗砂	〃	88.0	52.0	17.2	124.86			
25	〃	〃　〃	〃	〃	49.0＋	69.4＋	17.0＋	46.55			
26	凹み石	〃 90－G		〃	91.1	82.7	54.1	401.88			
27	石錘	〃 東側道		〃	91.3	71.9	20.5	214.71			
28	〃	A区P－6	灰色粗砂	〃	77.0	66.5	21.6	129.74			
29	スリ石	B区東側道		〃	32.2＋	64.4＋	61.3＋	143.51			
30	石錘	〃 91－C	暗黒褐色土	凝灰岩	75.9	69.4	20.9	126.79			
31	コア	A区P－6	黒色細砂	サヌカイト	85.7	66.2	27.1	180.23			
32	石錘	〃　〃	黒褐色土	安山岩	84.7	74.7	26.4	246.22			
33	〃	〃　〃	黒色細砂	花崗斑岩？	87.7	67.1	32.2	281.91			
34	スリ石？	〃　〃	灰色粗砂	凝灰岩	132.0	51.6	18.7	184.87			扁平長い
35	石錘	B区東側道	青灰色砂	安山岩	83.8＋	52.9＋	23.0＋	121.13			〃
36	スリ石	〃　〃		結晶片岩	29.3＋	96.3＋	60.2＋	205.71			
37	タタキ石	A区P－6	灰色細砂	安山岩	67.8＋	39.7＋	18.0＋	69.96			
38	〃	〃　〃	〃	砂岩	49.2＋	46.4＋	50.3＋	171.93			
39	スリ石	〃　〃	灰色砂	花崗岩	81.8＋	74.6	35.2	320.11			扁平
40	コア	〃　〃	〃	サヌカイト	136.7	110.4	40.0	846.18			
41	石錘 or タタキ石	〃　〃	黒色細砂	結晶片岩(溶石片岩)	88.3	73.0	31.7	329.35			
42	スリ石	〃　〃	灰色細砂	安山岩？	118.9＋	79.2＋	23.9＋	312.71			扁平楕円
43	〃	〃　〃	灰色粗砂	凝灰岩	46.1＋	120.9＋	47.9＋	183.33			皿状
44	タタキ石	〃　〃	灰色細砂	花崗斑岩	136.3	88.6	54.0	822.63			
45	〃	〃　〃	黒褐色土	凝灰岩	104.3	82.9	67.3	507.70			
46	石錘	〃　〃	灰色細砂	安山岩	108.5	63.5	33.0	330.20			
47	〃	〃　〃	〃	結晶片岩	114.0	57.6	28.8	253.46			
48	タタキ石	〃　〃	黒色細砂	珪岩	127.6	90.0	66.7	1,220.00			
49	石皿	〃　〃	灰色砂	安山岩	220.0	80.0	43.5	903.37			縁辺に敲打痕
50	石錘	B区東側道	青灰色砂	砂岩	57.3	38.9	16.3	38.41			
51	スリ石	〃 9グリット		安山岩	25.0＋	41.0＋	10.7＋	8.79			
52	〃	A区P－6	黒色細砂	〃	31.0＋	31.0＋	18.6＋	7.94			
53	〃	B区AR－2	灰色粗砂	閃緑岩	14.6＋	34.0＋	31.0＋	9.20			
54	コア	〃 89－D		サヌカイト	101.5	74.7	28.6	145.22			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
55	コア	B区89－D		サヌカイト	85.0	78.3	32.8	231.48			
56	石錐	〃 94－E	土壙－9	安山岩	32.0＋	55.6＋	108.0＋	24.20			
57	スリ石(石錘?)	〃 92－D	土壙－5	〃	47.6＋	28.5＋	7.0	15.43			
58	〃	〃 92－C	暗黒褐色土	結晶片岩	72.9＋	35.0＋	12.4＋	31.34			
59	石錘	〃 93－C	〃	安山岩	48.8＋	32.3＋	13.8＋	23.84			
60	〃	〃 92－B	〃	〃	40.6＋	69.0＋	12.5＋	30.17			
61	〃	〃 92－C	〃	〃	57.2＋	56.4＋	13.0＋	24.17			
62	スリ石	〃 91－B	〃	流紋岩	65.5＋	58.3＋	36.0＋	125.76			皿状
63	石錘	〃 90－C	砂(黒色)	安山岩	50.5＋	77.5＋	14.3＋	65.25			
64	コア	A区P－6	灰色細砂	サヌカイト	94.3	76.7	44.8	352.73			
65	石斧	〃 〃	〃 (粗砂)	〃	73.1	34.0	11.3	18.90		151	
66	石錘	〃 〃	灰色細砂	安山岩	39.8＋	41.7＋	10.0＋	11.99			
67	スリ石	〃 〃	〃	〃	44.8＋	41.0＋	12.1＋	23.28			一般のスリ石と異なる
68	コア	〃 〃	〃	サヌカイト	37.8＋	38.8＋	34.6＋	84.98			
69	スクレイパー?	〃 〃	暗茶灰色土	〃	27.9＋	24.2＋	6.2＋	3.29			
70	石錘 or タタキ石	B区93－D	黒褐色土	凝灰岩	30.4＋	79.2＋	76.2＋	181.84			
71	スクレイパー	A区P－6	黒色粗砂	サヌカイト	68.7	41.9	11.0	28.97			
72	〃	〃 〃	〃	〃	68.3	58.8	11.3	55.02			
73	〃	〃 〃	〃	〃	126.0＋	49.3	9.4	42.54			
74	石錘	〃 〃	〃	安山岩	78.4	73.3＋	21.7	224.47			未製品
75	コア	〃 〃	〃	サヌカイト	84.3	69.7	27.7	116.72			
76	石錘	〃 〃	〃	安山岩	8.4＋	60.2＋	17.3＋	4.25			
77	〃	〃 〃	〃	〃	64.6＋	29.3＋	8.4＋	20.90			
78	〃	〃 〃	〃	〃	102.0	99.9	16.0	171.89			
79	スリ石	B区東側道	西側溝	花崗岩	68.0	59.0	30.0	152.77			
80	〃 or タタキ石	〃 〃	側溝	安山岩	38.1＋	75.2＋	67.2＋	224.12			
81	石錘	〃 92－D	黒褐色土	閃緑岩	90.2	64.7	19.0	137.30			
82	タタキ石	A区P－6		砂岩	93.3	89.0	16.2	202.26			
83	打製石斧	〃 〃	黒色細砂	サヌカイト	121.6	63.7＋	13.3	138.42			刃部磨耗
84	スリ石	B区東側道	青灰色粗砂	花崗斑岩	35.6＋	80.9＋	32.7＋	115.29			
85	スリ石	〃 91－B	暗黒褐色土	石英斑岩	49.5	45.8		150.64			投弾状
86	石錘	〃 93－D	〃	安山岩	94.0	93.9	24.6	197.84			
87	〃	〃 93－E		〃	86.0	56.8	15.5	114.77			
88	〃	〃 〃		〃	118.7	108.5	20.3	217.62			
89	スリ石	〃 東側道		花崗岩	126.6	115.3＋	69.0	1,200.00			
90	石錘	〃 AR－2	灰色粗砂	安山岩	92.2	70.8	14.0	94.85			
91	〃	〃 92·93D－E	暗黒褐色土	〃	66.6＋	49.6＋	24.0	82.59			
92	〃	〃 92－D	〃	〃	43.2＋	76.0＋	10.5＋	26.47			
93	〃	〃 〃	〃	〃	106.3	82.8	24.0	191.67			
94	〃	〃 〃	〃	〃	76.4	55.4	15.9	66.16			
95	スリ石	〃 〃	黒褐色土	花崗斑岩	96.2	86.0	64.5	527.49			
96	石錘	〃 東側道	〃	安山岩	93.3	75.7	25.7	284.06			
97	〃	〃 94－D	暗黒褐色土	花崗斑岩?	45.9＋	64.0	11.5	47.90			
98	スリ石 or タタキ石	〃 東側道	黒褐色砂	閃緑岩	107.0	91.0	60.0	934.74			
99	〃	A区B－4	T－1	花崗斑岩	97.0	81.7	60.0	683.51			
100	〃 or タタキ石	B区東側道	側溝	花崗岩	108.1	90.0	52.5	735.55			
101	石錘	〃 92－D	土壙－5	安山岩	79.0＋	56.5＋	9.6	53.98			
102	〃	〃 9グリット		〃 ?	43.8＋	57.7	18.7	66.77			
103	スリ石	〃 90－D		〃	71.9＋	78.3	27.0	211.35			扁平で方形
104	石錘	A区P－6	黒色細砂	〃	60.0＋	65.3＋	22.1	128.08			
105	〃	B区東側道	黒褐色砂	〃 ?	127.4	97.7	21.7	430.94			
106	〃	〃 92－D	土壙－5	凝灰岩	113.5	93.0	20.0	283.78			
107	〃	A区P－6	黒色細砂	安山岩	95.0	61.4＋	16.0	138.72			
108	スリ石 or タタキ石	B区92－B	黒褐色土·粗砂	〃	49.5＋	95.3＋	95.3＋	592.84			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
109	石錘	B区92－C	暗黒褐色土	安山岩	25.7+	61.3+	6.0+	11.28			
110	タタキ石	A区P－6		花崗岩	124.0	64.8	46.0	642.69			
111	スクレイパー	B区92－B	黒褐色土・粗砂	サヌカイト	50.4+	42.4	8.6	17.11			
112	コア？	A区P－6	灰色粗砂	〃	75.3	65	20.2	138.21			
113	磨製石斧？	B区93－B	暗黒褐色土	緑色片岩	33.6+	65.2+	5.1+	18.28			
114	石錘	〃 92－B	〃	結晶片岩	156.0	64.0	14.6	203.08			
115	石斧？	〃 9グリット		〃	69.2+	50.9	18.3	74.28			
116	スリ石？	A区P－6	灰色細砂	花崗岩？	104.2	25.6	25.5	93.67			
117	石錘	B区東側道	黒褐色砂	安山岩	87.8+	89.0	19.0	164.38			
118	スクレイパー	〃 〃	〃	サヌカイト	69.8	37.5	3.9	15.95			
119	〃 ？	〃 〃	〃	〃	55.1	28.2	7.6	13.18			未製品
120	石錘	〃 〃	〃	泥岩	100.5	51.9	36.2	219.55			
121	スリ石	A区P－6	黒色細砂	安山岩	143.0	100.3	42.0	975.51			皿状
122	〃	〃 〃	〃	砂石	35.9+	77.0+	70.3	203.26			
123	スクレイパー	B区93－D	暗黒褐色土	サヌカイト	47.0	29.7	10.8	12.30			
124	コア	〃 91－C	〃	〃	96.7	95.2	41.8	411.56			転石
125	タタキ石	A区P－6	黒色細砂	流紋岩	121.7	33.4	33.0	198.92			
126	石錘？	B区東側道		安山岩	78.4	67.2	16.5	83.94			
127	〃	A区P－6	黒色細砂	〃	81.3	60.3	16.5	93.13			
128	スリ石	B区東側道		〃	46.6	43.5	12.2	28.23			自然石か
129	石錘	A区P－6	黒色細砂	〃	83.8	77.3	17.6	150.75			
130	スリ石	〃 〃	〃	石英斑岩	96.0+	40.0+	37.0	184.55			
131	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	77.4	56.3	16.7	73.34			
132	石匙	B区92－D	土壙－5	〃	74.8	25.4	7.1	10.48		148	
133	〃 （石斧？）	〃 94－C	暗黒褐色土	〃	6.9	68.6	15.4	60.41			石斧刃部の可能性大
134	石錘	〃 89－D・E，90－E		安山岩	83.1	60.0	14.0	87.56			
135	〃	〃 92－B，92－C	暗黒褐色土	〃	116.6	90.0	18.5	216.97			
136	〃	〃 〃	〃	〃	114.7	91.6	16.6	223.31			原材？
137	〃	〃 92－C	〃	凝灰岩	84.1+	48.6+	25.2+	139.67			
138	〃	〃 92－D	土壙－4	安山岩	17.3+	17.6+	6.6+	1.26			
139	〃	〃 93－C，93－D	暗黒褐色土	〃	65.8	64.9	22.9	106.45			
140	コア	〃 〃	〃	サヌカイト	94.0	76.9	18.2	159.81			
141	磨製石斧？	〃 92－B	〃	流紋岩？	37.6+	26.2+	21.7+	18.71			
142	石錘	〃 94－E	〃	安山岩	63.6+	49.9+	16.2+	60.58			
143	スリ石	〃 〃	土壙－9・10	〃	62.9+	51.6+	7.7+	41.36			
144	〃 （？）	〃 92－C・92－D	暗黒褐色土	〃	32.9+	67.3+	14.1	165.04			
145	石錘	〃 〃		〃	81.8	84.5	23.2	70.09			
146	スリ石？	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	96.2	80.0+	238.0+	285.78			扁平
147	石錘	〃 92－D	〃	〃	54.6+	69.6+	11.3	56.55			
148	スリ石	〃 西側溝		〃	130.5	97.1	78.1	1,570.00			
149	凹み石	〃 〃		閃緑岩	112.0	88.0	83.4	692.50			
150	石錘	〃 〃		安山岩	79.6	82.6	15.1	144.81			
151	〃	〃 〃		花崗岩	86.1	78.8	17.2	181.24			
152	〃	〃 〃		安山岩	83.6	80.0	22.1	218.93			
153	タタキ石	〃 〃		〃	67.5+	51.4	29.7	149.12			
154	スリ石	〃 〃		石英斑岩	87.4+	55.9	46.2	302.20			
155	タタキ石	〃 〃		閃緑岩	103.1	77.1	64.9	826.53			
156	コア	〃 92－G		サヌカイト	95.8	99.4	29.4	323.90			
157	石錘（？）	〃 〃		結晶片岩	112.7	75.4	12.9	196.94			
158	スリ石	〃 〃		安山岩	100.1	85.8	26.3	438.25			扁平
159	〃	〃 T－3		〃 ？	177.2	63.0	27.0	478.96			細長く扁平
160	スクレイパー	〃 94－E	土壙－9・10堤土	サヌカイト	97.9	24.9	11.7	19.64		150	
161	〃	〃 西側溝		〃	148.3	80.0	18.0	209.50			
162	〃	〃 〃		〃	55.9+	32.9	8.7	19.13			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
163	スクレイパー	B区西側溝		サヌカイト	100.0	41.9	11.4	37.27		149	
164	〃	〃 〃		〃	62.6+	34.8	10.7	27.66			
165	石匙	〃 〃		〃	72.4	34.3	8.4	26.01		148	
166	スクレイパー	〃 〃		〃	64.6	41.4	7.2	20.58			
167	石錘	〃 93－E		安山岩	83.6	65.2	17.5	117.37			
168	〃	〃 〃		〃	69.6+	61.4	17.9	107.51			
169	石鏃	〃 T－1		サヌカイト	31.2	21.7	6.2	2.09			未製品
170	スクレイパー	〃 〃		〃	72.0+	31.7	7.0	14.30			
171	〃	〃 〃		〃	88.9+	42.9	11.4	30.32			
172	コア or クサビ?	〃 〃		〃	63.2	49.6	15.3	34.41			
173	石匙	〃 〃		〃	84.1	33.1	7.5	13.37		148	
174	スクレイパー	〃 〃		〃	64.0	50.4	8.0	21.93			
175	タタキ石 (ハンマー)	〃 〃		結晶片岩	86.9+	30.7	14.7	37.74			
176	石錘	〃 西側溝		サヌカイト	48.0+	26.7	5.2	2.99			
177	〃	〃 〃		安山岩	72.9+	73.0+	17.0+	26.13			
178	〃	〃 〃		〃	105.4+	66.5	20.4	186.78			
179	〃	〃 〃		〃	98.0	69.6+	18.1	160.50			
180	〃	〃 〃		〃	94.0	93.6	21.1	293.44			
181	コア	〃 〃		サヌカイト	82.3	63.3	29.9	159.84			
182	石錘	〃 90－E		安山岩	49.7+	23.2+	10.1+	6.11			
183	スクレイパー	〃 東側道		サヌカイト	85.1	59.5	10.9	62.86			
184	石錘	〃 90－F		安山岩	77.4	53.5	12.9	78.61			
185	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	56.8	32.9	11.0	17.51			
186	石錘	〃 T－1		安山岩	78.2	59.4	12.3	71.66			
187	〃	〃 〃		〃	64.7	61.1	15.7	81.24			
188	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	68.0+	55.5+	9.3+	24.98			
189	石錘	〃 〃		安山岩	93.4	79.1	14.2	141.20			
190	〃	〃 〃		〃	76.9	68.2	11.7	94.46			
191	スリ石	〃 西側溝		〃	104.3	84.1	23.9	173.80			扁平
192	石錘?	〃 〃		〃	61.5+	38.7+	7.9+	19.39			
193	石匙	〃 〃		サヌカイト	74.1	35.0	7.9	22.57		148	
194	〃	〃 89－E		〃	68.9	47.0	9.3	29.22		149	
195	石錘	〃 92－D	土壙－5	安山岩	107.0	94.5	17.8	251.17	28－3		
196	〃	〃 93－E		〃	98.7	75.8	20.0	223.66			
197	スリ石	〃 〃		流紋岩	92 +	29.7+	15.3+	30.22			棒状
198	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	58.2+	39.3	6.2	13.04			
199	〃	〃 6グリット		〃	69.4+	30.6	4.0	9.62		150	
200	石錘	〃 93－E		安山岩	106.4	88.7	19.7	192.45			
201	〃	〃 T－2		〃	104.6	99.0	14.8+	203.65			
202	スリ石 or タタキ石	〃 〃		〃	151.6	81.0	47.9	657.58			細長い
203	コア	〃 〃		サヌカイト	90.9	73.9	38.1	209.14			
204	石錘	〃 94－B	暗黒褐色土	安山岩	89.5+	65.0	17.7	117.29			
205	〃	〃 〃		〃	102.6	83.4	25.2	188.78			
206	〃	〃 91－C	黒褐色土	砂岩	67.0+	74.5+	22.2+	132.90			
207	〃	〃 〃	〃	安山岩	46.4+	69.6+	8.6+	20.85			
208	スリ石	〃 〃	〃	〃	47.0+	35.4+	10.6+	9.80			
209	スクレイパー	〃 〃	〃	サヌカイト	40.8+	31.2+	5.5+	6.82			
210	スリ石	〃 〃	〃	安山岩	62.2+	59.5+	13.9+	57.22			
211	スクレイパー	〃 88－D		サヌカイト	63.7	33.0	5.7	15.12			
212	〃	〃 89－F		〃	49.8+	17.8+	4.7+	2.39			
213	石匙	〃 89－E		〃	79.9	33.0	6.9	17.87		148	
214	石錘	〃 92－C	暗黒褐色土	安山岩	65.8	35.7	12.0	26.18			
215	スクレイパー	〃 90－E		サヌカイト	80.0	31.6	8.6	23.25			
216	スリ石?	〃 93－E		安山岩	62.0+	33.0	22.0+	74.21			柱状

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
217	石錘？	B区西側溝		泥岩	81.7	76.8	14.7	67.64			
218	〃	〃 〃		安山岩	40.0+	27.9+	7.0+	6.02			
219	スリ石	〃 〃		〃	58.6+	61.8+	17:3+	27.44			方形，原材？
220	石錘	〃 〃		〃	75.4+	50.8+	10.8+	29.66			
221	スリ石	〃 〃		流紋岩	19.0+	50.7+	32.1+	45.25			角ばる
222	石錘	〃		〃 ？	94.3+	61.6+	30.2+	132.89			
223	スクレイパー	〃 92－F		サヌカイト	71.8	46.7	6.4	16.12			
224	石錘	〃 91－C	黒褐色土	安山岩	78.6	69.2	16.5	136.94			
225	スリ石 or タタキ石	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	168.4	56.7	26.8	343.36			
226	石錘	〃 〃	〃	〃	73.1	59.4	23.8	84.64			
227	〃	〃 〃	〃	〃	96.4	76.0	20.8	184.08			
228	スクレイパー	〃 〃	〃	サヌカイト	66.6+	62.0	7.8	25.39			
229	タタキ石？	〃 92－C，92－D	〃	安山岩	95.3	58.2	13.2	122.45			
230	石錘	〃 91－C	〃	砂岩	88.2	72.8	18.9	101.41			
231	スリ石	〃 〃	〃	凝灰岩質流紋岩	16.6	39.5	28.6	409.28			柱状
232	〃	〃 〃	〃	砂岩	71.2+	49.8	26.9	166.41			扁平で長方形
233	石錘	〃 〃	〃	安山岩	94.0	85.4	23.2	169.06			
234	〃	〃 〃	〃	花崗岩	95.2	97.6	54.0	770.36			
235	〃	〃 〃		細粒花崗岩	66.0	54.8	21.4	112.22			
236	スリ石	〃 〃		花崗岩	61.2	40.1	30.4	101.40			
237	石錘	〃 〃		安山岩	64.0+	39.0+	16.1+	21.91			
238	〃	〃 〃		〃	66.6+	30.2+	9.4+	12.58			
239	スクレイパー	B区92－E		サヌカイト	72.7+	39.8	7.7	20.19			
240	石錘	〃 89－D		安山岩	95.5	92.5	20.0	267.04			
241	〃	〃 93－B，93－C	暗黒褐色土	〃	103.8	88.9	17.1	233.56			
242	〃	〃 〃	〃	〃	125.3	90.0	16.5	298.83			未製品？
243	〃	〃 〃	〃	〃	129.4	93.2	18.7	209.80			〃
244	スリ石	〃 〃	〃	〃	71.4	58.0	16.6	91.90			扁平
245	石皿	〃 94－C	〃	砂岩	163.0	63.1+	36.0	565.53			
246	スクレイパー	〃 〃	〃	サヌカイト	64.5	43.3	6.0	10.39		150	
247	石錘	〃 94－E	土壙－9・10	安山岩	79.3	73.0	14.2	71.27			
248	〃	〃 〃	〃	〃	87.0	52.8	18.3	113.81			
249	〃	〃 〃	〃	〃	67.9+	28.3+	12.0+	25.57			
250	〃	〃 〃	〃	〃	38.3+	15.8+	11.5+	2.12			
251	〃	〃 〃	〃	〃	35.2+	17.4+	6.2+	1.91			
252	スクレイパー	〃 93－C	暗黒褐色土	サヌカイト	31.1+	17.4+	5.4+	2.25			
253	スリ石	〃 94－D	黒褐色土	砂岩？	84.5	70.4	63.4	588.63			
254	石錘	〃 89－D		安山岩	89.8	78.6	19.9	131.17			
255	スリ石	〃 〃		〃	147.6	77.3	22.8	314.05			
256	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	49.1+	51.5+	9.0+	27.73			
257	〃	〃 〃		〃	86.5+	57.0	12.9+	70.63			
258	〃	〃 〃		〃	114.3+	59.3+	18.2+	73.18			
259	石錘	〃 T－1		安山岩	54.0+	45.0+	12.4+	37.86			
260	スリ石	〃 〃		花崗岩	30.0+	216.2+	47.1+	64.53			
261	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	97.7	37.2	17.1	56.20		149	
262	タタキ石	〃 〃		砂岩	84.8+	44.8+	26.5+	121.37			
263	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	77.3+	43.4+	7.1+	14.51		151	
264	石錘	〃 93－C，93－D	暗黒褐色土	安山岩	96.9	65.9	18.2	148.82			
265	〃	〃 〃	〃	〃	83.8	75.8	24.2	253.42			
266	スリ石 or タタキ石	〃 〃	〃	細粒花崗岩？	71.2+	89.8+	27.9	302.21			扁平
267	〃	〃 〃	〃	花崗岩	91.8+	15.0+	54.3+	69.79			
268	石錘？	〃 92－E		安山岩	66.2+	90.6+	16.0+	125.32			
269	コア	〃 〃		サヌカイト	99.2	79.2	34.0	330.50			
270	石錘	〃 94－E	土壙－9	安山岩	53.9+	45.6+	6.1+	20.39			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
271	石錘	B区92－B,92－C	暗黒褐色土	安山岩	85.6	71.0	18.4	98.56			
272	タタキ石	B区	〃	流紋岩？	70.8+	28.4+	15.8+	57.23			
273	スリ石	〃	〃	安山岩	74.9	53.2	17.8	98.96			扁平
274	スクレイパー	〃	〃	サヌカイト	80.0+	44.3	13.7	48.71			
275	磨製石斧	〃 91－C	土壙－2	砂岩	105.0+	52.2	28.1+	222.28	17－1		
276	タタキ石	〃 〃	〃	花崗岩	35.2+	69.2+	31.6+	59.72			
277	スクレイパー	〃 〃	〃	サヌカイト	40.0+	39.0	5.7	12.44			
278	石匙	〃 90－D		〃	63.4	27.5	7.1	7.94		149	
279	〃	〃 〃		〃	48.4	30.0+	7.5	4.89			
280	タタキ石	〃 10グリット		安山岩	53.7+	145.8+	72.0+	754.67			
281	スクレイパー	〃 90－C	砂・黒色	サヌカイト	80.8	38.6	18.6	40.70		149	
282	〃	〃 〃	暗黒褐色土	〃	82.8	43.9	10.0	24.84		〃	
283	タタキ石	〃 92－C	〃	砂岩	79.0	73.8	17.7	145.61			
284	石錘？	〃 〃	黒褐色土	安山岩	57.6+	25.5+	10.7+	19.19			
285	スクレイパー	〃 〃	〃	サヌカイト	55.7+	12.5+	6.2+	3.32			
286	〃	〃 94－D		〃	76.0	53.8	8.1	25.11		150	
287	〃	〃 89－D		〃	74.4	42.0	10.8	55.43		〃	
288	コア？	〃 93－C	暗黒褐色土	〃	89.0	63.3	24.5	149.90			スクレイパー？
289	スリ石	表採		細粒閃緑岩	25.2+	45.0+	17.7+	23.53			
290	石匙	〃		サヌカイト	82.5	34.0	11.0	18.42		149	
291	〃	B区89－C		〃	82.9	33.0	5.0	14.18		148	
292	石錘	〃 88－C		結晶片岩	141.2	64.8	12.9	178.32			
293	石斧？	〃 〃		サヌカイト	149.2	66.3	17.8	192.46			未製品？
294	ポイント	〃 〃		〃	87.6	41.4	7.6	25.49		151	
295	石錘	〃 92－C	暗黒褐色土	安山岩	75.4	62.6	15.0	74.54			
296	〃	〃 〃	〃	〃	67.0	54.0	19.4	94.14			
297	〃	〃 〃	〃	〃	108.9+	38.5+	14.0+	78.73			
298	スリ石	〃 〃	〃	〃	32.6+	19.7+	5.4+	2.46			
299	石錘？	〃 〃	〃	結晶片岩	48.3+	17.5+	5.0+	3.78			
300	〃	〃 〃	〃	安山岩	58.1+	35.8+	10.6+	24.64			
301	スクレイパー	〃 93－C	〃	サヌカイト	52.5+	44.1+	7.7+	5.85			
302	玉	〃 〃	〃	粘板岩	29.8	33.7	18.3	29.13			
303	石錘？	〃 92－D	土壙－4	安山岩	54.0+	35.3+	7.2+	17.79			
304	〃 ？	〃 〃	〃	石英斑岩	49.4+	47.2+	21.1+	56.14	24－2		
305	石匙	〃 93－C	黒褐色土	サヌカイト	63.5+	44.4	9.2	24.43		148	
306	磨製石斧	〃 94－C	〃	緑色片岩	45.8+	46.2	9.3	13.27			
307	石錘	〃 〃	〃	安山岩	28.0+	47.6+	9.8+	14.83			
308	〃	〃 〃	〃	〃	42.7+	37.8+	7.9+	12.62			
309	スクレイパー	〃 94－C	〃	サヌカイト	37.1+	49.3+	9.0+	16.75			
310	〃	〃 〃	〃	〃	42.1+	46.1+	7.6+	17.26			
311	〃	〃 〃	〃	〃	67.2	47.1	11.9	33.18			
312	石錘	〃 94－B～D		安山岩	78.4	48.8	11.0	49.60			
313	石匙	〃 91－C	暗黒褐色土	サヌカイト	68.6	28.4	8.7	14.18		148	
314	石錘	〃 〃	〃	安山岩	39.4+	22.0+	6.0+	4.41			
315	スリ石	〃 〃	〃	砂岩	89.8+	97.4+	47.4+	374.71			皿状
316	コア	〃 〃	〃	サヌカイト	80.7	66.4	22.8	138.92			
317	スリ石？	〃 〃	〃	安山岩	103.2+	42.6+	39.3+	274.30			
318	石錘	A区D－7	黒色土	〃	83.5	59.3	46.2	365.79			
319	〃	B区91－C	暗黒褐色土	花崗岩	88.5	80.6	25.3	240.23			
320	石匙	〃 88－D		サヌカイト	37.4	32.2	7.0	3.83		149	
321	スクレイパー	〃 〃		〃	68.6+	27.0	6.0	7.94			ポイントの可能性大（茎柄部の消し等から）
322	キリ	〃 96－D		〃	25.0+	19.1	2.7+	0.82			
323	スリ石	〃 AR－2	灰色粗砂	凝灰岩	91.8+	107.0	74.5+	1,100.0			
324	タタキ石	〃 〃	〃	角閃石安山岩？	107.8	58.4	53.6	502.68			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
325	タタキ石 or スリ石	B区AR－2	灰色粗砂	安山岩	38.2+	80.6+	67.8+	245.20			
326	石錘	〃　〃	〃	凝灰岩？	114.8	88.2	17.1	249.21			
327	〃	〃　〃	〃	安山岩	36.0+	70.3+	9.0+	28.81			
328	石匙	〃　〃	〃	サヌカイト	68.0	29.6	7.0	18.13		148	
329	スクレイパー	〃　〃	〃	〃	51.2+	40.4+	11.1	24.71			
330	石錘	〃　〃	〃	安山岩	47.5+	33.8+	7.8+	15.88			
331	スリ石	〃　〃	〃	砂岩	73.8+	19.6+	17.0	45.41			棒状
332	タタキ石	〃　〃	〃	安山岩	83.0+	84.8+	27.4+	279.06			
333	石錘	〃　〃	〃	〃	42.7+	48.3+	9.0+	19.03			
334	〃	A区P－6		〃	62.8+	44.0+	15.0+	30.70			
335	スリ石	〃　〃		〃	65.1+	77.5+	16.5+	170.43			扁平で方形
336	スクレイパー	〃　〃		サヌカイト	94.5+	45.0+	11.3	50.75			
337	石錘	B区西側溝		砂岩	119.8	98.4	53.8	977.56			スリ石 or 敲石
338	〃	〃　〃		安山岩	104.8+	82.0+	18.6+	202.33			
339	〃	〃　〃		〃	84.8	80.0	13.3	146.70			
340	石斧	〃　〃			117.3	67.8	19.0	235.50		151	
341	石錘	〃　〃		安山岩	82.3	61.0	22.6	128.81			
342	スリ石	〃　〃		〃	73.4+	91.2	16.2	215.46			扁平で方形
343	石匙	〃　〃		サヌカイト	39.3+	33.1	6.0	7.29		148	
344	タタキ石	〃　〃		砂岩	79.8+	108.0+	64.9+	635.82			
345	石錘 or タタキ石	〃 91－E		花崗岩	71.2	70.8	29.6	168.74			
346	〃	〃 西側溝		安山岩	103.6	61.5	17.3	148.54			
347	〃	〃　〃		〃	98.9	74.7	19.2	152.06			
348	〃	〃　〃		〃	107.4	87.5	15.1	119.42			
349	〃	〃　〃		〃	62.4	62.8	14.6	81.11			
350	〃	〃　〃		〃	63.4	71.5	11.9	35.13			
351	〃	〃　〃		〃	86.2	63.5	17.0	121.62			
352	〃	〃　〃		〃	84.0	68.2	14.5	104.40			
353	〃	〃　〃		〃	89.6	67.0	14.4	99.96			
354	スリ石　タタキ石	〃 93－C	暗黒褐色土	〃	69.2	63.3	51.0	308.92			
355	石錘	〃 西側溝		〃	60.5	55.5	17.7	52.25			
356	〃	〃　〃		緑色片岩	100.9	91.3	17.0	255.13			
357	〃	〃 93－D,93－E	暗黒褐色土	安山岩	88.0	78.9	16.5	84.98			
358	スリ石	〃 93－C	〃	〃	78.5	60.6	15.4	115.78			扁平で方形
359	〃	〃　〃	〃	安山岩＋花崗岩	103.1	62.6	18.6	161.11			〃
360	石錘	〃 西側溝		安山岩	71.9	85.3	13.3	135.57			
361	〃	〃 93－C	暗黒褐色土	〃	97.9	82.4	16.2	141.35			
362	スリ石	〃 93－C,93－E	〃	石英斑岩？	116.0	94.8	57.4	767.48			
363	タタキ石	〃　〃	〃	緑色片岩？(角閃石緑泥岩)	119.8	80.6	27.4	556.92			
364	石錘	〃 西側溝		安山岩	76.5	50.2	10.7	58.12			
365	スクレイパー	〃　〃		サヌカイト	59.8+	37.7+	10.5+	41.26			
366	石錘	〃 92－D,93－D	暗黒褐色土	安山岩	106.3	60.9	10.8+	81.14			
367	〃	表採		〃	72.9	52.2	12.0	51.06			
368	〃	B区93－C	暗黒褐色土	〃	33.9+	50.4+	9.30+	16.98			
369	スリ石	〃 90－E,91－E		〃	126.1	66.2+	59.7+	577.73			長方形
370	スクレイパー	〃 94－C	黒褐色土	サヌカイト	6.2+	46.0+	9.3+	17.54			
371	〃	〃 94－D	〃	〃	42.0+	63.0+	7.4+	17.99			
372	石匙	〃 92－E	表土	〃	81.4	25.0	6.9	9.84		148	
373	スクレイパー	〃 93－C	黒褐色土	〃	46.0+	35.8+	7.6+	11.38			
374	〃	〃 89－C		〃	72.5	25.5	11.9	23.74			
375	打製石斧	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	110.0	72.9	19.8	86.18		151	
376	スクレイパー	〃 92－E		〃	91.3	58.9	15.7	83.35			
377	石錘	〃 93－C	暗黒褐色土	安山岩	43.6+	75.8+	17.5+	84.82			
378	〃	〃 94－C,94－D	〃	〃	79.8	58.7	17.3	76.99			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
379	コア	B区93－D,93－E	暗黒褐色土	サヌカイト	70.1	62.2	31.5	129.28			転石
380	スクレイパー	〃 92－D,93－D	〃	〃	81.2	45.5	10.8	44.27			
381	〃	〃 93－C	〃	〃	74.3+	40.4	12.8	34.90			
382	〃	〃 91－E	土壙－3	〃	68.8+	35.0+	6.5+	12.51			
383	石匙	〃 90－E,91－E		〃	65.5+	35.0	5.7	12.04			
384	玉	A区側溝	(昭和56年調査)	蛇紋岩	19	14	14.8	6.48			
385	石錘？	B区93－C	黒褐色土	安山岩	33.2+	61.1+	9.5+	25.10			
386	コア	〃 西側溝		サヌカイト	66.2	52.4	28.0	120.61			
387	石錘	〃 〃		？	72.5	64.7	18.6	76.72			
388	磨製石斧	〃 94－E	土壙－10	結晶片岩	11.3+	32.3+	9.2+	3.35	40－5		刃部小片
389	石錘	〃 91－C	黒褐色土	安山岩	33.6+	56.4+	11.0+	28.09			
390	スクレイパー	〃 92－C	暗黒褐色土	サヌカイト	31.4+	39.1+	6.2+	8.89			
391	石錘	〃 94－D	黒褐色土	安山岩？	44.1+	80.0+	13.4+	51.21			
392	スリ石？	〃 92－C	〃	頁岩	75.7+	49.0+	16.5+	98.46			
393	スクレイパー	〃 10グリット		サヌカイト	51.6	22.5	5.9	6.13			
394	スリ石	〃 西側溝		斑糲岩	81.0+	59.3+	45.0+	306.13			
395	〃	〃 92－C	土壙－12と同じ	流紋岩？	43.0+	39.1+	13.6+	17.22			
396	石錘	〃 92－B,92－C	黒褐色土	安山岩	85.1	67.3	15.8	84.06			
397	〃	〃 94－C	暗黒褐色土	〃	100.9	93.9	19.0	276.26			
398	スリ石	〃 92－C	黒褐色土	〃	26.3+	53.3+	12.3+	18.28			
399	石錘	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	55.9+	42.0+	11.3+	35.40			
400	〃	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	32.9+	21.6+	7.4+	4.57			
401	〃	〃 91－C	土壙－2	〃	37.0+	75.1+	23.2+	57.11			
402	〃 ？	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	32.6+	52.5+	8.9+	24.76			
403	石錘	〃 〃	〃	花崗岩	44.9+	67.2+	11.3+	22.87			
404	〃	〃 〃	〃	安山岩	101.2	70.6	18.2	151.53			
405	タタキ石	〃 91－C	土壙－20	〃	67.8+	96.1+	36.0+	244.68			
406	石錘	〃 〃	土壙－2	〃	61.3+	90.6+	21.4+	133.03			
407	〃	〃 94－D		〃	73.4+	51.8+	10.0+	34.04			
408	スリ石	〃 〃		〃	59.2+	43.7+	21.9+	49.38			扁平
409	石錘	〃 〃		〃	42.4+	37.8+	20.8+	26.17			
410	〃	〃 〃	黒褐色土	〃 ？	24.3+	42.6+	9.6+	7.81			
411	スリ石	〃 10グリット	包含層	〃	30.5+	28.5+	5.0+	5.03			
412	石錘	〃 89－E		〃	76.1+	46.8+	13.8+	61.93			
413	〃	〃 〃		〃	39.8+	61.4+	14.7+	27.57			
414	〃	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	59.8+	52.6+	10.0+	27.02			
415	スリ石	〃 〃	〃	〃	105.8+	90.6+	38.8+	475.98			扁平で石皿的
416	石錘	〃 〃	〃	〃	47.5+	47.5+	14.4+	25.63			
417	〃	〃 89－D		〃	32.0+	41.0+	5.7+	53.04			
418	石匙	〃 〃		サヌカイト	40.2+	53.0+	5.1+	10.19		148	
419	石錘	〃 92－F		安山岩	110.6+	50.8+	15.5+	114.63			
420	打製石斧？	〃 90－E		サヌカイト	39.6+	59.3+	10.2+	26.21			
421	スリ石 or タタキ石	表採		細粒花崗岩？	120.8	90.3	27.4	415.63			
422	石皿	B区90－E,91－E		安山岩	200.0	156.0	113.0	4,290.00			
423	スリ石	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	35.0+	43.5+	21.0+	22.30			
424	石錘	〃 〃	土壙－12周辺	〃	97.2+	79.0+	26.0	203.27			
425	〃	〃 〃	〃	〃	106.8	91.7	16.0	185.76			
426	スリ石	〃 〃	〃	サヌカイト	102.4	56.3	44.0	335.51			
427	〃	〃 〃	暗黒褐色土	細粒閃緑岩	73.4+	54.1+	63.0+	213.67			石皿状
428	石錘	〃 93－D	P－1	？	98.5	41.8	11.5+	74.33			
429	スクレイパー	表採		サヌカイト	54.5	23.4	8.0	9.49			
430	スリ石	B区90－F		安山岩	67.2+	41.9+	42.0+	34.44			角ばる
431	石錘	〃 T－2		〃	90.0	59.1	17.5	131.41			
432	スリ石	〃 〃		砂岩	44.1+	71.1+	9.7+	107.57			扁平で方形

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
433	石錐	B区T－1		安山岩	59.5+	50.9+	11.0+	46.79			
434	〃	〃 92－E		〃	57.5+	83.5	16.3+	88.70			
435	スリ石	〃 〃		〃	28.1+	27.4+	9.7+	14.59			扁平で細長い
436	石錐？	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	35.7+	59.5+	12.0+	15.65			
437	〃	〃 〃	〃	花崗岩	36.5+	47.3+	11.0+	23.96			
438	〃	〃 92－C	〃	安山岩	18.8+	60.6+	10.2+	7.33			
439	〃	〃 〃	〃	〃	75.7	68.1	29.3	184.38			
440	コア	〃 〃	〃	サヌカイト	92.2	73.4	25.5	116.32			
441	スクレイパー	〃 93－B	黒褐色土	〃	92.0	85.8	8.7	92.17			
442	コア	〃 94－D	暗黒褐色土	〃	18.4	150.5	26.2	820.04			
443	タタキ石	〃 92－E		安山岩	136.7+	56.0+	40.8+	429.97			
444	石錐？	〃 〃		結晶片岩	152.8	45.0	14.8	171.99			
445	コア	〃 93－E		サヌカイト	81.2	74.3	22.9	184.42			
446	石皿	〃 91－C	暗黒褐色土	泥岩	172.0+	110.0	74.3	1,350.00			
447	石錐	A区P－6	北壁断面	安山岩	15.8+	42.0+	6.2+	2.62			
448	スリ石	〃 〃	〃	〃？	27.8+	23.4+	3.7+	3.75			
449	スクレイパー	B区92－B	黒褐色土～粗砂	サヌカイト	23.3+	24.6+	6.6+	2.72			
450	石錐	〃 92－C	164	安山岩	85.5+	57.4+	12.2+	78.95			
451	スリ石	〃 93－C	801	〃	96.5	76.3	16.7	178.15			
452	〃	〃 〃	836	〃	107.5	78.8	20.0	218.92			
453	石錐	〃 92－B	25	〃？	73.4	51.2	20.5	72.35			
454	スリ石	〃 〃	40	砂岩	112.4	65.6	44.8	413.61			
455	石錐	〃 92－C	429	安山岩	90.7	79.3	15.4	172.99			
456	〃	〃 〃	746	〃	99.0	82.8	17.4	154.90			
457	〃	〃 〃	175	砂岩（礫も目立つ）	95.1	57.6	14.3	112.42			
458	〃	〃 〃	578	安山岩	78.6	63.9	25.6	137.30			
459	〃	〃 91－B	39	〃	78.8	67.0	14.5	74.66			
460	〃	〃 91－C	179	〃	55.5	49.6	11.5	45.28			
461	〃	〃 〃	1187	〃	102.1	93.4	31.5	372.40			
462	〃	〃 92－B	358	〃	127.4	80.4	18.4	270.70			
463	〃	〃 92－C	649	〃	80.8	67.9	21.0	136.07			
464	〃	〃 〃	1161	〃	97.5	78.2+	17.7	158.13			
465	〃	〃 〃	1295	〃	110.7	86.5	19.8	257.88			
466	〃	〃 92－B	323	〃	80.0	66.7	14.5	71.29			
467	磨製石斧	〃 92－C	791	？	97.8	45.7	25.5	182.02			
468	石錐	〃 〃	135	安山岩	37.0+	78.8+	12.4+	33.75			
469	タタキ石	〃 91－B	203	〃	75.3+	40.8+	29.4+	94.80			
470	石錐	〃 92－C	802	〃	100.5	102.3	20.7	167.71			
471	〃	〃 〃	684	〃	100.6	81.3	16.4	156.54			
472	〃	〃 〃	546	〃	118.3	98.0	19.3	267.33			
473	〃	〃 92－B	275	〃	70.9	72.7	12.9	94.90			
474	スリ石	〃 93－C	253	砂岩	58.5+	76.9+	37.4	228.03			
475	〃	〃 92－C	698	石英斑岩	62.2+	84.6+	37.0	282.14			
476	〃	〃 〃	29	凝灰岩	50.0+	109.0+	33.3+	172.24			
477	石錐	〃 92－B	16	花崗岩？	67.1+	56.5	13.1	80.75			
478	〃	〃 92－C	525	安山岩	45.8+	58.9+	13.6+	64.10			
479	〃	〃 93－C	849	〃	69.4	62.6	12.2	69.50			
480	スリ石	〃 92－C	845	〃	125.9	95.2	34.6	653.48			
481	石錐	〃 〃	575	〃	106.0	52.2+	18.6+	187.12			
482	スリ石 or タタキ石	〃 〃	992	凝灰岩	140.9	59.9	54.4	722.69			
483	石錐？	〃 〃	471	砂岩	45.4+	70.0+	19.4+	75.56			
484	〃	〃 91－B	175	安山岩	61.5+	64.3+	14.0+	64.45			
485	〃	〃 93－C	481	〃	73.0	71.1	20.2	94.50			
486	〃	〃 92－B	245	〃	43.1+	78.3+	12.3+	49.72			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
487	石錘	B区91－B	127	安山岩	111	58.0	22.1	162.94			
488	〃	〃 93－C	936	〃	68.8	54.0+	10.4+	38.63			
489	〃	〃 92－B	14	〃	95.5	74.0	12.4	135.10			
490	石皿？	〃 91－B	263	〃	105.5+	105.0+	26.3	578.75			
491	石錘？	〃 92－C	740	凝灰岩	49.1+	48.7+	22.3+	83.73			
492	〃 ？	〃 〃	997	〃	62.0+	42.8+	26.2+	110.19			
493	打製石斧	〃 〃	408	砂岩？	82.4	64.5	15.2	98.53			
494	スリ石	〃 10グリット		頁岩	36.4+	34.6+	18.6+	23.70			
495	石錘	〃 94－E	土壙－9	安山岩	92.6+	50.0+	12.2+	76.10			
496	スクレイパー	〃 93－C	暗黒褐色土	サヌカイト	72.7	35.8	7.6	18.14			
497	スリ石 or タタキ石	〃 〃	533	珪質岩	77.1	67.0	57.2	511.29			
498	〃	〃 〃	330	サヌカイト	64.0	60.0	54.1	298.53			転石
499	石錘	〃 〃	594	安山岩	72.5+	67.4+	14.1+	98.75			
500	凹み石	〃 96－C	27	石英閃緑岩	113.5	82.4	34.8	512.10			
501	タタキ石	〃 93－C	347	安山岩？	101.2+	94.1	60.8	908.01			
502	スリ石	〃 95－D	27	〃	157.0+	105.5	22.4	443.01			石皿状
503	石錘	〃 93－C	211	〃	66.3+	105.0+	13.0+	116.96			
504	〃	〃 〃	520	〃	38.4+	72.8+	21.7+	61.85			
505	〃	〃 93－C	553	〃	76.6	67.0	12.8	101.09			
506	コア	〃 〃	359	サヌカイト	94.6	74.1	30.0	209.95			
507	石斧 or スリ石	〃 95－D	63	砂岩	44.8+	41.0+	24.8+	36.12			
508	〃	〃 〃	71	安山岩	127.0+	40.0+	43.0+	312.84			細長い
509	コア	〃 93－D	茶褐色土	サヌカイト	78.2	63.9	33.9	252.57			
510	石錘	〃 93－C	444	安山岩	66.1	62.1	15.0+	79.02			
511	棒状石器	〃 95－D	94	粘板岩	71.7+	17.2+	10.5+	17.22			
512	石錘	A区P－6	黒色粗砂	石英斑岩？	29.6+	56.5+	12.1+	17.63			
513	スクレイパー	B区93－D	茶褐色土	サヌカイト	67.0+	43.9+	9.6+	24.92			
514	〃	〃 89－D・E，90－E		〃	50.5	38.4	7.0	13.59			
515	石匙	〃 92－C	1209	〃	58.3+	47.4	7.3	8.78		149	
516	石錘	〃 93－C	81	安山岩	76.9	63.7	16.8	117.10			
517	〃	〃 〃	9	〃	112.0	87.0	11.9+	142.02			
518	凹み石？	〃 〃	108	砂岩	95.0+	58.2+	29.8+	253.80			
519	スクレイパー	〃 〃	170	サヌカイト	70.6	39.1	6.2	22.96		150	
520	磨製石斧？	〃 92－C	236	粘板岩	34.7+	32.7+	11.5+	18.15			
521	石錘	〃 〃	369	凝灰岩	？	？	？	72.38			
522	磨製石斧？	〃 〃	340	安山岩	76.5+	28.1+	21.3+	70.55			細長い
523	石錘	〃 92－B	479	〃	91.1	90.6	24.1	223.88			
524	〃	〃 〃	453	〃	79.0	74.5	14.0	152.02			
525	スリ石 or タタキ石	〃 93－B	243	砂岩	55.7+	84.6+	21.8+	160.50			扁平
526	コア	〃 〃	248	サヌカイト	65.6	66.5	28.0	134.87			
527	スクレイパー	〃 〃	239	〃	52.5+	34.0	10.4	16.51			〃
528	石錘	〃 〃	190	安山岩	110.3+	51.0+	19.7+	132.92			
529	打製石斧	〃 93－E	暗黒褐色土	サヌカイト	92.6	64.8	13.8	81.96		151	
530	スクレイパー	〃 AR－2	灰色粗砂	〃	88.4+	43.9+	9.9	47.96		150	
531	〃	〃 〃	〃	〃	103.4	29.2	9.2	33.05		149	
532	〃	〃 〃	〃	〃	69.6+	45.3+	97.0	20.09			
533	石匙	〃 東側道	土壙－11	〃	64.9+	43.4	10.6	26.49		149	
534	スクレイパー	〃 〃	〃	〃	82.1+	64.2	12.2	48.36			
535	〃	A区P－6	灰色細砂	〃	92.6+	49.6	10.4	62.32		150	
536	タタキ石	〃 〃	黒色細砂	流紋岩？	103.8	30.0	29.7	147.29			
537	磨製石斧	〃 〃	灰色細砂	？	101.0+	45.8	31.6	247.95			
538	スクレイパー	B区東側道	黒褐色砂	サヌカイト	69.3+	40.8	11.3	35.86			
539	〃	〃 〃	〃	〃	64.8	36.4	6.1	16.59			
540	石匙	〃 〃	〃	〃	50.0	38.3	5.1	2.54			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
541	スクレイパー	B区東側道	青灰色粗砂	サヌカイト	62.7	50.5	8.5	33.17			
542	石匙	〃 〃	青灰色砂	〃	88.8+	34.9	8.3	25.35		148	
543	石匙	〃 〃	〃	〃	70.2+	37.9	8.5	14.60		〃	
544	〃	〃 〃	茶褐色粗砂	〃	35.4+	32.8+	9.1+	11.36		〃	
545	石錐	〃 〃		〃	33.5+	9.4	3.3	3.18		151	
546	石匙	〃 〃		〃	63.3+	33.1	5.9	16.25			
547	スクレイパー	A区P－6	黒色細砂	〃	80.0+	66.5+	10.5+	50.17		150	
548	〃	〃 〃	〃	〃	108.9+	67.6	9.5	93.15		151	
549	石匙	〃 〃	〃	〃	39.1	43.8	6.8	8.94		149	
550	スクレイパー	〃 〃	灰色砂	〃	60.5+	56.9	5.4+	25.26		150	
551	〃	〃 〃	灰色細砂	〃	82.3	36.3	8.0	29.75		149	
552	〃	〃 〃	〃	〃	102.6	38.2	9.7	54.02			
553	石錐	〃 〃	黒色細砂	〃	34.2+	6.5	5.5	38.04		151	
554	石匙	B区89－D		〃	72.2	39.4	4.7	18.07		148	
555	スクレイパー	〃 93－D	黒褐色土	〃	77.9+	51.1+	9.1	50.92			
556	〃	〃 〃	〃	〃	87.5	37.4	5.4	24.04		150	
557	〃	〃 92－C	暗黒褐色土	〃	72.4+	40.2	4.5	18.15		〃	
558	〃	〃 9グリット	〃	〃	99.5+	47.2+	20.0	78.18		149	
559	〃	〃 91－B	〃	〃	49.8+	40.3+	6.7	9.40			
560	〃	〃 89－D・E，90－E		〃	81.6+	26.6	8.9	23.06		149	
561	石匙	〃 91－D		〃	67.1	21.3	4.7	9.82		148	
562	不明石製品	〃 93－D	黒褐色土	頁岩	50.6	11.8	90.0	7.57			
563	有孔円盤	A区P－6	灰色細砂	土製	50.5		12.6+	33.00			
564	スクレイパー	B区93－F	10	サヌカイト	81.2	34.5	12.1	18.44			
565	〃	〃 92－B	135	〃	75.0	31.6	7.9	9.18		150	
566	石錘	〃 〃	161	安山岩	95.8	48.8	25.5	133.09			
567	〃	〃 〃	197	凝灰岩？	57.5	44.1	22.0	67.66			
568	〃	〃 94－C	9	花崗岩？	93.8	52.3	16.3	117.79			
569	〃	〃 92－B	148	安山岩	70.0	54.1	18.5+	97.47			
570	スリ石	〃 94－C	7	花崗岩	32.2+	82.8+	66.2+	206.21			
571	石鏃	〃 93－C	798	安山岩	60.5+	72.0+	16.5	93.62			
572	〃	〃 〃	629	〃	80.7	57.0+	12.5+	92.17			
573	〃 ？	〃 〃	628	〃	39.7+	42.9+	7.4+	10.15			
574	〃	〃 東側道		〃	113.3+	88.4+	18.3+	143.02			
575	スリ石	〃 〃		〃	84.5+	56.0	16.0+	131.68			扁平で細長い
576	石匙	〃 〃	青灰色砂	サヌカイト	121.2	44.8	12.0	10.79		148	
577	スクレイパー	〃 〃	〃	〃	121.2	44.8	12.0	66.97		150	
578	スリ石	〃 〃	青灰色粗砂	安山岩	133.9+	57.6+	44.3	667.32			細長い
579	スリ石or タタキ石	〃 〃	茶褐色粗砂	砂岩	104.3+	51.4+	35.9+	246.97			
580	〃 or 凹み石	〃 〃		安山岩？	119.5	100.0	64.0	1,470.0			
581	〃 orタタキ石	〃 〃		〃	107.0	81.5	60.3	848.58			
582	石錘	〃 〃		〃 ？	59.7	50.8	19.0	92.41			
583	〃	〃 〃	排土中	花崗斑岩	77.8	60.0	25.1	159.34			
584	〃 ？	〃 〃	青灰色粗砂	安山岩	144.4+	129.8+	14.8	267.06			
585	〃	〃 〃		緑色片岩	103.0	92.9	22.8	389.58			
586	スリ石	〃 〃	青灰色粗砂	花崗岩	58.8+	60.0+	47.7+	194.40			
587	スクレイパー	〃 〃		サヌカイト	55.6+	22.1+	6.6	10.74		149	
588	スリ石or タタキ石	〃 〃		安山岩	120.8	86.1	51.6	832.82			
589	スリ石	〃 東側道		〃	102.1	75.1	54.9	688.59			片面に朱
590	〃	〃 〃	黒褐色砂	〃	97.7	85.7	71.1	793.81			
591	〃 orタタキ石	〃 〃		砂岩	83.9	87.6	34.4	341.58			
592	石錘？	〃 〃		安山岩	107.2	95.6	19.7	261.01			
593	スリ石	〃 90－C		〃	71.4+	59.8+	56.5+	373.56			石皿状
594	石錘	A区P－6	黒色細砂	花崗岩	10.0	8.0	34.2	394.24			

番号	遺物	出土地区	遺構	材質	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	図	図版	備考
595	石錐	A区P－6	黒色細砂		84.5	60.6	12.4	99.01			
596	〃	〃 〃	〃	安山岩	10.69	83.7	25.1	261.88			
597	〃	〃 〃		〃	87.3	77.3	24.8	188.07			
598	〃 ？	〃 〃	黒色細砂	〃	101.4	74.0	18.8	187.34			
599	タタキ石	B区東側道		花崗岩	100.0	75.0	48.1	554.79			
600	ポイント	〃 AR－2	灰色細砂	サヌカイト	120.0	22.4	7.0	21.73			
601	〃	〃 〃	黒色土	〃	50.5＋	21.5＋	5.2	8.81			
602	スクレイパー	〃 〃	灰色細砂	〃	82.0＋	46.2	12.0	41.21		150	
603	タタキ石	A区 $\frac{10－C,11－C,}{9－D}$	側溝（56年調査区）	砂岩	133.1	40.3	26.7	222.93			
604	打製石斧	〃 〃	〃	サヌカイト	134.9	72.1	19.5	180.70		151	未製品
605	石錐	B区東側道		結晶片岩	148.4	50.0	43.0	494.88			
606	スリ石	〃 90－D		安山岩	92.3	77.5	27.4	318.93			
607	石匙	〃 〃		サヌカイト	43.7	34.4	5.6	9.43		148	
608	石皿	〃 東側道		閃緑岩	292.0	183.0	76.0	780.00	125－11		
609	〃	〃 〃		花崗岩	311.0＋	332.0	147.0	1,800.00	〃 －12		
610	〃	〃 〃		〃	436.0	262.0	74.0	1,000.40	〃 －13		
611	凹み石 or 石錘	〃 94－E	土壙－10	石英斑岩	130.0	102.0	41.1	746.12	40－ 4		
612	石錘	〃	〃	安山岩	61.9	55.5	27.1	132.73	〃 － 6		

1．田之浦御台場跡調査前（北から）

2．田之浦御台場跡調査前（北から）

図版 2

1．田之浦御台場跡立木伐採後（南東から）

2．田之浦御台場跡一次調査（北東から）

1．田之浦御台場跡一次調査（東から）

2．田之浦御台場跡胸壁（南東から）

図版 4

1．田之浦御台場跡塁台（北東から）

2．田之浦御台場跡塁台側石（北から）

1．田之浦御台場跡塁台（北から）

2．田之浦御台場跡塁台側石（北から）

図版 6

1．田之浦御台場跡背障（北西から）

2．田之浦御台場跡弾薬庫（西から）

1．田之浦御台場跡火薬庫（北東から）

2．田之浦御台場跡火薬庫漆喰壁遺存状態（北西から）

図版 8

1．田之浦御台場跡火薬庫漆喰壁遺存状態（南西から）

2．田之浦御台場跡火除土囲（南から）

1．田之浦御台場跡兵士居所（西から）

2．田之浦御台場跡兵士居所便所（西から）

図版10

1．田之浦御台場跡南側全景（東から）

2．田之浦御台場跡南側全景（北から）

1．田之浦御台場跡北水道調査前（東から）

2．田之浦御台場跡北水道検出状態（東から）

図版12

1．田之浦御台場跡北水道（東から）

2．田之浦御台場跡北水道（東から）

1．田之浦御台場跡北水道胸壁下（北東から）

2．田之浦御台場跡北水道胸壁下蓋石除去後（北東から）

図版14

1．田之浦御台場跡北水道出口（南西から）

2．田之浦御台場跡胸壁土層断面（東から）

1．田之浦御台場跡胸壁土層断面（東から）

2．田之浦御台場跡胸壁土層断面（南から）

図版16

1．田之浦御台場跡北水道（東から）

2．田之浦御台場跡南水道側石（北から）

1．田之浦御台場跡土層断面Ａ－Ｂ（東から）

2．田之浦御台場跡排水溝（南から）

図版18

1．田之浦御台場跡井戸－1（東から）

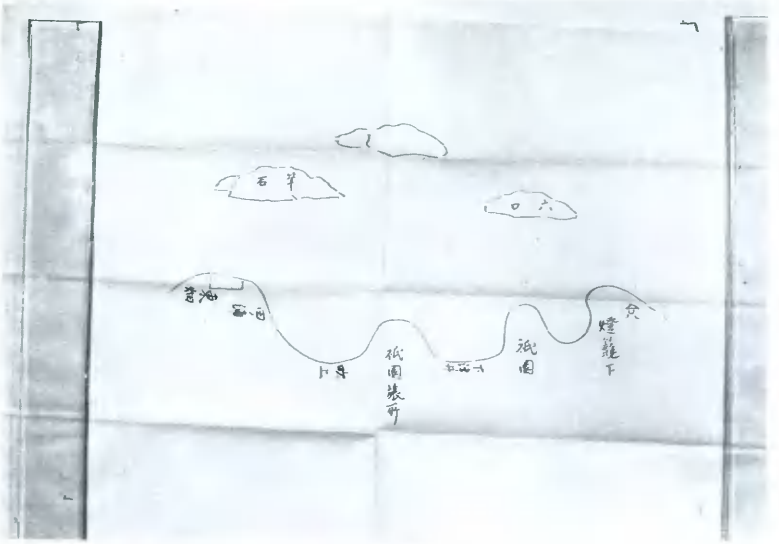
2．田之浦御台場跡井戸－1（西から）

1．田之浦御台場跡全景（北から）

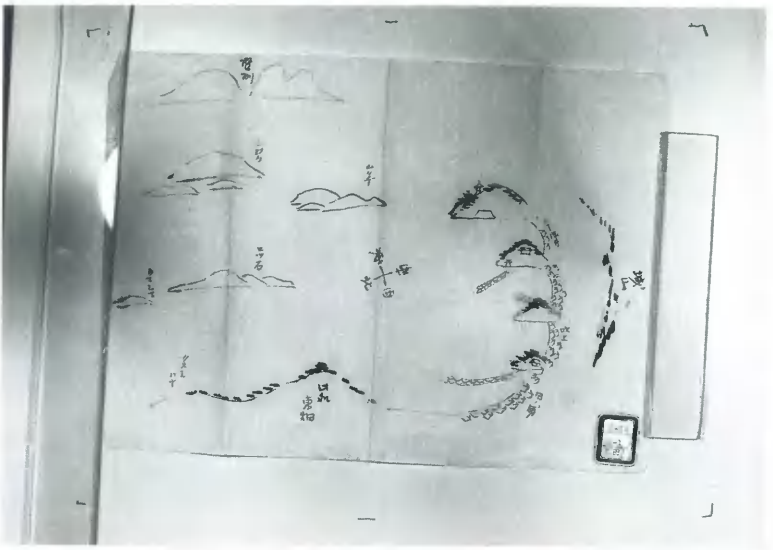
2．田之浦御台場跡全景（東から）

図版20

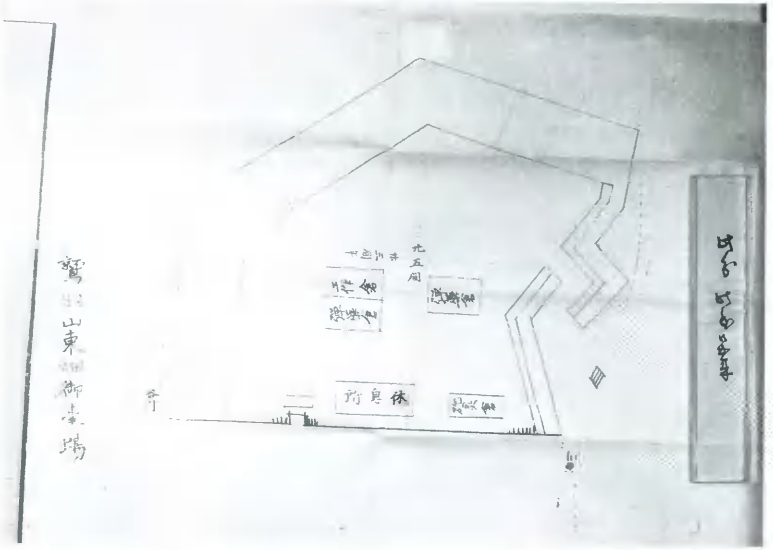
1．池田家文庫（1）



2．池田家文庫（2）

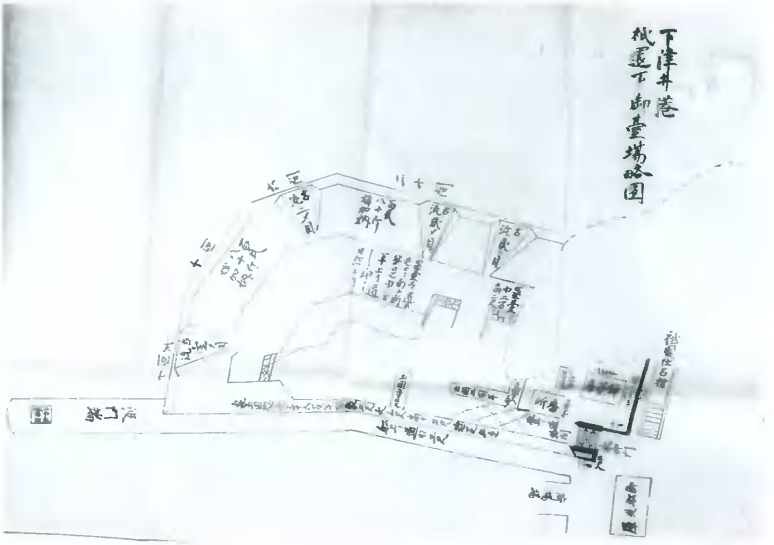


1．池田家文庫（3）

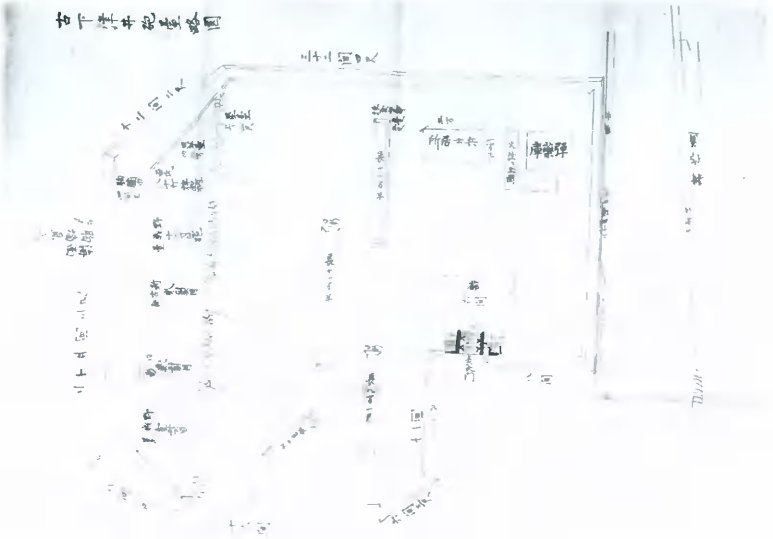


2．池田家文庫（4）

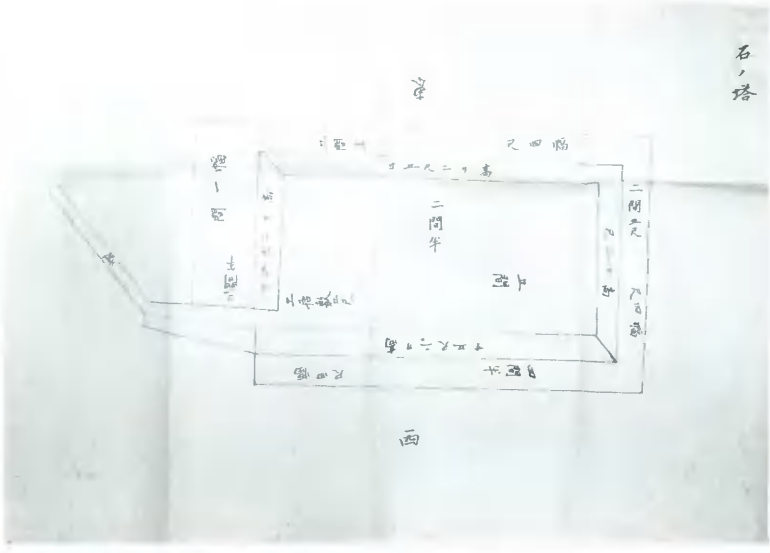
図版22



1．池田家文庫（5）



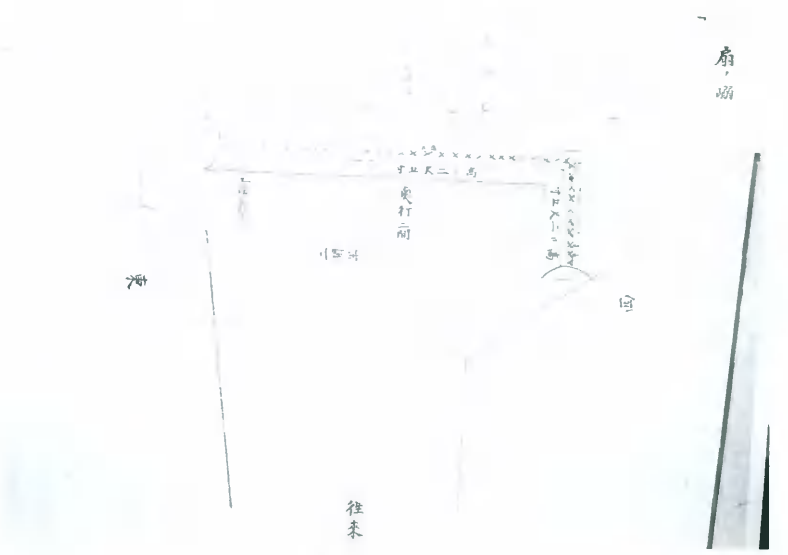
2．池田家文庫（6）



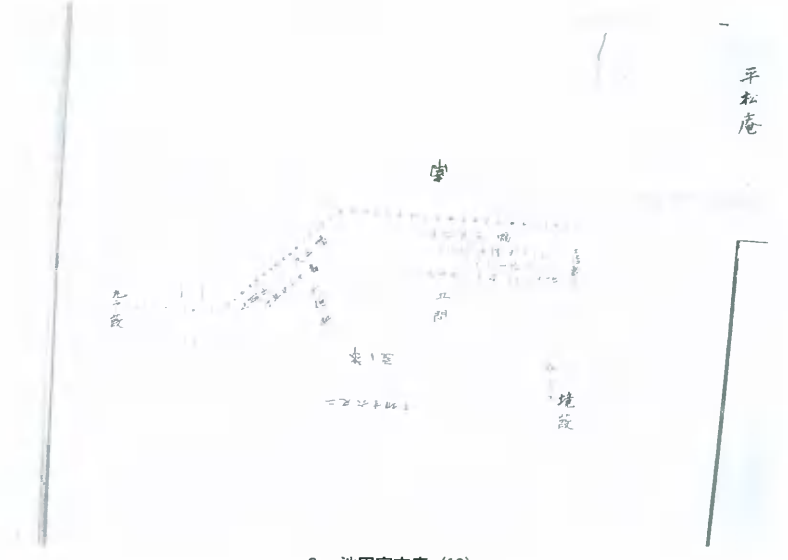
1．池田家文庫（7）

2．池田家文庫（8）

図版24

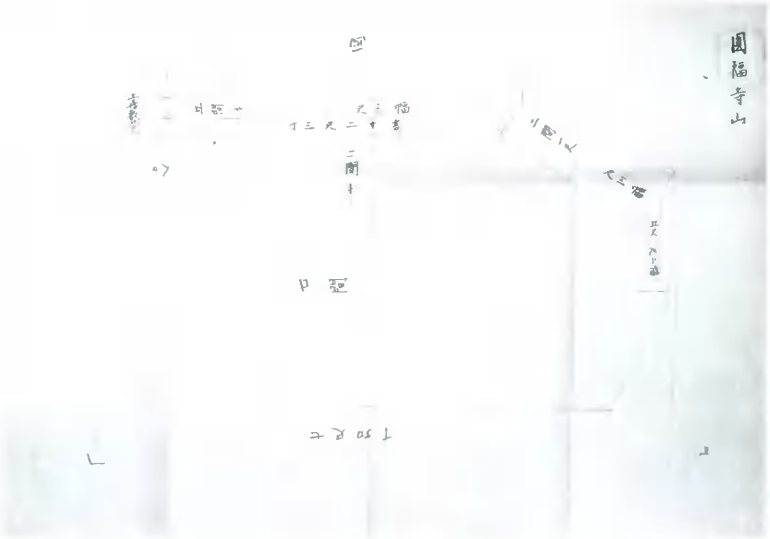


1．池田家文庫（9）



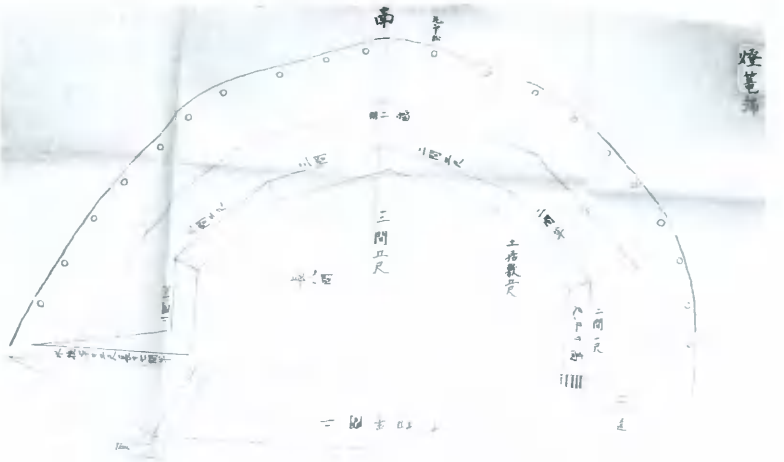
2．池田家文庫（10）

1．池田家文庫（11）

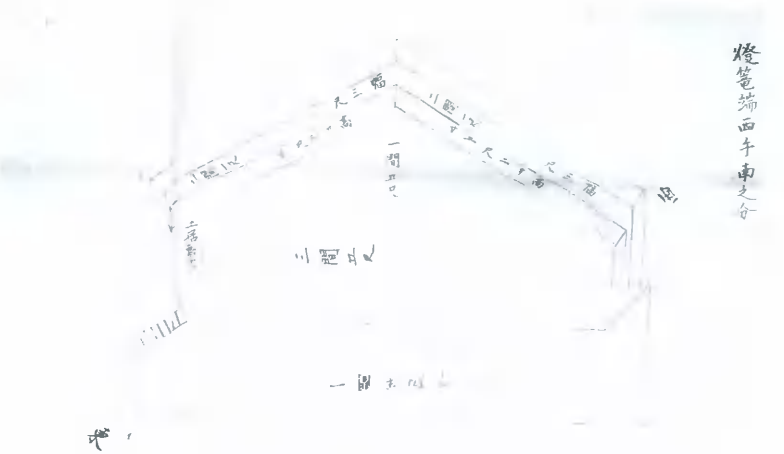


2．池田家文庫（12）

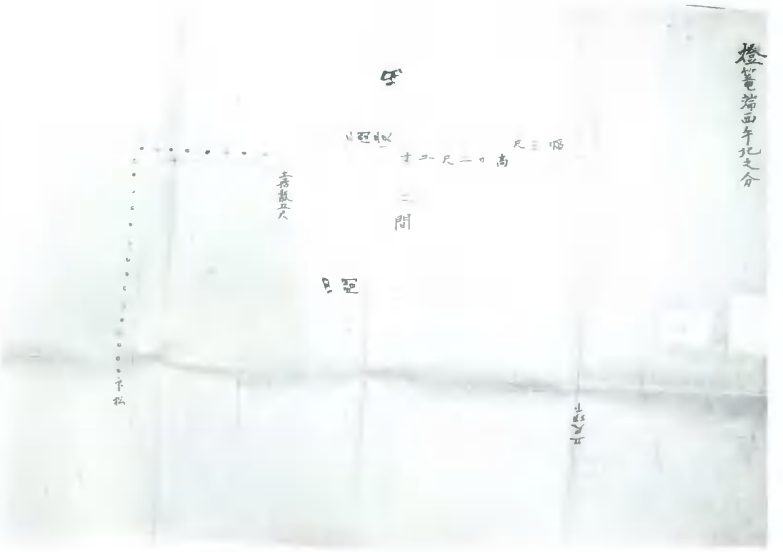
図版26



1．池田家文庫（13）



2．池田家文庫（14）



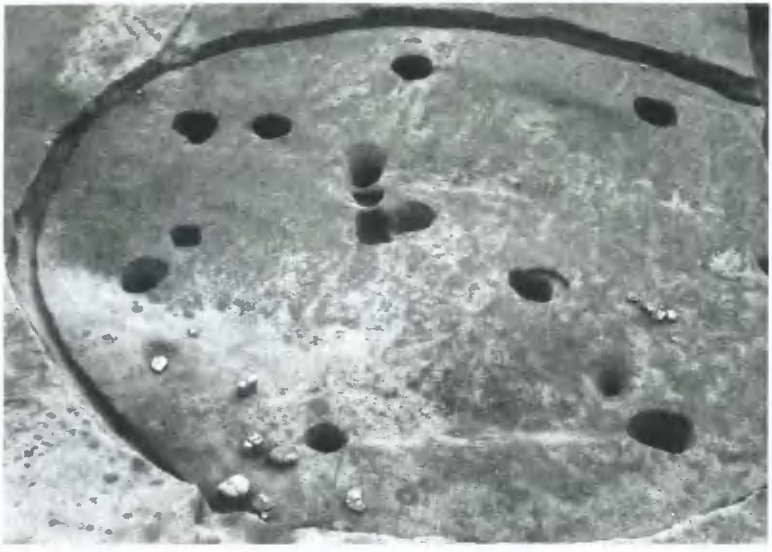
1．池田家文庫（15）

2．池田家文庫（16）

図版28

1．山際紫山遺跡遠景（南西から）

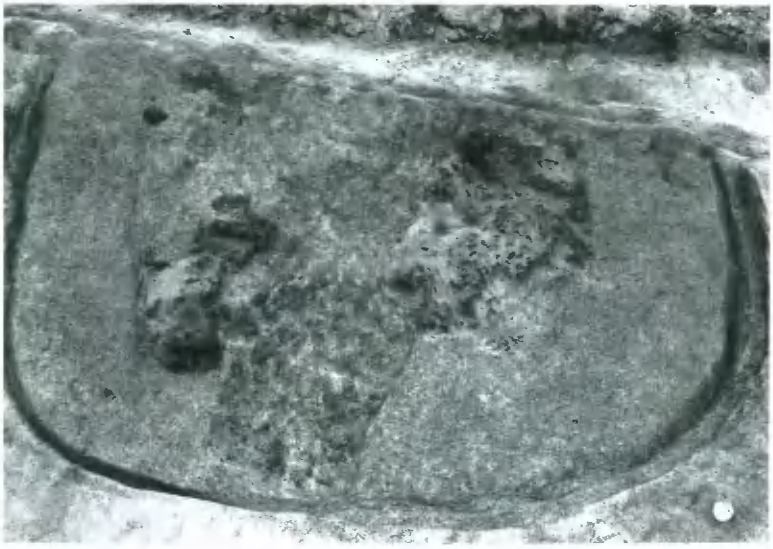
2．山際紫山遺跡（南から）



1．山際紫山遺跡竪穴住居址－1（北から）

2．山際紫山遺跡竪穴住居址－2（南から）

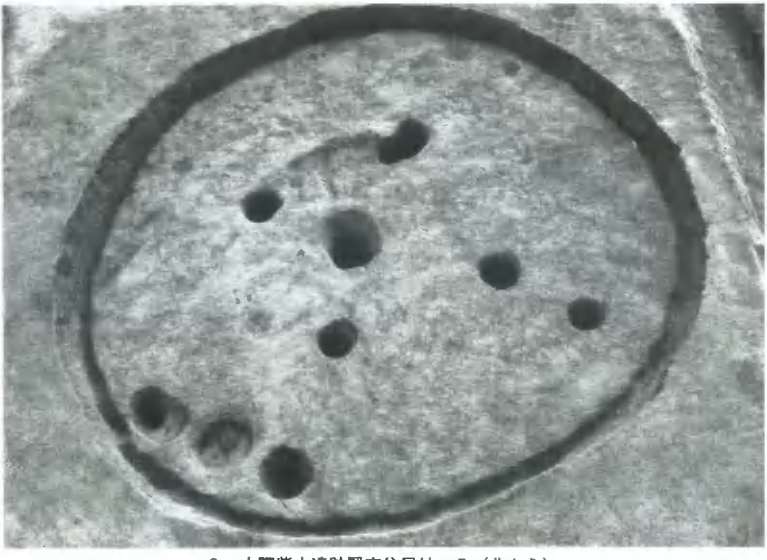
図版30



1．山際紫山遺跡竪穴住居址－3（北西から）

2．山際紫山遺跡竪穴住居址－3（北西から）

1．山際紫山遺跡竪穴住居址－4（南から）



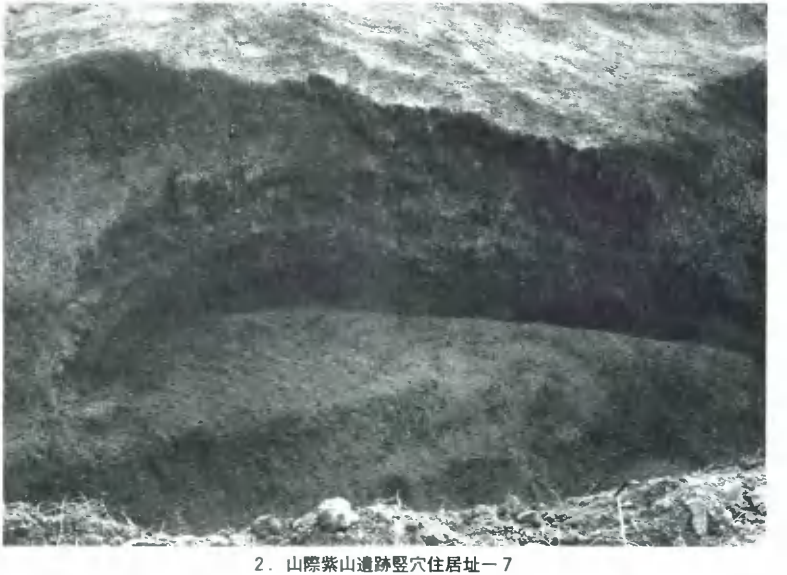
2．山際紫山遺跡竪穴住居址－5（北から）

図版32

1．山際紫山遺跡竪穴住居址－6（南から）

2．山際紫山遺跡竪穴住居址－6製塩土器出土状態

1．山際紫山遺跡竪穴住居址－７遺物出土状態



2．山際紫山遺跡竪穴住居址－７

図版34

1．舟津原遺跡Ｔ－１～３設定前（南西から）

2．舟津原遺跡Ｔ－９（北西から）

1．舟津原遺跡Ｔ－13（西から）

2．舟津原遺跡Ａ区調査前（南から）

図版36

1．舟津原遺跡A区旧河道（南から）

2．舟津原遺跡A区土器層（北西から）

1．舟津原遺跡Ａ区上層土壙検出状態（南から）

2．舟津原遺跡旧河道（北から）

図版38

1．舟津原遺跡Ａ区土層断面１－２（北西から）

2．舟津原遺跡Ａ区Ｔ－１土層断面（南東から）

1．舟津原遺跡Ａ区砂礫層掘り上げ（北から）

2．舟津原遺跡Ａ区土壙群最終検出面（南西から）

図版40

1．舟津原遺跡A区土壙群全景（南から）

2．舟津原遺跡A区土壙群掘り上げ（北東から）

1．舟津原遺跡Ａ区土壙－１土層断面（北西から）

2．舟津原遺跡Ａ区土壙－１（南東から）

図版42

1．舟津原遺跡A区土壙－2（南から）

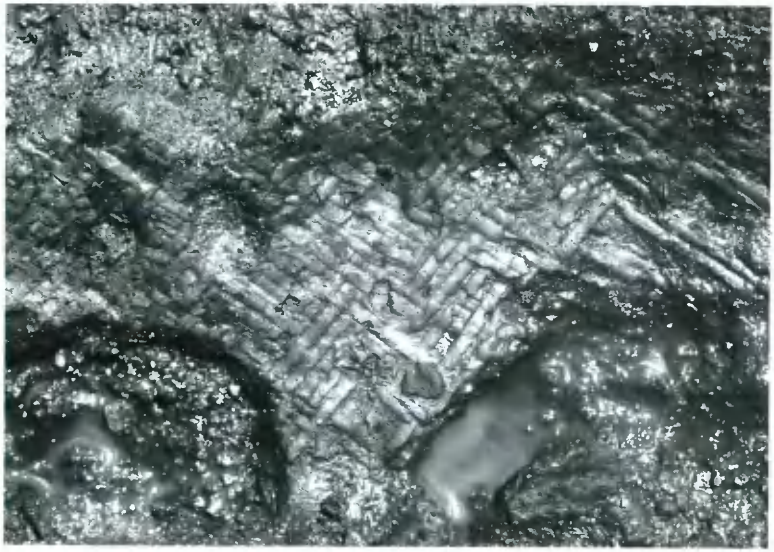
2．舟津原遺跡A区土壙－3土層断面（北西から）

1．舟津原遺跡A区土壙ー3（北西から）

2．舟津原遺跡A区土壙ー3（北西から）

図版44

1．舟津原遺跡A区土壙－3（俯瞰）



2．舟津原遺跡A区土壙－3（俯瞰）

1．舟津原遺跡B区T－2（南西から）

2．舟津原遺跡B区T－6（北西から）

図版46

1．舟津原遺跡C区（西から）

2．舟津原遺跡E区（南から）

1．児島インターチェンジ散布地（南東から）

2．児島インターチェンジ散布地（北東から）

図版48

1．児島インターチェンジ散布地
T－15（南東から）

2．児島インターチェンジ散布地
T－13（北東から）

3．児島インターチェンジ散布地T－16（北東から）

1．阿津南丘陵散布地（南から）

2．阿津南丘陵散布地（北から）

図版50

1．高辻散布地（西から）

2．高辻散布地（東から）

1．阿津走出遺跡遠景（南から）

2．阿津走出遺跡遠景（西から）

図版52

1．阿津走出遺跡Ａ区Ｔ－１（南から）

2．阿津走出遺跡Ａ区Ａ－７（南から）

1．阿津走出遺跡Ａ区Ｃ－７土層断面（北東から）

2．阿津走出遺跡Ａ区Ｃ－５土層断面（北から）

図版54

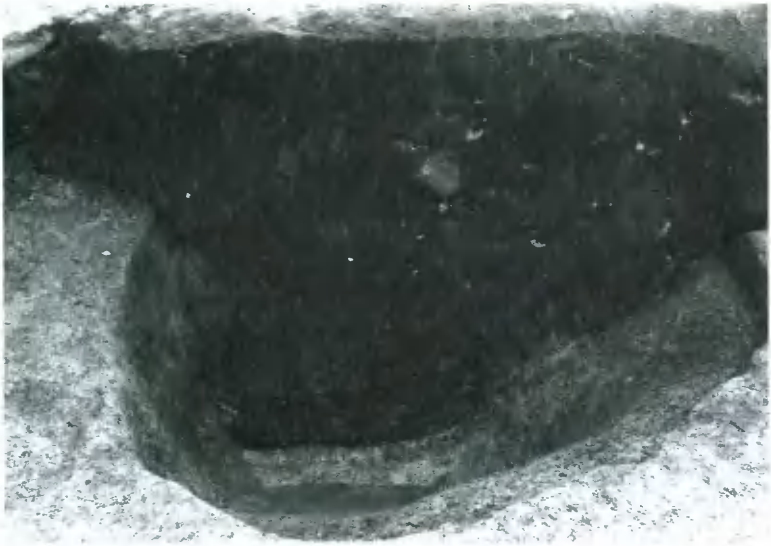
1．阿津走出遺跡B区グリット設定区全景（東から）

2．阿津走出遺跡B区東側道土層断面（北西から）

1．阿津走出遺跡Ｂ区東ー西土層断面（北東から）

2．阿津走出遺跡Ｂ区遺物出土状態（北から）

図版56



1．阿津走出遺跡土壙－1土層断面（南から）

2．阿津走出遺跡土壙－1（東から）

1．阿津走出遺跡土壙－3（南から）

2．阿津走出遺跡土壙－5（南から）

図版58

1．阿津走出遺跡土壙－9・10（東から）

2．阿津走出遺跡土壙－11（南から）

1．阿津走出遺跡土壙－15（西から）

2．阿津走出遺跡土壙－17（東から）

図版60

1．阿津走出遺跡Ｐ－６埋葬人骨（西から）

2．阿津走出遺跡Ｐ－６埋葬人骨（北から）

1．阿津走出遺跡甕棺（西から）

2．阿津走出遺跡土壙－26（東から）

図版62

1．阿津走出遺跡Ｂ区竪穴住居址－１遺物出土状態（東から）

2．阿津走出遺跡Ｂ区竪穴住居址－１（南西から）

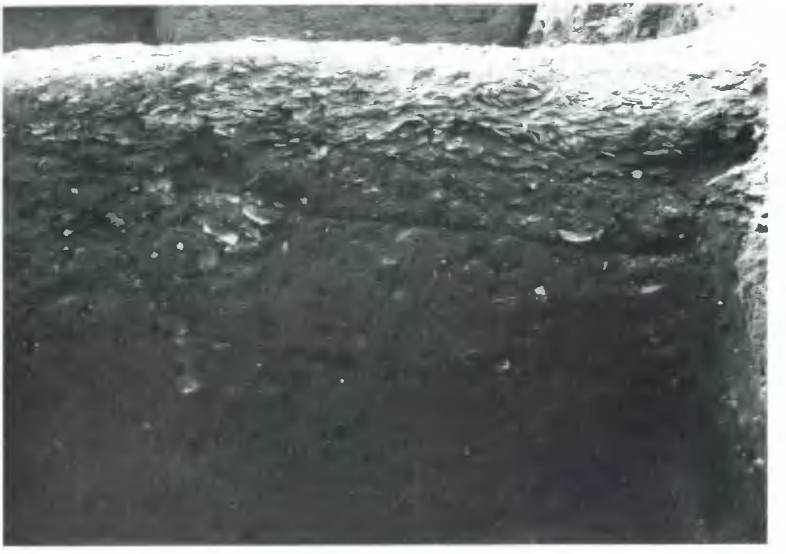
1．阿津走出遺跡Ｐ－６調査前（北東から）

2．阿津走出遺跡Ｐ－６表土下（南から）

図版64

1．阿津走出遺跡Ｐ－６土器層（南から）

2．阿津走出遺跡Ｐ－６土器層（北から）



1．阿津走出遺跡Ｐ－６土器層断面（東から）

2．阿津走出遺跡炉壁片出土状態（南から）

図版66

1．阿津走出遺跡Ｐ－６炉壁片（南西から）

2．阿津走出遺跡Ｐ－６炉壁片断面（北西から）

1．阿津走出遺跡Ｐ－６南壁土層断面（北から）

2．阿津走出遺跡Ｐ－６北壁土層断面（南から）

図版68

1．阿津走出遺跡Ｐ－６作業面（南から）

2．阿津走出遺跡Ｐ－６作業面（南から）

1．阿津走出遺跡Ａ区Ａ－８焼土面（西から）

2．阿津走出遺跡Ａ区Ａ－３Ｂグリット（東から）

図版70

1．阿津走出遺跡Ａ区Ｂ－６（南から）

2．阿津走出遺跡Ａ区Ｂ－５（北東から）

1．阿津走出遺跡A区B－5（北東から）

2．阿津走出遺跡A区A－6・B－6（西から）

図版72

1．阿津走出遺跡ＡＲ－２（南西から）

2．阿津走出遺跡ＡＲ－２土器層（北西から）

1．阿津走出遺跡Ｂ区土壙－27・28（東から）

2．阿津走出遺跡Ｂ区柱穴列（東から）

図版74

1．阿津丘陵散布地Ｔ－２（北東から）

2．阿津丘陵散布地Ｔ－５（東から）

1．石ノ塔伏台場跡遠景（西から）

2．石ノ塔伏台場跡近景（北から）

図版76

1．石ノ塔伏台場跡調査前（南から）

2．石ノ塔伏台場跡トレンチ（南東から）

1．石ノ塔伏台場跡Ｔ－８（東から）

2．石ノ塔伏台場跡Ｔ－１（東から）

図版78

1．菰池遺跡遠景（北から）

2．菰池遺跡C区（西から）

1．菰池遺跡Ａ区遺構検出状況（東から）

2．菰池遺跡Ａ区遺構検出状況（西から）

図版80

1．菰池遺跡A区竪穴住居址－1・2（西から）

2．菰池遺跡A区竪穴住居址－1（南から）

1．菰池遺跡A区竪穴住居址－3（南から）

2．菰池遺跡A区竪穴住居址－4（西から）

図版82

1．菰池遺跡A区土壙－2（南から）

2．菰池遺跡A区土壙－2遺物出土状況（西から）

1．菰池遺跡A区土壙－3（北から）

2．菰池遺跡A区柱穴－6（西から）

図版84

1．菰池遺跡A区土壙－19（西から）

2．菰池遺跡A区土壙－20（北から）

1．菰池遺跡B区遺構検出状況（東から）

2．菰池遺跡B区遺構検出状況（北から）

図版86

1．菰池遺跡Ｂ区縄文時代遺構検出状況（西から）

2．菰池遺跡Ｂ区竪穴住居址－６（南から）

1．菰池遺跡Ｂ区土壙－22（東から）

2．菰池遺跡Ｂ区土壙－22遺物出土状況（南から）

図版88

1．木見大賀遺跡Ⅰ区全景（南西から）

2．木見大賀遺跡Ⅰ区土層断面（南西から）

1．木見大賀遺跡Ⅱ区全景（北から）

2．木見大賀遺跡Ⅱ区下がり（北西から）

図版90

1．木見大賀遺跡Ⅱ区（北西から）

2．木見大賀遺跡Ⅱ区（北西から）

1．木見大賀遺跡Ⅱ区溝－１土層断面（北東から）

2．木見大賀遺跡Ⅱ区溝－１（北東から）

図版92

1．木見大賀遺跡Ⅱ区土壙－1（北西から）

2．木見大賀遺跡Ⅱ区鍛冶炉（北東から）

1．木見大賀遺跡Ⅱ区井戸－1（西から）

2．木見大賀遺跡Ⅱ区土壙－3（北から）

図版94

1．木見大賀遺跡Ⅲ区全景（東から）

2．木見大賀遺跡Ⅲ区土壙－9（西から）

1．木見大賀遺跡Ⅲ区溝－３・４（北東から）

2．木見大賀遺跡Ⅲ区溝－３土層断面（北東から）

図版96

1．木見大賀遺跡Ⅲ区溝－5・6（北東から）

2．木見大賀遺跡Ⅲ区土壙－10（北西から）

1．木見大賀遺跡Ⅲ区溝－7（南西から）

2．木見大賀遺跡Ⅲ区溝－7（南西から）

図版98

1．木見大賀遺跡Ⅲ区溝－7（南西から）

2．木見大賀遺跡Ⅳ区土壙－12（東から）

1．木見大賀遺跡Ⅳ区－1（北から）

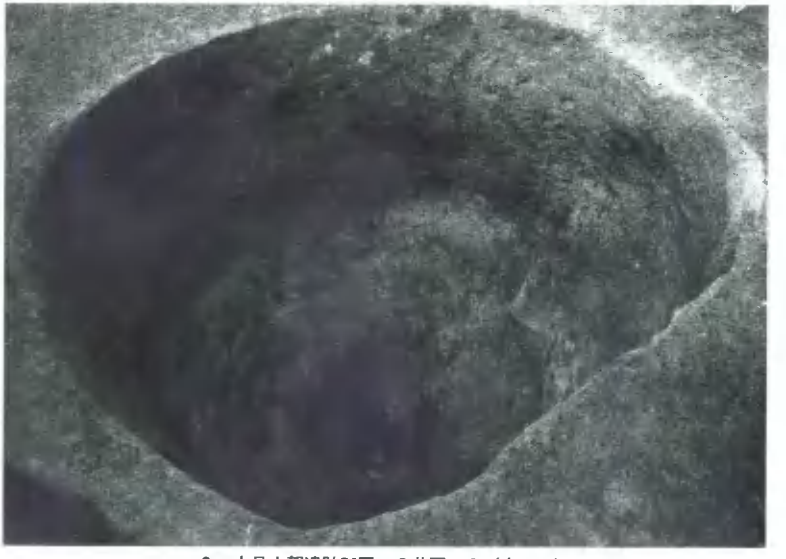
2．木見大賀遺跡Ⅳ区－2全景（東から）

図版100

1．木見大賀遺跡Ⅳ区－２溝－８土層断面（西から）

2．木見大賀遺跡Ⅳ区－２溝－８遺物出土状態（南東から）

1．木見大賀遺跡Ⅳ区－２土器溜り－１（北東から）



2．木見大賀遺跡Ⅳ区－２井戸－３（東から）

図版102

1．木見大賀遺跡Ⅳ区－２溝－17・18（南東から）

2．木見大賀遺跡Ⅳ区－２溝－７・８土層断面（北西から）

1．てんぐ山散布地（北から）

2．てんぐ山散布地Ｔ－２（南西から）

図版104

1．天王遺跡全景（南から）

2．天王遺跡建物（南西から）

1．天王遺跡中世墓（南から）

2．天王遺跡中世墓遺物出土状態（俯瞰）

図版106

1．菰池オレントウ遺跡（南西から）

2．菰池オレントウ遺跡（北西から）

1．城山散布地Ｔ－１（南東から）

2．城山散布地Ｔ－２（北東から）

図版108

1．柳田散布地（南西から）

2．柳田散布地Ｔ－１（北東から）

1．稗田散布地（南から）

2．稗田散布地トレンチ（北東から）

図版110

1．稗田佐古遺跡遠景（南から）

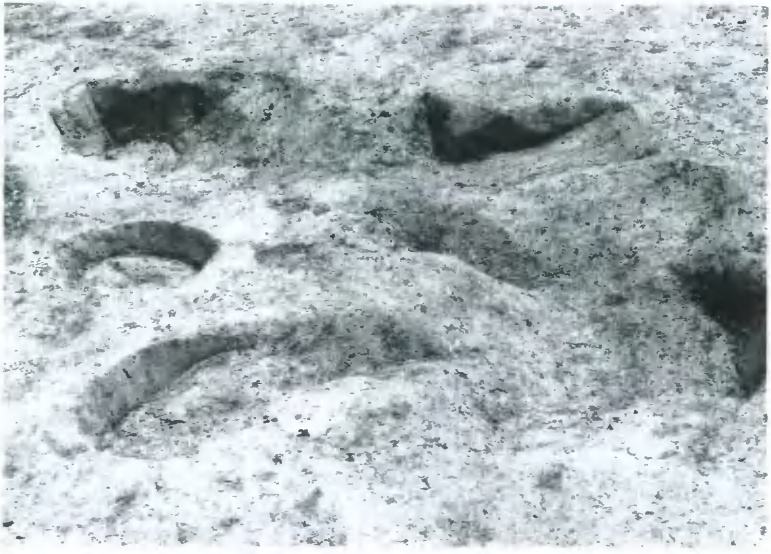
2．稗田佐古遺跡調査区全景（北西から）

1．稗田佐古遺跡１検出状態（南東から）

2．稗田佐古遺跡４掘り上げ（南から）

図版112

1．稗田佐古遺跡６検出状態（南から）



2．稗田佐古遺跡６掘り上げ（西から）

1．小川散布地遠景（西から）

2．小川散布地Ｔ－１（西から）

図版114

6

7

26

28

50

51

55

53

57

65

70

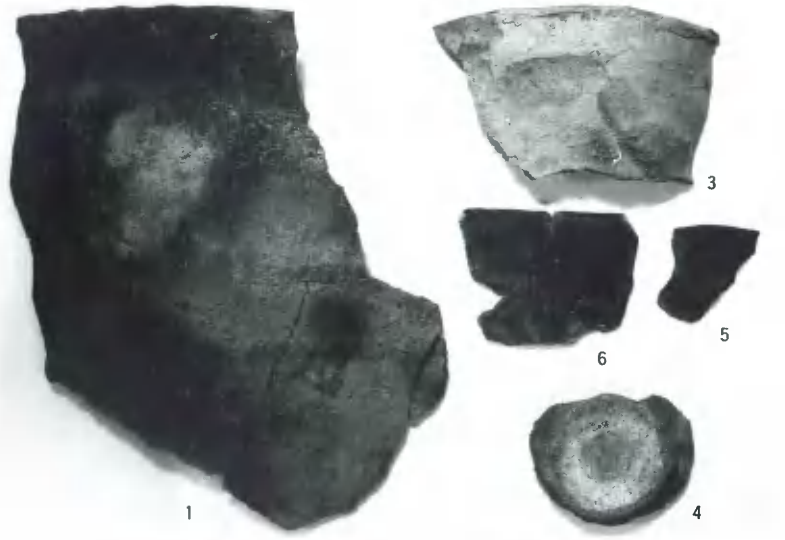
60

71

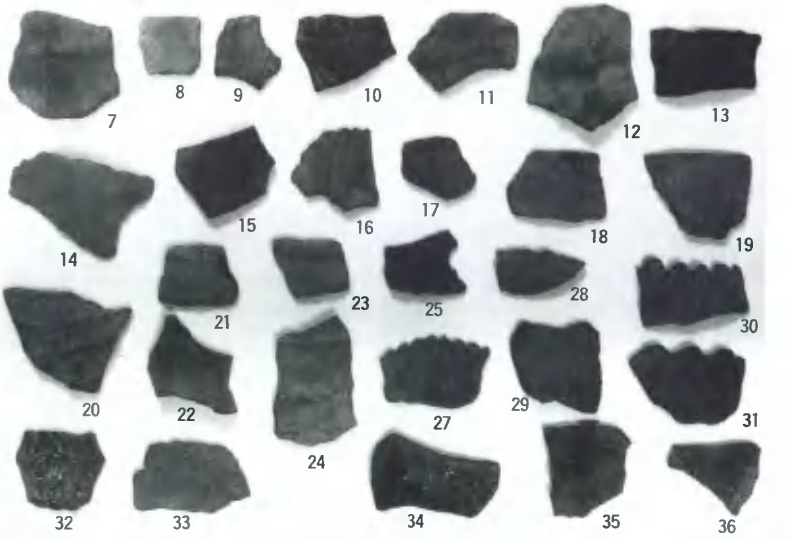
69

72

山際紫山遺跡出土遺物



1．舟津原遺跡A区土壙－1出土遺物（1/3）



2．舟津原遺跡出土遺物（1）（1/3）

図版116

1．舟津原遺跡出土遺物（2）(1/3)

2．舟津原遺跡出土遺物（3）(1/3)

1．舟津原遺跡出土遺物（4）(1/3)

2．舟津原遺跡出土遺物（5）(1/3)

図版118

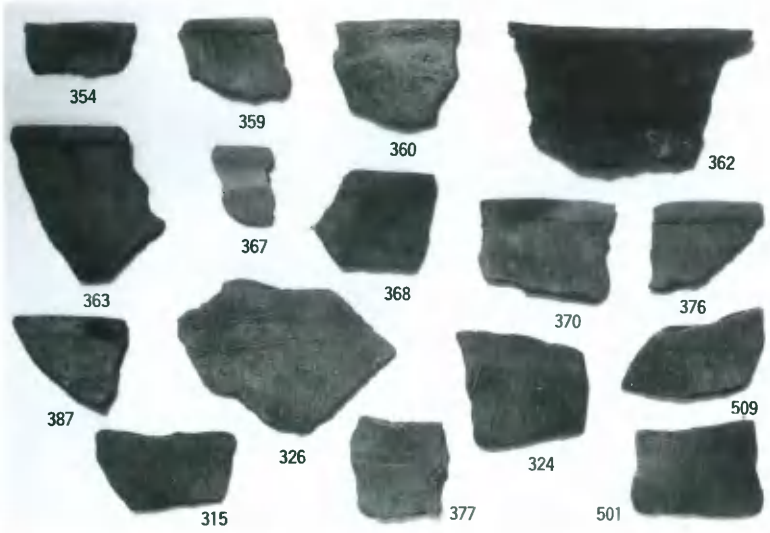
1．舟津原遺跡出土遺物（6）(1/3)

2．舟津原遺跡出土遺物（7）(1/3)

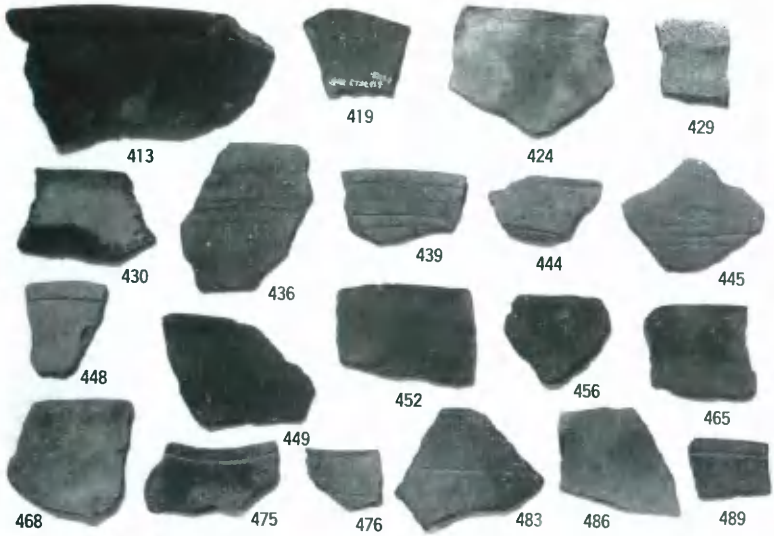
1．舟津原遺跡出土遺物（8）(1/3)

2．舟津原遺跡出土遺物（9）(1/3)

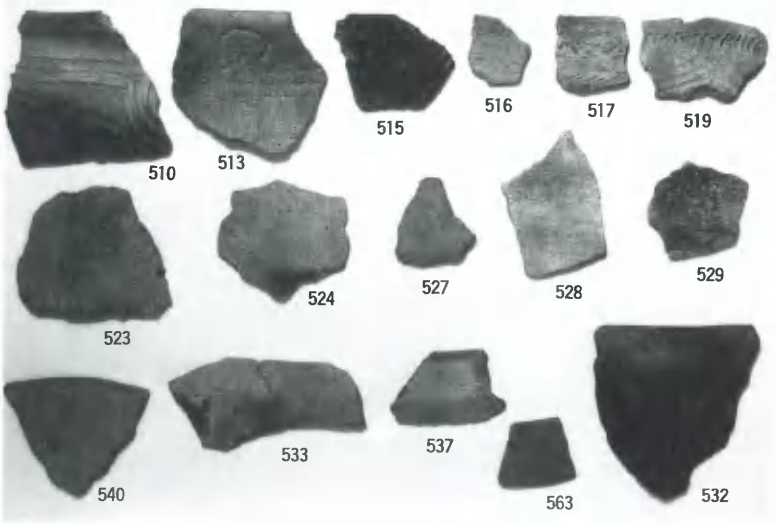
図版120



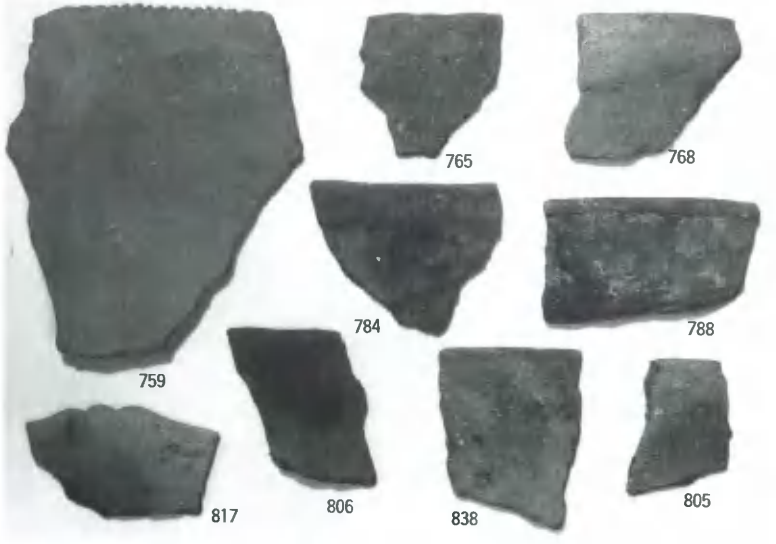
1．舟津原遺跡出土遺物（10）（1/3）



2．舟津原遺跡出土遺物（11）（1/3）



1．舟津原遺跡出土遺物（12）（1/3）

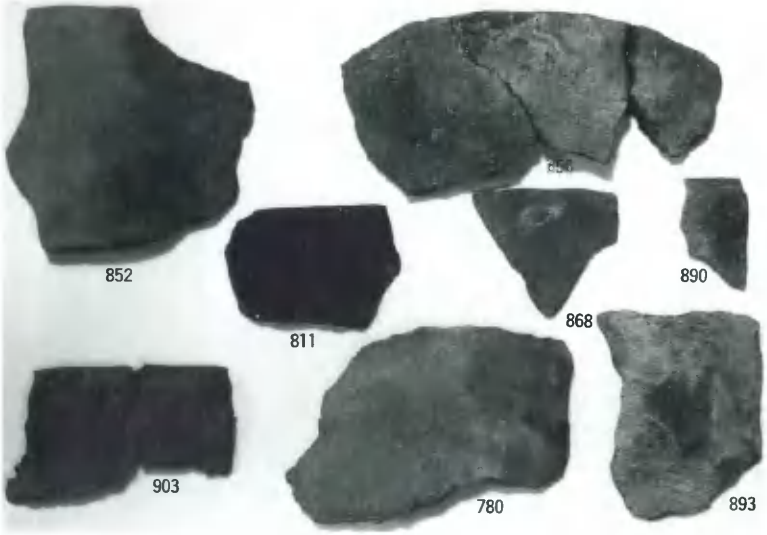


2．舟津原遺跡出土遺物（13）（1/3）

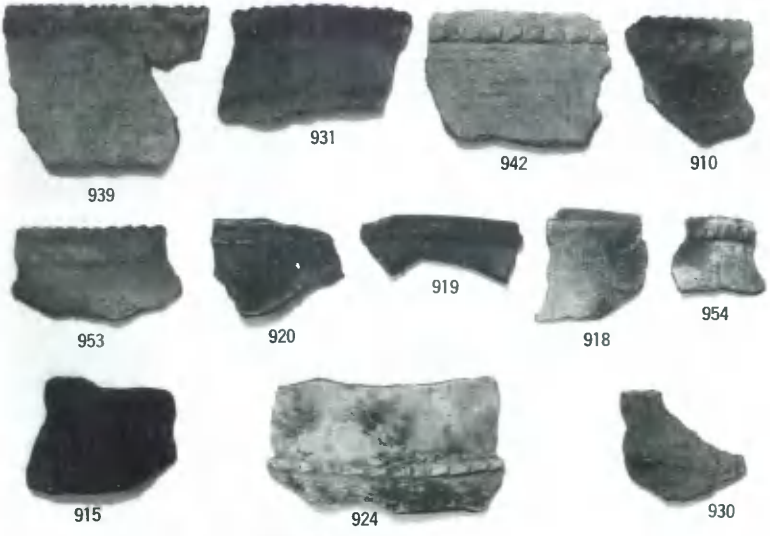
図版122

1．舟津原遺跡出土遺物（表面）（14）（1/3）

2．舟津原遺跡出土遺物（裏面）（15）（1/3）

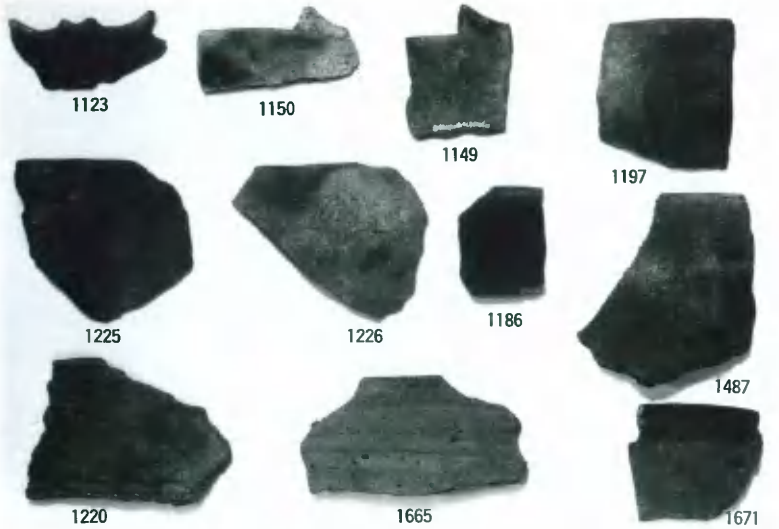


1．舟津原遺跡出土遺物（16）（1/3）



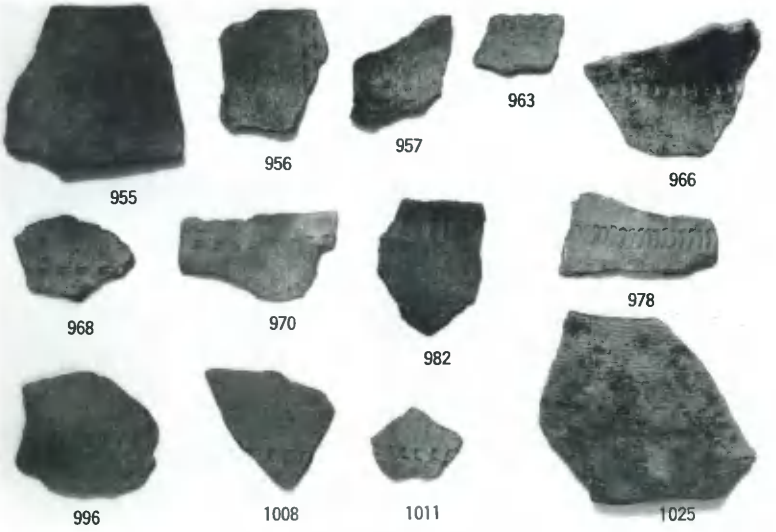
2．舟津原遺跡出土遺物（17）（1/3）

図版124

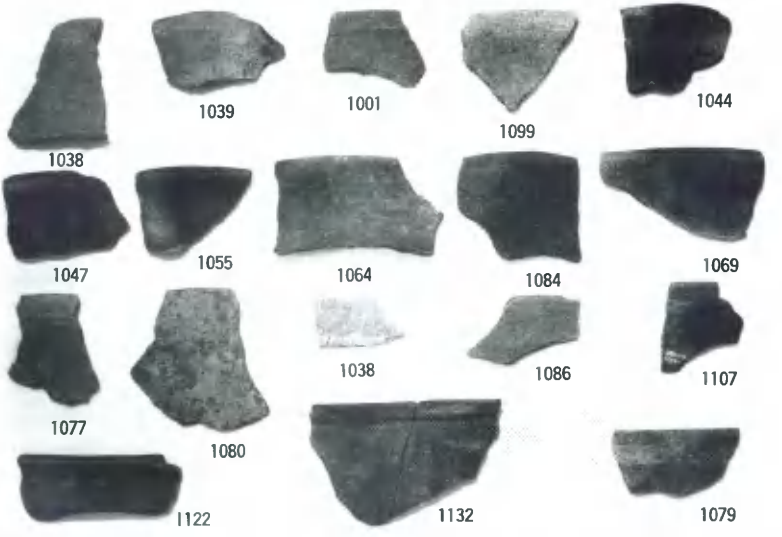


1．舟津原遺跡出土遺物（18）（1/3）

2．舟津原遺跡出土遺物（19）（1/3）

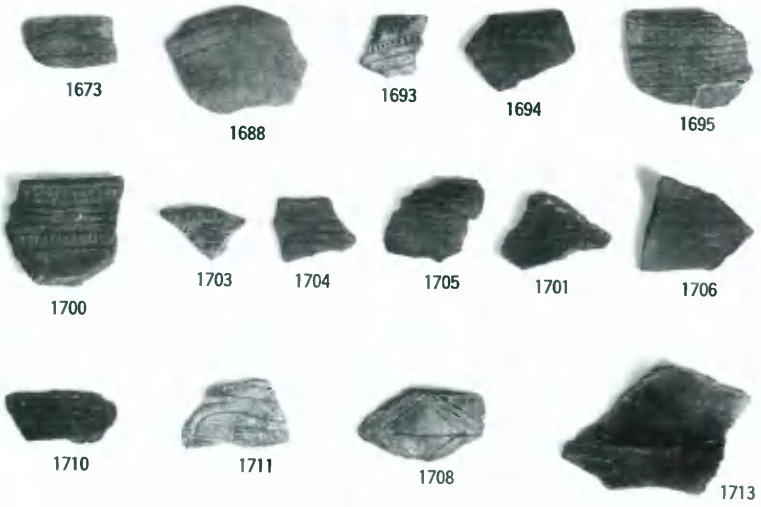


1．舟津原遺跡出土遺物（20）（1/3）

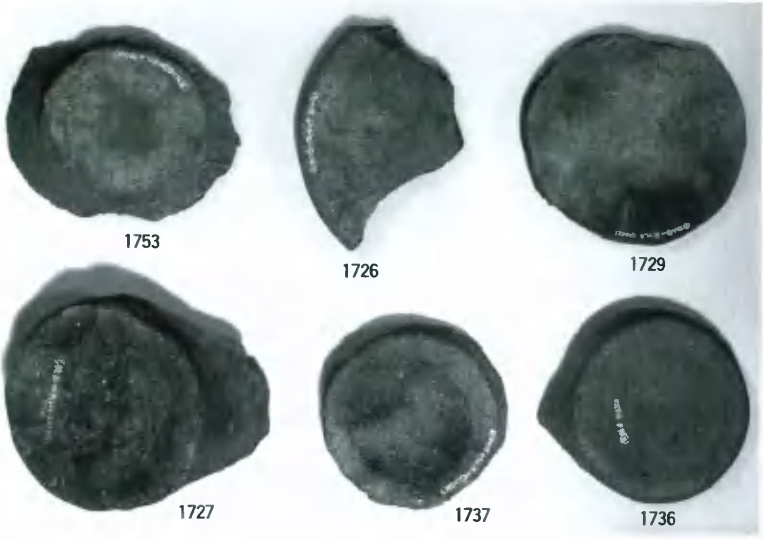


2．舟津原遺跡出土遺物（21）（1/3）

図版126



1．舟津原遺跡出土遺物（22）（1/3）

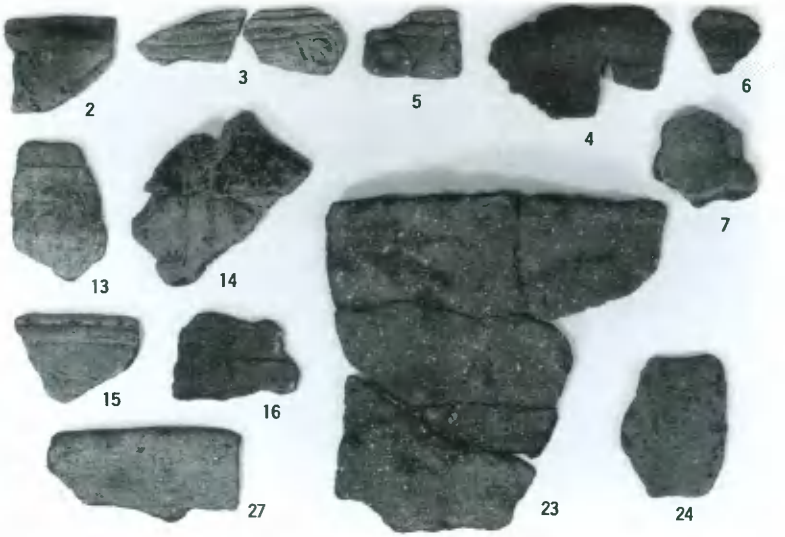


2．舟津原遺跡出土遺物（23）（1/3）

1．舟津原遺跡出土遺物（24）（1/3）

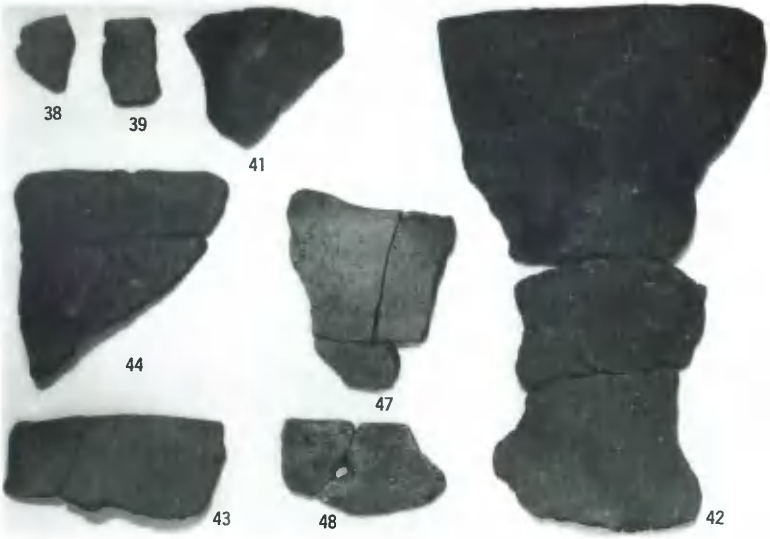
2．舟津原遺跡出土遺物（25）（1/3）

図版128

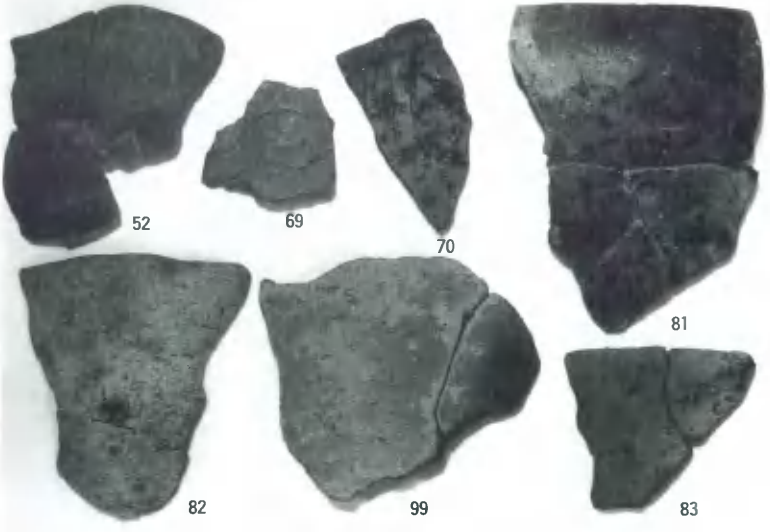


1．阿津走出遺跡出土遺物（1）(1/3)

2．阿津走出遺跡出土遺物（2）(1/3)

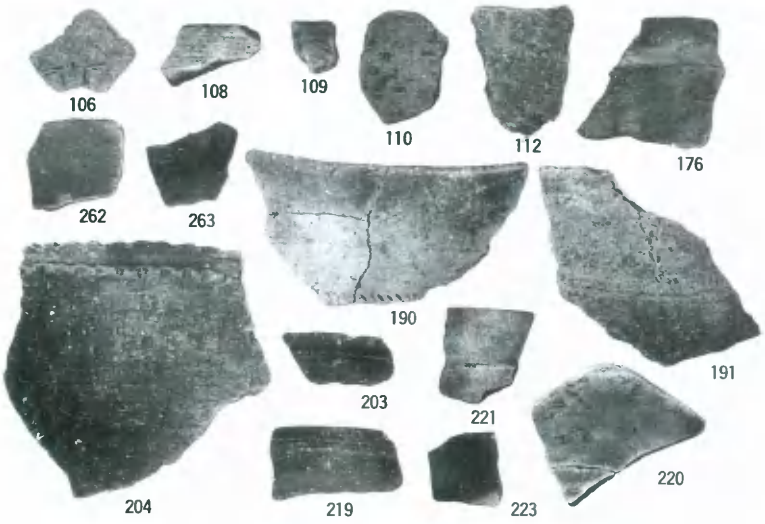


1．阿津走出遺跡出土遺物（3）(1/3)



2．阿津走出遺跡出土遺物（4）(1/3)

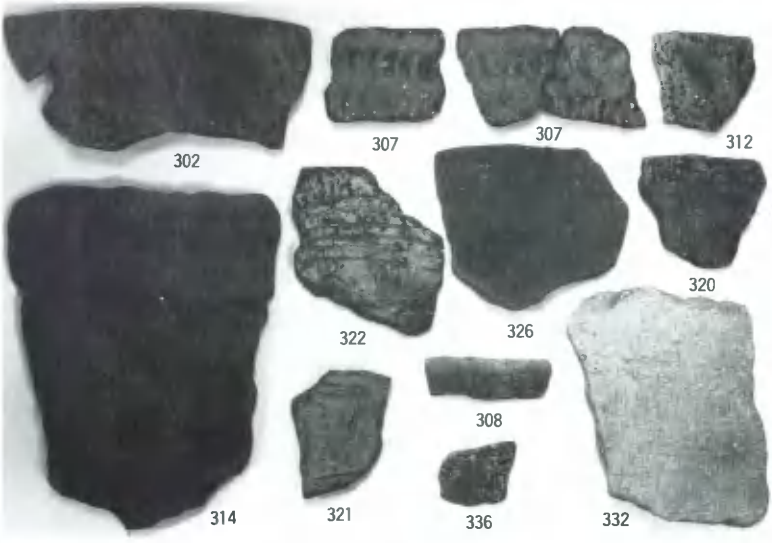
図版130



1．阿津走出遺跡出土遺物（5）(1/3)

2．阿津走出遺跡出土遺物（6）(1/3)

1．阿津走出遺跡出土遺物（7）(1/3)



2．阿津走出遺跡出土遺物（8）(1/3)

図版132

1．阿津走出遺跡出土遺物（9）（1/3）

2．阿津走出遺跡出土遺物（10）（1/3）

1．阿津走出遺跡出土遺物（11）（1/3）

2．阿津走出遺跡出土遺物（12）（1/3）

図版134

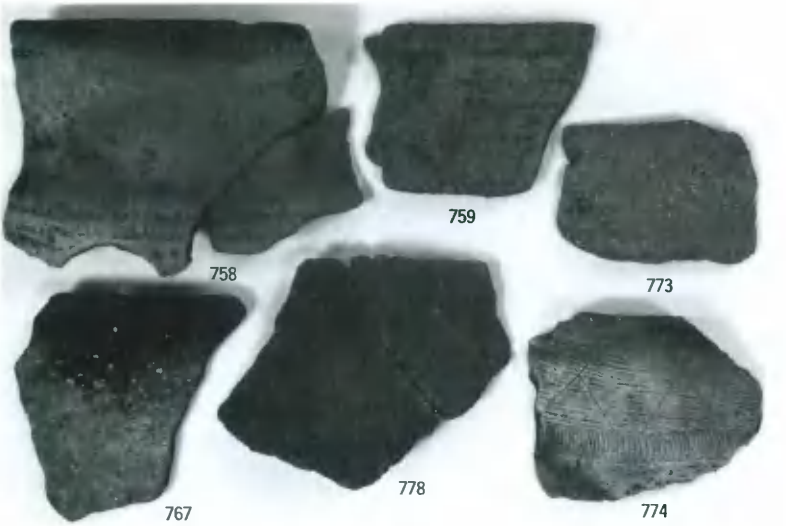
1．阿津走出遺跡出土遺物（13）（1/3）

2．阿津走出遺跡出土遺物（14）（1/3）

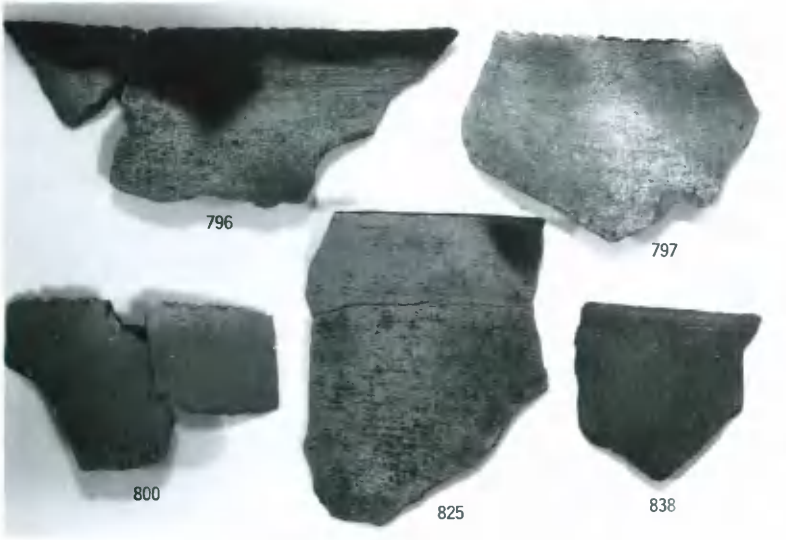
1．阿津走出遺跡出土遺物（15）（1/3）

2．阿津走出遺跡出土遺物（16）（1/3）

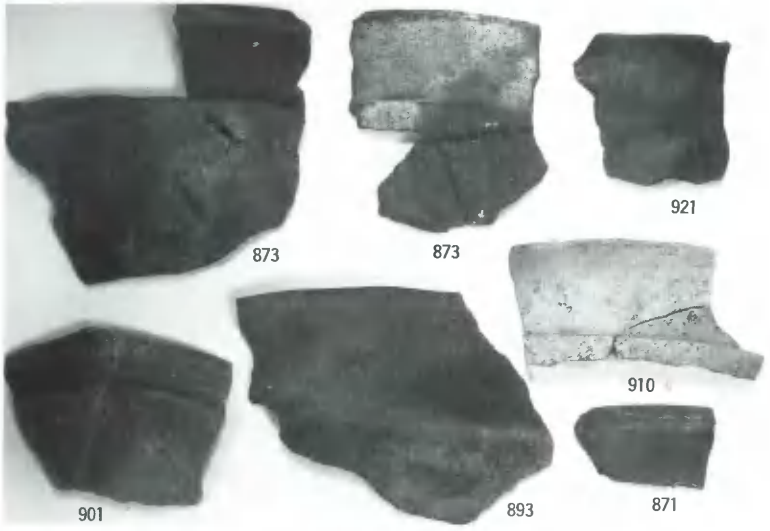
図版136



1．阿津走出遺跡出土遺物（17）（1/3）



2．阿津走出遺跡出土遺物（18）（1/3）

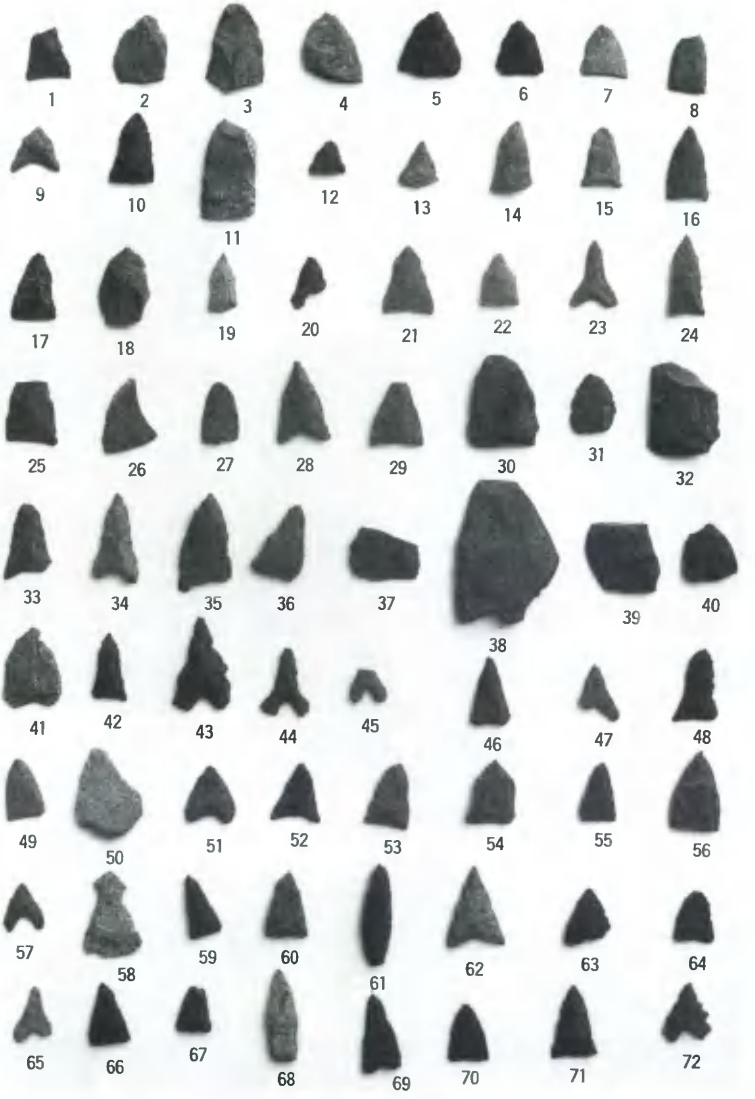


1．阿津走出遺跡出土遺物（19）（1/3）

2．阿津走出遺跡出土遺物（20）（1/3）

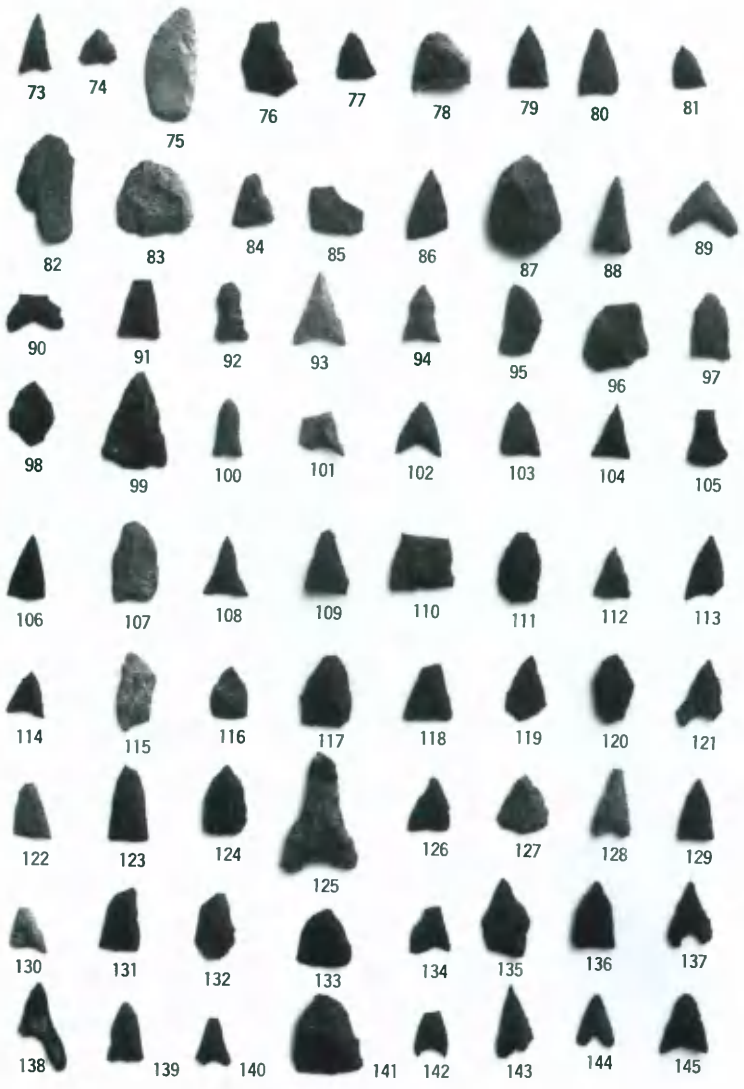
図版138

阿津走出遺跡出土遺物（21）

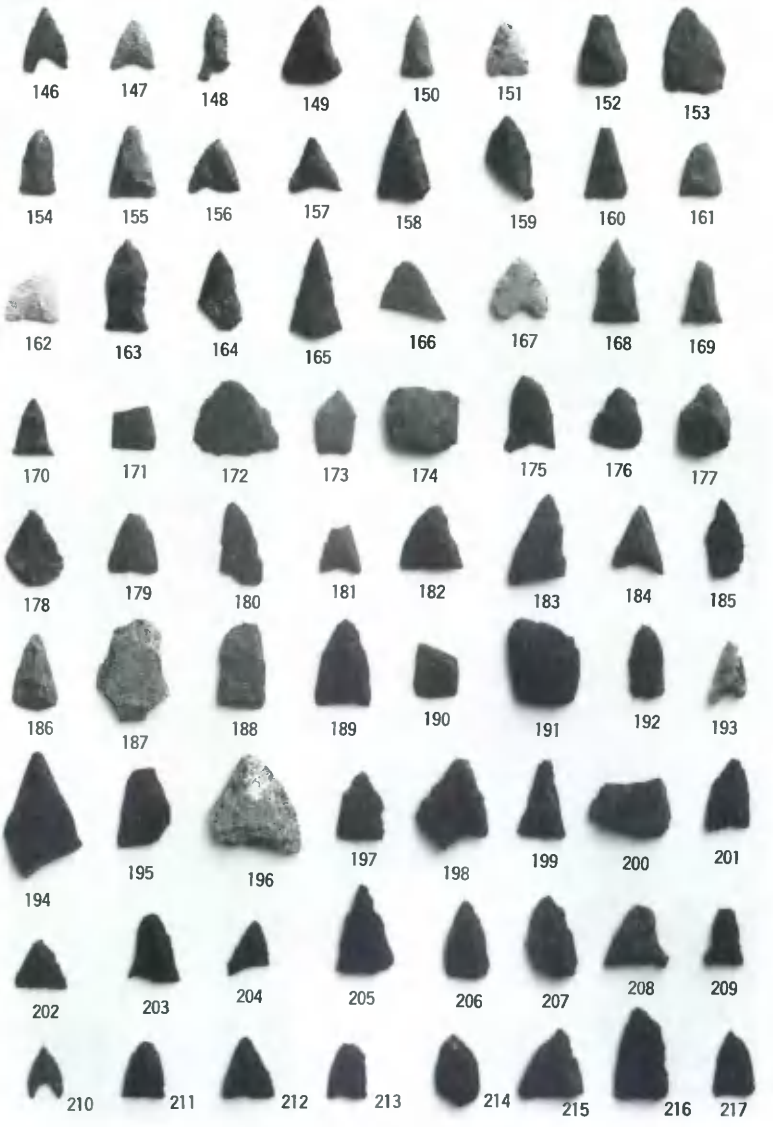


阿津走出遺跡出土遺物（22）（1/2）

図版140

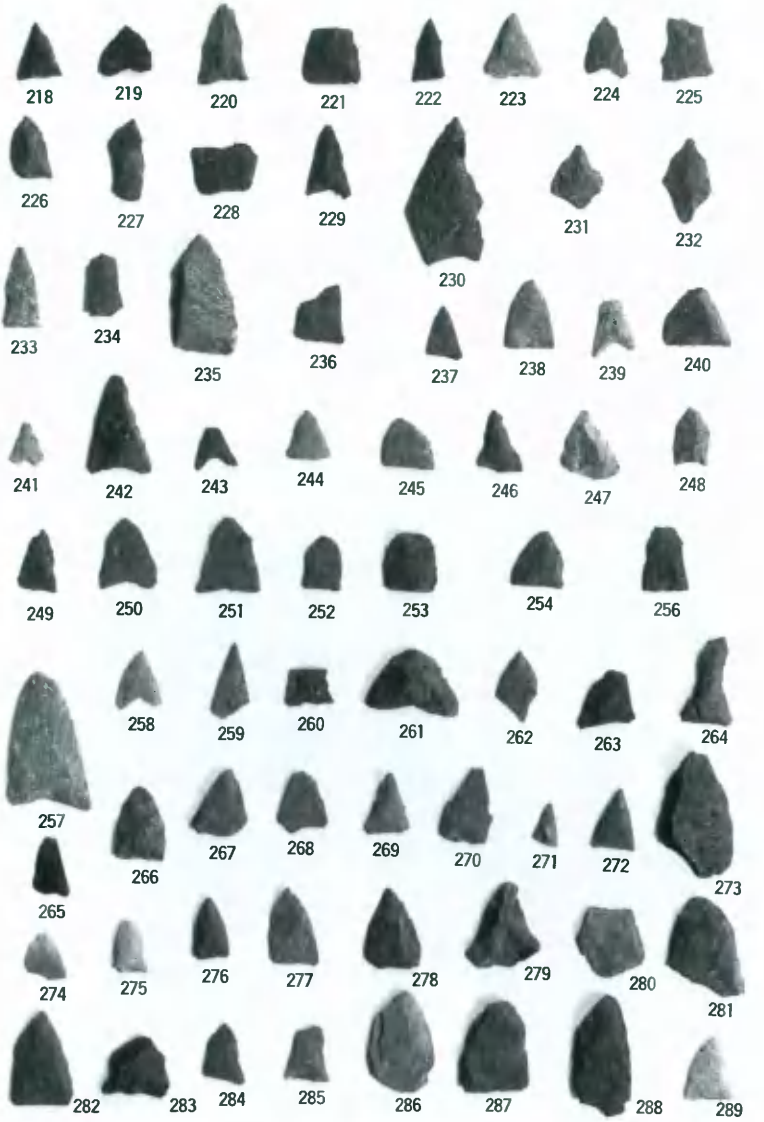


阿津走出遺跡出土遺物（23）（1/2）

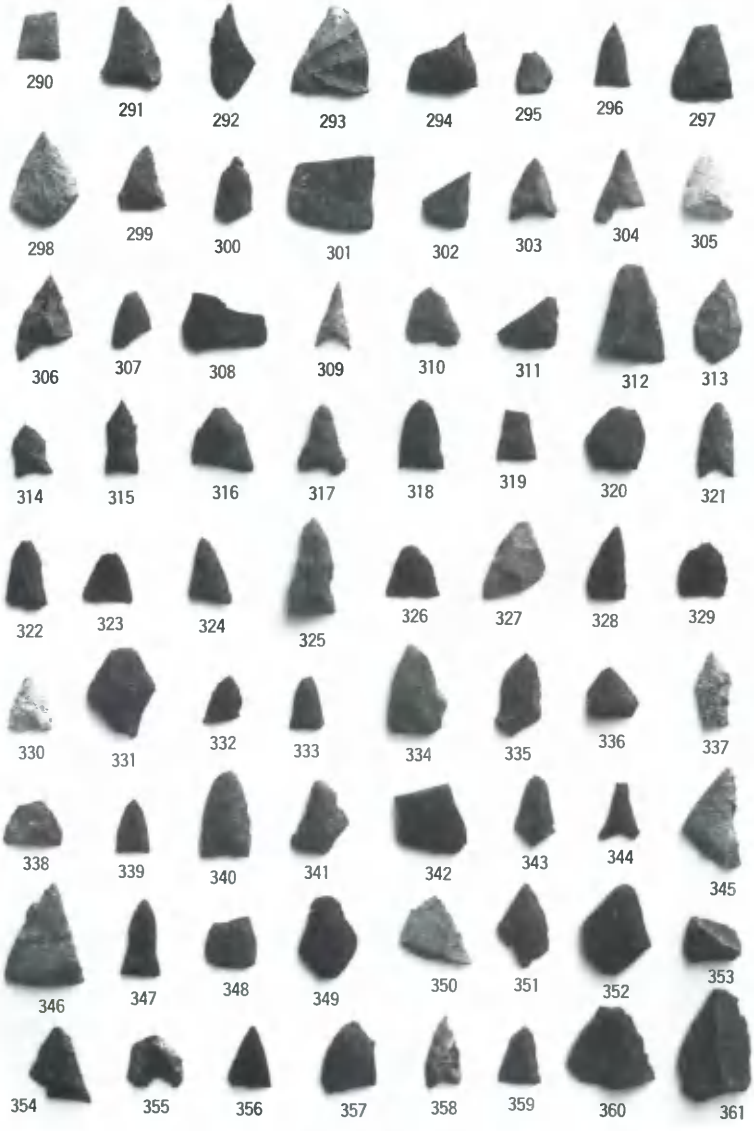


阿津走出遺跡出土遺物（24）（1/2）

図版142

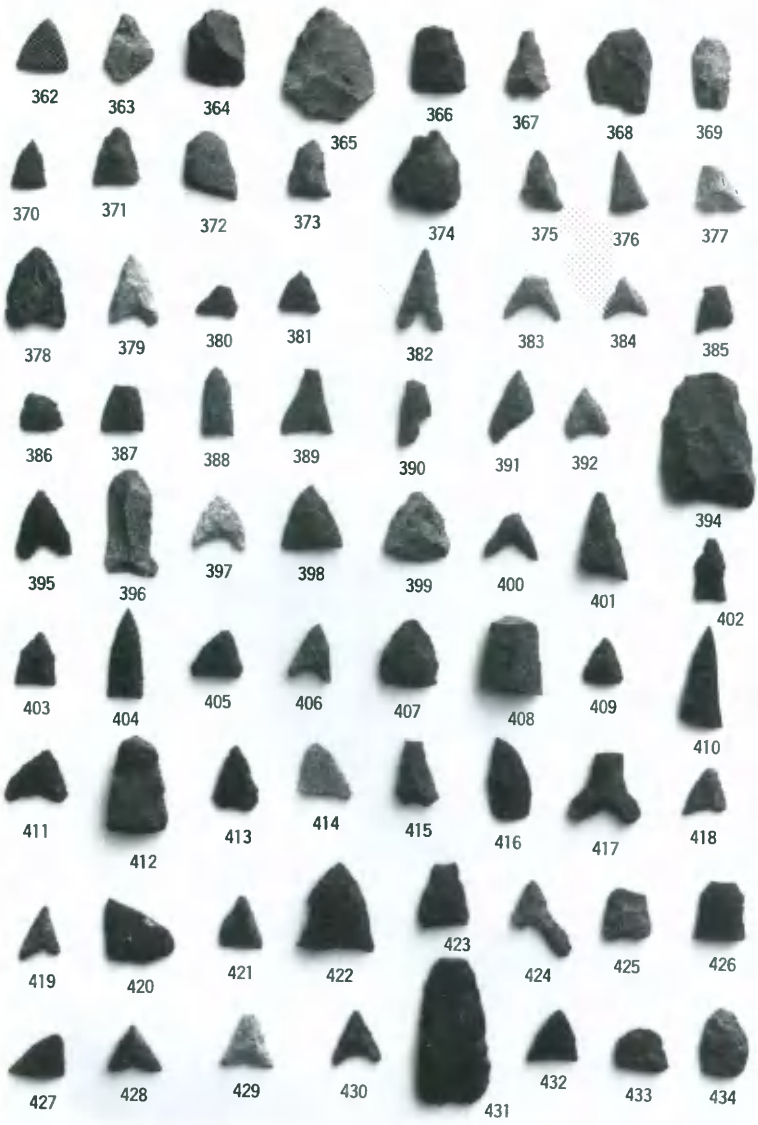


阿津走出遺跡出土遺物（25）（1/2）



阿津走出遺跡出土遺物（26）（1/2）

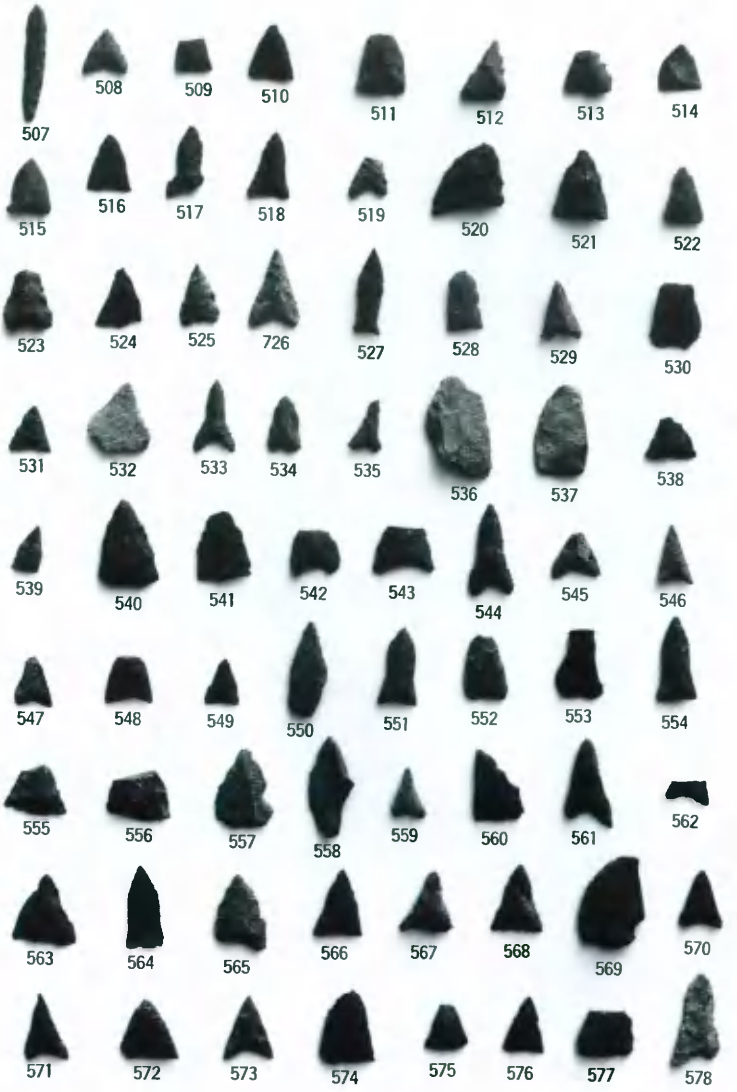
図版144



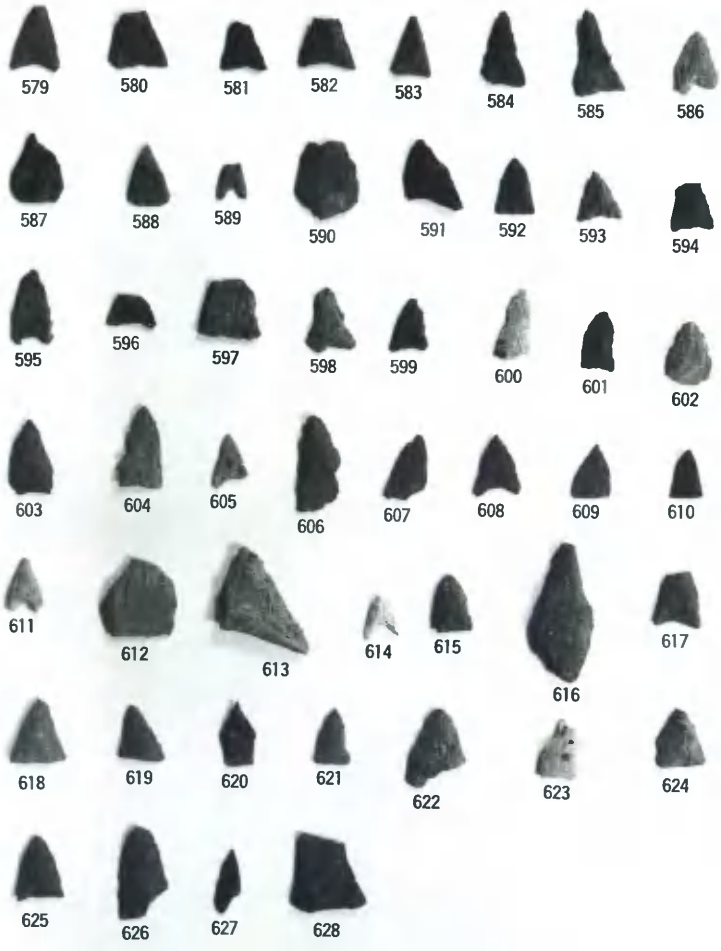
阿津走出遺跡出土遺物（27）（1/2）

阿津走出遺跡出土遺物（28）（1/2）

図版146



阿津走出遺跡出土遺物（29）（1/2）



阿津走出遺跡出土遺物（30）（1/2）

図版148

阿津走出遺跡出土遺物（31）（1/2）

阿津走出遺跡出土遺物（32）（1/2）

図版150

阿津走出遺跡出土遺物（33）（1/2）

548

263

545

553

294

604

340

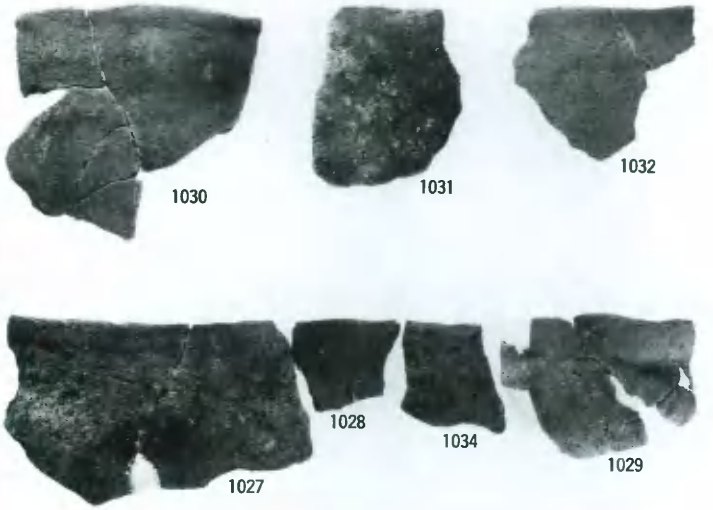
375

529

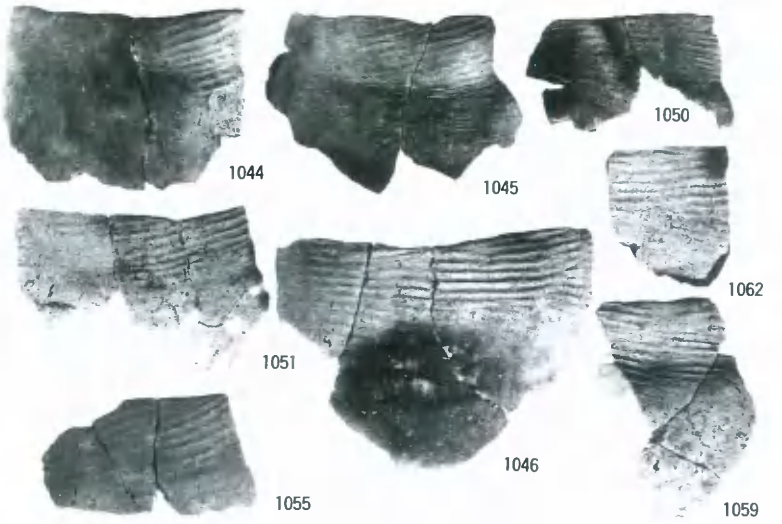
65

阿津走出遺跡出土遺物（34）（1/2）

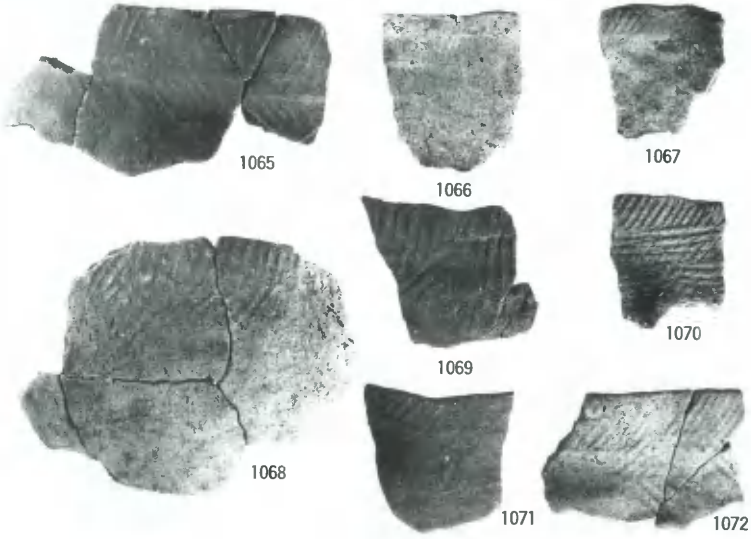
図版152



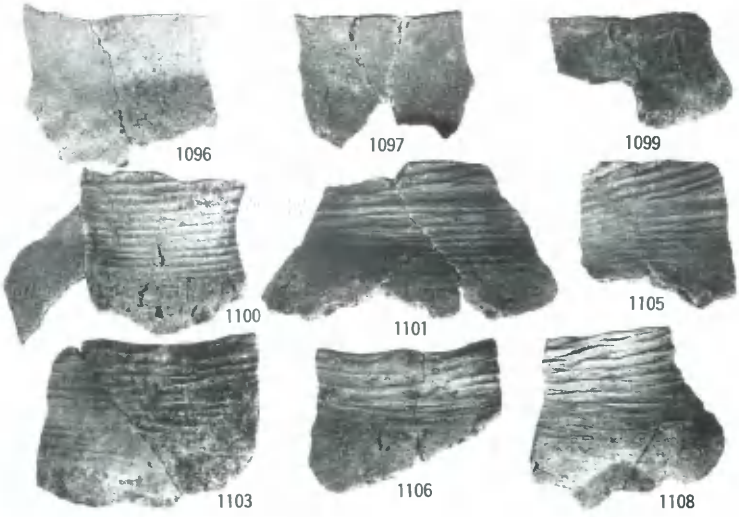
1．阿津走出遺跡出土遺物（35）



2．阿津走出遺跡出土遺物（36）

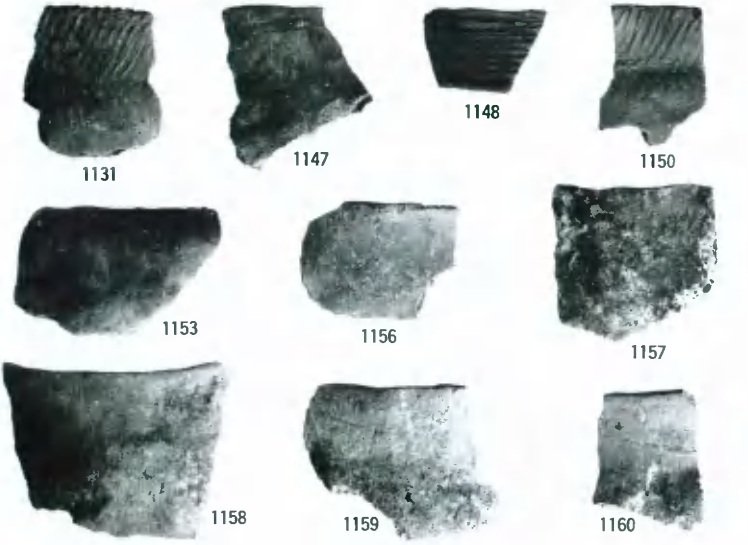


1．阿津走出遺跡出土遺物（37）

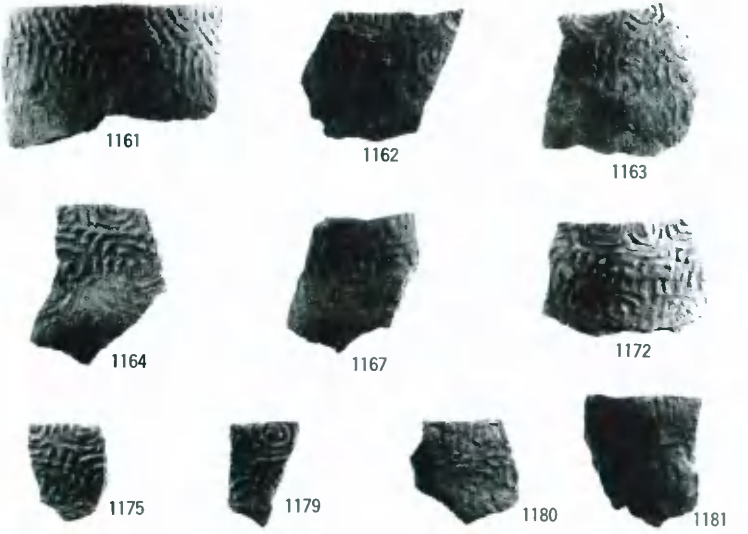


2．阿津走出遺跡出土遺物（38）

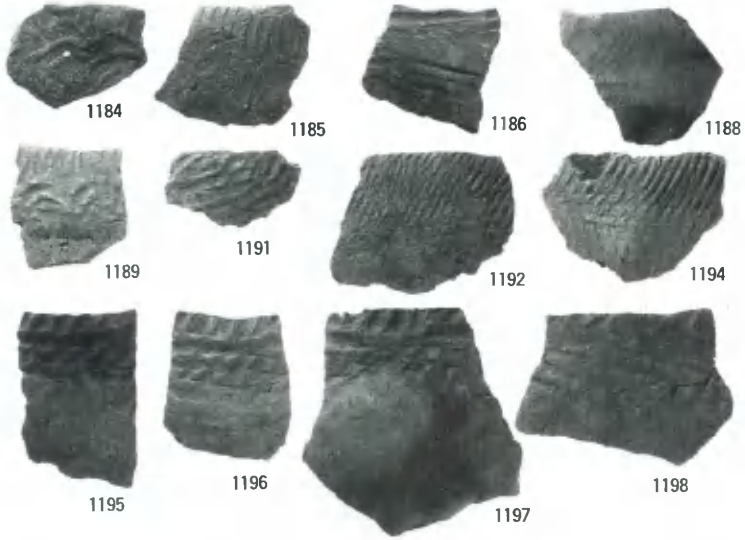
図版154



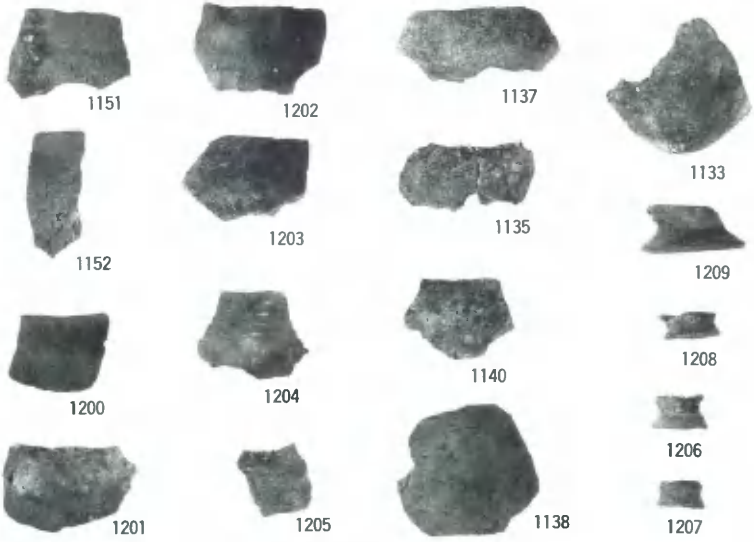
1．阿津走出遺跡出土遺物（39）



2．阿津走出遺跡出土遺物（40）



1．阿津走出遺跡出土遺物（41）



2．阿津走出遺跡出土遺物（42）

図版156

2

13

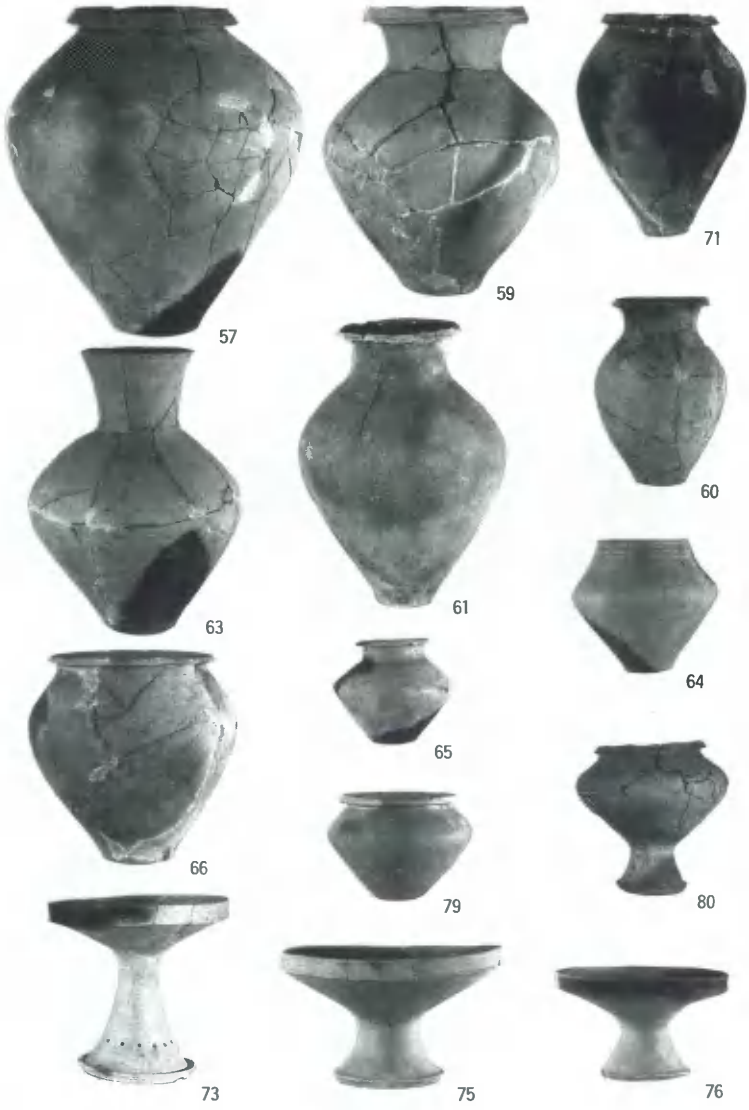
16

15

1

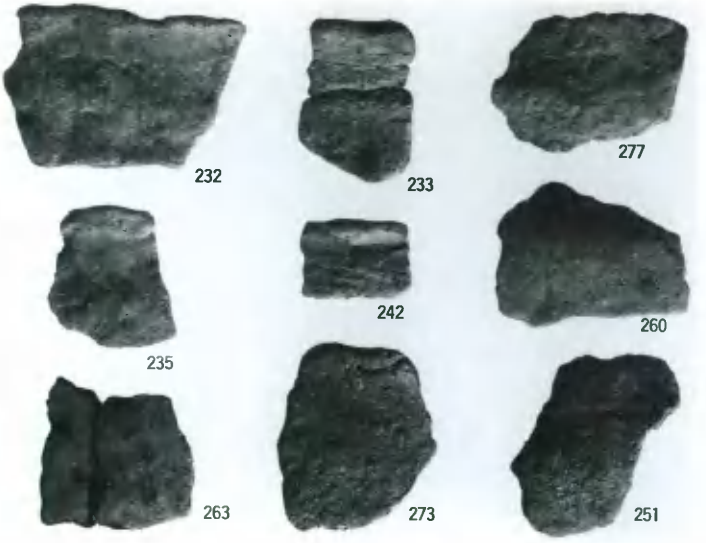
6

菰池遺跡出土遺物（1）

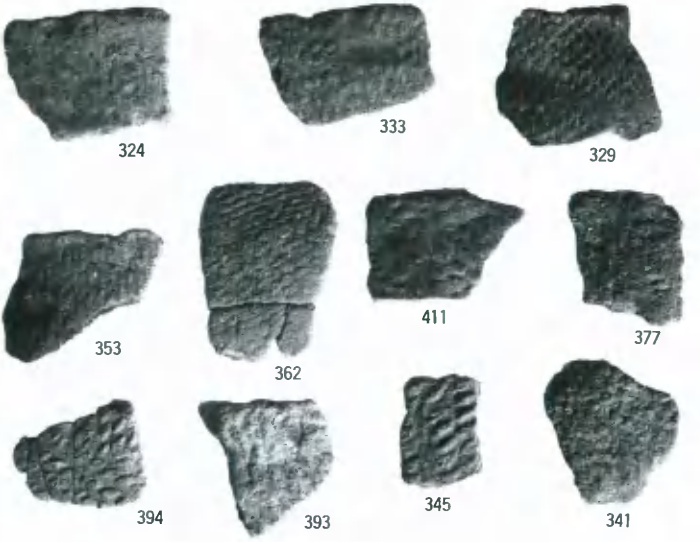


茨池遺跡出土遺物（2）

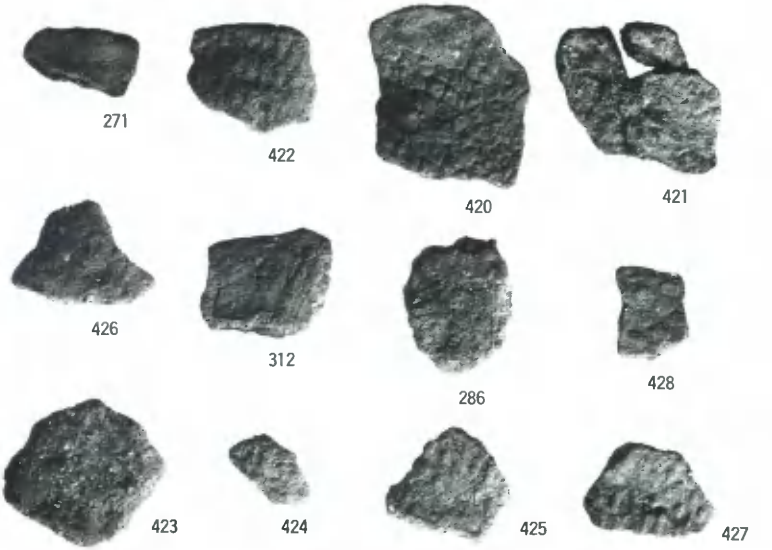
図版158



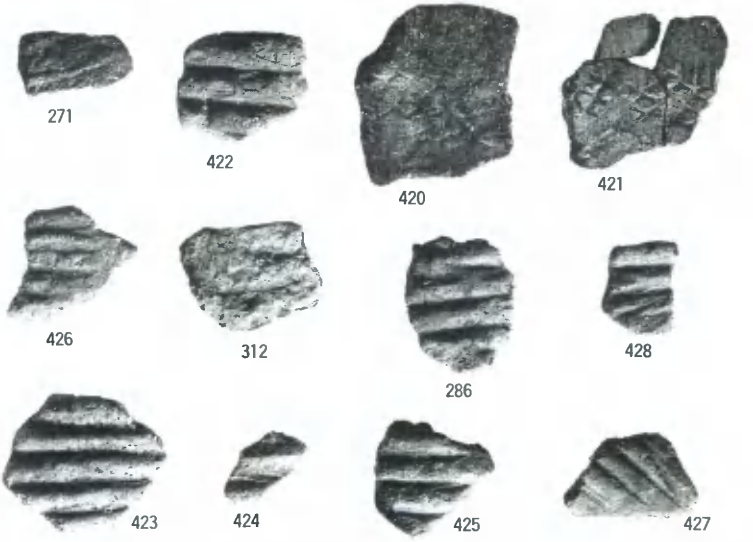
1．菰池遺跡出土遺物（3）



2．菰池遺跡出土遺物（4）

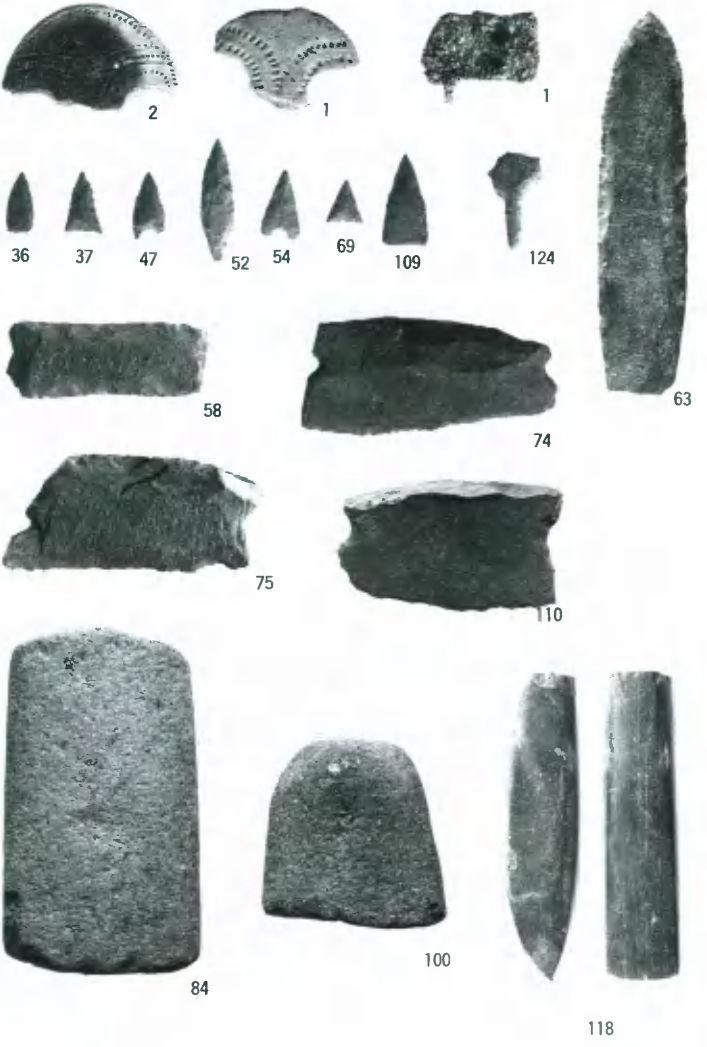


1．菰池遺跡出土遺物（5）（表面）



2．菰池遺跡出土遺物（5）（裏面）

図版160



菰池遺跡出土遺物（6）

229

262

65

68

96

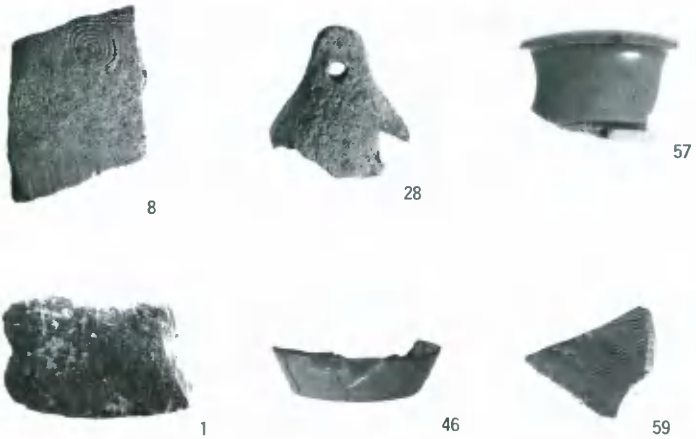
88

93

木見大賀遺跡出土遺物

図版162

1．天王遺跡中世墓出土遺物



2．天王遺跡包含層出土遺物

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　71

本州四国連絡橋陸上ルート

建設に伴う発掘調査

Ⅱ

（表・図版）

昭和63年12月20日　印　刷
昭和63年12月28日　発　行

編集　岡山県古代吉備文化財センター
発行　岡山県教育委員会
印刷　サンコー印刷株式会社